Adobe® InDesign® CC ヘルプ

一部のリンク先のコンテンツは英語のみで提供されます。

2015 年 2 月

新機能

新機能の概要

InDesign CC（2015 年 2 月、2014 年 10 月および 6 月リリース）

Adobe InDesign CC は、デザインやデスクトップパブリッシングのエクスペリエンスの向上を実現する複数の新機能と拡張機能を備えています。新機能には、Creative Cloud ライブラリ、スタートアップスクリーン、Adobe Color との連携の強化、Color テーマツール、固定レイアウトの EPUB 向けの新しいインタラクティブ機能、EPUB のインタラクティブ機能のプレビューが含まれています。

Adobe InDesign の最新のアップデートに搭載された新機能の簡単な説明と、追加情報に関するリソースのリンクを掲載しています。

Adobe InDesign CC の 2 月のリリースには、Creative Cloud ライブラリや新しいスタートアップスクリーンなどの新機能が含まれています。

新機能および変更点

Adobe InDesign CC 2014.2 リリース | 2015 年 2 月

Adobe InDesign CC 2014 リリース | 2014 年 10 月

Adobe InDesign CC 2014 リリース | 2014 年 6 月

Adobe InDesign CC 2014.2 リリース | 2015 年 2 月

ページの先頭へ

Creative Cloud ライブラリを使用した共同作業

InDesign CC の本リリースの新機能

InDesign で使用可能になった Creative Cloud ライブラリでは、クリエイティブアセット（カラー、文字スタイル、ブラシ、グラフィックなど）を利用、整理できます。文字の属性をテキストスタイルとして追加できます。Creative Cloud ライブラリでは、ネイティブの InDesign ライブラリアセットをコピーすることもできます。

注意：

文字スタイルは、Creative Cloud ライブラリに転送できませんが、文字属性をテキストスタイルとして転送できま

す。



複数のコンピューター：

ライブラリは作成時に Creative Cloud と自動的に同期されるため、アセットの保存や、誤操作による削除または上書きについて心配する必要がありません。

Photoshop および Illustrator CC：

Photoshop および Illustrator CC にも Creative Cloud ライブラリが組み込まれました。InDesign で保存したライブラリは自動的に Photoshop および Illustrator でも使用できるようになります。同様に、Photoshop や Illustrator に保存したライブラリは InDesign でも使用できるようになります。

オフラインでの作業：

ライブラリは必要なときに使用できます。インターネットに接続する必要はありません。デスクトップのローカルコピーにオフラインでアクセスできます。

ネイティブの InDesign ライブラリコンテンツの Creative Cloud ライブラリへの移行：

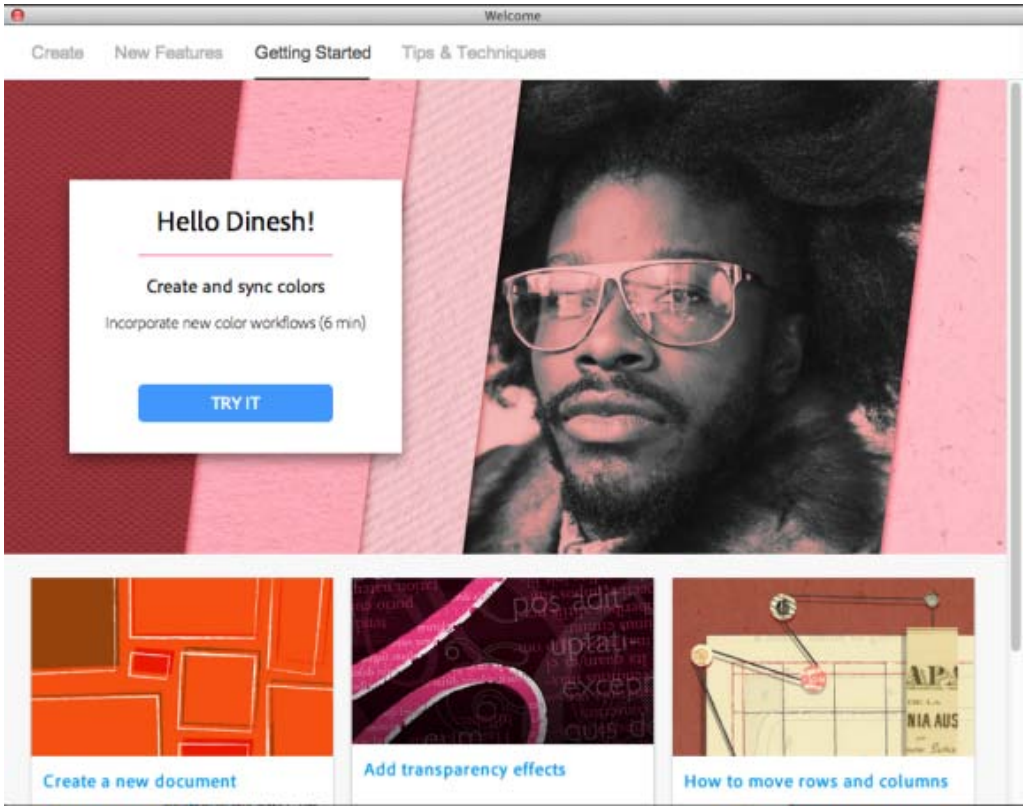
ネイティブの InDesign ライブラリから Creative Cloud ライブラリにすべてまたは選択したアセットを簡単に移行できます。ネイティブライブラリアセットを、新規または既存の Creative Cloud ライブラリに移行することを選択できます。

詳しくは、Creative Cloud ライブラリの記事を参照してください。

スタートアップスクリーン

InDesign CC の本リリースの新機能

InDesign CC の 2015 リリースには、機能の包括的な使用方法を見つけ、学び、使用し、促進する上で役立つ新機能もあります。スタートアップスクリーンは、ユーザーに関連するコンテンツを表示するための場所です。この画面は InDesign を起動するたびに、またはヘルプ／スタートアップスクリーンをクリックしたときに表示されます。スタートアップスクリーンには、InDesign 関連のチュートリアル、ビデオ、ヘルプコンテンツなどが表示されます。タブを使用して、関心のあるコンテンツ（新機能、開始のための起動ボード、または便利なヒントやテクニック）を見つけることができます。



注意：

スタートアップスクリーン機能は、米国英語および英国英語のすべての InDesign CC 2014.2 ユーザーが使用できます。

新しいバージョンのドキュメントを開く

InDesign CC の本リリースの新機能

以前のバージョンの InDesign を使用しているユーザーにも、手動で IDML に書き出すといった余分な手順を行うことなく、ドキュメントを送信できるようになりました。互換性が組み込まれているため、ドキュメントは常に期待どおりに開きます。

新しいバージョンの InDesign で作成されたドキュメントを開き、表示されるメッセージで「OK」をクリックすると、InDesign で Creative Cloud サービスが使用され、現在実行しているバーションの InDesign にドキュメントが変換されます。次に InDesign で、変換後のドキュメントがコンピューターに保存されます。



この機能について詳しくは、InDesign ドキュメントを開くを参照してください。

その他の主な機能強化

ページの先頭へ

新しい表の作成

InDesign CC の本リリースの新機能

以前のリリースの InDesign では、ドキュメントに表を挿入する際、テキストフレームを作成してから、テキストフレーム内に表を挿入する必要がありました。ここでは、カーソルが現在テキストフレーム内にないと、表メニューオプションが無効になり、ワークフローを認識しないユーザーは操作を続行できませんでした。

これに対処するために、InDesign でテキストフレームを作成しなくても、表を作成できるようにしました。

詳しくは、「表を作成」オプションの使用を参照してください。

元のレイヤーに戻してグループ解除

InDesign CC の本リリースの新機能

以前のリリースの InDesign では、複数のレイヤーから複数のアイテムを選択してグループ化した場合、グループ（アイテムを含む）は一番上のレイヤーに作成されました。ユーザーが「グループ解除」を選択した場合、アイテムは移動元のレイヤーに戻らず、一番上のレイヤーに残ったままでした。

新しい「元のレイヤーに戻してグループ解除」機能は、この弱点に対処します。この機能では、グループを解除した場合、グループのすべてのアイテムが元のレイヤー（移動元のレイヤー）に保存されます。

詳しくは、異なるレイヤー上のオブジェクトのグループ化とグループ解除を参照してください。

現在のページをプリント

InDesign CC の本リリースの新機能

印刷ダイアログボックスを使用して、ドキュメントの現在のページを印刷できるようになりました。また、ページパネルのメニューを使用して、スプレッドページまたはページの範囲を指定して印刷することもできます。

以前は、印刷ダイアログボックスで現在のページがわからない場合、ダイアログを閉じてから、ページを特定し、印刷コマンドを再実行して、該当のフィールドに適切なページ番号を入力する必要がありました。このリリースでは、印刷ダイアログ内から現在のページを印刷するオプションを選択するだけです。

詳しくは、ページパネル内からのプリントを参照してください。

Adobe InDesign CC 2014 リリース | 2014 年 10 月

ページの先頭へ

Adobe Color

InDesign CC の本リリースの新機能

作成したすべての Adobe Color テーマに InDesign で直接アクセスできます。

- 新しい Adobe Color テーマパネル（以前の Kuler パネル）。
- Adobe Color テーマにすばやく簡単にアクセスできます。カラーテーマをどこで作成したか（Photoshop、Adobe Illustrator、Color Web サービス、Adobe Color アプリケーションなど）に関係なく、InDesign 内で直接カラーテーマにアクセスして、すぐにデザインプロジェクトに適用できます。
- お気に入りとしてマークした Color テーマにアクセスできます。

詳しくは、カラーの適用を参照してください。

Color テーマツール

InDesign CC の本リリースの新機能

InDesign ドキュメントからカラーテーマを抽出できます

- Color テーマツールを使用して InDesign ドキュメント内の任意の選択範囲、画像、オブジェクトからカラーテーマを抽出できます
- Adobe Color にカラーテーマを保存することで、Adobe Color と連携する他のアプリケーションでカラーテーマにアクセスできるようになります
- スウォッチパネルにテーマを追加できます

詳しくは、Color テーマツールを使用したカラーの適用を参照してください。

EPUB のインタラクティブ機能の強化

InDesign CC の本リリースの新機能

このリリースでは、固定レイアウトの EPUB 向けの豊富なインタラクティブ機能を使用できます。

- スライドショー、アニメーション、トリガーボタンといったインタラクティブ機能を固定レイアウトの EPUB に追加可能
- InDesign で直接作成したインタラクティブ機能

EPUB インタラクティビティプレビュー

InDesign CC の本リリースの新機能

EPUB 固定レイアウト出力を EPUB ファイルに書き出す前にプレビューできるようになりました。この機能には、ウィンドウ／インタラクティブ／EPUB インタラクティビティプレビューからアクセスできます。

詳しくは、固定レイアウト EPUB のインタラクティブドキュメントを参照してください。

EPUB の機能強化

InDesign CC の本リリースの機能強化

リフロー可能な EPUB の機能強化：

- ハイパーリンクと相互参照がサポートされ、ナビゲーションが改善されました。
- 作成した EPUB ファイルのレイアウトのアピアランスを保持できるようになりました。

詳しくは、EPUB へのコンテンツの書き出しを参照してください。

Typekit の機能強化

InDesign CC の本リリースの新機能

InDesign で、Creative Cloud アプリケーションでのフォントの同期機能のオン／オフ状況が示されるようになりました。オフになっている場合は、環境に無いフォントダイアログで「Typekit をオンにする」オプションを使用できます。

詳しくは、環境にないフォントの処理を参照してください。

アプリケーション - 新機能ダイアログボックス

InDesign CC の本リリースの機能強化

InDesign CC 2014 の最初のインストールでは、新機能ダイアログボックスが表示され、このリリースの新機能に関する情報が提供されます。機能について詳しくは、リンクをクリックしてください。

InDesign CC 2014 リリース - 2014 年 6 月

ページの先頭へ

シームレスな更新

InDesign の最新バージョンに更新するとき、ショートカットと環境設定は保持されるので、すばやく簡単に最新バージョンの使用を開始できます。

- 以前のバージョンの InDesign での環境設定とプリセットが保持されます。編集／以前のローカル設定を移行を使用して、プリセットと環境設定のローカル移行を手動でトリガーすることもできます。
- 以前のバージョンの設定は次のシナリオで Creative Cloud から移行されます。
    - 移行に使用できるローカル設定がない
    - Creative Cloud で使用できる現在のバージョン（10.0）の設定がない

これにより、InDesign CC を更新するたびに設定を変更する必要がなくなります。設定を移行したら、現在のバージョンで設定の同期が開始され、すべての最新設定がクラウドに保存されたことを確認してください。

EPUB の機能強化

このリリースでは、InDesign は、固定レイアウト EPUB をサポートします。epub:type マークアップの追加もコントロールできます。このリリースでの機能強化により、表およびセルのスタイルが向上した CSS のサポートも提供されています。「表示アプリケーション」タブに書き出された出力の設定に加え、固定レイアウトおよびリフロー可能なレイアウトのメタデータを更新できます。

固定レイアウト：InDesign では、魅力的でインタラクティブなこの形式がサポートされています。この形式は、子ども向け eBook や料理本および教科書などの複雑なノンフィクション用によく使用されます。標準 eBook とは異なり、固定レイアウト eBook では、ページのレイアウトとデザインが対応する印刷物と同じものに維持されます。固定レイアウトの EPUB 形式で InDesign ドキュメントを書き出すことができます。この機能を使用してデジタルリーダーにレイアウトが表示される方法を制御できます。ファイル／書き出し／EPUB（固定レイアウト）を選択して、この形式を試すことができます。



EPUB 固定レイアウト

CSS のカスタマイズ可能なオブジェクトの幅と高さ：オブジェクト書き出しオプションダイアログボックスで、CSS ファイル内のオブジェクトの幅と高さをカスタマイズできるようになりました（リフロー可能レイアウトのみ）。

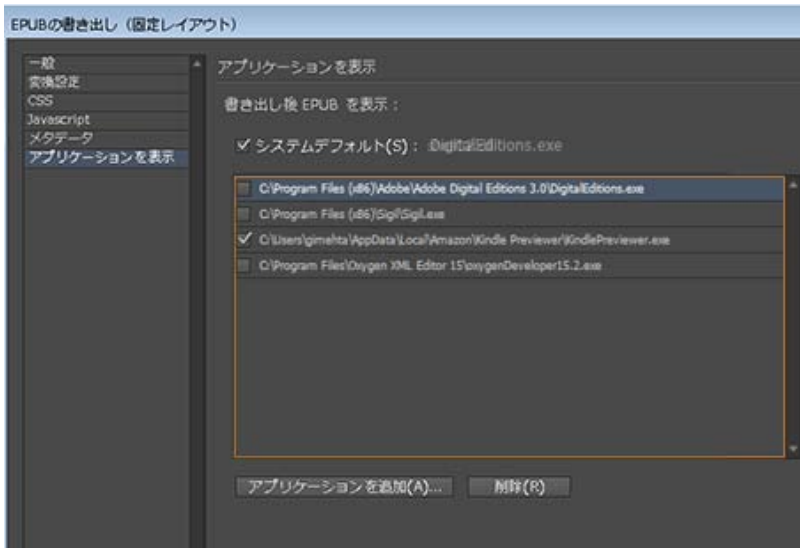
新しい EPUB 型マークアップ：新しい EPUB 型により、EPUB への書き出しデザインにおけるコンポーネントのア

クセシビリティ機能を強化しました。この新しい epub:type（オブジェクト書き出しオプション／EPUB および HTML）では、パブリケーション内の要素を定義して、EPUB ファイルのリーダーで意図する読み取り順序をデザインすることができます。

表とセルのスタイルについて向上した CSS への書き込み：表とセルのスタイルが、CSS に適切にマップされるようになりました。表を使用しない場合、不要な CSS ファイルは作成されません。

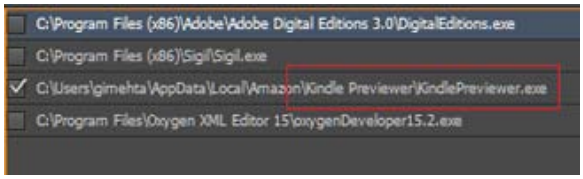
メタデータ：InDesign ファイルのファイル情報またはメタデータを更新し、リフロー可能なレイアウトと固定レイアウトの両方のタブに同じ EPUB データを設定できます。

表示アプリケーション（書き出し）：リフロー可能なレイアウトと固定レイアウトの両方の EPUB 書き出しオプションに、「表示アプリケーション」タブが導入されました。「表示アプリケーション」には、EPUB ファイルを開くか表示するために設定できるアプリケーションが表示されます。



A. 「表示アプリケーション」タブに EPUB ビューアを追加

InDesign の EPUB 機能に多数の重要な改良や拡張機能が追加されました（すべての変更の一覧を表示するには、InDesign_EPUB_Changes_CC_9.2_to_10.0 pdf を参照してください。）



B. EPUB 出力用のビューアを選択

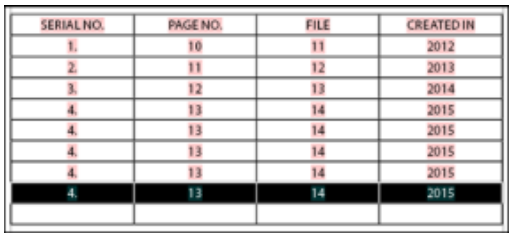
関連項目：

- EPUB へのコンテンツの書き出し
- HTML へのコンテンツの書き出し

表の強化

InDesign の表への機能強化の一部として、同じ表内の 1 つの位置から別の位置に表の行と列をドラッグ＆ドロップすることができるようになりました。コピーまたは複製する行を選択し、選択した行の上にカーソルを置くと、選択範囲を移動できることを示すアイコンが表示されます。項目行は簡単にドラッグ＆ドロップ（または「Alt」キーを押してコピー）できます。

また、ヘッダー行やフッター行の内容を本文行にコピーすることもできます（Alt／Opt キーを押します）。同様に、本文行を複製してヘッダー行とフッター行に変換することもできます。



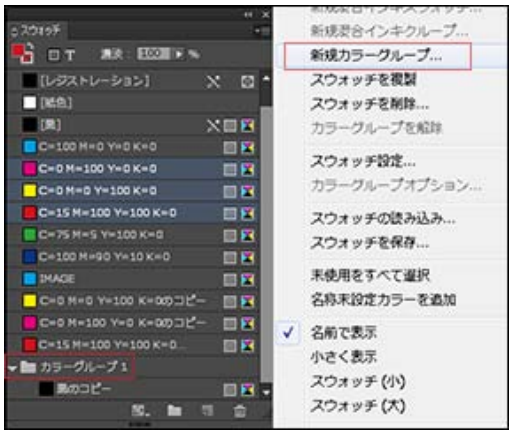
SERIAL NO.	PAGE NO.	FILE	CREATED IN
1.	10	11	2012
2.	11	12	2013
3.	12	13	2014
4.	13	14	2015
4.	13	14	2015
4.	13	14	2015
4.	13	14	2015
4.	13	14	2015

表での作業の簡略化

詳しくは、表の作成を参照してください。

カラーグループ

InDesign 内でカラーグループを作成および管理できます。スウォッチパネルで新しいカラーグループアイコンを使用するか、パネルメニューおよびコンテキストメニューを使用して、カラーグループを簡単に作成できます。Adobe Swatch Exchange（.ase）ファイルを使用して、カラーグループを別のアプリケーションと共有することもできます。例えば、Illustrator の別のプロジェクトからカラースウォッチを読み込みます。



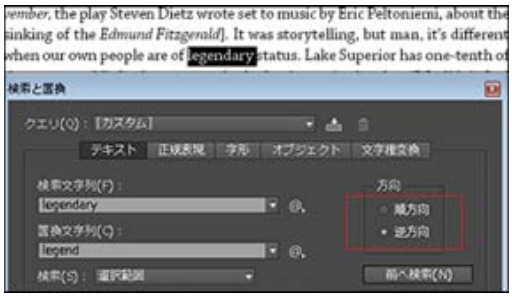
カラーグループを使用したスウォッチの作成と管理

詳しくは、カラーの適用を参照してください。

検索の強化 - 前を検索

以前のバージョンの InDesign では、順方向での検索しか実行できませんでした。検索された項目のスキップが速すぎて戻りたい場合、検索操作を完了して、検索を最初から実行するしか方法はありませんでした。このワークフローは、改善されました。

InDesign の検索と置換ダイアログボックスに、「順方向」と「逆方向」の 2 つの検索方向ボタンができました。順方向検索がデフォルトで有効になっていますが、逆方向に切り替えて検索の向きを逆にすることができます。新機能は、「テキスト」、「正規表現」、「字形」の各タブでの文字列検索に便利です。



強化された検索

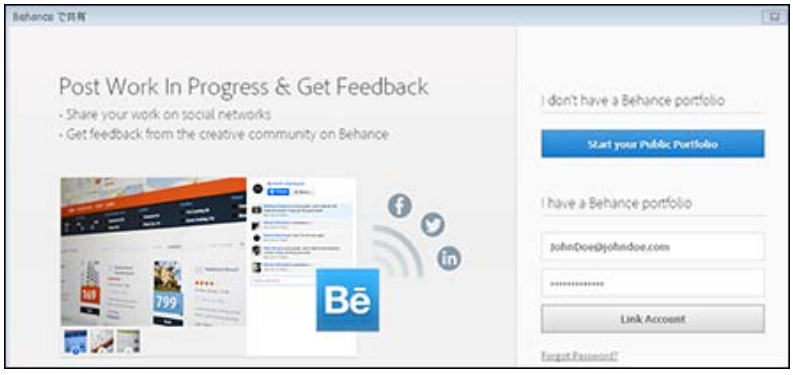
詳しくは、検索と置換を参照してください。

Behance との統合

Behance の優れた作品の公開と発見。メンバーは、作品のポートフォリオを作成し、幅広く効率的にブロードキャストできます。または、様々な分野の注目の作品や人気の作品を参照し、最新のクリエイティブ作品を世界規模で検索できます。

InDesign 内から Behance に、作業中のスプレッドを直接アップロードできます。スプレッドは画像に変換され、レビューやフィードバックのために Behance へ公開されます。

InDesign では一度に 1 つのスプレッドのみをアップロードできます。ドキュメント全体を共有するには、ドキュメントに含まれるスプレッドの数だけ、共有操作を繰り返します。各スプレッドを Behance へ個別にアップロードして投稿します。



Behance へ公開

詳しくは、Behance での InDesign の作品の共有を参照してください。

パッケージ機能の強化

このリリース以降、InDesign から作成したパッケージで個々のドキュメントに PDF および IDML ファイルを含めることができます。InDesign パッケージに、INDD、リンクファイル、フォント、IDML、PDF（プリント）が含まれるようになりました。

詳しくは、ファイルのパッケージを参照してください。

QR コードのデータ結合の強化

このリリース以降、QR コードを含むデータソースを結合ドキュメントに配置することができます。QR コードのワークフローは、結合ドキュメントに統合されます。次に示す種類の QR コードを、データ結合を通して InDesign ドキュメントにリンクできます。

- 書式なし
- Web ハイパーリンク
- テキストメッセージ
- 電子メール
- 名刺

現在は、複数のユーザーの名刺を（組織などで）作成する場合にデータ結合を使用できます。QR コードを追加する場合は、すべての固有な名刺の QR コードを手動で作成する必要がありました。データ結合に対するこの新しいアップデートにより、データ結合時に各カードの QR コードを自動的に作成できるようになりました。QR コードを手動で作成する必要はありません。

詳しくは、データ結合を参照してください。

脚注の機能強化

脚注の一部であるアンカー付きオブジェクトまたはフローティングオブジェクトにテキストの回り込みを適用できるようになりました。この機能強化は長方形のテキストフレームと長方形以外のテキストフレームで有効です。

フローティングオブジェクト（アンカー付きでもインラインでもない）にテキスト回り込みを適用した場合、脚注にテキストを使用すると、テキストの回り込みが有効になります。

詳しくは、脚注でのテキストの回り込み
を参照してください。

Windows 用 HiDPI サポート

InDesign は、DPI の様々な表示設定で Microsoft Windows 用 HiDPI をサポートしています。様々なスケール比率で、視覚的効果に優れたシャープでクリアなユーザーインターフェイス要素を表示できます。HiDPI のサポートに

より、テキストや複雑なアートワークもくっきりと、色彩や色相もさらに豊かに表示できます。

詳しくは、Windows 用 HiDPI サポート
を参照してください。

効果の拡大／縮小

以前は、InDesign でオブジェクトに適用した透明効果はオブジェクトとともに拡大または縮小されませんでした。このリリース以降、すべての効果に適用されます。オブジェクトまたはテキストのサイズを変更すると、ドロップシャドウなどの効果が正しく拡大／縮小されます。新しい効果の拡大／縮小機能により、オブジェクトを拡大／縮小しながら透明効果も拡大／縮小できるオプションが、コントロールパネルおよび変形パネルメニューに追加されました。このオプションを使用して拡大／縮小をアクティブにできます。

詳しくは、エフェクトのスケーラビリティ
を参照してください。

改良 - パネルへの変更

ツールヒントパネル

改良の一環として、ツールヒントパネルが Flash テクノロジーから HTML5 に変換されました。このパネル（ウィンドウ／ユーティリティ／ツールヒント）には、選択したツールのツール名、ツールヒント、ツールアイコンに関する情報が表示されます。以前は APE（Flash）ベースの拡張機能でしたが、このリリースで CEP HTML5 ベースの拡張機能になりました。

バックグラウンドタスクパネル

バックグラウンドタスクパネル（ウィンドウ／ユーティリティ／バックグラウンドタスク）を使用して、実行中のバックグラウンドタスクの進行状況を監視できます。また、実行中のバックグラウンドタスクをキャンセルすることもできます。このパネルは、以前はAPE（Flash）ベースでしたが、Drover ユーザーインターフェイステクノロジーで実行する方式に変換されました。

(cc) BY-NC-SA Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

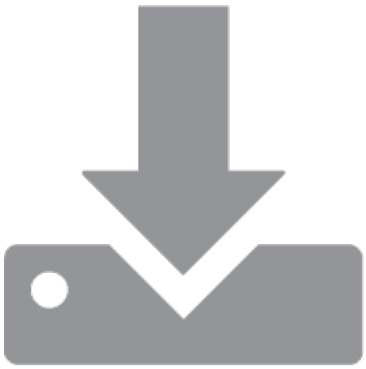
Creative Cloud

Creative Cloud デスクトップアプリケーション

Adobe® Creative Cloud™ では、アプリケーションをダウンロード、インストールおよび更新できます。ファイルとフォントを同期し、Behance で他のクリエイターの作品を鑑賞したり、自分の作品を披露したりすることができます。

ダウンロード

Creative Cloud デスクトップアプリケーションをダウンロード



アプリケーションのダウンロードとインストール



Typekit からのフォントの追加



ファイルおよびフォルダーの同期



Behance



Creative Cloud マーケット



ホームとアクティビティフィード

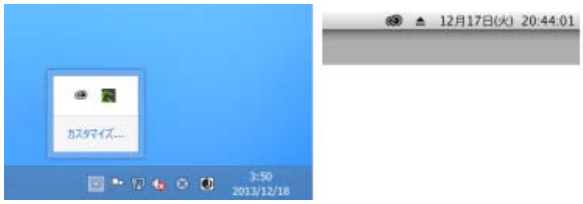
ページの先頭へ

アプリケーションのダウンロードとインストール

Creative Cloud アプリケーションをダウンロード、インストールおよびアップデートします。Creative Cloud の新しいアプリケーションを探して、コンピューターにインストールしてください。アプリケーションは人気順またはデザイン分類別に参照できます。

Creative Cloud デスクトップアプリケーションは、製品をダウンロードすると自動的にインストールされます。Adobe Application Manager が既にインストールされている場合は、Creative Cloud デスクトップアプリケーションに自動的に更新されます。手動でダウンロードするには、Creative Cloud デスクトップアプリケーションページにアクセスしてください。

1. タスクバー（Windows）または Apple ツールバー（Mac OS）から Adobe Creative Cloud にアクセスします。



   初期設定では、コンピューターにログインすると *Adobe Creative Cloud* が起動します。

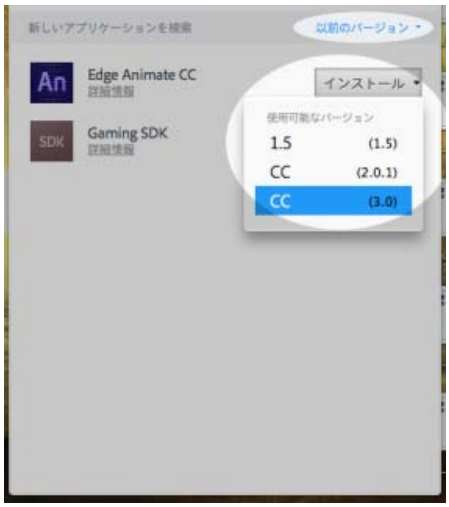
2. アプリケーションパネルをクリックします。コンピューターに最近インストールしたアプリケーションがパネルの上部に表示されます。リストには、以前にインストールしたバージョンが含まれる場合があります。



3. 下にスクロールして、新しいアプリケーションを探します。カテゴリーごとにフィルターして、必要なアプリケーションを見つけることもできます。



4. 「インストール」または「更新」をクリックします。
5. 以前のバージョンのアプリケーションをダウンロードおよびインストールするには、「以前のバージョン」を選択し、インストールメニューからバージョンを選択します。



CC または CS6 アプリケーションのインストールについて詳しくは、アプリケーションのインストールを参照してください。

Photoshop や *Illustrator* などのアプリケーションは、お使いのコンピューターにダウンロードして、インストールできます。以後は、コンピューターから起動します。手順について詳しくは、*Creative Cloud* アプリケーションの起動を参照してください。

ページの先頭へ

ファイルおよびフォルダーの同期

お使いのコンピューターから Creative Cloud にファイルを同期し、どこからでもファイルにアクセスできます。ファイルは接続しているすべてのデバイスやコンピューター、および Creative Cloud Files ページで、すぐに利用できるようになります。ファイルを同期するには、Creative Cloud デスクトップアプリケーションをすべてのコンピューターにダウンロードし、インストールしてください。



ファイルを同期するには、次のいずれかの操作を行います。

- コンピューターの **`Creative Cloud Files`** ディレクトリにファイルをコピー＆ペーストまたは移動します。

- アプリケーションから、ファイル／保存、またはファイル／別名で保存を選択し、コンピューターの **Creative Cloud Files** ディレクトリに移動します。

オリジナルのファイルは常にお使いのコンピューターまたはデバイスにあります。ファイルは Creative Cloud を介して、接続されているすべてのデバイスに同期されます。

ファイルは Creative Cloud アセットページにオンラインで表示できます。ファイルが一旦同期されると、オンライン状態にしておく必要はありません。コンピューターの Creative Cloud Files ディレクトリまたはフォルダーからファイルを表示できます。

Creative Cloud にアップロードしたファイルの操作方法については、ファイルの管理を参照してください。

ページの先頭へ

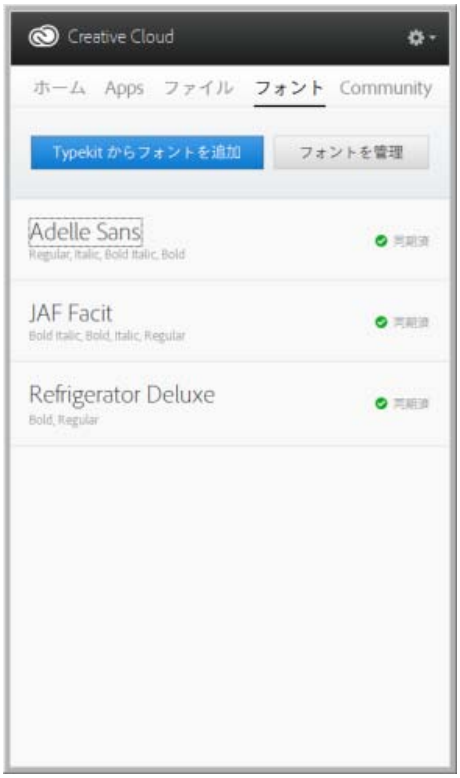
Typekit からのフォントの追加

Typekit のベンダーパートナーが提供する書体から自由に選択し、Creative Cloud でデスクトップと同期できます。同期したフォントは、どの Creative Cloud アプリケーションでも、デスクトップソフトウェアでも使用できます。

デスクトップコンピューターとフォントを同期するには、お支払済みの Creative Cloud メンバーシップまたは有効な Typekit アカウントが必要です。

コンピューターに同期されたフォントは、フォントパネルに表示されます。フォントを同期するには、次の操作を行います。

1. Creative Cloud デスクトップアプリケーションで、フォントパネルをクリックします。
2. 「**Typekit** からフォントを追加」をクリックします。ブラウザーに Typekit ウィンドウが開きます。
3. Typekit ウィンドウで、フォントカードにマウスを移動し、「+ フォントを使用」をクリックします。
4. 選択したファミリーからフォントを選択し、「選択したフォントを同期」をクリックします。



簡単な概要については、デスクトップとのフォントの同期（英語）を、詳細な指示については、フォントの同期を参照してください。

ページの先頭へ

マーケット

Creative Cloud マーケットは、専門家によって選ばれた、クリエイターによるクリエイターのための上質なコンテンツのコレクションです。Creative Cloud メンバーには、このマーケットで、デスクトップとモバイル（Creative Cloud 連携アプリ利用）両方のためのアセットが無償で提供されます。ベクターグラフィック、アイコン、パターン、UI キットなど多彩な品揃えから選ぶことができます。Creative Cloud メンバーは、ユニークなアセットを毎月 500 個まで無料でダウンロードできます。この新しい有力なサービスによって、クリエイターがアセットをたやすく見つけられるようになり、見つけたアセットを基にして新たに構築したり、そのアセットを加工したり、変更したりすることで、クリエイティブプロセスを活性化できます。



詳しくは、マーケットアセットを参照してください。

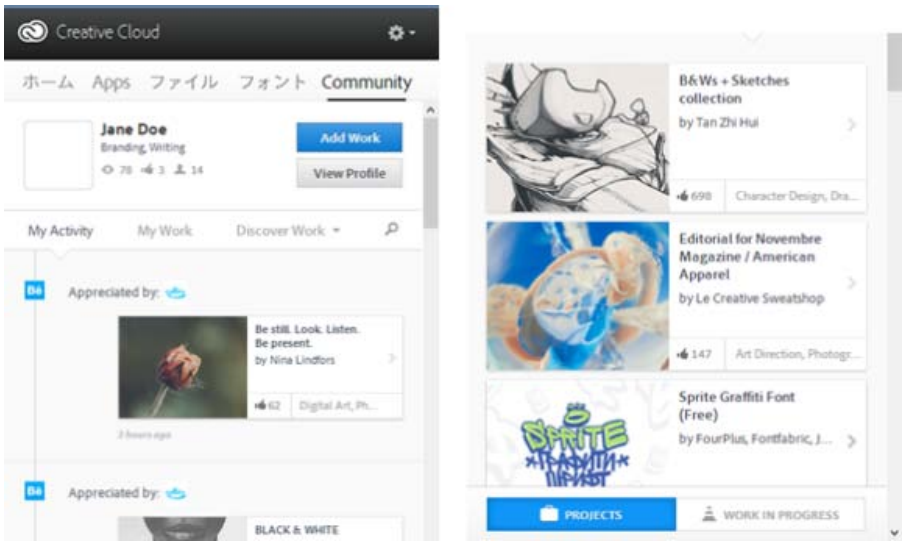
ページの先頭へ

Behance でクリエイティブ作品を公開、発見

Behance でクリエイティブ作品を紹介、発見します。メンバーは、作品のポートフォリオを作成して、広範囲に効果的に披露できます。また、世界中から集まった最新のクリエイティブ作品の中から「注目」や「人気」などのカテゴリーを選択して、作品を探すこともできます。

- ログインまたはサインアップして、Behance のアクティビティフィード、ポートフォリオ、「新しい作品の公開と発見」にアクセスしてください。既にアカウントをお持ちの場合は、ログインするよう求められます。アカウントをお持ちでない場合は、簡単にサインアップできます。

- Behance のアカウントがなくても、パネル内の「注目のプロジェクト」や「制作中の作品」から作品を見ることができます。



詳しくは、Behance で共有（英語）を参照するか、または Adobe Behance フォーラムをご覧ください。

ページの先頭へ

ホームとアクティビティフィード

ホームパネルのアクティビティストリームには、Creative Cloud へのユーザー操作履歴が表示されます。利用可能な新しいアプリケーション、アップデート、インストールのステータスなどのイベントやアクティビティがここに表示されます。



ページの先頭へ

環境設定

／環境設定を選択し、環境設定ダイアログボックスを開きます。

- Creative Cloud デスクトップアプリケーションからサインアウトするには、全般／アカウントを選択し、「**Creative Cloud** からサインアウト」をクリックします。
- 各タブで「通知を表示 / 非表示」設定を指定します。
- 「**Apps**」タブを使用して、製品の言語とインストール先を指定します。
- 「**Creative Cloud** デスクトップを常に最新に保つ」を選択して、自動更新を有効にします。
- 「ファイル」、「フォント」、「**Behance**」タブを使用して、それぞれの設定を指定します。

ページの先頭へ

その他のヘルプについて



コミュニティで質問

フォーラムでサポートエキスパートに相談



お問い合わせ

スタッフに問い合わせる

その他のヘルプ

- リリースノート | Creative Cloud デスクトップアプリケーション
- Creative Cloud アプリケーションの起動
- アプリケーションのインストールとアップデート
- インストールとダウンロードのトラブル対処法
- Creative Cloud FAQ
- Adobe ID の FAQ

キーワード： Adobe Creative Cloud, デスクトップ, Behance, Typekit, アプリケーションのインストール, アプリケーションのダウンロード

(cc) BY-NC-SR Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

アセットの参照、同期、管理

アセットの参照
ファイルの同期またはアップロード
ファイルの削除
ストレージプランと容量
トラブルシューティング

Adobe Creative Cloud アカウントにはオンラインストレージが付属しているため、どこにいてもデバイスやコンピューターに関係なくファイルを利用できます。 多くの Creative ファイルタイプをコンピューター、タブレット、スマートフォンの Web ブラウザーで直接プレビューできます。対応するファイルタイプは、PSD、AI、INDD、JPG、PDF、GIF、PNG、Photoshop Touch、Ideas などです。

Adobe Creative Cloud デスクトップアプリケーションではすべてのファイルが同期されます。このため、追加、変更、削除を行うと、接続されたすべてのコンピューターおよびデバイスに反映されます。例えば、Creative Cloud アセットページを使用して .ai ファイルをアップロードした場合、接続されたすべてのコンピューターに自動的にダウンロードされます。

ページの先頭へ

アセットの参照

Creative Cloud のアセットには、デスクトップと同期されているファイルや、Creative Cloud 対応のモバイルアプリで作成されたアセット、Creative Cloud ライブラリが含まれます。それらのアセットすべてを Creative Cloud アセットページで参照できます。同ページでは、アセットは次のように整理されます。

ファイル デスクトップの Creative Cloud Files ディレクトリと同期されているアセット

モバイル作品 Creative Cloud 対応のモバイルアプリで作成されたアセット

ライブラリ ユーザーが作成したデザインライブラリ

注意： ファイルでは、デスクトップのアセットに対して名前の変更、共有、ダウンロード、置換、アーカイブといった操作を実行できますが、*Creative Cloud* アセットページのモバイル作品およびライブラリでは、アセットを表示することしかできません。



アセットのカテゴリーをクリックすると、サブカテゴリーがある場合は展開して表示されます。例えば、Files のアセットは、すべて、共有およびアーカイブ済みに分類されています。



すべて：Creative Cloud Files ディレクトリと同期されているすべてのアセット

共有：他の Creative Cloud ユーザーと共有しているファイル

アーカイブ済み：削除されたファイル

同様に、モバイル作品では、Creative Cloud モバイルアプリで作成されたアセットを参照することができ、アセットは作成元のモバイルアプリに基づいて分類されています。

ライブラリについて詳しくは、Creative Cloud ライブラリを参照してください。

ページの先頭へ

ファイルの同期またはアップロード

次のいずれかの操作を行うと、コンピューターのファイルが同期されます。

- デスクトップの Creative Cloud Files ディレクトリに、ファイルをコピー＆ペーストするか、移動します。
- アプリケーションから、ファイル／保存、またはファイル／別名で保存を選択し、コンピューターの Creative Cloud Files ディレクトリに移動します。

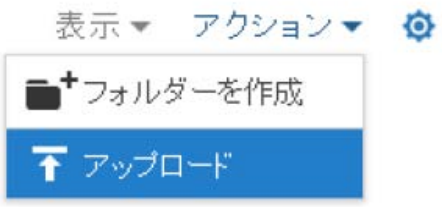
  Creative Cloud デスクトップアプリケーションから *Creative Cloud Files* ディレクトリを開くには、アセット／ファイルを選択し、「フォルダーを開く」をクリックします。



注意： 特殊文字（|、"、?、<、>、/、*、: など）を含むファイル名は同期できません。予約語（*AUX* や *Com1* など）を使用したファイルも同期

できません。エラーが表示された場合、ファイル名を変更して *Creative Cloud* と同期させます。詳しくは、ファイルの同期に関する問題を参照してください。

次のいずれかの方法で、直接 Creative Cloud アセットページにファイルをアップロードすることもできます。



Creative Cloud のファイルのアップロードおよび管理は、*Creative Cloud アセット*ページのアクションメニューを使用して行います。



アセットをデスクトップから *Creative Cloud アセット*ページにドラッグ＆ドロップします。

ファイルの置き換え

ファイルをもう一度アップロードすると、ファイルの 1 バージョンが作成され、既存のファイルが新しいファイルで置き換えられます。Creative Cloud には、Photoshop Touch、Adobe Ideas、Creative Cloud デスクトップアプリケーションを介してファイルに行ったすべての変更のコピーと同期も保存されます。

ファイルを置き換えるには、Creative Cloud アセットページで次の操作を行います。

注意：新しいファイルの種類と、置き換えられるファイルの種類が同じである必要があります。例えば、.PSD ファイルを .AI ファイルに置き換えることはできません。

バージョン管理について詳しくは、バージョン管理に関する FAQを参照してください。

1. ファイルがある場所へ移動し、ファイルを開いて表示します。
2. アクション／置き換えを選択するか、ファイルをフォルダーからブラウザーウィンドウにドラッグします。

ページの先頭へ

ファイルの削除

ファイルは、Creative Cloud Web サイトまたは Adobe Touch Apps から削除できます。OS のコマンドを使用して、デスクトップの Creative Cloud Files ディレクトリからファイルを削除することもできます。ファイルの削除はすべてアカウントと同期され、ファイルは Creative Cloud でアーカイブされます。元のファイルは常にコンピューターに保持され、Creative Cloud にコピーが作成されるため、どこからでもアクセスできます。



アーカイブされたファイルは、引き続きオンラインストレージを消費します。アーカイブフォルダーからファイルを完全に削除したり、ファイルを復元したりすることができます。ファイルを完全に削除すると、ストレージ容量が解放されます。

ファイルの完全な削除または復元

アセットを完全に削除するには、2 ステップ必要です。

アーカイブされたファイルを復元することもできます。

1. デスクトップの Creative Cloud Files ディレクトリ、Creative Cloud 対応 Touch Apps、または Creative Cloud アセットページからファイルをアーカイブできます。アーカイブされたファイルは、マイアセット／ファイルのアーカイブ済みカテゴリーに移動します。
2. アーカイブ済み ページで、完全に削除するファイルを選択し、「完全に削除」をクリックします。
3. 確認ダイアログで、「完全に削除」をクリックします。

1. アーカイブ済みページで、復元するファイルを選択し、「復元」をクリックします。
2. 確認ダイアログボックスで、「復元」をクリックします。

ページの先頭へ

ストレージプランと容量

ご利用いただけるストレージ容量は、Creative Cloud メンバーシップにより異なります。

メンバーシッププラン	無料ストレージ容量
無料	2 GB
Creative Cloud（フォトグラフィプラン）	2 GB
Creative Cloud（単体プランおよびコンプリートプラン）	20 GB
Creative Cloud グループ版	100 GB

ストレージのステータスは、Creative Cloud デスクトップアプリケーションのアセットパネルにある「ファイル」タブ、または Creative Cloud Activity ページの設定ページで確認できます。



Creative Cloud デスクトップアプリケーションのストレージのステータス



設定ページのストレージのステータス

容量を超過した場合、Creative Cloud はどのデバイスからでも最大 1 GB までは同期できます。その後は新規ファイルの同期は行わず、容量を超過したことが通知されます。アップロードできないファイルには、赤字の大きな「！」マークが付きます。マークが付いたファイルでも、移動、名前の変更、削除はできます。ファイルを同期するには、他のファイルを完全に削除して、空きスペースを確保する必要があります。

注意： ストレージのごく一部が管理用に使用されます。そのため、実際のストレージスペースは割り当てよりも若干少なく、ユーザーファイルの数に応じて *100 KB ～ 500 KB* となります。

ページの先頭へ

トラブルシューティング



コミュニティで質問

フォーラムでサポートエキスパートに相談



お問い合わせ

スタッフに問い合わせる

関連項目

- Creative Cloud アセットを開始する
- ファイルおよびフォルダーの共有
- フォルダー共有による共同作業
- ファイルを同期し、共同作業者と共有する（ビデオ、10 分）
- Adobe Creative Cloud のステータス
- ファイルの同期に関する問題
- バージョン管理に関する FAQ

Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

Typekit からのフォントの追加

ypekit は、デスクトップアプリケーションや Web サイトで使用可能な、膨大な種類のフォントを提供するサブスクリプションサービスです。

Typekit ポートフォリオプランは、Creative Cloud サブスクリプションに含まれています。また、Creative Cloud の無償メンバーは、Typekit の一部のフォントを Web やデスクトップで使用できます。

フォントをデスクトップと同期するには、Creative Cloud（通常版、単体サブスクリプションまたは無料版）に登録するか、または単体の Typekit プランに登録します。詳しくは、Typekit 製品ページと Typekit のプランを参照してください。

はじめに
Typekit のフォントの参照および追加
同期されたフォントの使用
フォントの同期の管理

ページの先頭へ

はじめに

Typekit のベンダーパートナーが提供する書体から自由に選択し、Creative Cloud でデスクトップと同期するか、または Web 上で使用できます。同期したフォントは、すべての Creative Cloud アプリケーション（Photoshop、InDesign など）で使用できるほか、MS Word などのデスクトップアプリケーションでも使用できます。

フォントを同期するには、コンピューターに Creative Cloud デスクトップアプリケーションがインストールされている必要があります。まだインストールされていない場合は、ダウンロードしてインストールします。詳しくは、デスクトップの Creative Cloud を参照してください。

フォントを同期して、デスクトップアプリケーションで使用できるようにするため、既定では Typekit はオンになっています。

この時点で、Web ブラウザーで、同期するフォントが既に選択されている場合、そのフォントが自動的にコンピューターに同期されます。

ページの先頭へ

Typekit のフォントの参照および追加

1 複数の場所から Typekit ライブラリにアクセスできます。次に示す新しいフォントの選択方法のうち、既存のワークフローに最適な方法を組み合わせて使用してください。

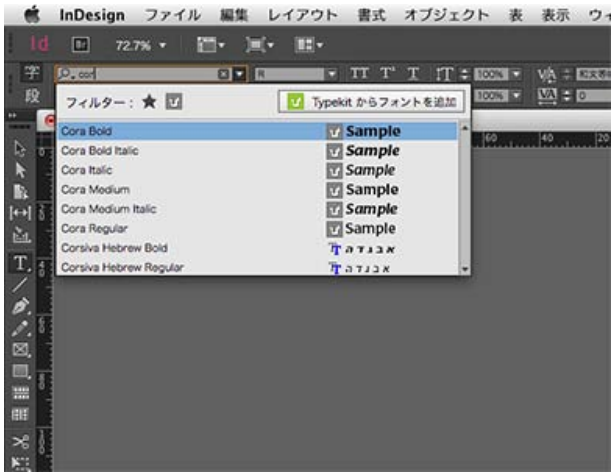
Creative Cloud デスクトップアプリケーションから：

「フォント」タブで、「**Typekit** からフォントを追加」をクリックします。ブラウザーウィンドウが開き、Typekit.com にサインインした状態になります。



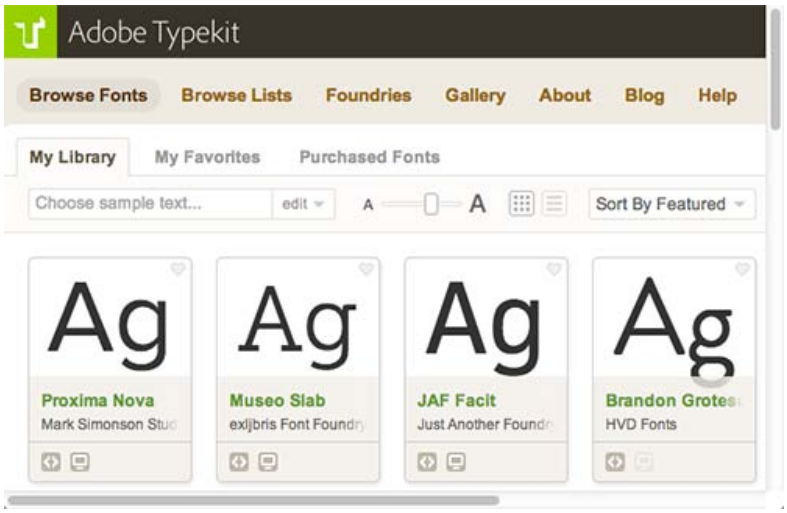
Typekit 統合アプリケーションから：

アプリケーションのフォントメニューで、「**Typekit** からフォントを追加」をクリックします。アプリケーション内から直接ブラウザーウィンドウが起動されます。



Typekit.com Web サイト上で直接：

Adobe ID およびパスワードを使用して Typekit.com にサインインします。



2 フォントを参照し、フィルタリングして目的のフォントに絞り込むことができます。特定のフォントを使用できるかどうかが、フォントカードに示されます。



フォントカードに示された使用可否情報

A. *Web* およびデスクトップ ***B.*** *Web*

3 各フォントカードをクリックして、書体の詳細を確認します。使用可能なすべての太さとスタイルの書体のサンプルなどが確認できます。

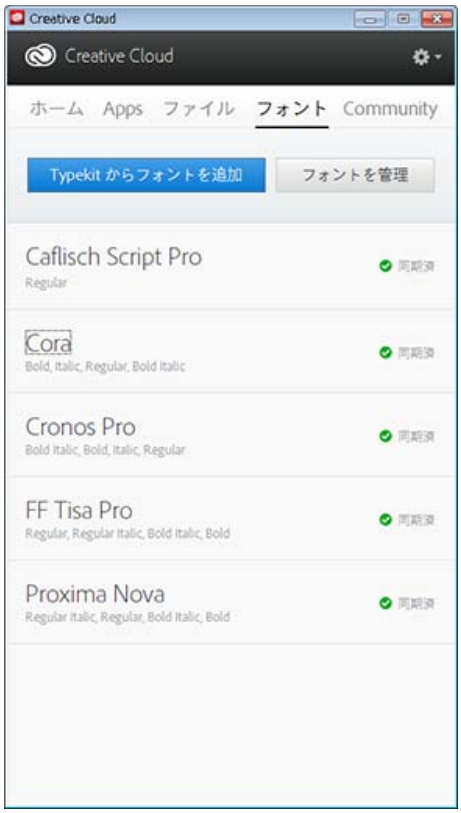


4 「フォントを使用」をクリックします。このファミリーを使用ウィンドウで、フォントをデスクトップに同期するか、または Web で使用するキットに追加するかを指定します。



5 フォントファミリーから必要なスタイルを選択し、「選択したフォントを同期」をクリックします。

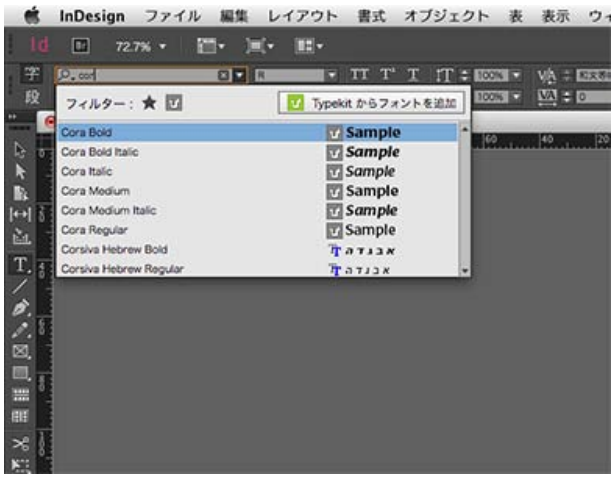
Creative Cloud アプリケーションがインストールされたすべてのコンピューターにフォントが同期されます。フォントを表示するには、Creative Cloud アプリケーションを開き、フォントパネルをクリックします。



ページの先頭へ

同期されたフォントの使用

同期したフォントを使用するには、デスクトップアプリケーションを開き、フォントメニューに移動します。同期されたフォントがオプションリストに表示されます。Microsoft Office などの一部のデスクトップアプリケーションでは、新しいフォントが同期された後で再起動が必要になる場合があります。



Typekit から同期されたフォントが表示された *InDesign* のフォントメニュー

Creative Cloud アプリケーション内で Typekit のフォントを使用する方法について詳しくは、次を参照してください。

InDesign CC での Typekit フォントの使用



Premiere Pro CC での Typekit フォントの使用



Illustrator CC での Typekit フォントの使用



After Effects CC での Typekit フォントの使用



Photoshop CC での Typekit フォントの使用

ページの先頭へ

フォントの同期の管理

コンピューターの同期されたフォントは、Adobe Creative Cloud アプリケーションのフォントパネルまたは Typekit.com アカウントを使用して参照できます。

同期されたフォントの削除

同期されたフォントをコンピューターから削除するには：

1. Adobe Creative Cloud のフォントパネルで、「フォントを管理」をクリックします。同期されたフォントページがブラウザーウィンドウに開きます。Typekit.com にログインして、同期されたフォントページに直接移動することもできます。
2. 使用しなくなったフォントの右側にある「削除」をクリックします。

Typekit をオフにする

フォントの同期を有効または無効にすることができます。フォントの同期を無効にすると、フォントの同期が停止し、同期されたフォントがコンピューターから削除されます。

1. Creative Cloud デスクトップアプリケーションで、設定（⚙）／環境設定を選択します。
2. 「フォント」タブをクリックします。
3. フォントの同期を有効または無効にするには、Typekit のオン／オフ設定から「オン」または「オフ」を選択します。



オフライン時の Typekit の使用

Creative Cloud アプリケーションが実行中でサインインの状態のときにオフラインになった場合、同期されたフォントはすべて引き続き使用できます。Typekit.com でフォント同期の選択内容を変更した場合、その変更は接続が回復するまで反映されません。

オフライン時に Creative Cloud アプリケーションを起動した場合、フォントは通常のフォントメニューに表示されず、使用できません。

関連記事

- デスクトップとのフォントの同期 | Typekit.com （英語）
- Creative Cloud を介してデスクトップアプリケーションにフォントを追加する

(cc) BY-NC-SA Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

Creative Cloud Market

Creative Cloud Market は、専門家によって選ばれた、クリエイターによるクリエイターのための上質なコンテンツのコレクションです。フォトグラフィプランのお客様を除く Creative Cloud 有償サービスのメンバーのみがご利用いただけます。Creative Cloud メンバーには、この Market で、デスクトップとモバイル（Creative Cloud 連携アプリ利用）両方のためのアセットが無償で提供されます。ベクターグラフィック、アイコン、パターン、UI キットなど多彩な品揃えから選ぶことができます。Creative Cloud メンバーは、ユニークなアセットを毎月 500 個まで無料でダウンロードできます。この新しい有力なサービスによって、アセットをたやすく見つけられるようになり、見つけたアセットを基にして新たに構築したり、そのアセットを加工したり、変更したりすることで、クリエイティブプロセスを活性化できます。

Market にアクセスするには、まず Creative Cloud デスクトップアプリケーションをインストールする必要があります。ダウンロードの方法については、Creative Cloud デスクトップアプリケーションを参照してください。詳しくは、短いビデオチュートリアルをご覧ください：Creative Cloud Market デザインアセットへのアクセス

ページの先頭へ

クリエイティブアセットの検索とダウンロード

Creative Cloud デスクトップアプリケーションから、数千に及ぶ高品質なアセットを参照できます。アセット／**Market**を選択します。または、ドロップダウンを開いてカテゴリーまたはキーワードで検索して、プロジェクトに最適なアセットを見つけることができます。

1. Creative Cloud デスクトップアプリケーションでアセット／**Market**を選択します。

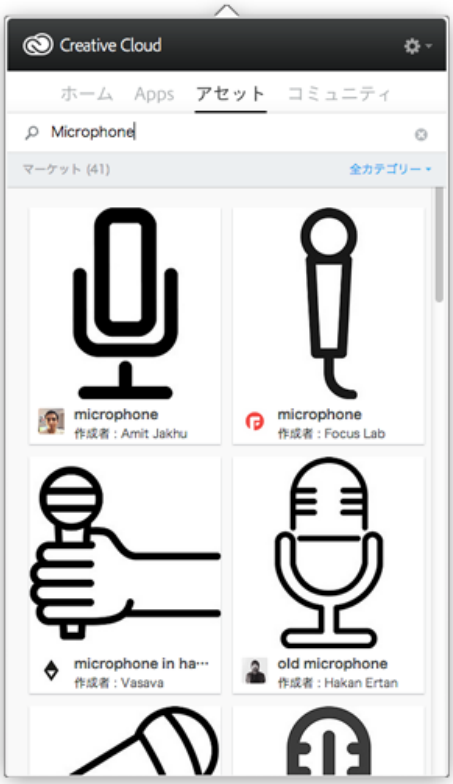


2. Creative Cloud Market には選りすぐりの上質なコンテンツが揃っており、次のカテゴリーに分かれています。
   - 配置用：レイヤーが整えられマスクが適切に設定された、写真およびデジタルベースのテンプレート（PSD ファイル）。
   - ユーザーインターフェイス：レイヤーが設定された PSD。モバイル用および Web 用のフルキット、フォーム、チャート、ナビゲーション、ウィジェットが含まれます（PSD ファイル）。
   - ベクトルシェイプ：Photoshop、InDesign、および Illustrator と統合されている、拡大縮小可能なオブジェクトおよびシェイプ（SVG ファイル）。
   - アイコン：印刷、Web および標識用の、字形、輪郭、平面および 3D シンボル（PNG／SVG ファイル）のセット。
   - パターン：無限に繰り返すことができる、幾何学、イラスト、テクスチャのパターンと背景（PNG／SVG ファイル）。
   - ブラシ：Photoshop 用の高品質なナチュラルメディアブラシおよび抽象ブラシ（ABR／TPL ファイル）。

   アセットをフィルター処理するには、Market ポップアップメニューでカテゴリーを選択します。



3. アセットを検索するには、🔍をクリックして、検索する語を入力します。



検索結果をフィルター処理して並べ替えることができます。

4. アセットのサムネールをクリックすると、アセットの追加情報と詳細が表示されます。

5. 「ダウンロード」をクリックします。メインの *Creative Cloud Files* フォルダーの *Market Downloads* フォルダーにアセットが自動的にダウンロードされます。

ページの先頭へ

FAQ

- **Creative Cloud Market** を入手するにはどうすればよいですか？
- フォトグラフィプランのメンバーが **Creative Cloud Market** にアクセスできない理由
- **Creative Cloud** メンバーシップが必要ですか？
- ダウンロードしたアセットは自分のストレージ容量にカウントされますか？
- これらのアセットを自分のプロジェクトで使用できますか？
- これらのアセットを将来使用するためにコピーつまりバックアップしておくことができますか？
- ダウンロードしたアセットを共有できますか？
- アドビは **Creative Cloud Market** のコンテンツをどのように調達していますか？
- 自分の作品を **Creative Cloud Market** に出品できますか？

(cc) BY-NC-SA Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

Creative Cloud Extract

Creative Cloud Extract を使用すると、Photoshop のデザインからコードを簡単に抽出できます。Extract では Web デザイナーとデベロッパーのいずれの手順もシンプルで、Web デザインから編集可能なコードに変換する作業効率が大幅に改善されます。

Web デベロッパーにデザイン仕様を伝える方法として広く使用されているのが Photoshop のコンポジションで、デベロッパーはそのデザイン意図を HTML や CSS に変換します。一般的な手順では、まずデザイナーが Web やモバイルデザインで使用する Photoshop カンプを作成します。次にプロダクションデザイナーが、アセットをスライスし、裁ち落としを作成して、デベロッパー用の PSD ファイルを作成します。そして、Web デベロッパーがデザイン要素とアセットをコードに変換します。

そのワークフローを Extract がまったく作り変えました。Web デザイナーは Photoshop CC で最適化されたアセットを瞬時に書き出し、Creative Cloud アセットを使って PSD をデベロッパーと共有できます。それを受け取ったデベロッパーは自分のブラウザー内で重要なデザイン情報を利用したり、アセットをダウンロードできます。デベロッパーはこの情報にアクセスし、Dreamweaver CC でのコードの作成に適用できます。



Creative Cloud の Extract 機能は、様々なサービスの中で PSD デザインをコード化できます。いつでもデザイナーが使いやすいツールやテクノロジーで Extract を使用し、デザインをコードに変換できます。

- 使い慣れた Photoshop CC 環境で作業し、レイヤーやレイヤーグループから画像アセットを定義して抽出することができます。
- Web デベロッパーは Creative Cloud アセットの PSD ファイルにアクセスし、Extract を使って画像アセット、計測値、CSS スタイルを書き出せます。書き出したアセットや CSS スタイルを使用して、デザインカンプからコードに変換します。
- Web デザイナーとデベロッパーは、Dreamweaver 内で Extract を使用でき、コンテキストコードヒント、アセット抽出、その他の処理をコーディング環境で直接できるので、完全な自己完結ソリューションとなります。



Photoshop の Extract アセット

Photoshop カンプを作成した後、Adobe Generator 技術に基づくシンプルなビジュアルインターフェイスを使用して、個別レイヤーまたはレイヤーグループからすばやく画像アセットを定義し、パッケージ化できます。劇的に時間が短縮され、本来のデザイン業務に多くの時間を費やせます。



Dreamweaver の Extract

Dreamweaver で PSD を表示し、コンテキストコードヒントを使用して、CSS 内のフォント、カラー、グラデーションを簡単に定義できるようになりました。最適化された画像をライブビューのサーフェスにドラッグ & ドロップしたりテキストをコピーできるなど、様々な操作ができます。

Creative Cloud アセットでの Extract

ブラウザーの Creative Cloud アセットから直接 PSD を共有できるので、カラー、グラデーション、フォント、テキスト、CSS などのデザイン情報をすばやく抽出し、カンプからコードに変換できます。さらに、Web 用に最適化された PNG、SVG、JPG 画像を書き出すこともできます。



Extract for Brackets（Preview）

Brackets での Extract との統合によって、Extract の機能を軽量な最新のコードエディターで利用できるようになりました。Extract for Brackets（Preview）を使用すると、コンテキストコードヒントを利用して、PSD からデザイン情報をクリーンかつ最小限の CSS として抽出することができます。また、レイヤーを画像として抽出したり、PSD の情報を使用してプリプロセッサー変数を定義したりすることもできるほか、オブジェクト間のサイズや距離を簡単に取得することも可能です。

他の Creative Cloud サービスを使用してファイル、フォント、カラーなどのアセットを同期し、メンバー全員が最新のデザインにアクセスできるようにすれば、デザインワークフローがさらにシンプルになります。

ファイルの同期

Creative Cloud アセットに PSD ファイルと抽出した画像を同期して保存すれば、どのデバイスからでも最新のファイルにアクセスできます。

フォルダーの共有

Creative Cloud アセットを使用してフォルダーを共有すれば、チームのメンバー全員が同じファイルセットで作業できます。ファイルをレビューし、コメントを追加することもできます。Creative Cloud アセットには、基本的なバージョン管理機能も付属しています。

フォントの同期

Creative Cloud には Typekit のフォントにアクセスする機能があり、デザインに最適なフォントをダウンロードできます。

詳細情報	コミュニティで質問	お問い合わせ
Creative Cloud Extract チュートリアル	フォーラムでサポートエキスパートに相談	スタッフに 問い合わせる
今すぐ見る >	参加する >	利用する >

(cc) BY-NC-SA Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

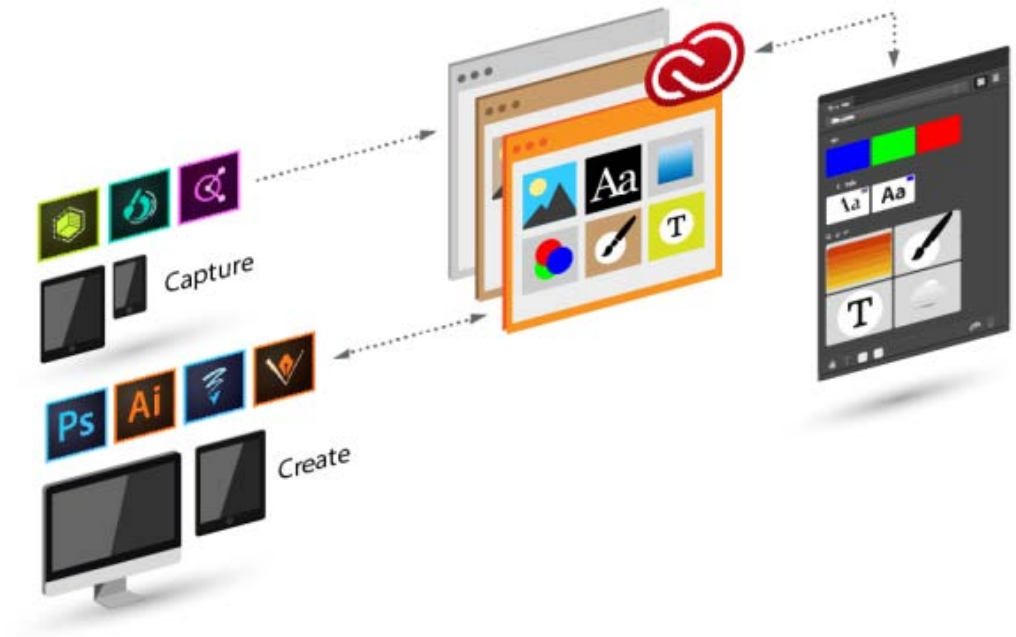
法律上の注意 | プライバシーポリシー

Creative Cloud ライブラリ



Creative Cloud ライブラリを使用すれば、お気に入りのアセットをどこにいても使用することができます。Adobe Photoshop CC、Adobe Illustrator CC、Adobe InDesign CC、また Shape CC などのモバイルアプリケーションで画像、カラー、テキストスタイルなどを作成して、他のデスクトップアプリケーションやモバイルアプリケーションから簡単にアクセスできるので、シームレスなクリエイティブワークフローが実現します。Creative Cloud ライブラリは Creative Profile と連携しているため、必要なクリエイティブアセットをいつでも手元に置いておけます。Creative Profile を使用すれば、アプリケーション間を自在に移動して、プロジェクトで必要なときに必要なアプリケーションでアセットを自動的に表示することが可能になります。

概要については、Creative Cloud ライブラリ入門をご覧ください。



キャプチャ

Creative Cloud ライブラリは、デスクトップアプリケーションに限らず、様々なアプリケーションからデザインアセットをキャプチャするメカニズムを提供します。ひらめいたらすぐその場で Creative Cloud モバイルアプリケーションファミリーを使用してインスピレーションを取り込めるだけでなく、Creative Cloud マーケットからアセットをダウンロードすることもできます。

管理

デザインアセットを複数の Creative Cloud ライブラリに整理できます。プロジェクトやアセットの種類だけでなく、自分のお気に入りごとに整理して、署名のスタイルの作成に再利用することも可能です。

再利用と作成

Creative Cloud ライブラリのオブジェクトを使用して、デザインやアートワークを再利用および作成できます。

ライブラリへの追加

ページの先頭へ

Creative Cloud ライブラリは、デスクトップアプリケーションに限らず、様々なアプリケーションからデザインアセットをキャプチャするメカニズムを提供します。ひらめいたらすぐその場で Creative Cloud モバイルアプリケーションファミリーを使用してインスピレーションを取り込めるだけでなく、Creative Cloud マーケットからアセットをダウンロードすることもできます。

モバイル

Adobe Brush CC、Adobe Color CC、Adobe Shape CC などの様々なモバイルアプリケーションファミリーを使用して、アセットをライブラリに追加します。これらのアセットを使用して、Adobe Illustrator Draw や Adobe Photoshop Sketch でモバイル制作を行うことも可能です。

デスクトップ

Adobe Photoshop CC、Adobe Illustrator CC、InDesign CC を使用して、デスクトップコンピューター上で Creative Cloud ライブラリにアセットを追加します。Illustrator、Photoshop または InDesign のライブラリパネルにアセットをドラッグします。Creative Cloud アセットページでライブラリを表示および参照することもできます。

Creative Cloud マーケット

Creative Cloud マーケットでアセットを検索してライブラリに追加します。Creative Cloud デスクトップアプリケーションを使用して、Creative Cloud マーケットからアセットを参照して追加します。Creative Cloud モバイルアプリケーションを使用してアセットをライブラリに追加することもできます。

再利用と作成

ページの先頭へ

デスクトップ

Photoshop CC、Illustrator CC、InDesign CC でライブラリパネル（Windows／ライブラリ）を開き、カンバスにオブジェクトをドラッグします。

モバイルアプリケーション

Photoshop Sketch や Illustrator Draw などのモバイルアプリケーションを使用して、ライブラリからオブジェクトを選択し、プロジェクトに配置します。

ブラウザー

Creative Cloud アセットページでライブラリを参照および表示します。ライブラリを削除することもできます。

フォルダー共有

ページの先頭へ

デスクトップ

Photoshop CC、Illustrator CC または InDesign CC でライブラリパネル（Windows／ライブラリ）を開きます。パネルメニューから「フォルダー共有」を選択します。

ブラウザー

左の Creative Cloud アセットパネルで「ライブラリ」をクリックします。ライブラリフォルダーメニューから「フォルダー共有」を選択します。

FAQ

ページの先頭へ

ライブラリにはアイテムをいくつまで追加できますか?

ライブラリに追加できるアセットは最大 1,000 個までです。

作成できるライブラリの数に制限はありますか?

いいえ。作成できるライブラリの数に制限はありません。

サポートされているすべてのアプリケーションで、ライブラリに保存されているすべてのアセットを使用できますか?

いいえ。アプリケーションではそのアプリケーションに関連するコンテンツのみ表示および使用することができます。

どのようなカラー情報がサポートされていますか?

ライブラリでは単一のスウォッチまたはカラーテーマのカラーデータがサポートされています。ライブラリではプロセスカラーのみサポートされています。スポットカラーはサポートされていないため、ライブラリにはプロセスカラーとして追加されます。

ライブラリに保存されているすべてのアセットは Photoshop、Illustrator、InDesign で再利用できますか?

Illustrator または InDesign で現在再利用できない Photoshop のレイヤースタイルを除き、ほとんどのアセットが

Photoshop、Illustrator、InDesign との間で再利用できます。

Illustrator または PhotoShop で InDesign テキストスタイルアセットを使用した場合、これらのアプリケーションで、アセットのプロパティと、ホストアプリケーションで使用できるテキストスタイルのプロパティのマッピングが試行されます。ホストアプリケーションにないプロパティは無視されます。

アセットはどこに保存されますか?

アセットはデバイス上にローカルに保存され、Creative Cloud に同期されます。

ライブラリは他のユーザーと共有できますか?

はい。ライブラリでの共同作業を参照してください。

Creative Cloud ライブラリと統合された一部のモバイルアプリ（Brush、Color、Shape）では、ライブラリでの共同作業はまだサポートされていません。また、これらのモバイルアプリで作業するときは、共有しているライブラリはすべて使用できません。ただし、他のユーザーとライブラリを共有した場合、そのライブラリは Creative Cloud デスクトップアプリケーションおよびモバイルアプリで使用できます。

Creative Cloud メンバーシップが必要ですか？

Creative Cloud ライブラリを使用するには、無償または有償の Creative Cloud メンバーシップが必要です。

ライブラリアセットはどのアプリケーションで追加または使用できますか?

Creative Cloud ライブラリは現在次のアプリケーションおよびサービスでサポートされており、今後も追加予定です。

	ライブラリへのアセットの保存	ライブラリのアセットを使用した作成
デスクトップ		
Photoshop	可能	可能
Illustrator	可能	可能
InDesign	可能	可能
CC マーケット（CC デスクトップアプリケーション経由）	可能	不可
ブラウザー		
CC アセット	表示、管理（名前変更、削除）のみ	
モバイル		
Shape CC	ベクトルシェイプ	不可
Color CC	カラーテーマ	不可

Brush CC	ブラシ	不可
Illustrator Draw	不可	画像、シェイプ
Photoshop Sketch	不可	ブラシ

Creative Cloud ライブラリに関する情報はどこで入手できますか?

ライブラリに関する詳しい情報は、次のリソースで確認できます。

ビデオチュートリアル

- Creative Cloud ライブラリの使い方入門（概要）
- Illustrator およびモバイルの Creative Cloud ライブラリ
- Photoshop およびモバイルの Creative Cloud ライブラリ

モバイルアプリケーションで Creative Cloud ライブラリのデモンストレーションを行うビデオチュートリアル

- Shape CC
- Brush CC
- Color CC
- Illustrator Draw
- Photoshop Sketch

(cc) BY-NC-SR Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

ワークスペースとワークフロー

個人用のワークスペースの作成と保存（英語）
Jeff Witchel (2012/10/15)
チュートリアル - ビデオ
個人用のワークスペースを作成して保存する方法を説明します。

ツールの操作（英語）
Kelly McCathran (2012/05/15)
チュートリアル - ビデオ
InDesign のツールバーには多くのツールが用意されています。その多くは、最初から表示されているツールに隠れているか、「入れ子」になっています。このビデオでは、オブジェクトの選択、回転、サイズ変更に使用する主なツールを紹介します。また、文字ツールでテキストを編集したり、罫線あり/なしのフレームを作成したり、キーボードでツールを切り替えたり、手のひらツールやズームツールでオブジェクトを操作したりする方法を説明します。

新規ドキュメントの作成

ドキュメントの新規作成
新規ドキュメントの作成
新規ドキュメントのオプション
ドキュメントウィンドウの概要
カスタムページサイズの作成
ドキュメントプリセットの定義
プリセットを使用したドキュメントの作成

ページデザインは基本的な設定から始めます。新しいドキュメントの作成から始めて、ページの設定、マージン・段組の設定またはグリッド設定の変更を行います。

ページの先頭へ

新規ドキュメントの作成

1. ファイル／新規／ドキュメントを選択します。

   新規ドキュメントダイアログボックスでは、ページ数やページサイズ、裁ち落としと印刷可能領域を設定できます。これらの設定はいつでも変更できます。

2. ドキュメント設定オプションを指定します（詳しくは、 新規ドキュメントのオプションを参照してください）。

   裁ち落としと印刷可能領域のサイズを指定するには、裁ち落としと印刷可能領域のラベルの前にある矢印ボタンをクリックします。裁ち落とし印刷可能領域は、「ページサイズ」で定義されている範囲の外側まで広がっています。裁ち落としと印刷可能領域をすべての側面に均等に拡張するには、すべての設定を同一にするアイコン をクリックします。

3. （*InDesign CC* のみ）「プレビュー」チェックボックスを選択して、新しいドキュメントを確認します。必要に応じて変更を加えます。

4. 指定した設定で新しいドキュメントを開くには、「OK」をクリックします。

すべての新しいドキュメントに使用されるデフォルトレイアウトを設定するには、開いているドキュメントがない状態で、ファイル／ドキュメント設定またはレイアウト／マージン・段組を選択し、オプションを設定します。

ページの先頭へ

新規ドキュメントのオプション

ドキュメントプリセット　保存済みのプリセットを選択します。

ドキュメントプロファイル　Web 用の PDF または SWF に出力するドキュメントを作成する場合、Web オプションを選択すると、このダイアログボックスにあるいくつかのオプションが変化します。例えば、見開きページが解除され、ページ方向が縦置きから横置きになり、モニターの解像度に基づいたページサイズが設定されます。これらの設定はドキュメントを作成した後に変更できます。
（***CS6*** 以降）：Digital Publishing Suite で作成するパブリケーション用に「デジタルパブリッシング」ドキュメントプロファイルが追加されました。ドキュメントのプロファイルは作成後に変更することもできます。

ページ数　新規ドキュメントの作成時にドキュメントに含めるページ数を指定します。

開始ページ番号　ドキュメントに設定するページ番号の開始値を指定します。見開きページを有効にして偶数（例：2）を指定すると、ドキュメントの先頭スプレッドは 2 ページのスプレッドになります。ドキュメントを見開きで開始する方法を参照してください。

見開きページ　本や雑誌などのように左右のページを見開きにして、ページのスプレッドとして使用する場合は、このオプションを選択します。チラシやポスターなど、単ページ（片ページ）をスプレッドとして使用する場合は、このオプションの選択を解除します。
ドキュメントを作成した後でページパネルを使用し、2 ページを超えるスプレッドを作成したり、開始ページを見開きにしたりすることもできます（スプレッドのページ番号割り当ての制御を参照してください。）

マスターにテキストフレーム （*CS5.5* 以前）：指定した段組の設定に一致するように、マージンガイド内の領域のサイズに合わせて、テキストフレームがマスターページ上に自動的に作成されるようにするには、このオプションを選択します。マスターテキストフレーム（フレームグリッド）は A マスターに追加されます（マスターページでのテキストフレームの使用を参照してください。）

「マスターにテキストフレーム」を使用できるのは、ファイル／新規／ドキュメントを選択した場合のみです。

プライマリテキストフレーム （*CS6* 以降）：マスターページ上にプライマリテキストフレームを追加するには、このオプションを選択します。新しいマスターページを適用すると、プライマリテキストフレームのストーリーが自動的に新しいマスターページのプライマリテキストフレームに配置されます。

ページサイズ ポップアップメニューからページサイズを選択するか、「幅」と「高さ」に値を入力します。ページサイズとは、ページ外側の裁ち落としやその他のマークを断裁した後の最終的な仕上がりのサイズです。

方向 縦置き（縦長） または横置き（横長） をクリックします。このオプションは、「ページサイズ」に入力した寸法と連動しています。「高さ」の値の方が大きい場合は、縦置きアイコンが選択されます。「幅」の値の方が大きい場合は、横置きアイコンが選択されます。選択されていないアイコンをクリックすると、「高さ」と「幅」の値が切り替わります。

ヒント：裁ち落としと印刷可能領域のサイズを指定するには、新規ドキュメントダイアログボックスで、裁ち落としと印刷可能領域のラベルの前にある矢印ボタンをクリックします。裁ち落としと印刷可能領域をすべての側面に均等に拡張するには、すべての設定を同一にするアイコン をクリックします。

裁ち落とし 裁ち落としの領域を使用すると、定義されたページサイズの外端に配置されたオブジェクトをプリントすることができます。仕上がり寸法に合わせてページの端にオブジェクトを配置すると、印刷時やトリミング時のわずかなズレによって、ページの端に余白が生じてしまうことがあります。そのため、ページの端に配置するオブジェクトは、実際のページサイズからはみ出す位置に配置し、印刷した後に断裁します。ドキュメント上には、指定した裁ち落としの領域が赤い線で表示されるようになります。なお、ここで設定した裁ち落としは、プリントダイアログボックスの「裁ち落とし」の設定に反映させることができます。

印刷可能領域 印刷可能領域は、ドキュメントが最終的なページサイズに断裁されるときに削除されます。印刷可能領域は、印刷情報やカスタマイズしたカラーバーの情報を配置したり、ドキュメントに関する他の処理命令や他の情報の説明を表示したりするために使用できます。印刷可能領域に配置したオブジェクト（テキストフレームも含む）は印刷されますが、ドキュメントがその最終ページサイズで断裁されたときになくなります。

裁ち落としと印刷可能領域の外側のオブジェクトは印刷されません。

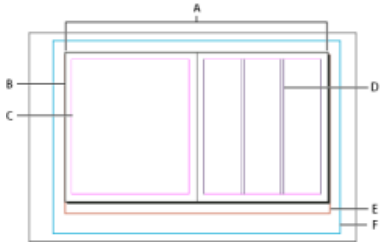
プレビュー （*InDesign CC* のみ）このチェックボックスを選択して、新しいドキュメントを確認します。プレビューを確認し、必要に応じてオプションを変更します。

注意： ファイルメニューからドキュメントプリセット／定義を選択して、後で使用できるようにドキュメントの設定を保存することもできます。

ページの先頭へ

ドキュメントウィンドウの概要

ドキュメントの各ページまたはスプレッドには専用のペーストボードとガイドがあり、標準モードで表示されます（標準モードに切り替えるには、表示／スクリーンモード／標準モードを選択します）。ペーストボードは、ドキュメントがいずれかのプレビューモードで表示されているときは、グレーの背景に置き換えられます（ドキュメントのプレビューを参照してください。）このプレビューの背景色とガイドは環境設定の「ガイドとペーストボード」で変更できます。



標準モードでのドキュメントとガイド

A. スプレッド（黒の線） ***B.*** ページ（黒の線） ***C.*** マージンガイド（マゼンタの線） ***D.*** 段組ガイド（紫の行） ***E.*** 裁ち落とし（赤い線） ***F.*** 印刷可能領域（青い線）

ドキュメントウィンドウに関する注意：

- その他の色の線は定規ガイドをあらわしており、存在する場合は、選択するとレイヤーカラーで表示されます。レイヤーを参照してください。
- 段組ガイドは、マージンガイドの前面に表示されます。段組ガイドがマージンガイドに重なっている場合は、マージンガイドは段組ガイドの後ろに隠れています。

ページの先頭へ

カスタムページサイズの作成

独自のページサイズを作成し、新規ドキュメントダイアログボックスのページサイズメニューに表示させることができます。

1. ファイル／新規／ドキュメントを選択します。
2. ページサイズメニューから、「カスタム」を選択します。
3. ページサイズの名前を入力し、ページサイズ設定内容を指定して、「追加」をクリックします。

以前のバージョンの InDesign では、New Doc Sizes.txt ファイルを使用してカスタムページサイズを作成するようになっていました。このファイルは InDesign CS5 以降にはありません。

ページの先頭へ

ドキュメントプリセットの定義

ドキュメント設定としてページサイズ、段組、マージン、裁ち落とし印刷可能領域をプリセットに保存して、類似するドキュメントを作成するときに時間を節約し、一貫性を保つことができます。

1. ファイル／ドキュメントプリセット／定義を選択します。
2. 表示されるダイアログボックスで「新規」をクリックします。
3. 新規ドキュメントプリセットダイアログボックスで、プリセットの名前を指定し、各項目を設定します（各オプションの説明について詳しくは、新規ドキュメントのオプションを参照してください）。
4. 「OK」を 2 回クリックします。

   ドキュメントプリセットを別のファイルに保存し、他のユーザーに配布することができます。ドキュメントプリセットファイルの保存と読み込みを行うには、ドキュメントプリセットダイアログボックスの「保存」と「読み込み」ボタンを使用します。

ページの先頭へ

プリセットを使用したドキュメントの作成

1. 次のいずれかの操作を行います。
   - ファイル／ドキュメントプリセット／*[プリセット名]* を選択します（新規ドキュメントダイアログボックスを開かずにプリセットに基づいて新しいドキュメントを作成するには、Shift キーを押しながらプリセットを選択します）。
   - ファイル／新規／ドキュメントを選択し、新規ドキュメントダイアログボックスのドキュメントプリセットメニューからプリセットを選択します。

   新規ドキュメントダイアログボックスにドキュメントプリセットオプションが表示されます。
2. （必要に応じて）オプションを変更し、「OK」をクリックします。

新規ドキュメントダイアログボックスを省略するには、*Shift* キーを押しながらドキュメントプリセットメニューからプリセットを選択します。

(cc) BY-NC-SR Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

Adobe Creative Cloud を使用した設定の同期

目次

はじめに
初回起動時に設定を同期
設定を同期機能の使用
2 回目以降の起動時に設定を同期
同期の管理
サポートされない同期

ページの先頭へ

はじめに

複数のコンピューターを使用する場合、これらのコンピューターで字形セット、メニューのカスタマイズ、キーボードショートカット、カスタムワークスペース、および PDF プリセットを管理し、同期するのは面倒な作業です。

新たに導入された「設定を同期」機能を使用すると、ユーザーは Creative Cloud を使用して各自の設定を同期できます。例えば自宅と職場で別々のコンピューターを使用している場合、「設定を同期」機能を使用することで、2 台のコンピューターの設定を簡単に同期して維持できます。古いコンピューターを新しいコンピューターに取り換え、InDesign を再インストールした場合も、ボタンを 1 回押すだけで、古いコンピューターのユーザー設定をすべて維持したままアプリケーションをすばやくセットアップできます。

注意：*InDesign* をライセンス認証できるのは、*2* 台のコンピューターのみです。

同期は Adobe Creative Cloud アカウントを使用して行います。設定はすべて Creative Cloud にアップロードされ、その後別のコンピューターにダウンロードされて適用されます。

同期操作はすべてユーザーが実行します。同期操作のスケジュールを設定することも、同期操作が自動的に（起動時やシャットダウン中などに）実行されるように設定することもできません。

この機能を使用するための前提条件

- コンピューターがインターネットに接続されている必要があります。
- 両方のコンピューターで Adobe Creative Cloud アカウントにサインインしている必要があります。

ページの先頭へ

初回起動時に設定を同期

インストール後に初めてアプリケーションを起動してドキュメントを作成するとき、または既存のドキュメントを開くときに、同期を開始するかどうかを確認するメッセージが表示されます。



- 「今すぐ設定を同期」をクリックすると、同期が開始されます。
- この機能を無効にするには、「設定を同期を無効にする」をクリックします。
- 「詳細」をクリックすると、環境設定ダイアログボックスが開き、同期する項目をカスタマイズできます。

ページの先頭へ

設定を同期機能の使用

次のいずれかの操作を行います。

- [推奨] InDesign のアクティブなドキュメントウィンドウの左下端にある設定を同期アイコン（）をクリックし、「今すぐ同期」をクリックします。
- 編集（Mac は **InDesign**）／{***Adobe ID*** でログイン}／今すぐ同期をクリックします。

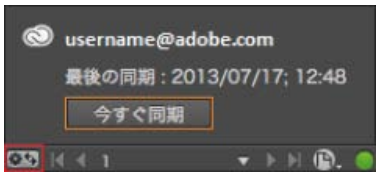
ページの先頭へ

2 回目以降の起動時に設定を同期

以前の同期情報が使用できる状態で初めて InDesign を起動してドキュメントを作成するとき、または既存のドキュメントを開くときに、クラウドに保存されている設定を同期するかどうかを確認するメッセージが表示されます。同期を開始するには、「今すぐ設定を同期」をクリックします。



ローカルコンピューターに設定がダウンロードされ、アプリケーションが更新されます。字形セット、キーボードショートカット、カスタムワークスペース、PDF プリセットを変更した場合、アプリケーションを閉じる前に、同期を行う必要があります。ドキュメントウィンドウのステータスバーの左下隅に同期の状態が表示されます。ステータスバーの設定を同期アイコン（）をクリックして、「今すぐ同期」をクリックします。



ページの先頭へ

同期の管理

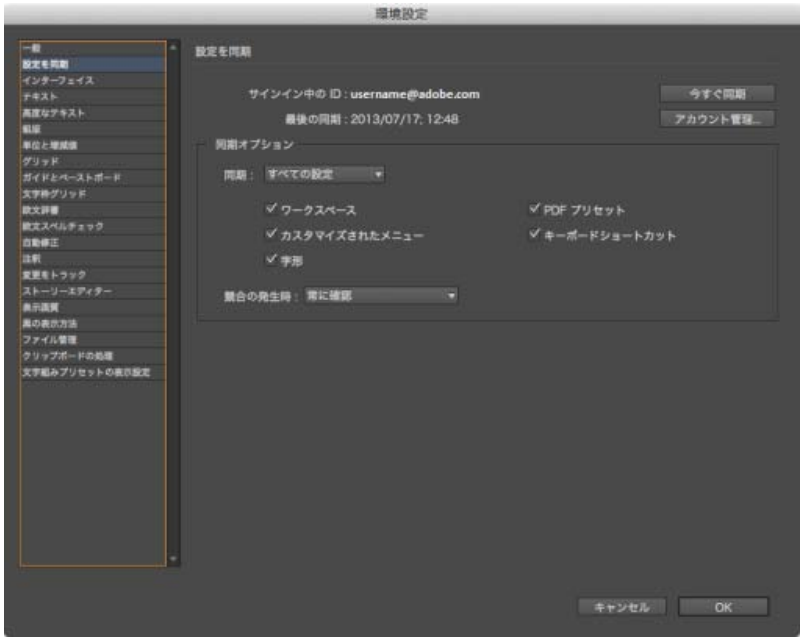
同期対象

- ワークスペース
- メニューセット
- PDF プリセット
- ショートカットキー
- 字形セット

同期対象の選択

環境設定／設定を同期タブに移動します。

- 編集（Mac は **InDesign**）／{***AdobeID*** でログイン}／同期の設定を管理をクリックします。
  または
- 編集（Mac は **InDesign**）／環境設定／設定を同期をクリックします。



同期する設定のチェックボックスを選択します。競合した場合の対処方法も選択できます。

注意： 設定を正常に同期するには、必ずアプリケーション内で設定を変更する必要があります。手動で特定のフォルダーに配置されたファイルについては、設定を同期機能で同期することはできません。

競合が発生した場合のオプションの選択

システムが同期の競合を検出する場合があります。同期の競合は、最後に同期操作を実行した後に、Creative Cloud に格納されている設定とローカルコンピューターに格納されている設定の両方が変更されたため、システムがどちらの設定を使用する必要があるかを決定できない場合に発生します。

職場のコンピューターの PDF プリセットを変更し、設定をクラウドに同期したとします。その後帰宅し、クラウドとの同期を行うことなく自宅のコンピューターに格納されている同じプリセットを変更したとします。クラウドに格納されている設定と自宅のコンピューターに格納されている設定の両方が更新されているため、同期を実行しようとすると競合が発生します。この状態で同期の実行を試みると、競合メッセージが表示されます。



- ローカルで同期：このコンピューターのローカル設定を使用してクラウドを同期します。クラウド版の設定がローカル版の設定で上書きされます。
- Cloud で同期：クラウドの設定を使用してこのコンピューターのローカル設定を同期します。ローカルで行われた変更は無視され、クラウドの設定で置き換えられます。

ページの先頭へ

サポートされない同期

- Windows 用に作成されたキーボードショートカットは、Windows 以外のコンピューターでは同期されません。Mac のキーボードショートカットは、Mac 以外のコンピューターでは同期されません。
- カスタムの場所に保存されたアセットは同期されません。

- ワークスペースの作成後に行われた変更（パネルの再配置など）は同期されません。ワークスペースを同期する場合は、最初に作業環境をセットアップしてから、ワークスペースを作成し、同期プロセスを開始します。

Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

ファイル管理の基本ワークフロー

コンテンツの共有
InCopy でのコンテンツの操作方法
管理されたファイル
管理されているファイルの使用に関する成功事例
ファイル管理ワークフローの例
ユーザー **ID** の入力
ワークフローアイコン

ページの先頭へ

コンテンツの共有

Adobe InCopy LiveEdit Workflow プラグインを使用すると、Adobe InDesign でデザイナーがレイアウトをしているときに、執筆者と編集者は InCopy でコピーを作成できます。このワークフローには、関連するコンテンツをひとまとめにする、アサインと呼ばれるコンテナファイルと、ファイルロックおよび通知のためのツールが含まれます。これらのツールは、共有ネットワークまたは電子メールで配信可能な圧縮パッケージによる InCopy または InDesign でのファイルの共有および更新に使用されます。

共有ネットワークワークフローの InDesign ユーザーは、テキストとグラフィックをファイルシステム上の共有の保存場所に書き出し、InCopy ユーザーは共有の保存場所にあるファイルを使用してコンテンツの執筆と編集を行います。選択したテキストフレームとグラフィックフレームは、アサインファイルまたは独立した InCopy ファイルとして書き出されます。書き出されたファイルは、管理プロセスに属し、書き出し元の InDesign ドキュメントにリンクされます。これらの共有ファイルは、管理されているファイルと呼ばれます。ローカルサーバーにあるアサインファイルまたは InDesign ファイルを使用する際、関連付けられたレイアウトまたはコンテンツを変更すると、そのドキュメントのワークフローに関わるすべてのユーザーに変更が通知されます。

複数の InCopy ユーザーまたは InDesign ユーザーが同時に同じコンテンツファイルにアクセスすることができ、また、複数の InCopy ユーザーが同時に同じアサインファイルを開くことができます。ただし、編集のために InCopy ファイルをチェックアウトできるのは、一度に 1 ユーザーのみです。他のユーザーは、チェックアウトされているファイルを読み取り専用で開くことができます。管理されている InCopy ファイルをチェックアウトしたユーザーは、そのファイルを共有サーバーに保存するか、InDesign ユーザーに返すことで、自分の作業内容を他のユーザーと共有することができます。ただし、そのファイルが再びチェックインされるまでは、他のユーザーはそのファイルに対して変更を加えることができません。このシステムにより、複数のユーザーが同じファイルにアクセスできるようになり、その一方で互いの作業内容を上書きしてしまうことを防止できます。

詳しくは、www.adobe.com/go/learn_liveedit_jp で InCopy LiveEdit Workflow のマニュアル（PDF）を参照してください。

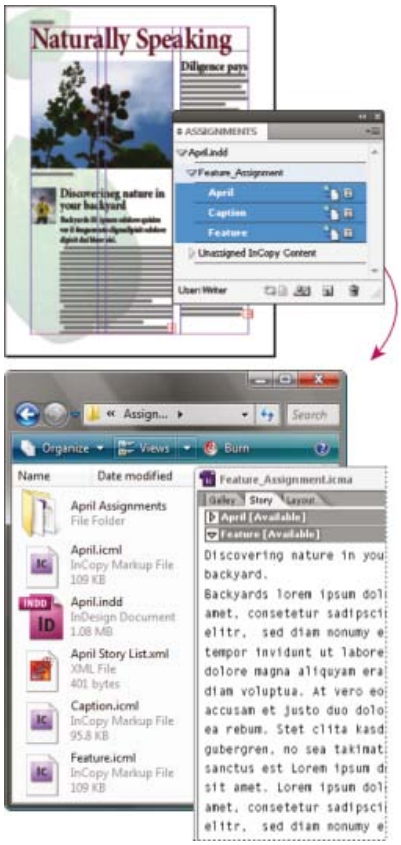
ページの先頭へ

InCopy でのコンテンツの操作方法

コンテンツとは、1 つ以上のフレームに流し込まれるテキスト本文、または読み込まれるグラフィックのことです。InCopy でコンテンツを操作するには、アサインファイルを開く、アサインパッケージを開く、リンクされた InCopy ファイルを開く、InCopy ファイルがリンクされている InDesign ファイルを開く、コンテンツ全体を InCopy で作成する、の 5 つの方法があります。

InDesign で作成されたアサインファイルを開く

InDesign ユーザーは、アサインファイルを作成し、共有するコンテンツを指定できます。この方法により、InDesign ユーザーは、関連するコンポーネント（見出し、本文、グラフィック、キャプションなど）を関連付けて、執筆および編集のためにそれらを別々の InCopy ユーザーに割り当てることができます。InCopy ユーザーは、アサインファイルを開き、各自に割り当てられたコンポーネントのみを処理します。レイアウトビューで、InDesign ドキュメント全体を開くことなく、編集したコピーと InDesign のレイアウトとの関連付けを確認することができます。ただし、レイアウトが変更されれば、InDesign ユーザーはアサインを更新して InCopy ユーザーに変更を通知する必要があります。アサインファイルは、サーバーまたはアサインパッケージを使用して共有できます。



InDesign ドキュメント（*.indd*）と *3* つのリンクしているコンテンツファイル（*.incx*）で構成されるアサインファイル（*.icml*）。アサインファイルとそのコンポーネントは、アサインパネルに表示され、*InCopy* で開くことができます。

アサインパッケージを開く

アサインパッケージワークフローが特に役立つのは、同じプロジェクトの作業をしているデザイナーと執筆者がローカルサーバーにアクセスしない場合です。このような場合は、InDesign ユーザーが 1 つ以上のパッケージを作成し、ファイルを圧縮して、アサインされた InCopy ユーザーに電子メールで送信できます。InCopy ユーザーがアサインパッケージを開いてコンテンツを編集し、InDesign ユーザーにパッケージを返送すると、InDesign ユーザーによってドキュメントが更新されます。

InDesign から書き出されたリンクしている **InCopy** ファイルを開く

ワークフローによっては、InDesign ユーザーが、テキストとグラフィックをアサインファイルに含めるのではなく、それぞれ独立したファイルとして書き出す場合があります。関連のないグラフィックやテキスト本文を処理する場合には、独立したファイルとして書き出す方法が便利です。ただし、InCopy ユーザーは、コンテンツが InDesign のレイアウト内でどのように配置されているかを確認できません。



InDesign ドキュメント（*.indd*）と、リンクされているがアサインされていない *3* つのコンテンツファイル（*.icml*）を *InCopy* 上で開いた状態

リンクされた **InCopy** ファイルを含む **InDesign** ドキュメントを開く

InCopy ユーザーが InCopy で InDesign ドキュメントを開いて編集するとき、レイアウト全体との関連においてすべてのページアイテムを確認できます。この方法は、編集およびコピーフィットを行う際にレイアウト全体を確認する必要がある場合、または、ドキュメントの一部だけでなくストーリーの大部分を編集する場合に便利です。InCopy ユーザーがストーリーを編集した後、InDesign ユーザーは変更されたファイルへのリンクを更新できます。InDesign ユーザーがレイアウトを変更した場合は、InDesign ドキュメントを保存するときに InCopy ユーザーに通知されます。

コンテンツを **InCopy** で作成する

InCopy で、InDesign ファイルに関連付けられていないコンテンツを作成できます。これらの単独のドキュメントで、テキストを入力し、フォントとスタイルを割り当て、グラフィックを他のアプリケーション（Adobe Illustrator や Adobe Photoshop など）から読み込むことができます。将来 XML 形式で使用するために、タグを割り当てることもできます。この方法は、編集ワークフローでデザインよりも先に内容を作成する場合に最適です。単独の InCopy ドキュメントのテキスト領域、ページサイズ、方向を設定および修正することもできます。ただし、後で InDesign ドキュメントにストーリーをリンクする場合は、InCopy で使用されている設定が InDesign での設定で上書きされます。

ページの先頭へ

管理されたファイル

ファイルをファイル管理の対象とするには、ファイルをアサインファイルに追加する、InDesign から InCopy に書き出す、または InCopy 用のコンテンツとして InDesign に配置する必要があります。管理されているファイルについては、コンテンツのステータスと所有権の両方の情報がやり取りされます。管理されているファイルでは、次のことが可能です。

- ファイルの整合性を維持するために、ストーリーのロックとロック解除を行います。
- 関連する InDesign レイアウトが期限切れになったとき、InCopy ユーザーに通知します。
- ファイルを使用中のユーザーを特定します。
- InCopy コンテンツファイルの期限が切れている場合、ファイルを他のユーザーが使用している場合、またはファイルが編集可能になったとき、ユーザーに通知します。通知の方法には、警告メッセージ、フレームアイコン、リンクパネルのステータスアイコン、アサインパネルのステータスアイコンがあります。

読み取り専用ファイル

コンテンツファイルが管理の対象になると、そのファイルは、チェックアウトしたユーザーを除き、ワークフローのすべてのユーザーに対して常に読み取り専用になります。ユーザーがコンテンツファイルをチェックアウトすると、このソフトウェアによってロックファイル（*.idlk）が作成され、そのユーザーだけがファイルを編集できるようになります。読み取り専用ファイルには、次のような特徴があります。

- InCopy ユーザーは、ファイル内のテキストのフォーマットを手動で変更できません。ただし、テキストに文字スタイルまたは段落スタイルが割り当てられている場合、InDesign ユーザーは文字や段落のスタイルを変更できます。したがって、ファイルが他のユーザーにチェックアウトされているときでも、テキストのフォーマットが変更される可能性があります。このようなスタイル定義の変更は、InDesign ユーザーがファイルを更新したときにテキストに反映されます。
- 通常、InCopy ユーザーと InDesign ユーザーのいずれも、ロックされている InCopy 用のコンテンツに含まれるテキストおよび適用されているスタイルなどのオブジェクトを変更できません。文字スタイルや段落スタイルなどの一部のオブジェクトは、コンテンツでだけ使用されます。例えば、ロックされているコンテンツに含まれるオブジェクトに対する文字スタイルの適用方法は変更できませんが、文字スタイルそのものは変更できるため、それによりテキストの外観を変更できます。
- InDesign ユーザーは、テキストコンテンツのマージンと段組、ストーリーが入力されているテキストフレームの形状、位置、数を変更できます。
- InDesign ユーザーは、グラフィックをチェックアウトしなくても、グラフィックフレームの形状とフォーマットを変更できます。InCopy ユーザーは、グラフィックフレームを変更したり、フレームのフォーマットを変更したりすることはできません。ただし、グラフィックそのものを修正（例えばグラフィックの回転や拡大 / 縮小）するためには、InDesign ユーザーと InCopy ユーザーのいずれも、グラフィックフレームをチェックアウトする必要があります。

ページの先頭へ

管理されているファイルの使用に関する成功事例

使用しているコンテンツが最新のものであることを確認し、また他のユーザーの作業コンテンツを上書きしないために、次の例を参考にしてください。

- アサインファイルは、チームの全員がアクセスできるサーバーに保存します。チームのメンバーがサーバーにアクセスできない場合は、アサインパッケージを作成して配信できます。
- アサインファイルを作成すると、アサインファイルとコンテンツを保管する特殊なフォルダーが作成されます。これらのアサインフォルダーを使用して、アサインファイルとコンテンツファイルを管理します。これにより、作業グループ全体での共有ファイルの管理が容易になり、ユーザーが適切なファイルを開くことができるようになります。
- InCopy では、個別の InCopy ストーリーを開くのではなく、アサインファイルを開きます。この方法では、ゲラビューとレイアウトビューで、コピーフィット情報とレイアウト情報を確認できます。アサインファイルを使用せずにコンテンツを書き出した場合は、InDesign ファイルを開かないと、コピーフィット情報とレイアウト情報を確認できません。
- アサインファイルや InDesign ドキュメントを開いたとき、または InDesign か InCopy のいずれかでコンテンツをチェックアウトしたときにはすぐに、フレームアイコンを確認できるように、フレーム枠が表示されている（表示／エクストラ／フレーム枠を表示）ことを確認します。
- InDesign で、（例えば製作期限の都合で）ワークフローからファイルを削除する必要がある場合は、それらのファイルのリンクを解除するか、アサインパッケージをキャンセルすることができます。

ページの先頭へ

ファイル管理ワークフローの例

InCopy と InDesign の間のワークフロー管理を確立したら、デザイナーがレイアウトを準備している間に、執筆者と編集者がドキュメントの草稿の作成、書き直し、追記、編集を行うことができます。共通するワークフローとしては、ローカルサーバーでのファイルの管理、電子メールパッケージによるファイルの共有、2 つの方法を組み合わせて使用する方法があります。

これらのワークフローでは、レイアウト構成、スタイルおよびプレースホルダテキストを設定した基本的な InDesign テンプレートが存在することを前提としています。レイアウト構成には、ページの寸法、テキストフレームとグラフィックフレームが含まれます。InCopy では、これらのアイテムを使用して適切なコピーフィット情報が表示されます。

ローカルサーバーワークフロー

1. InDesign で、アサインの作成とアサインへのコンテンツの追加を行います。

これにより、書き出されたテキストフレームとグラフィックフレームが管理プロセスに組み込まれ、InCopy ユーザーが執筆と編集を行えるようになります。

2. アサインファイルを **InCopy** ユーザーが使用できるようにします。

すべてのワークフローユーザーがアクセスするサーバーにファイルを保存します。

3. InCopy でアサインファイルを開き、チェックアウトし、ストーリーやグラフィックを編集します。

InCopy では、自分にアサインされているコンテンツを含むファイルがアサインパネルに表示されます。ローカルサーバーにファイルを保存するたびに、ファイルシステム上に変更が保存され、そのドキュメント（InDesign レイアウト、またはドキュメント内のその他の管理されたコンテンツファイル）を使用しているユーザーに変更が通知されます。通知を受けたユーザーは、コンテンツを更新して最新の変更を表示させることができます。チェックアウトしたコンテンツは、再びチェックインするまではチェックアウトされたままです。

4. InDesign でレイアウトを編集します。

コンテンツファイルが InCopy で編集中かどうかに関係なく、InDesign ユーザーはドキュメントレイアウトを編集できます。InDesign ユーザーはレイアウト編集のためにドキュメントをチェックアウトする必要はありません。InCopy ユーザーがチェックアウトしたコンテンツを保存するたびに、InDesign ユーザーはレイアウト内でそのコンテンツを更新して、最新の改定内容を確認することができます。

5. InCopy で作業を続行します。

編集を終えたら、コンテンツをチェックインします。他のユーザーがそのコンテンツをチェックアウトして作業できるようになります。InDesign で同時にレイアウトを修正中のユーザーがいる場合は、作業しながらレイアウト構成を更新して確認できます。

6. InDesign ですべてのコンテンツがチェックインされたことを確認します。

管理ワークフローによって、誰がファイルをチェックアウトしているかを確認できます。コンテンツファイルがチェックインされると、InDesign ユーザーは、必要に応じてそれらのファイルをチェックアウトし、レイアウトを仕上げることができます。

電子メールパッケージのワークフロー

1. InDesign で、アサインパッケージを作成して送信します。

該当する InCopy ユーザーにアサインパッケージとアサインコンテンツを作成してから、そのパッケージを InCopy ユーザーに送信します。パッケージ化されたファイルは自動的にチェックアウトされ、編集上の競合が回避されます。

2. InCopy でアサインパッケージを開き、チェックアウトし、ストーリーやグラフィックを編集します。

電子メールでアサインパッケージを受け取った場合は、InCopy でそれをダブルクリックして開きます。ファイルに対して行った変更はローカルのみに保存されます。変更を行っても他のユーザーには通知されません。

3. InDesign でレイアウトを編集します。

コンテンツファイルがパッケージされているかどうかに関係なく、InDesign ユーザーはドキュメントレイアウトを編集できます。レイアウト編集のためにドキュメントをチェックアウトする必要はありません。レイアウトまたはアサインを更新する必要がある場合は、更新済みのパッケージを InCopy ユーザーに送信することができます。

4. InCopy で、編集済みのパッケージを返送します。

編集を終えたらコンテンツをチェックインして、変更を加えたパッケージを返送します。その後、他のユーザーはコンテンツをチェックアウトし、最新のリビジョンを表示して、そのファイルを操作できるようになります。

5. InDesign ですべてのコンテンツがチェックインされたことを確認します。

管理ワークフローによって、誰がファイルをチェックアウトしているかを確認できます。アサインパッケージが返送されると、アサインパッケージに含まれるストーリーがチェックインされます。InDesign ユーザーは必要に応じてそれらのファイルをチェックアウトし、レイアウトを仕上げることができます。

ページの先頭へ

ユーザー ID の入力

ワークフローに属しているすべてのユーザーは、ユーザー名を指定する必要があります。この識別情報によって、特定のファイルをどのユーザーがチェックアウトしているのかが明らかになり、その情報を他のユーザーが確認できます。また、ファイルを編集のためにチェックアウトするときにも、ユーザー ID が必要です。

既に指定済みのユーザー名を変更したい場合は、チェックアウト中のコンテンツをチェックインする必要があります。チェックインせずに、編集セッション中にユーザー ID を変更すると、既にチェックアウトされているコンテンツが別のユーザー名でチェックアウトされていることになり、そのコンテンツを編集できなくなります。

ユーザー ID は、アプリケーションごとに指定します。1 人のユーザーが 1 アプリケーションで複数のユーザー ID を持つことはできません。

注意： *InCopy* の注釈機能と変更トラック機能でも、注釈またはトラックされた変更を行ったユーザーを識別するために、指定されたユーザー名が使用されます。

1. 次のいずれかの操作を行います。
   - ファイル／ユーザーを選択します。
   - アサインパネルメニューから「ユーザー」を選択します。
2. 固有の名前を入力して、「OK」をクリックします。

ユーザー名を指定しなかった場合は、最初にワークフローを使用する際に、ユーザー名の入力を求められます。

注意： このダイアログボックスでのカラーポップアップメニューは、注釈やトラックされた変更を識別するために使用します。必要であればここでカラーを選択できますが、管理ワークフローでの処理にはまったく影響がありません。

ページの先頭へ

ワークフローアイコン

アイコンは、テキストフレームとグラフィックフレーム、アサインパネル、ストーリーバー（InCopy のみ）に表示されます。編集ステータスアイコンは、リンクパネルとアサインパネルで、管理されているファイルの横に表示され、コンテンツのステータスを示します。アイコンは、（InDesign と InCopy の両方のレイアウトビュー内の）リンクされた InCopy ストーリーを含むフレームに表示されます。これらのアイコンは、コンテンツのステータスも示しており、管理されているコンテンツと管理されていないコンテンツを区別するためにも使用できます。関連付けられているツールヒントは、編集状況と所有者を示します。フレームアイコンを表示するには、InDesign と InCopy でフレーム枠を表示するように設定している必要があります（表示／エクストラ／フレーム枠を表示）。

注意： *InDesign* でフレーム枠を表示するには、*InDesign* ドキュメントウィンドウを「標準モード」で表示します（ツールパネルの左下にある標準モードボタン をクリックします）。

アイコン	名称	表示される場所
	使用可能	アサインパネル（InDesign と InCopy）、テキストフ
	*[ユーザー]* が使用中	アサインパネル、テキストフレーム、グラフィックフ

	編集中	アサインパネル、テキストフレーム、グラフィックフ
	使用可能と更新が必要	テキストフレーム、グラフィックフレーム
	*[ユーザー]* が使用中と更新が必要	テキストフレーム、グラフィックフレーム
	編集中と更新が必要	テキストフレーム、グラフィックフレーム
	期間切れ	アサインパネル
	内容（テキスト）は更新が必要	アサインパネル、テキストフレーム
	内容（テキスト）は最新	アサインパネル、テキストフレーム
	内容（グラフィック）は更新が必要	アサインパネル、グラフィックフレーム
	内容（グラフィック）は最新	アサインパネル、グラフィックフレーム
	パッケージされた内容	アサインパネル

注意： 「使用可能」、「使用中」、「編集中」、「内容（テキスト）」および内容（グラフィック）」の各アイコンに期限切れアイコンが重ねて表示されている場合は、そのコンテンツが期限切れであることを示します。すなわち、現在画面上に表示しているコンテンツより、ファイルの方がバージョンが新しいことを示しています。

関連項目

- 単独ドキュメントの操作
- 注釈の使用

(cc) BY-NC-SR Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

ワークスペースの基本

ワークスペースの概要
ウィンドウとパネルの管理
ワークスペースの保存と切り替え
表示モードについて
ステータスバーの使用
コントロールパネルの概要
ナビゲーターパネルについて
コンテキストメニューの使用
インターフェイスの環境設定の変更

詳しくは以下のリンクをクリックしてください。

ページの先頭へ

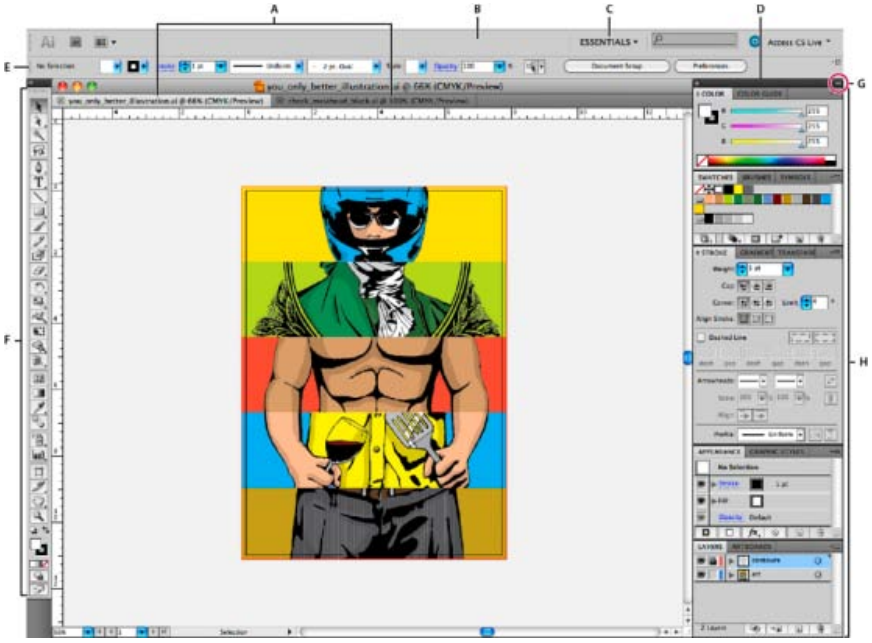
ワークスペースの概要

ドキュメントとファイルの作成および操作では、パネル、バー、ウィンドウなどの様々な要素を使用します。これらの要素の構成を、ワークスペースと呼びます。 Adobe® Creative Suite® 5 の様々なアプリケーションのワークスペースは外観が共通しているので、容易にアプリケーションを切り替えて使用できます。プリセットされたワークスペースから選択するか、独自のワークスペースを作成することによって、作業方法に合わせて各アプリケーションを使用することもできます。

製品によって初期設定のワークスペースは異なりますが、その構成要素の操作方法は同じです。

- 上部のアプリケーションバーには、ワークスペースの切り替えコントロール、メニュー（Windows のみ）およびその他のアプリケーションコントロールが表示されます。Mac OS 版の製品には、ウィンドウメニューを使用して表示 / 非表示を切り替えるものがあります。
- ツールパネルには、画像、アートワーク、ページエレメントなどの作成と編集に使用するツールが用意されています。関連性のあるツールはグループにまとめられています。
- コントロールパネルには、現在選択しているツールで使用できるオプションが表示されますIllustrator のコントロールパネルには、現在選択しているオブジェクトで使用できるオプションが表示されます（Adobe Photoshop® では、これはオプションバーと呼ばれます。Adobe Flash®、Adobe Dreamweaver® および Adobe Fireworks® では、これはプロパティインスペクターと呼ばれ、現在選択しているエレメントのプロパティも含みます）。
- ドキュメントウィンドウには、作業中のファイルが表示されます。ドキュメントウィンドウはタブ表示したり、場合によっては、グループ化およびドッキングしたりすることもできます。
- パネルは、作業中のファイルの変更や確認に使用されます。例えば、Flash のタイムラインパネル、Illustrator のブラシパネル、Adobe Photoshop® のレイヤーパネル、Dreamweaver の CSS スタイルパネルなどがあります。複数のパネルをグループ化、スタック表示またはドッキングすることもできます。
- アプリケーションフレームを使用すると、すべてのワークスペース要素をグループ化して、1 つの統合ウィンドウ上に表示し、アプリケーション全体を一体のユニットとして扱うことができます。アプリケーションフレームやその中の要素を移動またはサイズ変更すると、すべての要素がそれに応じて変化し、重なり合うことのないよう調整されます。アプリケーションを切り替えたり、誤ってアプリケーションの外をクリックしたりしても、パネルは表示され続けます。複数のアプリケーションを並行して使用する場合は、同じスクリーン上や別々のモニター上にアプリケーションを並べて配置できます。

  Mac OS で、従来と同じ自由形式のユーザーインターフェイスを使用する場合は、アプリケーションフレームをオフにすることもできます。この切り替えを行うには、例えば Adobe Illustrator® でウィンドウ／アプリケーションフレームを選択します（Mac OS の場合、Flash では常にアプリケーションフレームが表示され、Dreamweaver ではアプリケーションフレームは使用されません）。



Illustrator の初期設定のワークスペース

A. タブ付きドキュメントウィンドウ ***B.*** アプリケーションバー ***C.*** ワークスペース切り替えコントロール ***D.*** パネルタイトルバー ***E.*** コントロールパネル ***F.*** ツールパネル ***G.*** アイコンパネル化ボタン ***H.*** 縦方向にドッキングした *4* つのパネルグループ

すべてのパネルの非表示または表示

- （Illustrator、Adobe InCopy®、Adobe InDesign®、Photoshop、Fireworks）ツールパネルとコントロールパネルも含め、すべてのパネルの表示と非表示を切り替えるには、Tab キーを押します。
- （Illustrator、InCopy、InDesign、Photoshop）ツールパネルとコントロールパネルを除く、すべてのパネルの表示と非表示を切り替えるには、Shift+Tab キーを押します。

  環境設定の「インターフェイス」で「非表示パネルを自動表示」が選択されている場合、非表示のパネルを一時的に表示できます。*Illustrator* では常に表示されています。ポインターをアプリケーションウィンドウの端（*Windows*®）またはモニターの端（*Mac OS*®）に移動し、表示されるバーにポインターを重ねます。

- （Flash、Dreamweaver、Fireworks）パネルの表示と非表示を切り替えるには、F4 キーを押します。

パネルオプションの表示

- パネルの右上にあるパネルメニューアイコン をクリックします。

  パネルを最小化した状態でも、パネルメニューを開くことができます。

  Photoshop では、パネルおよびツールヒントのテキストのフォントサイズを変更できます。インターフェイス環境設定で、*UI* のフォントサイズメニューからサイズを選択します。

（**Illustrator**）パネルの明るさの調整

- ユーザーインターフェイス環境設定で、明るさスライダーを操作します。このスライダーの操作では、コントロールパネルも含め、すべてのパネルの明るさが変化します。

ツールパネルの再設定

ツールパネルのツール類は、1 列表示または 2 列に並べた表示が可能です（この機能は、Fireworks と Flash のツールパネルでは使用できません）。

InDesign および *InCopy* では、インターフェイス環境設定のオプションを設定して *1* 列表示から *2* 列表示（または *1* 行表示）に切り替えることもできます。

- ツールパネル上端の二重矢印をクリックします。

ページの先頭へ

ウィンドウとパネルの管理

ドキュメントウィンドウとパネルを移動および操作することによって、カスタムワークスペースを作成できます。複数のカスタムワークスペースを保存し、それらを切り替えて使用することもできます。Fireworks でカスタムワークスペースの名前を変更すると、予期しない動作が発生することがあります。

注意： 次の例は *Photoshop* の場合です。ワークスペースの動作は、すべての製品で同じです。

ドキュメントウィンドウの並べ替え、ドッキングまたはフローティング

複数のファイルを開くと、ドキュメントウィンドウはタブ付きで表示されます。

- タブ付きドキュメントウィンドウの順序を変更するには、ウィンドウのタブをグループ内の新しい位置にドラッグします。
- ドキュメントウィンドウをウィンドウのグループからドッキング解除（フローティングまたはタブ解除）するには、ウィンドウのタブをグループの外にドラッグします。

注意： *Photoshop* では、ウィンドウ／アレンジ／ウィンドウを分離を選択して *1* つのドキュメントウィンドウをフローティング表示することも、ウィンドウ／アレンジ／すべてのウィンドウを分離を選択してすべてのドキュメントウィンドウを一度にフローティング表示することもできます。詳しくは、*kb405298* （英語）を参照してください。

注意： *Dreamweaver* では、ドキュメントウィンドウのドッキングとドッキング解除はサポートされていません。ドキュメントウィンドウの最小化ボタンを使用してフローティングウィンドウを作成するか（*Windows*）、ウィンドウ／左右に並べて表示を選択して、ドキュメントウィンドウを並べて表示します。このトピックについて詳しくは、*Dreamweaver* ヘルプで「左右に並べて表示」を検索してください。*Macintosh* ユーザーの場合は、ワークフローが若干異なります。

- ドキュメントウィンドウを別のドキュメントウィンドウのグループにドッキングするには、ウィンドウをグループにドラッグします。
- 重ねて表示または並べて表示されたドキュメントのグループを作成するには、ウィンドウを別のウィンドウの上下左右にあるドロップゾーンのいずれかにウィンドウをドラッグします。アプリケーションバーのドキュメントレイアウトボタンを使用して、グループのレイアウトを選択することもできます。

注意： 一部の製品では、この機能はサポートされていません。ただし、アプリケーションのウィンドウメニューに「重ねて表示」コマンドや「並べて表示」コマンドがある場合は、ドキュメントのレイアウトに利用できます。

- タブ付きグループ内で選択項目を別のドキュメントに移動する場合は、選択項目を移動先のドキュメントのタブ上にドラッグしたままにしておきます。しばらくすると、ドキュメントが切り替わります。

注意： 一部の製品では、この機能はサポートされていません。

パネルのドッキングとドッキング解除

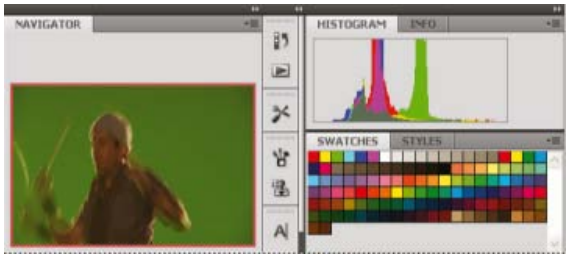
ドックとは、複数のパネルまたはパネルグループの集合で、通常は縦方向に並べて表示されます。パネルのドッキングとドッキング解除は、パネルをドックの外側や内側に移動することによって行います。

- パネルをドッキングするには、そのタブをドックの上部、下部または他のパネルの間にドラッグします。
- パネルグループをドッキングするには、そのタイトルバー（タブの上にある、何も記述されていない単一色のバー）をドックにドラッグします。

- パネルまたはパネルグループをドックから解除するには、そのタブまたはタイトルバーをドックの外にドラッグします。そのまま他のドックにドラッグできるほか、ドッキングせずにフローティング状態にしておくこともできます。



ナビゲーターパネルをドックにドラッグして青いハイライトのドロップゾーンを表示させる



ドッキングしたナビゲーターパネル

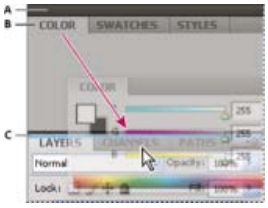
ドック内のすべての領域がパネルで占有されないようにするには、ドックの下端を上にドラッグして、ワークスペースの端と重ならないようします。

パネルの移動

パネルを移動すると、移動可能な位置に青色でハイライトされたドロップゾーンが表示されます。例えば、ドックの内部でパネルを上下に移動して他のパネルの上または下に表示される細い青色のドロップゾーンまでドラッグすることで、ドック内部でのパネル位置を変更できます。ドロップゾーンではない位置にドラッグすると、パネルはワークスペースの中でフローティング状態になります。

注意： ドロップゾーンを有効にするのは、パネルの位置ではなく、マウスの位置です。ドロップゾーンが表示されない場合は、ドロップゾーンが表示されるはずの場所にマウスをドラッグしてみてください。

- パネルを移動するには、そのタブをドラッグします。
- パネルグループを移動するには、タイトルバーをドラッグします。



青色の細いドロップゾーンは、カラーパネルが単独でレイヤーパネルグループの上にドッキングされることを示します。

A. タイトルバー ***B.*** タブ ***C.*** ドロップゾーン

移動中のパネルがドッキングされないようにするには、移動中に *Ctrl* キー（*Windows*）または *Command* キー（*Mac OS*）を押します。操作を途中でキャンセルするには、*Esc* キーを押します。

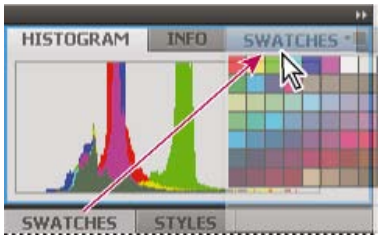
パネルの追加と削除

ドックにあるパネルをすべて削除すると、そのドックはなくなります。ドロップゾーンが表示されるまでパネルをワークスペースの右端に移動すると、ドックを作成できます。

- パネルを削除するには、パネルのタブを右クリック（Windows）または Control キーを押しながらクリック（Mac OS）して「閉じる」を選択するか、ウィンドウメニューでパネルの選択を解除します。
- パネルを追加するには、ウィンドウメニューでそのパネルを選択し、目的の場所にドッキングします。

パネルグループの操作

- パネルをグループに移動するには、グループ内のハイライトされたドロップゾーンにそのパネルのタブをドラッグします。



パネルグループへのパネルの追加

- グループの中でパネルを並べ替えるには、パネルのタブをグループ内の新しい場所までドラッグします。
- パネルをグループから解除してフローティング状態にするには、そのパネルのタブをグループ外部にドラッグします。
- グループを移動するには、タイトルバー（タブの上にある部分）をドラッグします。

フローティングパネルのスタック

ドック外部のドロップゾーン以外の場所にパネルをドラッグすると、そのパネルはフローティング状態になります。フローティングパネルはワークスペース内のどこにでも配置できます。フローティング状態のパネルまたはパネルグループをまとめてスタックすると、最前面のタイトルバーをドラッグしたときに全体を 1 つの単位として移動できます。



フローティング状態でスタックしたパネル

- フローティングパネルをスタックするには、そのタブを他のパネルの下端にあるドロップゾーンまでドラッグします。
- スタック順を変更するには、パネルのタブを前面方向または背面方向にドラッグします。

注意： このとき、タブを置く位置は、タイトルバーにある幅の広いドロップゾーンではなく、パネルとパネルの間にある幅の狭いドロップゾーンです。

- パネルまたはパネルグループをスタックから解除してフローティング状態にするには、そのタブまたはタブ領域（タブの横にある空の領域）あるいはタイトルバーをスタックの外にドラッグします。

パネルのサイズ変更

- パネル、パネルグループ、パネルのスタックを最小化または最大化するには、タブをダブルクリックするか、タブ領域（タブの横にある空の領域）をダブルクリックします。
- パネルのサイズを変更するには、パネルのいずれかの側をドラッグします。Photoshop のカラーパネルのように、ドラッグしてもサイズ変更できないパネルもあります。

パネルのアイコン化と展開

雑然としたワークスペースにならないように、パネルをアイコン化できます（あらかじめ用意されたワークスペースには、パネルが最初からアイコン化されているものもあります）。



アイコン化したパネル



アイコンから展開したパネル

- 列にあるすべてのパネルをアイコン化または展開するには、ドックの上端にある二重矢印をクリックします。
- 単独のパネルを展開するには、そのアイコンをクリックします。
- パネルアイコンのサイズを変更し、ラベルがないアイコンのみの表示にするには、テキストが表示されなくなるまでドックの幅を調整します。アイコンのテキストを再表示するには、ドックの幅を広くします。
- 展開したパネルを閉じるには、パネルのタブ、パネルのアイコンまたはパネルのタイトルバーにある二重矢印をクリックします。

  一部の製品では、インターフェイス環境設定またはユーザーインターフェイス環境設定で「自動的にアイコンパネル化」を選択している場合、展開したパネルの外側をクリックすると自動的にパネルが閉じられます。

- アイコンのドックにフローティングパネルまたはパネルグループを追加するには、そのパネルのタブまたはパネルグループのタイトルバーあるいはタブ領域をドックにドラッグします（アイコンで表示されているドックに追加したパネルは、自動的にアイコン化されます）。
- パネルアイコンまたはパネルアイコンのグループを移動するには、アイコンをドラッグします。パネルアイコンは、ドック内では上下にドラッグできます。他のドックへとドラッグして移動すると、ドラッグ先のドックのパネルスタイルで表示されるようになります。また、ドラッグしてドックの外に出すと、アイコンのままフローティング状態になります。

ページの先頭へ

ワークスペースの保存と切り替え

現在のパネルのサイズと位置を名前の付いたワークスペースとして保存しておくと、パネルを移動したり閉じたりした後でも、そのワークスペースを呼び出すことができます。 保存したワークスペースの名前は、アプリケーションバーのワークスペース切り替えコントロールに表示されます。

カスタムワークスペースの保存

1. 保存する設定のワークスペースで、以下のいずれかの手順に従います。
   - （Illustrator）ウィンドウ／ワークスペース／ワークスペースを保存を選択します。
   - （Photoshop、InDesign、InCopy）ウィンドウ／ワークスペース／新規ワークスペースを選択します。
   - （Dreamweaver）ウィンドウ／ワークスペースのレイアウト／新規ワークスペースを選択します。

- （Flash）アプリケーションバーのワークスペース切り替えコントロールから「新規ワークスペース」を選択します。
- （Fireworks）アプリケーションバーのワークスペース切り替えコントロールから「現在のレイアウトを保存」を選択します。

2. ワークスペースの名前を入力します。
3. （Photoshop、InDesign）「キャプチャ」で、以下のオプションを選択します（複数選択可）。

   パネルの位置 現在のパネルの位置を保存します（InDesign のみ）。

   ショートカットキー 現在のショートカットキーのセットを保存します（Photoshop のみ）。

   メニューまたはメニューのカスタマイズ 現在のメニューのセットを保存します。

ワークスペースの表示と切り替え

- アプリケーションバーのワークスペース切り替えコントロールから、ワークスペースを選択します。

  Photoshop では、各ワークスペースにショートカットキーを割り当てて、ワークスペースを容易に切り替えることができます。

カスタムワークスペースの削除

- アプリケーションバーのワークスペース切り替えコントロールから「ワークスペースの管理」を選択し、ワークスペースを選択した後、削除あるいはワークスペースを削除アイコンをクリックします（このオプションは Fireworks では使用できません）。
- （Photoshop、InDesign、InCopy）ワークスペース切り替えコントロールから「ワークスペースを削除」を選択し、ワークスペースを選択した後、「削除」をクリックします。
- （Illustrator）ウィンドウ／ワークスペース／ワークスペースの管理を選択し、ワークスペースを選択した後、削除アイコンをクリックします。
- （Photoshop、InDesign）ウィンドウ／ワークスペース／ワークスペースを削除を選択し、ワークスペースを選択した後、「削除」をクリックします。

初期設定のワークスペースの復元

1. アプリケーションバーのワークスペース切り替えコントロールから、「初期設定」または「標準」のワークスペースを選択します。Fireworks の場合は、http://www.adobe.com/jp/devnet/fireworks/articles/workspace_manager_panel.html の記事（英語）を参照してください。

   注意： *Dreamweaver* では、初期設定のワークスペースは「デザイナー」です。

2. Fireworks（Windows）の場合は、次のフォルダーを削除します。

   Windows Vista

   ¥¥Users¥<username>¥AppData¥Roaming¥Adobe¥Fireworks CS4¥

   Windows XP

   ¥¥Documents and Settings¥<username>¥Application Data¥Adobe¥Fireworks CS4

3. （Photoshop、InDesign、InCopy）ウィンドウ／ワークスペース／*[ワークスペース名]* をリセットを選択します。

（Photoshop）保存されているワークスペースの構成の復元

Photoshop では、ワークスペースは自動的に前回の構成で表示されますが、保存されている最初のパネル構成を復元できます。

- 個々のワークスペースを復元するには、ウィンドウ／ワークスペース／ワークスペース名 をリセットを選択します。

- Photoshop でインストールされているすべてのワークスペースを復元するには、環境設定の「インターフェイス」で「初期設定のワークスペースに戻す」をクリックします。

アプリケーションバーのワークスペースの順序を変更するには、そのワークスペースをドラッグします。

ページの先頭へ

表示モードについて

ツールパネルの下部の「モード」ボタンを使用するか、表示／スクリーンモードのメニューからコマンドを選択すると、ドキュメントウィンドウの表示を変更できます。ツールパネルが 1 列に表示されている場合は、現在の「モード」ボタンをクリックし、表示されるメニューから別のモードを選択すると、表示モードを変更できます。

標準モード　表示可能なグリッドとガイドがすべて表示された状態の標準ウィンドウにアートワークと、白のペーストボードが表示されます。



プレビューモード　出力した場合と同じ状態でアートワークを表示し、印刷対象外の要素（グリッド、ガイド、非表示のオブジェクト）は表示されません。また、ペーストボードは環境設定で定義した背景プレビュー色で表示されます。

裁ち落としモード　出力した場合と同じ状態でアートワークを表示し、印刷対象外の要素（グリッド、ガイド、非表示のオブジェクト）は表示されません。また、ペーストボードは環境設定で定義した背景プレビュー色で表示され、ドキュメントの裁ち落とし領域（ドキュメント設定で定義）内の印刷対象の要素も表示されます。



印刷可能領域モード　出力した場合と同じ状態でアートワークを表示し、印刷対象外の要素（グリッド、ガイド、非表示のオブジェクト）は表示されません。また、ペーストボードは環境設定で定義した背景プレビュー色で表示され、ドキュメントの印刷可能領域（ドキュメント設定で定義）内の印刷対象の要素も表示されます。



プレゼンテーションモード　アートワークをスライドショープレゼンテーションのように表示します。メニュー、パネル、ツールは表示されません。詳しくは、プレゼンテーションモードの使用を参照してください。



ページの先頭へ

ステータスバーの使用

ステータスバー（ドキュメントウィンドウの左下）には、ファイルのステータスに関する情報が表示され、別のページに表示を切り替えることができます。次の操作を実行する場合は、ステータスバーメニューをクリックします。

- 「エクスプローラーで表示」（Windows®）または「Finder で表示」（Mac OS®）を選択して、ファイルシステム中の現在のファイルを表示する場合。
- 「Bridge で表示」を選択して、Adobe® Bridge® で現在のファイルを表示する場合。
- 「Mini Bridge で表示」を選択して、Adobe Mini Bridge で現在のファイルを表示する場合。

Mac OS では、アプリケーションバーを隠す（ウィンドウ／アプリケーションバー）ことによって、ステータスバーにズーム倍率を表示できます。*Windows* では、アプリケーションバーを隠すことはできません。

ページの先頭へ

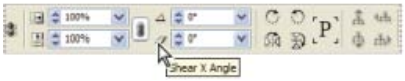
コントロールパネルの概要

コントロールパネル（ウィンドウ／コントロール）を使用すると、現在選択されているページアイテムやオブジェクトに関連するオプションやコマンド、他のパネルにすばやくアクセスすることができます。初期設定でコントロールパネルは、ドキュメントウィンドウの上部に結合していますが、ウィンドウの下部に結合したり、フローティングパネルに変換、または隠すことも可能です。

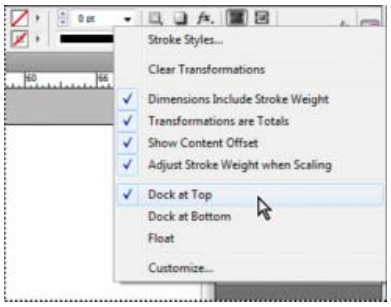
コントロールパネルに表示される設定値やオプションは、選択するオブジェクトによって異なります。

- フレームを選択すると、コントロールパネルにはフレームのサイズ変更、再配置、傾斜および回転を行うためのオプションと、オブジェクトスタイルの適用に使用するオプションが表示されます。
- フレームの中のテキストを選択すると、コントロールパネルには文字または段落のオプションが表示されます。段落と文字のどちらのオプションを表示するかを指定するには、コントロールパネルの左側にある段落および文字のアイコンをクリックします。モニターのサイズと解像度に応じて、コントロールパネルに表示されるオプションが増えます。例えば、文字アイコンを選択すると、すべての文字オプションに加え、段落オプションの一部がコントロールパネルの右側に表示されます。段落アイコンをクリックすると、すべての段落オプションに加え、文字オプションの一部が右側に表示されます。
- 表のセルを選択すると、コントロールパネルには、行と列のサイズ調整、セル結合および線の追加を行うためのオプションが表示されます。

コントロールパネルに表示されているアイコンやオプション名の上にマウスポインターを置くと、ツールヒントとして簡単な情報が表示されます。



コントロールパネルに表示されたツールヒント



コントロールパネルメニュー

コントロールパネルアイコンに関連付けられたダイアログボックスを開くには、コントロールパネルアイコンをクリックするときに、Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押しながらクリックします。例えば、フレームが選択されているときに、Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押しながら回転角度アイコン をクリックすると、回転ダイアログボックスが開きます。

パネルメニューの表示

- コントロールパネルの右側にある三角形のアイコン　をクリックします。

コントロールパネルの結合またはフロート

- 次のいずれかの操作を行います。
  - コントロールパネルがアプリケーションウィンドウ（Windows）またはデスクトップ（Mac OS）の上部または下部に結合されるまで、コントロールパネルの左側の垂直バーをドラッグします。
  - コントロールパネルメニューから「上部で結合」、「下部で結合」、または「フロート」を選択します。

コントロールパネルのカスタマイズ

1. コントロールパネルの右側にあるコントロールパネルメニューから「カスタマイズ」を選択します。
2. 表示するオプションまたは隠すオプションを指定し、「OK」をクリックします。

ページの先頭へ

ナビゲーターパネルについて

以前のバージョンの InDesign を使い慣れている場合は、ナビゲーターパネルが見つからないので戸惑うかもしれません。InDesign CS5 にはナビゲーターパネルはありません。ナビゲーターパネルは、実質的に、パワーズーム機能に置き換えられました。詳しくは、パワーズームの使用を参照してください。

ページの先頭へ

コンテキストメニューの使用

画面上部に表示されるメニューとは異なり、コンテキストメニューには、使用中のツールや選択に関連するコマンドが表示されます。コンテキストメニューを使用すると、よく使うコマンドをすばやく選択することができます。

1. ドキュメント、オブジェクト、またはパネル上にポインターを置きます。
2. マウスの右ボタンをクリックします。

注意： *Mac OS* で、*2* ボタンマウスを使用していない場合、コンテキストメニューを表示するには、*Control* キーを押しながらマウスボタンをクリックしてください。

ページの先頭へ

インターフェイスの環境設定の変更

1. 編集／環境設定／インターフェイス（Windows）または InDesign／環境設定／インターフェイス（Mac OS）を選択します。
2. 希望の設定を選択して、「OK」をクリックします。

ツールヒントの表示速度 ツールヒントは、ツールパネルのツールやコントロールパネルのオプションなどのインターフェイスアイテム上でマウスポインターを置き続けたときに表示されます。「なし」を選択すると、ツールヒントの表示がオフになります。

配置カーソルをサムネールで表示 グラフィックを配置すると、グラフィック配置アイコンに画像のサムネールが表示されます。同様に、グラフィック配置アイコンに最初から数行のテキストのサムネールが表示されます。グラフィックやテキストを配置するときにサムネールを表示しない場合にはこのオプションの選択を解除します。

変形値を表示 オブジェクトの作成、サイズ変更、回転を行うと、カーソルに X、Y 座標、幅と高さ、回転情報が表示されます。

マルチタッチジェスチャーを有効にする このオプションを選択すると、Windows および Mac OS のマルチタッチマウスジェスチャーを InDesign で使用できるようになります。例えば、Mac OS で Magic Mouse を使用している場合、マウス表面を縦横になぞるジェスチャーは上下スクロールと前後のページまたはスプレッドへの移動を意味し、回転のジェスチャーはスプレッドの回転を意味します。

選択ツールの下にあるオブジェクトをハイライト このオプションを選択すると、ダイレクト選択ツールがオブジェクトの上を通過したときに、オブジェクトのフレーム枠がハイライトされます。

フローティングツールパネル ツールパネルの表示を縦 1 列 (縦長パネル)、縦 2 列（アドビ標準パネル）、横 1 列 (横長パネル) のいずれかに指定します。

自動的にアイコンパネル化 このオプションを選択すると、ドキュメントウィンドウをクリックしたときに、開いているパネルが自動的に閉じます。

非表示のパネルを自動表示 Tab キーを押してパネルを非表示にしているとき、このオプションを選択した場合は、ドキュメントウィンドウの端にマウスポインターを置き続けると、一時的にパネルが表示されます。このオプションを選択していない場合、パネルを表示するにはもう一度 Tab キーを押します。

ドキュメントをタブで開く このオプションの選択を解除すると、作成または開いたドキュメントは、タブ付きウィンドウではなくフローティングウィンドウとして表示されます。

フローティングドキュメントウィンドウの結合を有効にする このオプションを選択すると、フローティングドキュメントウィンドウ同士を結合してタブ付きウィンドウにすることができます。選択を解除すると、Ctrl キー（Windows）または Command キー（Mac OS）を押しながらドラッグした場合のみフローティングドキュメントウィンドウ同士を結合できます。結合するときは、ドラッグを開始してからキーを押してください。

手のひらツール ドキュメントのスクロール時にテキストと画像のグリーキングを行うかどうかを制御するには、必要に応じた画質・パフォーマンスレベルをスライダーで指定します。

ライブスクリーン描画 オブジェクトのドラッグ操作中に画像を再描画するかどうかをオプションで指定します。「即時」を選択した場合、ドラッグ中に画像が再描画されます。「なし」を選択した場合、画像のドラッグ中はフレームのみ描画され、マウスボタンを放してから画像が移動先に描画されます。「延期」を選択した場合、ドラッグを開始する前にしばらくクリックしたままにしたときのみ画像が再描画されます。「延期」は InDesign CS4 における動作と同じです。

関連項目

(cc) BY-NC-SR Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

デフォルトショートカットキー

インタラクティブショートカットガイド
ツールに関するショートカットキー
オブジェクトの選択時と移動時に使用するキー
オプジェクトの変形時に使用するキー
パスとフレームの編集に関するショートカット
表に関するショートカットキー
テキストの検索と変更に関するショートカットキー
文字に関するショートカットキー
テキスト内の移動とテキストの選択に関するショートカットキー
ドキュメントの表示およびワークスペースに関するショートカットキー
XML に関するショートカットキー
索引に関するショートカットキー
パネルに関するショートカットキー
コントロールパネルのショートカットキー
文字入力のパネルとダイアログボックスに関するショートカットキー
文字スタイルと段落スタイルに関するショートカットキー
タブパネルに関するショートカットキー
レイヤーパネルのショートカットキー
ページパネルに関するショートカットキー
カラーパネルのショートカットキー
分版パネルに関するショートカットキー
スウォッチパネルのショートカットキー
変形パネルの操作時に使用するキー
Mac OS 10.3x と 10.4 間のコンフリクトを解決するショートカットキー

Adobe InDesign CS5 では、マウスを使用せずすばやく作業できるようにショートカットキーが用意されています。ショートカットキーの多くはメニューのコマンド名の隣に表示されます。InDesign のデフォルトのショートカットセット、QuarkXPress 3.3J または QuarkXPress 4.0J、または JIS キーボード用、独自に作成したショートカットセットを使用することができます。また、同じプラットフォームの InDesign であれば、他の作業者とショートカットセットを共用することも可能です。

InDesign では、マウスを使用せずすばやく作業できるようにショートカットキーが用意されています。ショートカットキーの多くはメニューのコマンド名の隣に表示されます。InDesign のデフォルトのショートカットセットを使用しても、自分で作成したショートカットセットを使用しても構いません。また、同じプラットフォームの InDesign であれば、他の作業者とショートカットセットを共用することも可能です。

ページの先頭へ

インタラクティブショートカットガイド



簡単にショートカットを検索できるインタラクティブなショートカットガイドです（英語）。オンラインで表示することも、AIR アプリケーションとしてダウンロードすることもできます。... 詳細

http://goo.gl/80wvo



提供者 **Marijan Tompa**
http://tomaxxi.com/

専門知識を投稿：
Adobe Community Help

ページの先頭へ

ツールに関するショートカットキー

キーボードショートカットダイアログボックスの「セット表示」を選択すると、現在のキーボードセットのリストを生成できます。このオプションはカスタムショートカットのコピーをプリントする際に便利です。

この表は、すべてのショートカットキーの一覧ではありません。メニューコマンドやツールヒントに表示されないショートカットのみを一覧表示しています。

ウィンドウ／ユーティリティ／ツールヒントを選択し、ショートカットや修飾キーの情報を参照したいツールを選択します。

ツール	**Windows**	**Mac OS**
選択ツール	V、Esc	V、Esc
ダイレクト選択ツール	A	A
選択ツールとダイレクト選択ツールの切り替え	Ctrl+Alt+Tab	Command+Control+Tab
ページツール	Shift+P	Shift+P
間隔ツール	U	U
ペンツール	P	P
アンカーポイントを追加ツール	=	=
アンカーポイントを追加ツール	=	=（テンキーパッド）
アンカーポイントを削除ツール	-	-
アンカーポイントを削除ツール		-
アンカーポイントの切り替えツール	Shift+C	Shift+C
文字ツール	T	T
パス上文字ツール	Shift+T	Shift+T
鉛筆ツール	N	N
線ツール	\	\
長方形フレームツール	F	F
長方形ツール	M	M
楕円形ツール	L	L
回転ツール	R	R
拡大／縮小ツール	S	S
シアーツール	O	O
自由変形ツール	E	E
スポイトツール	I	I
ものさしツール	K	K
グラデーションスウォッチツール	G	G
はさみツール	C	C
手のひらツール	H	H
一時的に手のひらツールを選択	スペースバー（レイアウトモード）、Alt（テキストモード）または Alt+スペースバー（両方）	Option（両方）テキス

ズームツール	Z	Z
一時的にズームインツールを選択	Ctrl+ スペースバー	Command+ スペースバー
塗りと線の切り替え	X	X
塗りと線を入れ替え	Shift+X	Shift+X
テキストとオブジェクト間でフォーマットの対象を切り替え		J
カラーを適用	コンマ（,）	コンマ（,）
グラデーションを適用	ピリオド （.）	ピリオド （.）
カラー適用なし	/	/
標準モードとプレビューモードの切り替え	W	W
横組みグリッドツール	Y	Y
縦組みグリッドツール	Q	Q
グラデーションぼかしツール	Shift+G	Shift+G

ページの先頭へ

オブジェクトの選択時と移動時に使用するキー

この表は、すべてのショートカットキーの一覧ではありません。メニューコマンドやツールヒントに表示されないショートカットのみを一覧表示しています。

結果	Windows	Mac OS
（最後に選択した）選択ツールまたはダイレクト選択ツールを一時的に選択	（選択ツール以外の）任意のツール +Ctrl	（選択ツール以外の）任意のツール +Command
グループ選択ツールを一時的に選択	ダイレクト選択ツール +Alt、ペン、アンカーポイントを追加ツールまたはアンカーポイントを削除ツール+	
選択した内容を含んでいるコンテナを選択	Esc またはダブルクリック	Esc またはダブルクリック
選択したコンテナの内容を選択	Shift+Esc またはダブルクリック	Shift+Esc またはダブルクリック
複数のオブジェクトの選択範囲に追加／選択範囲から除外	選択、ダイレクト選択またはグループ選択ツール +Shift を押しながらクリック	選択、ダイレクト選択またはグループ選択ツール +Command を押しながらクリック
選択範囲の複製	選択、ダイレクト選択またはグループ選択ツール +Alt を押しながらドラッグ	選択、ダイレクト選択またはグループ選択ツール +Option を押しながらドラッグ
選択範囲を複製してずらす	Alt+ 左向き矢印、右向き矢印、上向き矢印または下向き矢印	Option+ 左向き矢印、右向き矢印、上向き矢印または下向き矢印
選択範囲を複製して 10 倍単位でずらす**	Alt+Shift+ 左向き矢印、右向き矢印、上向き矢印または下向き矢印	Option+Shift+ 左向き矢印、右向き矢印、上向き矢印または下向き矢印
選択範囲をずらす**	左向き矢印、右向き矢印、上向き矢印または下向き矢印	左向き矢印、右向き矢印、上向き矢印または下向き矢印
選択範囲を 1/10 倍単位でずらす**	Ctrl+Shift+ 左向き矢印、右向き矢印、上向き矢印または下向き矢印	Command+Shift+ 左向き矢印、右向き矢印、上向き矢印または下向き矢印
選択範囲を 10 倍単位でずらす**	Shift+ 左向き矢印、右向き矢印、上向き矢印または下向き矢印	Shift+ 左向き矢印、右向き矢印、上向き矢印または下向き矢印
ドキュメントページからマスターページアイテムを選択／分離	選択ツールまたはダイレクト選択ツール +Ctrl+Shift を押しながらクリック	選択ツールまたはダイレクト選択ツール +Command+Shift を押しながらクリック
背面または前面にある次のオブジェクトの選択	選択ツール +Ctrl を押しながらクリックまたは選択ツール +Ctrl を押しながらクリック	選択ツール +Command を押しながらクリックまたは選択ツール +Command を押しながらクリック
ストーリー内の次または前のフレームの選択	Alt+Ctrl+Page Down または Alt+Ctrl+Page Up	Option+Command+Page Down または Option+Command+Page Up

ストーリー内の先頭または最後のフレームの選択	Shift+Alt+Ctrl+Page Up または Shift+Alt+Ctrl+Page Down	Shift+Option+Command+Page Up または Shift+Op
*45 度単位で移動するには Shift キーを押します。 **数値は編集／環境設定／単位と増減値（Windows）または InDesign／環境設定／単位と増減値（Mac OS）で設定します。		

ページの先頭へ

オプジェクトの変形時に使用するキー

この表は、すべてのショートカットキーの一覧ではありません。メニューコマンドやツールヒントに表示されないショートカットのみを一覧表示しています。

結果	Windows	Mac OS
選択範囲を複製して変形	変形ツール +Alt を押しながらドラッグ*	変形ツール +Option を押しながらドラッグ*
変形ツールのダイアログボックスの表示	オブジェクトを選択し、ツールパネルの拡大／縮小ツールを選択してから	オブジェクトを選択し、ツールパネルの拡大／縮小ツール
1% 比率減少	Ctrl+,	Command+,
5% 比率減少	Ctrl+Alt+,	Command+Option+,
1% 比率増加	Ctrl+.	Command+.
5% 比率増加	Ctrl+Alt+.	Command+Option+.
フレームと内容サイズの変更	選択ツール +Ctrl を押しながらドラッグ	選択ツール +Command を押しながらドラッグ
フレームと内容のサイズを縦横比を維持したまま変更	選択ツール +Shift+Ctrl を押しながらドラッグ	選択ツール +Shift+Command を押しながらドラッグ
縦横同サイズの維持	楕円形ツール、多角形ツールまたは長方形ツール	楕円形ツールを押したまま多角形ツールまたは長方形ツール +Sh
画像表示を高速表示に切り替え	Ctrl+Alt+Shift+Z	Command+Option+Shift+Z
*変形ツールを選択し、マウスボタンを押してから Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押しながらドラッグ。45 度単位で移動す		

ページの先頭へ

パスとフレームの編集に関するショートカット

この表は、すべてのショートカットキーの一覧ではありません。メニューコマンドやツールヒントに表示されないショートカットのみを一覧表示しています。

結果	Windows	Mac OS
一時的にアンカーポイントの切り替えツールを選択	ダイレクト選択ツール +Alt+Ctrl またはペンツール +Alt	ダイレクト選択ツール +Option+Command またはペン
一時的にアンカーポイントの追加ツールとアンカーポイントの削除ツールを切り換える	Alt	Option
アンカーポイントを追加ツールを一時的に選択	はさみツール +Alt	はさみツール +Option
ポインターがパスまたはアンカーポイント上にあるときにペンツールの選択を保持	Shift	ペンツール +Shift

描画しながらアンカーポイントと方向点を移動	ペンツール + スペースバー	ペンツール + スペースバー
線パネルの表示	F10	Command+F10

ページの先頭へ

表に関するショートカットキー

この表は、すべてのショートカットキーの一覧ではありません。メニューコマンドやツールヒントに表示されないショートカットのみを一覧表示しています。

結果	Windows	Mac OS
行または列をドラッグで挿入または削除	行または列の境界線をポイントし、Alt を押しながらドラッグ	行または列の境界線をポイントし、Option を押しながら
表のサイズを変更せずに行または列のサイズを変更	行または列の境界線を Shift を押しながらドラッグ	行または列の境界線を Shift を押しながらドラッグ
行または列の比率を保持したまま表のサイズを変更	表の右端または一番下の境界線を Shift を押しながらドラッグ	表の右端または一番下の境界線を Shift を押しながら
次または前のセルに移動	Tab または Shift+Tab	Tab または Shift+Tab
列の先頭または最後のセルに移動	Alt+Page Up または Alt+Page Down	Option+Page Up または Option+Page Down
行の先頭または最後のセルに移動	Alt+Home または Alt+End	Option+Home または Option+End
フレームの先頭または最後の行に移動	Page Up または Page Down	Page Up または Page Down
セルを上下に 1 つ移動	上向き矢印または下向き矢印	上向き矢印または下向き矢印
セルを左右に 1 つ移動	左向き矢印または右向き矢印	左向き矢印または右向き矢印
現在のセルの上または下のセルを選択	Shift+ 上向き矢印または Shift+ 下向き矢印	Shift+ 上向き矢印または Shift+ 下向き矢印
現在のセルの左または右のセルを選択	Shift+ 右向き矢印または Shift+ 左向き矢印	Shift+ 右向き矢印または Shift+ 左向き矢印
次の段から行を開始	Enter（テンキーパッド）	Enter（テンキーパッド）
次のフレームから行を開始	Shift+Enter（テンキーパッド）	Shift+Enter（テンキーパッド）
テキストとセルの選択の切り替え	Esc	Esc

ページの先頭へ

テキストの検索と変更に関するショートカットキー

この表は、すべてのショートカットキーの一覧ではありません。メニューコマンドやツールヒントに表示されないショートカットのみを一覧表示しています。

結果	Windows	Mac OS
選択したテキストを「検索文字列」ボックスに挿入	Ctrl+F1	Command+F1
選択したテキストを「検索文字列」ボックスに挿入して、次を検索	Shift+F1	Shift+F1

「検索文字列」ボックスのテキストについて次を検索	Shift+F2 または Alt+Ctrl+F	Shift+F2 または Option+Command+F
選択したテキストを「置換文字列」ボックスに挿入	Ctrl+F2	Command+F2
検索後に選択範囲を「置換文字列」ボックスのテキストと置換	Ctrl+F3	Command+F3

ページの先頭へ

文字に関するショートカットキー

この表は、すべてのショートカットキーの一覧ではありません。メニューコマンドやツールヒントに表示されないショートカットのみを一覧表示しています。

結果	Windows	Mac OS
ボールド（ボールド書体を持つ欧文フォントのみ）	Shift+Ctrl+B	Shift+Command+B
イタリック（イタリック書体を持つ欧文フォントのみ）	Shift+Ctrl+I	Shift+Command+I
標準	Shift+Ctrl+Y	Shift+Command+Y
下線	Shift+Ctrl+U	Shift+Command+U
打ち消し線	Shift+Ctrl+/	Control+Shift+Command+/
オールキャップス（オン／オフ）	Shift+Ctrl+K	Shift+Command+K
禁則処理セットダイアログボックスを表示	Shift+Ctrl+K	Shift+Command+K
スモールキャップス（オン／オフ）	Shift+Ctrl+H	Shift+Command+H
縦中横設定ダイアログボックスを表示	Shift+Ctrl+H	Shift+Command+H
上付き用数字	N/A	Shift+Command+ =
下付き文字	Shift+Alt+Ctrl+ -	Shift+Option+Command+=
垂直比率または水平比率を 100 %にリセット	Shift+Ctrl+X または Shift+Alt+Ctrl+X	Shift+Command+X または Shift+Option+Command+X
文字組みアキ量設定ダイアログボックスを表示	Shift+Ctrl+X または Shift+Alt+Ctrl+X	Shift+Command+X または Shift+Option+Command+X
左揃え、右揃えまたは中央揃え	Shift+Ctrl+L、R または C	Shift+Command+L、R または C
両端揃え	Shift+Ctrl+F（全行）または J（最後の行を除く全行）	Shift+Command+F（全行）または J（最後の行を除く
両端揃えまたは均等配置（最終行左/上揃え）	Shift+Ctrl+F（両端揃え）または J（最終行左/上揃え）	Shift+Command+F（両端揃え）または J（最終行左/上
フォントサイズの増減*	Shift+Ctrl+> または <	Shift+Command+> または <
フォントサイズを 5 倍単位で増減*	Shift+Ctrl+Alt+> または <	Shift+Command+Option+> または <
行送りの増減（横組み）*	Alt+ 上向き矢印または Alt+ 下向き矢印	Option+ 上向き矢印または Option+ 下向き矢印
行送りの増減（縦組み）*	Alt+ 右向き矢印または Alt+ 左向き矢印	Option+ 右向き矢印または Option+ 左向き矢印
行送りを 5 倍単位で増減（横組み）*	Alt+Ctrl+ 上向き矢印または Alt+Ctrl+ 下向き矢印	Option+Command+ 上向き矢印または Option+Comma
行送りを 5 倍単位で増減（縦組み）*	Alt+Ctrl+ 右向き矢印または Alt+Ctrl+ 左向き矢印	Option+Command+ 右向き矢印または Option+Comma
自動行送り	Shift+Alt+Ctrl+A	Shift+Option+Command+A

ベースライングリッドに揃える（オン／オフ）	Shift+Alt+Ctrl+G	Shift+Option+Command+G
自動ハイフネーション（オン／オフ）	Shift+Alt+Ctrl+H	Shift+Option+Command+H
カーニングと字送りの増減（横組み）	Alt+ 左向き矢印または Alt+ 右向き矢印	Option+ 左向き矢印または Option+ 右向き矢印
カーニングと字送りの増減（縦組み）	Alt+ 上向き矢印または Alt+ 下向き矢印	Option+ 上向き矢印または Option+ 下向き矢印
カーニングと字送りを 5 倍単位で増減（横組み）	Alt+Ctrl+ 左向き矢印または Alt+Ctrl+ 右向き矢印	Option+Command+ 左向き矢印または Option+Comma
カーニングと字送りを 5 倍単位で増減（縦組み）	Alt+Ctrl+ 上向き矢印または Alt+Ctrl+ 下向き矢印	Option+Command+ 上向き矢印または Option+Comma
単語間のカーニングの増加*	Alt+Ctrl+\	Option+Command+\
単語間のカーニングの減少*	Alt+Ctrl+Backspace	Option+Command+Delete
すべての手動カーニング設定を消去して字送りをゼロにリセット	Alt+Ctrl+Q	Option+Command+Q
ベースラインシフトの増減**（横組み）	Shift+Alt+ 上向き矢印または Shift+Alt+ 下向き矢印	Shift+Option+ 上向き矢印または Shift+Option+ 下向き
ベースラインシフトの増減**（縦組み）	Shift+Alt+ 右向き矢印または Shift+Alt+ 左向き矢印	Shift+Option+ 右向き矢印または Shift+Option+ 左向き
ベースラインシフトを 5 倍単位で増減（横組み）	Shift+Alt+Ctrl+ 上向き矢印または Shift+Alt+Ctrl+ 下向き矢印	Shift+Option+Command+ 上向き矢印または Shift+Opt
ベースラインシフトを 5 倍単位で増減（縦組み）	Shift+Alt+Ctrl+ 右向き矢印または Shift+Alt+Ctrl+ 左向き矢印	Shift+Option+Command+ 右向き矢印または Shift+Opt
ストーリーの自動流し込み	Shift を押しながらテキスト流し込みアイコンをクリック	Shift を押しながらテキスト流し込みアイコンをクリック
ストーリーの半自動流し込み	Alt を押しながらテキスト流し込みアイコンをクリック	Option を押しながらテキスト流し込みアイコンをクリ
全ストーリーを再計算	Alt+Ctrl+/	Option+Command+/
ページ番号の挿入	Shift+Alt+Ctrl+N	Shift+Option+Command+N
*5 倍単位で増減するには、Shift キーを押します。 **数値は編集／環境設定／単位と増減値（Windows）または InDesign／環境設定／単位と増減値（Mac OS）で設定します。		

ページの先頭へ

テキスト内の移動とテキストの選択に関するショートカットキー

この表は、すべてのショートカットキーの一覧ではありません。メニューコマンドやツールヒントに表示されないショートカットのみを一覧表示しています。

結果	Windows の操作	Mac OS の操作
左または右の文字に移動（横組み）、前または次の行に移動（縦組み）	右向き矢印または左向き矢印	右向き矢印または左向き矢印
上の行または下の行に移動	上向き矢印または下向き矢印	上向き矢印または下向き矢印
前または次の単語に移動（横組み）、前または次の段落に移動（縦組み）	Ctrl+ 右向き矢印または Ctrl+ 左向き矢印	Command+ 右向き矢印または Command+ 左向き矢印
行頭または行末に移動	Home または End	Home または End
前または次の段落に移動（横組み）、前または次の単語に移動（縦組み）	Ctrl+ 上向き矢印または Ctrl+ 下向き矢印	Command+ 上向き矢印または Command+ 下向き矢印
ストーリーの行頭または行末に移動	Ctrl+Home または Ctrl+End	Command+Home または Command+End
1 単語選択	単語をダブルクリック	単語をダブルクリック

左または右の 1 文字の選択（横組み）、前または次の右向き文字選択（縦組み）	Shift+ 右向き矢印または Shift+ 左向き矢印	Shift+ 右向き矢印または Shift+ 左向き矢印
上または下の 1 行（横組み）、上または下の 1 文字を選択（縦組み）	Shift+ 上向き矢印または Shift+ 下向き矢印	Shift+ 上向き矢印または Shift+ 下向き矢印
挿入点から行頭または行末までを選択	Shift+Home または Shift+End	Shift+Home または Shift+End
1 段落選択	段落を 3 回または 4 回クリック（テキスト環境設定に準ずる）	段落を 3 回または 4 回クリック（テキスト環境設定に
1 つ前または後の段落を選択	Shift+Ctrl+ 上向き矢印または Shift+Ctrl+ 下向き矢印	Shift+Command+ 上向き矢印または Shift+Command+
現在の行の選択	Shift+Ctrl+¥	Shift+Command+\
挿入点から文字を選択	Shift を押しながらクリック	Shift を押しながらクリック
挿入点からストーリーの行頭または行末までを選択	Shift+Ctrl+Home または Shift+Ctrl+End	Shift+Command+Home または Shift+Command+End
ストーリーすべてを選択	Ctrl+A	Command+A
最初または最後のフレームの選択	Shift+Alt+Ctrl+Page Up または Shift+Alt+Ctrl+Page Down	Shift+Option+Command+Page Up または Shift+Optio
前または次のフレームを選択	Alt+Ctrl+Page Up または Alt+Ctrl+Page Down	Option+Command+Page Up または Option+Comman
挿入点手前の単語の削除（ストーリーエディター）	Ctrl+Backspace または Delete	Command+Delete または Del（テンキーパッド）
環境に無いフォントリストの更新	Ctrl+Alt+Shift+/	Command+Option+Shift+/

ページの先頭へ

ドキュメントの表示およびワークスペースに関するショートカットキー

この表は、すべてのショートカットキーの一覧ではありません。メニューコマンドやツールヒントに表示されないショートカットのみを一覧表示しています。

結果	Windows	Mac OS
一時的にハンドツールを選択	スペースバー（テキスト挿入点なし）、Alt を押しながらドラッグ（テキスト挿入点あり）	押しながらドラッグ（テキスト挿入点なし）、Option を押し
一時的にズームインツールを選択	Ctrl+ スペースバー	Command+ スペースバー
一時的にズームアウトツールを選択	Alt+Ctrl+ スペースバーまたは Alt+ ズームインツール	Option+Command+ スペースバーまたは Option+ ズー
50 %、200 %または 400 %に拡大	Ctrl+5、2 または 4	Command+5、2 または 4
強制再描画	Shift+F5	Shift+F5
新規デフォルトドキュメントを開く	Ctrl+Alt+N	Command+Option+N
現在と前の倍率を切り替え	Alt+Ctrl+2	Option+Command+2
次または前のドキュメントウィンドウに切り替え	Ctrl+@ または Shift+Ctrl+@、Ctrl+Tab または Shift+Ctrl+Tab	Shift+Ctrl+Tab
一画面上または下へスクロール	Page Up または Page Down	Page Up または Page Down
最後に表示したページに移動	Ctrl+Page Up または Ctrl+Page Down	Command+Page Up または Command+Page Down
前または次のスプレッドに移動	Alt+Page Up または Alt+Page Down	Option+Page Up または Option+Page Down
スプレッドをウィンドウサイズに合わせる	手のひらツールをダブルクリック	手のひらツールをダブルクリック

ページへ移動ダイアログボックスを表示	Ctrl+J	Command+J
選択部分をウィンドウサイズに合わせる	Ctrl+Alt+- （メインキーボード）	Command+Option+= （テンキーパッド）
オブジェクト全体を表示	Ctrl+Alt+- （メインキーボード）	Command+Option+= （テンキーパッド）
パネルが閉じている場合にマスターページに移動	Ctrl+J を選択後マスターページの接頭辞を入力	Command を押す選択後マスターページの接頭辞を入力
測定単位を順に切り替え	Shift+Alt+Ctrl+U	Shift+Option+Command+U
ガイドを定規にスナップ	Shift を押しながらガイドをドラッグ	Shift を押しながらガイドをドラッグ
ページのガイドとスプレッドのガイドの切り替え（初期設定のみ）	Ctrl を押しながらガイドをドラッグ	Command を押しながらガイドをドラッグ
スナップを一時的に有効化または無効化		Control を押しながらオブジェクトをドラッグ
スプレッド用水平および垂直ガイドの作成	Ctrl を押しながら定規の原点からドラッグ	Command を押しながら定規の原点からドラッグ
すべてのガイドの選択	Alt+Ctrl+G	Option+Command+G
原点の固定または固定解除	定規の原点を右クリックし、オプションを選択	Control を押しながら定規の原点をクリックしオプシ
新規作成したガイドのみにズーム度限界に設定	Alt キーを押しながらドラッグして新規ガイドを作成	Option キーを押しながらドラッグして新規ガイドを作
警告ダイアログボックスでのボタンの選択	下線が引いてあるボタン名の最初の文字を押す	ボタン名の最初の文字を押す
インストールされているプラグインと InDesign について	Ctrl+ ヘルプ／InDesign について	Command+ InDesign メニュー／InDesign について

ページの先頭へ

XML に関するショートカットキー

この表は、すべてのショートカットキーの一覧ではありません。メニューコマンドやツールヒントに表示されないショートカットのみを一覧表示しています。

結果	Windows	Mac OS
要素を展開または非表示	右向き矢印または左向き矢印	右向き矢印または左向き矢印
要素および子の要素を展開または非表示	Alt+ 右向き矢印または Alt+ 左向き矢印	Option+ 右向き矢印または Option+ 左向き矢印
XML の選択を上下へ拡張	Shift+ 上向き矢印または Shift+ 下向き矢印	Shift+ 上向き矢印または Shift+ 下向き矢印
XML の選択を上下へ移動	上向き矢印または下向き矢印	上向き矢印または下向き矢印
構造ウィンドウ枠を上下へスクロール	Page Up または Page Down	Page Up または Page Down
XML ノードの先頭または最後を選択	Home または End	Home または End
先頭または最後の XML ノードまで選択	Shift+Home または Shift+End	Shift+Home または Shift+End
前の検証エラーまたは次の検証エラーを表示	Ctrl+ 左向き矢印または Ctrl+ 右向き矢印	Command+ 左向き矢印または Command+ 右向き矢印
テキストフレームと表に自動的にタグ付け	Ctrl+Alt+Shift+F7	Command+Option+Shift+F7

ページの先頭へ

索引に関するショートカットキー

この表は、すべてのショートカットキーの一覧ではありません。メニューコマンドやツールヒントに表示されないショートカットのみを一覧表示しています。

結果	Windows	Mac OS
ダイアログボックスなしで索引項目を作成（英数字のみ）	Shift+Ctrl+Alt+[	Shift+Command+Option+[
新規ページ参照ダイアログボックスを表示	Ctrl+7	Command+7
固有名詞索引項目を作成（姓、名）	Shift+Ctrl+Alt+]	Shift+Command+Option+]

ページの先頭へ

パネルに関するショートカットキー

この表は、すべてのショートカットキーの一覧ではありません。メニューコマンドやツールヒントに表示されないショートカットのみを一覧表示しています。

結果	Windows	Mac OS
確認なしで削除	Alt を押しながら削除アイコンをクリック	Option を押しながら削除アイコンをクリック
オプションを設定して新規アイテムを作成	Alt+ 新規ボタンをクリック	Option+ 新規ボタンをクリック
値を適用してオプションの選択を保持	Shift+Enter	Shift+Enter
最後に使用したパネルのオプションを有効にする	Ctrl+Alt+@	Command+Option+ チルド（~）（英語版のみ）
パネルのスタイル、レイヤー、リンク、スウォッチまたはライブラリオブジェクトを範囲で選択	Shift キーを押しながらクリック	Shift キーを押しながらクリック
パネルで隣接していないスタイル、レイヤー、リンク、スウォッチまたはライブラリオブジェクトを同時選択	Ctrl キーを押しながらクリック	Command キーを押しながらクリック
値を適用して次の値を選択	タブ	タブ
選択オブジェクト、テキストまたはウィンドウにフォーカスを移動	Esc	Esc
すべてのパネル、ツールパネルおよびコントロールパネルを表示または非表示（テキスト挿入点がない状態）	タブ	タブ
ツールパネルおよびコントロールパネル（結合されたコロートにかかわらず）を除く、すべてのパネルの表示または非表示	Shift+Tab	Shift+Tab
タブ側にパネルを開くまたは閉じる	Shift+Ctrl+Alt+Tab	Command+Option+Tab
パネルグループをしまう	いずれかのパネルタブ（グループ内の）をスクリーン端までAlt+ドラッグ	いずれかのパネルタブ（グループ内の）をウィンドウ
アイテムを名前で選択（英語名のみ）	Alt+Ctrl を押しながらリスト内をクリックし、キーボードでアイテムを押しながらリスト内をクリックし	Option+Command を押しながら
効果ダイアログボックスのドロップシャドウパネルを開く	Alt+Ctrl+M	Command+Option+M

ページの先頭へ

コントロールパネルのショートカットキー

この表は、すべてのショートカットキーの一覧ではありません。メニューコマンドやツールヒントに表示されないショートカットのみを一覧表示しています。

結果	Windows	Mac OS
コントロールパネルにキーボードフォーカスを切り替え	Ctrl+6	Command+6
文字形式と段落形式モードの切り替え	N/A	Command+Option+7
基準点の変更（基準点が点線で囲まれている場合のみ操作可能）	任意の数字キー（テンキーパッド、メインキーボード	任意の数字キー（テンキーパッド、メインキーボード
選択されているオプションのポップアップメニューを開く	Alt+↓	
単位と増減値環境設定を開く	Alt を押しながらカーニングアイコンをクリック	Option を押しながらカーニングアイコンをクリック
テキストフレーム設定ダイアログボックスを表示	Alt を押しながら列の数アイコンをクリック	Option を押しながら列の数アイコンをクリック
移動ダイアログボックスを表示	Alt を押しながら X または Y アイコンをクリック	Option を押しながら X または Y アイコンをクリック
回転ダイアログボックスを表示	Alt を押しながら回転角度アイコンをクリック	Option を押しながら回転角度アイコンをクリック
拡大／縮小ダイアログボックスを表示	Alt を押しながらスケール X %またはスケール Y %アイコンをクリック	Option を押しながら拡大／縮小 X %または拡大／縮小
シアーダイアログボックスを表示	傾斜 X 角度アイコンを Alt を押しながらクリック	傾斜 X 角度アイコンを Option を押しながらクリック
高度なテキスト環境設定を開く	Alt を押しながら上付き文字ボタン、下付き文字ボタンをクリック	Option を押しながら上付き文字ボタン、下付き文字ボ
下線設定ダイアログボックスを表示	Alt を押しながら下線ボタンをクリック	Option を押しながら下線ボタンをクリック
打ち消し線設定ダイアログボックスを表示	Alt を押しながら打ち消し線ボタンをクリック	Option を押しながら打ち消し線ボタンをクリック
グリッド環境設定を開く	Alt を押しながら「ベースライングリッドに揃える」をクリック	Option を押しながら「ベースライングリッドに揃える
ドロップキャップと先頭文字スタイルダイアログボックスを表示	Alt を押しながら行のドロップキャップ数アイコンをクリック	Option を押しながら行のドロップキャップ数アイコン
ジャスティフィケーションダイアログボックスを表示	Alt を押しながら行送りアイコンをクリック	Option を押しながら行送りアイコンをクリック
グリッドフォーマットの編集ダイアログボックスを表示	グリッドフォーマットアイコンをダブルクリック	グリッドフォーマットアイコンをダブルクリック
新規グリッドフォーマットダイアログボックスを表示	Alt を押しながら新規グリッドフォーマットアイコンをクリック	Option を押しながら新規グリッドフォーマットアイコ
フレームグリッド設定ダイアログボックスを表示	Alt を押しながら文字数（横組み）、行数（縦組み）をクリック	Option を押しながら文字数（横組み）、行数（縦組み

ページの先頭へ

文字入力のパネルとダイアログボックスに関するショートカットキー

この表は、すべてのショートカットキーの一覧ではありません。メニューコマンドやツールヒントに表示されないショートカットのみを一覧表示しています。

結果	Windows	Mac OS
ジャスティフィケーションダイアログボックスを表示	Alt+Ctrl+Shift+J	Option+Command+Shift+J
段落境界線ダイアログボックスを表示	Alt+Ctrl+J	Option+Command+J

圏点ダイアログボックスを表示	Alt+Ctrl+K	Option+Command+K
文字パネルを表示	Ctrl+T	Command+T
段落パネルを表示	Ctrl+Alt+T	Command+Option+T

ページの先頭へ

文字スタイルと段落スタイルに関するショートカットキー

この表は、すべてのショートカットキーの一覧ではありません。メニューコマンドやツールヒントに表示されないショートカットのみを一覧表示しています。

結果	Windows	Mac OS
文字スタイルの再定義	テキストを選択し Shift+Alt+Ctrl+C	テキストを選択し Shift+Option+Command+C
段落スタイルの再定義	テキストを選択し Shift+Alt+Ctrl+R	テキストを選択し Shift+Option+Command+R
スタイルを適用せずにオプションを変更	Shift+Alt+Ctrl を押しながらスタイルをダブルクリック	Shift+Option+Command を押しながらスタイルをダブ
段落のローカルフォーマットを解除	Alt を押しながら段落スタイル名をクリック	Option を押しながら段落スタイル名をクリック
段落スタイルから文字スタイルなどのオーバーライドを削除	Alt+Shift を押しながら段落スタイル名をクリック	Option+Shift を押しながら段落スタイル名をクリック
段落および文字スタイルパネルを別々に表示または非表示	F11	Command+F11、Command+Shift+F11

ページの先頭へ

タブパネルに関するショートカットキー

この表は、すべてのショートカットキーの一覧ではありません。メニューコマンドやツールヒントに表示されないショートカットのみを一覧表示しています。

結果	Windows	Mac OS
タブパネルの表示	Shift+Ctrl+T	Shift+Command+T
揃えオプションの切り替え	Alt を押しながらタブストップマーカーをクリック	Option を押しながらタブストップマーカーをクリック

ページの先頭へ

レイヤーパネルのショートカットキー

この表は、すべてのショートカットキーの一覧ではありません。メニューコマンドやツールヒントに表示されないショートカットのみを一覧表示しています。

結果	Windows	Mac OS

レイヤー上のすべてのオブジェクトを選択	Alt を押しながらレイヤーをクリック	Option を押しながらレイヤーをクリック
選択範囲を別のレイヤーに複製	Alt を押しながらレイヤー名右端の小さい四角形を別の	Option を押しながらレイヤー名右端の小さい四角形を
選択したレイヤーの下に新規レイヤーを追加	Ctrl を押しながら「新規レイヤーを作成」をク	Command を押しながら「新規レイヤーを作成」をク
レイヤー一覧の先頭に新規レイヤーを追加	Shift+Ctrl を押しながら「新規レイヤーを作成」	Shift+Command を押しながら「新規レイヤーを作成」
レイヤー一覧の先頭に新規レイヤーを追加し、	Shift+Alt+Ctrl を押しながら「新規を開	Shift+Command+Option+Shift を押しながら「新規レイヤー
新規レイヤーを追加し、新規レイヤーダイアログボックスを開く	Alt を押しながら「新規レイヤーを作成」をク	Option を押しながら「新規レイヤーを作成」をクリッ

ページの先頭へ

ページパネルに関するショートカットキー

この表は、すべてのショートカットキーの一覧ではありません。メニューコマンドやツールヒントに表示されないショートカットのみを一覧表示しています。

結果	Windows	Mac OS
選択したページにマスターページを適用	Alt を押しながらマスターページをクリック	Option を押しながらマスターページをクリック
選択したマスターページの基準ページに他のマ	Alt を押しながら選択したマスターページの基準	Option を押しながら選択したマスターページの基準マ
新規マスターページの作成	Ctrl を押しながらページ挿入ボタンをクリック	Command を押しながらページ挿入ボタンをクリック
ページを挿入ダイアログボックスを表示	Alt を押しながらページ挿入ボタンをクリック	Option を押しながらページ挿入ボタンをクリック
ページの最後に新規ページを追加	Shift+Ctrl+P	Shift+Command+P

ページの先頭へ

カラーパネルのショートカットキー

この表は、すべてのショートカットキーの一覧ではありません。メニューコマンドやツールヒントに表示されないショートカットのみを一覧表示しています。

結果	Windows	Mac OS
カラースライダーを連携させて移動	Shift を押しながらスライダーをドラッグ	Shift を押しながらスライダーをドラッグ
アクティブでない塗りまたは線にカラーを指定	Alt キーを押しながらカラーバーをクリック	Option キーを押しながらカラーバーをクリック
カラーモードの切り替え（CMYK、RGB、LAB）	Shift+ カラーバーをクリック	Shift+ カラーバーをクリック

ページの先頭へ

分版パネルに関するショートカットキー

この表は、すべてのショートカットキーの一覧ではありません。メニューコマンドやツールヒントに表示されないショートカットのみを一覧表示

しています。

結果	Windows の操作	Mac OS の操作
オーバプリントビューに切り替え	Ctrl+Alt+Shift+Y	Command+Option+Shift+Y
すべてのプレートを表示	Ctrl+Alt+Shift+@	Command+Option+Shift+ チルド（~）（英語版のみ）
シアンプレートを表示	Ctrl+Alt+Shift+1	Command+Option+Shift+1
マゼンタプレートを表示	Ctrl+Alt+Shift+2	Command+Option+Shift+2
イエロープレートを表示	Ctrl+Alt+Shift+3	Command+Option+Shift+3
ブラックプレートを表示	Ctrl+Alt+Shift+4	Command+Option+Shift+4
1 番目の特色プレートを表示	Ctrl+Alt+Shift+5	Command+Option+Shift+5
2 番目の特色プレートを表示	Ctrl+Alt+Shift+6	Command+Option+Shift+6
3 番目の特色プレートを表示	Ctrl+Alt+Shift+7	Command+Option+Shift+7

ページの先頭へ

スウォッチパネルのショートカットキー

この表は、すべてのショートカットキーの一覧ではありません。メニューコマンドやツールヒントに表示されないショートカットのみを一覧表示しています。

結果	Windows	Mac OS
現在のスウォッチを基にして新規スウォッチを作成	Alt を押しながら新規スウォッチボタンをクリック	Option を押しながら新規スウォッチボタンをクリック
現在のスウォッチを基にして特色スウォッチを作成	Ctrl を押しながら新規スウォッチボタンをクリック	Command を押しながら新規スウォッチボタン
スウォッチを適用せずにオプションを変更	Shift+Alt+Ctrl を押しながらスウォッチをダブルクリック	Shift+Option+Command を押しながらスウォッチをダ

ページの先頭へ

変形パネルの操作時に使用するキー

この表は、すべてのショートカットキーの一覧ではありません。メニューコマンドやツールヒントに表示されないショートカットのみを一覧表示しています。

結果	Windows	Mac OS
数値を適用してオブジェクトを複製	Alt+Enter	Option+Enter
比率を維持したまま幅、高さまたはスケール値を適用	Ctrl+Enter	Command+Enter

Mac OS 10.3x と 10.4 間のコンフリクトを解決するショートカットキー

この表は、すべてのショートカットキーの一覧ではありません。メニューコマンドやツールヒントに表示されないショートカットのみを一覧表示しています。

結果	Mac OS
環境設定ダイアログボックスの表示	Command+K
段落スタイルパネルの表示	Command+F11
文字スタイルパネルの表示	Command+Shift+F11
スウォッチパネルの表示	F5
ページパネルの表示	Command+F12
アクティブなアプリケーションウィンドウの最小化	Command+M
アプリケーションの非表示	Command+H

(cc) BY-NC-SR Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

ファイルとテンプレートを使用した作業

InDesign ドキュメントの推奨ワークフロー
InDesign ドキュメントを開く
以前のバージョンの **InDesign** ドキュメントの変換
InDesign での **Adobe Bridge** の使用
Adobe Version Cue
ドキュメントテンプレートの使用
InDesign ドキュメントの再確認
テンプレートを使用したカレンダーと名刺のデザイン

ページの先頭へ

InDesign ドキュメントの推奨ワークフロー

Adobe InDesign の使用に最適なワークフローを構築すると、パフォーマンスが向上し、多くの問題を防止できます。

整理されたコンピューターシステムの維持

長期間の使用により、ソフトウェアやハードウェアの構成が変わり、パフォーマンスの低下やシステム問題が生じることがあります。ハードディスクの最適化、古いバージョンのソフトウェアの削除、デバイスドライバーの更新、メモリの最適化、ウイルス対策ユーティリティの実行などのメンテナンス作業により、アプリケーションやファイルの損傷を防止できます。これらの作業を定期的に実施することで、InDesign で期待どおりにドキュメントを開き、表示し、印刷することが可能になります。

プロジェクトフォルダーの作成

プロジェクトを開始する前に、必要なファイルを判断し、保存方法を決めておきます。リンク切れの問題が発生したことがある場合は、リンク先ファイルをドキュメントと同じフォルダーに格納することを検討してください。InDesign では、ドキュメントに配置したファイルへのリンクが維持されますが、リンクが壊れている場合、InDesign はドキュメントのフォルダーにファイルがあるかどうかを検索します。ドキュメントとリンクファイルを同じフォルダーに保存しておくと、別のコンピューターに移動するときに便利です。また、ファイルが 1 つのフォルダーに保存されていると、ドキュメントを印刷するとき、InDesign がオリジナルのグラフィックを見つけることができます。リンクされたグラフィックが見つからないと、オリジナルのグラフィックに加えた変更が反映されず、グラフィックが適切に印刷されないか、まったく印刷されない場合があります。

プロジェクトが複数のドキュメントで構成されている場合（ブックに複数の章がある場合など）、プロジェクトフォルダーの中に各ドキュメントのフォルダーを作成してリンクファイルと共に保存しておくと便利です。

テンプレートの使用の検討

類似したプロジェクトを頻繁に作成する場合は、テンプレートを使用します。テンプレートを使用すると、一貫性のあるドキュメントを迅速に作成でき、元のファイルを保護できます。例えば、ニュースレターを毎月発行する場合は、定規ガイド、ページ番号、ニュースレターの発行人欄、毎回使用するスタイルなどを含むテンプレートを作成します（ドキュメントテンプレートの使用を参照してください）。

ドキュメントをローカルで開く

ネットワークボリュームやリムーバブルメディアに保存されたドキュメントを開く場合は、最初にドキュメントとリンクグラフィックをローカルハードディスクにコピーしてから開いてください。ネットワークボリュームまたはリムーバブルメディアでは、アクセス時間やデータ転送レートがローカルディスクよりも遅いことが原因で、データの損失や破損が生じ、ドキュメントが損傷する可能性があります。一方、ローカルにコピーして作業する場合は、ファイルをネットワークサーバーに戻すとき他のユーザーによる作業を上書きしないように注意が必要です。

ファイル変換前の問題解決

Adobe PageMaker または QuarkXPress® の破損したファイルを InDesign で開くと、通常は破損したままです。変換されたファイルでエラーやその他の予期しない動作が発生した場合は、元のファイルをソースアプリケーションで開き、破損のトラブルシューティングを行います。

変換されたファイルに問題がある場合は、IDML 形式に書き出し、その IDML ファイルを開いて、InDesign ドキュメントとして保存してください。

ドキュメントの保存

ドキュメントは頻繁に保存し、重要なファイルはバックアップコピーを作成しておきます。「別名で保存」コマンドを使用すると、不要なデータをドキュメントから削除できます。「保存」コマンドを使用した場合は、新しい情報がドキュメントに追加されますが、削除されたグラフィックの情報など、不要になったデータは削除されません。一方、「別名で保存」コマンドを使用すると、ドキュメントが完全に書き直され、ドキュメントに現在含まれるオブジェクトやページに関する情報だけが保存されます。必要なデータのみを含むドキュメントは、大きなディスクスペースを使用しないので、再描画や印刷が速くなります。

確実な設計習慣

- ドキュメントを開いてスタイルを作成します。開いているドキュメントがない状態でスタイルを作成すると、新規ドキュメントを作成したときにスタイルが重複して表示される可能性があります。複数のドキュメントでスタイルを共有するには、ドキュメント上でスタイルを保存してから読み込みます。
- 適切なフォントを使用します。ドキュメントのフォントを選択する場合は、テキストのフォーマットや印刷方法を考慮します。InDesign では、OpenType®、Type 1（PostScript とも呼ばれる）および TrueType フォントが適しています。損傷したフォントや不適切なフォントを使用すると、InDesign ドキュメントが破損したり、予期しない印刷結果が生じることがあるので、定評のあるフォントベンダーが作成した信頼性の高いフォントを使用してください。出力・印刷会社を利用する場合は、フォントの要件を確認してください。
- テキストフレームを多用しないようにします。最小限のテキストフレームを使用することで、ドキュメントのファイルサイズが小さくなり、レイアウトを操作しやすくなります。

グラフィックをよく理解する

- 適切なグラフィックファイル形式を使用します。プロジェクトのグラフィックを作成する場合は、ドキュメントの印刷方法を考慮します。出力・印刷会社でドキュメントを印刷する場合は、その出力・印刷会社で使用する出力デバイスに最適なグラフィック形式を問い合わせてください。画像の最適な解像度についても出力・印刷会社に相談することができます。
- グラフィックを外部に保存します。グラフィックファイルを配置すると、デフォルトでグラフィックへのリンクが作成されます。リンクによって、ドキュメントのファイルサイズが最小化され、InDesign のパーフォマンスの向上に役立ちます。ドキュメントを印刷するときは、オリジナルのグラフィックファイルが使用可能な状態でリンクされている必要があります。InDesign でオリジナルファイルが見つからなかった場合、低解像度のプレビューまたはグレーのボックスとして印刷される可能性があります。

印刷前のリンクおよびフォントの確認

ドキュメントを正しく印刷するには、損傷したリンクがなく、すべてのフォントが使用可能であることを確認します。オリジナルのグラフィックを削除、移動または名前の変更を行うと、リンクが解除されます。プリフライト機能やパッケージ機能を使用してから、出力・印刷会社にファイルを提出します。

ページの先頭へ

InDesign ドキュメントを開く

通常、ドキュメントファイルやテンプレートファイルは、他のプログラムと同じ方法で開くことができます。デフォルトでは、InDesign テンプレートを開くと、新しい名称未設定のドキュメントが表示されます。ドキュメントファイルには拡張子 .indd、テンプレートファイルには拡張子 .indt、スニペットファイルには拡張子 .idms、ライブラリファイルには拡張子 .indl、交換ファイルには拡張子 .inx、マークアップファイルには拡張子 .idml、また、ブックファイルには拡張子 .indb をそれぞれ使用します。

また、ファイル／開くコマンドを使用すると、以前のバージョンの InDesign で作成したファイル、InDesign 互換（.inx）ファイル、InDesign マークアップ（.idml）ファイル、Adobe PageMaker 6.0 以降、QuarkXPress 3.3 および 4.1、QuarkXPress Passport 4.1 のファイルも開くことができます。他のソフトウェアベンダーからプラグインソフトウェアが提供されている場合は、さらに別のファイル形式を開くこともできます。

InDesign ドキュメントに関する追加情報を表示するには、*Ctrl* キーを押しながらヘルプ／*InDesign* についてを選択するか（*Windows*）、*Command* キーを押しながら *InDesign*／*InDesign* についてを選択します（*Mac OS*）。

「開く」コマンドの使用

1. ファイル／開くを選択し、ドキュメントを選択します。
2. 次のいずれかの操作を行い、「開く」をクリックします。
   - オリジナルドキュメントまたはテンプレートのコピーを開くには、「標準」（Windows）または「標準で開く」（Mac OS）を選択します。
   - オリジナルのドキュメントまたはテンプレートを開くには、「オリジナル」（Windows）または「オリジナルで開く」（Mac OS）を選択します。
   - ドキュメントまたはテンプレートのコピーを開くには、「コピー」（Windows）または「コピーで開く」（Mac OS）を選択します。

InDesign ドキュメントを開くときに、次のいずれかのメッセージが表示される場合があります。

新しい **InDesign** バージョンであることを示すメッセージ

InDesign CS6 および CC では、以前のバージョンの InDesign を使用しているユーザーに対しても、手動で IDML に書き出すといった余分な手順を行うことなく、ドキュメントを送信できます。互換性が組み込まれているため、ドキュメントは常に期待どおりに開きます。

新しいバーションの InDesign で作成されたドキュメントを開くと、バージョンが異なることを示すメッセージが表示されます。ドキュメントを現在の InDesign バージョンに変換するには、次の操作を行います。

1. ドキュメントを現在の InDesign バージョンに変換するには、「変換」をクリックします。

   ドキュメントが Adobe Creative Cloud にアップロードされ、現在の InDesign バージョンに変換されます。

   注意： 変換を実行するには、インターネット接続が必要です。
2. ドキュメントが現在のバージョンに正常に変換されると、別名で保存ダイアログボックスが表示され、ドキュメントを保存するように求められます。

ドキュメントのカラー設定がアプリケーションと異なることを示すメッセージ

ドキュメントのカラー設定とアプリケーションのカラー設定が異なっていることを示す警告メッセージが表示された場合は、いずれかのオプションを選択して「OK」をクリックします。

注意： カラーの警告メッセージはデフォルトでオフになっていますが、カラー設定ダイアログボックス（編集／カラー設定）のデフォルト設定を変更すると、警告を表示できるようになります。

リンクが切れているか変更されていることを示すメッセージ

ドキュメント内のリンクが切れているか、変更されていることを示す警告メッセージが表示された場合は、リンクパネルを使用して該当リンクを修正します。リンクの更新、復元、置き換えを参照してください。

環境にないフォントがあることを示すメッセージ

ドキュメント内に環境にないフォントが使用されていることを示す警告メッセージが表示された場合は、次のいずれかの操作を行います。

- 「OK」をクリックします。自動的に代替フォントで置き換えられてテキストが表示されます。
- 「フォント検索」をクリックして、ドキュメントで使用されているフォントを検索し、一覧表示します。

  環境にないフォントの検索について詳しくは、フォントの検索と置換を参照してください。

最近使用したドキュメントを開く

- ファイル／最近使用したファイルを開くを選択し、サブメニューから最近保存したドキュメントの 1 つを選択します。

表示される最近使用したドキュメントの数を指定するには、編集／環境設定／ファイル管理（Windows）または InDesign／環境設定／ファイル管理（Macintosh）を選択し、「最近使用したアイテムの表示数」で数を指定します。最大値は 30 です。

ドキュメントを開く際の単語リストの選択

ドキュメントを開くときに、例外単語リストをドキュメントまたはユーザー辞書のどちらで使用するかを訊ねる警告メッセージが表示されることがあります。例外単語リストには、ドキュメントでの作業中にユーザー辞書に追加された単語が含まれます。使用する例外単語リストがわかっている場合は、そのボタンをクリックします。不明な場合は、どちらかのボタンをクリックし、編集／欧文スペルチェック／欧文辞書を選択して、単語リストを調べます。必要であれば、編集／環境設定／欧文辞書（Windows）または InDesign／環境設定／欧文辞書（Macintosh）を選択し、組版に使用する単語リストを再設定します。ハイフネーションおよびスペルチェック辞書を参照してください。

ページの先頭へ

以前のバージョンの InDesign ドキュメントの変換

- 以前のバージョンで作成された InDesign ドキュメントを現在のバージョンに変換するには、ファイル／開くを選択して、そのファイルを開きます。

  次の点に注意してください。

  - サードパーティ製のプラグインを使って以前のバージョンでドキュメントを作成した場合は、そのプラグインのインストールが適切に行われていることを確認し、さらに InDesign CS5 との互換性があるかどうかを製造元に確認してから、ドキュメントを変換してください。
  - ドキュメントを変換するときに、例外単語リストをユーザー辞書またはドキュメントのどちらで使用するかを訊ねる警告メッセージが表示されることがあります。この警告メッセージについて詳しくは、ドキュメントを開く際の単語リストの選択を参照してください。
  - 旧バージョンの InDesign で作成されたライブラリファイルは、ライブラリがロックされていても、InDesign CS5 で開き、変換することができます。ライブラリを変換するときに名前と保存場所を指定します。デフォルトでは、*[ファイル名]-1*.indl というファイル名が付けられます。
  - 最新の InDesign のドキュメントを以前のバージョンの InDesign で直接開くことはできません。例えば、InDesign CS5 のドキュメントを InDesign CS4 で開くには、次の操作を行います。まず、InDesign CS5 でファイル／書き出しを選択し、ドキュメントを IDML 形式で書き出します。次に、InDesign CS4 を更新して、IDML ファイルを開くための特別なプラグインをインストールします（以前の InDesign への下位バージョンでの保存を参照してください）。

旧バージョンの *InDesign* で作成されたドキュメントの扱いに問題が生じる場合は、*InDesign CS5* の書き出しダイアログボックスを使用し、*InDesign* マークアップ（*IDML*）形式でドキュメントを保存してください。次に、その *IDML* ファイルを開いて、*InDesign* ドキュメントとして保存します。

ページの先頭へ

InDesign での Adobe Bridge の使用

Adobe Bridge は、Adobe Creative Suite コンポーネントに含まれるクロスプラットフォームのアプリケーションで、プリント、Web、ビデオおよびオーディオコンテンツを作成するために必要なアセットを検索、整理および参照することができます。Adobe Bridge は Creative Suite のコンポーネント（Adobe Acrobat® を除く）から起動することができ、Adobe Bridge を使用してアドビのアセットとアドビ以外のアセットの両方にアクセスすることができます。

Adobe Bridge では次の操作を実行できます。

- 画像、ビデオおよびオーディオファイルを管理します。 個々のアプリケーションを開かずに、Adobe Bridge でファイルのプレビュー、検索、ソート、その他の処理が行えます。 ファイルのメタデータを編集して、ファイルをドキュメント、プロジェクトまたはコンポジションに配置することもできます。
- InDesign ドキュメント内のリンクを Adobe Bridge でサムネール表示できます。実際に InDesign でドキュメントを開く必要はありません。
- Adobe Bridge から InDesign ドキュメントウィンドウにアセットをドラッグしたり、ドキュメントウィンドウから Adobe Bridge にアセットをドラッグしてスニペットを作成したりできます。スニペットの使用を参照してください。
- バッチコマンドなどの自動処理を実行します。

- カラーマネジメントされた Creative Suite コンポーネント間でカラー設定を同期します。
- リアルタイムの Web 会議を開始して、デスクトップを共有したり、ドキュメントをレビューしたりできます。

ページの先頭へ

Adobe Version Cue

Adobe Version Cue® と Adobe Drive は、Adobe Creative Suite 5 または Creative Suite の今後のバージョンには含まれません。アドビでは、オープンな業界標準規格とパートナーシップによるアセット管理システムの使用可能性に引き続き注力していきます。詳しくは、www.adobe.com/go/learn_vc_end_jp を参照してください。

ページの先頭へ

ドキュメントテンプレートの使用

標準のドキュメントを新規作成するときにテンプレートを使用すると、レイアウト、グラフィック、テキストを使用してドキュメントを事前に設定しておくことができます。例えば、月刊誌などの定期刊行物を制作する場合、定規ガイド、グリッド、マスターページ、カスタムスタイルおよびスウォッチ、プレースホルダフレーム、レイヤー、標準的なグラフィックやテキストなど、一般的な出版物のレイアウトを含むテンプレートを作成しておくことができます。次回からは、毎回このテンプレートを開き、新しい内容を読み込むだけです。

テンプレートは、標準のドキュメントと同じ方法で作成できますが、保存方法だけが異なります。他のユーザーも使用できるテンプレートを準備する場合は、テンプレートの使用方法を記述したレイヤーを追加すると作業を行う上で便利です。レイヤーは、ドキュメントを印刷する前に簡単に非表示にしたり削除したりできます。レイヤーを参照してください。

注意： 中国語バージョンの *InDesign* では、カスタム文字組みセットを含む特殊設計のテンプレートを開くことができます。

ドキュメントをテンプレートとして保存

1. ファイル／別名で保存を選択し、保存場所とファイル名を指定します。
2. 「ファイルの種類」（Windows）または「フォーマット」（Macintosh）から「InDesign CS5 テンプレート」を選択し、「保存」を選択します。

テンプレートを使用した新しいドキュメントの作成

1. ファイル／開くを選択します。
2. テンプレートを探して選択します。
3. 「標準」（Windows）または「標準で開く」（Macintosh）を選択し、「開く」をクリックします。
4. 新しいドキュメントに名前を付けて保存します。

既存テンプレートの編集

1. ファイル／開くを選択します。
2. テンプレートを探して選択します。
3. 「オリジナル」（Windows）または「オリジナルで開く」（Macintosh）を選択し、「開く」をクリックします。

ページの先頭へ

InDesign ドキュメントの再確認

いくつかの方法で InDesign ドキュメントを再確認できます。

編集による変更のトラック

「変更をトラック」がオンになっている場合、だれかがテキストを編集すると、InDesign は追加されたテキストをハイライト表示し、削除されたテキストに打ち消し線を表示します。ストーリーエディターを使用して変更を表示します。ドキュメントの所有者は、編集を検討して、変更を適用するか取り消すことができます。変更のトラックと再確認を参照してください。

Acrobat を使用した PDF ファイルのレビュー

InDesign ドキュメントを PDF に書き出し、Adobe Acrobat を使用して Acrobat.com またはその他のサーバーに電子メールレビューまたは共有レビューを設定できます。レビュー担当者はノート注釈ツールおよびその他のマークアップ方法を使用して注釈を追加できます。 その後、ドキュメントの所有者は PDF のレビューの注釈を検討して、元の InDesign ドキュメントを編集できます。詳しくは、Acrobat ヘルプを参照してください。

CS Review の使用

CS Review は、自分のデザインを Web 上で共有して、他のユーザーがすぐにフィードバックを返すことができるオンラインのサブスクリプションサービスです。CS Review パネルを使用してレビューを作成する場合は、Acrobat.com ワークスペースにファイルのスナップショットを 1 つ以上アップロードします。スナップショットがアップロードされると、レビュー担当者が注釈を追加できます。

レビューを作成するときは、いくつかのパートに分割して、レビューの注釈を募る領域を個別の領域に分けることができます。異なるファイルおよびアプリケーションから成るパートでレビューを構成することができます。レビューの進行につれ、レビューを追加および削除したりするなど、レビュープロセスを動的に進めることができます。

ページの先頭へ

テンプレートを使用したカレンダーと名刺のデザイン

カレンダー、名刺、履歴書およびその他の特殊なドキュメントを作成するには、テンプレートを使用すると便利です。

Adobe Marketplace & Exchange サイトには、多くのテンプレートが用意されています。

www.adobe.com/go/exchange_jp

特殊なドキュメントに関するその他のリソースについては、検索機能を使用して検索してください。

関連項目

- Adobe Bridge
- Mini Bridge
- CS Review

(cc) BY-NC-SR Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

メニューとショートカットキーのカスタマイズ

メニューのカスタマイズ
見つからないメニューコマンド
キーボードショートカットセットの使用

メニューのカスタマイズ

トップへ戻る

非表示およびカラー設定メニューコマンドを使用すると、メニューの混乱を防ぎ、よく使用するコマンドを強調できます。メニューコマンドを非表示にしても、単に対応するメニューコマンドが表示されなくなるだけで、機能が無効になるわけではありません。メニュー下部の「すべてのメニュー項目を表示」コマンドを選択すれば、非表示にしたコマンドをいつでも表示できます。また、ウィンドウ／ワークスペース／メニュー項目をすべて表示を選択すると、選択しているワークスペースのメニューがすべて表示されます。メニューをカスタマイズし、保存するワークスペースに含めることができます。

カスタマイズできるメニューは、メインメニュー、コンテキストメニュー、およびパネルメニューです。コンテキストメニューは、領域を右クリック（Windows）または Control キーを押しながらクリック（Mac OS）すると表示されます。パネルメニューは、パネル右上のアイコンをクリックすると表示されます。

注意： 「はじめに」などの別のワークスペースを選択すると、一部のメニューコマンドは表示されません。メニューコマンドを表示するには、メニュー下部の「すべてのメニュー項目を表示」を選択するか、「詳細」などのワークスペースを選択します。

カスタムメニューセットの作成

1. 編集／メニューを選択します。

   デフォルトのメニューセットは編集できません。
2. 「別名で保存」をクリックし、メニューセット名を入力し、「OK」をクリックします。
3. カテゴリーメニューから、アプリケーションメニューまたはコンテキスト＆パネルメニューのいずれかを選択して、カスタマイズするメニューを決定します。
4. メニューカテゴリーの左にある矢印をクリックして、サブカテゴリーまたはメニューコマンドを表示します。カスタマイズするコマンドごとに、「表示 / 非表示」の目のアイコンをクリックして、そのコマンドを表示または非表示にします。メニューからカラーを選択するには、「カラー」の「なし」をクリックします。
5. 「保存」をクリックし、次に「OK」をクリックします。

カスタムメニューセットの選択

1. 編集／メニューを選択します。
2. セットポップアップメニューからメニューセットを選択し、「OK」をクリックします。

カスタムメニューセットの編集または削除

1. 編集／メニューを選択します。
2. セットポップアップメニューからメニューセットを選択し、次のいずれかの操作を行います。
   - メニューセットを編集する場合は、メニューコマンドの表示 / 非表示またはカラーを変更し、「保存」をクリックしてから「OK」をクリックします。
   - メニューセットを削除するには、「削除」をクリックし、「はい」をクリックします。メニューセットを編集後、保存せずに閉じようとした場合は、現在のメニューセットを保存するよう促すメッセージが表示されます。メニューセットを保存するには「はい」をクリックします。変更を破棄するには「いいえ」をクリックします。

非表示のメニュー項目の表示

- ウィンドウ／ワークスペース／メニュー項目をすべて表示を選択します。すると、選択しているワークスペースのメニューがすべて表示されるようになります。メニューを非表示に戻すには、ワークスペースをリセットします。
- 非表示にしたコマンドがあるメニューの下部の「すべてのメニュー項目を表示」を選択します。

  Ctrl キー（Windows）または Command キー（Mac OS）を押したままメニュー名をクリックすると、メニューのカスタマイズによって非表示にしたメニューコマンドが一時的に表示されます。

見つからないメニューコマンド

トップへ戻る

メニューコマンドが見つからない場合、それが非表示になっている可能性があります。「詳細」以外のワークスペースを選択すると、一部のメニューコマンドが表示されません。また、自分自身か別のユーザーが「メニュー」コマンドを使用したためにメニューが非表示になったとも考えられます。

探しているコマンドが見つからない場合、次のいずれかの方法を試してください。

- メニューの一番下にある「すべてのメニュー項目を表示」を選択します。
- ウィンドウ／ワークスペース／メニュー項目をすべて表示を選択します。
- ウィンドウ／ワークスペースを選択し、別のワークスペースを選択します（「拡張設定」を選択すると、すべてのメニュー項目が表示されます）。
- 編集／メニューを選択してメニューコマンドを捜し、非表示になっていないことを確認します。

上記の操作を行ってもメニューコマンドが見つからない場合には、環境設定を元に戻してみます。

トップへ戻る

キーボードショートカットセットの使用

ツールヒントを使用するとショートカットに関する簡単なリファレンスを確認することができます。また、InDesign にはショートカット編集機能が用意されており、全ショートカットの表示、ショートカットリストの作成、ユーザーショートカットの作成および編集を行うことができます。ショートカット編集では、デフォルトのショートカットセットに含まれているコマンド以外にも、ショートカットキーの設定が可能なすべてのコマンドがリスト表示され、作業に適したショートカットを作成することができます。

キーボードショートカットは、段落スタイルや文字スタイル（段落スタイルと文字スタイルの追加を参照）またはスクリプトと関連付けることもできます。

ショートカットキーの使用に関するビデオチュートリアルについては、www.adobe.com/go/vid0066_jp を参照してください。

使用するショートカットセットの変更

1. すべてのドキュメントについてショートカットセットをアクティブにする場合は、ドキュメントを開いていないことを確認します。
2. 編集／キーボードショートカットを選択します。
3. セットポップアップメニューからショートカットセットを選択します。例えば、「QuarkXPress® 4.0J 用」を選択します。
4. 「OK」をクリックします。

ショートカットの表示

1. 編集／キーボードショートカットを選択します。
2. セットポップアップメニューからショートカットセットを選択します。
3. 「機能エリア」から表示するコマンドを含むエリアを選択します。
4. 「コマンド」から表示するコマンドを選択します。「現在のショートカット」セクションにショートカットが表示されます。

印刷用ショートカットのリストの作成

1. 編集／キーボードショートカットを選択します。
2. セットポップアップメニューからショートカットセットを選択します。
3. 「セット表示」をクリックします。

選択したセットの、使用中および未定義のすべてのショートカットの一覧のテキストファイルが開きます。

新しいショートカットセットの作成

1. 編集／キーボードショートカットを選択します。
2. 「新規セット」をクリックします。
3. 新しいショートカットセットの名前を入力し、元とするセットポップアップメニューから基準にするセットを選択します。「OK」をクリックします。

ショートカットの作成または再定義

1. 編集／キーボードショートカットを選択します。
2. セットポップアップメニューからショートカットセットを選択するか、「新規セット」をクリックして新しいショートカットセットを作成します。
   注意： デフォルトまたは QuarkXPress のショートカットセットは編集できません。代わりに、これらのセットを元にした新しいセットを作成して編集します。
3. 「機能エリア」で、定義または再定義するコマンドを含むエリアを選択します。
4. コマンドリストから定義または再定義するコマンドを選択します。
5. 「新規ショートカット」ボックスをクリックして、新しいショートカット用のキーを押します。キーの組み合わせが他のコマンド用に使用されている場合は、「現在の割り当て」にそのコマンドが表示されます。この場合は、オリジナルのショートカットを変更するか、別の新しい

ショートカットを指定するかを選択できます。
注意： テキストの入力と区別がつかなくなるので、メニューコマンドには、文字キーが 1 つだけのショートカットを割り当てないでください。挿入点がアクティブになっているときにキーが 1 つだけのショートカットを入力すると、そのキーの文字がテキストに挿入される代わりに、そのショートカットがアクティブになります。

6. 「内容」リストで、ショートカットキーを機能させたい内容を選択します。設定したショートカットは、「内容」リストで選択されている部分でだけ機能します。例えば、「内容」で表を選択し、「セルを結合」コマンドに Ctrl+G キーを割り当て、同じショートカットキーを「内容」からテキストを選択して「特殊文字を挿入」などのコマンドに割り当てることもできます。
注意： ドキュメントの状態に関係なく、ショートカットを使いたい場合は、「デフォルト」でショートカットを割り当ててください。表やテキストなど、違う状況で割り当てたショートカットは、「デフォルト」で割り当てたショートカットより優先されます。
7. 次のいずれかの操作を行います。
   - ショートカットがない場合は、「割り当て」をクリックして新しいショートカットを作成します。
   - 「割り当て」をクリックして、別のショートカットをコマンドに追加します。メニューコマンドには複数のショートカットを割り当てることができます。
8. ダイアログボックスを閉じるには、「OK」をクリックします。ダイアログボックスを開いたまま、さらにショートカットを入力する場合は「保存」をクリックします。

キーボードショートカットセットのコピー

キーボードショートカットセット（*.indk）は、2 か所に保存されます。アプリケーションに組み込みのショートカットは、メインアプリケーションフォルダーの Presets フォルダーに保存されます。ユーザーが作成したショートカットは、次の場所の InDesign Shortcut Sets フォルダーに保存されます。

Windows XP Documents and Settings¥[ユーザー名]¥Application Data¥Adobe¥InDesign¥[バージョン]¥[言語]¥InDesign Shortcut Sets
Windows Vista および Windows 7 ユーザー¥[ユーザー名]¥AppData¥Roaming¥Adobe¥InDesign¥[バージョン]¥[言語]¥InDesign Shortcut Sets
Mac OS ユーザー/[ユーザー名]/ライブラリ/Preferences/Adobe InDesign/[バージョン]/[言語]/InDesign Shortcut Sets
作成したキーボードショートカットセットをコンピューター間でコピーする場合は、*.indk ファイルをコピー先のコンピューターの同じ場所にコピーします。

ショートカットセットは、カスタムの場所からアプリケーションフォルダーに移動することもできます。移動したカスタムショートカットは、コンピューターを共有するすべてのユーザーが使用できます。ただし、移動元と移動先に同じ名前のセットがないことを確認して移動してください。アプリケーションのショートカットセットとカスタムのセットは異なる名前にします。

関連項目

(cc) BY-NC-SR

法律上の注意 | プライバシーポリシー

復元と取り消し

ドキュメントの復元
誤操作の取り消し

ドキュメントの復元

トップへ戻る

InDesign には、自動復元機能が備わっており、予期しない電源障害やシステム障害からデータを保護します。自動的に復元されたデータは、オリジナルのドキュメントファイルとは別の一時ファイルとしてディスクに保存されます。自動復元ファイルに保存されたドキュメントの更新データは、「保存」や「別名で保存」を選択したり、InDesign を正常終了すると自動的にオリジナルのドキュメントファイルに追加されるため、通常の状況では自動復元データについて考慮する必要はありません。自動復元データは、予期しない電源障害やシステム障害が発生する前に、データを正常に保存できなかった場合に重要です。

万全を期すため、予期しない電源障害やシステム障害に備えて、頻繁にファイルを保存してバックアップファイルを作成しておいてください。

復元されたドキュメントの検索

1. コンピューターを再起動します。
2. InDesign を起動します。

   自動復元データが存在する場合、InDesign では復元したドキュメントが自動的に表示されます。ドキュメントウィンドウのタイトルバーのファイル名の後に「復元」という文字が表示されている場合、そのドキュメントには、自動的に復元された未保存の変更が含まれていることを示しています。

   注意： InDesign が自動的に復元された変更を使ってドキュメントを開くことができない場合は、その自動復元データが破損している可能性があります。
3. 次のいずれかの操作を行います。
   - 復元データを保存するには、ファイル／別名で保存を選択し、ファイルの保存場所と新しい名前を指定して、「保存」をクリックします。「別名で保存」は、自動復元データを含む復元バージョンのファイルを保存します。保存すると、タイトルバーから「復元」という文字が消えます。
   - 自動的に復元された変更を破棄して、障害が発生する前にディスクに最後に保存したドキュメントを使用する場合は、復元ファイルを保存せずに閉じ、ディスクに保存されているファイルを開くか、ファイル／復帰を選択します。

自動復元データの保存場所の変更

1. 編集／環境設定／ファイル管理（Windows）または InDesign／環境設定／ファイル管理（Mac OS）を選択します。
2. 「ドキュメント復帰データ」の「参照」（Windows）または「選択」（Mac OS）をクリックします。
3. 復元したドキュメントの新しい保存場所を指定し、「選択」をクリックして「OK」をクリックします。

誤操作の取り消し

トップへ戻る

必要なら、時間のかかる操作を完了前にキャンセルしたり、直前の変更を取り消したり、前に保存されたバージョンに復帰したりできます。最新の操作からさかのぼって数百の操作を取り消したり、やり直すことができます。ただし、その操作の数はメモリー容量（RAM）容量や実行した操作の種類によって異なります。記録される一連の操作は、「別名で保存」コマンドを選択するか、ドキュメントを閉じるか、プログラムを終了したときに破棄されます。

❖ 次のいずれかの操作を行います。

- 最新の変更を取り消すには、編集／[操作名] を取り消しを選択します（スクロールなどの取り消せない操作もあります）。
- 操作をやり直すには、編集／[操作名] をやり直しを選択します。
- 最後にプロジェクトを保存してから行ったすべての変更を取り消すには、ファイル／復帰（InDesign）またはファイル／コンテンツの復帰（InCopy）を選択します。
- 変更を適用せずにダイアログボックスを閉じるには、「キャンセル」をクリックします。

(cc) BY-NC-SR

法律上の注意 | プライバシーポリシー

管理されているファイルの使用

共有コンテンツを開く
コンテンツのチェックアウト
管理されているファイルを開く（**InCopy**）
アサインファイルの更新（**InDesign**）
コンテンツの更新
誤って作業コンテンツを更新した場合
InDesign デザインの更新
コンテンツのチェックイン
変更の保存（**InDesign**）
変更の保存（**InCopy**）

共有コンテンツを開く

トップへ戻る

アサインファイル（.inca）を開くことができるのは InCopy ユーザーのみです。アサインを含む InDesign ファイルを InCopy ユーザーが開いた場合、そのユーザーは、アサインに関係なく、管理されているすべてのコンテンツにアクセスできます。

❖ 次のいずれかの操作を行います。

- InCopy で、ファイル／開くを選択してアサインファイル（.icma または .inca）を選択し、「開く」をクリックします。
- InDesign または InCopy で、ファイル／開くを選択して、アサインされたコンテンツを含む InDesign ファイル（.indd）を選択し、「開く」をクリックします。
- アサインパッケージを開きます。パッケージの受信（InCopy）を参照してください。

アサインファイル名とそのコンテンツがアサインパネルに表示されます。

コンテンツのチェックアウト

トップへ戻る

アイテムをチェックアウトすると、隠しファイル属性を持つロックファイル（.idlk）がファイルシステム上に作成されます。ユーザーがコンテンツをチェックアウトすると、そのユーザーだけにコンテンツの制御が与えられ、他のユーザーは変更を加えることができないようにロックされます。チェックアウトできるのは InCopy 用のコンテンツのみです。レイアウト情報を含む InDesign ドキュメントはチェックアウトできません。

チェックアウトした 1 つ以上の InCopy コンテンツファイルを含む InDesign ドキュメントを閉じようとすると、警告メッセージが表示され、すべてのコンテンツをチェックインするよう求められます。コンテンツファイルをチェックインせずにドキュメントを閉じた場合、次にその InDesign ドキュメントを開くときにも、それらのファイルはチェックアウトされた状態のままです。InDesign ドキュメントを保存すると、編集可能なすべての InCopy コンテンツファイルも自動的に保存されます。

コンテンツのチェックアウト（**InDesign**）

❖ 次のいずれかの操作を行います。

- レイアウト内で、編集するテキストフレームまたはグラフィックフレームを選択し、編集／InCopy／チェックアウトを選択します。
- アサインパネルでファイルを選択し、パネルメニューの「チェックアウト」を選択します。

使用可能なコンテンツを InDesign でチェックアウトすると、InDesign のフレームに編集中アイコン が表示されます。InCopy では、InCopy フレームおよびアサインパネル（アサインファイルをローカルサーバーに保存した場合）に、使用中アイコン が表示されます。

コンテンツのチェックアウト（**InCopy**）

1. 次のいずれかの操作を行います。
   - 使用したいコンテンツがアサインに含まれている場合は、ファイル／開くを選択し、目的のアサインファイル（.icma または .inca）を選択します。
   - 使用したいコンテンツが個別のファイルとして書き出されている場合は、ファイル／開くを選択し、目的の InCopy ファイル（.icml または .incx）を選択します。コピーフィットを行えるようにレイアウトを表示するには、InDesign ドキュメントを選択します。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - 単一の InCopy コンテンツファイルをチェックアウトするには、ファイル／チェックアウトを選択します。
   - 一度にアサインに含まれるすべてのコンテンツをチェックアウトするには、アサインパネルでアサインを選択し、パネルメニューから

「チェックアウト」を選択します。

- アサインに含まれる個別のアイテムをチェックアウトするには、アサインパネルでアサインリストを開いて 1 つまたは複数のアイテムを選択し、パネルメニューから「チェックアウト」を選択します。

アサインパネルのアイテムの横に編集中アイコン が表示され、そのコンテンツが自分に対してチェックアウトされており、占有して使用できることを示します。

3. コンテンツを更新して、変更を反映させるかどうかを確認するダイアログが表示された場合は、「OK」をクリックします。

InCopy で、使用可能なコンテンツをチェックアウトすると、InCopy のフレームおよびアサインパネルに編集中アイコン が表示されます。InDesign では、InDesign フレーム上に使用中アイコン が表示されます。

トップへ戻る

管理されているファイルを開く（InCopy）

すばやく執筆と編集を行うには、管理されているコンテンツファイル（.icml または .incx）を InCopy で直接開き、そのファイルをストーリービューで編集します。管理されている個別のファイルは、編集のためにチェックアウトする必要はありません。InCopy が自動的にファイルをチェックアウトします。ファイルを保存して閉じると、InCopy がそのコンテンツを自動的にチェックインします。個別のファイルを開いている場合は、保存コマンドの動作は異なります。

トップへ戻る

アサインファイルの更新（InDesign）

アサインに対して加えた変更は、手動で、または現在のドキュメントを閉じるときに保存することができます。アサインファイルを更新することによってのみ、InCopy ユーザーが最新のレイアウトでファイルを使用できるようになります。

❖ 次のいずれかの操作を行います。

- 選択したアサインを更新するには、アサインパネルでアサインを選択し、アサインパネルメニューから「選択したアサインを更新」を選択します。
- 現在のドキュメント内のすべての期限切れアサインを更新するには、アサインパネルメニューから「期限切れのアサインを更新」を選択します。期限切れのアサインのみが更新されます。
- 現在のドキュメント内のすべてのアサインを更新するには、アサインパネルメニューから「すべてのアサインを更新」を選択します。

注意： InDesign でアサインを更新したときに、InCopy ユーザーがそのアサインファイルを開いている場合は、InCopy のアサインパネル上でそのアサインファイルの横に期限切れアイコン が表示されます。

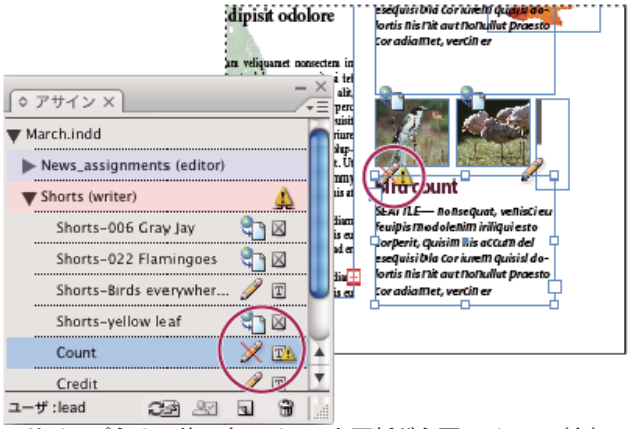
トップへ戻る

コンテンツの更新

常に最新のコンテンツを使用するためには、アサインパネルに期限切れアイコンが表示されているかどうかに注意し、それに応じてコンテンツを更新するようにします。使用しているコンピューター上に表示されているファイルのバージョンと、ファイルシステム上のファイルのバージョンが一致するように、InCopy アサインファイルとそのコンテンツを更新するか、またはファイルシステム上の最新の複製から個別のコンテンツファイルの複製を更新します。ファイルの更新を行う際はチェックインまたはチェックアウトを行う必要はなく、更新することで編集権限も与えられません。ただし、別のユーザーがロックファイルを削除してしまった場合は、更新によって問題が発生する場合があります。

注意： コンテンツを更新しても、返送されていないアサインパッケージのコンテンツは更新されません。
一般的な更新のワークフローは次のとおりです。

1. InCopy ユーザーが、アサインファイルを開くか個別のコンテンツファイルをチェックアウトして、そのコンテンツを編集します。
2. InCopy ユーザーがコンテンツファイルを保存すると、それによりファイルシステム上の複製が更新されます。InCopy ユーザーは作業を続けます。
3. InDesign ユーザーは、アサインパネルおよび選択項目の横に、更新が必要なことを示すアイコン が表示され、関連するフレームに使用中アイコン と内容（テキスト）は更新が必要アイコン または内容（グラフィック）は更新が必要アイコン が表示されていることを確認できます。



アサインパネルの使用中アイコンと更新が必要アイコン（左）、レイアウトの内容は更新が必要アイコン（右）

4. InDesign ユーザーは、コンテンツを更新します。

管理されているドキュメントを開くときにコンテンツを更新する（InDesign）

1. ファイル／開くを選択し、開くファイルを選択して、「開く」をクリックします。
2. ファイルシステム上の変更されたコンテンツでドキュメントを更新するかどうかを確認するダイアログボックスが表示されたら、「はい」をクリックします。
3. 次のいずれかの操作を行います。
   - InDesign にリンクを更新させるには、「リンクを自動修復」をクリックします。
   - リンクを手動で修復するには、「修復なし」をクリックし、リンクパネルで更新するファイルを選択してから、パネルメニューの「リンクを更新」を選択します。

作業中のコンテンツの更新（InDesign）

❖ 次のいずれかの操作を行います。

- レイアウトでテキストフレームまたはグラフィックフレームを選択し、編集／InCopy／コンテンツを更新を選択します。
- リンクパネルでテキストフレームまたはグラフィックフレームを選択し、リンクの更新ボタン をクリックするか、パネルメニューから「リンクを更新」を選択します。

作業中のコンテンツの更新（InCopy）

❖ 次のいずれかの操作を行います。

- テキストフレーム内に挿入点を置いてフレームを選択し、ファイル／コンテンツを更新を選択します。
- アサインパネルでコンテンツを選択し、コンテンツを更新ボタン をクリックするか、アサインパネルメニューから「コンテンツを更新」を選択します。

リンクパネルを使用してコンテンツを更新することもできます。

トップへ戻る

誤って作業コンテンツを更新した場合

通常、自分がチェックアウトしたコンテンツに対しては更新コマンドは使用不可になっています。これは、そのコンテンツは常に最新であるはずだからです。しかし、チェックアウトしたコンテンツのロックを、他のユーザーが削除してコンテンツを修正した場合（ロックファイル [.idlk] をごみ箱 [Windows] またはゴミ箱 [Macintosh] にドラッグ）、望ましくない状況が起こる場合があります。この場合、自分に対してコンテンツがチェックアウトされている場合でも、更新コマンドが使用可能になり、2 人のユーザーが 1 つのコンテンツを同時に編集することができるようになります。コンテンツを更新すると、作業内容が失われてしまいます。このような状況を避けるためにも、ロックファイルを削除しないでください。

トップへ戻る

InDesign デザインの更新

InDesign ユーザーは、InCopy ユーザーがテキストフレームのテキストを編集している間に、レイアウトを更新（例えば、ストーリー内でのそれらのテキストフレームのサイズや位置を変更）し、その変更を保存することができます。共有サーバーワークフローでは、レイアウトの更新が InCopy ユーザーにどのように通知されるかは、その InCopy ユーザーがアサインファイルを開いているのか、個別のコンテンツファイルをチェックアウトしているのかによって異なり、また、リンクされている InDesign ファイルも開いているかどうかによって異なります。

以下の点に注意してください。

- InDesign ユーザーが、アサインファイルに含まれているフレームのレイアウトを変更する場合は、デザインの変更を InCopy ユーザーが使用

できるように、そのアサインを更新する必要があります。ドキュメントを保存することで、InDesign によって自動的にアサインが更新されるわけではありません。

- InDesign ユーザーが共有サーバーに保存されているアサインを更新すると、InCopy のアサインパネルの該当するアサインファイル（または InDesign ドキュメント名）の横に、期限切れアイコン が表示されます。InCopy ユーザーは、最新のレイアウトを確認するためには、デザインを更新する必要があります。
- InDesign ユーザーが、アサインに含まれていない、書き出されたコンテンツのレイアウトを変更した場合は、InCopy のアサインパネルの InDesign ドキュメント名の横に期間切れアイコンが表示され、ドキュメントタイトルバーにはレイアウトが期限切れであることが示されます。InCopy ユーザーは、現在アクティブな InDesign ドキュメントを、最新のレイアウトおよびスタイルのコンテンツに更新することができます。

InCopy でデザインを更新することで、レイアウトビューおよびゲラビューで最新の外観や改行を参照できるため、割り付け作業に役に立ちます。

❖ 次のいずれかの操作を行います。

- アサインファイルを開いた状態のときに、アサインパネルでそのアサインファイル名の横に期限切れアイコン が表示されている場合は、デザインを更新ボタン をクリックするか、ファイル／デザインを更新を選択します。このコマンドは取り消しできません。
- 複数のアサインファイルを使用中であり、複数の InDesign ドキュメントを開いている場合は、アクティブにしたいファイルを選択してから、ファイル／デザインを更新を選択します。

トップへ戻る

コンテンツのチェックイン

管理されているコンテンツファイルをチェックインするときには、そのファイルをファイルシステム上の共有の保存場所に保存します。その場所に保存することで、他のユーザーが編集その他の変更を行うためにファイルをチェックアウトできます。InDesign からテキストフレームまたはグラフィックフレームを書き出すことでも、自動的にコンテンツがチェックインされます。

チェックインされたファイルは編集のために使用可能ですが、実際には、（InCopy でコンテンツを単独で編集している場合を除いて）ファイルをチェックアウトしないと編集はできません。コンテンツをチェックインすることで、編集はできなくなりますが、ファイルは閉じられません。コンテンツは画面上で開かれたままですが、読み取り専用の状態になります。

LiveEdit Workflow プラグインを使用している場合、ファイルバージョンは複数作成されません。InCopy または InDesign でファイルを更新すると、ファイルが上書きされます

アサインパッケージを使用している場合は、チェックインの後にアサインパッケージを返送または転送します。

管理されているコンテンツのチェックイン（InDesign）

❖ 次のいずれかの操作を行います。

- レイアウトでコンテンツを選択して、編集／InCopy／チェックインを選択します。
- アサインパネルでコンテンツを選択し、パネルメニューから「チェックイン」を選択します。

管理されているコンテンツのチェックイン（InCopy）

❖ 次のいずれかの操作を行います。

- レイアウトビューでコンテンツを選択して、ファイル／チェックインを選択します。
- アサインパネルでコンテンツを選択し、パネルメニューから「チェックイン」を選択します。

注意： コンテンツをチェックインする前に、最新の変更を元に戻すことができます。
ファイルをチェックインすると、InDesign のレイアウト内のテキストフレームまたはグラフィックフレーム、InCopy のレイアウトビュー、アサインパネルに使用可能アイコンが表示され、ストーリーバー（InCopy）に「使用可能」と表示されます。

トップへ戻る

変更の保存（InDesign）

チェックアウトしたコンテンツを使用しているときには、変更を保存して、ファイルシステム上の複製を更新することができます。

❖ 次のいずれかの操作を行います。

- InDesign ドキュメントまたはリンクされているファイルのいずれに対しても変更を保存せずに、選択したコンテンツを保存するには、レイアウト内でコンテンツを選択して、編集／InCopy／コンテンツを保存を選択します。
- 自分に対してチェックアウトされているすべてのコンテンツファイルを保存するには、ファイル／保存を選択します。この保存操作では、InCopy で開いているアサインファイルまたはコンテンツファイルは、自動的には更新されず、アサインパネル上に期限切れアイコン が表示されます。
- 既存の InCopy ファイルへのリンクを維持したまま、新しい名前で InDesign ドキュメントを保存するには、ファイル／別名で保存を選択します。この操作によって InDesign ファイル内のアサインは更新されるまで存在しないものとして表示されます。
- 現在アクティブなドキュメントの複製を保存するには、ファイル／複製を保存を選択します。既存の InCopy ファイルへのリンクを維持したまま、その複製に新しい名前と保存場所を指定することができます。

変更の保存（InCopy）

❖ 次のいずれかの操作を行います。

- InCopy コンテンツファイルを、同じ名前でファイルシステム上の同じ保存場所に保存するには、ファイル／コンテンツを保存を選択します。ファイルはチェックアウトされたままです。
- InCopy コンテンツファイルを別の名前で保存するには、ファイル／コンテンツを別名で保存を選択します。新しく作成されたコンテンツファイルは、ワークフローでの管理の対象ではありません。「コンテンツを別名で保存」コマンドは、InCopy コンテンツファイル（.icml または .incx）を直接開いた場合にのみ使用できます。
- 現在アクティブな InCopy コンテンツファイルの複製を保存するには、ファイル／コンテンツの複製を保存を選択します。この複製には、新しい名前と保存場所を指定することができます。保存された複製は、ワークフローでの管理の対象ではありません。「コンテンツの複製を保存」コマンドは、InCopy コンテンツファイル（.icml または .incx）を直接開いた場合にのみ使用できます。
- 現在開いている、チェックアウト中の InCopy コンテンツファイルをすべて保存するには、ファイル／すべてのコンテンツを保存を選択します。これにより、すべてのファイルが現在の保存場所に保存されます。「すべてのコンテンツを保存」コマンドは、アサインまたは InDesign ファイルを直接開いた場合にのみ使用できます。

関連項目

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

ワークスペースの表示

ズームインとズームアウト
表示の調整
改ページ
別ウィンドウの操作
エッジを滑らかにするためのアンチエイリアスの使用
文字のグリーキング
パネルやダイアログボックスでの値の計算
パネルやダイアログボックスへの値の入力

ズームインとズームアウト

トップへ戻る

ドキュメントの表示を拡大または縮小するには、ズームツールまたはズームコマンドを使用します。

ズームインまたはズームアウト

- ズームインするには、ズームツール を選択し、拡大する領域をクリックします。クリックするごとに、クリックした位置を中心として既定の割合で表示が拡大されます。最大倍率に達すると、ズームツールのプラス記号がなくなります。ズームアウトするには、Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押しながら、縮小したい領域をクリックします。クリックするたびに表示が縮小されます。
- 設定済みの次の倍率まで拡大するには、表示したいウィンドウをアクティブにして、表示／ズームインを選択します。設定済みの前の倍率まで縮小するには、表示／ズームアウトを選択します。
- 特定の倍率を設定するには、アプリケーションバーのズームレベルで倍率を入力または選択します。
  Mac OS では、アプリケーションバーを隠す（ウィンドウ／アプリケーションバー）ことによって、ステータスバーにズーム倍率を表示できます。Windows では、アプリケーションバーを隠すことはできません。
- ズームインまたはズームアウトするには、Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押しながら、マウスのスクロールホイールを使用します。
- ドラッグで拡大するには、ズームツールを選択して、拡大したい領域の周りをドラッグします。

パワーズームの使用

パワーズームによりドキュメントページを簡単にスクロールすることができます。手のひらツールを使用すると、ズームインまたはズームアウトを使用したり、ドキュメント全体をスクロールしたりできます。この機能は、長いドキュメントで特に便利です。

1. 手のひらツール をクリックします。

   手のひらツールをアクティブにするには、スペースバーを押すか、テキスト編集中の場合は Alt キー / Option キーを押します。

2. 手のひらツールをアクティブにした状態でマウスボタンを押したままにします。

   ドキュメントがズームアウトし、表示されるスプレッドの領域が大きくなります。赤いボックスは表示エリアを示します。

3. マウスボタンを押したまま赤いボックスをドラッグして、ドキュメントページをスクロールします。矢印キーを押すか、マウスのスクロールホイールを使用して、赤いボックスのサイズを変更します。
4. マウスボタンを放して、ドキュメントの新しい領域にズームインします。

   ドキュメントウィンドウが元の倍率に戻るか、または赤いボックスのサイズに戻ります。

ズームレベル 100 %での表示

- ツールパネルのズームツールをダブルクリックします。
- 表示／100 %表示を選択します。
- アプリケーションバーのズームレベルで、倍率「100」を入力または選択します。

表示の調整

トップへ戻る

アクティブウィンドウ内のページおよびスプレッドに表示を合わせたり、表示をスクロールして、ドキュメント内の任意の領域を表示することができます。

アクティブウィンドウ内にページ、スプレッドまたはペーストボードを合わせる

- 表示／ページ全体を選択します。
- 表示／スプレッド全体を選択します。
- 表示／ペーストボード全体を選択します。

ビューのスクロール

ページやオブジェクトがドキュメントウィンドウの中央に表示されるように、簡単に調整することができます。このテクニックは、ページ間の移動にも役立ちます。

❖ 必要に応じて次の操作を行います。

- ツールパネルから手のひらツール をクリックして選択し、ドキュメントウィンドウ上をドラッグします。Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押しながらスペースキーを押して、一時的に手のひらツールに切り替えます。
- 水平または垂直スクロールバーをクリックするか、スクロールボックスをドラッグします。
- PageUp または PageDown キーを押します。
- マウスのスクロールホイールを使用します。左右にスクロールするには、Ctrl キー（Windows）または Command キー（Mac OS）を押しながらマウスのスクロールホイールを使用します。

トップへ戻る

改ページ

InDesign では、ドキュメントのページ間を簡単に移動することができます。例えば、ほとんどの Web ブラウザーにページを移動するための「戻る」と「進む」ボタンがあるように、InDesign でも、ページが表示された順序が記録されます。

❖ 必要に応じて次の操作を行います。

- 現在のセッション中に表示したページ間を表示した順序で移動するには、レイアウト／前に戻るまたは次に進むを選択します。
- 次のページに移動するには、次スプレッドボタン、前のページに移動するには、前スプレッドボタン をクリックします（これらのボタンはドキュメントウィンドウの下部にあります）。またはレイアウト／次ページまたは前ページを選択します。

  注意： ページナビゲーションは、右閉じ／左閉じによって異なります。例えば、ドキュメントのページが右から左に進む場合は、 は次ページへボタンになり、 は前ページへボタンになります。
- 先頭ページに移動するには、先頭スプレッドボタン、最終ページに進むには、最終スプレッドボタン をクリックします（これらのボタンはドキュメントウィンドウの左下隅にあります）。またはレイアウト／先頭ページまたは最終ページを選択します。
- 特定のページに移動するには、レイアウト／ページへ移動を選択してページ番号を指定し、「OK」をクリックします。またはドキュメントウィンドウのページボックスの右側にある下向き矢印キーをクリックして、ページを選択します。



ページボックスからページを選択して特定ページへ移動

- マスターページに移動するには、ドキュメントウィンドウの左下のページボックスに マスターページ名の最初の数文字を入力して、Enter キーまたは Return キーを押します。または、ページパネルでマスターページアイコンをダブルクリックします。

トップへ戻る

別ウィンドウの操作

同じドキュメントを別のウィンドウに表示したり、他の InDesign ドキュメントを同時に表示することができます。別ウィンドウを使用して、異なるスプレッド、特に連続してないスプレッドを同時に比較できます。また、同じページを異なる倍率で表示して、レイアウト全体への影響を検討しながら、細かい作業を行うこともできます。さらに、一方のウィンドウにマスターページを表示し、もう一方のウィンドウにマスターページに基づくページを表示して、マスターページの編集によってドキュメントの各部がどのような影響を受けるかをチェックすることができます。

ドキュメントを再び開くと、最後に使用したウィンドウだけが表示されます。

- 同じドキュメントを同時に別ウィンドウで開くには、ウィンドウ／アレンジ／新規ウィンドウを選択します。
- ウィンドウを少しずつずらしながら重ねて表示するには、ウィンドウ／アレンジ／重ねて表示を選択します。または、ウィンドウ／アレンジ／並べて表示を選択し、すべてのウィンドウを並列表示します。
- ウィンドウをアクティブにするには、ウィンドウのタブまたはタイトルバーをクリックします。または、ウィンドウメニューから使用するウィンドウを選択します。1 つのドキュメントに複数のウィンドウを開いた場合は、それらのウィンドウを表示した順番に番号が付けられます。

- アクティブドキュメントのウィンドウをすべて閉じるには、Shift+Ctrl+W（Windows）または Shift+Command+W（Mac OS）を押します。
- 開いているドキュメントのウィンドウをすべて閉じるには、Shift+Ctrl+Alt+W（Windows）または Shift+Command+Option+W（Mac OS）を押します。

トップへ戻る

エッジを滑らかにするためのアンチエイリアスの使用

アンチエイリアスは、背景のピクセルとエッジのピクセルの間に色を補間することによって、文字のエッジやビットマップ画像のジャギーを滑らかに見えるようにします。エッジのピクセルが変更されるだけなので、文字の細部は失われません。

1. 編集／環境設定／表示画質（Windows）または InDesign／環境設定／表示画質（Mac OS）を選択します。
2. 表示設定を調整ポップアップメニューで、アンチエイリアスをオンにする表示設定を選択します。

   アンチエイリアスは、表示設定ごとに有効または無効にできます。例えば、高品質表示ではアンチエイリアスを有効にし、高速表示では無効にすることができます。
3. 「アンチエイリアスを使用可能にする」を選択します。

トップへ戻る

文字のグリーキング

表示機能が不十分なためにテキストを小さな文字サイズで表示できない場合、InDesign ではそのテキストはグレー表示のバーとして表示されます。これを、文字のグリーキングといいます。指定したサイズ以下の文字は、画面上では文字として表示されず、そこに何か文字があることだけが示されます。

1. 編集／環境設定／表示画質（Windows）または InDesign／環境設定／表示画質（Mac OS）を選択します。
2. 表示設定を調整ポップアップメニューで、文字のグリーキング設定を変更する表示設定を選択します。

   文字のグリーキング値は、表示設定ごとに指定できます。
3. 「文字のグリーキング」に値を入力し、「OK」をクリックします。

ドキュメントのスクロール時にテキストと画像のグリーキングを行うかどうかを制御するには、環境設定ダイアログボックスの「インターフェイス」セクションを開き、希望する画質・パフォーマンスレベルにスライダーを合わせて「OK」をクリックします。

トップへ戻る

パネルやダイアログボックスでの値の計算

数値を入力するテキストボックスでは、簡単な計算を行うことができます。例えば、選択したオブジェクトを、現在の単位を使用して右に 3 単位移動する場合に、新たに水平位置を計算する必要はありません。変形パネルで現在の X 値の後に「**+3**」と入力するだけです。

パネルでは環境設定ダイアログボックスで設定した単位で計算されますが、他の単位を指定して計算することも可能です。

1. 数値を入力できるテキストボックスで、次のいずれかの操作を行います。
   - 現在の値全体を数式に置き換えるには、その値全体を選択します。
   - 現在の値を数式の一部として使用するには、その値の前または後をクリックします。
2. +（加算）、-（減算）、*（乗算）、/（除算）、%（百分率）のような算術演算子を使用して、簡単な数式を入力します。

   例えば、0p0+3、5mm + 4 などです。
3. Enter キーまたは Return キーを押すと、計算が適用されます。

   コントロールパネルと変形パネルでは、選択しているオブジェクトの複製を作成し、複製元のオブジェクトではなく、複製に計算を適用することができます。計算式を入力し、Alt+Enter キー（Windows）または Option+Return キー（Mac OS）を押します。

トップへ戻る

パネルやダイアログボックスへの値の入力

パネルやダイアログボックスでは、編集／環境設定／単位と増減値（Windows）または InDesign／環境設定／単位と増減値（Mac OS）で設定した単位と増減値が使用されます。ただし、現在の環境設定で指定されている単位を使用せずに、サポートされている単位を使用して値を指定することもできます。

❖ 必要に応じて次の操作を行います。

- ボックスに値を入力して、Enter キーまたは Return キーを押します。
- スライダーをドラッグします。
- ダイアルをドラッグします。
- パネル内の矢印ボタンをクリックして、値を変更します。
- ボックス内をクリックして、キーボードの上下矢印キーを使用して値を変更します。
- ボックスに割り当てられているポップアップメニューから値を選択します。

注意： 矢印ボタン、矢印キー、またはポップアップメニューを使用して値を変更した場合は、変更結果がすぐに適用されます。
関連項目

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

ツールパネル

ツールパネルの概要
ツールの概要
選択ツールの図解
描画ツールと文字ツールの図解
変形ツールの図解
修正ツールとナビゲーションツールの図解

ツールパネルの概要

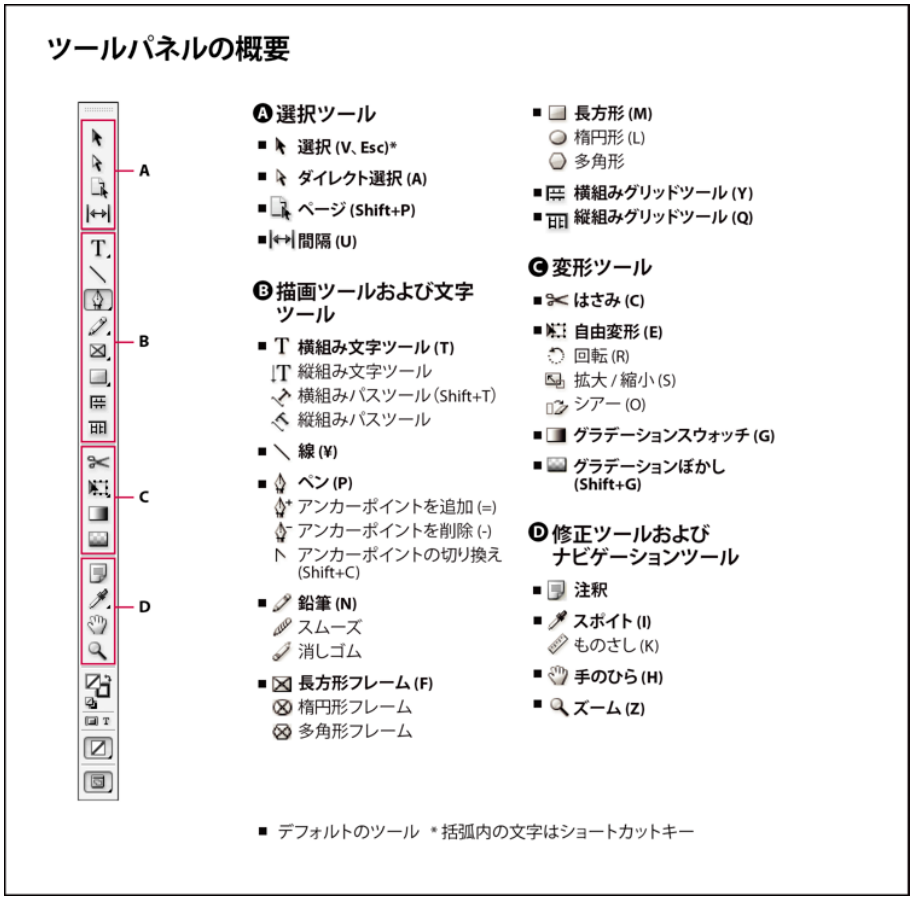
トップへ戻る

ツールパネルには、ページアイテムの選択、編集および作成を行う機能があります。また、文字、オブジェクト、線、グラデーションの色を選択するためのツールも用意されています。ツールパネルの全体のレイアウトは、各ユーザーが自由にウィンドウレイアウトやパネルレイアウトに合わせて変更できます。デフォルトでは、ツールパネルは縦 1 列にツールが並んだ状態で表示されますが、縦 2 列や横 1 列に設定することもできます。ただし、ツールパネル内の各ツールの並び順は変更できません。ツールパネルを移動するには、ツールパネルの上部をドラッグします。

あるツールを選択するには、ツールパネル内のツールアイコンをクリックします。また、ツールパネルには、表示されているツールに関係した、非表示のツールもあります。隠れているツールがあるツールアイコンには、その右側に三角形の矢印が表示されます。非表示のツールを選択するには、ツールパネルに現在表示されているツールをクリックしたままで、目的のツールを選択します。

ツールとショートカットキーの名前は、そのツールにポインターを合わせると表示されます。このとき表示されるテキストをツールヒントといいます。環境設定／インターフェイスの「カーソルとジェスチャーオプション」セクションにある「ツールヒントの表示速度」で「なし」を選択すると、ツールヒントをオフにできます。

選択したツールで使用できるショートカットや修飾キーを確認するには、ツールヒントパネルを開きます（ウィンドウ／ユーティリティ／ツールヒントを選択します）。



注意： コンテンツ収集ツールとコンテンツ配置ツールは CS5.5 以前では使用できません。

ツールパネルの表示

ウィンドウ／ツールを選択します。

ツールオプションの表示

✥ ツールパネル内のツールをダブルクリックします。

この操作は、スポイト、鉛筆、多角形などのツールでのみ可能です。

隠れているツールの表示と選択

1. ツールパネルで、隠れているツールのあるツールにポインターを合わせて、マウスボタンを押したままにします。
2. 隠れているツールが表示されたら選択します。

一時的なツールの選択

1. あるツールが選択されているときに、別のツールのキーボードショートカットを押します。
2. キーボードショートカットを押したままで、目的の操作を実行します。
3. キーボードショートカットを放すと、元のツールに戻ります。

例えば、間隔ツールが選択されているとき V キーを押すと、選択ツールを一時的に使用できます。V キーを放すと間隔ツールに戻ります。

ツールヒントの表示

ツールヒントパネルは、選択したツールやその修飾キーの機能を表示します。

1. ツールヒントパネルを表示するには、ウィンドウ／ユーティリティ／ツールヒントを選択します。
2. ツールパネルのツールを選択し、ツールとその修飾キーやショートカットの説明を表示します。

ツールパネルのレイアウトの変更

1. 編集／環境設定／インターフェイス（Windows）または InDesign／環境設定／インターフェイス（Mac OS）を選択します。
2. フローティングツールパネルポップアップメニューのレイアウトオプションを選択して、「OK」をクリックします。

または、ツールパネル上部の二重矢印アイコンをクリックして、ツールパネルレイアウトを変更することもできます。

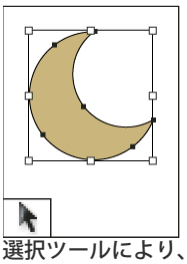
トップへ戻る

ツールの概要

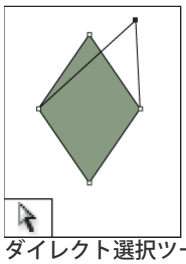
文字ツール 標準的なブロック形状または様々な形状、あるいはパス上に文字を作成し、書式を設定します（詳しくは、テキストフレームの作成を参照してください）。
描画ツール 長方形、楕円形、多角形、自由なパスの形状など、単純なオブジェクトから複雑なオブジェクトまでを描画、作成します（詳しくは、描画を参照してください）。
選択ツール オブジェクト、点または線を選択（アクティブに）します（詳しくは、オブジェクトの選択を参照してください）。
変形ツール オブジェクトの形状、方向、サイズを変更します（詳しくは、オブジェクトの変形を参照してください）。
ナビゲーションツール ドキュメント内の移動、ドキュメント内のビューの制御およびドキュメント内の距離の測定を行います（詳しくは、ズームインとズームアウトおよび定規と単位を参照してください）。
はさみツール パスやフレームを分割します（詳しくは、パスの分割を参照してください）。

トップへ戻る

選択ツールの図解



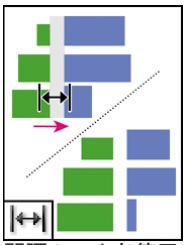
選択ツールにより、オブジェクト全体を選択することができます。



ダイレクト選択ツールにより、パス上のポイントまたはフレーム内の内容を選択することができます。



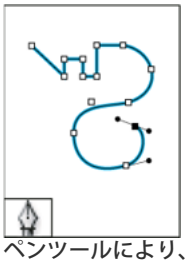
ページツールを使用すると、1つのドキュメント内に複数のページサイズを作成できます。



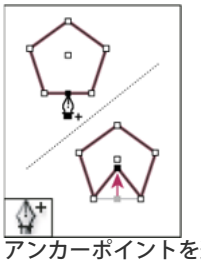
間隔ツールを使用すると、オブジェクト間の間隔を調整できます。

描画ツールと文字ツールの図解

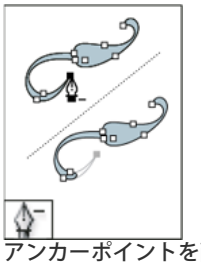
トップへ戻る



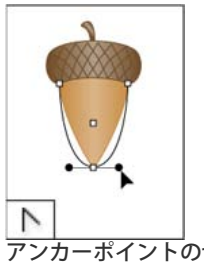
ペンツールにより、直線および曲線のパスを描画することができます。



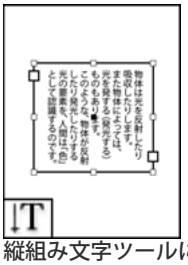
アンカーポイントを追加ツールにより、パスにアンカーポイントを追加することができます。



アンカーポイントを削除ツールにより、パスからアンカーポイントを削除することができます。



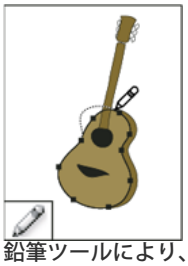
アンカーポイントの切り換えツールにより、コーナーポイントとスムースポイントを変換することができます。



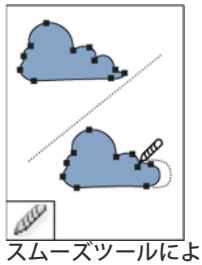
縦組み文字ツールにより、縦組みテキストフレームを作成したり、テキストを選択することができます。



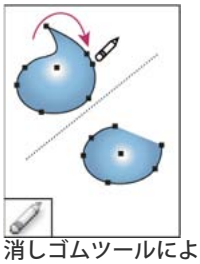
横組みパスツールにより、パス上で文字を作成および編集することができます。



鉛筆ツールにより、自由なパスを描画することができます。



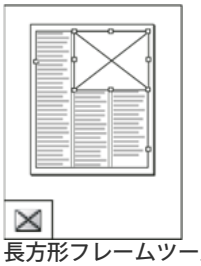
スムーズツールにより、パスから不要な凹凸を取り除くことができます。



消しゴムツールにより、パス上のポイントを削除することができます。



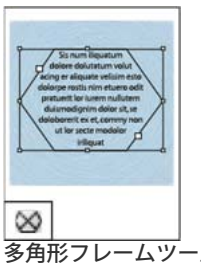
線ツールにより、線セグメントを描画することができます。



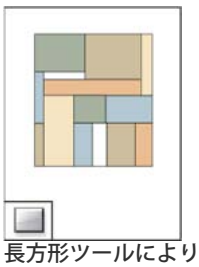
長方形フレームツールにより、正方形または長方形のプレースホルダーを作成することができます。



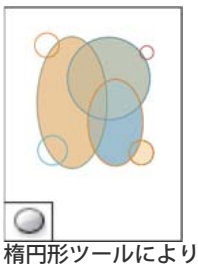
楕円形フレームツールにより、真円形または楕円形のプレースホルダーを作成することができます。



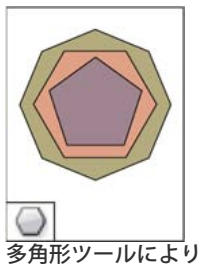
多角形フレームツールにより、多角形のプレースホルダーを作成することができます。



長方形ツールにより、正方形または長方形を作成することができます。



楕円形ツールにより、真円形または楕円形を作成することができます。



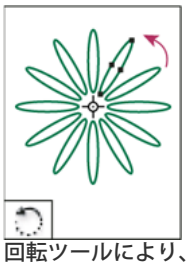
多角形ツールにより、多角形を作成することができます。

変形ツールの図解

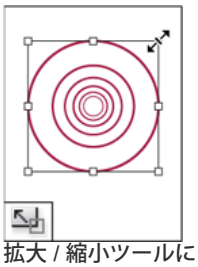
トップへ戻る



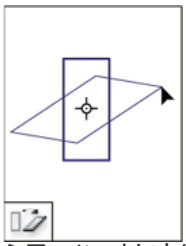
自由変形ツールにより、オブジェクトを回転させたり、拡大 / 縮小したり、また傾斜させることができます。



回転ツールにより、固定点を中心にしてオブジェクトを回転させることができます。



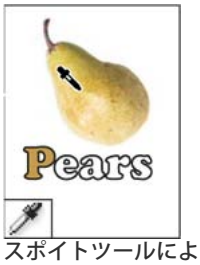
拡大 / 縮小ツールにより、固定点を中心にしてオブジェクトのサイズを変更することができます。



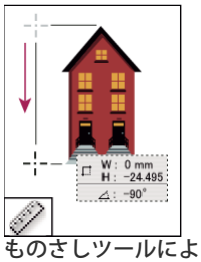
シアーツールにより、固定点を中心にしてオブジェクトを歪めることができます。

修正ツールとナビゲーションツールの図解

トップへ戻る



スポイトツールにより、オブジェクトのカラーおよび文字属性をサンプリングして他のオブジェクトに適用することができます。



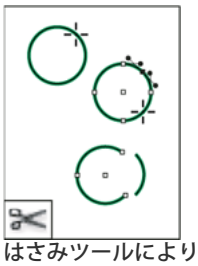
ものさしツールにより、2 点間の距離を測ることができます。



グラデーションスウォッチツールにより、オブジェクト内のグラデーションの開始点、終了点および角度を調整することができます。



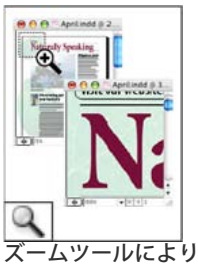
グラデーションぼかしツールにより、オブジェクトを背景にフェードすることができます。



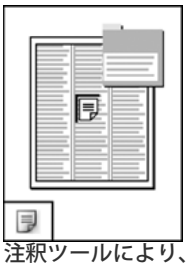
はさみツールにより、パスを特定の位置で切断することができます。



手のひらツールにより、ドキュメントウィンドウ内でページ表示を移動させることができます。



ズームツールにより、ドキュメントウィンドウ内の表示倍率を調整することができます。



注釈ツールにより、コメントを追加できます。

関連項目

(cc) BY-NC-SR

法律上の注意 | プライバシーポリシー

コンテンツの共有

InDesign からのコンテンツの書き出し
アサインパネルの概要
アサインファイル
アサインの作成とコンテンツの追加（InDesign）
コンテンツを独立した InCopy ファイルとして書き出す（InDesign）

InDesign からのコンテンツの書き出し

トップへ戻る

InDesign から InCopy へコンテンツを書き出すことで、この 2 つのアプリケーション間のリンクが確立されます。次のいずれかの方法で、InDesign のテキストフレーム、グラフィックフレーム、およびそれらのコンテンツを InCopy に書き出します。

- アサインファイル（*.icma）と呼ばれるコンテナファイルを作成し、関連するドキュメントアイテム（テキストおよびストーリー内のグラフィックなど）を一緒に編集できるように、それらのアイテムをグループ化してアサインに追加しますアサインの中のコンテンツは、*.icml ファイルとして書き出します。
- 編集／InCopy／書き出しの各サブメニューコマンドを使用して、テキストフレームとグラフィックフレームを（プレースホルダーフレームを含めて）それぞれ個別に書き出します。書き出したコンテンツは、*.icml ファイルとして保存します。

コンテンツが書き出されると、InDesign および InCopy で、書き出されたフレームの左上とアサインパネルに、小さいアイコンが表示されます。書き出したファイルへのリンクはリンクパネルに表示されます。これらのアイコンは、管理されているフレームのステータスを示し、ワークフローに属していないフレームと管理されているフレームを区別します。書き出されたコンテンツはすべてアサインパネルに表示されます。書き出しサブメニューコマンドを使用して書き出されたコンテンツは、アサインパネルのリストの「アサインされていない InCopy の内容」セクションに表示されます。どちらの方法でも、InCopy 用のコンテンツと InDesign ドキュメントとの間に管理された関連付けが確立されますが、一般的な方法はアサインファイルを使用する方法です。

コンテンツを書き出すことで、元の InDesign ドキュメントへのリンクを維持しながら、ユーザーがそのコンテンツをチェックアウトできるようになります（このリンクは InDesign から作成します。InCopy からリンクを作成することはできません）。

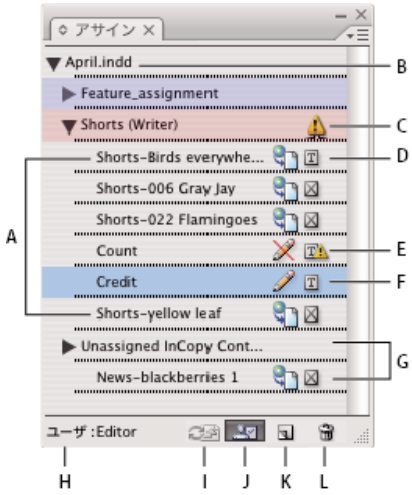
コンテンツを書き出すと、InCopy ユーザーは、InDesign ドキュメントで表示されるとおりのページレイアウト、スタイルなどを確認できます（ただし変更はできません）。

注意： InCopy を使用してテキストまたはアンカー付きグラフィックを作成してから、InDesign ドキュメントに配置することもできます。

アサインパネルの概要

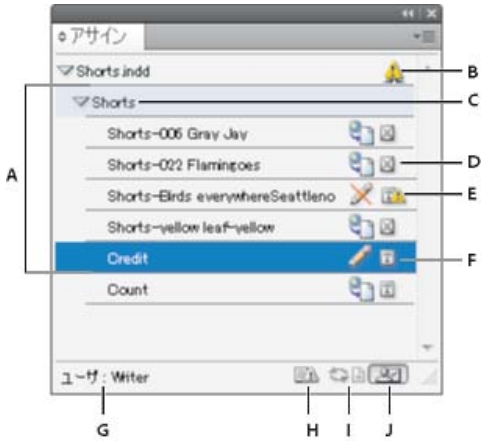
トップへ戻る

アサインに関する作業は、主にアサインパネルを使用して行います（InCopy の場合：ウィンドウ／アサイン、InDesign の場合：ウィンドウ／編集関連／アサイン）。アサインパネルには、現在アクティブな InDesign ドキュメントから書き出されたファイルと、そのファイルのステータスを示すアイコンが表示されます。また、アサインパネルメニューには、読み込みバージョンを管理するコマンドと、InCopy と InDesign の間でのファイル管理機能が含まれます。InCopy でアサインを開くと、アサインファイル名とそのコンテンツがアサインパネルに表示されます。アサインパネルでテキストフレームおよびグラフィックフレームをダブルクリックすることで、それらのフレームがドキュメントウィンドウ内で選択されます。
注意： InCopy 用に書き出されたコンテンツまたはアサインに追加されたコンテンツはすべて、リンクパネルにも一覧表示されます。コンテンツのチェックアウトとチェックインなどの一部のワークフロー管理は実行できますが、これらの操作はアサインパネルで実行することをお勧めします。



InDesign のアサインパネル

A. InCopy 用のコンテンツの名前 **B.** InDesign ドキュメント名 **C.** アサインが「期間切れ」のステータス **D.** 「使用可能」と「内容（テキスト）は最新」のステータス **E.** 「使用中」と「内容（テキスト）は更新が必要」のステータス **F.** 「編集中」と「内容（テキスト）は最新」のステータス **G.** アサインされていないコンテンツ **H.** ユーザー名 **I.** コンテンツを更新ボタン **J.** 選択範囲のチェックアウト / チェックインボタン **K.** 新規アサインボタン **L.** 選択したアサインを削除/内容を埋め込みボタン



InCopy のアサインパネル

A. InCopy 用のコンテンツの名前 **B.** アサインが「期間切れ」のステータス **C.** アサインファイル名 **D.** 「使用可能」と「内容（テキスト）は最新」のステータス **E.** 「使用中」と「内容（テキスト）は更新が必要」のステータス **F.** 「編集中」と「内容（テキスト）は最新」のステータス **G.** ユーザー名 **H.** デザインを更新ボタン **I.** コンテンツを更新ボタン **J.** 選択範囲のチェックアウト / チェックインボタン

トップへ戻る

アサインファイル

InDesign では、アサインファイルは、ページアイテムを整理するためのコンテナです。例えば、ストーリー内のすべてのアイテム（ヘッドライン、署名、コピー、グラフィック、キャプション）を選択して、それらを 1 人の InCopy ユーザーにアサインするとします。これらのアイテムをアサインファイルに追加することで、InCopy ユーザーは、自分が担当するコンテンツだけに簡単にアクセスできるようになります。アサインファイル（*.icma）は、ファイルシステム上、InCopy ストーリーバー、ステータスメッセージに現れます。アサインファイルを作成できるのは InDesign ユーザーのみです。InCopy ユーザーは、アサインファイルを開くことのみが可能です。

アサインを作成すると、デフォルトでは InDesign ドキュメントと同じ場所にフォルダーが作成されます。このアサインフォルダーには、アサインファイル（*.icma）と content フォルダーが含まれます。content フォルダーには、書き出された InCopy のストーリーファイル（.icml 形式）が含まれ、これらのファイルは画像やその他のリソースの一部を成します。アサインが作成されたら、それをすべてのユーザーがアクセスできる場所にあるプロジェクトフォルダーに保管するか、アサインパッケージを作成して配布します。コンテンツがアサインに追加される前に書き出されると、書き出されたファイルはアサインの content フォルダーに移動されません。

アサインファイルには次のものが含まれます。

- 関連付けられた、プレースホルダフレームを含むページアイテムへのリンクおよび編集可 / 不可を示す情報。これらの要素により、InCopy ユーザーは InCopy の単一ファイルを開いて、複数のページアイテムを編集する権限を持てます。
- 移動、拡大 / 縮小、回転、傾斜など、アサインファイルに含まれるグラフィックに対する変形。
- ページ構成。これにより InCopy ユーザーは、InDesign を開くことなく、フレームのレイアウトと、そのフレームの編集中のコンテンツを確認できます。
- ドキュメント内のアサインされたフレームのカラー表示設定。



InCopy でページ構成とフレームのカラーを表示したページの例

トップへ戻る

アサインの作成とコンテンツの追加（InDesign）

アサインの作成とアサインへのコンテンツの追加を行えるのは、InDesign ユーザーのみです。アサインを作成する方法はいくつかあります。どの方法を選択するかは、通常は、アサインを作成する時点で追加するコンテンツが存在しているかどうかによって異なります。

- 空のアサインファイルを作成します。InDesign ドキュメントから、後でコンテンツを追加するためのテンプレートとして機能する、空のアサインを作成できます。
- アサインを作成し、同時にコンテンツを追加します。
- 既存のアサインファイルにコンテンツを追加します。既にリンクされているコンテンツ（InCopy 用のコンテンツとして書き出されているテキストとグラフィック）を追加するか、選択したページコンテンツを追加して、リンクされた InCopy 用のコンテンツとすることができます。選択したフレームのいずれかに既に InCopy コンテンツファイルが含まれている場合は、そのフレームを新規または既存のアサインファイルに追加することができます。

デフォルトでは、作成したアサインフォルダーは、InDesign ドキュメントと同じフォルダーに保存されます。このアサインフォルダーをサーバーに置くか、パッケージを作成して送信します。

注意： InCopy ユーザーにグラフィックの配置やサイズの変更を行わせたくない場合は、アサインにグラフィックフレームを追加しないようにします。

空のアサインファイルの作成（InDesign）

1. InDesign で、ドキュメントを保存します。
2. アサインパネルで、パネルメニューから「新規アサイン」を選択します。
3. 新規アサインダイアログボックスで、オプションを指定して「OK」をクリックします。

アサインの作成とコンテンツの追加を同時に行う（InDesign）

1. InDesign で、1 つ以上のテキストフレーム、グラフィックフレームまたはプレースホルダアイテムを含むドキュメントを作成し、保存します。
2. 追加するテキストフレームとグラフィックフレームを選択します。
3. 次のいずれかの操作を行います。
   - アサインパネルメニューから「アサインに追加」を選択し、「新規」を選択します。
   - 編集／InCopy／[対象] をアサインに追加／新規を選択します。
4. 新規アサインダイアログボックスで、オプションを指定して「OK」をクリックします。

ドキュメントウィンドウでフレームを選択していた場合には、新規作成されたアサインファイルにそのフレームが含まれます。

既存のアサインへのコンテンツの追加（InDesign）

1. InDesign ドキュメントを保存します。
2. 追加するテキストフレームとグラフィックフレームを選択します。
3. 次のいずれかの操作を行います。
   - アサインパネルメニューから「アサインに追加」を選択し、目的のアサインを選択します。
   - アサインパネルの「アサインされていない InCopy の内容」セクションから既存のアサインにコンテンツをドラッグします。
   - 選択ツールでページアイテムを選択し、アサインパネルの既存のアサインにドラッグします。
   - 編集／InCopy／[対象] をアサインに追加を選択し、目的のアサインを選択します。
4. アサインパネルメニューから「すべてのアサインを更新」を選択し、InCopy ユーザーがコンテンツファイルを使用できるようにします。

注意： 同じドキュメント内のアサインに対してのみ、コンテンツを追加できます。ただし、同じコンテンツを複数のドキュメントに読み込み、それぞれのドキュメントでそのコンテンツをアサインに追加することができます。

アサインファイルのオプション（InDesign）

アサインファイルを作成または修正するときには、次のオプションを設定できます。

アサインファイル名 アサインパネル上でアサインを識別するための固有の識別情報です（例：「第 1 特集記事」）。この名前は、オペレーティングシステムのファイルの命名規則に従っている必要があります。

アサインするユーザー そのファイルをアサインするユーザーの固有の識別情報です。このユーザー名は、アサインパネルでアサインファイル名に続けて、括弧で囲んで表示されます。ここで入力する名前は、情報としてのみ使用されます。そのユーザーに対して特別な権限や許可を与えるものではありません。

カラー ドキュメントウィンドウ内で現在のアサインされているフレームに対して、およびアサインパネルでアサインファイル名のハイライト表示を行うために使用できる固有のカラーが一覧表示されます。このカラー設定によって、あるアサインに属するフレームを、別のアサインに属するフレームや、アサインされていないフレームと区別することができます。このカラー設定の表示を切り替えるには、表示／エクストラから「アサインされたフレームを表示」または「アサインされたフレームを隠す」を選択します。InCopy では、このカラー設定はレイアウトビューでのみ有効です。

注意： アサインされたフレームの表示を切り替えると予期しない結果が生じる場合は、それらのフレームに XML タグが追加されており、表示／構造／タグ付きフレームを表示が有効になっている場合があります。アサインされたフレームの表示とタグ付きフレームの表示を同時に選択することはできません。

変更 「変更」ボタンをクリックして、アサインフォルダーの場所を指定します。デフォルトでは、アサインフォルダーは InDesign ファイルと同じ場所に作成されます。

プレースホルダーフレーム アサインに含まれるテキストフレームとグラフィックフレームだけでなく、その InDesign ページに含まれるその他のすべてのフレームを表す四角（またはその他の形状）を、InCopy ユーザーが確認できるようにします。すべてのフレームとプレースホルダは、InDesign での元のフレームのサイズ、シェイプ、位置を正確に反映します。プレースホルダフレームは、InDesign ドキュメントでのコンテンツは一切表示しない、空のシェイプです。「プレースホルダフレーム」オプションを使用することで、再現度を最小限に抑え、パフォーマンスを最大にすることができます。InCopy では、プレースホルダフレームはレイアウトビューでのみ有効です。InCopy ユーザーは、プレースホルダフレームをチェックアウトして編集することはできません。

アサインされたスプレッド アサインされているすべてのフレームだけでなく、同じページ上のアサインされていない他のフレームの内容全体を、InCopy ユーザーが確認できるようにします。InCopy では、アサインされていないフレームの内容は編集できず、レイアウトビューでのみ表示されます。

すべてのスプレッド InDesign ドキュメントのすべてのコンテンツをアサインファイルに書き出します。このオプションを使用すると、再現度が最大になりますが、ユーザーが編集しているセクションとは関係のないページを含め、すべてのページのデザインとレイアウトがアサインファイルで表示されるため、パフォーマンスは最も低くなります。

パッケージ中にリンクされた画像ファイル リンクされた画像がアサインパッケージ内に含まれます。このオプションを選択すると、InCopy ユーザーが画像にアクセスできるようになりますが、パッケージのファイルサイズが大きくなります。InCopy ユーザーは、パッケージの返送時に画像を含めることができます。

トップへ戻る

コンテンツを独立した InCopy ファイルとして書き出す（InDesign）

作業グループで、アサインファイルを使用するよりも個別のファイルを使用して作業することが望ましい場合は、アサインファイルを使用せずに InCopy ファイルを書き出すことができます。複数のコンテンツファイルおよびレイアウト情報への参照を含む単一のアサインファイルを作成する場合と比べて、単独のファイルを使用する方法では、ドキュメントで指定したテキストフレームまたはグラフィックフレームごとに個別のファイル（.icml）が作成されます。編集中のコンテンツの文脈を確認するには、関連付けられている InDesign ドキュメント（.indd）も開く必要があります。

ワークフローのニーズに応じて InDesign ドキュメントを調整します。例えば、編集者のすべてのコメントを 1 つのファイルに書き出す場合は、編集者のコメント用のレイヤーを作成しておけば、選択したレイヤーのすべてのコンテンツを書き出すことができます。

注意： コンテンツを個別の InCopy ファイルとして書き出す簡単な方法は、選択ツールを使用して、選択したフレームをアサインパネルの「アサインされていない InCopy の内容」セクションにドラッグ＆ドロップすることです。

1. InDesign で、1 つ以上のテキストフレーム、グラフィックフレーム、またはプレースホルダアイテムを含むドキュメントを作成します。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - 単一のストーリーのテキストフレームまたはグラフィックフレームを選択するか、Shift キーを押しながら複数のフレームをクリックします。
   - ストーリー内にテキスト挿入点を置くか、テキストフレーム内の一部のテキストを選択します。
3. 編集／InCopy／書き出しから次のいずれかのオプションを選択します。
   選択範囲 選択したテキストフレームとグラフィックフレームをすべて書き出します。

   レイヤー 選択したレイヤー上のすべてのコンテンツを書き出します。

   すべてのストーリー まだ書き出されていないすべてのストーリーを書き出します。

   すべてのグラフィック まだ書き出されていないすべてのグラフィックを書き出します。

   すべてのグラフィックとストーリー まだ書き出されていないすべてのストーリーとグラフィックを書き出します。

   ドキュメント内のすべてのコンテンツを書き出した後で、同じドキュメントにさらにテキストフレームまたはグラフィックフレームを追

加した場合は、「書き出し／すべてのストーリー」（または「すべてのグラフィック」や「すべてのグラフィックとストーリー」）コマンドをもう一度使用することで、新しいフレームを書き出す時間を節約できます。InDesign では、新しいコンテンツのみが書き出されます。

4. ファイルの名前と場所を指定して、「保存」をクリックします。

   指定したファイル名は、書き出されたコンテンツファイルをファイルシステム上で識別するためのプレフィックスとして使用されます。複数のテキストフレームを書き出す場合、テキストの最初の数文字が自動的にファイル名に付加されます。例えば、「mystory-Upcoming cycling events.icml」のようなファイル名になります。複数のグラフィックフレームを書き出す場合は、「mystory-グラフィック」、「mystory-グラフィック-1」のようにファイル名が付けられます。このファイル名は、ファイルシステム上、InCopy ストーリーバーおよびステータスメッセージに表示されます。

5. ドキュメントの保存を確認するダイアログが表示されたら、「OK」をクリックして使用中の InDesign ファイルを保存します。

これで、InCopy 用のコンテンツは管理の対象となり、そのワークフローに関わる他のユーザーがチェックアウトして編集できるようになります。

InCopy 用に書き出した共有ファイルは、読み込まれたグラフィックと同様にリンクパネルに表示されます。共有ファイルの保存場所を手動で移動した場合は、リンクパネルを使用してリンクを更新できます。

コンテンツを書き出すと、テキストフレーム（InDesign および InCopy）およびアサインパネル上（InCopy）に、使用可能アイコン が表示されます。また、ストーリーバー（InCopy）には、「編集中」という文字が表示されます。

関連項目

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

ドキュメントの保存

ドキュメントの保存
以前の InDesign への下位バージョンでの保存
メタデータの操作

ページの先頭へ

ドキュメントの保存

ドキュメントを保存すると、現在のレイアウト、ソースファイルの参照、表示しているページの位置、拡大縮小の倍率が保存されます。作業を保護するため、随時、ドキュメントを保存してください。ファイルは、以下のいずれかの形式で保存できます。

- 標準のドキュメント。
- ドキュメントのコピー。オリジナルのドキュメントを開いたまま、別の名前でドキュメントの複製を作成します。
- テンプレート。通常は、名称未設定のドキュメントとして開かれます。テンプレートには、他のドキュメントの基準として指定した設定、テキスト、グラフィックを含めることができます。

  ドキュメントを保存すると、InDesign ドキュメントの一部であるメタデータ（ファイル情報）も更新されます。このメタデータには、サムネールプレビュー、ドキュメント内で使用されているフォント、カラースウォッチおよびファイル情報ダイアログボックスのすべてのメタデータが含まれているので、効率的にファイル検索ができるようになります。例えば、特定の色を使用したドキュメントをすべて検索したいとします。

  このメタデータは、Bridge と、ファイル情報ダイアログボックスの「詳細」セクションに表示されます。環境設定を使用して保存するときにプレビューを更新するかどうかを設定できます。その他のメタデータ（フォント、カラーおよびリンク）は、ドキュメントを保存するたびに更新されます。

  「保存」、「別名で保存」、「複製を保存」コマンドは、InDesign ファイル形式でのみドキュメントを保存します。他のファイル形式によるドキュメントの保存については、索引を参照してください。

  印刷・出力会社に提出する最終出力用のファイルとしてドキュメントを保存する場合、InDesign では、リンクしているグラフィックやフォントなど、出力に必要なすべてのファイルを自動的に 1 つのフォルダーにまとめてコピーすることもできます（ファイルのパッケージを参照）。

注意： ファイル／ファイル情報ダイアログボックスで入力した情報は、次の形式で *EPUB* を書き出すときに「メタデータ」タブで更新されます。

- 固定レイアウトの *EPUB*
- リフロー可能な *EPUB*

- 次のいずれかの操作を行います。
  - 新しい名前でドキュメントを保存するには、ファイル／別名で保存を選択して、ファイルの保存場所と名前を指定し、「保存」をクリックします。新しく名前を付けたファイルが、アクティブなドキュメントになります。「別名で保存」コマンドを使用すると、ファイルサイズを縮小できることがあります。
  - 既存のドキュメントを元の名前で保存するには、ファイル／保存を選択します。
  - すべての開いているドキュメントを既存の場所とファイル名で保存するには、Ctrl+Alt+Shift+S キー（Windows）または Command+Option+Shift+S キー（Macintosh）を押します。
  - ドキュメントのコピーを新しい名前で保存するには、ファイル／複製を保存を選択し、場所とファイル名を指定して、「保存」をクリックします。この保存したコピーは、アクティブなドキュメントにはなりません。

注意： 問題を避けるため、一部のオペレーティングシステムで特殊な意味を持つ予約文字を使用しないようにします。例えば、スペースまたはタブを含むファイル名、ピリオドで始まるファイル名、*/ ¥: ; * ? < > , $ %* の文字を使用したファイル名を避けます。また、*InDesign* の英語バージョン以外を使用する場合でも、アクセント記号の付いた文字（*ü*、*ñ*、*é* など）の使用を避けます。異なるプラットフォームでファイルを開いた場合に問題が発生する可能性があります。

同時に複数のドキュメントを開いて作業することが頻繁にあり、すべてを同時に保存したい場合は、キーボードショートカットを使用します。編集／キーボードショートカットを選択し、機能エリアメニューから「表示、ナビゲーション」を選択して、コマンドリストの「すべてを保存」を選択します。これで、ショートカットを編集または追加できます。「クイック適用」を使用して「すべてを保存」コマンドを指定できま

す。

プレビューを含めたドキュメントの保存

ドキュメントやテンプレートのサムネールプレビューを使用すると、Adobe Bridge や Adobe Mini Bridge でファイルを簡単に識別できるようになります。プレビューは、ドキュメントやテンプレートを保存すると作成されます。ドキュメントプレビューには JPEG 画像の先頭スプレッドのみが含まれ、テンプレートプレビューにはテンプレートの各ページの JPEG 画像が含まれています。ニーズに合わせて、プレビューのサイズおよびページ数を変更することができます。例えば、特大 1024 × 1024 を選択すると、ファイルを開く前に高解像度のページコンテンツをすばやくスキャンできます。

このオプションは、環境設定ダイアログボックスまたは別名で保存ダイアログボックスで設定できます。プレビューを有効にするとファイルサイズが大きくなり、ドキュメントの保存にかかる時間が長くなるため、必要な場合に別名で保存ダイアログボックスでこのオプションを設定するとよいでしょう。

1. 次のいずれかの操作を行います。
   - ドキュメントを保存するときに常にプレビューを含めるには、編集／環境設定／ファイル管理（Windows）または InDesign／環境設定／ファイル管理（Mac OS）を選択します。
   - 特定のドキュメントのプレビューを含めるには、ファイル／別名で保存を選択します。
   - 特定のドキュメントのプレビューを含めるには、ファイル／コンテンツを別名で保存を選択します。
2. 「ドキュメントのプレビュー画像を常に保存」を選択します。
3. 環境設定ダイアログボックスを使用してプレビューを設定する場合は、ページメニューでプレビューページの数を選択し、プレビューのサイズメニューでオプションを選択します。

   注意： 別名で保存ダイアログボックスでプレビューのオプションを選択すると、環境設定ダイアログボックスのオプションも選択され、ページとプレビューサイズのデフォルト設定が使用されます。

InDesign マークアップ（IDML）ドキュメントの保存

場合によっては、互換マークアップ形式で InDesign ドキュメントを保存することもあります。 InDesign で QuarkXPress または PageMaker パブリケーションを開くとき、旧バージョンの InDesign で作成したドキュメントを開くとき、またはカラースウォッチを削除できないなどのようにドキュメントで問題があるときは、この形式での保存は特に便利です。

1. ファイル／保存（CS6）またはファイル／書き出し（CS5）を選択します。
2. 「ファイルの種類」（Windows）または「フォーマット」（Mac OS）から「InDesign Markup（IDML）」を選択します。
3. 「保存」をクリックします。

InDesign CS5 および InDesign CS4 では、保存した IDML を開くことができますが、以前のバージョンの InDesign では開くことはできません。

開発目的での IDML の使用について詳しくは、www.adobe.com/go/learn_id_indesignmarkup_cs4_en を参照してください。

ページの先頭へ

以前の InDesign への下位バージョンでの保存

InDesign CS5 で InDesign CS6 ドキュメントを開くには、InDesign CS6 でドキュメントを InDesign Markup（IDML）形式で書き出します（ファイル／保存）。（IDML 形式は、以前のバージョンで下位バージョン用の保存に使用されていた互換 INX 形式に代わるものです）。

InDesign CS4 で InDesign CS5 ドキュメントを開くには、InDesign CS5 でドキュメントを InDesign Markup（IDML）形式で書き出します（ファイル／書き出し）。（IDML 形式は、以前のバージョンで下位バージョン用の保存に使用されていた互換 INX 形式に代わるものです）。

以前のバージョンの InDesign が実行されているコンピューターが適切なプラグインに更新されていることを確認します。プラグインが更新されていれば、書き出された IDML ファイルを開くことができます。ヘルプ／アップデートを選択して画面の指示に従うことで、以前のバージョンの InDesign 用の互換プラグインを入手できます。プラグインは、アドビ システムズ社の Web サイトからインストールすることもできます。製品のアップデートページで、製品のリストから InDesign を選択してください。

以前のバージョンの InDesign でドキュメントを開くことは、「バージョンダウン保存」とも呼ばれます。

注意： 以前のバージョンの *InDesign* でドキュメントを開くと、それ以降のバージョンの *InDesign* 固有の機能を使用して作成されたコンテンツ

は、変更または除外される場合があります。

1. ファイル／保存（CS6）またはファイル／書き出し（CS5）を選択します。
2. 「ファイルの種類」（Windows）または「フォーマット」（Mac OS）から「InDesign Markup（IDML）」を選択します。
3. 「保存」をクリックします。

IDML（.idml）ファイルを以前のバージョンの InDesign で開くと、名称未設定の InDesign ドキュメントに変換できます。

注意： *InDesign CS5* ドキュメントを *InDesign CS3* で開くには、書き出された *IDML* ファイルを *InDesign CS4* で開き、再度 *InDesign CS3* 互換（*INX*）ファイルで書き出します。その後、書き出された *INX* ファイルを *InDesign CS3* で開きます。すべての *InDesign* のバージョンが最新の状態であることを確認してください。

ページの先頭へ

メタデータの操作

メタデータとは、ファイルに関する標準化された情報のセットです。この情報には、作者名、解像度、カラースペース、著作権、ファイルに適用されているキーワードなどがあります。メタデータはワークフローの簡略化やファイルの整理に使用できます。

XMP 標準について

メタ情報は Extensible Metadata Platform（XMP）標準を使用して保存されます。Adobe Bridge、Adobe Illustrator、Adobe InDesign および Adobe Photoshop はこの標準に基づいて設計されています。 XMP は XML に基づいており、ほとんどの場合、メタデータは該当のファイルに保存されます。これらの情報を該当のファイルに保存できない場合、メタデータはサイドカーファイルと呼ばれる別のファイルに保存されます。XMP は、Adobe アプリケーション間および印刷出版関連の工程でのメタデータの交換に役立ちます。例えば、あるファイルのメタデータをテンプレートとして保存し、そのメタデータを別のファイルに読み込むことができます。

Exif、IPTC（IIM）、GPS、TIFF などの他の形式で保存されているメタデータは、より簡単に表示および管理できるように XMP と同期され、XMP で記述されます。他のアプリケーションや機能でも、バージョンのコメントなどの情報を伝達および保存する際に XMP が使用されます。それらの情報は Adobe Bridge で検索できます。

ほとんどの場合、PSD から JPEG にファイル形式を変更した場合でも、メタデータはファイルと共に保持されます。Adobe のドキュメントやプロジェクトにファイルを置いた場合でも、メタデータは保持されています。

> *XMP* ソフトウェア開発キット（*XMP SDK*）を使用して、メタデータの作成、処理および相互交換機能をカスタマイズできます。例えば、*XMP SDK* を使用して、ファイル情報ダイアログボックスにフィールドを追加できます。*XMP* および *XMP SDK* について詳しくは、*Adobe* の *Web* サイトを参照してください。

Adobe Bridge および Adobe Creative Suite コンポーネントでのメタデータの処理

ファイルとバージョンの整理、検索、管理を行うことができる Adobe Bridge の強力な機能の多くは、ファイル内の XMP メタデータを利用しています。Adobe Bridge では、2 つの方法でメタデータを操作できます。メタデータパネルを使用する方法と、ファイル情報ダイアログボックス（InDesign）またはコンテンツファイル情報ダイアログボックス（InCopy）を使用する方法です。

場合によっては、同じメタデータのプロパティに複数の表示が存在することがあります。例えば、ある表示で「作者」というラベルを持つプロパティが、他の表示では「作成者」というラベルを持つことが考えられますが、いずれの場合も情報元として参照するプロパティは同じです。特定のワークフローに合わせてこれらの表示画面をカスタマイズした場合でも、XMP によって標準化された状態が維持されます。

ファイル情報ダイアログボックスでのメタデータの追加

ファイル情報ダイアログボックスには、現在のドキュメントのカメラデータ、ファイルのプロパティ、編集履歴、著作権および作成者情報が表示されます。ファイル情報ダイアログボックスには、カスタムメタデータパネルも表示されます。メタデータは、ファイル情報ダイアログボックスから直接追加できます。フィールドに情報を入力すると、既存のメタデータはオーバーライドされ、選択したすべてのファイルに新しい値が適用されます。

1. ファイル／ファイル情報（InDesign）またはファイル／コンテンツファイル情報（InCopy）を選択します。
2. ダイアログボックスの上部に表示されるタブから次のいずれかを選択します。

   右向き矢印および左向き矢印を使用してタブをスクロールし、下向き矢印をクリックしてリストからカテゴリーを選択します。

説明 「説明」には、ドキュメントのタイトル、作者名、説明およびキーワードなど、ドキュメントの検索に使用できる情報を入力できます。著作権情報を指定するには、著作権のステータスポップアップメニューから「著作権取得済み」を選択します。次に、著作権者、著作権情報のテキストと、著作権を所有する個人または会社の URL を入力します。

IPTC 4 つの領域が含まれています。「IPTC コンテンツ」には画像の視覚的な内容に関する説明が表示されます。「IPTC 連絡先」には、写真撮影者の連絡先情報が表示されます。「IPTC イメージ」には、画像に関する詳細な説明が表示されます。「IPTC ステータス」には、ワークフローおよび著作権に関する情報が表示されます。

カメラデータ 2 つの領域が含まれています。「カメラデータ 1」には、メーカ、モデル、シャッタースピード、F 値など、写真撮影に使用されたカメラと設定に関する読み取り専用の情報が表示されます。「カメラデータ 2」には、ピクセルの大きさと解像度などの写真に関する読み取り専用のファイル情報が一覧表示されます。

ビデオデータ ビデオフレームの幅と高さなどのビデオファイルに関する情報が一覧表示され、テープ名やシーン名などの情報を入力できます。

オーディオデータ タイトル、作者名、ビットレート、ループの設定など、オーディオファイルに関する情報を入力できます。

モバイル **SWF** タイトル、作成者、説明、コンテンツの種類など、モバイルメディアファイルに関する情報が一覧表示されます。

カテゴリ Associated Press 社のカテゴリを基にして情報を入力できます。

作成元 ファイルの作成日時と作成場所、送信情報、特別な指示、ヘッドライン情報など、ニュースの配信に役立つファイル情報を入力できます。

DICOM DICOM 画像に関する患者、検査、シリーズおよび施設情報を一覧表示します。

ヒストリー Photoshop で保存された画像の Adobe Photoshop のヒストリーログ情報を表示します。「ヒストリー」タブは、Adobe Photoshop がインストールされている場合にのみ表示されます。

Illustrator プリント、Web またはモバイル出力用のドキュメントプロファイルを適用できます。

詳細 ファイル形式、XMP、Exif、PDF のプロパティなど、ネームスペースとプロパティを使用してメタデータを保存するためのフィールドと構造を表示します。

Raw データ ファイルに関する XMP テキスト情報を表示します。

3. 表示されたフィールドに追加する情報を入力します。
4. 「OK」をクリックして変更を適用します。

XMP ファイル形式でのメタデータの書き出し

他のユーザーと共有するために、メタデータを XMP ファイルとして保存できます。このような XMP ファイルを、InDesign ドキュメントや、XMP 対応アプリケーションで作成されるその他のドキュメントに情報を設定するためのテンプレートとして使用できます。書き出したテンプレートは、XMP 対応のすべてのアプリケーションがアクセスできる共有の場所に保存されます。また、テンプレートはファイル情報ダイアログボックスの下部にあるポップアップメニューにも表示されます。

1. ファイル／ファイル情報（InDesign）またはファイル／コンテンツファイル情報（InCopy）を選択します。
2. ダイアログボックスの下部にあるポップアップメニューから「書き出し」を選択します。

3. ファイル名を入力し、ファイルの保存場所を選択して「保存」をクリックします。

   エクスプローラー（*Windows*）または *Finder*（*Mac OS*）でメタデータテンプレートを表示するには、ファイル情報ダイアログボックスの下部にあるポップアップメニューをクリックし、「テンプレートフォルダーを表示」を選択します。

XMP ファイルからのメタデータの読み込み

書き出された XMP メタデータテンプレートからドキュメントにメタデータを読み込む場合、現在のドキュメント内のすべてのメタデータを消去して新しいメタデータを追加するか、一致するメタデータ以外のすべてのメタデータを保持するか、一致するメタデータを既存のメタデータに追加するかを選択できます。

- ファイル／ファイル情報（InDesign）またはファイル／コンテンツファイル情報（InCopy）を選択します。
  - ダイアログボックスの下部にあるポップアップメニューから XMP ファイルを選択し、読み込みのオプションを選択して、「OK」をクリックします。
  - ダイアログボックスの下部にあるポップアップメニューから「読み込み」を選択し、読み込みのオプションを選択して、「OK」をクリックします。次に、読み込む XMP テンプレートファイルをダブルクリックします。

画像ファイル内のメタデータの編集

InDesign で配置した画像のキャプションを生成する際には、それらの画像のメタデータが使用されます。InDesign ドキュメントのメタデータは編集できますが、InDesign 上で配置したファイルのメタデータは編集できません。それらのメタデータに変更を加える場合は、作成元アプリケーション、Finder またはエクスプローラー、Adobe Bridge や Adobe Mini Bridge を使用してください。

1. InDesign で、画像をマウスの右ボタンでクリック（Windows）または Control キーを押しながらクリック（Mac OS）し、「元データを編集」を選択します。

   または、「編集ツール」を選択し、Adobe Illustrator や Adobe Photoshop などのアプリケーションを指定します。

2. 作成元アプリケーションで、ファイル／ファイル情報を選択します。
3. メタデータを編集し、「OK」をクリックします。

または、Adobe Bridge で画像を選択してファイル／ファイル情報を選択することにより画像メタデータを編集することもできます。ファイル情報ダイアログボックスでのメタデータの追加を参照してください。

関連項目

- Adobe でのメタデータの処理

(cc) BY-NC-SA Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

PageMaker のメニューコマンド

PageMaker ファイルメニューコマンド
PageMaker の編集メニューコマンド
PageMaker のページメニューコマンド
PageMaker の書式メニューコマンド
PageMaker のオブジェクトメニューコマンド
PageMaker のオプションメニューコマンド
PageMaker の表示メニューコマンド
PageMaker のウィンドウメニューコマンド

Adobe PageMaker の各コマンドに対応する AdobeInDesign CS5 のコマンドについては、以下の各表を参照してください。

トップへ戻る

PageMaker ファイルメニューコマンド

PageMaker コマンド	対応する InDesign のコマンド	追加情報
ファイル／新規作成	ファイル／新規／ドキュメント	
ファイル／開く	ファイル／開く	
ファイル／最近開いた文書	ファイル／最近使ったファイル（Windows®）	
ファイル／閉じる	ファイル／閉じる	
ファイル／保存	ファイル／保存	InDesign には、「ファイルサイズ最小」および「高速」保存オプションに該当するものはありません。高速保存には「保存」コマンド、ファイルサイズを可能な限りコンパクトにするには、「別名で保存」を使用します。
ファイル／別名で保存	ファイル／別名で保存	上記の追記を参照してください。
ファイル／復帰	ファイル／復帰	InDesign では、PageMaker のように一時保存のドキュメントに復帰することはできません。代わりに、InDesign では取り消し操作を無制限に実行できます。
ファイル／配置	ファイル／配置	
ファイル／画像取り込み	対応するコマンドはありません	スキャナーに付属のソフトウェアを使用して画像をスキャンしてから、InDesign に配置します。
ファイル／書き出し	ファイル／書き出し	
ファイル／リンク設定	ウィンドウ／リンク	
ファイル／ドキュメント設定	ファイル／ドキュメント設定	
ファイル／プリント設定	ファイル／プリントプリセット	
ファイル／プリント	ファイル／プリント	
ファイル／環境設定／一般	編集／環境設定（Windows）または InDesign／環境設定（Mac OS）	「組版」、「単位と増減値」、「ガイドとペーストボード」および「表示画質」の環境設定にも一部対応する設定があります。
ファイル／環境設定／オンライン	対応するコマンドはありません	プロキシを設定せずにオブジェクトを Web ブラウザーから InDesign へドロップ

		することができます。
ファイル／環境設定／レイアウト調整	レイアウト／レイアウト調整	レイアウト調整オプションの指定と、レイアウト調整の有効化を同時に行うことができます。このパネル内の設定は InDesign と PageMaker でほぼ一致します。定規ガイドはデフォルトで関連する列またはマージンガイドに従います。これを変更するには、「定規ガイドの移動を許可」の選択を解除します。
ファイル／環境設定／トラッピング	ウィンドウ／出力／トラッププリセット	トラッピングの環境設定を指定するには、新規トラッププリセットを作成します。
ファイル／終了	ファイル／InDesign を終了（Windows）または InDesign／InDesign を終了（Mac OS）	

トップへ戻る

PageMaker の編集メニューコマンド

PageMaker コマンド	対応する InDesign のコマンド	追加情報
編集／取り消し	編集／取り消し	InDesign では取り消し操作を無制限に実行できます。
編集／カット	編集／カット	
編集／コピー	編集／コピー	
編集／ペースト	編集／ペースト	InDesign では、OLE をサポートしていません。ただし、リンクパネルを使用して同様のオプションを設定することができます。
編集／消去	編集／消去	
編集／すべてを選択	編集／すべてを選択	
編集／選択を解除	編集／選択を解除	
編集／発行／引用（Mac OS）	対応するコマンドはありません	InDesign では、「発行／引用」はサポートしていません。ただし、リンクパネルを使用して同様のオプションを設定することができます。
編集／マルチペースト	編集／繰り返し複製	
編集／形式を選択してペースト	編集／フォーマットなしでペースト	
編集／オブジェクト挿入（Windows）	ファイル／配置	
編集／テキスト編集	編集／ストーリーエディターで編集	
編集／元データを編集	編集／元データを編集	リンクパネルメニューで「元データを編集」を選択することもできます。
編集／クリップボード表示（Mac OS）	対応するコマンドはありません	
編集／ルビ／縦中横／傍点／合成文字	文字パネルメニューに「ルビの位置と間隔」、「縦中横」および「圏点」（傍点用）が表示されます。書式／字形を選択して、字形パネルを表示します。	
編集／縦書き	書式／組み方向／横組みまたは縦組み	ツールパネルの縦組み文字ツールを使用できます。

トップへ戻る

PageMaker のページメニューコマンド

PageMaker コマンド	対応する InDesign のコマンド	追加情報
レイアウト／ページへ移動	レイアウト／ページへ移動	ページパネルにあるページアイコンをダブルクリックして該当するページにジャンプすることもできます。
ページ／ページ挿入	レイアウト／ページ／ページを挿入	
ページ／ページ削除	レイアウト／ページ／ページを削除	
ページ／ページ並べ替え（Windows）またはページ／ページの並べ替え（Mac OS）	ウィンドウ／ページ	ページパネル内でページをクリック＆ドラッグして並べ替えます。
レイアウト／前に戻る	レイアウト／前に戻る	
レイアウト／次に進む	レイアウト／次に進む	
ページ／コラム設定	レイアウト／マージン・段組	
ページ／マスターページガイドをコピー	対応するコマンドはありません	InDesign では、どのマスターで使用されるガイドも常にそのマスターを使用しているページにコピーされます。
ページ／自動流し込み	テキストの流し込みアイコン の表示中に Shift キーを押します。	テキストは手動、自動（自動流し込み）、半自動で流し込むことができます。

トップへ戻る

PageMaker の書式メニューコマンド

PageMaker コマンド	対応する InDesign のコマンド	追加情報
書式／フォント	書式／フォント	
書式／サイズ	書式／サイズ	
書式／行送り	書式／文字またはコントロールパネルの文字モード（ウィンドウ／コントロール）	InDesign では、PageMaker のデフォルトであるプロポーショナル行送りとは対照的に、デフォルトで文字のベースラインでの行送りになります。
書式／文字飾り	書式／文字またはコントロールパネルの文字モード（ウィンドウ／コントロール）	InDesign では、選択したフォントで利用可能な書式スタイルが表示されます。クイック適用を使用することもできます。
書式／文字間隔	書式／文字またはコントロールパネルの文字モード（ウィンドウ／コントロール）	PageMaker の文字間隔は、InDesign のオプティカルカーニングと似ています。
書式／文字幅	コントロールパネルの文字モード（ウィンドウ／コントロール）	
書式／文字	書式／文字	
書式／段落	書式／段落	
書式／タブ／字下げ設定	書式／タブ	
書式／ハイフネーション	書式／段落	段落パネルメニューから「ハイフネーション設定」を選択します。
書式／行揃え	書式／段落またはコントロールパネルの段落モード（ウィンドウ／コントロール）	
書式／スタイル	書式／段落スタイルまたは書式／文字スタイル	InDesign では、段落スタイルと文字スタイルの両方をサポートしています。

書式／スタイル定義	書式／段落スタイルまたは書式／文字スタイル	段落スタイルパネルで「新規段落スタイル」を選択し、段落スタイルを作成します。文字スタイルパネルで「新規文字スタイル」を選択し、文字スタイルを作成します。

トップへ戻る

PageMaker のオブジェクトメニューコマンド

PageMaker コマンド	対応する InDesign のコマンド	追加情報
オブジェクト／塗り	ウィンドウ／カラー／スウォッチまたはウィンドウ／カラー／カラー	InDesign では、パターン塗りはサポートしていません。InDesign のスウォッチパネルは、PageMaker のカラーパレットに相当します。
オブジェクト／線種	ウィンドウ／線	線パネルから線のスタイルを選択するか、カスタムの線スタイルを定義します。
オブジェクト／塗りと線	ウィンドウ／カラー／スウォッチ、ウィンドウ／線、ウィンドウ／出力／プリント属性	スウォッチパネルを使用して濃淡を作成します。オーバープリントの指定は、プリント属性パネルで行います。
オブジェクト／フレーム／フレームに割り付け	対応するコマンドはありません	InDesign では、テキストファイルまたはグラフィックの読み込み時に自動的にフレームを作成します。既存のフレームに内容をペーストする場合は、フレームを選択してから、配置またはペーストします。
オブジェクト／フレーム／フレームに変換	オブジェクト／オブジェクトの属性／[オブジェクトタイプ]	
オブジェクト／フレーム／次のフレーム	表示／エクストラ／テキスト連結を表示	
オブジェクト／フレーム／前のフレーム	表示／エクストラ／テキスト連結を表示	
オブジェクト／フレーム／フレームの連結解除	インポートまたはアウトポートをダブルクリックして連結を解除します。	
オブジェクト／フレーム／フレーム内の削除	フレーム内の内容を選択し、Delete キーを押します。	テキストは文字ツールで選択します。グラフィックは、ダイレクト選択ツールで選択します。
オブジェクト／アレンジ	オブジェクト／アレンジ	
オブジェクト／オブジェクトを揃える	ウィンドウ／オブジェクトとレイアウト／整列	
オブジェクト／テキスト回り込み	ウィンドウ／テキストの回り込み	
オブジェクト／グループ	オブジェクト／グループ	
オブジェクト／グループ解除	オブジェクト／グループ解除	
オブジェクト／ロック	オブジェクト／ロック	
オブジェクト／ロック解除	オブジェクト／ロック解除	
オブジェクト／マスク	オブジェクト／クリッピングパス	この他にも、マスクシェイプを作成したり、マスクにしたい画像をコピーしてそれをシェイプ内にペースト（編集／選択範囲内にペースト）したり、グラフィックフレームを調整してグラフィックをマスクする方法もあります。
オブジェクト／マスク解除	オブジェクト／クリッピングパス	上記の追記を参照してください。
オブジェクト／画像／白黒・グレー画像制	対応するコマンドはありません	「元データを編集」コマンドを使用して、

御		元のアプリケーションの画像設定を変更します。
オブジェクト／画像／CMS 特性	オブジェクト／画像カラー設定	
オブジェクト／画像／Photoshop プラグイン	オブジェクト／効果	
オブジェクト／多角形の設定	ツールパネル内の多角形ツールをダブルクリックします	
オブジェクト／角の丸み設定	オブジェクト／角オプション	
オブジェクト／リンク情報	ウィンドウ／リンク	リンクパネルメニューから「リンク情報」を選択します。
オブジェクト／リンクオプション	テキスト環境設定またはウィンドウ／リンク	ファイル管理の環境設定ダイアログボックスで、「テキストを配置する時にリンクを作成」を選択または選択解除します。または、リンクパネルメニューから「埋め込み」を選択します。
オブジェクト／印刷しない	ウィンドウ／出力／プリント属性	
オブジェクト／変形を戻す	対応するコマンドはありません	

トップへ戻る

PageMaker のオプションメニューコマンド

PageMaker コマンド	対応する InDesign のコマンド	追加情報
オプション／プラグイン	ヘルプ／プラグイン設定（Windows）または InDesign／プラグイン設定（Mac OS）	
オプション／検索	編集／検索と置換	InCopy では、検索と置換操作は、レイアウトビューまたはストーリーエディターのどちらからでも実行できます。
オプション／次を検索	編集／次を検索	上記の追記を参照してください。
オプション／置換	編集／検索と置換	上記の追記を参照してください。
オプション／スペルチェック	編集／欧文スペルチェック	InCopy では、レイアウトビューまたはストーリーエディターのどちらでもスペルチェックを実行できます。
オプション／ブック構成	ファイル／新規／ブック	ブックパネルを使用すると、ブックへのドキュメントの追加、削除、および並べ替えを行えます。
オブジェクト／索引追加	ウィンドウ／書式と表／索引	索引項目を追加するには、索引パネルで新規索引項目を作成ボタンをクリックします。
オプション／索引表示	索引パネルの参照モード（ウィンドウ／書式と表／索引）	
オプション／索引作成	ウィンドウ／書式と表／索引	索引パネルメニューから「索引の作成」を選択します。
オプション／目次作成	レイアウト／目次	
オプション／カラー定義	ウィンドウ／カラー／スウォッチ	スウォッチパネルメニューから「新規カラースウォッチ」を選択します。

トップへ戻る

PageMaker の表示メニューコマンド

PageMaker コマンド	対応する InDesign のコマンド	追加情報
表示／マスターページを使う	ページパネルメニューから「マスターアイテムを表示」または「マスターアイテムを隠す」を選択します。	
表示／印刷しないオブジェクトを表示	印刷されないアイテムを表示するには、ツールパネルの標準モードボタン を選択します。印刷されないアイテムを隠すには、プレビューモードボタン を選択します。	印刷しないオブジェクト用のレイヤーを作成して、印刷または書き出し時にそのレイヤーの表示 / 非表示を切り替える方法もあります。
表示／ズームイン	表示／ズームイン	
表示／ズームアウト	表示／ズームアウト	
表示／100 %表示	表示／100 %表示	
表示／全体表示	表示／ページ全体または表示／スプレッド全体	
表示／ペーストボード全体	表示／ペーストボード全体	
表示／表示サイズ	ドキュメントウィンドウ下部のズームメニューから表示倍率を選択します。	
表示／定規を表示・隠す	表示／定規を表示・隠す	
表示／定規にスナップ	対応するコマンドはありません	
表示／原点固定	原点を右クリック（Windows）または Control キーを押しながらクリック（Mac OS）して、コンテキストメニューから「原点固定」を選択します。	
表示／ガイドの表示・消去	表示／グリッドとガイド／ガイドを表示・隠す	
表示／ガイドにスナップ	表示／グリッドとガイド／ガイドにスナップ	
表示／ガイド固定	表示／グリッドとガイド／ガイドのロックおよび段組ガイドをロック	
表示／ガイドを消去	InDesign のショートカットキー、Ctrl+Alt+G キー（Windows）または Command+Option+G キー（Mac OS）を押して、現在のスプレッドのすべてのガイドを選択し、Delete キーを押します。	
表示／ガイドを 1 つ前へ・ガイドを 1 つ後ろへ	編集／環境設定／ガイドとペーストボード（Windows）または InDesign／環境設定／ガイドとペーストボード（Mac OS）	「背面にガイド表示」オプションを選択します。
表示／スクロールバー表示・スクロールバーの消去	対応するコマンドはありません	

トップへ戻る

PageMaker のウィンドウメニューコマンド

PageMaker コマンド	対応する InDesign のコマンド	追加情報
ウィンドウ／アイコンの整列（Windows）	対応するコマンドはありません	
ウィンドウ／並べて表示	ウィンドウ／アレンジ／並べて表示	

ウィンドウ／重ねて表示	ウィンドウ／アレンジ／重ねて表示	
ウィンドウ／ツールの表示・消去	ウィンドウ／ツール	
ウィンドウ／コントロールパレットの表示・消去	ウィンドウ／コントロール	
ウィンドウ／カラーの表示・消去	ウィンドウ／カラー／スウォッチまたはウィンドウ／カラー／カラー	
ウィンドウ／スタイルを表示 / 隠す	ウィンドウ／スタイル／段落スタイル、またはウィンドウ／スタイル／文字スタイル	
ウィンドウ／レイヤーの表示・消去	ウィンドウ／レイヤー	
ウィンドウ／マスターページの表示・消去	ウィンドウ／ページ	
ウィンドウ／ハイパーリンクの表示・消去	ウィンドウ／インタラクティブ／ハイパーリンク	
ウィンドウ／プラグインパレット	対応するコマンドはありません	プラグインは InDesign メニュー内またはパネル、あるいは InDesign ダイアログボックス内に追加オプションとして表示されます。
ウィンドウ／[開いているドキュメント名]	ウィンドウ／[開いているドキュメント名]	

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

QuarkXPress および PageMaker ドキュメントの変換

InDesign で QuarkXPress ファイルを開く
PageMaker ドキュメントの変換

トップへ戻る

InDesign で QuarkXPress ファイルを開く

InDesign では、QuarkXPress 3.3 または 4.1x のドキュメントおよびテンプレートファイルを変換できます。また、InDesign では多言語間の QuarkXPress Passport 4.1x ファイルからドキュメントファイルとテンプレートファイルを変換することもできます。そのため、これらのファイルを最初に単一言語ファイルとして保存する必要はなくなります （QuarkXPress 5.0 以降で作成されたドキュメントを変換するには、QuarkXPress でドキュメントを再度開き、4.0 形式で保存します）。

詳しくは、www.adobe.com/go/learn_quarkconv_jp にある『QuarkXPress Conversion Guide』（PDF）を参照してください。

QuarkXPress ドキュメントまたはテンプレートを開く

1. 元のアプリケーションファイルが閉じていることを確認してください。
2. すべてのリンクが保持されるように、リンクされたすべてのファイルを、同じ QuarkXPress ドキュメントフォルダーにコピーします。
3. InDesign で、ファイル／開くを選択します。
4. Windows の場合は、「ファイルの種類」から「QuarkXPress（3.3 ～ 4.1x）」または「QuarkXPress Passport（4.1x）」を選択します。
5. ファイルを選択し、「開く」をクリックします。
   注意： InDesign で、ファイルまたはファイルの特定部分を変換できない場合は、変換できない理由を示す警告メッセージと変換結果が表示されます。
6. 警告ダイアログボックスが表示された場合は、次のいずれかの操作を行います。
   - 「保存」をクリックして警告をテキストファイルに保存し、InDesign で変換されたファイルを開きます。
   - 「閉じる」をクリックしてダイアログボックスを閉じ、変換されたファイルを InDesign で開きます。
7. QuarkXPress で適用されたテキストの回り込みをより正確に変換するには、InDesign で次の処理を行います。
   - 環境設定ダイアログボックスの「組版」から「テキストの背面にあるオブジェクトを無視」を選択します。
   - 段落パネルメニューの「Adobe 日本語単数行コンポーザー」を段落に割り当てます。

変換された QuarkXPress ドキュメントに問題がある場合は、書き出しダイアログボックスを使用して InDesign マークアップ（IDML）形式でドキュメントを保存してください。次に、その IDML ファイルを開いて、InDesign ドキュメントとして保存します。

QuarkXPress のテンプレートを InDesign のテンプレートとして保存

1. InDesign でテンプレートを開きます。
2. ファイル／別名で保存を選択し、保存場所とファイル名を指定します。
3. 「ファイルの種類」（Windows）または「フォーマット」（Mac OS）から「InDesign テンプレート」を選択し、「保存」を選択します。

QuarkXPress から変換される内容

QuarkXPress のファイルを開くと、InDesign ではオリジナルのファイル情報を InDesign 用の情報に変換します。

- テキストボックスは、InDesign テキストフレームに変換されます。

  QuarkXpress のテキスト回り込み設定を正確に変換するには、環境設定ダイアログボックスの「組版」で「テキストの背面にあるオブジェクトを無視」を選択してください。
- スタイルは、既存の InDesign のスタイルに変換または追加されます。
- QuarkXpress では異なるカラープロファイルを使用しているため、InDesign では無視されます。
- テキストとグラフィックのリンクは保持され、リンクパネルに表示されます。

  注意： 埋め込みグラフィック（「ペースト」コマンドで元のドキュメントに追加される）は、変換されません。埋め込みグラフィックについて詳しくは、リンクと埋め込み画像についてを参照してください。

  InDesign は、OLE または Quark XTensions に対応していません。そのため、OLE グラフィックまたは Quark XTensions グラフィックを含むファイルを開いたときに、これらのグラフィックは InDesign ドキュメントに表示されません。QuarkXPress のファイルが変換されない場合、オリジナルのドキュメントを再度開いてチェックし、XTensions によって作成されたオブジェクトを削除して保存し直し、再度、変換してください。

- すべてのマスターページとレイヤーは、InDesign のマスターとレイヤーに変換されます。
- すべてのマスターページオブジェクトおよび QuarkXPress のガイドは、対応する InDesign のマスターページに割り付けられます。
- グループ化されているオブジェクトは、グループ内に印刷しないアイテムが含まれている場合を除き、グループ化されたままです。
- すべての曲線と線（段落境界線を含む）は、最も近い線のスタイルに変換されます。カスタムの線と点線は、InDesign でカスタムの線と点線に変換されます。

カラーは、正確に InDesign のカラーに変換されますが、次の場合を除きます。

- QuarkXPress の Multi-Ink カラーは、InDesign の混合インキに変換されます。ただし、特色が含まれていない Multi-Ink カラーは、プロセスカラーに変換されます。
- QuarkXPress 4.1 のカラーライブラリのカラーはその CMYK 値に基づいて変換されます。
- QuarkXPress 3.3 の HSB カラーは RGB カラーに変換され、カラーライブラリのカラーはその CMYK 値に基づいて変換されます。
- QuarkXPress 4.1 の HSB と LAB カラーは RGB カラーに変換され、カラーライブラリのカラーはその RGB／CMYK 値に基づいて変換されます。

上記以外の変換に関連する情報については、アドビ システムズ社の Web サイト（www.adobe.com/jp/support）のサポートドキュメントを参照してください。

トップへ戻る

PageMaker ドキュメントの変換

InDesign では、Adobe PageMaker 6.0 以降のドキュメントおよびテンプレートファイルを変換できます。PageMaker のファイルを開くと、InDesign ではオリジナルのファイル情報を InDesign 用の情報に変換します。InDesign ファイルは、ファイル拡張子 .indd で保存されます。

詳しくは、www.adobe.com/go/learn_pmconv_jp にある『PageMaker Conversion Guide』（PDF）を参照してください。

InDesign でドキュメントを開く前に、場合によっては次のことを行う必要があります。

- PageMaker ファイルまたはそれにリンクされたグラフィックがネットワークサーバー、フロッピーディスク、リムーバブルディスク上にある場合、データ転送で割り込みが発生するとそのファイルを適切に開けない可能性があります。データ転送での問題を防止するには、InDesign でドキュメントを開く前に、ドキュメントとそれに含まれるリンクをハードディスク（可能であれば、PageMaker パブリケーションの保存先と同じフォルダー）にコピーしておきます。
- 不要な非表示データを消去するには、PageMaker で「別名で保存」を使用します。
- すべてのリンクが保持されるように、PageMaker パブリケーションが保存されているフォルダーと同じフォルダーに、リンクされたファイルをすべてコピーします。
- 必要なフォントがすべて InDesign で使用可能かどうかを確認します。
- PageMaker パブリケーション内の切断されたグラフィックリンクを修復します。
- サイズの大きい PageMaker ドキュメントの変換で問題が発生した場合は、問題を分離するために、その PageMaker ファイルを分割してから変換します。

破損した PageMaker ドキュメントを PageMaker で開けない場合は、InDesign で開けるかどうかを試します。InDesign では通常、PageMaker で開けないドキュメントを修復できます。

PageMaker ドキュメントまたはテンプレートを開く

1. 元のアプリケーションファイルが閉じていることを確認してください。
2. InDesign で、ファイル／開くを選択します。
3. Windows では、「ファイルの種類」から「PageMaker（6.0-7.0）」を選択します。
4. ファイルを選択し、「開く」をクリックします。

   注意： InDesign で、ファイルまたはファイルの特定部分を変換できない場合は、変換できない理由を示す警告メッセージと、変換を試行した結果が表示されます。
5. 警告ダイアログボックスが表示された場合は、次のいずれかの操作を行います。
   - 「保存」をクリックして警告をテキストファイルに保存し、InDesign で変換されたファイルを開きます。
   - テキストファイルを保存せずに InDesign でファイルを開くには、「閉じる」をクリックします。

   変換された PageMaker ドキュメントに問題がある場合は、書き出しダイアログボックスを使用して InDesign マークアップ（IDML）形式でドキュメントを保存してください。次に、その IDML ファイルを開いて、InDesign ドキュメントとして保存します。

PageMaker のテンプレートを InDesign のテンプレートとして保存するには

1. InDesign でテンプレートを開きます。

2. ファイル／別名で保存を選択し、保存場所とファイル名を指定します。
3. 「ファイルの種類」（Windows）または「フォーマット」（Mac OS）から「InDesign テンプレート」を選択し、「保存」を選択します。

PageMaker ファイルの変換に共通する問題

次の点に注意してください。

- すべてのマスターページとレイヤーは、InDesign のマスターとレイヤーに変換されます。PageMaker のマスターページは InDesign のマスターページに変換され、ページ番号やガイドを含むすべてのオブジェクトが保持されます。アイテムのオーバーラップ順序を維持するため、InDesign では PageMaker パブリケーションの変換時に 2 つのレイヤーを作成します。デフォルトレイヤーとマスターデフォルトレイヤーです。マスターデフォルトレイヤーには、マスターページのアイテムが含まれます。
- PageMaker のガイドは、InDesign のデフォルトレイヤーに置かれます。
- PageMaker ペーストボード上のすべてのアイテムは、InDesign ドキュメントの先頭スプレッドのペーストボードに表示されます。
- PageMaker で「印刷を許可しない」指定されたオブジェクトを変換すると、InDesign ではプリント属性パネルの「印刷しない」が選択されます。
- グループ化されているオブジェクトは、グループ内に印刷しないアイテムが含まれている場合を除き、グループ化されたままです。

テキストと表の変換に関する問題

次の点に注意してください。

- テキストは、InDesign テキストフレームに変換されます。
- PageMaker ファイル内の表は、InDesign の表に変換されます。
- スタイルは、既存の InDesign のスタイルに変換または追加されます。PageMaker の [スタイルなし] は、InDesign の [段落スタイルなし] に相当します。ただし、[段落スタイルなし] では、PageMaker パブリケーションでの入力前に選択された名前付きスタイルがあれば、そのスタイルの属性が選択されます。
- InDesign では、すべてのパラグラフに Adobe 日本語段落コンポーザーを使用しています。そのため、一部のテキストが折り返される可能性があります。PageMaker の組版により近い改行を作成するため、Adobe 日本語単数行コンポーザーをパラグラフに割り当てることができますが、テキストの改行が発生することがあります。
- InDesign では、ベースライン行送りのみ使用します。PageMaker での大文字の縦横上の行送りは、InDesign ではベースライン行送りに変換されます。そのため、テキストの位置が移動することがあります。
- 変換されたテキストの先頭ベースラインは、InDesign で作成されたテキストと異なって表示されます。変換されたテキストの先頭ベースラインは「行送り」に設定されますが、InDesign で作成されたテキストの先頭ベースラインはデフォルトでは「アセント」に設定されます。
- InDesign と PageMaker では、ハイフネーションが異なるため、改行が変わる可能性があります。
- シャドウのかかったテキストは、書式なしのテキストになります。袋文字のテキストは、0.25 インチのストローク、紙色の塗りのテキストになります。

ブック、索引および目次の変換に関連する問題

次の点に注意してください。

- InDesign では、PageMaker パブリケーションを開くときにブックリストが無視されます。ブックリスト上のパブリケーションもすべて同時に開きたい場合は、レイアウトに「なし」を選択した状態で、PageMaker でブックレット作成プラグインを実行します。これによって、ブックに保存されたパブリケーションが 1 つにまとめられます。テキストブロックとフレームの連結は解除されるので注意してください。
- PageMaker パブリケーションの索引エントリは、InDesign の索引パネルに表示されます。「ここを参照」または「ここも参照」オプションを使用した相互参照のあるテキストは、「参照」または「も参照」にマップされます。
- 目次のテキストは、InDesign の目次ダイアログボックスのスタイルポップアップメニューで使用可能な、PageMaker の「目次スタイル」を使用して作成されます。

リンクと埋め込みの変換に関する問題

次の点に注意してください。

- テキストとグラフィックのリンクは保持され、リンクパネルに表示されます。
- InDesign でグラフィックへの元のリンクを特定できない場合、PageMaker のリンクを修復するかどうかを確認する警告メッセージが表示されます。
- InDesign は、OLE（Object Linking and Embedding）に対応していません。そのため、OLE グラフィックを含むファイルを開いたときに、これらのグラフィックは InDesign ドキュメントに表示されません。

カラーとトラップの変換に関する問題

次の点に注意してください。

- カラーは、InDesign のカラーに正確に変換されます。PageMaker の HLS カラーは RGB カラーに変換され、その他のカラーライブラリのカラーはその CMYK 値に基づいて変換されます。

- 濃淡は、親のカラーの割合として変換されます。スウォッチパネルに親のカラーがない場合、変換中に追加されます。濃淡のあるオブジェクトが選択された場合、親のカラーがスウォッチパネルで選択され、濃淡値がポップアップメニューに表示されます。
- PageMaker のカラープロファイルは、直接変換されます。Hexachrome カラーはすべて RGB 値に変換されます。ICC に準拠していないプロファイルは、デフォルトの CMS 設定および InDesign で指定されたプロファイルに置換されます。
- すべての曲線と線（段落境界線を含む）は、最も類似する線種に変換されます。カスタムの線と点線は、InDesign でカスタムの線と点線に変換されます。
- InDesign は、PageMaker の「画像」で TIFF 画像に適用されるスクリーンパターンや角度に対応していません。そのため、読み込まれた TIFF ファイルには取り込まれません。
- PageMaker のトラッピング環境設定ダイアログボックスの「自動オーバープリント」の「線」または「塗り」またはその両方が選択されている場合、この設定は InDesign にも引き継がれますが、プリント属性パネルの「線オーバープリント」または「塗りオーバープリント」は選択解除されます。

上記以外の PageMaker からの変換に関連する情報については、アドビ システムズ社の Web サイトにあるサポートドキュメントを参照してください。

関連項目

PageMaker Conversion Guide

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

アサインパッケージ

パッケージの作成と送信（InDesign）
パッケージの受信（InCopy）
返送されたパッケージの受信（InDesign）

トップへ戻る

パッケージの作成と送信（InDesign）

理想的な環境の下では、チームのすべての InDesign および InCopy ユーザーがアサインファイルの保存されているサーバーにアクセスできます。共有サーバーにアクセスできないユーザーが 1 人でもいる場合は、そのユーザーのために、圧縮したアサインパッケージを作成して配信できます。InCopy ユーザーは、アサインを使用した後、InDesign ドキュメントに統合するために再パッケージして返送します。InDesign で作成されるパッケージファイルの拡張子は .icap です。InCopy で作成されて返されるパッケージファイルの拡張子は .idap です。

ファイルをパッケージするコマンドには「InCopy 用にパッケージ」と「InCopy 用にパッケージして電子メールを送信」の 2 種類があります。手動で配信する圧縮されたパッケージを作成するには「InCopy 用にパッケージ」を使用します。自動的に電子メールメッセージに添付される圧縮されたパッケージを作成するには「InCopy 用にパッケージして電子メールを送信」を使用します。

注意： アサインパッケージと InDesign のファイル／パッケージコマンドを混同しないでください。ファイル／パッケージは、プリンターに送信するためにドキュメントとそのアセットをバンドルするコマンドです。

手動配信用のパッケージの作成

1. アサインを作成し、パッケージに含めるコンテンツを追加します。

   パッケージされたアサインには、チェックインされているコンテンツのみを含めることができます。コンテンツがチェックアウトされていると、コンテンツのチェックインを要求するダイアログが表示されます。

2. アサインパネルでアサインを選択し、パネルメニューから「InCopy 用にパッケージ」を選択します。
3. パッケージファイルの名前と場所を指定して、「保存」をクリックします。

パッケージファイルは、電子メールメッセージに添付するか、FTP サーバーにアップロードするか、またはディスクその他の外部メディアにコピーすることができます。

注意： パッケージを作成した後で編集／取り消しを選択すると、パッケージがキャンセルされ、アサインのアイテムがロック解除されますが、パッケージファイルがコンピューターから削除されたり、電子メールの送信がキャンセルされたりするわけではありません。

電子メール用のパッケージの作成（InDesign）

1. アサインを作成し、パッケージに含めるコンテンツを追加します。

   パッケージされたアサインには、チェックインされているコンテンツのみが含まれます。コンテンツがチェックアウトされていると、コンテンツのチェックインを要求するダイアログが表示されます。

2. アサインパネルでアサインを選択し、パネルメニューから「InCopy 用にパッケージして電子メールを送信」を選択します。

   圧縮されたアサインパッケージが作成されて、デフォルトの電子メールアプリケーションの電子メールメッセージに添付されます。

   注意： 別の電子メールアプリケーションを使用する場合は、デフォルトの電子メールアプリケーションを変更します。詳しくは、ご使用のシステムのマニュアルを参照してください。

3. 受取人およびその他の指示を追加し、電子メールメッセージを編集します。電子メールメッセージを送信します。

アサインのすべてのアイテムが、アサインされたユーザーに対してチェックアウトされます。ただし、パッケージの内容自体はロックされないため、誰でもパッケージを開いて編集することができます。

パッケージの取り消し

場合によっては、送信したパッケージが返送されないこともあります。例えば、メッセージが失われたり、受取人が該当プロジェクトではもう作業していない場合などです。このような場合は、パッケージをキャンセルできます。

1. アサインパネルでパッケージしたアサインを選択し、パネルメニューから「パッケージをキャンセル」を選択します。
2. 「OK」をクリックしてパッケージをキャンセルします。

パッケージをキャンセルしても、パッケージファイルがコンピューターから削除されるわけではありません。

パッケージがキャンセルされると、そのパッケージの内容が編集可能になります。キャンセルされたパッケージが返送されると、矛盾が発生する可能性があることに注意してください。

パッケージの更新

パッケージを作成した後で、アイテムの追加、削除、またはサイズ変更が必要になる場合があります。

1. パッケージされたアサインに対し、1 つ以上のストーリーを追加、削除、またはサイズ変更します。
2. アサインパネルでアサインを選択し、次のいずれかの操作を行います。
   - アサインパネルメニューから「パッケージを更新」を選択します。ファイルの名前と場所を指定します。更新したパッケージを共有サーバーに配置するか、電子メールを送信して、ユーザーがそのパッケージを使用できるようにします。パッケージが更新されたことを必ず InCopy ユーザーに通知してください。
   - アサインパネルメニューから「パッケージと電子メールを更新」を選択して、メッセージを送信します。

InCopy ユーザーが更新されたパッケージを開くと、新しい内容のみが自動的にアサインに追加されます。このとき、InCopy ユーザーは既存の内容を上書きするかどうかを判断できるので、必要に応じて以前の編集内容を保持することができます。

トップへ戻る

パッケージの受信（InCopy）

InDesign ユーザーが作成したパッケージや、InCopy ユーザーから転送されてきたパッケージを受信することができます。アサインパッケージを開くと、そのパッケージが解凍され、内容が InCopy のアサインフォルダー内の新規サブフォルダーにコピーされます。

パッケージを開く（InCopy）

❖ InCopy パッケージ（*.icap または *.incp）を開くには、次のいずれかの操作を行います。

- 電子メールアプリケーションを使用してパッケージを起動します。例えば、添付ファイルをダブルクリックします。
- エクスプローラーまたは Finder を使用してファイルを開きます。例えば、ファイルをダブルクリックするか、InCopy アプリケーションアイコンにドラッグします。
- InCopy で、ファイル／開くを選択し、パッケージされたアサインファイルをダブルクリックします。
- InCopy で、アサインパネルメニューから「パッケージを開く」を選択して、パッケージファイルをダブルクリックします。

これで、パッケージ内のストーリーを編集できます。ストーリーの編集を開始すると、フレームのコンテンツのチェックアウトを要求するメッセージが表示されます。編集を完了したら、すべてのコンテンツを保存して、パッケージを返送または転送します。

パッケージの返送または転送（InCopy）

パッケージを開いて編集した後、そのパッケージを他の InCopy ユーザーに転送するか、作成元の InDesign ユーザーに返送することができます。他の InCopy ユーザー用に作成されたパッケージファイルの拡張子は .icap です。InDesign ユーザー用に作成された返送パッケージファイルの拡張子は .idap です。

1. パッケージに含めるコンテンツを編集してチェックインします。
2. アサインパネルメニューから次のいずれかを選択します。
   InCopy 用に転送 他の InCopy ユーザー用にパッケージを作成します。パッケージファイルの名前と場所を指定し、InCopy ユーザーが使用できるようにします。

   InCopy 用に転送して電子メールを送信 別の InCopy ユーザー用にパッケージを作成して、電子メールで送信します。このパッケージは、デフォルトの電子メールアプリケーションで新規メッセージの添付ファイルとして表示されます。受取人と指示を追加し、電子メールメッセージを送信します。

   InDesign 用に返送 InDesign ユーザーに返送するパッケージを作成します。

   InDesign 用に返送して電子メールを送信 パッケージを作成して、InDesign ユーザーに電子メールで返送します。このパッケージは、デフォルトの電子メールアプリケーションで新規メッセージの添付ファイルとして表示されます。受取人と指示を追加し、電子メールメッセージを送信します。

トップへ戻る

返送されたパッケージの受信（InDesign）

❖ InDesign パッケージ（*.idap または *.indp）を開くには、次のいずれかの操作を行います。

- 電子メールアプリケーションを使用してパッケージを起動します。例えば、添付ファイルをダブルクリックします。
- エクスプローラーまたは Finder を使用してファイルを開きます。例えば、ファイルをダブルクリックするか、InDesign アプリケーションアイコンにドラッグします。
- InDesign で、ファイル／開くを選択し、パッケージファイルをダブルクリックします。
- InDesign で、アサインパネルメニューから「パッケージを開く」を選択して、パッケージファイルをダブルクリックします。

パッケージを開くときに、すべてのリンクを更新するよう要求するメッセージが表示されます。アサインのパッケージ以後に変更されたストーリーがある場合は、InDesign ファイルの内容を更新するかリンクを解除するかを選択できます。ファイルのストーリーが返送されてチェックインされたら、チェックアウトしてその内容を編集することができます。

関連項目

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

ワークフローの調整

アサイン間でのコンテンツの移動（InDesign）
アサインの削除（InDesign）
無効なアサインファイルの再リンク（InDesign）
誤操作の取り消し
ロックされたファイルの上書き（InDesign）
コンテンツファイルのリンクの解除（InDesign）
InCopy ファイルを InDesign ドキュメントに配置する

アサイン間でのコンテンツの移動（InDesign）

トップへ戻る

InDesign ユーザーは、既存のアサイン間で、およびアサインパネルの「アサインされていない InCopy の内容」セクションから、コンテンツを移動することができます。新規アサインを作成して、そのアサインにコンテンツを移動することもできます。

1. InDesign ドキュメントを保存します。
2. アサインパネルで、アサインファイル名の左側の矢印をクリックして、アサインのコンテンツを表示します。
3. 移動したいアイテムを選択します。
4. 次のいずれかの操作を行います。
   - コンテンツを別のアサインにドラッグします。
   - 既存のアサインにコンテンツを移動するには、アサインパネルメニューから「アサインに追加」を選択してから、目的のアサインを選択します。
   - 新規アサインを作成してコンテンツを移動するには、アサインパネルメニューから、アサインに追加／新規を選択し、新規アサインダイアログボックスでオプションを指定します。
5. アサインパネルメニューから「すべてのアサインを更新」を選択します。

   アサインリストに表示されている項目が少ない場合は、アサイン間や「アサインされていない InCopy の内容」セクションとの間でコンテンツアイテムをドラッグする方法をお勧めします。

アサインの削除（InDesign）

トップへ戻る

❖ アサインパネルで、1 つ以上のアサインを選択し、パネルメニューから「アサインを削除」を選択します。
アサインを削除することにより、次のことも同時に行われます。

- ドキュメントからそのアサインのデータが削除されます。
- ファイルシステムからアサインファイルが削除されます。
- リストからアサインファイル名が削除されます。
- InCopy 用のコンテンツが含まれている場合は、そのコンテンツはアサインパネルの「アサインされていない InCopy の内容」セクションに移されます。

注意： InDesign でアサインを削除するときに、InCopy ユーザーがそのアサインを開いている場合は、アサインが削除されたことを知らせる警告が、その InCopy ユーザーに対して表示されます。しかし、そのコンテンツファイルは削除されず、変更を失うことなく更新することができます。

無効なアサインファイルの再リンク（InDesign）

トップへ戻る

アサインファイルをディスクから移動または削除した場合、そのアサインファイルの作成元の InDesign ドキュメントを開くと、アサインファイルがどこにあるのかを InDesign が認識できなくなります。InDesign が認識できるように、アサインファイルを再作成する必要があります。

アサインファイルを元の場所に再作成

❖ アサインパネルで、次のいずれかの操作を行います。

- 無効なアサイン（パネル上にはまだ一覧表示されています）を選択してから、パネルメニューから「選択したアサインを更新」を選択します。
- パネルメニューから「すべてのアサインを更新」を選択します。

アサインファイルの場所の変更

❖ アサインファイルを別の場所に再作成するには、アサインパネルで次のいずれかの操作を行います。

- アサインを選択して、パネルメニューから「アサイン場所を変更」を選択します。新規ファイルの名前と場所を指定します。
- アサインファイル名をダブルクリックします。アサインオプションダイアログボックスで、「変更」をクリックして、新しいファイルの場所と名前を指定します。

トップへ戻る

誤操作の取り消し

操作を誤った場合は、最後に「保存」コマンドを使用した時点より後に行った変更を破棄して、ファイルシステム上のコンテンツを復元することができます。

InDesign では、InDesign ドキュメントを保存することで編集可能なすべての InCopy コンテンツファイルが自動的に保存されるため、「チェックアウトをキャンセル」コマンドでは、そのドキュメントが最後に変更された時点より後のバージョンしか復元されません。

❖ 次のいずれかの操作を行います。

- 最新の変更を取り消すには、編集／[操作名] を取り消しを選択します。
- 最後にドキュメントを保存してから行ったすべての変更を取り消すには、ファイル／復帰を選択します。
- 最後に保存したバージョン以降の変更を取り消して、ロックファイルを削除するには、アサインパネルでコンテンツを選択し、パネルメニューから「チェックアウトをキャンセル」を選択します。この操作によって、コンテンツは読み取り専用になり、他のユーザーがチェックアウトできるようになります。

トップへ戻る

ロックされたファイルの上書き（InDesign）

ユーザーは、自分が行った操作がワークフローに関わる他のユーザーにどのように影響するのかについてすぐに気付かず、コンテンツのステータスと所有権に矛盾が生じる状況を引き起してしまう場合があります。InDesign ユーザーは、必要に応じて、別のユーザーにチェックアウトされているロックされたファイルのリンクを解除し、そのファイルに対する制御を得ることによって、矛盾を解決することができます。ファイルのリンクを解除すると、そのコンテンツは InDesign ドキュメントに保存されますが、InCopy では共有されなくなります。

トップへ戻る

コンテンツファイルのリンクの解除（InDesign）

InDesign ユーザーは、（例えば製作期限の都合などで）必要な場合は、コンテンツファイルのリンクを解除することで、管理されているワークフローおよびリンクパネルからコンテンツファイルを削除することができます。そのコンテンツを再び編集のために使用できるようにする場合は、そのコンテンツを InCopy 用のコンテンツとして、異なるファイル名で書き出す必要があります。これにより、古いロックファイルが存在していても、ユーザーがファイルを編集できなくなることはありません。

注意： 自分がチェックアウトしているファイルのリンクを解除すると、そのファイルがワークフローから削除され、ロックファイルがディスクから削除されます。矛盾を生じさせることなく、そのコンテンツを再び書き出して、元のファイル名で上書きすることができます。

❖ InCopy コンテンツファイルのリンクを解除するには、リンクパネルでファイル（拡張子 icml または .incx）を選択し、パネルメニューから「リンクの解除」を選択します。リンク解除を行うと、コンテンツがドキュメントに埋め込まれ、ディスク上の InCopy ファイルのリンクが削除されます。

ファイルを再リンクするには、編集／埋め込みを取り消しを選択します。

フレームを削除することでリンクを解除するか、InDesign のリンクパネルを使用してコンテンツファイルを別のファイルに再リンクすることもできます。また、アサインパネルでストーリーを選択してごみ箱アイコンにドラッグすることもできます。

トップへ戻る

InCopy ファイルを InDesign ドキュメントに配置する

通常のワークフローは、基本的なレイアウトやテキストとグラフィックのプレースホルダを定義して InCopy 用のファイルを書き出すという、InDesign での作業から始まります。これと異なるワークフローの例として、単独の InCopy コンテンツファイル（.icml または .incx）を作成し、ファイル／配置コマンドを使用して InDesign に配置する場合もあります。

InDesign ドキュメントに InCopy コンテンツファイルを配置する際には、次の点に考慮します。

スタイル InCopy テキストファイルにスタイルを適用している場合、そのスタイルは InDesign でのドキュメントのスタイルリストに追加されます。スタイル名が競合する場合は、InDesign に読み込まれたスタイルは既存のスタイルで上書きされます。

レイアウト InDesign でそのコンテンツの基本的なレイアウト構成を作成してから、テキストとスタイルを作成するか、ワープロソフトからテキストとスタイルを読み込むことができます（InCopy 内で配置されたテキストファイルは InCopy ドキュメントに埋め込まれ、外部ファイルにリンクされるわけではありません）。

配置 / 複製 1 つの InCopy コンテンツファイルを複数回配置する場合は、そのコンテンツの各インスタンスが InDesign のリンクパネルに表示されますが、それらはすべて 1 つのコンテンツファイルとして管理されます。1 つのコンテンツファイルの（何らかの複製方法による）同一の複製についても同様です。

注意： 管理されている InCopy コンテンツファイルのテキストのうちの全部ではなく一部のみをコピーしてペーストする場合は、元のコンテンツファイルに関連付けられておらず、（InCopy その他の）外部ファイルへのリンクを一切含まない、新しいコンテンツファイルが作成されます。コピー元の部分とペーストした部分は、それぞれ別に編集可能です。

更新 / 管理 InDesign ドキュメント内に、管理されている 1 つのコンテンツファイルの複数のインスタンスが存在する場合、それらのインスタンスは、2 つのアプリケーションで開かれているかのように動作します。例えば、そのコンテンツファイルのいずれか 1 つのインスタンスをチェックアウトすると、他のすべてのインスタンスがロックされ、チェックアウトしたインスタンスのみを編集できます。この場合、適切な更新コマンドを使用して、そのコンテンツの（開いている）他のインスタンスを最新の状態に更新する必要があります。

関連項目

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

環境設定の指定

環境設定とデフォルトについて
一般環境設定の設定
デフォルトの設定
すべての環境設定とデフォルト設定を元に戻す
InDesign のスタイルとプリセットについて

環境設定とデフォルトについて

トップへ戻る

環境設定には、パネルの位置、単位オプション、グラフィックやタイポグラフィの表示オプションなどに関する設定が含まれています。環境設定では、InDesign のドキュメントとオブジェクトの初期状態を指定することができます。

一般環境設定の設定

トップへ戻る

この項では、環境設定ダイアログボックスの「一般」タブの環境設定について説明します。他の環境設定については、該当する設定を検索してください。

1. 編集／環境設定／一般（Windows）または InDesign／環境設定／一般（Mac OS）を選択して、設定したい環境設定を選択します。
2. 「ページ番号」セクションでは、表示ポップアップメニューからページ番号の表示方法を選択します（詳しくは、ページパネルでの絶対番号またはセクション番号の表示を参照してください）。
3. 「フォントのダウンロードと埋め込み」セクションでは、フォントの文字数で、フォントをサブセットにするか、すべて埋め込むかの限界値を指定します。この設定は、プリントまたは書き出しダイアログボックスでフォントをダウンロードするオプションに影響します。
4. 「拡大 / 縮小時」では、オブジェクトの拡大 / 縮小をパネルにどのように反映するかと、フレームの拡大 / 縮小時にフレームの内容がどのように反応するかを指定します。
   - テキストフレームを拡大 / 縮小するときにポイントサイズを変更する場合は、「内容に適用」を選択します（詳しくは、文字の拡大 / 縮小を参照してください）。このオプションを選択した状態でグラフィックフレームを拡大 / 縮小すると、画像のパーセンテージサイズは変更されますが、フレームのパーセンテージは 100 %に戻ります（詳しくは、オブジェクトの拡大・縮小を参照してください）。
   - テキストを拡大 / 縮小するときに、新しいポイントサイズを括弧で囲んで元のポイントサイズを表示するには、「拡大 / 縮小率を調整」を選択します。グラフィックフレームを拡大 / 縮小するときにこのオプションが選択されていると、フレームと画像の両方のパーセンテージサイズが変更されます。
5. 「すべての警告ダイアログをリセット」をクリックすると、非表示に設定したすべての警告ダイアログボックスを表示します（警告ダイアログボックスが表示されたとき、チェックボックスを選択することで、その警告ダイアログボックスが再表示されないようにできます）。

デフォルトの設定

トップへ戻る

ドキュメントを開いていないときに設定を変更すると、その設定が次回より作成される新しいドキュメントのデフォルト設定になります。ドキュメントが開いているときに設定を変更すると、変更時に開いていたドキュメントにだけ適用されます。

同様に、オブジェクトを選択していないときに設定を変更すると、その設定が新しいオブジェクトのデフォルト設定になります。

新規ドキュメントのデフォルト設定の変更

1. すべての ドキュメントを閉じます。
2. メニュー項目、パネル、またはダイアログボックスの設定を変更します。

作成するドキュメントがほとんど同じ用紙サイズや言語である場合には、デフォルト設定を指定することで設定する手間を省くことができます。例えば、デフォルトのページサイズを変更するには、すべてのドキュメントを閉じて、ファイル／ドキュメント設定を選択し、適切なページサイズを選択します。デフォルトの辞書を設定するには、すべてのドキュメントを閉じて、編集／環境設定／欧文辞書（Windows）または InDesign／環境設定／欧文辞書（Mac OS）を選択し、言語ポップアップメニューからオプションを選択します。

ドキュメント内での新しいオブジェクトのデフォルト設定の指定

1. ドキュメントを開いた状態で、編集／選択を解除を選択します。
2. メニュー項目、パネル、またはダイアログボックスの設定を変更します。

トップへ戻る

すべての環境設定とデフォルト設定を元に戻す

InDesign でエラーが発生するときには、環境設定の削除によって多くの場合は問題が解決します。

InDesign Defaults および InDesign SavedData という名前の環境設定ファイルのバックアップコピーを作成しておくことをお勧めします。環境設定を削除する代わりに、これらのバックアップファイルを、問題のある壊れた環境設定ファイルに上書きコピーすると、カスタマイズの内容が失われません。

環境設定を復元するときに影響を受けるファイルの詳細な一覧については、Mike Witherell による Adobe InDesign Presets（PDF、英語）を参照してください。

❖ 次のいずれかの操作を行います。

- Windows では InDesign を起動後、直ちに Shift+Ctrl+Alt キーを押します。環境設定ファイルを削除するかどうか訊ねるメッセージが表示されたら「はい」をクリックします。
- Mac OS では、Shift+Option+Command+Control キーを押しながら InDesign を起動します。環境設定ファイルを削除するかどうか訊ねるメッセージが表示されたら「はい」をクリックします。

プログラムの様々な環境設定とデフォルトの設定が Adobe InDesign 環境設定ファイルに保存されています。InDesign Defaults ファイルを含むこれらのファイルは、InDesign を終了するたびに保存されます。手動で削除または名前を変更する場合、環境設定ファイルは次の場所にあります。

- Mac OS

  InDesign SavedData ユーザー/[ユーザー]/ライブラリ/Caches/Adobe InDesign/Version [バージョン]/InDesign SavedData

  InDesign Defaults ユーザー/[ユーザー]/ライブラリ/Preferences/Adobe InDesign/Version [バージョン]/InDesign Defaults

- Windows XP

  InDesign SavedData \Documents and Settings\[ユーザー名]\Local Settings\Application Data\Adobe\InDesign\Version [バージョン]\Caches

  InDesign Defaults \Documents and Settings\[ユーザー名]\Application Data\Adobe\InDesign\Version [バージョン]

- Windows Vista および Windows 7

  InDesign SavedData ユーザー\[ユーザー名]\AppData\Roaming\Adobe\InDesign\Version [バージョン]\Caches\InDesign SavedData

  InDesign Defaults C:\ユーザー\[ユーザー名]\AppData\Roaming\Adobe\InDesign\Version [バージョン]\InDesign Defaults

トップへ戻る

InDesign のスタイルとプリセットについて

設定は、次に対するものを含め、保存して再利用できます。

- 段落スタイルと文字スタイルを作成できます（詳しくは、段落スタイルと文字スタイルの追加を参照してください）。
- オブジェクトスタイルを作成できます（詳しくは、オブジェクトスタイルを参照してください）。
- 表とセルのスタイルを作成できます（詳しくは、表およびセルのスタイルを参照してください）。
- PDF 書き出しプリセットを作成できます（詳しくは、Adobe PDF プリセットのカスタマイズを参照してください）。
- プリントプリセットを作成できます。プリントダイアログボックス内のすべての属性がプリセットに保存されます（ドキュメントやブックの印刷を参照してください）。
- トラッププリセットを作成できます（詳しくは、トラップを参照してください）。
- 透明の分割・統合プリセットを作成できます（詳しくは、透明が使用されているアートワークの統合を参照してください）。
- 目次スタイルを作成できます（詳しくは、複数のリストの目次スタイルの作成を参照してください）。
- ワークスペースを保存することができます。
- 線種を作成できます（詳しくは、カスタム線種の定義を参照してください）。

一般に、スタイルの設定を変更したい場合は、そのスタイルを設定したダイアログボックスで設定を変更し、保存します。スタイルとプリセットは、そのスタイルを作成したドキュメント内に保存されます。他のドキュメントからスタイルやプリセットを挿入したり、読み込むことで、他のドキュメントの設定のまま使用することができます。さらにほとんどのプリセットは、別ファイルとして書き出しまたは保存し、他のユーザーに配付することができます。

プリセットの詳細な一覧については、Mike Witherell による Adobe InDesign Presets（PDF、英語）を参照してください。

InDesign では、ブック機能を使うことによってスタイルやプリセットを共有することも可能です。詳しくは、ブックドキュメントの同期を参照してください。

(cc) BY-NC-SR

法律上の注意 | プライバシーポリシー

ツールパネル

ツールパネルの概要
ツールの概要
選択ツールの図解
描画ツールと文字ツールの図解
変形ツールの図解
修正ツールとナビゲーションツールの図解

ツールパネルの概要

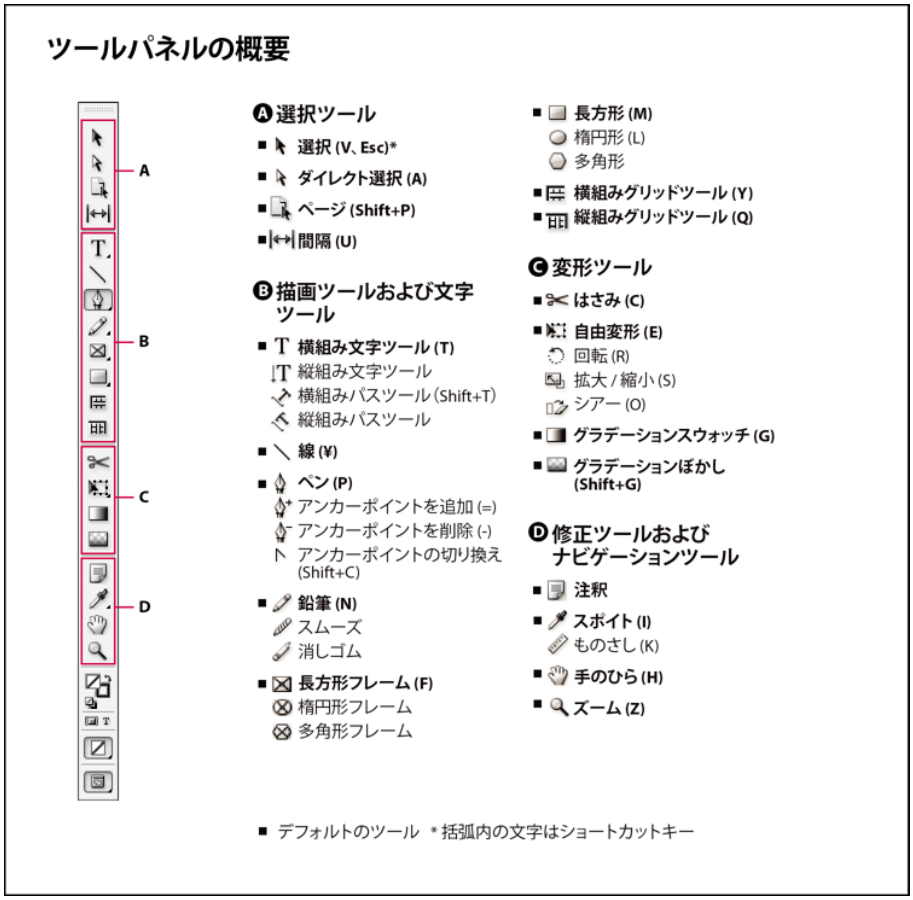
トップへ戻る

ツールパネルには、ページアイテムの選択、編集および作成を行う機能があります。また、文字、オブジェクト、線、グラデーションの色を選択するためのツールも用意されています。ツールパネルの全体のレイアウトは、各ユーザーが自由にウィンドウレイアウトやパネルレイアウトに合わせて変更できます。デフォルトでは、ツールパネルは縦 1 列にツールが並んだ状態で表示されますが、縦 2 列や横 1 列に設定することもできます。ただし、ツールパネル内の各ツールの並び順は変更できません。ツールパネルを移動するには、ツールパネルの上部をドラッグします。

あるツールを選択するには、ツールパネル内のツールアイコンをクリックします。また、ツールパネルには、表示されているツールに関係した、非表示のツールもあります。隠れているツールがあるツールアイコンには、その右側に三角形の矢印が表示されます。非表示のツールを選択するには、ツールパネルに現在表示されているツールをクリックしたままで、目的のツールを選択します。

ツールとショートカットキーの名前は、そのツールにポインターを合わせると表示されます。このとき表示されるテキストをツールヒントといいます。環境設定／インターフェイスの「カーソルとジェスチャーオプション」セクションにある「ツールヒントの表示速度」で「なし」を選択すると、ツールヒントをオフにできます。

選択したツールで使用できるショートカットや修飾キーを確認するには、ツールヒントパネルを開きます（ウィンドウ／ユーティリティ／ツールヒントを選択します）。



注意： コンテンツ収集ツールとコンテンツ配置ツールは CS5.5 以前では使用できません。

ツールパネルの表示

ウィンドウ／ツールを選択します。

ツールオプションの表示

✥ ツールパネル内のツールをダブルクリックします。

この操作は、スポイト、鉛筆、多角形などのツールでのみ可能です。

隠れているツールの表示と選択

1. ツールパネルで、隠れているツールのあるツールにポインターを合わせて、マウスボタンを押したままにします。
2. 隠れているツールが表示されたら選択します。

一時的なツールの選択

1. あるツールが選択されているときに、別のツールのキーボードショートカットを押します。
2. キーボードショートカットを押したままで、目的の操作を実行します。
3. キーボードショートカットを放すと、元のツールに戻ります。

例えば、間隔ツールが選択されているとき V キーを押すと、選択ツールを一時的に使用できます。V キーを放すと間隔ツールに戻ります。

ツールヒントの表示

ツールヒントパネルは、選択したツールやその修飾キーの機能を表示します。

1. ツールヒントパネルを表示するには、ウィンドウ／ユーティリティ／ツールヒントを選択します。
2. ツールパネルのツールを選択し、ツールとその修飾キーやショートカットの説明を表示します。

ツールパネルのレイアウトの変更

1. 編集／環境設定／インターフェイス（Windows）または InDesign／環境設定／インターフェイス（Mac OS）を選択します。
2. フローティングツールパネルポップアップメニューのレイアウトオプションを選択して、「OK」をクリックします。

または、ツールパネル上部の二重矢印アイコンをクリックして、ツールパネルレイアウトを変更することもできます。

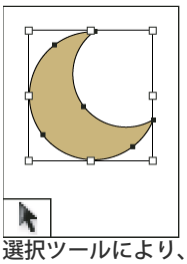
トップへ戻る

ツールの概要

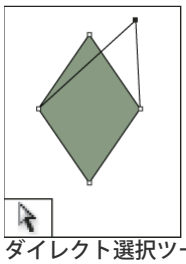
文字ツール 標準的なブロック形状または様々な形状、あるいはパス上に文字を作成し、書式を設定します（詳しくは、テキストフレームの作成を参照してください）。
描画ツール 長方形、楕円形、多角形、自由なパスの形状など、単純なオブジェクトから複雑なオブジェクトまでを描画、作成します（詳しくは、描画を参照してください）。
選択ツール オブジェクト、点または線を選択（アクティブに）します（詳しくは、オブジェクトの選択を参照してください）。
変形ツール オブジェクトの形状、方向、サイズを変更します（詳しくは、オブジェクトの変形を参照してください）。
ナビゲーションツール ドキュメント内の移動、ドキュメント内のビューの制御およびドキュメント内の距離の測定を行います（詳しくは、ズームインとズームアウトおよび定規と単位を参照してください）。
はさみツール パスやフレームを分割します（詳しくは、パスの分割を参照してください）。

トップへ戻る

選択ツールの図解



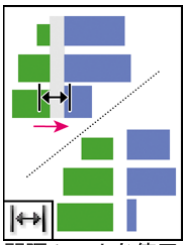
選択ツールにより、オブジェクト全体を選択することができます。



ダイレクト選択ツールにより、パス上のポイントまたはフレーム内の内容を選択することができます。



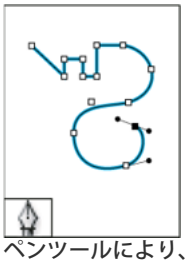
ページツールを使用すると、1つのドキュメント内に複数のページサイズを作成できます。



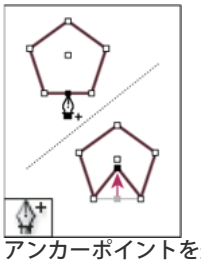
間隔ツールを使用すると、オブジェクト間の間隔を調整できます。

描画ツールと文字ツールの図解

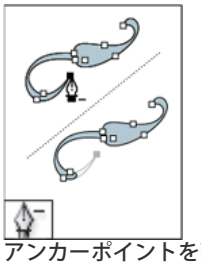
トップへ戻る



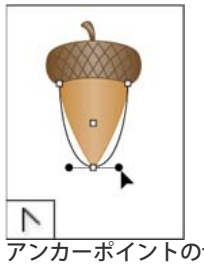
ペンツールにより、直線および曲線のパスを描画することができます。



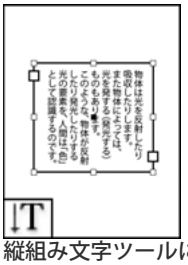
アンカーポイントを追加ツールにより、パスにアンカーポイントを追加することができます。



アンカーポイントを削除ツールにより、パスからアンカーポイントを削除することができます。



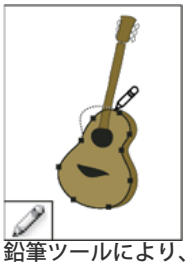
アンカーポイントの切り換えツールにより、コーナーポイントとスムースポイントを変換することができます。



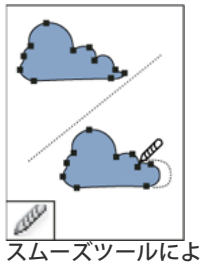
縦組み文字ツールにより、縦組みテキストフレームを作成したり、テキストを選択することができます。



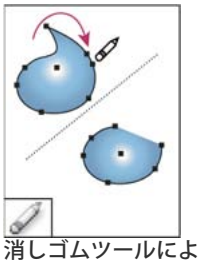
横組みパスツールにより、パス上で文字を作成および編集することができます。



鉛筆ツールにより、自由なパスを描画することができます。



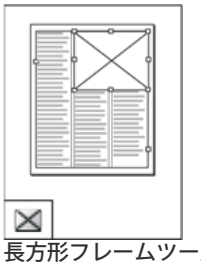
スムーズツールにより、パスから不要な凹凸を取り除くことができます。



消しゴムツールにより、パス上のポイントを削除することができます。



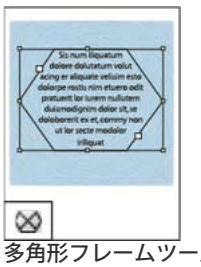
線ツールにより、線セグメントを描画することができます。



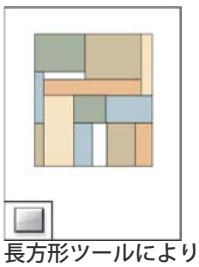
長方形フレームツールにより、正方形または長方形のプレースホルダーを作成することができます。



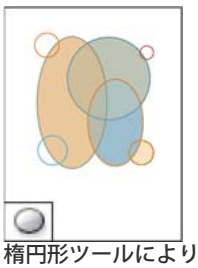
楕円形フレームツールにより、真円形または楕円形のプレースホルダーを作成することができます。



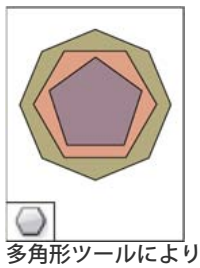
多角形フレームツールにより、多角形のプレースホルダーを作成することができます。



長方形ツールにより、正方形または長方形を作成することができます。



楕円形ツールにより、真円形または楕円形を作成することができます。



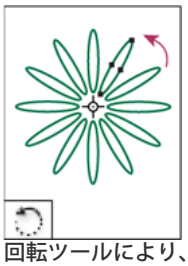
多角形ツールにより、多角形を作成することができます。

変形ツールの図解

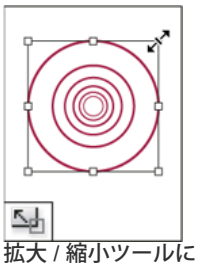
トップへ戻る



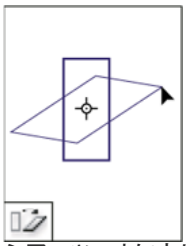
自由変形ツールにより、オブジェクトを回転させたり、拡大 / 縮小したり、また傾斜させることができます。



回転ツールにより、固定点を中心にしてオブジェクトを回転させることができます。



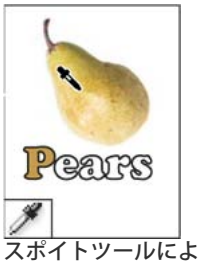
拡大 / 縮小ツールにより、固定点を中心にしてオブジェクトのサイズを変更することができます。



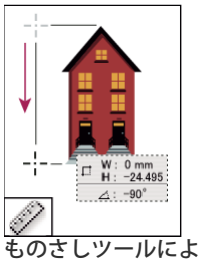
シアーツールにより、固定点を中心にしてオブジェクトを歪めることができます。

修正ツールとナビゲーションツールの図解

トップへ戻る



スポイトツールにより、オブジェクトのカラーおよび文字属性をサンプリングして他のオブジェクトに適用することができます。



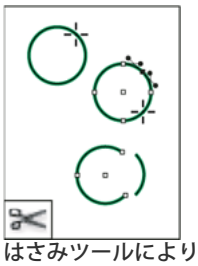
ものさしツールにより、2 点間の距離を測ることができます。



グラデーションスウォッチツールにより、オブジェクト内のグラデーションの開始点、終了点および角度を調整することができます。



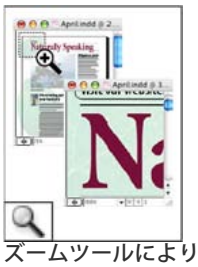
グラデーションぼかしツールにより、オブジェクトを背景にフェードすることができます。



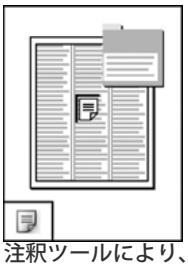
はさみツールにより、パスを特定の位置で切断することができます。



手のひらツールにより、ドキュメントウィンドウ内でページ表示を移動させることができます。



ズームツールにより、ドキュメントウィンドウ内の表示倍率を調整することができます。



注釈ツールにより、コメントを追加できます。

関連項目

(cc) BY-NC-SR

法律上の注意 | プライバシーポリシー

レイアウトとデザイン

リンクコンテンツ（英語）
Anne-Marie Concepcion (2012/05/15)
チュートリアル - ビデオ
このビデオチュートリアルでは、同じドキュメント内のオブジェクト間などで、リンクの作成および更新を行う方法をご覧ください。

フォームツールの確認（英語）
Anne-Marie Concepcion (2012/05/15)
チュートリアル - ビデオ
InDesign のフォームフィールドに関連するボタン、ダイアログボックス、メニューコマンドの概要を説明します。インタラクティブフォームの従来の作成方法との違いをご覧ください。

Acrobat でのフォームのテスト（英語）
Anne-Marie Concepcion (2012/05/15)
チュートリアル - ビデオ
このチュートリアルでは、InDesign のフォームフィールドが Acrobat や Reader でどのように表示されるかをご覧ください。その後、Acrobat で新たに追加された機能を使用して、インタラクティブフィールドを変更する方法を紹介します。さらに、Acrobat でフォームがどのように機能するかを説明します。

フレームの操作（英語）
Kelly McCathran (2012/05/15)
チュートリアル - ビデオ
InDesign で配置したものはすべて、最終的にフレーム内に配置されます。InDesign では、フレームを一から作成できます。または、テキストや画像をドキュメントに配置した（読み込んだ）場合は、フレームが自動的に作成されます。

相互参照の作成（ビデオ 5:45）、CS4 ～ CS6（英語）
David Blatner (2011/01/01)
チュートリアル - ビデオ
相互参照の追加方法を順を追って説明します。ターゲットテキストやページ番号割り付けが変更されたときにすばやく更新できるように、相互参照を作成します。カスタム相互参照形式を作成します。

メタデータによる画像キャプションの生成（PDF、148 KB）（英語）
参照 (2011/01/01)
メタデータの使用方法およびレイアウト内の画像キャプションを自動生成する方法について説明した短いチュートリアルです。

グリッドモードによるライブ割付（ビデオ 2:48）（英語）
Michael Ninness (2011/01/01)
チュートリアル - ビデオ
「グリッド化」機能が搭載されたデザインツールを使用してすばやく均等なオブジェクトを作成する方法を紹介します。

ライブキャプション（ビデオ 3:04）（英語）
Michael Ninness (2011/01/01)
チュートリアル - ビデオ
InDesign CS5 以降で、画像に埋め込まれたメタデータを活用してライブキャプションを作成し、自動的かつ柔軟にレイアウトに配置する方法を紹介します。

光沢のあるグラフィックの作成（PDF、203 KB）（英語）
Mike Rankin (2011/01/01)
参照
このチュートリアルでは、レイアウト内のオブジェクトに光沢のある効果を適用する方法を説明しています。

複数のページサイズが混在するドキュメントの管理（PDF、136 KB）（英語）
参照 (2011/01/01)
InDesign CS5 以降で複数のページサイズが混在するドキュメントを管理する方法について説明した短いチュートリアルです。

Mini Bridge：アセットへのアクセス（PDF、180 KB）（英語）

参照 (2011/01/01)
Bridge を InDesign でフローティングパネルとして使用します。Mini Bridge です。

新しいページツールで混在したサイズのページを作成（ビデオ 11:43）
Anne-Marie Concepcion (2011/01/01)
チュートリアル - ビデオ
異なるサイズのページサイズを単一ファイルにまとめる新機能を使用して、テキストが含まれる複雑なパンフレットや書籍の表紙を作成します。

段抜きと段分割（ビデオ 2:01）（英語）
Michael Ninness (2011/01/01)
チュートリアル - ビデオ
InDesign CS5 以降で、段抜きと段分割の機能を使用して、複雑なレイアウトをより少ない手順で作成する方法を紹介します。

スプレッドビューの回転（ビデオ 3:31）、CS4 ～ CS6（英語）
David Blatner (2011/01/01)
チュートリアル - ビデオ
ページ上のオブジェクトを回転するときにスプレッドビューを回転して容易に編集する方法を紹介します。ナビゲーションに関する様々なヒントを参照して時間の節約に役立てることができます。

段抜きと段分割（ビデオ 6 分 15 秒）
Anne-Marie Concepcion (2011/01/01)
チュートリアル - ビデオ
複数の列をまたぐ見出しを設定する方法、一連の段落を複数の列に分割して縦のスペースを節約する方法について説明します。

新規ドキュメントの作成

ドキュメントの新規作成
新規ドキュメントの作成
新規ドキュメントのオプション
ドキュメントウィンドウの概要
カスタムページサイズの作成
ドキュメントプリセットの定義
プリセットを使用したドキュメントの作成

ページデザインは基本的な設定から始めます。新しいドキュメントの作成から始めて、ページの設定、マージン・段組の設定またはグリッド設定の変更を行います。

ページの先頭へ

新規ドキュメントの作成

1. ファイル／新規／ドキュメントを選択します。

   新規ドキュメントダイアログボックスでは、ページ数やページサイズ、裁ち落としと印刷可能領域を設定できます。これらの設定はいつでも変更できます。

2. ドキュメント設定オプションを指定します（詳しくは、 新規ドキュメントのオプションを参照してください）。

   裁ち落としと印刷可能領域のサイズを指定するには、裁ち落としと印刷可能領域のラベルの前にある矢印ボタンをクリックします。裁ち落とし印刷可能領域は、「ページサイズ」で定義されている範囲の外側まで広がっています。裁ち落としと印刷可能領域をすべての側面に均等に拡張するには、すべての設定を同一にするアイコン をクリックします。

3. （*InDesign CC* のみ）「プレビュー」チェックボックスを選択して、新しいドキュメントを確認します。必要に応じて変更を加えます。

4. 指定した設定で新しいドキュメントを開くには、「OK」をクリックします。

すべての新しいドキュメントに使用されるデフォルトレイアウトを設定するには、開いているドキュメントがない状態で、ファイル／ドキュメント設定またはレイアウト／マージン・段組を選択し、オプションを設定します。

ページの先頭へ

新規ドキュメントのオプション

ドキュメントプリセット　保存済みのプリセットを選択します。

ドキュメントプロファイル　Web 用の PDF または SWF に出力するドキュメントを作成する場合、Web オプションを選択すると、このダイアログボックスにあるいくつかのオプションが変化します。例えば、見開きページが解除され、ページ方向が縦置きから横置きになり、モニターの解像度に基づいたページサイズが設定されます。これらの設定はドキュメントを作成した後に変更できます。
（***CS6*** 以降）：Digital Publishing Suite で作成するパブリケーション用に「デジタルパブリッシング」ドキュメントプロファイルが追加されました。ドキュメントのプロファイルは作成後に変更することもできます。

ページ数　新規ドキュメントの作成時にドキュメントに含めるページ数を指定します。

開始ページ番号　ドキュメントに設定するページ番号の開始値を指定します。見開きページを有効にして偶数（例：2）を指定すると、ドキュメントの先頭スプレッドは 2 ページのスプレッドになります。ドキュメントを見開きで開始する方法を参照してください。

見開きページ　本や雑誌などのように左右のページを見開きにして、ページのスプレッドとして使用する場合は、このオプションを選択します。チラシやポスターなど、単ページ（片ページ）をスプレッドとして使用する場合は、このオプションの選択を解除します。
ドキュメントを作成した後でページパネルを使用し、2 ページを超えるスプレッドを作成したり、開始ページを見開きにしたりすることもできます（スプレッドのページ番号割り当ての制御を参照してください。）

マスターにテキストフレーム （*CS5.5* 以前）：指定した段組の設定に一致するように、マージンガイド内の領域のサイズに合わせて、テキストフレームがマスターページ上に自動的に作成されるようにするには、このオプションを選択します。マスターテキストフレーム（フレームグリッド）は A マスターに追加されます（マスターページでのテキストフレームの使用を参照してください。）

「マスターにテキストフレーム」を使用できるのは、ファイル／新規／ドキュメントを選択した場合のみです。

プライマリテキストフレーム （*CS6* 以降）：マスターページ上にプライマリテキストフレームを追加するには、このオプションを選択します。新しいマスターページを適用すると、プライマリテキストフレームのストーリーが自動的に新しいマスターページのプライマリテキストフレームに配置されます。

ページサイズ ポップアップメニューからページサイズを選択するか、「幅」と「高さ」に値を入力します。ページサイズとは、ページ外側の裁ち落としやその他のマークを断裁した後の最終的な仕上がりのサイズです。

方向 縦置き（縦長） または横置き（横長） をクリックします。このオプションは、「ページサイズ」に入力した寸法と連動しています。「高さ」の値の方が大きい場合は、縦置きアイコンが選択されます。「幅」の値の方が大きい場合は、横置きアイコンが選択されます。選択されていないアイコンをクリックすると、「高さ」と「幅」の値が切り替わります。

ヒント：裁ち落としと印刷可能領域のサイズを指定するには、新規ドキュメントダイアログボックスで、裁ち落としと印刷可能領域のラベルの前にある矢印ボタンをクリックします。裁ち落としと印刷可能領域をすべての側面に均等に拡張するには、すべての設定を同一にするアイコン をクリックします。

裁ち落とし 裁ち落としの領域を使用すると、定義されたページサイズの外端に配置されたオブジェクトをプリントすることができます。仕上がり寸法に合わせてページの端にオブジェクトを配置すると、印刷時やトリミング時のわずかなズレによって、ページの端に余白が生じてしまうことがあります。そのため、ページの端に配置するオブジェクトは、実際のページサイズからはみ出す位置に配置し、印刷した後に断裁します。ドキュメント上には、指定した裁ち落としの領域が赤い線で表示されるようになります。なお、ここで設定した裁ち落としは、プリントダイアログボックスの「裁ち落とし」の設定に反映させることができます。

印刷可能領域 印刷可能領域は、ドキュメントが最終的なページサイズに断裁されるときに削除されます。印刷可能領域は、印刷情報やカスタマイズしたカラーバーの情報を配置したり、ドキュメントに関する他の処理命令や他の情報の説明を表示したりするために使用できます。印刷可能領域に配置したオブジェクト（テキストフレームも含む）は印刷されますが、ドキュメントがその最終ページサイズで断裁されたときになくなります。

裁ち落としと印刷可能領域の外側のオブジェクトは印刷されません。

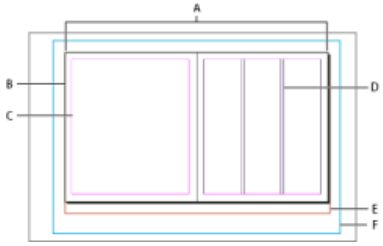
プレビュー （*InDesign CC* のみ）このチェックボックスを選択して、新しいドキュメントを確認します。プレビューを確認し、必要に応じてオプションを変更します。

注意： ファイルメニューからドキュメントプリセット／定義を選択して、後で使用できるようにドキュメントの設定を保存することもできます。

ページの先頭へ

ドキュメントウィンドウの概要

ドキュメントの各ページまたはスプレッドには専用のペーストボードとガイドがあり、標準モードで表示されます（標準モードに切り替えるには、表示／スクリーンモード／標準モードを選択します）。ペーストボードは、ドキュメントがいずれかのプレビューモードで表示されているときは、グレーの背景に置き換えられます（ドキュメントのプレビューを参照してください。）このプレビューの背景色とガイドは環境設定の「ガイドとペーストボード」で変更できます。



標準モードでのドキュメントとガイド

A. スプレッド（黒の線） ***B.*** ページ（黒の線） ***C.*** マージンガイド（マゼンタの線） ***D.*** 段組ガイド（紫の行） ***E.*** 裁ち落とし（赤い線） ***F.*** 印刷可能領域（青い線）

ドキュメントウィンドウに関する注意：

- その他の色の線は定規ガイドをあらわしており、存在する場合は、選択するとレイヤーカラーで表示されます。レイヤーを参照してください。
- 段組ガイドは、マージンガイドの前面に表示されます。段組ガイドがマージンガイドに重なっている場合は、マージンガイドは段組ガイドの後ろに隠れています。

ページの先頭へ

カスタムページサイズの作成

独自のページサイズを作成し、新規ドキュメントダイアログボックスのページサイズメニューに表示させることができます。

1. ファイル／新規／ドキュメントを選択します。
2. ページサイズメニューから、「カスタム」を選択します。
3. ページサイズの名前を入力し、ページサイズ設定内容を指定して、「追加」をクリックします。

以前のバージョンの InDesign では、New Doc Sizes.txt ファイルを使用してカスタムページサイズを作成するようになっていました。このファイルは InDesign CS5 以降にはありません。

ページの先頭へ

ドキュメントプリセットの定義

ドキュメント設定としてページサイズ、段組、マージン、裁ち落とし印刷可能領域をプリセットに保存して、類似するドキュメントを作成するときに時間を節約し、一貫性を保つことができます。

1. ファイル／ドキュメントプリセット／定義を選択します。
2. 表示されるダイアログボックスで「新規」をクリックします。
3. 新規ドキュメントプリセットダイアログボックスで、プリセットの名前を指定し、各項目を設定します（各オプションの説明について詳しくは、新規ドキュメントのオプションを参照してください）。
4. 「OK」を 2 回クリックします。

ドキュメントプリセットを別のファイルに保存し、他のユーザーに配布することができます。ドキュメントプリセットファイルの保存と読み込みを行うには、ドキュメントプリセットダイアログボックスの「保存」と「読み込み」ボタンを使用します。

ページの先頭へ

プリセットを使用したドキュメントの作成

1. 次のいずれかの操作を行います。
   - ファイル／ドキュメントプリセット／*[プリセット名]* を選択します（新規ドキュメントダイアログボックスを開かずにプリセットに基づいて新しいドキュメントを作成するには、Shift キーを押しながらプリセットを選択します）。
   - ファイル／新規／ドキュメントを選択し、新規ドキュメントダイアログボックスのドキュメントプリセットメニューからプリセットを選択します。

   新規ドキュメントダイアログボックスにドキュメントプリセットオプションが表示されます。
2. （必要に応じて）オプションを変更し、「OK」をクリックします。

新規ドキュメントダイアログボックスを省略するには、*Shift* キーを押しながらドキュメントプリセットメニューからプリセットを選択します。

(cc) BY-NC-SR Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

QR コードの生成 | CC

QR コードについて
InDesign での QR コードの管理

ページの先頭へ

QR コードについて

QR コードはデータを機械で読み取り可能なコードとして印刷したもので、様々な業界で活用されています。QR コードは消費者向け広告では一般的です。スマートフォンを所有している消費者は、QR スキャナー機能を備えたアプリケーションをインストールしてコードを読み取り、URL 情報を解読して、スマートフォンの Web ブラウザーで企業の Web サイトを直接表示できます。

QR コードをスキャンすることで、テキストが表示される、デバイスに名刺の連絡先が追加される、Web ハイパーリンクが開く、電子メールまたはテキストメッセージが作成されるなどの操作が行われます。

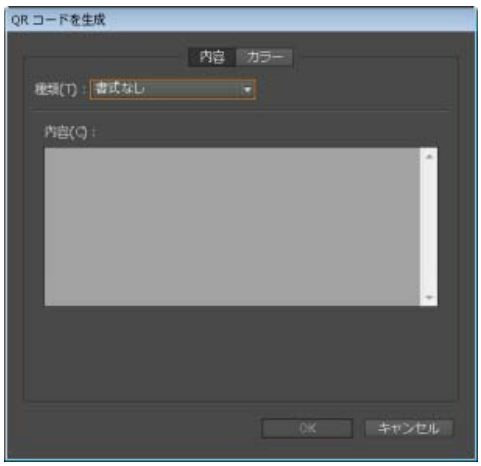
ページの先頭へ

InDesign での QR コードの管理

InDesign で高品質の独立した QR コードグラフィックを生成して編集できます。生成される QR コードは、InDesign でネイティブなベクトルオブジェクトとまったく同様に動作する高精度のグラフィックオブジェクトです。このオブジェクトは簡単にサイズを変更できるうえ、特定のカラーで塗りつぶすことができます。効果、不透明度に加え、オーバープリントや特色インキ、トラップなどのプリント属性をオブジェクトに適用することもできます。コードグラフィックは、ベクトルグラフィックオブジェクトと同様に Adobe Illustrator などの標準的なグラフィック編集ツールにコピー＆ペーストできます。

QR コードの生成

1. メニューからオブジェクト／QR コードを生成を選択します。QR コードを生成ダイアログボックスが表示されます。



   QR コードを生成または QR コードを編集ダイアログボックスには、「内容」と「カラー」の 2 つのタブがあります。

2. 「内容」タブの「種類」ドロップダウンリストで、次のいずれかのデータの種類を選択します。
   - Web ハイパーリンク
   - 書式なし
   - テキストメッセージ
   - 電子メール
   - 名刺

選択した種類に基づいて、QR コードの作成に必要な情報を指定するためのフィールドが表示されます。

3. 「カラー」タブにはスウォッチリストが表示されます。QR コードに特定の色を適用する場合は、「カラー」タブに切り替え、色を選択します。初期設定では、QR コードは透明の背景に黒で生成されます。
4. 「OK」をクリックします。
5. QR コードを生成する前にフレームが選択されている場合は、選択したフレームの内容に代わってコードが直接配置されます。

   フレームが選択されていない場合、QR コードは配置アイコンに読み込まれ、従来の EPS オブジェクトと同様に配置できます。

   - ドキュメント内の任意の場所をクリックすると、元の初期設定サイズである 30 X 30（単位は mm）で配置されます。
   - 既存のフレーム内をクリックすると、コードがフレーム内に初期設定サイズで配置されます（Alt キーを押しながらフレーム内をクリックすると、既存の内容は置き換えられます）。
   - クリックしてドラッグすると、新しいフレームが固定の縦横比で描画され、マウスを放すとフレーム内にコードが配置されます。

ドキュメントに配置された QR コードは、オブジェクト上にカーソルを移動したときに内容の詳細が埋め込みコードの形式でツールヒントとして表示されることを除き、従来の EPS オブジェクトと同様に扱われます。



QR コードのコンテンツと色の編集

1. QR コードオブジェクトまたはフレーム（フレーム内をダブルクリック）を選択します。
2. メニューからオブジェクト／QR コードを編集を選択します。右クリックしてコンテキストメニューでQR コードを編集を選択することもできます。
3. QR コードを編集ダイアログボックスに既存の内容およびカラー情報が表示されます。
4. 「内容」タブで、必要に応じてデータの種類および内容を変更します。
5. QR コードに別の色を選択するには、「カラー」タブをクリックして、適切な色を選択します。
6. 「OK」をクリックします。

QR コードのフレーム属性の変更

QR コードフレームの初期設定の背景は透明です。ただし、カラー、線種、太さなど、フレームの塗りおよび線の属性は、従来のコントロールを使用して変更できます。





QR コードオブジェクトの変形

配置した QR コードオブジェクトは、選択ツールを使用して移動、サイズ変更、回転できます。フレームのボックスをドラッグすると、フレームのサイズのみが変更されます。以下の点に注意してください。

- Shift キーを押しながらドラッグすると、フレームの縦横比が維持されます。
- Ctrl キー（Windows）または Command キー（Mac）を押しながらドラッグすると、縦横比が維持されたままフレームと内容の両方のサイズが変更されます。
- Shift + Alt キー（Windows）または Option キー（Mac）を押しながらドラッグすると、フレームが中心点から拡大／縮小します。縦横比は維持されません。Shift キーを押すと縦横比を維持できます。



(cc) BY-NC-SA Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

脚注

脚注の作成
脚注の番号付けとレイアウトの変更
脚注テキストの操作
脚注でのテキストの回り込み
脚注の削除

ページの先頭へ

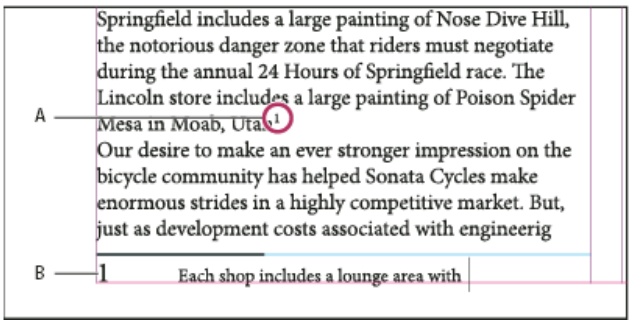
脚注の作成

脚注は、テキスト内に表示される脚注参照番号と段の下部に表示される脚注テキストがリンクされたものです。Word または RTF ドキュメントで作成した脚注を読み込むことができます。脚注をドキュメントに追加すると、脚注に自動的に番号が付けられます。番号付けは、ストーリーごとにリセットされます。脚注の番号付けのスタイル、外観およびレイアウトを設定することができます。表または脚注テキストに脚注を追加することはできません。脚注テキストの幅は、脚注参照マーカーを含む段の幅に基づいて決まります。

InDesign では文末脚注を作成できません。変換された Microsoft Word ドキュメントの文末脚注は、脚注ではなく、テキストとして書式設定されます。文末脚注を作成するための回避策については、Bob Bringhurst による InDesign の文末脚注の記事（英語）を参照してください。

脚注を作成するには、次の手順に従います。

1. 脚注参照番号を挿入する場所にテキスト挿入点を置きます。
2. 書式／脚注を挿入を選択します。
3. 脚注テキストを入力します。



ドキュメントに追加された脚注

A. 参照番号 ***B.*** 脚注テキスト

脚注を入力すると同時に脚注エリアは拡張されますが、テキストフレームのサイズは変わりません。脚注エリアは、上の方向に拡張され、脚注参照のある行に達すると、次のテキストフレームの段または連結フレームに分割されます。脚注を分割することができず、また入力したテキストが脚注エリアに入り切らない場合は、脚注参照を含む行が次の段に移動するか、オーバーセットアイコンが表示されます。この問題を解決するには、フレームのサイズを変更するか、テキストフォーマットを変更します。

テキスト挿入点が脚注内にあるときに、入力していた位置に戻るには、書式／脚注参照へ移動を選択します。このオプションを頻繁に使用する場合は、キーボードショートカットを作成することをお勧めします。

ページの先頭へ

脚注の番号付けとレイアウトの変更

脚注の番号付けとレイアウトを変更すると、その変更は既存の脚注だけではなくそれ以降に作成するすべての新規脚注に適用されます。

1. 書式／脚注オプションを選択します。

2. 「番号付けとフォーマット」タブで、脚注テキストに対する番号付けや参照番号およびフォーマットを設定します。
3. 「レイアウト」タブをクリックし、ページ上の脚注エリアのレイアウトを設定します。
4. 「OK」をクリックします。

脚注の番号付けとフォーマットのオプション

脚注オプションダイアログボックスの「番号付けとフォーマット」セクションには、次のオプションがあります。

スタイル 脚注参照番号の番号付けスタイルを選択します。

開始番号 ストーリー内の最初の脚注の番号を指定します。ドキュメント内のストーリーごとに、この番号から脚注の番号付けが開始されます。1 つのブックに複数のドキュメントがあり、ページの番号付けが連続している場合は、各章の脚注の番号付けが、前の章の最後の脚注番号に続く脚注番号で始まるように設定します。

「開始番号」オプションは、1 つのブック内に複数のドキュメントがある場合に特に役立ちます。脚注の番号付けは、ブック内のドキュメント間では継続されません。

番号の振り直し ドキュメント内で脚注番号の振り直しが行われるよう設定する場合は、このオプションを選択し、「ページ」、「スプレッド」または「セクション」を選択して、番号付けがリセットされる単位を指定します。ページごとにリセットする場合は、アスタリスク（*）などの番号付けスタイルが最適です。

プレフィックス/サフィックスを表示 脚注参照、脚注文字列またはその両方にプレフィックスまたはサフィックスを表示します。プレフィックスは番号の前（[1 など）に表示され、サフィックスは番号の後ろ（1] など）に表示されます。このオプションは、脚注番号を文字の間に配置する場合に便利です（[1] など）。プレフィックスまたはサフィックスに使用する文字を入力するか、「プレフィックス」、「サフィックス」またはその両方のオプションを選択します。特殊文字を選択するには、プレフィックスおよびサフィックスコントロールの横にあるアイコンをクリックしてメニューを表示します。

脚注参照番号とその直前のテキストの距離が近すぎる場合は、プレフィックスにスペースを追加します。参照番号に文字スタイルを適用することもできます。

位置 デフォルトでは脚注参照番号の表示は上付き文字に設定されています。（OpenType 上付きの設定を含む文字スタイルなど）文字スタイルを使用して数値の形式を設定するには、「標準を適用」を選択して文字スタイルを選択します。

文字スタイル 脚注参照番号をフォーマットする文字スタイルを選択します。例えば、上付きの代わりに、標準の位置でベースラインが引き上げられた文字スタイルを選択します。ポップアップメニューには、文字スタイルパネルで使用可能な文字スタイルが表示されます。

段落スタイル ドキュメント内のすべての脚注の脚注テキストをフォーマットする段落スタイルを選択します。ポップアップメニューには、段落スタイルパネルで使用可能な段落スタイルが表示されます。デフォルトでは、「基本段落」スタイルが使用されます。「基本段落」スタイルはドキュメントのデフォルトのフォント設定と同じように表示されないことがあります。

分離記号 脚注番号と脚注テキストの間に表示されるホワイトスペースを設定します。分離記号を変更するには、まず既存の分離記号を選択または削除してから新しい分離記号を選択します。分離記号には、複数の文字を含めることができます。ホワイトスペース文字を挿入するとき、適切なメタ文字を使用する必要があります（EM スペースの場合は ^m など）。

脚注のレイアウトのオプション

脚注オプションダイアログボックスの「レイアウト」セクションには、次のオプションがあります。

最初の脚注の前の最小スペース 段の終わりと脚注の最初の行の間の最少スペースを設定します。マイナスの値を指定することはできません。脚注の「段落前のアキ」の設定は無視されます。

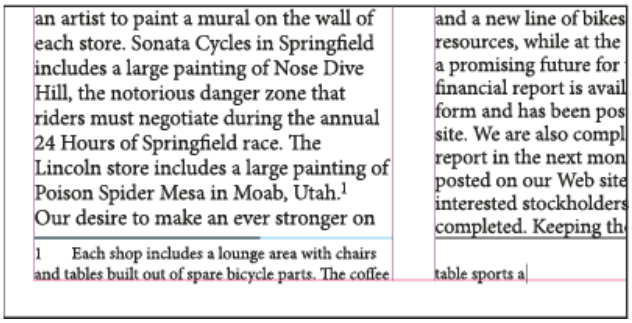
脚注間のスペース 1 つの段に含まれる複数の脚注の間の距離を設定します。マイナスの値を指定することはできません。脚注に複数の段落がある場合にのみ、「段落前のアキ」または「段落後のアキ」の値が適用されます。

オフセット　脚注エリアの始まり（デフォルトで脚注区切り線が表示される場所）と脚注テキストの最初の行の間の距離を設定します。先頭ベースライン位置のオプションについては、テキストフレームのプロパティの変更を参照してください。

テキストの最後にストーリーの脚注を配置　最後の段組みの脚注を、ストーリーの最後のフレーム内にあるテキストのすぐ下に続けて表示します。このオプションを選択しない場合には、脚注はフレームに対して下辺（または左辺）に合わせて配置されます。

脚注を分離　脚注が 1 つの段に入力できる長さより長くなった場合に、脚注が 2 つの段に分離します。これが禁止されていれば、脚注参照番号のある行が次の段に移動するか、テキストがオーバーセットになります。

「脚注を分離」が有効であっても、個々の脚注が分離しないよう設定することができます。この設定を行うには、脚注テキストにテキスト挿入点を置き、段落パネルメニューから「段落分離禁止オプション」を選択して、「段落の分離禁止」と「段落中のすべての行を分離禁止」を選択します。脚注に複数の段落がある場合は、脚注テキストの最初の段落で「次の行数を保持：*X* 行」オプションを使用します。書式／分割文字の挿入／改段を選択して、脚注が分割される場所を設定することができます。



2 つの段に分離した脚注

前境界線　脚注テキストの上に表示される脚注区切り線の場所と外観を指定します。区切り線は別のフレームに続く脚注テキストの上にも表示されます。ここで選択するオプションは、「列内の最初の脚注」または「続きの脚注」のどちらかに（メニューでどちらが選択されているかに応じて）適用されます。これらのオプションは、段落境界線を指定するときに表示されるオプションに似ています。脚注区切り線を削除する場合は、「線」の選択を解除します。

ページの先頭へ

脚注テキストの操作

脚注テキストを編集するとき、次の点に注意してください。

- テキスト挿入点が脚注テキスト内にあるときに、編集／すべてを選択を選択すると、その脚注のすべての脚注テキストは選択されますが、他の脚注またはテキストは選択されません。
- 脚注間を移動するには、矢印キーを使用します。
- 脚注の番号付けは、ブック内のドキュメント間では継続されません。ブック内の各ドキュメントで番号付けをリセットしない場合は、最終的な編集が終了した後で、各ドキュメントで「開始番号」の値を手動で変更する必要があります。
- ストーリーエディターでは、脚注アイコンをクリックして脚注を展開したり折りたたむことができます。すべての脚注を展開するまたは折りたたむには、表示／ストーリーエディター／すべての脚注を展開またはすべての脚注を折りたたみを選択します。
- ゲラビューまたはストーリービューでは、脚注アイコンをクリックして脚注を展開したり折りたたむことができます。すべての脚注を展開するまたは折りたたむには、脚注を右クリック（Windows）または Control キーを押しながらクリック（Mac OS）して、「すべての脚注を展開」または「すべての脚注を折りたたみ」を選択します。

- 脚注のテキストには、文字および段落フォーマットを適用することができます。また、脚注参照番号の外観を変更することもできますが、脚注オプションダイアログボックスを使用することをお勧めします。
- 脚注参照番号を含むテキストをカットまたはコピーすると、脚注テキストもクリップボードに追加されます。脚注を含むテキストを別のドキュメントにコピーすると、その脚注には新しいドキュメントの番号付けおよびレイアウトの設定が適用されます。
- 脚注テキストの先頭の脚注番号を誤って削除した場合は、再度脚注番号を追加できます。テキスト挿入点を脚注テキストの先頭に置き、右クリックするか（Windows）、Control キーを押しながらクリック（Mac OS）し、特殊文字の挿入／マーカー／脚注番号を選択します。
- 脚注参照マーカーを含む段落のオーバーライドおよび文字スタイルを削除すると、脚注オプションダイアログボックスで適用した脚注参照番

号の属性も削除されます。

ページの先頭へ

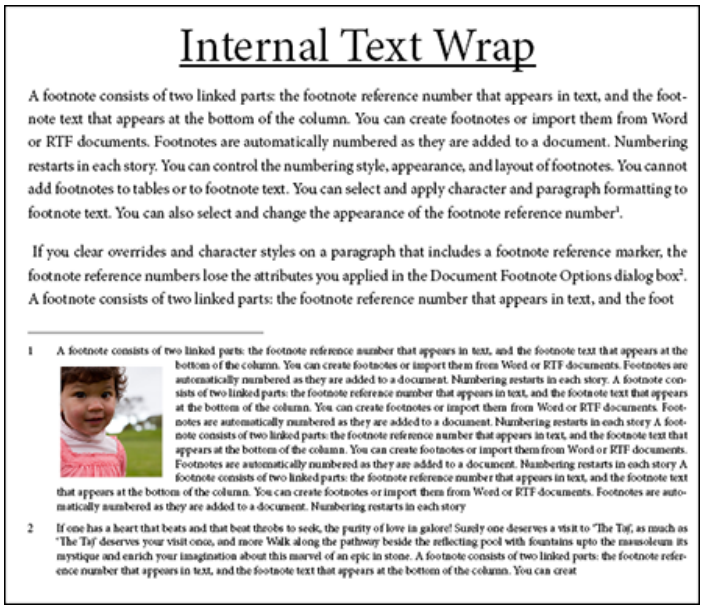
脚注でのテキストの回り込み

脚注の一部であるアンカー付きオブジェクトまたはフローティングオブジェクトにテキストの回り込みを適用できるようになりました。

脚注オブジェクト内部のテキストの回り込み

脚注でテキストの回り込みが適用されるインラインまたはアンカー付きオブジェクトを配置できます。テキストはオブジェクトを回り込み、そのオブジェクトの回りでシームレスに調整されます。

内部テキストの回り込みでは、テキストは脚注でオブジェクトが固定されている点の下でのみ折り返されます。

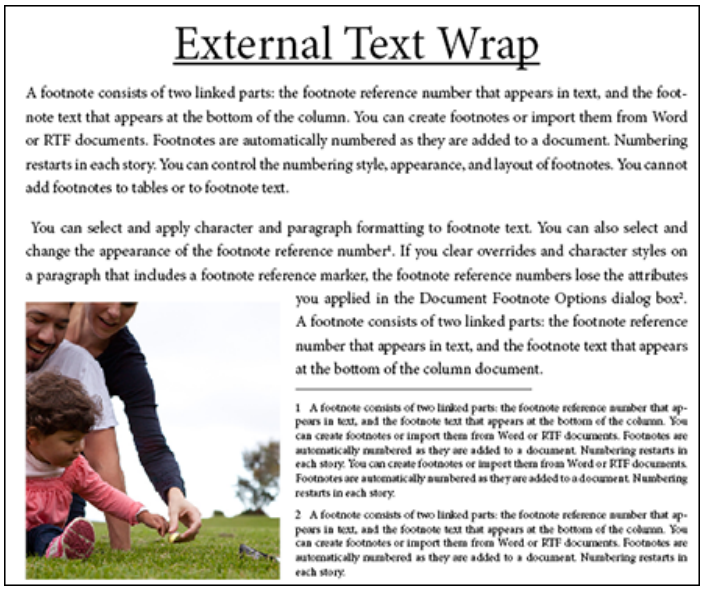


内部テキストの回り込み

脚注のオブジェクトの外部テキストの回り込み

フローティングオブジェクト（インラインでもアンカー付きでもないオブジェクト）にテキスト回り込みを適用した場合、脚注にテキストを使用すると、テキストの回り込みが有効になります。テキストはオブジェクトの周囲で動的に調整されます。

次の例では、写真は脚注に含まれていませんが、テキストはオブジェクトの周囲でシームレスに調整されます。



外部テキストの回り込み

長方形以外のフレームの脚注

角丸のフレーム、楕円、円などの長方形以外のテキストフレームの場合、脚注はオブジェクトの形の境界内に留まります。



ページの先頭へ

脚注の削除

脚注を削除するには、テキスト内に表示されている脚注参照番号を選択し、Backspace キーまたは Delete キーを押します。脚注テキストのみを削除すると、脚注参照番号と脚注構造は残ったままになります。

関連項目

Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

テキスト変数

テキスト変数の作成と編集
テキスト変数の挿入
テキスト変数の削除、変換、読み込み

トップへ戻る

テキスト変数の作成と編集

テキスト変数は、コンテキストによって変わるドキュメント内に挿入するアイテムです。例えば、最終ページ番号変数は、ドキュメントの最終ページのページ番号を示します。ページを追加または削除する場合、変数はそれに応じて更新されます。

InDesign には、ドキュメントに挿入できるいくつかのプリセットテキスト変数が含まれます。これらの変数のフォーマットを編集し、独自に作成することができます。ランニングヘッダーや章番号などのいくつかの変数は、一貫したフォーマットと番号付けを確実にするためにマスターページに追加する場合に特に役立ちます。作成日やファイル名などのその他の変数は、印刷用の印刷可能領域に追加する場合に役立ちます。

注意： 変数にテキストを追加しすぎると、オーバーセットテキストや詰まったテキストの原因となる可能性があります。変数テキストは行をわたって分割されません。

テキスト変数の作成または編集

変数の作成に使用可能なオプションは、指定した変数の種類により異なります。例えば、章番号タイプを選択した場合、番号の前後の両方に表示されるテキストを指定し、番号スタイルを指定できます。同じ変数タイプに基づいたいくつかの異なる変数を作成できます。例えば、「第 1 章」と表示される変数や「1 章」と表示される変数を作成することができます。

同様に、ランニングヘッダータイプを選択した場合、ヘッダーの基本として使用されるスタイルを指定し、句読点を削除し、文字を変更するためのオプションを選択することができます。

1. 作成したすべての新規ドキュメントに使用するテキスト変数を作成する場合は、すべてのドキュメントを閉じます。または、作成したテキスト変数は現在のドキュメントにのみ表示されます。
2. 書式／テキスト変数／定義を選択します。
3. 「新規」をクリックするか、既存の変数を選択して、「編集」をクリックします。
4. 「章全体」や「ランニングタイトル」などの変数の名前を入力します。
5. 種類ポップアップメニューから、変数タイプを選択して、そのタイプのオプションを指定し、「OK」をクリックします。

   選択した変数タイプによって、使用できるオプションは異なります。

   先行テキスト / 後続テキスト すべての変数タイプ（カスタムテキストを除く）について、変数の前後に追加されるテキストを指定することができます。例えば、最終ページ番号変数の前に「合計」という文字を追加し、その変数の後に「ページの」という文字を追加して、「合計 12 ページの」というテキスト変数を作成することができます。ボックスにテキストをペーストすることもできますが、タブや自動ページ番号などの特殊文字は表示されません。特殊文字を挿入するには、テキストボックスの右側の三角形をクリックします。

   スタイル すべての番号付けされた変数タイプについて、番号付けスタイルを指定することができます。「[現在の自動番号スタイル]」が選択される場合、変数はドキュメントのページ番号とセクションの設定ダイアログボックスで選択されているのと同じ番号付けスタイルを使用します。

変数タイプ

章番号

章番号タイプで作成された変数は、章番号を挿入します。章番号の前後にテキストを挿入したり、番号付けスタイルを指定することができます。

ドキュメントの章番号がブックの前のドキュメントから継続されるように設定される場合は、適切な章番号が表示されるようにブックの番号付けを更新する必要があります。

作成日、修正日、出力日

「作成日」には、ドキュメントが最初に保存された日時が挿入されます。「修正日」には、ドキュメントが最後にディスクに保存された日時が挿入されます。「出力日」には、ドキュメントがプリントジョブを開始したり、PDF に書き出したり、ドキュメントをパッケージ化する日時が挿入されます。日付の前後にテキストを挿入できます。また、すべての日付変数の日付形式を変更することができます。

日付形式 「日付形式」ボックスに直接日付形式を入力するか、ボックスの右側の三角形をクリックして形式オプションを選択することができます。例えば、日付形式「MM/dd/yy」は「12/22/07」と表示されます。形式を「MMM. d, yyyy」に変更すると、日付は「Dec. 22, 2007」と表示されます。
日付変数は、テキストに適用される言語を使用します。例えば、前に示した作成日は、スペイン語テキストでは、「01 diciembre 2007」と表示さ

れ、ドイツ語では、「01 Dezember 2007」と表示されます。

略記	説明	例
M	月 / 数字	8
MM	月 / 数字（01）	08
MMM	月 / 月（短い形式）	8 月 / Aug
MMMM	月 / 月	8 月
d	日 / 数字	5
dd	日 / 数字（01）	05
E	日 / 曜日（短い形式）	金 / Fri
EEEE	日 / 曜日	金曜日
yy または YY	年 / 数字（短い形式）	07
y（Y）または yyyy（YYYY）	年 / 数字	2007
G または GGGG	年 / 年号	西暦 / AD・Annno Domini
h	時間 / 時間（1-12）	4
hh	時間 / 時間（01-12）	04
H	時間 / 時間（0-23）	16
HH	時間 / 時間（00-23）	16
m	時間 / 分	7
mm	時間 / 分（00）	07
s	時間 / 秒	7
ss	時間 / 秒（00）	07
a	時間 / 午前・午後	午前・午後 / AM ・PM
z または zzzz	時間 / タイムゾーン（短い形式）あるいは 時間 / タイムゾーン	JST・日本標準時 / JST・Japan Standard

ファイル名

この変数は、ドキュメント内に現在のファイルの名前を挿入します。一般的に、印刷用のドキュメントの印刷可能領域に追加されるか、ヘッダーやフッターに使用されます。「後続テキスト」および「先行テキスト」のほかに、次のオプションを選択できます。

フォルダーパス全体を含める そのファイル名を持つフォルダーのフルパスを含める場合に選択します。Windows または Mac OS のいずれかで使用される標準のパスです。

ファイル拡張子を含める ファイル名に拡張子を含める場合に選択します。

ファイル名変数は、新しい名前でファイルを保存する場合も、新しい場所にファイルを保存する場合にも更新されます。パスまたは拡張子が保存されるまで、ドキュメントに表示されません。

画像名

「画像名」変数は、メタデータからキャプションを自動生成する場合に便利です。「画像名」変数には、「メタデータキャプション」変数タイプも含まれます。この変数を含んだテキストフレームが画像の間近にあるか、画像とグループ化されている場合、その画像のメタデータがこの変数に表示されます。「画像名」変数を編集すると、使用するメタデータフィールドを指定することもできます。

詳しくは、キャプションの変数の定義を参照してください。

最終ページ番号

最終ページ番号タイプは、通常「ページ 3 / 12」形式を使用して、ヘッダーとフッターにドキュメントの合計ページ番号を追加する場合に役立ちます。この場合、12 という番号は、最終ページ番号によって生成され、ページが追加または削除されると更新されます。最終ページ番号の前後にテキストを挿入したり、番号付けスタイルを指定することができます。スコープメニューから、セクションまたはドキュメントで最終ページ番号が

使用されるかどうかを決定するオプションを選択します。

最終ページ番号変数はドキュメント内の総ページを数えないことに注意してください。

ランニングヘッド・柱（段落または文字スタイル）
ランニングヘッド・柱変数は、ページの最初または最後に存在する特定のスタイルが適用されたテキストを挿入します。所定のスタイルを適用したテキストがページ上にない場合、前のページのテキストが使用されます。

詳しくは、ランニングヘッダーとランニングフッター用の変数の作成を参照してください。

カスタムテキスト
この変数は通常、プレースホルダーテキストやすばやく変更する必要のあるテキスト文字列の挿入に使用されます。例えば、会社のコードネームを使用するプロジェクトで作業している場合、そのコードネームのカスタムテキスト変数を作成することができます。実際の会社名を使用できる場合は、単に変数を変更して、すべて更新します。

テキスト変数に特殊文字を挿入するには、テキストボックスの右側の三角形をクリックします。

トップへ戻る

テキスト変数の挿入

1. 変数を表示したい場所にテキスト挿入点を置きます。
2. 書式／テキスト変数／変数を挿入を選択し、挿入したい変数を選択します。

変数はドキュメントに入力したかのようにページに表示されます。例えば、作成日変数は、07/12/22 と表示されます。書式／制御文字を表示を選択した場合、変数インスタンスは、現在のレイヤーカラーを使用したボックスによって囲まれます。

注意： テキスト変数は、改行によって複数行に分割することはできません。

トップへ戻る

テキスト変数の削除、変換、読み込み

テキスト変数ダイアログボックスを使用して、テキスト変数の削除、変換、読み込みを行います。

テキスト変数の削除

ドキュメントに挿入されたテキスト変数のインスタンスを削除する場合は、変数を選択して、Backspace キー（Windows）または Delete キー（Mac OS）を押します。変数自体を削除することもできます。その場合は、ドキュメントに挿入される変数の置換方法を決めることができます。

1. 書式／テキスト変数／定義を選択します。
2. 変数を選択し、「削除」をクリックします。
3. 異なる変数を指定するか、変数インスタンスをテキストに変換するか、変数インスタンスを共に削除して、変数の置換方法を指定します。

テキスト変数からテキストへの変換

- 単一インスタンスを変換するには、ドキュメントウィンドウでテキスト変数を選択して、書式／テキスト変数／変数をテキストに変換を選択します。
- ドキュメント内のテキスト変数のすべてのインスタンスを変換するには、書式／テキスト変数／定義を選択して、変数を選択し、「テキストに変換」をクリックします。

別のドキュメントからのテキスト変数の読み込み

1. 書式／テキスト変数／定義を選択します。
2. 「読み込み」をクリックして、読み込みたい変数を持つドキュメントをダブルクリックします。
3. テキスト変数を読み込みダイアログボックスで、読み込みたい変数の横にチェックマークが表示されていることを確認します。既存の変数と読み込まれた変数の名前が同じ場合、「既存のテキスト変数と競合」で下記のいずれかのオプションを選択して「OK」をクリックします。

   新しい定義を使用 既存の変数を読み込まれた変数で上書きし、その新しい属性を旧変数を使用していた現在のドキュメントのすべてのテキストに適用します。新しい変数と既存の変数の定義は、比較を表示できるようにテキスト変数を読み込みダイアログボックスの下部に表示されます。

   自動名前変更 読み込み変数の名前を変更します。
4. 「OK」を選択し、「完了」をクリックします。

ブックファイルを同期する際に別のドキュメントに変数をコピーすることもできます。

関連項目

(cc) BY-NC-SA

索引の作成

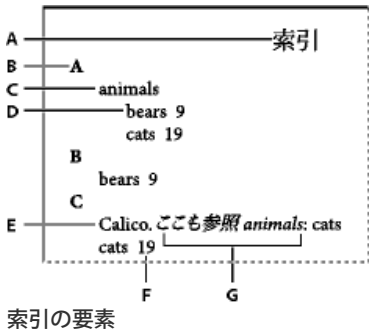
索引について
索引パネルの概要
索引の見出しリストの作成
索引項目の追加
索引のページ範囲オプション
索引に「ここを参照」または「ここも参照」の相互参照を追加
索引の生成
索引のソート順の変更
索引の管理

索引について

トップへ戻る

簡単なキーワード索引の他に、ブック内の情報を詳細に網羅するガイド的な索引を作成することができます。1 つのドキュメントまたはブックにつき 1 種類の索引を作成できます。索引を作成するには、まずテキストに索引マーカーを配置します。個々の索引マーカーに対して、「見出し」と呼ばれる、索引に表示させる用語を関連付けます。

索引を生成すると、各見出しとその見出しが登場するページのリストが作成されます。見出しは、セクション見出し（A、B、C など）ごとにアルファベット・50 音順にソートされます。索引項目には、見出し（読者が参照する用語）と、ページ参照（ページ番号または範囲）か相互参照が対で表示されます。「ここを参照」または「ここも参照」と記されている相互参照は、ページ番号ではなく、索引内の他の項目を指し示します。



索引の要素
A. タイトル **B.** セクション見出し **C.** 索引項目 **D.** 下位の索引項目 **E.** 見出し **F.** ページ参照 **G.** 相互参照

索引の作成に関するビデオチュートリアルについては、www.adobe.com/go/vid0220_jp を参照してください。

索引作成のヒント
構成を十分に検討した索引は、読者がドキュメント内の情報を探すのに非常に役立ちます。以下のガイドラインを参考にしてください。

- 索引をどのように表示するかについて考えます。どのくらいの見出しレベルが必要か、他の関連した見出しを参照させた方がよいか、簡単なキーワード索引でよいのか、それとも関連事項への相互参照や類似する語の詳細なリストを伴う複雑な索引にするのか、などです。
- 読者がどのように情報を検索するかを、いくつか予想します。例えば、動物に関する情報を探すとき、ある読者は「獣」というキーワードを、また別の読者は「野生動物」や「動物誌」というキーワードを検索する可能性があります。
- 索引項目は、ドキュメントの内容をそれ以上大幅に変更することはないという段階になってから設定するようにします。索引項目を設定した後で、ドキュメントを広い範囲で削除した場合、索引項目を設定したテキストも削除される可能性があります。
- よく構成された索引には見出しに一貫性があります。索引を作成する際に問題となるのは、大文字と小文字（cats と Cats など）や、単数形と複数形（cat と cats）が混在することです。見出しリストを使用して語句の整理を行います。
- 索引を生成する前に、何回か索引を再検討します。重複する項目、用語の少ない主題範囲、スペルの間違い、大文字と小文字の混在、表現の不統一などをチェックします。例えば InDesign では、「Cheetah」、「cheetah」、「cheetahs」はすべて別の項目として認識されます。

索引作成のワークフロー
索引を作成するには、以下の基本ステップに従ってください。

1. 索引の見出しリストを作成（必須ではありません） 見出しリストを作成することで、索引項目の一貫性を維持しやすくなります（詳しくは、索引の見出しリストの作成を参照してください）。
2. 索引マーカーを追加 索引項目が参照する先のドキュメント内のページに、索引マーカーを追加します（詳しくは、索引項目の追加を参照してください）。
3. 索引を生成 索引を生成すると、マーカーを追加した項目とそれが登場するページ番号を対にしたリストが作成されます（詳しくは、索引の生成

を参照してください）。

4. 索引テキストを流し込む テキスト流し込みアイコンを使用して、索引をテキストフレームに流し込みます。多くの場合、索引は新しいページを作成してそこに配置します。索引を流し込んだ後で、ページと索引の書式設定を行うことができます。

これらのステップを、最終的にドキュメントを出力する前に数回繰り返して、索引をよく検討することをお勧めします。

トップへ戻る

索引パネルの概要

索引を作成、編集、プレビューするには、索引パネルを使用します（ウィンドウ／書式と表／索引）。索引パネルには、参照と見出しの 2 つのモードがあります。参照モードでは、リストに現在のドキュメントまたはブックの完全な索引項目が表示されます。見出しモードでは、リストには見出しだけが表示され、ページ番号や相互参照は表示されません。見出しモードは主に索引構造の作成に使用し、参照モードでは索引項目の追加などを行います。

ページ参照の代わりに以下のコードが表示されている場合は、その索引項目は生成される索引に含まれない可能性があることを表します。これらのコードを表示するには、索引パネルで「プレビューを更新」を選択する必要があります。

PB ペーストボード上の索引項目です。この項目は索引として生成されません。

HL 非表示レイヤー上の索引項目です。索引の生成時に、非表示レイヤーの索引項目を索引に含めるためのオプションがあります。

HT 非表示の条件テキストの索引項目です。非表示の条件テキストの索引項目は索引には含まれません。

PN オーバーセットテキスト内の索引項目です。この索引項目を索引に含めた場合、生成される索引上には該当するページ番号が表示されません。

マスター マスターページ上の索引項目です。この項目は索引として生成されません。

三角形をクリックすることで個々の項目を展開、折りたたむことができます。Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押しながら三角形をクリックすると、その項目に属するすべての下位項目を展開または折りたたむことができます。Ctrl キー（Windows）または Command キー（Mac OS）を押しながら三角形をクリックすると、すべての項目を展開または折りたたむことができます。

> リストを更新するには、索引パネルメニューから「プレビューを更新」を選択します。このコマンドは、ドキュメントを編集したときやドキュメントウィンドウで索引マーカーを移動させたときに便利です。

トップへ戻る

索引の見出しリストの作成

索引項目を作成する際に、見出しのリストを作成または読み込んで作業を始めることができます。後で索引に項目を追加するときに、その都度入力するのではなく、見出しリストから選択することで、ドキュメントやブックの全体を通じて、索引に含める情報に一貫性を持たせることができます。

見出しリストの作成と編集は、索引パネルを見出しモードにして行います。見出しモードでは見出しのみが表示されることに注意してください。索引項目に関連付けられているページ番号や相互参照を表示するには、参照モードにします。



索引パネルの参照モード（左）と見出しモード（右）

見出しリスト内の見出しは、新規ページ参照ダイアログボックスにも表示されます。索引項目を作成するには、見出しを選択してページまたは相互参照と関連付けます。使用されていない見出し（ページまたは相互参照のない見出し）は、索引の生成時に除外されます。

必ずしも索引項目を追加する前に見出しリストを作成する必要はありません。索引項目を作成すると、見出しは自動的に見出しリストに追加され、それ以降使用することができます。

> デフォルトでは、見出しリストに追加された見出しは、参照リストには表示されません。見出しリストには、ページに関連付けられている見出ししか表示されません。索引パネルを参照モードにして、索引パネルメニューから「未使用の見出しを表示」を選択すると参照リストに見出しが表示されます。

見出しリストへの見出しの追加

1. ウィンドウ／書式と表／索引を選択して、索引パネルを表示します。
2. 索引パネル上部の「見出し」を選択します。
3. 索引パネルメニューから「新規見出し」を選択するか、パネル下部にある新規索引項目を作成ボタンをクリックします。
4. 次のいずれかの操作を行います。
   - 「索引項目」の下の 1 番目のテキストボックスに、見出しの名称（例：「animals」）を入力します。下位レベルの見出しを作成するには、2 番目のテキストボックスに名称（例：「cats」）を入力します。この例では、「cats」は「animals」の下にインデントされて表示されます。下位見出しの下にさらに下位見出しを作成する場合は、3 番目のテキストボックスに名称（例：「Calicos」）を入力します。以降も同様です。
   - 既存の見出しを選択します。2 番目、3 番目、4 番目のテキストボックスにそれぞれ下位見出しを入力します。
5. 「追加」をクリックして見出しを追加します。追加した見出しが、新規見出しダイアログボックスと索引パネルに表示されます。
6. 見出しの追加を完了したら、「終了」をクリックします。

追加したばかりの見出しを削除するには、「終了」をクリックしてから、索引パネルで見出しを選択して、選択した項目を削除ボタンをクリックします。

他の InDesign ドキュメントからの見出しの読み込み

1. 索引パネルメニューから「見出しの読み込み」を選択します。
2. 読み込みたい索引見出しを含むドキュメントを選択し、「開く」をクリックします。

索引の見出しの編集

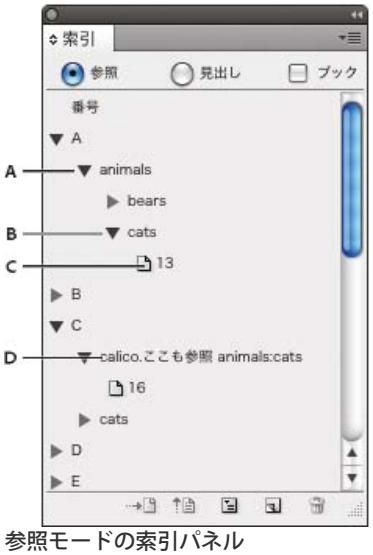
索引を生成する前または後に、索引パネルを使用して索引項目を編集します。索引パネルで編集された項目は次に生成された索引に表示されます。しかし、生成された索引ストーリーに編集を加えた場合、その変更は索引を再生成すると失われます。

1. 索引見出しを含むドキュメントを開きます。
2. 索引パネル上部の「見出し」を選択します。
3. 索引パネルのリストで、編集する見出しをダブルクリックします。
4. 見出しの編集が完了したら、「OK」をクリックします。

トップへ戻る

索引項目の追加

索引パネルを参照モードにして、索引項目を作成します。索引項目は見出しと参照の 2 つの部分で構成されます。見出しは、見出しリストを使用してあらかじめ定義しておくことができます。参照には、ページ番号や他の見出しへの相互参照を指定できます。



参照モードの索引パネル
A. 索引項目 **B.** 下位の索引項目 **C.** ページ参照 **D.** 相互参照

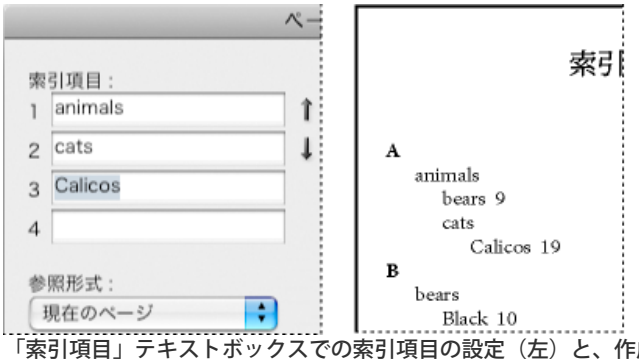
索引項目の追加

1. 文字ツール T を使用して、ドキュメント内の索引マーカーを配置したい箇所にテキスト挿入点を置くか、索引参照の基準として使用するテキストを選択します。

   選択したテキストにインライングラフィックや特殊文字が含まれている場合、一部の文字（索引マーカーやインライングラフィックなど）は「索引項目」テキストボックスに表示されません。また、EM ダッシュや著作権記号などの特殊文字は、メタ文字（「^_」や「^2」）に変換

されて表示されます。

2. ウィンドウ／書式と表／索引を選択して、索引パネルを表示します。
3. パネル上部で「参照」を選択します。
   見出しリストに追加した項目が「参照」に表示されない場合は、索引パネルメニューから「未使用の見出しを表示」を選択します。項目を追加するときにそれらの見出しを利用できます。
4. ブック内の開いている任意のドキュメントの索引項目を表示するには、「ブック」を選択します。
5. 索引パネルメニューから「新規ページ参照」を選択します（このコマンドが表示されない場合には、索引パネルで「参照」が選択されていること、ドキュメント内にテキスト挿入点があるかテキストが選択されていることを確認してください）。
6. 「索引項目」テキストボックスにテキストを追加するには、次のいずれかの操作を行います。
   - 単純な索引項目（例：「cats」）を作成するには、「索引項目」の 1 番目のテキストボックスに項目を入力します（ドキュメント内でテキストを選択していた場合は、そのテキストが「索引項目」テキストボックスに表示されます）。
   - 索引項目と下位項目を作成するには、「索引項目」の 1 番目のテキストボックスに親項目の名前（この例ではanimals）を入力し、それ以降のテキストボックスに順番に下位項目（catsとCalicos）を入力します。必要に応じて、テキストボックスの右側にある上向きまたは下向きの矢印ボタンをクリックして、選択した項目を上下に移動し、レベルを入れ替えることもできます。



「索引項目」テキストボックスでの索引項目の設定（左）と、作成した索引の表示（右）

   - ダイアログボックスの下部にあるリストボックスで、見出しをダブルクリックします。
7. 最終的な索引での項目のソート順を変更するには、「読み」テキストボックスを使用します。例えば、de la Vega という見出しを V の下（D の下ではなく）に表示させたい場合は、Vega と「読み」テキストボックスに入力し、de la Vega と「索引項目」テキストボックスに入力します。

   また、番号、記号および言葉のソート順を選択したり、漢字のソート情報を編集することができます（詳しくは、索引のソート順の変更を参照してください）。
8. 索引項目の参照形式を指定します。
   - ページ番号またはページ範囲を含む索引項目（例：cats 82–87）を作成するには、参照形式ポップアップメニューから適切なオプションを選択します（詳しくは、索引のページ範囲オプションを参照してください）。
   - ページ番号のない索引項目を作成するには、参照形式ポップアップメニューから「ページ範囲の非表示」を選択します。生成される索引にはページ番号が表示されませんが、索引パネル上ではページ番号が括弧で囲まれて表示されます。
   - 別の索引項目を参照する項目を作成するには、参照形式ポップアップメニューから相互参照オプションのいずれか（「ここを参照」や「ここも参照」など）を選択して、「参照される項目」テキストボックスに項目名を入力するか、ダイアログボックスの下部にあるリストから既存の項目を「参照される項目」テキストボックスにドラッグします。また、参照形式ポップアップメニューから「カスタム相互参照」を選択し、相互参照項目に表示される「ここを参照」や「ここも参照」などの語句をカスタマイズすることができます（詳しくは、索引に「ここを参照」または「ここも参照」の相互参照を追加を参照してください）。
9. 特定の索引項目を強調表示させるには、「ページ番号用に文字スタイルを適用」を選択して、右側のポップアップメニューから文字スタイルを指定します。
10. 設定した索引項目を追加するには、次のいずれかの操作を行います。
    - 「追加」をクリックし、索引項目を追加します。ダイアログボックスは開いたままなので、続けて索引項目を追加できます。
    - 「すべて追加」をクリックすると、ドキュメントウィンドウで選択されているテキストと同じ語句が検索され、そのすべてに対してそれぞれ索引マーカーが設定されます。「すべて追加」は、ドキュメントのテキストが選択されている場合にのみ使用できます。
    - 「OK」をクリックして索引項目を追加し、ダイアログボックスを閉じます。

      注意： 「追加」をクリックした後に「キャンセル」をクリックしてダイアログボックスを閉じても、項目は削除されません。それらの項目を削除するには、「取り消し」コマンドを使用します。
11. 索引項目の追加が完了したら、「OK」または「終了」をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

単語、フレーズまたはリストを手早く索引に追加

索引作成のショートカットを使用すると、個別の単語、フレーズ、単語やフレーズのリストなどを手早く索引に追加できます。標準の索引項目用

と固有名詞用の 2 つの索引作成ショートカットを使用できます。固有名詞用のショートカットを使用すると、姓でアルファベット順または 50 音順にソートされるように、姓と名の順序を逆にして索引項目が作成されます。この方法を使用すると、索引項目を作成するときには名、姓の順序で入力しても、索引内では姓でソートされてリストされます。例えば、James Paul Carter という人名は、索引では Carter, James Paul と表示されます。

索引に入れたい各項目を、改行、強制改行（Shift+Return キー）、タブ、右インデントタブ（Shift+Tab キー）、セミコロン、コンマのいずれかで区切っておくと、索引作成ショートカットによって各項目の前に索引マーカーが追加され、すべての項目が索引に追加されます。

1. ドキュメントウィンドウで、索引に入れる単語またはフレーズを選択します。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - 標準的な単語やフレーズの場合は、Shift+Alt+Ctrl+[キー（Windows）または Shift+Option+Command+[キー（Mac OS）を押します。
   - 固有名詞を姓でソートするように索引に追加したい場合は、Shift+Alt+Ctrl+] キー（Windows）または Shift+Option+Command+] キー（Mac OS）を押します。

   デフォルト設定を使用した場合、索引マーカーは選択範囲の先頭、または選択した各項目の開始位置に追加されます。

   複数の部分からなる姓や肩書き付きの人名を索引に入れるには、単語間に 1 つ以上の分散禁止スペースを挿入します。例えば、「James Paul Carter Jr.」という人名を 「Jr.」ではなく「Carter」で索引に入れる場合は、「Carter」と「Jr.」の間に分散禁止スペースを挿入します（分散禁止スペースを挿入するには、書式／スペースの挿入／分散禁止スペースを選択します）。

   漢字など、読みが必要な語句を選択してショートカットで索引マーカーを設定するとき、その語句の読みがまだ入力されていない場合には、新規ページ参照ダイアログボックスが自動的に開き、選択された語句が索引項目ダイアログボックスに表示されます。「索引項目」テキストボックスに入力されているテキストに対応する読みを「読み」テキストボックスに入力します。複数のページに同じ索引項目がある場合は、すべての索引項目の読みを 1 回の操作で変更できます。選択した索引項目だけを変更するには、索引パネル上でページ番号を選択し、索引パネルメニューから「ページ参照オプション」を選択します。

既存の項目から新規項目を作成

索引を付けた語句をドキュメントやブック内で何度も使用することがあります。この場合は、索引に既に登録されている項目から複数の索引項目を作成することで、一貫性を維持することができます。

1. ドキュメントウィンドウで、テキスト挿入点を置くか、索引マーカーが設定されているテキストを選択します。
2. 索引パネルで「参照」オプションを選択し、リストをスクロールして、コピーする項目を表示させます。
3. 次のいずれかの操作を行います。
   - 項目を索引パネル下部にある新規索引項目を作成ボタン にドラッグします。テキスト挿入点または選択範囲の先頭に索引マーカーが挿入されます。
   - 索引パネルのリストで項目を選択し、Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押しながら新規索引項目を作成ボタンをクリックします。選択された項目の情報が入力された状態で新規ページ参照ダイアログボックスが表示されます。変更したい箇所があれば変更し、「追加」または「OK」をクリックします。

または、見出しリストを作成しておき、索引項目を作成するときにそのリストから見出しを選択することもできます。

1 つの単語のすべての出現箇所を自動的に索引に入れる

「すべて追加」を使用することで、指定した語句の、ドキュメントやブック内でのすべての出現箇所を索引に入れることができます。「すべて追加」をクリックすると、ダイアログボックスで指定したテキストだけではなく、選択したテキストのドキュメント内でのすべての出現箇所に索引マーカーが設定されます（あまり重要でない情報を指し示す項目は後で削除できます）。

選択された語句を検索する場合、InDesign では、ただ文字が合っているかどうかだけを検索し、大文字と小文字を識別します。例えば、「cheetah」が選択されている場合、「cheetahs」や「Cheetah」は索引には追加されません。

1. ドキュメントウィンドウ上で、索引に追加したい語句を選択します。
2. 索引パネルで「参照」を選択します。
3. ブック内の開いているドキュメントの索引項目を作成するには、「ブック」を選択します。
4. 索引パネルメニューから「新規ページ参照」を選択します。
5. 「すべて追加」をクリックします。テキストが既に索引に存在するかどうかに関係なく、選択されたテキストと一致するすべてのテキストに索引マーカーが設定されます。このため、同じ単語またはフレーズに対して複数の索引項目が作成される可能性があります。

索引項目の編集

名称の変更や新しい読みの適用など、見出しを変更した際に、その見出しを使用するすべての索引項目を自動的に更新するには、索引パネルを見出しモードで使用します。索引項目を 1 つずつ個別に変更する場合は、参照モードを使用します。参照モードではまた相互参照を追加したり、ページ参照に関連付けられた索引マーカーを配置することもできます。

1. 索引項目を含むドキュメントを開きます。
2. 索引パネルで、次のいずれかの操作を行います。
   - 見出しを編集し、その見出しを使用するすべての索引項目を自動的に更新する場合は、「見出し」を選択します。
   - 索引項目を個別に編集する場合は、「参照」を選択します。

3. 索引パネルのリストで、索引項目またはページ参照を選択します。ページ参照を選択するには、索引項目の下にあるページアイコンを選択します。
4. 編集する項目またはページ参照をダブルクリックします。
5. 項目の編集を完了したら、「OK」をクリックします。

トップへ戻る

索引のページ範囲オプション

単一のページ番号の代わりに、「cats 82–87」のようにページ範囲を含む索引項目を作成することができます。新規ページ参照ダイアログボックスの種類ポップアップメニューには、次のようなページ範囲のオプションが用意されています。

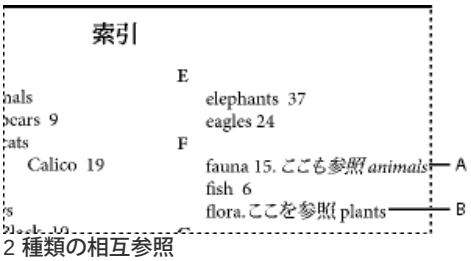
現在のページ このページ範囲は、索引マーカーがあるページを対象とします。
次のスタイル変更まで このページ範囲は、索引マーカーの位置から、段落スタイルが変わるまでの範囲を対象とします。
スタイルの指定 このページ範囲は、索引マーカーの位置から、右側のスタイルポップアップメニューで指定した段落スタイルに変わるまでの範囲を対象とします。
ストーリーの最後 このページ範囲は、索引マーカーの位置から、そのテキストが含まれるテキストフレーム連結の最後までを対象します。
ドキュメントの最後 このページ範囲は、索引マーカーの位置から、ドキュメントの最後までを対象とします。
セクションの最後 このページ範囲は、索引マーカーの位置から、ページパネルで定義されている現在のセクションの最後までを対象とします（詳しくは、ドキュメント番号付けオプションを参照してください）。
段落数の指定 このページ範囲は、索引マーカーの位置から、右側のテキストボックスで指定した段落数までの範囲を対象とします。指定した段落数が実際の段落数より多い場合は、最後の段落までを対象とします。
ページ数の指定 このページ範囲は、索引マーカーの位置から、右側のテキストボックスで指定したページ数の範囲、または、指定したページ数が実際のページ数より多い場合は最後のページまでを対象とします。
ページ範囲の非表示 ページ範囲を表示しません。

トップへ戻る

索引に「ここを参照」または「ここも参照」の相互参照を追加

相互参照は、ページ番号の代わりに関連項目を指し示す索引項目です。相互参照は索引パネルを使用して作成します。相互参照には、索引内で以下のような異なる役割を持たせることができます。

- 一般的な語句を、ドキュメントまたはブック内で使用している同義語に関連付けるための相互参照。例えば、「動物誌、動物を参照」のような場合です。このような相互参照の項目はページ参照を含みません。より詳細に索引を付けられている語句を示すだけです。
- ある見出しに関連しているが同義ではない、他の索引項目を指し示す相互参照。例えば、「猫、山猫も参照」のような場合です。この場合は、相互参照を含む索引項目には、他にページ番号や項目の見出しに直接関連のある下位項目が含まれます。



2 種類の相互参照
A. 関連情報への相互参照（「ここも参照」） **B.** 同義語への相互参照（「ここを参照」）

相互参照を作成するときに、相互参照に使用する接尾辞を選択できます。「ここを参照」と「ここも参照」が既定の語句です。「参照」を選択した場合は、索引を作成するたびに、InDesign によって相互参照に応じた適切な接尾辞が割り当てられます。

- ページ番号、下位項目、またはその両方を含む索引項目には「ここも参照」が割り当てられます。
- ページ番号や下位項目を含まない索引項目には「ここを参照」が割り当てられます。

1. ウィンドウ／書式と表／索引を選択します。
2. パネル上部で「参照」を選択します。
3. ブックファイル内で開いている任意のドキュメントの索引項目を表示させるには、「ブック」を選択します（この操作は必須ではありません）。
4. 索引パネルメニューから「新規ページ参照」を選択します。
5. 「索引項目」テキストボックスに見出しを入力します。
6. 参照形式ポップアップメニューから、相互参照の接尾辞（「ここも参照」など）を選択します。
7. 「参照される項目」に見出しを入力するか、下に表示されている見出しリストからドラッグします。
8. 「追加」をクリックして、相互参照を索引に追加します。

相互参照は、索引パネルおよび生成される索引には表示されますが、ドキュメント内の索引マーカーには関連付けられていません。

索引の生成

索引項目を追加し、索引パネルのリストで確認したら、索引を生成してドキュメント上に配置します。

生成した索引は、独立したドキュメントまたは既存のドキュメントに配置できます。索引を生成すると、InDesign はドキュメントまたはブック内の索引項目や更新されたページ番号を収集します。索引項目を追加または削除した場合、またはドキュメントの自動番号を更新した場合には、索引を再生成して更新する必要があります。

索引マーカーがオーバーセットテキストの中にある場合、索引の生成時に、これらのマーカーを索引に含めるかどうかを尋ねるダイアログボックスが表示されます。「はい」をクリックすると、その索引項目はページ番号なしで索引に表示されます。索引マーカーが非表示の条件テキストに設定されている場合、その索引項目は索引から除外されます。

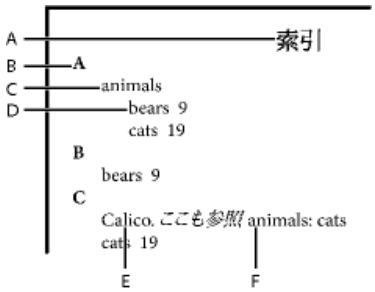
索引の作成に関するビデオチュートリアルについては、www.adobe.com/go/vid0220_jp を参照してください。

1. 次のいずれかの操作を行います。
   - 単一のドキュメントに対して索引を作成する場合は、ドキュメントの末尾に索引用の新規ページを追加することをお勧めします。
   - ブック内の複数のドキュメントについての索引を作成する場合は、索引を配置するドキュメントを開くかまたは新規作成します。このとき、そのドキュメントがブックに含まれていることを確認してください。
2. 索引パネルメニューから「索引の作成」を選択します。次のオプションの設定を行います。
   - 「タイトル」に、索引の最初に表示されるテキストを入力します。タイトルのスタイルポップアップメニューから索引タイトルのスタイルを選択します。ここで選択できるスタイルは現在のドキュメントで段落スタイルとして設定されているものです。
   - 既存の索引を置き換える場合は、「索引を置換」を選択します。まだ索引を生成していない場合、このオプションはグレー表示になっています。このオプションの選択を解除すると、複数の索引を作成できます。
   - ブックのすべてのドキュメントから1つの索引を作成する場合は、「ブックのドキュメントを含む」を選択します。このオプションを選択すると、ブック内の各ドキュメントから索引を生成し、現在のブックの設定によってページ番号を割り付けます。現在のドキュメントについてのみ索引を生成する場合は、このオプションの選択を解除します。
   - 非表示レイヤー上の索引マーカーを索引に含める場合は、「隠れたレイヤーのエントリを含む」を選択します。
   - 追加の索引オプションを表示するには、「詳細設定」をクリックします。
3. 「OK」をクリックします。「索引を置換」の選択が解除されている場合は、テキスト配置アイコンが表示されます。他のテキストの場合と同様に、索引ストーリーを配置します。

生成した索引のテキスト内の索引項目に直接変更を加えると、索引を更新した際に、その変更はすべて元に戻ってしまいます。最善の結果を得るには、索引パネルで索引を編集してから、索引を再び生成してください。

索引のフォーマットのオプション

索引の作成ダイアログボックスで「詳細設定」をクリックすると、索引スタイルやレベルスタイルを設定するオプションが表示されます。生成する索引は、InDesign に組み込まれている索引用の段落スタイルと文字スタイルや、独自に作成したスタイルを適用することができます。また、索引を生成した後、段落スタイルと文字スタイルパネルでこれらのスタイルを編集することができます。



入れ子になった項目が含まれる索引

A. タイトル **B.** セクション見出し **C.** レベル 1 の項目 **D.** レベル 2 の下位項目 **E.** 見出し **F.** 相互参照

「項目分離」（「見出しに続く」や「項目間」の値）を置き換えるには、既存の「項目分離」を選択してから、置換する文字を入力または選択します。

「入れ子」または「一行にまとめる」 デフォルトのスタイルで索引を書式設定する場合は「入れ子」を選択します。この場合、下位項目は親項目の下に独立した段落として表示されます。すべてのレベルの項目を 1 つの段落で表示する場合は、「一行にまとめる」を選択します。この場合は、「項目間」テキストボックスで項目を区分けする文字を設定します。

索引セクション見出しを含む このオプションを選択すると、セクションに含まれる索引項目の頭文字を表すアルファベットとひらがな（A、B、C、あ、い、う、など）で構成されるセクション見出しが生成されます。

空の索引セクションを含む このオプションを選択すると、特定の文字で始まるレベル 1 の項目が存在しない場合であっても、すべてのアルファベットとひらがなで構成されるセクション見出しが生成されます。

レベルスタイル 索引レベルごとに、そのレベルの索引項目に適用する段落スタイルを選択します。索引を生成した後で、段落スタイルパネルでこれらのスタイルを編集できます。

セクションの見出し 生成される索引でのセクション見出し（A、B、C、あ、い、う、など）に適用する段落スタイルを選択します。
ページ番号 生成される索引でのページ番号に適用する文字スタイルを選択します。この設定は、「ページ番号用に文字スタイルを適用」オプションを使用して書式設定している索引項目には影響しません。
注意： 索引でのページ番号に「B-1」や「II-1」のように接頭辞を含めたい場合は、セクションの番号付けの定義を参照してください。
相互参照 「ここを参照」や「ここも参照」などの相互参照の接尾辞に使用する文字スタイルを選択します。
相互参照見出し 「獣も参照」という参照項目での「獣」の部分に適用する文字スタイルを選択します。
見出しに続く 索引項目に続くページ番号との区切りに使用する文字を入力または選択します（例：「動物 38」）。デフォルトでは、半角スペース 2 つが設定されています。この文字の書式は、該当するレベルスタイルを編集するか、その他の別のスタイルを選択することによって設定します。
ページ番号間 1 つの索引項目に対するページ番号が複数ある場合の、ページ番号間を分離する特殊文字を入力または選択します。デフォルトでは、コンマの後に EN スペースが入るように設定されています。
項目間 「一行にまとめる」を選択している場合に、索引項目と下位項目の区切りに使用する特殊文字を入力または選択します。この設定は、「入れ子」を選択している場合には、1 つの索引項目の下に複数の相互参照がある場合の相互参照間の区切りに使用されます。
相互参照前 参照と相互参照の間に表示する特殊文字を入力または選択します（例：「動物、獣も参照」の場合の「動物」と「獣」の間など）。デフォルトでは、ピリオド（.）の後に半角スペースが入るように設定されています。対応するレベルスタイルを切り替えるか、編集して、この文字の書式を設定します。
ページ範囲 ページ範囲の最初の番号と最後の番号を区切る特殊文字を入力または選択します（例：動物 38–43）。デフォルトは EN ダッシュです。ページ番号スタイルを切り替えるか、編集して、この文字の書式を設定します。
項目終了 索引の末尾に表示する特殊文字を入力するか、選択します。「一行にまとめる」を選択している場合、指定した文字は最後の相互参照の後に表示されます。デフォルトでは、何も文字は設定されていません。

トップへ戻る

索引のソート順の変更

言語および記号のソート順を変更できます。これは、ギリシア語、キリル文字言語、およびアジア系言語の場合に特に便利です。索引内の記号の表示場所を変更する場合にも便利です。記号を最後に表示する場合は、記号カテゴリーを優先リストの最後に移動できます。

ソート順の変更は、索引パネル内および、後で作成される索引ストーリー内でのソート順に影響を与えます。複数の異なるソート順を使用して複数の索引を作成できます。例えば、ドイツ語の索引を生成した後、ソート順を変更して、スウェーデン語の索引を別個に生成することができます。その場合は、後者の索引を生成するとき、「索引を置換」が選択されていないことを確認してください。

1. 索引パネルメニューから「ソートオプション」を選択します。
2. ソートするアイテムが選択されていることを確認します。
3. 使用されている言語スクリプトの種類を決定するには、「ヘッダータイプ」の下のアイテムをクリックし、ポップアップメニューから別のオプションを選択します。

   例えば、キリル文字言語の場合は、ロシア語、ベラルーシ語、ブルガリア語またはウクライナ語を選択します。中国語の場合は、簡体中国語に主に使用される「ピンイン」、または繁体中国語に主に使用される「画数」を選択できます。

4. 言語や記号の順序を変更するには、リストでその言語または記号を選択し、リストの右下にある上向きまたは下向きの三角形のボタンをクリックします。

   リストの上の方にあるアイテムが下の方にあるアイテムより前にソートされます。ソートオプションダイアログボックスに含まれていない言語の文字は、記号の下にソートされます。例えば、ドキュメント内にギリシア語のテキストはあるが、ソートオプションにギリシア語が含まれていないとします。その場合は、ギリシア語の索引テキストは記号の下に表示されます。

日本語と韓国語の索引のソート順

アジア言語の索引項目を作成する場合は、次の点に注意してください。

- アジア言語では、各言語の文字組み規則に基づいた、異なるソート方法が使用されます。
- 日本語テキストの索引を作成するときは、全角ひらがなおよびカタカナを使用して、「読み」テキストボックスに、「索引項目」テキストボックス内の索引項目の読みを入力する必要があります。全角ひらがな、カタカナ、英数字、いくつかの記号、半角英数字の索引項目、または「読み」テキストボックスに記号だけが入っている索引項目については、読みを入力する必要はありません。「索引項目」テキストボックスに入力した項目の読みによってソートされます。全角と半角の記号が混在する項目の場合、思うようにソートできない場合もあります。その場合は、適切な「読み」を入力します。
- 「読み」テキストボックスには、半角カタカナや漢字を入力することはできません。ただし、※や・のような全角の記号は入力できます。
- ひらがなとカタカナは区別され、ひらがな、カタカナの順にソートされます。アルファベット文字の大文字と小文字も区別され、大文字、小文字の順にソートされます。
- 「索引項目」テキストボックスに同じ文字を入力した場合でも、「読み」テキストボックスに違う文字を入力すると、異なる索引項目として扱われます。例えば、「猫」という索引項目の読みをカタカナで「ネコ」と入力し、次にもう一度「猫」という索引項目を入力して読みをひらがなで「ねこ」と入力すると、「猫」という索引項目が 2 つ生成されます。この特徴を利用して、同じ用語を別の索引見出しに分類させることもできます。例えば、「The Cats」という語句を索引とする場合、「読み」テキストボックスに「Cats」と入力したものと、何も入力しないものという 2 つの索引項目を作成すると、「The Cats」という語句が T と C の索引見出しの中に生成されます。
- 韓国語のソート順としては、「韓国語子音」または「韓国語子音 + 母音」を指定できます。

中国語の索引のソート順

中国語文字のソート順は、ソートオプションダイアログボックスと、索引項目を作成または編集するときの「読み」テキストボックスの 2 箇所で指定できます。

ソートオプションダイアログボックス 索引パネルメニューから「ソートオプション」を選択すると、ソート順の変更と、ピンインまたは画数を使用するかどうかを指定できます。

読み 索引エントリを作成または編集する際に「索引項目」テキストボックスに漢字を入力すると、中国語のソート情報を編集できます。

ピンインの場合は、複数の単語に同一のピンインがあると、（1）声調、（2）画数の順に昇順でソートされます。画数の場合は、（1）画数、（2）第 1 画目、（3）第 2 画目の順にソートされます。ソート情報を編集するには、「読み」テキストボックスで直接編集するか、「読み」テキストボックスの右の矢印をクリックしてピンイン項目ダイアログボックスまたは画数項目ダイアログボックスを開きます。テキストボックスを編集して「OK」をクリックします。このプロセスを索引項目ごとに繰り返します。

トップへ戻る

索引の管理

索引をセットアップし、索引マーカーをドキュメントに追加したら、様々な方法で索引を管理できます。ブック内のすべての索引見出しの表示、参照リストで使用していない見出しを見出しリストから削除する、参照リストまたは見出しリストでの項目の検索、ドキュメントの索引マーカーの削除などができます。

ブック内のすべての索引見出しの表示

「ブック」オプションを選択すると、索引パネルには、現在のドキュメントだけでなく、ブック全体の項目が表示されます。

1. ブックファイルを開き、そのブックに含まれるすべてのドキュメントを開きます。
2. 索引パネル上部にある「ブック」を選択します。

索引の作成中に他のユーザーがそのブック内のドキュメントを開く必要がある場合は、見出しのマスターリストを別のドキュメントに作成し、後でマスターリストからブック内の各ドキュメントに見出しを読み込むことができます。マスターリストに変更を加えた場合は、再び各ドキュメントに見出しを読み込む必要がありますので注意してください。

> 複数のドキュメントを含むブックで索引を作成する場合、すべてのドキュメントを含めたブックの索引を生成することで、すべてのドキュメントの索引見出しを表示できます。各ドキュメントに手動で見出しを読み込むために、索引メニュー「見出しの読み込み」を使用する必要はありません。

見出しリストの未使用の見出しの削除

索引を作成した後で、索引に含まれなかった見出しを削除できます。

1. ウィンドウ／書式と表／索引を選択して、索引パネルを表示します。
2. 索引パネルメニューから「未使用の見出しを削除」を選択します。ページ番号が関連付けられていない見出しはすべて削除されます。

索引マーカーの削除

✤ 次のいずれかの操作を行います。

- 索引パネルのリストで、削除する索引項目または見出しを選択します。選択した項目を削除ボタン をクリックします。

  注意： 選択した索引項目に対して複数の下位見出しが存在する場合は、それらの下位見出しも削除されます。

- ドキュメントウィンドウで索引マーカーを選択して、Backspace キー（Windows）または Delete キー（Mac OS）を押します。

注意： ドキュメントウィンドウで索引マーカーを表示させるには、書式／制御文字を表示を選択します。

索引パネルでの索引項目の検索

1. 索引パネルメニューから「検索フィールドを表示」を選択します。
2. 検索したい語句を「検索」テキストボックスに入力し、上向き矢印または下向き矢印ボタンをクリックします。

ドキュメント内の索引マーカーの位置の特定

1. 書式／制御文字を表示を選択すると、ドキュメントウィンドウに索引マーカーが表示されます。
2. 索引パネル上部の「参照」を選択し、場所を特定したい項目を選択します。
3. 索引パネルメニューから「選択したマーカーへ」を選択します。索引マーカーの右側にテキスト挿入点が表示されます。Shift+ 左向き矢印キーを押してマーカーを選択し、カット、コピーまたは削除を行うことができます。

関連項目

「索引の作成」ビデオ

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

パステキストの作成

パステキストの作成
パステキストの編集と削除
パステキストの位置の調整
パステキストへの効果の適用
パステキストへのアンカー付きオブジェクトの追加

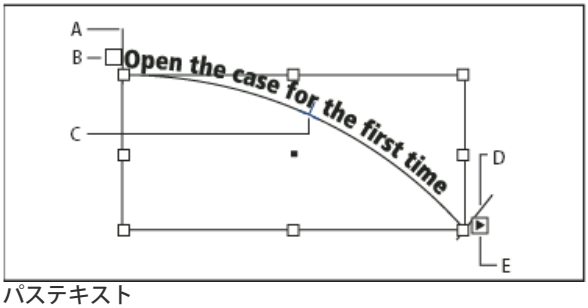
トップへ戻る

パステキストの作成

任意のシェイプの開いたパスや閉じたパスのエッジに沿って、テキストの流し込みを行うことができます。パステキストは、設定を変更したり効果を適用したりできます。テキストをパスに沿って移動したり、パスの反対側に移動したり、パスの形状を使用して文字を変形したりすることもできます。パステキストには、他のテキストフレームと同様にインポートとアウトポートがあり、それを使用してテキストを連結することができます。

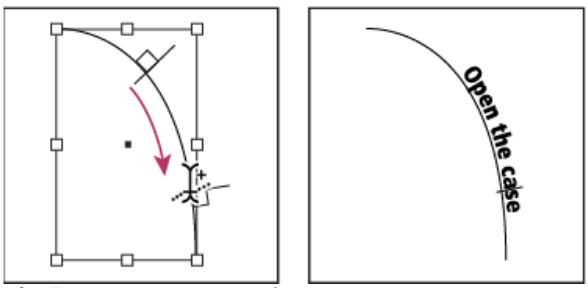
1 つのパスに表示できるテキストは 1 行だけです。パス内に収まらないテキストは、他のパスやテキストフレームを連結して流し込まない限り、オーバーセットのまま表示されません。パステキストに対して、インラインまたは行の上のアンカー付きオブジェクトを追加することができます。「アウトラインを作成」コマンドを使用して作成したパスなどの複合パスを使用して、パステキストを作成することはできません。

パステキストは、横組みだけでなく縦組みにも対応しているほか、割注、ルビ、圏点、縦中横などアジア言語組版独自の機能を使用することもできます（詳しくは、割注オプションの変更、縦中横の使用、テキストへのルビの追加、および圏点の適用を参照してください）。



パステキスト
A. 始点ブラケット **B.** インポート **C.** 中心点ブラケット **D.** 終点ブラケット **E.** 連結されたテキストを示すアウトポート

1. 横組みパスツール または縦組みパスツール を選択します（文字ツールをクリックしたままにすると、横組みパスツールを含むメニューが表示されます）。
2. ポインターをパスの上に移動して、ポインターの横に小さいプラス記号 が表示されたら、次の手順に従って操作を行います。
   - デフォルト設定を使用して文字を入力するには、パスをクリックします。デフォルトではテキスト挿入点がパスの始点に表示されます。デフォルトの段落設定でインデントや左／上揃え以外が指定されている場合は、テキスト挿入点はパスの始点以外の場所に表示される場合があります。
   - テキストの配置をパスの特定の部分に制限するには、テキストの始点にするパス上の位置をクリックし、パスに沿って終点までドラッグしてから、マウスを放します（テキストの始点と終点を変更する方法について詳しくは、パステキストの位置の調整を参照してください）。

   パス上のテキストの配置の変更

   注意： クリックやドラッグがうまくいかない場合、横組みパスツールの横に小さいプラス記号が表示されているかどうかを確認してください。
3. テキストを入力します。パス上をクリックしてテキスト挿入点を置いた場合は、文字はパス全体にわたって表示されます。パス上をドラッグした場合は、文字はドラッグした範囲にのみ表示されます。

注意： パスが最初から表示されている場合、そのパスに文字を入力した後もパスは表示されたままです。パスを隠すには、選択ツールまたはダイレクト選択ツールでパスを選択し、塗りと線に「なし」を適用します。

トップへ戻る

パステキストの編集と削除

パステキストには、文字および段落設定を適用することができます。ただし、段落境界線、段落間のアキの設定は、パステキストには作用しません。段落パネルでの段落揃えの設定は、パステキストの配置を制御します。

パステキストの文字の編集またはフォーマット設定

1. 横組みパスツールを使用して、次のいずれかの操作を行います。
   - テキスト挿入点を表示するには、パステキストの任意の 2 文字の間をクリックします。
   - 文字を選択するには、パステキストに沿ってドラッグします。
2. 必要に応じて、テキストの編集とフォーマット設定を行います。

パステキストの削除

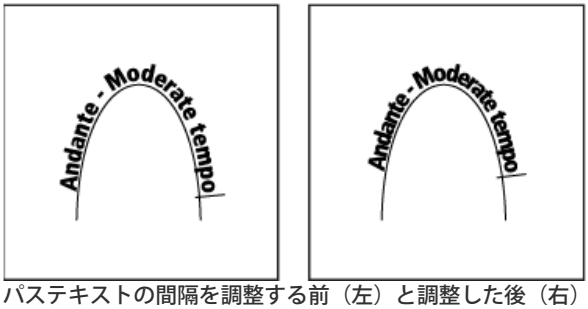
1. 選択ツール またはダイレクト選択ツール を使用して、1 つ以上のパステキストオブジェクトを選択します。
2. 書式／パス上テキスト／パステキストを削除を選択します。

パステキストが連結されている場合は、パステキストを削除すると、テキストが次のテキストフレームまたはパステキストオブジェクトに移動します。パステキストが連結されていない場合は、テキストは削除されます。パスは削除されませんが、すべてのブラケット、インポート、アウトポート、連結などのパステキスト属性はすべて削除されます。

注意： パスの塗りと線の属性が「なし」に設定されている場合は、文字を削除するとパスは見えなくなります。パスを見えるようにするには、書式／パス上テキスト／パステキストを削除を実行した直後に D キー（英語入力モード）を押します。選択されているパスにデフォルトの線と塗りが適用されます。

急な曲がりと角度のパスで文字間隔を狭くする

1. 選択ツールまたは文字ツールを使用して、パステキストを選択します。
2. 書式／パス上文字／オプションを選択するか、横組みパスツールをダブルクリックします。
3. 「間隔」で文字間隔の値を選択するか、値を入力します。値を大きくすると、急な曲線または角度のパスに配置された文字と文字の間が狭くなります。



パステキストの間隔を調整する前（左）と調整した後（右）

注意： 「間隔」を設定することによって、急な曲線または角度のパスでの文字の広がりを修正することができます。この方法は、直線に配置されたパステキストには効果がありません。直線部分の文字間隔を変更するには、調整したい部分を選択して、カーニングまたは字送りを調整します。

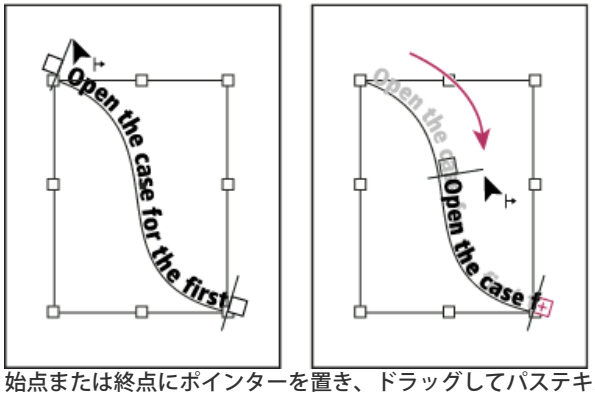
トップへ戻る

パステキストの位置の調整

パステキストの始点と終点の変更、テキストの移動、およびその他の方法でパスの位置を変更できます。

パステキストの始点や終点の変更

1. 選択ツール を使用して、パステキストを選択します。
2. パステキストの始点または終点のブラケット上にポインターを移動します。ポインターの横に小さいアイコン が表示されます。ブラケットのインポートやアウトポートにポインターを置かないようにしてください。
   ブラケットを選択しやすくするには、パスの表示倍率を大きくします。
3. 始点または終点をパスに沿ってドラッグします。



始点または終点にポインターを置き、ドラッグしてパステキストの始点または終点を変更します。

注意： 段落にインデント値を適用している場合は、始点または終点を基準にして適用されます。

パスに沿ったテキストのスライド

1. 選択ツール を使用して、パステキストを選択します。
2. ポインターをパステキストの中心点ブラケットの上に移動します。中心点のアイコン がポインターの横に表示されます。
   ブラケットを選択しやすくするには、パスの表示倍率を大きくします。
3. 中心点をパスに沿ってドラッグします。

注意： 始点と終点のブラケットがパスの両端に置かれている場合は、テキストは移動しません。テキストをドラッグするためのスペースを空けたい場合は、パステキストの始点または終点をドラッグしてパスの両端から離します。

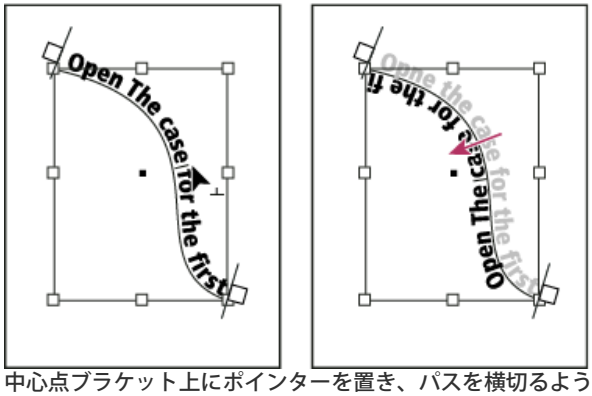
パステキストの縦揃えの設定

1. 選択ツールまたは文字ツールを使用して、パステキストを選択します。
2. 書式／パス上文字／オプションを選択します。
3. 整列ポップアップメニューから次のいずれかを選択し、フォントの高さを基準にして、パステキスト全体のどの位置をパスに揃えるかを指定します。
   - 「平均字面の上」を選択すると、平均字面の上端または左端がパスに揃います。
   - 「中央揃え」を選択すると、仮想ボディの中央がパスに揃います。
   - 「平均字面の下」を選択すると、平均字面の下端または右端がパスに揃います。
   - 「仮想ボディの上」を選択すると、仮想ボディの上端または左端がパスに揃います。
   - 「仮想ボディの下」を選択すると、仮想ボディの下端または右端がパスに揃います。
   - 「欧文ベースライン」を選択すると、欧文ベースラインがパスに揃います。
4. パスのポップアップメニューから次のいずれかを選択して、パステキスト全体をパスの線幅のどの部分に揃えるかを指定します（この設定は線が太い場合だけ、見ることができます）。
   - 「上」を選択すると、線幅の一番上または右端に揃います。
   - 「下」を選択すると、線幅の一番下または左端に揃います。
   - 「中央」を選択すると、線幅の中央に揃います。この設定がデフォルトです。

   垂直方向の位置をさらに調整するには、文字パネルの「ベースラインシフト」オプションを使用します。例えば、パステキストをパスの下方向に移動したい場合は、「ベースラインシフト」にマイナスの値を入力します。

パステキストの反転

1. 選択ツール をクリックして、パステキストを選択します。
2. ポインターをパステキストの中心点ブラケットの上に移動します。中心点のアイコン がポインターの横に表示されます。
3. パスを横切るようにして中心点を反対側にドラッグします。



中心点ブラケット上にポインターを置き、パスを横切るようにドラッグすると、文字が反転されます。

ダイアログボックスを使用してパステキストを反転させることもできます。選択ツールまたは文字ツールを使用して、パステキストを選択します。書式／パス上文字／オプションを選択します。「反転」を選択して、「OK」をクリックします。

トップへ戻る

パステキストへの効果の適用

1. 選択ツールまたは文字ツールを使用して、パステキストを選択します。
2. 書式／パス上文字／オプションを選択するか、横組みパスツールをダブルクリックします。
3. 効果ポップアップメニューから次のいずれかを選択して、「OK」をクリックします。
   - 各文字のベースラインをパスの接線に並行に保つには、「虹」を選択します。この設定がデフォルトです。



パステキストの効果
A. 「虹」の効果 **B.** 「歪み」の効果 **C.** 「3D リボン」の効果 **D.** 「階段」の効果 **E.** 「引力」の効果

   - 文字の垂直方向の軸をパスの形状に関係なく完全に垂直に保ち、文字の水平方向の軸をパスに沿って変形させるには、「歪み」を選択します。この形状は、文字を波形に合わせたり、缶のラベルのように円柱の周りに文字を沿わせたりする場合などに役立ちます。
   - 文字の水平方向の軸をパスの形状に関係なく完全に水平に保ち、各文字の垂直方向の軸をパスに沿って変形させるには、「3D リボン」を選択します。
   - 文字を回転させずに、各文字のベースラインの左端がパスに接するように保つには、「階段」を選択します。
   - 各文字のベースラインの中央がパスに接するように保ち、垂直方向の両端の軸がパスの中心に向かうように変形させるには、「引力」を選択します。このオプションの遠近効果は、テキストのパスの円弧を変形することで調整できます。

トップへ戻る

パステキストへのアンカー付きオブジェクトの追加

1. 文字ツールまたは横組みパスツールを使用して、オブジェクトのアンカーを挿入したい位置でテキスト挿入点をクリックします。
2. アンカー付きオブジェクトを追加します。パスに対して、インラインまたは行の上の位置を指定したアンカー付きオブジェクトまたはアン

カー付きフレームを追加することができます（詳しくは、アンカー付きオブジェクトを参照してください）。

注意： テキストパスに行の上のアンカー付きオブジェクトを追加する際に使用できるオプションは、通常のテキストフレームにアンカー付きオブジェクトを追加する場合のオプションと若干異なります。「揃え」オプションはアンカー付きオブジェクトマーカーを基準にした設定となり、「前スペース」オプションは使用できません。

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

リンクコンテンツ | CC、CS6

コンテンツ収集ツール
リンクとして配置
リンクオプションの指定
カスタムスタイルマッピング
リンクされたアイテムの更新

様々なページ間でコンテンツを複製するのは簡単な作業ではなく、コンテンツをコピーしてペーストする作業は面倒で時間がかかります。リンクされたコンテンツ機能を使用すると、コンテンツの複数のバージョンを管理できます。コンテンツは同じドキュメント内だけでなく異なるドキュメント間でも配置またはリンクできます。例えば、同じ内容でも縦のレイアウトと横のレイアウトをデザインする場合など、新しいワークフローにも簡単に対応できます。リンクされたコンテンツは、異なるページやドキュメントで定型テキストを同期する場合など、従来の印刷およびパブリッシングワークフローでも正常に機能します。

リンクされたコンテンツは、従来のリンクと同じように動作します。概要については、 リンクパネルの概要を参照してください。あるオブジェクトを親として指定し、それを別の場所に子オブジェクトとして配置することができます。親オブジェクトを更新するたびに子オブジェクトにはフラグが表示されるので、更新して親と同期することができます。

コンテンツ収集ツールを使用するか、編集／リンクとして配置メニューコマンドを選択して、オブジェクトを配置し、リンクすることができます。

リンクされたオブジェクトの左上隅に アイコンが表示されます。そのアイテムはリンクパネルにリンクされたオブジェクトとして表示されます。

トップへ

コンテンツ収集ツール

コンテンツ収集ツールとコンテンツ配置ツールを使用すると、ページアイテムを複製し、開いている InDesign ドキュメントに配置できます。収集されたコンテンツはコンテンツコンベヤーに表示されます。コンテンツコンベヤーを使用して、開いているドキュメント内やドキュメント間で、複数のページアイテムを簡単にすばやく配置してリンクできます。

ツールボックスで をクリックして、コンテンツコンベヤーを開きます。

- オブジェクトを選択してコンベヤーに追加するには、コンテンツ収集 ツールを使用します。
- ページオブジェクトをページに配置するには、コンテンツ配置ツール を使用します。

  B キーを押してコンテンツ収集ツールとコンテンツ配置ツールを切り替えます。



コンテンツコンベヤー
A. コンテンツ収集ツール B. コンテンツ配置ツール C. リンクを作成 D. スタイルをマップ E. カスタムスタイルマッピングを編集 F. 配置オプション G. 参照 H. すべての連結されたフレームを収集 I. コンベヤーに読み込み

コンテンツ収集ツール アイテムを選択してコンベヤーに追加するには、コンテンツ収集ツールを使用します。

コンテンツ配置ツール コンベヤーからアイテムを選択してドキュメントに追加するには、コンテンツ配置ツールを使用します。このツールを使用すると、現在のアイテムが配置アイコンに追加されます。

リンクを作成 配置されたアイテムを収集されたアイテムの元の場所とリンクさせるには、「リンクを作成」を選択します。リンクはリンクパネルを使用して管理できます。

スタイルをマップ 元のアイテムと配置されたアイテムの間で、段落、文字、表またはセルスタイルをマッピングします。デフォルトでは、スタイル名がマッピングに使用されます。詳しくは、カスタムスタイルマッピングを参照してください。

カスタムスタイルマッピングを編集　元のアイテムと配置されたアイテムの間でのカスタムスタイルマッピングを定義します。スタイルをマッピングすると、配置されたアイテムの元のスタイルが自動的に置き換えられます。

配置オプション　アイテムの配置時のコンベヤーオプションを指定します。

- 配置後にアイテムをコンベヤーから削除します。
- 現在のアイテムを繰り返し複数回配置できます。アイテムは配置アイコンに読み込まれたままになります。
- アイテムの配置後に次のアイテムに移動します。ただし、前のアイテムはコンベヤーに保持され続けます。

参照　コンテンツコンベヤー内のアイテム間を移動します。

すべての連結されたフレームを収集　連結されたすべてのフレームを収集する場合は、このオプションを選択します。ストーリーおよび全フレームが収集されます。このオプションが選択されていない場合、ストーリーは単一フレームで収集されます。

コンベヤーに読み込み　アイテムを含むコンベヤーを読み込むには、 を使用します。

- 選択部分：このオプションを使用すると、選択されたすべてのアイテムが読み込まれます。
- ページ：このオプションを使用すると、指定されたページのすべてのアイテムが読み込まれます。
- ペーストボード上のオブジェクトを含むすべてのページ：このオプションを使用すると、すべてのページとペーストボードからアイテムが読み込まれます。

「単一セットを作成」を選択すると、全アイテムが単一セットにまとめられます。

個々のページアイテムを収集することも、関連したアイテムを「セット」として収集することもできます。場合によっては、ページアイテムの関係的整合性を維持するために、InDesign でセットが自動作成されることがあります。

アイテムをセットとして収集する方法をいくつか紹介します。手動で収集する方法と自動収集の方法があります。

- 選択ツールでアイテムを選択します。
- コンベヤーに読み込みオプションを使用してページの範囲またはすべてのドキュメントコンテンツを選択するか、アイテムを選択すると、アイテムがセットとして収集されます。
- 他のアイテムやステートが関連付けられているインタラクティブなボタンの一部として関連コンテンツを持つアイテムを収集すると、関連したすべてのアイテムがセットとして収集されます（このセットは常に一度にドロップされます）。
- 他のオブジェクトにまたがる連結テキストを持つテキストボックスを収集し、コンベヤーで「すべての連結されたフレームを収集」チェックボックスをオンにすると、連結されているすべてのテキストボックスがセットに収集されます。

リンクとして配置

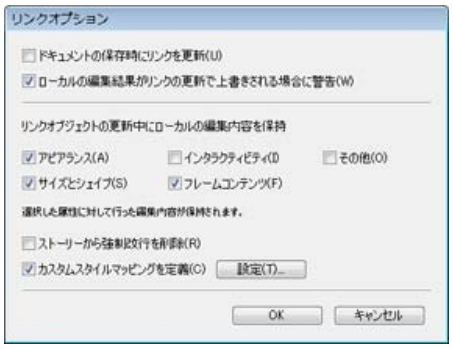
トップへ

1. フレームを選択するか、テキストに挿入カーソルを置いて、ページアイテムを選択します。Shift キーを押しながらクリックして複数のアイテムを選択することもできます。
2. 編集／リンクとして配置を選択します。カーソルがアイテムと一緒に読み込まれ、アイテムがコンテンツコンベヤーに表示されます。
3. ページをクリックするか、フレームを描画してリンクされたアイテムを配置します。

リンクオプションの指定

トップへ

1. リンクパネルでリンクアイテムを選択します。
2. リンクパネルメニューからリンクオプションを選択します。



「キャンセル」ボタンを「リセット」に変更するには、Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押します。デフォルトオプションに戻すには、「リセット」をクリックします。

3. 必要に応じてオプションを選択します。

ドキュメントの保存時にリンクを更新 このオプションを有効にすると、ドキュメントを保存したときにリンクが更新されます。

ローカルの編集結果がリンクの更新で上書きされる場合に警告 このオプションを有効にすると、リンクを更新することによってリンクオブジェクトに加えたローカル変更が上書きされる場合、警告メッセージが表示されます。

リンクオブジェクトの更新中にローカルの編集内容を保持 使用可能なカテゴリーから選択して、リンクの更新中にローカルの編集内容が保存されるようにします。

カテゴリー	例
アピアランス	線、塗り、効果などのオブジェクトスタイル属性。これにより、オーバープリントや非表示設定などのテキストまたはテキストフレーム関連の属性が除外されます。
サイズとシェイプ	高さ、幅、変形、テキストフレーム属性およびその他の段組サイズ属性
インタラクティビティ	アニメーション、オブジェクトステート、ボタンアクション
フレームコンテンツ	画像、ビデオ、フレームに配置またはペーストされたコンテンツ、およびそのオブジェクトに直接適用されたエフェクトおよび設定。
その他	他のカテゴリーから除外された属性。フレームのテキストの回り込み、オブジェクト書き出しオプションなど。また、ベースラインオプション、自動サイズオプション、テキストの配置などのテキストフレーム属性など。

ストーリーから強制改行を削除 ストーリーの強制改行を削除できるようにします。改行を削除すると、サイズ変更または再フォーマットしたときに、テキストがリンクされたフレームにスムーズにリフローされます。

カスタムスタイルマッピングを定義 スタイルをマッピングし、代わりに別のスタイルをリンクしたコンテンツに自動的に適用する場合、このオプションを有効にします。詳しくは、カスタムスタイルマッピングを参照してください。

デフォルトのリンクオプションを指定するには、すべてのドキュメントを閉じた状態で、リンクパネルメニューを開き、「リンクオプション」を選択します。

トップへ

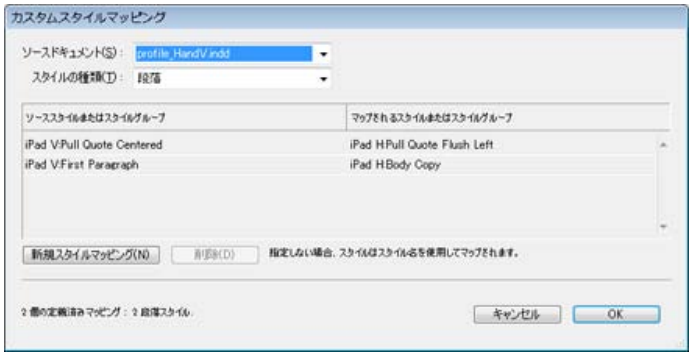
カスタムスタイルマッピング

テキストスタイル（段落、文字、表、セル）またはスタイルグループはリンク中に様々なスタイルにマップできます。マッピングされたスタイル

は、親に適用されたオリジナルスタイルではなく、リンクしたコンテンツに自動的に適用されます。 カスタムスタイルマッピングが便利なのは、例えば、デジタルパブリケーションでは sans serif フォントを使用し、プリントパブリケーションでは serif フォントを使用するような場合です。または、テキストスタイルを横組みと縦組みで変えるような場合です。

カスタムマッピングを定義するには、次のいずれかの操作を行います。

- リンクオプションダイアログボックス（リンクパネル／リンクオプション）で、「カスタムスタイルマッピングを定義」を有効にし、「設定」をクリックします。
- コンテンツコンベヤーの をクリックします。



カスタムスタイルマッピング

1. ソースドキュメントとスタイルの種類を選択します。
2. 新規スタイルマッピングをクリックします。
3. リストからソースとマッピングされるスタイル、またはスタイルグループを選択します。

「キャンセル」ボタンを「リセット」に変更するには、Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押します。デフォルトオプションに戻すには、「リセット」をクリックします。

トップへ

リンクされたアイテムの更新

元のアイテムを変更すると、⚠ 記号がフレームとリンクパネルの上に表示されます。更新するには、次のいずれかの操作を行います。

- フレーム左上の ⚠ をクリックします。
- リンクパネルで、⚠ 記号をダブルクリックします。

子アイテムにローカルな編集を行った場合、編集内容は元のアイテムの内容更新で上書きされます。ローカルの編集結果がリンクの更新で上書きされる場合に警告を設定すると、警告メッセージが表示されます。

リンク情報ペインを使用して、ストーリーにローカルな編集を行ったかどうかを判断します。ローカルな編集を行った場合は、ストーリーのステータスに「変更済み」と表示されます。

(cc) BY-NC-SR Twitter™ および Facebook の投稿は Creative Commons の条項の対象ではありません。

法律上の注意事項 | プライバシーポリシー

基本的なページ番号の追加

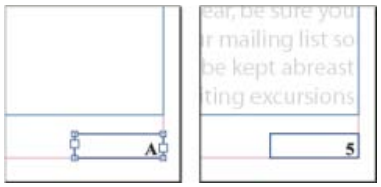
ページ番号の追加
マスターページへのページ番号マーカーの追加
ページ番号のスタイルの変更
一般的なページ番号割り当てのタスク

現在のページ番号マーカーを使用することで、ページ上のページ番号の位置やそのデザインを指定することができます。ページ番号マーカーは自動的に更新される特殊記号なので、ドキュメントで他のページを追加、削除、移動しても、マーカーによって表示されるページ番号は常に正確です。ページ番号マーカーは、文字として書式設定することができます。

ページの先頭へ

マスターページへのページ番号マーカーの追加

通常、ページ番号マーカーはマスターページに作成します。マスターページをドキュメントページに適用すると、ヘッダーやフッターと同様に、ページ番号は自動的に更新されます。



マスター *A* 上のページ番号（左）と、同じマスターに基づくページ *5*（右）

マスターページの場合は、マスターページのプレフィックスが表示されます。ドキュメントページにある場合は、自動ページ番号機能によってページ番号が表示されます。ペーストボードでは PB と表示されます。

1. ページパネルで、ページ番号を追加するマスターページをダブルクリックします。マスターページの作成については、マスターの作成を参照してください。
2. 最大桁数のページ番号とページ番号の横に表示するテキストが収まる大きさのテキストフレームを作成します。ページ番号を表示したい位置にテキストフレームを置きます。

   ドキュメントに見開きページがある場合は、左右のマスターページ用に個別のテキストフレームを作成します。
3. ページ番号用のテキストフレームで、ページ番号の前後に表示されるテキスト（「ページ」など）を追加します。
4. ページ番号を表示したい位置にテキスト挿入点を置き、次に、書式／特殊文字の挿入／マーカー／現在のページ番号を選択します。
5. ページ番号を表示したいドキュメントページにマスターページを適用します。マスターページの適用については、マスターページの適用を参照してください。

ドキュメントの最初のページからページ番号を削除するには、*2* つの方法があります。別のマスターまたは「*[*なし*]*」マスターを適用するか、ドキュメントページでマスターテキストフレームをオーバーライドして削除します。マスターテキストフレームをオーバーライドするには、*Ctrl+Shift* キー（*Windows*）または *Command+Shift* キー（*Mac OS*）を押しながらマスターテキストフレームをクリックします。

ページの先頭へ

ページ番号のスタイルの変更

デフォルトで割り当てられるページ番号はアラビア数字（1、2、3...）ですが、大文字または小文字のローマ字（i、ii、iii...）や英数字（a、b、c...）も使用できます。先頭にゼロの付いたページ番号を割り当てることもできます。ドキュメントで異なる番号付けのスタイルを使用する各部分を、セクションと呼びます。セクションについては、セクションの番号付けの定義を参照してください。

ページ番号ギャラリー



ページ番号を追加する方法のヒントになるビジュアルギャラリーです。... 詳細

http://goo.gl/KKJvd



提供者 **Bob Bringhurst**

専門知識を投稿：
Adobe Community Help

日本語版、中国語版、韓国語版では、デフォルトでアラビア数字がページ番号に使用されます。「ページ番号とセクションの設定」コマンドを使用して、ページ番号のスタイル（ローマ数字、アラビア数字、漢数字など）を指定することもできます。また、スタイルで「001」や「0001」などを選択すると、ページ番号の桁数を揃えることができます。ドキュメントで異なる番号付けのスタイルを使用する各部分を、セクションと呼びます。セクションについては、セクションの番号付けの定義を参照してください。

ページ番号のスタイルを変更して、異なる書式を使用するには、ページ番号とセクションの設定ダイアログボックスを使用します。このダイアログボックスを使用して、ページ番号を振り直したり、指定した数値からページ番号を開始したりすることもできます。

1. ページパネルで、新しいページ番号スタイルのセクションを開始するページを選択します。
2. レイアウト／ページ番号とセクションの設定を選択します。
3. オプションを指定し、「OK」をクリックします。詳しくは、ドキュメント番号付けオプションを参照してください。

セクションインジケーターアイコン がページパネルのページアイコン上に表示され、新しいセクションの開始位置を示します。

注意： 挿入した現在のページ番号の前に数字または文字が表示される場合は、セクションプレフィックスが含まれていることを意味します。このプレフィックスを使用しないようにするには、ページ番号とセクションの設定ダイアログボックスで「プレフィックスを含む」の選択を解除します。

ページの先頭へ

一般的なページ番号割り当てのタスク

InDesign には、ページ番号効果を作成するための様々な機能が用意されています。

目的	操作
ブック内のドキュメントにページ番号を追加する	ブック内のページ、章、セクションの番号の設定を参照してください。
セクション番号および章番号を追加する	セクション番号と章番号の追加を参照してください。
作成日、ファイル名または現在の見出しやタイトルなどのテキスト変数を使用するランニングヘッドおよびテキスト変数を参照してください。	ランニングヘッドおよびテキスト変数を作成する。
「*x* / *y* ページ」の効果（*x* は現在のページ、*y* は総ページ数）を作成する	現在のページ番号マーカーを挿入し、*y* に最終ページ番号テキスト変数を
「*x* ページに続く」というストーリーのジャンプを作成する	ストーリーのジャンプに対する自動ページ番号の追加を参照してください。

Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

ページとスプレッドについて

ページとスプレッドの表示の変更
ページまたはスプレッドをターゲットにするまたは選択する方法
ドキュメントへの新しいページの追加
ページサムネールのカラーラベルの作成

ドキュメント設定ダイアログボックス（ファイル／ドキュメント設定）の「見開きページ」チェックボックスを選択すると、ドキュメントのページはスプレッドで配置されます。スプレッドとは、一緒に表示される隣り合ったページのセットです。例えば、本や雑誌などの見開きページや、複数ページからなる折込みページなどは、スプレッドとして画面上に並べて表示することができます。すべての InDesign スプレッドは、ペーストボードを持っています。ペーストボードは、ページにまだ配置されていないオブジェクトを置いておくことができる、ページの外側の領域です。各スプレッドのペーストボードは、ページの端からはみ出させて配置した（ブリードした）オブジェクトが収容される領域でもあります。



ページパネル

A. ページアイコン ***B.*** マスター *A* を適用したページ ***C.*** 選択されているスプレッド

ドキュメント設定ダイアログボックスの「綴じ方」を「右綴じ」に設定すると、ページパネルのページアイコンに右から左に番号が付けられます。

長いドキュメントでは、レイアウト／ページへ移動を選択することで、目的のページにすばやく移動できます。

ページの先頭へ

ページとスプレッドの表示の変更

ページパネルには、ページ、スプレッドおよびマスター（他のページやスプレッドを自動的にフォーマットするページまたはスプレッド）に関する情報が含まれており、これらを制御することができます。デフォルトでは、ページパネルには各ページのコンテンツがサムネールで表示されます。

1. ページパネルが表示されていない場合は、ウィンドウ／ページを選択します。
2. ページパネルメニューの「パネルオプション」を選択します。
3. 「アイコン」セクションで、ページパネルのページサムネールの横に表示するアイコンを指定します。これらのアイコンは、透明やページ効果がスプレッドに追加されているかどうか、スプレッドビューが回転されているかどうかを示します。
4. 「ページ」セクションおよび「マスター」セクションで次の操作を行います。
   - 「サイズ」でページおよびマスターのアイコンのサイズを選択します。
   - 「縦に並べて表示」を選択すると、スプレッドが縦 1 列に表示されます。このオプションの選択を解除すると、スプレッドを横に並べて表示できます。
   - 「サムネールを表示」を選択すると、各ページまたはマスターのコンテンツがサムネールで表示されます（このオプションは、「サイズ」のオプションで「小」以下のサイズが選択されている場合には使用できません）。
5. 「パネルレイアウト」セクションでは、「ページを一番上に表示」を選択するとページアイコンのセクションがマスターアイコンのセクションの上に表示され、「マスターを一番上に表示」を選択するとマスターアイコンのセクションがページアイコンのセクションの上に表示され

ます。

6. パネルのサイズを変更したときのセクションの表示方法を制御するには、拡大／縮小ポップアップメニューのオプションを選択します。
   - パネルのページセクションとマスターセクションの両方のサイズを変更するには、「縦横比を維持」を選択します。
   - ページセクションのサイズを変更せずに、マスターセクションのサイズだけを変更するには、「ページ固定」を選択します。
   - マスターセクションのサイズを変更せずに、ページセクションのサイズだけを変更するには、「マスター固定」を選択します。

ページの先頭へ

ページまたはスプレッドをターゲットにするまたは選択する方法

作業に応じて、ページまたはスプレッドを選択、またはターゲットにすることができます。InDesign の機能には、現在選択されているページまたはスプレッドに作用するものと、ターゲットページまたはターゲットスプレッドに作用するものがあります。例えば、定規ガイドはターゲットページまたはターゲットスプレッドのみにドラッグできますが、「スプレッドを複製」、「ページを削除」などのページ関連コマンドは、ページパネルで選択されているページまたはスプレッドに作用します。ターゲットにすることによりページやスプレッドがアクティブになり、この操作はドキュメントウィンドウで複数のスプレッドが表示されていて、特定のスプレッドにオブジェクトをペーストしたい場合などに役立ちます。

- ページパネルで次の操作を行います。
  - ページまたはスプレッドをターゲットし、かつ選択するには、アイコンまたはアイコンの下のページ番号をダブルクリックします。ドキュメントウィンドウに表示されていなかった場合は、そのページまたはスプレッドが表示されます。

    ヒント：または、ドキュメントウィンドウでページ、ページ上の任意のオブジェクトまたはそのペーストボードをクリックしても、ページまたはスプレッドをターゲットにしてかつ選択することができます。

    ドキュメントウィンドウの垂直定規は、ターゲットページまたはターゲットスプレッドを除き、すべてにわたってグレー表示になります。
  - ページを選択するには、そのアイコンをクリックします（ページを選択し、かつそれをビューに移動する場合を除き、ダブルクリックはしないでください）。
  - スプレッドを選択するには、スプレッドアイコンの下のページ番号をクリックします。

注意： ページパネルメニューの操作など、スプレッドを操作の対象とする機能のいくつかは、スプレッド全体が選択されている場合のみ使用できます。

ページの先頭へ

ドキュメントへの新しいページの追加

- 必要に応じて次の操作を行います。
  - アクティブな（ターゲットになっている）ページまたはスプレッドの後にページを追加するには、ページパネルの「ページを挿入」ボタンをクリックするか、レイアウト／ページ／ページを追加を選択します。追加したページは、アクティブなページと同じマスターが使用されます。
  - ドキュメントの最後に複数のページを追加するには、ファイル／ドキュメント設定を選択します。ドキュメント設定ダイアログボックスで、ドキュメントの総ページ数を指定します。最後のページまたはスプレッドの後にページが追加されます。
  - マスターを指定してページを追加するには、ページパネルメニューから「ページを挿入」を選択するか、レイアウト／ページ／ページを挿入を選択します。ページの追加先と、適用するマスターを選択します。

ページの先頭へ

ページサムネールのカラーラベルの作成

ページパネルで、ページサムネールにカラーラベルを割り当てることができます。例えば、カラーラベルを使用してページの状態を示すことができます。作業後のスプレッドには緑のラベル、作業中のスプレッドには黄色のラベル、作業前のスプレッドには赤いラベルを使用できます。

1. ページパネルで、カラーラベルを適用するページを選択します。
2. ページパネルメニューからページ属性／カラーラベルのサブメニューを選択し、割り当てるカラーを選択します。

カラーラベルは、ページパネルのサムネールの下に表示されます。

マスターページにカラーラベルを適用すると、マスターが適用されているすべてのページに影響しますが、個別のドキュメントページにカラーラ

ベルを適用した場合は、ドキュメントページのカラーラベルが優先されます。マスターページのカラーラベルを使用するには、変更するドキュメントページを選択し、ページパネルメニューからページ属性／カラーラベル／マスターカラーを使用を選択します。

(cc) BY-NC-SA Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

リキッドレイアウトと代替レイアウト | CC、CS6

目次

推奨ワークフロー
リキッドレイアウト
　リキッドページルール
代替レイアウト
　代替レイアウトの作成

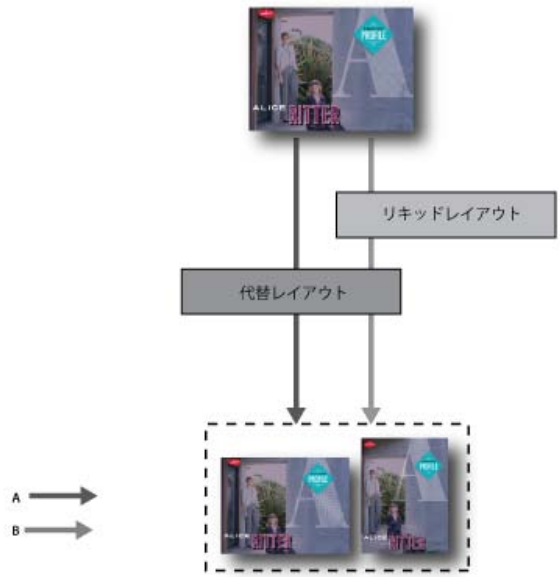
代替レイアウトとリキッドレイアウトページのルールを使用すると、複数のページサイズ、ページ方向、縦横比を柔軟に効率良くデザインできます。

複数の形式やサイズでパブリッシュするための、プロジェクトに最適なデザイン戦略として手作業、半自動、全自動を選択することができます。自動ワークフローへの依存度が高くなるほど、デザインに対するコントロールの範囲が狭まります。InDesign では、コストとコントロールのバランスをとれるよう、採用した戦略に対する機能拡張がいくつか用意されています。

注意： 自動リキッドレイアウトベースのパブリッシングは、準拠するビューアテクノロジーがないため、まだ行えません。

トップへ

推奨ワークフロー



A. 代替レイアウトワークフロー B. 代替レイアウトおよびリキッドページルール

手順 1：ターゲットデバイスと、それに対応するサイズおよび方向を選択します。次に、すべてのページのプライマリレイアウトを作成します。

手順 2：オプションで、アドビのリキッドレイアウトのページルールを追加して、コンテンツを異なる縦横比とサイズに適応させます。リキッドページルールは、複数のデバイスをターゲットにしている場合に便利です。リキッドページルールを使用しない場合、考えられるサイズと方向の組み合わせごとに一意のレイアウトを手動で作成する必要があります。詳しくは、リキッドレイアウトを参照してください。

手順 3：「代替レイアウトを作成」機能を使用して、同じドキュメントに新しいページを作成します。プライマリレイアウトおよびリキッドページルールに応じて、手動でレイアウトを調整することが必要になる場合があります。新しいサイズと方向ごとにこの手順を繰り返します。詳しくは、代替レイアウトを参照してください。

トップへ

リキッドレイアウト



リキッドレイアウト

リキッドレイアウトを使用すると、複数のページサイズ、方向およびデバイス用のコンテンツのデザインが簡単になります。リキッドページルールを適用すると、代替レイアウトを作成して、サイズ、方向、縦横比を変更したときにページのオブジェクトがどのように調整されるかを指定できます。

レイアウトや目標に応じて、異なるルールを異なるページに適用できます。一度にページに適用できるリキッドページルールは 1 つだけです。リキッドレイアウトは、特定のリキッドページルールのセット（拡大・縮小、中央揃え、ガイドごと、オブジェクトごとのページルール）の総称です。

リキッドページルールを使用して、出力サイズのコンテンツを調整します。

- 代替レイアウトを使用して、同じドキュメントに新しいページを作成する場合に、レイアウトを調整します。
- 既存のページサイズを変更するときに、レイアウトを調整します。これはこれまでのレイアウト調整機能よりも効率的です。

リキッドページルールを適用するには、ページツール を選択してページをクリックします。次に、コントロールバーでリキッドページルールを選択します。また、レイアウト／リキッドレイアウトを使用することもできます。

適用ルールの効果をプレビューするには、ページツールを使用し、ページハンドルをドラッグしてページのサイズを変更します。マウスを放すと、ページは元のサイズに戻ります。

ページのサイズを変更するには、Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押しながらドラッグします。ただしマウスを使用してページのサイズを変更すると、目的のサイズからややずれたページになる場合があります。コントロールバーの高さおよび幅ウィジェットを使用した方が、正確にページのサイズを変更できます。



リキッドページルール
A.ページツールB. コントロールバーのリキッドページルール C. ページハンドル D. オブジェクトごとのルールのピン E. リキッドレイアウトパネル

リキッドページルール

異なるルールを異なるページに適用できます。一度にページに適用できるリキッドページルールは 1 つだけです。

このビデオでは、レイアウトをサイズ変更する際に、なし、拡大・縮小、中央揃えの各ルールを適用する方法を紹介します。また、「基準マスター」の意味を説明します。リキッドレイアウトの基本ルールの使い方：拡大・縮小、中央揃え、基準マスター（英語）を参照してください。

拡大・縮小 ページ上のすべてのコンテンツはグループのように処理され、ページのサイズを変更すると、すべての要素が比例して拡大・縮小されます。結果は、ハイビジョンテレビの画面のレターボックス処理やピラーボックス処理に似ています。



リキッドページルール：拡大・縮小

中央揃え ページ上のすべてのコンテンツは、幅や高さに関係なく自動的に中央に揃えられます。「拡大・縮小」とは異なり、コンテンツは元のサイズに留まります。計画とレイアウトを慎重に行って中央揃えルールを使用すれば、ビデオ制作のセーフゾーンでも同様の結果が得られます。



リキッドページルール：中央揃え

ガイドごと ガイドでは、ページ全体でコンテンツが調整される基準を示す直線が定義されます。

- スペースを追加できます。
- テキストフレームのサイズが変更されると、テキストが再フローされます（ただし拡大・縮小はされません）。
- 配置された画像でサイズが変更されると、画像を含むフレームのトリミング境界のサイズが変更されます。

リキッドガイドを追加するには、最初にページツールを選択し、次にガイドを定規から目的の位置までドラッグします。

ガイドごとのルールは、Illustrator、Fireworks および Flash の 3 および 9 スライスの拡大・縮小と似ています。リキッドレイアウトのガイドごとのルールの適用（英語）のビデオをご覧ください。

定規ガイドをリキッドガイドに変換するには、選択ツールを選択し、ガイドのリキッドガイドに切り替えアイコンをクリックします。リキッドガイドが破線として表示され、定規ガイドは実線として表示されます。



リキッドページルール：ガイドごと

オブジェクトごと 各オブジェクトのページ枠に対するリキッドのビヘイビアーのサイズと相対位置を、固定的または相対的に指定することができます。

- オブジェクトのバウンディングボックスまたはフレームの各辺は、対応するページ枠に対して固定するか、または可変に指定することができます。例えば、フレームの左側で左のページ枠との関係を保持することができます。
- 高さと幅は、「固定」するか、ページを基準にサイズ変更可能にすることができます。

リキッドレイアウトのオブジェクトごとのルールの適用（英語）のビデオをご覧ください。

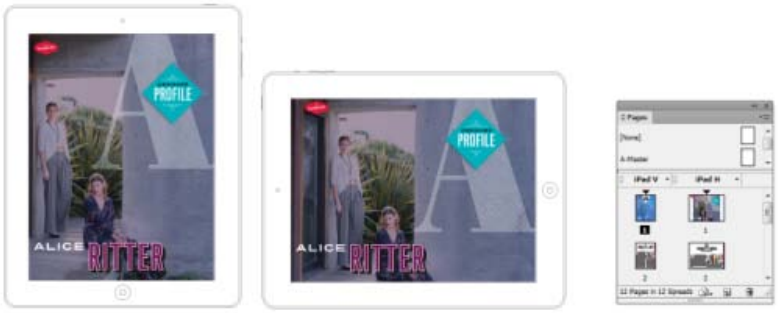


リキッドページルール：オブジェクトごと

トップへ

代替レイアウト

同じドキュメント内でプリントまたはデジタルパブリッシング用に異なるページサイズが必要な場合は、代替レイアウトを使用します。この機能を使用すると、各種サイズの印刷物を作成できます。また、Apple iPad や Android タブレットなどのデバイス向けに縦置きと横置きをデザインするためにも使用できます。



代替レイアウトとページパネル

リキッドレイアウトと組み合わせて使用すると、新しいページサイズや方向ごとにコンテンツを再レイアウトする手間が大幅に省けます。

簡単な概要は、ADOBE TV の代替レイアウトビデオを参照してください。

代替レイアウトの作成

代替レイアウトを作成するには、次のいずれかの操作を行います。

- レイアウト／代替レイアウトを作成を選択します。
- ページパネルメニューで「代替レイアウトを作成」を選択します。



代替レイアウトの作成

代替レイアウトを作成ダイアログボックスで、次のオプションを指定します。

名前 代替レイアウトの名前を入力します。

元のソースページ コンテンツが配置されているソースのレイアウトを選択します。

ページサイズ 代替レイアウトのページサイズを選択するか、カスタムサイズを入力します。

幅、高さ これらのフィールドには、代替レイアウトのサイズが表示されます。自分で値を入力することもできますが、そうするとページサイズがカスタムに変更されます。

方向 代替レイアウトの方向を選択します。縦置きと横置きを切り替えると、高さと幅が更新されます。

リキッドページルール 代替レイアウトに適用するリキッドページルールを選択します。ソースページのリキッドページ適用ルールを継承する場合は、既存の設定を選択します。新しいリキッドページルールを適用するには、別のルールを選択します。

ストーリーをリンク オブジェクトを配置し、ソースレイアウトの元のオブジェクトにリンクする場合は、このオプションを有効にします。元のオブジェクトを更新する場合は、リンクされているオブジェクトの更新を管理した方が簡単です。詳しくは、リンクコンテンツ | CC、CS6を参照してください。

テキストスタイルを新規スタイルグループにコピー すべてのテキストスタイルをコピーし、新しいグループに配置する場合にこのオプションを有効にします。このオプションは、様々なレイアウト間でテキストスタイルを変更しなければならない場合に便利です。

スマートテキストのリフロー処理 このオプションを有効にすると、テキストがプライマリテキストフローでオーバーセットになったときに、ページがドキュメントに自動的に追加されます。

(cc) BY-NC-SR Twitter™ および Facebook の投稿は Creative Commons の条項の対象ではありません。

法律上の注意事項 | プライバシーポリシー

オブジェクトの整列と均等化

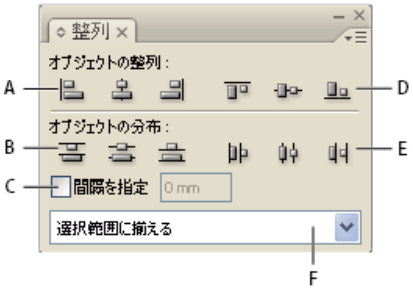
整列パネルの概要
オブジェクトの整列または分布
間隔ツールを使用したオブジェクトの整列
ライブ分布を使用したオブジェクトの分布

整列パネルの概要

トップへ戻る

選択範囲、マージン、ページまたはスプレッドに合わせてオブジェクトを水平方向または垂直方向に整列または均等に配置するには、整列パネル（ウィンドウ／オブジェクトとレイアウト／整列）を使用します。整列パネルの操作では、次の点に注意してください。

- 整列パネルで指定しても、「ロック」コマンドでロックしたオブジェクトや、フレーム内のテキスト段落の行揃えは変更されません。
- テキストの整列には「オブジェクトの整列」オプションは適用されません（詳しくは、テキストの揃えまたは均等配置を参照してください）。
- キーボードショートカットダイアログボックス（編集／キーボードショートカット）を使用して、整列および配列機能のカスタムショートカットを作成できます。機能エリアから「オブジェクト編集」を選択します。

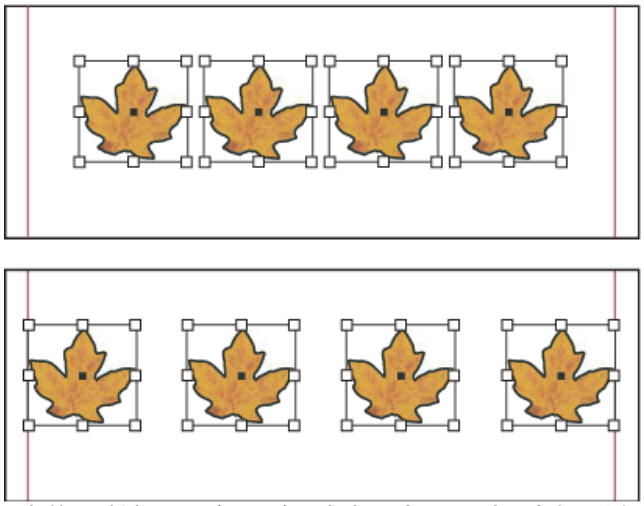


整列パネル
A. 垂直方向の整列ボタン **B.** 垂直方向の分布ボタン **C.** 間隔を指定 **D.** 水平方向の整列ボタン **E.** 水平方向の分布ボタン **F.** 整列の位置オプション

オブジェクトの整列または分布

トップへ戻る

選択したオブジェクトを選択範囲、マージン、ページまたはスプレッドに合わせて水平方向または垂直方向に整列または分布するには、整列パネルを使用します。

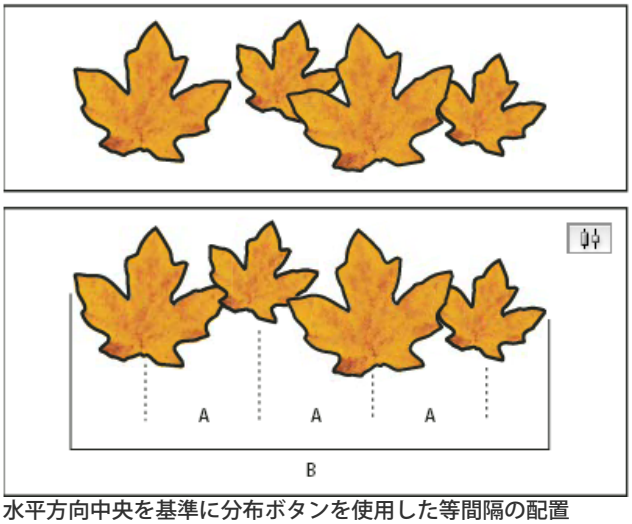


選択範囲（上）およびマージン（下）に合わせて水平方向に分布したオブジェクト

1. 整列または分布するオブジェクトを選択します。
2. ウィンドウ／オブジェクトとレイアウト／整列を選択して、整列パネルを開きます。
   整列パネルの他のオプションを表示または非表示にするには、パネルメニューの「オプションを表示」または「オプションを隠す」を選

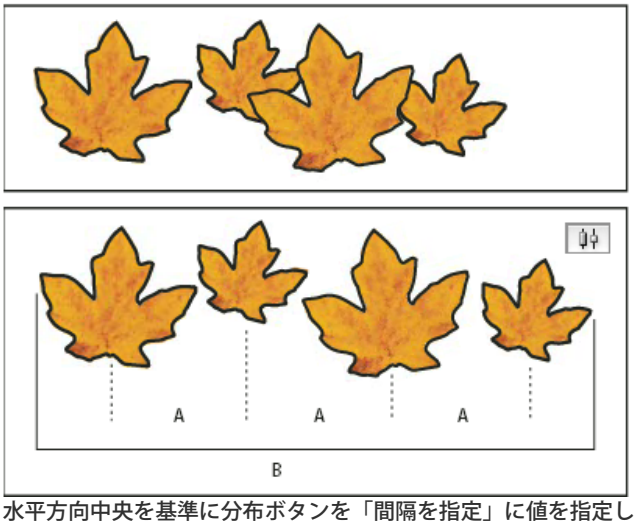
択します。

3. パネル下部のメニューで、選択範囲、マージン、ページまたはスプレッドに基づいてオブジェクトを整列または配列するかどうかを指定します。
4. 次のいずれかの操作を行います。
   - オブジェクトを整列するには、目的の整列の種類のボタンをクリックします。
   - オブジェクトを分布するには、目的の分布の種類のボタンをクリックします。例えば、「選択範囲に揃える」がオンの状態で左端を基準に分布ボタンをクリックすると、選択した各オブジェクトの左端が等間隔に配置されます。



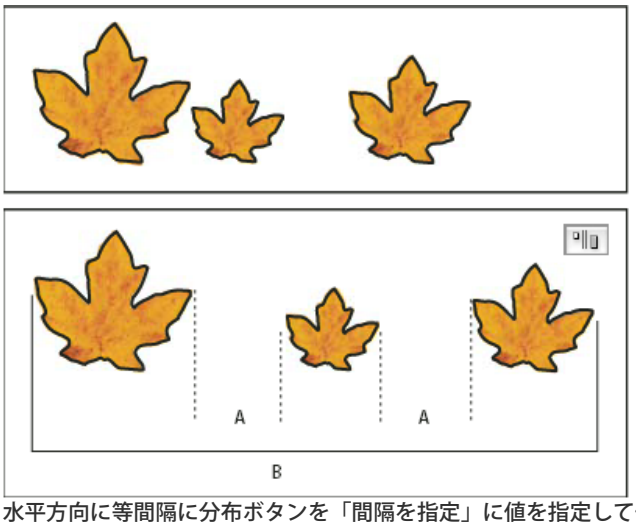
水平方向中央を基準に分布ボタンを使用した等間隔の配置
A. 各オブジェクトの中央が等間隔になる **B.** オブジェクトの全体の幅は実行前と同じに保たれる

   - オブジェクト間（中央または端）の間隔を指定するには、「オブジェクトの分布」の「間隔を指定」を選択して、適用したい間隔を入力します。それから、水平軸および垂直軸に沿ってオブジェクトを配置するための、希望するオブジェクト分布ボタンをクリックします。



水平方向中央を基準に分布ボタンを「間隔を指定」に値を指定して使用
A. オブジェクトの中央から指定値の間隔で配置される **B.** オブジェクトの全体の幅が変更される

   - オブジェクト間の間隔（向かい合った端と端の間）を指定するには、「等間隔に分布」の「間隔を指定」を選択して、オブジェクト間の間隔を入力します（「等間隔に分布」オプションが表示されていなければ、整列パネルメニューから「オプションを表示」を選択します）。それから、いずれかの等間隔に分布ボタンをクリックして、水平軸または垂直軸に沿ってオブジェクトを配置します。



水平方向に等間隔に分布ボタンを「間隔を指定」に値を指定して使用
A. 指定値の間隔で各オブジェクトが配置される **B.** オブジェクトの全体の幅が変更される

垂直分布で間隔を指定すると、選択したオブジェクト間に上から下の順に指定した間隔で配置されます。水平分布で間隔を指定すると、選択したオブジェクト間に左から右の順に指定した間隔で配置されます。

また、スマートスペーシング機能を使用すると、オブジェクトを移動しながら整列したり、均等に配置したりできます。例えば、垂直に配置されている 2 つのオブジェクトが 12 ポイント離れている場合、3 番目のオブジェクトを 2 番目のオブジェクトの 12 ポイント下に移動すると、一時的なガイドが表示されるので、そのオブジェクトを揃えにスナップすることができます。

トップへ戻る

間隔ツールを使用したオブジェクトの整列

間隔ツールを使用すると、複数のオブジェクト間の間隔をすばやく調整できます。また、エッジが揃っている複数のオブジェクトを、オブジェクト間の間隔を維持したまま、同時にサイズ変更することもできます。間隔ツールは、オブジェクト間の間隔を直接操作することで、ワンステップでレイアウトを調整します。

間隔ツールでは、ロックされたオブジェクトやマスターページのアイテムは無視されます。

間隔ツールの使用に関するビデオチュートリアルについては、www.adobe.com/go/lrvid5155_id_jp を参照してください。

1. 間隔ツール を選択します。
2. 2 つのオブジェクトの間にポインターを移動し、次のいずれかの操作を行います。
   - ドラッグして間隔を移動し、間隔と整列してエッジが揃っているすべてのオブジェクトをサイズ変更します。
   - Shift キーを押しながらドラッグして、カーソル位置に近接する 2 つのオブジェクト間のみの間隔の位置とオブジェクトのサイズを変更します。
   - Ctrl キー（Windows）または Command キー（Mac OS）を押しながらドラッグし、間隔の位置を移動せずにサイズだけを変更します。Shift キーも押しながらドラッグすると、カーソル位置に近接する 2 つのオブジェクト間でのみ間隔のサイズを変更します。
   - Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押しながらドラッグし、間隔とオブジェクトの位置を同じ方向に移動します。Shift キーも押しながらドラッグすると、カーソル位置に近接する 2 つのオブジェクトのみを移動します。
   - Ctrl キーと Alt キー（Windows）または Command キーと Option キー（Mac OS）を押しながらドラッグし、間隔をサイズ変更し、オブジェクトを移動します。Shift キーも押しながらドラッグすると、カーソル位置に近接する 2 つのオブジェクトのみの間隔をサイズ変更し、オブジェクトを移動します。

間隔ツールの使用時にヒントを表示するには、間隔ツールを選択し、ツールヒントパネルを開きます（ウィンドウ／ユーティリティ／ツールヒントを選択します）。

トップへ戻る

ライブ分布を使用したオブジェクトの分布

複数の選択されたオブジェクトを分布して配置する場合、実際に個別のオブジェクトの間隔のサイズを変更する代わりに、間隔の比率を保ったまま、まとめてサイズ変更することができます。例えば、5 つの整列した長方形間の間隔を変更する場合、「分布」コマンドを 1 つも使わずに変更できます。

ライブ分布の使用に関するビデオについては、http://tv.adobe.com/go/4949/ を参照してください。

1. オブジェクトを選択します。
2. 選択ハンドルのドラッグを開始してから、スペースバーを押します。そのままドラッグすると、オブジェクト間の間隔を変更できます。

関連項目

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

新規ドキュメントの作成（中国語、日本語、韓国語のみ）

ドキュメントの新規作成
新規ドキュメントの作成
レイアウトグリッドを使用した新しいドキュメントの作成
マージンと段組を使用した新規ドキュメントの作成
新規ドキュメントのオプション
ドキュメントウィンドウの概要
カスタムページサイズの作成
ドキュメントプリセットの定義
プリセットを使用したドキュメントの作成

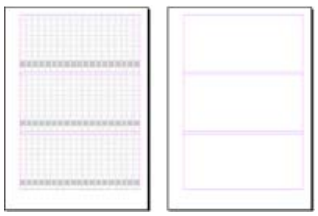
ページデザインは基本的な設定から始めます。新しいドキュメントの作成から始めて、ページの設定、マージン・段組の設定またはグリッド設定の変更を行います。

InDesign では、「レイアウトグリッド」と「マージン・段組」という 2 つのワークフローのいずれかを選択して、ドキュメントを作成します。

注意：いずれのワークフローを選択する場合でも、ドキュメントのファイル形式はまったく同じです。表示を切り替えることによって、マージン・段組で作成したドキュメントにレイアウトグリッドを表示したり、レイアウトグリッドで作成したドキュメントのレイアウトグリッドを非表示にすることができます。

レイアウトグリッドを使用したワークフローは、写植組版でのワークフローを基にした日本独自のものです。レイアウトグリッドを選択すると、ドキュメントにグリッドの升目が表示されます。設定したページサイズの中に、升目の数（行数や文字数）を決めることによって、レイアウトグリッドのサイズを設定し、それによってページマージンが決まります。レイアウトグリッドを使用すると、ページに文字枠単位で正確にオブジェクトを配置することができます。

マージンと段組によるワークフローは、従来の欧米式ワークフローと同じです。欧米式ワークフローは、マージンと段組から構成され、レイアウトグリッドのないページにオブジェクトを配置していきます。マージンと段組ワークフロー、またはレイアウトグリッドワークフローのいずれの場合も、組み方向を横組みまたは縦組みに設定できます。



レイアウトグリッドが表示されたドキュメント（左）と、マージンと段組が表示されたドキュメント（右）

ページの先頭へ

新規ドキュメントの作成

1. ファイル／新規／ドキュメントを選択します。

   新規ドキュメントダイアログボックスでは、ページ数やページサイズ、裁ち落としと印刷可能領域を設定できます。これらの設定はいつでも変更できます。

2. ドキュメント設定オプションを指定します（詳しくは、新規ドキュメントのオプションを参照してください）。

   裁ち落としと印刷可能領域のサイズを指定するには、裁ち落としと印刷可能領域のラベルの前にある矢印ボタンをクリックします（CS6 以前は「詳細設定」をクリックします）。裁ち落とし印刷可能領域は、「ページサイズ」で定義されている範囲の外側まで広がっています。裁ち落としと印刷可能領域をすべての側面に均等に拡張するには、すべての設定を同一にするアイコン をクリックします。

3. 指定した設定で新しいドキュメントを開くには、「OK」をクリックします。

注意： すべての新しいドキュメントに使用されるデフォルトレイアウトを設定するには、開いているドキュメントがない状態で、ファイル／ドキュメント設定またはレイアウト／マージン・段組を選択し、オプションを設定します。

ページの先頭へ

レイアウトグリッドを使用した新しいドキュメントの作成

1. ファイル／新規／ドキュメントを選択します。
2. ページ数、ページサイズ、その他のオプションを変更します。裁ち落としと印刷可能領域のサイズを指定するには、裁ち落としと印刷可能領域のラベルの前にある矢印ボタンをクリックします（CS6 以前は「詳細設定」をクリックします）。
3. 「レイアウトグリッド」をクリックし、レイアウトグリッドの設定を行います（レイアウトグリッドのオプションを参照してください）。
4. 指定した設定で新しいドキュメントを開くには、「OK」をクリックします。

レイアウトグリッドは、レイアウトの基準を目的とするものです。ドキュメントにテキストを追加するには、フレームグリッドまたはテキストフレームを追加します。

ページの先頭へ

マージンと段組を使用した新規ドキュメントの作成

従来の欧米式ワークフローでドキュメントを作成する場合は、マージンと段組を使います。ドキュメントのマージンと段数などのおおまかなレイアウト設定が決まっている場合は、マージン・段組ダイアログボックスを使用すると便利です。

1. ファイル／新規／ドキュメントを選択します。
2. 新規ドキュメントダイアログボックスで、オプションを指定します。各オプションは、レイアウトグリッドでドキュメント作成する場合と同じです。
3. 「マージン・段組」をクリックし、新規マージン・段組ダイアログボックスでオプションを指定します。オプションの内容は、マージン・段組ダイアログボックスと同じです（ドキュメント設定、マージン、段組の変更を参照してください）。
4. 「OK」をクリックします。

マージンと段組を使用して作成したドキュメントでも、表示／グリッドとガイド／レイアウトグリッドを表示を選択してレイアウトグリッドを表示したり、レイアウト／レイアウトグリッド設定でレイアウトグリッドの設定を変更したりすることもできます。

> すべての新しいドキュメントに使用される、デフォルトのレイアウト設定を行うには、開いているドキュメントがない状態で、ファイル／ドキュメント設定、レイアウト／マージン・段組、またはレイアウト／レイアウトグリッド設定を選択し、設定を行います。

ページの先頭へ

新規ドキュメントのオプション

ドキュメントプリセット　保存済みのプリセットを選択します。

ドキュメントプロファイル　Web 用の PDF または SWF に出力するドキュメントを作成する場合、Web オプションを選択すると、このダイアログボックスにあるいくつかのオプションが変化します。例えば、見開きページが解除され、ページ方向が縦置きから横置きになり、モニターの解像度に基づいたページサイズが設定されます。これらの設定は変更可能ですが、ドキュメントを作成した後には変更できません。

CS6 ： Digital Publishing Suite で作成するパブリケーション用に「デジタルパブリッシング」ドキュメントプロファイルが追加されました。

ページ数　新規ドキュメントの作成時にドキュメントに含めるページ数を指定します。

開始ページ番号　ドキュメントに設定するページ番号の開始値を指定します。見開きページを有効にして偶数（例：2）を指定すると、ドキュメントの先頭スプレッドは 2 ページのスプレッドになります。詳しくは、ドキュメントを見開きで開始する方法を参照してください。

見開きページ　本や雑誌などのように左右のページを見開きにして、ページのスプレッドとして使用する場合は、このオプションを選択します。チラシやポスターなど、単ページ（片ページ）をスプレッドとして使用する場合は、このオプションの選択を解除します。

ドキュメントを作成した後でページパネルを使用し、2 ページを超えるスプレッドを作成したり、開始ページを見開きにしたりすることもできます（詳しくは、スプレッドのページ番号割り当ての制御を参照してください）。

マスターにテキストフレーム　（CS5.5 以前）：指定した段組の設定に一致するように、マージンガイド内の領域のサイズに合わせて、テキストフ

レームがマスターページ上に自動的に作成されるようにするには、このオプションを選択します。マスターテキストフレーム（フレームグリッド）は A-マスターに追加されます（詳しくは、マスターページでのテキストフレームの使用を参照してください）。

「マスターにテキストフレーム」を使用できるのは、ファイル／新規／ドキュメントを選択した場合のみです。

プライマリテキストフレーム （CS6 以降）：マスターページ上にプライマリテキストフレームを追加するには、このオプションを選択します。このオプションを設定したマスターページをドキュメントページに適用すると、プライマリテキストフレームが自動的にドキュメントページにも反映されます。

ページサイズ ポップアップメニューからページサイズを選択するか、「幅」と「高さ」に値を入力します。ページサイズとは、ページ外側の裁ち落としやその他のマークを断裁した後の最終的な仕上がりのサイズです。

方向 縦置き（縦長）または横置き（横長）をクリックします。このオプションは、「ページサイズ」に入力した寸法と連動しています。「高さ」の値の方が大きい場合は、縦置きアイコンが選択されます。「幅」の値の方が大きい場合は、横置きアイコンが選択されます。選択されていないアイコンをクリックすると、「高さ」と「幅」の値が切り替わります。

ヒント：裁ち落としと印刷可能領域のサイズを指定するには、裁ち落としと印刷可能領域のラベルの前にある矢印ボタンをクリックします（CS6 以前は「詳細設定」をクリックします）。裁ち落としと印刷可能領域をすべての側面に均等に拡張するには、すべての設定を同一にするアイコン をクリックします。

裁ち落とし 裁ち落としの領域を使用すると、定義されたページサイズの外端に配置されたオブジェクトをプリントすることができます。仕上がり寸法に合わせてページの端にオブジェクトを配置すると、印刷時やトリミング時のわずかなズレによって、ページの端に余白が生じてしまうことがあります。そのため、ページの端に配置するオブジェクトは、実際のページサイズからはみ出す位置に配置し、印刷した後に断裁します。ドキュメント上には、指定した裁ち落としの領域が赤い線で表示されるようになります。なお、ここで設定した裁ち落としは、プリントダイアログボックスの「裁ち落とし」の設定に反映させることができます。

印刷可能領域 印刷可能領域は、ドキュメントが最終的なページサイズに断裁されるときに削除されます。印刷可能領域は、印刷情報やカスタマイズしたカラーバーの情報を配置したり、ドキュメントに関する他の処理命令や他の情報の説明を表示したりするために使用できます。印刷可能領域に配置したオブジェクト（テキストフレームも含む）は印刷されますが、ドキュメントがその最終ページサイズで断裁されたときになくなります。

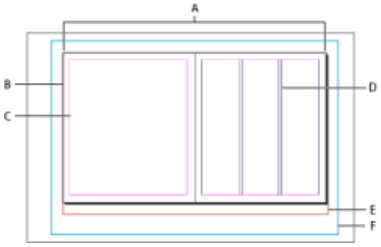
裁ち落としと印刷可能領域の外側のオブジェクトは印刷されません。

注意： ファイルメニューからドキュメントプリセット／定義を選択して、後で使用できるようにドキュメントの設定を保存することもできます。

ページの先頭へ

ドキュメントウィンドウの概要

ドキュメントの各ページまたはスプレッドには専用のペーストボードとガイドがあり、標準モードで表示されます（標準モードに切り替えるには、表示／スクリーンモード／標準モードを選択します）。ペーストボードは、ドキュメントがいずれかのプレビューモードで表示されているときは、グレーの背景に置き換えられます（詳しくは、ドキュメントのプレビューを参照してください）。 このプレビューの背景色とガイドは環境設定の「ガイドとペーストボード」で変更できます。



標準モードでのドキュメントとガイド

A. スプレッド（黒の線） ***B.*** ページ（黒の線） ***C.*** マージンガイド（マゼンタの線） ***D.*** 段組ガイド（紫の行） ***E.*** 裁ち落とし（赤い線） ***F.*** 印刷可能領域（青い線）

ドキュメントウィンドウに関する注意：

- その他の色の線は定規ガイドをあらわしており、存在する場合は、選択するとレイヤーカラーで表示されます。詳しくは、レイヤーを参照し

てください。

- 段組ガイドは、マージンガイドの前面に表示されます。段組ガイドがマージンガイドに重なっている場合は、マージンガイドは段組ガイドの後ろに隠れています。

ページの先頭へ

カスタムページサイズの作成

独自のページサイズを作成し、新規ドキュメントダイアログボックスのページサイズメニューに表示させることができます。

1. ファイル／新規／ドキュメントを選択します。
2. ページサイズメニューから、「カスタム」を選択します。
3. ページサイズの名前を入力し、ページサイズ設定内容を指定して、「追加」をクリックします。

以前のバージョンの InDesign では、New Doc Sizes.txt ファイルを使用してカスタムページサイズを作成するようになっていました。このファイルは InDesign CS5 以降にはありません。

ページの先頭へ

ドキュメントプリセットの定義

ドキュメント設定としてページサイズ、段組、マージン、裁ち落とし印刷可能領域をプリセットに保存して、類似するドキュメントを作成するときに時間を節約し、一貫性を保つことができます。

1. ファイル／ドキュメントプリセット／定義を選択します。
2. 表示されるダイアログボックスで「新規」をクリックします。
3. 新規ドキュメントプリセットダイアログボックスで、プリセットの名前を指定し、各項目を設定します（詳しくは、新規ドキュメントのオプションの各オプションの説明を参照してください）。
4. 「OK」を 2 回クリックします。

ドキュメントプリセットを別のファイルに保存し、他のユーザーに配布することができます。ドキュメントプリセットファイルの保存と読み込みを行うには、ドキュメントプリセットダイアログボックスの「保存」と「読み込み」ボタンを使用します。

ページの先頭へ

プリセットを使用したドキュメントの作成

1. 次のいずれかの操作を行います。
   - ファイル／ドキュメントプリセット／[プリセット名] を選択します（新規ドキュメントダイアログボックスを開かずにプリセットに基づいて新しいドキュメントを作成するには、Shift キーを押しながらプリセットを選択します）。
   - ファイル／新規／ドキュメントを選択し、新規ドキュメントダイアログボックスのドキュメントプリセットメニューからプリセットを選択します。

   新規ドキュメントダイアログボックスにドキュメントプリセットオプションが表示されます。
2. （必要に応じて）オプションを変更し、「OK」をクリックします。

新規ドキュメントダイアログボックスを省略するには、*Shift* キーを押しながらドキュメントプリセットメニューからプリセットを選択します。

- InDesign ドキュメントの推奨ワークフロー
- ドキュメントテンプレートの使用
- ブックファイルへのドキュメントの追加
- ドキュメント設定、マージン、段組の変更

(cc) BY-NC-SR Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

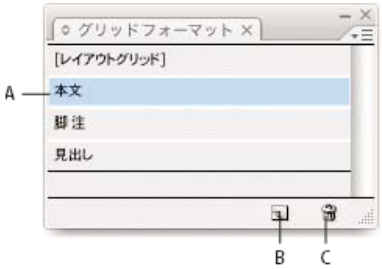
グリッドのフォーマット

グリッドフォーマットパネルの概要
グリッドフォーマットの作成
グリッドフォーマットのフレームへの適用
グリッドフォーマットの編集
グリッドフォーマットの削除
他のドキュメントからのグリッドフォーマットの読み込み

グリッドフォーマットパネルの概要

トップへ戻る

グリッドフォーマットパネル（ウィンドウ／書式と表／グリッドフォーマット）を使用して、フレームグリッドの設定をグリッドフォーマットに保存し、これらの設定を他のフレームグリッドに適用することができます。フレームグリッドフォーマットの適用や変更が効率よく操作でき、また、ドキュメントの外観を簡単に統一することができます。



グリッドフォーマットパネル
A. グリッド名 **B.** 新規グリッドフォーマットボタン **C.** 削除アイコン

グリッドフォーマットパネルには、デフォルトでレイアウトグリッドフォーマットが表示されています。このグリッドフォーマットには、そのときページパネル上で選択されているページのレイアウトグリッド設定が反映します。1 つのドキュメントに複数のレイアウトグリッドが設定されている場合、グリッドフォーマットパネルの「レイアウトグリッド」の設定内容は、選択されているページのレイアウトグリッドの内容によって変化します。

グリッドフォーマットが適用されているフレームグリッドを選択すると、グリッドフォーマットパネルでは、適用されているグリッドフォーマット名がハイライト表示されます。

グリッドフォーマットの作成

トップへ戻る

スタイルの場合と同様に、フレームグリッドの設定の組み合わせをグリッドフォーマットに保存し、これらの設定を他のフレームグリッドに適用することができます。

1. 既存のフレームグリッドのフォーマットに基づいて、新規グリッドフォーマットを定義する場合は、選択ツールでそのフレームグリッドを選択します。
2. ウィンドウ／書式と表／グリッドフォーマットを選択します。
3. グリッドフォーマットパネルメニューから「新規グリッドフォーマット」を選択します。
4. グリッドフォーマットの編集ダイアログボックスでオプションを指定し、「OK」をクリックします。

使用するグリッドフォーマットが、既に別の InDesign ドキュメントに保存されている場合は、現在のドキュメントにそのグリッドフォーマットを読み込んで使用することができます。

> 既存のフレームグリッドに基づいて新規フレームグリッドフォーマットを作成した場合、フォーマット属性オプションの変更は、選択されているフレームグリッドにも適用されます。選択されているフレームグリッドのフォーマットを変更したくない場合は、グリッドフォーマットの編集ダイアログボックスを表示する前に、フレームグリッドの選択を解除してください。

グリッドフォーマットのオプション

グリッドフォーマットのオプションを表示するには、ウィンドウ／書式と表／グリッドフォーマットを選択します。

グリッド名 グリッドフォーマットの名前を入力します。
フォント フォントファミリとフォントスタイルを選択し、グリッドに割り付けるテキストのデフォルトのフォントを設定します。
サイズ 個々のグリッドのサイズを指定します。
文字垂直比率と文字水平比率 アジア言語の全角文字に対するグリッドの比率をパーセント値で指定します。

字間 フレームグリッド内の文字枠の間隔を指定します。この値がグリッドのサイズになります。
行間 グリッドの行間隔を指定する値を入力します。この値は、1 行目の文字の仮想ボディの下辺（またはた左辺）から次行の文字の仮想ボディの上辺（または右辺）までの距離として使用されます。
行揃え フレームグリッドの行揃えを指定するオプションを選択します。例えば、「左／上揃え」を選択すると、縦組みフレームグリッドでは各行の先頭がフレームグリッドの上辺に揃えられます（詳しくは、テキストの揃えまたは均等配置を参照してください）。
グリッド揃え オプションを選択して、テキストを仮想ボディ、平均字面、欧文ベースラインのどこに揃えるかを指定します詳しくは、段落をベースライングリッドに揃えるを参照してください。
文字揃え 行内の最も大きい文字に小さい文字を揃える方法を指定するオプションを選択します（詳しくは、サイズの異なる文字の揃えを参照してください）。

トップへ戻る

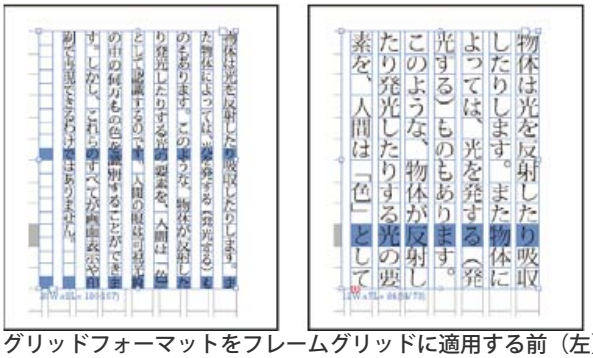
グリッドフォーマットのフレームへの適用

カスタムグリッドフォーマットまたはレイアウトグリッドをフレームグリッドに適用することができます。レイアウトグリッドを適用する場合は、レイアウトグリッドダイアログボックスで定義されているのと同じ設定がフレームグリッドで使用されます。

1. 選択ツールを使用して、フレームグリッドを選択します。または、文字ツールで、フレームグリッドをクリックしてテキスト挿入点を置くか、テキストを選択します。
2. グリッドフォーマットパネルまたはコントロールパネルで、適用するフォーマット名をクリックします。

   グリッドフォーマットを適用すると、フレームグリッド内のテキストにグリッドフォーマットの属性が設定されますが、文字スタイルや段落スタイルが適用されているテキスト、文字パネルや段落パネルで個々に設定を変更しているテキストには、グリッドフォーマットの属性は適用されません。

   注意： フレームグリッド内のテキストの属性の優先順位は、文字スタイル、段落スタイル、グリッドフォーマットとなっています。そのため、段落スタイルまたは文字スタイルが適用されているテキストにグリッドフォーマットを適用すると、適用したテキストの文字、段落の各スタイル名には「+」が表示されるようになります（詳しくは、テキストフォーマットの優先を参照してください）。

   グリッドフォーマットをフレームグリッドに適用する前（左）と適用した後（右）
3. グリッドフォーマットの属性をストーリー全体に適用するには、選択ツールでフレームグリッドを選択し、編集／グリッドフォーマットの適用を選択します。

グリッドフォーマットをオブジェクトスタイルに追加することもできます。グリッドフォーマットをグリッドフレームのデフォルトのオブジェクトスタイルに追加すると、それ以降に作成するすべてのグリッドフレームが、指定したグリッドフォーマットに基づいてフォーマットされます（詳しくは、オブジェクトスタイルについてを参照してください）。

トップへ戻る

グリッドフォーマットの編集

グリッドフォーマットの定義はいつでも変更できます。グリッドフォーマットの定義を変更すると、そのフォーマットが適用されているすべてのフレームグリッドが、新たに定義されたフォーマットのスタイルに変更されます。

1. グリッドフォーマットパネルを使用して、編集するグリッドフォーマットを選択し、パネルメニューから「グリッドフォーマットの編集」を選択するか、グリッドフォーマットパネルで編集するグリッドフォーマットをダブルクリックします。
2. グリッドフォーマットの編集ダイアログボックスで設定を変更します（詳しくは、グリッドフォーマットの作成を参照してください）。
3. 「OK」をクリックします。

これにより、現在選択されているフレームグリッドに適用されているグリッドフォーマットが変更されます。現在選択されていないフレームグリッドの設定を変更する場合は、ドキュメント内でオブジェクトが選択されていない状態で、前述の操作を行うか、Shift+Ctrl+Alt キー（Windows）または Shift+Command+Option キー（Macintosh）を押しながら、グリッドフォーマットパネルのグリッドフォーマット名をダブルクリックします。

トップへ戻る

グリッドフォーマットの削除

フレーム内のテキストに適用されているフォーマットは、グリッドフォーマットが削除されても変更されませんが、グリッドフォーマットへのリンクは削除されます。

1. グリッドフォーマットパネルで、削除するグリッドフォーマット名を選択します。

2. パネルメニューから「グリッドフォーマットの削除」を選択するか、グリッドフォーマットパネルの下部にある削除アイコン をクリックします。

グリッドフォーマットを削除しても、そのフォーマットが適用されていたフレームグリッド内のテキストのフォーマットは変化しませんが、グリッドフォーマットとの関連はなくなります。

トップへ戻る

他のドキュメントからのグリッドフォーマットの読み込み

1. グリッドフォーマットパネルメニューから「グリッドフォーマットの読み込み」を選択します。
2. 読み込むグリッドフォーマットを含む InDesign ドキュメントをダブルクリックします。

現在のドキュメントにあるグリッドフォーマットと同名のグリッドフォーマットを読み込むと、読み込み先の既存のグリッドフォーマットが上書きされ、このグリッドフォーマットが適用されているすべてのフレームグリッドのグリッドフォーマットが変更されるので注意してください。

関連項目

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

テキストおよびテキストフレームの作成

フレームグリッドとプレーンテキストフレームの違い
フレームグリッドの作成
テキストフレームの作成
テキストフレームの移動とフレームサイズの変更
マスターページでのテキストフレームの使用
テキストフレームのプロパティの変更
テキストの組み方向の変更
テキストフレームの文字数表示

フレームグリッドとプレーンテキストフレームの違い

トップへ戻る

フレームグリッドは、グリッドの有無以外は、機能的にも外見的にもプレーンテキストフレームと同じですが、次のような相違点と特性があります。

- フレームグリッドには文字属性が設定されています。テキストを配置すると、設定されている文字属性が適用されます。一方、プレーンテキストフレームには文字属性が設定されていません。テキストを割り付けると、そのときに文字パネルで選択されている文字属性が適用されます。
- フレームグリッドの文字属性は、オブジェクト／フレームグリッド設定で変更しますが、プレーンテキストフレームには文字属性がないため、配置されているテキストを選択して文字パネルまたはコントロールパネルで属性を設定します。フレームグリッド内に配置されているテキストを選択して、文字パネルまたはコントロールパネルで文字属性を変更することもできます。
- フレームグリッドの初期設定では、グリッド揃えが「仮想ボディの中央」に設定されているため、フレームグリッド内の行送りは、フレームグリッド設定ダイアログボックスの「行間」の設定に依存します。プレーンテキストフレームでは、InDesign の初期設定でグリッド揃えが「なし」に設定されているため、特に指定しない場合は、文字パネルの「行送り」で指定されている値で行が送られます。なお、プレーンテキストフレーム内の段落にグリッド揃えを「仮想ボディの中央」に指定すると、ドキュメントのベースライングリッドの中央に文字が配置されます。
- フレームグリッドの文字属性は、グリッドフォーマットスタイルとして保存し、必要に応じてフレームグリッドに適用することができます。
- フレームグリッドのグリッドは、グリッドの文字属性（文字サイズ、字間、行間）によって決定されます。
- ストーリーが割り付けられ、連結された各フレームグリッドには、同一のグリッド属性が適用されます。詳しくは、テキストの連結を参照してください。
- フレームグリッドの文字数は、デフォルトでフレームグリッドの一番下に表示されます。また、ストーリーまたは選択範囲の文字数を情報パネルに表示することもできます。

注意： プレーンテキストフレームには文字属性が設定されていないので、文字属性が設定されているフレームグリッドをプレーンテキストフレームに変換すると、再フォーマットされる場合があります。例えば、オブジェクト／フレームグリッド設定の字間を -1H に設定してあるフレームグリッドをオブジェクト／フレームの種類／テキストフレームでプレーンテキストフレームに変換すると、字間が 0H となり文字間隔がわずかに広がります。フレームグリッド設定は保持されているため、オブジェクト／フレームの種類／フレームグリッドでフレームグリッドに変換すれば元どおりの字間 -1H で表示されます。

フレームグリッドの作成

トップへ戻る

フレームグリッドを作成し、入力またはコピーしたテキストを割り付けるには、横組みグリッドツール または縦組みグリッドツール を使用します。このツールで作成するフレームグリッドには、グリッドフォーマットパネルで指定されているグリッドフォーマットの属性が適用されます。また、フレームグリッドの設定は、フレームグリッド設定ダイアログボックスで変更できます。

横組みグリッドツールを使用すると、テキストが左から右へ、さらにその下の次の行へと続く横組みフレームグリッドが作成されます。縦組みグリッドツールを使用すると、テキストが上から下へ、さらにその左側の次の行へと続く縦組みフレームグリッドが作成されます。

> フレームグリッド内のテキストの文字フォーマットがフレームグリッドの設定と異なるとき、選択ツールでフレームグリッドを選択し、編集／グリッドフォーマットの適用を使用すると、グリッドフォーマットパネルで指定されているフォーマットを適用することができます。

フレームグリッドの作成

1. 横組みグリッドツール または縦組みグリッドツール を選択します。
2. ツールをドラッグして、作成するフレームグリッドの高さと幅を指定します。Shift キーを押しながらドラッグすると、正方形のフレームグリッドを作成することができます。

グリッドフォーマットパネルであらかじめグリッドフォーマットを選択してからグリッドフォーマットを作成すると、選択されているグリッドフォーマットの属性が適用されたグリッドフォーマットが作成されます。

プレーンテキストフレーム以外の空のフレーム内を、フレームグリッドツールでクリックすると、フレームがフレームグリッドに変換されます。プレーンテキストフレームはフレームグリッドに変更されません。

フレームグリッドのデフォルト設定

フレームグリッドのデフォルトの文字属性は、ドキュメントデフォルト、アプリケーションデフォルト、レイアウトグリッド設定という優先順位で決定されます。

1. 必要に応じて次の操作を行います。
   - すべての新規ドキュメントに適用されるデフォルトのフレームグリッドを設定するには、すべてのドキュメントを閉じてからフレームグリッドツールをダブルクリックします。
   - 現在のドキュメントに適用されるデフォルトのフレームグリッドを設定するには、オブジェクトが選択されていないことを確認してからフレームグリッドツールをダブルクリックします。
2. フレームグリッドのオプションを指定します。
3. 「OK」をクリックします。

注意： フレームグリッドを作成するとデフォルトのオブジェクトスタイルが適用されます。デフォルトのオブジェクトスタイルにフレームグリッドの設定が含まれる場合でも、フレームグリッドツールのデフォルト値が優先されます。

読み込んだテキストのデフォルトを設定するには、ストーリーパネルを使用します。すべてのドキュメントを閉じるか、現在のドキュメントにあるすべてのオブジェクトの選択を解除して、ストーリーパネルを開き、読み込んだテキストに対して使用するストーリーの組み方向とフレームの種類を指定します。

トップへ戻る

テキストフレームの作成

InDesign のテキストは、テキストフレームと呼ばれるコンテナに配置されます（テキストフレームは、QuarkXPress のテキストボックスや Adobe PageMaker のテキストブロックと同様のものです）。テキストフレームの作成に関するビデオチュートリアルについては、www.adobe.com/go/lrvid4274_id_jp を参照してください。

テキストフレームには、フレームグリッドとプレーンテキストフレームの 2 種類があります。フレームグリッドは、アジア言語組版に特化された、文字の仮想ボディと間隔が枠（グリッド）として表示されているテキストフレームです。プレーンテキストフレームは、グリッドが表示されない空のテキストフレームです。

テキストフレームは、グラフィックフレームと同じように移動、変更、サイズ変更することができます。実行できる変更の種類は、テキストフレームを選択するツールに応じて異なります。

- 文字ツール を使用して、フレームにテキストを入力したり、テキストを編集したりします。
- 選択ツール を使用して、フレームの配置やサイズ変更などの一般的なレイアウト作業を行います。
- ダイレクト選択ツール を使用して、フレームの形状を変更します。
- 横組みグリッドツール または縦組みグリッドツール を使用して、フレームグリッドを作成します。詳しくは、フレームグリッドの作成を参照してください。
- 文字ツール を使用して、横組みテキスト用のプレーンテキストフレームを作成し、縦組み文字ツール を使用して、縦組みテキスト用のプレーンテキストフレームを作成します。そして、既存のフレームのテキストを編集する場合は、横組み文字ツールまたは縦組み文字ツールのどちらかを使用します。

テキストフレームは他のテキストフレームと連結することができます。このようなフレームを連結フレームと呼びます。そして、複数のテキストフレームにまたがって割り付けられているテキストをストーリーと呼びます。例えば、テキストファイルを配置した（割り付けた）場合、そのテキストがつながっている限り、1 つのストーリーとして扱われます。割り付けられたテキストフレームの数はストーリーの数とは関係がありません。

注意： 連結しているすべてのフレームグリッドに対して同一のグリッド設定と同じ組み方向（横組みまたは縦組み）が使用されます。また、ストーリーの一部を含むすべてのフレームの種類はストーリーの先頭を含むフレームと同じになります。また、ストーリーの一部を含むすべてのフレームの種類はストーリーの先頭を含むフレームと同じになります。

テキストフレーム内には、段組を設定することもできます。テキストフレームは、ページに設定されている段組とは独立しています。例えば、4 段組みのページ上で 2 段組みのテキストフレームにすることもできます。テキストフレームをマスターページに配置して、ドキュメントページにテキストを割り付けることができます。

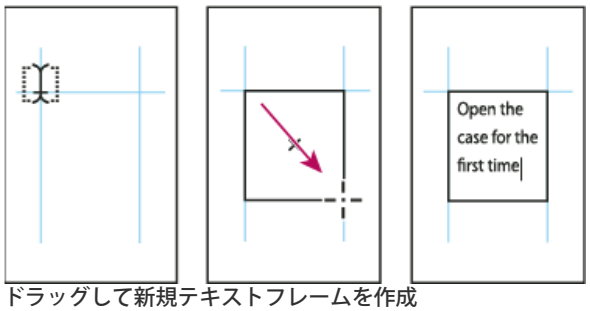
同じ種類のテキストフレームを繰り返し使用する場合は、線および塗りのカラー、テキストフレームのオプション、テキストの回りこみ、透明効果など、テキストフレームのフォーマットを含むオブジェクトスタイルを作成することができます。

テキストをペーストすると、プレーンテキストフレームが自動的に作成されます。空のプレーンテキストフレームを手動で作成して、テキストを入力することもできます。

❖ 必要に応じて次の操作を行います。

- 文字ツール を選択し、ドラッグして、新規テキストフレームの幅と高さを指定します。Shift キーを押しながらツールをドラッグすると、

正方形のテキストフレームを作成することができます。作成したテキストフレーム内にテキスト挿入点が表示されます。



ドラッグして新規テキストフレームを作成

- 選択ツールを使用して、別のテキストフレームのインポートまたはアウトポートをクリックし、もう一度クリックするかドラッグして、別のフレームを作成します。
- 「配置」コマンドを使用して、テキストファイルを配置します。
- 文字ツール T を使用して、空のフレーム内をクリックします。環境設定ダイアログボックスの「テキスト」セクションで「文字ツールでフレームをテキストフレームに変換」オプションを選択すると、空のフレームがテキストフレームに変換されます。

注意： プレーンテキストフレームをフレームグリッドに変換するには、変換するフレームを選択し、オブジェクト／フレームの種類／フレームグリッドを選択します。

トップへ戻る

テキストフレームの移動とフレームサイズの変更

テキストフレームの移動やフレームサイズの変更を行うには、選択ツールを使用します。

文字ツール から選択ツールに切り替えることなくテキストフレームの移動やフレームサイズの変更を行うには、Ctrl キー（Windows）または Command キー（Macintosh）を押しながらフレームをドラッグします。

テキストフレームの移動

- 選択ツールを使用して、テキストフレームをドラッグします。
- 文字ツールを使用して、Ctrl キー（Windows）または Command キー（Macintosh）を押しながらフレームをドラッグします。キーを放しても文字ツールは選択された状態のままになります。

テキストフレームのサイズ変更

❖ 必要に応じて次の操作を行います。

- 文字ツール T を使用してサイズを変更するには、Ctrl キー（Windows）または Command キー（Macintosh）を押しながらフレームのハンドル（テキストフレーム上の 8 つの小さな四角形）をドラッグします。ドラッグする前にマウスボタンを 1 秒間以上押したままにすると、フレームのサイズ変更と同時にテキストが再構成されます。

  注意： テキストフレームをドラッグする代わりにクリックすると、テキストの選択が解除されるか、テキスト挿入点の位置が変わります。

- 選択ツール を使用してサイズを変更するには、フレームの境界線上にあるハンドルをドラッグします。Ctrl キー（Windows）または Command キー（Macintosh）を押しながらドラッグして、フレーム内のテキストを拡大 / 縮小します（詳しくは、文字の拡大 / 縮小を参照してください）。
- フレームをその内容にすばやく合わせるには、選択ツールを使用してオブジェクトを選択し、ハンドルのいずれかをダブルクリックします。例えば、横組みテキストフレームの中央下のハンドルをダブルクリックすると、フレームの下部がテキストの下部にスナップします。横組みテキストフレームの中央右のハンドルをダブルクリックすると、幅を狭めてフレームサイズいっぱいに合わせる際に高さが保持されます。

  フレーム内のすべてのテキストに合わせて高さや幅を広げるには、オーバーセットテキストフレームまたはフレームグリッド上でハンドルをダブルクリックします。サイズ変更されてもフレームがページに収まらないほどオーバーセットテキストの分量が多い場合には、フレームのサイズ変更は行われません。

- テキストフレームを内容に合わせるには、選択ツールを使用してオブジェクト／オブジェクトサイズの調整／フレームを内容に合わせるを選択します。テキストフレームの下部がテキストの内容に合わせられます。サイズ変更されてもテキストフレームがページに収まらないほどオーバーセットテキストの分量が多い場合には、テキストフレームのサイズ変更は行われません。
- 拡大 / 縮小ツール を使用してサイズを変更するには、ドラッグして、フレームのサイズを変更します（詳しくは、文字の拡大 / 縮小を参照してください）。

トップへ戻る

マスターページでのテキストフレームの使用

新規ドキュメントを作成するときに「マスターにテキストフレーム」チェックボックスを選択すると、ドキュメントのデフォルトのマスターページに空のテキストフレームが配置されます。このとき、マスターページに作成されるテキストフレームには、新規ドキュメント作成時に指定した属性が適用されます。

新規ドキュメント作成時に「マージン・段組」を選択するとプレーンテキストフレームが、「レイアウトグリッド」を選択するとフレームグリッドが作成されます。

注意： 「マスターにテキストフレーム」チェックボックスを選択した場合、テキストフレームはマスターに作成されます。「マージン・段組」を選択した場合、ドキュメントページの外観は変わりませんが、マスター上のマージン内にプレーンテキストフレームが作成されます。ドキュメントページ上から、マスター上に作成されたテキストフレームを利用するためには、Ctrl+Shift キー（Windows）または Command+Shift キー（Macintosh）を押しながらクリックして、マスターから分離させます。このとき、Ctrl キー（Windows）または Command キー（Macintosh）を押すと選択ツールに一時的に変わるツールを使います。それから、文字ツールを選択してテキストフレーム内をクリックし、テキストを入力します。

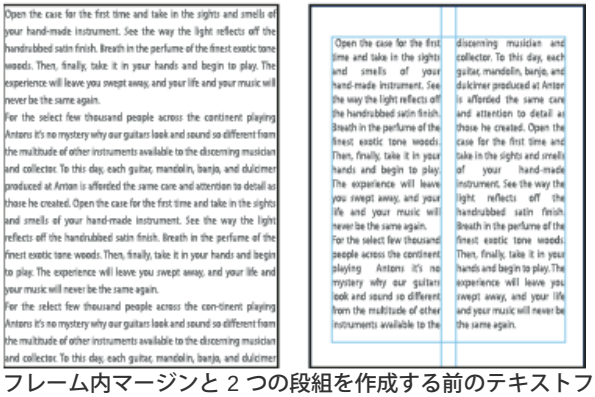
マスターページでテキストフレームを使用する場合は、次の点に留意してください。

- マスターページにテキストフレーム（マスターテキストフレーム）を作成すると、各ドキュメントページにもマスターページのテキストフレームが適用され、テキストの流し込みや入力を行うことができます。さらに多くのバリエーションを必要とする（例えば、ページのフレーム数やフレームの長さが変化する）ドキュメントの場合、「マスターにテキストフレーム」オプションは選択しないでおき、文字ツールを使用してマスター上にテキストフレームを作成します。
- 「マスターにテキストフレーム」チェックボックスの選択にかかわらず、テキストフレームをマスターページに作成して、プレースホルダとして使用できます。これらの空のプレースホルダフレームを連結して、テキストの割り付けの流れを作っておくことも可能です。
- ドキュメントページ上に作成したフレームにテキストを割り付ける操作と同じ手順で、マスターテキストフレームにテキストを割り付けることができます。
- ドキュメントページ上から、マスター上に作成したテキストフレームを利用するためには、Ctrl+Shift キー（Windows）または Command+Shift キー（Macintosh）を押しながらクリックして、マスターテキストフレームをマスターから分離させます。続いて文字ツールを選択してテキストフレーム内をクリックすると、テキストの入力作業を行うことができます。
- スマートテキストのリフロー処理を使用すると、テキストの入力時や編集時に自動的にページを追加または削除できます。デフォルトでは、マスターページに基づく連結テキストフレームの末尾までテキストを入力すると、新しいページが追加され、その新しいテキストフレームで入力を続行できます。スマートテキストのリフロー処理の設定は編集できます。
- ページのマージンを変更する場合、レイアウト調整機能が選択されている場合に限り、新たに設定したマージンがテキストフレームに適用されます。
- 「マスターテキストフレーム」チェックボックスの選択は、テキストの自動流し込み時に新しいページが追加されるかどうかには影響しません。

トップへ戻る

テキストフレームのプロパティの変更

「テキストフレーム設定」コマンドを使用して、テキストフレーム内の段組、テキストの文字揃え、テキストフレームと内部のテキストとのマージン（余白）であるフレーム内マージンを設定することができます。



フレーム内マージンと 2 つの段組を作成する前のテキストフレームと（左）と作成した後（右）

複数のテキストフレームで同じテキストフレームのプロパティを使用する必要がある場合は、オブジェクトスタイルを作成して、これらのテキストフレームに適用することができます。

1. 選択ツール でフレームを選択します。または、文字ツール T でフレームをクリックしてテキスト挿入点を置くか、テキストを選択します。
2. 選択ツールでオブジェクト／テキストフレーム設定を選択するか、テキストフレームを Alt キー（Windows）または Option キー（Macintosh）を押しながらダブルクリックします。
3. テキストフレームの設定を変更して、「OK」をクリックします。

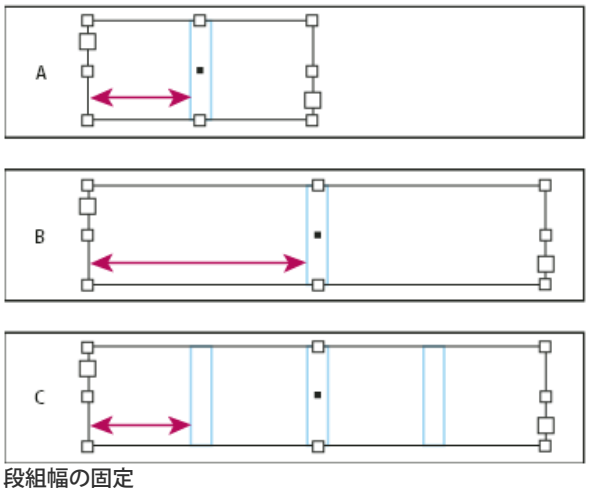
これらのテキストフレームオプションは、テキストボックスのオブジェクトスタイルを定義するときに設定することができます。詳しくは、オブジェクトスタイルを参照してください。

テキストフレームの段組の設定

テキストフレーム設定ダイアログボックスを使用して、テキストフレーム内に段組を作成できます。

テキストフレーム内の段組に対して、不均等な段組の幅を設定することはできません。幅や高さが不均等な段組を作成するには、ドキュメントページまたはマスターページで隣り合う連結したテキストフレームを追加します。

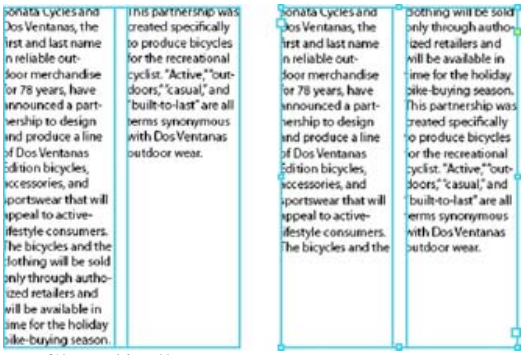
1. 選択ツールでフレームを選択します。または、文字ツールでフレームをクリックしてテキスト挿入点を置くか、テキストを選択します。
2. オブジェクト／テキストフレーム設定を選択します。
3. テキストフレームの段組の数、幅および間隔を指定します。
4. （オプション手順）フレームのサイズを変更するときに段組の幅を維持するには、「固定段間幅」を選択します。このオプションを選択してフレームのサイズを変更すると、段組数が変化しますが、段組の幅は変わりません。



段組幅の固定

A. 元の 2 段のテキストフレーム **B.** 「固定段間幅」を選択せずにテキストフレームのサイズを変更（2 段のまま） **C.** 「固定段間幅」を選択してテキストフレームのサイズを変更（4 段に変化）

5. （オプション手順）「列を揃える」を選択して、複数の段があるテキストフレームでテキストの列の高さを揃えます。



列を揃える前と後

テキストフレームのフレーム内マージンの変更

1. 選択ツールでフレームを選択します。または、文字ツールでフレームをクリックしてテキスト挿入点を置くか、テキストを選択します。
2. オブジェクト／テキストフレーム設定を選択します。
3. 「一般」タブの「フレーム内マージン」セクションで、「上」、「下」、「左」、「右」オプションに、フレームの端からの配置位置を入力します。ページの全方向の間隔を均等にするには、すべての設定を同一にするアイコン をクリックします。

選択したフレームが四角形以外の場合は、「上」、「下」、「左」、「右」オプションの代わりに「内」オプションが使用できるようになります。

先頭ベースライン位置オプション

選択したテキストフレームの先頭ベースライン位置オプションを変更するには、オブジェクト／テキストフレーム設定を選択し、「ベースラインオプション」タブをクリックします。「先頭ベースライン位置」のオフセットメニューには、次のオプションが表示されます。

仮想ボディの高さ 仮想ボディは、フレームの上と先頭ベースライン位置との間隔を決定します。
アセント フォントの「d」の高さがフレーム上部のフレーム内マージンよりも低くなります。
キャップハイト 大文字の最上端をフレーム上部のフレーム内マージンに合わせます。
行送り フレーム内マージンの上端からテキストの 1 行目のベースラインまでの間隔として、テキストの行送り値が使用されます。
X ハイト フォントの「x」の高さがフレーム上部のフレーム内マージンよりも低くなります。
固定 テキスト先頭行のベースラインとフレームの上端までの間隔を指定します。
最小 ベースラインのオフセットの最小値を決めるには、「最小」を設定します。例えば、テキストの行送りが 20H で、オフセットが「行送り」に設定されている場合、使用するオフセット値に行送りよりも小さい値を設定すると行送りが使用され、行送りよりも大きい値を設定するとテキス

トがオフセットされます。

テキストフレームの上辺がグリッドに吸着するようにするには、「行送り」または「固定」を選択します。これによって、テキストフレーム内テキストの先頭ベースラインの位置を制御することができます。フレームグリッドでは、デフォルトのグリッド揃えは「仮想ボディの中央」に設定されています。したがって、行の高さの中央は、仮想ボディの中央にスナップします。通常、テキストがグリッドより大きい場合、自動行取りにより、テキストの中央はグリッドライン間の中央にスナップします。テキストが最初のグリッドボックスの中央にスナップするようにするには、先頭ベースラインの位置設定を使用して、テキストの先頭行の中央を最初のグリッドラインの中央より上に配置します。これにより、行がグリッドにスナップすると、テキストの行の中央は最初のグリッドラインの中央にスナップします。

テキストフレームのベースライングリッドの設定

ドキュメント全体ではなくテキストフレームにベースライングリッドを適用するには、テキストフレーム設定ダイアログボックスを使用します。テキストフレームにベースライングリッドを設定する場合は、次の点に注意してください。

- ドキュメントのベースライングリッドは、独自のベースライングリッドを持つテキストフレームの背面または前面には表示されません。
- フレームのベースライングリッドがフレームグリッドに適用されている場合は、どちらのグリッドも表示され、フレーム内のテキストはフレームベースのベースライングリッドに揃えられます。
- 環境設定ダイアログボックスの「グリッド」セクションで「背面にガイド表示」が選択されている場合、ベースラインは、テキストフレームのベースライングリッド、フレームグリッド、ドキュメントのベースライングリッド、レイアウトグリッドの順序で描画されます。「背面にガイド表示」が選択されていない場合、ベースラインは、ドキュメントベースのベースライングリッド、レイアウトグリッド、フレームベースのベースライングリッド、フレームグリッドの順序で描画されます。

1. 表示／グリッドとガイド／ベースライングリッドを表示を選択して、すべてのベースライングリッドを表示します（テキストフレーム内のベースライングリッドも含む）。
2. テキストフレームを選択するか、テキストフレーム内にテキスト挿入点を置き、オブジェクト／テキストフレーム設定を選択します。

   連結しているすべてのフレームにベースライングリッドを適用する場合は（テキストを含まないフレームも含む）、テキスト内にテキスト挿入点を置き、編集／すべてを選択を選択して、テキストフレーム設定ダイアログボックスでベースライングリッド設定を適用します。
3. 「ベースラインオプション」タブをクリックします。
4. 「ベースライングリッド」で、「カスタムのベースライングリッドを使用」を選択し、次のいずれかの操作を行います。
   始点 相対メニューで選択した設定に応じて、ページの上辺、ページの天マージン、フレームの上辺またはフレーム上部のフレーム内マージンからグリッドをオフセットする値を入力します。

   相対 ベースライングリッドの開始位置を、ページ上部、ページの天マージン、テキストフレーム内の天マージンのいずれを基準にするかを指定します。

   グリッドの間隔 グリッドラインの間隔の値を入力します。通常は、ベースライングリッドにテキストの行が完全に揃うように、本文の行送りと同じ値を入力します。

   カラー グリッドラインのカラーを選択するか、「（レイヤーカラー）」を選択して、テキストフレームが出現するレイヤーと同じカラーを使用します。

テキストフレーム内でベースライングリッドを確認できない場合は、表示／グリッドとガイド／ベースライングリッドを表示を選択して、ベースライングリッドを表示します。「ベースライングリッドを表示」を選択してもベースライングリッドが表示されない場合は、環境設定ダイアログボックスの「グリッド」セクションでベースライングリッドのズーム度限界の値を確認してください。グリッドが見づらい場合は、フレームをズームインしたり、ズーム度限界の値を低くしてみてください。

トップへ戻る

テキストの組み方向の変更

1. テキストフレームを選択します。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - 書式／組み方向／横組みまたは縦組みを選択します。
   - 書式／ストーリーを選択して、ストーリーパネルを表示します。「組み方向」で「横組み」または「縦組み」を選択します。

縦組みのテキストフレームまたはフレームグリッドが横組みに変換されます。または、横組みのテキストフレームまたはフレームグリッドが縦組みに変換されます。この変更を行うと、ストーリーすべてが変更されるため、選択したフレームに連結しているすべてのフレームに影響します。

注意： フレーム内の個々の文字の方向を変更するには、縦中横機能を使用するか、文字パネルの文字回転機能を使用します。

トップへ戻る

テキストフレームの文字数表示

1. 連結したテキストフレーム（ストーリー）内のすべてのテキストをカウントするには、テキストフレーム内をクリックして、テキスト挿入点を置きます。テキストを選択すると、選択されているテキストだけがカウントされます。
2. ウィンドウ／情報を選択して、情報パネルを表示します。

情報パネルには、全角文字、漢字など各文字種の数、欧文単語数、行数、段落数、合計文字数が表示されます。文字数情報は、フレームグリッドの下部にも表示されます。

関連項目

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

ブックファイルの作成

ブックファイルの作成
ブックファイルへのドキュメントの追加
ブックファイルの管理
ブックドキュメントの同期
旧バージョンの InDesign のブックファイルの変換
ブックのページ番号、章番号および段落番号の設定
ブックファイルのプリントまたは出力

ブックファイルの作成

トップへ戻る

ブックファイルは、スタイル、スウォッチ、マスターページおよびその他のアイテムを共有するドキュメントをまとめたものです。ブックに保存されたドキュメント内でページ番号を割り当てたり、ブック内で選択したドキュメントを印刷したり、PDF に書き出したりすることができます。1 つのドキュメントは、複数のブックファイルに登録することができます。

ブックファイルに登録されたドキュメントの 1 つは、スタイルソースになります。デフォルトでは、スタイルソースはブック内で最初のドキュメントになりますが、いつでも別のスタイルソースを選択することができます。ブック内でドキュメントを同期させる場合は、スタイルソースで指定したスタイルとスウォッチで、ブックに保存した他のドキュメント内のものを置き換えます。

ブックの作成に関するビデオチュートリアルについては、Michael Murphy による Book Basics（英語）を参照してください。

1. ファイル／新規／ブックを選択します。
2. ブック名を入力し、場所を指定して「保存」をクリックします。

   ブックパネルが表示されます。ブックファイルを保存すると、ファイル名拡張子 .indb が付きます。
3. ブックファイルにドキュメントを追加します。

ブックファイルへのドキュメントの追加

トップへ戻る

ブックファイルを作成すると、ブックファイルがブックパネルで開きます。ブックパネルはブックファイルの作業エリアであり、ドキュメントの追加、削除、再配置ができます。

1. ブックパネルメニューで「ドキュメントの追加」を選択するか、またはブックパネル下部にあるドキュメントを追加ボタン をクリックします。
2. 追加する Adobe InDesign ドキュメントを選択し、「開く」をクリックします。
   エクスプローラー（Windows）または Finder（Mac OS）から、ブックパネルに直接ファイルをドラッグ＆ドロップできます。ブックから他のブックにドキュメントをドラッグすることもできます。ドキュメントをコピーするには、Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押しながらドキュメントをドラッグします。
3. 旧バージョンの InDesign で作成されたドキュメントを選択すると、ブックに追加されるときに InDesign CS5 のフォーマットに変換されます。別名で保存ダイアログボックスで、変換されたドキュメントの新しい名前を指定（またはそのままの名前を使用）して、「保存」をクリックします。
   注意： PageMaker または QuarkXpress のドキュメントは、ブックファイルに追加する前に変換しておく必要があります。
4. パネル内のドキュメントの順番を変更する場合は、リスト内の適切な位置にドキュメントをドラッグします。
5. ドキュメントをスタイルソースとして指定するには、パネル内にあるドキュメントの名前の横にあるボックスをクリックします。

ブックファイルのドキュメントを開くには、ブックパネルでドキュメント名をダブルクリックします。

ブックファイルの管理

トップへ戻る

ブックファイルを開くと、各ブックファイルがブックパネルの個別のタブに表示されます。複数のブックを同時に開いている場合は、いずれかのタブをクリックすると、そのブックが前面に表示され、パネルメニューにアクセスできます。

ブックパネルには、ドキュメントの現在の状態を示すアイコンが表示されます。開く、不明（移動されたり、名前が変更されたり、削除されたりしたドキュメント）、変更（ブックが閉じている間に編集されたり、ページ番号やセクション番号が変更されたドキュメント）、使用中（他のユーザーが管理ワークフローでドキュメントを開いている）などのアイコンが表示されます。開いていないドキュメントの横にはアイコンは表示されません。

ブックのドキュメントのパス名を表示するには、ドキュメント名の上にマウスポインターを置くと、ツールヒントが表示されます。または、ブックパネルメニューから「ドキュメント情報」を選択します。

ブックファイルの保存

ブックファイルは、ドキュメントファイルとは独立した別のファイルです。例えば、「ブックを保存」コマンドを選択すると、ブック内のドキュメントではなく、ブックファイルが保存されます。

✥ 次のいずれかの操作を行います。

- ブックに新しい名前を付けて保存するには、ブックパネルメニューで「ブックを別名で保存」を選択し、場所とファイル名を指定して、「保存」をクリックします。
- 既存のブックを上書き保存するには、ブックパネルメニューで「ブックを保存」を選択するか、またはブックパネル下部にあるブックの保存ボタン をクリックします。

注意： サーバーでブックファイルを共有する場合、他のユーザーの変更によってブックが上書き保存されることを防ぐためには、ファイル管理システムを使用する必要があります。

ブックファイルを閉じる

- 1 つのブックを閉じるには、ブックパネルメニューで「ブックを閉じる」を選択します。
- 同じパネルで開いているブックをすべて閉じるには、ブックパネルのタイトルバーにある「閉じる」ボタンをクリックします。

ブックドキュメントの削除

1. ブックパネルで、ドキュメントを選択します。
2. ブックパネルメニューで「ドキュメントを削除」を選択します。

ブックファイルからドキュメント削除しても、ディスクにあるファイルは削除されません。ドキュメントは、ブックファイルから削除されるだけです。

ブックドキュメントの置換

1. ブックパネルで、ドキュメントを選択します。
2. ブックパネルメニューで「ドキュメントの置換」を選択し、置換するドキュメントを指定して、「開く」をクリックします。

エクスプローラーまたは Finder でのブックファイルの表示

1. ブックパネルで、ドキュメントを選択します。
2. ブックパネルメニューから、「エクスプローラーで表示」（Windows）または「Finder で表示」（Mac OS）を選択します。

ブラウザーウィンドウが開き、選択したファイルが表示されます。

トップへ戻る

ブックドキュメントの同期

ブックのドキュメントを同期させると、指定したアイテム（スタイル、変数、マスターページ、トラッププリセット、相互参照形式、条件テキスト設定、リストの自動番号およびスウォッチ）がスタイルソースからブックで指定したドキュメントにコピーされ、同じ名前のアイテムは上書きされます。

同期しているドキュメントにスタイルソースのアイテムがない場合は追加されます。スタイルソースにないアイテムは、同期しているドキュメント内で現状のまま保持されます。

ブックドキュメントの同期に関するビデオチュートリアルについては、www.adobe.com/go/vid0216_jp を参照してください。

同期するアイテムの選択

1. ブックパネルメニューで「同期オプション」を選択します。
2. スタイルソースから他のブックドキュメントにコピーするアイテムを選択します。

   他のスタイルの定義に含まれるスタイルもすべて選択してください。例えば、オブジェクトスタイルには、段落スタイルと文字スタイルが含まれ、さらにその中にはスウォッチが含まれているかもしれません。

3. スタイルがスタイルグループ内に、またはスタイルグループ外に複製されて重複するのを避けるには、「スタイルグループをスマート一致」を選択します。

   スタイルソースに文字スタイルがあってスタイルグループ内にあり、同期するドキュメントにも同名の文字スタイルがあってスタイルグループ外にあるとします。このオプションを選択すると、同期したドキュメントにスタイルソースのスタイルグループと文字スタイルがコピーされ、スタイルグループ外にあった同名の文字スタイルは削除されます。

   このオプションを選択しないと、同期したドキュメントにスタイルソースのスタイルグループと文字スタイルがコピーされますが、スタイルグループ外にある同名の文字スタイルは変更されません。

   注意： 同一の名前を持つ複数のスタイルを含むドキュメントがあると（例えば、スタイルグループ内の Character Style 1 と、スタイルグループに属していない Character Style 1）、このオプションを選択した結果が分かりづらくなります。最良の結果を導き出すには、固有の名前のスタイルを作成します。

4. 「OK」をクリックします。

ブックファイル上でのドキュメントの同期

ブックのドキュメントを閉じている場合でも、ブックを同期させることができます。InDesign では、閉じているドキュメントを開き、変更を行い、ドキュメントを保存して閉じます。同期するときに開いているドキュメントは、変更されますが保存されません。

1. ブックパネルで、スタイルソースに指定するドキュメントの横にある空のボックスをクリックします。スタイルソースアイコン は、どのドキュメントがスタイルソースであるかを示します。



選択されたスタイルソース

2. スタイルソースからコピーするアイテムが、同期オプションダイアログボックスで選択されていることを確認します。
3. ブックパネルで、スタイルソースドキュメントと同期するドキュメントを選択します。ドキュメントを選択していない場合は、すべてのブックが同期されます。

   確実にドキュメントを選択解除するには、ブックドキュメントの下にあるグレーの空白エリアをクリックします。空白エリアが見えない場合は、ブックパネルをスクロールするか、パネルのサイズを大きくします。選択されているドキュメントを Ctrl キー（Windows）または Command キー（Mac OS）を押しながらクリックして、ドキュメントの選択を解除することもできます。
4. ブックパネルメニューで「選択したドキュメントを同期」または「ブックを同期」を選択するか、ブックパネル下部にあるスタイルとスウォッチをスタイルソースと一致ボタン をクリックします。

注意： 編集／取り消しを選択すると、同期時に開いているドキュメントの変更だけが取り消しになります。

マスターページの同期

マスターページの同期は、他のアイテムの同期方法と同じです。つまり、スタイルソース内のページと名前（A-Master など）が一致するマスターページが置換されます。同じデザイン要素（欄外のヘッダーやフッターなど）を使用するドキュメントでは、マスターの同期を行うと便利です。ただし、スタイルソース以外のドキュメントでマスターページのページアイテムを保持したい場合は、マスターページを同期しないか、別の名前でマスターページを作成してください。

マスターを初めて同期した後に、ドキュメントページ上でマスターページアイテムをオーバーライドすると、それらのアイテムはマスターから分離されます。したがって、ブックのマスターページを同期する場合は、デザインプロセスの開始時にブック内のすべてのドキュメントを同期しておくことをお勧めします。こうすると、マスターページアイテムがオーバーライドされた場合でも、マスターページとの連結は維持され、スタイルソース内の変更されたマスターページアイテムから更新されます。

スタイルソースを 1 つだけ使用して、マスターページを同期することをお勧めします。異なるスタイルソースから同期を行うと、オーバーライドされたマスターページアイテムがマスターページから分離される可能性があります。異なるスタイルソースを使用して同期する必要がある場合は、同期する前に、同期オプションダイアログボックスの「マスターページ」オプションの選択を解除してください。

トップへ戻る

旧バージョンの InDesign のブックファイルの変換

InDesign CS5 より前のバージョンで作成したブックファイルを InDesign CS5 のブックファイルに変換するには、InDesign CS5 でブックを開いて保存します。変換されたブックで同期、自動番号の更新、プリント、パッケージ、データ書き出しを行うと、ブックに含まれるドキュメントも InDesign CS5 形式に変換されます。その際に、オリジナルのドキュメントファイルを上書きするか保持するかを選択できます。

InDesign CS5 形式へのブックファイルの変換

1. InDesign CS5 で、ファイル／開くを選択します。
2. 旧バージョンの InDesign で作成したブックファイルを選択し、「OK」をクリックします。

   旧バージョンの InDesign で作成されたドキュメントが含まれている場合は、警告メッセージが表示されます。
3. ブックパネルメニューで「ブックを別名で保存」を選択します。以前のファイル名と異なるファイル名を指定して「保存」をクリックします。

ブックファイルに含まれるドキュメントの変換

1. InDesign CS5 でブックファイルを開きます。
2. ブックパネルメニューで、次のいずれかの操作を行います。
   - 変換時に元のドキュメントを上書きする場合は、「自動ドキュメント変換」を選択します。
   - 変換されたドキュメントを別名で保存し、元のドキュメントを保持する場合は、「自動ドキュメント変換」の選択を解除します（更新されたブックリストには、元のファイルではなく、変換されたファイルが含まれます）。

3. 次の操作により、ドキュメントを変換します。
   - ブックパネルメニューで「ブックを同期」を選択します（詳しくは、ブックドキュメントの同期を参照してください）。
   - ブックパネルメニューから、自動番号を更新／すべての番号を更新を選択します。
4. 「自動ドキュメント変換」を選択していない場合、変換された各ドキュメントを別名で保存するためのダイアログボックスが表示されます。

注意： ブックをプリントするか、Adobe PDF に書き出すときにもドキュメントは変換されます。

トップへ戻る

ブックのページ番号、章番号および段落番号の設定

ブックのページ番号、章番号、および段落番号の設定方法を指定できます。ブックファイルでは、ページと章の自動番号スタイルと開始番号は、ページ番号とセクションの設定ダイアログボックスか、またはドキュメントの番号割り当てオプションダイアログボックスで指定する、各ドキュメントの設定によって決まります。これらダイアログボックスのいずれかを開くには、ドキュメントでレイアウト／ページ番号とセクションの設定を選択するか、ブックパネルメニューで「ドキュメントの自動番号設定」を選択します。

ドキュメントへのページ番号の追加については、基本的なページ番号の追加を参照してください。

段落番号の場合は（図表一覧など）、段落スタイルに含まれる自動番号リストのスタイル定義によって番号が決まります。

ページ範囲は、ブックパネルに表示されているドキュメント名の横に表示されます。デフォルトでは、ブックに保存されているドキュメントでページの追加や削除を行ったり、ブックファイルを変更したりすると、InDesign はブックパネルでページ番号とセクション番号を更新します。ページ番号とセクション番号を自動更新する設定をオフにすると、ブックの番号を手動で更新できます。

ブックを更新したときに番号が正しくない場合、一般環境設定でセクション番号の代わりに絶対番号を表示していることが原因である可能性があります。詳しくは、ページパネルでの絶対番号またはセクション番号の表示を参照してください。

不明ドキュメントがある場合やドキュメントが開けない場合、ページ範囲は、不明ドキュメントがある場所からブックの終わりまで「?」と表示され、本当のページ範囲が不明であることを示します。自動番号を更新する前に、不明ドキュメントを削除または置換します。使用中アイコン が表示される場合、別のコンピューターを使用しているユーザーが管理ワークフローでドキュメントを開いていることを示します。このような場合は、ドキュメントを閉じた後に、自動番号の更新を行ってください。

ブック内でのページ番号の設定に関するビデオチュートリアルについては、www.adobe.com/go/vid0217_jp を参照してください。

各ドキュメントのページおよび章の番号設定オプションの変更

1. ブックパネルで、ドキュメントを選択します。
2. ブックパネルメニューで「ドキュメントの自動番号設定」を選択するか、ブックパネルでドキュメントのページ番号をダブルクリックします。
3. ページ、セクション、および章番号の割り当てのオプションを指定します（詳しくは、ドキュメント番号付けオプションを参照してください）。
4. 「OK」をクリックします。

注意： 「自動ページ番号」を選択せずに、ブックに保存されているドキュメントを指定したページ番号から開始するには、「ページ番号割り当てを開始」に番号を指定します。この場合、ブック内の指定したドキュメント以降のドキュメントのページ番号は、ここで指定したページ番号から再割り当てされます。

ページ番号を偶数または奇数で開始

ブックに保存されているドキュメント間のページ番号の開始ページを奇数ページや偶数ページに設定することができます。

1. ブックパネルメニューで「ブックのページ番号設定」を選択します。
2. 「次の奇数ページへ続行」または「次の偶数ページへ続行」を選択します。
3. 「白ページを挿入」を選択すると、ブック内の前後のドキュメント間にページが存在しないときに自動的に白ページが追加されるようになります。例えば、前のドキュメントが奇数ページで終り、次のドキュメントが奇数で始まる場合、「白ページを挿入」を選択すると、前のドキュメントの最後に偶数ページの白ページが挿入され、前後のドキュメントが続くようになります。設定ができたら、「OK」をクリックします。

ブックの自動ページ番号の無効化

1. ブックパネルメニューで「ブックのページ番号設定」を選択します。
2. 「ページとセクション番号を自動更新」の選択を解除し、「OK」をクリックします。
3. ページ番号を手動で更新するには、ブックパネルメニューで自動番号を更新／すべての番号を更新を選択します。

   ページとセクション番号のみの更新や、章と段落番号のみの更新も可能です。

ブックの段落番号割り当ての使用

図、表その他のアイテムの一覧に対して段落番号割り当てを使用するには、段落スタイルで使用する自動番号リストをまず定義します。段落番号割り当てがブック内のドキュメント全体の番号割り当てを維持するかどうかは、定義する自動番号リストによって決まります。

1. ブックのスタイルソースとして使用されるドキュメントを開きます。

2. 書式／箇条書きリスト／リストを定義を選択します。
3. 「新規」をクリックしてリストを定義するか、既存のリストを選択して「編集」を選択します。
4. 「ストーリーを通して番号を継続」と「ブック内の前のドキュメントから番号を継続」の両方を選択します。
5. 「OK」をクリックします。
6. 番号リストを使用する段落スタイルを定義し、このリストを含む各ドキュメント内のテキストに適用します（詳しくは、ランニングリスト用の段落スタイルの作成を参照してください）。

同じ自動番号リスト設定をブック内のすべてのドキュメントに対して使用していることを確認するには、同期オプションダイアログボックスで段落スタイルおよび自動番号リストオプションを選択してから、ブックを同期化します。

トップへ戻る

ブックファイルのプリントまたは出力

ブックファイルを使用する利点の 1 つは、1 回の操作でブック全体または選択したブックドキュメントを出力（プリント、プリフライト、パッケージ、EPUB、PDF に書き出し）できることです。

1. ブックパネルで、次のいずれかの操作を行います。
   - 特定のドキュメントを出力するには、そのドキュメントを選択します。
   - ブック全体を出力するには、ドキュメントを選択していないことを確認します。
2. ブックパネルメニューで「ブックをプリント」や「選択したドキュメントをプリント」など、出力に関連するコマンドを選択します。

関連項目

ブックドキュメントの同期のビデオ

「ページ番号割り付けの設定」ビデオ

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

目次の作成

目次について
ブックの目次の作成
目次の生成
複数のリストの目次スタイルの作成
目次のフォーマットのオプション
タブリーダーを含む目次項目の作成
タブリーダーを含む段落スタイルを作成
目次の更新と編集

ページの先頭へ

目次について

目次（TOC）を利用すると、書籍や雑誌、その他出版物の内容の一覧を作成することができます。イラストレーション一覧、広告や写真のクレジットの一覧、ドキュメントやブックファイル内の情報を読者が見つけやすくするための情報を含めることもできます。各ドキュメントには、章の一覧と図表一覧のように、複数の目次を作成することができます。

各目次は、各見出しの含まれているストーリーから独立したストーリーになっており、それぞれページ番号、またはアルファベット・50 音順に並べられています。ページ番号や項目はドキュメント内から直接参照されており、ブック内に多数のドキュメントが存在する場合でもいつでも更新することができます。

目次を作成するには、大きく分けて 3 つの操作が必要となります。最初に、目次の基準となる段落スタイルを作成して適用します。次に、目次で使用するスタイルおよび目次のフォーマットを指定します。最後に、目次をドキュメントに流し込みます。

目次の項目は、自動的にブックマークパネルに追加し、Adobe PDF としてドキュメントを書き出す際に使用することができます。

目次の構成のヒント

目次の構成を考えるときには、次の点に留意してください。

- 雑誌での広告主の一覧のように、実際のドキュメントには印刷しない内容から目次を作成することがあります。そのような目次を作成するには、印刷しない内容を非表示レイヤーに配置し、目次の作成時にその非表示レイヤーを参照するようにします。
- 他のドキュメントやブックの目次スタイルを読み込み、同じ設定とフォーマットで新しく目次を作成することもできます（開いているドキュメントと読み込み元のドキュメントで段落スタイルの名前が異なる場合は、読み込んだ目次スタイルを編集する必要がある場合があります）。
- 必要であれば、目次のタイトルや項目用に、タブやタブリーダーを含む段落スタイルを作成できます。作成した段落スタイルは、目次の生成時に適用することができます。
- 文字スタイルを作成して、目次項目とは異なるフォーマットをページ番号に適用することができます。例えば、ページ番号を太字にしたい場合は、太字の属性を含む文字スタイルを作成し、目次の作成時にその文字スタイルを選択します。

ページの先頭へ

ブックの目次の作成

ブック全体の目次を作成する際には、次のことに注意してください。

- 目次を作成する前に、ブックファイルに登録されているドキュメントのリストが完全であるかどうか、すべてのドキュメントが正しい順序でリストされているか、すべての見出しに適切な段落スタイルが設定されているかどうかを確認します。
- ブック全体で一貫したスタイルを使用するようにします。名前が同じで設定が異なるスタイルをブック内の各ドキュメントで作成しないようにしてください。名前が同じで設定が異なるスタイルがある場合、InDesign は、現在のドキュメントでのスタイル設定（定義がドキュメント内に存在する場合）を使用するか、ブック内での順序で最初にそのスタイルが使われているドキュメントのスタイル設定を使用します。

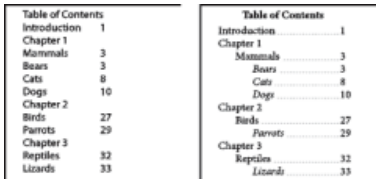
- 目次ダイアログボックスで、必要なスタイルがスタイルポップアップメニューに表示されない場合は、ブックを同期させて、目次を配置するドキュメントにスタイルがコピーされるようにする必要があります。
- 目次にプレフィックス付きの番号を（1-1、1-3 など）含める場合、章番号ではなくセクション番号を使用します。セクション番号プレフィックスは、目次に含めることができます。

ページの先頭へ

目次の生成

目次を生成する前に、章タイトルやセクション見出しなど、目次に含める段落を決定し、それぞれの段落スタイルを定義する必要があります。設定した段落スタイルを、ドキュメントまたはブックに含まれるドキュメント内の該当する段落すべてに適用します。

目次を生成するとき、段落スタイルおよび文字スタイルを使用して目次をフォーマットすることもできます。



段落スタイルの適用前（左）と適用後（右）

目次に含められる段落が同じページの異なるストーリーに表示される場合、その TOC 内の順番はページ上の位置によって決まります。

1. 次のいずれかの操作を行います。
   - 単一のドキュメントに対して目次を作成する場合は、ドキュメントの先頭に新規ページを追加します。
   - ブック内の複数の文書についての目次を作成する場合は、目次を配置する既存のドキュメントを開くか、または新規作成し、そのドキュメントがブックに含まれていることを確認してからブックファイルを開きます。
2. レイアウト／目次を選択します。

   目次スタイルを定義した場合は、目次スタイルメニューから適切な設定を選択できます。
3. 「タイトル」テキストボックスに、（目次や図表一覧などの）目次のタイトルを入力します。このタイトルは、作成される目次の最上部に表示されます。タイトルをフォーマットするには、スタイルメニューから使用するスタイルを選択します。
4. 「ブックのドキュメントを含む」を選択すると、ブックリストに含まれるすべてのドキュメントから目次が作成され、ブックファイルでの設定に基づいてページ番号が割り当て直されます。現在のドキュメントだけの目次を生成する場合は、このオプションの選択を解除します（ドキュメントがブックファイルの一部ではない場合、このオプションはグレー表示になります）。
5. 「その他のスタイル」リストボックスで段落スタイルをダブルクリックして、目次に含める内容を指定し、「段落スタイルを含む」リストボックスに追加します。
6. 「現在の目次を置換」を選択して、ドキュメントの既存の目次ストーリーをすべて置換します。図表一覧のように、新しい目次を生成したい場合はこのオプションの選択を解除します。
7. 目次の各段落スタイルをフォーマットするオプションを指定します。

   特にドキュメントに複数の目次を含める場合は、目次フォーマットやその他のオプションを含む目次スタイルを定義しておくことをお勧めします。定義したスタイルを保存するには、「スタイルを保存」をクリックします。レイアウト／目次スタイルを選択して、目次スタイルを作成することもできます。
8. 「OK」をクリックします。

   テキスト流し込みカーソルが表示されます。クリックまたはドラッグする前に、別のページへの移動や新しいページの作成を行っても読み込まれたテキストは失われません。
9. テキスト流し込みアイコンをクリックするか、ドラッグして、新しい目次ストーリーをページに配置します。

注意： 目次フレームをドキュメント内の他のテキストフレームに連結しないでください。目次を更新した場合に、目次以外の他のストーリー全体も目次と置き換えられてしまいます。

ページの先頭へ

複数のリストの目次スタイルの作成

ドキュメントやブックで異なる目次を作成する必要がある場合は、目次スタイルを使用します。例えば、通常の目次にはある目次スタイルを使用し、広告主、図表、写真提供者などの一覧には別のスタイルを作成することができます。リストの種類ごとに目次スタイルを作成します。

目次スタイルを作成すると、同じ目次フォーマットを別のドキュメントで使用したい場合にも便利です。

注意： 目次スタイルと、名前が「目次」で始まる段落スタイルを混同しないようにしてください。「目次」で始まる名前の段落スタイル（「目次タイトル」など）は、目次項目そのものに適用するスタイルとして使用します。これに対し、目次スタイルは、目次を自動的に作成するための設定を集めたものです。

目次スタイルの作成

1. レイアウト／目次スタイルを選択します。
2. 「新規」をクリックします。
3. 作成している目次スタイルの名前を入力します。
4. 「タイトル」テキストボックスに、（目次や図表一覧などの）目次のタイトルを入力します。このタイトルは、作成される目次の最上部に表示されます。タイトルのスタイルを指定するには、スタイルポップアップメニューから使用したいスタイルを選択します。
5. 「その他のスタイル」リストボックスから、目次に含める内容を示す段落スタイルを選択し、「追加」をクリックして「段落スタイルを含む」リストボックスに追加します。
6. 各段落スタイルをフォーマットするオプションを指定します。

他のドキュメントからの目次スタイルの読み込み

1. レイアウト／目次スタイルを選択します。
2. 「読み込み」をクリックして、コピーしたい目次スタイルが含まれている InDesign ファイルを選択し、「開く」をクリックします。
3. 「OK」をクリックします。

注意： 開いているドキュメントの段落スタイルと、読み込む目次スタイルの段落スタイルが一致しない場合は、目次を作成する前に目次スタイルを編集する必要があります。

ページの先頭へ

目次のフォーマットのオプション

目次を生成または編集する場合は、これらのオプションを使って目次テキストの外観を設定します。一部のオプションは、ダイアログボックスで「詳細設定」をクリックして使用します。

注意： 「スタイル」セクションの設定は、「段落スタイルを含む」で現在選択されているスタイルにのみ適用されます。スタイルごとに別々のフォーマットオプションを指定できます。

項目スタイル 「段落スタイルを含む」のスタイルごとに、関連する目次項目に適用する段落スタイルを選択します。

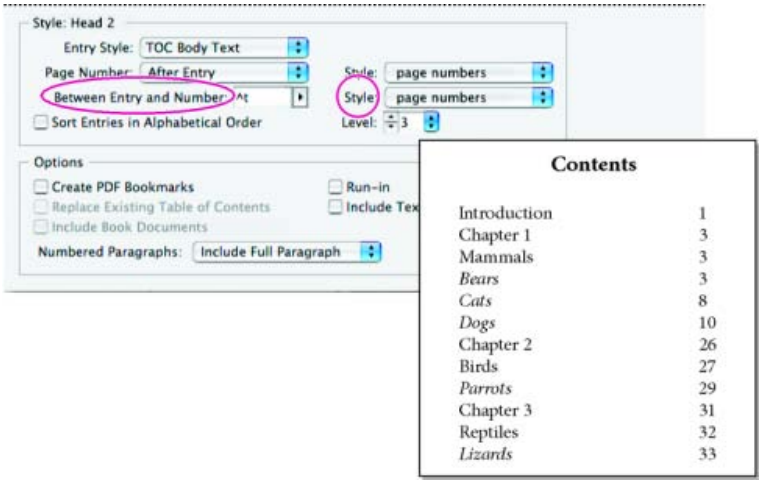
ページ番号 ページ番号についてフォーマット設定を行うための文字スタイルを設定したい場合、「ページ番号」の右側にあるスタイルポップアップメニューで、ページ番号に適用する文字スタイルを選択できます（段落スタイルと文字スタイルの追加を参照してください）。
目次のページ番号に接頭辞を含めるか、別のページ番号付けを使用する場合は、セクションの番号付けの定義を参照してください。

項目と番号間：目次項目とそのページ番号の間に表示する文字を指定します。デフォルトではタブ文字（^t）が設定されており、タブが挿入されます。ポップアップリストから、右インデントタブや EM スペースなどの特殊文字を選択できます。

> 別の特殊文字を選択する場合は、両方の文字を指定しないように、ボックスで既存のテキストを選択してから、特殊文字を選択するようにしてください。

目次項目とページ番号の間の文字に文字スタイルを設定したい場合は、「項目と番号間」の右側のスタイルポップアップメニューから、文字スタイルを選択します（段落スタイルと文字スタイルの追加を参照してください）。

目次項目に設定した段落スタイルにタブリーダーを設定し、タブ文字（^t）を選択した場合は、生成される目次にタブリーダーが表示されます。



目次項目とページ番号の間には、文字とその文字に適用するスタイルを指定できます。

項目をアルファベット・**50** 音順に並べる このオプションを選択すると、1 つのスタイルの中で目次項目がアルファベット・50 音順でソートされます。このオプションは、広告主一覧のような単純なリストを作成する場合に便利です。入れ子になっている項目（レベル 2 や 3 など）は、各グループ内（それぞれレベル 1 や 2）でアルファベット・50 音順でソートされます。

注意： 目次のソート順は、ドキュメントのデフォルトの言語設定によって決まります。デフォルトの言語設定を変更するには、何も選択されていない状態であることを確認し、文字パネルの言語メニューから言語を選択します。

レベル デフォルトでは、「段落スタイルを含む」リストボックスに追加された項目のレベルは、リストの上から順に 1 段階ずつ下がります。選択した段落スタイルに新しいレベル番号を指定することで、この階層を変更できます。このオプションでは、ダイアログボックスの表示のみが変更されます。最終的な目次には影響しません。ただし、アルファベット順のリストでは、項目がレベル別にソートされます。

PDF ブックマークを作成 ドキュメントを PDF に書き出したときに、Adobe Acrobat または Adobe Reader® のブックマークパネルに目次項目を表示したい場合は、このオプションを選択します。

1 行にまとめる すべての目次項目を 1 つの段落にまとめたい場合に、このオプションを選択します。まとめられた目次項目は句読点で区切られます。

非表示レイヤーのテキストを含む このオプションは、非表示レイヤーにある段落を目次に含めたい場合にのみ選択します。これは、ドキュメントには表示しない広告主一覧や図表一覧を作成する場合に便利です。レイヤーを使用して、同じテキストの異なるバージョンや翻訳バージョンなどを作成している場合は、このオプションの選択を解除します。

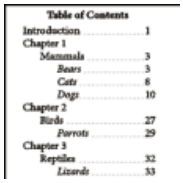
段落の自動番号 目次に、番号設定を使用する段落スタイルを含める場合は、段落全体（番号およびテキストの両方）、番号のみ、または段落のみを目次に含めるかどうかを指定します。

フレームの方向 目次の作成に使用するテキストフレームの組み方向を指定します。

ページの先頭へ

タブリーダーを含む目次項目の作成

目次項目とページ番号の間に点線などを挿入するフォーマットを設定するには、タブリーダーを含む段落スタイルを定義してから、目次を更新します。



点線リーダーを含む目次

1. タブリーダーを含む段落スタイルを作成します。
2. 目次設定を更新するには、次のいずれかの操作を行います。
   - レイアウト／目次スタイルを選択します。目次スタイルを選択して「編集」をクリックします。
   - レイアウト／目次を選択します（目次スタイルを使用していない場合）。
3. 「段落スタイルを含む」で、タブリーダーを使用するスタイルを選択します。
4. 項目スタイルポップアップメニューで、タブリーダーが設定されている段落スタイルを選択します。
5. 「詳細設定」をクリックします。
6. 「項目と番号間」で ^t（タブ文字）に設定されていることを確認します。「OK」または「保存」をクリックして終了します。
7. 必要であれば、レイアウト／目次の更新を選択して目次を更新します。または、新しい目次を作成してください。

ページの先頭へ

タブリーダーを含む段落スタイルを作成

1. ウィンドウ／スタイル／段落スタイルを選択して、段落スタイルパネルを表示します。
2. 段落スタイルパネルで次のいずれかの操作を行います。
   - 目次項目に適用している段落スタイルの名前をダブルクリックします。
   - パネルメニューから「新規段落スタイル」を選択します。
3. 必要に応じて段落スタイルの名前を入力します。
4. 「タブ」をクリックします。
5. 右揃えタブアイコン を選択してから、ルーラー上でタブストップを設定したい位置をクリックします。

   スタイルを適用している段落に自動番号リストアイテムが含まれている場合は、2 つのタブ設定を含めていることを確認します。1 つはインデントされた数字の設定で、もう 1 つはタブリーダーの設定です。
6. 「リーダー」にピリオド（.）を入力します。
7. その他の必要なスタイルオプションを設定して、「OK」をクリックします。

ページの先頭へ

目次の更新と編集

目次はドキュメントの内容の早見表のようなものです。ドキュメントのページ番号が変更されたときや、目次に関連付けられている見出しやその他の項目を編集したときは、目次を再生成して更新する必要があります。

目次の更新

1. 目次が配置されているドキュメントを開きます。
2. 必要に応じて次の操作を行います。
   - 目次項目を変更するには、目次ストーリーを直接編集するのではなく、ドキュメントまたはブック内のドキュメントを編集します。
   - 目次のタイトル、項目またはページ番号に適用されているフォーマットを変更するには、それらの要素に関連付けられている段落スタイルまたは文字スタイルを変更します。
   - ページの番号の形式（1、2、3 または i、ii、iii など）を変更するには、ドキュメントまたはブックのセクションのページ番号付けを変更します（ブックのページ番号、章番号および段落番号の設定を参照してください）。
   - 新しいタイトルを指定したり、目次に他の段落スタイルを追加したり、目次項目のフォーマットを再設定するには、目次スタイルを編集します。
3. 目次を含んだテキストフレームを選択するか、またはそのフレーム内に挿入点を配置し、レイアウト／目次の更新を選択します。

4. 図表一覧や広告主一覧など、ドキュメント内に複数の目次がある場合は、それぞれのリストを含むテキストフレームを選択し、レイアウト／目次の更新を選択します。

目次の編集

目次を編集する場合は、目次ストーリーではなくドキュメント内の実際の段落を編集してから、新しい目次を生成します。目次ストーリーを直接編集しても、その編集内容は目次を更新するときに上書きされて失われます。同様に、目次項目のフォーマットを直接編集するのではなく、目次項目のフォーマット設定に使用するスタイルを編集する必要があります。

関連項目

- 「目次の作成」ビデオ

(cc) BY-NC-SA Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

ドキュメントの作成

ペーストボードとガイドのカスタマイズ
ドキュメント設定、マージン、段組の変更

ページの先頭へ

ペーストボードとガイドのカスタマイズ

ページマージン、段組、ペーストボードの裁ち落としと印刷可能領域のガイドを表示するカラーを変更することができます。また、標準モードとプレビューモードの違いをわかりやすくするために、プレビューモード時の背景カラーを変更できます。

さらに、オブジェクトをガイドにスナップさせるために必要な距離、ガイドをオブジェクトの前面に表示するか背面に表示するか、およびペーストボードのサイズを指定することができます。

1. 編集／環境設定／ガイドとペーストボード（Windows）または InDesign／環境設定／ガイドとペーストボード（Macintosh）を選択します。
2. 「カラー」で、次のポップアップメニューからそれぞれ目的のカラーを選択するか、「カスタム」を選択してカラーピッカーからカスタムカラーを指定します。

   マージン ページマージンのカラーを設定します。

   段数 ページの段組ガイドのカラーを設定します。

   裁ち落とし 裁ち落とし領域（これはドキュメント設定ダイアログボックスで設定されます）のカラーを設定します。

   印刷可能領域 印刷可能領域（これはドキュメント設定ダイアログボックスで設定されます）のカラーを設定します。

   背景をプレビュー プレビューモードでのペーストボードのカラーを選択します。
3. オブジェクトがどれぐらい近づくとガイドまたはグリッドにスナップするかを設定するには、「スナップの範囲」でピクセルの値を指定します。
4. オブジェクトの背景にガイドを表示するには、「背面にガイド表示」を選択します。
5. ページまたはスプレッド（設定されていれば、裁ち落としまたは印刷可能領域）からどれぐらいの距離までペーストボードを拡張するかを指定するには、「水平マージン」と「垂直マージン」に値を入力します。
6. 「OK」をクリックして、環境設定ダイアログボックスを閉じます。

画面上の用紙色を変更できます。テキストまたはオブジェクトを選択していない状態で、スウォッチパネル（ウィンドウ／スウォッチを選択）の「紙色」をダブルクリックします。用紙の色は画面上でのみ表示され、出力には影響しません。この機能は、白色以外の用紙に印刷する場合を想定したデザインをシミュレーションするためのものです。

ページの先頭へ

ドキュメント設定、マージン、段組の変更

ドキュメントの作成後に、ドキュメント設定を変更したい場合があります。例えば、見開きページから単一ページへの変更やページサイズ、マージンの設定を変更したい場合などです。

ドキュメント設定の変更

ドキュメント設定ダイアログボックスでオプションを変更すると、そのドキュメントのすべてのページに影響します。オブジェクトをページに配置した後にページのサイズや方向を変更する場合には、レイアウト調整機能を使用すると、既存のオブジェクトを再配置する手間を最小限にできます。詳しくは、自動レイアウト調整機能についてを参照してください。

1. ファイル／ドキュメント設定を選択します。
2. ドキュメントのオプションを指定して、「OK」をクリックします（詳しくは、新規ドキュメントのオプションを参照してください）。

ページマージンと段組の設定の変更

ページまたはスプレッドの段組とマージンの設定を変更できます。マスターページで段組とマージンの設定を変更すると、そのマスターが適用されるすべてのページで設定が変更されます。通常のページの段組とマージンを変更すると、ページパネルで選択されているそのページのみに変更が適用されます。

注意： マージン・段組ダイアログボックスでは、テキストフレームの内部の段組は変更されません。テキストフレームの段組は、ページ自体ではなく、個々のテキストフレーム内にだけ存在します。テキストフレーム設定ダイアログボックスを使用して、個々のテキストフレーム内の段組を設定できます（詳しくは、テキストフレームの段組の設定を参照してください）。 テキストフレームの段組は、レイアウト調整機能の影響を受ける場合もあります。

1. 次のいずれかの操作を行います。
   - 1 つのスプレッドまたはページのマージンと段組を変更するには、変更するスプレッドに移動するか、ページパネルでスプレッドまたはページを選択します。
   - 複数のページのマージンと段組を変更するには、ページパネルでページを選択するか、変更するページに適用されているマスターページを選択します。
2. レイアウト／マージン・段組を選択し、次のいずれかの設定を変更して、「OK」をクリックします。

   マージン ページの各端からマージンガイドまでの距離を指定します。新規ドキュメントまたはドキュメント設定ダイアログボックスで「見開きページ」を選択すると、「左」と「右」のオプション名が「ノド」と「小口」に変わり、綴じしろのための内側のマージンを指定することができます。

   段数 列数を指定します。

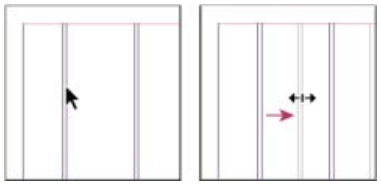
   「横組み」または「縦組み」を選択して、段組の方向を指定します。この設定により、ドキュメントのベースライングリッドの方向も決まります。

不均等な幅の段組の作成

ページ内に複数段の段組を設定している場合、段組ガイドは段間に一対で表示されます。一方の段組ガイドをドラッグすると、もう一方のガイドも移動します。段組ガイドの間隔は指定した段間の値です。一対のガイドは一緒に移動して段間値が維持されます。

注意： テキストフレーム内の段組に対しては、不均等な段組の幅を作成することはできません。代わりに、連結された隣り合うテキストフレームを段組の幅を変えて作成します。

1. 変更したいマスターまたはスプレッドに移動します。
2. 段組ガイドがロックされている場合は、表示／グリッドとガイド／段組ガイドをロックを選択して、ロックの選択を解除します。
3. 選択ツールを使用して、段組ガイドをドラッグします。別の段組ガイドやページの端を越えてドラッグすることはできません。



不均等な幅の段組を作成するには段組ガイドをドラッグ

段間が不均等な段組を作成するには、均等な間隔の定規ガイドを作成して、個々のガイドを目的の位置までドラッグします（詳しくは、定規ガ

イドの作成を参照してください）。

関連項目

Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

クリッピングパス

クリッピングパス
グラフィックのパスまたはアルファチャンネルを使用したトリミング
クリッピングパスの自動作成
クリッピングパスのオプション
クリッピングパスをグラフィックフレームに変換

クリッピングパス

トップへ戻る

クリッピングパスを使用すると、アートワークをマスキングし、その形状の一部分だけを表示することができます。InDesign では、画像のパスとグラフィックフレームの両方で、画像の不要な部分を非表示にするためのクリッピングパスを作成することができます。クリッピングパスとグラフィックフレームを別にしておけば、ダイレクト選択ツールとその他の描画ツールを使用して、グラフィックフレームに影響を与えずに自由にクリッピングパスを修正することができます。

クリッピングパスは、次の方法で作成することができます。

- クリッピングパスまたはアルファチャンネル（マスクチャンネル）が保存されているグラフィックを配置します。InDesign では、これらのグラフィックのクリッピングパスや、アルファチャンネルによるマスキングは自動的に有効になります。クリッピングパスおよびアルファチャンネルは、Adobe Photoshop などのプログラムを使用してグラフィックに追加できます。
- 「クリッピングパス」コマンドの「エッジの検出」機能を使用して、クリッピングパスなしで保存されたグラフィックにクリッピングパスを生成します。
- ペンツールを使用して任意の形状のパスを描き、「選択範囲内にペースト」コマンドを使用して、パスにグラフィックをペーストします。

InDesign のクリッピングパスを自動生成する機能を使用すると、画像の形状に沿ったクリッピングパスが作成されます。その結果、画像をクリッピングパスでマスキングすると同時に、フレームによってトリミングすることができます。

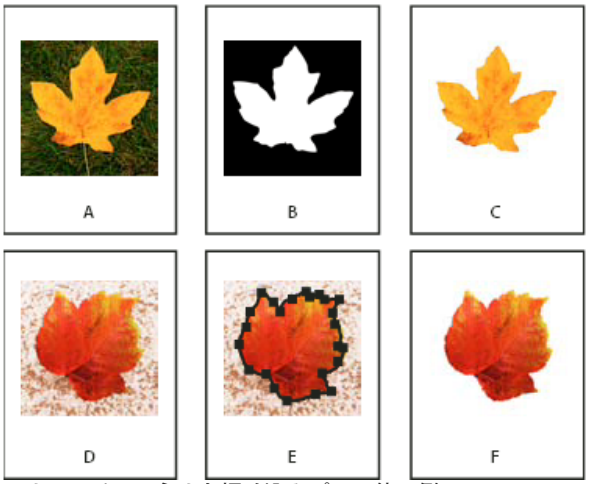
注意： グラフィックフレームは、それが配置されているレイヤーのカラーで表示され、クリッピングパスはレイヤーの補色で表示されます。例えば、レイヤーのカラーが青い場合には、グラフィックフレームは同じく青色で表示され、クリッピングパスはオレンジ色で表示されます。

グラフィックのパスまたはアルファチャンネルを使用したトリミング

トップへ戻る

InDesign では、ファイルに保存されているクリッピングパスやアルファチャンネルを使用して、読み込まれた EPS、TIFF または Photoshop 形式のグラフィックをマスキングできます。読み込まれたグラフィックに複数のパスまたはアルファチャンネルが含まれている場合は、クリッピングパスに使用するパスまたはアルファチャンネルを選択できます。

アルファチャンネルは、グラフィックの透明な領域を定義するためのチャンネルのことです。RGB チャンネルまたは CMYK チャンネルと共にグラフィック内に保存されます。アルファチャンネルは、ビデオエフェクトアプリケーションでもよく使用されます。InDesign では、Photoshop ファイルのデフォルトの透明部分（格子模様の背景部分）が自動的にアルファチャンネルとして認識されます。グラフィックの背景が不透明な場合、Photoshop を使用して背景を削除するか、またはアルファチャンネルを作成してグラフィックと共に保存する必要があります。Photoshop では、レイヤーマスク、チャンネルパネル、背景消しゴムツール、またはマジック消しゴムツールといった、背景を削除するための機能を使用して、アルファチャンネルを作成することができます。



アルファチャンネルと埋め込みパスの使用例

A. 元のグラフィック **B.** アルファチャンネル **C.** 配置されたグラフィック **D.** 元のグラフィック **E.** 埋め込みパスを表示したグラフィック **F.** 配

Photoshop ファイルを配置するときに、画像読み込みオプションダイアログボックスで、マスキングのためにクリッピングパスとアルファチャンネルのどちらを使用するかを選択することができます。

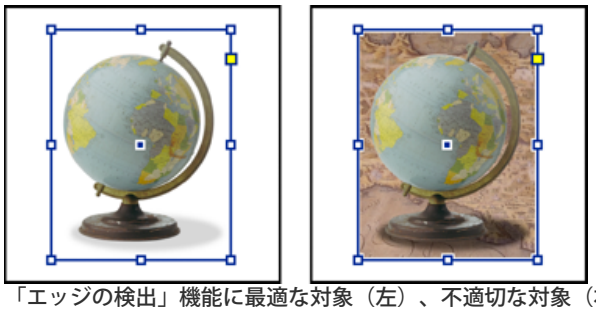
1. 読み込まれたグラフィックを選択し、オブジェクト／クリッピングパス／オプションを選択します。
2. クリッピングパスダイアログボックスの「タイプ」で、「Photoshop パス」または「アルファチャンネル」を選択します。
3. 「パス」または「アルファ」のポップアップメニューから希望するパスまたはアルファチャンネルを選択します。
   注意： 「アルファチャンネル」を選択できない場合、グラフィックにはアルファチャンネルが保存されていません。
4. クリッピングパスによってマスキングされる余白領域を拡大 / 縮小するには、「マージン」で値を指定します。
5. 表示領域と非表示領域を切り替えるには、「反転」を選択します。
6. アルファチャンネルを選択した場合は、他の希望するオプションを設定して、「OK」をクリックします。

クリッピングパスをオフにするには、読み込まれたグラフィックを選択して、オブジェクト／クリッピングパス／オプションを選択します。「タイプ」から「なし」を選択し、「OK」をクリックします。

トップへ戻る

クリッピングパスの自動作成

クリッピングパスなしで保存されたグラフィックの背景を非表示にする場合、クリッピングパスダイアログボックスの「エッジの検出」機能を使用すると、画像の周囲を自動的に非表示にすることができます。「エッジの検出」機能は、グラフィックの最も明るいまたは最も暗い領域を非表示にするので、対象がベタの白または黒の背景の場合に最適です。



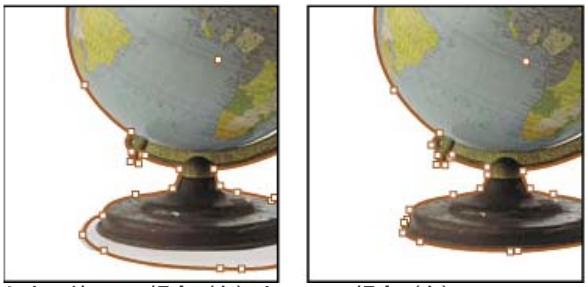
「エッジの検出」機能に最適な対象（左）、不適切な対象（右）

1. 読み込まれたグラフィックを選択し、オブジェクト／クリッピングパス／オプションを選択します。
2. クリッピングパスダイアログボックスで、「タイプ」から「エッジの検出」を選択します。デフォルトでは、最も明るい色調が削除されます。最も暗い色調を削除するには、「反転」オプションを選択します。
3. 他のオプションを設定して、「OK」をクリックします。

トップへ戻る

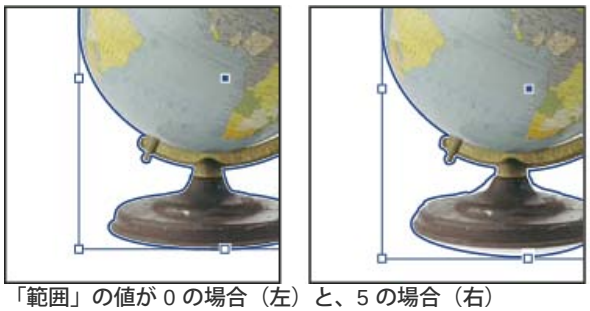
クリッピングパスのオプション

しきい値 クリッピングパスの生成に使用される最も暗いピクセル値を指定します。この値を大きくすると、非表示の領域に追加される、0（白）から始まる最も明るい値の範囲が広がり、より多数のピクセルが透明になります。例えば、「エッジの検出」を選択した場合、非常に明るいドロップシャドウを削除するには、その影が消えるまで「しきい値」の値を大きくします。表示されるべき明るいピクセルが見えなくなる場合は、「しきい値」の値が大きすぎます。



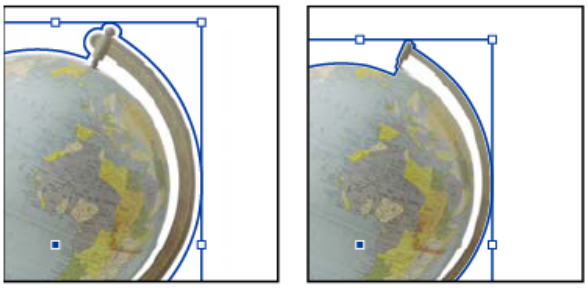
しきい値 25 の場合（左）と、55 の場合（右）

範囲 クリッピングパスによってピクセルが非表示にならない程度に、ピクセルの明度を「しきい値」の値にどれだけ近づけるかを指定します。「範囲」値を大きくすると、明度が「しきい値」に近いけれども「しきい値」よりは暗いピクセルによって生じた不要な凸凹を削除するのに効果があります。通常、「範囲」値が大きいと、より暗いピクセルが含まれる「範囲」値に近い値の領域が拡大され、より滑らかで、かつルーズなクリッピングパスが作成されます。「範囲」値を小さくすると、より値の変化が少ない範囲にタイトなクリッピングパスが作成されます。「範囲」値が小さい場合は、アンカーポイントの追加によってジャギーなクリッピングパスが作成され、画像が印刷しにくくなる場合があります。



「範囲」の値が 0 の場合（左）と、5 の場合（右）

マージン 「しきい値」や「範囲」の値で定義されたクリッピングパスを全体的に縮小します。「しきい値」や「範囲」とは異なり、「マージン」値はピクセルの明度を評価せず、クリッピングパスの形状を均一に縮小します。「マージン」値をわずかに調整すると、「しきい値」や「範囲」を使用しても削除できなかったピクセルを非表示にできる場合があります。「しきい値」と「範囲」で定義したクリッピングパスよりも大きくするには、マイナスの値を入力します。



「マージン」の値が -0.353mm の場合（左）と、1.058mm の場合（右）

反転 表示領域と非表示領域を切り替えます。明るい色調ではなく、暗い色調を基準にクリッピングパスが作成されます。

パスの内側の背景を透明にする 元のクリッピングパスの内側の領域に、明度が「しきい値」や「範囲」値の範囲内の領域がある場合、その部分を透明にします。「クリッピングパス」コマンドは、デフォルトではクリッピングパスの外側の領域だけを透明にするので、このオプションを使用すれば、グラフィックに正確に「穴」を作ることができます。このオプションは、透明にする領域の明るさのレベルが、表示されるべき領域と一致しない場合に最も機能します。例えば、銀色の眼鏡のグラフィックに対してこのオプションを選択すると、レンズは透明になりますが、眼鏡フレームの非常に明るい部分も透明になる場合があります。不適切な部分が透明になる場合は、「しきい値」、「範囲」、「マージン」を調整します。

フレームの内側に制限する 作成されるクリッピングパスが、グラフィックフレームの内側だけに制限されます。これにより、クリッピングパスをグラフィックフレームにしてトリミングするときに、より単純なパスで作業することができます。

高解像度を使用する 実際のファイルを使用して、クリッピングパスの精度が最も高くなるように透明な領域が計算されます。このオプションの選択を解除すると、画面表示の解像度に基づいて透明度が計算されます。その場合、処理は速くなりますが、クリッピングパスの精度は低下します。InDesign では、常にアルファチャンネルを実際の解像度で使用するので、「タイプ」で「アルファチャンネル」が選択されている場合はこのオプションを使用できません（詳しくは、透明についてを参照してください）。

トップへ戻る

クリッピングパスをグラフィックフレームに変換

❖ オブジェクト／クリッピングパス／クリッピングパスをフレームに変換を選択します。

関連項目

アルファチャンネルマスクの作成と編集

(cc) BY-NC-SR

法律上の注意 | プライバシーポリシー

Formatting grids

- Named Grids panel overview
- Create named grid formats
- Apply a named grid to a frame
- Edit named grids
- Delete named grids
- Import grid formats from other documents

Named Grids panel overview

To the top

Use the Named Grids panel (Window > Type & Tables > Named Grids) to save frame grid settings in *named grid* format, and apply those settings to other frame grids. You can apply or change frame grid formats efficiently, and easily keep the appearance of a document consistent, using grid formats.



Named Grids panel

A. Grid name B. New Grid Format button C. Delete icon

In the Named Grids panel, the Layout Grid format is shown by default. The layout grid setting for the currently selected page is reflected in this grid format. When more than one layout grid is set for a single document, the settings shown in Layout Grid in the Named Grids panel vary depending on the selected page layout grid contents.

When a frame grid with grid formatting is selected, the current grid format name is highlighted in the Named Grids panel.

Create named grid formats

To the top

Like styles, named grid formats let you save a collection of frame grid settings and apply those settings to other frame grids.

1. To define a new grid format in accordance with the existing frame grid format, select the frame grid with the selection tool.
2. Choose Window > Type & Tables > Named Grids.
3. Choose New Named Grid from the Named Grids panel menu.
4. Specify options in the Edit Grid Format dialog box, and click OK.

If the named grid format you want to use is already saved in another InDesign document, you can import that grid format into the current document.

When a new frame grid format is created based on an existing frame grid, changes to format attribute options also are applied to the selected frame grid. If you do not want to modify the selected frame grid format, deselect the

frame grid before showing the Edit Grid Format dialog box.

Named Grid options

Named Grid options appear when you choose Window > Type & Tables > Named Grids.

Grid Name

Enter the name of the grid format.

Font

Select the font family and font style, and set the default font for the text to be placed in the grid.

Size

Specify individual grid sizes.

Vertical and Horizontal

Specify the grid scale for full-width Asian characters in %.

Char Aki

Specify the spacing between grid cells in the frame grid. This value will be the grid cell size.

Line Aki

Enter a value to specify the grid line spacing. The value used here is the distance between the bottom (or left) edge of the character embox for the first line to the top (or right) edge of the character embox for the next line.

Line Align

Select an option to specify line alignment for the frame grid. For example, if Align Left/Top is selected, the beginning of each line for a vertical type frame grid will be aligned with the top edge of the frame grid. (See Align or justify text.)

Grid Align

Select an option to specify whether to align the text to the embox, ICF box, or roman baseline. See Align paragraphs to a baseline grid.

Char Align

Select an option to specify the method of aligning small characters to larger characters in a line. (See Align text of different sizes.)

Apply a named grid to a frame

To the top

You can apply a custom named grid or the Layout Grid to a frame grid. If you apply the Layout Grid, the same settings defined in the Layout Grid dialog box are used in the frame grid.

1. Select the frame grid using the Selection tool. You can also use the Type tool to click on the frame and position the text insertion point or select text.
2. Click on the name of the format to be applied in the Named Grids panel or Control panel.

   Applying a grid format causes grid format attributes to be set for text in the frame grid, but grid format attributes will not be set for text which has been given Character or Paragraph styles, or text which has had settings individually modified from the Character panel or Paragraph panel.

   Note:

   Priority is given to character style, paragraph style and grid format in that order in the frame grid. Accordingly, when grid formatting is applied to text that has been given paragraph or character styles, a '+' mark is shown next to each applied style name. (See Text formatting precedence.)

   Before and after applying a grid format to the frame grid

3. To apply grid format attributes to the entire story, select the frame grid using the Selection tool and select Edit > Apply Grid Format.

You can also add named grids to object styles. If you add a named grid to the default object style for grid frames, all grid frames you create appear formatted according to the named grid you specify. (See About object styles.)

Edit named grids

To the top

You can change the grid format definitions at any time. When you change the definition of a grid format, all of the frame grids formatted with that style change to conform with the newly defined style.

1. Using the Named Grids panel, select the grid format to be edited, and choose Named Grid Options from the panel menu, or double-click the grid format you want to edit in the Named Grids panel.
2. Change the settings in the Modify Named Grid dialog box. (See Create named grid formats.)
3. Click OK.

This modifies the grid format given to the currently selected frame grid. To modify settings for frame grids which are not currently selected, perform the above operation without selecting any objects in the document, or double-click the grid format name in the Named Grids panel while holding down Shift+Ctrl+Alt (Windows) or Shift+Command+Option (Mac OS).

Delete named grids

To the top

The formatting applied to text in a frame is unchanged even if a grid format is deleted, but the link to the grid format is removed.

1. Select the name of the grid format you want to delete in the Named Grids panel.
2. Choose Delete Named Grids from the panel menu, or click the Delete icon at the bottom of the Named Grids panel.

When you delete grid formats, the frame grid to which the grid format was applied doesn't appear to change, but the format is no longer connected with the grid format.

Import grid formats from other documents

To the top

1. Choose Load All Named Grids from the Named Grids panel menu.
2. Double-click the InDesign document containing the grid formats you want to import.

When you import a grid format from another document that has the same name as a grid format in the current document, the existing grid format in the import destination will be overwritten, and when this grid format is applied the grid format for all the frame grids will be changed.

Adobe also recommends

- Customize layout and frame grids
- Override character and paragraph styles

(cc) BY-NC-SA Twitter™ and Facebook posts are not covered under the terms of Creative Commons.

Legal Notices | Online Privacy Policy

Frame grid properties

- Change frame grid properties
- Convert text frames and frame grids
- View or hide the frame grid character count

Change frame grid properties

To the top

1. Using the Selection tool, select the frame whose properties you want to modify. You can also use the Type tool to click on the frame, and position the text insertion point or select text.
2. Choose Object > Frame Grid Options, and then specify the frame grid options. (See Frame grid properties.)
3. Click OK.

Select Preview to confirm options before applying the changes, and then confirm changes in the document.

Frame grid properties

Use the Frame Grid dialog box to change frame grid settings such as the font, character size, character spacing, lines, and characters.

The values in the Text Frame Option dialog box and the number of columns in the Frame Grid settings dialog box interact dynamically. Column number settings in Text Frame Options are also reflected in the frame grid settings. Furthermore, First Baseline Offset and Ignore Text Wrapping can be set only from Text Frame Options.

Font

Select the font family and font style. These font settings will be applied in frame grids based on the layout grid.

Size

Specify the font size. This value will be the grid cell size.

Vertical and Horizontal

Specify the grid scaling for full-width Asian characters in %.

Char Aki

Specify the spacing between grid cells in the frame grid. This value is used for the grid mesh spacing.

Line Aki

Specify the grid spacing. This value is used as the distance from underneath (or left of) the grid mesh on the first line to the top (or right) of the grid mesh on the next line. If a negative value is set here, Auto Leading value under Justification in the Paragraph panel menu is set automatically to 80% (the default is 100%), since grid alignment will only increase line spacing above the spacing already set by the leading amount in the text attributes. Changing the leading value set in the text will change how the grid alignment spreads the text lines out to match the nearest grid line.

Line Align

Select an option to specify line alignment for the text. For example, if you select Top for a vertical frame grid, the start of each line will be aligned to the top of the frame grid. (See Align or justify text.)

Grid Align

Select an option to specify whether to align the text to the embox, ICF box, or roman baseline. (See Align paragraphs to a baseline grid.)

Char Align

Select an option to specify the method of aligning small characters to larger characters in a line.

Char Count

Select an option to determine where the frame grid's dimensions and character count appears. (See View or hide the frame grid character count.)

View

Select an option to specify how to show the frame. Grid shows frame grids with grids and lines. N/Z View shows the frame grid direction in dark blue diagonal lines; these lines disappear when you insert text. Alignment View shows frame grid with only lines. Alignment shows the frame line alignment. Grid With N/Z shows a combination of both.



Grid views

A. Grid view B. N/Z view C. Assignment view with text inserted D. Grid with N/Z view

Characters

Specifies the number of characters in a line.

Lines

Specifies the number of lines in a column.

Columns

Specifies the number of columns in a frame grid.

Gutter

Specifies the spacing between columns.

Note:

If you make changes in the Frame Grid settings dialog box when nothing is selected in the frame grid, that setting becomes the default for the frame grid.

You can also use grid setting to adjust character spacing. (See Using grid tracking to adjust character spacing.)

Convert text frames and frame grids

To the top

You can convert plain text frames into frame grids or frame grids into plain text frames.

When plain text frames are converted into frame grids, for text that has not had a character style or paragraph style applied in the story, the frame grid's document defaults are applied.

You cannot apply grid format directly to plain text frames. After converting a plain text frame into a frame grid, you can apply grid format attributes by applying a predetermined grid format to a frame grid using text that has not been given a paragraph style.

Also, when a text frame is converted to a frame grid, blank space may be created at the top, bottom, left or right of the frame. This space is shown when the text frame width or height is not divisible by the font size or leading values set in the grid format. This spacing can be removed by dragging the frame grid handle and adjusting with the Selection tool. When converting text frames to frame grids, edit the text after adjusting any insets created during conversion.

Convert a plain text frame into a frame grid

1. Select the text frame and do one of the following:
    - Choose Object > Frame Type > Frame Grid.
    - Choose Type > Story to show the Story panel. Select Frame Grid in Frame Type.
2. To reformat story text according to grid attributes, select Edit > Apply Grid Format when the frame grid is selected.

Remove a grid from a frame grid

- Select the frame grid, and do one of the following:
    - Choose Object > Frame Type > Text Frame.
    - Choose Type > Story to show the Story panel. Select Text Frame in Frame Type.

View or hide the frame grid character count

To the top

The frame grid character count is shown at the bottom of the grid. Shown here are the values for characters, lines, total number of cells and the actual number of characters.



In this frame the value for characters per line is 10, the value for lines is 5, and the total number of cells is 50. 29 characters have been placed in the frame grid.

- Choose View > Grids & Guides > Show Character Count or Hide Character Count.

To specify the size and position of the character count view, select the text frame and choose Object > Frame Grid Options. Under View Options, specify the Char Count, view, and size, and click OK.

Adobe also recommends

- Create frame grids
- Formatting grids
- Customize layout and frame grids
- Differences between frame grids and plain text frames
- Change the text direction

(cc) BY-NC-SA Twitter™ and Facebook posts are not covered under the terms of Creative Commons.

Legal Notices | Online Privacy Policy

Grids

- Use grids
- Snapping objects to grids

Use grids

To the top

Two kinds of nonprinting grids are available: a *baseline grid* for aligning columns of text, and a *document grid* for aligning objects. On the screen, a baseline grid resembles ruled notebook paper, and a document grid resembles graph paper. You can customize both kinds of grids.



Baseline grid (left) and document grid (right)

When a grid is visible, you can observe the following characteristics:

- The baseline grid covers entire spreads, but the document grid covers the entire pasteboard.
- Baseline grids and document grids appear on every spread and cannot be assigned to any master.
- The document grid can appear in front of or behind all guides, layers, and objects, but cannot be assigned to any layer.

Set up a baseline grid

Use Grid Preferences to set up a baseline grid for the entire document.

You can set up a baseline grid for a frame by using the Text Frame Options. (See Change text frame properties.)

1. Choose Edit > Preferences > Grids (Windows) or InDesign > Preferences > Grids (Mac OS).
2. Specify a baseline grid color by choosing a color in the Color menu. You can also choose Custom in the Color menu.
3. For Relative To, specify whether you want the grid to start at the top of the page or the top margin.
4. For Start, type a value to offset the grid from either the top of the page or the top margin of the page, depending on the option you choose from the Relative To menu. If you have trouble aligning the vertical ruler to this grid, try starting with a value of zero.
5. For Increment Every, type a value for the spacing between grid lines. In most cases, type a value that equals your body text leading, so that lines of text align perfectly to this grid.



Baseline grid in document window

A. First grid line B. Increment between grid lines

6. For View Threshold, type a value to specify the magnification below which the grid does not appear. Increase the view threshold to prevent crowded grid lines at lower magnifications.



Baseline grid at magnification below view threshold (left) and above view threshold (right)

7. Click OK.

Note:

The Snap To Guides command controls both snapping to guides and snapping to the baseline grid.

Set up a document grid

1. Choose Edit > Preferences > Grids (Windows) or InDesign > Preferences > Grids (Mac OS).
2. Specify a document grid color by choosing a color in the Color menu. You can also choose Custom in the Color menu.
3. To set horizontal grid spacing, specify a value for Gridline Every in the Horizontal section of the Document Grid section, and then specify a value for Subdivisions between each grid line.
4. To set vertical grid spacing, specify a value for Gridline Every in the Vertical section of the Document Grid section, and then specify a value for Subdivisions between each grid line.
5. Do one of the following, and click OK:
    - To put the document and baseline grids behind all other objects, make sure that Grids In Back is selected.
    - To put the document and baseline grids in front of all other objects, deselect Grids In Back.

To put guides behind all other objects, you can also choose Guides In Back in the context menu that appears when you right-click (Windows) or Control-click (Mac OS) an empty area of the document window.

Show or hide grids

- To show or hide the baseline grid, choose View > Grids & Guides > Show/Hide Baseline Grid.
- To show or hide the document grid, choose View > Grids & Guides > Show/Hide Document Grid.

Snapping objects to grids

To the top

When snapping is enabled, moving an object within the snap zone of a grid location will cause the object to snap to that location.

Snap objects to the document grid

1. Choose View > Grids & Guides and make sure that Snap To Document Grid is selected (checked). If it is not selected, click it.

   Note:

   The Snap to Guides command controls both snapping to guides and snapping to the baseline grid.

2. To specify the snap-to zone, choose Edit > Preferences > Guides & Pasteboard (Windows) or InDesign > Preferences > Guides & Pasteboard (Mac OS), type a value for Snap to Zone, and click OK. The Snap to Zone value is always in pixels.

To snap an object to a grid, drag an object toward a grid until one or more of the object's edges is within the grid's snap-to zone.

Adobe also recommends

- Ruler guides

(cc) BY-NC-SA Twitter™ and Facebook posts are not covered under the terms of Creative Commons.

Legal Notices | Online Privacy Policy

Grouping, locking, and duplicating objects

- Group or ungroup objects
- Group and ungroup objects on different layers
- Lock or unlock objects
- Hide objects
- Duplicate objects
- Duplicate an object using the Duplicate command
- Duplicate a selected object as you transform
- Use Step and Repeat to duplicate objects
- Duplicate objects into a grid
- Create nonprinting objects

Group or ungroup objects

To the top

You can combine several objects into a group so that they are treated as a single unit. You can then move or transform the objects without affecting their individual positions or attributes. For example, you might group the objects in a logo design so that you can move and scale the logo as one unit.

Groups can also be *nested*—grouped into subgroups within larger groups. Use the Selection, Direct Selection, and Group Selection tools to select different levels of a nested group's hierarchy.

If you're working with a stack of overlapping objects, and you group some objects that aren't adjacent in the stacking order, the selected objects will be pulled together in the stacking order, right behind the frontmost selected object. (For example, when objects are stacked as A, B, C, D from front to back, and you group B and D together, the stacking order becomes A, B, D, C.) If you group objects that exist on different named layers, all of the objects move to the frontmost layer on which you selected an object. Also, the objects you select must either be all locked or all unlocked.



Grouped object

1. Select multiple objects to be grouped or ungrouped.

   If your selection includes part of an object (for example, an anchor point), the group or ungroup operation will group or ungroup the entire object.

2. To group the selected objects, choose Object > Group.

   To ungroup the selected objects, Object > Ungroup.

If you're not sure if an object is part of a group, select it using the Selection tool and look at the Object menu. If the Object > Ungroup command is available, you've selected a group.

Group and ungroup objects on different layers

You can also use the Layers panel to group objects that are placed on different layers of a document. For more details on layers, click here.

When you group objects on different layers, InDesign groups the objects on the topmost layer containing at least one object in the group. However, InDesign remembers the layers to which each object belongs. This implies that, by default, if you then ungroup the objects, all the objects are restored back to their original layers.

You can also choose to leave the ungrouped objects on the topmost layer. To do this, uncheck the Ungroup Remembers Layers option in the Layers panel flyout menu.

Note:

This option is an application-level setting. This implies that this option is applied to all documents.

Lock or unlock objects

To the top

You can use the Lock command to specify that you don't want certain objects to move in your document. Locked objects stay locked when a document is saved, closed, and then reopened.

As long as an object is locked, it cannot be moved. However, you can select locked objects if you turn off the Prevent Selection Of Locked Objects option in General preferences. When you select a locked object, you can change attributes such as color.

1. Select the object or objects that you want to lock in place.
2. Do any of the following:
    - To lock the objects, choose Object > Lock.
    - To unlock an object, click the lock icon.
    - To unlock the objects on the current spread, choose Object > Unlock All On Spread.

You can also use the Layers panel to lock or unlock both objects and layers. When you lock a layer, the positions of all objects on a layer are locked, and the objects cannot be selected. See Layers.

Hide objects

To the top

Hidden objects are not printed or exported, and they cannot be selected.

- Do any of the following:
    - To hide an object, select it and choose Object > Hide.
    - To show hidden objects, choose Object > Show All On Spread.

Duplicate objects

To the top

You can duplicate objects using a number of different methods.

Duplicate an object using the Duplicate command

Use the Duplicate command to replicate a selected object instantly. The new copy appears on the layout slightly offset down and to the right from the original.

- Select an object or objects, and choose Edit > Duplicate.

Duplicate a selected object as you transform

You can duplicate an object each time you change its position, orientation, or proportions. For example, you can create a flower by drawing one petal, setting its reference point at the base of the petal, and repeatedly rotating at incremental angles, simultaneously duplicating to leave behind a new copy of the petal at each angle.

- During a transformation, do one of the following:
    - If you're dragging the Selection tool, the Rotate tool, the Scale tool, or the Shear tool, start dragging, and then hold down Alt (Windows) or Option (Mac OS) after you begin dragging. To constrain the duplicate's transformation, Alt+Shift-drag (Windows) or Option+Shift-drag (Mac OS).
    - If you're specifying a value in the Transform or Control panel, press Alt+Enter (Windows) or Option+Return (Mac OS) after you've typed the value.
    - If you're pressing arrow keys to move objects, hold down Alt (Windows) or Option (Mac OS) as you press the keys.

Use Step and Repeat to duplicate objects

Use the Step and Repeat command to instantly create rows or columns of duplicates. For example, you can fill a page with evenly spaced duplicates of a single business card design.

1. Select the object or objects you want to duplicate.
2. Choose Edit > Step and Repeat.
3. For Repeat Count, specify how many duplicates you want to make, not counting the original.
4. For Horizontal Offset and Vertical Offset, specify how far to shift the position of each new duplicate from the previous duplicate along the x and y axes, respectively, and click OK.

To create a page full of duplicates, first use Step and Repeat with Vertical Offset set to 0 (zero); this will create one row of duplicates. Then select the entire row and use Step and Repeat with Horizontal Offset set to 0; this will repeat the row down the page.

Duplicate objects into a grid

By dragging and using modifier keys, you can create a grid of object identical to the object being duplicated.

For a video on using grid mode, see http://tv.adobe.com/go/4949/.

1. Select an object.
2. Using the Selection tool, hold down Alt (Windows) or Option (Mac OS) and begin dragging.
3. While still dragging, release the Alt or Option key. Press the Left Arrow and Right Arrow keys to change the number of columns. Press the Up Arrow and Down Arrow keys to change the number of rows. Drag a rectangle to specify the size of the grid.
4. Release the mouse button.

Create nonprinting objects

To the top

You might want to create objects that appear onscreen, but will not be printed or appear in portable versions of the document.

You can also use layers to selectively hide or show elements in a document, and you can assign layers a non-printing status.

1. Select the object or text frame that you don't want to be printed.
2. Open the Attributes panel (Window > Output > Attributes).
3. In the Attributes panel, select Nonprinting.

Adobe also recommends

- Arrange objects in a stack
- Select nested or overlapping objects
- Lock or unlock layers
- Set a layer as nonprinting

(cc) BY-NC-SA Twitter™ and Facebook posts are not covered under the terms of Creative Commons.

Legal Notices | Online Privacy Policy

Importing files from other applications

- Importing Adobe Illustrator graphics
- Importing Adobe Photoshop (.PSD) files
- Importing PDF pages
- Importing InDesign (.indd) pages
- Importing other graphics formats

Importing Adobe Illustrator graphics

To the top

How you import Illustrator graphics depends on how much editing the graphics require after you import them. You can import Illustrator graphics into InDesign in their native (.ai) format.

If you want to adjust layer visibility in InDesign...

Import the graphic using the Place command, and when you want to edit it, choose Edit > Edit Original to open the graphic in Illustrator. For example, for a multilanguage publication, you can create a single illustration that includes one text layer for each language. You can transform the illustration as a single object in InDesign but you cannot edit the paths, objects, or text within the illustration.



Layered file with Spanish and English layers

If you want to edit objects and paths in InDesign...

Copy the art from Illustrator and paste it into your InDesign document. For example, in a magazine, you might use the same design element in each issue, but change its color every month. By pasting a graphic into InDesign, you can change objects' color, path, and transparency using the InDesign tools designed for that purpose.

Importing Illustrator graphics with multiple artboards

Illustrator CS4 graphics can include multiple artboards. When you import an Illustrator graphic with multiple artboards, you can use Import Options to specify which artboard, or "page," will be imported.

Create a layered PDF in Adobe Illustrator

You can save an Illustrator graphic as a layered PDF and control the visibility of layers in InDesign. Adjusting layer visibility in InDesign lets you vary an illustration depending on context. Rather than create multiple versions of the same illustration, say for a multilanguage publication, you can place the same illustration where needed and adjust the visibility of the layers as appropriate.

You can transform a PDF as a single object (you can rotate or resize it, for example), but you cannot edit the paths, objects, or text within the illustration.

If you're placing an Illustrator file that includes multiple artboards, you can specify which artboard is used, as when placing multipage PDF files.

Note:

Don't place layers in nested layer sets if you want to adjust layers in InDesign.

1. In Illustrator, choose File > Save As.
2. In the Save As dialog box, type a filename and choose a location for the file.
3. For Format, choose Adobe PDF (.pdf), and click Save.
4. In the Adobe PDF Options dialog box, choose Acrobat 6 (1.5) or later for Compatibility.
5. Select Create Acrobat Layers From Top-Level Layers, and click Save PDF.

Pasting Illustrator graphics into InDesign

When you paste a graphic from Illustrator 8.0 or later into an InDesign document, the artwork appears in InDesign as a grouped collection of editable objects. For example, if you paste an Illustrator drawing of a soccer ball with individually created patches into InDesign, the patches are pasted as a group, which can be ungrouped and edited using tools in InDesign. You cannot change the visibility of layers within the illustration.



Illustration of soccer ball in Illustrator (left) and same illustration pasted into InDesign (right)

Note:

Before pasting a graphic, make sure that Illustrator is configured to copy as AICB (see Illustrator Help). In InDesign, make sure that Prefer PDF When Pasting isn't selected in the Clipboard Handling preferences. If these options aren't set properly, the Illustrator graphic cannot be edited in InDesign.

Issues you may encounter when pasting or dragging art from Illustrator to InDesign

Color

Illustrator supports the Grayscale, RGB, HSB, CMYK, and Web Safe RGB color models. InDesign supports LAB, CMYK and RGB. When you paste or drag artwork from Illustrator into InDesign, RGB and CMYK colors convert in the expected color model. Grayscale colors are converted to the appropriate K value in a CMYK color in InDesign. HSB and Web Safe RGB objects are converted to RGB color in InDesign. Colors in smooth shades and gradients can be edited in InDesign.

Gradients

Linear or radial gradients created in Illustrator can be modified using the Gradient tool or Gradient panel in

InDesign. Gradients with multiple spot colors or complex patterns may appear as non-editable items in InDesign. If your illustration contains complex gradients, import it using the Place command instead.

Transparency

Transparency is flattened when Illustrator art is pasted or dragged into InDesign.

Graphic styles

Illustrator Graphic Styles don't become InDesign Object Styles when art is pasted or dragged into InDesign.

Patterns

Illustrator objects filled or stroked with patterns become embedded EPS images when pasted or dragged into InDesign.

Text

If you drag text from Illustrator into InDesign, it's converted to outlines and isn't editable with the Text tool. If you select text using the Text tool in Illustrator, and then copy it into a text frame in InDesign, the text loses its formatting but is editable. If you drag the text into InDesign without a frame selected, the text loses all formatting and isn't editable.

When you paste text from Illustrator, the text is imported as one or more objects that can be transformed and colorized in InDesign, but not edited. For example, if you create text on a path in Illustrator and paste it into InDesign, the text can be colorized, rotated, and scaled, but it cannot be edited using the Type tool. If you want to edit the text, use the Type tool and paste it into a text frame.

Artwork

Artwork copied from Illustrator and pasted into InDesign is embedded in the InDesign document. No link to the original Illustrator file is created.

Importing Adobe Photoshop (.PSD) files

To the top

You can place graphics created in Adobe Photoshop 4.0 and later directly into an InDesign layout.

Layers and layer comps

You can adjust the visibility of the top-level layers in InDesign, as well as view different layer comps. Changing layer visibility or layer comps in InDesign does not alter the original Photoshop file.

Paths, masks, or alpha channels

If you save paths, masks, or alpha channels in a Photoshop file, InDesign can use them to remove backgrounds, or to wrap text around graphics. Graphics that contain paths, masks, or alpha channels act as transparent objects when imported.

ICC color management profile

If you place a Photoshop image with an embedded ICC color management profile, InDesign reads the embedded profile, provided that color management is active. You can override the embedded profile for the image using the Import Options dialog box or assign a different color profile to the graphic in InDesign. Overriding the color profile in InDesign will not remove or alter the profile embedded in the Photoshop image.

Spot-color channels

Spot-color channels in Adobe Photoshop PSD or TIFF files appear in InDesign as spot colors in the Swatches panel. If the image uses a spot color that InDesign does not recognize, the spot color may appear gray in the InDesign document and print incorrectly as a composite. (The image will print correctly on color separations, however.) To simulate the graphic as a composite, you can create a spot color with the correct color values, and then alias the PSD color to this new spot color. The graphic will then print correctly as composite and display correctly on-screen when Overprint Previewis turned on (choose View > Overprint Preview). Be sure to remove the alias before printing separations, so that the image prints on the plate you expect.

Importing PDF pages

To the top

Using the Place command, you can specify which pages you want to import from a multipage PDF or an Illustrator file with multiple artboards. You can place a single page, a range of pages, or all pages. Multipage PDF files let designers combine illustrations for a publication into a single file.

The page range options appear when you select Show Import Optionsin the Place dialog box. See Acrobat (.pdf) and Illustrator (.ai) import options. The dialog box includes a preview, so you can view a thumbnail of the pages before you place them. If you place multiple pages, InDesign reloads the graphics icon with the next page, letting you place the pages one after the next. InDesign doesn't import movies, sound, links, or buttons when you place a PDF file.

Comparing screen and device resolution in placed PDF pages

A placed PDF page displays at the best resolution possible for the given scale and screen resolution. When printed on a PostScript output device, a placed PDF page always prints at the resolution of the device. When printed on a non-PostScript printer, a placed PDF page prints at the same resolution as the other InDesign objects in the document. For example, vector (drawn) objects will print at the same resolution as other vector objects in the document. Bitmap images will print at the best resolution supplied in the placed PDF.

Linking to placed PDFs

A placed PDF page appears in the InDesign document as an on-screen preview, which is linked to a specific page in the original PDF. After placing a PDF page, you may break links by doing any of the following:

- If you add a password to the original PDF that has been placed in an InDesign document, and you update the link, you'll be prompted to enter the password.
- If you delete pages in the original PDF and update the link, the placed PDF page changes to the page that

now falls on the originally placed page number.

- If you reorder the pages in the original PDF file and update the link, the placed PDF page may be different from what you expect. When that happens, place the page again.

Color in placed PDF pages

InDesign preserves colors embedded in PDF pages, even if the color comes from a color library not installed with InDesign (such as the PANTONE Hexachrome® library). In addition, any color traps included in a placed PDF page are preserved.

When color management is active, InDesign displays the placed PDF using its embedded ICC or output intent profile (PDF/X only). When color management is turned off, or when you place a PDF that doesn't contain an ICC or output intent profile, colors in the placed PDF are calibrated using the color profile in the InDesign document.

When you export or print the document, you can preserve the ICC profile embedded in the placed PDF or replace it with the document profile instead. Output intent profiles are used for display and are included when you export as PDF/X; they aren't used when you print the document, and they aren't included when you export to any other format.

Security settings in placed PDF pages

Because a placed PDF page is linked to the original PDF, the placed page also includes the security settings of the original file. If someone later changes the security settings in the original file, the security settings are updated in the placed PDF page when you update the links.

If you correctly enter a required master password when placing a PDF page, you override any restrictions in the PDF page, enabling the placed PDF page to export as expected.

Importing InDesign (.indd) pages

To the top

Using the Place command, you can import pages from one InDesign document into another. You can import a page, a page range, or all of the pages in the document. The pages are imported as objects (much the same way that PDFs are imported).

Add pages in your document to hold the pages you want to import. After you choose File > Place and select an INDD file, you can choose Show Import Options and then choose which pages to import, which layers to make visible, and how to crop the imported pages. You can scroll in the Preview window to examine the thumbnail pages closely. The page or pages you select are loaded in the graphics icon. If you place multiple pages, InDesign loads the graphics icon with the following page so you can import pages one after the other.

Note:

The Links panel lists the names of each page you imported. If a page you imported contains a graphic or other item that was imported into it, this item is listed as well in the Links panel. The names of these secondary imported items are listed under a disclosure triangle in the Links panel to distinguish them from imported pages.

Importing other graphics formats

To the top

InDesign supports a variety of graphics formats, including bitmap formats such as TIFF, GIF, JPEG, and BMP, and vector formats such as EPS. Other supported formats include DCS, PICT, WMF, EMF, PCX, PNG, and Scitex CT (.sct). You can import an SWF file as a movie file.

TIFF (.tif) files

TIFF is a flexible bitmap image format supported by virtually all painting, image-editing, and page-layout applications. Also, virtually all desktop scanners can produce TIFF images.

The TIFF format supports CMYK, RGB, grayscale, Lab, indexed-color, and bitmap files with alpha and spot-color channels. You can select an alpha channel when you place a TIFF file. Spot-color channels appear in InDesign as spot colors in the Swatches panel.

You can use an image-editing program such as Photoshop to create a clipping path to create a transparent background for a TIFF image. InDesign supports clipping paths in TIFF images and recognizes encoded OPI comments.

Graphics Interchange Format (.gif) files

Graphics Interchange Format (GIF) is a standard for displaying graphics on the World Wide Web and other online services. Because it compresses image data without losing detail, its compression method is called *lossless*. Such compression works well with graphics that use a limited number of solid colors such as logos and charts; however, GIF cannot display more than 256 colors. For this reason it is less effective for displaying photographs online (use JPEG instead) and is not recommended for commercial printing. If an imported GIF file contains transparency, the graphic interacts only where the background is transparent.

JPEG (.jpg) files

The Joint Photographic Experts Group (JPEG) format is commonly used to display photographs and other continuous-tone images in HTML files over the web and in other online media. The JPEG format supports CMYK, RGB, and grayscale color modes. Unlike GIF, JPEG retains all of the color information in an RGB image.

JPEG uses an adjustable, *lossy* compression scheme that effectively reduces file size by identifying and discarding extra data not essential to the display of the image. A higher level of compression results in lower image quality; a lower level of compression results in better image quality, but a larger file size. In most cases, compressing an image using the Maximum quality option produces a result that is indistinguishable from the original. Opening a JPEG image automatically decompresses it.

Note:

JPEG encoding, which can be performed on an EPS or DCS file in an image-editing application such as Photoshop, does not create a JPEG file. Instead, it compresses the file using the JPEG compression scheme explained above.

JPEG works well for photographs, but solid-color JPEG images (images that contain large expanses of one color) tend to lose sharpness. InDesign recognizes and supports clipping paths in JPEG files created in Photoshop. JPEG can be used for both online and commercially printed documents; work with your prepress service provider to preserve JPEG quality in printing.

Bitmap (.bmp) files

BMP is the standard Windows bitmap image format on DOS and Windows-compatible computers. However, BMP does not support CMYK, and its color support is limited to 1, 4, 8, or 24 bits. It is less than ideal for commercially printed or online documents, and it is not supported by some web browsers. BMP graphics can provide acceptable quality when printed on low-resolution or non-PostScript printers.

Encapsulated PostScript (.eps) files

The Encapsulated PostScript (EPS) file format is used to transfer PostScript language artwork between applications, and is supported by most illustration and page-layout programs. Typically, EPS files represent single illustrations or tables that are placed into your layout, but an EPS file can also represent a complete page.

Because they are based on the PostScript language, EPS files can contain text, vector, and bitmap graphics. Since PostScript cannot normally be displayed on-screen, InDesign creates a bitmap preview for an EPS file for on-screen display. InDesign recognizes clipping paths in Photoshop-created EPS files.

When you import an EPS file, any spot colors it contains are added to the Swatches panel in InDesign. EPS allows for prepress-quality resolution, precision, and color. This format includes all of the color and image data required to color-separate DCS images embedded in the EPS graphic. EPS isn't ideal for online publishing in HTML, but it works well for online publishing in PDF.

EPS files can contain Open Prepress Interface (OPI) comments, which let you use fast, low-resolution versions (*proxies*) of images for positioning on a page. For final output, either InDesign or your prepress service provider can automatically replace the proxies with high-resolution versions.

Desktop Color Separations (.dcs) files

Desktop Color Separations (DCS), developed by Quark, is a version of the standard EPS format. The DCS 2.0 format supports multichannel CMYK files with multiple spot channels. (These spot channels appear as spot colors in the Swatches panel in InDesign.) The DCS 1.0 format supports CMYK files without spot channels. InDesign recognizes clipping paths in Photoshop-created DCS 1.0 and DCS 2.0 files.

DCS files are intended to be used in a preseparated, host-based workflow. In most cases, color separations files associated with a DCS image are excluded when you export or print a composite to a PDF, EPS, or PostScript file. (The sole exception is made for 8-bit DCS files that were created in Photoshop and that do not contain vector graphics.)

InDesign can rebuild a composite image from DCS 2.0 or 1.0 separations files, if the files were created in Photoshop. For best results, do not include DCS 1.0 files or DCS 2.0 files created in programs other than Photoshop when you are creating high-resolution color composite proofs or separating a document in-RIP or from a composite file.

Macintosh PICT (.pict) files

The Macintosh PICT (or *Picture*) format is used for Mac OS graphics and page-layout applications, and for transferring files between applications. The PICT format compresses images that contain large areas of solid color. InDesign can import PICT files created from Mac OS screenshots and a variety of other applications, including clip art collections. However, PICT files are not recommended for high-resolution commercial printing.

InDesign supports RGB PICT images with variable resolutions and embedded QuickTime images. PICT graphics do not support color separations, are device-dependent, and are not recommended for high-resolution commercial printing. The PICT format can provide acceptable quality only when printed on low-resolution or non-PostScript printers.

Windows Metafile Format (.wmf) and Enhanced Metafile Format (.emf) files

Windows Metafile Format (WMF) and Windows Enhanced Metafile Format (EMF) are native Windows formats used primarily for vector graphics, such as clip art, shared between Windows applications. Metafiles may contain raster image information; InDesign recognizes the vector information and provides limited support for raster operations. Color support is limited to 16-bit RGB, and neither format supports color separations. As a general rule, avoid using Metafile formats for commercially printed documents.

PCX (.pcx) files

The PCX format is commonly used in Windows systems. Most Windows software supports version 5 of the PCX format.

The PCX format supports RGB, indexed-color, grayscale, and bitmap color modes, as well as the RLE compression method, which is lossless. It does not support alpha channels. Images can have a bit depth of 1, 4, 8, or 24 bits. However, PCX is not ideal for commercially printed or online documents. PCX graphics can provide acceptable quality only when printed on low-resolution or non-PostScript printers.

Portable Network Graphics (.png) files

The Portable Network Graphics (PNG) format uses adjustable, lossless compression to display 24-bit photographs or solid-color images on the World Wide Web and in other online media. PNG was developed as a patent-free alternative to the GIF file format. It supports transparency in an alpha channel or a designated color. PNG is best used for online documents. Color PNG graphics placed in an InDesign document are RGB bitmap images.

Scitex CT (.sct) files

The Scitex Continuous Tone (CT) format is used for high-end image processing on Scitex computers. Scitex CT files often come from Scitex scanners, which produce high-quality scans for commercial printing. The Scitex CT format supports CMYK, RGB, and grayscale files, but does not support alpha channels. Contact Scitex to obtain utilities for transferring files saved in the Scitex CT format to a Scitex system.

Adobe also recommends

- Control graphics' display performance
- Acrobat (.pdf) and Illustrator (.ai) import options
- Control layer visibility in imported images
- Importing, exporting, and saving
- Paste or drag graphics
- Import options for graphics
- Place (import) graphics

- Color management
- Create an ink alias for a spot color
- Saving and exporting images
- Acrobat (.pdf) and Illustrator (.ai) import options
- Control layer visibility in imported images
- Import options for graphics
- Place (import) graphics
- Control layer visibility in imported images
- Place (import) graphics
- Import options for graphics
- Exporting
- Exporting artwork
- Import swatches
- Movies and sounds

(cc) BY-NC-SA Twitter™ and Facebook posts are not covered under the terms of Creative Commons.

Legal Notices | Online Privacy Policy

Layers

- About layers
- Create layers
- Add objects to layers
- Duplicate a layer
- Change the order of layers
- Show or hide layers and objects
- Set a layer as nonprinting
  Lock or unlock layers
  Delete layers
  Merge layers in a document

About layers

To the top

Each document includes at least one named layer. By using multiple layers, you can create and edit specific areas or kinds of content in your document without affecting other areas or kinds of content. For example, if your document prints slowly because it contains many large graphics, you can use one layer for just the text in your document; then, when it's time to proofread the text, you can hide all other layers and quickly print the text layer only. You can also use layers to display alternate design ideas for the same layout, or versions of advertisements for different regions.

Think of layers as transparent sheets stacked on top of each other. If a layer doesn't have objects on it, you can see through it to any objects on layers behind it.

Additional layer notes:

- Each document layer has a disclosure triangle that can be expanded to reveal the objects and their stacking order on that layer for the active spread. Groups, buttons, and multi-state objects also have disclosure triangles that can be expanded to display their contained objects. You can re-order these objects, lock and unlock them, and add or remove them from groups.
- Objects on masters appear at the bottom of each layer. Master items can appear in front of document page objects if the master page objects are on a higher layer. (See About masters, stacking order, and layers.)
- Layers involve all pages of a document, including masters. For example, if you hide Layer 1 while editing page 1 of your document, the layer is hidden on all pages until you decide to show it again.
- For information on converting layers from Adobe PageMaker® or QuarkXPress, see Converting QuarkXPress and PageMaker documents.



The Layers panel lists layers with the frontmost layer appearing at the top of the panel.

For a video tutorial on using layers, see http://tv.adobe.com/go/4953/.

Create layers

To the top

You can add layers at any time using the New Layer command on the Layers panel menu or the New Layer button at the bottom of the Layers panel. The number of layers a document can have is limited only by the RAM available to InDesign.

Create layers

1. Choose Window > Layers.
2. To create a new layer, do any of the following:
    - To create a new layer above the selected layer, click the New Layer button.
    - To create a new layer below the selected layer, hold down Ctrl (Windows) or Command (Mac OS) as you click the New Layer button.
    - To create a new layer at the top of the list, hold down Ctrl+Shift (Windows) or Command+Shift (Mac OS) as you click the New Layer button.
    - To create a new layer and open the New Layer dialog box, hold down Alt (Windows) or Option (Mac OS) as you click the New Layer button.

Specify layer options

1. Choose New Layer in the Layers panel menu, or double-click an existing layer.
2. Specify the layer options, and then click OK.

Color

Assign a color to identify the objects on that layer.

Show Layer

Select this option to make a layer visible. Selecting this option is the same as making the eye icon visible in the Layers panel.

Show Guides

Select this option to make the guides on the layer visible. When this option is not selected for a layer, the guides cannot be made visible, even by selecting View > Show Guides for the document.

Lock Layer

Select this option to prevent changes to any objects on the layer. Selecting this option is the same as making the crossed-out pencil icon visible in the Layers panel.

Lock Guides

Select this option to prevent changes to all ruler guides on the layer.

Print Layer

Select this option to allow the layer to be prevented from printing. When printing or exporting to PDF, you can determine whether to print hidden and nonprinting layers.

Suppress Text Wrap When Layer Is Hidden

Select this option if you want text on other layers to flow normally when the layer is hidden and it contains objects with text wrap applied.

Assign a layer color

Assigning a color to a layer makes it easier to distinguish the layers of different selected objects. For each layer that contains a selected object, the Layers panel displays a dot in the layer's color. On the page, each object displays the color of its layer in its selection handles, bounding box, text ports, text wrap boundary (if used), frame edges (including the X displayed by an empty graphics frame), and hidden characters. The layer color does not appear for a deselected frame if its edges are hidden.

1. In the Layers panel, double-click a layer or select a layer and choose Layer Options for *[layer name]*.
2. For Color, choose a color or choose Custom to specify a color in the system color picker.

Add objects to layers

To the top

Any new object is placed on the *target layer*, the layer currently displaying the pen icon in the Layers panel. Targeting a layer also selects it. If multiple layers are selected, targeting one of them doesn't change the selection, but targeting a layer outside the selection deselects the other layers.

You can add objects to the target layer by any of the following methods:

- Creating new objects with the Type tool or drawing tools.
- Importing, placing, or pasting text or graphics.
- Selecting objects on other layers, and then moving them to the new layer.

  You cannot draw or place a new object on a hidden or locked layer. When you select a drawing tool or the Type tool, or place a file when the target layer is hidden or locked, the pointer changes to the crossed-out-pencil icon when it is positioned over the document window. Either show or unlock the target layer, or target a visible, unlocked layer. If you choose Edit > Paste when the target layer is hidden or locked, an alert message gives you the choice of showing or unlocking the target layer.

When you click a layer in the Layers panel to target it, the pen icon appears on the layer you clicked, and the layer also highlights to indicate that it is targeted.



Changing the target layer for the next new object

Select, move, and copy objects on layers

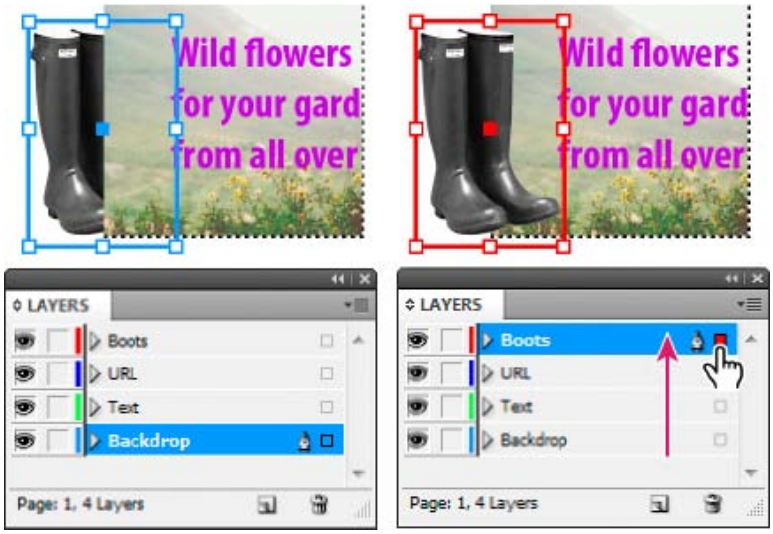
By default, you can select any object on any layer. In the Layers panel, dots mark layers that contain selected objects. The layer's selection color helps you identify an object's layer. To prevent selecting objects on a specific layer, lock the layer.

- Do any of the following:
  - To select individual objects on a layer, click the triangle icon next to the layer to display all, and select the target object. You can also drag the target object to a different location without selecting it.



Dragging objects from one layer to another

  - To select all objects on a specific layer, hold down Alt (Windows) or Option (Mac OS) as you click a layer in the Layers panel.
  - To move or copy objects to another layer, use the Selection tool to select one or more objects on a document page or master. In the Layers panel, drag the colored dot on the right side of the layer list to move the selected objects to the other layer.



Moving an object to a new layer

To move selected objects to a locked layer, hold down Ctrl (Windows) or Command (Mac OS) as you drag the colored dot. To copy selected objects to another layer, hold down Alt (Windows) or Option (Mac OS) as you drag the colored dot on the right side of the layer list to the other layer. To copy selected objects to a locked layer, hold down Ctrl+Alt (Windows) or Command+Option (Mac OS) as you drag the colored dot.

Paste objects into different layers

The Paste Remembers Layers command affects how objects pasted from other locations interact with existing layers.

If the Paste Remembers Layers command is selected, objects cut or copied from different layers retain their layer assignments when pasted to the new page or position. If you paste objects to a document that doesn't have the same layers as the document from which they were copied, InDesign adds the objects' layer names to the Layers panel in the second document, and pastes each object on its layer.

If the Paste Remembers Layers command is deselected, objects cut or copied from different layers are pasted together on the target layer.

1. Make sure that Paste Remembers Layers is deselected in the Layers panel menu.
2. Select objects and choose Edit > Copy or Edit > Cut.
3. In the Layers panel, click the other layer to target it.
4. Choose Edit > Paste.

Duplicate a layer

To the top

When you duplicate a layer, you copy its contents and settings. The duplicate layer then appears above the original layer in the Layers panel. Any duplicated frames that were threaded to other frames on the layer remain threaded. Duplicated frames whose originals were threaded to frames on other layers are no longer threaded to those frames.

- In the Layers panel, do one of the following:
    - Select the layer name and choose Duplicate Layer *[layer name]* in the Layers panel menu.
    - Drag a layer name and drop it on the New Layer button.

Change the order of layers

To the top

Change the stacking order of layers in your document by rearranging the layers on the Layers panel. Rearranging layers changes the order of layers on every page, not just on the target spread.

You can also change the stacking order of objects within a layer by repositioning objects within the layer. See Arrange objects in a stack.

- In the Layers panel, drag a layer up or down in the list. You can also drag multiple selected layers.



Reordering layers

Show or hide layers and objects

To the top

You can hide or display any layer at any time, and you can hide or display objects on a layer. Hidden layers and objects can't be edited, and don't appear on screen or in print. Hiding layers can be useful when you want to do any of the following:

- Hide parts of a document that are not meant to appear in the final document.
- Hide alternate versions of a document.
- Simplify the display of a document, to make it easier to edit other parts of the document.
- Prevent a layer from printing.
- Speed up screen redraw when a layer contains high-resolution graphics.

By default, text continues to wrap around objects on hidden layers. To ignore text wrap settings for hidden objects, choose Layer Options from the Layers panel menu, and then select the Suppress Text Wrap When Layer Is Hidden option.

- Do any of the following:
  - To hide or show one layer at a time, in the Layers panel, click the square at the far left of a layer name to hide or show the eye icon for that layer.
  - To show or hide individual objects in a layer, click the disclosure triangle to view all objects in a layer, and then click the eye icon to show or hide the object.
  - To hide all layers except the selected layer, or to hide all objects on a layer except the selected object, choose Hide Others in the Layers panel menu. Or, Alt-click (Windows) or Option-click (Mac OS) the square on the far left side of the layer or object you want to remain visible.
  - To show all layers, choose Show All Layers in the Layers panel menu. Or, Alt-click (Windows) or Option-click (Mac OS) the square on the far left side of a visible layer or object to show all layers or all objects in a layer.

Set a layer as nonprinting

To the top

1. Select the layer in the Layers panel.
2. Choose Layer Options from the Layers panel menu.
3. To prevent the layer from being printed, deselect Print Layer, and then click OK.

Note:

When you print or export to PDF, you will still have the option of printing hidden and nonprinting layers.

Lock or unlock layers

To the top

Locking is useful for preventing accidental changes to a layer. A locked layer displays a crossed-out pencil icon in the Layers panel. Objects on locked layers cannot be selected or edited directly; however, if objects on locked layers have attributes that can be edited indirectly, they will change. For example, if you edit a tint swatch, objects on locked layers using that tint swatch will reflect the change. Similarly, putting a series of threaded text frames on both locked and unlocked layers will not prevent text on locked layers from recomposing.

You can also use the Layers panel to lock or unlock objects in a layer. See Lock or unlock objects.

- Do any of the following:
    - To lock or unlock one layer at a time, in the Layers panel, click a square in the second column from the left to show (lock) or hide (unlock) the layer.
    - To lock all layers except the target layer, choose Lock Others in the Layers panel menu. Or, Alt-click (Windows) or Option-click (Mac OS) the the square left of the layer you want to remain unlocked.
    - To unlock all layers, choose Unlock All Layers in the Layers panel menu.

Delete layers

To the top

Remember that each layer is document-wide—it appears on every page of a document. Before deleting a layer, consider hiding all other layers first, and then turn to each page of the document to verify that it is safe to delete the remaining objects.

- Do any of the following:
    - To delete a layer, drag a layer from the Layers panel to the Delete icon or choose Delete Layer *[layer name]* from the Layers panel menu.
    - To delete multiple layers, hold Ctrl (Windows) or Command (Mac OS) while you click the layers to select them. Then drag the layers from the Layers panel to the Delete icon or choose Delete Layers from the Layers panel menu.
    - To delete all empty layers, choose Delete Unused Layers in the Layers panel menu.
    - To delete an object on a layer, select the object in the Layers panel, and then click the Delete icon.

Merge layers in a document

To the top

You can reduce the number of layers in a document without deleting any objects by *merging* layers. When you merge layers, objects from all selected layers are moved to the target layer. Of the layers you merge, only the target layer remains in the document; the other selected layers are deleted. You can also *flatten* a document by merging all layers.

Note:

If you merge layers containing a mix of page objects and master items, the master items move to the back of the resulting merged layer.

1. In the Layers panel, select any combination of layers. Be sure to include the layer you want to target as the merged layer. If you're flattening the document, select all layers in the panel.
2. Click any selected layer to make it the target layer, indicated by the pen.
3. Choose Merge Layers in the Layers panel menu.

You can also merge identically named layers for exporting a book to PDF.

Adobe also recommends

- Show or hide frame edges
- Prepare layers before exporting a book to PDF

Twitter™ and Facebook posts are not covered under the terms of Creative Commons.

Legal Notices | Online Privacy Policy

Laying out frames and pages

- About paths and frames
- Show or hide frame edges
- Using placeholders to design pages
- Redefine the purpose of paths and frames
- About automatic layout adjustment

For detailed information and instructions, click the links below.

About paths and frames

To the top

You can draw objects in a document and use them as paths or as frames. *Paths* are vector graphics like those you create in a drawing program such as Adobe Illustrator®. *Frames* are identical to paths, with only one difference—they can be containers for text or other objects. A frame can also exist as a *placeholder*—a container without contents. As containers and placeholders, frames are the basic building blocks for a document's layout.



Paths and frames

A. Path B. Frame as graphic container C. Frame with placed graphic

You can draw both paths and frames using tools in the Toolbox. You can also create frames by simply placing (importing) or pasting contents into a path.

Note:

In QuarkXPress, paths are referred to as lines, and frames are referred to as boxes.

Because a frame is just a container version of a path, you can do anything to a frame that you can do to a path, such as add a color or a gradient to its fill or stroke, or edit the shape of the frame itself with the Pen tool. You can even use a frame as a path, or a path as a frame, at any time. This flexibility makes it easy to change your design and provides a wide range of design choices.

Frames can contain text or graphics. A *text frame* determines the area to be occupied by text and how text will flow through the layout. You can recognize text frames by the text ports in their respective upper left and lower right corners.

A frame grid is a text frame, with a basic grid to determine character size and spacing within the frame attached.

A *graphics frame* can function as a border and background, and can crop or mask a graphic. When acting as an empty placeholder, a graphics frame displays a crossbar.



Text frame (left) and empty graphics frame (right)

If you don't see the crossbar inside an empty graphics frame, the frame edges display may be turned off.

Show or hide frame edges

To the top

Unlike paths, you can see the nonprinting strokes (outlines) of frames by default even when the frames aren't selected. If the document window is getting crowded, use the Show/Hide Frame Edges command to simplify the screen display by hiding the frame edges. Doing this also hides the crossbar in a graphics placeholder frame. The display setting for frame edges doesn't affect the display of the text ports on text frames.

Note:

The frame edge is defined as a frame's stroke, not the outer edge of the stroke's weight.

- Do any of the following:
  - To show or hide frame edges, choose View > Extras > Show/Hide Frame Edges.
  - To hide frame edges, click Preview Mode at the bottom of the Toolbox.
  - To show or hide a frame grid, choose View > Grids & Guides > Show Frame Grid, or View > Grids & Guides > Hide Frame Grid.

Using placeholders to design pages

To the top

When your final text and graphics are available, you can simply add them to a document; InDesign automatically creates frames when you import them (unless you're importing text or graphics directly into existing frames). However, when you don't have the content yet or you want to block out the design before adding text and graphics, you can use frames as placeholders.



Types of placeholders

A. Graphics frame placeholder B. Text frame placeholder

For example, you might use any of these strategies:

- Draw text frames using the Type tool, and draw graphics frames using the drawing tools. Thread empty text frames together so that importing final text takes just one step.
- Draw empty placeholder shapes using drawing tools. When you're ready to start designating areas for text and graphics, redefine the placeholders as either text or graphics frames.
- Set frame fitting options for a placeholder frame so that when you place an image in the frame, the image is cropped and fit accordingly.

Redefine the purpose of paths and frames

To the top

- To use a path or text frame as a graphics placeholder frame, select a path or an empty text frame, and then choose Object > Content > Graphic.
- To use a path or graphics frame as a text placeholder frame, select a path or an empty graphics frame, and then choose Object > Content > Text.
- To use a text or graphics frame as a path only, select an empty frame, and then choose Object > Content > Unassigned.

Note:

When a frame contains text or graphics, you cannot redefine it using the Object > Content menu. However, if you replace a graphic with text, the content type is automatically redefined.

About automatic layout adjustment

To the top

If you use the Document Setup or Margins and Columns commands to make changes to an existing layout, such as altering column widths or page orientation, you could spend considerable time and effort in rearranging objects to fit the new layout. The Layout Adjustment feature can do much of that work automatically. For example, you can quickly reformat a wide four-column document designed for an A4-size page to a tall two-column format on a U.S. legal-size page. With Layout Adjustment, text and graphics frames are moved and resized as necessary based on the new relative positions of column guides, page margins, and page edges.

Note:

Dragging column guides does not trigger layout adjustment.

The Layout Adjustment feature produces more predictable results when a layout is tightly based on a framework of margins, page columns, and ruler guides, and where objects are snapped to guides. Results are less predictable when objects don't adhere to margins, columns, and guides, or when extraneous ruler and column guides clutter a page. Layout adjustment is not affected by the document grid or the baseline grid.



Page designed vertically, for print (left); page orientation changed for on-screen viewing, with layout automatically refitted by the Layout Adjustment feature (right)

You can modify the rules in the Layout Adjustment dialog box. The Layout Adjustment feature attempts to approximate the proportions of the old layout in the new layout by doing the following:

- Adding or removing column guides, if the new layout specifies a different number of columns.
- If the page size changes, moving ruler guides to maintain proportional distances from page edges, margins, or column guides.
- Moving objects already aligned to any margin, column, bleed/slug, or ruler guide, or to any two guides perpendicular to each other, so that the objects stay with those guides if the guides move during layout adjustment. Also, objects already aligned to any page edge or to any page edges perpendicular to each other are moved.
- Proportionally resizing objects already aligned to two parallel margin, column, bleed/slug, or ruler guides or

to guides on three sides, so that the objects stay with those guides if the guides move during layout adjustment. Also, objects aligned to two parallel page edges or to page edges on three sides are moved.

- Maintain the relative position of objects that are anchored to the text as specified in the Anchored Object Options dialog box.
- Moving objects to keep them in the same relative position on the page, if the page size changes.

Note:

Layout Adjustment affects columns inside a text frame differently than it does page columns. If the frame itself is resized by Layout Adjustment and the Fixed Column Width option is not selected in the Object > Text Frame Options dialog box, text frame columns are resized proportionally. If the Fixed Column Width option is selected, columns are added or removed as necessary.

Set options for layout adjustment

Note that changing options in the Layout Adjustment dialog box does not immediately change anything. Layout adjustment is triggered only by changes to page size, page orientation, margins, or column settings, or when a new master is applied. When you want to restore a layout to its previous state, you must undo the action that triggered the layout adjustment.

1. Choose Layout > Layout Adjustment.
2. Select Enable Layout Adjustment.
3. Specify the layout adjustment options, and click OK.

Layout Adjustment options

Enable Layout Adjustment

Select this option so that layout adjustment will occur whenever you change page size, page orientation, margins, or columns.

Snap Zone

Type a value to specify how near an object must be to the closest margin guide, column guide, or page edge to snap to that element during layout adjustment.

Allow Graphics And Groups To Resize

Select this option to let the Layout Adjustment feature scale graphics, frames, and groups. When deselected, graphics and groups can be moved by Layout Adjustment, but not resized.

Allow Ruler Guides To Move

Select this option when you want ruler guides to be repositioned by the Layout Adjustment feature.

Ignore Ruler Guide Alignments

Select this option when ruler guides are not well positioned for layout adjustment. Objects will still align to column and margin guides and to page edges.

Ignore Object And Layer Locks

Select this option when you want the Layout Adjustment feature to reposition objects that are locked individually, or locked as a result of being on a locked layer.

Adobe also recommends

- Understanding paths and shapes
- Use document templates
- Draw a placeholder shape
- Set frame fitting options
- Use multiple page sizes

(cc) BY-NC-SA Twitter™ and Facebook posts are not covered under the terms of Creative Commons.

Legal Notices | Online Privacy Policy

Layout grids

- Layout grid overview
- Change layout grid settings
- Placing an object in a layout grid
- Document windows with layout grids

Layout grid overview

To the top

For workflow, editorial designers for magazines tend to use paper-based workflows with layout sheets. InDesign's layout grid functions in the same way as this type of paper-based layout. In addition, InDesign's Layout Grid differs from paper-based layout in that you can modify font size, stroke width, page count and other elements as necessary in order to create customized layouts.

You can set a character grid (character size) using the Layout Grid and also arrange the grid to fit horizontal text going from left to right, and vertical text starting from the top right hand corner.



A 2 paragraph vertical layout grid (left) A 2 paragraph horizontal layout grid (right)

With the Layout Grid you can snap an object into position in the same way as with a Document Grid or Baseline Grid.

When creating a new document, click Layout Grid in the New Document dialog box and you can specify layout settings in the New Layout Grid dialog box displayed. You can change the layout grid of an existing document or apply a layout grid to a document created using Margins and Columns.



The page margins are determined by the outer edges of the layout grid (left) An object placed in a grid (right)

Change layout grid settings

To the top

When changing layout grid settings, note the following:

- To specify application default settings for a document with layout grid, choose Layout > Layout Grid without opening any documents, and modify the settings. These settings will be applied to new documents created thereafter. Altering the default settings on the layout grid will also cause the frame layout application default settings to change accordingly.
- Changing settings in the Layout Grid dialog box can affect settings in the Margins and Columns dialog box. The opposite can also occur. For example, when you change the number of columns in the Layout Grid

dialog box, the new column setting will be reflected in the Margins and Columns settings. However, if the values for Margins and Paragraphs is not divisible by the number of characters or lines designated in the Layout Grid, gaps may appear in the Layout Grid or Column Margin Guide. To show no spaces around the layout grid, open the Layout Grid dialog box, and click OK. The grid is adjusted as closely as possible to the character grid border.

- The Layout Grid option displayed in the Grid Format panel will be affected by the grid attributes from the Layout Grid settings applied to the current page. If you apply several layout grids to one document, the contents of Layout Grid settings will change according to the settings of the Layout Grid of the selected page.

Change layout grid settings

1. Do any of the following:
    - To change the layout grid settings for one spread or page, move to the spread you want to change or, select the spread or page in the Page panel.
    - To change the layout grid settings for multiple pages, select the pages in the Page panel, or select the master page that controls the pages you want to change.

      Layout grid settings can be set on individual pages, thus one document may contain a number of different layout grids.
2. Choose Layout > Layout Grid, and change the settings.
3. Click OK.

Layout Grid options

The following options appear when you choose Layout Grid in the New Document dialog box or when you choose Layout > Layout Grid.

Direction

Select Horizontal for text to flow left to right horizontally, and Vertical for text to flow top to bottom vertically.

Font

Select font family and font style.The font selected will become the Frame Grid default setting. Furthermore, if the grid is set as ICF in the Character Grid in Preferences, the grid size varies depending on the ICF of the font selected. (See Customize layout and frame grids.)

Size

Specify the font size to be used as a base for the body text in the layout grid. This determines the size of individual grid cells within the layout grid.

Vertical and Horizontal

Specify the transformation ratio as a percentage for the font defined in the grid. The size of the grid will alter

according to these settings.

Char Aki

Specify the letter spacing for the font defined in the grid. If a negative value is entered, the grids will appear overlapping. When a positive value is set, a gap will appear between the grids.

Line Aki

Specify the line gap for the font defined in the grid. The grid line gaps will change according to the value entered.

With the exception of Direction, the values set for Font, Size, Horizontal, Vertical, Char Aki, Line Aki in the Grid Attributes section will all become Frame Grid default settings. (See Create frame grids.)

Characters

Sets a Line Character (Grid) count.

Lines

Specifies the number of lines in 1 column.

Columns

Specifies the number of columns in 1 page.

Gutter

Specifies the distance between columns.



A. Columns B. Gutters

Starting Point

Select the Starting Point option from the pop-up menu, and select the Top, Bottom, Right (or Outside) and Left (or Inside) margins in each text box. The grid will be arranged from the selected position options according to the values set in Grid Attributes and Lines and Columns. Any space left on the other side of the Starting Point becomes the margin. For this reason, it is not possible to enter values into the text box outside the points forming the Grid Base starting points. The margin opposite the starting point can be modified by changing the Grid Attributes and Lines and Columns options values. When you select Center Completely and add a line or character, a layout grid with the number of characters or lines set will be created from the center.

Inside is specified as the inside of the facing page, but when no facing page is specified, Inside is the left hand side. Similarly, Outside is specified as the outside of the facing page, but when no facing page is designated, Outside is the right hand side.

Note:

If the values you specify for columns and gutters are such that the layout grid is larger than the page size, the values for characters, gutters, and columns will be adjusted so that it fits on the page. To change the settings,

choose Layout > Layout Grid after creating a new document, and specify different values.

A. Top/Outside starting point (right page) B. Center Horizontally starting point C. Bottom/Outside starting point (right page) D. Center Completely starting point

Show or hide the layout grid

- Choose View > Grids & Guides > Show Layout Grid or View > Grids & Guides > Hide Layout Grid.

  If you hide the Layout Grid, the appearance will be the same as a document created in the Margins and Columns option. Each margin will be determined by values in the Starting Point settings.

Placing an object in a layout grid

To the top

Place the text, graphic, or sample text after setting the layout grid. Keep the following guidelines in mind when you are designing pages for a layout grid:

- You can place text frames, frame grids, and graphic frames in a document. You can also place text or graphics in placeholder frames. For more information, see About paths and frames and Create text frames.
- You cannot enter text directly in a layout grid. Use the Horizontal Grid tool or Vertical Grid tool to create a frame grid and enter text. When Layout Grid is selected in the grid format panel, frame grids created will use the character and spacing attributes of the layout grid. See Create frame grids.



- When you drag an object in a layout grid, the object corner closest to the grid will snap to one of the four corners of the grid. See Snapping objects to grids.

Document windows with layout grids

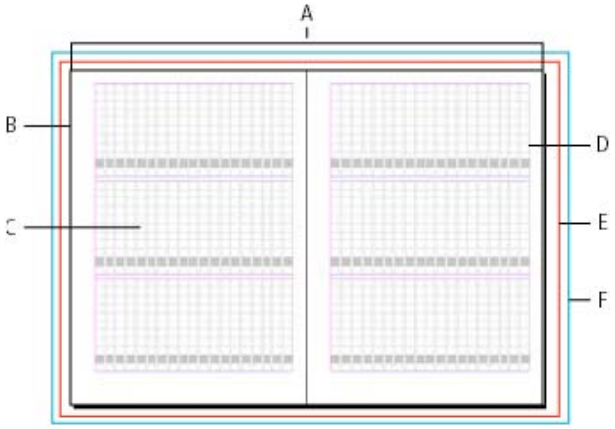
To the top

Each document or spread has a Pasteboard and Guide. This is displayed in Normal View mode. (To switch to normal view, click Normal View Mode in the Tools panel). When the document is displayed in any preview mode, the Paste Board will be replaced by a gray background. You can alter the color of the preview background and guide.

In a document window, structural areas of a page are marked by the following default colors:

- Black lines describe the size of each page in a spread. A thin drop shadow helps distinguish a spread from its pasteboard. You can't change the color of these lines.
- Magenta lines are margin guides.
- Violet lines are column guides.
- The green box and lines are the layout grid.
- The red line around the edge of the page shows the bleed area.
- The blue line around the page shows the slug area.
- Lines of different colors are the ruler guides. Ruler guides will be displayed in the color of the selected layer.

  Column guides appear in front of margin guides. When a column guide is exactly in front of a margin guide, it hides the margin guide.



Adobe also recommends

- Create new documents
- Create frame grids
- Customize layout and frame grids
- Change the grid display
- CJK composition
- Assign a layer color

(cc) BY-NC-SA Twitter™ and Facebook posts are not covered under the terms of Creative Commons.

Legal Notices | Online Privacy Policy

Managing graphics links

- About links and embedded graphics
- Links panel overview
- Embed an image within the document
- Update, restore, and replace links
- Edit original artwork

About links and embedded graphics

To the top

When you place a graphic, you see a screen-resolution version of the file in the layout so that you can view and position it. However, the actual graphic file may be either *linked* or *embedded*.

- Linked artwork is connected to, but remains independent of, the document, resulting in a smaller document. You can modify linked artwork using transformation tools and effects; however, you cannot select and edit individual components in the artwork. You can use the linked graphic many times without significantly increasing the size of the document; you can also update all links at once. When you export or print, the original graphic is retrieved, creating the final output from the full resolution of the originals.
- Embedded artwork is copied into the document at full resolution, resulting in a larger document. You can control versions and update the file whenever you like; as long as the artwork is embedded, your document is self-sufficient.

To determine if artwork is linked or embedded, or change its status from one to the other, use the Links panel.

If the bitmap image you place is 48K or smaller, InDesign automatically embeds the full-resolution image instead of the screen-resolution version in your layout. InDesign displays these images in the Links panel, so that you can control versions and update the file whenever you like; however, the link is not necessary for optimal output.

Note:

If you move a document to another folder or disk (for example, if you take it to a service provider), be sure that you also move the linked graphics files; they are not stored inside the document. You can copy all related files automatically, using the Preflight and Package features.

Links panel overview

To the top

All files placed in a document are listed in the Links panel. These include both local (on disk) files and assets that are managed on a server. However, files that are pasted from a website in Internet Explorer do not display in this panel.

In InCopy, the Links panel also displays linked stories. When you select a linked story in the Links panel, the Link

Info section displays information such as the number of notes, the managed status, and the status of tracked changes.



Links panel

A. Category columns B. Show/Hide Link Information C. One or more instances modified icon D. Modified icon E. Missing-link icon F. Embedded-link icon

When the same graphic appears several times in the document, the links are combined under a disclosure triangle in the Links panel. When a linked EPS graphic or InDesign document contains links, the links are also combined under a disclosure triangle.

A linked file can appear in the Links panel in any of the following ways:

Up to Date

An up-to-date file is blank in the Status column.

Modified

This icon means that the version of the file on disk is more recent than the version in your document. For example, this icon appears if you import a Photoshop graphic into InDesign, and then you or someone else edits and saves the original graphic in Photoshop.

A slightly different version of the Modified icon appears when a graphic is modified and one or more instances are updated while others are not.

Missing

The graphic is no longer in the location from which it was imported, although it may still exist somewhere. Missing links can happen if someone deletes the original file or moves it to a different folder or server after it's been imported. You can't know whether a missing file is up to date until its original is located. If you print or export a document when this icon is displayed, the file may not print or export at full resolution.

Embedded

Embedding the contents of a linked file suspends management operations for that link. If the selected link is currently in an "edit in place" operation, this option is not enabled. Unembedding the file restores management operations to the link.

If a linked object does not appear on a specific document page, the following codes indicate where the object appears: PB (pasteboard), MP (master page), OV (overset text), and HT (hidden text).

For a video tutorial on using the Links panel, see www.adobe.com/go/lrvid4027_id.

InDesign Secrets provides a videocast on Links panel tips and techniques at Saving time with the Links panel.

Use the Links panel

- To display the Links panel, choose Window > Links. Each linked file and automatically embedded file is identified by name.
- To select and view a linked graphic, select a link in the Links panel and then click the Go To Link button , click the page number of the link in the Page column, or choose Go To Link in the Links panel menu. InDesign centers the display around the selected graphic. To view a hidden object, you show the layer (or condition if it's an anchored object).
- To expand or collapse nested links, click the triangle icon to the left of the link. Nested links occur when the same graphic appears several times in the document or when the linked EPS graphic or InDesign document contains links.
- To sort links in the panel, click the category title at the top of the Links panel to sort by that category. Click the same category again to reverse the order. For example, if you click the Page category, the links appear in their order from the first page to the last page. If you click Page again, the links are sorted from last page to first. Use Panel Options to add columns to the Links panel.

Work with Links panel columns

You can display additional categories, such as Creation Date and Layer, in the Links panel to display more information about the graphics. For each category, you can determine whether the information appears as a column in the Links panel and in the Link Info section at the bottom of the Links panel.

1. Choose Panel Options from the Links panel menu.
2. Select the check boxes under Show Column to add columns in the Links panel.

   Folder 0 is the folder that contains the linked file; Folder 1 is the folder that contains Folder 0, and so on.

3. Select the check boxes under Show In Link Info to display the information in the Link Info section at the bottom of the Links panel.
4. Click OK.

You can change the order of columns by selecting a column and dragging it to a different location. Drag the column boundaries to change the column width. Click a category title to sort the links by that category in ascending order. Click again to sort in descending order.

Change the Links panel rows and thumbnails

1. Choose Panel Options from the Links panel menu.
2. For Row Size, select Small Rows, Regular Rows, or Large Rows.
3. For Thumbnails, determine whether thumbnail representations of the graphics appear in the Name column and in the Link Info section at the bottom of the Links panel.
4. Click OK.

Display link information

The Link Info section of the Links panel lists information about the selected linked file.

To change the information displayed in the Link Info section of the Links panel, choose Panel Options from the Links panel menu, and select check boxes in the Show In Link Info column.

- Double-click a link, or select a link and click the Show/Hide Link Information icon, which is a triangle on the left side of the panel.

View metadata via the Links panel

If a linked or embedded file contains metadata, you can view the metadata using the Links panel. You cannot edit or replace metadata associated with a linked file.

- Select a file in the Links panel and choose Utilities > XMP File Info from the panel menu.

Embed an image within the document

To the top

Rather than link to a file that you've placed in a document, you can embed (or store) the file within the document. When you embed a file, you break the link to the original. Without the link, the Links panel doesn't alert you when the original has changed, and you cannot update the file automatically.

Embedding a file increases the document file size.

Embed a linked file

1. Select a file in the Links panel.
2. Do any of the following:
    - Choose Embed Link in the Links panel menu.
    - If there are multiple instances of the file, choose Embed All Instances Of *[Filename]* in the Links panel menu. To embed only one instance, select it and choose Embed Link.

The file remains in the Links panel marked with the embedded-link icon .

Note:

For a text file that appears in the Links panel, select Unlink in the Links panel menu. When you embed a text file, its name is removed from the Links panel.

Unembed a linked file

1. Select one or more embedded files in the Links panel.
2. Do one of the following:
    - Select Unembed Link in the Links panel menu. If there are multiple instances of the file, choose Unembed All Instances Of *[Filename]* in the Links panel menu.
    - Click the Relink button or select Relink in the Links panel menu.
3. Choose to link the file to the original file or to a folder InDesign creates from the embedded data stored in the document.

Update, restore, and replace links

To the top

Use the Links panel to check the status of any link, or to replace files with updated or alternate files.

When you update or reestablish (relink) a link to a file, any transformations performed in InDesign are preserved (if you choose Relink Preserved Dimensions in the File Handling preferences). For example, if you import a square graphic and rotate it 30°, and then you relink it to an unrotated graphic, InDesign rotates it 30° to match the layout of the graphic it's replacing.

Note:

Placed EPS files may contain OPI links, which appear in the Links panel. Don't relink OPI links to files other than those originally intended by the creator of the EPS file; doing so can cause problems with font downloading and color separations.

Choose how relinked graphics are scaled

When you relink to replace one graphic with a different source file, you can keep the image dimensions of the file that's being replaced, or you can display the incoming file in its actual dimensions.

1. Choose Edit > Preferences > File Handling (Windows) or InDesign > Preferences > File Handling (Mac OS).
2. Choose Preserve Image Dimensions When Relinking if you want images to appear at the same size as the images they're replacing. Deselect this option to have relinked images appear at their actual size.

Update modified links

InDesign first looks for a missing link in the folder in which another file has been relinked in the current session. Next, it looks for a link in the same folder where the document is located. If it's still not found, it looks in the parent folder of the document.

Modified links are also called "out of date" links.

- In the Links panel, do one of the following:
    - To update specific links, select one or more links marked with the modified-link icon ⚠. Then click the Update Link button, or choose Update Link from the Links panel menu.
    - To update all modified links, choose Update All Links from the Links panel menu, or select a modified link and Alt-click (Windows) or Option-click (Mac OS) the Update Link button.
    - To update only one link to a graphic that appears in several places in the document, select only the sublink and choose Update Link. If you select the "parent" link, you can update all links to the modified graphic.

Replace a link with a different source file

1. Select any link in the Links panel, and click the Relink button or choose Relink from the Links panel menu. If a "parent" link of multiple instances is selected, choose Relink All Instances Of *[Filename]* from the Links panel menu.

   Relink is disabled in managed stories unless a story is checked out.
2. In the dialog box that appears, select Search For Missing Links In This Folder if you want InDesign to

search the folder for files that have the same names as other missing linked files. If this option is not selected, only the selected image is relinked.
3. Choose Show Import Options to control how the new source file is imported.
4. Locate and double-click the new source file.
5. Choose import options if you clicked the Show Import options option. (See Import options for graphics.)

Restore missing links

1. To restore a missing link, select any link marked with the missing link icon in the Links panel, and click the Relink button .
2. In the dialog box that appears, select Search For Missing Links In This Folder to relink any missing file that appears in the specified folder. Locate and double-click a file.

Find missing links

By default, InDesign checks for missing links and tries to resolve them when you open a document. Two preference options let InDesign check for and find missing links automatically when you open a document.

Check Links Before Opening Document

If you turn off this option, InDesign opens the document immediately, and the link statuses remain pending until links are determined to be up-to-date, missing, or modified. If you turn on this option, InDesign checks for modified or missing links.

Find Missing Links Before Opening Document

If you turn off this option, InDesign does not attempt to resolve the missing links. You may want to turn off this option if links slow performance to a server or if unexpected linkings occur. This option is dimmed if Check Links Before Opening Document is turned off.

Search For Missing Links

Use the Search For Missing Links command to search for and resolve missing links in your document. This command is useful if you turned off the preferences option that checks for missing links when you open a document, and now you have missing links. This command is also useful if you mount a server where images are stored after opening a document.

- To change link settings, open the File Handling section of the Preferences dialog box, and determine whether the Check Links Before Opening Document and Find Missing Links Before Opening Document options are selected.
- To let InDesign attempt to resolve missing links, choose Utilities > Search For Missing Links from the Links panel menu.

  This command is dimmed if the document contains no missing links.

Specify a default Relink folder

1. In the Preferences dialog box, select File Handling.

2. From the Default Relink Folder menu, choose either of the following options, and then click OK:

   Most Recent Relink Folder

   This option displays the most recently used folder you selected when relinking, matching InDesign CS3 behavior.

   Original Link Folder

   This option displays the original location of the linked file, matching the behavior of InDesign CS2 and earlier.

Copy links to a different folder

Use the Copy Link(s) To command to copy graphics files to a different folder and redirect the links to the copied files. This command is especially useful for moving files to a different drive, such as moving files from a DVD to a hard drive.

1. Select the links to the files you want to copy, and choose Utilities > Copy Link(s) To from the Links panel menu.
2. Specify the folder where the linked files will be copied and choose Select (Windows) or Choose (Mac OS).

Relink to a different folder

When you use the Relink To Folder command, you can point to a folder that contains files with the same names as your out-of-date links. For example, if your current links point to low-resolution images, you can specify a different folder that contains high-resolution images. You can specify a different extension for the files, allowing you to change links from .jpg to .tiff, for example.

The Relink To Folder command is dimmed in a managed InCopy story unless the story is checked out.

1. Select one or more links in the Links panel.
2. Choose Relink To Folder from the Links panel menu.
3. Specify the location of the new folder.
4. To use a different extension, select Match Same Filename But This Extension, and specify the new extension (such as AI, TIFF, or PSD).
5. Click Select (Windows) or Choose (Mac OS).

Relink files with different file extensions

The Relink File Extension command lets you replace images based on file extensions. For example, if you have several JPEG images in your document, you can replace them with PSD files. The files with different extensions must be in the same folder as the linked files being replaced.

1. Make sure the files with different file extensions appear in the same folder as the original files.
2. Select one or more links in the Links panel.
3. Choose Relink File Extensions from the Links panel menu.

4. Specify the file extension to replace the selected files, and click Relink.

Replace an imported file using the Place command

1. Do one of the following:
    - To replace the contents of a graphics frame, such as an imported graphic, use the Selection tool to select the frame.

      To replace the contents of a graphics frame, such as an imported graphic, use the Position tool to select the image.
    - To replace the contents of a text frame, use the Type tool to click an insertion point in a text frame, and choose Edit > Select All.
2. Choose File > Place.
3. Locate and select the new file.
4. Make sure that Replace Selected Item is selected, and then click Open.
5. Click Open.

Copy the link pathname

You can copy either the full path of the linked image or the platform style path. Copying the full path of the image is useful for notifying team members where art is located. For example, you can copy the full path and paste it into an email message. Copying the platform path is useful for scripting or for specifying image fields in a data merge.

1. Select a link in the Links panel.
2. From the Links panel menu, choose Copy Info > Copy Full Path or Copy Platform Style Path.
3. Paste the path.

Edit original artwork

To the top

The Edit Original command lets you open most graphics in the application in which you created them so that you can modify them as necessary. Once you save the original file, the document in which you linked it is updated with the new version.

Note:

In InDesign, if you check out and select a managed graphics frame (one that has been exported to InCopy), rather than the graphic itself, the graphic opens in InCopy.

Edit original artwork using the default application

By default, InDesign relies on the operating system to determine which application is used when opening the original.

1. Select one or more images on the page or in the Links panel.
2. Do any of the following:

- In the Links panel, click the Edit Original button .
- Choose Edit > Edit Original.

3. After making changes in the original application, save the file.

Edit original artwork using a different application

1. Select the image.
2. Choose Edit > Edit With, and then specify the application you want to use to open the file. If the application does not appear, choose Other, and browse to locate the application.

Adobe also recommends

- Define preflight profiles
- Package files
- Links panel video

(cc) BY-NC-SA Twitter™ and Facebook posts are not covered under the terms of Creative Commons.

Legal Notices | Online Privacy Policy

Managing pages and spreads

- Move, duplicate, and delete pages and spreads
-
- Control spread pagination
- Rotate the spread view
- Use multiple page sizes

Move, duplicate, and delete pages and spreads

To the top

You can use the Pages panel to freely arrange, duplicate, and recombine pages and spreads. Keep the following guidelines in mind when adding, arranging, duplicating, or removing pages within a document:

- InDesign preserves the threads between text frames.
- InDesign redistributes pages according to how the Allow Document Pages To Shuffle command is set.
- An object that spans multiple pages stays with the page on which the object's bounding box covers the most area.

Move pages using Move Pages command

1. Choose Layout > Pages > Move Pages, or choose Move Pages from the Pages panel menu.
2. Specify the page or pages you want to move.
3. For Destination, choose where you want to move the pages, and specify a page if necessary. Click OK.

Move pages by dragging

- As you drag, the vertical bar indicates where the page will appear when you drop it. If the black rectangle or bar touches a spread when Allow Pages to Shuffle is turned off, the page you're dragging will extend that spread; otherwise, document pages will be redistributed to match the Facing Pages setting in the File > Document Setup dialog box.

  In the Pages panel, drag a page icon to a new position within the document.

  Moving a page's position using the Pages panel

Duplicate a page or spread

- In the Pages panel, do one of the following:

- Drag the page range numbers under a spread to the New Page button. The new spread appears at the end of the document.
- Select a page or spread, and then choose Duplicate Page or Duplicate Spread in the Pages panel menu. The new page or spread appears at the end of the document.
- Press Alt (Windows) or Option (Mac OS) as you drag the page icon or page range numbers under a spread to a new location.

Note:

Duplicating a page or spread also duplicates all objects on the page or spread. Text threads from the duplicated spread to other spreads are broken, but all text threads within the duplicated spread remain intact—as do all text threads on the original spread.

Remove a page from a spread while keeping it in the document

1. Select the spread and deselect Allow Selected Spread To Shuffle in the Pages panel menu.
2. In the Pages panel, drag a page out of the spread until the vertical bar is not touching any other pages.

Delete a page or spread from the document

- Do one of the following:
  - In the Pages panel, drag one or more page icons or page-range numbers to the Delete icon.
  - Select one or more page icons in the Pages panel, and click the Delete icon.
  - Select one or more page icons in the Pages panel, and then choose Delete Page(s) or Delete Spread(s) in the Pages panel menu.

When you move or copy a page or spread from one document to another, all of the items on the page or spread, including graphics, links, and text, are copied to the new document. Section markers are preserved. Threaded text frames are also included, but text that is threaded to pages outside the spread does not transfer. If the page or spread you are copying contains styles, layers, or masters with the same names as their counterparts in the destination document, the destination document's settings are applied to the page or spread.

If you copy a page from a document that has a different size than the document you are copying to, the page and page item positions may not match exactly.

If you want to move or copy a multiple-page spread, deselect Allow Document Pages To Shuffle in the destination document to keep the spread together.

Move or copy pages between documents

1. To move pages from one document to another, open both documents.
2. Choose Layout > Pages > Move Pages, or choose Move Pages from the Pages panel menu.
3. Specify the page or pages you want to move.
4. Choose the destination document name from the Move To menu.
5. For Destination, choose where you want to move the pages, and specify a page if necessary.
6. If you want to remove the pages from the original document, select Delete Pages After Moving.

Note:

When you copy pages between documents, their associated masters are copied automatically. If the new document contains a master with the same name as the master applied to the copied page, however, the master of the new document is applied to the copied page instead.

Move or copy pages between documents by dragging

1. To move pages from one document to another, make sure that both documents are open and visible.

   You can choose Window > Arrange > Tile to display documents side-by-side.

2. Drag the original document's page icon to the new document.
3. In the Insert Pages dialog box, specify where the pages will be added.
4. If you want to remove the pages from the original document, select Delete Pages After Inserting.

Control spread pagination

To the top

Most documents use two-page spreads exclusively. When you add or remove pages before a spread, the pages shuffle by default. However, you may want to keep certain pages in a spread together. For example, you can create gatefold or accordion foldouts by creating a *multiple-page spread* (also called an *island spread*) and adding pages to it. By not allowing pages to shuffle, you can ensure that pages are kept in the same spread.



Pages panel

A. One-page spread B. Four-page spread, identified by brackets around page numbers C. Entire two-page spread selected

Create a multiple-page spread

1. Do one of the following:

   - To keep a single spread together, select a spread in the Pages panel, and then deselect Allow Selected Spread To Shuffle in the Pages panel menu. You can identify an island spread in the Pages panel by the brackets around its page numbers.

   - To allow the creation of spreads of more than two pages in the entire document and to preserve those spreads when you add, remove, or arrange preceding pages, deselect Allow Document Pages To Shuffle on the Pages panel menu. InDesign will preserve spreads of more than two pages while letting two-page spreads repaginate normally.

2. Add pages to the selected spread either by using Insert Pages to insert a new page in the middle of a spread or by dragging an existing page to the spread in the Pages panel. To drag an entire spread, drag its page numbers.



Adding a page to a spread using the Pages panel

Note:

You can include up to ten pages in a spread. When you have reached the limit, the black vertical bar will not appear.

Redistribute pages

You can redistribute a spread's pages to match the Facing Pages setting in the File > Document Setupdialog box.

- Do either of the following:
    - If an individual spread has been allowed to shuffle, select the spread, and choose Allow Selected Spread To Shuffle in the Pages panel menu to select it.
    - If document pages have been allowed to shuffle and you added pages to a spread, choose Allow Document Pages To Shuffle from the Pages panel menu to select it. Click No to redistribute pages. If you click Yes to maintain the multiple-page spreads, brackets surround the numbers on those spreads in the Pages panel, indicating that those spreads are not allowed to shuffle.

Start a document with a two-page spread

Instead of beginning the document with a single page, you can begin your document with a two-page spread.

1. Do either of the following actions:
    - To create a document, choose File > New Document.
    - To edit an existing document, choose File > Document Setup.
2. For Start Page #, specify an even number, such as 2, and then click OK.

Rotate the spread view

To the top

In some instances, you need to edit rotated content. Instead of turning your head sideways to look at the rotated content, you can rotate the spread view. This option is especially useful for working on rotated calendars and tables.

Rotating the spread view does not affect printing or output.



Rotating the spread

A. Before rotating spread B. Rotated spread view C. Rotate icon in Pages panel

1. In the Pages panel, select the page or spread that you want to rotate.
2. Do any of the following:
    - From the Pages panel menu, choose Rotate Spread View > 90° CW, 90° CCW, or 180°.
    - Choose View > Rotate Spread > 90° CW, 90° CCW, or 180°.

A rotation icon appears next to the rotated spread in the Pages panel.

Objects you place or create mirror the rotated view. For example, if you create a text frame when the spread view

is rotated 90 degrees, the text frame is also rotated. However, objects you paste are not rotated.

When transforming objects, keep in mind that you're working on a rotated page view. For example, if you're editing a table on a rotated spread view, changing the "left" side of the table will change what appears to be the top of the table in the rotated view.

Before you output the file or send it to someone else, it's a good idea to avoid confusion by clearing the spread rotation. Choose View > Rotate Spread > Clear Rotation.

Use multiple page sizes

To the top

You can define different page sizes for pages within a single document. This feature is especially useful when you want to manage related designs in one file. For example, you can include business card, postcard, letterhead, and envelope pages in the same document. Using multiple page sizes is also useful for creating gate-fold layouts in magazines.

For video tutorials on creating multiple page sizes in a document, see www.adobe.com/go/lrvid5153_id_en and http://tv.adobe.com/go/4950/.



Multiple page sizes in same document

A. Magazine page B. Gate-fold page C. Spine page

Create different page sizes within a document

Use the Page tool to select the master page or layout page you want to resize, and then use the Control panel to change the settings. A page inherits its page size from its master page, but you can change the size of a layout page so that it's different from the master page applied to it. A master page can be based on another master page of a different size, so that a range of pages of mixed sizes can share the same master content.

To apply a different page size quickly, select the page in the Pages panel, and then choose a page size from the Edit Page Size button .

1. Using the Page tool , select one or more master pages or layout pages that you want to resize.

   Make sure that the entire page is selected in the layout, not only in the Pages panel.

2. Specify settings in the Control panel to change the page size of the selected pages:

   X and Y values

   Change the Y value to determine the vertical position of the page in relation to other pages in the spread.

   W and H page size values

   Change the width and height of the selected pages. You can also specify a page size preset from the menu. To create a custom page size that appears in this list, choose Custom Page Size from the menu, specify the page size settings, and click OK.

Orientation

Select a landscape or portrait page orientation.

Enable Layout Adjustment

Select this option if you want the objects on the page to be adjusted automatically when the page size changes. See About automatic layout adjustment.

Show Master Page Overlay

Select this option to display a master page overlay on top of any page that is selected with the Page tool.

Objects Move With Page

Select this option to make the objects move along with the page when you adjust the X and Y values.

Use master page overlays

When you use the Page tool to select a page and turn on the Show Master Page Overlay option, a shaded box appears over the selected page. You can move the master page overlay so that master page items appear in the proper location. The Show Master Page Overlay option is especially useful if the master page and document page have different page sizes.



Aligning the master page overlay to a smaller layout page

1. Using the Page tool, select a page.
2. In the Control panel, select Show Master Page Overlay.
3. Drag the edge of the master page overlay to position the page items.

(cc) BY-NC-SA Twitter™ and Facebook posts are not covered under the terms of Creative Commons.

Legal Notices | Online Privacy Policy

マスターページ

マスター、重なり順、レイヤーについて
マスターの作成
マスターページの適用
マスターのコピー
ドキュメントからのマスターの削除
マスターアイテムのオーバーライドまたは分離
別のドキュメントからのマスターの読み込み

詳しい情報と手順については、以下のリンクをクリックしてください。

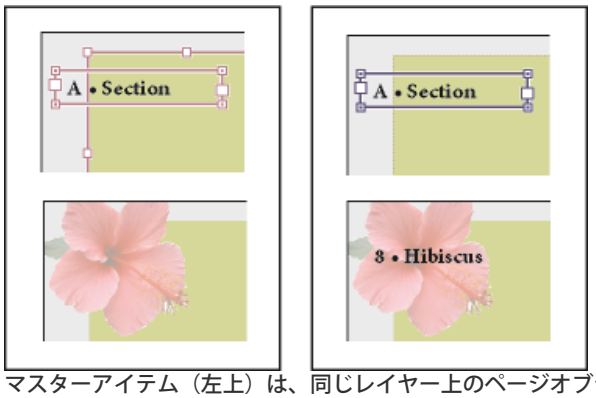
マスター、重なり順、レイヤーについて

トップへ戻る

マスターは、多数のページに同一のレイアウトをすばやく適用できるようにするためのページです。マスター上のオブジェクトは、マスターが適用されているすべてのページに表示されます。ドキュメントページ上に表示されるマスターアイテムは、点線の境界で囲まれています。マスターに対して行った変更は、マスターが適用されているページにも自動的に反映されます。通常、マスターには、繰り返しのロゴ、ページ番号、ヘッダーおよびフッターを含めます。また、マスターには、ドキュメントページ上のプレースホルダーとしての役目をする、空のテキストフレームまたはグラフィックフレームを含めることもできます。マスターアイテムは、上書きする場合を除いて、ドキュメントページで選択することはできません。

マスターには、ドキュメントページと同様に、複数のレイヤーを含めることができます。単一レイヤーのオブジェクトは、そのレイヤー内で独自の順序で重なっています。マスターページのレイヤー上にあるオブジェクトは、ドキュメントページの同じレイヤーに配置されたオブジェクトの背面に表示されます。

マスターアイテムをドキュメントページオブジェクトの前面に表示するには、マスターオブジェクトをマスターの上位レイヤーに配置します。上位レイヤーのマスターアイテムは、下位レイヤーのすべてのオブジェクトの前面に表示されます。すべてのレイヤーを結合すると、マスターアイテムはドキュメントページのオブジェクトの背後に移動します。



マスターアイテム（左上）は、同じレイヤー上のページオブジェクトの背面に表示される（左下）。マスターアイテムを上位レイヤーに移動すると（右上）、そのオブジェクトは下位レイヤーのすべてのオブジェクトより前面に表示される（右下）

マスターに関するヒントとガイドライン

- 何種類ものマスターを作成し、それらを個別の内容を含むドキュメントページに順番に適用すると、複数のデザインを比較することができます。
- 新しいドキュメントをすばやくレイアウトするには、段落および文字スタイル、カラーライブラリ、他のスタイルやプリセットと一緒に、マスターをドキュメントテンプレートに保存します。
- マスター上の段組やマージン設定を変更する場合、または異なる段組とマージン設定の新しいマスターを適用する場合は、ページ上のオブジェクトが新しいレイアウトに自動的に調整されるようにすることができます（詳しくは、自動レイアウト調整機能についてを参照してください）。
- マスターに自動ページ番号を挿入すると、マスターの適用先となるドキュメントの各セクションに正しいページ番号が表示されます。（基本的なページ番号の追加を参照してください）。

マスターの作成

トップへ戻る

デフォルトでは、作成するドキュメントにはマスターページが 1 つあります。追加のマスターページは、新たに作成するか、既存のマスターペー

ジまたはドキュメントページを基に作成することができます。マスターページを別のページに適用した後、基になっているマスターに変更を加えると、それに基づいているマスターとドキュメントページにも変更が反映されます。このことを利用すれば、ドキュメント内の多くのページにわたって、レイアウトを容易に変更することができます。

マスターページの操作に関するビデオチュートリアルについては、www.adobe.com/go/vid0069_jp を参照してください。

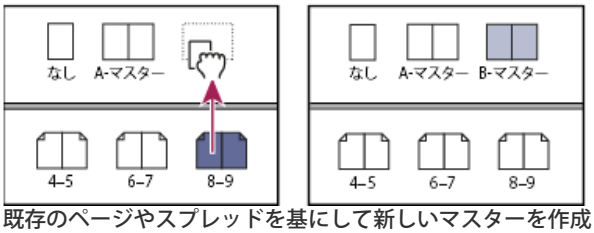
マスターの新規作成

1. ページパネルメニューから「新規マスター」を選択します。
2. 次のオプションを指定して、「OK」をクリックします。
   - 「プレフィックス」に、各ページに適用されているマスターをページパネルで識別するためのプレフィックスを入力します。4 文字まで指定できます。
   - 「名前」に、マススプレッドの名前を入力します。
   - 「基準マスター」で、このマススプレッドの基準とする既存のマススプレッドを選択するか、「なし」を選択します。
   - 「ページ数」に、マススプレッドのページ数を入力します（10 ページ以下）。通常は、マススプレッドを適用するドキュメントスプレッドのページ数を指定します。

既存のページまたはスプレッドからのマスターの作成

- ページパネルのページセクションから、スプレッド全体をマスターセクションへドラッグします。
- ページパネルでスプレッドを選択し、ページパネルメニューから「マスターページとして保存」を選択します。

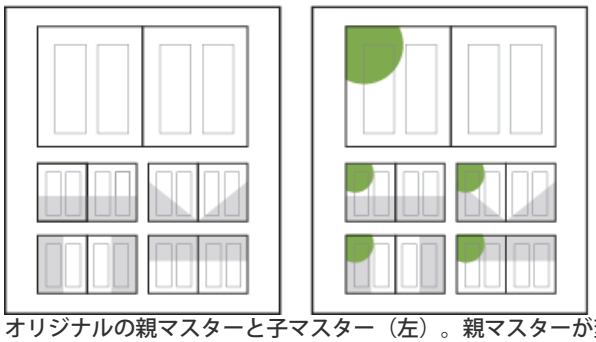
オリジナルのページまたはスプレッドにあるオブジェクトが、新しいマスターの一部になります。オリジナルのページにマスターが適用されていた場合は、新しいマスターはオリジナルのページのマスターが基準になります。



既存のページやスプレッドを基にして新しいマスターを作成

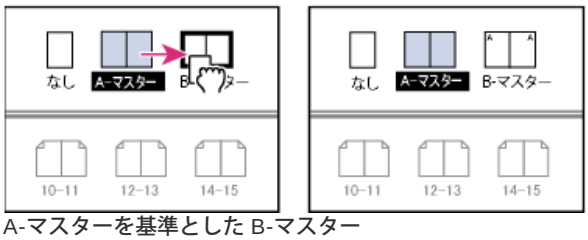
他のマスターに基づくマスター

同じドキュメント内に使用されているマスターを基にして、同時に更新できる別のマスター（親マスターと呼ばれる）を作成することができます。親マスターに基づいたマススプレッドは、子マスターと呼ばれます。例えば、章ごとにデザインがわずかに異なるドキュメントを 10 章作成する場合に、すべての章で共通するレイアウトとオブジェクトを含むマススプレッドを基にして、各章のドキュメントを作成します。この方法によって、基本デザインを変更する場合に、10 の章を個々に変更するのではなく、親マスターを変更するだけで済みます。子マスターのフォーマットを変更します。マスターアイテムをドキュメントページで上書き（オーバーライド）できるのと同様に、親マスターアイテムを子マスターで上書きして、マスターのバリエーションを作成することができます。これは、デザインの統一性を保ちながら更新するための有効な方法です。


オリジナルの親マスターと子マスター（左）。親マスターが変更されると子マスターも自動的に更新される（右）

❖ ページパネルの「マスター」セクションで、マスターを他のマスターの基準にするには、次のいずれかの操作を行います。

- マススプレッドを選択し、ページパネルメニューから「マスターページ設定 "マススプレッド名"」を選択します。「基準マスター」で別のマスターを選択して、「OK」をクリックします。
- 基準にしたいマススプレッド名を選択し、それが適用される別のマススプレッド名までドラッグします。



A-マスターを基準とした B-マスター

マスターのレイアウトの編集

マスターページ上のレイアウトは、いつでも編集することができます。レイアウトの変更は、そのマスターが適用されているすべてのページに自動的に反映されます。例えば、マスターページにテキストやグラフィックを追加すると、そのマスターが適用されているすべてのページに表示されます。

注意： 特定のページでマスターページオブジェクトを上書き（オーバーライド）または分離した場合は、そのオブジェクトにはマスターページ上の変更が反映されない場合があります。

1. ページパネルで、編集したいマスターのアイコンをダブルクリックします。または、ドキュメントウィンドウ下部にあるページボックスのポップアップメニューから、マスターページ名を選択します。ドキュメントウィンドウにマススプレッドが表示されます。
2. マスター上のレイアウトを編集します。

そのマスターが適用されているすべてのページが自動的に更新されます。

マスターページのサイズを変更するには、ページツールを使用してマスターページを選択し、コントロールパネルのオプションを使用してサイズを変更します。詳しくは、複数のページサイズの使用を参照してください。

マスター編集の結果を表示するには、複数のウィンドウを使用します。ウィンドウ／アレンジ／新規ウィンドウを選択してから、ウィンドウ／アレンジ／並べて表示を選択します。一方のウィンドウにページを表示し、もう一方のウィンドウにマスターを表示します。次に、マスターを編集し、ページの更新を確認します。

マスターページオプションの変更

マスターページのオプションでは、マスターの名前やプレフィックスを変更したり、基準とするマスターを指定したり、マススプレッドのページ数を変更したりすることができます。

1. ページパネルで、マススプレッドの名前をクリックし、マススプレッドを選択します。
2. ページパネルメニューから「マスターページ設定 "マスター名"」を選択します。
3. オプションを変更し、「OK」をクリックします。

トップへ戻る

マスターページの適用

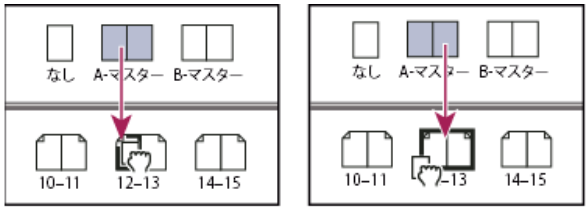
ドキュメントが、3 つ折りや観音開きのようなカスタムのスプレッドを含む場合は、どのマスターも同じページ番号になります。

マスターページとドキュメントページのページサイズが異なる場合、マスターページを適用すると、ドキュメントページのサイズが変化します。ドキュメントページにカスタムページサイズを使用している場合は、そのカスタムドキュメントページサイズを維持するか、マスターページのサイズを適用するかを指定できます。

注意： ドキュメントページ上のマスターアイテムは、点線の境界で示されます。ドキュメントページ上にマスターアイテムが表示されない場合は、マスターアイテムが下位レイヤー上にあるか、またはマスターアイテムが非表示になっている可能性があります。ページパネルメニューから「マスターアイテムを表示」を選択します。

ドキュメントページまたはスプレッドへのマスターの適用

- マスターを 1 つのページに適用するには、ページパネルでマスターページアイコンをページアイコンにドラッグします。目的のページが黒い四角形で囲まれたら、マウスボタンを放します。
- マスターをスプレッドに適用するには、ページパネルでマスターページアイコンをスプレッドアイコンの角にドラッグします。目的のスプレッドアイコン全体が黒い四角形で囲まれたら、マウスボタンを放します。

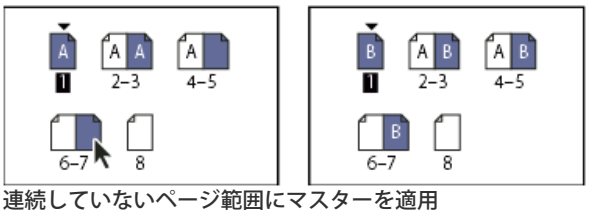


マスターをページに適用（左）、スプレッドに適用（右）

複数ページへのマスターの適用

❖ 次のいずれかの操作を行います。

- ページパネルで、新しいマスターを適用するページを選択します。次に、Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押しながらマスターをクリックします。
- ページパネルメニューから「マスターページを適用」を選択し、「マスターページ」で適用するマスターを選択します。次に、「適用ページ」にマスターを適用するページ範囲を入力し、「OK」をクリックします。マスターは一度に複数のページに適用できます。例えば、「5, 7-9, 13-16」と入力すると、5 ページ、7 ～ 9 ページ、13 ～ 16 ページに同じマスターを適用することができます（詳しくは、ページパネルでの絶対番号またはセクション番号の表示を参照してください）。



連続していないページ範囲にマスターを適用

ドキュメントページからのマスターの割り当て解除

❖ ページパネルのマスターセクションから「[なし]」マスターを適用します。

ドキュメントページからマスターの割り当てを解除すると、マスターのレイアウトとアイテムはドキュメントページに適用されなくなります。マスターに必要なデザイン要素の大部分を含んでいる状態で、ドキュメントページ内の数ページのレイアウトをカスタマイズする必要がある場合には、ドキュメントページでマスターの割り当てを解除の代わりに、マスターアイテムを上書き（オーバーライド）したり、編集したり、変更することができます。

トップへ戻る

マスターのコピー

同じドキュメント内のマスターをコピーしたり、ドキュメントから他のドキュメントにマスターをコピーしたりして、新しく作成するマスターの原案として使用することができます。ブックのドキュメントを同期させたり、他のドキュメントからマスターページを読み込み、別のドキュメントにマスターをコピーすることもできます。

ドキュメント内のマスターのコピー

❖ ページパネルで、次のいずれかを選択します。

- マススプレッドの名前を、ページパネル下部にあるページを挿入ボタンにドラッグします。
- マススプレッドを選択し、ページパネルメニューから「マススプレッド "マススプレッド名" の複製」を選択します。

マスターをコピーする場合は、コピーされたマスターのページプレフィックスがアルファベットで次の文字になります。

別のドキュメントへのマスターのコピーまたは移動

1. マスターを追加したいドキュメントを開きます。次に、コピーするマスターを含むドキュメントを開きます。
2. コピーまたは移動元となるドキュメントのページパネルで、次のいずれかの操作を行います。
   - マススプレッドの名前をクリックして選択し、そのコピー先のドキュメントのウィンドウにドラッグします。
   - 移動またはコピーしたいマスターを選択します。レイアウト／ページ／マスターページの移動を選択し、移動先ポップアップメニューから目的となるドキュメント名を選択します。コピーまたは移動元となるドキュメントからページを削除する場合は、「移動後ページを削除」を選択して、「OK」をクリックします。

同じプレフィックスを持つマスターが既にターゲットドキュメントに存在する場合、移動したマスターには、アルファベット順で次に使用可能な文字が割り当てられます。

トップへ戻る

ドキュメントからのマスターの削除

1. ページパネルでマスターページアイコンを選択します。
   使用していないマスターページをすべて選択するには、ページパネルメニューから「未使用のマスターを選択」を選択します。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - 選択したマスターページまたはスプレッドアイコンを、パネルの下部にある削除アイコンにドラッグします。
   - パネルの下部にある削除アイコンをクリックします。
   - パネルメニューから「マススプレッド "マススプレッド名" の削除」を選択します。

マスターページを削除した場合、削除されたマスターページが適用されていたドキュメントページに [なし] マスターが適用されます。

トップへ戻る

マスターアイテムのオーバーライドまたは分離

マスターページをドキュメントページに適用すると、マスターページ上のすべてのオブジェクト（マスターアイテム）がドキュメントページに表示されます。特定のページを、マスターとは少しだけ違うレイアウトにしたい場合があります。そのような場合でも、ページのマスターレイアウトを再び作成したり、新しくマスターを作成したりする必要はありません。マスターアイテムをオーバーライド（上書き）または分離することができます。ドキュメントページ上の他のマスターアイテムは、引き続きマスターと連動して更新されます。

ドキュメントページ上のマスターアイテムをオーバーライドすることと分離することの相違点に注意してください。

マスターアイテム属性のオーバーライド マスターアイテムをオーバーライドすると、マスターページとの連動性を損なうことなくドキュメントページにコピーすることができます。一度アイテム自体がオーバーライドされると、そのアイテムの 1 つ以上の属性を選択的にオーバーライドして、カスタマイズすることができます。例えば、ローカルコピーの塗りカラーの変更後に、再度、マスターページにあるアイテムの塗りのカラーに変更を加えても、ローカルコピーのカラーが更新されることはありません。ただし、サイズなどのその他の変更を加えなかった属性については、ローカルコピーでオーバーライドされていないため、引き続き更新されます。オーバーライドは後で削除して、オブジェクトをマスターと一致させることができます。
オーバーライドできるマスターページオブジェクトの属性には、線、塗り、フレームの内容、変形（回転、拡大 / 縮小、傾斜、サイズ変更）、角オプション、テキストフレームのオプション、ロック状態、透明度、オブジェクト効果などがあります。

マスターからのアイテムの分離 ドキュメントページで、マスターからマスターアイテムを分離することができます。アイテムを分離する前に、ローカルコピーを作成して、ドキュメントページでオーバーライドする必要があります。分離されたアイテムは、マスターページとの連動性がなくなるため、マスターと連動して更新されることはありません。

マスターアイテムのオーバーライド

1. マスターページ上でマスターアイテムをオーバーライドできることを確認してください。

   ページパネルメニューでマスターアイテムの「選択範囲のマスターページアイテムのオーバーライドを許可」が選択されている場合にのみ、そのアイテムをオーバーライドできます。

2. 次のいずれかの操作を行います。

   - ドキュメントページ上に配置された特定のマスターアイテムをオーバーライドするには、Ctrl+Shift キー（Windows）または Command+Shift キー（Mac OS）を押しながらそのアイテムをクリックします（複数のアイテムを選択する場合はドラッグします）。必要に応じて、選択したマスターアイテムを変更します。アイテムは、他のページアイテムと同様に選択および編集できるようになっていますが、マスターページとの連動性は維持されたままです。
   - ドキュメントスプレッド上のすべてのマスターページアイテムをオーバーライドするには、スプレッドをターゲットにし、ページパネルメニューから「すべてのページアイテムをオーバーライド」を選択します。これで、すべてのマスターアイテムを選択および編集することができるようになります。

   マスターアイテムをオーバーライドすると、点線で描かれた境界線ボックスは実線になり、ローカルコピーが作成されていることを示します。

   注意： 連結しているテキストフレームをオーバーライドすると、その連結で表示されているフレームは、スプレッドの別のページ上にある場合でも、すべてオーバーライドされます。

マスターアイテムの分離

- マスターから単一のマスターアイテムを分離するには、最初に Ctrl+Shift キー（Windows）または Command+Shift キー（Mac OS）を押しながらドキュメントページ上のアイテムをクリックして、オーバーライドします。次に、ページパネルメニューから「選択部分をマスターから分離」を選択します。
- スプレッド上でオーバーライドしているすべてのマスターアイテムを分離するには、分離したいマスターページアイテムをオーバーライドし、ドキュメント内でそのスプレッドをターゲットにします（元のマスターページに移動しないでください）。ページパネルメニューから「すべてのオブジェクトをマスターから分離」を選択します。このコマンドを使用できない場合は、そのスプレッド上にはオーバーライドされているオブジェクトがありません。

マスターアイテムのオーバーライドの防止

作業によっては、一部のマスターアイテムを除くすべてをオーバーライドしたい場合があります。例えば、ドキュメントページ上の背景画像などのマスターアイテムをオーバーライドしたいが、ページ番号のヘッダーはオーバーライドしたくない場合があります。ヘッダーがオーバーライドされるのを防ぐことで、ヘッダーを除くすべてのマスターアイテムをオーバーライドするには、「すべてのページアイテムをオーバーライド」オプションを選択できます。

1. マスターページで、アイテムを選択します。
2. ページパネルメニューの「選択範囲のマスターページアイテムのオーバーライドを許可」の選択を解除します。

オーバーライドが許可されていないマスターアイテムは、ドキュメントページに表示される際にフレーム枠がありません。連結テキストフレームのオーバーライドを防止する場合、その連結内のすべてのテキストフレームに同じ設定が適用されます。

マスターアイテムの再適用

マスターアイテムをオーバーライドした後に、マスターページと一致するようにマスターオブジェクトを復帰させることができます。このとき、オブジェクト属性は対応するマスター上のオブジェクト属性と連動して、マスターを編集するときに再び更新されます。オブジェクトのローカルコピーが削除され、点線の境界で示されるように、マスターアイテムを選択できません。選択されているオブジェクト、またはスプレッド上のすべてのオブジェクトのオーバーライドを削除できますが、ドキュメント全体のオーバーライドを一度に削除することはできません。

❖ 次のいずれかの操作を行います。

- オブジェクトからマスターのオーバーライドを削除するには、元はマスターアイテムであったオブジェクトを選択します。次にページパネルで、選択したオブジェクトが含まれているスプレッドをターゲットにし、ページパネルメニューから「指定されたローカルオーバーライドを削除」を選択します。
- スプレッドからすべてのマスターオーバーライドを削除するには、ページパネルで、すべてのマスターオーバーライドを削除するスプレッド（またはマススタースプレッド）をターゲットにします。編集／選択を解除を選択して、オブジェクトが何も選択されていない状態にします。ページパネルメニューから「すべてのローカルオーバーライドを削除」を選択します。

分離したマスターページオブジェクトは、それらをマスターページに復帰させることはできません。逆に、分離したオブジェクトを削除してから、ページにマスターを再適用することは可能です。

オーバーライドされたマスターページオブジェクトを含んでいるページにマスターを再適用すると、オーバーライドされているオブジェクトは分離され、すべてのマスターページオブジェクトが再適用されます。この結果、いくつかのオブジェクトでは、オーバーライドしたものと再適用されたものという 2 つのコピーがページ上に存在する場合があります。分離したオブジェクトを削除して、マスターのデザインに正確に一致させる必要があります。

マスターアイテムの非表示

ドキュメントの 1 つまたは複数のページ上のマスターページアイテムを非表示にするには、「マスターアイテムを隠す」を使用します。非表示のマスターアイテムは、印刷も出力もされません。

1. ページパネルで、マスターアイテムを非表示にするページまたはスプレッドを選択します。
2. ページパネルメニューで「マスターアイテムを隠す」を選択します。

マスターアイテムを再び表示するには、ページパネルでページまたはスプレッドを選択し、ページパネルメニューから「マスターアイテムを表示」を選択します。

トップへ戻る

別のドキュメントからのマスターの読み込み

マスターは、別の InDesign ドキュメント（バージョンの制限なし）をアクティブなドキュメントに読み込むことができます。目的のドキュメントにコピーまたは移動元となるドキュメントのマスターページとは異なる名前を持つマスターページが含まれる場合、そのページとそのドキュメントページのオーバーライドは変更されません。

1. ページパネルメニューで、「マスターページの読み込み」を選択します。
2. 読み込むマスターページを含む InDesign ドキュメントを検索して、ダブルクリックします。
3. 読み込んだマスターが現在のドキュメントのマスターと同じ名前である場合の処理を決定します。
    - ソースのマスターが同じ名前を持つ目的のドキュメントのマスターをオーバーライドしたい場合は、「マスターページの置換」を選択します。目的のドキュメントがオーバーライドされたアイテムを持っていない場合は、読み込み時にマスターページを置換するのが安全です。
    - アルファベットで次に使用可能な文字にページプレフィックスを変更するには、「マスターページ名の変更」を選択します。

読み込み先のドキュメントからマスターを読み込んだら、読み込み先と読み込み元のドキュメント間にはリンクが設定されます。同じ読み込み先のドキュメントのマスターを後で読み込んだ場合は、再読み込みされたマスターページのオーバーライドされたアイテムとその親アイテムとの連動性が維持されます。この連動性により、異なるドキュメント内のマスターページの（それらのドキュメントを 1 つのブックに入れなくても）整合性を保つことができます。

マスターページの整合性を保つこの方法を使用したい場合、マスター上の何らかのオブジェクトをオーバーライドする前に、マスターページを読み込み先のドキュメントから読み込む必要があります。ドキュメントがアイテムをオーバーライドし、読み込み先のドキュメントからマスターを読み込んでいない場合、読み込み先のドキュメントからマスターが読み込まれると、オーバーライドされたアイテムは分離され、オーバーライドされたアイテムの親マスターと同じ名前でマスターページを置換します。

ただし、最初にマスターを読み込んだドキュメントとは異なるドキュメントのマスターを後で読み込み、マスターページを置換する場合、オーバーライドされたアイテムは分離される場合があります。コピーまたは移動元となる新しいドキュメントの同じ名前のマスターは、2 セットのオブジェクトを作成して、オーバーライドされたアイテムを含むドキュメントページに適用されます。

関連項目

マスターページのビデオ

(cc) BY-NC-SR

法律上の注意 | プライバシーポリシー

Numbering pages, chapters, and sections

- Add section and chapter numbering
- Define section numbering
- Document numbering options
- Create headers and footers
- Add automatic page numbers for story jumps

For detailed information and instructions, click the links below.

Add section and chapter numbering

To the top

Determine what kind of numbering you want to use for your document or book. For long documents, you can assign chapter numbers. Each document can be assigned only one chapter number. If you want to use different numbering within a document, you can define ranges of pages as sections; these sections can be numbered differently. For example, the first ten pages of a document (the front matter) might use Roman numerals, and the rest of the document might use Arabic numerals.

A single InDesign document can contain up to 9,999 pages, but page numbers can be as large as 999,999. (For example, you can correctly number a 100-page document that starts on page 9,949.) By default, the first page is a recto (right) page numbered 1. Odd-numbered pages always appear on the right; if you use the Section Options command to change the first page number to an even number, the first page becomes a verso (left) page.

For information on creating basic page numbering in a document, see Add basic page numbering.

Add an automatically updated chapter number

You can add a *chapter number variable* to your document. Like page numbers, chapter numbers can be updated automatically and formatted and styled as text. A chapter number variable is commonly used in documents that are part of a book. A document can have only one chapter number assigned to it; if you want to divide a single document into chapters, you can create sections instead.

Note:

Chapter numbers cannot be included as a prefix in a generated index or table of contents (such as 1-3, 1-4, and so on). If you want chapter numbers to be included as prefixes, use section prefixes instead of chapter numbers.

1. If necessary, create a text frame where you want a chapter number to appear. If you want a chapter number to appear on several pages, create the text frame on a master page, and apply that master page to the document pages.
2. In the chapter number text frame, add any text that will come before or after the chapter number.
3. Place the insertion point where you want the chapter number to appear, and then choose Type > Text Variables > Insert Text Variable > Chapter Number.

You can update the starting number and format of chapter numbering by choosing Layout > Numbering & Section Options.

Add an automatically updated section marker

1. Define sections in your document. (See Define section numbering.)
2. On a page or master that you're using in a section, drag the Type tool to create a text frame large enough for the section marker text, or click in an existing frame.
3. Choose Type > Insert Special Character > Markers > Section Marker.



On master page A, section marker (left) and section marker with page number marker inserted (right)

Change the format of page and chapter numbering

1. Choose Layout > Numbering & Section Options.
2. Under Page Numbering or Document Chapter Numbering, select a new number format for Style. (See Document numbering options.)
3. Click OK.

Define section numbering

To the top

By default, page and chapter numbers in a book are numbered consecutively. Using Numbering & Section Options, you can restart page numbering at a specified page, add prefixes to page numbers, and change the numbering style of both pages and chapters.

You can define a section prefix to label section pages automatically. For example, if you specify A– for Section Prefix on page 16 of a document and include the section prefix, the page will appear in the table of contents or index as A–16. Text you type for a section marker appears when you choose Type > Insert Special Character > Markers > Section Marker.



Pages panel

A. Section indicator icon shows start of section B. Page number is changed for new section C. Status bar displays document length

Define sections in a document

1. In the Pages panel, select the first page in the section you want to define.
2. Choose Layout > Numbering & Section Options, or choose Numbering & Section Options in the Pages panel.
3. If you're changing the numbering options for any page other than the first page of the document, make sure that Start Section is selected. This option marks the selected page as the beginning of a new section.
4. As necessary, specify the numbering and section options (see Document numbering options), and then click OK.

   A section indicator icon appears above the page icon in the Pages panel, indicating the start of a new section.

5. To end the section, repeat the section numbering steps on the first page that follows the section.

Edit or remove section numbering

1. In the Pages panel, double-click the section indicator icon that appears above the page icon in the Pages panel. Or, select a page that uses a section marker, and choose Numbering & Section Options in the Pages panel menu.
2. Do any of the following, and then click OK:
    - To change the style or starting number, change section and numbering options.
    - To remove a section, deselect the Start Section option.

To quickly identify a section in the Pages panel, position the pointer precisely over any section indicator icon . A tool tip appears, displaying the starting page number or section prefix.

Display absolute or section numbering in the Pages panel

The Pages panel can display *absolute* numbering (labeling all pages with consecutive numbers, starting at the first page of the document) or *section* numbering (labeling pages by section, as specified in the Section Options dialog box).

Changing the numbering display affects how pages are indicated in the InDesign document, as in the Pages panel and in the page box at the bottom of a document window. The numbering display also affects how you specify page ranges when printing and exporting the document. However, the numbering display does not change the appearance of page numbers on document pages.

1. Choose Edit > Preferences > General (Windows) or InDesign > Preferences > General (Mac OS).
2. For Page Numbering, choose a numbering method in the View menu.



Pages panel showing absolute numbering (left) and section numbering (right)

Document numbering options

To the top

You can change document numbering options when you select a document page (not a master page) and choose Layout > Numbering & Section Options. You can also change these options when you choose Document Numbering Options from the Book panel menu.

Automatic Page Numbering

Select if you want the page numbers of the current section to follow the numbering of the previous section. Using this option, the page numbers in the document or section update automatically when you add pages prior to it.

Start Page Numbering At

Type the starting number for your document or for the first page of the current section. For example, if you want to restart the numbering for a section, type 1 . The remaining pages in the section will be renumbered accordingly.

Note:

If you chose a non-Arabic page-numbering style (such as Roman numerals), you still must type an Arabic numeral in this box.

Section Prefix

Type a label for the section. Include the spaces or punctuation you want to appear between the prefix and the page number (for example, A–16 or A 16). The prefix is limited to eight characters.

You cannot enter a blank space by pressing the spacebar—copy and paste a fixed-width space character from the document window instead. Note that plus (+) or comma (,) symbols cannot be used in section prefixes. (See Insert white space characters.)

Style (Page Numbering)

Choose a page-numbering style from the menu. The style applies to all pages in this section only.

Section Marker

Type a label that InDesign inserts on the page at the location of a section marker character that appears when you choose Type > Insert Special Character > Markers > Section Marker.

Include Prefix When Numbering Pages

Select if you want the section prefix to appear when you generate a table of contents or index, or when you print pages that contain automatic page numbers. Deselect this option to display the section prefix in InDesign but hide the prefix in the printed document, index, and table of contents.



Section prefix in document window

A. Section prefix in the page box at the bottom of the document window B. Section marker and prefix on the page itself

Style (Document Chapter Numbering)

Choose a chapter-numbering style from the menu. This chapter style is used throughout the document.

Automatic Chapter Numbering

Select this option to number chapters sequentially in a book.

Start Chapter Numbering At

Specify the starting number of the chapter numbering. This option is useful if you don’t want chapters to be numbered sequentially in the book.

Same As Previous Document In The Book

The same chapter number as the previous document in a book is used. Select this option if the current document is part of the same chapter as the previous document in a book.

Create headers and footers

To the top

Headers and footers run through the top and bottom of the pages in your document, providing important background information. To create a simple header or footer that includes page numbering, see Add basic page numbering.

Headers and footers can include such items as page, chapter, or section numbers; title or heading text; the author's name; and the document's filename and creation or modification date.

You can add many of these items by using text variables. InDesign includes several preset variables, such as Creation Date and File Name. You can modify these variables, and you can create your own. For example, you can create a variable that displays the first use of a Heading paragraph style in the header or footer. Once you create or edit the variables you need, you assemble them on the master page to create your header and footer, and then you apply the master page to the appropriate document pages.



Using page numbers and variables to create a footer

A. Footer variable inserted on master page B. Variable text on document page that grabs text from the first heading on the page

For a video tutorial on creating headers and footers, see www.adobe.com/go/vid0078.

Create a header or footer on a master page

1. If necessary, create or edit the variables you want to use in your header or footer. (See Create variables for running headers and footers.)
2. Go to the master page where you want to add the header or footer.

   The header or footer will appear on any document page to which the master page is applied.

3. Create a text frame large enough to include all the header or footer information. Place the text frame above or below where the content of the document pages will appear.
4. Add text, page numbers, and variables as needed.
5. Apply the master page to document pages where you want the header or footer to appear.
6. If necessary, create headers and footers for additional master pages.

Create variables for running headers and footers

By default, the Running Header variables insert the first occurrence (on the page) of the text to which the specified style is applied. Running Header variables are especially useful for displaying the current heading or title in the header or footer.

1. If your content is not already formatted, create and apply the paragraph style or character style for the text you want to appear in the header (such as a title or heading style).
2. Choose Type > Text Variables > Define.
3. Click New, and then type a name for the variable.
4. From the Type menu, choose Running Header (Paragraph Style) or Running Header (Character Style).
5. Specify the following options:

   Style

   Choose the style to display in your header or footer.

Use

Decide whether you want the first or last occurrence of the style that's applied on the page. First On Page is the first paragraph (or character) that begins on a page. If there is no occurrence of the style on the page, the previous occurrence of the applied style is used. If there is no previous occurrence in the document, the variable is empty.

Delete End Punctuation

If selected, the variable displays the text minus any end punctuation (periods, colons, exclamation points, and question marks).

Change Case

Select this option to change the case of the text that appears in the header or footer. For example, you may want to use sentence case in your footer, even though the heading on the page appears in title case.

6. Click OK, and then click Done in the Text Variables dialog box.

   You can now insert the variable in a header or footer you create on the master page.

   If a header or footer text frame has been created on the master page of the InDesign document, you can insert the variable in the header or footer. (See Edit text on a master page.)

Add automatic page numbers for story jumps

To the top

You can easily maintain the *jump lines* of stories that continue to other pages, such as a line that says "Continued on page 42." Use a *jump line page number* to automatically update the number of the page containing a story's next or previous threaded text frame when you move or reflow the story's threaded text frames.

Usually the jump line page number should be in a separate text frame from the story it tracks. That way, the jump line page number remains in position even if the story's text reflows.

If you insert a Current Page Number character in the Find/Change dialog box, jump line page numbers can also be found.

1. With the Type tool, drag to create a new text frame where you want the jump line to appear.
2. With the Selection tool, position the new text frame so that it touches or overlaps the frame containing the story you want to track.

   Make sure text frame touches or overlaps the story you want it to track.

3. Select the Type tool and click an insertion point in the new text frame. Then type the text that you want to appear before the page number, such as "Continued on" or "Continued from".
4. Then choose Type > Insert Special Character > Marker and one of the following options:

   Next Page Number

   Inserts the number of the page containing the story's next frame. Use this character when creating a "continued on" jump line.

Previous Page Number

Inserts the number of the page containing the story's previous frame. Use this character when creating a "continued from" jump line.

The page number automatically updates to reflect the current location of the next or previous frame of the story.

5. To prevent the story from being moved without its jump line, Shift-select the frames with the Selection tool, then choose Object > Group.
6. If necessary, repeat this procedure to add more jump lines.

Note:

If an unwanted character appears at the beginning of the page number (so that, for example, a jump line reads "Cont'd on page A16" instead of "Cont'd on page 16"), you probably included a section prefix in the Numbering & Section Options dialog box. Turn off or edit the prefix.

Adobe also recommends

- Number pages, chapters, and paragraphs in a book
- Add basic page numbering
- Number pages, chapters, and paragraphs in a book
- Master pages
- Text variables
- Cross-references

(cc) BY-NC-SA Twitter™ and Facebook posts are not covered under the terms of Creative Commons.

Legal Notices | Online Privacy Policy

Placing graphics

- Place (import) graphics
- Import options for graphics
- Place multiple graphics
- Control layer visibility in imported images
- Paste or drag graphics
- Fixing low-resolution images
- Control graphics' display performance
  Create contact sheets

Place (import) graphics

To the top

The Place command is the primary method used to insert graphics into InDesign because it provides the highest level of support for resolution, file formats, multipage PDF and INDD files, and color. To place graphics is also referred to as *import images* and *insert pictures*.

If you're creating a document in which those characteristics aren't critical, you can copy and paste to import graphics InDesign. Pasting, however, embeds a graphic in a document; the link to the original graphic file is broken and doesn't appear in the Links panel, and you can't update the graphic from the original file. However, pasting Illustrator graphics allows you to edit paths in InDesign. See Importing Adobe Illustrator graphics.

The options available to you when you place a graphics file depend on the type of graphic. These options appear when you select Show Import Options in the Place dialog box. If you don't select Show Import Options, InDesign applies the default settings or the last settings used in placing a graphics file of that type.

The names of graphics you've placed (imported) appear in the Links panel.

Note:

If you place or drag a graphic from a removable media, such as a CD-ROM, the link will break when you remove that media from your system.

For a video tutorial on placing an image, see www.adobe.com/go/lrvid4279_id.

1. Do one of the following:
   - To import a graphic without first creating a frame, make sure that nothing in the document is selected.
   - To import a graphic into an existing frame, select the frame. If the new image is larger than the frame, you can refit the frame later by choosing Object > Fitting > *[fitting command]*.
   - To replace an existing image, select its graphics frame.
2. Choose File > Place and select one or more graphics files of any available format.

   If you select multiple files, you can click or drag in the document to place the selected files one at a time. (See Place multiple graphics.)

3. To replace an object you selected, select Replace Selected Item.
4. To add a caption based on the image metadata, select Create Static Captions. See Generate a caption from an image.
5. To set format-specific import options, do one of the following:

    - Select Show Import Options, and then click Open.
    - Hold down Shift as you click Open or Shift-double-click a file name.

    Note:

    When you place a graphic created in Illustrator 9.0 or later by using the Show Import Options dialog box, the options are identical to those for PDFs. When you place an Illustrator 5.5–8.x graphic, the options are identical to those for EPS files.

6. If the Image Import Options dialog box appears (because you chose to set format-specific import options), select import options and click OK. (See Import options for graphics.)
7. Do one of the following:

    - To import into a new frame, drag to create a frame. Or, click the loaded graphics icon  in the layout at the place where you want the upper left corner of the graphic to appear.

    Note:

    When you drag to create a frame, the frame has the same proportions as the graphic unless you Shift-drag.

    - To import into an existing, unselected frame, click the loaded graphics icon anywhere in that frame.
    - To import into an existing selected frame, you don't need to do anything if Replace Selected Item is selected. The image automatically appears in that frame.
    - To replace an existing graphic, hold down Alt (Windows) or Option (Mac OS) and click the loaded graphics icon on the graphic you want to replace.
    - To place all the specified pages of a multipage file (such as a PDF or INDD file) at the same time, one overlapping another, hold down Alt (Windows) or Option (Mac OS) and click the loaded graphics icon where you want the pages to appear.

    If you accidently replace an existing graphic with an image you're placing, press Ctrl+Z (Windows) or Command+Z (Mac OS) to return the original image to the frame and display the loaded graphics icon.

8. To place the next graphic or the next page of a multipage PDF, click the loaded graphics icon in the layout where desired. If necessary, you can scroll to a different location or change pages without losing the loaded graphics icon.

Note:

The image you place may appear to have a low resolution, depending on your settings. The display setting of an image does not affect final output of the file. To change your image display settings, see Control graphics' display performance.

Import options for graphics

To the top

The options for importing graphics vary depending on the type of image being imported. To display import options, make sure that Show Import Options is selected in the Place dialog box.

Encapsulated PostScript (.eps) import options

When you place an EPS graphic (or a file saved with Illustrator 8.0 or earlier) and select Show Import Options in

the Place dialog box, you'll see a dialog box containing these options:

Read Embedded OPI Image Links

This option tells InDesign to read links from OPI comments for images included (or nested) in the graphic.

Deselect this option if you're using a proxy-based workflow and plan to have your service providers perform the image replacement using their OPI software. When this option is deselected, InDesign preserves the OPI links but does not read them. When you print or export, the proxy and the links are passed on to the output file.

Select this option if you're using a proxy-based workflow and you want InDesign, instead of your service provider, to perform image replacement when you output the final file. When you select this option, the OPI links appear in the Links panel.

Also select this option when you import EPS files containing OPI comments that are not part of a proxy-based workflow. For example, if you import an EPS file containing OPI comments for an omitted TIFF or bitmap image, you'll want to select this option so that InDesign can access the TIFF information when you output the file.

Apply Photoshop Clipping Path

Regardless of whether this option is selected, a placed EPS file includes a clipping path in InDesign. However, deselecting this option may result in a different bounding box size.

Proxy Generation

This creates a low-resolution bitmap representation of an image when drawing the file to the screen. The following settings control how the proxy will be generated:

Use TIFF Or PICT Preview

Some EPS images contain an embedded preview. Select this option to generate the proxy image of the existing preview. If a preview does not exist, the proxy will be generated by rasterizing the EPS to an offscreen bitmap.

Rasterize The PostScript

Select this option to ignore the embedded preview. This option is typically slower but provides the highest-quality results.

Note:

When you import more than one single file into the same document, all instances share the proxy setting of the first instance of the imported file.

Bitmap import options

You can apply color-management options to individual imported graphics when using color-management tools with a document. You can also import a clipping path or an alpha channel saved with an image created in Photoshop. Doing so lets you directly select an image and modify its path without changing the graphics frame.

When you place a PSD, TIFF, GIF, JPEG, or BMP file and select Show Import Options in the Place dialog box, you'll see a dialog box containing these options:

Apply Photoshop Clipping Path

If this option isn't available, the image wasn't saved with a clipping path, or the file format doesn't support clipping paths. If the bitmap image doesn't have a clipping path, you can create one in InDesign.

Alpha channel

Select an alpha channel to import the area of the image saved as an alpha channel in Photoshop. InDesign uses the alpha channel to create a transparent mask on the image. This option is available only for images that contain at least one alpha channel.

Click the Color tab to view the following options:



Image imported without clipping path (left) and with clipping path (right)

Profile

If Use Document Default is selected, leave this option unchanged. Otherwise, choose a color source profile that matches the gamut of the device or software used to create the graphic. This profile enables InDesign to properly translate its color to the gamut of the output device.

Rendering Intent

Choose a method for scaling the color range of the graphic to the color range of the output device. Typically, you'll choose Perceptual (Images) because it accurately represents colors in photographs. The Saturation (Graphics), Relative Colorimetric, and Absolute Colorimetric options are better for areas of solid color; they don't reproduce photographs well. Rendering Intent options aren't available for bitmap, grayscale, and index-color mode images.

Portable Network Graphics (.png) import options

When you place a PNG image and select Show Import Options in the Place dialog box, you'll see a dialog box with three sections of import settings. Two sections contain the same options available for other bitmap image formats. The other section, PNG Settings, contains the following settings:

Use Transparency Information

This option is enabled by default when a PNG graphic includes transparency. If an imported PNG file contains transparency, the graphic interacts only where the background is transparent.

White Background

If a PNG graphic does not contain a file-defined background color, this option will be selected by default. However, it is only enabled if Use Transparency Information is activated. If this option is selected, white is used as the background color when applying transparency information.

File Defined Background Color

If a PNG graphic was saved with a non-white background color, and Use Transparency Information is selected, this option is selected by default. If you don't want to use the default background color, click White Background to import the graphic with a white background, or deselect Use Transparency Information to import the graphic without any transparency (displaying areas of the graphic that are currently transparent). Some image-editing programs can't specify a non-white background color for PNG graphics.

Apply Gamma Correction

Select this option to adjust the gamma (midtone) values of a PNG graphic as you place it. This option lets you match image gamma to the gamma of the device you will use to print or display the graphic (such as a low-resolution or non-PostScript printer or computer monitor). Deselect this option to place the image without applying any gamma correction. By default, this option is selected if the PNG graphic was saved with a gamma value.

Gamma Value

This option, available only if Apply Gamma Correction is selected, displays the gamma value that was saved with the graphic. To change the value, type a positive number from 0.01 to 3.0.

When PNG files are imported, the settings in the Image Import Options dialog box are always based on the selected file, not on the default or last-used settings.

Acrobat (.pdf) and Illustrator (.ai) import options

The layout, graphics, and typography in a placed PDF are preserved. As with other placed graphics, you cannot edit a placed PDF page within InDesign. You can control the visibility of layers in a layered PDF. You can also place more than one page of a multipage PDF.

When you place a PDF that was saved with passwords, you'll be prompted to enter the required passwords. If the PDF file was saved with usage restrictions (for example, no editing or printing), but no passwords, you can place the file.

When you place a PDF (or a file saved with Illustrator 9.0 or later) and select Show Import Options in the Place dialog box, you'll see a dialog box containing the following options:

Show Preview

Preview a page in the PDF before you place it. If you're placing a page from a PDF that contains multiple pages, click the arrows, or type a page number under the preview image to preview a specific page.

Pages

Specify the pages you want to place: the page displayed in the preview, all pages, or a range of pages. For Illustrator files, you can specify which artboard to place.

If you specify multiple pages, hold down Alt (Windows) or Option (Mac OS) while placing the file to place them all at the same time, overlapping each other.

Crop To

Specify how much of the PDF page to place:

Bounding Box

Places the PDF page's bounding box, or the minimum area that encloses the objects on the page, including page marks. The Bounding Box (Visible Layers Only) option uses the bounding box only of the visible layers of the PDF file. The Bounding Box (All Layers) option places the bounding box of the entire layer area of the PDF file, even if layers are hidden.

Art

Places the PDF only in the area defined by a rectangle that the author created as a placeable artwork (for example, clip art).

Crop

Places the PDF only in the area that is displayed or printed by Adobe Acrobat.

Trim

Identifies the place where the final produced page will be physically cut in the production process, if trim marks are present.

Bleed

Places only the area that represents where all page content should be clipped, if a bleed area is present. This information is useful if the page is being output in a production environment. Note that the printed page may include page marks that fall outside the bleed area.

Media

Places the area that represents the physical paper size of the original PDF document (for example, the dimensions of an A4 sheet of paper), including page marks.



Options for cropping placed PDFs

A. Media B. Trim C. Bleed D. Content E. Crop F. Art

Transparent Background

Select this option to reveal text or graphics that fall beneath the PDF page in the InDesign layout. Deselect this option to place the PDF page with an opaque white background.

If you make the background transparent in a frame containing a PDF graphic, you can make it opaque later by adding a fill to the frame.

InDesign (.indd) import options

InDesign preserves the layout, graphics, and typography in a placed INDD file. However, the file is treated as an object, and you can't edit it, although you can control the visibility of layers and choose which pages of a multi-page INDD file to import.

When you place an InDesign file and select Show Import Options in the Place dialog box, you'll see a dialog box containing the following options:

Show preview

Preview a page before you place it. You can type a page number or click the arrows to preview a page in a multi-page document.

Pages

Specify the pages you want to place: the page displayed in the preview, all pages, or a range of pages.

Crop to

Specify how much of the page or pages to place, the page itself or the bleed or slug areas on the pasteboard.

Place multiple graphics

To the top

The Place command lets you import more than one item at a time.

1. Create frames for the graphics if you want to place some or all of them in frames.
2. Choose File > Place, and select files.

   You can select graphics files, text files, InDesign files, and other files you can add to InDesign documents.

3. Optionally, select Show Import Options, click Open, and specify the import options for each file. (See Import options for graphics.)

   A thumbnail image of the first graphic you selected appears next to the loaded graphics icon. A number next to the loaded graphics icon tells you how many graphics are ready for importing. The names of the graphics appear in the Links panel, with the letters LP (for "loaded in place cursor") next to the frontmost graphic.

   Placing four files into placeholder frames

   Press an arrow key to cycle through the graphics; press Esc to unload the frontmost graphic from the loaded graphics icon without placing it in InDesign.

   Note:

   You can keep thumbnail images from appearing in the loaded graphics icon if displaying the images slows down your computer. In the Interface area of the Preferences dialog box, deselect Show Thumbnails On Place.

4. Do one of the following:

    - To import into a new frame, click the loaded graphics icon where you want the upper left corner of the graphic to appear.
    - To create a frame of a certain size and import the graphic into the frame, drag to define the frame. The frame conforms to the proportions of the graphic being placed.
    - To import into an existing frame, click the loaded graphics icon in the frame. Alt-click (Windows) or Option-click (Mac OS) to replace the contents of an existing frame.
    - To import all the loaded graphics in a grid, start dragging, and press the arrow keys to determine the number of rows and columns. Use the Up Arrow and Down Arrow keys to change the number of rows and the Left Arrow and Right Arrow keys to change the number of columns. Release the mouse button to place the grid of images.

      To change the spacing between frames, press Page Up or Page Down or hold down Ctrl (Windows) or Command (Mac OS) while pressing the arrow keys.

      To change the spacing between frames, hold down Ctrl (Windows) or Command (Mac OS) while pressing the arrow keys.

Note:

You can load more graphics by choosing File > Place while the graphics icon is displayed.

Control layer visibility in imported images

To the top

When you import Photoshop PSD files, layered PDFs, and INDD files, you can control the visibility of top-level layers. Adjusting layer visibility in InDesign lets you vary an illustration depending on context. For example, in a multilanguage publication, you can create a single illustration that includes one text layer for each language.

You can adjust layer visibility either when you place a file or by using the Object Layer Options dialog box. In addition, if the Photoshop file contains layer comps, you can display the desired comp.

Set layer visibility

1. Do one of the following:

    - To import a graphic without first creating a frame, make sure that nothing in the document is selected.
    - To import a graphic into an existing frame, select the frame.
    - To replace an existing image, select the graphics frame.

2. Choose File > Place and select a graphics file.
3. To replace a selected object, select Replace Selected Item.
4. Select Show Import Options, and then click Open.
5. In the Image Import Options or Place dialog box, click the Layers tab.
6. To view a preview of the image, click Show Preview.
7. (PDFs only) If you're placing a page from a multipage PDF, click the arrows, or type a page number under the preview image to preview a specific page.
8. (Photoshop PSD files only) If the image contains layer comps, choose the layer comp you want to display from the Layer Comp pop-up menu.
9. Do one of the following:

    - To open or close a layer set, click the triangle to the left of the folder icon.

- To hide a layer or layer set, click the eye icon next to the layer or layer set.
- To display the layer or layer set, click the empty eye column next to the layer or layer set.
- To display only the content of a particular layer or layer set, Alt-click (Windows) or Option-click (Mac OS) its eye icon. Alt-click or Option-click the eye icon again to restore the original visibility settings of the other layers.
- To change the visibility of multiple items, drag through the eye column.

10. Set the When Updating Link option as desired:

    Use Photoshop's/PDF's Layer Visibility

    Matches the layer visibility settings to those of the linked file when you update the link.

    Keep Layer Visibility Overrides

    Maintains the layer visibility settings as they were when the file was originally placed.

11. Click OK.
12. Click OK, and do one of the following:
    - To import into a new frame, click the loaded graphics icon in the layout at the place where you want the upper left corner of the graphic to appear.
    - To import into an existing, unselected frame, click the loaded graphics icon anywhere in that frame.
    - To import into an existing selected frame, you don't need to do anything. The image automatically appears in that frame.

    If you accidently replace an existing graphic with an image you're placing, press Ctrl+Z (Windows) or Command+Z (Mac OS) to return the original image to the frame and display the loaded graphics icon.

Set layer visibility for placed AI, PSD, PDF, and INDD files

After you place a Photoshop PSD or layered PDF, an Illustrator AI file, or an InDesign INDD file, you can control the visibility of its layers by using the Object Layer Options dialog box. If the Photoshop PSD file contains layer comps, you can choose which comp you want to display. In addition, you can choose whether to maintain the visibility settings or match the settings of the original file each time you update the link.

1. Select the file in the InDesign document.
2. Choose Object > Object Layer Options.
3. To view a preview of the image, select Preview.
4. (Photoshop PSD files only) If the image contains layer comps, choose the layer comp you want to display from the Layer Comp pop-up menu.
5. Do one of the following:
    - To open or close a layer set, click the triangle to the left of the folder icon.
    - To hide a layer or layer set, click the eye icon next to the layer or layer set.
    - To display the layer or layer set, click the empty eye column next to the layer or layer set.
    - To display only the content of a particular layer or layer set, Alt-click (Windows) or Option-click (Mac OS) its eye icon. Alt-click or Option-click the eye icon again to restore the original visibility settings of the other layers.

- To change the visibility of multiple items, drag through the eye column.

6. Set the Updating Link Options as desired:

   Use Layer Visibility

   Matches the layer visibility settings to those of the linked file when you update the link.

   Keep Layer Visibility Overrides

   Maintains the layer visibility settings as they were when the file was originally placed.

7. Click OK.

Paste or drag graphics

To the top

When you copy and paste or drag a graphic into an InDesign document, some attributes of the original object may be lost, depending on the limitations of the operating system and the range of data types the other application makes available for transfer, and the InDesign Clipboard preferences. Pasting or dragging Illustrator graphics lets you select and edit paths within the graphic.

Copying and pasting or dragging between two InDesign documents, or within a single document, however, preserves all of the graphics attributes that were imported or applied. For example, if you copy a graphic from one InDesign document and paste it into another, the new copy will be an exact duplicate of the original, even including the original's link information, so that you can update the graphic when the file on disk changes.

Copy and paste graphics

When copying and pasting a graphic from another document into an InDesign document, InDesign does not create a link to the graphic in the Links panel. The graphic may be converted by the system clipboard during the transfer, so both image quality and print quality may be lower in InDesign than in the graphic's original application.

1. In InDesign or another program, select the original graphic, and choose Edit > Copy.
2. Switch to an InDesign document window, and choose Edit > Paste.

Drag and drop graphics

The drag-and-drop method works like the Place command, with images appearing in the Links panel after they're imported. You cannot set import options for the files you drag and drop; however, you can drag and drop multiple files at once (the files are loaded in the graphics icon when you drag and drop more than one).

Select a graphic from Adobe Illustrator, Adobe Bridge, Explorer (Windows), the Finder (Mac OS), or your desktop, and drag it into InDesign. The image must be in a format that InDesign can import.

After dragging and dropping a file from any location other than Illustrator, it appears in the Links panel in InDesign. Using the Links panel, you can control versions and update as necessary.

1. Select the original graphic.
2. Drag the graphic into an open InDesign document window.

Note:

In Windows, if you try to drag an item from an application that does not support drag and drop, the pointer displays the Prohibited icon.

To cancel dragging a graphic, drop the graphic onto any panel title bar or the document title bar.

Fixing low-resolution images

To the top

Graphics you place in your document may appear pixelated or fuzzy or grainy. In most cases, it's because InDesign displays images in low-resolution by default to improve performance.

Check the display settings

To display graphics in high resolution, choose View > Display Performance > High Quality Display. For more details on changing these display performance settings, see Control graphics' display performance.

Use Place instead of Paste

The image may still be low resolution even though you changed the display performance settings. For these images, make sure that you use the Place command to insert the image into InDesign. In some instances, pasting an image from another application may result in the preview image being inserted instead of the original file.

Check your print settings

If your image appears in low resolution in print, check your print settings to make sure graphics are printing properly. In the Graphics section of the Print dialog box, choose Send Data > All.

Avoid transformations in images of borderline quality

In addition, scaling or rotating an image could reduce its quality. You may want to choose Clear Transformations from the Control panel menu.

Improve the image resolution

In some cases, such as with an image copied from a web page, you may need to replace a low-resolution image with a high-resolution image.

Control graphics' display performance

To the top

You can control the resolution of graphics placed in your document. You can change the display settings for the entire document or for individual graphics. You can also change a setting that either allows or overrides the display settings for individual documents.

Change a document's display performance

A document always opens using the default Display Performance preferences. You can change the display performance of a document while it is open, but the setting won't be saved with the document.

If you've set the display performance of any images separately, you can override the settings so all objects use the same settings.

1. Choose View > Display Performance, and select an option from the submenu.
2. To force objects that you have set individually to display using the document setting, deselect View > Display Performance > Allow Object-Level Display Settings. (A check mark indicates it is selected.)

Change an object's display performance

1. To preserve the display performance for individual objects when the document is closed and reopened, make sure Preserve Object-Level Display Settings is selected in Display Performance preferences.
2. Choose View > Display Performance, and make sure Allow Object-Level Display Settings is selected.
3. With the Selection tool or Direct Selection tool, select an imported graphic.
4. Do one of the following:
    - Select Object > Display Performance, and choose a display setting.
    - Right-click (Windows) or Control-click (Mac OS) the image, and choose a display setting from the Display Performance submenu.

To remove an object's local display setting, choose Use View Setting in the Display Performance submenu. To remove local display settings for all graphics in the document, select Clear Object-Level Display Settings in the View > Display Performance submenu.

Display performance options

These options control how graphics are displayed on the screen, but they do not affect the print quality or exported output.

Use Display Performance preferences to set the default option used to open all documents, and customize the settings that define those options. Each display option has separate settings for displaying raster images, vector graphics, and transparencies.

Fast

Draws a raster image or vector graphic as a gray box (default). Use this option when you want to quickly page through spreads that have lots of images or transparency effects.

Typical

Draws a low-resolution proxy image (default) appropriate for identifying and positioning an image or vector graphic. Typical is the default option, and is the fastest way to display an identifiable image.

High Quality

Draws a raster image or vector graphic at High Resolution (default). This option provides the highest quality but the slowest performance. Use this option when you want to fine-tune an image.

Note:

Image display options don't affect output resolution when exporting or printing images within a document. When printing to a PostScript device, exporting to XHTML, or exporting to EPS or PDF, the final image resolution depends on the output options you choose when you print or export the file.

Set default display performance

The Display Performance preferences let you set the default display option, which InDesign uses for every document. You can change a document's display performance using the View menu, or change the setting for individual objects using the Object menu. For example, if you work on projects that contain numerous high-resolution photos (such as a catalog), you may prefer to have all your documents open quickly. You can set the default display option to Fast. When you want to see the images in more detail, you can switch the document view to Typical or High Quality (leaving the preference set to Fast).

You can also choose to view or override display settings applied to individual objects. If Preserve Object-Level Display Settings is selected, any settings applied to objects are saved with the document.

1. Select Edit > Preferences > Display Performance (Windows) or InDesign > Preferences > Display Performance (Mac OS).
2. For Default View, select Typical, Fast, or High Quality. The display option you choose applies to all documents you open or create.
3. Do one of the following:
    - To save display settings applied to individual objects, select Preserve Object-Level Display Settings.
    - To display all graphics using the default display option, deselect Preserve Object-Level Display Settings.
4. For Adjust View Settings, choose the display option you want to customize, and then move the slider for Raster Images or Vector Graphics to the desired setting.
5. Click OK.

Each display option has separate settings for raster (bitmap) images, vector graphics, and transparency effects.

Create contact sheets

To the top

A *contact sheet* is a grid of thumbnail images, often used for pre-press analysis. You can use a number of different Adobe applications to create a contact sheet. In Photoshop, you can use either the Contact Sheet or Picture Package command.

In previous versions of Adobe Bridge (CS2 and CS3), you can create a contact sheet for InDesign pages using the Create InDesign Contact Sheet feature. This feature does not appear in later versions of Adobe Bridge. Instead, you can use the Adobe Output Module in Adobe Bridge to create a PDF contact sheet.

You can also create a simple contact sheet in InDesign by placing multiple images in a grid.

1. Choose File > Place, select multiple images, and choose Open.

   If you want to include captions with your images, select Create Static Captions. See Generate a caption from an image.

2. Start dragging, and press the arrow keys to determine the number of rows and columns. Use the Up Arrow and Down Arrow keys to change the number of rows and the Left and Right arrow keys to change the number of columns.

   To change the spacing between frames, press Page Up or Page Down or hold down Ctrl (Windows) or Command (Mac OS) while pressing the arrow keys.

   To change the spacing between frames, hold down Ctrl (Windows) or Command (Mac OS) while pressing the arrow keys.

3. Release the mouse button to place the grid of images.

Adobe also recommends

- About links and embedded graphics
- Choosing the right graphics format
- Importing Content video
- Importing Adobe Illustrator graphics
- Create a layered PDF in Adobe Illustrator
- Importing Adobe Photoshop (.PSD) files
- About links and embedded graphics
- Pasting Illustrator graphics into InDesign

(cc) BY-NC-SA Twitter™ and Facebook posts are not covered under the terms of Creative Commons.

Legal Notices | Online Privacy Policy

Reusing graphics and text

- Ways to reuse graphics and text
- Use snippets
- Use object libraries

Ways to reuse graphics and text

To the top

InDesign offers several different ways to repurpose graphics and text.

Snippets

A snippet is a file that contains objects and describes their location relative to one another on a page or spread. (See Use snippets.)

Object libraries

An object library provides a convenient place to store items such as logos, sidebars, pull-quotes, and other repeating items. (See Use object libraries.)

Templates

A template is a document that includes placeholder text and graphics. (See Use document templates.)

Use snippets

To the top

A *snippet* is a file that holds objects and describes their location relative to one another on a page or page spread. Use snippets to conveniently reuse and position page objects. Create a snippet by saving objects in a snippet file, which has the .IDMS extension. (Previous InDesign versions use the .INDS extension.) When you place the snippet file in InDesign, you can determine whether the objects land in their original positions or where you click. You can store snippets in the Object library and in Adobe Bridge as well as on your hard disk.

Snippets contents retain their layer associations when you place them. When a snippet contains resource definitions and these definitions are also present in the document to which it is copied, the snippet uses the resource definitions in the document.

Snippets you create in InDesign CS5 can be opened in InDesign CS4 but not in any other previous version of InDesign.

Create snippets

- Do one of the following:
    - Using a selection tool, select one or more objects, and then choose File > Export. From the Save As Type (Windows) or Format (Mac OS) menu, choose InDesign Snippet. Type a name for the file and click Save.
    - Using a selection tool, select one or more objects, and then drag the selection to your desktop. A snippet file is created. Rename the file.
    - Select one or more objects, and then drag the selection to the Mini Bridge panel. A snippet file is created. Rename the file.
    - Drag an item from Structure View to your desktop.

Add snippets to a document

1. Choose File > Place.
2. Select one or more snippet (*.IDMS or *.INDS) files.
3. Click the loaded snippet cursor where you want the upper-left corner of the snippet file to be.

   If you placed the insertion point in a text frame, the snippet is placed in the text as an anchored object.

   All objects remain selected after you place the snippet. By dragging, you can adjust the position of all objects.
4. If you loaded more than one snippet, scroll and click the loaded snippet cursor to place the others.

You can drag a snippet file from your desktop into the InDesign document and click where you want the upper-left corner of the snippet to be.

Choose how to place snippets

Rather than place snippet objects according to where you click on a page, you can place them in their original locations. For example, a text frame that appeared in the middle of a page when it was made part of a snippet can appear in the same location when you place it as a snippet.

- In File Handling preferences, choose Original Location from the Position At menu to preserve objects' original locations in snippets. Choose Cursor Location from the Position At menu to place snippets according to where you click a page.

You can press Alt (Windows) or Option (Mac) to override the Position setting you selected for handling snippets. For example, if you selected Position At Cursor Location but you want to place snippet objects in their original locations, hold down the Alt/Option key when you click the loaded snippet cursor on the page.

Use object libraries

To the top

Object libraries help you organize the graphics, text, and pages you use most often. You can also add ruler guides, grids, drawn shapes, and grouped images to a library. You can create as many libraries as you need—for example, you can create different object libraries for varied projects or clients.

During a work session, you can open as many libraries as system memory will allow. Object libraries can be shared across servers, and across platforms, but only one person can have the library open at a time. If an object library includes text files, make sure that the file's fonts are available and active on all systems that will access the library.

When you add a page element, such as a graphic, to an object library, InDesign preserves all attributes that were imported or applied. For example, if you add a graphic from an InDesign document to a library, the library copy will duplicate the original, including the original's link information, so that you can update the graphic when the file on disk changes.

If you delete the object from the InDesign document, the object's thumbnail will still appear in the Library panel, and all of the link information will remain intact. If you move or delete the original object, a missing link icon will appear next to the object's name in the Links panel the next time you place it in your document from the Library panel.

Within each object library, you can identify and search for an item by title, by the date it was added to the library, or by keywords. You can also simplify the view of an object library by sorting the library items and displaying their subsets. For example, you can hide all items except EPS files.



Object library in Library panel

A. Object thumbnail and name B. Library Item Information button C. Show Library Subset button D. New Library Item button E. Delete Library Item button

When adding an item to an object library, InDesign saves all page, text, and image attributes, and maintains interrelationships among library objects and other page elements in the following ways:

- Elements grouped in an InDesign document when dragged to the Library panel stay grouped when dragged out of the Library panel.
- Text retains its formatting.
- Paragraph styles, character styles, and object styles that have the same name as styles used in the destination document are converted to the destination document's styles; those that have different names are added to the document.
- The original layers of an object are preserved when the Paste Remembers Layers option is selected in the Layers panel menu.

Create an object library

An object library exists as a named file on disk. When you create an object library, you specify where to store it. When you open a library, it appears as a panel that you can group with any other panel; the object library's file name appears in its panel tab. Closing an object library removes it from the current session, but doesn't delete its file.

You can add or remove objects, selected page elements, or an entire page of elements to or from an object library. You can also add or move library objects from one library to another.

1. Choose File > New > Library.
2. Specify a location and name for the library, and click Save. Remember that the name you specify becomes the name of the library's panel tab.

Open an existing library

- Do one of the following:

- If you've already opened a library in the current session (and haven't closed it), choose the library file in the Window menu.
- If you have not opened a library, choose File > Open, and select one or more libraries. In Windows, library files use the INDL extension. InDesign converts newly opened libraries from previous versions of the program to the new library format; you are asked to save these libraries under a new name.

Close a library

1. Click the tab for the library you want to close.
2. Do one of the following:
   - Choose Close Library in the Object Library panel menu.
   - Choose the library file name on the Window menu.

Delete a library

- In Explorer (Windows) or Finder (Mac OS), drag a library file to the Recycle Bin (Windows) or Trash (Mac OS). In Windows, library files have the INDL extension.

Add an object or page to a library

- Do any of the following:
  - Drag one or more objects from a document window to an active Object Library panel.
  - Select one or more objects in a document window, and click the New Library Item button in the Object Library panel.
  - Select one or more objects in a document window, and choose Add Item in the Object Library panel menu.
  - Choose Add Items On Page *[number]* As Separate Objects in the Object Library panel menu to add all the objects as separate library objects.
  - Choose Add Items On Page *[number]* in the Object Library panel menu to add all the objects as one library object.
  - Drag an element from the Structure pane to an active Object Library panel.

If you hold down Alt (Windows) or Option (Mac OS) while you perform any of the above commands, the Item Information dialog box appears as the item is added to the library.

Add an object from a library to a document

- Do one of the following:
  - Drag an object from the Object Library panel to a document window.
  - In the Object Library panel, select an object, and choose Place Item(s) in the Object Library panel menu. This method places the object at its original X,Y coordinates.
  - Drag an XML element to a parent element in the Structure pane or to the page.

Manage library objects

Use the Object Library panel to manage objects.

Update a library object with a new item

1. In the document window, select the item you want to add to the Library panel.
2. In the Library panel, select the object you want to replace, and then choose Update Library Item from the Object Library panel menu.

Copy or move an object from one library to another

1. Drag one library's panel tab out of the Object Library panel group to separate them, so you can see both libraries at the same time.
2. Do one of the following:
    - To copy an object from one library to another, drag an item from one Library panel tab to the other.
    - To move an object out of one library into another, hold down Alt (Windows) or Option (Mac OS), and drag an item from one Library panel tab to the other.

Delete an object from an object library

- In the Object Library panel, select an object, and do one of the following:
    - Click the Delete Library Item button.
    - Drag the item to the Delete Library Item button.
    - Choose Delete Item(s) in the Object Library panel menu.

Change the object library display

The object library displays objects as thumbnails or as a text list. You can sort the thumbnails or list by object name, age, or type. The list view and sorting options work best if you've cataloged the objects.

- Do any of the following:
    - To view objects as thumbnails, choose Thumbnail View or Large Thumbnail View from the Object Library panel menu.
    - To view objects as a text list, choose List View from the Object Library panel menu.
    - To sort the objects, choose Sort Items from the Object Library panel menu, and choose a sort method.

View all objects

- Choose Show All in the Object Library panel menu.

View, add, or edit library information

With large or numerous object libraries, library information can be cataloged using the display objects' names, by type of object, or words in a description.

1. In the Object Library panel, do one of the following:
    - Double-click any object.
    - Select an object, and click the Library Item Information button.
    - Select an object, and choose Item Information in the Object Library panel menu.
2. View or change the Item Name, Object Type, or Description options as necessary, and click OK.

Find objects in a library

When you search for objects, all objects except the results of your search are hidden from view. You can also use the search feature to show and hide specific categories of objects. For example, you can display only object items with the word "star" in their names.

1. Choose Show Subset in the Object Library panel menu, or click the Show Library Subset button.
2. Do one of the following:
    - To search all objects in the library, select Search Entire Library.
    - To search only within the objects currently listed in the library (refining a previous search), select Search Currently Shown Items.
3. Choose a category in the first menu in the Parameters section.
4. In the second menu, specify whether the category you chose in the first menu must be contained in or excluded from the search.
5. To the right of the second menu, type a word or phrase you want to search for within the category you specified.
6. To add search criteria, click More Choices up to five times; each click adds one search term. To remove search criteria, click Fewer Choices as necessary; each click removes one search term.
7. To display only those objects that match all search criteria, select Match All. To display objects that match any of the criteria, select Match Any One.
8. Click OK to begin the search.

To show all objects again, choose Show All in the Object Library panel menu.

Adobe also recommends

- Exporting
- Working with XML

(cc) BY-NC-SA Twitter™ and Facebook posts are not covered under the terms of Creative Commons.

Legal Notices | Online Privacy Policy

Ruler guides

- Create ruler guides
- Work with ruler guides
- Use smart guides

Create ruler guides

To the top

Ruler guides are different from grids in that they can be positioned freely on a page or on a pasteboard. You can create two kinds of ruler guides: *page guides*, which appear only on the page on which you create them, or *spread guides*, which span all pages and the pasteboard of a multiple-page spread. You can drag any ruler guide to the pasteboard. A ruler guide is displayed or hidden with the layer on which it was created.

New ruler guides always appear on the target spread. For example, if several spreads are visible in the document window and you drag a new guide into the window, the new guide becomes visible only on the target spread.



Guides in the document window

A. Spread guide B. Page guide

Create a ruler guide

1. Make sure that both rulers and guides are visible, make sure the correct spread is targeted, and view the document in Normal View mode, not Preview mode.
2. If the document contains multiple layers, click a layer name in the Layers panel to target the layer.
3. Do one of the following:

    - To create a page guide, position the pointer inside a horizontal or vertical ruler and then drag to the desired location on the target spread. If you drop the guide onto the pasteboard, it spans the pasteboard and spread; it will act as a page guide if you later drag it onto a page.
    - To create a spread guide, drag from the horizontal or vertical ruler, keeping the pointer in the pasteboard but positioning the guide at the desired location on the target spread.
    - To toggle between horizontal and vertical guides, select the guide and hold down Alt (Windows) or Option (Mac OS).
    - To create a spread guide when the pasteboard is not visible (for example, when you've zoomed in), press Ctrl (Windows) or Command (Mac OS) as you drag from the horizontal or vertical ruler to the target spread.
    - To create a spread guide without dragging, double-click a specific position on the horizontal or vertical ruler. If you want to snap the guide to the nearest tick mark, hold down the Shift key when you double-click the ruler.
    - To create vertical and horizontal guides simultaneously, press Ctrl (Windows) or Command (Mac OS) as you drag from the target spread's ruler intersection to the desired location.



A vertical and horizontal guide created concurrently

To reposition a ruler guide numerically, select the guide and enter values for X and Y in the Control panel.

Create a set of evenly spaced page guides

1. If the document contains multiple layers, click a layer name in the Layers panel to target the layer.
2. Choose Layout > Create Guides.
3. For Number, type a value to specify the number of rows or columns you want to create.
4. For Gutter, type a value to specify the spacing between rows or columns. Start with a low value, such as 1 pica; large gutters leave little space for columns.

   Columns created with the Create Guides command are not the same as those created with the Layout > Margins And Columns command. For example, columns created using Create Guides cannot control text flow when a text file is placed. Use the Margins And Columns command to create major column divisions appropriate for autoflow text, and use the Create Guides command to create column grids and other layout aids.

5. For Fit Guides To, click Margins to create the guides within the page margins, or click Page to create the guides within the page edges.

   Ruler guides evenly spaced within page margins (left) and page edges (right)

6. To delete any existing guides (including guides on locked or hidden layers), select Remove Existing Ruler Guides.
7. If you like, select Preview to see the effect of your settings on the page, and then click OK.

Note:

The Create Guides command can create page guides only; it cannot create spread guides.

To space existing guides a uniform distance apart, select the guides (by dragging or pressing Shift as you click with the mouse). Then, select Use Spacing from the Control panel, type the space value in the text box, and press Enter or Return to confirm. Click either Distribute Horizontal Centers or Distribute Vertical Centers to the left of the Use Spacing option.

Show or hide guides

- To show or hide all margin, column, and ruler guides, choose View > Grids & Guides > Show/Hide Guides.
- To show or hide ruler guides on one layer only without changing the visibility of the layer's objects, double-click the layer name in the Layers panel, select or deselect Show Guides, and then click OK.
- To show or hide guides and all other non-printing elements, click the Preview Mode icon at the bottom of the Toolbox.

Work with ruler guides

To the top

You can change the attributes of individual ruler guides, and you can move, cut, copy, paste, or delete multiple ruler guides simultaneously. Cut or copied ruler guides can be pasted to other pages or documents, but not to other programs. To change attributes of specific guides, you must select the guides you want to change. When no guides are selected, the Ruler Guides command sets the defaults for new guides only.

Select ruler guides

Unselected ruler guides appear light blue by default. Selected ruler guides are highlighted in their layer color. When a guide is selected, the Reference Point icon in the Control panel changes to or , representing the selected guide.

- To select a single ruler guide, use the Selection tool or the Direct Selection tool and click the guide to highlight it in its layer color.

If you can't select a ruler guide and the View > Grids & Guides > Lock Guides command is already deselected, the guide might be on that page's master, or on a layer where guides are locked.

- To select multiple ruler guides, hold down Shift as you click guides using the Selection or Direct Selection tool. You can also drag over multiple guides, as long as the selection marquee doesn't touch or enclose any other object.
- To select all ruler guides on the target spread, press Ctrl+Alt+G (Windows) or Command+Option+G (Mac OS).

Move ruler guides

- Using Selection tool or the Direct Selection tool , do any of the following:
    - To move a ruler guide, drag it.
    - To move multiple ruler guides, shift-select the guides you want to move, and then drag them.

      Move selected guides just as you would any other selected object, including nudging with the arrow keys and using the Control or Transform panels.
    - To make a guide snap to a ruler tick mark, press Shift as you drag it. Or select the guide, press and hold down the Shift key, and then click the mouse button.
    - To move a spread guide, drag the part of the guide that's on the pasteboard, or press Ctrl (Windows) or Command (Mac OS) as you drag the guide from within the page.
    - To move guides to another page or document, select one or more guides, choose Edit > Copy or Edit > Cut, go to another page, and then choose Edit > Paste. If you're pasting onto a page of the same size and orientation as the guides' original page, the guides appear in the same position.

Note:

The Paste Remembers Layers option affects the layer on which pasted guides appear.

Delete ruler guides

- To delete individual guides, select one or more ruler guides and then press Delete. (You can also drag ruler guides and drop them on a ruler to delete them.)
- To delete all ruler guides on the target spread, right-click (Windows) or Ctrl-click (Mac OS) a selected guide or ruler, and choose Delete All Guides On Spread.

If you cannot delete a guide, it may be locked, it may be on a master page, or it may be on a locked layer.

Customize ruler guides

1. Do one of the following:
    - To change options for one or more existing ruler guides, select those ruler guides.
    - To set default options for new ruler guides, deselect all guides by clicking in an empty area.
2. Choose Layout > Ruler Guides.
3. For View Threshold, specify the magnification below which ruler guides do not appear. This prevents ruler guides from appearing too close together at lower magnifications.
4. For Color, choose a color or choose Custom to specify a custom color in the system color picker. Then click OK.

You can set the current magnification as the view threshold for new ruler guides by pressing Alt (Windows) or Option (Mac OS) as you drag the ruler guides you've selected.

Lock or unlock ruler guides

- To lock or unlock all ruler guides, choose View > Grids & Guides > Lock Guides to select or deselect the menu command.
- To lock or unlock ruler guides on one layer only, without changing the visibility of the layer's objects, double-click the layer name in the Layers panel, select or deselect Lock Guides, and then click OK.

Change ruler guide stacking order

By default, ruler guides appear in front of all other guides and objects. However, some ruler guides may block your view of such objects as lines with narrow stroke widths. You can change the Guides in Back preference to display ruler guides in front of or behind all other objects. However, regardless of the Guides in Back setting, objects and ruler guides are always in front of margin and column guides. Also, although putting guides on different layers organizes them structurally, it does not affect their visual stacking order—the Guides in Back preference stacks all ruler guides as a single set in relation to all page objects.



Default stacking order

A. Ruler guides B. Page objects C. Margin and column guides D. Page

1. Choose Edit > Preferences > Guides & Pasteboard (Windows) or InDesign > Preferences > Guides & Pasteboard (Mac OS).
2. Select Guides in Back, and click OK.

Snap objects to guides and grids

To precisely align objects to guides, use the Snap To Guides and Snap To Document Grid commands. Object

edges will *snap to* (be pulled toward) the nearest grid intersection or guide when you draw, move, or resize the objects.

The exact range within which an object snaps to guides is called the *snap-to zone*, which you can adjust. When you select both the Snap To Guides and the Snap To Document Grid commands, the grid takes precedence.

Keep the following guidelines in mind as you align objects to guides and grids:

- To snap an object to a guide, drag an object toward a guide until one or more of the object's edges is within the guide's snap-to zone.
- Guides must be visible for objects to snap to them. However, objects can snap to the document and baseline *grids* whether the grids are visible or not.
- Objects on one layer snap to ruler guides visible on any other layer. If you don't want objects to snap to guides on a certain layer, hide that layer's guides.
- To snap the text baseline to the baseline grid, choose Grid Alignment > Roman Baseline from the Control panel menu or Paragraph panel menu. Alternatively, set Grid Alignment to Roman Baseline from the column style Grid Settings.
- For the baselines of text to snap to the baseline grid, press the Align to Baseline Grid button for individual paragraphs or paragraph styles.

1. Choose View > Grids & Guides and make sure that Snaps To Guides is selected (checked).

   Note:

   The Snap To Guides command controls both snapping to guides and snapping to the baseline grid.

2. To specify the snap-to zone, choose Edit > Preferences > Guides & Pasteboard (Windows) or InDesign > Preferences > Guides & Pasteboard (Mac OS), type a value for Snap To Zone, and click OK. The Snap To Zone value is always in pixels.

Use smart guides

To the top

The Smart Guides feature makes it easy to snap objects to items in your layout. As you drag or create an object, temporary guides appear, indicating that the object is aligned with an edge or center of the page or with another page item.

By default, the Smart Guides feature is selected. You can turn off smart guides, or you can turn off any of the smart guide categories:

Smart Object Alignment

Smart object alignment allows for easy snapping to page item centers or edges. In addition to snapping, smart guides dynamically draw to indicate which object is being snapped to.

Smart Dimensions

Smart dimension feedback appears when you're resizing, creating, or rotating page items. For example, if you rotate one object on your page 24 degrees, a rotation icon appears as you rotate another object close to 24 degrees. This hint lets you snap the object to the same rotation angle of the adjacent object. Similarly, as you resize an object next to another object, a line segment with arrows at each end lets you snap the object to the same width or height as the adjacent object.

Smart Spacing

Smart spacing lets you quickly arrange page items with the help of temporary guides that indicate when the spacing between objects is even.

Smart Cursors

Smart cursor feedback appears in a gray box as X and Y values when you're moving or resizing object or as a measurement when you're rotating values. The Show Transformation Values option in Interface preferences lets you turn smart cursors on and off.

For a video tutorial on using smart guides, see www.adobe.com/go/lrvid4029_id.

Turn smart guides on or off

- Choose View > Grids & Guides > Smart Guides.

Turn smart guide categories on or off

1. Open the Guides & Pasteboard preferences.
2. Indicate whether you want Align To Object Center, Align To Object Edge, Smart Dimensions, and Smart Spacing turned on or off, and click OK.

To turn off smart cursors, which displays the X and Y values of objects you mouse over, deselect Show Transformation Values in Interface preferences.

Change the appearance of smart guides

1. Open the Guides & Pasteboard section of the Preferences dialog box.
2. Choose a different color from the Smart Guides menu, and click OK.

Tips for using Smart Guides

- Smart Guides take effect only on page items and intersections that are in the current page view. If you have many objects on a page and are trying to align an object to another object or objects in particular, zoom in on that area specifically.If you don't want Smart Guides to snap to column guides, turn off Snap To Guides temporarily by choosing View > Grids & Guides > Snap To Guides.The Smart Guides feature is accurate regardless of zoom percentage, so it isn't necessary to zoom in to see if two objects are really aligned at their left edges, for example.

Adobe also recommends

- Layers
- Customize the pasteboard and guides

(cc) BY-NC-SA Twitter™ and Facebook posts are not covered under the terms of Creative Commons.

Legal Notices | Online Privacy Policy

定規と単位

定規と単位の変更
原点の変更
オブジェクトの測定
情報パネルの概要

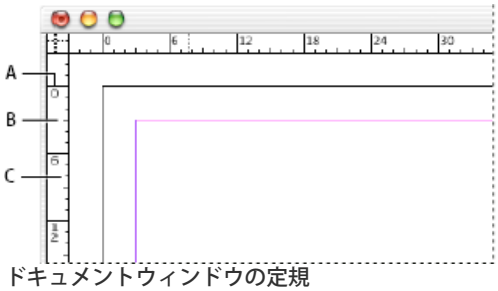
詳しい情報と手順については、以下のリンクをクリックしてください。

トップへ戻る

定規と単位の変更

単位は、定規のほかに、パネルやダイアログボックスでの設定値の単位として使用するために設定でき、いつでも変更できます。また、現在の単位を一時的に無効にして、別の単位を使用することもできます。デフォルトでは、定規の原点はページまたはスプレッドの左上端にあります。この原点は移動できます（詳しくは、原点の変更を参照してください）。

作業途中で単位を変更しても、ガイド、グリッドおよびオブジェクトが移動することはありません。そのため、定規の単位を変更すると、以前の単位の目盛線に揃えて配置していたガイドやオブジェクトが目盛線からずれてしまうことがあります。



ドキュメントウィンドウの定規
A. ラベル付き目盛線 **B.** 大目盛 **C.** 小目盛

水平定規と垂直定規には異なる単位を設定することができます。垂直定規に指定した単位システムは、同様に垂直フレームの各要素の長さの基準になります。各スプレッドには、それぞれ独自の垂直定規がありますが、すべての垂直定規には環境設定ダイアログボックスの「単位と増減値」セクションでの設定が使用されます。

定規のデフォルトの単位はミリメートルです。定規の単位をカスタマイズして、定規の大目盛の位置を調整することができます。例えば、垂直定規の単位を 12 ポイントに変更すると、大目盛は 12 ポイントごとに表示されます。目盛のラベルにはカスタマイズした大目盛が反映されるため、この例の定規の大目盛 3 つ分は、増減値 36 ポイント（12 ポイントの 3 倍）になります。

定規の表示 / 非表示の切り替え

❖ 標準モード（表示／スクリーンモード／標準）の状態で、表示／定規を表示、または表示／定規を隠すを選択します。

単位と定規の変更

1. 編集／環境設定／単位と増減値（Windows）または InDesign／環境設定／単位と増減値（Mac OS）を選択します。
2. 定規の開始位置を変更するには、「定規の単位」の開始位置ポップアップメニューで次のいずれかの操作を行います。
   - 各スプレッドの左上端に定規の始点を設定するには、「スプレッド」を選択します。水平定規は、スプレッド全体を測定します。
   - 各ページの左上端に定規の開始位置を設定するには、「ページ」を選択します。水平定規は、スプレッドの各ページごとを測定します。
   - 定規の原点をノド元の中心に設定するには、「ノド元」を選択します。水平定規は、ノド元から左へは負の数値、ノド元から右へは正の数値を取ります。
3. 定規、ダイアログボックス、パネルの水平および垂直方向に使用する単位の種類を変更するには、「水平方向」と「垂直方向」で単位を選択します。または、「カスタム」を選択して、定規の大目盛を表示するポイント数を入力します。
4. 「他の単位」で次の項目を指定します。
   - 「組版」では、フォントサイズ以外に使用される単位として、歯、ポイント、ピクセル、アメリカ式ポイント、U、Bai、Mils のいずれかを選択します。

     注意： ポイントは、1 インチ = 72 ポイントの PostScript ポイント、1 インチ = 72.27 ポイントのアメリカ式ポイント、または別の換算による値で使用できます。

「テキストサイズ」では、フォントサイズに使用される単位として、級、ポイント、ピクセルまたはアメリカ式ポイントのいずれかを選択します。ピクセルを選択すると Web 用のドキュメントをデザインする場合に便利です。

- 「線」では、パス、フレーム枠、段落境界線など、様々な線の幅（太さ）に使用される単位を指定します。ピクセルを選択すると Web 用のドキュメントをデザインする場合に便利です。

5. ポイントの換算で使用される値を変更したい場合は、「ポイント / インチ」に、目的のポイントサイズ（1 インチあたりのサイズ）を指定します。
6. 次のいずれかの、キーボードショートカットで 1 回当たりに増減する値を設定します。

   カーソルキー 矢印キーを押したときにオブジェクトが移動する距離を設定します。

   サイズ / 行送り キーボードショートカットを使用する際の、フォントサイズまたは行送りの増減値を設定します。

   ベースラインシフト キーボードショートカットを使用する際の、ベースラインが移動する距離を設定します。

   カーニング / 字送り キーボードショートカットを使用する際の、カーニングおよび字送りの増減値を設定します。

7. 「OK」をクリックします。

定規を右クリック（Windows）または Control キーを押しながらクリック（Mac OS）し、コンテキストメニューから単位を選択して、定規の単位を変更することもできます。水平定規と垂直定規の交点を右クリック、または Control キーを押しながらクリックして、両方の定規の単位を同時に変更することができます。

デフォルト単位のオーバーライド

デフォルトとは異なる単位を指定できます。

❖ パネルまたはダイアログボックスで既存の値を選択し、次表の表記法に従って新しい値を入力します。

変更単位	値の後ろに入力する文字	例	結果
級	q	6q	6 級
歯	h	6h	6 歯
インチ	i in inch "	5.25i 5.25in 5.25inch 5.25"	5 1/4 インチ
ミリメートル	mm	48mm	48 ミリメートル
センチメートル	cm	12cm	12 センチメートル
パイカ	p	3p	3 パイカ
ポイント	pt p（値の前）	6pt p6	6 ポイント
アメリカ式ポイント[あめりかしきぽいんと]	ap	6ap	6 アメリカ式ポイント
パイカとポイント	p（値の間）	3p6	3 パイカ、6 ポイント
ピクセル	px	5px	5 ピクセル
シセロ	c	5c	5 シセロ
アゲート	ag	5ag	アゲート

日本特有の単位

級と歯は、日本の手動および自動の写真植字機を用いた組版で使用されてきた、文字サイズ、字送りまたは行送りの長さを表す単位です。どちらの単位も、1 単位が 0.25 ミリメートルです。級は文字サイズだけに用い、歯は行送りやオブジェクトの間隔など、送りと長さに対して用います。

コンピューター上でのフォントのサイズを表すポイント（アメリカ式ポイントとも呼ばれます）、または Adobe PostScript® ポイントを使用して、行送りやアキを指定することもできます。1 アメリカ式ポイントは 0.35146 ミリメートルで、1 インチは 72.27 アメリカ式ポイント、また 1 インチは 72 PostScript ポイントになります。

トップへ戻る

原点の変更

原点は、水平定規と垂直定規の 0（ゼロ）が交差する点です。デフォルトでは、原点は各スプレッドの先頭ページの左上端にあります。したがって、デフォルトの原点の位置は、スプレッドに対しては常に同じ相対的位置にありますが、ペーストボードを基準にすると変化しているように見えることがあります。

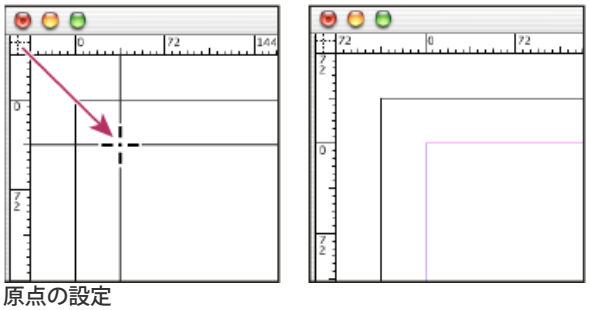
コントロールパネル、情報パネル、変形パネルの「X 位置」と「Y 位置」では、原点からの相対的な値が表示されます。原点は、距離の測定、測定用の新しい基準点の設定、またはサイズが大きいページのタイル表示を行うために移動させることができます。デフォルトでは、各スプレッドの先頭ページの左上端に 1 つの原点がありますが、綴じ側のノド元に原点を置いたり、スプレッドの各ページに原点を指定したりすることもできます。

原点の調節

原点を移動させると、すべてのスプレッドで原点が相対的に同じ位置に移動します。例えば、ページスプレッドの 2 ページ目の左上隅に原点を移動すると、ドキュメント内の他のすべてのスプレッドでも、2 番目のページの同じ位置に原点が表示されます。

❖ 次のいずれかの操作を行います。

- 原点を移動させるには、水平定規と垂直定規の交点から、原点を設定したいレイアウト上の位置までドラッグします。



原点の設定

- 原点をリセットするには、水平定規と垂直定規の交点 をダブルクリックします。
- 原点を固定または固定解除するには、定規の原点を右クリック（Windows）または Control キーを押しながらクリック（Mac OS）し、コンテキストメニューから「原点固定」または「原点固定解除」を選択します。

デフォルト原点の変更

環境設定ダイアログボックスの始点設定を使用すると、定規のデフォルトの原点と、水平定規の範囲を設定できます。この範囲により、ノド元の中央からページ内、スプレッド全体、または複数のスプレッドにわたって、定規での計測を行うことを指定します。

各スプレッドの綴じ側のノド元に定規の始点を設定した場合は、その始点はノド元に固定されます。この場合、始点を別の位置に指定しないかぎり、原点を定規の交点からドラッグして移動することはできません。原点を移動したい場合は、異なるオプションを選択してください。

1. 編集／環境設定／単位と増減値（Windows）または InDesign／環境設定／単位と増減値（Mac OS）を選択します。
2. 「定規の単位」セクションの開始位置ポップアップメニューで、次のいずれかの操作を行います。
   - 各スプレッドの左上端に定規の始点を設定するには、「スプレッド」を選択します。水平定規は、スプレッド全体を測定します。
   - 各ページの左上端に定規の開始位置を設定するには、「ページ」を選択します。水平定規は、スプレッドの各ページごとを測定します。
   - 定規の原点をノド元の中心に設定するには、「ノド元」を選択します。水平定規は、ノド元から左へは負の数値、ノド元から右へは正の数値を取ります。

   水平定規を右クリック（Windows）または Control キーを押しながらクリック（Mac OS）し、表示されるコンテキストメニューから水平定規の始点を選択することもできます。

トップへ戻る

オブジェクトの測定

ものさしツールは、ドキュメントウィンドウの 2 つのポイント間の距離を測定します。1 つのポイントから他のポイントまでの間を測定すると、その距離は情報パネルに表示されます。角度を除いたすべての測定には、ドキュメントで設定されている現在の単位が使用されます。

ものさしツールを使ってアイテムを測定した後は、別の測定を行うか、異なるツールを選択するまで線はそのまま表示されます。

2 点間の距離の測定

1. 情報パネルが表示されていることを確認します（ウインドウ／情報）。
2. ものさしツール を選択します（スポイトツールをクリックしたままにすると、ものさしツールが表示されます）。
3. 測定開始点をクリックして、測定終了点までドラッグします。Shift キーを押しながらドラッグすると、ツールの動作が 45° 単位に固定されます。1 つのペーストボードやスプレッドを越えてドラッグすることはできません。

幅と高さの測定は、情報パネルに表示されます。

角度の測定

1. 情報パネルが表示されていることを確認します（ウインドウ／情報）。
2. ものさしツール を選択します（スポイトツールをクリックしたままにすると、ものさしツールが表示されます）。
3. 次のいずれかの操作を行います。
   - X 軸からの角度を測定するには、ツールをドラッグします。
   - カスタム角度を測定するには、まず、ドラッグして最初の測定線を作成します。測定線のいずれかの端にツールを置きます。2 つ目の測定線を作成するには、ダブルクリックしたままドラッグするか、Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押しながらドラッグします。

     カスタム角度を測定するとき、情報パネルでは最初の測定線の長さが「D1」に、2 つ目の測定線の長さが「D2」に表示されます。

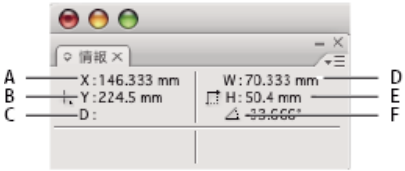
情報パネルの概要

トップへ戻る

情報パネルには、選択しているオブジェクト、現在のドキュメント、または現在使用しているツールなどに関する情報が表示され、位置やサイズ、回転などの値が含まれます。オブジェクトを移動するとき、情報パネルには開始地点からの相対的な位置が、ドラッグの動きに合わせて表示されます。

情報パネルは、ストーリー内の単語数や文字数を確認する場合にも便利です。

InDesign の他のパネルと異なり、情報パネルは表示だけを行います。値の入力や編集はできません。パネルメニューから「オプションを表示」を選択すると、選択しているオブジェクトに関する情報が表示されるようになります。



情報パネル
A. カーソルの水平（X）位置 **B.** カーソルの垂直（Y）位置 **C.** 開始位置から移動したオブジェクトまたはツールの距離 **D.** 現在の単位での幅 **E.** 現在の単位での高さ **F.** 回転角度

情報パネルの表示

❖ ウィンドウ／情報を選択します。
使用する単位を変更するには、プラス記号の隣にある小さい三角形をクリックし、単位を選択します。

その他の情報パネルオプションの表示

❖ 情報パネルメニューの「オプションを表示」を選択します。
選択されているオブジェクトやツールによっては、次の情報が表示されます。

- 選択されているオブジェクトの塗りと線のカラー、およびグラデーションの情報 。
- 選択されているオブジェクトに適用されているスウォッチ名。塗りまたは線アイコンの隣にある小さい三角形をクリックすると、ポップアップメニューからスウォッチ名とカラー値を切り替えることができます。
- ドキュメント上で何も選択されていないときは、ファイルの保存場所、最終修正日、著者、ファイルサイズといった、現在のドキュメントについての情報が表示されます。
- 文字ツールのいずれかが選択されており、テキスト挿入点が置かれているか、テキストが選択されているときは、文字数、単語数、行数、段落数などが表示されます（オーバーセットテキストがあると、「+」記号と共に、オーバーセットしている文字数、単語数または行数などを示す数値が表示されます）。
- 配置されたグラフィックが選択されているときは、ファイルタイプ、解像度およびカラースペースが表示されます。解像度は、元の ppi（ネイティブ形式での解像度）と、変更された ppi（InDesign でサイズ変更された後の解像度）の両方が表示されます。カラーマネジメントが有効な場合は、ICC カラープロファイルも表示されます。
- 選択されている文字の Unicode コードポイント。文字ツールを使用して 1 つの文字を選択すると、ドキュメントに保存されている実際の Unicode 値が表示されます。
- 選択されている文字の文字組みクラス。
- シアーツール、拡大 / 縮小ツール、または自由変形ツールが選択されている場合は、傾斜角度または垂直方向と水平方法の比率。

関連項目

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

Transforming objects

- Transform panel overview
- Change transformation settings
- Transform objects
- Rotate objects
- Move objects
- Scaling vs. resizing objects
- Resize objects
  Scale objects
  Reflect (flip) objects
  Shear (skew) objects
  Repeat transformations
  Clear transformations

Transform panel overview

To the top

Use the Transform panel to view or specify geometric information for any selected object, including values for position, size, rotation, and shearing. Commands in the Transform panel menu provide additional options and quick ways to rotate or reflect objects.

Note:

The buttons and panel menu commands in the Transform panel are also available in the Control panel.



Transform panel

A. Reference point locator B. Constrain Proportions icon C. Panel menu

Display the Transform panel

- Choose Window > Object & Layout > Transform.

View geometric information about objects

When you select an object, its geometric information appears in the Transform and Control panels. If you select multiple objects, the information represents all selected objects as a unit.

- Select one or more objects, and display the Transform panel (Window > Object & Layout > Transform).

  Position information is relative to the ruler origin and the reference point of the object. Angle information is relative to the pasteboard, where a horizontal line has an angle of 0°.

Change transformation settings

To the top

The Transform panel includes several options that determine how objects are transformed and how transformations are displayed in the Transform and Control panels.

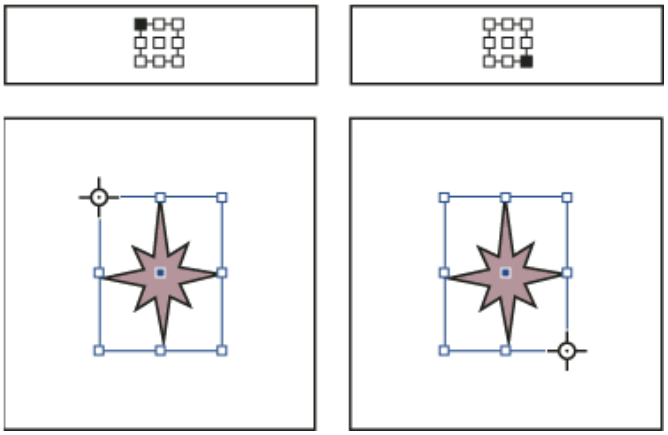
Change the reference point for selected objects

All transformations originate from a fixed point on or near the object, called the *reference point*. An icon is displayed at the reference point when a transformation tool, such as the Scale tool, is active.



Reference point moved to center (left), and object scaled (right)

- Do one of the following:
  - To specify a different reference point for the selected object, click any of the nine points on the reference point locator in the Transform or Control panel.



As you click different reference points on the Transform or Control panel (top left and right), the reference point for the selected object changes (bottom left and right).

  - To move the selected object's reference point to a specific location, select the Rotate tool, the Scale tool, or the Shear tool, position the tool over the reference point icon, and then drag it to a new location. Or, with one of these tools selected, click anywhere on the object or page. The reference point moves to that location.

Note:

When a transform tool is selected, clicking away from the object does not deselect it— it moves the reference point. Choose Edit > Deselect All to deselect an object.

The last-selected reference point on the reference point locator becomes the new default reference point for all tools and objects. If you drag an object's reference point icon to a custom location (not on an anchor point), the panel reference point returns to the default position once the current object is no longer selected. InDesign preserves the default reference point position for new documents so you don't have to reset it.

Change the information displayed for nested objects

The Transform panel orients an object to a spread's pasteboard, where a horizontal line has a rotation angle of 0°. By default, this is true even if the object is nested inside a transformed *container object* (that is, if the object is part of a transformed group or pasted inside a transformed frame). For example, if you paste an unrotated graphic inside a frame, rotate the frame 10° with the graphic inside, and then select the graphic using the Direct Selection tool, the Transform panel displays the graphic's rotation angle as 10°.



Object's rotation angle displayed relative to pasteboard

If you prefer, you can deselect the Transformations Are Totals command to see the same information relative to the nested object's container. In the example above, if you deselect Transformations Are Totals, the Transform panel displays the graphic's rotation angle as zero (the angle it has relative to its rotated container).



Object's rotation angle displayed relative to container object

1. Open the Transform panel or Control panel.
2. In the Transform or Control panel menu, do one of the following:
    - Leave Transformations Are Totals selected (the default) to display transformation values for nested objects relative to the pasteboard.
    - Deselect Transformations Are Totals to display rotate, scale, and shear values for nested objects relative to the container object.

Measure the position of selected objects

The Show Content Offset command determines the appearance of the X and y values in the Transform panel for nested objects selected with the Direct Selection tool . The selected reference point in the reference point locator of the Transform and Control panels determines which of the nine reference points on the selected object is being compared to the zero point of the document or to the zero point of a container frame. The zero point of a container frame is always its upper-left corner.

The position of selected objects is measured from three positions:

- The position of the container frame in relation to the zero point of the document. With Show Content Offset turned on or off, select the container frame using the Selection tool.
- The position of the nested object in relation to the zero point of the document. Turn off Show Content Offset and select the nested object using the Direct Selection tool.
- The position of the nested object in relation to the zero point (upper-left corner) of its container frame. Turn on Show Content Offset and select the nested object using the Direct Selection tool.



Parent frame's position displayed relative to zero point of document



Nested object's position displayed relative to zero point of document



Nested object's position displayed relative to container frame

If Show Content Offset is selected, the X and Y values of the embedded object appear relative to the container object, and the X/Y icons in the Transform panel change to X+/Y+. If this command is deselected, the nested object values appear relative to the rulers.

- In the Transform or Control panel menu, select or deselect Show Content Offset.

Include or exclude stroke weight in measurements

Stroke weight can affect an object's size and position. You can change the stroke's alignment and then choose whether the Transform panel measures an object's size and position from the center or from the edge of its stroke. For information on changing stroke alignment, see Stroke panel options.

Note:

This option does not change how stroke weights are affected when scaling a frame, only whether any changes affect measurements.

- In the Transform or Control panel menu, do one of the following:
    - Select Dimensions Include Stroke Weight when you want panel measurements to represent the outer edge of an object's stroke. For example, if one frame is 2 points shorter than the other, but the shorter frame's stroke is 2 points thicker, this setting will cause both frames to display the same height values in the Transform and Control panels.
    - Deselect Dimensions Include Stroke Weight when you want the panel measurements to represent an object's path or frame regardless of its stroke weight. For example, two frames of the same height will display the same height values in the Transform and Control panels, regardless of differences in their stroke weights.

Transform objects

To the top

You can modify an object's size or shape, and change its orientation on the pasteboard, by using tools and commands. The toolbox includes four transformation tools—the Rotate, Scale, Shear, and Free Transform tools. In addition, you can use the Selection tool to transform objects. All transformations, with the addition of reflection, are available in the Transform and Control panels, where you can precisely specify transformations.



Transformation tools (top) compared to Transform panel (bottom)

A. Rotation options B. Shearing options C. Scaling options

When transforming objects, note the following:

- The results of a transformation can differ significantly, depending on what is selected. For example, when you rotate an image, what gets rotated depends on whether you select the image, the frame, or the frame

and the image. Use the Selection tool to transform (rotate, scale, or shear) an entire path and its content (click outside the content grabber); use the Direct Selection tool to transform just the path without its content or the content without its path. To transform the content without its path, make sure that all anchor points are selected.

To resize both the frame and content, use the Scale X Percentage and Scale Y Percentage fields, not the W and H fields. The W and H fields change only the selected frame or content, not both. Keep in mind that you're not limited to specifying percentages in the Scale fields. You can type dimensions by including the unit of measurement, such as "6p."

- A transformation affects all selected objects as a single unit. For example, if you select multiple objects and rotate them 30°, they all rotate around one reference point. If you want to rotate each selected object 30° around its own reference point, you must select and rotate them individually.
- When transforming type, you can use either of two selection methods: Use the Selection or Direct Selection tool to select an entire text frame or text converted to outlines, and then use the transformation tools; or use the Type tool to select text or to click an insertion point in a text frame, and then specify transformations in the Transform panel, Control panel, or dialog boxes available when you double-click a tool. In both cases, the transformation affects the entire text frame.
- When you rotate, skew, or scale a group, the settings apply to the entire group, as well as to the individual objects in the group. For example, if you rotate a group 30°, the rotation value in the Transform or Control panel is 30° whether you select the group itself or direct-select an object in the group.

Transform objects with the Transform panel

Use the selection tools to determine whether the content and frame are transformed together or separately.

1. Select an object to transform.
    - To transform both the frame and its content, use the Selection tool to select the frame.
    - To transform the content without transforming its frame, use the Direct Selection tool to direct-select the object, or use the Selection tool to click the content grabber of an image.
    - To transform a frame without transforming the content, direct-select the frame, and select all the anchor points.
2. In the Transform panel or Control panel, specify the reference point for the transformation.

    All values in the panel refer to the bounding boxes of the objects. X and Y values refer to the selected reference point on the bounding box relative to the ruler origin.
3. Do any of the following:
    - Enter new values in the text boxes.
    - Choose values from available pop-up menus.
    - Choose commands from the panel menu

    Note:

    To maintain the object's proportions when using the Scale X Percentage and Scale Y Percentage options, click the Constrain Proportions icon in the panel. When the option is not selected, dots appear on both sides of the icon (like a broken chain link). You can also specify dimensions rather than percentages by specifying the unit of measurement, such as 6p.
4. Press Tab, Enter (Windows), or Return (Mac OS) to apply the change.

Transform objects with the Selection tool

Use the Selection tool to move, resize, and rotate objects.

1. Using the Selection tool, select an object. To transform an image within a frame, click the content grabber that appears when you hold the pointer over an image.
2. Do any of the following:
    - To move objects, click anywhere within the bounding box, and then drag.
    - To scale objects, hold down Ctrl (Windows) or Command (Mac OS), and drag any bounding box handle until the object is the desired size. Include the Shift key to preserve the selection's proportions. Include the Alt (Windows) or Option (Mac OS) key to scale objects from the center.
    - To rotate objects, position the pointer anywhere outside a bounding box handle. When the pointer changes to , drag until the selection is at the desired angle of rotation.
    - To reflect objects, drag a handle of the bounding box past the opposite edge or handle, until the object is at the desired level of reflection.

Transform objects with the Free Transform tool

The Free Transform tool works the same way it does in Adobe Photoshop and Adobe Illustrator, by providing a way to perform any transformation with just one tool. You can combine transformations, such as rotating and scaling, while the Free Transform tool is active.

You can use keyboard shortcuts to instantly switch among the Free Transform tool (press E), the Selection tool (V), and the Direct Selection tool (A).

1. Using the appropriate selection tool, select the object or objects to transform.
2. Select the Free Transform tool .
    - To move objects, click anywhere within the bounding box, and then drag.
    - To scale objects, drag any bounding box handle until the object is the desired size. Shift-drag the handle to preserve the selection's proportions.
    - To scale objects from the center of the bounding box, Alt-drag (Windows) or Option-drag (Mac OS).
    - To rotate objects, position the pointer anywhere outside the bounding box. When the pointer changes to , drag until the selection is at the desired angle of rotation.
    - To reflect objects, drag a handle of the bounding box past the opposite edge or handle, until the object is at the desired level of reflection.
    - To shear objects, begin dragging a handle, and then hold down Ctrl (Windows) or Command (Mac OS). Hold down Alt+Ctrl (Windows) or Command+Option to shear from both sides of the object.

Rotate objects

To the top

You can rotate objects using any of several methods.

Rotate an object using the Rotate tool

1. Select an object to rotate. To rotate both the frame and its content, use the Selection tool to select the frame. To rotate the content without rotating its frame, click the Content Grabber or use the Direct Selection tool to select the object. To rotate a frame without rotating the content, direct-select the frame, and select all the anchor points.
2. Select the Rotate tool .
3. If you want to use a different reference point for the rotation, click where you want the reference point to appear.
4. Position the tool away from the reference point, and drag around it. To constrain the tool to multiples of 45°, hold down Shift as you drag. For finer control, drag farther from the object's reference point.

You can also rotate by using the Free Transform tool.

If Smart Guides (and Smart Dimensions) are turned on, visual clues indicate when you're rotating an object the same degree as a nearby rotated object. For example, if you rotate one object on your page 24 degrees, a rotation icon appears as you rotate another object close to 24 degrees.

Rotate an object using the Selection tool

- Using the Selection tool, position the pointer anywhere outside a selection handle. When the pointer changes to , drag until the selection is at the desired angle of rotation.

Rotate an object using the Transform or Control panel

1. Select an object to rotate. To rotate both the frame and its content, use the Selection tool to select the frame. To rotate the content without rotating its frame, click the Content Grabber or use the Direct Selection tool to select the object. To rotate a frame without rotating the content, direct-select the frame, and select all the anchor points.
2. Do any of the following:
    - To rotate clockwise or counterclockwise in 90° increments, click either of the Rotate buttons in the Control panel.
    - To rotate by a preset angle, choose an angle from the Rotation Angle pop-up menu in the Transform or Control panel.
    - In the Rotation Angle box on the Transform or Control panel, type a positive angle to rotate selected objects counterclockwise, or type a negative angle to rotate selected objects clockwise, and then press Enter (Windows) or Return (Mac OS).
    - To create a copy of the object with the new rotation applied to the copy, type a value in the Rotation Angle box on the Transform panel and then hold down Alt (Windows) or Option (Mac OS) as you press Enter.

When you rotate a single object, the specified value remains displayed in the Transform or Control panel. When you rotate multiple objects, the Rotation Angle is reset to 0 degrees, even though the objects are rotated.

Rotate an object using the Rotate command

You can use the Rotate command to rotate an object by a specific amount. This command also lets you rotate a copy of the selected object, leaving the original in place.

1. Select an object to rotate. To rotate both the frame and its content, use the Selection tool to select the frame. To rotate the content without rotating its frame, direct-select the object. To rotate a frame without rotating the content, direct-select the frame, and select all the anchor points.
2. Do one of the following to open the Rotate dialog box:
    - Choose Object > Transform > Rotate.
    - Double-click the Rotate tool .
    - Select the Rotate tool and Alt-click (Windows) or Option-click (Mac OS) on or near the object to select a new reference point.
3. Enter the rotation angle, in degrees, in the Angle box. Enter a negative angle to rotate the object clockwise; enter a positive angle to rotate the object counterclockwise.
4. Do one of the following:
    - To preview the effect before you apply it, select Preview.
    - To rotate the object, click OK.
    - To rotate a copy of the object, click Copy.

Move objects

To the top

You can move objects by cutting them from one spot and pasting them into another, by entering new horizontal and vertical coordinates, or by dragging them. Dragging also allows you to move a copy of an object or to copy objects between software applications.

The Smart Guides feature makes it easy to move objects to precise locations in your layout. As you drag an object, temporary guides appear, indicating that the object you're moving is aligned with an edge or center of the page or with another page item.

Move objects

For best results, use the Selection tool to move multiple objects. If you use the Direct Selection tool to select multiple objects or paths, dragging moves only the selected graphic, path, or anchor points.

1. Select an object to move. To move both the frame and its content, use the Selection tool to select the frame. To move the content without moving its frame, direct-select the object, or click the content grabber when you mouse over an image. To move a frame without moving the content, direct-select the frame, and select all the anchor points.
2. Do one of the following:
    - To paste the object (or a copy of it) in a new location, choose Edit > Cut or Edit > Copy. Target the destination spread, and choose Edit > Paste. The objects appear in the center of the target spread.
    - To paste a copy at the same position as the original, choose Edit > Copy. Then, choose Edit > Paste In Place. (To offset the copy from the original, nudge it using the arrow keys.)

    If you want an object to appear in the same position on many pages, consider creating a master page and paste the object on it.

    - To move an object to a specific numeric location, type a value for each of the X (horizontal) or Y (vertical) position options in the Transform or Control panel. Then press Enter (Windows) or Return

(Mac OS).

- To nudge an object slightly in one direction, press or hold an arrow key; to nudge an object ten times as far, hold down Shift as you press an arrow key.
- To move an object by dragging, drag the object to a new position. Shift-drag to constrain the movement of the object horizontally, vertically, or diagonally (in multiples of 45°).

Drag the content grabber to move an image within its frame.

Move objects by a precise amount

You can use the Move command to move an object by a specific amount. This command also lets you move a copy of the selected object, leaving the original in place.

1. Select an object to move. To move both the frame and its content, use the Selection tool to select the frame. To move the content without moving its frame, direct-select the object. To move a frame without moving the content, direct-select the frame, and select all the anchor points.
2. Choose Object > Transform > Move, or double-click the icon for the Selection or Direct Selection tool in the toolbox.
3. In the Move dialog box, do one of the following:
   - Enter the horizontal and vertical distances that you want the object to move. Positive values move the object down and to the right of the *x* axis; negative values move the object up and to the left.
   - To move an object a precise distance and angle, enter the distance and angle for the move. The angle you enter is calculated in degrees from the *x* axis. Positive angles specify a counterclockwise move; negative angles specify a clockwise move. You can also enter values between 180° and 360°; these values are converted to their corresponding negative values (for example, a value of 270° is converted to –90°).
4. Do any of the following:
   - To preview the effect before you apply it, select Preview.
   - To move the object, click OK.
   - To move a copy of the object, click Copy.

Move objects to a precise location

1. Select an object to move.
2. If you want to use a different reference point for the move, click where you want the reference point to appear.

   For example, if you want to move the object to the upper-left corner of the page, select the upper-left reference point.
3. In the X and Y fields on the Transform panel, enter the coordinates where you want the selection to be moved.

Specify the distance objects move when nudged

1. Choose Edit > Preferences > Units & Increments (Windows) or InDesign > Preferences > Units & Increments (Mac OS).
2. For Cursor Key, specify the distance you want each press of an arrow key to move selected objects, and

then click OK.

If you hold down Shift while moving a selection, the selection moves ten times the distance you specify here.

Scaling vs. resizing objects

To the top

Resizing and scaling are different actions in InDesign. Resizing is simply changing the Width and Height values of an object. Scaling involves using a percentage value related to the original scale (100%) of the frame.

The difference between resizing and scaling isn't always apparent. A good way to see the difference is to resize and scale a text frame that has a stroke applied to it. When you double the size of the text frame, the text size and stroke weight remain the same. When you double the scale of the text frame, the text size and stroke weight also double.

Resizing a frame

By default, when the frame (and not the frame contents) is selected, changing the values of the Width and Height fields changes only the frame, not its contents, regardless of which selection tool is active.

Scaling a frame and its contents

When the frame is selected with the Selection tool, changing the values of the Scale X Percentage and Scale Y Percentage fields changes the frame and its contents. If Auto-Fit is selected, the frame and its contents are resized together.

Resizing or scaling frame contents

If you want to change only the content (resize or scale) of a frame, click the Content Grabber or use the Direct Selection tool to select the contents. Once selected, you can use the Width and Height fields or the Scale fields, depending on your preference.

Overriding defaults

If you want to scale the frame or its contents by a percentage and have the results returned in the current measurement system, you can enter in a number with the percent sign to override the default measurement system. For example, if the current width is 12p, and you want the new width to be 75% of the current value, you can enter 75% in the Width field. After you press Enter, the new value for the Width displays as 9p.

Similarly, you can use other measurement system values if you want to scale to a specific increment but have the results display in percent of the original. For example, you can replace 100% with 9p, and InDesign figures out which percentage is required to make it that width/height.

To the top

Resize objects

Dragging the handle of a frame that includes contents, such as an imported graphic, does not resize the contents by default. It's important to understand that the content and the container frame are separate items, each with its own bounding box. Simply dragging the frame of an imported graphic will either crop the graphic or leave a blank space outside the graphic, depending on which direction you drag. Being able to modify the frame apart from the contents adds flexibility, but it takes some time to get used to.

The Smart Guides feature makes it easy to resize objects based on other items in your layout. As you resize an object, temporary guides appear, indicating that the object is aligned with an edge or center of the page or is the same height or width as another page item.



Resizing an imported graphic

A. Frame selected with Selection tool B. Frame resized C. Frame and content scaled

- To resize a frame, drag any handle using the Selection tool. If you hold down Ctrl (Windows) or Command (Mac OS) while dragging, the frame and the content are scaled. Adding the Shift key scales proportionally.

Note:

If Auto-Fit is selected, resizing the frame resizes the image within the frame.

- To resize the content of a graphics frame, use the Selection tool to click the content grabber or direct-select the graphic, and then drag any of the graphics frame handles.
- To resize a frame or its content to a precise size, select the object and enter the size in the width (W) or height (H) fields on the Control panel.

To maintain the original proportions of the object when using the Control panel, make sure the Constrain Proportions icon is selected.

- To resize both the frame and content, use the Scale X Percentage and Scale Y Percentage fields, not the W and H fields. The W and H fields change only the selected frame or content, not both. Rather than specifying percentages, you can type dimensions by including the unit of measurement, such as "6p."
- To resize a frame or its content to a percentage of its current size, select the object and enter the percentage in the width or height fields on the Transform panel.
- To create a copy of the selected object with the new size applied to the copy, type a value in the width or height fields on the Transform panel and then hold down Alt (Windows) or Option (Mac OS) as you press Enter.

After you resize a frame or object, you can use a fitting option (Object > Fitting) to fit the content to the frame or the frame to the content.

Scale objects

To the top

Scaling an object enlarges or reduces it horizontally (along the x-axis), vertically (along the y-axis), or both horizontally and vertically, relative to the reference point you specify.

By default, InDesign scales strokes. For example, if you scale a selected object with a 4-point stroke by 200%, the Stroke panel indicates an 8-point stroke and the stroke visibly doubles in size. You can change the default stroke

behavior by deselecting Adjust Stroke Weight When Scaling in the Transform or Control panel menu.

Scale an object using the Selection tool

- To scale the content and frame simultaneously, use the Selection tool to select the object and hold down Ctrl (Windows) or Command (Mac OS). Add the Shift key to resize the object proportionally.

Scale an object using the Scale tool

1. Select an object to scale. To scale both the frame and its content, use the Selection tool to select the frame. To scale the content without scaling its frame, click the Content Grabber to direct-select the object. To scale a frame without scaling the content, direct-select the frame, and select all the anchor points.
2. Select the Scale tool .
3. Position the Scale tool away from the reference point and drag. To scale the x or y axis only, start dragging the Scale tool along one axis only. To scale proportionally, hold down Shift as you drag the Scale tool. For finer control, start dragging farther from the object's reference point.

   You can also scale by using the Free Transform tool.

Scale an object using the Transform panel

To maintain the original proportions of the object when using the Transform panel, make sure the Constrain Proportions icon is selected.

1. Select an object to scale. To scale both the frame and its content, use the Selection tool to select the frame. To scale the content without scaling its frame, direct-select the object. To scale a frame without scaling the content, direct-select the frame, and select all the anchor points.
2. In the Transform or Control panel, do one of the following:

   - Choose a preset percentage value in the Scale X Percentage or Scale Y Percentage pop-up menu.

   - Type a percentage value (such as 120%), or a specific distance (such as 10p) in the Scale X Percentage or Scale Y Percentage box, and then press Enter or Return.

Scale an object using the arrow keys

1. Select or direct-select the object or frame.
2. In the Transform panel, click in the Scale X Percentage or Scale Y Percentage box.
3. Press the Up or Down Arrow Keys to scale the object by 1% increments. By pressing the Shift key at the same time as the arrow keys you can scale the object by increments of 10%.

If you use this method to scale up by a percentage and scale down by that same percentage, the object returns to the original scale value if Adjust Scaling Percentage is selected in General preferences. For example, if you scale a 20-mm circle up 10% and then down 10%, the circle returns to 20 millimeters (not 19.8 mm).

Scale an object using the Scale command

1. Select an object to scale. To scale both the frame and its content, use the Selection tool to select the frame. To scale the content without scaling its frame, direct-select the object. To scale a frame without scaling the content, direct-select the frame, and select all the anchor points.
2. Do one of the following to open the Scale dialog box:
    - Choose Object > Transform > Scale.
    - Double-click the Scale tool .
    - Select the Scale tool and Alt-click (Windows) or Option-click (Mac OS) on or near the object to select a new reference point.
3. Type a percentage value in the Scale X or Scale Y box.

    To maintain the original proportions of the object when using the Transform panel, make sure the Constrain Proportions icon is selected.
4. Do any of the following:
    - To preview the effect before you apply it, select Preview.
    - To scale the object, click OK.
    - To scale a copy of the object, click Copy.

Determine how scaling is tracked

You can determine how scaling is tracked in the interface. If the Apply To Content preference option is selected in General preferences, scaling values are reset to 100% in the Transform panel after the object is scaled. If Adjust Scaling Percentage is selected, scaling values remain as specified (such as 125%).

With multiple objects selected, the scaling value will always display as 100%. However, you can select objects individually to see the applied effect of the transform (such as 125%) if Adjust Scaling Percentage is selected.

1. Choose Edit > Preferences > General (Windows) or InDesign > Preferences > General (Mac OS).
2. Under When Scaling, select Apply To Content or Adjust Scaling Percentage, and then click OK.

If Adjust Scaling Percentage is selected and you scale an object, you can choose Redefine Scaling As 100% from the Transform or Control panel menu to reset the scaling percentages to 100%.

Adjust stroke weight when objects are scaled

- Select the Adjust Stroke Weight When Scaling option in the Transform or Control panel menu.

For example, if you scale a 4-point stroke by 200% when this option is turned on, the stroke weight becomes 8 points. If you turn off this option, the object doubles in size but its stroke weight remains 4 points.

If this option is turned on and you scale an object disproportionally, InDesign applies the smallest stroke weight to all sides. For example, suppose that you scale a selected object with a 4-point stroke only in the X direction by 200%. Instead of applying an 8-point stroke in the X direction and a 4-point stroke in the Y direction, InDesign applies the smaller value (4 points) to all sides.

Scalability of an effect

If you created an object, and apply an effect, the effect scales consistently in proportion to the object scaling. The proportion in which you scale the object, the effect gets scaled in the same proportion.

In preferences, General > Apply to content > Include Effects. Deselect this option if you want only the objects to scale and not the effects.



Preferences - Include Effects

Or

Window > Object & Layout > Transform. From the flyout menu, select Adjust Effects when Scaling to turn the effect scalability on or off.



Adjust Scaling

This works similar to the way stroke effects work. So you can scale effects just like you scale strokes.

Reset scaling value to 100%

In some cases, if you want to reset the Scale X and Scale Y values of an object to 100% without resizing the object. For example, if you opened a document from a previous version of InDesign that has non-100% scaling values, or you have scaled an object with the Adjust Scaling Percentage preference setting selected. When you choose this command, the scaling values for all selected frames are reset to 100%. Choosing this command does not change the size or appearance of objects.

1. Select one or more objects that have non-100% scaling values.

   This command is dimmed if you direct-select an imported image or if an object has 100% scaling values.

2. Choose Redefine Scaling As 100% from the Transform or Control panel menu.

Note:

Choosing this command may result in unexpected behavior with objects in transformed groups.

Reflect (flip) objects

To the top

Reflecting an object flips the object across an invisible axis at the reference point you specify. (See Change transformation settings.)



Original object (top) reflected using Flip Horizontal (middle) and Flip Vertical (bottom)

The flip/rotate indicator (P) in the middle of the Control panel appears white with a black outline if an object is flipped. If the object is not flipped, the indicator is solid black.

1. Select an object to flip. To flip both the frame and its content, use the Selection tool to select the frame. To flip the content without its frame, direct-select the object. To flip a frame without its content, direct-select the frame, and select all the anchor points.
2. Do one of the following:

    - To reflect using the reference point as a horizontal axis, click the Flip Horizontal button in the Control panel.
    - To reflect using the reference point as a vertical axis, click the Flip Vertical button in the Control panel.

    You can also reflect objects by using the Selection tool or Free Transform tool to pull one side of an object's bounding box past the opposite side, or by typing negative values into the Scale X Percentage or Scale Y Percentage options in the Transform or Control panel.

Shear (skew) objects

To the top

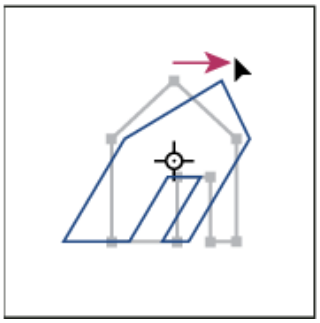
Shearing an object slants or skews it along its horizontal or vertical axis, and can also rotate both of the object's axes. Shearing is useful for:

- Simulating some types of perspective, such as isometric projection.
- Slanting a text frame.
- Creating cast shadows when you shear a copy of an object.

Shear an object

1. Select an object to shear. To shear both the frame and its content, use the Selection tool to select the frame. To shear the content without its frame, click the Content Grabber to direct-select the object. To shear a frame without scaling the content, direct-select the frame, and select all the anchor points.
2. Do one of the following:

    - To shear selected objects by dragging, select the Shear tool . Then position the Shear tool away from the reference point, and drag. Shift-drag to constrain shearing to a perpendicular vertical or horizontal axis. If you start to drag at a non-perpendicular angle and then hold down the Shift key, shearing is constrained to that angle.

    Object being sheared by dragging Shear tool with reference point placed in center

    If you want to use a different reference point for the shearing, click where you want the reference point to appear.

    - To shear using a preset value, in the Transform or Control panel, choose an angle from the Shear pop-up menu.

- To shear using a specific value, in the Transform or Control panel, type a positive or negative angle in the Shear box, and press Enter or Return.
- To create a copy of the object with the new shear applied to the copy, type a value in the Shear box in the Transform panel, and then hold down Alt (Windows) or Option (Mac OS) as press Enter.

When you shear a single object, the specified value remains displayed in the Transform or Control panel. When you shear multiple objects, the Shear Angle value is reset to 0 degrees, even though the objects are sheared.

You can also shear by using the Free Transform tool.

Shear an object using the Shear command

You can shear an object by a specific amount by using the Shear command. This command also lets you shear a copy of the selected object, leaving the original in place.

1. Select an object to shear. To shear both the frame and its content, use the Selection tool to select the frame. To shear the content without its frame, click the Content Grabber to direct-select the object. To shear a frame without scaling the content, direct-select the frame, and select all the anchor points.
2. Do one of the following to open the Shear dialog box:
   - Select Object > Transform > Shear.
   - Double-click the Shear tool .
   - Select the Shear tool and Alt-click (Windows) or Option-click (Mac OS) to select a new reference point.
3. Type a new shear angle.

   The shear angle is the amount of slant to be applied to the object, relative to a line perpendicular to the shear axis. (Shear angle is calculated clockwise from the current axis.)
4. Specify the axis along which the object is to be sheared. You can shear an object along a horizontal or vertical axis.
5. Do any of the following:
   - To preview the effect before you apply it, select Preview.
   - To shear the object, click OK.
   - To shear a copy of the object, click Copy.

Repeat transformations

To the top

You can repeat transformations, such as moving, scaling, rotating, resizing, reflecting, shearing, and fitting. You can repeat either a single transformation or a sequence of transformations, and you can apply those transformations to more than one object at a time. InDesign remembers all transformations until you select a different object or perform a different task.

Note:

Not all transformations are recorded. For example, modifying a path or its points is not recorded as a transformation.

1. Select one or more objects, and perform all the transformations you want to repeat.
2. Select the object or objects to which you want to apply the same transformations.
3. Choose Object > Transform Again and then select one of the following options:

Transform Again

Applies the last single transform operation to the selection.

Transform Again Individually

Applies the last single transform operation to each selected object individually, rather than as a group.

Transform Sequence Again

Applies the last sequence of transform operations to the selection.

Transform Sequence Again Individually

Applies the last sequence of transform operations to each selected object individually.

Clear transformations

To the top

1. Select the object or objects that have been transformed.
2. Choose Clear Transformations from the Transform or Control panel menu.

Unless all values are the default values, clearing transformations results in a change of appearance for the objects.

Note:

If the Scale values were reset at 100%, clearing the transformations will not change the scale.

Adobe also recommends

- Keys for transforming objects
- Gallery of transformation tools
- Keys for transforming objects
- Use smart guides
- Create masters
- Use smart guides
- Scale type
- Keys for transforming objects
- Duplicate objects

(cc) BY-NC-SA Twitter™ and Facebook posts are not covered under the terms of Creative Commons.

Legal Notices | Online Privacy Policy

Understanding graphics formats

- Choosing the right graphics format
- About vector graphics
- About bitmap images
- Image resolution guidelines for final output

Choosing the right graphics format

To the top

InDesign can import a wide range of graphics file formats. Consult with the service providers who will help you produce your document to clarify which formats to use. You can then plan your document around those formats and the options that best apply to your project.

The following table summarizes what graphics formats would work best for the kind of document you're designing.

Final output	Graphics type	Format
High resolution (>1000 dpi)	Vector drawings	Illustrator, EPS, PDF
	Bitmap images	Photoshop, TIFF, EPS, PDF
Process-color separations	Vector drawings	Illustrator, EPS, PDF
	Color bitmap images	Photoshop, CMYK TIFF, DCS, EPS, PDF
	Color-managed graphics	Illustrator, Photoshop, RGB TIFF, RGB EPS, PDF
Low-resolution printing, or PDF for online viewing	All	Any (BMP images only)
Web	All	Any (InDesign converts graphics to JPEG and GIF when exporting to HTML)

About vector graphics

To the top

Vector graphics (sometimes called *vector shapes* or *vector objects*) are made up of lines and curves defined by mathematical objects called *vectors*, which describe an image according to its geometric characteristics.

You can freely move or modify vector graphics without losing detail or clarity, because they are resolution-independent—they maintain crisp edges when resized, printed to a PostScript printer, saved in a PDF file, or imported into a vector-based graphics application. As a result, vector graphics are the best choice for artwork, such as logos, that will be used at various sizes and in various output media.

The vector objects you create using the drawing and shape tools in Adobe Creative Suite are examples of vector graphics. You can use the Copy and Paste commands to duplicate vector graphics betweenCreative Suite components.

About bitmap images

To the top

Bitmap images—technically called *raster images*—use a rectangular grid of picture elements (pixels) to represent images. Each pixel is assigned a specific location and color value. When working with bitmap images, you edit pixels rather than objects or shapes. Bitmap images are the most common electronic medium for continuous-tone images, such as photographs or digital paintings, because they can more efficiently represent subtle gradations of shades and color.

Bitmap images are resolution-dependent—that is, they contain a fixed number of pixels. As a result, they can lose detail and appear jagged if they are scaled to high magnifications on-screen or if they are printed at a lower resolution than they were created for.



Example of a bitmap image at different levels of magnification

Bitmap images sometimes require large amounts of storage space, and often need to be compressed to keep file sizes down when used in certain Creative Suite components. For instance, you compress an image file in its original application before you import it into a layout.

Note:

In Adobe Illustrator, you can create bitmap effects in your artwork using effects and graphic styles.

Image resolution guidelines for final output

To the top

Bitmap images contain a fixed number of pixels, usually measured in pixels per inch (ppi). An image with a high resolution contains more, and therefore smaller, pixels than an image of the same printed dimensions with a low resolution. For example, a 1-inch-by-1-inch image with a resolution of 72 ppi contains a total of 5184 pixels (72 pixels wide x 72 pixels high = 5184). The same 1-inch-by-1-inch image with a resolution of 300 ppi would contain a total of 90,000 pixels.

For imported bitmap images, image resolution is determined by the source file. For bitmap effects, you can specify a custom resolution. To determine the image resolution to use, consider the medium of final distribution for the image. The following guidelines can help you determine your requirements for image resolution:

Commercial printing

Commercial printing requires 150 to 300 ppi (or more) images, depending on the press (dpi) and screen frequency (lpi) you're using; always consult your prepress service provider before making production decisions. Because commercial printing requires large, high-resolution images, which take more time to display while you're working with them, you may want to use low-resolution versions for layout and then replace them with high-resolution versions at print time.

In Illustrator and InDesign, you can work with low resolution versions by using the Links panel. In InDesign you can choose either Typical or Fast Display from the View > Display Performance menu; in Illustrator you can choose View > Outline. Alternatively, if your service provider supports Open Prepress Interface (OPI), they may provide low-resolution images to you.

Desktop printing

Desktop printing usually requires images within the range of 72 ppi (for photographs printed on a 300 ppi printer) to 150 ppi (for photographs printed on devices up to 1000 ppi). For line art (1-bit images), make sure that the resolution of your graphics matches the resolution of the printer.

Web publishing

Because online publishing generally requires images with pixel dimensions that fit the intended monitor, the images are usually less than 500 pixels wide and 400 pixels tall, to leave room for browser window controls or such layout elements as captions. Creating an original image at screen resolution—96 ppi for Windows–based images, and 72 ppi for Mac OS–based images—lets you see the image as it will likely appear when viewed from a typical web browser. When you're publishing online, the only times you're likely to need resolutions above those ranges are when you want viewers to be able to zoom in for more detail in a PDF document, or when you're producing a document for printing on demand.

(cc) BY-NC-SA Twitter™ and Facebook posts are not covered under the terms of Creative Commons.

Legal Notices | Online Privacy Policy

Working with files and templates

- Recommended workflow for InDesign documents
- Open InDesign documents
- Convert earlier versions of InDesign documents
- Using Adobe Bridge with InDesign
- Adobe Version Cue
- Use document templates
- Reviewing InDesign documents
  Designing calendars and business cards from templates

Recommended workflow for InDesign documents

To the top

You can improve performance and prevent many problems by establishing a good workflow to use with Adobe InDesign.

Maintain a clean computer system

Over time, changes occur to software and hardware that can lead to performance loss and system problems. Defragmenting the hard disk, removing older versions of software, updating device drivers, optimizing memory, running virus protection utilities, and performing other maintenance tasks can prevent applications and files from becoming damaged. Performing these tasks regularly helps ensure that InDesign opens, displays, and prints documents as expected.

Create a project folder

Before you begin a project, determine which files you'll need and how you'll store them. If you've experienced problems with broken links, consider storing your linked files in the same folder as your document. InDesign maintains links to files you place in a document, but if a link is broken, InDesign looks for the file in the document's folder. Storing a document and its linked files in the same folder makes it easy to move them from one computer to another. Storing files in one folder also ensures that InDesign finds the original graphics when printing a document. If InDesign cannot locate a linked graphic, it won't reflect changes you make to the original graphic, and it may print the graphic poorly or not at all.

If your project consists of multiple documents (for example, chapters in a book), you may find it useful to create a project folder that contains a folder for each document and its linked files.

Consider using a template

Use a template if you frequently create similar projects. Templates let you create consistent documents more

quickly while protecting the original file. For example, if you create a monthly newsletter, your template might include ruler guides, page numbers, the newsletter masthead, and styles you want to use in each issue. (See Use document templates.)

Open documents locally

Before you open a document stored on a network volume or on removable media, copy the document and any linked graphics to your local hard disk. The slower access time and data transfer rate of a network volume or removable media can cause data to become lost or corrupted, possibly damaging the document. However, be aware of overriding someone else's work if you copy the local files back to a network server.

Solve problems before converting a file

Damaged Adobe PageMaker or QuarkXPress® files usually remain damaged when opened in InDesign. If an error or other unexpected behavior occurs with a converted file, open the original file in the source application and troubleshoot it for damage.

If the converted file has problems, export it to IDML format, and then open the IDML file and save it as an InDesign document.

Save documents

Save documents frequently, and create backup copies of important files. You can clear unnecessary data from a document by using the Save As command. When you use the Save command, InDesign appends new information to the document but doesn't remove outdated data, such as information about a deleted graphic. When you use the Save As command, however, InDesign completely rewrites the document, including only information about objects and pages currently in the document. A document that contains only necessary data occupies less hard drive space and redraws and prints more quickly.

Practice good design habits

- Create styles in a document. Creating styles with no documents open can cause duplicate styles to appear when you create a new document. To share styles in documents, save the styles and load them.
- Use appropriate fonts. When choosing fonts for a document, consider how you intend to format and print the text. InDesign works well with OpenType®, Type 1 (also called PostScript), and TrueType fonts. Damaged or poorly constructed fonts can damage an InDesign document or cause it to print with unexpected results, so use reliable fonts created by established font vendors. If you work with a service bureau, find out its font requirements.
- Avoid using too many text frames. Use as few text frames as possible to keep the document file size smaller and the layout easier to manipulate.

Be smart with art

- Use the appropriate graphics file format. When you create graphics for a project, consider how you plan to

print the document. If you intend to print the document at a service bureau, ask the service bureau which graphic formats work best with the output device it uses. The service bureau can also advise you on the optimal resolution for images.

- Store graphics externally. When you import a graphic file, InDesign creates a link to the graphic by default. Linking helps minimize the file size of the document and improves the performance of InDesign. When you print the document, the original graphic file must be available and linked. If InDesign can't find the original, the graphic may print as a low resolution preview or as a gray box.

Verify links and fonts before you print

To ensure that a document prints correctly, verify that all links are intact and all fonts are available. A link becomes broken if you delete, move, or rename the original graphic. Use the Preflight and Package features before handing off files to a service bureau.

Open InDesign documents

To the top

In general, you open document and template files the same way you do in other programs. When you open an InDesign template, it opens as a new, untitled document by default. Document files use the extension .indd, template files use the extension .indt, snippet files use the extension .idms, library files use the extension .indl, interchange files use the extension .inx, markup files use the extension .idml, and book files use the extension .indb.

You can also use the File > Open command to open files from earlier versions of InDesign, InDesign Interchange (.inx) files, InDesign Markup (.idml) files, Adobe PageMaker 6.0 and later, QuarkXPress 3.3 and 4.1, and QuarkXPress Passport 4.1 files. In addition, other software vendors may make plug-in software that lets you open other file formats.

To view additional information about an InDesign document, hold down Ctrl and choose Help > About InDesign (Windows) or hold down Command and choose InDesign > About InDesign (Mac OS).

Use the Open command

1. Choose File > Open and select one or more documents.
2. Do one of the following, and then click Open:
    - Select Normal (Windows) or Open Normal (Mac OS) to open the original document or a copy of a template.
    - Select Original (Windows) or Open Original (Mac OS) to open an original document or template.
    - Select Copy (Windows) or Open Copy (Mac OS) to open a copy of a document or template.
3. If a warning message appears telling you that the color settings in the document are different from the color settings in the application, select an option, and click OK.

    Note:

    Color warning messages are off by default, but you can show warnings if you change the default settings in the Color Settings dialog box (Edit >Color Settings.)
4. If a warning message appears telling you that the document contains missing fonts, do one of the following:

- Click OK. InDesign will automatically format the text with a substitute.
- Click Find Font to search for and list fonts used throughout your document.

  For more information on finding missing fonts, see Find and change fonts.

5. If a warning message appears telling you that the document contains missing or modified links, use the Links panel to fix the links. See Update, restore, and replace links.

Open recent document

- Choose File > Open Recent, and select one of the documents you saved recently.

To specify how many recent documents are displayed, choose Edit > Preferences > File Handling (Windows), or InDesign > Preferences > File Handling, and then specify a number for Number Of Recent Items To Display. The maximum number is 30.

Choosing word lists when opening documents

When opening a document, you may see an alert message asking if you want to use the word list in the document or an exception word list in the user dictionary. An *exception* word list includes words that were added to the User Dictionary while the document was worked on. If you know which exception word list you use, click its button. If you're not sure, click either button, choose Edit > Spelling > Dictionary to inspect the word lists, and then, if necessary, choose Edit > Preferences > Dictionary (Windows) or InDesign > Preferences > Dictionary (Mac OS) to reset the word list used for composition. See Hyphenation and spelling dictionaries.

Convert earlier versions of InDesign documents

To the top

- To convert previous versions of InDesign documents to the current version, choose File > Open and open the file.

  Keep in mind the following points:

  - If you used third-party plug-ins to create an earlier version of a document, check with the manufacturer to make sure that they are installed correctly for and are compatible with InDesign CS5 before you convert the document.
  - When you convert a document, you may see an alert message asking if you want to use the exception word list in the user dictionary or the one in the document. For information about this alert message, see Choosing word lists when opening documents.
  - Library files created in earlier versions of InDesign will open and convert in InDesign CS5, even if the library is locked. You have to specify a name and location for the converted library files; the default naming convention is *filename-X*.indl.
  - Previous versions of InDesign can't open latest InDesign documents directly. For example, to open an InDesign CS5 document in InDesign CS4, you must do two things. First, choose File > Export in InDesign CS5 to save the document in IDML format. Second, update InDesign CS4 with special plug-ins that let you open the IDML file. (See Save backwards to the previous InDesign version.)

If you're experiencing problems with a document that was created in a previous version of InDesign, use the Export dialog box in InDesign CS5 to save the document in InDesign Markup (IDML) format. Then open the IDML file and save it as an InDesign document.

Using Adobe Bridge with InDesign

To the top

Adobe Bridge is a cross-platform application included with AdobeCreative Suite components that helps you locate, organize, and browse the assets you need to create print, web, video, and audio content. You can start Adobe Bridge from any Creative Suitecomponent (except Adobe Acrobat®), and use it to access both Adobe and non-Adobe asset types.

From Adobe Bridge, you can:

- Manage image, footage, and audio files: Preview, search, sort, and process files in Adobe Bridge without opening individual applications. You can also edit metadata for files, and use Adobe Bridge to place files into your documents, projects, or compositions.
- View the links inside an InDesign document as thumbnails while in Adobe Bridge, without actually having to open the InDesign document in InDesign.
- Drag assets from Adobe Bridge into the InDesign document window, or drag assets from the document window into Adobe Bridge to create snippets. See Use snippets.
- Perform automated tasks, such as batch commands.
- Synchronize color settings across color-managed Creative Suite components.
- Start a real-time web conference to share your desktop and review documents.

Adobe Version Cue

To the top

Adobe Version Cue® and Adobe Drive are not included in Adobe Creative Suite 5, nor any future version of the Creative Suite. Adobe continues to invest in asset management enablement through open industry standards and partnerships. For more information, see www.adobe.com/go/learn_vc_end_en.

Use document templates

To the top

Templates are useful starting points for standard documents because you can preset them with layout, graphics, and text. For example, if you prepare a monthly magazine, you can create a template that contains the layout of a typical issue, including ruler guides, grids, master pages, custom styles and swatches, placeholder frames, layers, and any standard graphics or text. That way you can simply open the template each month and import new content.

You create a template the same way you create a regular document; the only difference occurs when you save the document. When you prepare a template for others to use, you may want to add a layer containing instructions about the template; hide or delete the layer before printing the document. See Layers.

Note:

For Chinese versions of InDesign, you can open specially designed templates that include custom mojikumi sets.

Save a document as a template

1. Choose File > Save As, and specify a location and filename.
2. Choose InDesign CS5 Template for Save As Type (Windows) or Format (Mac OS), and then click Save.

Start a new document from a template

1. Choose File > Open.
2. Locate and select a template.
3. Select Normal (Windows) or Open Normal (Mac OS), and then click Open.
4. Save the new document with its own name.

Edit an existing template

1. Choose File > Open.
2. Locate and select a template.
3. Select Original (Windows) or Open Original (Mac OS), and then click Open.

Reviewing InDesign documents

To the top

Adobe offers several methods for reviewing InDesign documents.

Tracking editing changes

As you or another person edits text, InDesign highlights added text and strikes through deleted text when Track Changes is turned on. Use the Story Editor to view changes. The document owner can go through the edits and accept or reject changes. See Tracking and reviewing changes.

Using Acrobat to review a PDF file

You can export the InDesign document to PDF and use Adobe Acrobat to set up an e-mail review or a shared review on Acrobat.com or another server. Reviewers can add comments using the Sticky Note tool and other markup methods. The document owner can then go through the PDF review comments and edit the original InDesign document. For more information, see Acrobat Help.

Using CS Review

CS Review is an online subscription service that lets you share your designs on the web so that others can provide immediate feedback. When you create a review using the CS Review panel, you upload one or more snapshots of the file to the Acrobat.com workspace. Reviewers can then add comments.

When you create a review, you can divide the review into *parts* that offer separate areas for review commenting. A review can consist of parts from different files and applications. As the review progresses, you can add and remove review parts as part of a dynamic review process.

Designing calendars and business cards from templates

To the top

One way to create a calendars, business cards, resumes or CVs, and other specialized documents is to use templates.

Adobe provides several templates at the Adobe Marketplace and Exchange site:

www.adobe.com/go/exchange

Use search to locate additional resources for specialty documents.

Adobe also recommends

- Save backwards to the previous InDesign
- Add documents to a book file
- Hyphenation and spelling dictionaries
- Save backwards to the previous InDesign
- Plug-ins
- Reusing graphics and text
- Adobe Bridge
- Mini Bridge
- CS Review

(cc) BY-NC-SA Twitter™ and Facebook posts are not covered under the terms of Creative Commons.

Legal Notices | Online Privacy Policy

Working with frames and objects

- Modifying objects using graphics frames
- Paste an object into a frame
- Remove a frame's content
- Fitting objects to frames
- Move a graphics frame or its content
- Create a border or background
- Crop or mask objects
  Object export options

Modifying objects using graphics frames

To the top

Adobe InDesign objects include any item you can add or create in the document window, including open paths, closed paths, compound shapes and paths, type, rasterized artwork, 3D objects, and any placed file, such as an image.

If a graphic exists inside a frame (as all imported graphics do), you can modify it by changing its relationship to its frame, as in the following examples:

- Crop a graphic by making its frame smaller.
- Create various masking and layout effects by pasting an object into a frame.
- Add a keyline or outline to a graphic by changing the stroke weight and color of its frame.
- Center a graphic against a background rectangle by enlarging its frame and setting the frame's fill color.

Paste an object into a frame

To the top

Use the Paste Into command to nest graphics within container frames. You can even nest graphics into nested frames.



Background image pasted into a frame

1. Do one of the following:
   - To paste one object inside a frame, select the object.
   - To paste two or more objects inside a frame, group them first, because a frame can contain only one object.
   - To paste a text frame inside another frame and preserve its current appearance, select the entire

text frame using the Selection tool or Direct Selection tool, not the Type tool.

2. Choose Edit > Copy (or Edit > Cut, if you don't want to keep the original).
3. Select a path or frame, and then choose Edit > Paste Into.

Remove a frame's content

To the top

1. Do one of the following:
   - If you're removing a graphic or a text frame, select the object with the Direct Selection tool. Or, use the Selection tool to click the content grabber of the image.
   - If you're removing text characters, select them with the Type tool T.
2. Do one of the following:
   - To permanently remove the content, press Delete or Backspace.
   - To place the content elsewhere on the layout, choose Edit > Cut, deselect the frame, and then choose Edit > Paste.

Note:

An imported image cannot exist without a frame. If you cut an imported image from its frame and paste it elsewhere within a document, a new frame is created for it automatically.

Fitting objects to frames

To the top

If the frame and its content are different sizes, you can use the Fitting commands to achieve a perfect fit.

Frame alignment options apply to frames that contain either a graphic or another text frame (text frames nested within another frame), but they do not affect paragraphs inside a text frame—you control alignment and positioning of text itself using the Text Frame Options command and the Paragraph, Paragraph Styles, and Story panels.

Fit an object to its frame

1. Select the frame of the object.
2. Choose Object > Fitting and one of the following options:

Fit Content To Frame

Resizes content to fit a frame and allows the content proportions to be changed. The frame will not change, but the content may appear to be stretched if the content and the frame have different proportions.

Fit Frame To Content

Resizes a frame to fit its content. The frame's proportions are altered to match the content proportions, if necessary. This is useful for resetting a graphics frame that you accidentally altered.

To fit a frame to its content quickly, double-click any corner handle on the frame. The frame resizes away from the point you click. If you click a side handle, the frame resizes only in that dimension.



Aligning an object within a graphics frame

A. Original B. Frame resized to fit content C. Content resized to fit frame

Center Content

Centers content within a frame. The proportions of the frame and its content are preserved. The size of the content and frame are unaltered.

Fit Content Proportionally

Resizes content to fit a frame while preserving the content proportions. The frame's dimensions are not changed. If the content and the frame have different proportions, some empty space will result.

Fill Frame Proportionally

Resizes content to fill the entire frame while preserving the content's proportions. The frame's dimensions are not changed. If the content and the frame have different proportions, some of the content will be cropped by the bounding box of the frame.

Note:

The Fitting commands fit the outer edges of the content to the center of the frame's stroke. If the frame has a thick stroke weight, outer edges of the content will be obscured. You can adjust the frame's stroke alignment to the center, inside, or outside of a frame edge. (See Set strokes.)

To remove undesired fitting settings applied using Auto-Fit, choose Object > Fitting > Clear Frame Fitting Options.

Using Auto Fit

If you resize an image frame when Auto-Fit is not selected, the frame resizes while the image size remains the same. If you select Auto-Fit, the image resizes with the frame. If you decide to crop or transform the image, use the Direct Selection tool to transform the image itself. Or, deselect Auto-Fit, transform the image, and select Auto-Fit again.

You can select the Auto-Fit option in the Control bar and in the Frame Fitting Options dialog box.

Set frame fitting options

You can associate a fitting option to a placeholder frame so that whenever new content is placed in that frame, the fitting command is applied.

1. Select a frame.
2. Choose Object > Fitting > Frame Fitting Options.

3. Specify the following options, and then click OK:

Auto-Fit

Select this option if you want the image to resize automically when you resize the frame.

Reference Point

Specify a reference point for the cropping and fitting actions. For example, if you select the upper-right corner for a reference point and choose Fit Content Proportionally, the image may be cropped on either the left or bottom side (away from the reference point).

Crop Amount

Specify the location of the image's bounding box in relation to the frame. Use positive values to crop the image. For example, you may want to exclude a border that surrounds the placed image. Use negative values to add space between the image's bounding box and the frame. For example, you may want white space to appear between the image and the frame.

If you enter crop values that cause the image not to be visible, those values are ignored, but the fitting option is still implemented.

Fitting On Empty Frame

Specify whether you want to fit the content to the frame (which may cause the image to be skewed), fit the content proportionally (some empty space may result), or fill the frame proportionally (one or more sides may be cropped).

The fitting action is applied only when content is placed into a frame. If you resize the frame, the fitting option is automatically reapplied only if Auto-Fit is selected.

Move a graphics frame or its content

To the top

When you use the Selection tool to select a graphics frame, you can select either the frame or the image within the frame. If you click outside the content grabber and drag the selection, the frame's content moves with the frame. If you drag the content grabber, the image moves within the frame.

The following techniques include ways to move a frame or its content independent of each other. These techniques are useful for adjusting a graphic when cropped or masked in its frame.

If a selection tool doesn't work the way you expect it to, try deselecting everything first. Do this by pressing Ctrl+Shift+A (Windows) or Command+Shift+A (Mac OS).

- Do any of the following:
  - To move a frame together with its content, use the Selection tool to click the image outside the content grabber.
  - To move imported content without moving the frame (that is, to *pan* content behind its frame), drag the content grabber. You can also use the Direct Selection tool to select and drag the image.



Moving the content, but not its frame

Note:

If you hold down the mouse button on a graphic before you move it, a dynamic graphics preview (a ghosted-back image) of the outside of the frame appears, but the preview of the image that moves inside the frame is not ghosted. This makes it easier to see how you are positioning the entire image within a frame.

- To move a frame without moving its content, click the frame using the Selection tool, switch to the Direct Selection tool, and then drag the center point.



Moving the frame, but not its content

- To move multiple frames, use the Selection tool to select the objects, and then drag them. If you use the Direct Selection tool to select multiple objects, only the item you drag is affected.

Create a border or background

To the top

A graphics frame is ideally suited for use as a border or background for its content, because you can change the frame's stroke and fill independent of the content.



Adding borders to graphics frames

A. Photo in graphics frame B. Frame with stroke applied C. Frame enlarged with both stroke and fill applied

1. Using the Selection tool , click an imported graphic outside the content grabber to select its frame.
2. To enlarge the frame without resizing the graphic, drag any bounding box handle outward. To maintain frame proportions, hold down Shift as you drag.
3. Use the Swatches panel and the toolbox to apply a stroke and fill color.
4. Use the Stroke panel to adjust the frame's stroke weight, style, or alignment.

You can quickly enlarge a frame equally around all sides by using the Transform or Control panel. Select the frame with the Direct Selection tool , set the panel reference point locator to the center point, and enter new values for the width and height.

Crop or mask objects

To the top

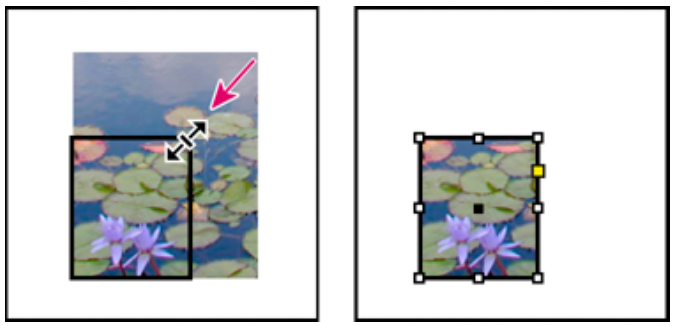
Cropping and *masking* are both terms that describe hiding part of an object. In general, the difference is that cropping uses a rectangle to trim the edges of an image, and masking uses an arbitrary shape to make an object's background transparent. A common example of a mask is a clipping path, which is a mask made for a specific image.

Use graphics frames to crop or mask objects. Because an imported graphic is automatically contained within a frame, you can crop or mask it immediately without having to create a frame for it. If you haven't created a frame for an imported graphic manually, the frame is automatically created at the same size as the graphic, so it is not obvious that the frame is there.

Note:

For efficient printing, only the data for the visible parts of cropped or masked images is sent when you output the document. However, you still save disk space and RAM if you crop or mask images to their desired shapes and sizes before importing them into your document.

- To crop an imported image or any other graphic already inside a rectangular frame, click the object using the Selection tool and drag any handle on the bounding box that appears. Press Shift as you drag to preserve the frame's original proportions.



Cropping an image using a graphics frame

- To crop or mask any object, use the Selection or Direct Selection tool to select one object you want to mask. Choose Edit > Copy, select an empty path or frame smaller than the object, and choose Edit > Paste Into.
- To crop frame content precisely, select the frame with the Direct Selection tool, and use the Transform or Control panel to change the size of the frame.
- To specify crop settings for an empty placeholder frame, choose Object > Fitting > Frame Fitting Options, and then specify the crop amount.

With an imported graphic, you can also create a mask by using the drawing tools to change the shape of the graphic's existing frame.

Creating see-through text

Learn how to make see-through text in this quick tutorial.... Read More

http://goo.gl/pY2e0

by David Blatner

Turn any object into a transparency mask

Learn how to make any object, text, or path into a transparency mask.... Read More

http://goo.gl/yQeIz

by David Blatner

Object export options

To the top

Introduction to object export options

Object export options can be used to specify export parameters required when you export to different formats such as EPUB, HTML, or accessible PDFs.

Object export options can be applied to both text frames and graphic frames, as well as groups. Use Object export options to:

- Define Alt text for placed images and graphics.
- Apply tags and actual text settings for tagged PDFs.
- Create different conversion settings on each object, so that they render well on different screen sizes and pixel densities. Use these options to control the quality of rasterization applied to text effects such as drop shadow and bevel when you export the layout to HTML or EPUB.

Note:

If an object is hyperlinked, it would be supported on export.

Apply Object export options

1. Select the frame or group in the layout.
2. Choose Object > Object Export Options.

   or

   Right-click on the object and select Object Export Options.
3. Apply the settings.

You can leave the Object Export Options dialog box while you select other objects on the layout to apply the settings.

Alt-text options

Alternative text (Alt text) is a brief text-based description of an image or graphic. This text is used in situations where the image is not rendered or to help screen-readers.

Alt-text Source

Select the source to assign the Alt text for the selected frames or groups.

Note:

When you import content from Microsoft Word, InDesign also imports alt-text applied to images.

Custom

Enter text manually.

From Structure

Use text as specified in the structure. See Label graphics for use with screen-reader software.

From XMP (Title |Description |Headline)

Use data stored in common XMP fields. If XMP data is updated using another application such as Adobe Bridge, when you update the link, text is updated automatically.

From Other XMP

If text string is stored in some other XMP field, enter the complete namespace and property name in <ns>:<property> format. For example, the Adobe Bridge user interface supports IPTC Core, which contains a field titled “IPTC Subject Code”. If this field was used to store the text string, then the Property value would be “Iptc4xmpCore:SubjectCode[1].”

Tagged PDF options

Apply Tag

Select the source to assign the PDF Tag for the selected frames or groups.

From Structure

Use text as specified in the structure.

Artifact

Use for graphic elements that have no important meaning when they are read aloud by a screen reader.

Based on Object

Automatically determines the content of the frame and applies “Story” or “Figure” tag.

Actual Text Source

PDF also supports actual text, in addition to Alt text. Actual text can be applied to graphic elements that visually look like text. For example, a scanned TIFF image. Actual text is used to represent words that were converted to artwork. Actual text is only applicable for tagged PDFs.

Custom

Enter text manually.

From Structure

Use text as specified in the structure. See Label graphics for use with screen-reader software.

From XMP (Title |Description |Headline)

Use data stored in common XMP fields. If XMP data is updated using another application such as Adobe Bridge, when you update the link, text is updated automatically.

From Other XMP

If text string is stored in some other XMP field, enter the complete namespace and property name in <ns>:<property> format. For example, the Bridge user interface supports IPTC Core, which contains a field titled “IPTC Subject Code”. If this field was where the text string is stored, then the Property value would be “Iptc4xmpCore:SubjectCode[1].”

EPUB and HTML options

Use the EPUB and HTML options to specify image conversion settings for individual objects. If these settings are not specified, the EPUB export image conversion settings are used. See EPUB Images options.



Objext Export Options

epub: type

Click the arrow icon to choose the order in which the reader can read the document.

Preserve Appearance From Layout

Check to specify custom image conversion settings for selected frames.

Default

Deafult settings mapped to the Export dialog settings dialog.

Use Existing Image for Graphic Objects

Uses an existing image for graphic objects

Rasterize Container

Convert the object into an image. For example, a text frame gets converted to an image.

Rasterize Content

The appearance is preserved via CSS.

Custom Rasterization

Check to specify custom image conversion settings for selected frames.

Format

Lets you choose whether the optimized images in your document are converted to GIF, JPEG, or PNG.

Resolution (ppi)

Specify the resolution of the images in pixels per inch (ppi). While operating systems have standardized on either 72 ppi or 96 ppi, mobile devices range from 132 ppi (iPad), to 172 ppi (Sony Reader), to over 300 ppi (iPhone 4). You can specify a ppi value for each object selected. Values include 72, 96, 150 (average for all eBook devices today), and 300.

Palette

Lets you control how InDesign handles colors when optimizing GIF files. The GIF format uses a limited color palette, which cannot exceed 256 colors.

Choose Adaptive to create a palette using a representative sample of colors in the graphic without any dithering (mixing of small spots of colors to simulate additional colors). Choose Web to create a palette of web-safe colors that are a subset of Windows and Mac OS system colors. Choose System (Win) or System (Mac) to create a palette using the built-in system color palette. This choice may cause unexpected results.

Select Interlace to display a slowly loaded image gradually by filling in missing lines. If this option is not select, an image looks fuzzy and gradually becomes clear as the image reaches full resolution.

Quality

Determines the trade-off between compression (for smaller file sizes) and image quality for each JPEG image created. Low produces the smallest file and lowest image quality.

Method

Determines how quickly JPEG graphics display when the file containing the image is opened on the web. Choose Progressive to make the JPEG images display gradually and in increasing detail as they are downloaded. (Files

created with this option are slightly larger and require more RAM for viewing.) Choose Baseline to make each JPEG file display only after it has been downloaded; a placeholder appears in its place until the file displays.

Custom Layout

Select the layout preference from the drop-down list.

- **Alignment and Spacing**: Specify the image alignment, left, center, right, and the top and bottom padding.
- **Float Left:** Select this option for floating left alignment.
- **Float Right:** Select this option for floating right alignment.

Insert Page Break

Select this option to insert page breaks with images. Page breaks can be inserted Before Image, After Image, or Before and After Image.

Size

Choose the custom CSS width and height from the following options:

- **None**: No CSS width or height is applied on the object.
- **Default**: The default CSS width and height are used.
- **Fixed**: A fixed CSS width and height are applied.
- **Relative to Text Flow**: Applies to CSS width only. The CSS width adapts to the text flow.
- **Relative to Text Size**: Applies to CSS width only. The CSS width adapts to the text flow.
- **Custom Width**: Select this option to enter the custom value for width.
- **Custom Height**: Select this option to enter the custom value for height.

Note:

The Size drop-down list is applicable for the EPUB Reflowable and HTML Layout only. This is not applicable for EPUB Fixed Layout.

Adobe also recommends

- Using placeholders to design pages
- Object styles
- Applying line (stroke) settings
- Apply color

(cc) BY-NC-SA Twitter™ and Facebook posts are not covered under the terms of Creative Commons.

Legal Notices | Online Privacy Policy

テキスト

条件テキストの作成（ビデオ 6:48）、CS4 ～ CS6
David Blatner (2011/01/01)
ビデオチュートリアル
InDesign で条件テキストを使用する方法を説明します。

テキストストーリーのリンク（PDF、217 KB）（英語）
記事 (2011/01/01)
InDesign CS5.5 のストーリーを配置してリンク機能に関する短いチュートリアルです。

段抜きと段分割（ビデオ 2:01）（英語）
Michael Ninness (2011/01/01)
ビデオチュートリアル
InDesign CS5 以降で、段抜きと段分割の機能を使用して、複雑なレイアウトをより少ない手順で作成する方法を紹介します。

テキストの変更のトラック（ビデオ 2:01）（英語）
Michael Ninness (2011/01/01)
ビデオチュートリアル
InDesign CS5 以降で、新しい「変更をトラック」機能を使用して共同作業を効率化する方法を説明します。

箇条書きおよび自動番号の作成（ビデオ 12:16）、CS3 ～ CS6（英語）
Anne-Marie Concepcion (2011/01/01)
ビデオチュートリアル
箇条書きを作成してレイアウトに追加する方法を紹介します。

脚注の作成（ビデオ 2:44）、CS3 ～ CS6（英語）
David Blatner (2011/01/01)
ビデオチュートリアル
この短いビデオでは、脚注の基本的な追加方法を説明します。

テキストの連結

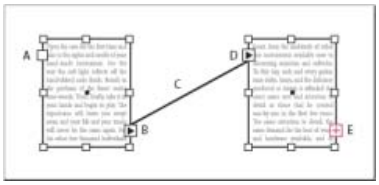
テキストフレームの連結
連結されたテキストフレームのカットまたは削除
手動または自動によるテキストの流し込み
スマートテキストのリフロー処理の使用

トップへ

テキストフレームの連結

テキストフレーム内のテキストは、他のテキストフレームから独立させることも、連結しているフレームに流し込むこともできます。連結しているフレーム（テキストボックスとも呼ばれる）にテキストを流し込むには、まずフレームを連結する必要があります。連結しているフレームは、同じページ、スプレッドまたはドキュメントの他のページにレイアウトすることができます。フレーム間でテキストを連結する処理をテキスト連結と呼びます。また、テキストフレームのリンクまたはテキストボックスのリンクと呼ばれることもあります。

各テキストフレームには、他のテキストフレームと連結させるためのインポート（入口）とアウトポート（出口）があります。四角形の中が空白になっているインポートまたはアウトポートは、ストーリーの先頭または末尾を示します。インポートまたはアウトポートに表示されている矢印は、そのフレームが他のフレームとリンクしていることを示しています。アウトポートの赤いプラス記号（+）は、ストーリーにまだ割り付けられていないテキストが残っているが、それを配置するテキストフレームがないことを示しています。表示されていないこのようなテキストをオーバーセットテキストと呼びます。



連結しているフレーム
A. ストーリーの先頭を示す空白のインポート B. 次のフレームへの連結を示すアウトポート C. テキスト連結 D. 前のフレームへの連結を示すインポート E. オーバーセットテキストがあることを示すアウトポート

テキスト連結を示すマーカーを表示するには、表示／エクストラ／テキスト連結を表示を選択します。テキストフレームまたはフレームグリッドは、テキストが含まれているかどうかにかかわらず連結することができます。

新しい連結テキストフレームの追加

1. 選択ツール でテキストフレームを選択し、テキストフレームのインポートまたはアウトポートをクリックします。ポインターがテキスト配置アイコンに変わります。

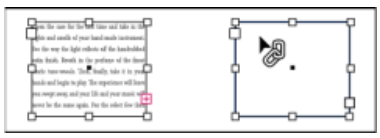
   選択したフレームよりも前にフレームを作成するにはインポートを、後にフレームを作成するにはアウトポートをクリックします。

2. 新規テキストフレームを配置する場所にテキストの流し込みアイコン を置き、クリックまたはドラッグして新規テキストフレームを作成します。

   テキストの流し込みアイコンが表示されている間でも、ページをめくったり、新しいページを作成したり、拡大／縮小したりするなど、様々な操作を行うことができます。新しいテキストフレームを配置する前に 2 つのフレームの連結を取り消したい場合、ツールパネルのいずれかのツールをクリックします。テキストは削除されません。

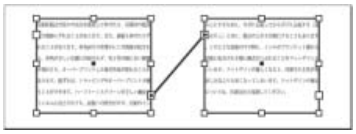
既存のテキストフレームの連結

1. 選択ツールでテキストフレームを選択し、フレームのインポートまたはアウトポートをクリックします。ポインターがテキスト配置アイコンに変わります。
2. 連結するフレームにテキストの流し込みアイコンを置きます。テキストの流し込みアイコンが連結アイコンに変わります。



既存のフレームの連結

3. フレームの内側をクリックすると、2 つのフレームが連結されます。

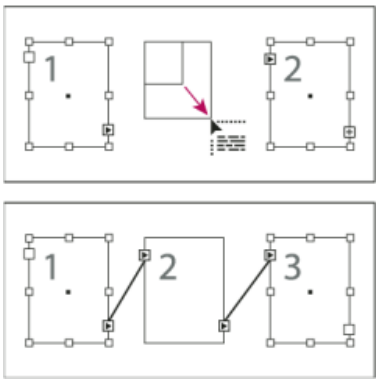


フレームグリッドをプレーンテキストフレームまたは異なるグリッド設定の他のフレームグリッドに連結すると、連結先のテキストフレームは、連結元のフレームグリッドの設定に合わせて再定義されます。

ページ間にわたって連結フレームがある場合、他のページから続く、または他のページへ続くストーリーを追跡するためのジャンプ行（例えば「42 ページへ続く」など）を自動的に追加することができます（詳しくは、ストーリーのジャンプに対する自動ページ番号の追加を参照してください）。

連結テキストフレームの中間へのフレームの追加

1. 選択ツールを使用して、フレームを追加するストーリーのアウトポートをクリックします。ポインターがテキストの流し込みアイコンに変わります。
2. ドラッグして新規フレームを作成するか、別のテキストフレームをクリックします。ストーリーを含んでいる場合も同様に連結するフレームを追加することができます。

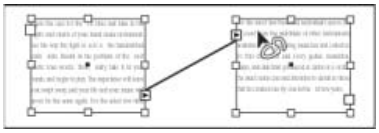


連結したフレームの間に新たにフレームを追加（上）、その結果（下）

テキストフレームの連結解除

テキストフレームの連結を解除すると、連結されているすべてのフレーム間でのつながりが分断されます。連結フレームにまたがって表示されていたテキストはオーバーセットテキストになりますが、ストーリー内のテキストが削除されることはありません。連結を解除したフレームは空になります。

- 選択ツールで、次のいずれかの操作を行います。
  - インポートまたはアウトポートをダブルクリックしてフレーム間の連結を解除します。
  - 連結が表示されているインポートまたはアウトポートをクリックします。例えば、2 つの連結フレームの場合なら、1 つ目のアウトポートまたは 2 つ目のフレームのインポートをクリックします。連結解除アイコン を表示するには、テキストの流し込みアイコンを前または次のフレームに置きます。連結を解除したいフレーム内をクリックします。



フレームの連結の解除

1 つのストーリーを 2 つのストーリーに分割するには、2 つ目のストーリーに含めたいテキストをカットしてから、フレームの連結を解除し、カットしたテキストを 2 つ目のストーリーの最初のフレームにペーストします。

トップへ

連結されたテキストフレームのカットまたは削除

テキストフレームをカットまたは削除しても、テキストは削除されずに連結されたままの状態になります。

連結テキストフレームからの一部のフレームのカット

連結テキストフレームからフレームをカットし、別のフレームにペーストすることができます。テキストのコピーと同時にフレームは削除されま

すが、元のストーリーからテキストは削除されません。連結している複数のテキストフレームを一度にカットしてペーストした場合、ペーストされたフレームは互いの連結を保持していますが、元のストーリーの他のフレームとの連結は解除されます。

1. 選択ツールを使用して、フレームを選択します（複数のフレームを選択するには、Shift キーを押しながらフレームをクリックします）。
2. 編集／カットを選択します。カットしたフレームは削除されますが、フレーム内のテキストはストーリー内の次のフレームに流れ込みます。ストーリーの最後のフレームをカットすると、含まれていたテキストはオーバーセットテキストとして、その前のフレームに移動します。
3. カットしたフレームをドキュメントの別の場所で使用するには、カットしたフレームをペーストするページを表示してから、編集／ペーストを選択します。

連結テキストフレームからの一部のフレームの削除

連結テキストの一部のテキストフレームを削除すると、テキストは削除されず、前のフレームでオーバーセットテキストになるか、ストーリー内の次のフレームに流れ込みます。削除したフレームがいずれのフレームとも連結していない場合は、フレームと共にテキストも削除されます。

1. 次のいずれかの操作を行って、テキストフレームを選択します。
   - 選択ツールを使用して、フレームをクリックします。
   - 文字ツールを使用して、Ctrl キー（Windows）または Command キー（Mac OS）を押しながらフレームをクリックします。
2. Backspace / Delete キー（Windows）または Delete キー（Mac OS）を押します。

トップへ

手動または自動によるテキストの流し込み

テキストを配置したり、インポートまたはアウトポートをクリックすると、ポインターはテキストの流し込みアイコン になります。このテキストの流し込みアイコンを使用して、ページにテキストを流し込みます。修飾キー押すことにより、テキストの流し込み方法を指定することができます。テキストの流し込みアイコンの外観は、配置される場所に応じて変わります。

テキストの流し込みアイコンを既存のフレーム内に置くと、括弧で囲まれたアイコン が表示されます。テキストの流し込みアイコンを、ガイドまたはグリッドに吸着する場所に置くと、ポインターの黒い矢印が白い矢印 になります。

テキストを流し込むには 4 つの方法があります。

方法	説明
手動テキスト流し込み	テキストを 1 つのフレームに追加します。テキストの流し込みを続行するには、テキストの流し込みアイコンを再度表示させる必要があります。
半自動流し込み：Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押しながらクリック	手動テキスト流し込みとほぼ同じですが、流し込みが止まった時点で、割り付けられていないテキストが残っていると、ポインターがテキストの流し込みアイコンのままであるため、すべてのテキストが流し込まれるまで流し込みを続行することができます。
自動流し込み：Shift キーを押しながらクリック	すべてのテキストがドキュメントに流し込まれるまで、ドキュメントページとフレームが追加されます。
固定ページ自動流し込み：Shift+Alt キー（Windows）または Shift+Option キー（Mac OS）を押しながらクリック	ページを追加することなく、必要に応じてフレームを追加してドキュメントにすべてのテキストを流し込みます。入り切らないテキストはオーバーセットします。

テキストをフレームに流し込むとき、InDesign は横組みか縦組みかを検出します。半自動流し込みまたは自動流し込みで流し込むと、ストーリーパネルで設定されているフレームの種類と組み方向でテキストが流し込まれます。流し込むときのアイコンの表示で、テキストの組み方向がわかります。

テキストの配置および流し込みに関するビデオチュートリアルについては、 www.adobe.com/go/lrvid4278_id（英語） を参照してください。

テキストの手動流し込み

1. 「配置」コマンドを使用して、ファイルを選択するか、選択したテキストフレームのアウトポート ⊞ をクリックします。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - テキストの流し込みアイコンを既存のフレームまたはパスの内側に置いて、クリックします。テキストは、クリックしたフレームとそれに連結している他のすべてのフレームに流し込まれます。フレームに段組が設定されている場合は、別の段をクリックしても、テキストの流し込みは常に左端の段の一番上（横組みの場合）または一番上の右端のフレーム（縦組みの場合）から開始されます。
   - テキストの流し込みアイコンをレイアウトグリッドで設定されている段に置き、クリックします。クリックした位置から、段の幅と同じ幅のフレームが自動的に作成されます。
   - テキストの流し込みアイコンをドラッグして、幅と高さを任意に設定したテキストフレームを作成します。

3. 配置するテキストがさらにある場合は、アウトポートをクリックして、すべてのテキストが配置されるまで手順 1 および 2 を繰り返します。

注意： 他のフレームと連結しているフレームにテキストを流し込むと、流し込みの方法にかかわらず、テキストは他の連結したフレームに自動的に流し込まれます。

テキストの半自動流し込み

- テキストの流し込みアイコンが表示されているときに、Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押しながら、ページ、フレーム、段のいずれかをクリックします。

手動流し込みと同様に、1 つの段にテキストが流し込まれますが、流し込みが止まった時点で割り付けられていないテキストが残っていると、テキストの流し込みアイコンが表示されたままになり、流し込みを続行することができます。

テキストの自動流し込み

- テキストの流し込みアイコンが表示されているときに、Shift キーを押しながら、次のいずれかの操作を行います。
  - テキストの流し込みアイコンで段をクリックします。すべてのテキストが割り付け終わるまで、その段の幅のフレームが自動的に作成され、テキストが流し込まれます。1 ページで割り付けられない場合は、自動的にドキュメントページが作成されます。
  - ドキュメントページのマスターテキストフレームの内側をクリックします。テキストがドキュメントページのフレームに自動的に流し込まれ、必要に応じて、マスターテキストフレームの属性に基づいて新規ページが作成されます（詳しくは、マスター、重なり順、レイヤーについてを参照してください）。

固定自動流し込み

- Shift+Alt キー（Windows）または Shift+Option キー（Mac OS）を押しながらテキストの流し込みアイコンをクリックします。

スマートテキストのリフロー処理の使用

トップへ

スマートテキストのリフロー処理機能を使用すると、テキストの入力時や編集時にページを追加または削除できます。InDesign をテキストエディターとして使用している場合、この機能を使用すると、入力テキストが現在のページに収まらなくなったとき新しいページが追加されるため便利です。テキストの編集や条件テキストの表示 / 非表示などの変更に伴ってテキストの流し込みが変わる場合に、オーバーセットテキストや空白ページを避けることもできます。

デフォルトでは、スマートテキストのリフロー処理はプライマリテキストフレーム（マスターページ上のテキストフレーム）でのみ使用できます。ドキュメントに見開きページがある場合、スマートテキストのリフロー処理を使用するには、左右両方のマスターページに表示されるプライマリテキストフレームが連結されている必要があります。

マスターページに基づかないテキストフレームで作業する場合は、ページを追加または削除できるように設定を変更できます。ただし、スマートテキストのリフロー処理を使用するには、テキストフレームが別のページの最低 1 つのテキストフレームと連結されている必要があります。

スマートテキストのリフロー処理設定は、テキスト環境設定ダイアログボックスから設定することができます。これらの設定は、現在のドキュメントに適用されます。すべての新規ドキュメントに対するデフォルト設定を変更するには、すべてのドキュメントを閉じた状態で設定します。

1. 編集／環境設定／テキスト（Windows）または InDesign／環境設定／テキスト（Mac OS）を選択します。
2. スマートテキストのリフロー処理を選択します。
3. 次のいずれかのオプションを選択し、「OK」をクリックします。

ページの追加先 新規ページの作成先を指定します。例えば、3 ページのドキュメントのうち最初の 2 ページにテキストフレームがあり、最後の 1 ページは全体がグラフィックページであるとします。ここで 2 ページ目の末尾までテキストを入力した場合に、3 ページ目であるグラフィックページの前に新しいページが追加されるようにするか、後に追加されるようにするかを指定できます。「ストーリーの最後」を選択すると、新規ページは 2 ページ目の直後に追加されます。「ドキュメントの最後」を選択すると、新規ページはグラフィックページの後に追加されます。
ドキュメントが複数のセクションで構成されている場合は、「セクションの最後」を選択してセクションの最後にページを追加できます。

プライマリテキストフレームに制限する このオプションがオフの場合は、マスターページに基づかないテキストフレームの編集時にもページを追加または削除できます。不要なテキストの流し込みを避けるために、編集しているテキストフレームが別のページの最低 1 つのテキストフレームに連結されている場合にのみ、スマートテキストのリフロー処理が機能します。
注意：マスターページに基づかないテキストフレームでスマートテキストのリフロー処理を使用すると、連結元のテキストフレームの属性は無視され、追加されたページにはマージンガイドと同じサイズで 1 段のテキストフレームが作成されます。

見開きページスプレッドを保持 ドキュメントの途中にテキストを流し込んだときに見開きスプレッドを保持するかどうかを指定します。このオプションを選択してドキュメントの途中にテキストを流し込むと、新しい 2 ページのスプレッドが追加されます。このオプションを選択解除すると、1 ページのみ追加され、後続のページが順送りされます。
レイアウトのデザイン要素の位置をスプレッドの右側または左側に固定する場合は、このオプションをオンにします。ページの位置を右側や左側に固定しない場合は、このオプションをオフにします。ドキュメントに見開きページがない場合、このオプションはグレー表示になります。

空のページを削除 テキストを編集したり条件を隠したりしたときに空白になったページを削除するには、このオプションを選択します。テキスト

の削除などでページ上のオブジェクトが空白のテキストフレームだけになった場合にページが削除されます。

スマートテキストのリフロー処理で InDesign をテキストエディターとして使用するには、新規ドキュメントダイアログボックスで「見開きページ」をオフにし、「プライマリテキストフレーム」をオンにしてドキュメントを作成します。テキストの環境設定ダイアログボックスで、「スマートテキストのリフロー処理」と「空のページを削除」が選択されていることを確認します。最初のページで、Ctrl キー（Windows）または Command キー（Mac OS）を押しながら Shift キーを押し、マスターテキストフレームをクリックしてオーバーライドします。このテキストフレームの末尾まで入力すると、新しいページとテキストフレームが自動的に追加されます。テキストを削除してテキストフレームが空になると、ページが削除されます。

(cc) BY-NC-SR Twitter™ および Facebook の投稿は Creative Commons の条項の対象ではありません。

法律上の注意事項 | プライバシーポリシー

オブジェクトへのテキストの回り込み

オブジェクトへのテキストの回り込み
テキストの回り込み形状の変更
マスターページ上のアイテムへのテキスト回り込みの適用
アンカー付きオブジェクトへのテキストの回り込み
非表示レイヤーのテキスト回り込みの無効化
回り込みオブジェクトに接するテキストの均等配置
テキストの回り込みを無視

ページの先頭へ

オブジェクトへのテキストの回り込み

テキストフレーム、読み込んだ画像、InDesign で作成したパスなど、どのオブジェクトの周囲にもテキストを回り込ませることができます。オブジェクトにテキストの回り込みを適用すると、オブジェクトの周囲にテキストを回り込ませる境界線が作成されます。テキストを回り込ませるオブジェクトは、回り込みオブジェクトと呼ばれます。テキストの回り込みは、回り込みテキストとも呼ばれます。

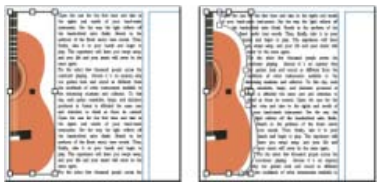
テキストの回り込みオプションは、回り込みオブジェクトに適用され、テキストには適用されない点に注意してください。回り込みオブジェクトを異なるテキストフレームの近くに移動した場合、回り込み境界線への変更はそのまま残ります。

単純なオブジェクトに対するテキストの回り込み

1. テキストの回り込みパネルを表示するには、ウィンドウ／テキストの回り込みを選択します。
2. 選択ツール またはダイレクト選択ツール を使用して、テキストを回り込ませるオブジェクトを選択します。
3. テキストの回り込みパネルで、使用する回り込みのシェイプをクリックします。

境界線ボックスで回り込むボタン 長方形の回り込みが作成されます。長方形の幅と高さは、選択したオブジェクトの境界線ボックスによって決まります（指定したオフセット間隔も含まれます）。

オブジェクトのシェイプで回り込むボタン 輪郭への回り込みとも呼ばれ、これをクリックすると、選択したフレームと同じシェイプのテキストの回り込み境界線が（オフセット距離を指定した場合はそれを加減して）作成されます。



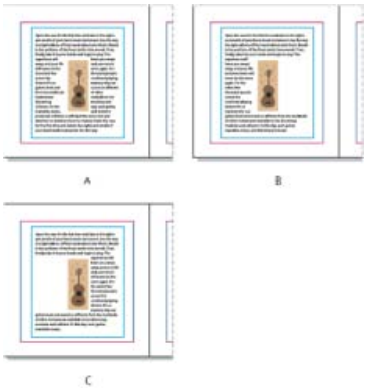
「境界線ボックスで回り込む」の設定（左）、「オブジェクトのシェイプで回り込む」の設定（右）

オブジェクトを挟んで回り込むボタン 横組みフレームの左右の空白部分または縦組みフレームの上下の空白部分にテキストが配置されなくなります。

次の段へテキストを送るボタン オブジェクトを囲んでいる段落が、次の段またはテキストフレームの最上部に強制的に配置されます。

4. 回り込みメニューから、回り込みを特定の側面（右側または最大領域など）に適用するか、ノド元に向かって、またはノド元から離れるかどうかを指定します（回り込みメニューが表示されない場合、テキストの回り込みパネルメニューから「オプションを表示」を選択します）。

   このオプションは、「境界線ボックスで回り込む」または「オブジェクトのシェイプで回り込む」を選択した場合にのみ使用できます。



   回り込みオプション

   A. 左右両サイド ***B.*** ノド元に向かったサイド ***C.*** ノド元から離れたサイド

5. オフセット値を指定します。プラスの値を指定すると、回り込みがフレームから離れ、マイナスの値を指定すると、フレームの範囲内で移動します。

グラフィックの周囲にテキストを回り込ませることができない場合は、そのテキストフレームで「テキストの回り込みを無視」が選択されていないことを確認してください。また、「組版」の環境設定で「テキストの背面にあるオブジェクトを無視」を選択した場合は、テキストフレームが回り込みオブジェクトの背面にあることを確認してください。

グループ内のテキストフレームは、グループに適用したテキストの回り込みの影響を受けません。

すべての新しいオブジェクトに対するデフォルトのテキスト回り込みオプションを設定するには、すべてのオブジェクトの選択を解除してから、テキストの回り込みの設定を指定します。

読み込んだ画像へのテキストの回り込み

読み込んだ画像にテキストを回り込ませるには、可能であれば画像を作成したアプリケーションでクリッピングパスを保存します。InDesign に画像を配置するときは、画像読み込みオプションダイアログボックスで「Photoshop クリッピングパスを適用」を選択します。

1. テキストの回り込みパネルを表示するには、ウィンドウ／テキストの回り込みを選択します。
2. 読み込んだ画像を選択し、テキストの回り込みパネルで、オブジェクトのシェイプで回り込むボタン をクリックします。
3. オフセット値を指定します。プラスの値を指定すると、回り込みがフレームから離れ、マイナスの値を指定すると、フレームの範囲内で移動します。
4. テキストの回り込みパネルメニューから「オプションを表示」を選択して、さらにオプションを表示します。
5. 種類メニューから次のいずれかの輪郭オプションを選択します。

   バウンディングボックス

   画像と同じ幅と高さを持つ四角形の周囲にテキストを回り込ませます。

   枠の検出

   枠自動検出機能を使用して境界線を生成します（枠の検出を調整するには、オブジェクトを選択し、オブジェクト／クリッピングパス／オプションを選択します）。

   アルファチャンネル

   画像に保存されているアルファチャンネルから境界線を生成します。このオプションを選択できない場合は、画像に保存されているアルファチャンネルがないことを意味しています。InDesign は、Adobe Photoshop のデフォルトの透明部分（格子模様の部分）をアルファチャンネルとして認識します。認識できない場合は、Photoshop 上で背景レイヤーを削除するか、アルファチャンネルを作成して画像に保存しておきます。

   Photoshop パス

画像に保存されているパスから境界線を生成します。「Photoshop パス」を選択し、パスメニューからパスを選択します。「Photoshop パス」オプションを選択できない場合は、画像に保存されているパスがないことを意味しています。

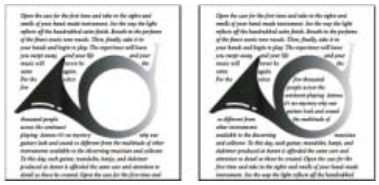
グラフィックフレーム

コンテナフレームから境界線を生成します。

クリッピング同様

読み込んだ画像に保存されているクリッピングパスから境界線を生成します。

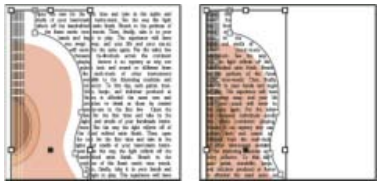
6. 画像の「穴」（タイヤ画像の内側など）にテキストを表示するには、「パスの内側の背景を透明にする」を選択します。



「パスの内側の背景を透明にする」がオフの場合（左）とオンの場合（右）

反転した回り込みの作成

1. 選択ツール またはダイレクト選択ツール で、オブジェクトの内側にテキストを回り込ませることが可能な、複合パスのようなオブジェクトを選択します。
2. テキストの回り込みパネルを表示するには、ウィンドウ／テキストの回り込みを選択します。
3. オブジェクトにテキストの回り込みを適用し、「反転」オプションを選択します。通常、「反転」はテキストの回り込みで「オブジェクトのシェイプで回り込む」と共に使用します。

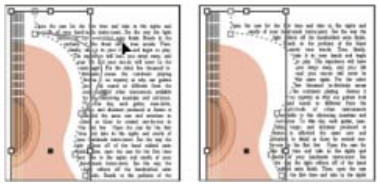


オブジェクトのシェイプでテキストを回り込ませ（左）、さらに「反転」を選択した場合（右）

ページの先頭へ

テキストの回り込み形状の変更

1. ダイレクト選択ツール で、テキストの回り込みが適用されているオブジェクトを選択します。テキストの回り込み境界線がオブジェクトのシェイプと同じ場合、境界線はオブジェクトに重なっています。
2. 必要に応じて次の操作を行います。
   - テキストとオブジェクトの距離を均等に変更するには、テキストの回り込みパネルでオフセット値を設定します。
   - テキストの回り込み境界線を編集するには、ペンツール とダイレクト選択ツールを使用します。



テキストの回り込み境界線の編集

テキストの回り込みパスの形状を手動で変更すると、種類メニューの「ユーザーによるパスの修正」が選択された状態になり、グレー表示のままになります。これは、シェイプのパスが変更されたことを示します。

編集したテキストの回り込み境界線ではなく、元のクリッピングパスを使用したい場合は、テキストの回り込みパネルの種類メニューから「クリッピング同様」を選択します。

ページの先頭へ

マスターページ上のアイテムへのテキスト回り込みの適用

「マスターページのみに適用」オプションを選択した場合、ドキュメントページのマスターページアイテムをオーバーライドしてアイテムにテキストを回り込ませる必要があります。このオプションの選択を解除すると、マスターページアイテムをオーバーライドせずに、マスターページおよびドキュメントページのマスターページアイテムにテキストを回り込ませることができます。

1. マスターページ上のオブジェクトを選択します。
2. テキストの回り込みパネルメニューの「マスターページのみに適用」を選択または選択解除します。

このオプションは、マスターページ上のオブジェクトが選択され、オブジェクトに回り込みが適用されている場合にのみ使用できます。

ページの先頭へ

アンカー付きオブジェクトへのテキストの回り込み

アンカー付きオブジェクトにテキスト回り込みを適用すると、ストーリー内でアンカーマーカーより後のテキスト行に回り込みが適用されます。ただし、回り込みはアンカーマーカーを含むテキスト行やアンカーマーカーより前のテキスト行には適用されません。

オブジェクトをインラインオブジェクトとしてペーストした場合、そのテキストの回り込み境界線は保持されます。

ページの先頭へ

非表示レイヤーのテキスト回り込みの無効化

回り込みオブジェクトを含んでいるレイヤーを非表示にした場合、レイヤーオプションダイアログボックスで「レイヤーの非表示でテキストの回り込みを無効にする」チェックボックスが選択されていなければ、他のレイヤー上のテキストフレームはオブジェクトの形状で回り込んだままになります。このオプションが選択されている場合は、オブジェクトのレイヤーを非表示にすると、回り込みがなくなり、テキストのレイアウトが再構築されます。

1. レイヤーパネルで、回り込みオブジェクトが含まれているレイヤーをダブルクリックします。
2. 「レイヤーの非表示でテキストの回り込みを無効にする」選択します。

ページの先頭へ

回り込みオブジェクトに接するテキストの均等配置

回り込みオブジェクトに接するテキストの均等配置の方法を指定すると、その変更はドキュメント全体に適用されます。

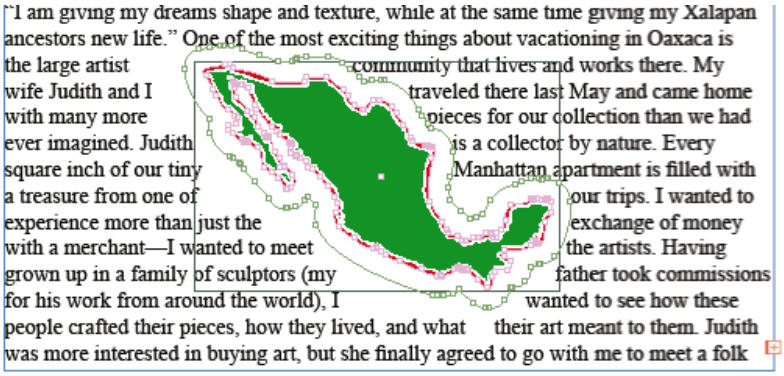
1. 編集／環境設定／組版（Windows）または InDesign／環境設定／組版（Mac OS）を選択します。
2. 次のいずれかのオプションを選択して、「OK」をクリックします。

   オブジェクトの次へテキストを均等配置

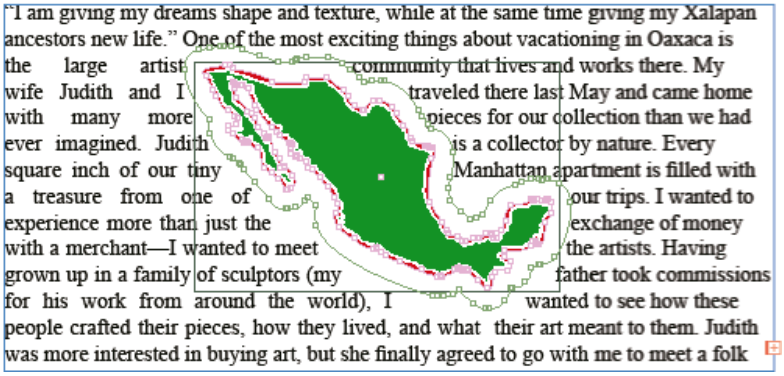
   テキストを段に分割する回り込みオブジェクトに接するテキストを均等配置します。この設定はテキストの回り込みによって完全にテキスト行が分割される場合にのみ適用されます。これにより各行は 2 つ以上に分かれます。

   注意： オブジェクトに接するテキストが「左 / 上揃え」の場合はオブジェクトの左側または上側が、「右 / 下揃え」の場合はオブジェクトの右側または下側が、「両端揃え」の場合は両側が均等配置になります。

A



B



オブジェクトの次へテキストを均等配置

次の行に合わせる

回り込みオブジェクトより下にある次の行の単位に合わせて回り込みテキストを移動します。このオプションが選択されていないと、回り込みオブジェクトに接する段やテキストフレーム内のテキストが整列されずに、オブジェクトの下に移動してしまう可能性があります。テキストをベースライングリッドに揃える場合などは、このオプションを選択すると便利です。

テキストの背面にあるオブジェクトを無視

回り込みオブジェクトの前面にあるテキストは回り込みの影響を受けません。重なり順は、レイヤーパネルでのレイヤーの重なり順およびレイヤー上でのオブジェクトの重なり順によって決定されます。

ページの先頭へ

テキストの回り込みを無視

状況によっては、テキストの回り込みを無効にしたい場合もあるかもしれません。例えば、グラフィックの周囲に回り込むテキストフレームのほかに、グラフィックの中に表示される別のテキストフレームも必要という場合などです。

1. テキストフレームを選択し、オブジェクト／テキストフレーム設定を選択します。
2. 「テキストの回り込みを無視」を選択し、「OK」をクリックします。

- 複合パスと複合シェイプ
- マスクとアルファチャンネルについて
- マスターページ

(cc) BY-NC-SR Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

アラビア語版およびヘブライ語版の機能 | CC、CS6

Adobe 多言語対応コンポーザー
テキストの方向
組み方向
Kashida の自動挿入
欧文合字
付加記号
Microsoft Word からのコピー＆ペースト
初期設定のフォント
従来フォントのサポート
数字の種類
ハイフネーション
検索と置換
字形
異体字のジャスティフィケーション
特殊な中東言語文字の挿入
表の方向
綴じ方
右から左表記の環境設定
ページと章の番号設定
ギャラリー表示およびストーリーエディターの組み方向
付加記号の色指定

本ソフトウェアの中東言語版および北アフリカ言語版では、アラビア語とヘブライ語の入力に適した新機能と機能改善が加わりました。

ページの先頭へ

Adobe 多言語対応コンポーザー

Adobe 多言語対応コンポーザーにより、中東言語でのコンテンツ作成が可能です。アラビア語、ヘブライ語、英語、フランス語、ドイツ語、ロシア語およびその他のラテン系言語の入力、混在が可能です。

段落パネルメニューから利用可能なコンポーザーを選択できます（ウィンドウ／段落／パネルメニュー）。例えば、InDesign では、Adobe 多言語対応段落コンポーザーを使用できます。また Illustrator では、中東単独行コンポーザーを使用できます。



Adobe 多言語対応コンポーザー

ファイルにアラビア語およびヘブライ語の名前を付けて保存することもできます。

ページの先頭へ

テキストの方向

アラビア語およびヘブライ語でコンテンツを作成するには、初期設定のテキストの方向を右から左（RTL）に設定します。また、左から右（LTR）のテキストも含まれるドキュメントの場合は、2 つの方向をシームレスに切り替えられます。

段落パネルから段落の方向を選択します。



段落方向の選択

同じ段落内で言語が混在する場合、文字レベルでテキストの方向を指定できます。また、日付や数字を入力するには、文字レベルでテキストの方向を指定します。

文字パネルメニューから、文字の方向を選択し、方向を選択します。



文字の方向

ページの先頭へ

組み方向

アラビア語とヘブライ語では、原則として組み方向が右から左に配置されます。 最初の列はフレームの一番右となり、後続の列はその左側に追加されます。 複合コンテンツが含まれるレイアウトでは、ストーリーごとに方向を変える必要があります。

ストーリー パネル（ウィンドウ／書式と表／ストーリー ）で、組み方向をクリックします。



組み方向

ページの先頭へ

Kashida の自動挿入

アラビア語では、テキストは Kashida を追加して揃えます。Kashida はアラビア語の文字に追加されて、文字を伸ばします。空白は変更されません。Kashida の自動挿入を使用して、アラビア語テキストの段落を揃えます。

段落パネルから段落を選択し（ウィンドウ／書式と表／段落）、Kashida を挿入ドロップダウンリストから設定を選択します。選択肢は、「なし」、「短く」、「中」、「長く」または「デザイン」です。Kashida は、段落を揃える場合にのみ挿入されます。この設定は、揃えが設定されている段落には適用できません。

Kashida を文字グループに適用するには、文字を選択して文字パネルメニューから「Kashida」を選択します。



Kashida の自動挿入

ページの先頭へ

欧文合字

アラビア語およびヘブライ語では、文字ペアに合字を自動的に適用できます。合字は、所定の Open Type フォントで使用できる場合には、特定の文字ペアに対するタイポグラフィックな置き換え文字です。

文字パネルメニューや制御パネルメニューから合字を選択すると、フォントに定義されている標準の合字が生成されます。

1. テキストを選択します。
2. 文字パネルメニューまたは制御パネルメニューから合字を選択します。

ただし、Open Type フォントの中には、さらに装飾を施したオプションの合字が含まれている場合があります。そのような合字は、「任意の合字」を選択すると生成されます。こうした合字は、文字パネル／OpenType／任意の合字で確認できます。



自動合字の有効化

ページの先頭へ

付加記号

アラビア語スクリプトでは、付加記号が字形となり、子音の長さや短母音を示します。付加記号は、スクリプトの上または下に置かれます。テキストの体裁を整えるため、または、特定のフォントを読みやすくするため、付加記号の垂直位置や水平位置を制御できます。

1. 付加記号のあるテキストを選択します。
2. 文字パネルで、スクリプトに関係する付加記号の位置を変更します。変更できる値は、付加記号の水平位置を調整と 付加記号の垂直位置を調整です。



付加記号の位置の変更

ページの先頭へ

Microsoft Word からのコピー＆ペースト

Microsoft Word からテキストをコピーし、ドキュメントに直接ペーストすることができます。ペーストしたテキストの揃えと方向は、自動的にアラビア語またはヘブライ語のテキストの設定になります。

ページの先頭へ

初期設定のフォント

中東版または北アフリカ版をインストールすると、初期設定のタイピングフォントは、初期設定でインストール固有の言語に設定されます。例えば、英語／アラビア語対応版をインストールすると、初期設定の入力フォントは Adobe Arabic に設定されます。同様に、英語／ヘブライ語対応版をインストールすると、初期設定の入力フォントは Adobe Hebrew（Photoshop の場合は Myriad Hebrew）になります。

ページの先頭へ

従来フォントのサポート

これまで使用してきたフォント（AXT フォントなど）は、このリリースでも継続して使用できます。ただし、テキストベースの要素には、新しい Open Type のフォントの使用を推奨します。

見つからない字形の保護（編集／環境設定／テキスト）は、初期設定で有効になっています。使用しているフォントでは字形が使用できない箇所では、テキストは自動的に処理されます。

ページの先頭へ

数字の種類

アラビア語またはヘブライ語での作業では、使用する数字の種類を選択できます。アラビア数字、ヒンディー数字およびペルシャ数字から選択できます。

初期設定のアラビア語では、ヒンディー数字が自動選択され、ヘブライ語では、アラビア数字が選択されます。ただし、必要に応じて、アラビア数字に切り替えることができます。

1. 表示されるテキストから数字を選択します。
2. 文字パネル（Ctrl + T）では、「数字」リストを使用して数字を表示するフォントを選択します。

アラビア語スクリプトの入力時にネイティブな数字を使用するオプションを有効にすると、アラビア数字が必ず使用するようにできます。このオプションを設定するには、編集／環境設定／高度なテキストを選択します。



数字の種類の選択

ページの先頭へ

ハイフネーション

文中の単語が 1 行に入りきらない場合、次の行に自動的にラップされます。ラップが発生するときのテキスト揃えの種類は、見た目がよくなく、言語学的にも正しくない行に不要なスペースを表示させる場合があります。ハイフネーションにより、行の終わりにくる語をハイフンを使って分割できます。この分割により、文章がよりよい方法で次の行へとラップされます。

混合テキスト：Kashida 挿入機能は、混合テキストでのハイフネーションの方法に影響を及ぼします。Kashida 挿入機能が有効な場合、該当する位置に Kashida が挿入され、アラビア語ではないテキストにはハイフネーションを行いません。Kashida 機能が無効な場合、アラビア語以外のテキストにのみハイフネーションが考慮されます。

ヘブライ語テキスト：ハイフネーションはできません。ハイフネーションを有効化し、設定をカスタマイズするには、段落パネル／パネルメニュー／ハイフネーション設定を選択します。



ハイフネーションオプション

ページの先頭へ

検索と置換

アラビア語とヘブライ語で全文検索と置換を実行できます。 単純なテキストの検索と置換だけでなく、特定の特性を持つテキストの検索と置換もできます。 例えば、付加記号、Kashida、特殊文字（Alef 等）、他言語の数字（Hindi の数字等）などの特性を指定できます。

テキストの検索と置換を実行するには次の操作を行います：

- **InDesign**：編集／検索と置換

InDesign では、文字種変換タブ（編集／検索と置換）で、アラビア数字、ヒンディー数字、ペルシャ数字間の検索と置換を行います。 例えば、ヒンディー語で入力した数字を検索し、アラビア語に変換できます。

ページの先頭へ

字形

アラビア語およびヘブライ語では、初期設定の文字セットから字形を適用できます。 ただし、初期設定の文字設定または別の言語設定から字形を参照、選択、適用するには、字形パネルを使用を使用します：

- InDesign： ウィンドウ／書式と表／字形
- Illustrator： ウィンドウ／型／字形



字形の参照、選択、適用

ページの先頭へ

異体字のジャスティフィケーション

特定のアルファベットについて異体字を持つフォントがあります。このような特定の異体字フォントスタイルは、一般にスタイルを整えたり、カリグラフィの目的で使用されます。また、異体字のジャスティフィケーションを使用して、用途に合わせて段落のジャスティフィケーションや揃えを行うこともあります。

異体字のジャスティフィケーションは、異体字が使用可能な場所で使用されていれば、段落レベルで設定できます。この機能は、文字レベルでのオン／オフも可能です。異体字のジャスティフィケーションは、この機能が統合されているフォントでのみ使用可能です。そのため、この機能のオン／オフのオプションは、サポートされるフォントに対してのみ表示されます。

異体字のジャスティフィケーション機能を持つアラビア語フォントは、Adobe Arabic、Myriad Arabic および Adobe Naskh です。異体字のジャスティフィケーション機能を持つヘブライ語フォントは、Adobe Hebrew と Myriad Hebrew です。

- **InDesign**

  段落レベル：ウィンドウ／段落パネル／パネルメニュー／ジャスティフィケーションを選択し、ジャスティフィケーションリストからオプションを選択します。

文字レベル：ウィンドウ／文字パネル／パネルメニュー／「異体字のジャスティフィケーション」オプションを選択します。

- **Photoshop**

  文字レベル：ウィンドウ／文字パネル／「異体字のジャスティフィケーション」チェックボックスを選択します。

ページの先頭へ

特殊な中東言語文字の挿入

アラビア語とヘブライ語には、テキストに挿入しにくい文字があります。 また、アラビア語とヘブライ語のキーボードレイアウトでは、このような文字をそのまま入力したり、挿入することができません。 ヘブライ語のアポストロフィー（Geresh）や Maqaf などの文字を挿入するには、文字パネル／パネルメニュー／Insert Special ME Character を選択します。



特殊な中東言語文字の挿入

ページの先頭へ

表の方向

アラビア語とヘブライ語では、ドキュメント内の表の方向を設定することができます。 テキストのセルと列の順序、初期設定の言語、テキストの整列はその設定に従います。アラビア語では、右端の列が最初の列となり、その後の列は表の一番左に向けて追加されます。 表の方向は、ストーリーエディターでも有効です（Ctrl + Y）。

新しい表の方向を設定するには：

1. 表／表の挿入をクリックします。
2. 表の挿入ダイアログボックスで、方向リストから表の方向を選択します。

既存の表の方向を変更するには：

1. 表内にカーソルを置きます
2. 表パネル（Shift + F9）を開き、左から右方向の表または右から左方向の表をクリックして、表の方向を設定します。

右から左方向の表では、アラビア語版と北アフリカ言語版の初期設定はアラビア語です。 ヘブライ語版はヘブライ語に設定されます。 左から右方向の表では、アラビア語版とヘブライ語版の初期設定は英語です。 北アフリカ言語版の初期設定はフランス語です。

ページの先頭へ

綴じ方

綴じ方では、ブックの左右どちらの端を綴じるかを指定します。左から右読みの言語で書かれたブックは左綴じです。 右から左読みの言語で書かれたブックは右綴じです。



右綴じブックのページレイアウト

ページの先頭へ

右から左表記の環境設定

中性文字

アラビア語とヘブライ語では、一部の文字の方向があいまいに見える場合があります。 文字の方向が明確でないと、文字列の方向と語順に混乱が生じます。 このような文字の方向を明確にし、あいまいさを排除するには次の操作を行います：

1. 編集／環境設定／右から左をクリックします。
2. Force Neutral Character Direction According to the Keyboard Input ボックスを選択します。

カーソル コントロール

アラビア語とヘブライ語では、キーボードの矢印キーを使用して、カーソルが移動する方向を制御できます。 カーソルの移動リスト（編集／環境

設定／右から左）には、次の 2 つのオプションがあります：

- 表示：カーソルは、矢印キーの方向に移動します。 右矢印を押すと、画面のカーソルが右に移動します。
- 論理：カーソルは入力した言語の方向に従って移動します。 アラビア語とヘブライ語では、右矢印キーを押すと、カーソルは左に移動します（右から左に表記される言語の次の文字です）。

ページの先頭へ

ページと章の番号設定

アラビア語とヘブライ語では、各地域の最も標準的な方式で番号を付けます。 最も標準的な方式は次のとおりです。

- アラビア語：Arabic Abjad と Alef-Ba-Tah
- フランス語：Hebrew Biblical Standard と Hebrew Non-Standard Decimal

番号設定を選択または変更するには、レイアウト／ページ番号とセクションの設定のスタイルリストから選択します。



ページ、セクション、章の番号設定

ページの先頭へ

ギャラリー表示およびストーリーエディターの組み方向

アラビア語とヘブライ語では、書き込む方向を指定することができます。この機能を有効にするには、編集／環境設定／ストーリーエディター内の表示から Indicate Writing Direction ボックスを選択します。 この機能を有効にすると、カーソルに組み方向を示す矢印が付きます。

ページの先頭へ

付加記号の色指定

アラビア語のテキストでは、デザイン効果やその他の目的で、付加記号の色を変えることができます。 例えば、付加記号により単語または文章の特定の部分を強調することができます。 付加記号の色の検索と置換を行うには、Change Arabic Diacritic Color クエリーを使用します。

1. 編集／検索と置換をクリックします。
2. クエリーリストから Change Arabic Diacritic Color を選択します。
3. 置換、すべてを置換、置換して検索ボタンのいずれかを使用して、元の付加記号を新しい色付き付加記号に置換します。

クエリーは適宜変更し、保存することができます。

(cc) BY-NC-SA Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

脚注

脚注の作成
脚注の番号付けとレイアウトの変更
脚注テキストの操作
脚注でのテキストの回り込み
脚注の削除

ページの先頭へ

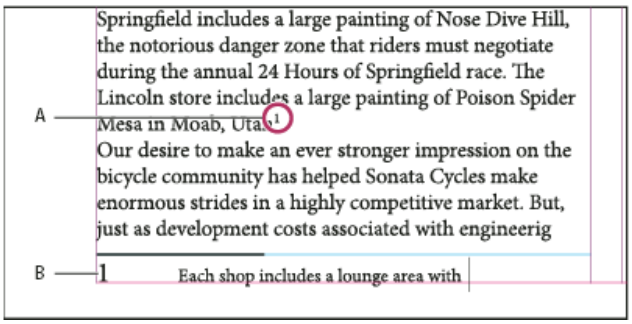
脚注の作成

脚注は、テキスト内に表示される脚注参照番号と段の下部に表示される脚注テキストがリンクされたものです。Word または RTF ドキュメントで作成した脚注を読み込むことができます。脚注をドキュメントに追加すると、脚注に自動的に番号が付けられます。番号付けは、ストーリーごとにリセットされます。脚注の番号付けのスタイル、外観およびレイアウトを設定することができます。表または脚注テキストに脚注を追加することはできません。脚注テキストの幅は、脚注参照マーカーを含む段の幅に基づいて決まります。

InDesign では文末脚注を作成できません。変換された Microsoft Word ドキュメントの文末脚注は、脚注ではなく、テキストとして書式設定されます。文末脚注を作成するための回避策については、Bob Bringhurst による InDesign の文末脚注の記事（英語）を参照してください。

脚注を作成するには、次の手順に従います。

1. 脚注参照番号を挿入する場所にテキスト挿入点を置きます。
2. 書式／脚注を挿入を選択します。
3. 脚注テキストを入力します。



ドキュメントに追加された脚注

A. 参照番号 ***B.*** 脚注テキスト

脚注を入力すると同時に脚注エリアは拡張されますが、テキストフレームのサイズは変わりません。脚注エリアは、上の方向に拡張され、脚注参照のある行に達すると、次のテキストフレームの段または連結フレームに分割されます。脚注を分割することができず、また入力したテキストが脚注エリアに入り切らない場合は、脚注参照を含む行が次の段に移動するか、オーバーセットアイコンが表示されます。この問題を解決するには、フレームのサイズを変更するか、テキストフォーマットを変更します。

テキスト挿入点が脚注内にあるときに、入力していた位置に戻るには、書式／脚注参照へ移動を選択します。このオプションを頻繁に使用する場合は、キーボードショートカットを作成することをお勧めします。

ページの先頭へ

脚注の番号付けとレイアウトの変更

脚注の番号付けとレイアウトを変更すると、その変更は既存の脚注だけではなくそれ以降に作成するすべての新規脚注に適用されます。

1. 書式／脚注オプションを選択します。

2. 「番号付けとフォーマット」タブで、脚注テキストに対する番号付けや参照番号およびフォーマットを設定します。
3. 「レイアウト」タブをクリックし、ページ上の脚注エリアのレイアウトを設定します。
4. 「OK」をクリックします。

脚注の番号付けとフォーマットのオプション

脚注オプションダイアログボックスの「番号付けとフォーマット」セクションには、次のオプションがあります。

スタイル　脚注参照番号の番号付けスタイルを選択します。

開始番号　ストーリー内の最初の脚注の番号を指定します。ドキュメント内のストーリーごとに、この番号から脚注の番号付けが開始されます。1 つのブックに複数のドキュメントがあり、ページの番号付けが連続している場合は、各章の脚注の番号付けが、前の章の最後の脚注番号に続く脚注番号で始まるように設定します。

「開始番号」オプションは、1 つのブック内に複数のドキュメントがある場合に特に役立ちます。脚注の番号付けは、ブック内のドキュメント間では継続されません。

番号の振り直し　ドキュメント内で脚注番号の振り直しが行われるよう設定する場合は、このオプションを選択し、「ページ」、「スプレッド」または「セクション」を選択して、番号付けがリセットされる単位を指定します。ページごとにリセットする場合は、アスタリスク（*）などの番号付けスタイルが最適です。

プレフィックス/サフィックスを表示　脚注参照、脚注文字列またはその両方にプレフィックスまたはサフィックスを表示します。プレフィックスは番号の前（[1 など）に表示され、サフィックスは番号の後ろ（1] など）に表示されます。このオプションは、脚注番号を文字の間に配置する場合に便利です（[1] など）。プレフィックスまたはサフィックスに使用する文字を入力するか、「プレフィックス」、「サフィックス」またはその両方のオプションを選択します。特殊文字を選択するには、プレフィックスおよびサフィックスコントロールの横にあるアイコンをクリックしてメニューを表示します。

脚注参照番号とその直前のテキストの距離が近すぎる場合は、プレフィックスにスペースを追加します。参照番号に文字スタイルを適用することもできます。

位置　デフォルトでは脚注参照番号の表示は上付き文字に設定されています。（OpenType 上付きの設定を含む文字スタイルなど）文字スタイルを使用して数値の形式を設定するには、「標準を適用」を選択して文字スタイルを選択します。

文字スタイル　脚注参照番号をフォーマットする文字スタイルを選択します。例えば、上付きの代わりに、標準の位置でベースラインが引き上げられた文字スタイルを選択します。ポップアップメニューには、文字スタイルパネルで使用可能な文字スタイルが表示されます。

段落スタイル　ドキュメント内のすべての脚注の脚注テキストをフォーマットする段落スタイルを選択します。ポップアップメニューには、段落スタイルパネルで使用可能な段落スタイルが表示されます。デフォルトでは、「基本段落」スタイルが使用されます。「基本段落」スタイルはドキュメントのデフォルトのフォント設定と同じように表示されないことがあります。

分離記号　脚注番号と脚注テキストの間に表示されるホワイトスペースを設定します。分離記号を変更するには、まず既存の分離記号を選択または削除してから新しい分離記号を選択します。分離記号には、複数の文字を含めることができます。ホワイトスペース文字を挿入するとき、適切なメタ文字を使用する必要があります（EM スペースの場合は ^m など）。

脚注のレイアウトのオプション

脚注オプションダイアログボックスの「レイアウト」セクションには、次のオプションがあります。

最初の脚注の前の最小スペース　段の終わりと脚注の最初の行の間の最少スペースを設定します。マイナスの値を指定することはできません。脚注の「段落前のアキ」の設定は無視されます。

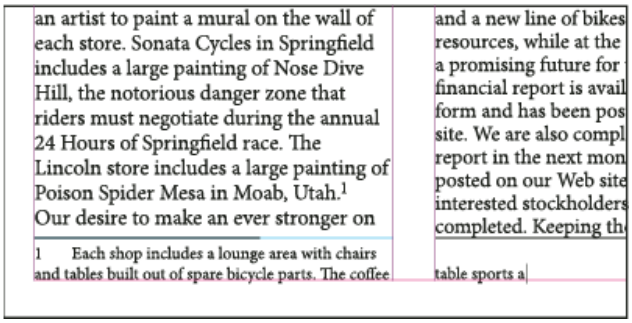
脚注間のスペース　1 つの段に含まれる複数の脚注の間の距離を設定します。マイナスの値を指定することはできません。脚注に複数の段落がある場合にのみ、「段落前のアキ」または「段落後のアキ」の値が適用されます。

オフセット 脚注エリアの始まり（デフォルトで脚注区切り線が表示される場所）と脚注テキストの最初の行の間の距離を設定します。
先頭ベースライン位置のオプションについては、テキストフレームのプロパティの変更を参照してください。

テキストの最後にストーリーの脚注を配置 最後の段組みの脚注を、ストーリーの最後のフレーム内にあるテキストのすぐ下に続けて表示します。このオプションを選択しない場合には、脚注はフレームに対して下辺（または左辺）に合わせて配置されます。

脚注を分離 脚注が 1 つの段に入力できる長さより長くなった場合に、脚注が 2 つの段に分離します。これが禁止されていれば、脚注参照番号のある行が次の段に移動するか、テキストがオーバーセットになります。

「脚注を分離」が有効であっても、個々の脚注が分離しないよう設定することができます。この設定を行うには、脚注テキストにテキスト挿入点を置き、段落パネルメニューから「段落分離禁止オプション」を選択して、「段落の分離禁止」と「段落中のすべての行を分離禁止」を選択します。脚注に複数の段落がある場合は、脚注テキストの最初の段落で「次の行数を保持：*X* 行」オプションを使用します。書式／分割文字の挿入／改段を選択して、脚注が分割される場所を設定することができます。



2 つの段に分離した脚注

前境界線 脚注テキストの上に表示される脚注区切り線の場所と外観を指定します。区切り線は別のフレームに続く脚注テキストの上にも表示されます。ここで選択するオプションは、「列内の最初の脚注」または「続きの脚注」のどちらかに（メニューでどちらが選択されているかに応じて）適用されます。これらのオプションは、段落境界線を指定するときに表示されるオプションに似ています。脚注区切り線を削除する場合は、「線」の選択を解除します。

ページの先頭へ

脚注テキストの操作

脚注テキストを編集するとき、次の点に注意してください。

- テキスト挿入点が脚注テキスト内にあるときに、編集／すべてを選択を選択すると、その脚注のすべての脚注テキストは選択されますが、他の脚注またはテキストは選択されません。
- 脚注間を移動するには、矢印キーを使用します。
- 脚注の番号付けは、ブック内のドキュメント間では継続されません。ブック内の各ドキュメントで番号付けをリセットしない場合は、最終的な編集が終了した後で、各ドキュメントで「開始番号」の値を手動で変更する必要があります。
- ストーリーエディターでは、脚注アイコンをクリックして脚注を展開したり折りたたむことができます。すべての脚注を展開するまたは折りたたむには、表示／ストーリーエディター／すべての脚注を展開またはすべての脚注を折りたたみを選択します。
- ゲラビューまたはストーリービューでは、脚注アイコンをクリックして脚注を展開したり折りたたむことができます。すべての脚注を展開するまたは折りたたむには、脚注を右クリック（Windows）または Control キーを押しながらクリック（Mac OS）して、「すべての脚注を展開」または「すべての脚注を折りたたみ」を選択します。

- 脚注のテキストには、文字および段落フォーマットを適用することができます。また、脚注参照番号の外観を変更することもできますが、脚注オプションダイアログボックスを使用することをお勧めします。
- 脚注参照番号を含むテキストをカットまたはコピーすると、脚注テキストもクリップボードに追加されます。脚注を含むテキストを別のドキュメントにコピーすると、その脚注には新しいドキュメントの番号付けおよびレイアウトの設定が適用されます。
- 脚注テキストの先頭の脚注番号を誤って削除した場合は、再度脚注番号を追加できます。テキスト挿入点を脚注テキストの先頭に置き、右クリックするか（Windows）、Control キーを押しながらクリック（Mac OS）し、特殊文字の挿入／マーカー／脚注番号を選択します。
- 脚注参照マーカーを含む段落のオーバーライドおよび文字スタイルを削除すると、脚注オプションダイアログボックスで適用した脚注参照番

号の属性も削除されます。

ページの先頭へ

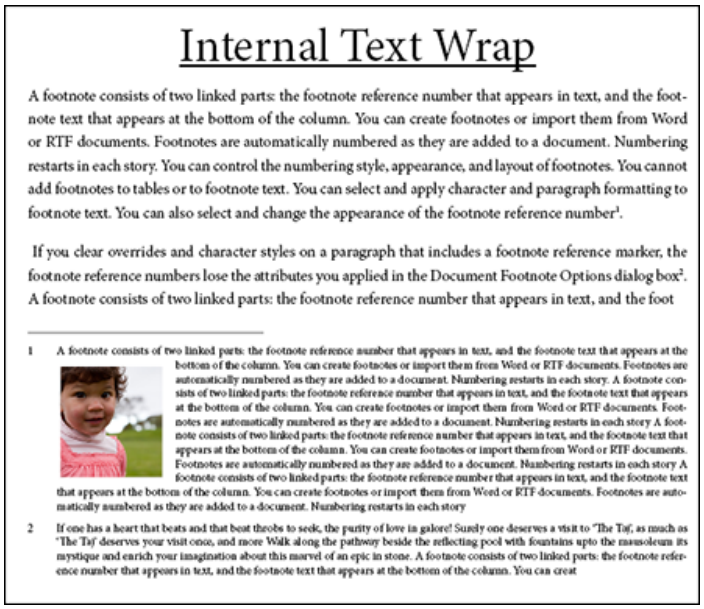
脚注でのテキストの回り込み

脚注の一部であるアンカー付きオブジェクトまたはフローティングオブジェクトにテキストの回り込みを適用できるようになりました。

脚注オブジェクト内部のテキストの回り込み

脚注でテキストの回り込みが適用されるインラインまたはアンカー付きオブジェクトを配置できます。テキストはオブジェクトを回り込み、そのオブジェクトの回りでシームレスに調整されます。

内部テキストの回り込みでは、テキストは脚注でオブジェクトが固定されている点の下でのみ折り返されます。

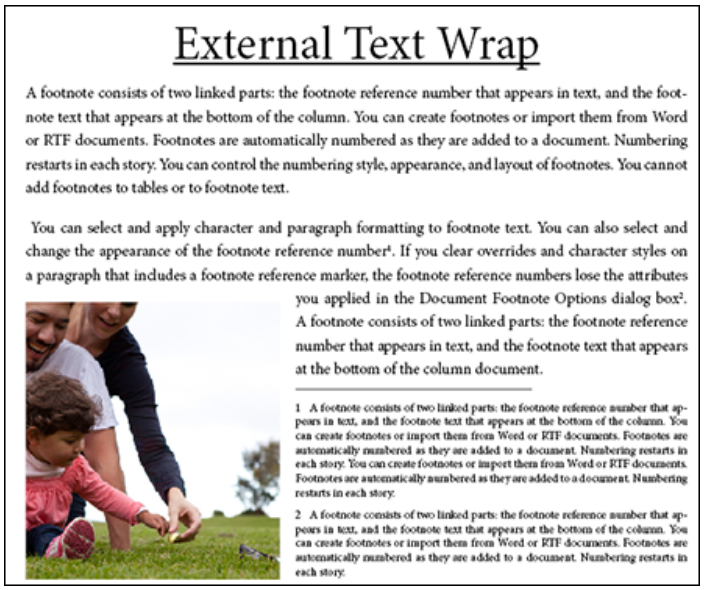


内部テキストの回り込み

脚注のオブジェクトの外部テキストの回り込み

フローティングオブジェクト（インラインでもアンカー付きでもないオブジェクト）にテキスト回り込みを適用した場合、脚注にテキストを使用すると、テキストの回り込みが有効になります。テキストはオブジェクトの周囲で動的に調整されます。

次の例では、写真は脚注に含まれていませんが、テキストはオブジェクトの周囲でシームレスに調整されます。



外部テキストの回り込み

長方形以外のフレームの脚注

角丸のフレーム、楕円、円などの長方形以外のテキストフレームの場合、脚注はオブジェクトの形の境界内に留まります。



ページの先頭へ

脚注の削除

脚注を削除するには、テキスト内に表示されている脚注参照番号を選択し、Backspace キーまたは Delete キーを押します。脚注テキストのみを削除すると、脚注参照番号と脚注構造は残ったままになります。

関連項目

Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

アンカー付きオブジェクト

アンカー付きオブジェクトについて
アンカー付きオブジェクトの作成
カスタムの位置へのアンカー付きオブジェクトの配置
ドラッグ＆ドロップを使用したアンカー付きオブジェクトの操作（CS5.5）
アンカー付きオブジェクトの選択とコピー
ページ上でのアンカー付きオブジェクトマーカーの表示
ページ上でのアンカー付きオブジェクトの手動再配置
アンカー付きオブジェクトのサイズ変更
アンカー付きオブジェクトの解除

ページの先頭へ

アンカー付きオブジェクトについて

アンカー付きオブジェクトとは、特定のテキストに関連付けられた、つまり、アンカーで固定された画像またはテキストボックスを指します。アンカー付きオブジェクトは、テキストの折り返しが行われると、アンカーを含むテキストと一緒に移動します。サイドバー（補足記事）やコールアウト、図表、特定の単語に関連するアイコンなど、特定の行やテキストブロックに関連付けたいすべてのオブジェクトに、アンカー付きオブジェクトを使用します。

アンカー付きオブジェクトは、文字ツールを使用するか、「アンカー付きオブジェクト／挿入」コマンドを使用して、オブジェクト（またはフレーム）をテキスト内にペーストまたは配置することで作成できます。オブジェクトを配置すると、Adobe InDesign CS4 によってテキスト挿入点にアンカーマーカーが追加されます。アンカー付きオブジェクトは、テキストフレームの外側にオブジェクトを配置する場合でも、アンカーで固定されるテキストフレームの回転と歪みの属性を継承します。オブジェクトを選択してこれらの属性を変更することができます。

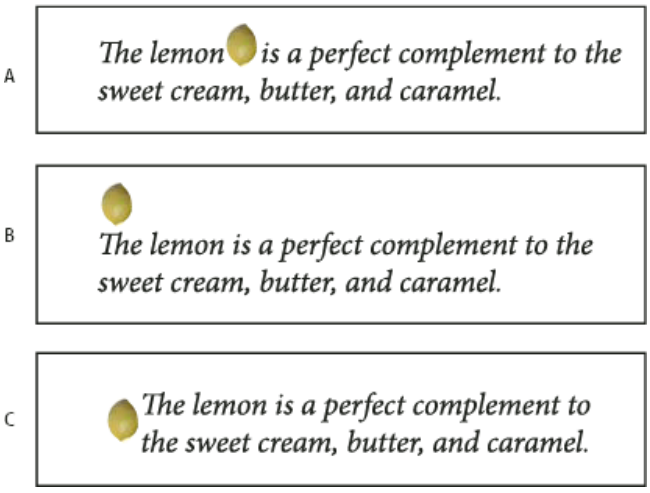
次の位置を指定してアンカー付きオブジェクトを作成することができます。

インライン アンカー付きオブジェクトを、テキスト挿入点のベースラインに揃えます。Y オフセットを調整することで、オブジェクトの位置をベースラインの上方向または下方向に調整できます。これは、アンカー付きオブジェクトのデフォルトのタイプです。InDesign の以前のバージョンでは、このタイプのオブジェクトはインライングラフィックと呼ばれていました。

行の上 アンカー付きオブジェクトを行の上に配置します。その行での揃え方は、「左揃え」、「中央揃え」、「右揃え」、「ノド元に向かって」、「ノド元から」、「（テキスト揃え）」の中から選択します。「（テキスト揃え）」では、アンカーマーカーが配置されている段落の揃えが適用されます。

カスタム アンカー付きオブジェクトを、アンカー付きオブジェクトオプションダイアログボックスで定義した位置に配置します。テキストフレームの内側または外側の任意の場所にオブジェクトを配置できます。

注意： パステキストでは、オブジェクトをインラインおよび行の上に配置することができます（パステキストへのアンカー付きオブジェクトの追加を参照してください）。



アンカー付きオブジェクトを含むドキュメントの例

A. インライン ***B.*** 行の上（左揃え） ***C.*** カスタム（テキストフレームの端に整列）

アンカー付きフレームを挿入するためのショートカットについては、Tim Cole による Anchored Frames Productivity Shortcut （英語）を参照してください。

ページの先頭へ

アンカー付きオブジェクトの作成

ドキュメントに配置するオブジェクトを使用できない場合（例えば、まだ執筆されていないサイドバーテキストなど）、後で内容を追加できるプレースホルダーとして、空のアンカー付きフレームを作成することができます。アンカー付きフレームはいつでもサイズを変更することができ、フレームの位置設定は自動的に更新されます。

1. 次のいずれかの操作を行います。

   - アンカー付きオブジェクトを追加するには、文字ツールを使用して、オブジェクトのアンカーを表示したい位置にテキスト挿入点を置き、オブジェクトを配置またはペーストします。

     オブジェクトのフレームが、オブジェクトが表示されるテキスト行の高さよりも大きい場合は、読み込んだ画像にテキストが重なるか、またはその行の上の余白が多くなる場合があります。その場合は、異なるアンカー付きオブジェクトの位置を選択する、改行または強制改行を挿入する、インラインオブジェクトのサイズを変更する、回り込む行に異なる行送り値を指定するなどの方法を検討してください。

   - 既存のオブジェクトをアンカーで固定するには、そのオブジェクトを選択してから編集／カットを選択します。次に、文字ツールを使用して、オブジェクトを挿入したい位置にテキスト挿入点を置き、編集／ペーストを選択します。デフォルトでは、アンカー付きオブジェクトの位置はインラインになります。
   - 使用可能でないオブジェクト（例えば、まだ執筆していないサイドバーなど）用にプレースホルダーフレームを追加するには、文字ツールを使用して、そのオブジェクトのアンカーを表示する位置にテキスト挿入点を置き、オブジェクト／アンカー付きオブジェクト／挿入を選択します。

     テキストのアウトラインを作成することで、テキストの文字にアンカーを追加することができます。アウトラインを作成することで、テキストの個々の文字が、自動的にインラインのアンカー付きオブジェクトに変換されます。

2. このオブジェクトを配置するには、選択ツールでオブジェクトを選択し、オブジェクト／アンカー付きオブジェクト／オプションを選択します。必要に応じて、オプションを指定します。

   アンカー付きオブジェクトダイアログボックスを表示させずに操作を続けるには、「アンカー付きオブジェクトを挿入／アンカーマーカーへ移動」のキーボードショートカットを使用します。このショートカットで使用するキーは、キーボードショートカットダイアログボックスで指定する必要があります（「テキストと表」の領域にリストされています）。ショートカットキーを *2* 回押すことで、オブジェクトの選択が解除され、カーソルが本文テキストに戻されます（キーボードショートカットセットの使用を参照してください）。

アンカー付きオブジェクトの挿入オプション

アンカー付きオブジェクト用のプレースホルダーを挿入する際、次のオプションを指定できます。

内容 プレースホルダーフレームに含めるオブジェクトの種類を指定します。

注意： 「テキスト」を選択した場合、テキストフレーム内にテキスト挿入点が表示されます。「グラフィック」または「割り当てなし」を選択した場合は、そのオブジェクトフレームが選択されます。

オブジェクトスタイル オブジェクトのフォーマット設定に使用するスタイルを指定します。オブジェクトスタイルを定義して保存してある場合は、それらのスタイルがこのポップアップメニューに表示されます。

段落スタイル オブジェクトのフォーマット設定に使用する段落スタイルを指定します。段落スタイルを定義して保存してある場合は、それらのスタイルがこのポップアップメニューに表示されます。

注意： オブジェクトスタイルで段落スタイルを有効にし、段落スタイルメニューから別のスタイルを選択した場合、または、スタイルの「アンカー付き位置」のオプションを変更してある場合は、オーバーライドされている設定があることを示すプラス記号（+）がオブジェクトスタイルメニューに表示されます。

高さと幅 プレースホルダーフレームの寸法を指定します。

インラインまたは行の上オプション

アンカー付きオブジェクトオプションダイアログボックスの親文字からの間隔メニューで「インラインまたは行の上」を選択している場合は、アンカー付きオブジェクトの位置を設定するために次のオプションを使用できます（アンカー付きオブジェクトを挿入ダイアログボックスでも、これらのオプションを設定できます）。

インライン アンカー付きオブジェクトの下部をベースラインに揃えます。 インラインオブジェクトは *y* 軸に沿って移動する場合、特定の制約に従います。オブジェクトの上部が先頭の印刷可能範囲の下部の下に移動すること、およびオブジェクトの下部が先頭の印刷可能範囲の上部の上に移動することはできません。

Y オフセット ベースライン上の位置を調整します。マウスを使用して、オブジェクトをページの垂直方向にドラッグすることもできます。

行の上 アンカーマーカーを含むテキスト行の上およびテキスト行の下のアンカーマーカー上にオブジェクトを揃えます。

揃え 次のいずれかのオプションを選択します。

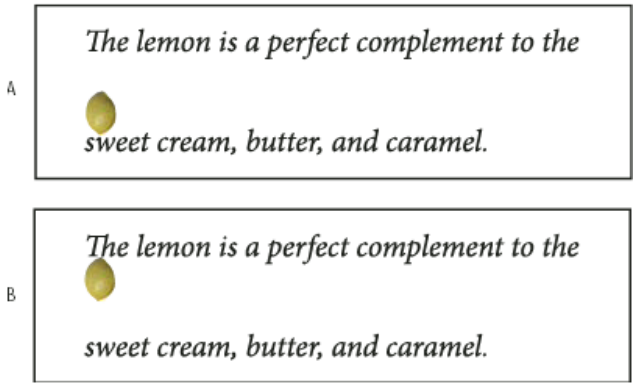
左揃え、右揃え、中央揃え オブジェクトをテキストの段の範囲内で揃えます。これらの位置では、段落に適用されているインデントの値は無視され、段全体の範囲内でオブジェクトが揃えられます。

ノド元に向かって、ノド元から オブジェクトがスプレッドのどちらの側に置かれているかによって、オブジェクトを右または左に揃えます。これらの位置では、段落に適用されているインデントの値は無視され、段全体の範囲内でオブジェクトが揃えられます。

（テキスト揃え） 段落で定義されている揃えに基づいて、オブジェクトを揃えます。このオプションでは、オブジェクトを揃える際に、段落のインデント値が使用されます。

前スペース 前のテキスト行の先頭の印刷可能範囲の一番下を基準にして、相対的なオブジェクトの位置を指定します。プラスの値を指定すると、オブジェクトとその下のテキストの両方が下方向に移動します。マイナスの値を指定すると、オブジェクトの下のテキストが、オブジェクトに向かって上方向に移動します。指定できるマイナスの最大値は、オブジェクトの高さです。

後ろスペース オブジェクトの下の行の最初の文字のキャップハイトを基準にして、オブジェクトの相対的な位置を指定します。値 0 を指定すると、オブジェクトの下部がキャップハイト位置に揃えられます。プラスの値を指定すると、オブジェクトの下のテキストが（オブジェクトの下部から離れて）下方向に移動します。マイナスの値を指定すると、オブジェクトの下のテキストが（オブジェクトに向かって）上方向に移動します。



「前スペース」と「後ろスペース」オプションの使用

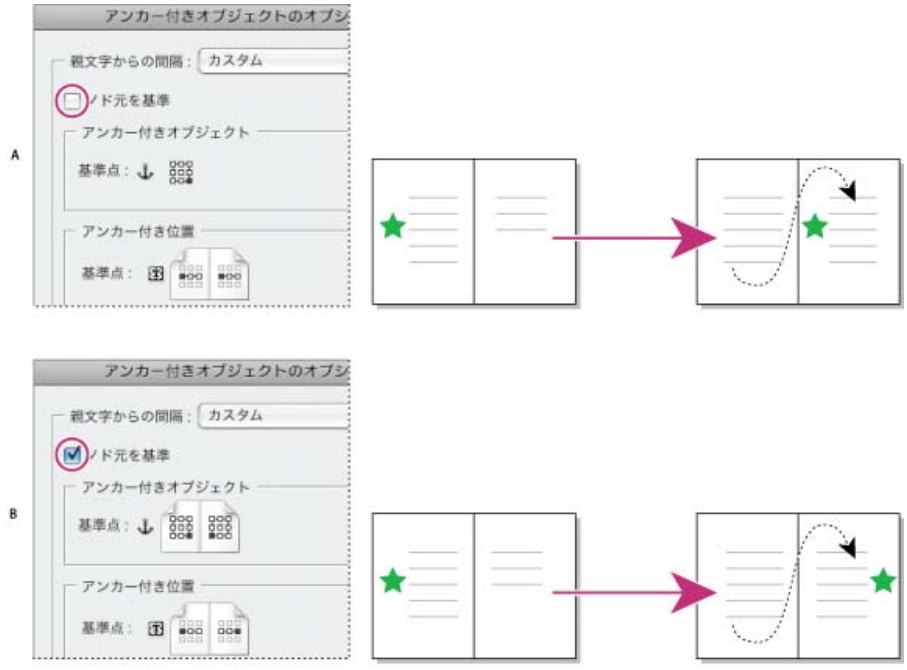
A. 「前スペース」を値 *3.528mm* に設定すると、オブジェクトとそれに関連付けられたテキストが、その上のテキスト行から離れます。 ***B.*** 「後ろスペース」を値 *3.528mm* に設定すると、オブジェクトとその上のテキスト行が、オブジェクトに関連付けられたテキスト行から離れます（下）。

注意： 「行の上」が指定されたアンカー付きオブジェクトは常に、アンカーが付けられた行と共に移動します。テキストを編集しても、あるページの一番下にオブジェクトが残され、アンカーマーカー行が次のページの一番上に移るようなことはありません。

カスタムオプション

「カスタム」の位置を指定してアンカー付きオブジェクトを配置するときには、次のオプションを使用できます。これらのオプションは、アンカー付きオブジェクトの挿入ダイアログボックスまたはアンカー付きオブジェクトオプションダイアログボックスで指定できます。これらのオプションの使用について詳しくは、カスタムの位置へのアンカー付きオブジェクトの配置を参照してください。

ノド元を基準 ドキュメントのノド元を基準にしてオブジェクトを揃えるかどうかを指定します。このオプションを選択すると、「アンカー付きオブジェクト」の基準点アイコンが 2 ページのスプレッドとして表示されます。この 2 ページは互いを鏡面反転します。このオプションを選択すると、例えばページの外側の枠などのスプレッドの一方の側に配置されているオブジェクトは、向かい合うページにテキストが流し込まれた場合でも、やはりページの外側の枠に配置されます。



「ノド元を基準」オプションの使用

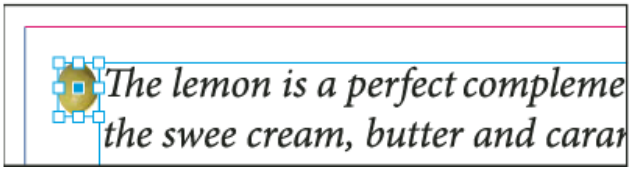
A. 「ノド元を基準」を選択しない場合：スプレッドの右側のページにテキストが流し込まれたとき、オブジェクトはそのテキストフレームの左側に配置されます。 ***B.*** 「ノド元を基準」を選択した場合：スプレッドの右側のページにテキストが流し込まれたとき、オブジェクトはそのページの外側の枠に配置されます。

注意： 「ノド元を基準」を選択した後で「*X* オフセット」の値を調整すると、オブジェクトの移動方向が変わる場合があります。これは、移動方向は、スプレッドのどちらの側にオブジェクトが置かれているかによっても若干影響を受けるためです。

「アンカー付きオブジェクト」の基準点 （「アンカー付き位置」の「基準点」での指定に従って）ページ上の位置に揃える、オブジェクト上の位置を指定します。例えば、オブジェクトの右側をテキストフレームなどのページアイテムに揃えたい場合は、このアイコンで最も右側のポイントをクリックします。基準点の使用方法の詳細については、カスタムの位置へのアンカー付きオブジェクトの配置を参照してください。

「アンカー付き位置」の基準点

オブジェクトを揃える、（「X 基準」と「Y 基準」オプションで定義される）ページ上の位置を指定します。例えば、「X 基準」に「テキストフレーム」、「Y 基準」に「行（ベースライン）」を選択した場合、このアイコンは、テキストフレームの水平領域と、オブジェクトのアンカーマーカーを含むテキスト行の垂直領域を表します。このアイコンの最も左側のポイントをクリックすると、オブジェクトの基準点は、テキストフレームの左側の枠とテキストのベースラインに揃えられます。

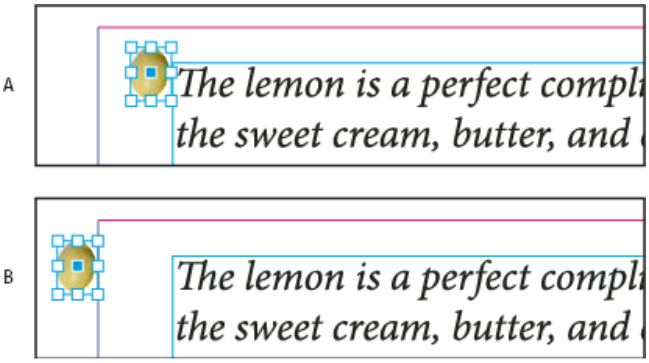


オブジェクトの右側が、テキストフレームの左側に揃えられます

注意： 「*X* 基準」と「*Y* 基準」で選択するオプションによって、「アンカー付き位置」の基準点アイコンには *3* 個または *9* 個の位置が表示されます。「行（ベースライン）」などの行のオプションを選択した場合は、中段左、中央、中段右の *3* つのオプションのみが表示されます。これは、垂直方向の配置はテキスト内のアンカーマーカーによって決定されるためです。

X 基準 水平方向の揃えの基準を指定します。例えば、「テキストフレーム」を選択すると、オブジェクトはテキストフレームの左側、中央または右側に揃えられます。厳密に水平方向のどの位置に揃えられるかは、選択した基準点と「X オフセット」に指定するオフセット値によって異なります。

例えば、オブジェクトの右側の枠をページマージンにぴったり合わせた状態でページマージンに表示したい場合、「X 基準」に「ページマージン」を選択し、「アンカー付きオブジェクト」の基準点アイコンで最も右側のポイント、「アンカー付き位置」の基準点アイコンで最も左側のポイントを指定します。

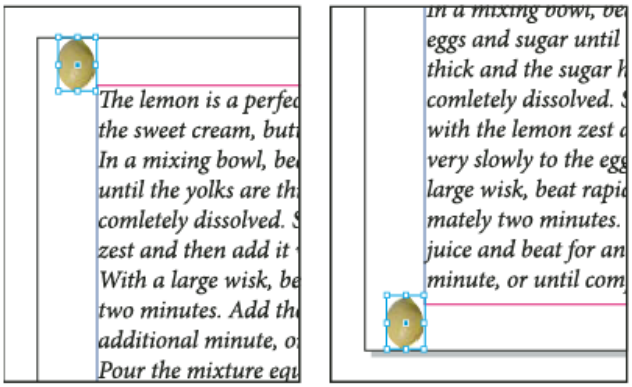


「*X* 基準」オプション

A. オブジェクトの右側をテキストフレームの左側に揃えます。***B.*** オブジェクトの右側をページマージンの左側に揃えます。

X オフセット オブジェクトを左方向または右方向に移動させます。左と右のいずれに移動するかは、基準点に依存します。ページアイテムの中央に揃えている場合は、プラスの値を指定することでオブジェクトが右方向に移動します。移動方向は、「ノド元を基準」を選択しているかどうかにも依存します。

Y 基準 垂直方向について、オブジェクトを揃える対象を指定します。例えば、「ページ枠」を選択すると、ページの一番上、中央または一番下にオブジェクトを揃えるための基準として、ページ枠が使用できます。このページアイテムの上、中央、下のいずれにオブジェクトを揃えるかは、「アンカー付き位置」の基準点で指定します。行（ベースライン）など、行のオプションを選択した場合、「アンカー付き位置」の基準点はポイントの中間の水平行のみが表示されます。



「Y 基準」オプション

A. オブジェクトの上部をページ枠の上に揃える。 ***B.*** オブジェクトの下部をページ枠の下に揃える。

Y オフセット オブジェクトを上方向または下方向に移動させます。プラスの値を指定すると、オブジェクトが下方向に移動します。

段の上下境界線内に収める テキストの折り返しに伴ってオブジェクトが境界線の外側に移動してしまう場合、オブジェクトはテキストの段の内部に保持されます。この場合、オブジェクトの下部が下側のフレーム内マージンに揃えられるか、またはオブジェクトの上部が上側のフレーム内マージンに揃えられます。例えば、アンカー付きオブジェクトがテキストの行の横方向にずらされて段の中央にある場合、問題はないように見えます。しかし、このオプションを選択していないと、アンカーマーカーがこの段の一番下まで折り返された場合に、オブジェクトが段の枠より下にはみ出すか、オブジェクトの一部がページの外側に押し出されることがあります。このオプションを選択している場合、段の境界線より上または下にオブジェクトをドラッグすることはできません。必要であれば、オブジェクトのサイズを変更することで、段の上側または下側の境界線に揃えた状態で、オブジェクトが段の内側に戻されます。このオプションは、「Y 基準」での「行（ベースライン）」など、行のオプションを選択している場合にのみ使用可能です。

注意： *InDesign* によって、オブジェクトの位置が段の境界線の内側になるように変更された場合、指定した *Y* オフセット値がプラス記号（+）付きでダイアログボックスに表示されます。

手動配置を防ぐ アンカー付きオブジェクトを、ページ上でドラッグするか、ずらすことによって、移動できないようにします。

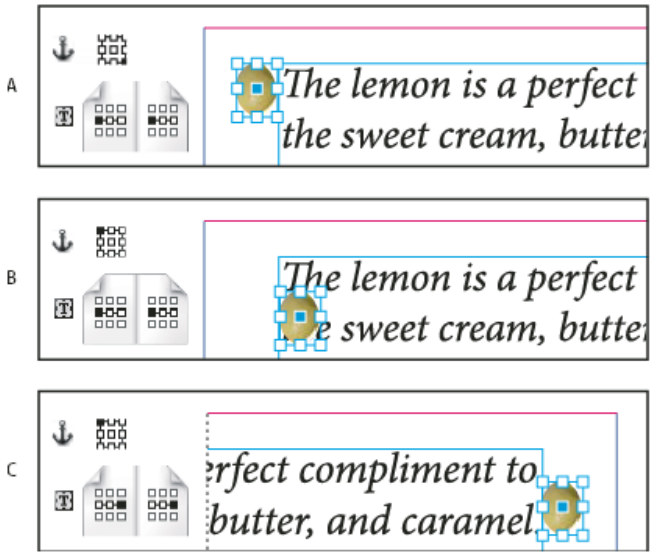
プレビュー 位置の調整を行いながら、結果をページ上で確認できるようにします。

ページの先頭へ

カスタムの位置へのアンカー付きオブジェクトの配置

アンカー付きオブジェクトオプションダイアログボックスを使用して、アンカー付きオブジェクトをカスタムの位置に配置するときには、次の点に注意してください。

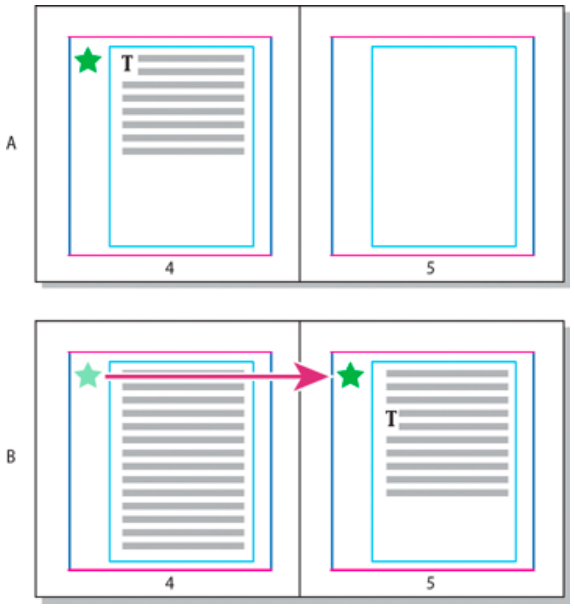
- カスタムの位置のオプションは、主に 4 つあります。2 つの基準点アイコンと、「X 基準」および「Y 基準」のポップアップメニューです。これらのオプションの設定によって、オブジェクトの位置が決定されます。例えば、「X 基準」と「Y 基準」での選択によって、「アンカー付き位置」の基準点が表す対象（テキストフレーム、段内のテキスト行、ページ全体のいずれか）が決まります。下図は、「X 基準」と「Y 基準」のオプションは変えずに異なる基準点を選ぶことで、オブジェクトの位置をどのように変えることができるかを表します。



アンカー付きオブジェクトの位置の変更（「*X* 基準」は「テキストフレーム」、「*Y* 基準」は「行（ベースライン）」に設定）

A. 「アンカー付きオブジェクト」の基準点で下段右のポイント、「アンカー付き位置」の基準点で中段左を選択。***B.*** 「アンカー付き位置」の基準点を中央左のままにし、「アンカー付きオブジェクト」の基準点を左上隅に変更する。***C.*** 「アンカー付きオブジェクト」の基準点を左上隅のままにし、「アンカー付き位置」の基準点を中央右に変更する。

- テキストの折り返しが行われるときでもページ上の位置（ページ左上など）を維持し、テキストが次のページに流し込まれる場合にのみ位置を移動するように、アンカー付きオブジェクトを作成するには、オブジェクトのアンカーをページマージンまたはページ枠に固定します。例えば、「X 基準」と「Y 基準」の両方を「ページマージン」に設定し、オブジェクトに対して上段左の基準点、およびページアイテムに対して上段左の基準点をクリックします。テキストの折り返しが行われるときには、オブジェクトは、ページマージンの範囲内で左上の位置を維持します。アンカーを含むテキスト行が次のページに流し込まれる場合にのみ、次のページの左上の位置にオブジェクトが移動します。



アンカー付きオブジェクトをページ上の特定の位置に配置する

A. 「*X* 基準」と「*Y* 基準」で「ページマージン」または「ページ枠」を使用してオブジェクトを配置します。***B.*** テキストの折り返しが行われるときには、テキストが次のページに移動するまではオブジェクトは移動しません。

- テキストの折り返しが行われるときにテキストと共にオブジェクトが移動するように、オブジェクトを特定のテキスト行に揃えたままにするには、「Y 基準」のメニューからいずれかの行オプションを選択します。
- テキストの折り返しが行われるときに、オブジェクトをテキストフレーム内に維持するが、特定のテキスト行には固定しない場合は、「X 基準」から「テキストフレーム」を選択します。

- マージンを基準にしてオブジェクトを揃えるには（例えば、テキストが次のページに流し込まれるときに、サイドバーを外側のマージンに維持するには）、「ノド元を基準」を選択します。

1. オブジェクトを選択し、オブジェクト／アンカー付きオブジェクト／オプションを選択します。
2. 親文字からの間隔ポップアップメニューから、「カスタム」を選択します。

   オプションを指定しながらページ上でオブジェクトの移動を確認するには、ダイアログボックスの下部にある「プレビュー」を選択します。
3. ドキュメントのノド元を基準にしてページの同じ側にオブジェクトを保持するには、「ノド元を基準」を選択します。例えば、オブジェクトがスプレッドのどちら側にあるかに関係なく、常に外側のマージンにオブジェクトを表示したい場合は、このオプションを選択します。
4. 「アンカー付きオブジェクト」の基準点アイコン で、オブジェクトを揃えたいページ上の位置を表す基準点をクリックします。
5. 「X 基準」のメニューから、オブジェクトを揃える水平方向の基準とするページアイテムを選択します。例えば、テキストフレームの左側、右側または中央にオブジェクトを揃えるには、「テキストフレーム」を選択します。
6. 「Y 基準」から、オブジェクトを揃える垂直方向の基準とするページアイテムを選択します。例えば、アンカーが付けられているテキストのベースラインにオブジェクトを揃えるには、「行（ベースライン）」を選択します。
7. 「アンカー付き位置」の基準点アイコン　で、「X 基準」と「Y 基準」で選択したページアイテムの範囲内でオブジェクトを揃える位置を表す基準点をクリックします。
8. 基準点で設定した位置からオブジェクトをずらすには、「X オフセット」または「Y オフセット」を指定します。
9. テキストの折り返しに伴って、オブジェクトが段の枠より下または上にはみ出さないようにするには、「段の上下境界線内に収める」を選択します。このオプションは、「Y 基準」で「行（ベースライン）」などの行のオプションを選択している場合にのみ使用可能です。
10. 「OK」をクリックします。

ページの先頭へ

ドラッグ＆ドロップを使用したアンカー付きオブジェクトの操作（CS5.5）

ドラッグ＆ドロップを使用したアンカー付きオブジェクトの操作（CS5.5）

既存のオブジェクトをテキストフレームにドラッグして固定したり、移動したりできるようになりました。選択ツール またはダイレクト選択ツール を使用してオブジェクトを選択し、テキストフレームの右上隅付近に表示される青い四角形をドラッグします。次のいずれかの操作を行います。

- 既存のオブジェクトをアンカーで固定するには、オブジェクトのアンカーを表示するテキストフレームの位置に青い四角形をドラッグします。
- インラインオブジェクトを作成するには、Shift キーを押したまま、オブジェクトを表示する位置に青い四角形をドラッグします。
- アンカー付きオブジェクトのオプションを指定するには、Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押しながらオブジェクトのアンカーを表示する位置に青い四角形をドラッグします。

ページの先頭へ

アンカー付きオブジェクトの選択とコピー

選択ツールを使用すると、一度に 1 つのアンカー付きオブジェクトだけを選択できます。文字ツールを使用すると、複数のアンカー付きオブジェクトマーカーを含むテキストの範囲を選択できます。文字ツールを使用して複数のアンカーマーカーを選択したときは、そのすべてのアンカー付きオブジェクトについて、位置のオプションを一度に変更できます。

注意： 同じ位置に複数のアンカー付きオブジェクトが存在する場合、例えば、*1* 行に同じアンカー属性を持つ *2* つのアンカー付きオブジェクトマーカーが含まれている場合には、それらのオブジェクトは重なって表示されます。

アンカー付きオブジェクトマーカーを含むテキストをコピーすると、アンカー付きオブジェクトもコピーされます。アンカー付きオブジェクトをコピーしてからテキストの外側にペーストした場合、そのアンカー付きオブジェクトは、テキストにリンクされていない独立した画像になります。

ページの先頭へ

ページ上でのアンカー付きオブジェクトマーカーの表示

アンカーおよびアンカーとページ上のテキストの関連を確認するために、オブジェクトマーカーを表示させることができます。次のいずれかの方法を使用します。

- テキスト内のアンカーマーカー を表示させるには、書式／制御文字を表示を選択します。
- アンカーマーカーからそれに関連付けられているカスタム位置のオブジェクトまで点線を表示させるには、オブジェクトを選択し、表示／エクストラ／テキスト連結を表示を選択します。この連結線は、アンカーマーカーから、アンカー付きオブジェクトの現在の基準点まで表示されます。
- アンカー付きオブジェクト上にアンカー記号 を表示させるには、表示／エクストラ／フレーム枠を表示を選択します。どのオブジェクトにアンカーが付けられているかを確認するときには、アンカー記号を表示させると便利です。

ページの先頭へ

ページ上でのアンカー付きオブジェクトの手動再配置

マージンまたはページを基準にしてオブジェクトを配置している場合以外は、フレームを移動させることでアンカー付きオブジェクトも移動します。

注意： アンカー付きオブジェクトを移動させる前に、そのオブジェクトに対してアンカー付きオブジェクトダイアログボックスの「手動配置を防ぐ」オプションの選択が解除されていることを確認するか、またはオブジェクト／ロック解除を選択します。

- 次のいずれかの操作を行います。
  - インラインのアンカー付きオブジェクトを移動するには、選択ツール またはダイレクト選択ツール を使用してオブジェクトを選択し、垂直方向または水平方向にドラッグします。インラインオブジェクトは水平方向には移動できず、垂直方向にのみ移動できます。

    インラインまたは行の上のオブジェクトをテキストフレームの外側に移動させたい場合は、そのオブジェクトをカスタム位置のオブジェクトに変換してから、任意の位置に移動させます。
  - インラインのアンカー付きオブジェクトを移動するには、選択ツール、またはダイレクト選択ツールを使用してオブジェクトを選択し、横組みフレームでは垂直方向、縦組みフレームでは水平方向にオブジェクトをドラッグします。横組みテキストでは、インラインオブジェクトは水平方向には移動できず、垂直方向にのみ移動できます。縦組みテキストでは、インラインオブジェクトは水平方向にのみ移動できます。
  - インラインのアンカーつきオブジェクトをベースラインと並行に移動させるには、オブジェクトの前または後にテキスト挿入点を置き、「カーニング」に新しい値を設定します。

    インラインまたは行の上のオブジェクトをテキストフレームの外側に移動させたい場合は、そのオブジェクトをカスタム位置のオブジェクトに変換してから、任意の位置に移動させます。

  カスタム位置に配置したアンカー付きオブジェクトを移動するには、選択ツール、またはダイレクト選択ツールを使用してオブジェクトを選択し、垂直方向または水平方向にドラッグします。

  アンカー付きオブジェクトを回転および変形することもできます（オブジェクトの変形およびオブジェクトの回転を参照してください）。

ページの先頭へ

アンカー付きオブジェクトのサイズ変更

アンカー付きオブジェクトのサイズを変更する前に、アンカー付きオブジェクトオプションダイアログボックスの「手動配置を防ぐ」オプションの選択が解除されていることを確認します。

- 選択ツール またはダイレクト選択ツール を使用してオブジェクトを選択し、サイドハンドルまたはコーナーハンドルをドラッグします。

  注意： インラインまたは行の上のアンカーマーカーのサイズを垂直方向に変更すると、オブジェクトがオーバーセットする場合があります。アンカーマーカーがオーバーセットされた場合は、オブジェクトもオーバーセットされます。

アンカー付きオブジェクトのサイズを変更することで、オブジェクトの配置が変わる場合もあります。例えば、オブジェクトの右側をテキストフレームの左側に揃えている場合に、オブジェクトの右側のハンドルを左方向（テキストフレームの境界線から離れる方向）に 1 mm 分ドラッグす

ると、オブジェクトのサイズが変更され、右側に 1 mm 分移動します。

ページの先頭へ

アンカー付きオブジェクトの解除

関連付けられたテキストを基準にしてオブジェクトを移動させる必要がなくなった場合は、オブジェクトを解除してアンカーを削除することができます。

- 選択ツールでアンカー付きオブジェクトを選択し、オブジェクト／アンカー付きオブジェクト／解除を選択します。

  ページ上でのオブジェクトの位置は変わりません。

  注意： インラインまたは行の上のオブジェクトでは、「解除」が機能しません。「解除」を使用できない場合、アンカー付きオブジェクトを選択しカット＆ペーストします。また、文字ツールを使用してアンカーオブジェクトを選択し、カットする方法もあります。

(cc) BY-NC-SA Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

アーティクル（CS5.5）

アーティクルの紹介
アーティクルの作成とコンテンツの追加
ドキュメント内のすべてのページアイテムをアーティクルに追加
アーティクルの管理
書き出しにアーティクルを含める

ページの先頭へ

アーティクルの紹介

アーティクルを使用すると、ページアイテム間の関係を簡単に作成できます。この関係を使用して、EPUB、HTML、アクセシビリティに対応した PDF を定義したり、コンテンツの順番を定義することができます。画像、グラフィック、テキストなど、レイアウト内の既存のページアイテムの組み合わせでアーティクルを作成できます。アーティクルを作成した後で、ページアイテムを追加、削除したり、順番を並べ替えたりできます。アーティクルを手動で作成するには、1 つ以上のページアイテムをアーティクルパネルのアーティクルにドラッグします。

コンテンツを一括してアーティクルに追加することもできます。選択したコンテンツを選択したアーティクルに追加する、ドキュメントのコンテンツ全体をアーティクルに追加することも可能です。

注意： *XML* 構造パネルで、*EPUB*、*HTML*、およびアクセシビリティに対応した *PDF* 書き出しワークフローにコンテンツを書き出す順番を決めることもできます。アーティクルパネルは、*XML* のスキルがなくても簡単で利用しやすいように設計されています。*XML* 構造パネルは、書き出し時にアーティクルパネルを使用する際のオプションとして提供されています。*XML* 用ドキュメントの構造化を参照してください。

ページの先頭へ

アーティクルの作成とコンテンツの追加

1. ウィンドウ／アーティクルを選択して、アーティクルパネルを表示します。
2. アーティクルに追加するページアイテムを選択します。

   空のアーティクルを作成する場合は、レイアウトでページアイテムを選択しないでください。
3. 次のいずれかの操作を行います。
   - アーティクルパネルメニューから「新規アーティクル」を選択します。
   - アーティクルパネルの下部にある新規アーティクルを作成 ✣ をクリックします。
   - ストーリーまたはページアイテムをアーティクルパネルにドラッグします。
4. 新規アーティクルダイアログボックスで、アーティクルの名前を入力します。
5. EPUB/HTML の書き出しにアーティクルを追加するため「書き出し時に含める」を選択します。

ページの先頭へ

ドキュメント内のすべてのページアイテムをアーティクルに追加

すべてのページアイテムをアーティクルに追加するには：

1. ウィンドウ／アーティクルを選択して、アーティクルパネルを表示します。
2. アイテムを追加するアーティクルを選択します。アーティクルを選択しないと、新しいアーティクルが作成されます。
3. Command キー（Mac OS）または Ctrl キー（Windows）を押しながらアーティクルパネルの ✣ をクリックします。
4. 新規アーティクルダイアログボックスが表示されたら、アーティクルの名前を入力します。
5. EPUB/HTML 書き出しにアーティクルを追加するため「書き出し時に含める」を選択します。

アーティクルを選択し、アーティクルパネルメニューから「選択したアーティクルにドキュメントコンテンツを追加」を選択します。

ページの先頭へ

アーティクルの管理

アーティクルパネルを使用して、アーティクルを管理できます。ページアイテムをアーティクルパネルにドラッグして、アーティクルに追加できます。アーティクルパネルのアイテムをドラッグして順番を変更したり、別のアーティクルに移動したりできます。

アーティクルパネルメニューにもコンテンツを管理するオプションがあります。

ページの先頭へ

書き出しにアーティクルを含める

アーティクルを作成し、EPUB または HTML に書き出すときに含めるアーティクルとして選択できます。デフォルトでは、すべてのアーティクルが書き出し対象として選択されます。

書き出し時にアーティクルを含めるには、アーティクルパネルでアーティクルを選択し、次のいずれかの操作を行います。

- アーティクルの横のチェックボックスを選択します。
- アーティクルパネルメニューから「アーティクルオプション」を選択し、「書き出し時に含める」を選択します。

(cc) BY-NC-SR Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

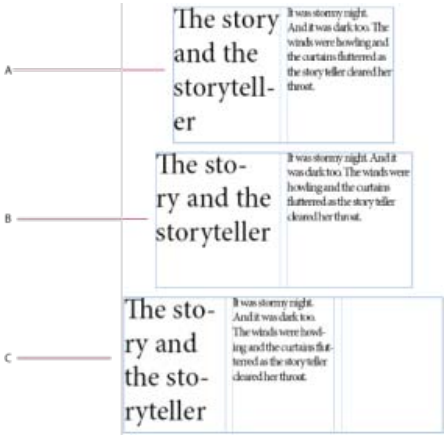
テキストフレーム調整オプション | CC、CS6

可変幅の段組
保持されるテキストフレーム調整オプション

ページの先頭へ

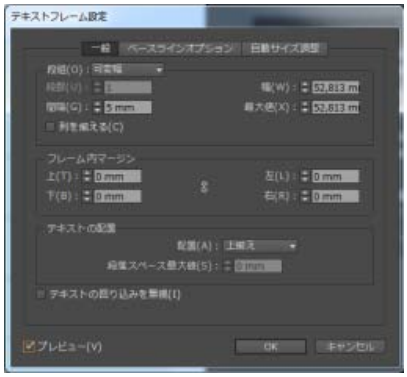
可変幅の段組

「可変幅」オプションを使用すると、テキストフレームのサイズの変更に応じて段組の数と幅が調整されます。テキストフレームのサイズ変更時、段組の幅が最大値に達すると、段組が自動的に追加または削除されます。



A. 元のテキストフレーム ***B.*** 幅を広くしたテキストフレーム ***C.*** 段組を追加したテキストフレーム

テキストフレーム設定ダイアログボックス（オブジェクト／テキストフレーム設定）の「段組」ドロップダウンリストから「可変幅」を選択します。



可変幅の段組

ページの先頭へ

保持されるテキストフレーム調整オプション

テキストフレームの自動サイズ調整オプションを使用すると、テキストを追加、削除、または編集したときにテキストフレームのサイズが自動的に変更されるように設定できます。自動サイズ調整オプションにアクセスするには、次の手順を実行します。

1. テキストフレームを選択し、オブジェクト／テキストフレーム設定を選択します。

2. 「自動サイズ調整」をクリックします。



「自動サイズ調整」オプション

3. テキストを追加または削除したときに適用される「自動サイズ調整」オプションを選択します。
   - オフ
   - 高さのみ
   - 幅のみ
   - 高さと幅
   - 高さと幅（縦横比を固定）
4. アンカーアイコンから、サイズ調整の基準点をクリックします。アンカーアイコンは、テキストフレームのサイズがどのように変更されるかを示します。
5. 高さの最小値、幅の最小値および改行に関する制約を指定します。

(cc) BY-NC-SA Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

スペルチェックと言語辞書

スペルチェック
ハイフネーションおよびスペルチェック辞書

ページの先頭へ

スペルチェック

ストーリーのすべてのテキスト、ドキュメントのすべてのストーリーまたは開いているドキュメントのすべてのストーリーからテキストの範囲を選択して、欧文単語のスペルをチェックすることができます。スペルチェックでは、ミススペルの単語、不明な単語、重複して入力された単語（「the the」など）および小文字の誤用と思われる単語が検索されます。さらに、ダイナミックスペルチェックを有効にして、入力と同時にミススペルの可能性がある欧文単語に下線が引かれるよう設定することができます。

テキストのスペルをチェックするときに、テキストに対して指定されている言語の辞書が使用されます。また、辞書に単語をすばやく追加することができます。

スペルチェックの環境設定

1. 編集／環境設定／欧文スペルチェック（Windows）または InDesign／環境設定／欧文スペルチェック（Macintosh）を選択します。
2. 必要に応じて次の操作を行います。
   - 「ミススペル単語」を選択すると、言語辞書にない単語が検索されます。
   - 「反復語」を選択すると、「the the」などのような重複した単語が検索されます。
   - 「小文字の単語」を選択すると、言語辞書に大文字で登録されている単語（例えば「Germany」）が、小文字だけの場合（「germany」）も検索されます。
   - 「小文字の文」を選択すると、ピリオド（.）、感嘆符（!）および疑問符（?）の後に続く、小文字で始まる単語を検索します。
3. 「ダイナミックスペルチェックを有効にする」を選択すると、入力と同時に、ミススペルの可能性がある単語に下線が引かれます。
4. ミススペル単語（ユーザー辞書にない単語）、反復後（「the the」など）、小文字で始まっている単語（「Germany」ではなく「germany」など）、小文字で始まっている文（大文字で始まっていない文）の下線のカラーを指定します。

スペルチェック

1. ドキュメントに外国語のテキストが含まれている場合は、そのテキストを選択し、文字パネルの言語ポップアップメニューからそのテキストの言語を指定します。
2. 編集／欧文スペルチェック／欧文スペルチェックを選択します。

   スペルチェックが開始されます。
3. スペルチェックの範囲を変更するには、次のいずれかの操作を行って、「開始」をクリックします。
   - ドキュメント全体でスペルチェックを行うには、「ドキュメント」を選択します。開かれているすべてのドキュメントでスペルチェックを行うには、「すべてのドキュメント」を選択します。
   - 現在選択されているフレーム内のすべてのテキストでスペルチェックを行うには（他の連結テキストフレーム内のテキストとオーバーセットテキストを含む）、「ストーリー」を選択します。選択されているすべてのフレーム内で使用されている複数のストーリーでスペルチェックを行う場合にも、「ストーリー」を選択します。
   - テキスト挿入点以降のテキストでスペルチェックを行うには、「ストーリーの最後へ」を選択します。
   - 選択されているテキストのみでスペルチェックを行うには、「選択範囲」を選択します。このオプションは、テキストが選択されている場合にのみ使用できます。
4. 未知の単語、ミススペルの単語またはエラーが表示された場合は、次のオプションを選択します。

ドキュメント上でハイライト表示されている単語を変更せずにスペルチェックを続行する場合は、「スキップ」をクリックします。ハイライト表示されている単語をすべて無視する場合は、「すべて無視」をクリックします（この単語は InDesign を再起動するまで無視されます）。

- 単語のミススペルだけを変更するには、「候補」リストから単語を選択するか、「置換文字列」テキストボックスに正しい単語を入力し、「置換」をクリックします。ドキュメントのすべてのミススペル単語を訂正するには、「すべてを置換」をクリックします。
- 単語を辞書に追加するには、追加ポップアップメニューから辞書を選択して、「追加」をクリックします。
- 「欧文辞書」をクリックして欧文辞書ダイアログボックスを表示して、追加先の辞書と言語を指定したり、追加する単語のハイフネーションを指定します。単語をすべての言語に追加する場合、言語ポップアップメニューから「すべての言語」を選択します。「追加」ボタンをクリックします。

入力と同時のスペルエラー修正

「自動修正」を有効にすることで、入力と同時に小文字の誤用やその他の一般的な入力ミスを修正することができます。「自動修正」を有効にする前に、よくミススペルする単語のミススペルと正しいスペルのリストを作成する必要があります。

1. 編集／環境設定／自動修正（Windows）または InDesign／環境設定／自動修正（Macintosh）を選択します。
2. 「自動修正を有効にする」を選択します。編集／欧文スペルチェック／自動修正を選択してこの機能をすばやく有効または無効にすることもできます。
3. 言語ポップアップメニューから自動修正を適用する言語を選択します。
4. 小文字の誤用（「Germany」ではなく「germany」と入力するなど）を修正するには、「キャピタリゼーションエラーの自動修正」を選択します。大文字で開始される単語を自動修正用のリストに追加する必要はありません。
5. よくミススペルする単語を追加するには、「追加」をクリックしてミススペル（「teh」など）と正しいスペル（「the」など）を入力し、「OK」をクリックします。
6. 必要に応じて、よくミススペルする単語を続けて追加し、「OK」をクリックします。

リストに追加したミススペルを入力すると、それはリストに追加した正しいスペルに自動的に置換されます。

追加した自動修正単語を削除するには、リストから対象の単語を選択して「削除」を選択します。自動修正単語を編集するには、対象の単語を選択して「編集」をクリックし、修正を入力し直してから「OK」をクリックします。

ダイナミックスペルチェックの使用

ダイナミックスペルチェックが有効であれば、コンテキストメニューを使用してスペルエラーを修正することができます。ミススペルの可能性がある単語には下線が引かれます（テキストの言語に関連付けられた辞書に基づいて実行します）。他の言語のテキストを入力する場合は、そのテキストを選択し、正しい言語を割り当ててください。

1. ダイナミックスペルチェックを有効にするには、編集／欧文スペルチェック／ダイナミックスペルチェックを選択します。

   ミススペルの可能性がある単語には下線が引かれます。

2. 下線が引かれた単語を右クリック（Windows）または Control キーを押しながらクリック（Macintosh）し、次のいずれかの操作を行います。

   - 修正候補から単語を選択します。同じ単語が 2 つ続いている場合には、「反復語 *[単語]* を削除」を選択して、2 つ目の単語を削除します。単語を大文字で開始する必要がある場合には「*[単語]* を大文字にする」を選択します。
   - 「*[単語]* をユーザー辞書に追加」を選択します。欧文辞書ダイアログボックスを開くことなく、単語を現在の辞書に自動的に追加します。この単語はテキスト内では変更されません。
   - 「欧文辞書」を選択して 欧文辞書ダイアログボックスを開き、「辞書名」の選択およびハイフネーションの変更を行ってから、言語を指定します。単語をすべての言語に追加するには、言語ポップアップメニューから「すべての言語」を選択して「追加」をクリックします。単語が選択した辞書に追加されますが、この単語はテキスト内では変更されません。
   - 「すべて無視」を選択して、この単語をすべてのドキュメントでスペルチェックの対象外にします。InDesign を再起動すると、この単語は再びミススペルとしてスペルチェックの対象となります。

注意： 「すべて無視」を選択してからその単語を再びスペルチェックの対象にするには、欧文辞書ダイアログボックスの辞書リストポップアップメニューから「無視する単語」を選択し、リストからその単語を削除します。

ハイフネーションおよびスペルチェック辞書

InDesign では、ほとんどの言語のスペルチェックとハイフネーションの検証に Proximity 辞書を使用します。各辞書は、単語を追加してカスタマイズすることができます。テキストには異なる言語を指定することができます。InDesign は、適切な辞書を使用してスペルチェックとハイフネーションを処理します。さらに、ユーザー辞書を作成することもできます。プレーンテキストで保存されている単語リストを読み込んだり書き出したりすることができます。

辞書内の単語をカスタマイズすると、追加した単語（辞書になかった単語）および削除した単語（辞書にあった単語で、ミススペルとして検索される対象にした単語）のリストが作成されます。欧文辞書ダイアログボックスで、追加した単語、削除した単語、無視した単語（「すべて無視」を適用したため現在のセッションで無視される単語）を表示および編集することができます。すべての言語に適用する単語を追加できます。これは、姓、住所、言語に特有の他の項目の場合に特に便利です。

> 旧バージョンの *InDesign* または *InCopy* の言語辞書を使用する場合は、システムの「検索」コマンドを使用してユーザー辞書ファイル（*.idc*）を検索し、環境設定ダイアログボックスの「欧文辞書」セクションの辞書リストに追加します。

辞書の保存場所

ハイフネーションおよびスペルチェックの例外単語リストは、デフォルトでは InDesign がインストールされているコンピューター上にあるユーザー辞書ファイルにあります。辞書ファイル名の拡張子は .clam および .not です。ユーザー辞書ファイルは、ドキュメントとは独立したファイルですが、例外単語リストを InDesign ドキュメント内に保存することも可能です。さらに、単語リストを外部ユーザー辞書、ドキュメントまたはその両方に保存することができます。既存の辞書の保存場所は、辞書の環境設定に表示されます。

ハイフネーションおよびスペルチェックの例外単語リストをドキュメント内に保存すると、ドキュメントを他のコンピューターに移動した場合でも、テキスト処理の統一が容易になります。これを行うには、環境設定ダイアログボックスの「欧文辞書」セクションで「ドキュメントにユーザー辞書を自動埋め込み」を選択します。パッケージダイアログボックスから例外単語リストの場所を制御することもできます（詳しくは、ファイルのパッケージを参照してください）。逆に、例外単語リストを InDesign ドキュメントとは別に独立したファイルとして保存すると、複数のドキュメントで同じ例外単語リストを使用することができ、複数のドキュメント間でのテキスト処理の統一が容易になります。

注意： ユーザー辞書が例外単語リストに結合されている場合は、単語が使用されていなくてもユーザー辞書全体がドキュメントに追加されるため、ドキュメントのファイルサイズは大きくなります。

テキストへの言語の適用

文字パネルの言語ポップアップメニューを使用して、選択したテキストに言語を適用することができます。ドキュメント全体またはすべての新規ドキュメントにデフォルトの言語を指定することもできます。InDesign には、言語ロック機能があります。これにより、アジア言語テキストが選択されているテキストの一部で、言語ポップアップメニューからアジア言語以外が選択されている場合に、アジア言語テキストの言語設定が変更されるのを防止することができます（詳しくは、テキストの言語の指定を参照してください）。

例外単語リスト

検索される単語を追加することもできます。例えば、会社名表記や、特定のドキュメントでは別の綴り方が必要な「bicycle」という一般的な単語の代替の綴りを使用したい場合には、この単語がスペルチェック時に検索されるように例外単語リストに追加します。InDesign では、追加および削除した単語のリストを、インストールされている言語ごとに個別に管理することができます。

ユーザー辞書の作成または追加

新規ユーザー辞書を作成したり、InDesign または InCopy の旧バージョン、他の制作者から送信されたファイルまたはワークグループのユーザー辞書が格納されているサーバーからユーザー辞書を追加することができます。追加する辞書は、すべての InDesign ドキュメントで使用されます。

1. 編集／環境設定／欧文辞書（Windows）または InDesign／環境設定／欧文辞書（Macintosh）を選択します。
2. 言語ポップアップメニューから辞書に関連付ける言語を選択します。
3. 次のいずれかの操作を行います。
   - 新規辞書を作成するには、言語ポップアップメニューの下にある新規ユーザー辞書ボタン を クリックします。ユーザー辞書の名前（拡張子 .udc を含む）と保存場所を指定して、「保存」をクリックします。

- 既存の辞書を追加するには、ユーザー辞書を追加ボタン をクリックし、ユーザー辞書ファイル（拡張子は .udc または .not）を選択して、「開く」をクリックします。

注意： 辞書ファイルが見つからなければ、システムの「検索」コマンドを使用して辞書ファイルを検索し（「*.udc」で検索）、場所を確認してからファイルを開きます。

辞書が言語ポップアップメニューの下にあるリストに追加されます。スペルチェックをするときに、欧文辞書ダイアログボックスを使用して辞書に単語を追加することができます。

現在のドキュメントのデフォルト言語辞書の設定

ドキュメントまたは作成したすべての新しいドキュメントに対し、デフォルトの言語辞書を変更できます。既存のドキュメントのデフォルトの辞書を変更しても、既に作成済みのテキストまたは既存のテキストフレームに入力したテキストには影響しません。

文字スタイルパネルまたは段落スタイルパネルを使用して、特定のスタイルの特定の辞書を設定します。言語メニューが「詳細文字形式」セクションに表示されます。

1. ドキュメントを開きます。
2. ツールパネルから選択ツールを選択して、ドキュメントでアイテムが選択されていないことを確認します。
3. 書式／文字を選択します。
4. 必要な辞書を文字パネルの言語メニューから選択します。文字パネルで言語オプションが表示されない場合は、「オプションを表示」を選択して、リストから言語を選択します。

新しいドキュメントすべてのデフォルト言語辞書の設定

1. InDesign を起動します。ドキュメントは開きません。
2. 書式／文字を選択します。
3. 必要な辞書を文字パネルの言語ポップアップメニューから選択します。文字パネルで言語オプションが表示されない場合は、「オプションを表示」を選択して、リストから言語を選択します。

ユーザー辞書の削除、再リンク、再配列

1. 編集／環境設定／欧文辞書（Windows）または InDesign／環境設定／欧文辞書（Macintosh）を選択します。
2. 言語ポップアップメニューから辞書が属する言語を選択します。
3. 必要に応じて次の操作を行います。
   - リストから辞書を削除するには、削除する辞書を選択して、ユーザー辞書を削除アイコン をクリックします。言語につき少なくとも 1 つの辞書を割り当てる必要があります。
   - 言語辞書の横に疑問符がある場合は、その辞書を選択して、ユーザー辞書を再リンクアイコン をクリックし、ユーザー辞書を検索して開きます。
   - ユーザー辞書の順序を変更するには、ユーザー辞書をドラッグ＆ドロップします。リスト内の辞書の順序に従って、辞書が使用されます。

辞書への単語の追加

スペルチェック中に欧文スペルチェックダイアログボックスに未知の単語が表示されたら、追加ポップアップメニューから辞書を選択して、「追加」をクリックします。また、欧文辞書ダイアログボックスを使用すると、対象の辞書と言語を指定して単語を例外単語リストに追加する方法を指定することができます。

1. 編集／欧文スペルチェック／ユーザー辞書を選択します。
2. 言語ポップアップメニューから言語を選択します。各言語には少なくとも 1 つの辞書が割り当てられています。すべての言語に単語を追加す

る場合は、「すべての言語」を選択します。

3. 辞書名ポップアップメニューから例外単語を保存する辞書を選択します。辞書名ポップアップメニューでは、外部ユーザー辞書または開かれているドキュメントを選択することができます。
4. 辞書リストポップアップメニューから「追加する単語」を選択します。
5. 「単語」テキストボックスで、単語リストに追加する単語を入力するか編集します。
6. 「ハイフネーション」をクリックして、単語のデフォルトのハイフネーションを確認します。チルド記号（~）はハイフンで区切られる位置を示しています。
7. 既存のハイフネーションが適切でなければ、次のガイドラインに従って、「単語」に入力されている単語にハイフネーションを設定します。
   - 単語の最適なハイフン位置、または許容できるハイフン位置として指定する位置に、チルド記号（~）を1つ入力します。
   - ハイフン位置の次の候補となる位置を指定するには、チルド記号を 2 つ（~~）入力します。
   - 適切ではないが許容できるハイフン位置を指定するには、チルド記号を 3 つ（~~~）入力します。
   - 単語がハイフン処理されないようにするには、単語の先頭文字の前にチルド記号を入力します。

     単語内に実際の文字としてチルド記号を含めたい場合には、チルド記号の前にバックスラッシュを入力します（¥~）。
8. 「追加」をクリックし、次に「終了」をクリックします。選択した辞書リストに単語が追加されます。

注意： ハイフン位置は、ドキュメントのハイフン設定と関連していることに注意してください。このため、単語のハイフン位置が適切ではない場合があります。段落パネルメニューから「ハイフネーション設定」を選択して、設定を調整してください（詳しくは、テキストのハイフネーションを参照してください）。

辞書の単語の削除または編集

1. 編集／欧文スペルチェック／ユーザー辞書を選択します。
2. 言語ポップアップメニューから言語を選択します。
3. 辞書名ポップアップメニューから、例外単語を削除する辞書を選択します。辞書名ポップアップメニューでは、外部ユーザー辞書または開かれているドキュメントを選択することができます。
4. 辞書リストポップアップメニューで、次のいずれかの操作を行います。
   - 「辞書名」で選択した辞書の例外単語リストに単語を追加するには、「追加する単語」を選択します。
   - ミススペルとして登録されている単語のリストを変更するには、「削除する単語」を選択します。
   - 現在の InDesign セッションで無視した単語のリストを変更するには、「無視する単語」を選択します。このリストには、スペルチェック機能で「すべて無視」を指定した単語のすべてが含まれます。
5. 単語リストで、単語を編集するか、単語を選択して「削除」をクリックします。
6. 「完了」をクリックします。

単語リストの書き出し

単語リストはテキストファイル（.txt）に書き出して InDesign のユーザー辞書に読み込むことができます。テキストファイルに含まれる単語は、スペース、タブまたは改行で区切られていなければなりません。追加した単語や削除した単語は書き出すことができますが、無視した単語は、現在のセッションでのみ使用されているため、書き出すことができません。

1. 編集／欧文スペルチェック／ユーザー辞書を選択します。
2. 言語ポップアップメニューから言語を選択し、辞書名ポップアップメニューから書き出す単語リストを含む辞書を選択します。
3. 「書き出し」をクリックし、ファイルの名前と保存場所を指定して、「保存」をクリックします。

単語リストがテキストファイルに保存されます。この単語リストは、任意のテキストエディターで編集してから読み込むことができます。また、他の制作者がこの単語リストを独自のユーザー辞書に読み込める場合は、他の制作者に送信することもできます。

単語リストの読み込み

1. 編集／欧文スペルチェック／ユーザー辞書を選択します。
2. 言語ポップアップメニューから言語を選択し、辞書名ポップアップメニューから辞書を選択します。
3. 「読み込み」をクリックし、スペルチェックの例外単語リストを含むテキストファイルを選択して、「開く」をクリックします。

辞書の環境設定の変更

辞書の環境設定を使用して、InDesign でのハイフネーションとスペルチェック辞書の処理方法を指定します。InDesign では、ほとんどの言語で、単語のスペルチェックとハイフネーションの検証に Proximity 辞書を使用します。他社のハイフネーションまたはスペルチェックのコンポーネントをインストールしている場合は、インストールされている各言語に対して異なる辞書を選択することもできます。

注意： 辞書の環境設定ダイアログボックスでは、スペルチェックやテキストのハイフネーションで使用する言語辞書を指定することはできません。このダイアログボックスでは、「言語」フィールドで指定した言語に対し、*InDesign* で使用するハイフネーションとスペルチェックプラグインを指定します。デフォルトのハイフネーションおよびスペルチェックプラグインのみを使用する場合は、辞書の環境設定ダイアログで設定を変更する必要はありません。サードパーティディベロッパーにより提供されるスペルチェックおよびハイフネーションプラグインをインストールする場合は、このダイアログボックスにハイフネーション辞書のメーカーおよびスペル辞書のメーカーメニューにオプションとして表示されます。このオプションでは、複数の言語に対し *1* メーカーのハイフネーションおよびスペルチェックエンジンを選択したり、その他の言語に対しては別のメーカーのものを選択することができます。

1. 編集／環境設定／欧文辞書（Windows）または InDesign／環境設定／欧文辞書（Macintosh）を選択します。
2. 言語ポップアップメニューから、他社のハイフネーションまたはスペルチェックのコンポーネントを適用する言語を選択します。
3. ユーザー辞書を作成、追加または削除します（詳しくは、ユーザー辞書の作成または追加を参照してください）。
4. 他社のハイフンネーションのコンポーネントをインストールしている場合は、「ハイフネーション辞書のメーカー」からそれを選択します。
5. 他社のスペル辞書コンポーネントをインストールしている場合は、「スペル辞書のメーカー」からそれを選択します。
6. 「ハイフネーションの例外単語を参照する辞書」で、次のいずれかの操作を行います。
   - 外部ユーザー辞書に保存されているハイフネーションの例外単語リストを使用してテキストを作成するには、「ユーザー辞書」を選択します。
   - ドキュメント内に保存されているハイフネーションの例外単語リストを使用してテキストを作成するには、「ドキュメント」を選択します。
   - 両方のリストを使用してテキストを作成するには、「ユーザー辞書とドキュメント」を選択します。この設定がデフォルトです。
7. 外部ユーザー辞書として保存している例外単語リストを、ドキュメントデータに格納するには「ドキュメントにユーザー辞書を自動埋め込み」を選択しておきます。なお、両方の例外単語リストを使用してテキスト作成を行うには、手順 6 で「ユーザー辞書とドキュメント」を選択します。

   注意： 多数のパートナーまたはクライアントと共同で作業を進める場合は、「ドキュメントにユーザー辞書を自動埋め込み」オプションの選択を解除することをお勧めします。例えば、通常、印刷・出力会社はユーザー辞書をすべての顧客のファイルと結合しません。
8. 設定を変更したときにすべてのストーリーを再構成するには、「ユーザー辞書編集後、すべてのストーリーに自動適用」を選択します。このオプションを選択すると、「ハイフネーションの例外単語を参照する辞書」の設定を変更したとき（手順 6 を参照）、または編集／欧文辞書コマンドで単語を追加または削除したときに、ストーリーが再構成されます。ただし、ドキュメントのテキスト量によっては、ストーリーの再構成に時間を要することがあります。
9. 「OK」をクリックします。

ワークグループでの辞書の使用

1 つのドキュメントですべての制作者が同じスペルチェックおよびハイフネーションルールを使用するためには、ワークグループのすべてのステーションに同一のカスタマイズされたユーザー辞書がインストールおよび追加されていなければなりません。ワークグループのすべてのコンピューターに同じ辞書を追加する方法の他に、ネットワークサーバー経由でユーザー辞書を共有する方法もあります。

ロックアイコン は、辞書がロックされていて、編集できないことを示します（使用は可能）。ユーザー辞書がサーバーに保存されている場合は、辞書を最初に読み込んだユーザーがファイルをロックします（辞書は、それ以降に辞書を使用する他のユーザーに対してロックされます）。ファイルが読み取り専用で作成されている場合は、オペレーティングシステムでファイルをロックすることもできます。ユーザー辞書をネットワークサーバー経由で共有する場合は、ファイルをロックすることをお勧めします。これにより、ファイルはすべてのユーザーに対して読み取り専用となり、管理者のみが単語を追加することができます。

ワークグループのすべてのメンバーが、ドキュメントに対して設定されている辞書ではなく、ワークステーションにインストールされているカスタマイズされたユーザー辞書を使用する必要があります。ただし、ドキュメントを印刷・出力会社に送る前には、ユーザー辞書をドキュメントに結合することをお勧めします。

カスタマイズしたユーザー辞書を共通ネットワークワークステーションで共有しない場合は、ユーザー辞書ファイルを見つけ、別のワークステーションにコピーします。辞書の保存場所は、辞書の環境設定に表示されます。

> 共有ワークステーションでユーザー辞書を更新した後、個々のワークステーションでユーザーが *InDesign* を再起動するか、*Ctrl* + *Alt* + / キー（*Windows*）または *Command* + *Option* + / キー（*Mac OS*）を押してすべてのテキストを再構成するまで変更は反映されません。

関連項目

Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

テキストの編集

テキストの選択
制御文字の表示
改段、改フレーム、改ページの追加
ストーリーエディターの使用
条件テキストの使用

テキストの選択

トップへ戻る

❖ 文字ツールを使用して、次のいずれかの操作を行います。

- 文字、単語またはテキストブロック全体の上を I 型カーソルでドラッグして選択します。
- 同じ種類の連続した文字を選択するには、そのうちの 1 文字をダブルクリックします。例えば、欧文テキスト、漢字、ひらがなで構成される段落で、漢字 1 文字をダブルクリックすると、その漢字と連続している一連の漢字が選択されます。
- 行の任意の箇所を 3 回クリックして行を選択します。環境設定で「3 回クリックして 1 行を選択」の選択が解除されている場合、3 回クリックすると、段落全体が選択されます。
- 「3 回クリックして 1 行を選択」を選択している場合、段落全体を選択するには、段落の任意の箇所を 4 回クリックします。
- ストーリー全体を選択するには、5 回クリックするか、ストーリーの任意の箇所をクリックしてから編集／すべてを選択を選択します。

フレーム内のテキストを選択できない場合、そのテキストフレームはロックされたレイヤー上またはマスターページ上に存在する可能性があります。レイヤーのロックを解除してみるか、マスターページに移動してみてください。また、別のテキストフレームや透明オブジェクトが前面にあるために、テキストフレームを選択できないことも考えられます。詳しくは、隠れているフレームのテキストの選択を参照してください。

3 回クリックの動作の変更

1. 編集／環境設定／テキスト（Windows）または InDesign／環境設定／テキスト（Mac OS）を選択します。
2. 3 回クリックして行を選択するには、「3 回クリックして 1 行を選択」を選択します（デフォルトでは選択された状態になっています）。3 回クリックして段落を選択するには、このオプションの選択を解除します。

隠れているフレームのテキストの選択

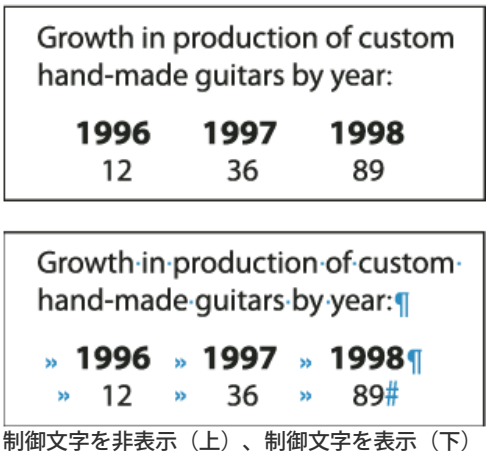
1. 選択ツール を使用して、Ctrl キー（Windows）または Command キー（Macintosh）を押しながらクリックして、テキストフレームを選択します。
2. 文字ツールを選択して、テキストフレーム内をクリックするか、テキストを選択します。

制御文字の表示

トップへ戻る

1. 書式／制御文字を表示を選択します。
2. 隠し文字が表示されない場合は、プレビューモードをオフにします。表示／スクリーンモード／標準を選択し、表示／オーバープリントプレビューをクリックして選択を解除します。

スペース、タブ、段落記号、索引マーカー、ストーリーの最終文字などの制御文字が表示されます。これらの制御文字は、ドキュメントウィンドウとストーリーエディターウィンドウに表示されるだけです。印刷されることはなく、PDF や XML などのファイル形式には出力されません。制御文字は、レイヤーカラーと同じカラーで表示されます。



制御文字を非表示（上）、制御文字を表示（下）

特殊文字の詳細な一覧については、Anne Marie Concepcion による Free Guide to InDesign Special Characters（英語）を参照してください。

制御文字の一覧

制御文字	意味
¶	段落の終わり
¬	ソフトリターン（強制改行）
·	半角スペース
#	ストーリーの最後
-	任意ハイフン
‑	分散禁止ハイフン
»	タブ
»	右インデント タブ
†	「ここまでインデント」文字
\	先頭文字スタイルの終了文字
˘	結合なし
—	全角スペース
—	EM スペース
–	EN スペース
^	分散禁止スペース
^	分散禁止スペース (固定幅)
··	極細スペース
:	1/6 スペース
:	細いスペース
•	1/4 スペース
•	1/3 スペース
'	句読点等の間隔

#	数字の間隔
~	フラッシュスペース
	改段
	改フレーム
	改ページ
	奇数改ページ
	偶数改ページ
¬	強制改行
	InCopy 注釈
Note.	InCopy 注釈（ストーリーエディター内）
	位置マーカー（InCopy のみ）
	索引マーカー
	索引マーカー（ストーリーエディター内）
	非表示の条件テキスト
	非表示の条件テキスト（ストーリーエディター内）
	ブックマークまたはハイパーリンク先マーカー（多くの場合テキストアンカー）
	ブックマークまたはハイパーリンク先マーカー（ストーリーエディター内）
	ハイパーリンク先（ストーリーエディター内）
	相互参照段落
	相互参照ハイパーリンク（ストーリーエディター内）
¥	アンカー付きオブジェクト
	アンカー付きオブジェクト（ストーリーエディター）
[	XML タグ
タグ1	XML タグ（ストーリーエディター内）
1	脚注（ストーリーエディター内）
	表（ストーリーエディター内）
ファイル名	変数（ストーリーエディター内）
	索引マーカー（ストーリーエディター内）
ルビ	ルビ（ストーリーエディター内）
圏	圏点（ストーリーエディター内）
タテヨコ	縦中横（ストーリーエディター内）
割	割り注（ストーリーエディター内）

トップへ戻る

改段、改フレーム、改ページの追加

連結したテキストフレームに流し込んだテキストに、特殊な分割文字を挿入して、改段、改フレーム、改ページなどの制御をすることができます。

1. 文字ツールを使用して、テキストを分割する箇所をクリックし、テキスト挿入点を置きます。
2. 書式／分割文字の挿入を選択し、サブメニューから分割オプションを選択します。

   テンキーの Enter キーを使用して分割を設定することもできます。改段は Enter キーを、改フレームは Shift+Enter キーを、改ページは Ctrl+Enter キー（Windows）または Command+Enter キー（Macintosh）を押します。

分割文字を削除するには、書式／制御文字を表示を選択して制御文字を表示し、分割文字を選択してから削除します。

注意： 段落分離禁止オプションダイアログボックスなどのような段落設定で分割を設定した場合、その設定を含む段落の直前で段落が分割されます。分割文字でテキストの分割を設定した場合、その分割文字が挿入されている直後でテキストが分割されます。

分割のオプション

分割文字の挿入サブメニューには、次のオプションがあります。

改段 テキストを、現在のテキストフレームの次の段に流し込みます。テキストフレームが 1 段の場合は、次の連結テキストフレームにテキストが流し込まれます。
改フレーム 現在のテキストフレームの段組設定に関係なく、次の連結テキストフレームにテキストを流し込みます。
改ページ テキストを、現在のテキストフレームに連結している、次のページのテキストフレームに流し込みます。
奇数改ページ テキストを、現在のテキストフレームに連結しているテキストフレームがある、次の奇数番号ページに流し込みます。
偶数改ページ テキストを、現在のテキストフレームに連結しているテキストフレームがある、次の偶数番号ページに流し込みます。
段落改行 ¶ テキストを改行します。Enter キーまたは Return キーを押したときと同じ動作です。
強制改行 ¬ この文字を挿入した位置で強制改行し、新しい段落を開始せずに、新しい行を開始します。Shift+Enter キーまたは Shift+Return キーを押したときと同じ動作です。強制改行はソフトリターンとも呼ばれます。
任意の改行 必要に応じてテキスト行の改行位置を指定します。任意の改行は、任意ハイフンと似ていますが、任意改行の場合、改行位置にハイフンは挿入されません。
段落の分散禁止に関するオプションは、段落分離禁止オプションダイアログボックスおよび段落スタイルの編集ダイアログボックスで設定することができます。

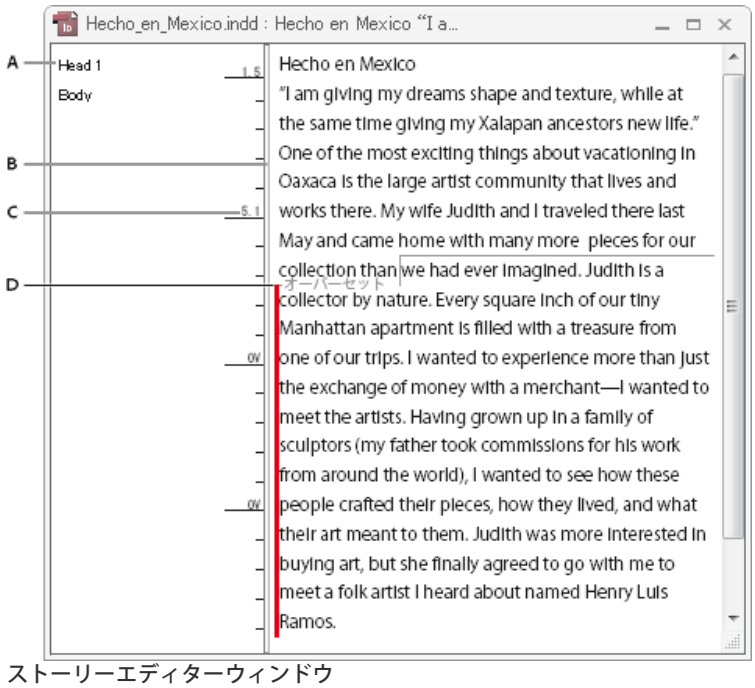
トップへ戻る

ストーリーエディターの使用

InDesign では、テキストの編集を、レイアウトウィンドウ上だけでなく、ストーリーエディターウィンドウでも行うことができます。ストーリーエディターウィンドウでは、環境設定で指定した一定のフォント、サイズ、間隔でストーリー全体を表示します。これにより、レイアウトやフォーマットを気にすることなく、ストーリーを作成および編集することができます。また、ストーリーエディターではテキストの変更をトラックして確認することもできます。

それぞれのストーリーは、個別のストーリーエディターウィンドウに表示されます。ストーリーエディターウィンドウには、オーバーセットテキストも含めて、ストーリーのすべてのテキストが表示されます。また、あるストーリーの複数箇所を異なったストーリーエディターウィンドウに同時に表示することができます。フレームに含まれているテキストの量は奥行き定規により示され、テキストがオーバーセットしている場所は 1 本の線により示されます。

ストーリーを編集すると、変更はレイアウトウィンドウに反映されます。また、現在開いているストーリーエディターウィンドウ名がウィンドウメニューに表示されます。ストーリーエディターウィンドウでは、新しいストーリーを作成することはできません。



ストーリーエディターウィンドウ
A. 段落スタイル表示 **B.** 境界をドラッグしてテキスト表示エリアの幅を調節 **C.** 奥行き定規 **D.** オーバーセットテキストインジケーター

ストーリーエディターで表を表示して編集できます。簡単に編集できるようにテキストが行単位および列単位で表示されます。表の展開または折りたたみをすばやく行い、行単位または列単位で表示するかどうかを指定できます。

「変更をトラック」を選択している場合、ストーリーエディターには、追加、削除または変更したテキストの情報も表示されます。詳しくは、変更のトラックと再確認を参照してください。

ストーリーエディターを開く

1. テキストフレームを選択し、フレームの内側をクリックしてテキスト挿入点を置きます。または、異なるストーリーから複数のフレームを選択します。
2. 編集／ストーリーエディターで編集を選択します。

   同じストーリーエディターをもう 1 つ開くには、ストーリーエディターをアクティブにし、ウィンドウ／アレンジ／新規ウィンドウを選択します。

レイアウトウィンドウに戻る

❖ ストーリーエディターウィンドウで、次のいずれかの操作を行います。

- 編集／レイアウトで編集を選択します。この操作を行ったとき、ストーリーエディターで最後に選択されていたテキストまたはテキスト挿入点の位置が、ドキュメントウィンドウでも維持され、ストーリーエディターウィンドウが開いたままレイアウトウィンドウの背面に移動します。
- レイアウトウィンドウ内をクリックします。ストーリーエディターウィンドウが開いたままレイアウトウィンドウの背面に移動します。
- ストーリーエディターウィンドウを閉じます。
- ウィンドウメニューの下部から、ドキュメント名を選択します。

ストーリーエディターのアイテムの表示または非表示

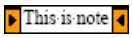
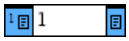
スタイル名のコラムと奥行き定規の表示 / 非表示、脚注の展開 / 折りたたみ、新規段落の始点を示す改段マークの表示 / 非表示を切り替えることができます。これらの設定は、すべての開いているストーリーエディターウィンドウ、および以降に開いたすべてのウィンドウで有効となります。

- ストーリーエディターがアクティブなときに、表示／ストーリーエディター／スタイル名のコラムを表示またはスタイル名のコラムを隠すを選択します。スタイル名のコラムの境界線をドラッグして、表示幅を調節することができます。幅の変更は、以降に開くストーリーエディターウィンドウのすべてに適用されます。
- ストーリーエディターをアクティブにして、表示／ストーリーエディター／奥行き定規を表示または奥行き定規を隠すを選択します。
- ストーリーエディターをアクティブにして、表示／ストーリーエディター／すべての脚注を展開またはすべての脚注を折りたたみを選択します。
- ストーリーエディターをアクティブにして、表示／ストーリーエディター／改段マークを表示または改段マークを隠すを選択します。

ストーリーエディターの環境設定

ストーリーエディターの外観を変更するには、環境設定の「ストーリーエディター」で設定を変更します。ストーリーエディターでは、基本的な

テキストスタイル属性以外は表示されませんが、次のような一部のオブジェクトおよび属性は表示されます。

属性	アイコン
表	
インラインオブジェクト	
XML タグ	
変数	
ハイパーリンクソース	
ハイパーリンクアンカー	
相互参照	
非表示の条件テキスト	
注釈	
脚注	
索引マーカー	
削除したテキスト	
追加したテキスト	
移動したテキスト	
ルビ	
割注	
縦中横	
圏点	

テキスト表示オプション 表示フォント、フォントサイズ、行間隔、テキストカラー、背景色を選択します。「クラシックシステム」を選択して黒い背景に黄色いテキストを表示するなど、他のテーマを指定することもできます。これらの設定は、ストーリーエディターウィンドウでのテキスト表示を決定するもので、ドキュメントウィンドウのレイアウトには影響ありません。

アンチエイリアスを使用可能にする 文字のエッジのジャギーを滑らかにし、アンチエイリアスの「タイプ」を「LCD 最適化」、「弱い」または「デフォルト」（グレーの影でテキストを滑らかに表示）のいずれかに設定します。「LCD 最適化」は、テキストを滑らかに表示するのにグレーの影ではなくカラーを使用するため、背景色が明るく、テキストが黒のときに最適です。「弱い」は、グレーの影を使用しますが、「デフォルト」より明るく不鮮明な表示になります。

カーソルオプション テキスト挿入点の外観を変更します。例えば、「点滅」を選択すると、テキスト挿入点が点滅します。

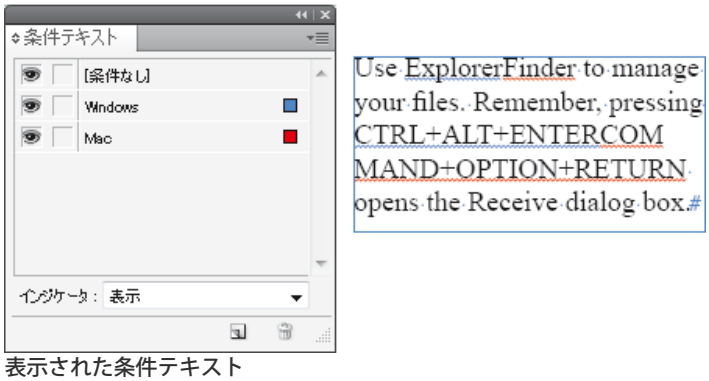
インラインフレームのテキストは、親フレームのストーリーエディターウィンドウには表示されませんが、インラインフレーム自身のストーリーエディターウィンドウで表示することができます。

トップへ戻る

条件テキストの使用

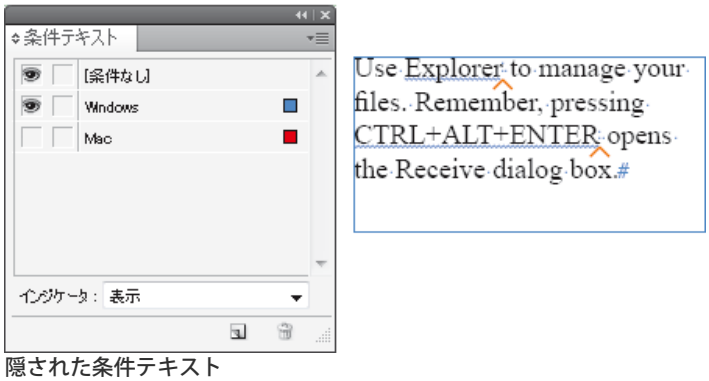
条件テキストは、同一ドキュメントの複数のバージョンを作成する場合に使用します。条件を作成し、テキスト範囲に適用します。条件を表示したり隠したりして、ドキュメントの複数のバージョンを作成できます。例えば、コンピューターマニュアルを作成する場合、Macintosh 用と Windows 用に異なる条件を作成できます。Macintosh バージョンのマニュアルをプリントするには、"Mac" 条件が適用されたすべてのテキストを表示し、"Windows" 条件が適用されたすべてのテキストを隠します。Windows 用のマニュアルをプリントする場合は、条件の設定を逆にします。

A B



表示された条件テキスト
A. すべての条件の表示 **B.** 条件インジケーター

A B



隠された条件テキスト
A. 隠された "Mac" 条件 **B.** 隠された条件テキストのシンボル

条件はテキストにのみ適用できます。条件をアンカー付きオブジェクトに適用する場合は、アンカー付きオブジェクトマーカーを選択する必要があります。条件は表のセル内のテキストには適用できますが、表のセル、行または列には適用できません。InCopy のロックされたストーリーには条件を適用できません。

条件テキストの使い方に関するビデオチュートリアルについては、www.adobe.com/go/lrvid4026_id_jp を参照してください。

条件ドキュメントの立案

条件テキストを使用したドキュメントを立案する場合は、ドキュメントの用途を確認し、ドキュメントを移管した後の各スタッフの作業分担を考慮します。利用および管理しやすいドキュメントにするために条件テキストの使い方を工夫します。次のガイドラインを参考にしてください。

バージョン数 完了したプロジェクトに含まれるバージョン数を定義します。例えば、Windows と Macintosh の両プラットフォームで実行するプログラムのマニュアルを作成する場合は、Windows バージョンと Macintosh バージョンの最低 2 つが必要になります。2 つのバージョンの作成過程で編集用の注釈をテキスト内に挿入した場合は、注釈なしの Windows および Macintosh バージョンに加えて、注釈付きの Windows および Macintosh バージョンの合計 4 つを作成する場合があります。
ドキュメントに多数の条件を適用する場合は、それらを条件セットとして定義すると、バージョン管理が容易になります。

必要な条件タグの数 作成するバージョン数に必要な条件タグの数を決定します。ドキュメントのバージョンは、バージョン別の条件タグのセットによって定義されます。例えば、Windows 用マニュアルの最終バージョンは、Windows 条件タグの表示、Macintosh 条件タグの非表示、注釈の条件タグの非表示によって定義できます。この例では、Windows 用と Macintosh 用の注釈の条件タグを個別に 2 つ用意するか、1 つの条件タグで兼用するかを選択できます。
コンテンツの構成 ドキュメントへ適用する条件の範囲と、開発および保守しやすいコンテンツの構成方法を検討します。例えば、一定数のドキュメントだけに条件テキストを制限するようにブックを構成できます。また、章の異なるバージョン別に条件テキストではなく別個のファイルに保存し、ブックのバージョン別に異なるブックファイルを使用することもできます。
複数の言語で作業する場合などは、条件の代わりに言語別のテキストを含むレイヤーを作成し、使用する言語に応じたレイヤーを表示して他のレイヤーを隠すことができます。

タグ付けの方法 条件テキストの最小単位を決定します。例えば、ドキュメントを他の言語に翻訳する場合は、条件テキストの最小単位を文章単位とします。翻訳では語順が変わることが多いので、文章を分割して条件テキストに設定すると、翻訳が複雑になる場合があります。
空白と句読点に対する条件の適用に不整合な部分があると、余分な空白やミススペルが生じる原因になります。空白と句読点を条件に含めるかどうかを決定します。条件テキストが句読点で開始または終了する場合は、句読点も条件に含めます。これにより、複数のバージョンを表示したときにテキストが読みやすくなります。

単語間隔の問題（条件なしの空白に条件ありの空白が続くなど）を避けるには、条件テキストに続く空白を処理する基準（常に条件ありにするか、常に条件なしにする）を設定します。

混乱を避けるには、条件テキストの表示順を決め、この表示順をドキュメント全体で一貫して使用します。

索引と相互参照 ドキュメントの索引付けをする場合、索引マーカーの挿入位置が条件テキストの内側になるか外側になるかに注意します。隠した条件テキストに挿入された索引マーカーは、索引として生成されません。

条件テキストへの相互参照を作成する場合は、ソーステキストに同じ条件があることを確認します。例えば、"Windows" 段落に相互参照を追加した場合、テキストアンカーが "Mac" 条件に表示されていると、"Mac" 条件が隠されたときに相互参照が未解決になります。ハイパーリンクパネルの相互参照の横に "HT" と表示されます。

条件テキストが含まれる段落への相互参照を作成した後で、その条件の表示設定を変更した場合は、相互参照を更新します。

条件の作成

作成した条件は、現在のドキュメントに保存されます。開いているドキュメントがないときに条件を作成すると、その条件は新規作成されるすべてのドキュメントに表示されます。

赤い波形の下線などの条件インジケーターを設定すると、条件テキストを容易に見分けることができます。

1. ウィンドウ／書式と表／条件テキストを選択し、条件テキストパネルを表示します。
2. 条件テキストパネルメニューから「新規条件」を選択し、条件の新しい名前を入力します。
3. 「インジケーター」グループで、適用した条件のインジケーターの表示方法を指定します。

   デフォルトでは、赤い波線などのインジケーターはドキュメントに表示されますが、プリントまたは出力されません。条件テキストパネルのインジケーターポップアップメニューからオプションを選択し、インジケーターを隠したり、プリントまたは出力したりできます。レビューの際に役立ちます。
4. 「OK」をクリックします。

テキストへの条件の適用

同じテキストに複数の条件を適用できます。デフォルトでは、条件テキストに条件インジケーターが表示されます。インジケーターが表示されない場合でも、条件テキストパネルを使用して現在のテキストに適用されている条件を確認できます。実線のチェックマークは、現在のテキストに条件が適用されていることを示します。グレー表示のチェックマークは、選択範囲の一部にのみ条件が適用されていることを示します。

1. 条件を適用するテキストを選択します。
2. ウィンドウ／書式と表／条件テキストを選択し、条件テキストパネルで次のいずれかの操作を行います。
   - 条件を適用するには、条件をクリックするか、条件名の横のボックスをクリックします。
   - 特定の条件を適用し、テキストに適用された他の条件を削除するには、Alt キー（Windows）または Option キー（Macintosh）を押しながら、その特定の条件をクリックします。
   - 特定の条件をテキストから削除するには、条件名の横のボックスをクリックしてチェックマークを外します。[条件なし] をクリックすると、選択されたテキストからすべての条件が解除されます。

注意： 条件にキーボードショートカットを割り当てることはできません。ただし、「クイック適用」を使用して条件を適用する方法があります。

条件の表示と非表示の切り替え

条件を非表示にすると、その条件が適用されたすべてのテキストが非表示になります。条件を非表示にすると、ドキュメントやブックのページ番号が変わる場合があります。スマートテキストのリフロー処理機能を使用すると、条件の表示や非表示に伴って自動的にページを追加または削除できます。

通常、非表示の条件テキストはドキュメント内で無視されます。例えば、非表示のテキストはプリントまたは書き出しは行われず、その索引マーカーは索引として生成されず、テキストの検索やスペルチェックの対象にもなりません。

条件を非表示にすると、非表示のテキストは非表示の条件シンボル ^ に格納されます。非表示の条件シンボルを含むテキストを選択して削除しようとすると、その非表示の条件テキストを削除するかどうかを確認するメッセージが InDesign に表示されます。非表示の条件テキストに他の条件、スタイルまたはフォーマットを適用することはできません。

テキストに複数の条件が適用されている場合、1 つの条件を非表示にしても他の条件の最低 1 つが表示されていると、テキストは非表示になりません。

- 条件の表示 / 非表示を個別に切り替えるには、条件名の横のボックスをクリックします。目のアイコンは、条件が表示されていることを示します。
- すべての条件の表示 / 非表示を一括して切り替えるには、条件テキストパネルメニューから「すべてを表示」または「すべてを隠す」を選択します。

条件セットの使用

条件の表示設定を条件セットにまとめると、ドキュメントを特定の条件ですばやく表示することができます。例えば、プラットフォーム条件を Macintosh、Windows XP、Vista、UNIX とし、言語条件を英語、フランス語、ドイツ語、スペイン語とし、編集条件を「エディトリアルレビュー」や「内部コメント」とする複雑なドキュメントがあるとします。Vista バージョンをフランス語でレビューする場合は、条件として Vista、フランス語、「エディトリアルレビュー」のみを表示して他のすべてを非表示にするセットを作成できます。

セットを使用すると、条件別の表示設定をすばやく確実に変更することもできます。

1. テキストに必要な条件を適用します。
2. 条件テキストパネルにセットメニューが表示されない場合は、条件テキストパネルメニューから「オプションを表示」を選択します。
3. 条件テキストパネルで、必要に応じて各条件の表示と非表示を切り替えます。
4. セットメニューから「新規セットを作成」を選択し、セット名を指定して「OK」をクリックします。

   新しいセットがアクティブなセットになります。

5. 必要に応じて次の操作を行います。
   - ドキュメントに条件セットを適用するには、その条件セット名をセットメニューから選択します。
   - 条件セットをオーバーライドするには、そのセットを選択してアクティブにした後で、いずれかの条件の表示設定を変更します。オーバーライドした条件セットの横にプラス記号（+）が表示されます。オーバーライドを削除するには、条件セットを再度選択します。「[条件セット] を再定義」を選択すると、条件セットを新しい表示設定で更新されます。
   - 条件セットを削除するには、その条件セットを選択し、「[条件セット] を削除」を選択します。条件セットを削除してもセットの条件は削除されず、適用元の条件も削除されません。

条件の管理

❖ 必要に応じて次の操作を行います。

条件の削除 条件を選択し、条件テキストパネル下部の、条件を削除アイコンをクリックします。削除した条件と置き換える条件を指定し、「OK」をクリックします。指定した条件が、削除された条件が適用されていたすべてのテキストに適用されます。

複数の条件を削除するには、連続している条件の場合は Shift キーを押しながら最初と最後の条件をクリックして選択し、連続していない条件の場合は Ctrl キー（Windows）または Command キー（Macintosh）を押しながら各条件をクリックして選択します。次に、条件を削除アイコンをクリックします。

テキストからの条件の削除 テキストから条件タグを削除することは、ドキュメントからタグを削除することとは異なります。テキストからタグを削除しても、タグはドキュメント内に残り、それを後で再び適用することができます。

テキストから特定の条件を削除するには、テキストを選択し、削除する条件の横のボックスをクリックしてチェックマークを外します。選択したテキストからすべての条件を削除するには、[条件なし] をクリックします。

条件の読み込み 条件テキストパネルメニューから「条件を読み込み」（条件のみが読み込まれる）または「条件およびセットを読み込み」を選択します。条件の読み込み元の InDesign ドキュメントを選択して、「開く」をクリックします。読み込まれた条件およびセットにより、同じ名前の条件またはセットは置き換えられます。

InCopy ファイルから InDesign に条件を読み込めませんが、InDesign ファイルからは InDesign および InCopy に条件を読み込むことができます。

読み込まれたセットにより、条件テキストパネルの条件の現在の表示設定は無視されます。

ブック内の条件の同期 ブック内のすべてのドキュメントで同じ条件を確実に使用するには、スタイルソースドキュメントで必要な条件を作成し、同期オプションダイアログボックスの「条件テキスト設定」を選択します。次に、ブックを同期させます。

条件インジケーターの表示と非表示の切り替え 条件インジケーターの表示 / 非表示を切り替えるには、条件テキストパネルのインジケーターポップアップメニューから「表示」または「隠す」を選択します。1 つのバージョンを表示しているときに、条件が適用された領域を確認するには、条件インジケーターを表示します。条件インジケーターのためにレイアウトが雑然とする場合は、条件インジケーターを隠します。条件インジケーターを印刷して出力する場合は、「表示と印刷」を選択します。

条件名の変更 条件テキストパネルで、条件をクリックし、少し間を置いた後で、条件名をクリックして選択します。別の名前を入力します。

条件インジケーターの編集 条件テキストパネルで、条件をダブルクリックするか、条件を選択してパネルメニューから「条件オプション」を選択します。インジケーター設定を行って「OK」をクリックします。

条件テキストの検索と置換

条件が適用されたテキストを検索して他の条件に置き換えるには、検索と置換ダイアログボックスを使用します。

1. 検索に含める条件テキストを表示します。

   非表示のテキストは検索から除外されます。

2. 編集／検索と置換を選択します。
3. 「検索形式」と「置換形式」ボックスがダイアログボックスの下部に表示されていない場合は、「詳細設定」をクリックしてください。
4. 「検索形式」ボックスをクリックして、検索形式の設定ダイアログボックスを表示します。「条件」から [条件あり] を選択すると、条件が適用されたテキストが検索されます。[条件なし] を選択すると、条件が適用されていないテキストが検索されます。特定の条件を指定して検索することもできます。「OK」をクリックします。

   この機能では、選択した条件に完全に一致するテキストが検索されます。例えば、条件 1 と条件 2 の両方を選択すると、一方の条件のみが適用されたテキストは検索されません。両方の条件のほかに別の条件も適用されたテキストも検索されません。

5. 「置換形式」ボックスをクリックして、置換形式の設定ダイアログボックスを表示します。条件や文字スタイルなどの異なる形式オプションを指定し、「OK」をクリックします。

   置換形式の設定ダイアログボックスの「条件」セクションで選択されている [条件あり] は、検索された条件テキストを変更するものではありません。このオプションは、文字スタイルなどの異なる形式を適用する場合に便利です。[条件なし] を選択すると、検索されたテキストからすべての条件が削除されます。特定の条件を置換形式に指定した場合は、検索されたテキストの既存の条件をその条件で置き換えるか、その条件を既存の条件に追加するかを指定することができます。

6. 「検索」をクリックして、「置換」、「置換して検索」または「すべてを置換」を使用して条件を置換します。

関連項目

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

キャプション

画像からのキャプションの作成
キャプションの設定オプションの指定
変数を使用したキャプションの作成
キャプションの変数の定義

キャプションは、画像の下に表示される説明テキストです。InDesign では、指定した画像のメタデータをキャプションとして表示できます。InDesign には、指定した画像のメタデータをキャプションとして表示するための変数があります。変数を含むテキストフレームが画像と接しているか、画像とグループ化されている場合は、変数にその画像のメタデータが表示されます。キャプションは、既存の画像から作成するか、画像の配置時に作成することができます。また、キャプションの変数を含むテキストフレームを作成することもできます。

メタデータからのキャプションの作成に関するビデオチュートリアルについては、www.adobe.com/go/lrvid5156_id_jp および http://tv.adobe.com/go/4958/ を参照してください。



メタデータから作成されたキャプション

トップへ戻る

画像からのキャプションの作成

既存の画像からキャプションを作成する場合は、静的キャプションまたはライブキャプションを選択できます。静的キャプションは手動でのみ変更でき、ライブキャプションは画像やそのメタデータの変更に応じて自動的に更新されます。例えば、ライブキャプションを別の画像と接するように移動すると、キャプションには移動先の画像のメタデータが表示されます。

「ライブキャプションの作成」を選択すると、現在のキャプション設定に基づいて新しい変数が自動的に作成されます。例えば、キャプション設定ダイアログボックスで「説明」メタデータタイプを選択すると、「ライブメタデータキャプション：説明」という変数が作成されます。

1. 作成するキャプションのコンテンツと外観を指定するには、オブジェクト／キャプション／キャプション設定を選択し、オプションを指定します。詳しくは、キャプションの設定オプションの指定を参照してください。
2. オブジェクト／キャプション／ライブキャプションの作成またはキャプションの作成を選択します。

注意： 説明などの長いテキストをライブキャプションとして表示する場合、ライブキャプションは変数であるため分割されません。キャプションを 1 行に短縮する場合は、ライブキャプションをキャプションに変換することを検討してください。ライブキャプションをキャプションに変換するには、ライブキャプションを選択し、オブジェクト／キャプション／キャプションに変換を選択します。
キャプションは、画像の配置時に作成することもできます。配置ダイアログボックスで、「キャプションを作成」を選択し、画像の配置後にキャプションのテキストフレームを配置またはドラッグします。

トップへ戻る

キャプションの設定オプションの指定

作成するキャプションのコンテンツと書式を指定するには、キャプション設定ダイアログボックスを使用します。キャプション設定は、既存のキャプションではなく、新しく作成するキャプションにのみ影響します。

1. オブジェクト／キャプション／キャプション設定を選択します。
2. 含めるメタデータを選択し、メタデータの前後に表示するテキストを指定します。
3. 複数のメタデータを含めるには、プラス記号（+）アイコンをクリックします。
4. 次のオプションを指定して、「OK」をクリックします。

   先行テキスト / 後続テキスト 指定したメタデータの前後に表示するテキストです。

   メタデータ 「説明」や「市区町村」などのメタデータオプションをリストから選択します。

   揃え 画像との位置関係に基づいてキャプションの配置先を指定します。

オフセット キャプションのテキストがキャプションのテキストフレームの端からどのくらい離れているかを指定します。

段落スタイル キャプションのテキストに適用する段落スタイルを指定します。キャプションに「図 1」や「図 2」などの自動番号を付ける場合は、段落スタイルに自動番号を含めます。詳しくは、図表の連続キャプションの作成を参照してください。

レイヤー キャプションを含めるレイヤーを指定します。

キャプションと画像をグループ化 画像フレームとキャプションのテキストフレームをグループ化するかどうかを指定します。

トップへ戻る

変数を使用したキャプションの作成

キャプションの変数を含むテキストフレームが画像と接しているか、画像とグループ化されている場合は、キャプションの変数にその画像のメタデータが表示されます。



キャプションの変数

A. 画像から離れているキャプションの変数のテキストフレーム **B.** 画像と接したテキストフレーム

1. 必要に応じて、使用するキャプションの変数を定義します。詳しくは、キャプションの変数の定義を参照してください。
2. キャプションに使用するテキストフレームを作成します。
3. テキストフレーム内に挿入点を置いて、書式／テキスト変数／変数を挿入を選択し、含めるキャプションの変数を選択します。キャプションの変数を必要な数だけ挿入します。
4. 画像と接するようにキャプションを移動するか、キャプションのテキストフレームと画像フレームをグループ化します。

キャプションの変数が空白の場合は、画像のメタデータを編集し、リンクパネルを使用して画像を更新します。画像のメタデータを編集するには、画像ファイル内のメタデータの編集を参照してください。

トップへ戻る

キャプションの変数の定義

キャプションの変数を含むテキストフレームを画像に接するように移動すると、キャプションの変数が自動的に更新されます。書式／テキスト変数／変数を挿入／画像名を選択すると、デフォルトではメタデータの「名前」が表示されます。「画像名」変数を編集するか、画像メタデータを指定した新しい変数を独自に作成することができます。

1. 書式／テキスト変数／定義を選択します。
2. 「新規」をクリックして変数を作成するか、「編集」をクリックして既存の変数を編集します。
3. 種類メニューから「メタデータキャプション」を選択します。
4. メタデータメニューからオプションを選択します。
5. メタデータの前後に表示するテキストを指定し、「OK」を選択します。

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

テキストのフレームへの追加

テキストのドキュメントへの追加
テキストのペースト
テキストのドラッグ＆ドロップ
テキストの配置（読み込み）
Buzzword ドキュメントの読み込み
読み込んだテキストファイルのリンクまたは埋め込み

トップへ戻る

テキストのドキュメントへの追加

InDesign では、入力、ペースト、配置など、様々な方法で、テキストをドキュメントに配置することができます。使用しているワープロソフトがドラッグ＆ドロップに対応している場合は、テキストを InDesign のドキュメント上へドラッグすることもできます。テキスト量が多い場合は、「配置」コマンドを使用すると、効率よくテキストをドキュメントに配置することができます。InDesign では、様々なワープロソフト、表計算ソフト、テキストファイル形式をサポートしているので、読み込み元のオリジナルの書式を維持したまま、ファイルを読み込むことも可能です。

テキストを配置またはペーストすると、テキストフレームは自動的に作成されるので、事前にテキストフレームを作成する必要はありません。

配置またはペーストしたテキストは、テキストフレームではなくフレームグリッドを使用してテキストを配置します（詳しくは、フレームグリッドの作成を参照してください）。

テキストを配置するとき、「読み込みオプションを表示」を選択して、読み込むテキストのスタイルおよびフォーマットを保持するかどうかを指定することができます。テキストをペーストする前に、環境設定ダイアログボックスの「クリップボードの処理」セクションを開き、「ペースト」の「すべての情報」または「テキストのみ」を選択して、ペーストするテキストにスウォッチやスタイルなどの情報を追加するかどうかを指定することができます。

> ドキュメントに配置したテキストがピンク色や緑色などで表示される場合は、ハイライト表示オプションが設定されている可能性があります。環境設定ダイアログボックスを開き、「組版」セクションにあるハイライト表示オプションのいくつかがオンになっていることを確認してください。例えば、ペーストしたテキストに使用できないフォントが適用されていれば、テキストはピンク色で強調色表示されます。

ドキュメントへのテキストの入力

1. テキストフレーム内にテキスト挿入点を置くには、次のいずれかの操作を行います。
   - 横組みグリッドツール または縦組みグリッドツール を使用し、ドラッグしてフレームグリッドを作成してから、横組み文字ツールまたは縦組み文字ツールでフレームグリッドをクリックします。
   - 文字ツール（横組み T、縦組み T）で、ドキュメント上をドラッグしてプレーンテキストフレームを作成します。
   - 選択ツールを使用して、既存のテキストフレーム内をダブルクリックします。文字ツールが自動的に選択されます。
2. テキストを入力します。

マスターページにテキストフレームを作成した場合は、Ctrl+Shift キー（Windows）または Command+Shift キー（Macintosh）を押しながらドキュメントページ上のフレーム内をクリックします。これにより、マスターページのフレームがドキュメントページにコピーされます。これで、文字ツールを使用して、選択したフレームにテキストを追加することができます。

インライン入力を使用したアジア言語テキストの入力

1. 編集／環境設定／高度なテキスト（Windows）または InDesign／環境設定／高度なテキスト（Mac OS）を選択します。
2. 「ラテン文字以外にインライン入力を適用」を選択し、「OK」をクリックします。

日本語入力プログラムを使用して入力すると、全角文字をテキストフレームに直接入力できるようになります。

サンプルテキストの挿入

サンプルテキストは、後で実際に使用するテキストと簡単に置換することができます。サンプルテキストを追加することで、ドキュメントの全体のデザインをより正確に確認することができます。

1. 選択ツールを使用して 1 つ以上のテキストフレームを選択するか、文字ツールを使用してテキストフレームをクリックします。
2. 書式／サンプルテキストの割り付けを選択します。

サンプルテキストは、他のフレームと連結しているフレームに追加すると、先頭のテキストフレーム（すべてのフレームが空の場合）または既存のテキストの最後（連結フレームにテキストがある場合）に追加されます。

サンプルテキストを削除または置換するには、連結フレームの 1 つをダブルクリックし、編集／すべてを選択を選択して、テキストを削除します。

サンプルテキストとして使用されているテキストを変更するには、使用するテキストを含むテキストファイルを作成し、Placeholder.txt という名前でアプリケーションフォルダーの直下に保存します。

トップへ戻る

テキストのペースト

InDesign にテキストをペーストするときに、テキスト挿入点がテキストフレーム内になければ、新規プレーンテキストフレームが作成されます。テキスト挿入点がテキストフレーム内にあれば、テキストはテキストフレーム内にペーストされます。ペーストするときにテキストが選択されていると、選択されているテキストはペーストするテキストにより上書きされます。

編集／グリッドフォーマットを適用せずにペーストを使用してテキストをフレームグリッドにペーストする場合、ペーストしたテキストにはコピーしたテキストのフォント、フォントサイズ、文字間隔が適用されます。テキストを選択し、編集／グリッドフォーマットの適用を選択して、ペーストしたテキストをフレームグリッドの文字属性でフォーマットすることができます。

他のアプリケーションからのテキストのペースト

1. スタイルや索引マーカーなどのフォーマットや情報を保持するには、環境設定ダイアログボックスの「クリップボードの処理」セクションを開き、「ペースト」の「すべての情報」を選択します。ペーストするときにこれらのアイテムやその他のフォーマットを削除するには、「テキストのみ」を選択します。
2. 他のアプリケーションまたはInDesign ドキュメントで、テキストをカットまたはコピーします。
3. 必要に応じて、InDesign 上でテキストを選択するか、テキスト挿入点を表示します。
4. 次のいずれかの操作を行います。
   - 編集／ペーストを選択します。ペーストされたテキストにすべてのフォーマットが含まれていない場合は、RTF ドキュメントの読み込みオプションダイアログボックスの設定を変更してください。
   - 編集／フォーマットなしでペーストを選択します。この項目は、環境設定ダイアログボックスの「クリップボードの処理」セクションで「テキストのみ」が選択されている場合に、別のアプリケーションからテキストをペーストするとグレー表示され、選択できません。
   - 編集／グリッドフォーマットを適用せずにペーストを選択します。

   他のアプリケーションからテキストをドラッグして InDesign ドキュメントにドロップすることもできます。さらに、エクスプローラー（Windows）または Finder（Macintosh）からテキストファイルまたはワープロファイルを InDesign ドキュメントに直接挿入することもできます。ドラッグしたテキストは新しいテキストフレームに配置されます。Shift キーを押しながらドラッグすると、フォーマットは削除されます。索引マーカーやスウォッチなどの情報が保持されるかどうかは、環境設定ダイアログボックスの「クリップボードの処理」セクションで選択したオプションによって決まります。

ペーストするテキスト間隔の自動調整

テキストをペーストするときに、状況に応じて自動的にスペースが追加されたり削除されたりするよう設定することができます。例えば、1 つの単語をカットしてから 2 つの単語の間にペーストするとき、ペーストする単語の両側にスペースが挿入されます。その単語を文末にペーストする場合、ピリオドの前にスペースは挿入されません。

注意： この機能は、主に欧文で作業している場合に使用します。また、ペースト先の欧文テキストに対して文字パネルの言語が欧文言語に設定されている場合に限り有効です。

1. 編集／環境設定／テキスト（Windows）または InDesign／環境設定／テキスト（Macintosh）を選択します。
2. 「欧文単語をカット＆ペーストするときに自動的に間隔を調整」を選択し、「OK」をクリックします。

フレームグリッドへのテキストのペースト

元のフォーマット属性を保持したままのテキストをペーストすることができます。あるフレームグリッドで属性が変更されたテキストを別のフレームグリッドにペーストすると、変更された属性のみが保持されます。グリッドフォーマットなしでペーストすることもできます。

1. 他のアプリケーションまたはInDesign ドキュメントで、テキストをカットまたはコピーします。
2. フレームグリッド内で、テキスト挿入点を表示するか、テキストを選択します。
3. 次のいずれかの操作を行います。
   - グリッドフォーマットに適合するテキストをペーストするには、編集／ペーストを選択します。
   - グリッドフォーマットなしでテキストをペーストするには、編集／グリッドフォーマットを適用せずにペーストを選択します。

グリッドフォーマットは、テキストをペースト後に編集／グリッドフォーマットの適用を選択して適用することができます。グリッドフォーマットパネルで指定されているグリッドフォーマットの属性がテキストに適用されます。

トップへ戻る

テキストのドラッグ＆ドロップ

ストーリーエディターまたはレイアウトビューでは、マウスを使用してテキストをドラッグ＆ドロップすることができます。ストーリーエディターからレイアウトウィンドウ（またはその逆）または検索/置換などのダイアログボックスにテキストをドラッグすることもできます。ロックまたはチェックインされているストーリーからテキストをドラッグすると、テキストは移動されずにコピーされ、ストーリーからは削除されません。ドラッグ＆ドロップ中にテキストをコピーしたり、新規フレームを作成することもできます。

ドラッグ＆ドロップに関するビデオチュートリアルについては、Jeff Witchel による Using InDesign Drag and Drop Text（英語）を参照してください。

1. ドラッグ＆ドロップを有効にするには、編集／環境設定／テキスト（Windows）または InDesign／環境設定／テキスト（Macintosh）を選択し、「レイアウトビューで有効にする」または「ストーリーエディターで有効にする」（InDesign）または「ゲラ / ストーリービュー内で有効にする」（InCopy）を選択して、「OK」をクリックします。
2. 移動またはコピーしたいテキストを選択します。
3. 選択したテキストの上にポインターを置き、ドラッグ＆ドロップアイコン が表示されたらテキストをドラッグします。

   ドラッグ中、選択したテキストは元の位置のままですが、マウスボタンを放したときにテキストが挿入される位置を示す黒い縦線が表示されます。縦線は、マウスをドラッグするすべてのテキストフレームで表示されます。
4. 必要に応じて次の操作を行います。
   - 新しい位置にテキストをドロップするには、テキストを挿入する位置に縦線があることを確認してからマウスボタンを放します。
   - 新しいフレームにテキストをドロップするには、ドラッグを開始した後に Ctrl キー（Windows）または Command キー（Macintosh）を押しながらマウスボタンを放します。
   - フォーマットなしでテキストをドロップするには、ドラッグを開始した後に Shift キーを押しながらマウスボタンを放します。
   - テキストをコピーするには、ドラッグを開始した後に Alt キー（Windows）または Option キー（Macintosh）を押しながらマウスボタンを放します。

   これらの修飾キーを組み合わせて使用することもできます。例えば、書式の設定されていないテキストを新しいフレームにコピーするには、Alt+Shift+Ctrl キー（Windows）または Option+Shift+Command キー（Macintosh）を押しながらドラッグします。

ドロップしたテキストの間隔が適切でなければ、環境設定ダイアログボックスの「テキスト」セクションで「欧文単語をカット＆ペーストするときに自動的に間隔を調整」を選択します。

トップへ戻る

テキストの配置（読み込み）

テキストファイルまたはスプレッドシートファイルを配置するとき、オプションを指定して、読み込んだテキストの書式を設定することができます。

注意： 新しいフレームにテキストを配置すると、ストーリーパネルの設定（ウィンドウ／書式と表／ストーリー）によって読み込んだテキストのフレームの種類と組み方向を決定します。ドキュメントの設定を変更するには、オブジェクトが選択されていないことを確認してからストーリーパネルの設定を変更します。すべての新規ドキュメントの設定を変更するには、オブジェクトが開いていないことを確認してからストーリーパネルの設定を変更します。

InDesign へのコンテンツの読み込みに関するビデオチュートリアルについては、www.adobe.com/go/vid0067_jp を参照してください。テキストの配置および流し込みに関するビデオチュートリアルについては、www.adobe.com/go/lrvid4278_id_jp を参照してください。

1. （オプション）配置するファイルに対してリンクを作成するには、環境設定ダイアログボックスの「ファイル管理」をクリックし、「テキストおよびスプレッドシートファイルを配置するときにリンクを作成」を選択します。

   このオプションを選択すると、配置したファイルへのリンクが作成されます。テキストファイルのリンクを更新、再リンク、または削除するには、リンクパネルを使用します。ただし、リンクしているテキストを InDesign で書式設定した場合は、リンクを更新するとその書式設定が保持されないことがあります。このオプションが選択されていない場合は、読み込んだテキストファイルやスプレッドシートファイルはリンクされず、ドキュメントに埋め込まれます。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - 配置したテキストの新規フレームを作成する場合は、テキスト挿入点がないことと、テキストまたはフレームが選択されていないことを確認します。
   - テキストをフレームに追加するには、文字ツール T を使用して、テキストを選択するかテキスト挿入点を置きます。
   - 既存のフレームの内容を置換する場合は、選択ツールを使用してフレームを選択します。フレームが連結されている場合はテキスト流し込みアイコンが表示されます。

     この方法でテキストファイルまたはグラフィックを誤って置き換えてしまった場合は、編集／置換を取り消しを選択してから、ドキュメント上をクリックまたはドラッグして、新しいテキストフレームを作成してください。
3. ファイル／配置を選択します。
4. 配置するテキストを選択しているフレームの内容またはテキストを配置するテキストで置き換える場合や、テキストフレームのテキスト挿入点に追加する場合は、「選択アイテムの置換」を選択します。読み込むファイルを新規フレームに流し込む場合は、このオプションの選択を解除します。
5. グリッドが適用されたテキストフレームを作成するには、「グリッドフォーマットの適用」を選択します。プレーンテキストフレームを作成するには、「グリッドフォーマットの適用」の選択を解除します。
6. 「読み込みオプションを表示」を選択し、読み込むファイルをダブルクリックします。
7. 読み込みオプションを設定して、「OK」をクリックします。

テキストの読み込み先として既存のフレームを指定していない場合は、ポインターがテキストの流し込みアイコンになり、クリックまたはドラッグした場所にテキストを流し込めるようになります。

配置したテキストフレームは、ストーリーパネルの設定に応じてプレーンテキストフレームまたはフレームグリッドに変換することができます。書式／組み方向／横組みまたは縦組みを選択して、フレームの組み方向を指定できます。フレームグリッドでテキストを配置した場合、フレームグリッドにはグリッドツールに設定されているドキュメントのデフォルト設定が適用されます。必要に応じてグリッドフォーマットを適用してください。

必要なフィルターがないことを通知する警告メッセージが表示されたら、ファイルを別のワープロソフトまたは旧バージョンの Microsoft® Word（Word 6 など）から配置しようとしている可能性があります。この場合、ファイルを元のアプリケーションで開き、ほとんどのフォーマットを保持する RTF 形式で保存してください。

読み込んだ Microsoft Excel ドキュメントのセル内に赤い点が表示された場合は、オーバーセットコンテンツが表示されるようにセルのサイズまたはテキストの属性を調整します。ファイルを、フォーマットされていないタブ付きテキストとして配置し、そのタブ付きテキストを表に変換することもできます。

読み込みフィルターについて

InDesign では、テキストファイルからほとんどの文字と段落の属性を読み込むことができますが、マージン、段組の設定などのページレイアウト情報はほとんどが無視されます（これらは InDesign で設定できます）。次の点に注意してください。

- 一般的に、InDesign では、InDesign で使用できないワープロ機能の情報を除き、ワープロソフトで指定されているすべてのフォーマット情報を読み込むことができます。
- InDesign では、文字や段落のスタイルを読み込み、それらをドキュメントのスタイルリストに追加することができます。ディスクアイコン が読み込まれたスタイルの横に表示されます（詳しくは、Word のスタイルを InDesign スタイルに変換を参照してください）。
- 配置ダイアログボックスで「読み込みオプションを表示」を選択するか、Excel ファイルを読み込むときに、読み込むファイル形式用の読み込みオプションダイアログボックスが表示されます。「読み込みオプションを表示」が選択されていない場合は、最後に使用したときのダイアログボックスの設定が使用されます。設定したオプションは変更するまで有効です。
- InDesign が、ファイルタイプまたはファイル拡張子のどちらによっても、ファイルを判別するフィルターを検出できなかった場合は、警告メッセージが表示されます。InDesign を Windows 上で使用している場合は、読み込むファイルに適切な拡張子（.doc、.docx、.txt、.rtf、.xls、.xlsxなど）を付けてください。または、ファイルの作成元のアプリケーションでファイルを開き、InDesign が判別できるファイル形式（RTF やテキスト形式など）で保存してください。

読み込みフィルターについて詳しくは、www.adobe.com/go/lr_indesignfilters_cs5_jp にある「フィルター - お読みください」PDF ファイルを参照してください。

Microsoft Word および RTF の読み込みオプション

Word ファイルまたは RTF ファイルを配置するときに、「読み込みオプションを表示」を選択すると、次のいずれかのオプションを選択することができます。

目次テキスト ストーリーのテキストの一部として、目次を読み込みます。項目はテキストとしてのみ読み込むことができます。

索引テキスト ストーリーのテキストの一部として、索引を読み込みます。項目はテキストとしてのみ読み込むことができます。

脚注 Word の脚注を読み込みます。脚注と参照は保持されますが、ドキュメントの脚注の設定に基づいて番号が再割り当てされます。Word の脚注が正しく読み込まれない場合は、Word ドキュメントを RTF 形式で保存し、この RTF ファイルを読み込んでみてください。

文末脚注 ストーリーの最後にテキストの一部として、文末脚注を読み込みます。

英文引用符を使用 ストレートクォーテーションマーク（" "）、アポストロフィ（'）の代替として、左右の二重引用符（“ ”）、アポストロフィ（’）を読み込みます。

テキストと表からスタイルおよびフォーマットを削除 読み込んだテキスト（表内のテキストを含む）から、フォント、フォントの色、フォントスタイルなどのフォーマットを削除します。このオプションが選択されていると、段落スタイルとインライングラフィックは読み込まれません。

ローカルオーバーライドを保持 テキストおよび表からスタイルとフォーマットを削除するとき、「ローカルオーバーライドを保持」を選択して、段落の一部に適用されている太字や斜体などの文字フォーマットを保持することができます。すべてのフォーマットを削除する場合は、このオプションの選択を解除します。

テーブルを変換 「テキストと表からスタイルおよびフォーマットを削除」を選択した場合に、表に対してフォーマットのない表組みとして変換するか、フォーマットのないタブ区切りテキストとして変換するかを選択できます。

フォーマットされていないテキストとフォーマットされている表を読み込みたい場合は、テキストをフォーマットなしで読み込んでから、表を Word ドキュメントから InDesign ドキュメントにペーストしてください。

テキストと表のスタイルおよびフォーマットを保持 Word ドキュメントのフォーマットを InDesign ドキュメントまたは InCopy ドキュメントで保持します。「フォーマット」セクションの他のオプションを使用して、スタイルとフォーマットがどのように保持されるかを指定することができます。

自動改ページ Word ファイルから読み込んだ改ページのフォーマットを指定します。Word で使用されていたものと同じ改ページを使用する場合には「改ページを保持」を選択します。必要に応じて「改段に変換」、「分割禁止」を選択します。

インライングラフィックを読み込み Word ドキュメントのインライングラフィックを InDesign で保持します。

未使用のスタイルを読み込み スタイルがテキストに適用されているかどうかにかかわらず、Word ドキュメントに設定されているすべてのスタイルを読み込みます。

箇条書きをテキストに変換 段落の設定を保持しますが、箇条書きの数字や中黒を文字として読み込みます。InDesign の自動番号リストでリストアイテムが変更しても番号が自動的に更新されません。

変更をトラック このオプションを選択すると、Word ドキュメントの「変更をトラック」マークアップが InDesign ドキュメントに表示されま

す。InDesign では、ストーリーエディターで変更をトラックして確認できます。

スタイルを自動的に読み込む Word ドキュメントのスタイルを InDesign ドキュメントまたは InCopy ドキュメントに読み込みます。「スタイル名の競合」の横に黄色い三角形が表示されたら、Word ドキュメントの段落または文字のスタイル名と同じスタイル名が InDesign にあることを意味します。

このようなスタイル名の矛盾を解決する方法を指定するには、段落スタイルの競合メニューおよび文字スタイルの競合メニューからオプションを選択します。「InDesign スタイルの定義を使用」を選択すると、読み込んだテキストは InDesign のスタイルに基づいてフォーマットされます。「InDesign スタイルを再定義」を選択すると、読み込んだスタイルテキストは Word のスタイルに基づいてフォーマットされ、Word スタイルでフォーマットされている InDesign の既存のテキストは変更されます。「自動名称変更」を選択すると、読み込まれた Word のスタイル名が変更されます。 例えば、InDesign と Word に Subheading スタイルがある場合、「自動名称変更」を選択すると、読み込まれた Word のスタイル名が Subheading_wrd_1 に変更されます。

注意： InDesign は、段落スタイルと文字スタイルを変換しますが、箇条書きリストと自動番号リストのスタイルは変換しません。

スタイル読み込みをカスタマイズ スタイルマッピングダイアログボックスを使用して、読み込まれたドキュメント内の Word のスタイルに対する InDesign のスタイルの割り当てを選択します。

プリセットを保存 後で再利用できるよう、現在の Microsoft Word 読み込みオプションの設定を保存します。読み込みオプションを指定し、「プリセットを保存」をクリックしてプリセットの名前を入力し、「OK」をクリックします。次回 Word のスタイルを読み込むとき、プリセットメニューから作成したプリセットを選択することができます。次回以降 Word ドキュメントを読み込むときに、選択したプリセットをデフォルトとして使用したい場合は、「デフォルトに設定」をクリックします。

テキストファイルの読み込みオプション

テキストファイルを配置するときに、「読み込みオプションを表示」を選択するか、Shift キーを押しながらファイル名をダブルクリックすると、テキスト読み込みオプションダイアログボックスが表示され、次のオプションを設定することができます。

文字セット ANSI、ユニコード UTF8、Shift JIS、繁体中国語（Big5）など、テキストファイルの作成に使用したコンピューター言語の文字セットを指定します。デフォルトでは、InDesign または InCopy のデフォルトの言語とプラットフォームに対応する文字セットが選択されます。

プラットフォーム ファイルが Windows または Macintosh のどちらで作成されたテキストファイルかを指定します。

次の辞書に設定 読み込むテキストに対して使用する辞書を指定します。

強制改行の処理 段落の強制改行の読み込み方法を指定します。「各行末で削除」または「段落間で削除」を選択することができます。

置換 指定したスペース数がタブに置き換えられます。

英文引用符を使用 ストレートクォーテーションマーク（" "）、アポストロフィ（'）の代替として、左右の二重引用符（“ ”）、アポストロフィ（’）を読み込みます。

Microsoft Excel の読み込みオプション

Excel ファイルを読み込むとき、次のオプションを選択することができます。

シート 読み込むワークシートを指定します。

表示 ファイルに保存されているユーザー表示を読み込むか、表示を無視するかを選択します。

セル範囲 コロン（:）を使用して、読み込むセル範囲を指定します（A1:G15 など）。ワークシート内に名前が定義されているセル範囲がある場合は、ポップアップメニューからその名前を選択することができます。

未保存の非表示セルを読み込む スプレッドシートで非表示に設定されているセルも読み込みます。

表 スプレッドシートをドキュメント上でどのように表示するかを指定します。

フォーマットテーブル Excel 内で使用された形式と同じフォーマットを InDesign 上で保持しようとしますが、各セル内のテキストフォーマットについては保持されない場合があります。スプレッドシートが埋め込みではなくリンクされている場合は、そのリンクを更新すると、InDesign で表に適用されたフォーマットが上書きされます。

アンフォーマットテーブル 表はフォーマットなしでスプレッドシートから読み込まれます。このオプションを選択すると、読み込んだ表に対して表スタイルを適用できます。 段落スタイルと文字スタイルを使用した表のフォーマットは、リンクをスプレッドシートにアップデートする場合でも保持されます。

アンフォーマットタブ付きテキスト 表はタブ区切りテキストとして読み込まれます。このテキストを読み込んだら、InDesign または InCopy で表に変換できます。

1 回だけフォーマット InDesign では、Excel で使用されるフォーマットと同じフォーマットが初期読み込み中に保持されます。スプレッドシートが埋め込まれるのではなくリンクされている場合、スプレッドシートに行ったフォーマット変更は、リンクを更新するとリンクされている表では無視されます。このオプションは InCopy では使用できません。

表スタイル 指定された表スタイルを読み込んだドキュメントに適用します。このオプションは、「アンフォーマットテーブル」が選択されている場合にのみ使用できます。

セル揃え 読み込むドキュメントのセル内の文字揃えを指定します。

インライングラフィックを含める Excel ドキュメントのインライングラフィックを InDesign で保持します。

小数点割り付けの数 スプレッドシートの数字の小数点割り付けの数を指定します。

英文引用符を使用 ストレートクォーテーションマーク（" "）、アポストロフィ（'）の代替として、左右の二重引用符（“ ”）、アポストロフィ（’）を読み込みます。

タグ付きテキストの読み込みオプション

InDesign のフォーマット機能を利用できるテキストファイルの読み込み（または書き出し）を、タグ付きテキスト形式で行うことができます。タグ付きテキスト形式とは、InDesign が適用するすべてのフォーマット情報を含むテキストファイルです。正確にタグが付いたテキストには、段落属性、文字属性、制御文字を含めた、InDesign のストーリーに表示されるほとんどすべてのフォーマットが再現されます。

タグの指定について詳しくは、『タグ付きテキスト.pdf』（www.adobe.com/go/learn_id_taggedtext_cs5_jp）を参照してください。

タグ付きテキストファイルを配置するときに、配置ダイアログボックスで「読み込みオプションを表示」を選択すると、InDesign タグ付きテキスト読み込みオプションダイアログボックスが表示され、次のオプションを設定できるようになります。

英文引用符を使用 ストレートクォーテーションマーク（" "）、アポストロフィ（'）の代替として、左右の二重引用符（“ ”）、アポストロフィ（’）を読み込みます。
テキストフォーマットを削除 読み込んだテキストから、フォント、フォントの色、フォントスタイルなどのフォーマットを削除します。
テキストスタイルの競合を修正 読み込むテキストファイルのスタイルと InDesign ドキュメントのスタイルとの間に矛盾がある場合に、どちらのスタイルを適用するかを指定します。InDesign ドキュメントに含まれている既存のスタイル定義を使用するには、「パブリケーションの定義」を選択します。「タグ付きファイルの定義」を選択すると、タグ付きテキストで定義されたスタイルが使用されます。
割り付け前に問題タグのリストを表示する 判別できないタグのリストを表示します。リストが表示されたら、読み込みをキャンセルしたり、続行したりできます。続行した場合は、ファイルが期待通りのレイアウトで読み込まれないことがあります。

Word または RTF の読み込みオプションをプリセットとして保存

1. Word または RTF ファイルを配置する際に、「読み込みオプションを表示」が選択されていることを確認して「開く」を選択します。
2. 読み込みオプションダイアログボックスで目的の設定を指定します。
3. 「プリセットを保存」をクリックしてプリセットの名前を入力し、「OK」をクリックします。
4. （オプション手順）指定した種類のファイルを読み込むたびにプリセットを使用するには、「デフォルトに設定」をクリックします。

Word または RTF ファイルを読み込むたびに、読み込みオプションダイアログボックスのプリセットメニューからカスタムプリセットを選択することができるようになります。

トップへ戻る

Buzzword ドキュメントの読み込み

Buzzword は、Web ベースのテキストエディターです。これにより、ユーザーはテキストファイルを作成して Web サーバーに保存できます。InDesign CS5 では、Buzzword ドキュメントのテキストの読み込みおよび書き出しが可能です。

Buzzword ドキュメントを読み込むと、サーバーの Buzzword ドキュメントに対して URL ベースのリンクが作成されます。Buzzword ドキュメントを InDesign 外で更新した場合は、リンクパネルを使用して InDesign の読み込まれたバージョンを更新できます。ただし、その場合は InDesign で Buzzword テキストに加えた変更は削除されます。

注意： Acrobat.com の Buzzword アプリケーションは英語、フランス語、ドイツ語でのみ提供されています。

1. ファイル／Buzzword から配置を選択します。
2. CS Live にまだサインインしていない場合は、「サインイン」をクリックし、電子メールアドレスとパスワードを指定して、「サインイン」をクリックします。

   サインインすると、Buzzword ドキュメントを配置ダイアログボックスに、読み込むことができる Buzzword ドキュメントが一覧表示されます。
3. 読み込むドキュメントを選択するか、Buzzword ドキュメントの URL を「URL をペースト」フィールドに貼り付けます。
4. 次のいずれかのオプションを選択し、「OK」をクリックします。

   読み込みオプションを表示 このオプションを選択すると、ファイルを挿入する前に、Buzzword 読み込みオプションダイアログボックスが表示されます。

   選択アイテムを置換 ドキュメント内の現在選択されているオブジェクトを置き換えるには、このオプションを選択します。

   ドキュメントにリンク Buzzword ドキュメントと挿入したテキストの間にリンクを作成するには、このオプションを選択します。リンクした後で Buzzword ドキュメントを更新すると、ファイルを更新したことがリンクパネルに反映されます。リンクを更新すると、InDesign のテキストが更新されます。ただし、InDesign でこのテキストに加えた書式の変更は失われます。

   グリッドフォーマットの適用 読み込んだテキストをグリッド属性に従ってフォーマットします。
5. 「読み込みオプションを表示」を選択した場合は、Buzzword 読み込みオプションダイアログボックスでオプションを指定します。

   このダイアログボックスのオプションは、RTF 読み込みオプションダイアログボックスのオプションとほぼ同じです。詳しくは、Microsoft Word および RTF の読み込みオプションを参照してください。Buzzword には現在スタイル機能がありません。したがって、現時点で有効なスタイルオプションはありません。
6. テキスト配置アイコンで、クリックまたはドラッグしてテキストフレームを作成します。

トップへ戻る

読み込んだテキストファイルのリンクまたは埋め込み

デフォルトでは、InDesign ドキュメントに配置するテキストは、元のテキストファイルにリンクされません。テキストを配置する前にファイル管理環境設定で「テキストおよびスプレッドシートファイルを配置するときにリンクを作成」オプションを選択すると、テキストファイルの名前がリンクパネルに表示されます。リンクパネルでは、配置したテキストの更新や管理を行うことができます。元のテキストファイルを編集し、更新すると、InDesign ドキュメント上で設定した書式や段落などの変更がすべて消えてしまいます。そのため、InDesign では元のテキストファイルに変更を加えても、リンクしているテキストファイルは自動的には更新されないようになっています。ただし、リンクパネルを使用して、簡単にコ

ンテンツを更新したり、ファイルのリンクを解除したり（埋め込んだり）することができます。

1. 次のいずれかの操作を行います。
   - この変更をドキュメントに適用する場合は、ドキュメントを開きます。
   - この変更をすべての新規作成するドキュメントに適用する場合は、すべてのドキュメントを閉じます。
2. 編集／環境設定／ファイル管理（Windows）または InDesign／環境設定／ファイル管理（Macintosh）を選択します。
3. 配置したファイルがリンクするようにするには、「テキストを配置する時にリンクを作成」チェックボックスを選択します。このオプションが選択されている場合、リンクを更新、再リンク、または削除するには、リンクパネルを使用します。オプションが選択されている場合は、リンクパネルを使用して、リンクの更新、再リンク、リンクの解除を行うことができます。

リンクされているテキストファイルのリンクを解除する（埋め込む）には、リンクパネルでファイルを選択し、リンクパネルメニューから「リンク解除」を選択します。

関連項目

コンテンツの読み込みのビデオ

(cc) BY-NC-SR

法律上の注意 | プライバシーポリシー

テキストおよびテキストフレームの作成

フレームグリッドとプレーンテキストフレームの違い
フレームグリッドの作成
テキストフレームの作成
テキストフレームの移動とフレームサイズの変更
マスターページでのテキストフレームの使用
テキストフレームのプロパティの変更
テキストの組み方向の変更
テキストフレームの文字数表示

フレームグリッドとプレーンテキストフレームの違い

トップへ戻る

フレームグリッドは、グリッドの有無以外は、機能的にも外見的にもプレーンテキストフレームと同じですが、次のような相違点と特性があります。

- フレームグリッドには文字属性が設定されています。テキストを配置すると、設定されている文字属性が適用されます。一方、プレーンテキストフレームには文字属性が設定されていません。テキストを割り付けると、そのときに文字パネルで選択されている文字属性が適用されます。
- フレームグリッドの文字属性は、オブジェクト／フレームグリッド設定で変更しますが、プレーンテキストフレームには文字属性がないため、配置されているテキストを選択して文字パネルまたはコントロールパネルで属性を設定します。フレームグリッド内に配置されているテキストを選択して、文字パネルまたはコントロールパネルで文字属性を変更することもできます。
- フレームグリッドの初期設定では、グリッド揃えが「仮想ボディの中央」に設定されているため、フレームグリッド内の行送りは、フレームグリッド設定ダイアログボックスの「行間」の設定に依存します。プレーンテキストフレームでは、InDesign の初期設定でグリッド揃えが「なし」に設定されているため、特に指定しない場合は、文字パネルの「行送り」で指定されている値で行が送られます。なお、プレーンテキストフレーム内の段落にグリッド揃えを「仮想ボディの中央」に指定すると、ドキュメントのベースライングリッドの中央に文字が配置されます。
- フレームグリッドの文字属性は、グリッドフォーマットスタイルとして保存し、必要に応じてフレームグリッドに適用することができます。
- フレームグリッドのグリッドは、グリッドの文字属性（文字サイズ、字間、行間）によって決定されます。
- ストーリーが割り付けられ、連結された各フレームグリッドには、同一のグリッド属性が適用されます。詳しくは、テキストの連結を参照してください。
- フレームグリッドの文字数は、デフォルトでフレームグリッドの一番下に表示されます。また、ストーリーまたは選択範囲の文字数を情報パネルに表示することもできます。

注意： プレーンテキストフレームには文字属性が設定されていないので、文字属性が設定されているフレームグリッドをプレーンテキストフレームに変換すると、再フォーマットされる場合があります。例えば、オブジェクト／フレームグリッド設定の字間を -1H に設定してあるフレームグリッドをオブジェクト／フレームの種類／テキストフレームでプレーンテキストフレームに変換すると、字間が 0H となり文字間隔がわずかに広がります。フレームグリッド設定は保持されているため、オブジェクト／フレームの種類／フレームグリッドでフレームグリッドに変換すれば元どおりの字間 -1H で表示されます。

フレームグリッドの作成

トップへ戻る

フレームグリッドを作成し、入力またはコピーしたテキストを割り付けるには、横組みグリッドツール または縦組みグリッドツール を使用します。このツールで作成するフレームグリッドには、グリッドフォーマットパネルで指定されているグリッドフォーマットの属性が適用されます。また、フレームグリッドの設定は、フレームグリッド設定ダイアログボックスで変更できます。

横組みグリッドツールを使用すると、テキストが左から右へ、さらにその下の次の行へと続く横組みフレームグリッドが作成されます。縦組みグリッドツールを使用すると、テキストが上から下へ、さらにその左側の次の行へと続く縦組みフレームグリッドが作成されます。

フレームグリッド内のテキストの文字フォーマットがフレームグリッドの設定と異なるとき、選択ツールでフレームグリッドを選択し、編集／グリッドフォーマットの適用を使用すると、グリッドフォーマットパネルで指定されているフォーマットを適用することができます。

フレームグリッドの作成

1. 横組みグリッドツール または縦組みグリッドツール を選択します。
2. ツールをドラッグして、作成するフレームグリッドの高さと幅を指定します。Shift キーを押しながらドラッグすると、正方形のフレームグリッドを作成することができます。

グリッドフォーマットパネルであらかじめグリッドフォーマットを選択してからグリッドフォーマットを作成すると、選択されているグリッドフォーマットの属性が適用されたグリッドフォーマットが作成されます。

プレーンテキストフレーム以外の空のフレーム内を、フレームグリッドツールでクリックすると、フレームがフレームグリッドに変換されます。プレーンテキストフレームはフレームグリッドに変更されません。

フレームグリッドのデフォルト設定

フレームグリッドのデフォルトの文字属性は、ドキュメントデフォルト、アプリケーションデフォルト、レイアウトグリッド設定という優先順位で決定されます。

1. 必要に応じて次の操作を行います。
   - すべての新規ドキュメントに適用されるデフォルトのフレームグリッドを設定するには、すべてのドキュメントを閉じてからフレームグリッドツールをダブルクリックします。
   - 現在のドキュメントに適用されるデフォルトのフレームグリッドを設定するには、オブジェクトが選択されていないことを確認してからフレームグリッドツールをダブルクリックします。
2. フレームグリッドのオプションを指定します。
3. 「OK」をクリックします。

注意： フレームグリッドを作成するとデフォルトのオブジェクトスタイルが適用されます。デフォルトのオブジェクトスタイルにフレームグリッドの設定が含まれる場合でも、フレームグリッドツールのデフォルト値が優先されます。

読み込んだテキストのデフォルトを設定するには、ストーリーパネルを使用します。すべてのドキュメントを閉じるか、現在のドキュメントにあるすべてのオブジェクトの選択を解除して、ストーリーパネルを開き、読み込んだテキストに対して使用するストーリーの組み方向とフレームの種類を指定します。

トップへ戻る

テキストフレームの作成

InDesign のテキストは、テキストフレームと呼ばれるコンテナに配置されます（テキストフレームは、QuarkXPress のテキストボックスや Adobe PageMaker のテキストブロックと同様のものです）。テキストフレームの作成に関するビデオチュートリアルについては、www.adobe.com/go/lrvid4274_id_jp を参照してください。

テキストフレームには、フレームグリッドとプレーンテキストフレームの 2 種類があります。フレームグリッドは、アジア言語組版に特化された、文字の仮想ボディと間隔が枠（グリッド）として表示されているテキストフレームです。プレーンテキストフレームは、グリッドが表示されない空のテキストフレームです。

テキストフレームは、グラフィックフレームと同じように移動、変更、サイズ変更することができます。実行できる変更の種類は、テキストフレームを選択するツールに応じて異なります。

- 文字ツール を使用して、フレームにテキストを入力したり、テキストを編集したりします。
- 選択ツール を使用して、フレームの配置やサイズ変更などの一般的なレイアウト作業を行います。
- ダイレクト選択ツール を使用して、フレームの形状を変更します。
- 横組みグリッドツール または縦組みグリッドツール を使用して、フレームグリッドを作成します。詳しくは、フレームグリッドの作成を参照してください。
- 文字ツール を使用して、横組みテキスト用のプレーンテキストフレームを作成し、縦組み文字ツール を使用して、縦組みテキスト用のプレーンテキストフレームを作成します。そして、既存のフレームのテキストを編集する場合は、横組み文字ツールまたは縦組み文字ツールのどちらかを使用します。

テキストフレームは他のテキストフレームと連結することができます。このようなフレームを連結フレームと呼びます。そして、複数のテキストフレームにまたがって割り付けられているテキストをストーリーと呼びます。例えば、テキストファイルを配置した（割り付けた）場合、そのテキストがつながっている限り、1 つのストーリーとして扱われます。割り付けられたテキストフレームの数はストーリーの数とは関係がありません。

注意： 連結しているすべてのフレームグリッドに対して同一のグリッド設定と同じ組み方向（横組みまたは縦組み）が使用されます。また、ストーリーの一部を含むすべてのフレームの種類はストーリーの先頭を含むフレームと同じになります。また、ストーリーの一部を含むすべてのフレームの種類はストーリーの先頭を含むフレームと同じになります。

テキストフレーム内には、段組を設定することもできます。テキストフレームは、ページに設定されている段組とは独立しています。例えば、4 段組みのページ上で 2 段組みのテキストフレームにすることもできます。テキストフレームをマスターページに配置して、ドキュメントページにテキストを割り付けることができます。

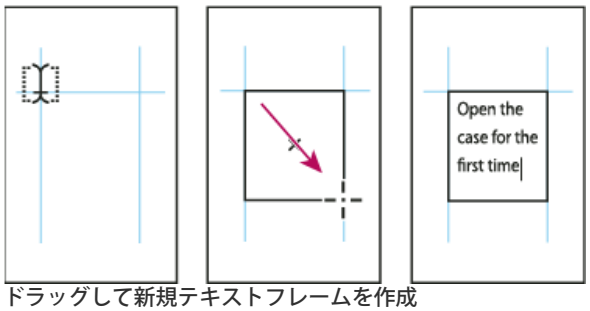
同じ種類のテキストフレームを繰り返し使用する場合は、線および塗りのカラー、テキストフレームのオプション、テキストの回りこみ、透明効果など、テキストフレームのフォーマットを含むオブジェクトスタイルを作成することができます。

テキストをペーストすると、プレーンテキストフレームが自動的に作成されます。空のプレーンテキストフレームを手動で作成して、テキストを入力することもできます。

❖ 必要に応じて次の操作を行います。

- 文字ツール を選択し、ドラッグして、新規テキストフレームの幅と高さを指定します。Shift キーを押しながらツールをドラッグすると、

正方形のテキストフレームを作成することができます。作成したテキストフレーム内にテキスト挿入点が表示されます。



ドラッグして新規テキストフレームを作成

- 選択ツールを使用して、別のテキストフレームのインポートまたはアウトポートをクリックし、もう一度クリックするかドラッグして、別のフレームを作成します。
- 「配置」コマンドを使用して、テキストファイルを配置します。
- 文字ツール T を使用して、空のフレーム内をクリックします。環境設定ダイアログボックスの「テキスト」セクションで「文字ツールでフレームをテキストフレームに変換」オプションを選択すると、空のフレームがテキストフレームに変換されます。

注意： プレーンテキストフレームをフレームグリッドに変換するには、変換するフレームを選択し、オブジェクト／フレームの種類／フレームグリッドを選択します。

トップへ戻る

テキストフレームの移動とフレームサイズの変更

テキストフレームの移動やフレームサイズの変更を行うには、選択ツールを使用します。

文字ツール から選択ツールに切り替えることなくテキストフレームの移動やフレームサイズの変更を行うには、Ctrl キー（Windows）または Command キー（Macintosh）を押しながらフレームをドラッグします。

テキストフレームの移動

- 選択ツールを使用して、テキストフレームをドラッグします。
- 文字ツールを使用して、Ctrl キー（Windows）または Command キー（Macintosh）を押しながらフレームをドラッグします。キーを放しても文字ツールは選択された状態のままになります。

テキストフレームのサイズ変更

❖ 必要に応じて次の操作を行います。

- 文字ツール T を使用してサイズを変更するには、Ctrl キー（Windows）または Command キー（Macintosh）を押しながらフレームのハンドル（テキストフレーム上の 8 つの小さな四角形）をドラッグします。ドラッグする前にマウスボタンを 1 秒間以上押したままにすると、フレームのサイズ変更と同時にテキストが再構成されます。

  注意： テキストフレームをドラッグする代わりにクリックすると、テキストの選択が解除されるか、テキスト挿入点の位置が変わります。

- 選択ツール を使用してサイズを変更するには、フレームの境界線上にあるハンドルをドラッグします。Ctrl キー（Windows）または Command キー（Macintosh）を押しながらドラッグして、フレーム内のテキストを拡大 / 縮小します（詳しくは、文字の拡大 / 縮小を参照してください）。
- フレームをその内容にすばやく合わせるには、選択ツールを使用してオブジェクトを選択し、ハンドルのいずれかをダブルクリックします。例えば、横組みテキストフレームの中央下のハンドルをダブルクリックすると、フレームの下部がテキストの下部にスナップします。横組みテキストフレームの中央右のハンドルをダブルクリックすると、幅を狭めてフレームサイズいっぱいに合わせる際に高さが保持されます。

  フレーム内のすべてのテキストに合わせて高さや幅を広げるには、オーバーセットテキストフレームまたはフレームグリッド上でハンドルをダブルクリックします。サイズ変更されてもフレームがページに収まらないほどオーバーセットテキストの分量が多い場合には、フレームのサイズ変更は行われません。

- テキストフレームを内容に合わせるには、選択ツールを使用してオブジェクト／オブジェクトサイズの調整／フレームを内容に合わせるを選択します。テキストフレームの下部がテキストの内容に合わせられます。サイズ変更されてもテキストフレームがページに収まらないほどオーバーセットテキストの分量が多い場合には、テキストフレームのサイズ変更は行われません。
- 拡大 / 縮小ツール を使用してサイズを変更するには、ドラッグして、フレームのサイズを変更します（詳しくは、文字の拡大 / 縮小を参照してください）。

トップへ戻る

マスターページでのテキストフレームの使用

新規ドキュメントを作成するときに「マスターにテキストフレーム」チェックボックスを選択すると、ドキュメントのデフォルトのマスターページに空のテキストフレームが配置されます。このとき、マスターページに作成されるテキストフレームには、新規ドキュメント作成時に指定した属性が適用されます。

新規ドキュメント作成時に「マージン・段組」を選択するとプレーンテキストフレームが、「レイアウトグリッド」を選択するとフレームグリッドが作成されます。

注意： 「マスターにテキストフレーム」チェックボックスを選択した場合、テキストフレームはマスターに作成されます。「マージン・段組」を選択した場合、ドキュメントページの外観は変わりませんが、マスター上のマージン内にプレーンテキストフレームが作成されます。ドキュメントページ上から、マスター上に作成されたテキストフレームを利用するためには、Ctrl+Shift キー（Windows）または Command+Shift キー（Macintosh）を押しながらクリックして、マスターから分離させます。このとき、Ctrl キー（Windows）または Command キー（Macintosh）を押すと選択ツールに一時的に変わるツールを使います。それから、文字ツールを選択してテキストフレーム内をクリックし、テキストを入力します。

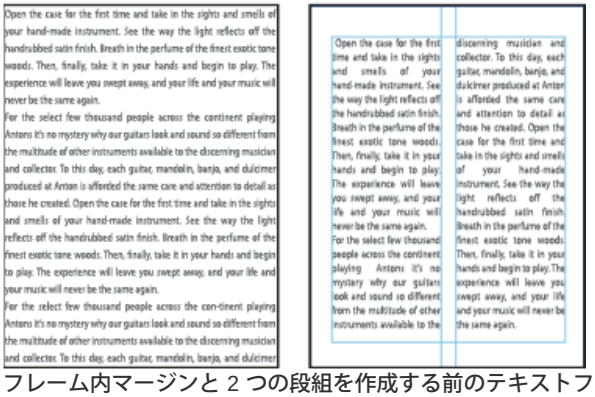
マスターページでテキストフレームを使用する場合は、次の点に留意してください。

- マスターページにテキストフレーム（マスターテキストフレーム）を作成すると、各ドキュメントページにもマスターページのテキストフレームが適用され、テキストの流し込みや入力を行うことができます。さらに多くのバリエーションを必要とする（例えば、ページのフレーム数やフレームの長さが変化する）ドキュメントの場合、「マスターにテキストフレーム」オプションは選択しないでおき、文字ツールを使用してマスター上にテキストフレームを作成します。
- 「マスターにテキストフレーム」チェックボックスの選択にかかわらず、テキストフレームをマスターページに作成して、プレースホルダとして使用できます。これらの空のプレースホルダフレームを連結して、テキストの割り付けの流れを作っておくことも可能です。
- ドキュメントページ上に作成したフレームにテキストを割り付ける操作と同じ手順で、マスターテキストフレームにテキストを割り付けることができます。
- ドキュメントページ上から、マスター上に作成したテキストフレームを利用するためには、Ctrl+Shift キー（Windows）または Command+Shift キー（Macintosh）を押しながらクリックして、マスターテキストフレームをマスターから分離させます。続いて文字ツールを選択してテキストフレーム内をクリックすると、テキストの入力作業を行うことができます。
- スマートテキストのリフロー処理を使用すると、テキストの入力時や編集時に自動的にページを追加または削除できます。デフォルトでは、マスターページに基づく連結テキストフレームの末尾までテキストを入力すると、新しいページが追加され、その新しいテキストフレームで入力を続行できます。スマートテキストのリフロー処理の設定は編集できます。
- ページのマージンを変更する場合、レイアウト調整機能が選択されている場合に限り、新たに設定したマージンがテキストフレームに適用されます。
- 「マスターテキストフレーム」チェックボックスの選択は、テキストの自動流し込み時に新しいページが追加されるかどうかには影響しません。

トップへ戻る

テキストフレームのプロパティの変更

「テキストフレーム設定」コマンドを使用して、テキストフレーム内の段組、テキストの文字揃え、テキストフレームと内部のテキストとのマージン（余白）であるフレーム内マージンを設定することができます。



フレーム内マージンと 2 つの段組を作成する前のテキストフレームと（左）と作成した後（右）

複数のテキストフレームで同じテキストフレームのプロパティを使用する必要がある場合は、オブジェクトスタイルを作成して、これらのテキストフレームに適用することができます。

1. 選択ツール でフレームを選択します。または、文字ツール T でフレームをクリックしてテキスト挿入点を置くか、テキストを選択します。
2. 選択ツールでオブジェクト／テキストフレーム設定を選択するか、テキストフレームを Alt キー（Windows）または Option キー（Macintosh）を押しながらダブルクリックします。
3. テキストフレームの設定を変更して、「OK」をクリックします。

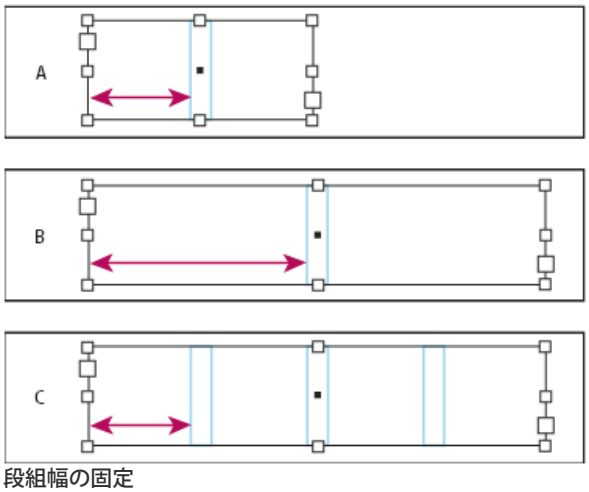
これらのテキストフレームオプションは、テキストボックスのオブジェクトスタイルを定義するときに設定することができます。詳しくは、オブジェクトスタイルを参照してください。

テキストフレームの段組の設定

テキストフレーム設定ダイアログボックスを使用して、テキストフレーム内に段組を作成できます。

テキストフレーム内の段組に対して、不均等な段組の幅を設定することはできません。幅や高さが不均等な段組を作成するには、ドキュメントページまたはマスターページで隣り合う連結したテキストフレームを追加します。

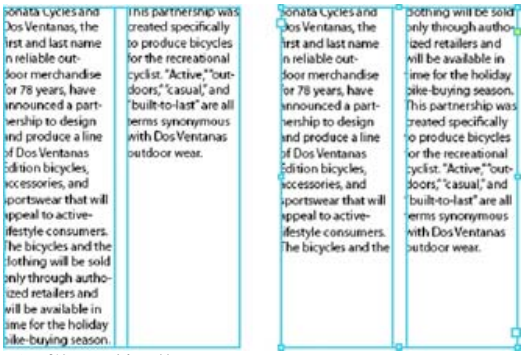
1. 選択ツールでフレームを選択します。または、文字ツールでフレームをクリックしてテキスト挿入点を置くか、テキストを選択します。
2. オブジェクト／テキストフレーム設定を選択します。
3. テキストフレームの段組の数、幅および間隔を指定します。
4. （オプション手順）フレームのサイズを変更するときに段組の幅を維持するには、「固定段間幅」を選択します。このオプションを選択してフレームのサイズを変更すると、段組数が変化しますが、段組の幅は変わりません。



段組幅の固定

A. 元の 2 段のテキストフレーム **B.** 「固定段間幅」を選択せずにテキストフレームのサイズを変更（2 段のまま） **C.** 「固定段間幅」を選択してテキストフレームのサイズを変更（4 段に変化）

5. （オプション手順）「列を揃える」を選択して、複数の段があるテキストフレームでテキストの列の高さを揃えます。



列を揃える前と後

テキストフレームのフレーム内マージンの変更

1. 選択ツールでフレームを選択します。または、文字ツールでフレームをクリックしてテキスト挿入点を置くか、テキストを選択します。
2. オブジェクト／テキストフレーム設定を選択します。
3. 「一般」タブの「フレーム内マージン」セクションで、「上」、「下」、「左」、「右」オプションに、フレームの端からの配置位置を入力します。ページの全方向の間隔を均等にするには、すべての設定を同一にするアイコン をクリックします。

選択したフレームが四角形以外の場合は、「上」、「下」、「左」、「右」オプションの代わりに「内」オプションが使用できるようになります。

先頭ベースライン位置オプション

選択したテキストフレームの先頭ベースライン位置オプションを変更するには、オブジェクト／テキストフレーム設定を選択し、「ベースラインオプション」タブをクリックします。「先頭ベースライン位置」のオフセットメニューには、次のオプションが表示されます。

仮想ボディの高さ 仮想ボディは、フレームの上と先頭ベースライン位置との間隔を決定します。
アセント フォントの「d」の高さがフレーム上部のフレーム内マージンよりも低くなります。
キャップハイト 大文字の最上端をフレーム上部のフレーム内マージンに合わせます。
行送り フレーム内マージンの上端からテキストの 1 行目のベースラインまでの間隔として、テキストの行送り値が使用されます。
X ハイト フォントの「x」の高さがフレーム上部のフレーム内マージンよりも低くなります。
固定 テキスト先頭行のベースラインとフレームの上端までの間隔を指定します。
最小 ベースラインのオフセットの最小値を決めるには、「最小」を設定します。例えば、テキストの行送りが 20H で、オフセットが「行送り」に設定されている場合、使用するオフセット値に行送りよりも小さい値を設定すると行送りが使用され、行送りよりも大きい値を設定するとテキス

トがオフセットされます。

テキストフレームの上辺がグリッドに吸着するようにするには、「行送り」または「固定」を選択します。これによって、テキストフレーム内テキストの先頭ベースラインの位置を制御することができます。フレームグリッドでは、デフォルトのグリッド揃えは「仮想ボディの中央」に設定されています。したがって、行の高さの中央は、仮想ボディの中央にスナップします。通常、テキストがグリッドより大きい場合、自動行取りにより、テキストの中央はグリッドライン間の中央にスナップします。テキストが最初のグリッドボックスの中央にスナップするようにするには、先頭ベースラインの位置設定を使用して、テキストの先頭行の中央を最初のグリッドラインの中央より上に配置します。これにより、行がグリッドにスナップすると、テキストの行の中央は最初のグリッドラインの中央にスナップします。

テキストフレームのベースライングリッドの設定

ドキュメント全体ではなくテキストフレームにベースライングリッドを適用するには、テキストフレーム設定ダイアログボックスを使用します。テキストフレームにベースライングリッドを設定する場合は、次の点に注意してください。

- ドキュメントのベースライングリッドは、独自のベースライングリッドを持つテキストフレームの背面または前面には表示されません。
- フレームのベースライングリッドがフレームグリッドに適用されている場合は、どちらのグリッドも表示され、フレーム内のテキストはフレームベースのベースライングリッドに揃えられます。
- 環境設定ダイアログボックスの「グリッド」セクションで「背面にガイド表示」が選択されている場合、ベースラインは、テキストフレームのベースライングリッド、フレームグリッド、ドキュメントのベースライングリッド、レイアウトグリッドの順序で描画されます。「背面にガイド表示」が選択されていない場合、ベースラインは、ドキュメントベースのベースライングリッド、レイアウトグリッド、フレームベースのベースライングリッド、フレームグリッドの順序で描画されます。

1. 表示／グリッドとガイド／ベースライングリッドを表示を選択して、すべてのベースライングリッドを表示します（テキストフレーム内のベースライングリッドも含む）。
2. テキストフレームを選択するか、テキストフレーム内にテキスト挿入点を置き、オブジェクト／テキストフレーム設定を選択します。

   連結しているすべてのフレームにベースライングリッドを適用する場合は（テキストを含まないフレームも含む）、テキスト内にテキスト挿入点を置き、編集／すべてを選択を選択して、テキストフレーム設定ダイアログボックスでベースライングリッド設定を適用します。
3. 「ベースラインオプション」タブをクリックします。
4. 「ベースライングリッド」で、「カスタムのベースライングリッドを使用」を選択し、次のいずれかの操作を行います。
   始点 相対メニューで選択した設定に応じて、ページの上辺、ページの天マージン、フレームの上辺またはフレーム上部のフレーム内マージンからグリッドをオフセットする値を入力します。

   相対 ベースライングリッドの開始位置を、ページ上部、ページの天マージン、テキストフレーム内の天マージンのいずれを基準にするかを指定します。

   グリッドの間隔 グリッドラインの間隔の値を入力します。通常は、ベースライングリッドにテキストの行が完全に揃うように、本文の行送りと同じ値を入力します。

   カラー グリッドラインのカラーを選択するか、「（レイヤーカラー）」を選択して、テキストフレームが出現するレイヤーと同じカラーを使用します。

テキストフレーム内でベースライングリッドを確認できない場合は、表示／グリッドとガイド／ベースライングリッドを表示を選択して、ベースライングリッドを表示します。「ベースライングリッドを表示」を選択してもベースライングリッドが表示されない場合は、環境設定ダイアログボックスの「グリッド」セクションでベースライングリッドのズーム度限界の値を確認してください。グリッドが見づらい場合は、フレームをズームインしたり、ズーム度限界の値を低くしてみてください。

トップへ戻る

テキストの組み方向の変更

1. テキストフレームを選択します。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - 書式／組み方向／横組みまたは縦組みを選択します。
   - 書式／ストーリーを選択して、ストーリーパネルを表示します。「組み方向」で「横組み」または「縦組み」を選択します。

縦組みのテキストフレームまたはフレームグリッドが横組みに変換されます。または、横組みのテキストフレームまたはフレームグリッドが縦組みに変換されます。この変更を行うと、ストーリーすべてが変更されるため、選択したフレームに連結しているすべてのフレームに影響します。

注意： フレーム内の個々の文字の方向を変更するには、縦中横機能を使用するか、文字パネルの文字回転機能を使用します。

トップへ戻る

テキストフレームの文字数表示

1. 連結したテキストフレーム（ストーリー）内のすべてのテキストをカウントするには、テキストフレーム内をクリックして、テキスト挿入点を置きます。テキストを選択すると、選択されているテキストだけがカウントされます。
2. ウィンドウ／情報を選択して、情報パネルを表示します。

情報パネルには、全角文字、漢字など各文字種の数、欧文単語数、行数、段落数、合計文字数が表示されます。文字数情報は、フレームグリッドの下部にも表示されます。

関連項目

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

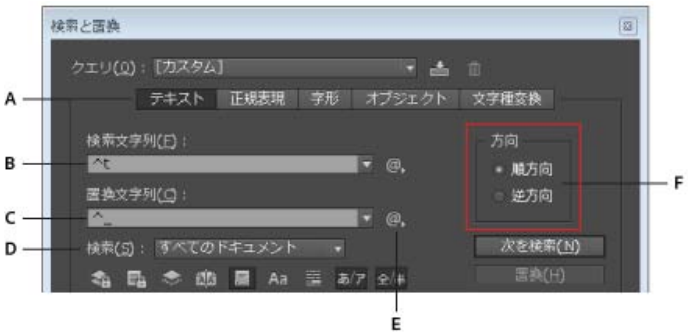
検索と置換

検索と置換の概要
テキストの検索と置換
正規表現式を使用した検索
検索のメタ文字
オブジェクトの検索と置換
字形の検索と置換
フォントの検索と置換
クエリを使用した検索と置換

ページの先頭へ

検索と置換の概要

検索と置換ダイアログボックスには、検索および置換する対象を指定できるタブがあります。



検索と置換ダイアログボックス

A. 検索と置換タブ ***B.*** タブ文字の検索 ***C.*** *EM* ダッシュへの置換 ***D.*** 検索オプション ***E.*** 特殊文字メニュー ***F.*** 順方向検索と逆方向検索

テキスト 特定の文字列、単語、単語グループ、または特定の形式でフォーマットされているテキストを、検索して置換します。また、記号やマーカー、空白文字などの特殊文字を検索して置換することもできます。さらに、ワイルドカードオプションを使用して検索範囲を広げることもできます。

正規表現 テキストやフォーマットを検索して置換するために、パターンベースの高度な検索方法を使用します。

字形 Unicode または GID/CID 値を使用して字形の検索と置換を行います。これはアジア言語で字形の検索と置換を行う場合に特に便利です。

オブジェクト オブジェクトおよびフレーム内のフォーマット効果および属性を検索して置換します。例えば、4 ポイントの線を持つオブジェクトを検索し、その線をドロップシャドウに置換することができます。

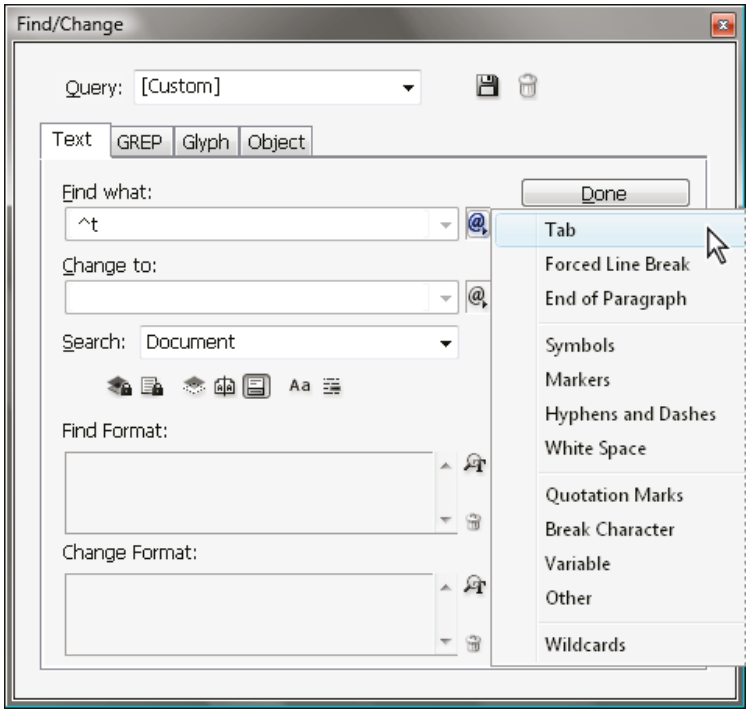
ページの先頭へ

テキストの検索と置換

ドキュメント内のフォントのリスト表示、検索、および置換には、「検索と置換」コマンドではなく、「フォントの検索」コマンドを使用します。

テキストの検索と置換

1. テキストの範囲またはストーリーを検索するには、テキストを選択するか、ストーリー内にテキスト挿入点を置きます。複数のドキュメントを検索するには、ドキュメントを開きます。
2. 編集／検索と置換を選択し、「テキスト」タブをクリックします。
3. 検索メニューで検索範囲を指定し、ロックされたレイヤー、マスターページ、および脚注などのアイテムを検索に含めるアイコンをクリックします。
4. 「検索文字列」テキストボックスで、検索する文字列を次のように指定します。
   - 検索するテキストを入力またはペーストします。
   - タブやスペースなどの特殊文字を検索または置換するには、「検索文字列」テキストボックスの右側にあるポップアップメニューで代理文字（メタ文字）を選択します。「数字」や「文字」などのワイルドカードオプションを選択することもできます。



タブなどの特殊文字を検索するには、メタ文字を使用します。

   - 定義済みのクエリを使用して、テキストを検索および置換します（詳しくは、クエリを使用した検索と置換を参照してください）。
5. 「置換文字列」テキストボックスに置換するテキストを入力するか、ペーストします。「置換文字列」テキストボックスの右側にあるポップアップメニューで代理文字を選択することもできます。
6. 「検索」をクリックします。
7. 検索を継続するには、「次を検索」、「置換」（現在の検索結果を置換します）、「すべてを置換」（置換した数を示すメッセージを表示します）または「置換して検索」（現在の検索結果を置換して次の置換候補を検索します）をクリックします。
8. InDesign の検索と置換ダイアログボックスに、「順方向」と「逆方向」の 2 つの検索方向ボタンができました。順方向検索がデフォルトで有効になっていますが、逆方向に切り替えて検索の向きを逆にすることができます。 新機能は、「テキスト」、「正規表現」、「字形」の各タブでの文字列検索に便利です。
9. 「終了」をクリックします。

期待した検索結果を得られなかった場合は、「検索形式の設定」がすべて消去されていることを確認します。検索対象を拡大する必要がある場合もあります。例えば、ドキュメントではなく選択範囲やストーリーのみを検索対象にしているような場合です。また、ロックされたレイヤー、脚注、非表示の条件テキストなどのアイテムに表示されているテキストが検索対象から除外されている場合もあります。

テキストの置換を取り消すには、編集／テキストの置換を取り消しを選択します。

検索と置換ダイアログボックスを開かずに、直前に検索したフレーズを続けて検索するには、編集／次を検索を選択します。また、検索と置換ダイアログボックスには以前の検索文字列が保存されています。オプションの右側にあるメニューから検索文字列を選択することができます。

フォーマットされたテキストの検索と置換

1. 編集／検索と置換を選択します。
2. 「検索形式」および「置換形式」の各オプションが表示されていない場合は、「詳細設定」をクリックします。逆に、「基本設定」をクリックして、基本オプションを表示できます。
3. 「検索形式」ボックスをクリックするか、「検索形式の設定」セクションの右側にある検索する属性を指定アイコン をクリックします。
4. 検索形式の設定ダイアログボックスの左側にあるリストから、検索するフォーマットの種類を選択し、その種類のフォーマット属性を指定して、「OK」をクリックします。

   OpenType フォントに関するオプションのいくつかは、「OpenType 機能」と「基本文字形式」（位置ポップアップメニュー）の両方のカテゴリーで表示されます。OpenType およびその他のフォーマット属性について詳しくは、InDesign ヘルプで関連するトピックを検索してください。

   注意： フォーマットのみを検索または置換するには、「検索文字列」または「置換文字列」テキストボックスを空白のままにします。
5. 検索されたテキストにフォーマットを適用するには、「置換形式」ボックスをクリックするか、「置換形式の設定」セクションの変更する属性を指定アイコン をクリックします。次に、フォーマットの種類を選択し、フォーマット属性を指定して、「OK」をクリックします。
6. 「検索」と「置換」ボタンを使用して、テキストをフォーマットします。

検索するフォーマットを指定すると、「検索文字列」または「置換文字列」テキストボックスの上に情報アイコンが表示されます。このアイコンは、検索するフォーマット属性が設定されているため、それに応じて検索や置換が制限されることを示しています。

「検索形式」または「置換形式」セクションで指定した設定を一度に削除するには、それぞれのセクションの「指定した属性を消去」ボタンをクリックします。

一般的な検索と置換の方法

ワイルドカード検索 「数字」や「任意の空白文字」などのワイルドカードを指定して、検索対象を拡大します。例えば、「検索文字列」テキストボックスに「s^?ng」と入力すると、「sing」、「sang」、「song」、「sung」など、「s」で始まり「ng」で終わる単語が検索されます。ワイルドカード文字を入力することも、「検索文字列」テキストボックスの横にあるポップアップメニューのワイルドカードサブメニューからオプションを選択することもできます。

クリップボードを使用したメタ文字検索 EM ダッシュや箇条書き記号などのメタ文字を検索する場合は、先にその文字をコピーしておいて「検索文字列」テキストボックスにペーストすれば、メタ文字を入力する手間を省くことができます。 InDesign では、ペーストした特殊文字が、対応するメタ文字に自動的に変換されます。

クリップボードの内容で置換 クリップボードにコピーした書式付きまたは書式なしの内容で検索アイテムを置換することができます。コピーしたグラフィックでテキストを置換することもできます。アイテムをコピーしたら、検索と置換ダイアログボックスで、「置換文字列」テキストボックスの右側にあるポップアップメニューのその他サブメニューからオプションを選択します。

不必要なテキストの検索と削除 不必要なテキストを削除するには、削除したいテキストを「検索文字列」テキストボックスで指定し、「置換文字列」テキストボックスは空のままにします（このテキストボックスでフォーマットが設定されていないことを確認してください）。

XML タグ 検索するテキストに XML タグを適用できます。

順方向または逆方向への検索 順方向または逆方向に検索できます。これにより、検索時にテキストをスキップして先に進んでしまった場合にそのテキストを検索できます。 したがって、純方向と逆方向の検索は、もう一度検索するよりも速くテキストを見つけるために役立ちます。

テキストの検索と置換の検索オプション

検索メニュー 検索の範囲を指定するオプションが含まれます。

ドキュメント

ドキュメント全体で検索を実行します。開いているすべてのドキュメントで検索を実行する場合は「すべてのドキュメント」を選択します。

ストーリー

選択しているフレーム内のすべてのテキスト（他の連結テキストフレーム内のテキストとオーバーセットテキストを含む）に対して検索を実行します。また、選択されているすべてのフレーム内で使用されている複数のストーリー検索を実行する場合にも、ストーリーを選択します。このオプションは、テキストフレームが選択されているか、テキスト挿入点が置かれている場合にのみ表示されます。

ストーリーの最後

テキスト挿入点から検索を開始します。このオプションは、テキスト挿入点が置かれている場合にのみ表示されます。

選択部分

選択されたテキストのみを検索します。このオプションは、テキストが選択されている場合にのみ表示されます。

ロックされたレイヤーを含める　レイヤーオプションダイアログボックスを使用してロックされているレイヤーのテキストを検索します。ロックされたレイヤーのテキストを置換することはできません。



ロックされたストーリーを含める　InCopy ワークフローの一部としてチェックアウトされているストーリーのテキストを検索します。ロックされたストーリーのテキストを置換することはできません。



非表示のレイヤーを含める　レイヤーオプションダイアログボックスを使用して非表示にされたレイヤーのテキストを検索します。非表示レイヤー上のテキストが検索されると、そのテキストが存在する場所がハイライト表示されますが、テキストそのものは表示されません。非表示レイヤー上のテキストは置換できます。

非表示条件のテキストは常に検索対象から除外されます。



マスターページを含める　マスターページのテキストを検索します。



脚注を含める　脚注テキストを検索します。



大文字と小文字を区別　「検索文字列」テキストボックスに入力されている大文字と小文字が完全に一致する単語だけを検索します。例えば、「*PrePress*」を検索する場合、「*Prepress*」、「*prepress*」、「*PREPRESS*」は対象外になります。

単語として検索　検索文字列が別の単語の一部である場合は、その単語を無視します。例えば、「*any*」を単語として検索する場合、「*many*」は対象外になります。



ページの先頭へ

正規表現式を使用した検索

検索と置換ダイアログボックスの「正規表現」タブでは、長いドキュメントや多数の開いているドキュメントで英数字文字列を検索する正規表現式を作成できます。正規表現のメタ文字を手動で入力するか、「検索のための特殊文字」リストから選択できます。正規表現検索は、デフォルトでは大文字と小文字が区別されます。

正規表現のリソースの一覧については、InDesign Secrets による InDesign GREP（英語）を参照してください。

1. 編集／検索と置換を選択し、「正規表現」タブをクリックします。
2. ダイアログボックスの下部で、検索ポップアップメニューから検索範囲を指定し、ロックされたレイヤー、マスターページ、脚注その他のアイテムを検索の対象とするアイコンをクリックします。
3. 「検索文字列」テキストボックスで、次のいずれかの操作を行って正規表現式を作成します。
   - 検索式を手動で入力します（詳しくは、検索のメタ文字を参照してください）。
   - 「検索文字列」テキストボックスの右にある検索のための特殊文字アイコンをクリックし、位置、繰り返し、一致、修飾子、および Posix サブメニューから、検索式の作成に役立つオプションを選択します。
4. 「置換文字列」テキストボックスに置換するテキストを入力するか、ペーストします。

5. 「検索」をクリックします。
6. 検索を継続するには、「次を検索」、「置換」（現在の検索結果を置換します）、「すべてを置換」（すべての検索結果を置換し、置換した数を示すメッセージを表示します）または「置換して検索」（現在の検索結果を置換して次の置換候補を検索します）をクリックします。
7. InDesign の検索と置換ダイアログボックスに、「順方向」と「逆方向」の 2 つの検索方向ボタンができました。順方向検索がデフォルトで有効になっていますが、逆方向に切り替えて検索の向きを逆にすることができます。 新機能は、「テキスト」、「正規表現」、「字形」の各タブでの文字列検索に便利です。

正規表現スタイルを使用して、正規表現式に合致するテキストに文字スタイルを適用することもできます。正規表現式の動作を確認するには、段落スタイルを利用すると便利です。検索する例を段落に追加し、正規表現スタイルダイアログボックスで文字スタイルと正規表現式を指定します。プレビューを使用すると、すべての例に対応するように式を編集することができます。

正規表現の作成方法

この節では、正規表現を作成する際のヒントを紹介します。

- 「正規表現」タブの検索機能と「テキスト」タブの検索機能は似ていますが、どちらのタブを使用するかによって入力するコードが異なることに注意してください。一般に、「テキスト」タブのメタ文字は「^」（例えば、タブ文字の場合は「^t」）で始まり、「正規表現」タブのメタ文字は「¥」（例えば、タブ文字の場合は「¥t」）で始まります。ただし、すべてのメタ文字がこの規則に従うわけではありません。例えば段落改行の場合、「テキスト」タブでは「^p」となり、「正規表現」タブでは「¥r」となります。「テキスト」タブおよび「正規表現」タブで使用されるメタ文字の一覧については、検索のメタ文字を参照してください。
- 正規表現で記号の意味を持つ文字を検索するには、その文字の前に円記号を入力して、その後の文字がリテラルであることを示します。例えば、ピリオド（.）は、正規表現検索では任意の文字を検索します。実際のピリオドを検索するためには、「¥.」を入力します。
- 頻繁に実行したり他のユーザーと共有したりする正規表現検索は、クエリとして保存できます（詳しくは、クエリを使用した検索と置換を参照してください）。
- 検索文字列を副表現に分割する場合は、括弧を使用します。例えば、「cat」または「cot」を検索するには、「c(a|o)t」という文字列を使用します。括弧は、グルーピングで識別する場合に特に有効です。例えば、「the (cat) and the (dog)」という文字列を検索する場合、「見つかったテキスト 1」として「cat」、「見つかったテキスト 2」として「dog」が識別されます。「見つかったテキスト」表現（「見つかったテキスト 1」として「$1」など）を使用して、見つかったテキストの一部のみを変更することができます。

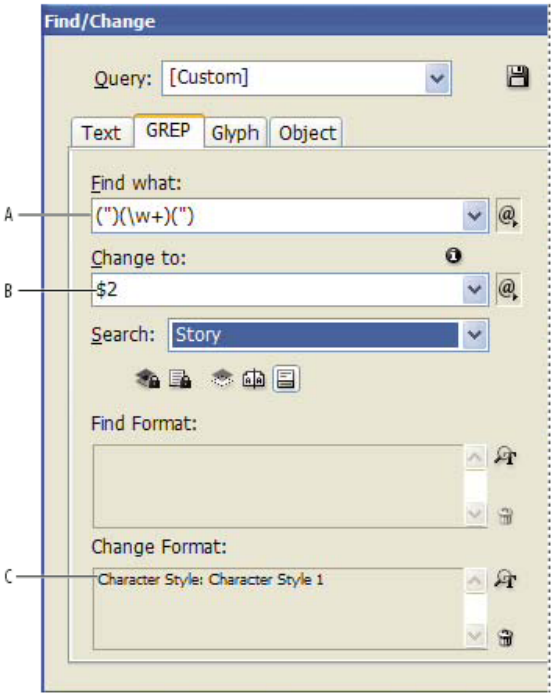
正規表現検索の例

次の例を参考にして正規表現を活用してください。

例 1：引用符で囲まれたテキストの検索

引用符で囲まれた単語（例えば「"Spain"」）を検索し、引用符を削除して単語にスタイルを適用するとします（つまり、「"Spain"」ではなく「*Spain*」）。表現「(")(¥w+)(")」は、括弧（）で指定された 3 つのグルーピングを含んでいます。1 つ目と 3 つ目のグルーピングは任意の引用符を検索し、2 つ目のグルーピングは 1 つ以上の文字を検索します。

これらのグルーピングで参照するには、「見つかったテキスト」表現を使用します。例えば、「$0」はすべての見つかったテキストを参照し、「$2」は 2 つ目のグルーピングのみを参照します。「置換文字列」フィールドに「$2」を指定し、「置換形式」フィールドに文字スタイルを指定することで、引用符で囲まれた単語を検索し、その単語を文字スタイルで置換することができます。「$2」しか指定していないため、「$1」と「$3」のグルーピングは削除されます（「置換文字列」フィールドに「$0」または「$1$2$3」を指定すると、引用符にも文字スタイルが適用されます）。



正規表現の例

A. 引用符で囲まれているすべての単語文字を検索 ***B.*** *2* つ目のグルーピング（単語）に文字スタイルが適用され、*1* つ目と *3* つ目のグルーピング（開く引用符と閉じる引用符）は削除される ***C.*** 指定された文字スタイル

この例では、引用符で囲まれている 1 つの単語を検索しています。引用符で囲まれているフレーズを検索するには、ワイルドカード表現（「¥s*.*¥w*¥d*」など）を使用します。ワイルドカード表現では、スペース、文字、単語文字および数字を検索することができます。

例 2：電話番号

InDesign のクエリメニューには、検索プリセットが多数用意されています。例えば、次のような電話番号変換クエリを選択することができます。

¥(?(¥d¥d¥d)¥)?[-.]?(¥d¥d¥d)[-.]?(¥d¥d¥d¥d)

米国の電話番号は、「206-555-3982」、「(206) 555-3982」、「206.555.3982」、「206 555 3982」のように、様々な形式で表されます。上記の文字列では、これらすべての形式が検索されます。電話番号の最初の 3 桁（¥d¥d¥d）は括弧で囲まれている可能性があるため、「¥(?」と「¥)?」のように、括弧の後に疑問符を使用します。円記号（¥）は、実際の括弧を検索していて、副表現の一部ではないことを表します。括弧 [ ] は、間に含まれるすべての文字を検索します。この場合、[-.] は、ハイフン、ピリオドまたはスペースを検索します。括弧の後の疑問符は、検索時に括弧内の文字が省略可能であることを示します。最後に、括弧で囲まれた数字は、「置換文字列」フィールドで参照するグルーピングを示します。

「置換文字列」フィールドのグルーピング参照は、目的に応じて編集することができます。例えば、次の表現を使用できます。

206.555.3982 = $1.$2.$3

206-555-3982 = $1-$2-$3

(206) 555-3982 = ($1) $2-$3

206 555 3982 = $1 $2 $3

正規表現検索の追加例

さらに正規表現検索について学習するには、この表の例を参考にしてください。

表現	検索文字列	サンプルテキスト	一致（太字）
文字クラス [ ]	[abc] 文字「a」、「b」または「c」を検索します。	Maria cuenta bien.	M**a**ri**a** c**u**ent**a** b**i**en.

段落の始まり ^	^~_.+ EM ダッシュ（~_）の後に任意の文字（.）が 1 回以上（+）続く文字列がある段落の始まり（^）を探します。	"We saw—or at least we think we saw—a [illegible]	"We saw—or at least we think we saw—a **M** ダッシュ（~_）の後に任意の文字（.）が 1 回以上（+）続く文字列がある段落の始まり（^）を探します。
否定先読み (?!パターン)	InDesign (?!CS.*?) 否定先読みでは、指定したパターン以外で一致する文字列を検索します。	InDesign, InDesign 2.0, InDesign CS, and InDesign CS2	**InDesign**, **InDesign** 2.0, InDesign CS, an **InDesign** CS2
肯定先読み (?=パターン)	InDesign (?=CS.*?) 肯定先読みでは、指定したパターンが後ろに続く文字列のみを検索します。 同様に否定後読み「(?<!パターン)」および肯定後読み「(?<=パターン)」パターンも使用できます。	InDesign, InDesign 2.0, InDesign CS, and InDesign CS2	**InDesign**, **InDesign** 2.0, **InDesign** CS, an **InDesign** CS2
グルーピング ( )	(quick) (brown) (fox)	The quick brown fox jumps up and down	The **quick brown fox** jumps up and down 見つかったすべてのテキスト = quick brow
括弧のマーキングなし (?:表現)	(quick) ($:brown) (fox)	The quick brown fox jumps up and down	The **quick brown fox** jumps up and down 見つかったすべてのテキスト = quick brow
大文字と小文字を区別しない - オン (?i)	(?i)apple 「(?i:apple)」も使用できます。	Apple apple APPLE	**Apple apple APPLE**
大文字と小文字を区別しない - オフ (?-i)	(?-i)apple	Apple apple APPLE	Apple **apple** APPLE
複数行 - オン (?m)	(?m)^¥w+ この例では、行頭（^）にある 1 つ以上（+）の文字（¥w）を検索します。「(?m)」は、見つかったテキストに (?m)^¥w は、各段落の先頭を検索します。(?-m)^¥w は、ストーリーの先頭のみを検索します。	One Two Three Four Five Six Seven Eight	**One Two Three Four Five Six Seven Ei**
複数行 - オフ (?-m)	(?-m)^¥w+	One Two Three Four Five Six Seven Eight	**One** Two Three Four Five Six Seven Eigh
単一行 - オン (?s)	(?s)c.a 文字「c」と「a」の間にあるすべての文字（.）を検索します。「(?s)」は、次の行にかかる文字も含めて検索し (.) は、段落改行以外のすべてを検索します。(?s)(.) は、段落改行も含めてすべてを検索します。	abc abc abc abc	ab**c a**b**c a**b**c a**bc
単一行 - オフ	(?-s)c.a	abc abc abc abc	ab**c a**bc ab**c a**bc
繰り返し（回数） { }	b¥{3¥} - 3 回 b(3,} - 3 回以上 b{3,}? - 3 回以上（最小一致） b{2,3} - 2 回以上 3 回以下 b{2,3}? - 2 回以上 3 回以下（最小一致）	abbc abbbc abbbbc abbbbbc	abbc a**bbb**c a**bbb**bc a**bbb**bbc abbc a**bbb**c a**bbbb**c a**bbbbb**c abbc a**bbb**c a**bbb**bc a**bbb**bbc a**bb**c a**bbb**c a**bbb**bc a**bbb**bbc a**bb**c a**bb**bc a**bb***bb*c a**bb***bb*bc

ページの先頭へ

検索のメタ文字

メタ文字は、検索を実行するときに文字または記号の代わりに使用する文字です。検索と置換ダイアログボックスの「テキスト」セクションにあるメタ文字はカレット（^）で始まり、「正規表現」セクションにあるメタ文字はチルド（~）または円記号（¥）で始まります。メタ文字は、検索と置換ダイアログボックスの「テキスト」タブまたは「正規表現」タブで入力できます。

検索文字列をクエリとして保存することで、句読法エラーを修正する時間を節約できます。

文字：	「テキスト」タブのメタ文字：	「正規表現」タブのメタ文字：

タブ文字	^t	\t
段落の終わり	^p	\r
強制改行	^n	\n
任意のページ番号	^#	~#
現在のページ番号	^N	~N
次ページ番号	^X	~X
前ページ番号	^V	~V
* 任意の変数	^v	~v
セクションマーカー	^x	~x
* アンカー付きオブジェクトマーカー	^a	~a
* 脚注参照マーカー	^F	~F
* 索引マーカー	^I	~I
ビュレット	^8	~8
中点	^5	~5
カレット	^^	\^
バックスラッシュ	\	\\
著作権記号	^2	~2
省略記号	^e	~e
チルド	~	\~
段落記号	^7	~7
登録商標記号	^r	~r
セクション記号	^6	~6
商標記号	^d	~d
始め括弧	(	\(
終わり括弧	)	\)
始め大括弧	{	\{
終わり大括弧	}	\}
始めかぎ括弧	[	\[
終わりかぎ括弧	]	\]
EM ダッシュ	^_	~_
EN ダッシュ	^=	~=
任意ハイフン	^-	~-
分散禁止ハイフン	^~	~~

全角スペース	^(	~(
EM スペース	^m	~m
EN スペース	^>	~>
1/3 スペース	^3	~3
1/4 スペース	^4	~4
1/6 スペース	^%	~%
フラッシュスペース	^f	~f
極細スペース	^|	~|
分散禁止スペース	^s	~s
分離禁止スペース（固定幅）	^S	~S
細いスペース	^<	~<
数字の間隔	^/	~/
句読点等の間隔	^.	~.
^ クリップボードの内容、書式設定あり	^c	~c
^ クリップボードの内容、書式設定なし	^C	~C
任意の二重引用符	"	"
任意の一重引用符	'	'
半角二重引用符	^"	~"
左二重引用符	^{	~{
右二重引用符	^}	~}
半角一重引用符	^'	~'
左引用符	^[	~[
右引用符	^]	~]
標準強制改行	^b	~b
改段	^M	~M
改フレーム	^R	~R
改ページ	^P	~P
奇数改ページ	^L	~L
偶数改ページ	^E	~E
任意の改行	^k	~k
右インデント タブ	^y	~y
「ここまでインデント」文字	^i	~i
先頭文字スタイルの終了文字	^h	~h

結合なし	^j	~j
* ランニングヘッダー（段落スタイル）変数	^Y	~Y
* ランニングヘッダー（文字スタイル）変数	^Z	~Z
* カスタムテキスト変数	^u	~u
* 最終ページ番号変数	^T	~T
* 章番号変数	^H	~H
* 作成日変数	^S	~S
* 修正日変数	^o	~o
* 出力日変数	^D	~D
* ファイル名変数	^l（小文字の L）	~l（小文字の L）
* 数字	^9	¥d
* 数字以外の文字		\D
* 欧文アルファベット文字	^$	[¥l¥u]
* 文字	^?	.（置換文字列にピリオドを挿入する）
* ホワイトスペース（すべてのスペースまたはタブ）		¥s（置換文字列にスペースを挿入する）
* スペース以外の文字		\S
* 任意の単語文字		¥w
* 単語文字以外の文字		\W
* 任意の大文字		¥u
* 大文字以外の文字		\U
* 任意の小文字		¥l
* 小文字以外の文字		\L
^ 見つかったすべてのテキスト		$0
見つかったテキスト 1 ～ 9		$1（3 つ目のグルーピングの場合は「$3」のように、
* 漢字	^K	~K
* 単語の始まり		\<
* 単語の終わり		\>
* 単語の境界		\b
* 単語の境界以外		\B
* 段落の始まり		^
* 段落の終わり [位置]		$
* 0 または 1 回		?
* 0 回以上		*

* 1 回以上		+
* 0 または 1 回（最小一致）		??
* 0 回以上（最小一致）		*?
* 1 回以上（最小一致）		+?
* 副表現のマーキング		( )
* 副表現のマーキングなし		(?:)
* 文字セット		[ ]
* または		|
* 肯定後読み		(?<=)
* 否定後読み		(?<!)
* 肯定先読み		(?=)
* 否定先読み		(?!)
* 大文字と小文字を区別しない - オン		(?i)
* 大文字と小文字を区別しない - オフ		(?-i)
* 複数行 - オン		(?m)
* 複数行 - オフ		(?-m)
* 単一行 - オン		(?s)
* 単一行 - オフ		(?-s)
* 任意の英数字		[[:alnum:]]
* 任意のアルファベット文字		[[:alpha:]]
* 任意の空白文字（スペースまたはタブ）		[[:blank:]]
* 任意の制御文字		[[:control:]]
* 任意のグラフィック文字		[[:graph:]]
* 任意の印刷可能文字		[[:print:]]
* 任意の句読点文字		[[:punct:]]
* コードが 255 より大きい任意の文字（広幅特徴を持つクラスのみに適用）		[[:unicode:]]
* 0 ～ 9、a ～ f および A ～ F の任意の 16 進数字		[[:xdigit:]]
* 特定の字形セットの任意の文字（a、à、á、â、ã、ä、å、A、À、Á、Â、Ã、Ä、Å など）		[[=a=]]

*「検索文字列」テキストボックスだけに入力できます。「置換文字列」テキストボックスには入力できません。

^「置換文字列」テキストボックスには入力できますが、「検索文字列」テキストボックスには入力できません。

ページの先頭へ

オブジェクトの検索と置換

「検索と置換」コマンドを使用すれば、オブジェクト、グラフィックフレーム、およびテキストフレームに適用された属性と効果を検索して置換できます。例えば、ドロップシャドウに均等カラー、透明、およびオフセット間隔を適用する場合は、「検索と置換」コマンドを使用して、ドキュメント全体でドロップシャドウの検索と置換を行うことができます。

1. 編集／検索と置換を選択します。
2. 「オブジェクト」タブをクリックします。
3. 「検索オブジェクト形式」ボックスをクリックするか、検索する属性を指定アイコン をクリックします。
4. 検索オブジェクト形式オプションダイアログボックスの左側にあるリストから、検索するフォーマットの種類を選択し、その種類のフォーマット属性を指定して、「OK」をクリックします。

   検索するカテゴリーが適切な状態であることを確認します。効果カテゴリーごとに 3 つの状態（有効、無効、または無視）のいずれか 1 つを使用できます。例えば、ドロップシャドウをオンに設定すると、ドロップシャドウフォーマットが検索の対象となり、ドロップシャドウをオフに設定すると、ドロップシャドウフォーマットが無効であるオブジェクトが検索されます。ドロップシャドウを無視に設定すると、ドロップシャドウが検索対象外のままとなります。
5. 検索されたオブジェクトにフォーマットを適用するには、「置換オブジェクト形式」ボックスをクリックするか、「置換形式の設定」セクションの変更する属性を指定アイコン をクリックします。次に、フォーマットの種類を選択し、フォーマット属性を指定して、「OK」をクリックします。
6. 「検索と置換」ボタンをクリックして、オブジェクトをフォーマットします。

ページの先頭へ

字形の検索と置換

検索と置換ダイアログボックスの「字形」セクションは、異体字など、同じ Unicode 値を他の同様な字形と共有する字形を置換する場合に特に便利です。

字形の検索と変更のわかりやすい例については、InDesign Secrets による Finding and Changing Glyphs（英語）を参照してください。

1. 編集／検索と置換を選択します。
2. ダイアログボックスの下部で、検索メニューから範囲を指定し、ロックされたレイヤー、マスターページ、および脚注などのアイテムを検索の対象とするかどうかを指定するアイコンをクリックします。
3. 「字形の検索」で、その字形のフォントファミリとフォントスタイルを選択します。

   フォントファミリメニューには、現在のドキュメントのテキストに適用されているフォントのみが表示されます。使用されていないスタイルのフォントは表示されません。
4. 次のいずれかの操作を行って、検索する字形を「字形」ボックスに入力します。
   - 「字形」ボックスの横にあるボタンをクリックしてから、パネル上の字形をダブルクリックします。このパネルは字形パネルと同様に機能します。
   - Unicode または GID/CID を選択し、字形のコードを入力します。

     他の方法を使用して、検索する字形を「字形」ボックスに入力することもできます。ドキュメントウィンドウで字形を選択し、コンテキストメニューから「検索に選択した字形を読み込み」を選択するか、字形パネルで字形を選択してコンテキストメニューから「検索に字形を読み込み」を選択します。
5. 「字形の置換」で、検索する字形を入力したときと同じ方法で代替字形を入力します。
6. 「検索」をクリックします。
7. 検索を継続するには、「次を検索」、「置換」（最後に見つかった字形を置換します）、「すべてを置換」（置換した数を示すメッセージを表示します）または「置換して検索」（現在の検索結果を置換して次の置換候補を検索します）をクリックします。
8. InDesign の検索と置換ダイアログボックスに、「順方向」と「逆方向」の 2 つの検索方向ボタンができました。順方向検索がデフォルトで有効になっていますが、逆方向に切り替えて検索の向きを逆にすることができます。 新機能は、「テキスト」、「正規表現」、「字形」の各タブでの文字列検索に便利です。
9. 「終了」をクリックします。

フォントの検索と置換

ドキュメントで使用しているフォントを検索してリスト表示するには、書式／フォント検索コマンドを使用します。検索したフォント（配置したグラフィック内で使用しているフォントを除く）は、システムで利用可能な他のフォントに置き換えることができます。テキストスタイルの一部であるフォントも置換可能です。次の点に注意してください。

- 同一ドキュメント上では、同じフォントを何回使用していても、フォントの検索ダイアログボックスにリスト表示されるフォント名は 1 つですが、配置したグラフィックで使用している場合は、各グラフィックごとにフォント名がリスト表示されます。例えば、ドキュメント上で同じフォントを 3 箇所で使用し、配置した 3 つのグラフィックでも使用している場合、そのフォントはフォントの検索ダイアログボックスには 4 つがリスト表示されます（ドキュメント上のテキストに対する使用に対して 1 つ、配置した各グラフィックでの使用に対して 3 つ）。フォントがグラフィックに完全に埋め込まれていない場合、フォント検索ダイアログボックスにフォント名が表示されない可能性があります。
- ストーリーエディターウィンドウでは、書式／フォント検索コマンドは使用できません。
- フォント検索ダイアログボックスには、Type 1 フォント、配置されたグラフィック、TrueType フォント、OpenType フォント、環境に無いフォント のような、フォントの種類や状態を区別するアイコンが表示されます。
- 合成フォントを検索および置換することはできますが、合成フォントの一部であるコンポーネントフォントを置換することはできません。
- 書式／フォント検索を使用すると、ドキュメント上のテキストに設定されているフォントと、配置したグラフィックで使用されているフォントを検討して、統一性のある出版物を作成することができます。特定のテキストの属性、文字またはスタイルを検索して置換するには、編集／検索と置換を使用します。

1. 書式／フォント検索を選択します。
2. 「ドキュメントのフォント」リストから 1 つまたは複数のフォント名を選択します。
3. 次のいずれかの操作を行います。
   - リストから選択したフォントがドキュメント内で一番最初に使われているテキストを検索するには、「最初を検索」ボタンをクリックします。そのフォントを使用しているテキストがドキュメント上で選択されます。選択したフォントが配置したグラフィックで使用されていたり、リストから複数のフォントを選択した場合は、「最初を検索」ボタンは使用できません。
   - グラフィックアイコン が付いたフォントが使用されている、配置したグラフィックを選択するには、「グラフィック検索」ボタンをクリックします。テキスト同様に、そのフォントが使用されているグラフィックがドキュメント上で選択されます。グラフィックアイコンが付いていないフォントを選択した場合や、リストから複数のフォントを選択した場合は、「グラフィック検索」は使用できません。
4. 選択したフォントの詳細を表示するには、「詳細情報」ボタンをクリックします。詳細情報を非表示にするには、「基本情報」ボタンをクリックします。リストから複数のフォントを選択した場合は、「情報」セクションには何も表示されません。

   フォントの種類の情報が含まれていないグラフィックを選択した場合、「情報」の「タイプ」欄に「不明」と表示されます。また、ビットマップグラフィック（TIFF 画像など）のフォントはテキストデータではないため、リストには表示されません。
5. フォントを置換するには、置換に使用するフォントを「次で置換」で指定し、次のいずれかの操作を行います。
   - 選択したフォントの検索結果を 1 つだけ置換するには、「置換」をクリックします。このボタンは、リストで複数のフォントが選択されている場合は使用できません。
   - 現在の検索結果を置換し、さらに次の置換候補を検索するには、「変更/検索」ボタンをクリックします。このボタンは、リストで複数のフォントが選択されている場合は使用できません。
   - リストから選択したフォントが使用されているすべてのテキストを置換するには、「全置換」ボタンをクリックします。検索対象のフォントを使用した段落スタイルまたは文字スタイルを再定義するには、すべてを置換するときに「スタイル再定義」を選択します。

   検索したフォントをすべて置換し、使用例がドキュメントからなくなると、そのフォント名は「ドキュメントのフォント」リストから削除されます。

   注意： 配置したグラフィックのフォントを置換するには、グラフィックを作成したアプリケーションでそのグラフィックを開いて修正し、リンクパネルを使用してリンクを更新します。
6. 「置換」ボタンをクリックした場合は、「次を検索」ボタンをクリックして、フォントの次の使用例を検索します。
7. 「完了」をクリックします。

ドキュメントのプリフライト中に、フォント検索ダイアログボックスを開くことができます。プリフライトダイアログボックスで、「フォント」パネルに切り替え、「フォント検索」ボタンをクリックします。

フォントが表示されるシステムフォルダーを表示するには、フォント検索ダイアログボックスでフォントを選択し、「エクスプローラーで表

示」（*Windows*）または「*Finder* で表示」（*Mac OS*）を選択します。

ページの先頭へ

クエリを使用した検索と置換

クエリを使用または作成することで、テキスト、オブジェクト、および字形を検索して置換できます。クエリとは、定義された検索および置換操作のことです。InDesign は、引用符の形式を変更するためのいくつかのクエリと電話番号形式（ドット形式）の変更など便利なアクションをプリセットとして備えています。作成したクエリを保存することで、何度でもそのクエリを実行したり、また他のユーザーと共有したりすることができます。

クエリを使用した検索

1. 編集／検索と置換を選択します。
2. クエリリストからクエリを選択します。

   クエリは種類ごとにグループ化されています。
3. 検索メニューで、検索する範囲を指定します。

   検索範囲の指定はクエリと共に保存されません。
4. 「検索」をクリックします。
5. 検索を継続するには、「次を検索」、「置換」（最後に見つかったテキストや句読点を置換します）、「すべてを置換」（置換した数を示すメッセージを表示します）または「置換して検索」（テキストや句読点を置換して検索を続行します）をクリックします。

検索クエリを選択した後に、検索結果を向上させるよう調整設定できます。

クエリの保存

クエリを再実行したり他のユーザーと共有したりしたい場合は、検索と置換ダイアログボックスでクエリを保存します。保存したクエリの名前は、検索と置換ダイアログボックスのクエリリストに表示されます。

1. 編集／検索と置換を選択します。
2. 「テキスト」、「正規表現」、その他のタブを選択して、必要な検索を開始します。
3. 検索メニューで、ロックされたレイヤー、マスターページ、および脚注などのアイテムを検索の対象とするかどうかを指定するアイコンをクリックします。

   これらのアイテムは保存したクエリに含まれます。ただし、検索の範囲の指定はクエリには含まれません。
4. 「検索文字列」および「置換文字列」フィールドを定義します（詳しくは、検索のメタ文字および正規表現式を使用した検索を参照してください）。
5. 検索と置換ダイアログボックスの「クエリを保存」ボタンをクリックし、クエリの名前を入力します。

既存のクエリの名前を使用すると、それを置き換えるかどうかの確認メッセージが表示されます。既存のクエリを更新する場合は、「はい」をクリックします。

クエリの削除

- クエリリストでそのクエリを選択し、「クエリを削除」ボタンをクリックします。

クエリの読み込み

カスタマイズしたクエリは XML ファイルとして保存されます。カスタマイズしたクエリの名前は、検索と置換ダイアログボックスのクエリリストに表示されます。

- 与えられたクエリを読み込んでクエリリストに表示されるようにするには、クエリファイルを適切な場所にコピーします。

Mac OS ユーザー/*[ユーザー名]*/ライブラリ/Preferences/Adobe InDesign/*[バージョン]*/*[言語]*/Find-Change Queries/*[クエリタイプ]*

Windows XP Documents and Settings¥*[ユーザー名]*¥Application Data¥Adobe¥InDesign¥*[バージョン]*¥*[言語]*¥Find-Change Queries¥*[クエリタイプ]*

Windows Vista および Windows 7 ユーザー¥*[ユーザー名]*¥AppData¥Roaming¥Adobe¥InDesign¥*[バージョン]*¥*[言語]*¥Find-Change Queries¥*[クエリタイプ]*

関連項目

Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

箇条書きと自動番号の使用

箇条書きリストまたは自動番号リストの作成
箇条書きリストまたは自動番号リストの書式
箇条書き記号の変更
自動番号リストオプションの変更
リストの定義
ランニングリスト用の段落スタイルの作成
マルチレベルリストの作成
図表の連続キャプションの作成
リストの番号を振り直すか連番を振る
箇条書き記号または自動番号のテキストへの変換

トップへ戻る

箇条書きリストまたは自動番号リストの作成

箇条書きリストでは、各段落は中点で始まります。自動番号リストでは、各段落は番号や文字およびピリオドや括弧などの分離記号を含む表現で始まります。リストの段落を追加、削除すると、自動番号リストの番号は自動的に更新されます。箇条書きまたは自動番号のスタイル、分離記号、フォント属性、文字スタイル、インデントの位置と揃えは変更することができます。

箇条書きまたは自動番号を選択するのに、文字ツールは使用できません。その代わりに、箇条書きダイアログボックス、段落パネル、または段落スタイルダイアログボックスの「箇条書き」セクションを使用して、フォーマットやインデントの位置を編集します。



箇条書きリストと自動番号リスト

箇条書きリストまたは自動番号リストを簡単に作成するには、リストを選択して、コントロールパネルの「箇条書き記号」ボタンまたは「自動番号」ボタンをクリックします。これらのボタンを使用すると、リストのオン / オフを切り替えたり、箇条書きと自動番号を切り替えたりすることができます。箇条書き記号と自動番号を段落スタイルの要素にして、スタイルを段落に割り当てることによってリストを構築することもできます。

注意： 自動生成された箇条書き記号と自動番号は、実際にはテキストに挿入されません。したがって、テキストに変換しない限り、テキスト検索で検索することや、文字ツールを使用して選択することはできません。さらに、箇条書きと自動番号はストーリーエディターウィンドウには表示されません（段落スタイル列を除く）。
箇条書きリストおよび自動番号リストを作成する方法については、www.adobe.com/go/vid0077_jp にあるビデオチュートリアルを参照してください。

InDesign Docs には、箇条書きと自動番号を使用して、Outlines、Multi-Level Lists、Figure CaptionsおよびNumbered Steps（すべて英語）を作成する方法に関する一連の記事が用意されています。

1. 箇条書きまたは自動番号を作成する段落を選択するか、箇条書きまたは自動番号を開始する位置にテキスト挿入点を置きます。
2. 必要に応じて次の操作を行います。

   - コントロールパネル（段落モード）の箇条書き記号ボタン または自動番号ボタン をクリックします。Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押したままボタンをクリックすると、箇条書きダイアログボックスが表示されます。
   - 段落パネルまたはコマンドパネルから「箇条書き」を選択します。「リストタイプ」で「記号」または「自動番号」を選択します。必要に応じて設定して、「OK」をクリックします。
   - 箇条書きまたは自動番号が含まれる段落スタイルを適用します。

3. 次の段落にリストを続ける場合は、テキスト挿入点をリストの最後に移動し、Enter キーまたは Return キーを押します。
4. リストを終了するには（またはストーリー内の後の方でリストを続けるが、リストセグメントを終了する場合は）、コントロールパネルの箇条書き記号ボタンまたは自動番号ボタンをもう一度クリックするか、段落パネルメニューから「箇条書き」を選択します。

トップへ戻る

箇条書きリストまたは自動番号リストの書式

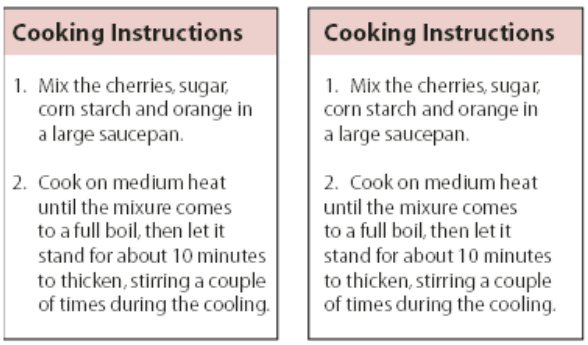
1. 文字ツール T を使用して、書式を変更する箇条書きまたは自動番号のある段落を選択します。
2. 次のいずれかの操作を行って、箇条書きダイアログボックスを開きます。
   - コントロールパネルメニュー（段落モード）または段落パネルメニューから「箇条書き」を選択します。
   - Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押しながら箇条書き記号ボタン または自動番号ボタン をクリックします。
3. 箇条書きダイアログボックスで、次のいずれかの操作を行います。
   - 箇条書き記号を変更します。
   - 自動番号リストオプションを変更します。
   - 「文字スタイル」リストから自動番号または箇条書きのスタイルを選択します。
4. 箇条書き記号または自動番号の位置を変更するには、次の項目を指定します。
   揃え 自動番号用の水平方向スペース内で箇条書き記号または自動番号を左、中央、または右に揃えます（このスペースが狭い場合は、3 つのオプションの違いはほとんどありません）。

   左インデント 先頭行の後の行がインデントされる距離を指定します。

   先頭行のインデント 箇条書きまたは自動番号の位置を制御します。

   長いリストの句読点の位置を揃えるには、「先頭行のインデント」の値を大きくします。例えば、「9.」と「10.」のピリオドの位置を揃えるには、「揃え」を「右」に変更し、数字が整列されるまで先頭行のインデントを徐々に大きくします（プレビューをオンにしておきます）。

   ぶら下がりインデントの効果を作成するには、「左 / 上インデント」に正の値（2p0 など）を入力し、「先頭行のインデント」に負の値（-2p0 など）を入力します。



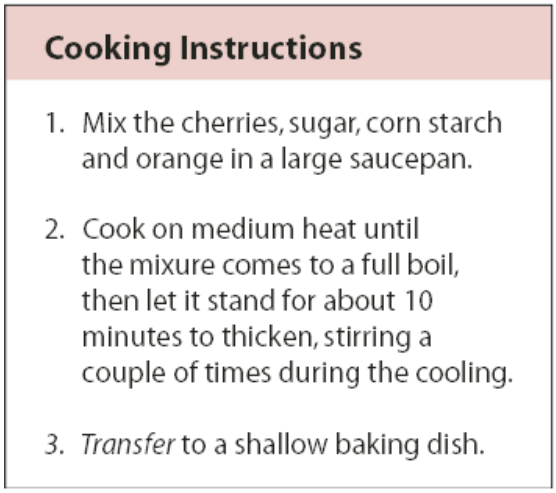
位置の設定

A. ぶら下がりインデント **B.** 左揃えリスト

注意： 「左インデント」、「先頭行のインデント」、および箇条書きダイアログボックスのタブの位置設定は段落属性です。そのため、段落パネルのこれらの設定を変更すると、箇条書きリストと自動番号リストの書式も変更されます。

タブの位置 タブの位置をアクティブにして、箇条書きまたは自動番号間のスペースおよびリストアイテムの始点を作成します。

デフォルトでは、箇条書きおよび自動番号は、関連付けられた段落の先頭文字のテキスト書式の一部を継承します。段落の先頭文字の書式が、別の段落の先頭文字の書式と異なる場合は、箇条書き記号または自動番号の表示が他のリストアイテムと異なる場合があります。このような場合には、自動番号または箇条書き記号用の文字スタイルを作成し、箇条書きダイアログボックスを使用してリストに適用します。



自動番号の文字スタイルを作成してリストに適用しない限り、手順 3 の先頭文字が斜体の場合は、自動番号も斜体なります。

トップへ戻る

箇条書き記号の変更

既存の箇条書き記号を使用しない場合は、別の箇条書き文字を「記号スタイル」グリッドに追加できます。あるフォントで使用できる箇条書き文字が、別のフォントで必ず使用できるとは限りません。追加した箇条書き用の文字と共にフォントを記憶するかどうかを指定することができます。

特殊なフォントの箇条書き記号（Dingbats のポインティングハンドなど）を使用する場合は、そのフォントを箇条書き記号に保存しておくことが必要です。基本の箇条書き記号を使用している場合は、ほとんどのフォントには箇条書き記号の独自のバージョンがあるので、フォントを保存しないようにします。「記号のフォントを保存」オプションの設定の有無によって、追加する箇条書き記号で Unicode 値と特定のフォントとスタイルを使用するか、Unicode 値だけを使用するかが決まります。

注意： （フォントを保存せず）Unicode 値のみを使用する箇条書き記号は、赤い「u」の印が付いて表示されます。



箇条書きダイアログボックス
A. フォントを保存していない箇条書き記号 **B.** フォントを保存している箇条書き記号

箇条書き文字の変更

1. コントロールパネルメニューまたは段落パネルメニューの「箇条書き」を選択します。
2. 箇条書きダイアログボックスの「リストタイプ」で「記号」を選択します。
3. 別の箇条書き記号を選択して、「OK」をクリックします。

箇条書き文字の追加

1. 箇条書きダイアログボックスの「リストタイプ」で「記号」を選択し、「追加」をクリックします。
2. 箇条書き記号として使用する字形を選択します（フォントファミリおよびフォントスタイルごとに異なる字形があります）。
3. 現在選択しているフォントとスタイルを新しい箇条書き記号に保存する場合は、「記号のフォントを保存」を選択します。
4. 「追加」ボタンをクリックします。

注意： 箇条書きリストは、段落スタイルや文字スタイルと同様に、ドキュメントに保存されます。別のドキュメントから段落スタイルをペーストするか読み込んだ場合、そのスタイルで使用されている箇条書き記号は、現在のドキュメントで定義されている他の箇条書き記号と共に、箇条書きダイアログボックスに表示されます。

箇条書き文字の削除

1. 箇条書きダイアログボックスの「リストタイプ」で「記号」を選択します。
2. 削除する箇条書き記号を選択して、「削除」をクリックします（初期値として登録されている箇条書き記号は削除できません）。

トップへ戻る

自動番号リストオプションの変更

自動番号リストでは、リストの段落を追加、削除すると、番号は自動的に更新されます。同じリストの段落は自動的に番号が割り当てられます。これらの段落は、段落のリストを定義していれば、相互に連続する必要はありません。

リストアイテムをアウトラインフォームで番号付けし、異なる分量でインデントするマルチレベルリストも作成できます。

1. 箇条書きダイアログボックスを開きます。
2. 「自動番号スタイル」の形式メニューから、使用する自動番号の種類を選択します。
3. 「自動番号」ボックスで、デフォルト表現のピリオド（.）や タブスペース（^t）を使用するか、独自の番号表現を作成します。番号表現を入力するには、番号のメタ文字（^#）の後のピリオドを削除して、次のいずれかの操作を行います。
   - ピリオドの代わりに、1 文字（閉じ括弧など）や複数の文字を入力します。

     半角のピリオドの代わりに全角文字を分離記号として入力することもでき、これは特に縦組みテキストの場合に役立ちます。
   - 特殊文字を挿入メニューからアイテム（EM ダッシュや楕円形など）を選択します。
   - 自動番号メタ文字の前に文字または単語を入力します。例えば、「問」という単語を入力して、質問リストの番号にすることができます。
4. 番号表現の文字スタイルを選択します（選択したスタイルは、番号のみではなく番号表現全体に適用されます）。
5. 「モード」で、次のいずれかを選択します。
   前の番号から継続 リストに自動的に番号が割り当てられます。

   開始番号 テキストボックスに入力する番号またはその他の値で番号付けを開始します。「形式」で番号付けに文字（カタカナ）またはローマ数字を使用している場合にも、このボックスには文字ではなく番号を入力します。
6. 他のオプションを指定して、「OK」をクリックします。

トップへ戻る

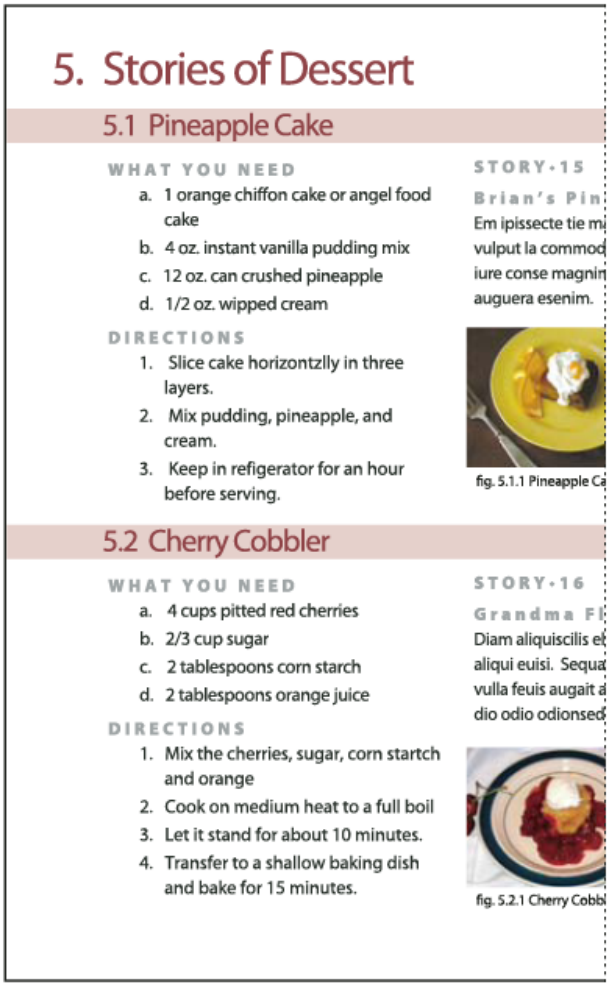
リストの定義

定義されたリストを使用すると、リストの途中に他の段落や他のリストを割り込ませたり、同じブック内の別のストーリーおよび別のドキュメントまでリストを続けたりすることができます。例えば、マルチレベルのアウトラインを作成する場合や、ドキュメント内で通し番号の付いた表名のランニングリストを作成する場合に、定義されたリストを使用します。また、自動番号または箇条書き記号が別個に付けられるリストを複数混在させる場合も、リストをそのように定義できます。例えば、質問と回答のリストでは、質問を番号付けするリストと、回答を番号付けする別のリストを定義します。

定義されたリストは、番号付けする段落を追跡する目的でよく使用されます。番号付けのための段落スタイルを作成する場合、定義済みのリストを段落スタイルに割り当てることができます。また、段落は定義されたリストに表示される場所に従って、そのスタイルで番号付けされます。例えば、表示される最初の段落は 1（「表 1」）と指定され、次の段落は 2（「表 2」）と指定されます。これは後で数ページ表示される場合にも同様です。両方の段落が同じ定義されたリストに属しているため、これらの段落がドキュメントやブック内でどんなに遠く離れていても、連続して番号付けされます。

番号付けするアイテムの種類（手順、表、図など）ごとに新しいリストを定義します。複数のリストを定義することによって、リストの中に別のリストを割り込ませてもリストごとに番号付けの順序を維持できます。

リスト内のアイテムが同じページ内の連結されていないフレームに含まれている場合、テキストフレームがページに追加された順に番号付けされます。アイテムの順序を変更するには、リストに表示したい順序でテキストフレームを 1 つずつカット＆ペーストします。



定義されたリストにより、あるリストを別のリストに割り込ませることができます。

箇条書きリストおよび自動番号リストを作成する方法については、www.adobe.com/go/vid0077_jp にあるビデオチュートリアルを参照してください。

リストの定義

1. 書式／箇条書きリスト／リストを定義を選択します。
2. リストを定義ダイアログボックスで、「新規」をクリックします。
3. リストの名前を入力し、複数のストーリーをまたいで番号を継続するか、ブック内の前のドキュメントから番号を継続するかを選択します。
4. 「OK」を 2 回クリックします。

リストを定義した後で、そのリストを表、図、番号付きリストのスタイルなど、段落スタイルで使用したり、コントロールパネルや段落パネルを使用して適用することができます。

注意： 一部のリストは自動的に定義されます。例えば、Microsoft Word ドキュメントから自動番号リストを読み取る場合、InDesign ではドキュメントに対して自動的にリストを定義します。

定義済みリストの編集

1. 書式／箇条書きリスト／リストを定義を選択します。
2. リストを選択し、「編集」をクリックします。
3. リストの新しい名前を入力するか、番号を継続オプションの選択肢を変更します。

リストに割り当てられている段落スタイルは、新しい名前のリストに再度割り当てられます。

定義済みリストの削除

1. 書式／箇条書きリスト／リストを定義を選択します。
2. リストを選択します。
3. 「削除」をクリックし、削除したリストの代わりに使用する別のリストまたは [デフォルト] リストを選択します。

トップへ戻る

ランニングリスト用の段落スタイルの作成

他の段落に割り込まれるリストや、複数のストーリーまたは複数のドキュメントにまたがるリストを、ランニングリストと言います。ランニングリストを作成するには、段落スタイルを作成し、リストの役割を持つ段落にそのスタイルを適用します。例えば、ドキュメント内の表のランニングリストを作成するには、Tables という段落スタイルを作成し、定義されたリストをそのスタイルに設定し、表リストにする各段落に Tables 段落スタイルを適用します。

InDesign Docs には、箇条書きと自動番号を使用して、図キャプションおよび番号付きの手順を作成する方法に関する一連の記事（英語）が用意されています。

1. 段落スタイルパネルメニューの「新規段落スタイル」を選択します。
2. スタイル名を入力します。
3. 新規段落スタイルダイアログボックスの左側の「箇条書き」をクリックします。
4. 「リストタイプ」で「記号」または「自動番号」を選択します。
5. 自動番号リストのスタイルを作成する場合、リストメニューから定義されたリストを選択するか、または「新規リスト」を選択してリストを定義します。
6. 箇条書き記号または自動番号の特性を指定します。
7. 新規段落スタイルダイアログボックスの「記号または自動番号の位置」セクションを使用して、インデント間隔を変更します。例えば、ぶら下がりインデントを作成する場合は、「左 / 上インデント」に「25 mm」と入力し、「先頭行のインデント」に「-25 mm」と入力します。
8. 他の段落スタイル属性を指定し、「OK」をクリックします。

トップへ戻る

マルチレベルリストの作成

マルチレベルリストは、リストの段落間の階層関係を表すリストです。これらのリストは、アウトラインに似ているため、アウトラインリストとも呼ばれます。インデントと同様にリストの番号付け方法は、アイテム間の従属関係と共にランクを示します。その前後の段落に関連させて、リストに適合する各段落の位置を示すことができます。1 つのマルチレベルリストに最大 9 レベルの階層を含めることができます。



階層レベルを表示した番号や文字を含むマルチレベルリスト

マルチレベルリストを作成するには、リストを定義してから、希望の各レベルの段落スタイルを作成します。例えば、4 レベルが含まれるリストには（同じ定義済みリストが割り当てられた）4 つの段落スタイルが必要です。各スタイルを作成したら、自動番号の書式と段落の書式を指定します。

アウトラインおよびマルチレベルリストの作成に関するビデオチュートリアルについては、Gabriel Powell による Creating an automatic numbered list（英語）を参照してください。

箇条書きと自動番号を使用して、アウトライン、マルチレベルリスト、図キャプションおよび番号付きの手順を作成する方法に関する一連の記事（英語）が Bob Bringhurst によって用意されています。

1. 段落スタイルパネルメニューの「新規段落スタイル」を選択します。
2. スタイル名を入力します。
3. 既にマルチレベルリストのスタイルを作成している場合は、基準セットメニューからこの上のレベルに割り当てるスタイルを選択します。または、「段落スタイルなし」か「基本段落」を選択します。
4. 新規段落スタイルダイアログボックスの左側の「箇条書き」をクリックします。
5. リストタイプメニューから「自動番号」を選択します。
6. リストメニューから定義しているリストを選択します。リストを定義していない場合は、リストメニューから「新規リスト」を選択して、ここで定義します。
7. レベルボックスで、スタイルを作成しているマルチレベルリストのレベルを表す番号を入力します。

8. 形式メニューから、使用する番号付けの種類を選択します。
9. 「自動番号」ボックスで、このレベルのリストアイテムに希望する番号書式を表すために、メタ文字を入力するか、メニューからメタ文字を選択します。
   - 上のレベルの番号を前に付けるには、テキストを入力するか、「自動番号」ボックスの先頭をクリックして「番号プレースホルダーを挿入」を選択してから「レベル」オプション（「レベル 1」など）を選択するか、または「^」を入力してからリストレベルを入力します（「^1」など）。最初のレベルが 1、2、3 と番号付けされ、2 番目のレベルが a、b、c と番号付けされているリストの場合、2 番目のレベルに最初のレベルの番号を含めると、2 番目のレベルの番号付けは 1a、1b、1c、2a、2b、2c、3a、3b、3c のようになります。
   - 数式などを作成するには、句読点を入力して、メタ文字を入力するか、「特殊文字を挿入」リストのオプションを選択します。
10. このレベルの段落がより高いレベルの段落の後に表示される場合に 1 から振り直すには、「指定レベル以降で番号をふり直し」を選択します。また、リスト階層に表示される段落の位置を無視してリスト全体に連続してこのレベルで番号付けする場合は、このオプションの選択を解除します。

    あるレベルまたはレベル範囲以降の番号を先頭から始める場合、「指定レベル以降で番号をふり直し」にレベル値（2-4 など）を入力します。
11. 「記号または自動番号の位置」セクションで、より高いレベルのリストアイテムよりさらに高いレベルでリストアイテムをインデントするには、「インデント」または「タブ位置」オプションを選択します。インデントにより、リスト内の従属アイテムを目立たせることができます。
12. 「OK」をクリックします。

番号付きの手順などでは、同一ストーリー内で番号を 1 から振り直したい場合があります。自動番号リストの番号を手動で 1 から振り直さなくても済むように、レベル 1 のスタイルと同じスタイルを別に作成します。ただし、1 つ例外があります。「モード」として「開始番号」を選択し、1 を指定します。このスタイルに「レベル 1 番号の振り直し」などの名前を付けます。

トップへ戻る

図表の連続キャプションの作成

連続キャプションは、図、表、その他のアイテムにドキュメント内で連続した番号を付けます。例えば、最初の図キャプションが「図 1」で始まる場合、2 番目は「図 2」というようになります。図や表などのアイテムに対し連続する番号を確実に付けるには、そのアイテム用のリストを定義し、そのリスト定義を含む段落スタイルを作成します。この段落スタイルの番号付け設定に「図」、「表」などの語を追加することもできます。

図キャプションの作成については、Bob Bringhurst による Numbered Lists Part III - Figure Captions（英語）の記事を参照してください。

リストアイテムはページに追加された順序で番号付けされます。アイテムの順序を変更するには、リストに表示する順序で 1 つずつカット＆ペーストします。

1. 新しい段落スタイルを作成して、段落スタイルオプションダイアログボックスの「段落」セクションで、リストタイプメニューから「自動番号」を選択します。
2. リストメニューから定義されたリストを選択します（または「新規リスト」を選択してリストを定義します）。
3. 「自動番号スタイル」の形式メニューから、使用する自動番号の種類を選択します。

   例えば、「A, B, C, D...」オプションを選択すると、「図 A」、「図 B」と続くリストが作成されます。
4. 「自動番号」ボックスに、自動番号メタ文字と共に、必要に応じて説明語や空白文字、記号を入力します。

   例えば、「図 A」のように表示させたい場合は、番号のメタ文字の前に「図」という単語とスペースを入力します（図 ^#.^t）。こうすると、単語「図」に続いて、連番（^#）、ピリオド、タブ（^t）が表示されます。

   注意： 連続キャプションに章番号を含めるには、自動番号リストから番号プレースホルダーを挿入／章番号を選択するか、番号付け方法として章番号を表示したい位置に「^H」を入力します。
5. スタイルの作成が終わったら「OK」をクリックします。

作成したスタイルを、テキストの図キャプションまたは表タイトルに適用します。

表や図のリストを生成するには、目次機能を使用することができます。

トップへ戻る

リストの番号を振り直すか連番を振る

InDesign では、リストの番号を振り直したり、連番を振るためのコマンドが用意されています。

自動番号リストを振り直す 段落の先頭文字の前に挿入点を置き、コンテキストメニューから「振り直し自動番号」を選択するか、書式／箇条書きリスト／振り直し自動番号を選択します。通常のリストでは、このコマンドは段落に番号 1（または文字 A）を割り当て、この段落をリストの最初の段落にします。マルチレベルリストでは、このコマンドはネストされた段落に最初の低レベルの番号を割り当てます。
リストに連番を振る コンテキストメニューから「続行自動番号」を選択するか、書式／箇条書きリスト／続行自動番号を選択します。このコマンドは、コメント、グラフィック、ネストされたリストアイテムによって中断されたリストの番号付けを再開します。InDesign では、あるストーリーやブックで開始し、次のストーリーやブックにまたがるリストに番号を振るためのコマンドも用意しています。

前のストーリーまたは現在のストーリーからリストに番号を振る

前のストーリーからリストの番号付けを再開するか、現在のストーリーで新規に番号付けを開始するかどうかは、リストの定義方法により異なり

ます。

1. 書式／箇条書きリスト／リストを定義を選択します。
2. リストを選択して、「編集」ボタンをクリックします。

   ストーリーを通して実行できない場合は、デフォルトのリストを選択しないでください。
3. 前のストーリーからリストの番号付けを再開するには、「ストーリーを通して番号を継続」を選択し、現在のストーリーのリストを 1（または A）で開始するには、このオプションの選択を解除します。
4. 「OK」を 2 回クリックします。

ブック内の前のドキュメントまたは現在のドキュメントからリストに番号を振る

ブック内の前のドキュメントからリストに番号付けを再開するか、現在のドキュメントで新規に番号付けを開始するかどうかは、リストの定義方法により異なります。

1. 書式／箇条書きリスト／リストを定義を選択します。
2. リストを選択して、「編集」ボタンをクリックします。
3. 前のドキュメントからリストの番号付けを再開するには、「ブック内の前のドキュメントから番号を継続」を選択し（このオプションを有効にするには「ストーリーを通して番号を継続」を選択している必要があります）、現在のドキュメントのリストを 1（または A）で開始するには、このオプションの選択を解除します。
4. 「OK」を 2 回クリックします。

ブック内で番号付けを正しく更新するには、ブックパネルメニューで自動番号を更新／すべての番号を更新を選択します。

トップへ戻る

箇条書き記号または自動番号のテキストへの変換

1. 箇条書きリストまたは自動番号リストを含む段落を選択します。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - 段落パネルメニューから「番号付けをテキストに変換」または「記号をテキストに変換」を選択します。
   - 選択範囲を右クリックするか（Windows）、Command キーを押しながらクリックして（Mac OS）、「番号付けをテキストに変換」または「記号をテキストに変換」を選択します。

注意： 自動番号または箇条書き記号を削除するには、自動番号ボタンまたは箇条書き記号ボタンをクリックして、選択したテキストからリスト書式の適用を解除します。

関連項目

箇条書きリストと自動番号リストに関するビデオ

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

変更のトラックと再確認

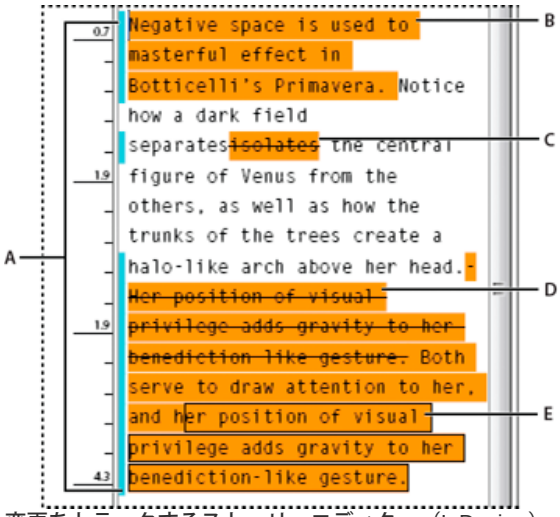
変更をトラック
変更の適用と取り消し
変更をトラック環境設定の設定
ユーザー名およびカラーの変更

トップへ戻る

変更をトラック

重要な機能の 1 つとして、各寄稿者が作成および編集過程でストーリーに加えた変更をトラックすることができます。InDesign のストーリーエディターまたは InCopy のゲラビューおよびストーリービューでは、既存のストーリー内でテキストを追加、削除または移動すると、その変更にマークが付けられます。その変更は、適用するか、取り消すかを選択できます。

変更をトラックパネル（InDesign）や変更をトラックツールバー（InCopy）で、「変更をトラック」を有効または無効にしたり、寄稿者による変更の表示、非表示、適用または取り消しを行うことができます。



変更をトラックするストーリーエディター（InDesign）

A. 変更バー **B.** 追加したテキスト **C.** 削除したテキスト **D.** 移動したテキスト（移動元） **E.** 移動したテキスト（移動先）

変更トラックの有効化

1. InDesign でウィンドウ／編集関連／変更をトラックを選択し、変更をトラックパネルを開きます。または、InCopy でウィンドウ／変更をトラックを選択し、変更をトラックツールバーを開きます。
2. テキスト内に挿入点を置いて、次のいずれかの操作を行います。
   - 現在のストーリーでのみ変更をトラックするには、現在のストーリーで変更のトラックを有効にするアイコン をクリックします。
   - （InDesign）すべてのストーリーでトラックを有効にするには、変更をトラックパネルメニューの「全ストーリーでトラックを有効にする」を選択します。
   - （InCopy）複数のストーリーで構成されるドキュメントのすべての開かれているストーリーでトラックを有効にするには、変更／全ストーリーでトラックを有効にするを選択します。
3. 必要に応じて、ストーリー内でテキストを追加、削除または移動します。

変更トラックの表示方法

「変更をトラック」を有効にすると、InDesign のストーリーエディターまたは InCopy のゲラビューおよびストーリービューでは、デフォルトで、変更ごとに次のいずれかのマークが付けられます。

環境設定ダイアログボックスの「変更をトラック」セクションで、変更を識別するカラーを選択できます。さらに、トラックする変更の種類（テキストの追加、削除、移動）やトラックの外観を選択することもできます。

追加したテキスト　ハイライト表示されます。
削除したテキスト　ハイライト表示され、打ち消し線が引かれます。

移動されたテキスト（カット＆ペーストされたテキスト） 移動元のテキストは、ハイライト表示され、打ち消し線が引かれます。移動後のテキストは、ハイライト表示され、ボックスで囲まれます。
注意： 2 つのドキュメント間でテキストをカットしてペーストすると、元のドキュメントでは削除されたテキストとして表示され、ペースト先のドキュメントでは追加されたテキストとして表示されます。
コピーされたテキスト 新しい場所にコピーされたテキストはハイライト表示されます。コピー元のテキストは変更されません。
変更バー 変更バーは、変更されたテキストがある行の左側に垂直に表示されます。作業中に変更バーを表示するかどうか選択することができます。また、変更バーの表示に使用するカラーを指定することもできます。

変更の表示と非表示の切り替え

変更を隠すと、変更トラック機能が無効であるときのようにテキストが表示されます。つまり、追加したテキストは表示され、削除したテキストは隠され、移動またはペーストしたテキストは挿入先にのみ表示されます。

（InDesign）変更トラック機能を有効にすると、ストーリーエディターまたはドキュメントレイアウトのいずれを使用した場合でも、編集がトラックされます。変更は、ストーリーエディターでのみ表示できます。レイアウトでは表示できません。

（InCopy）変更トラック機能を有効にすると、ゲラビュー、ストーリービュー、レイアウトビューのいずれを使用した場合でも、編集がトラックされます。変更を表示できるのはゲラビューとストーリービューのみで、レイアウトビューでは表示できません。

❖ 変更をトラックパネル（InDesign）または変更をトラックツールバー（InCopy）で、変更を表示 / 隠すボタン をクリックします。

変更トラックの無効化

❖ テキスト内に挿入点を置いて、次のいずれかの操作を行います。

- 現在のストーリーでのみ変更のトラックを無効にするには、現在のストーリーで変更のトラックを無効にするアイコン をクリックします。
- （InDesign）すべてのストーリーでトラックを無効にするには、変更をトラックパネルメニューの「全ストーリーでトラックを無効にする」を選択します。
- （InCopy）複数のストーリーで構成されるドキュメントのすべての開かれているストーリーでトラックを無効にするには、変更／全ストーリーでトラックを無効にするを選択します。

注意： トラックを無効にすると、それ以降の変更はトラックされません。トラックを無効にする前の変更のトラックは有効のまま、無効にはなりません。

トップへ戻る

変更の適用と取り消し

変更トラック機能により、どの寄稿者がストーリーに変更を加えたかにかかわらず、すべての変更を再確認し、ストーリーに適用するかどうかを決定することができます。1 つの変更、トラックされた変更の一部のみまたはすべての変更を一度に適用または取り消すことができます。

変更を適用すると、それはテキストの流れの一部となり、変更としてハイライト表示されなくなります。変更を取り消すと、テキストは変更前の状態に戻ります。

1. InDesign のストーリーエディターまたは InCopy のゲラビューやストーリービューで、ストーリーの先頭に挿入点を置きます。
2. 変更をトラックパネル（InDesign）または変更をトラックツールバー（InCopy）で、次の変更ボタン をクリックします。
3. 必要に応じて次の操作を行います。
   - ハイライト表示されている変更を適用し、テキストの流れに組み込むには、変更を適用ボタン をクリックします。
   - 変更を取り消して元のテキストに戻すには、変更を取り消しボタン をクリックします。

     強調表示されている変更を適用するか取り消して次の変更に移動するには、Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押しながら、変更を適用ボタンまたは変更を取り消しボタンをクリックします。
   - 前の変更に戻る場合は、前の変更ボタン をクリックします。次の変更に進むには、次の変更ボタン をクリックします。
   - すべての変更を確認せずに適用するには、ストーリーに対するすべての変更を適用ボタン をクリックします。すべての変更を確認せずに取り消すには、ストーリーに対するすべての変更を取り消しボタン をクリックします。
   - ストーリーやドキュメント内のすべての変更を適用または取り消したり、特定のユーザーによるすべての変更を適用または取り消すには、変更をトラックパネル（InDesign）または変更メニュー（InCopy）から適切なオプションを選択します。

注意： 変更の適用や取り消しをキャンセルするには、編集／取り消しを選択するか、Ctrl キー（Windows）または Command キー（Mac OS）を押しながら Z キーを押します。
「すべての変更を適用」コマンドまたは「すべての変更を取り消し」コマンドの選択は、非表示の条件テキストにも適用されます。

トップへ戻る

変更をトラック環境設定の設定

環境設定で、様々なトラックオプションを設定することができます。変更を識別するためのカラーを選択したり、トラックする変更種類（テキストの追加、削除、移動）を選択することができます。また、トラックされた変更の外観を種類ごとに設定したり、マージンに表示される変更バー

のカラーで変更が識別されるようにすることもできます。

1. 編集／環境設定／変更をトラック（Windows）または InDesign／環境設定／変更をトラック（Mac OS）を選択します。
2. トラックする変更の種類を選択します。
3. それぞれの変更の種類について、テキストカラー、背景カラーおよびマーク付け方法を指定します。
4. 「ユーザーカラーの重複を防ぐ」を選択すると、ユーザーごとに異なるカラーが割り当てられるようになります。
5. 変更バーを表示するには、「変更バー」オプションを選択します。変更バーに使用するカラーメニューからカラーを選択し、変更バーを左または右のどちらのマージンに表示するかを指定します。
6. 削除したテキストとしてマークが付けられているテキストも欧文スペルチェックの対象にする場合は、「削除したテキストをスペルチェックの対象として含める」を選択します。
7. 「OK」をクリックします。

トップへ戻る

ユーザー名およびカラーの変更

1. ファイル／ユーザーを選択します。
2. 変更トラックおよび注釈に使用するユーザー名およびカラーを指定し、「OK」をクリックします。

関連項目

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

テキスト変数

テキスト変数の作成と編集
テキスト変数の挿入
テキスト変数の削除、変換、読み込み

トップへ戻る

テキスト変数の作成と編集

テキスト変数は、コンテキストによって変わるドキュメント内に挿入するアイテムです。例えば、最終ページ番号変数は、ドキュメントの最終ページのページ番号を示します。ページを追加または削除する場合、変数はそれに応じて更新されます。

InDesign には、ドキュメントに挿入できるいくつかのプリセットテキスト変数が含まれます。これらの変数のフォーマットを編集し、独自に作成することができます。ランニングヘッダーや章番号などのいくつかの変数は、一貫したフォーマットと番号付けを確実にするためにマスターページに追加する場合に特に役立ちます。作成日やファイル名などのその他の変数は、印刷用の印刷可能領域に追加する場合に役立ちます。

注意： 変数にテキストを追加しすぎると、オーバーセットテキストや詰まったテキストの原因となる可能性があります。変数テキストは行をわたって分割されません。

テキスト変数の作成または編集

変数の作成に使用可能なオプションは、指定した変数の種類により異なります。例えば、章番号タイプを選択した場合、番号の前後の両方に表示されるテキストを指定し、番号スタイルを指定できます。同じ変数タイプに基づいたいくつかの異なる変数を作成できます。例えば、「第 1 章」と表示される変数や「1 章」と表示される変数を作成することができます。

同様に、ランニングヘッダータイプを選択した場合、ヘッダーの基本として使用されるスタイルを指定し、句読点を削除し、文字を変更するためのオプションを選択することができます。

1. 作成したすべての新規ドキュメントに使用するテキスト変数を作成する場合は、すべてのドキュメントを閉じます。または、作成したテキスト変数は現在のドキュメントにのみ表示されます。
2. 書式／テキスト変数／定義を選択します。
3. 「新規」をクリックするか、既存の変数を選択して、「編集」をクリックします。
4. 「章全体」や「ランニングタイトル」などの変数の名前を入力します。
5. 種類ポップアップメニューから、変数タイプを選択して、そのタイプのオプションを指定し、「OK」をクリックします。

   選択した変数タイプによって、使用できるオプションは異なります。

   先行テキスト / 後続テキスト すべての変数タイプ（カスタムテキストを除く）について、変数の前後に追加されるテキストを指定することができます。例えば、最終ページ番号変数の前に「合計」という文字を追加し、その変数の後に「ページの」という文字を追加して、「合計 12 ページの」というテキスト変数を作成することができます。ボックスにテキストをペーストすることもできますが、タブや自動ページ番号などの特殊文字は表示されません。特殊文字を挿入するには、テキストボックスの右側の三角形をクリックします。

   スタイル すべての番号付けされた変数タイプについて、番号付けスタイルを指定することができます。「[現在の自動番号スタイル]」が選択される場合、変数はドキュメントのページ番号とセクションの設定ダイアログボックスで選択されているのと同じ番号付けスタイルを使用します。

変数タイプ

章番号

章番号タイプで作成された変数は、章番号を挿入します。章番号の前後にテキストを挿入したり、番号付けスタイルを指定することができます。

ドキュメントの章番号がブックの前のドキュメントから継続されるように設定される場合は、適切な章番号が表示されるようにブックの番号付けを更新する必要があります。

作成日、修正日、出力日

「作成日」には、ドキュメントが最初に保存された日時が挿入されます。「修正日」には、ドキュメントが最後にディスクに保存された日時が挿入されます。「出力日」には、ドキュメントがプリントジョブを開始したり、PDF に書き出したり、ドキュメントをパッケージ化する日時が挿入されます。日付の前後にテキストを挿入できます。また、すべての日付変数の日付形式を変更することができます。

日付形式 「日付形式」ボックスに直接日付形式を入力するか、ボックスの右側の三角形をクリックして形式オプションを選択することができます。例えば、日付形式「MM/dd/yy」は「12/22/07」と表示されます。形式を「MMM. d, yyyy」に変更すると、日付は「Dec. 22, 2007」と表示されます。

日付変数は、テキストに適用される言語を使用します。例えば、前に示した作成日は、スペイン語テキストでは、「01 diciembre 2007」と表示さ

れ、ドイツ語では、「01 Dezember 2007」と表示されます。

略記	説明	例
M	月 / 数字	8
MM	月 / 数字（01）	08
MMM	月 / 月（短い形式）	8 月 / Aug
MMMM	月 / 月	8 月
d	日 / 数字	5
dd	日 / 数字（01）	05
E	日 / 曜日（短い形式）	金 / Fri
EEEE	日 / 曜日	金曜日
yy または YY	年 / 数字（短い形式）	07
y（Y）または yyyy（YYYY）	年 / 数字	2007
G または GGGG	年 / 年号	西暦 / AD・Annno Domini
h	時間 / 時間（1-12）	4
hh	時間 / 時間（01-12）	04
H	時間 / 時間（0-23）	16
HH	時間 / 時間（00-23）	16
m	時間 / 分	7
mm	時間 / 分（00）	07
s	時間 / 秒	7
ss	時間 / 秒（00）	07
a	時間 / 午前・午後	午前・午後 / AM ・PM
z または zzzz	時間 / タイムゾーン（短い形式）あるいは 時間 / タイムゾーン	JST・日本標準時 / JST・Japan Standard

ファイル名

この変数は、ドキュメント内に現在のファイルの名前を挿入します。一般的に、印刷用のドキュメントの印刷可能領域に追加されるか、ヘッダーやフッターに使用されます。「後続テキスト」および「先行テキスト」のほかに、次のオプションを選択できます。

フォルダーパス全体を含める そのファイル名を持つフォルダーのフルパスを含める場合に選択します。Windows または Mac OS のいずれかで使用される標準のパスです。

ファイル拡張子を含める ファイル名に拡張子を含める場合に選択します。

ファイル名変数は、新しい名前でファイルを保存する場合も、新しい場所にファイルを保存する場合にも更新されます。パスまたは拡張子が保存されるまで、ドキュメントに表示されません。

画像名

「画像名」変数は、メタデータからキャプションを自動生成する場合に便利です。「画像名」変数には、「メタデータキャプション」変数タイプも含まれます。この変数を含んだテキストフレームが画像の間近にあるか、画像とグループ化されている場合、その画像のメタデータがこの変数に表示されます。「画像名」変数を編集すると、使用するメタデータフィールドを指定することもできます。

詳しくは、キャプションの変数の定義を参照してください。

最終ページ番号

最終ページ番号タイプは、通常「ページ 3 / 12」形式を使用して、ヘッダーとフッターにドキュメントの合計ページ番号を追加する場合に役立ちます。この場合、12 という番号は、最終ページ番号によって生成され、ページが追加または削除されると更新されます。最終ページ番号の前後にテキストを挿入したり、番号付けスタイルを指定することができます。スコープメニューから、セクションまたはドキュメントで最終ページ番号が

使用されるかどうかを決定するオプションを選択します。

最終ページ番号変数はドキュメント内の総ページを数えないことに注意してください。

ランニングヘッド・柱（段落または文字スタイル）
ランニングヘッド・柱変数は、ページの最初または最後に存在する特定のスタイルが適用されたテキストを挿入します。所定のスタイルを適用したテキストがページ上にない場合、前のページのテキストが使用されます。

詳しくは、ランニングヘッダーとランニングフッター用の変数の作成を参照してください。

カスタムテキスト
この変数は通常、プレースホルダーテキストやすばやく変更する必要のあるテキスト文字列の挿入に使用されます。例えば、会社のコードネームを使用するプロジェクトで作業している場合、そのコードネームのカスタムテキスト変数を作成することができます。実際の会社名を使用できる場合は、単に変数を変更して、すべて更新します。

テキスト変数に特殊文字を挿入するには、テキストボックスの右側の三角形をクリックします。

トップへ戻る

テキスト変数の挿入

1. 変数を表示したい場所にテキスト挿入点を置きます。
2. 書式／テキスト変数／変数を挿入を選択し、挿入したい変数を選択します。

変数はドキュメントに入力したかのようにページに表示されます。例えば、作成日変数は、07/12/22 と表示されます。書式／制御文字を表示を選択した場合、変数インスタンスは、現在のレイヤーカラーを使用したボックスによって囲まれます。

注意： テキスト変数は、改行によって複数行に分割することはできません。

トップへ戻る

テキスト変数の削除、変換、読み込み

テキスト変数ダイアログボックスを使用して、テキスト変数の削除、変換、読み込みを行います。

テキスト変数の削除

ドキュメントに挿入されたテキスト変数のインスタンスを削除する場合は、変数を選択して、Backspace キー（Windows）または Delete キー（Mac OS）を押します。変数自体を削除することもできます。その場合は、ドキュメントに挿入される変数の置換方法を決めることができます。

1. 書式／テキスト変数／定義を選択します。
2. 変数を選択し、「削除」をクリックします。
3. 異なる変数を指定するか、変数インスタンスをテキストに変換するか、変数インスタンスを共に削除して、変数の置換方法を指定します。

テキスト変数からテキストへの変換

- 単一インスタンスを変換するには、ドキュメントウィンドウでテキスト変数を選択して、書式／テキスト変数／変数をテキストに変換を選択します。
- ドキュメント内のテキスト変数のすべてのインスタンスを変換するには、書式／テキスト変数／定義を選択して、変数を選択し、「テキストに変換」をクリックします。

別のドキュメントからのテキスト変数の読み込み

1. 書式／テキスト変数／定義を選択します。
2. 「読み込み」をクリックして、読み込みたい変数を持つドキュメントをダブルクリックします。
3. テキスト変数を読み込みダイアログボックスで、読み込みたい変数の横にチェックマークが表示されていることを確認します。既存の変数と読み込まれた変数の名前が同じ場合、「既存のテキスト変数と競合」で下記のいずれかのオプションを選択して「OK」をクリックします。

   新しい定義を使用 既存の変数を読み込まれた変数で上書きし、その新しい属性を旧変数を使用していた現在のドキュメントのすべてのテキストに適用します。新しい変数と既存の変数の定義は、比較を表示できるようにテキスト変数を読み込みダイアログボックスの下部に表示されます。

   自動名前変更 読み込み変数の名前を変更します。
4. 「OK」を選択し、「完了」をクリックします。

ブックファイルを同期する際に別のドキュメントに変数をコピーすることもできます。

関連項目

(cc) BY-NC-SA

リンクコンテンツ | CC、CS6

コンテンツ収集ツール
リンクとして配置
リンクオプションの指定
カスタムスタイルマッピング
リンクされたアイテムの更新

様々なページ間でコンテンツを複製するのは簡単な作業ではなく、コンテンツをコピーしてペーストする作業は面倒で時間がかかります。リンクされたコンテンツ機能を使用すると、コンテンツの複数のバージョンを管理できます。コンテンツは同じドキュメント内だけでなく異なるドキュメント間でも配置またはリンクできます。例えば、同じ内容でも縦のレイアウトと横のレイアウトをデザインする場合など、新しいワークフローにも簡単に対応できます。リンクされたコンテンツは、異なるページやドキュメントで定型テキストを同期する場合など、従来の印刷およびパブリッシングワークフローでも正常に機能します。

リンクされたコンテンツは、従来のリンクと同じように動作します。概要については、 リンクパネルの概要を参照してください。あるオブジェクトを親として指定し、それを別の場所に子オブジェクトとして配置することができます。親オブジェクトを更新するたびに子オブジェクトにはフラグが表示されるので、更新して親と同期することができます。

コンテンツ収集ツールを使用するか、編集／リンクとして配置メニューコマンドを選択して、オブジェクトを配置し、リンクすることができます。

リンクされたオブジェクトの左上隅に アイコンが表示されます。そのアイテムはリンクパネルにリンクされたオブジェクトとして表示されます。

トップへ

コンテンツ収集ツール

コンテンツ収集ツールとコンテンツ配置ツールを使用すると、ページアイテムを複製し、開いている InDesign ドキュメントに配置できます。収集されたコンテンツはコンテンツコンベヤーに表示されます。コンテンツコンベヤーを使用して、開いているドキュメント内やドキュメント間で、複数のページアイテムを簡単にすばやく配置してリンクできます。

ツールボックスで をクリックして、コンテンツコンベヤーを開きます。

- オブジェクトを選択してコンベヤーに追加するには、コンテンツ収集 ツールを使用します。
- ページオブジェクトをページに配置するには、コンテンツ配置ツール を使用します。

  B キーを押してコンテンツ収集ツールとコンテンツ配置ツールを切り替えます。



コンテンツコンベヤー
A. コンテンツ収集ツール B. コンテンツ配置ツール C. リンクを作成 D. スタイルをマップ E. カスタムスタイルマッピングを編集 F. 配置オプション G. 参照 H. すべての連結されたフレームを収集 I. コンベヤーに読み込み

コンテンツ収集ツール アイテムを選択してコンベヤーに追加するには、コンテンツ収集ツールを使用します。

コンテンツ配置ツール コンベヤーからアイテムを選択してドキュメントに追加するには、コンテンツ配置ツールを使用します。このツールを使用すると、現在のアイテムが配置アイコンに追加されます。

リンクを作成 配置されたアイテムを収集されたアイテムの元の場所とリンクさせるには、「リンクを作成」を選択します。リンクはリンクパネルを使用して管理できます。

スタイルをマップ 元のアイテムと配置されたアイテムの間で、段落、文字、表またはセルスタイルをマッピングします。デフォルトでは、スタイル名がマッピングに使用されます。詳しくは、カスタムスタイルマッピングを参照してください。

カスタムスタイルマッピングを編集　元のアイテムと配置されたアイテムの間でのカスタムスタイルマッピングを定義します。スタイルをマッピングすると、配置されたアイテムの元のスタイルが自動的に置き換えられます。

配置オプション　アイテムの配置時のコンベヤーオプションを指定します。

- 配置後にアイテムをコンベヤーから削除します。
- 現在のアイテムを繰り返し複数回配置できます。アイテムは配置アイコンに読み込まれたままになります。
- アイテムの配置後に次のアイテムに移動します。ただし、前のアイテムはコンベヤーに保持され続けます。

参照　コンテンツコンベヤー内のアイテム間を移動します。

すべての連結されたフレームを収集　連結されたすべてのフレームを収集する場合は、このオプションを選択します。ストーリーおよび全フレームが収集されます。このオプションが選択されていない場合、ストーリーは単一フレームで収集されます。

コンベヤーに読み込み　アイテムを含むコンベヤーを読み込むには、 を使用します。

- 選択部分：このオプションを使用すると、選択されたすべてのアイテムが読み込まれます。
- ページ：このオプションを使用すると、指定されたページのすべてのアイテムが読み込まれます。
- ペーストボード上のオブジェクトを含むすべてのページ：このオプションを使用すると、すべてのページとペーストボードからアイテムが読み込まれます。

「単一セットを作成」を選択すると、全アイテムが単一セットにまとめられます。

個々のページアイテムを収集することも、関連したアイテムを「セット」として収集することもできます。場合によっては、ページアイテムの関係的整合性を維持するために、InDesign でセットが自動作成されることがあります。

アイテムをセットとして収集する方法をいくつか紹介します。手動で収集する方法と自動収集の方法があります。

- 選択ツールでアイテムを選択します。
- コンベヤーに読み込みオプションを使用してページの範囲またはすべてのドキュメントコンテンツを選択するか、アイテムを選択すると、アイテムがセットとして収集されます。
- 他のアイテムやステートが関連付けられているインタラクティブなボタンの一部として関連コンテンツを持つアイテムを収集すると、関連したすべてのアイテムがセットとして収集されます（このセットは常に一度にドロップされます）。
- 他のオブジェクトにまたがる連結テキストを持つテキストボックスを収集し、コンベヤーで「すべての連結されたフレームを収集」チェックボックスをオンにすると、連結されているすべてのテキストボックスがセットに収集されます。

リンクとして配置

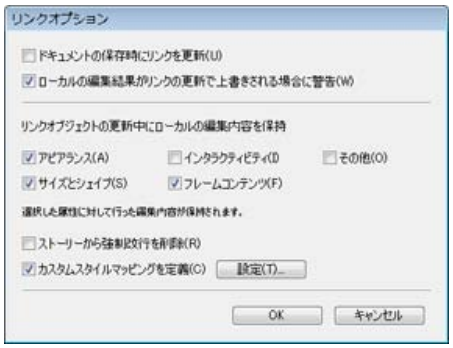
トップへ

1. フレームを選択するか、テキストに挿入カーソルを置いて、ページアイテムを選択します。Shift キーを押しながらクリックして複数のアイテムを選択することもできます。
2. 編集／リンクとして配置を選択します。カーソルがアイテムと一緒に読み込まれ、アイテムがコンテンツコンベヤーに表示されます。
3. ページをクリックするか、フレームを描画してリンクされたアイテムを配置します。

リンクオプションの指定

トップへ

1. リンクパネルでリンクアイテムを選択します。
2. リンクパネルメニューからリンクオプションを選択します。



「キャンセル」ボタンを「リセット」に変更するには、Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押します。デフォルトオプションに戻すには、「リセット」をクリックします。

3. 必要に応じてオプションを選択します。

ドキュメントの保存時にリンクを更新 このオプションを有効にすると、ドキュメントを保存したときにリンクが更新されます。

ローカルの編集結果がリンクの更新で上書きされる場合に警告 このオプションを有効にすると、リンクを更新することによってリンクオブジェクトに加えたローカル変更が上書きされる場合、警告メッセージが表示されます。

リンクオブジェクトの更新中にローカルの編集内容を保持 使用可能なカテゴリーから選択して、リンクの更新中にローカルの編集内容が保存されるようにします。

カテゴリー	例
アピアランス	線、塗り、効果などのオブジェクトスタイル属性。これにより、オーバープリントや非表示設定などのテキストまたはテキストフレーム関連の属性が除外されます。
サイズとシェイプ	高さ、幅、変形、テキストフレーム属性およびその他の段組サイズ属性
インタラクティビティ	アニメーション、オブジェクトステート、ボタンアクション
フレームコンテンツ	画像、ビデオ、フレームに配置またはペーストされたコンテンツ、およびそのオブジェクトに直接適用されたエフェクトおよび設定。
その他	他のカテゴリーから除外された属性。フレームのテキストの回り込み、オブジェクト書き出しオプションなど。また、ベースラインオプション、自動サイズオプション、テキストの配置などのテキストフレーム属性など。

ストーリーから強制改行を削除 ストーリーの強制改行を削除できるようにします。改行を削除すると、サイズ変更または再フォーマットしたときに、テキストがリンクされたフレームにスムーズにリフローされます。

カスタムスタイルマッピングを定義 スタイルをマッピングし、代わりに別のスタイルをリンクしたコンテンツに自動的に適用する場合、このオプションを有効にします。詳しくは、カスタムスタイルマッピングを参照してください。

デフォルトのリンクオプションを指定するには、すべてのドキュメントを閉じた状態で、リンクパネルメニューを開き、「リンクオプション」を選択します。

トップへ

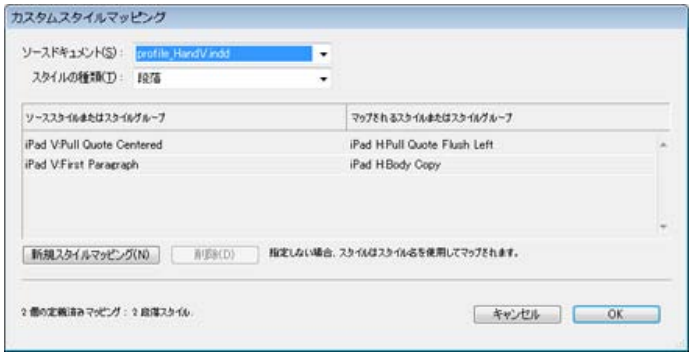
カスタムスタイルマッピング

テキストスタイル（段落、文字、表、セル）またはスタイルグループはリンク中に様々なスタイルにマップできます。マッピングされたスタイル

は、親に適用されたオリジナルスタイルではなく、リンクしたコンテンツに自動的に適用されます。 カスタムスタイルマッピングが便利なのは、例えば、デジタルパブリケーションでは sans serif フォントを使用し、プリントパブリケーションでは serif フォントを使用するような場合です。または、テキストスタイルを横組みと縦組みで変えるような場合です。

カスタムマッピングを定義するには、次のいずれかの操作を行います。

- リンクオプションダイアログボックス（リンクパネル／リンクオプション）で、「カスタムスタイルマッピングを定義」を有効にし、「設定」をクリックします。
- コンテンツコンベヤーの をクリックします。



カスタムスタイルマッピング

1. ソースドキュメントとスタイルの種類を選択します。
2. 新規スタイルマッピングをクリックします。
3. リストからソースとマッピングされるスタイル、またはスタイルグループを選択します。

   「キャンセル」ボタンを「リセット」に変更するには、Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押します。デフォルトオプションに戻すには、「リセット」をクリックします。

トップへ

リンクされたアイテムの更新

元のアイテムを変更すると、⚠ 記号がフレームとリンクパネルの上に表示されます。更新するには、次のいずれかの操作を行います。

- フレーム左上の ⚠ をクリックします。
- リンクパネルで、⚠ 記号をダブルクリックします。

子アイテムにローカルな編集を行った場合、編集内容は元のアイテムの内容更新で上書きされます。ローカルの編集結果がリンクの更新で上書きされる場合に警告を設定すると、警告メッセージが表示されます。

リンク情報ペインを使用して、ストーリーにローカルな編集を行ったかどうかを判断します。ローカルな編集を行った場合は、ストーリーのステータスに「変更済み」と表示されます。

(cc) BY-NC-SR Twitter™ および Facebook の投稿は Creative Commons の条項の対象ではありません。

法律上の注意事項 | プライバシーポリシー

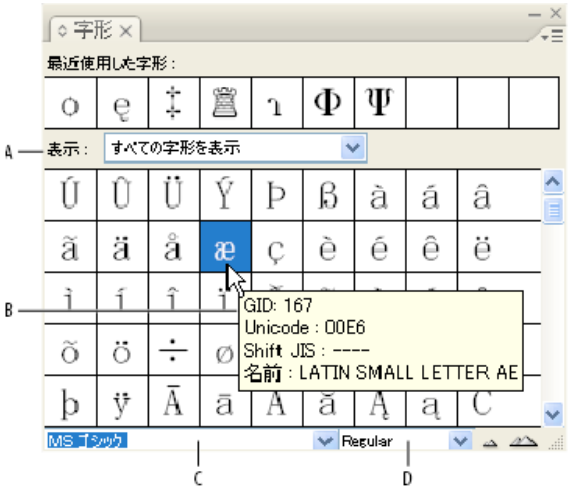
字形と特殊文字

字形パネルの概要
字形と特殊文字の挿入
カスタム字形セットの作成と編集
引用符の使用
スペースの挿入
Adobe SING Glyphlet Manager について

字形パネルの概要

トップへ戻る

字形パネルによって字形を入力します。このパネルには、初めはカーソルが置かれているフォントの字形が表示されますが、別のフォントを表示したり、そのフォントのフォントスタイル（例えば、「Light」、「Regular」、「Bold」など）を表示したり、パネルにそのフォントの字形のサブセット（例えば、数学記号、数字、句読記号など）を表示させたりすることができます。



字形パネル
A. 字形のサブセットの表示 **B.** ツールヒント **C.** フォントリスト **D.** フォントスタイル

マウスポインターを字形の上に移動すると、その字形の CID/GID 値、ユニコード値、および名前がツールヒントに表示されます。

字形パネルを開く

❖ 書式／字形またはウィンドウ／書式と表／字形を選択します。

字形パネルの表示の変更

- サイクルツール（字形パネルの「字形」の左側にあります）をクリックして、パネルのビューを変更できます。このツールをクリックすると、ビュー（縮小したパネル、パネル全体、および最近使用された字形がないパネル）が順番に切り替わって表示されます。
- 字形パネルの右下隅にある「ズームイン」ボタンまたは「ズームアウト」ボタンをクリックします。
- 右下隅をドラッグして、字形パネルのサイズを変更します。

表示する字形のフィルター

❖ 表示リストで次のいずれかの操作を行って、字形パネルに表示する字形を指定します。

- 「すべての字形を表示」を選択して、そのフォントで使用可能なすべての字形を表示します。
- 「すべての字形を表示」の下にあるオプションを選択して、リストを字形のサブセットに絞り込みます。例えば、「約物」を選択すると句読点などの約物を集めた字形のみが表示され、「数式記号」を選択すると選択項目が数式記号に絞り込まれます。

字形パネルの字形のソート

❖ 「CID/GID 順」または「Unicode 順」を選択し、字形パネルの字形のソート順を指定します。

字形と特殊文字の挿入

トップへ戻る

字形とは、文字の特定の形を表します。例えば、あるフォントでは、大文字の「A」はスワッシュ字形や小文字のように、いくつかの形式で利用することができます。字形パネルを使用すると、フォントに定義されている字形を見つけることができます。

Adobe Caslon™ Pro や小塚明朝 OTF などの OpenType フォントでは、多くの文字に対して複数の異体字が用意されています。これらの異体字をドキュメントに挿入するには、字形パネルを使用します。字形パネルを使用して、飾り文字、スワッシュ字形、分数、合字などの OpenType 属性を表示したり挿入したりすることもできます。

特殊文字の挿入

EM ダッシュ、EN ダッシュ、登録商標記号、省略記号などの様々な特殊文字を挿入できます。

1. 文字ツールを使用して、特殊文字を挿入する箇所をクリックし、テキスト挿入点を置きます。
2. 書式／特殊文字を挿入を選択し、メニューのカテゴリーからオプションを選択します。

繰り返し使用する特殊文字がリストに表示されていなければ、作成した字形セットに追加します。

指定フォントでの字形の挿入

1. 文字ツールを使用して、文字を入力する箇所をクリックし、テキスト挿入点を置きます。
2. 書式／字形を選択して、字形パネルを表示します。
3. 字形パネルに別の文字セットを表示するには、次のいずれかの操作を行います。
   - 使用可能な別のフォントおよびフォントスタイルを選択します。そして、表示メニューから「すべての字形を表示」を選択します。OpenType フォントを選択した場合には、表示メニューにリストされる OpenType 属性の各種オプションを選択します。
   - 表示メニューからカスタム字形セットを選択します（詳しくは、カスタム字形セットの作成と編集を参照してください）。
4. 挿入したい文字が表示されるまで、文字の表示をスクロールします。OpenType フォントを選択した場合は、字形ボックスをクリックしたままにすると、その字形の異体字がポップアップ表示されます。
5. 挿入したい文字をダブルクリックします。テキスト挿入点にその文字が表示されます。

最近使用した字形の挿入

InDesign では、最近挿入した 35 種類の異体字が記憶されており、それらの字形が字形パネルの「最近使用した字形」の項目下に表示されます（35 種類の字形を先頭行にすべて表示するには、パネルを拡張する必要があります）。

❖ 次のいずれかの操作を行います。

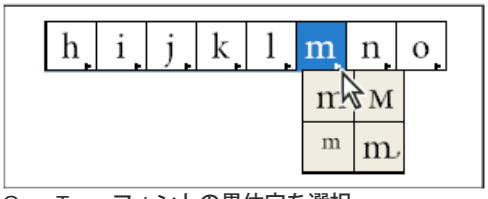
- 「最近使用した字形」の下にある字形をダブルクリックします。
- 表示メニューから「最近使用した字形」を選択し、最近使用されたすべての字形を字形パネルの本体に表示し、字形をダブルクリックします。

最近使用した字形の消去

- 選択した字形を「最近使用した字形」セクションから消去するには、「最近使用した字形」セクションで字形を右クリック（Windows®）または Control キーを押しながらクリック（Macintosh）して、「最近使用した字形から字形を削除」を選択します。
- 最近使用したすべての字形を消去するには、「最近使用した字形をすべて消去」を選択します。

異体字への文字の置換

特定の文字に異体字がある場合、字形パネルのその文字の右下隅に三角形のアイコンが表示されます。字形パネルで文字をクリックしてマウスボタンを押し続け、異体字のポップアップメニューを表示することも、字形パネルで異体字を表示することもできます。



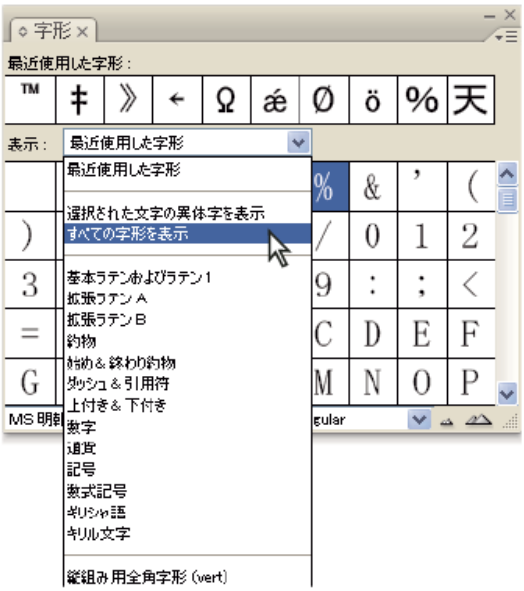
OpenType フォントの異体字を選択

1. 書式／字形を選択して、字形パネルを表示します。
2. 表示リストから「選択された文字の異体字を表示」を選択します。
3. 文字ツールを使用して、ドキュメントから 1 文字だけを選択します。
4. 次のいずれかの操作を行って、ドキュメントで選択した文字を置換します。
   - 字形パネルで字形をダブルクリックします。
   - メニューで字形を選択します。

字形パネルでの OpenType 字形属性の表示

字形パネルでは、選択しやすいように、特定の OpenType 属性の文字だけを表示させることができるようになっています。字形パネルの表示メニューから各種オプションを選択できます。

注意： これらの表示メニューに表示される各種オプションと、字形パネルメニューに表示されるオプションを混同しないでください。パネルメニューでは、選択したテキストに対して字形セットを適用できます（OpenType フォント属性の適用を参照してください）。



字形パネルのメニューオプションを表示します。

1. 字形パネルで、フォントリストから OpenType フォントを選択します。
2. 表示メニューからオプションを選択します。

表示されるオプションは、選択するフォントによって異なります。OpenType フォント属性について詳しくは、OpenType フォント属性の適用を参照してください。OpenType フォントについて詳しくは、www.adobe.com/go/opentype_jp を参照してください。

テキスト内の異体字のハイライト表示

1. 編集／環境設定／組版（Windows）または InDesign／環境設定／組版（Mac OS）を選択します。
2. 「代替字形」を選択して、「OK」をクリックします。テキスト中の代替字形が黄色でハイライト表示されます。ハイライト表示は印刷されることはありません。

トップへ戻る

カスタム字形セットの作成と編集

字形セットとは、1 つまたは複数のフォントから字形をまとめたものです。字形セットに字形を保存すると、目的の字形が必要になるたびにそれらを探す手間を省くことができます。字形セットは、特定のドキュメントに属するものではなく、他の InDesign 環境設定と共に共有可能な独立したファイルに保存されます。

字形セットでは、セットに含めた字形のフォントを保持するかどうかを設定することができます。例えば、他のフォントでは表示されないと思われる異体字を使用する場合などには、字形のフォントを保持させておくと便利です。字形を保持しているフォントがシステムにインストールされていない場合、字形パネルおよび字形セット編集ダイアログボックスでは、その字形がピンクで表示されます。また、「字形のフォントを保持」が選択されていない場合は、字形の横に「u」の文字が表示されます。これは、フォントのユニコード値が字形の外観を決定していることを示します。

カスタム字形セットの作成

1. 書式／字形を選択します。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - 字形パネルメニューから「新規字形セット」を選択します。
   - 字形パネルのコンテキストメニューを開き、「新規字形セット」を選択します。
3. 字形セットの名前を入力します。
4. 字形セットに字形を追加する挿入順序を選択し、「OK」をクリックします。
   前面に追加 新規字形は字形セットの先頭に追加されます。

   最後に追加 新規字形は字形セットの最後に追加されます。

   Unicode 順 すべて字形が、それぞれのユニコード値の順に並べられます。
5. 字形をカスタムセットに追加するには、字形パネルの下部で追加する字形を含むフォントを選択してから字形を選択し、字形パネルメニュー

の字形セットメニューからカスタム字形セットの名前を選択します。

カスタム字形セットの表示

❖ 字形パネルで次のいずれかの操作を行います。

- 表示リストで字形セットを選択します。
- 字形パネルメニューから「字形セットを表示」を選択し、字形セットの名前を選択します。

カスタム字形セットの編集

1. 字形パネルメニューから「字形セットを編集」を選択し、カスタム字形セットを選択します。
2. 字形セットを編集ダイアログボックスの左側のリストから編集する字形を選択し、次のいずれかの操作を行って、「OK」をクリックします。
   - 字形のフォントを保持するには、「字形のフォントを保持」を選択します。フォントを保持している字形は、その字形をテキストに挿入するときに、ドキュメント上で選択されているテキストに適用されているフォントを無視します。また、字形パネルのフォントメニューで選択されているフォントも無視します。このオプションを選択しない場合は、現在のフォントの Unicode 値だけが参照されます。
   - 他の字形を表示するには、別のフォントまたはスタイルを選択します。字形のフォントが保持されていない場合は、別のフォントを選択することはできません。
   - 字形をカスタム字形セットから削除するには、「セットから削除」を選択します。
   - 字形セットに字形を追加する順序を変更するには、「挿入順序」オプションを選択します。「Unicode 順」は、字形セットの作成時に「前面に追加」または「最後に追加」が選択された場合は使用できません。

カスタム字形セットからの字形の削除

1. 字形パネルの表示メニューからカスタム字形セットを選択します。
2. 字形を右クリック（Windows）または Control キーを押しながらクリック（Macintosh）して、「セットから字形を削除」を選択します。

カスタム字形セットの削除

1. 次のいずれかの操作を行います。
   - 字形パネルメニューから「字形セットを削除」を選択します。
   - コンテキストメニューから「字形セットを削除」を選択します。
2. カスタム字形セットの名前をクリックします。
3. 「はい」をクリックして確定します。

字形セットの保存と読み込み

カスタム字形セットは、Glyph Sets フォルダー（Presets フォルダーのサブフォルダー）にあるファイルに保存されます。字形セットファイルは他のコンピューターにコピーできます。その際、他のユーザーがカスタム字形セットを使用できるようにすることができます。次のフォルダーとの間で字形セットファイルをコピーして、他のユーザーと共有します。

Mac OS ユーザー/[ユーザー名]/ライブラリ/Preferences/Adobe InDesign/[バージョン]/[言語]/Glyph Sets
Windows XP Documents and Settings¥[ユーザー名]¥Application Data¥Adobe¥InDesign¥[バージョン]¥[言語]¥Glyph Sets
Windows Vista および **Windows 7** ユーザー¥[ユーザー名]¥AppData¥Roaming¥Adobe¥InDesign¥[バージョン]¥[言語]¥Glyph Sets

トップへ戻る

引用符の使用

入力に使用する言語に合わせて、引用符の種類を変更することができます。環境設定ダイアログボックスの「テキスト」セクションで「英文引用符の使用」が選択されていると、入力中は指定した引用符が自動的に使用されます。

使用する引用符の指定

1. 編集／環境設定／欧文辞書（Windows）または InDesign／環境設定／欧文辞書（Macintosh）を選択します。
2. 言語メニューから言語を選択します。
3. 次のいずれかの操作を行って、「OK」をクリックします。
   - 「二重引用符」で、メニューから引用符の種類を選択するか、引用符として使用する文字をテキストボックスに一対で入力します。
   - 「引用符」で、メニューから引用符の種類を選択するか、引用符として使用する文字をテキストボックスに一対で入力します。

半角引用符の挿入

❖ 次のいずれかの操作を行います。

- 書式／特殊文字の挿入／引用符で、「半角二重引用符」または「半角一重引用符（アポストロフィ）」を選択します。

- 環境設定ダイアログボックスの「テキスト」パネルで、「英文引用符の使用」チェックボックスの選択を解除した状態で、引用符またはアポストロフィを入力します。

  フィート、角度の分、時間の分を表すためによく使用される文字がプライム記号です。プライムマークは角度を付けたアポストロフィのように表示されます。インチ、角度の秒、時間の秒を表すためによく使用される文字がダブルプライム記号です。これらの記号は、アポストロフィや二重引用符とは異なります。フォントによっては、プライム記号やダブルプライム記号が含まれている場合もあります。これらの記号を挿入するには、字形パネルを使用します。フォントにプライム記号やダブルプライム記号が含まれていない場合は、半角引用符を挿入し、斜体にします。

トップへ戻る

スペースの挿入

ホワイトスペースは、文字と文字の間に使用する空白です。ホワイトスペースには、行末で 2 つの単語の分離を避けるといったような、通常のスペースとは異なる目的に使用できるものがあります。

1. 文字ツールを使用して、一定量のホワイトスペースを挿入したい箇所をクリックし、テキスト挿入点を置きます。
2. コンテキストメニューでスペースを挿入のいずれかのオプション（EM スペースなど）を選択します。

   ホワイトスペースを表示するには、書式／制御文字を表示を選択します。非表示にするには書式／制御文字を隠すを選択します。

ホワイトスペースのオプション

書式／スペースの挿入には次のオプションがあります。

全角スペース アジア言語の全角 1 文字分の字幅を持つスペースのことを言います。他の全角文字と同じように、次の行に送られます。
EM スペース 文字サイズと同じ幅です。例えば、12 ポイントの文字の場合、幅は 12 ポイントになります。
EN スペース EM スペースの 2 分の 1 の幅です。
分散禁止スペース 通常の半角スペース（スペースバーで入力されるスペース）と同じ幅です。このスペースは行末に位置したとき、両隣りの 2 つの単語と共に次行に送られるので、単語の分離を避けることができます。
分散禁止スペース **(固定幅)** 固定幅スペースは、スペースの場所で行が改行されないようにしますが、ジャスティフィケーションされたテキストでは拡張や縮小はされません。固定幅スペースは、InDesign CS2 に挿入された分散禁止スペース文字と同様です。
1/3 スペース EM スペースの 3 分の 1 の幅です。
1/4 スペース EM スペースの 4 分の 1 の幅です。
1/6 スペース EM スペースの 6 分の 1 の幅です。
フラッシュスペース 両端揃えが適用されている段落の最終行で、不定量のスペースを追加します。最終行の文字間隔が空きすぎないようにするために使用できます（詳しくは、ジャスティフィケーション設定の変更を参照してください）。
極細スペース EM スペースの 24 分の 1 の幅です。
細いスペース EM スペースの 8 分の 1 の幅です。EM ダッシュまたは EN ダッシュの隣での使用に有効です。
数字の間隔 # 数字の書体と同じ幅です。決算書など、数字を羅列する表で数字を整列する際に有用です。
句読点等の間隔 半角の感嘆符（!）、ピリオド（.）、コロン（:）の書体と同じ幅です。

トップへ戻る

Adobe SING Glyphlet Manager について

Adobe SING Glyphlet Manager は、グリフレットのインストールと検索を実行できるユーティリティです。Adobe Creative Suite 5 には含まれていません。

関連項目

(cc) BY-NC-SR

法律上の注意 | プライバシーポリシー

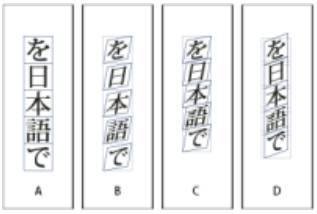
CJK 文字の書式設定

テキストに対する斜体の適用
文字の回転
文字の前後のアキ量の調整
縦中横の使用
テキストへのルビの追加
圏点の適用
サイズの異なる文字の揃え

ページの先頭へ

テキストに対する斜体の適用

文字を斜めに傾ける場合、従来の写植技術では、字形をフィルムにセットしたまま、レンズを使用して歪めていました。この傾斜スタイルを斜体と言います。斜体では、字形が拡大 / 縮小されるので、単純に字形を傾けたものとは異なります。InDesign の斜体機能を使用すると、字形の高さを変えずに、傾斜させるテキストの中心点からの縮小率や角度を調整することができます。



斜体

A. 拡大 / 縮小の適用なし ***B.*** 縮小率 *30*%、*45* 斜体 ***C.*** 「ツメの調整」オプションを選択 ***D.*** 「ライン揃え」オプションを選択

1. テキストを選択します。
2. 文字パネルメニューまたはコントロールパネルメニューから「斜体」を選択します。
3. 次のオプションを指定して、「OK」をクリックします。
   - 「縮小率」で、字形の歪みの割合を指定します（従来の写植技術と対比した場合、10 %の縮小は 1 番レンズと同等で、40 %の縮小は 4 番レンズと同等です）。
   - 「角度」で、30、45 または 60 度を指定して傾斜の角度を設定します。
   - 横組みテキストで横組みの行が水平に表示され、縦組みテキストで縦組みの行が垂直に表示されるように、「ライン揃え」を選択して字体を回転させます。
   - 字送りを詰めるには「ツメの調整」を選択します。

斜体をテキストに適用した後、文字を個々に回転させて傾斜効果を微調整することもできます。

ページの先頭へ

文字の回転

1. 文字を選択します。
2. 文字パネルで、「文字回転」 に値を入力します。マイナスの値を指定すると、文字が右回り（時計回り）に回転します。

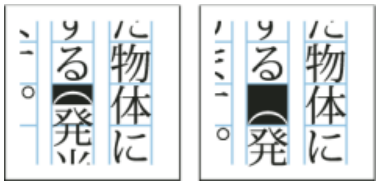
ページの先頭へ

文字の前後のアキ量の調整

1. 文字ツールを使用して、開く括弧類または閉じ括弧類を選択します。

2. 文字パネルの「文字前のアキ量」 または「文字後のアキ量」 で、追加するアキの量を選択します。

例えば、「二分」を指定すると 2 分の 1 の全角スペースに設定され、「四分」を指定すると 4 分の 1 の全角スペースに設定されます。行が両端揃えに設定されている場合、このアキは調整されません。アキの調整は、「文字組みアキ量」の設定を特定の文字について変更する場合に特に役立ちます。

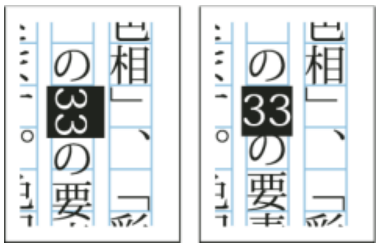


開く括弧の前にアキを追加

ページの先頭へ

縦中横の使用

「縦中横」（組文字または連文字とも呼びます）を使用すると、縦組みテキストの一部を横組みテキストにすることができます。縦組みテキストでは、数字、日付、短い外国語の単語などの半角文字を縦中横にすると読みやすくなります。



縦中横の適用前と適用後

「縦中横設定」コマンドを使用すると、テキストを左、右、上、下に移動することができます。また、特定の半角文字に対して「自動縦中横」を設定することもできます。「自動縦中横」は段落属性として設定するオプションです。

文字パネルの「文字ツメ」または字送りを使用して、縦中横の文字間隔を調整できます。

縦中横の適用

1. 縦中横を適用するテキストを選択します。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - 文字パネルメニューまたはコントロールパネルメニューの「縦中横」を選択します。
   - 文字パネルメニューまたはコントロールパネルメニューから「縦中横設定」を選択し、縦中横設定ダイアログボックスの「縦中横」を選択して、「OK」をクリックします。

複数の縦中横の文字が連続する場合、それぞれを分離させるには結合なしの文字を使用します。書式／特殊文字を挿入／その他／結合なしを選択します。

縦中横の削除

1. 縦中横を適用するテキストを選択します。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - 文字パネルメニューまたはコントロールパネルメニューの「縦中横」を選択してキャンセルします。
   - 文字パネルメニューから「縦中横設定」を選択して、縦中横設定ダイアログボックスの「縦中横」の選択を解除し、「OK」をクリック

します。

縦中横設定の変更

1. 文字パネルメニューの「縦中横設定」を選択します。
2. 「上下位置」で、テキストを上下方向に移動する値を指定します。プラスの値を指定するとテキストは上方向に移動し、マイナスの値を指定すると下方向に移動します。
3. 「左右位置」で、テキストを左右の方向に移動する値を指定します。プラスの値を指定するとテキストは右方向に移動し、マイナスの値を指定すると左方向に移動します。

特定の段落に対する自動縦中横の設定

1. 自動縦中横を設定するテキストを選択するか、段落にテキスト挿入点を置きます。
2. 段落パネルメニューから「自動縦中横設定」を選択します。
3. 「組数字」で、連続する半角文字を何文字まで縦方向に回転するかを桁数で指定します。例えば、2 と指定すると、「123」という文字列は回転しませんが、「12」は回転します。
4. 縦中横を欧文テキストに適用したい場合は、「欧文も含める」を選択し、「OK」をクリックします。

ページの先頭へ

テキストへのルビの追加

日本語では、ルビ（ふりがなとも言います）は、通常、漢字の読みをひらがなで表すために使用します。ルビは、簡体中国語ではピンインと呼ばれ、繁体中国語ではチューインと呼ばれます。InDesign では、日本語のルビについては完全サポートを提供し、中国語のピンインとチューインについては限定的にサポートしています。ルビの位置、サイズ、カラーを指定して、ルビ設定を調整することができます。また、ルビが親文字よりも長いときのルビの配置を指定することもできます。ルビに縦中横を適用することもできます。



横組みテキストにふられたルビ（左）と、縦組みテキストの右側にふられたルビ（右）

ルビをふる親文字が 2 行にわたっている場合、親文字は次の行に移動し、ルビが追加されます。

注意： 特定の状況（変数を含むスタイルを適用した場合など）では、ルビ文字が削除されることがあります。

1. ルビをふるテキストを選択します。選択したテキストに強制改行が含まれている場合は、ルビをふることはできません。
2. 文字パネルメニューまたはコントロールパネルメニューの「ルビ」から「ルビ」を選択します。
3. 「ルビ」にルビ文字を入力します。
4. ルビ設定を変更するには、ダイアログボックス左側のオプションを選択し、設定を指定します。
5. 「OK」をクリックします。

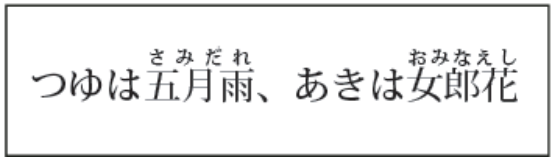
ルビ設定

ルビダイアログボックスの各パネルには次のオプションがあります。

ルビの位置と間隔

- 「種類」では、「モノルビ」または「グループルビ」を選択します。「モノルビ」を選択したときは、ルビ文字を入力する際に半角または全角の空白を入力して、各親文字に割り当てるルビ文字列を区切ります。例えば、「白熱灯」にルビをふる場合、「はくねつとう」と入力します。

A 

B 

ルビ

- 「揃え」で、ルビ文字の位置を指定します。サンプルフィールドに表示されるグラフィックで位置を確認できます。
- 横組みテキストの上または縦組みテキストの右にルビを付けるには、「位置」で「親文字の上 / 右」を選択し、横組みテキストの下または縦組みテキストの左にルビを付けるには、「親文字の下 / 左」を選択します。
- 「横組み左右 / 縦組み上下」と「横組み上下 / 縦組み左右」で、ルビと親文字の間隔を指定します。マイナスの値を入力すると、ルビが親文字に近づきます。

ルビのフォントとサイズ

- 「フォント」で、フォントファミリーとフォントスタイルを選択します。
- 「サイズ」で、ルビ文字のサイズを指定します。デフォルトのルビサイズは、親文字の半分です。
- 「水平比率」と「垂直比率」で、ルビ文字の高さと幅の比率を指定します。
- ルビの異体字（利用できる場合）を使用するには、「OpenType Pro のルビ字形を使用」を選択します。一部の OpenType Pro フォントには、ルビ専用のかな文字が用意されている場合があります。このオプションを選択すると、標準のかな文字の字形ではなく、ルビ専用の字形が使用されます。
- 「組数字」で、連続する半角文字を何文字まで縦方向に回転するかを桁数で指定します。例えば、2 と指定すると、「123」という文字列は回転しませんが、「12」は回転します。
- 縦中横を欧文文字に適用する場合は、「欧文も含める」を選択します。
- OpenType 機能を使用するか字形を拡大 / 縮小して、ルビ文字と同じサイズ（1 em 四方）を持つ縦中横に強制的に実行するには、「幅に合わせる」を選択します。

ルビが親文字より長ときの調整

- ルビ文字全体の幅が親文字全体の幅より長い場合、「文字かけ処理」で指定した幅のルビが親文字の両隣の文字にかかります。日本語では、文字かけ対象の文字種は JISx4051-1995 規格に準拠しています。
- ルビをふるのに必要な親文字の間隔を「親文字間の調整」で指定します。サンプルフィールドに表示されているグラフィックは、別のオプションを選択すると更新されます。
- ルビの文字幅を自動的に調整するには、「ルビの文字幅を自動的に詰める」を選択して、ルビの文字幅を詰める比率を指定します。
- 親文字を行の先頭と最後に合わせるには、「自動行頭 / 行末揃え」を選択します。

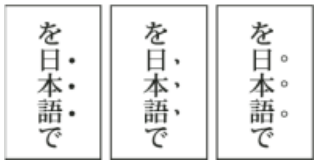
ルビカラー

- リストボックスでカラースウォッチを選択します。
- 必要に応じて、濃淡の割合と線幅を指定します。
- ルビ文字の塗りまたは線のオーバープリントを設定するには、「塗りオーバープリント」または「線オーバープリント」を選択します（オーバープリントを手動で使用するかどうかの判別（英語のみ）を参照してください）。

ページの先頭へ

圏点の適用

圏点（傍点とも言います）は、強調したい文字に付加する点のことです。既定の圏点の字体から点の種類を選択したり、カスタマイズした圏点文字を指定したりすることができます。また、圏点の設定を調整して、位置、サイズ、カラーを指定することもできます。



小さい黒丸圏点、ゴマ圏点、小さい白丸圏点をテキストに適用

圏点の適用

1. 強調する文字を選択します。
2. 文字パネルメニューまたはコントロールパネルメニューの「圏点」から「蛇の目」や「白丸」など、圏点文字を選択します。

圏点の設定と色の変更

1. 文字パネルメニューまたはコントロールパネルメニューの「圏点」から「圏点」を選択します。
2. 「圏点設定」で、次のオプションを指定します。

   圏点種類　「蛇の目」や「白丸」などの圏点文字を選択します。「カスタム」を選択して、カスタム文字を指定します。直接文字を入力することも、特定の文字セットの文字コード値を指定することもできます。

   位置　圏点と親文字との間の間隔を指定します。

   表示される場所　横組みテキストの上または縦組みテキストの右に圏点を付けるには「上 / 右」、横組みテキストの下または縦組みテキストの左に圏点を付けるには「下 / 左」を選択します。

   サイズ　圏点文字のサイズを指定します。

   揃え　圏点を文字の仮想ボディの中央に表示する（「中付き」）か、左端（縦組みテキストの場合は上端）に表示する（「肩付き」）かを指定します。

   水平比率と垂直比率　圏点文字の高さと幅の比率を指定します。
3. 圏点のカラーを変更するには、リストボックスから「圏点カラー」を選択し、次のオプションを指定します。
   - リストボックスからカラースウォッチを選択します。
   - 必要に応じて、濃淡の割合と線幅を指定します。
   - 圏点文字の塗りまたは線のオーバープリントを設定するには、「塗りオーバープリント」または「線オーバープリント」を選択します（オーバープリントを手動で使用するかどうかの判別（英語のみ）を参照してください）。
4. 「OK」をクリックします。

ページの先頭へ

サイズの異なる文字の揃え

異なるサイズの文字を 1 行に配置するとき、「文字揃え」設定を使用して、行内の最も大きい文字にテキストを揃える方法を指定することができます。文字を仮想ボディの上、中央または下に揃えたり（縦組みフレームの場合は右、中央、左）、欧文ベースラインに揃えたり、平均字面の上または下（縦組みフレームの場合は右または左）に揃えたりすることができます。平均字面（*ICF*）とは、フォントデザイナがフォントを構成する全角文字をデザインするときに使用する標準の高さと幅です。



サイズの異なる文字の揃え

A. サイズの異なる文字を全角文字の上端に揃える ***B.*** サイズの異なる文字を全角文字の中央に揃える ***C.*** サイズの異なる文字を全角文字の下端に揃える

注意： 行のすべての文字が同じサイズの場合は、「文字揃え」を適用しても効果はありません。

1. 文字を揃える行またはテキストの範囲を選択するか、選択ツールを使用してテキストフレームを選択します。
2. 文字パネルメニューまたはコントロールパネルメニューの「文字揃え」から、以下のいずれかのオプションを選択します。
   - 「欧文ベースライン」は、行にある小さい文字を、大きい文字のベースライングリッドに揃えます。
   - 「仮想ボディの上 / 右」、「仮想ボディの中央」または「仮想ボディの下 / 左」は、行にある小さい文字を、大きい文字の仮想ボディの指定位置に揃えます。縦組みテキストでは、「仮想ボディの上 / 右」はテキストを仮想ボディの右側に揃え、「仮想ボディの下 / 左」は段落を仮想ボディの左側に揃えます。
   - 「平均字面の上 / 右」または「平均字面の下 / 左」は、行にある小さい文字を、大きい文字の指定平均字面に揃えます。縦組みテキストでは、「平均字面の上 / 右」はテキストを平均字面の右側に揃え、「平均字面の下 / 左」はテキストを平均字面の左側に揃えます。

関連項目

(cc) BY-NC-SA Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

パステキストの作成

パステキストの作成
パステキストの編集と削除
パステキストの位置の調整
パステキストへの効果の適用
パステキストへのアンカー付きオブジェクトの追加

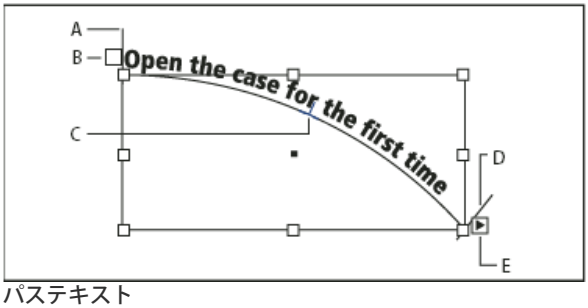
トップへ戻る

パステキストの作成

任意のシェイプの開いたパスや閉じたパスのエッジに沿って、テキストの流し込みを行うことができます。パステキストは、設定を変更したり効果を適用したりできます。テキストをパスに沿って移動したり、パスの反対側に移動したり、パスの形状を使用して文字を変形したりすることもできます。パステキストには、他のテキストフレームと同様にインポートとアウトポートがあり、それを使用してテキストを連結することができます。

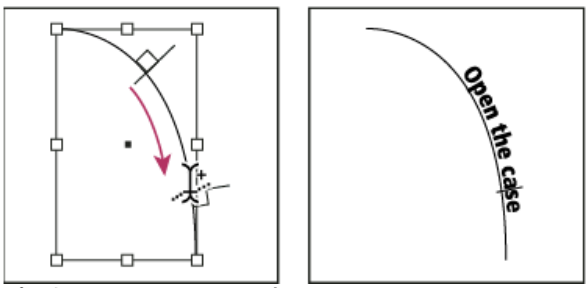
1 つのパスに表示できるテキストは 1 行だけです。パス内に収まらないテキストは、他のパスやテキストフレームを連結して流し込まない限り、オーバーセットのまま表示されません。パステキストに対して、インラインまたは行の上のアンカー付きオブジェクトを追加することができます。「アウトラインを作成」コマンドを使用して作成したパスなどの複合パスを使用して、パステキストを作成することはできません。

パステキストは、横組みだけでなく縦組みにも対応しているほか、割注、ルビ、圏点、縦中横などアジア言語組版独自の機能を使用することもできます（詳しくは、割注オプションの変更、縦中横の使用、テキストへのルビの追加、および圏点の適用を参照してください）。



パステキスト
A. 始点ブラケット **B.** インポート **C.** 中心点ブラケット **D.** 終点ブラケット **E.** 連結されたテキストを示すアウトポート

1. 横組みパスツール または縦組みパスツール を選択します（文字ツールをクリックしたままにすると、横組みパスツールを含むメニューが表示されます）。
2. ポインターをパスの上に移動して、ポインターの横に小さいプラス記号 が表示されたら、次の手順に従って操作を行います。
   - デフォルト設定を使用して文字を入力するには、パスをクリックします。デフォルトではテキスト挿入点がパスの始点に表示されます。デフォルトの段落設定でインデントや左／上揃え以外が指定されている場合は、テキスト挿入点はパスの始点以外の場所に表示される場合があります。
   - テキストの配置をパスの特定の部分に制限するには、テキストの始点にするパス上の位置をクリックし、パスに沿って終点までドラッグしてから、マウスを放します（テキストの始点と終点を変更する方法について詳しくは、パステキストの位置の調整を参照してください）。

   パス上のテキストの配置の変更

   注意： クリックやドラッグがうまくいかない場合、横組みパスツールの横に小さいプラス記号が表示されているかどうかを確認してください。
3. テキストを入力します。パス上をクリックしてテキスト挿入点を置いた場合は、文字はパス全体にわたって表示されます。パス上をドラッグした場合は、文字はドラッグした範囲にのみ表示されます。

注意： パスが最初から表示されている場合、そのパスに文字を入力した後もパスは表示されたままです。パスを隠すには、選択ツールまたはダイレクト選択ツールでパスを選択し、塗りと線に「なし」を適用します。

トップへ戻る

パステキストの編集と削除

パステキストには、文字および段落設定を適用することができます。ただし、段落境界線、段落間のアキの設定は、パステキストには作用しません。段落パネルでの段落揃えの設定は、パステキストの配置を制御します。

パステキストの文字の編集またはフォーマット設定

1. 横組みパスツールを使用して、次のいずれかの操作を行います。
   - テキスト挿入点を表示するには、パステキストの任意の 2 文字の間をクリックします。
   - 文字を選択するには、パステキストに沿ってドラッグします。
2. 必要に応じて、テキストの編集とフォーマット設定を行います。

パステキストの削除

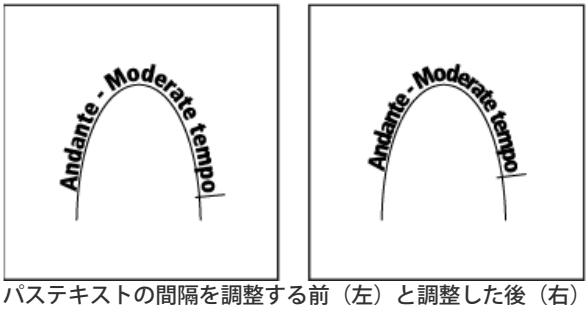
1. 選択ツール またはダイレクト選択ツール を使用して、1 つ以上のパステキストオブジェクトを選択します。
2. 書式／パス上テキスト／パステキストを削除を選択します。

パステキストが連結されている場合は、パステキストを削除すると、テキストが次のテキストフレームまたはパステキストオブジェクトに移動します。パステキストが連結されていない場合は、テキストは削除されます。パスは削除されませんが、すべてのブラケット、インポート、アウトポート、連結などのパステキスト属性はすべて削除されます。

注意： パスの塗りと線の属性が「なし」に設定されている場合は、文字を削除するとパスは見えなくなります。パスを見えるようにするには、書式／パス上テキスト／パステキストを削除を実行した直後に D キー（英語入力モード）を押します。選択されているパスにデフォルトの線と塗りが適用されます。

急な曲がりと角度のパスで文字間隔を狭くする

1. 選択ツールまたは文字ツールを使用して、パステキストを選択します。
2. 書式／パス上文字／オプションを選択するか、横組みパスツールをダブルクリックします。
3. 「間隔」で文字間隔の値を選択するか、値を入力します。値を大きくすると、急な曲線または角度のパスに配置された文字と文字の間が狭くなります。



パステキストの間隔を調整する前（左）と調整した後（右）

注意： 「間隔」を設定することによって、急な曲線または角度のパスでの文字の広がりを修正することができます。この方法は、直線に配置されたパステキストには効果がありません。直線部分の文字間隔を変更するには、調整したい部分を選択して、カーニングまたは字送りを調整します。

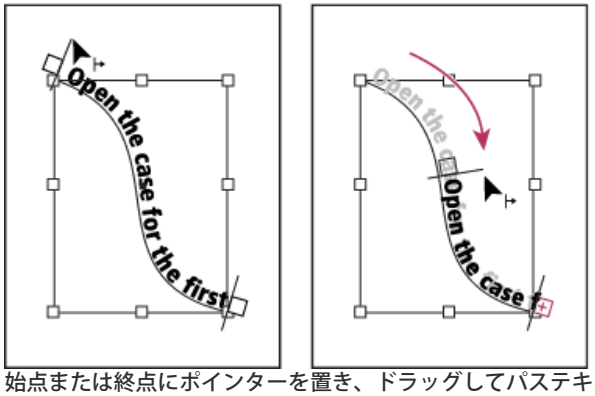
トップへ戻る

パステキストの位置の調整

パステキストの始点と終点の変更、テキストの移動、およびその他の方法でパスの位置を変更できます。

パステキストの始点や終点の変更

1. 選択ツール を使用して、パステキストを選択します。
2. パステキストの始点または終点のブラケット上にポインターを移動します。ポインターの横に小さいアイコン が表示されます。ブラケットのインポートやアウトポートにポインターを置かないようにしてください。
   ブラケットを選択しやすくするには、パスの表示倍率を大きくします。
3. 始点または終点をパスに沿ってドラッグします。



始点または終点にポインターを置き、ドラッグしてパステキストの始点または終点を変更します。

注意： 段落にインデント値を適用している場合は、始点または終点を基準にして適用されます。

パスに沿ったテキストのスライド

1. 選択ツール を使用して、パステキストを選択します。
2. ポインターをパステキストの中心点ブラケットの上に移動します。中心点のアイコン がポインターの横に表示されます。
   ブラケットを選択しやすくするには、パスの表示倍率を大きくします。
3. 中心点をパスに沿ってドラッグします。

注意： 始点と終点のブラケットがパスの両端に置かれている場合は、テキストは移動しません。テキストをドラッグするためのスペースを空けたい場合は、パステキストの始点または終点をドラッグしてパスの両端から離します。

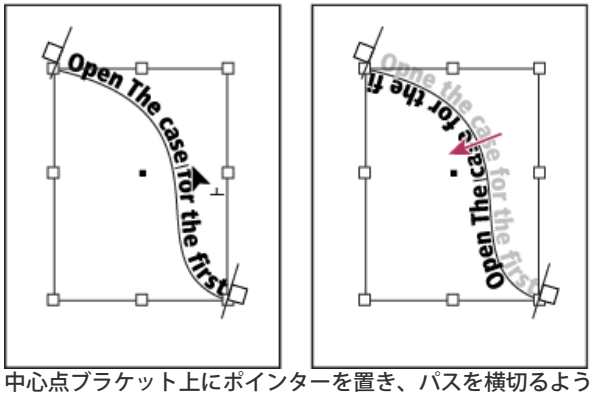
パステキストの縦揃えの設定

1. 選択ツールまたは文字ツールを使用して、パステキストを選択します。
2. 書式／パス上文字／オプションを選択します。
3. 整列ポップアップメニューから次のいずれかを選択し、フォントの高さを基準にして、パステキスト全体のどの位置をパスに揃えるかを指定します。
   - 「平均字面の上」を選択すると、平均字面の上端または左端がパスに揃います。
   - 「中央揃え」を選択すると、仮想ボディの中央がパスに揃います。
   - 「平均字面の下」を選択すると、平均字面の下端または右端がパスに揃います。
   - 「仮想ボディの上」を選択すると、仮想ボディの上端または左端がパスに揃います。
   - 「仮想ボディの下」を選択すると、仮想ボディの下端または右端がパスに揃います。
   - 「欧文ベースライン」を選択すると、欧文ベースラインがパスに揃います。
4. パスのポップアップメニューから次のいずれかを選択して、パステキスト全体をパスの線幅のどの部分に揃えるかを指定します（この設定は線が太い場合だけ、見ることができます）。
   - 「上」を選択すると、線幅の一番上または右端に揃います。
   - 「下」を選択すると、線幅の一番下または左端に揃います。
   - 「中央」を選択すると、線幅の中央に揃います。この設定がデフォルトです。

   垂直方向の位置をさらに調整するには、文字パネルの「ベースラインシフト」オプションを使用します。例えば、パステキストをパスの下方向に移動したい場合は、「ベースラインシフト」にマイナスの値を入力します。

パステキストの反転

1. 選択ツール をクリックして、パステキストを選択します。
2. ポインターをパステキストの中心点ブラケットの上に移動します。中心点のアイコン がポインターの横に表示されます。
3. パスを横切るようにして中心点を反対側にドラッグします。



中心点ブラケット上にポインターを置き、パスを横切るようにドラッグすると、文字が反転されます。

ダイアログボックスを使用してパステキストを反転させることもできます。選択ツールまたは文字ツールを使用して、パステキストを選択します。書式／パス上文字／オプションを選択します。「反転」を選択して、「OK」をクリックします。

トップへ戻る

パステキストへの効果の適用

1. 選択ツールまたは文字ツールを使用して、パステキストを選択します。
2. 書式／パス上文字／オプションを選択するか、横組みパスツールをダブルクリックします。
3. 効果ポップアップメニューから次のいずれかを選択して、「OK」をクリックします。
   - 各文字のベースラインをパスの接線に並行に保つには、「虹」を選択します。この設定がデフォルトです。



パステキストの効果
A. 「虹」の効果 **B.** 「歪み」の効果 **C.** 「3D リボン」の効果 **D.** 「階段」の効果 **E.** 「引力」の効果

   - 文字の垂直方向の軸をパスの形状に関係なく完全に垂直に保ち、文字の水平方向の軸をパスに沿って変形させるには、「歪み」を選択します。この形状は、文字を波形に合わせたり、缶のラベルのように円柱の周りに文字を沿わせたりする場合などに役立ちます。
   - 文字の水平方向の軸をパスの形状に関係なく完全に水平に保ち、各文字の垂直方向の軸をパスに沿って変形させるには、「3D リボン」を選択します。
   - 文字を回転させずに、各文字のベースラインの左端がパスに接するように保つには、「階段」を選択します。
   - 各文字のベースラインの中央がパスに接するように保ち、垂直方向の両端の軸がパスの中心に向かうように変形させるには、「引力」を選択します。このオプションの遠近効果は、テキストのパスの円弧を変形することで調整できます。

トップへ戻る

パステキストへのアンカー付きオブジェクトの追加

1. 文字ツールまたは横組みパスツールを使用して、オブジェクトのアンカーを挿入したい位置でテキスト挿入点をクリックします。
2. アンカー付きオブジェクトを追加します。パスに対して、インラインまたは行の上の位置を指定したアンカー付きオブジェクトまたはアン

カー付きフレームを追加することができます（詳しくは、アンカー付きオブジェクトを参照してください）。

注意： テキストパスに行の上のアンカー付きオブジェクトを追加する際に使用できるオプションは、通常のテキストフレームにアンカー付きオブジェクトを追加する場合のオプションと若干異なります。「揃え」オプションはアンカー付きオブジェクトマーカーを基準にした設定となり、「前スペース」オプションは使用できません。

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

InDesign での注釈の追加

注釈の追加
注釈モードの使用
注釈の管理
注釈の編集の環境設定

InDesign の注釈機能では、注釈またはトラックされている変更を行ったユーザーを識別するために、ワークフロー上のユーザー名が使用されます。注釈およびトラックされた変更は、InDesign の注釈環境設定または InCopy のユーザーダイアログボックス（ファイル／ユーザー）での定義に従って、ユーザーごとに色分けして表示されます。

注釈はテキスト内にのみ表示できます。InDesign では、注釈はストーリーエディターからのみ印刷でき、PDF に書き出すことはできません。

トップへ戻る

注釈の追加

InDesign で管理されているコンテンツに追加した注釈は、ワークフローの他のユーザーが参照できます。注釈は主に InCopy ワークフロー用ですが、InDesign でも利用できます。例えば、後でストーリーに挿入するテキストを注釈として追加できます。InCopy で PDF に書き出すと、注釈は Adobe PDF の注釈に変換されます。

1. 文字ツールを使用して、注釈を配置する位置をクリックし、書式／注釈／新規注釈を選択します。

   ストーリーエディターで編集するときには、注釈ブックエンドが表示されます。レイアウトビューでは、注釈パネルが表示されます。
2. 注釈ブックエンド間に注釈を入力するか、注釈パネルに注釈を入力します。

任意の場所に任意の数の注釈を追加することができます。ただし、注釈の中に別の注釈を作成することはできません。

注釈を表示または非表示にするには、表示／エクストラ／注釈を表示または注釈を隠すを選択します。

トップへ戻る

注釈モードの使用

注釈モードは、注釈を追加、分割または削除するときに便利です。注釈モードは、テキスト挿入点の位置、または選択されているテキストによって動作が異なります。

1. 必要に応じて次の操作を行います。
   - 新規注釈を作成するには、テキスト内にテキスト挿入点を置きます。
   - テキストを注釈に変換するには、テキストを選択します。
   - 注釈を分割するには、注釈内にテキスト挿入点を置きます。
   - 注釈をテキストに変換するには、ストーリーエディターで注釈ブックエンドを選択します。
   - 注釈内にあるテキスト挿入点を注釈ブックエンドの外に移動するには、注釈の先頭または末尾にテキスト挿入点を置きます。
2. 書式／注釈／注釈モードを選択します。

トップへ戻る

注釈の管理

注釈アンカー は、注釈の位置を示します。注釈パネルには、注釈の内容と注釈に関する固有情報が表示されます。

- テキストを注釈に変換するには、書式／注釈／注釈に変換を選択します。選択したテキストがストーリーの本文から削除され、新規の注釈内にペーストされます。注釈アンカーおよび注釈ブックエンドは、選択したテキストがカットされた場所に配置されます。
- 注釈をテキストに変換するには、注釈パネルでテキストに変換したい注釈テキストを選択するか、注釈テキスト内にテキスト挿入点を置きます。または、ストーリーエディターで注釈テキストを選択するか、注釈内にテキスト挿入点を置きます。次に、書式／注釈／テキストに変換を選択します。
- 注釈を分割するには、分割する位置にテキスト挿入点を置き、書式／注釈／注釈を分割を選択します。
- 注釈間を移動するには、ストーリーにテキスト挿入点を置き、書式／注釈／前の注釈、または書式／注釈／次の注釈を選択します。

トップへ戻る

注釈の編集の環境設定

環境設定で、注釈アンカー、注釈ブックエンドおよびストーリーエディターでの注釈の背景カラーを設定できます。また、注釈情報がツールヒン

トとして表示されるよう設定したり、ストーリーエディターで注釈の内容を検索と置換および欧文スペルチェックの対象にするかどうかを設定したりすることができます。

1. 編集／環境設定／注釈（Windows）または InDesign／環境設定／注釈（Macintosh）を選択します。
2. 注釈のカラーポップアップメニューから注釈アンカーおよび注釈ブックエンドのカラーを選択します。「ユーザーカラー」を選択すると、ユーザーダイアログボックスで指定されているカラーが使用されます。これは、1 つのファイルを複数のユーザーが使用する場合に便利です。
3. マウスポインターがレイアウトビューで注釈アンカーの上を移動するときや、ストーリーエディターで注釈ブックエンドの上を移動するときに、注釈情報と注釈の内容のすべてまたは一部をツールヒントとして表示する場合は、「注釈ツールヒントを表示」を選択します。
4. 注釈の内容を「検索と置換」コマンドおよび「欧文スペルチェック」コマンドの対象にするかどうかを指定します（ストーリーエディターのみ）。

   注意： レイアウトビューでは、環境設定ダイアログボックスの設定にかかわらず、「検索と置換」コマンドおよび「欧文スペルチェック」コマンドを使用して注釈の内容を検索することはできません。ただし、「すべてを置換」を使用すると注釈の内容が編集されます。
5. 注釈のブックエンド内の背景カラーを「なし」または「注釈のカラー」（手順 2 で選択したカラー）のどちらかに設定します。
6. 「OK」をクリックします。

関連項目

(cc) BY-NC-SR

法律上の注意 | プライバシーポリシー

リンクストーリー

リンクストーリーの作成
リンクストーリーのオプションの指定
リンクストーリーの更新
元のストーリーの編集

様々なページ間でコンテンツを複製するのは楽な作業ではありません。コンテンツをコピーしてペーストする作業はミスが起こりやすく、時間もかかります。リンクストーリーを使用すると、同じドキュメント内で同じストーリーまたは同じテキストコンテンツを複数バージョン作成し管理できます。例えば、同じコンテンツ内容で縦レイアウトと横レイアウトの両方をデザインしなければならない場合など、新しいワークフローにも簡単に対応できます。リンクストーリーは、異なるページで定型テキストを同期する場合など従来の印刷およびパブリッシングワークフローでも正常に機能します。

リンクストーリーは、従来のリンクと同じように動作します。あるストーリーを親ストーリーとして指定したら、ドキュメントの別の場所に同じストーリーを子ストーリーとして配置できます。親ストーリーを更新するたびにリンクパネルの子ストーリーにはフラグが表示されるので、更新して親ストーリーと同期することができます。標準ストーリーを使用するか、パスストーリーのテキストを使用して、リンクストーリーを作成できます。ストーリー内のアンカー付きオブジェクトもサポートされます。

リンクストーリーは、適用されているスタイルをすべて InDesign スタイルに更新しても、同期されたままになります。

リンクストーリーには、表示上の変更がない場合でも、同期されていないことを示すフラグがリンクパネルで表示されます。グローバルな変更がドキュメントで行われると、InDesign によってストーリーが再構成され、リンクを示すフラグが表示されます。このようなグローバルな変更は次のオプションや定義の更新によって行われる場合があります。

- 脚注
- テキスト変数
- 条件テキスト
- スウォッチ
- XML タグ
- グリッドフォーマット

さらに、すべてのフォントを置き換えたり、オブジェクトのすべてのインスタンスを置き換えたりした場合、InDesign によってすべてのストーリーが再構成され、リンクを示すフラグが表示されます。

トップへ

リンクストーリーの作成

1. テキストフレームを選択するか、テキストに挿入カーソルを置いて、ストーリーを選択します。テキストフレームを選択する場合は、Shift キーを押しながらクリックして複数のストーリーを選択することもできます。
2. 編集／リンクとして配置を選択します。カーソルがストーリーと一緒に読み込まれます。
3. 既存の空のテキストフレームをクリックするか、フレームを描画してリンクされたストーリーを配置します。

リンクされたストーリーの左上端に アイコンが表示されます。ストーリーがリンクされたストーリーとしてリンクパネルに表示されます。デフォルトでリンクパネルに表示されるストーリーの名前は元のストーリーの最初の数文字を使用します。

レイヤーパネルでリンクされたストーリーのデフォルト名を変更することもできます。

トップへ

リンクストーリーのオプションの指定

1. リンクパネルでリンクストーリーを選択します。
2. リンクパネルメニューから、「リンクオプション」を選択します。
3. 必要に応じてオプションを選択します。
   - ドキュメントの保存時にリンクを更新
   - ローカルの編集結果がリンクの更新で上書きされる場合に警告
   - ストーリーから強制改行を削除

ヒント：デフォルトのストーリーオプションを指定するには、すべてのドキュメントを閉じた状態で、リンクパネルメニューを開き、「リンクオ

プション」を選択します。

ヒント：リンクストーリーの作成中に「リンクオプション」を指定するには、Shift キーを押しながら編集／リンクとして配置を選択します。

トップへ

リンクストーリーの更新

元のストーリーを編集すると、リンクパネルでリンクストーリーの横に ⚠ が表示されます。

- リンクパネルで、⚠ をダブルクリックして、子ストーリーを更新します。

子ストーリーにローカルな編集を行った場合、編集内容は元のストーリーの内容更新で上書きされます。「ローカルの編集結果がリンクの更新で上書きされる場合に警告」を設定した場合は警告メッセージが表示されます。

> リンク情報ペインを使用して、ストーリーにローカルな編集を行ったかどうかを判断します。ローカルな編集を行った場合は、ストーリーのステータスに「テキスト変更済み」と表示されます。

トップへ

元のストーリーの編集

リンクストーリーの作業中に元のストーリーに戻る場合は、次のいずれかの操作を行います。

1. リンクパネルでリンクストーリーを選択します。
2. … をクリックするか、リンクパネルメニュー（▾☰）で「元データを編集」を選択します。

元のストーリーを含むページにフォーカスが移動します。

(cc) BY-NC-SA Twitter™ および Facebook の投稿は Creative Commons の条項の対象ではありません。

法律上の注意事項 | プライバシーポリシー

Working with markers

- About markers
- View markers
- Select markers

About markers

To the top

InDesign inserts a marker in text for items such as index entries, XML tags, and hyperlink text and anchors. These markers have no width and they don't affect composition of text. However, you can select these markers and cut, copy, or delete them. InDesign uses the location of the marker to produce an accurate bookmark or page reference in the table of contents, index, and exported PDF files.

You can view all markers at once, or view hyperlink or tagged text markers only. You can also view markers in Story Editor, where they are larger and easier to identify.

Note:

When you select a word, all of its markers are also selected. Keep this in mind when you are cutting, copying, or deleting text.



Types of markers

A. Tagged text B. Index marker C. Hyperlink

View markers

To the top

- To display markers, choose Type > Show Hidden Characters.
- To view hyperlink markers only, choose View > Extras > Show Hyperlinks.
- To view tagged text markers only, choose View > Structure > Show Tag Markers.

Select markers

To the top

1. Choose Type > Show Hidden Characters.
2. Place the insertion point next to the marker.
3. Holding down Shift, press the Left Arrow or Right Arrow key to select a marker.

You can also locate markers using different methods. For example, you can locate an index marker by choosing the Go To Selected Marker option in the Index panel menu.

(cc) BY-NC-SA Twitter™ and Facebook posts are not covered under the terms of Creative Commons.

スタイル

正規表現スタイルの適用（ビデオ 4:46）（英語）
Michael Ninness (2011/01/01)
チュートリアル - ビデオ
このビデオチュートリアルでは、指定した正規表現に合致する任意のテキストに文字スタイルを適用する方法を紹介します。正規表現スタイルを段落スタイルの 1 つとして設定できます。

段落スタイルと文字スタイル

文字スタイルと段落スタイルについて
スタイルパネルの概要
段落スタイルと文字スタイルの追加
スタイルを書き出しタグにマップ | CC、CS6、CS5.5
Word のスタイルを InDesign スタイルに変換
スタイルの適用
文字スタイルと段落スタイルの編集
文字スタイルまたは段落スタイルの削除
文字スタイルと段落スタイルのオーバーライド
箇条書きおよび自動番号スタイルのテキストへの変換
文字スタイルおよび段落スタイルの検索と置換

ページの先頭へ

文字スタイルと段落スタイルについて

文字スタイルとは、1 回の操作でテキストに適用できる、文字書式の属性の集まりです。段落スタイルとは、文字書式と段落書式の両方の属性の集まりで、段落または段落範囲に適用することができます。段落スタイルと文字スタイルには、それぞれ専用のパネルがあります。段落スタイルと文字スタイルは、テキストスタイルとも呼ばれます。

グリッドフォーマットは、フレームグリッド設定を保存したもので、フレームグリッドに適用できます（グリッドフォーマットパネルの概要を参照してください。）また、グリッドの特性を使用してオブジェクトスタイルを作成することもできます（オブジェクトスタイルについてを参照してください。）

スタイルに設定されている様々な属性を変更すると、そのスタイルが適用されているすべてのテキストが新しい属性に更新されます。

独立した Adobe InCopy ドキュメントまたは Adobe InDesign ドキュメントにリンクされた InCopy コンテンツで使用するスタイルを作成、編集および削除できます。InDesign でファイルのコンテンツが更新されると新しいスタイルが InDesign ドキュメントに追加されますが、InCopy でスタイルを修正した場合は InDesign のスタイルで上書きされます。ファイルのコンテンツがリンクされている場合は通常、InDesign でスタイルを管理するとよいでしょう。

基本段落スタイル

新規ドキュメントには、デフォルトで、ユーザーが入力したテキストに適用する [基本段落] スタイルが含まれています。このスタイルを編集することはできますが、名前を変更したり、削除することはできません。自分で作成したスタイルの場合は、名前を変更したり、削除することができます。また、テキストに適用されるデフォルトスタイルを変更することもできます。

文字スタイルの属性

段落スタイルとは異なり、文字スタイルには選択したテキストのすべての書式設定属性が含まれるわけではありません。文字スタイルを作成すると、選択されているテキスト部分に適用されている段落スタイルとは異なる属性だけが文字スタイルに設定されます。つまり、テキストに適用するとフォントファミリやサイズなどの一部の属性だけを変更し、他のすべての文字属性は無視する文字スタイルを作成できます。他の属性をスタイルの一部にする場合は、スタイルを編集するときに追加します。

次のスタイル

テキストの入力時に、自動的にスタイルを適用できます。例えば、ドキュメントのデザインで「見出し 1」という見出しスタイルの次のスタイルが「本文」である場合、見出し 1 の「次のスタイル」には「本文」を設定します。「見出し 1」の段落スタイルの段落を入力した後、Enter キーまたは Return キーを押すと、「本文」というスタイルが適用された新しい段落が作成されます。

1 つのスタイルを複数の段落に適用する場合、コンテキストメニューを使用すると、親スタイルを最初の段落に適用して、「次のスタイル」を後続の段落に適用することができます（スタイルの適用を参照してください。）

複数の段落に「次のスタイル」を適用する機能を使用するには、スタイルの作成または編集時に、次のスタイルポップアップメニューからスタイルを選択します。

「次のスタイル」機能の使用に関するビデオチュートリアルについては、Jeff Witchel による Using the Next Style feature（英語）を参照してください。

ページの先頭へ

スタイルパネルの概要

段落内のテキストに対する文字スタイルの作成、スタイル名の設定、適用には、文字スタイルパネルを使用します。段落全体に対する段落スタイルの作成、スタイル名の設定、適用には、段落スタイルパネルを使用します。スタイルはドキュメントと共に保存され、そのドキュメントを開くとパネルに表示されます。

折りたたまれたスタイルグループのスタイルでない限り、テキストを選択するか、またはテキスト挿入点を置くと、そのテキストに適用されているスタイルがいずれかのスタイルパネルでハイライト表示されます。ただし、複数のスタイルが適用されているテキスト範囲を選択した場合は、スタイルパネルでスタイルはハイライト表示されません。複数のスタイルが適用されているテキスト範囲を選択すると、スタイルパネルに「（混在）」と表示されます。

段落スタイルパネルの表示

- 書式／段落スタイルを選択するか、またはアプリケーションウィンドウの右側にデフォルトで表示されている「段落スタイル」タブをクリックします。

文字スタイルパネルの表示

- 書式／文字スタイルを選択するか、またはアプリケーションウィンドウの右側にデフォルトで表示されている「文字スタイル」タブをクリックします。

ページの先頭へ

段落スタイルと文字スタイルの追加

必要なスタイルが、既に他の InDesign、InCopy またはワープロドキュメントにある場合は、そのスタイルを読み込んで現在のドキュメントで使用できます。独立したストーリーで作業している場合は、InCopy の文字スタイルと段落スタイルを定義することもできます。

段落スタイルと文字スタイルの定義

1. 既存のテキストに設定されている属性を新しいスタイルとして定義するには、そのテキストを選択するか、そのテキストにテキスト挿入点を置きます。

   スタイルパネルでグループを選択すると、新しいスタイルがそのグループの一部になります。

2. 段落スタイルパネルメニューの「新規段落スタイル」を選択するか、または文字スタイルパネルメニューの「新規文字スタイル」を選択します。

3. 「スタイル名」に新しいスタイル名を入力します。

4. 「基準」では、現在のスタイルの元となるスタイルを選択します。

   注意： 「基準」を使用すると、スタイル間にリンクを作成できるため、*1* つのスタイルが変更されると、そのスタイルに基づいた他のスタイルも変更されます。新しいスタイルは、デフォルトで *[*段落スタイルなし*]*（段落スタイルの場合）、*[*なし*]*（文字スタイルの場合）、または、現在選択されているテキストと同じスタイルになります。

5. 「次のスタイル」（段落スタイルパネルのみ）には、Enter キーまたは Return キーを押して改行した段落に適用されるスタイルを指定します。

6. ショートカットを追加するには、「ショートカット」ボックスにテキスト挿入点を置き、Num Lock キーがオンになっていることを確認します。次に、Shift、Alt、Ctrl（Windows）または Shift、Option、Command（Mac OS）のいずれかを組み合わせて押したまま、テンキーパッ

ドの数字キーを押します。スタイルのショートカットとして、文字やテンキーパッド以外の数字を指定することはできません。キーボードに Num Lock キーがない場合、スタイルにキーボードショートカットを追加することはできません。

7. 選択したテキストに新しいスタイルを適用する場合は、「選択範囲にスタイルを適用」を選択します。
8. 書式属性を指定するには、左側のリストから種類（例えば「基本文字形式」など）をクリックし、スタイルに追加したい属性を設定します。

   スタイルの編集ダイアログボックスで「文字カラー」を指定するときに、線と塗りボックスをダブルクリックすると新しいカラースウォッチを作成することができます。
9. 文字スタイルの場合、指定しない属性は無視されます。スタイルを適用すると、指定しない属性については段落スタイルの書式設定が適用されます。文字スタイルから属性設定を削除するには、次のいずれかの操作を行います。
   - 設定のメニューから「（無視）」を選択します。
   - テキストボックスで、入力されている設定を削除します。
   - チェックボックスで、小さい箱（Windows の場合）またはハイフン（-）（Mac OS の場合）が表示されるまでクリックします。
   - 文字カラーの場合は、Ctrl キー（Windows）または Command キー（Mac OS）を押しながらカラースウォッチをクリックします。
10. 書式設定の指定が完了したら、「OK」をクリックします。

作成したスタイルは、現在のドキュメントだけに表示されます。ドキュメントを開いていない場合は、作成したスタイルはすべての新規ドキュメントに表示されます。

ある段落スタイルまたは文字スタイルを別のスタイルのベースにする方法

多くのドキュメントデザインでは、特定の属性を共有するスタイルの階層が使用されます。例えば、見出しや小見出しでは同一フォントがよく使用されます。基本のスタイルつまり親スタイルを作成することによって、類似するスタイル間のリンクを簡単に作成できます。親スタイルを編集すると、子スタイルも変更されます。そのときは、子スタイルを編集して、親スタイルと区別されるようにすることができます。

基本となるスタイルとほぼ同じスタイルを作成し、親子関係は持たせないようにするには、「スタイルを複製」コマンドを使用した後、コピーを編集します。

1. 新しいスタイルを作成します。
2. 新規段落スタイルまたは新規文字スタイルダイアログボックスで、基準ポップアップメニューから親スタイルを選択します。新しいスタイルが子スタイルになります。

   デフォルトでは、新しいスタイルは、[段落スタイルなし] または [なし]、あるいは現在選択されているテキストのスタイルが基になります。
3. 新しいスタイルで、親のスタイルの書式と異なる部分の書式を指定します。例えば、小見出しで使用するフォントを、見出しスタイル（親のスタイル）で使用されているフォントよりも若干小さくしたい場合などです。

子スタイルの書式設定の変更を元に戻したい場合は、「ベースにリセット」をクリックします。これによって、このスタイルは親スタイルと同じ書式設定に戻ります。このスタイルには、新たに書式設定できます。同様に、子スタイルの基準を変更すると、子スタイルの定義は新しいスタイルと一致するように更新されます。

他のドキュメントからのスタイルの読み込み

別の InDesign ドキュメント（バージョンの制限なし）の段落スタイルと文字スタイルをアクティブなドキュメントに読み込むことができます。読み込み時に、どのスタイルを読み込むか、また読み込んだスタイルが現在のドキュメントのスタイルと同じ名前だった場合、どのスタイルを読み込むかを決めることができます。また、InCopy ドキュメントからスタイルを読み込むこともできます。

InDesign または InCopy ドキュメントから単独 InCopy ドキュメントまたは InDesign にリンクされた InCopy のコンテンツに段落スタイルと文字スタイルを読み込むことができます。どのスタイルを読み込むか、また読み込んだスタイルが現在のドキュメントのスタイルと同じ名前だった場合にどのような操作が実行されるかを決めることができます。

注意： コンテンツがリンクされているファイルにスタイルを読み込む場合は、コンテンツが更新されたときに新しいスタイルが *InDesign* ドキュメントに追加され、名前が競合するスタイルは *InDesign* のスタイルで上書きされます。

1. 文字スタイルパネルまたは段落スタイルパネルで次のいずれかの操作を行います。
   - スタイルパネルメニューから「文字スタイルの読み込み」または「段落スタイルの読み込み」を選択します。

- 段落スタイルと文字スタイルの両方を読み込むには、スタイルパネルメニューから「すべてのテキストスタイルの読み込み」を選択します。

2. 読み込むスタイルを含む InDesign ドキュメントをダブルクリックします。
3. スタイルを読み込みダイアログボックスで、読み込みたいスタイルの横にチェックマークが表示されていることを確認します。既存のスタイルと読み込まれたスタイルの名前が同じ場合、「既存スタイルとの競合」のいずれかのオプションを選択して「OK」をクリックします。

   新しい定義を使用 既存のスタイルを読み込まれたスタイルで上書きし、その新しい属性を旧スタイルを使用していた現在のドキュメントのすべてのテキストに適用します。新しいスタイルと既存のスタイルの定義は、比較を表示できるようにスタイルを読み込みダイアログボックスの下部に表示されます。

   自動名前変更 読み込みスタイルの名前を変更します。例えば、両方のドキュメントに Subheading というスタイルがある場合、現在のドキュメントに読み込まれるスタイルは「Subheading のコピー」という名前に変更されます。

ブック機能を使用して、ドキュメント間でスタイルを共有することもできます（ブックドキュメントの同期を参照してください。）

ページの先頭へ

スタイルを書き出しタグにマップ | CC、CS6、CS5.5

書き出しタグの紹介

「タグを書き出し」を使用すると、InDesign スタイルのテキストを HTML、EPUB またはタグ付き PDF 出力でマークアップする方法を定義できます。

また、書き出したコンテンツに追加する CSS クラス名も指定できます。EPUB/HTML 書き出しでは、CSS クラスを使用してスタイルの細かな違いを区別できます。クラス名を入力する必要はありません。スタイル名に基づいて InDesign が自動的に生成します。

「タグを書き出し」は InDesign レイアウトでプレビューできません。書き出された EPUB、HTML または PDF ファイルにのみ影響するためです。

「すべての書き出しタグを編集」を使用して、1 つのダイアログボックスでマッピングを表示して変更できます。

スタイルタグマッピングの定義

1. マップするスタイルについて、段落、文字、またはオブジェクトのスタイルの編集ダイアログボックスを開きます。
2. 左側のペインで「タグを書き出し」をクリックし、次のいずれかの操作を行います。
   - EPUB と HTML 出力にマップするタグを選択します。
   - EPUB と HTML 出力にマップするクラスを指定します。クラス名を使用して、デフォルトタグのスタイル定義を生成します。
   - このスタイルを CSS に含める場合、「CSS に含める」チェックボックスをオンにします。チェックボックスを選択しないと、このスタイルの CSS クラスは生成されません。同じクラスが割り当てられたスタイルが複数ある場合は、InDesign で書き出し時にエラーまたは警告メッセージが表示されます。このオプションは InDesign CC でのみ使用できます。
   - PDF 出力にマップするタグを選択します。このオプションは段落スタイルにのみ使用できます。

すべての書き出しタグを編集

「すべての書き出しタグを編集」を使用して、1 つのウィンドウですべての書き出しタグを一括で表示して変更できます。

1. 段落、文字、またはオブジェクトのスタイルパネルメニューから「すべての書き出しタグを編集」を選択します。
2. 「EPUB および HTML」または「PDF」をクリックします。
3. スタイルに対応するタグをクリックします。変換によって生成されたリストから、新しい値を選択します。

ページの先頭へ

Word のスタイルを InDesign スタイルに変換

Microsoft Word ドキュメントを InDesign または InCopy に読み込む際には、Word で使用されている各スタイルを、対応する InDesign または InCopy スタイルにマップできます。読み込む前に、読み込まれたテキストの書式設定を行うスタイルを指定しておきます。ディスクアイコン が、InDesign または InCopy でスタイルを編集するまで、読み込まれた Word の各スタイルの横に表示されます。

1. 次のいずれかの操作を行います。
   - Word ドキュメントを InDesign または InCopy の既存のテキストに追加するには、ファイル／配置を選択します。「読み込みオプションを表示」を選択して、Word ドキュメントをダブルクリックします。
   - 単独 InCopy ドキュメントとして Word ドキュメントを開くには、InCopy を起動し、ファイル／開くを選択した後、対象の Word ファイルをダブルクリックします。
2. 「テキストと表のスタイルおよびフォーマットを保持」を選択します。
3. 「スタイル読み込みをカスタマイズ」を選択して、「スタイルマッピング」をクリックします。
4. スタイルマッピングダイアログボックスで、「Microsoft Word スタイル」を選択して、InDesign スタイルの各ポップアップメニューからオプションを選択します。次のオプションがあります。
   - スタイル名の競合がない場合は、「新規段落スタイル」、「新規文字スタイル」を選択するか、または既存の InDesign スタイルを選択します。
   - スタイル名の競合があった場合、「InDesign スタイルを再定義」を選択して、読み込まれたスタイルのテキストを Word のスタイルで書式設定します。または、既存の InDesign スタイルを選択して、読み込まれたテキストを InDesign のスタイルで書式設定します。Word スタイルの名前に変更する場合は、「自動名称変更」を選択します。
5. 「OK」をクリックして、スタイルマッピングダイアログボックスを閉じます。その後、「OK」をクリックして、ドキュメントを読み込みます。

ページの先頭へ

スタイルの適用

デフォルトでは、段落スタイルを適用しても、既存の文字の書式設定や段落の一部に適用された文字スタイルは削除されません。スタイルを適用するときに既存の書式設定を削除するかどうかを指定できます。選択したテキストに、ある文字スタイルまたは段落スタイルが使用されていて、さらにそのスタイルと関係をもたないスタイルも適用されている場合、パネルの現在の段落スタイルの横にプラス記号（＋）が表示されます。このような書式設定を、オーバーライドまたは直接設定した書式と呼びます。

文字スタイルによって既存テキストの文字属性が削除またはリセットされるのは、それらの属性がスタイルによって定義されている場合です。

文字スタイルの適用

1. スタイルを適用する文字を選択します。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - 文字スタイルパネルで文字スタイル名をクリックします。
   - 文字形式コントロールパネルの「文字スタイル」ボタン横のポップアップメニューから文字スタイル名を選択します。
   - スタイルに割り当てたショートカットキーを押します（Num Lock キーがオンになっていることを確認してください）。

段落スタイルの適用

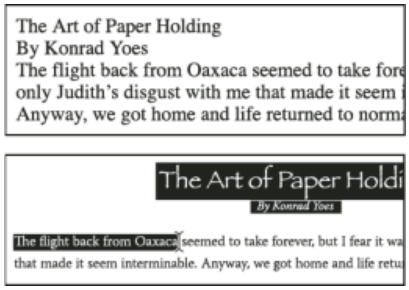
1. 段落内をクリックするか、またはスタイルを適用したい段落のすべてあるいは一部分を選択します。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - 段落スタイルパネルで段落スタイル名をクリックします。
   - 段落形式コントロールパネルの「段落スタイル」ボタン横にあるポップアップメニューから段落スタイル名を選択します。
   - スタイルに割り当てたショートカットキーを押します（Num Lock キーがオンになっていることを確認してください）。

3. 不要な書式設定がテキストに残っている場合は、段落スタイルパネルメニューから「オーバーライドを消去」を選択します。

複数の段落に一連のスタイルを適用する方法

「次のスタイル」は、特定のスタイルを適用した後 Enter キーまたは Return キーを押したときに次の段落に自動的に適用されるスタイルを指定します。このオプションを使用すると、異なるスタイルを複数の段落に 1 回の操作で適用することもできます。

例えば、新聞のコラムの書式設定に 3 種類のスタイル、見出し、署名欄、本文を使用するとします。見出しの次のスタイルは署名欄、署名欄の次のスタイルは本文、本文の次のスタイルは [同一スタイル] です。見出し、署名欄と本文の記事全体を選択し、コンテキストメニューから特別な「次のスタイル」コマンドを選択して見出しスタイルを適用すると、最初の段落が見出しスタイルで書式設定され、2 番目の段落が署名欄スタイルで書式設定され、その他の段落が本文スタイルで書式設定されます。



次のスタイルでスタイル適用される前および後

1. スタイルを適用する段落を選択します。
2. 段落スタイルパネル上で、最初の段落に適用するスタイル名を右クリック（Windows）または Control キーを押しながらクリック（Mac OS）し、「[スタイル名] を適用して次のスタイルへ」を選択すると、クリックしたスタイルの「次のスタイル」が 2 番目の段落に適用されます。

また、テキストに書式設定のオーバーライドまたは文字スタイルが含まれている場合、コンテキストメニューを使用するとオーバーライドと文字スタイルまたはその両方を消去することもできます。

ページの先頭へ

文字スタイルと段落スタイルの編集

スタイルを使用する利点の 1 つは、あるスタイルの定義を変更すると、そのスタイルを使用して書式設定されたテキストが新しいスタイル定義に合わせて変更されることです。

注意： *InDesign* ドキュメントにリンクされた *InCopy* コンテンツのスタイルを編集する場合、修正内容はリンクされているコンテンツが更新されると上書きされます。

ダイアログボックスを使用したスタイルの編集

1. 次のいずれかの操作を行います。
   - 選択されているテキストに編集するスタイルを適用したくない場合は、スタイルパネルのスタイル名を右クリック（Windows）または Control キーを押したままクリック（Mac OS）して「編集 [スタイル名]」を選択します。
   - スタイルパネルでスタイル名をダブルクリックします。または、パネルでスタイルを選択し、スタイルパネルメニューの「スタイルの編集」を選択します。ダブルクリック、または選択したスタイルは、現在選択されているテキストまたはテキストフレームすべてに適用されるか、テキストやテキストフレームが選択されていない場合、新しいフレームに入力したテキストのデフォルトスタイルとして設定されます。
2. スタイルの編集ダイアログボックスを設定し、「OK」をクリックします。

選択したテキストに合わせたスタイルの再定義

スタイルを適用した後、その設定をオーバーライドできます。変更内容が適しているとわかったら、変更したテキストの書式設定に一致するようにそのスタイルを再定義できます。

注意： *InDesign* ドキュメントにリンクされた *InCopy* コンテンツのスタイルを再定義する場合、修正内容はリンクされているコンテンツが更新されると上書きされます。

1. 文字ツール を使用して、再定義したいスタイルで書式設定されたテキストを選択します。
2. 段落または文字属性を変更します。
3. スタイルパネルメニューから「スタイル再定義」を選択します。

ページの先頭へ

文字スタイルまたは段落スタイルの削除

スタイルを削除するときは、代替のスタイルを選択したり、書式設定を維持するかどうかを選択したりできます。スタイルグループを削除すると、そのグループ内のすべてのスタイルが削除されます。グループ内のスタイルごとに、置換するかどうかが確認されます。

1. スタイルパネルからスタイル名を選択します。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - パネルメニューの「スタイルを削除」を選択するか、パネルの下部にある削除アイコン をクリックします。
   - スタイルを右クリック（Windows）または Control キーを押しながらクリック（Mac OS）して、「スタイルを削除」を選択します。この方法は、テキストにスタイルを適用することなく、スタイルを削除する場合に特に便利です。
3. 段落スタイルを削除ダイアログボックスで、スタイルを選択して置き換えます。

   [段落スタイルなし] を選択して段落スタイルを置き換えるか、または [なし] を選択して文字スタイルを置き換える場合は、「フォーマットを保持」を選択すると、スタイルが適用されていたテキストの書式設定が保持されます。テキストはその書式を保持しますが、スタイルへの関連付けは解除されます。
4. 「OK」をクリックします。

使用されていないスタイルをすべて削除するには、スタイルパネルメニューの「未使用をすべて選択」を選択して、削除アイコンをクリックします。未使用のスタイルを削除するときは、スタイルの置き換えを促す警告は表示されません。

ページの先頭へ

文字スタイルと段落スタイルのオーバーライド

段落スタイルを適用したとき、テキストに文字スタイルや以前の書式設定が残っていることがあります。スタイルを適用した後、そのスタイルの一部ではない書式設定を適用することで、スタイルの設定をオーバーライドできます。スタイルの適用されたテキストに、そのスタイルの一部ではない書式設定が含まれている場合、これをオーバーライドまたは直接設定した書式と呼びます。オーバーライドのあるテキストを選択すると、スタイル名の右にプラス記号（+）が表示されます。文字スタイルでは、オーバーライドは、適用された属性がスタイルの一部である場合のみ表示されます。例えば、文字スタイルでテキストのカラーが変更されるのみであれば、そのテキストに別のフォントサイズを適用しても、オーバーライドとして表示されません。

段落スタイルを適用するときに、文字スタイルおよびオーバーライドした書式設定を削除することができます。また、スタイルが適用されている段落からオーバーライドを消去することもできます。

スタイルの名前の横にプラス記号（+）が表示されている場合、オーバーライド属性の説明を表示するには、スタイル名にマウスポインターを合わせます。

段落スタイル適用時のオーバーライドの保持または消去

- 段落スタイルを適用しても文字スタイルを保持するが、段落スタイルのオーバーライドを消去するには、Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押したまま、段落スタイルパネルのスタイル名をクリックします。
- 段落スタイルを適用して、文字スタイルと段落スタイルのオーバーライドの両方を消去するには、Alt+Shift キー（Windows）または Option+Shift キー（Mac OS）を押したまま、段落スタイルパネルのスタイル名をクリックします。

段落スタイルパネル上でスタイル名を右クリック（*Windows*）または *Control* キーを押しながらクリック（*Mac OS*）して、コンテキストメニューからオプションを選択すると、スタイルの適用時にオーバーライド、文字スタイル、またはその両方を消去できます。

段落スタイルのオーバーライドの消去

1. オーバーライドを含むテキストを選択します。異なるスタイルが適用された複数の段落を選択することもできます。
2. 段落スタイルパネルで次のいずれかの操作を行います。
   - 段落および文字スタイルのオーバーライドを消去するには、選択範囲のオーバーライドを消去アイコン をクリックするか、または段落スタイルパネルの「オーバーライドを消去」を選択します。
   - 文字スタイルのオーバーライドを消去し、段落スタイルのオーバーライドを保持する場合、Ctrl キー（Windows）または Command キー（Mac OS）を押しながら、選択範囲のオーバーライドを消去アイコンを押します。
   - 段落スタイルのオーバーライドを消去し、文字スタイルのオーバーライドを保持する場合、段落スタイルパネルで、Shift+Ctrl キー（Windows）または Shift+Command キー（Mac OS）を押しながら、選択範囲のオーバーライドを消去アイコンをクリックします。

   注意： オーバーライドを消去すると、段落の一部のみが選択されている場合でも、段落全体から段落レベルのオーバーライドが消去されます。文字レベルのオーバーライドは、選択部分のみから消去されます。

   オーバーライドを消去しても、文字スタイルの書式設定は削除されません。文字スタイルの書式設定を削除するには、その文字スタイルを含むテキストを選択して文字スタイルパネルで [なし] をクリックします。

テキストと適用されているスタイルのリンク解除

テキストとスタイル間のリンクを解除すると、テキストは現在の書式設定を保持します。ただし、そのスタイルにさらに変更を加えても、そのスタイルとのリンクがなくなっているテキストにはその変更は反映されません。

1. リンクを解除したいスタイルが適用されているテキストを選択します。
2. スタイルパネルメニューの「スタイルとのリンクを切断」を選択します。

「スタイルとのリンクを切断」を選択したときにテキストが選択されていない場合、入力した新しいテキストでは選択されていたスタイルと同じ書式設定が使用されますが、そのテキストにはスタイルは割り当てられていない状態です。

ページの先頭へ

箇条書きおよび自動番号スタイルのテキストへの変換

段落に箇条書きの記号または自動番号の書式を追加したスタイルを作成した場合、そのファイルを別のアプリケーションにコピーしたり書き出したりすると、これらの箇条書きの記号および自動番号の書式設定は失われる可能性があります。この問題を防ぐには、箇条書きの記号または自動番号のスタイルをテキストに変換します。

注意： *InDesign* レイアウトにリンクされた *InCopy* ストーリーで箇条書きスタイルを変換すると、*InDesign* でコンテンツが更新されたときに変更が上書きされます。

1. 段落スタイルパネルで、箇条書きの記号、または自動番号を含むスタイルを選択します。
2. 段落スタイルパネルメニューで、「[スタイル名] の記号をテキストに変換」、または「[スタイル名] の番号付けをテキストに変換」を選択します。

他のスタイルの基になっているスタイル（親スタイル）で、箇条書きと自動番号をテキストに変換する場合、子スタイルの箇条書きと番号付けもテキストに変換されます。

自動番号をテキストに変換した後、テキストを編集するときに手動で番号を振る必要があります。

ページの先頭へ

文字スタイルおよび段落スタイルの検索と置換

検索と置換ダイアログボックスを使用して、特定のスタイルが使用されている部分を検索し、別のスタイルに置換します。

1. 編集／検索と置換を選択します。

2. ドキュメント全体のスタイルを変更するには、「検索」で「ドキュメント」を選択します。
3. 「検索文字列」と「置換文字列」オプションは空白のままにします。「検索形式」と「置換形式」ボックスがダイアログボックスの下部に表示されていない場合は、「詳細設定」をクリックしてください。
4. 「検索形式」ボックスをクリックして、検索形式の設定ダイアログボックスを表示します。「スタイルの編集」で、検索する文字スタイルまたは段落スタイルを選択して、「OK」をクリックします。
5. 「置換形式」ボックスをクリックして、置換形式の設定ダイアログボックスを表示します。「スタイルの編集」で、置換する文字スタイルまたは段落スタイルを選択して、「OK」をクリックします。
6. 「検索」をクリックして、「置換」、「置換して検索」または「すべてを置換」を使用してスタイルを置換します。

関連項目

(cc) BY-NC-SA Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

ドロップキャップと先頭文字スタイル

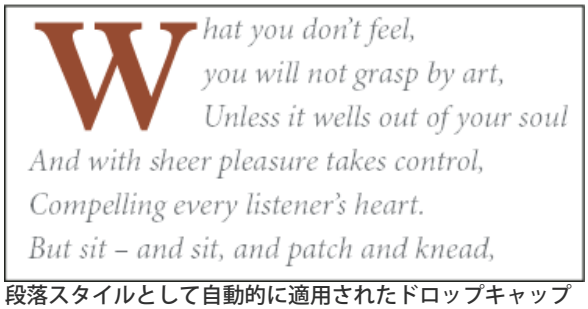
ドロップキャップへの文字スタイルの適用
先頭文字スタイルの作成
正規表現スタイルの作成

ドロップキャップと先頭文字スタイル機能を使用するには、主として、ドロップキャップへの文字スタイルの適用、段落の先頭のテキストへの先頭文字スタイルの適用、および段落の行への先頭行スタイルの適用という 3 つの方法があります。

ドロップキャップへの文字スタイルの適用

トップへ戻る

段落内のドロップキャップ文字に文字スタイルを適用することができます。例えば、ドロップキャップ文字に段落の残りのテキストと異なる色やフォントを適用したい場合、これらの属性を持った文字スタイルを定義することができます。定義した文字スタイルは、段落に直接適用することも、段落スタイル内に含まれる文字スタイルとして使用することもできます。



段落スタイルとして自動的に適用されたドロップキャップ

1. ドロップキャップ文字に適用したい書式設定で文字スタイルを作成しておきます。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - 1 つの段落にドロップキャップを作成するには、段落パネルメニューから「ドロップキャップと先頭文字スタイル」を選択します。
   - 段落スタイルにドロップキャップを追加するには、段落スタイルをダブルクリックしてから、ダイアログボックスで「ドロップキャップと先頭文字スタイル」をクリックします。
3. ドロップキャップの行数と文字数を指定して、作成しておいた文字スタイルを選択します。
4. ドロップキャップが左端から離れすぎている場合は、「左端揃え」を選択します。

   このオプションを選択すると、大きい値ではなく、ドロップキャップ文字の元の左サイドベアリングが使用されます。これは、sans serif フォントで書式設定されたドロップキャップに対して特に有効です。
5. ドロップキャップ文字が下のテキストと重なる場合は、「ディセンダの比率」を選択します。
6. ドロップキャップで回り込むテキストをフレームグリッドを基準にして調節する方法を制御するには、メニューからオプションを選択します。
   フレームグリッドを無視 ドロップキャップとテキストを調節しません。テキストは、フレームのグリッドと位置が合わなくなる場合があります。

   グリッドにスペース挿入 ドロップキャップは拡大 / 縮小されず、テキストはグリッドに揃えられます。ドロップキャップとそれを回り込むテキストの間に余分なホワイトスペースが存在する場合があります。

   グリッドに合わせて拡大 テキストがグリッドと揃うように、ドロップキャップが、横組みのテキストでは左右に、縦組みのテキストでは上下に拡大されます。

   グリッドに合わせて縮小 このオプションでは、テキストがグリッドと揃うように、ドロップキャップが、横組みのテキストでは左右に、縦組みのテキストでは上下に縮小されます。
7. 「OK」をクリックします。

ドロップキャップの後のテキストに違う文字スタイルを適用したい場合は、「新規スタイル」オプションを使用してください（詳しくは、先頭文字スタイルの作成を参照してください）。

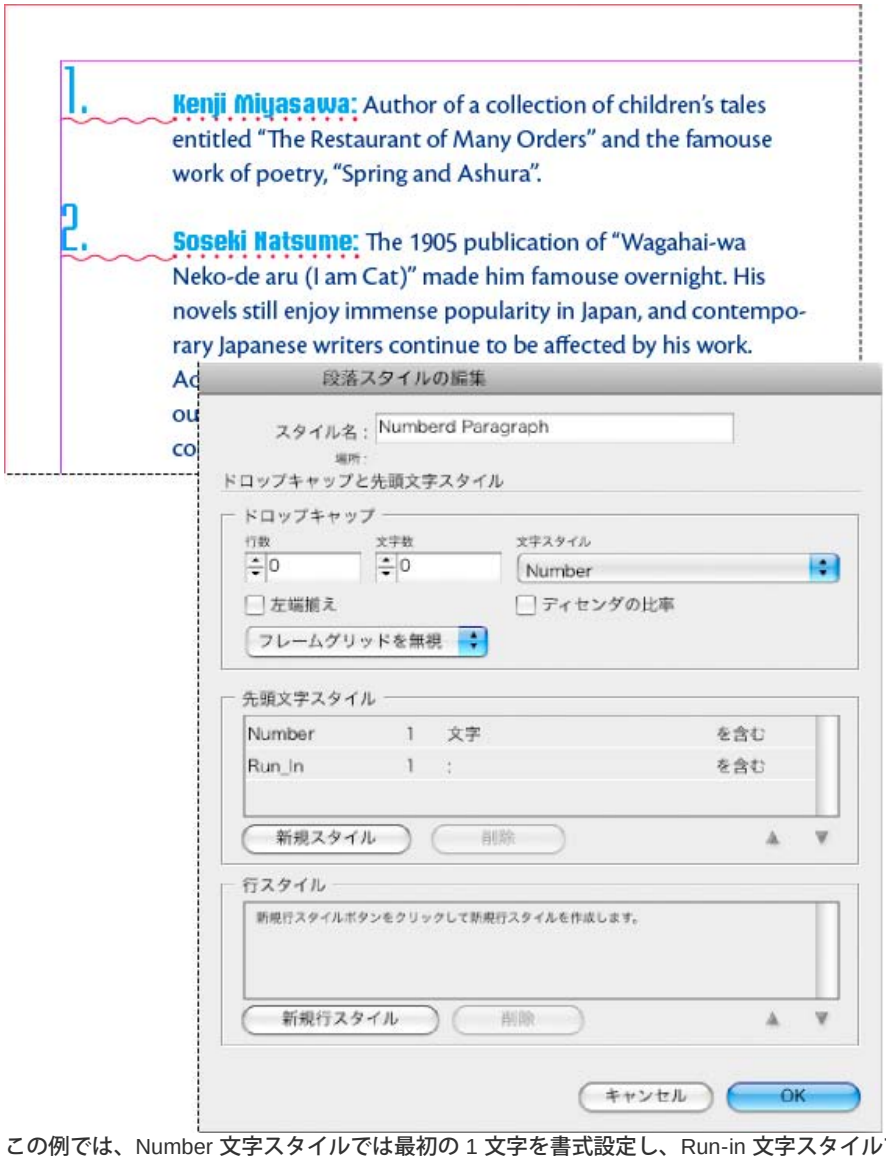
先頭文字スタイルの作成

トップへ戻る

先頭文字スタイルでは、段落または行内の 1 文字またはそれ以上の範囲に文字レベルの書式設定を適用することができます。また、前の文字スタイルが終了したら次の文字スタイルといったように、2 つ以上の先頭文字スタイルを設定することができます。段落の書式設定が反復的で決まって

いる場合は、繰り返しの最初のスタイルに戻ることも可能です。

先頭文字スタイルは、突き出し見出し（先頭の数文字が見出し文字となるような見出しスタイル）の作成に便利です。例えば、段落の最初の文字に文字スタイルを適用し、違う文字スタイルを最初のコロン（：）の範囲まで適用するように設定することができます。また、それぞれの先頭文字スタイルに、タブ文字や単語の末尾の文字などを、スタイルを終了させる文字として定義することもできます。



この例では、Number 文字スタイルでは最初の 1 文字を書式設定し、Run-in 文字スタイルでは最初のコロンまでのテキストを書式設定する。

先頭文字スタイルについては、Michael Murphy による InDesign's Nested Styles Auto-Format Multiple Paragraphs（英語）の記事を参照してください。また、Michael Murphy の Nested Style Sheets（英語）から始まる一連のビデオチュートリアルも参照してください。

先頭文字スタイルの作成

1. テキストの書式設定に使用したい文字スタイルを作成しておきます。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - 段落スタイルに先頭文字スタイルを作成するには、段落スタイルをダブルクリックして、ダイアログボックスで「ドロップキャップと先頭文字スタイル」をクリックします。
   - 段落に先頭文字スタイルを作成するには、段落パネルメニューから「ドロップキャップと先頭文字スタイル」を選択します。

     注意： 最良の結果を得るためには、段落スタイルの一部として先頭文字スタイルを適用してください。段落にローカルな属性として先頭文字スタイルを適用した場合、編集や先頭文字スタイルでの書式設定の変更により、思わぬ結果になることがあります。
3. 「新規スタイル」を設定する先頭文字スタイルの数だけクリックします。
4. 次のいずれかの操作を行い、「OK」をクリックします。
   - 文字スタイル領域をクリックして、段落の該当部分に適用したい文字スタイルを選択します。文字スタイルを作成していない場合は、「新規文字スタイル」を選択し、使用する書式設定を指定します。
   - その文字スタイルの書式設定を終了させるアイテムを指定します。テキストボックスにコロン（：）、数字または文字を直接入力することもできます。単語は入力できません。

- 選択したアイテム（文字、単語、文など）の使用回数を指定します。
- 「を含む」または「で区切る」を選択します。「を含む」を選択すると先頭文字スタイルを終了させる文字も含まれますが、「で区切る」を選択すると、その文字の前までの文字だけが含まれます。
- スタイルを選択して、上向き矢印 ▲ または下向き矢印 ▼ を選択して、リスト内のスタイルの並び順序を変更します。リスト内の順番は、スタイルが適用される順番を決定します。2 番目のスタイルは最初のスタイルの書式設定が終了した箇所から始まります。ドロップキャップに文字スタイルを適用した場合は、ドロップキャップに適用した文字スタイルが 1 番目の先頭文字スタイルになります。

先頭行スタイルの作成

段落内の指定した行数に文字スタイルを適用できます。先頭文字スタイルと同様に、複数の先頭行スタイルを組み合わせて設定し、それを繰り返して適用することができます。

先頭行スタイルで適用した属性と先頭文字スタイルで適用した属性は共存できます。例えば、先頭行スタイルではカラーを適用し、先頭文字スタイルでは斜体を適用することができます。両方の共通する属性の設定（赤と青など）が矛盾する場合は、先頭文字スタイルが先頭行スタイルより優先されます。

1. テキストの書式設定に使用したい文字スタイルを作成しておきます。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - 段落スタイルに先頭行スタイルを追加するには、段落スタイルをダブルクリックして、ダイアログボックスで「ドロップキャップと先頭文字スタイル」をクリックします。
   - 段落に先頭行スタイルを追加するには、段落パネルメニューから「ドロップキャップと先頭文字スタイル」を選択します。
3. 「新規行スタイル」を設定する先頭行スタイルの数だけクリックします。
4. 文字スタイル領域をクリックして、該当部分の外観を決定する文字スタイルを選択します。文字スタイルを作成していない場合は、「新規文字スタイル」を選択し、使用する書式設定を指定します。
5. 文字スタイルを適用する段落の行数を指定します。

   スタイルを選択して、上向き矢印 ▲ または下向き矢印 ▼ を選択して、リスト内のスタイルの並び順序を変更します。リスト内の順番は、スタイルが適用される順番を決定します。
6. 「OK」をクリックします。

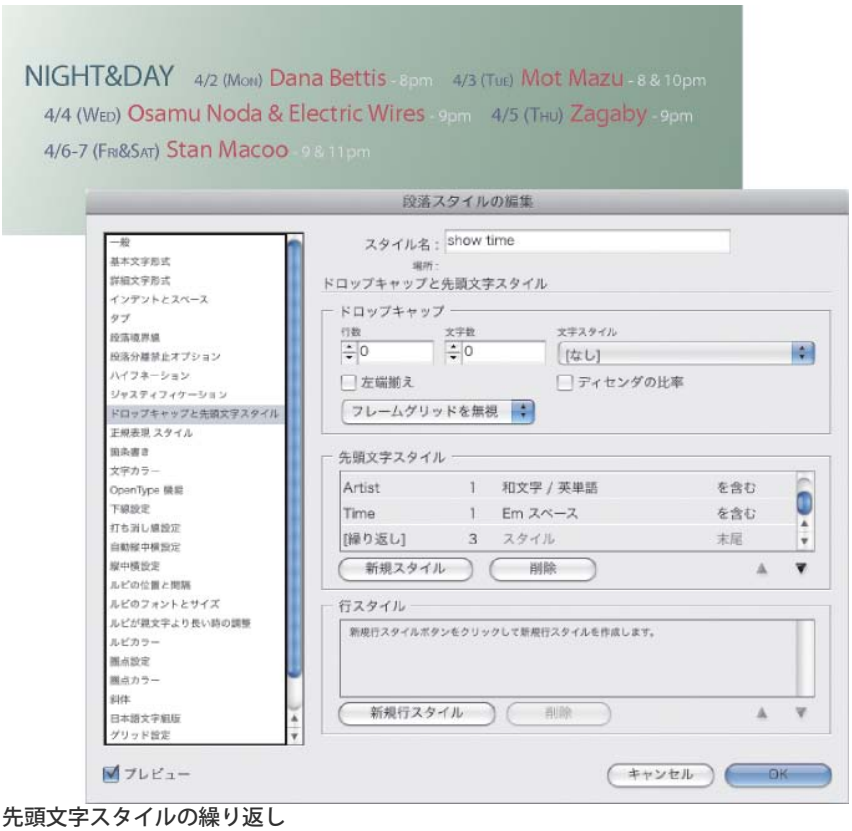
先頭文字スタイルの繰り返し

段落内で一連の先頭文字スタイルを繰り返すことができます。例えば、段落内の単語を赤と緑で繰り返すことができます。または、先頭行スタイルを使用して段落内の行を赤と緑で繰り返すことができます。段落に単語を追加したり段落から単語を削除したりした場合でも、繰り返しパターンはそのまま保持されます。

1. 使用する文字スタイルを作成します。
2. 段落スタイルを編集または作成するか、書式設定する段落内にテキスト挿入点を置きます。
3. 「ドロップキャップと先頭文字スタイル」セクションまたはダイアログボックスで、少なくとも 2 回「新規スタイル」または「新規行スタイル」をクリックし、各スタイルを設定します。
4. 次のいずれかの操作を行います。
   - 先頭文字スタイルの場合は、「新規スタイル」をもう一度クリックし、文字スタイル領域の [繰り返し] を選択し、先頭文字スタイルの繰り返し回数を指定します。
   - 先頭行スタイルの場合は、「新規行スタイル」をもう一度クリックし、文字スタイル領域の [繰り返し] を選択し、繰り返す行数を指定します。

   場合によっては、最初のいくつかのスタイルをスキップしたいことがあります。例えば、イベントカレンダーなどで、「今週のイベント」というタイトルに続き、曜日とその日のイベント内容が記載されるものがあるとします。このような場合、「今週のイベント」、曜日、イベント、イベント時刻にそれぞれ 1 つずつ、そして最後に [繰り返し]、合計 5 つの先頭文字スタイルを作成し、[繰り返し] の繰り返し回数を 3 に設定すると、先頭文字スタイルリストの 2 番目から 4 番目のスタイルが繰り返しに使用され、一番上にある先頭文字スタイルが繰り返しから除外されます。

   [繰り返し] 項目はリストの最後に指定します。[繰り返し] の下に指定したスタイルはすべて無視されます。



先頭文字スタイルの繰り返し

5. 「OK」をクリックします。

先頭文字スタイルのオプション

先頭文字スタイルを終了させる方法を指定するには、次のいずれかを行います。

先頭文字スタイルの終了位置を定義するテキスト要素を先頭文字スタイルに含めたくない場合は、先頭文字スタイルを定義するときに、「を含む」の代わりに「で区切る」を選択してください。

文章 ピリオド、疑問符、感嘆符を使用して、終了位置を定義します。引用符が句点の後に続く場合は、文章の一部に含まれます。

和文字 / 英単語 英数字の場合、スペースで終了位置を定義します。全角文字の場合は、「文字」と同じです。

文字 索引マーカー、XML タグなど、幅が 0 のマーカー以外のすべての文字を終了位置として定義します。

注意： 「文字」を選択すると、文字数で終了位置を指定しますが、コロンやピリオドなど先頭文字スタイルを終了させる文字を直接入力して指定することもできます。複数の文字を入力すると、それらの文字がスタイルの終了文字になります。例えば、突き出し見出しがハイフン、コロン、または疑問符で終了する場合は、「-:?」を入力することで、これらの文字が出現した箇所で先頭文字スタイルを終了させることができます。

文字（数字、記号類を除く） 句読点、空白スペース、数字、記号を除く文字を終了位置として定義します。

数字 0 から 9 までのアラビア数字が含まれます。

先頭文字スタイルの終了文字 挿入した先頭文字スタイルの終了文字が終了位置を定義します。この文字を挿入するには、書式／特殊文字の挿入／その他／先頭文字スタイルの終了文字を選択します。

タブ タブ設定ではなく、挿入したタブ文字が終了位置を定義します。

強制改行 強制改行が行われた位置を終了位置として定義します（書式／分割文字の挿入／強制改行を選択します）。

「ここまでインデント」文字 挿入した「ここまでインデント」文字によって終了位置を定義します（書式／特殊文字の挿入／その他／「ここまでインデント」文字を選択します）。

Em スペース、**En** スペース、分散禁止スペース スペースがある位置を終了位置として定義します（書式／スペースの挿入／[各種スペース] を選択します）。

アンカー付きオブジェクトマーカー アンカー付きオブジェクトマーカーはインライングラフィックが挿入される場所に表示され、このマーカーまで、またはこのマーカーを含む位置まで、先頭文字スタイルを拡張します。

自動ページ番号、セクションマーカー ページ番号マーカーまたはセクションマーカーまで、またはそれらのマーカーを含む位置まで、先頭文字スタイルを拡張します。

先頭文字スタイルの終了

通常、先頭文字スタイルは定義されたスタイルの条件が満たされた場所で終了します。例えば、3 つ目の単語の後、ピリオドがある位置などです。ただし、先頭文字スタイルの終了文字を入力すると、条件が満たされる前に先頭文字スタイルを終了させることができます。

1. 先頭文字スタイルを終了させる場所にテキスト挿入点を置きます。
2. 書式／特殊文字の挿入／その他／先頭文字スタイルの終了文字を選択します。

この文字は、先頭文字スタイルの定義にかかわらず、その時点で先頭文字スタイルを終了させます。

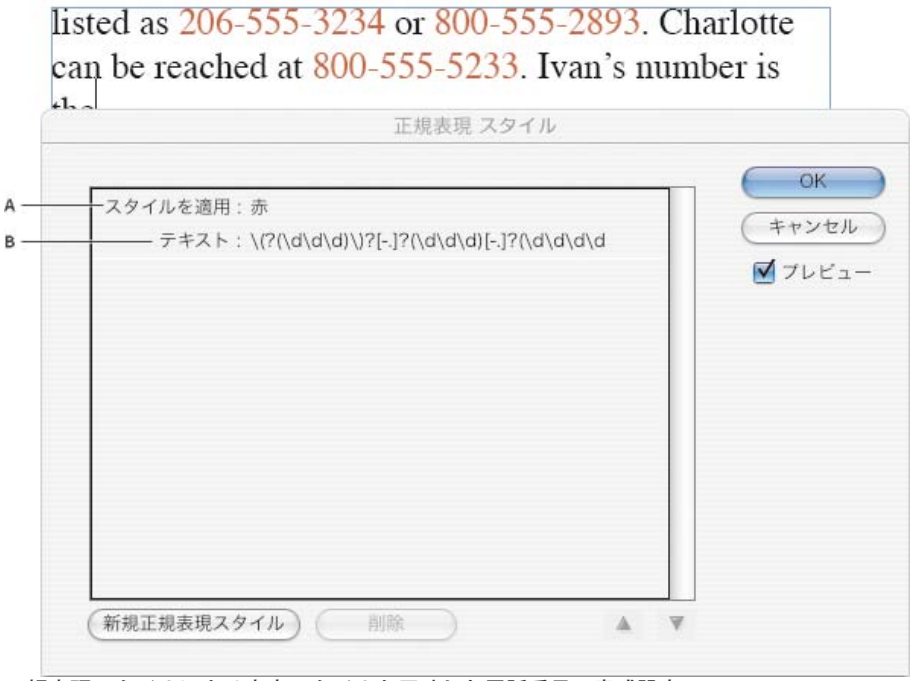
先頭文字スタイルの書式設定の削除

- ドロップキャップと先頭文字スタイルダイアログボックス、または段落スタイルの編集ダイアログボックスのドロップキャップと先頭文字スタイルパネルを表示します。「先頭文字スタイル」セクションのリストから、削除したい先頭文字スタイルを選択し、「削除」ボタンをクリックします。
- 別の段落スタイルを適用します。

トップへ戻る

正規表現スタイルの作成

正規表現は、高度なパターンベースの検索方法です。正規表現スタイルを使用して、指定した正規表現式に合致するテキストに文字スタイルを適用できます。例えば、テキスト内のすべての電話番号に文字スタイルを適用したいとします。正規表現スタイルを作成するときに、文字スタイルを選択し、正規表現式を指定します。指定した正規表現式に合致するすべての段落テキストが文字スタイルに従って書式設定されます。



正規表現スタイルによる文字スタイルを反映した電話番号の書式設定
A. 文字スタイル **B.** 正規表現式

正規表現オブジェクトの作成に関するビデオチュートリアルについては、www.adobe.com/go/lrvid4028_id_jp を参照してください。

正規表現スタイルの実際の例については、David Blatner による 5 Cool Things You Can Do with GREP Styles（英語）を参照してください。正規表現スタイルについては、Cari Jansen の Introducing GREP Styles（英語）から始まる 4 部構成のシリーズも参照してください。

1. 次のいずれかの操作を行います。
   - 正規表現スタイルを個々の段落に適用するには、段落を選択し、段落パネルメニューから「正規表現スタイル」を選択します。
   - 段落スタイルで正規表現スタイルを使用するには、段落スタイルを作成または編集し、段落スタイルのオプションを設定するダイアログボックスの左側の「正規表現スタイル」をクリックします。
2. 「新規正規表現スタイル」をクリックします。
3. 「スタイルを適用」の右をクリックし、文字スタイルを指定します。使用する文字スタイルを作成していない場合は、「新規文字スタイル」を選択し、使用する書式設定を指定します。
4. 「テキスト」の右をクリックし、次のいずれかの操作を行って正規表現式を作成します。
   - 検索式を手動で入力します（詳しくは、検索のメタ文字を参照してください）。
   - 「テキスト」フィールドの右にある検索のための特殊文字アイコンをクリックします。位置、繰り返し、一致、修飾子、および Posix サブメニューから、正規表現式の作成に役立つオプションを選択します。
5. 「OK」をクリックします。

関連項目
正規表現スタイルのビデオ

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

オブジェクトスタイル

オブジェクトスタイルについて
オブジェクトスタイルパネルの概要
オブジェクトスタイルの定義
オブジェクトスタイルの適用
デフォルトのオブジェクトスタイルの使用
オブジェクトスタイルのオーバーライドの消去
オブジェクトスタイルへのリンクの解除
オブジェクトスタイルの名前変更
オブジェクトスタイルの編集
オブジェクトスタイルの削除
オブジェクトスタイルの再定義
オブジェクトスタイルの読み込み

ページの先頭へ

オブジェクトスタイルについて

段落スタイルや文字スタイルを使用して簡単にテキストを書式設定する場合と同様に、オブジェクトスタイルを使用してグラフィックやフレームを簡単に書式設定できます。オブジェクトスタイルには、線、カラー、透明度、ドロップシャドウ、段落スタイル、テキストの回り込みなどの設定が含まれます。オブジェクト、塗り、線、およびテキストに対して様々な透明効果を割り当てることができます。

オブジェクトスタイルは、オブジェクト、グループおよびフレーム（テキストフレームを含む）に適用できます。スタイルを使用すると、すべてのオブジェクト設定を消去して置換することも、その他の設定を変更せずに特定の設定のみを置換することもできます。定義内に設定カテゴリーを含めるか、または除外することで、スタイルが影響を及ぼす設定を制御できます。

また、オブジェクトスタイルはフレームグリッドに適用することもできます。デフォルトでは、作成したどのフレームグリッドでも [基本グリッド] オブジェクトスタイルが使用されます。[基本グリッド] スタイルを編集できますが、他のオブジェクトスタイルをグリッドに適用することもできます。フレームグリッドのオブジェクトスタイルを作成または編集するときは、「ストーリーオプション」カテゴリーを使用して、組み方向、フレームタイプ、およびグリッドフォーマットを指定します。

スタイルを作成するとき、いくつかのスタイルで同じ特性の一部が共有されている場合があります。スタイルを定義するたびに、それぞれの特性を設定せずに、別のオブジェクトスタイルに基づいて 1 つのオブジェクトを作成することができます。基準のスタイルを変更すると、基準となる「親」スタイルに表示されている共有の属性だけでなく、「子」スタイルの属性も変更されます。

ページの先頭へ

オブジェクトスタイルパネルの概要

オブジェクトスタイルパネルを使用すると、オブジェクトスタイルを作成、編集、および適用できます。新規ドキュメントの場合、初めに表示されるパネルには、一式のデフォルトオブジェクトスタイルがリストされます。オブジェクトスタイルはドキュメントと共に保存され、そのドキュメントを開くたびにパネルに表示されます。テキストフレームアイコン はテキストフレームのデフォルトスタイルに表示され、グラフィックフレームアイコン はグラフィックフレームと描画されるシェイプのデフォルトスタイルに表示されます。

オブジェクトスタイルパネルを使用すると、オブジェクトスタイルを作成、名前指定および適用できます。新規ドキュメントの場合、初めに表示されるパネルには、一式のデフォルトオブジェクトスタイルがリストされます。オブジェクトスタイルはドキュメントと共に保存され、そのドキュメントを開くたびにパネルに表示されます。テキストフレームアイコン はテキストフレームのデフォルトスタイルに表示され、グラフィックフレームアイコン はグラフィックフレームのデフォルトスタイルに表示されます。また、グリッドアイコン はフレームグリッドのデフォルトスタイルに表示されます。

オブジェクトスタイルパネルの表示

- ウィンドウ／スタイル／オブジェクトスタイルを選択します。

パネル内のオブジェクトスタイルのリスト方法の変更

- パネルメニューから「小さく表示」を選択して、オブジェクトスタイルの縮小バージョンを表示します。
- オブジェクトスタイルを別の位置にドラッグします。黒の線が目的の位置に表示されたら、マウスボタンを放します。
- パネルメニューから「名前順」を選択して、アルファベット順にオブジェクトスタイルを並べ直します。

ページの先頭へ

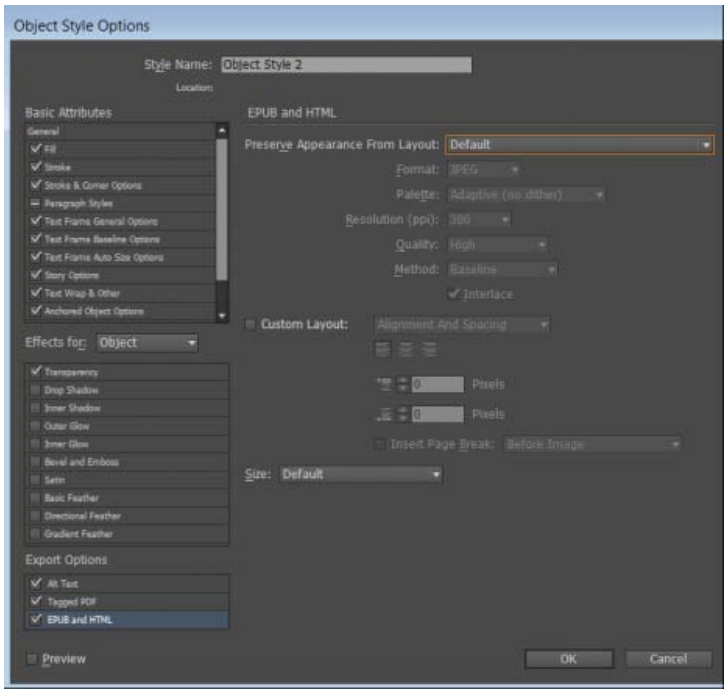
オブジェクトスタイルの定義

オブジェクトに適用済みの設定に基づいてスタイルを定義できますが、初めからスタイルを作成したり、別のスタイルに基づいてスタイルを作成したりすることもできます。

1. 含めたいオブジェクトスタイルの設定を使用するオブジェクトまたはテキストフレームを選択します。
2. オブジェクトスタイルパネルメニューから「新規オブジェクトスタイル」を選択するか、Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押しながら「新規スタイルを作成」ボタンをクリックします。
3. 新規オブジェクトスタイルダイアログボックスで、スタイル名を入力します。
4. 別のスタイルを基にしてスタイルを作成するには、「基準」からスタイルを選択します。

   注意： 「基準」を使用すると、スタイル間にリンクを作成できるため、*1* つのスタイルが変更されると、そのスタイルに基づいた他のスタイルも変更されます。子スタイルの書式設定の変更を元に戻したい場合は、「ベースにリセット」をクリックします。これによって、このスタイルは親スタイルと同じ書式設定に戻ります。
5. ショートカットを追加するには、「ショートカット」ボックスにテキスト挿入点を置き、Num Lock キーがオンになっていることを確認します。次に、Shift、Alt、Ctrl（Windows）または Shift、Option、Command（Mac OS）のいずれかを組み合わせて押したまま、テンキーパッドの数字キーを押します。スタイルのショートカットとして、文字やテンキーパッド以外の数字を指定することはできません。
6. 基本属性で、定義したいオプションを含むその他のカテゴリーを選択し、オプションを希望に合わせて設定します。各カテゴリーの左にあるチェックボックスをクリックして、そのカテゴリーをスタイルに組み込むか無視するかを指定します。

   ストーリーオプションカテゴリーを使用して、グリッドオブジェクトスタイルの組み方向、フレームタイプ、グリッドフォーマットを指定します。グリッドフォーマットには、任意のフレームグリッドに適用できるフレームグリッドの設定が保存されます。
7. 効果を適用するには、「効果」のオプション（オブジェクト、線、塗り、またはテキスト）を選択し、効果のカテゴリーを選択して、それぞれの設定を指定します。各カテゴリーごとに様々な効果を指定できます。スタイルで有効、無効、または無視する効果カテゴリーを指定します。
8. 「書き出しオプション」で、オプションを選択し、選択したオプションの書き出しパラメーターを指定します。配置した画像とグラフィックの Alt テキストを定義できます。タグ付き PDF にタグと実際のテキスト設定を適用できます。HTML および EPUB レイアウトにオブジェクトごとに異なる変換設定を作成し、画面サイズや解像度が違っても正しくレンダリングされるようにします。



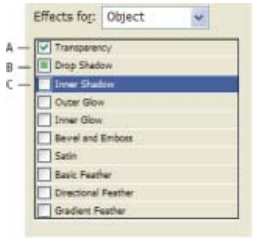
書き出しオプション

注意： オブジェクト書き出しオプションを使用して、*EPUB*、*HTML*、アクセシビリティに対応した *PDF* など、別の形式に書き出すときに必要な書き出しパラメーターを指定します。オブジェクト書き出しオプションは、テキストフレームやグラフィックフレーム、グループにも適用されます。オブジェクト書き出しオプションを参照してください。

9. 「OK」をクリックします。

オブジェクトスタイルのカテゴリー

特定の属性にのみスタイルを適用したい場合は、その他の設定を編集せずに、スタイルに制御させたいカテゴリーが適切な状態にあることを確認してください。各カテゴリーごとに 3 つの状態（有効、無効、または無視）のいずれかを使用できます。例えば、「ドロップシャドウ」にチェックを入れると、ドロップシャドウフォーマットがオブジェクトスタイルに組み込まれます。「ドロップシャドウ」の選択を解除すると、ドロップシャドウがスタイルの一部として無効になり、オブジェクトに適用されたドロップシャドウがオーバーライドとして表示されます。「ドロップシャドウ」を「無視」（Windows の場合は小さいボックス、Mac OS の場合はハイフン）に設定するとドロップシャドウがスタイル外のままとなるので、スタイルに適用されたドロップシャドウはオーバーライドとして表示されません。



オブジェクトスタイルのカテゴリー

A. 有効 ***B.*** 無視 ***C.*** 無効

注意： 設定を個別に有効または無効にできるカテゴリー（塗り、線、および透明など）では、*2* つの状態のみが可能です。これらのカテゴリーは有効にするか、または無視することができます。

段落スタイルカテゴリーは、デフォルトでは「無視」になっています。テキストフレームを作成しているときでも「無視」になっています。このカテゴリーは、連結されていないテキストフレームに適用した場合のみ有効に機能します。

ページの先頭へ

オブジェクトスタイルの適用

オブジェクトのグループにオブジェクトスタイルを適用する場合、オブジェクトスタイルはグループ内の各オブジェクトに適用されます。オブジェクトのグループにオブジェクトスタイルを適用するには、オブジェクトをフレーム内に入れ子にします（編集／選択範囲内へペーストコマンドは、オブジェクトをフレームにペーストする方法の 1 つです）。

1. オブジェクト、フレームまたはグループを選択します。
2. コントロールパネルまたはオブジェクトスタイルパネルでオブジェクトスタイルをクリックして、スタイルを適用します。

オブジェクトスタイルパネルメニューで「スタイルの適用時にオーバーライドを消去」を選択しているとき、オブジェクトスタイルをクリックすると、デフォルトではオーバーライドが消去されます。このオプションを選択していない場合は、Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押したままオブジェクトスタイルをクリックして、スタイルの適用時にオーバーライドを消去することができます。

また、オブジェクトスタイルをオブジェクトにドラッグすれば、オブジェクトを先に選択しないでスタイルを適用することもできます。

オブジェクトスタイルを適用するときにグループを選択していると、そのグループ内の各オブジェクトにそのスタイルが適用されます。

スタイルが適用されていても、必要に応じてオブジェクトに別の設定を適用できます。スタイル内に定義された設定を上書きしても、スタイルへのリンクは失われません。

ページの先頭へ

デフォルトのオブジェクトスタイルの使用

新規ドキュメントの場合、オブジェクトスタイルパネルには、一式のデフォルトオブジェクトスタイルが表示されます。オブジェクトを作成するたびに、そのオブジェクトにはオブジェクトスタイルが適用されます。デフォルトでは、テキストフレームを作成すると、[基本テキストフレーム] オブジェクトスタイルが適用されます。パスやシェイプを描画する場合は、[基本グラフィックフレーム] オブジェクトスタイルが適用されます。×印が付いた画像を配置したりプレースホルダーフレームを描画したりする場合は、[なし] オブジェクトスタイルが適用されます。テキストフレームおよびグラフィックフレームのデフォルトとして使用する、別のオブジェクトスタイルを選択できます。

新規ドキュメントの場合、オブジェクトスタイルパネルには、一式のデフォルトオブジェクトスタイルが表示されます。オブジェクトを作成するたびに、そのオブジェクトにはオブジェクトスタイルが適用されます。デフォルトでは、テキストフレームを作成すると、[基本テキストフレーム] オブジェクトスタイルが適用されます。グラフィックを配置する場合、またはパスやシェイプを描画する場合は、[基本グラフィックフレーム] オブジェクトスタイルが適用されます。フレームグリッドを作成する場合、[基本グリッド] オブジェクトスタイルが適用されます。×印が付いたプレースホルダーフレームを描画する場合は、[なし] オブジェクトスタイルが適用されます。これらの各オブジェクトタイプのデフォルトのオブジェクトスタイルとして、別のオブジェクトスタイルを選択できます。

- テキストフレームのデフォルトスタイルを変更するには、オブジェクトスタイルパネルメニューの「デフォルトテキストフレームスタイル」を選択してから、オブジェクトスタイルを選択します。
- グラフィックフレームのデフォルトスタイルを変更するには、オブジェクトスタイルパネルメニューの「デフォルトグラフィックフレームスタイル」を選択してから、オブジェクトスタイルを選択します。
- ×印が付いたグラフィックプレースホルダーフレームには、デフォルトとして [なし] スタイルが常に使用されます。デフォルトとしてオブジェクトスタイルを指定することはできません。
- グリッドフレームのデフォルトスタイルを変更するには、オブジェクトスタイルパネルメニューの「デフォルトグリッドスタイル」から、オブジェクトスタイルを選択します。
- 任意のオブジェクトタイプのデフォルトスタイルを変更するには、オブジェクトスタイルパネルで、現在のデフォルトオブジェクトスタイルに表示されているデフォルトオブジェクトのアイコンを別のオブジェクトスタイルにドラッグします。

注意： どのフレームも選択されていない状態でオブジェクトスタイルを選択すると、そのオブジェクトスタイルはツールパネルで選択されているツールに応じて、テキストまたはグラフィックの新しいデフォルトオブジェクトスタイルになります。

注意： どのフレームも選択されていない状態でオブジェクトスタイルを選択すると、そのオブジェクトスタイルはツールパネルで選択されているツールに応じて、テキスト、グラフィックまたはグリッドのいずれかのフレームの新しいデフォルトオブジェクトスタイルになります。

[基本] スタイルは編集できますが、削除することはできません。

ページの先頭へ

オブジェクトスタイルのオーバーライドの消去

オブジェクトに適用されているスタイル定義と一部異なる書式設定がそのオブジェクトに適用されるとき、これをオーバーライドといいます。オーバーライドしているオブジェクトを選択すると、スタイル名の右にプラス記号（＋）が表示されます。

オブジェクトスタイルで有効または無効になっている書式設定のオーバーライドを消去するには、「オーバーライドを消去」コマンドを使用します。無視されている属性を消去するには、「スタイルで定義されていない属性を消去」を使用します。

オブジェクトスタイルのオーバーライドの消去

1. 変更したいオブジェクトまたはグループを選択します。
2. オブジェクトスタイルパネルの下部にある、「オーバーライドを消去」ボタンをクリックします。

オーバーライドは、適用された属性がそのスタイルの一部である場合のみ表示されます。

オブジェクトスタイルで無視されている属性の消去

属性がスタイルで無視されている場合でも、オブジェクトからその属性を削除したいことがあります。例えば、オブジェクトスタイルで塗りカテゴリーが無視されている場合、オブジェクトスタイルが適用されるフレームに赤の塗りを適用し、「スタイルを適用、スタイルで定義されていない属性を消去」を選択すると赤の塗りは削除されます。

注意： オブジェクトスタイルカテゴリーが無視でなく無効になっている（チェックが外されている）場合は、「オーバーライド消去」コマンドを使用してスタイルをオーバーライドします。

1. 変更したいオブジェクトまたはグループを選択します。
2. オブジェクトスタイルパネルの下部にある、「スタイルで定義されていない属性を消去」ボタンをクリックします。

ページの先頭へ

オブジェクトスタイルへのリンクの解除

オブジェクトと、それに適用されているスタイル間のリンクを解除することができます。オブジェクトは同じ属性を保持しますが、スタイルが変更されてもオブジェクトは変化しません。

1. オブジェクトスタイルが適用されたオブジェクトを選択します。
2. オブジェクトスタイルパネルメニューの「スタイルとのリンクを切断」を選択します。

オブジェクトスタイルの書式設定を保持したくない場合は、オブジェクトスタイルパネルの「[なし]」を選択します。

ページの先頭へ

オブジェクトスタイルの名前変更

1. スタイルが誤って適用されないように、オブジェクトが現在選択されていないことを確認します。
2. オブジェクトスタイルパネルで、名前を変更したいオブジェクトスタイルをダブルクリックします。
3. オブジェクトスタイルオプションダイアログボックスで、新しいスタイル名を入力して「OK」をクリックします。

   また、パネルでオブジェクトスタイル名を直接編集することもできます。スタイル名を編集するには、スタイルをクリックし、一時停止した後、再びクリックします。

ページの先頭へ

オブジェクトスタイルの編集

1. 次のいずれかの操作を行います。
   - 選択したフレームにそのスタイルを適用したくない場合、またはデフォルトに設定したくない場合は、オブジェクトスタイルパネルのス

タイル名を右クリック（Windows）または Control キーを押したままクリック（Mac OS）して「編集 [スタイル名]」を選択します。

- オブジェクトスタイルパネルでスタイル名をダブルクリックします。または、パネルでスタイルを選択し、オブジェクトスタイルパネルメニューの「スタイルの編集」を選択します。この方法でスタイルを編集すると、選択したオブジェクトにそのスタイルが適用されるか、またはそのスタイルがデフォルトのオブジェクトタイプとして設定されるという点に注意してください。

2. オブジェクトスタイルオプションダイアログボックスで、変更したいオプションを含むカテゴリーを選択し、必要に応じて設定を変更します。
3. オブジェクトスタイルカテゴリーを有効、無効または無視のいずれにするかを決定します。
4. 「OK」をクリックします。

ページの先頭へ

オブジェクトスタイルの削除

1. オブジェクトスタイルパネルで、オブジェクトスタイルを選択します。
2. オブジェクトパネルメニューの「スタイルを削除」を選択するか、またはスタイルをオブジェクトスタイルパネル下部の選択したスタイルを削除アイコンまでドラッグします。
3. オブジェクトに適用されているスタイルを削除するか、または別のスタイルの親になっているスタイルを削除する場合は、オブジェクトスタイルの削除ダイアログボックスで代替スタイルを指定するように指示する警告が表示されます。次のいずれかの操作を行います。

   - 削除するスタイルが使われているオブジェクトを別のスタイルに置き換えるには、オブジェクトに適用したいスタイルを選択して、「OK」をクリックします。
   - オブジェクトを変更しない場合は、「[なし]」を選択して、「フォーマットを保持」にチェックマークが付いていることを確認し、「OK」をクリックします。削除されたスタイルを使用するオブジェクトは同じ属性を保持しますが、スタイルにはもう関連付けられていません。
   - 適用したすべての属性設定を削除するには、[なし] を選択し、「フォーマットを保持」の選択を解除して「OK」をクリックします。

注意： オブジェクトに適用されていないスタイルをすべて削除するには、オブジェクトスタイルパネルの「未使用をすべて選択」を選択して、削除アイコンをクリックします。

ページの先頭へ

オブジェクトスタイルの再定義

オブジェクトスタイルを適用した後、その設定をオーバーライドできます。特定のオブジェクトに対して加えた変更が適していることがわかったら、変更したオブジェクトの書式設定に一致するようにスタイルを再定義できます。「スタイル再定義」コマンドは、有効または無効になっているカテゴリーのみを再定義し、無視されているカテゴリーは再定義しないことに注意してください。オブジェクトにその他の設定を含める場合、スタイルにこれらの設定を個々に追加するか、または単に新しいオブジェクトスタイルを作成する必要があります。

1. 変更したいスタイルを使用するオブジェクトを選択します。
2. 対象となる外観属性を調整します。
3. オブジェクトスタイルパネルメニューから「スタイル再定義」を選択します。

オブジェクトスタイル定義が適用したオーバーライド設定に一致するように変更されます。ドキュメント内のそのオブジェクトスタイルの使用箇所が新しい設定に更新されます。

注意： 「スタイル再定義」オプションが使用不可能な場合、設定した属性はオブジェクトスタイル定義の一部にはなりません。スタイル定義を直接変更するには、代わりに「スタイルの編集」を選択するか、またはオブジェクトから新しいスタイルを作成します。

ページの先頭へ

オブジェクトスタイルの読み込み

他のドキュメントからスタイルを読み込むことができます。オブジェクトスタイル自体のほかに、InDesign はスウォッチ、カスタムの線、文字スタイルまたはスタイルで使用される段落スタイルを読み込みます。読み込むスウォッチ、線または段落スタイルが同じ名前だが、既存のスウォッチやスタイルと値が違う場合、InDesign では読み込まれる方の名前が変更されます。

読み込むオブジェクトスタイルにグリッドフォーマットが含まれている場合、そのグリッドも読み込まれます。

1. オブジェクトスタイルパネルメニューから「オブジェクトスタイルの読み込み」を選択します。
2. オブジェクトスタイルの読み込み元のファイルを選択して、「開く」をクリックします。
3. スタイルを読み込みダイアログボックスで、読み込みたいスタイルの横にチェックマークが表示されていることを確認します。スタイル名に競合がある場合、「既存スタイルとの競合」の次のいずれかのオプションを選択して、「OK」をクリックします。

   新しい定義を使用 既存のスタイルを読み込まれたスタイルで上書きし、その新しい属性を旧スタイルを使用していた現在のドキュメントに含まれるすべてのオブジェクトに適用します。新しいスタイルと既存のスタイルの定義は、比較を表示できるようにスタイルを読み込みダイアログボックスの下部に表示されます。

   自動名前変更 読み込みスタイルの名前を変更します。

   読み込んだオブジェクトスタイルは、オブジェクトスタイルパネルに表示されます。

関連項目

BY-NC-SA Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

スタイルを使用した作業

スタイルまたはスタイルグループの複製
グループスタイル
スタイルの移動および並べ替え

スタイルまたはスタイルグループの複製

トップへ戻る

❖ スタイルパネルでスタイル、またはスタイルグループを右クリック（Windows）または Control キーを押しながらクリック（Mac OS）して、「スタイルを複製」を選択します。
新しいスタイルまたはスタイルグループがスタイルパネルに表示されます。同じ名前の後に「コピー」と表示されます。スタイルのグループを複製した場合、新しいグループ内のスタイル名は同じままとなります。

また、スタイルを別のグループにコピーすることでスタイルを複製することもできます。

グループスタイル

トップへ戻る

文字スタイル、段落スタイル、オブジェクトスタイル、表スタイルおよびセルスタイルの各パネルでスタイルを別々のフォルダーにグループ化することで、スタイルを編成することができます。グループ内にグループを入れ子にすることさえできます。スタイルをグループに入れる必要はありません。スタイルは、グループまたはパネルのルートレベルに追加できます。

スタイルグループの作成

1. スタイルパネルで、次の操作を行います。
   - グループをルートレベルに作成するには、すべてのスタイルを選択解除します。
   - グループをグループ内に作成するには、グループを選択して開きます。
   - 既存のスタイルをグループに入れるには、そのスタイルを選択します。
2. スタイルパネルメニューから「新規スタイルグループ」を選択するか、「スタイルからグループを作成」を選択して、選択したスタイルを新しいグループに移動します。
3. グループの名前を入力し、「OK」をクリックします。
4. スタイルをグループに移動するには、スタイルをスタイルグループの上にドラッグします。スタイルグループがハイライト表示されたら、マウスボタンを放します。

グループへのスタイルのコピー

スタイルを別のグループにコピーすると、そのスタイルはリンクされなくなります。スタイルの名前が同じでも、一方のスタイルを編集したとき他方のスタイルの属性は変更されません。

1. コピーするスタイルまたはグループを選択します。
2. スタイルパネルメニューから「グループにコピー」を選択します。
3. スタイルまたはグループのコピー先のグループ（または[Root]レベル）を選択し、「OK」をクリックします。

   グループに、コピーされるグループと同一のスタイル名が既に含まれている場合は、新しいスタイルの名前が変更されます。

スタイルグループの展開または折りたたみ

- 1 グループのみを展開したり折りたたんだりするには、そのグループの横にある三角形のアイコンをクリックします。
- グループとそのすべてのサブグループを展開したり折りたたんだりするには、Ctrl キー（Windows）または Command キー（Mac OS）を押しながら三角形のアイコンをクリックします。

スタイルグループの削除

スタイルグループを削除すると、グループとその中にあるすべてのもの（スタイルやその他のグループ）が削除されます。

1. 削除するグループを選択します。
2. スタイルパネルから「スタイルグループを削除」を選択し、「はい」をクリックします。
3. グループ内の各スタイルごとに、代替スタイルを指定するか「[なし]」を選択して、「OK」をクリックします。
   すべてのスタイルに同じ代替スタイルを使用する場合は、「すべてに適用」を選択します。

スタイルの代替スタイルをキャンセルした場合、グループは削除されません。編集／スタイルを削除を取り消しを選択すれば、削除したスタイルを復元できます。

トップへ戻る

スタイルの移動および並べ替え

デフォルトでは、作成したスタイルはスタイルグループまたはパネルの下部に表示されます。

- すべてのグループとグループ内のスタイルをアルファベット順にソートするには、スタイルパネルメニューから「名前順」を選択します。
- 1 つのスタイルを移動するには、移動先の位置までドラッグします。黒の線はスタイルの移動先を示します。ハイライト表示されたスタイルグループは、そのグループにスタイルが追加されることを示します。

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

テキスト編集

ドキュメントにインストールされているフォント（ビデオ 2:29）（英語）
Michael Ninness (2011/01/01)
チュートリアル - ビデオ
InDesign CS5 以降で、ドキュメントに組み込まれたフォントをデザインに使用する方法を説明します。

フォントの使用

フォントについて
Adobe Typekit
フォントのインストール
テキストに対するフォントの適用
書体サイズの指定
フォントのプレビュー
OpenType フォント
OpenType フォント属性の適用
環境にないフォントの処理
ドキュメントにインストールされているフォント
マルチプルマスターフォント

ページの先頭へ

フォントについて

フォントは、文字、数字、記号などのセットで、例えば、13 級の小塚明朝 Pro R などのように、太さ（ウェイト）、平均的な字幅、スタイルといった属性を持っています。

書体（フォントファミリまたはタイプフェイスとも呼びます）は、小塚明朝など、共通の体裁を持つフォントの集まりで、一緒に使用するように設計されています。

フォントスタイルは、フォントファミリーに含まれるフォントのバリエーションです。欧文フォントでは、Roman または Plain（フォントファミリーごとに名称は異なります）は、フォントファミリーの中で基本となるフォントで、「regular」、「bold」、「semibold」、「italic、「bold italic」などのフォントスタイルがあります。

ページの先頭へ

Adobe Typekit

InDesign のすべてのサブスクリプションには Adobe Typekit ポートフォリオプランが含まれており、デスクトップと同期して InDesign および他のデスクトップアプリケーションで使用が可能なフォントのライブラリを利用できます。デスクトップフォントを Typekit と同期する方法について詳しくは、ここをクリックしてください。

ページの先頭へ

フォントのインストール

フォントをすべてのアプリケーションで使用できるように設定する場合は、使用しているシステムかフォントマネージャーの説明書を参照してください。

InDesign でフォントを使用できるようにするには、そのフォントのファイルをハードディスク上の InDesign アプリケーションフォルダーにある Fonts フォルダーにコピーします。ただし、この Fonts フォルダーにインストールされたフォントは InDesign だけで使用できます。

同じファミリーの名前を使用している 2 つ以上のフォントが InDesign でアクティブにされている場合でも、PostScript 名が異なっていれば、InDesign で使用することができます。重複したフォントは、括弧内にフォント形式を省略した用語が表記された名前でリストアップされます。例えば、Helvetica TrueType フォントは「Helvetica（TT）」と表示され、Helvetica PostScript Type 1 フォントは「Helvetica（T1）」、Helvetica OpenType フォントは「Helvetica（OTF）」と表示されます。2 つのフォントが同じ PostScript 名を持っていたり、一方が名前に「.dfont」を持っている場合は、他のフォントが使用されます。

フォントのインストール手順

コンピューターにフォントをインストールする方法について説明します。Windows およ

提供者 **Adobe** のフォント



び Mac OS のほとんどのバージョンについて手順が説明されています。... 詳細

http://adobe.ly/OSoIB3



http://www.adobe.com/jp/ty...

専門知識を投稿：
Adobe Community Help

ページの先頭へ

テキストに対するフォントの適用

小塚明朝 Std OTF フォントや欧文フォント（Helvetica など）のような OpenType フォントを指定する場合、フォントファミリーとフォントスタイルを個々に選択することができます。フォントファミリーを変更すると、InDesign では、現在のスタイルを新しいフォントファミリーで使用可能なスタイルに一致させようとします。例えば、Arial から Times に変更すると、Arial Bold は Times Bold に変わります。

フォントに太字または斜体を適用すると、InDesign では、フォントで指定される字体を適用します。多くの場合、指定した種類の太字または斜体が適用されます。ただし、フォントの種類によっては、太字や斜体を指定しても思ったとおりの結果にならない場合があります。例えば、フォントデザイナーがフォントごとにデザインしているため、太字を指定しても、セミボールド程度の太さしか表示されない場合もあります。

1. 変更するテキストを選択します。
2. 必要に応じて次の操作を行います。
   - 文字パネルまたはコントロールパネルのフォントファミリメニューからフォントを選択するか、フォントスタイルメニューからスタイルを選択します（Mac OS では、フォントファミリーポップアップメニューのサブメニューからフォントスタイルを選択します）。
   - 文字パネルまたはコントロールパネルで、表示されているフォントファミリー名またはフォントスタイル名の先頭をクリック（または先頭の単語をダブルクリック）して、目的のフォントファミリー名またはフォントスタイル名の最初の数文字を入力します。入力した文字に一致するフォントファミリーまたはフォントスタイルの名前が表示されます。
   - 書式／フォントを選択し、サブメニューからフォントを選択します。このメニューを使用すると、フォントファミリーとフォントスタイルの両方を選択できます。

ページの先頭へ

書体サイズの指定

デフォルトでは、書体サイズはポイントで指定します（ポイントは 1/72 インチに相当します）。 0.001 ポイントの増分値で 0.1 から 1296 pt の範囲でフォントサイズを指定できます。

注意： *Fireworks* では、書体サイズはピクセル単位でデフォルトで測定されます。

1. 変更する文字列またはテキストオブジェクトを選択します。テキストを選択しなかった場合、書体サイズは新しく作成するテキストに適用されます。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - 文字パネルまたはコントロールパネルで、「フォントサイズ」オプションを設定します。
   - 書式／サイズメニューでサイズを選択します。 「その他」を選択すると、文字パネルで新しいサイズを入力できます。

   文字サイズの単位は、環境設定ダイアログボックスで変更できます。このオプションは *Fireworks* では使用できません。

ページの先頭へ

フォントのプレビュー

文字パネルまたはアプリケーションのフォントを選択できるその他の領域のフォントファミリーおよびフォントスタイルメニューで、フォントのサンプルを表示できます。 また、次のアイコンでフォントの種類が示されます。

- OpenType

- Type 1
- TrueType
- マルチプルマスター
- 合成フォント

  テキスト環境設定でプレビュー機能をオフにしたり、フォント名またはフォントサンプルのポイントサイズを変更したりすることができます。

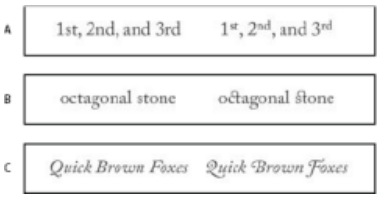
ページの先頭へ

OpenType フォント

OpenType フォントは、Windows® と Mac OS® で同じフォントファイルを使用するため、プラットフォーム間でファイルを移動する際に、フォントの代用などを意識せずに使用することができます。 OpenType フォントには、現在の PostScript や TrueType フォントでは実現されていないスワッシュ字形や任意の合字など、多くの機能を組み込むことが可能です。

OpenType フォントには アイコンが表示されます。

OpenType フォント使用時は、テキスト内の欧文合字、スモールキャップス、分数、オールドスタイルのライニング数字のような異体字を自動的に置き換えることができます。



標準フォント字形（左）と *OpenType* フォント機能（右）

A. 上付き序数表記 ***B.*** 任意の合字 ***C.*** スワッシュ

OpenType フォントには、より豊富な言語サポートと高度な文字制御を提供するために、拡張文字セットおよびレイアウト機能が含まれていることがあります。 中央ヨーロッパ（CE）言語をサポートするアドビの OpenType フォントには、アプリケーションのフォントメニューのフォント名に「Pro」という語が含まれています。 中央ヨーロッパ言語をサポートしない OpenType フォントには、「Standard」というラベルが付されており、「Std」という接尾辞が付いています。 また、すべての OpenType フォントは、PostScript Type 1 フォントおよび TrueType フォントと一緒にインストールすることができます。

OpenType フォントについて詳しくは、www.adobe.com/go/opentype_jp を参照してください。

ページの先頭へ

OpenType フォント属性の適用

文字パネルまたはコントロールパネルを使用して、分数やスワッシュ字形などの OpenType フォント属性をテキストに適用します。

OpenType フォントについて詳しくは、www.adobe.com/go/opentype_jp を参照してください。

OpenType フォント属性の適用

1. 文字パネルまたはコントロールパネルで、OpenType フォントが選択されていることを確認します。
2. 文字パネルメニューから「OpenType 機能」を選択し、サブメニューから「任意の合字」や「スラッシュを用いた分数」など、OpenType フォント機能を選択します。

現在のフォントでサポートされていない機能は、[スワッシュ] などのように、角括弧内に表示されます。

段落または文字スタイルを定義するときにも、*OpenType* フォント機能を選択できます。スタイルの編集ダイアログボックスの「*OpenType* 機能」パネルを使用してください。

OpenType フォント機能

OpenType フォントを使用すると、テキストの書式を設定するときやスタイルを定義するときに、コントロールパネルメニューまたは文字パネルメニューから特殊な OpenType 機能を選択することができます。

注意： *OpenType* フォントには、多くのフォントスタイルと機能があります。使用できない *OpenType* 機能は、コントロールパネルメニューの「*OpenType* 機能」のサブメニューで、*[スワッシュ]* などのように角括弧内に表示されます。

任意の合字 フォントによっては、任意の合字が含まれている場合があります。このオプションを選択すると、追加されている合字が使用可能になります。合字の詳細については、ペアに参照してください。

スラッシュを用いた分数 「1/2」のようにスラッシュで区切られた数字が 1 つの文字（1/2）として扱われます。

上付き序数表記 「*1st*」、「*2nd*」のような序数が、「1st」、「2nd」のような上付き文字になります。スペイン語の *segunda*（2*a*）や *segundo*（2º）の *a* や º などの上付き文字も適切に表示されます。

スワッシュ字形 スワッシュ字形がフォントに含まれる場合、普通の字形と前後の文字に依存するスワッシュ字形（別種の字形の大文字、単語の末尾に用いる装飾字形などが含む）を使用することができます。

タイトル用字形 タイトル用字形がフォントに含まれる場合、タイトルに適した大文字の字形が有効になります。これを大文字と小文字両方を用いて組んだテキストに対して適用すると、望ましくない結果を生むフォントもあります。

前後関係に依存する字形 前後関係に依存する字形と、連結用の異体字がアクティブになります。いくつかの筆記体の書体に用意されている代替字形で、文字を美しく連結する場合に使用できます。例えば、「bloom」という単語の文字の組み合わせ「bl」を、手書きのように連結することができます。このオプションはデフォルトで選択されています。

すべてスモールキャップス すべての文字がスモールキャップスになります。詳しくは、大文字／小文字の変更を参照してください。

スラッシュ付きゼロ このオプションを選択すると、数字のゼロ「*0*」に斜線（スラッシュ）が付加されます。欧文書体で Condensed などのスタイルを持つフォントは、数字のゼロ「*0*」と大文字の英字「*O*」が区別しにくい場合があります。

デザインのセット OpenType フォントには、装飾用に設計された代替字形が含まれているものがあります。デザインのセットは、代替字形のグループであり、1 度に 1 文字ずつ適用したり、テキストの範囲を指定して適用したりすることができます。別のデザインのセットを選択すると、そのセットで定義されている字形が、フォントのデフォルト字形の代わりに使用されます。デザインのセットの字形文字と別の OpenType 設定を一緒に使用すると、個々の設定の字形が文字セットの字形より優先されます。各セットの字形を確認するには、字形パネルを使用します。

位置依存形 いくつかの筆記体やアラビア語などの言語では、文字の外観は単語内の位置により異なります。文字が単語の始め（最初の位置）、中央（中間位置）、終わり（最後の位置）に表示される場合は、形状を変更できます。また、単独（孤立位置）で表示される場合にも同様に形状を変更できます。文字を選択し、「位置依存形」オプションを選択して、正しくフォーマットします。「一般形」オプションでは、通常の文字を挿入し、「自動形」オプションでは、文字が単語内で配置される場所と文字が孤立して表示されるかどうかに応じて文字の形状を挿入します。

上付き文字、下付き文字 周囲の文字の大きさから正確に大きさを設定した上付き・下付き文字を有するフォントもあります。OpenType フォントが標準的ではない分数用のこれらの字形を含まない場合には、「分子」か「分母」を用いることをご検討ください。

分子、分母 いくつかの OpenType フォントでは、1/2 や 1/4 のような基本的な分数だけを分数字形に変換し、4/13 や 99/100 などの分数は変換されません。このような場合は、「分子」か「分母」を分数に適用してください。

等幅ライニング数字 文字幅が同じで高さも揃っている数字を提供します。この機能は、表組みなど、数字の桁を揃えたい場合に効果的です。

オールドスタイル数字 字幅だけでなく高さにも変化のある数字字形を提供するものです。このオプションは、オールキャップスを使用しない古典的で洗練された印象を与えるテキストに適しています。

ライニング数字 高さが揃っており、字幅には変化のある数字を提供します。この機能は、大文字だけで組まれたテキストに対して効果的です。

等幅オールドスタイル数字 固定字幅でありながら、高さには変化のある数字を提供します。この機能は、古典的な印象を与えるオールドスタイル数字を、年次報告書などで列内に整列させて使用する場合に適しています。

デフォルトの数字 フォントのデフォルトの数字字形に切り替えます。

ページの先頭へ

環境にないフォントの処理

システムにインストールされていないフォントを含むドキュメントを開いたり配置したりすると、フォントがシステムにないことを示す警告メッセージが表示されます。環境にないフォントを使っているテキストを選択すると、文字パネルまたはコントロールパネルのフォントスタイルポップアップメニューでは、フォント名が角括弧（[]）で囲まれて表示されます。

InDesign では、環境にないフォントは使用可能なフォントに置換されます。このような場合は、テキストを選択して他の使用可能なフォントを適用することもできます。置換された環境にないフォントは、書式／フォントのサブメニュー最上部にある「環境にないフォント」に表示されます。デフォルトでは、環境にないフォントはピンクでハイライト表示されます。

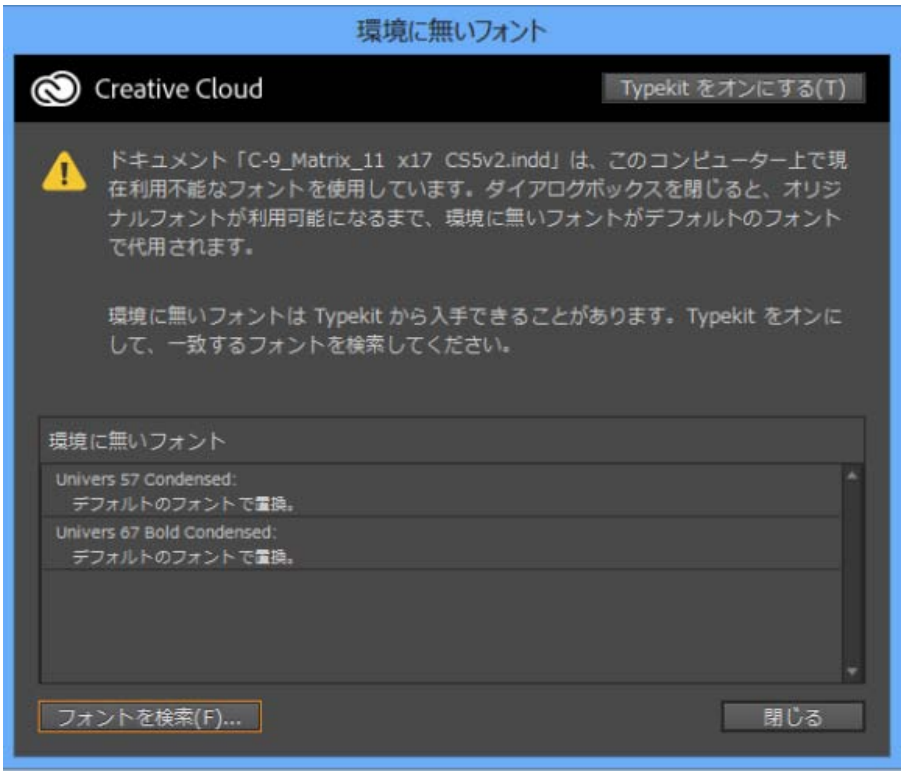
例えば、TrueType フォントがシステムにインストールされており、ドキュメント内に同じフォントの Type 1（T1）バージョンが使われている場合、そのフォントは環境にないと判断されます。

書式／フォント検索を選択して、環境にないフォントを検索して変更できます。環境にないフォントがスタイルの一部である場合は、スタイル定義を変更して、スタイル内のフォントを更新できます。

InDesign の環境にないフォントダイアログは、Creative Cloud アプリケーションでのフォントの同期機能のオン／オフ状況を表示します。オフになっている場合は、環境にないフォントダイアログでも「Typekit をオンにする」オプションが表示されます。

環境にないフォントの使用可能化

- 必要に応じて次の操作を行います。
  - Typekit のワークフローを使用して、環境に無いフォントを InDesign などのアプリケーションと同期します。 詳しくは、デスクトップへのフォントの同期方法を参照してください。
  - 環境に無いフォントをシステムにインストールします。
  - 環境にないフォントを、InDesign アプリケーションフォルダー内の Fonts フォルダーに配置します。このフォルダーにインストールされたフォントは、InDesign だけで使用できます。詳しくは、フォントのインストールを参照してください。
  - フォント管理アプリケーションで、使用不可に設定されているフォントを使用可能にします。



環境に無いフォント

環境にないフォントを使用できない場合は、「フォント検索」コマンドを使用して検索し、フォントを置換します。

ドキュメント上での代替フォントのハイライト表示

環境設定で「代替フォント」オプションを選択している場合、環境にないフォントで書式が設定されているテキストはピンクでハイライト表示されており、簡単に区別することができます。

1. 編集／環境設定／組版（Windows®）または InDesign／環境設定／組版（Mac OS®）を選択します。
2. 「代替フォント」を選択し、「OK」をクリックします。

ページの先頭へ

ドキュメントにインストールされているフォント

ドキュメントを開くと、InDesign ドキュメントと同じ場所にある Document fonts フォルダーのフォントが一時的にインストールされます。ドキュメントを共有する場合やドキュメントを別のコンピューターに移動する場合は、「パッケージ」コマンドで Document fonts フォルダーを作成できます（ドキュメントのフォントを共有する前に、フォントソフトウェアのライセンスで許諾されていることを確認してください）。Adobe Typekit から同期されたフォントは、「パッケージ」コマンドではコピーされません。Typekit フォントおよび「パッケージ」コマンドについて詳しくは、こちらを参照してください。

Document fonts フォルダーのフォントは、オペレーティングシステムの標準のフォントの場所にあるフォントとは異なります。これらのフォントは、ドキュメントを開いたときにドキュメントに組み込まれ、ドキュメント内の同じ名前の PostScript フォントと置き換わります。ただし、ドキュメント内のフォントが置き換わるだけです。特定のドキュメントにインストールされたフォントは他のドキュメントでは使用できません。ドキュメントを閉じると、ドキュメントに組み込まれたフォントは無効になります。ドキュメントに組み込まれたフォントは、フォントメニューのサブメニューに表示されます。

一部の Type1 フォントは、ドキュメントで使用できません。また、Windows で InDesign を実行しているときには、一部の Mac OS のフォントは使用できません。

ドキュメントに組み込まれたフォントについては、ドキュメントのフォントに簡単にアクセスできる状態でファイルを共有（英語）（ビデオ）をご覧ください。

ページの先頭へ

マルチプルマスターフォント

マルチプルマスターフォントは、カスタマイズ可能な Type 1 フォントであり、太さ、幅、スタイル、オプティカルサイズ（表示サイズ）などの属性で書体が記述されています。

一部のマルチプルマスターフォントには、オプティカルサイズ軸が含まれているので、特定のサイズで最もよく判読できるようにデザインされているフォントを使用できます。一般的に、14 級などの小さいフォントサイズのオプティカルサイズは、100 級などの大きいオプティカルサイズと比較すると、セリフと縦画が太く、文字幅が広く、細い画線と太い画線の対比が小さく、文字の高さが高く、文字間隔が広くなっています。

1. 編集／環境設定／テキスト（Windows）または InDesign／環境設定／テキスト（Mac OS）を選択します。
2. 「正しいオプティカルサイズを自動的に使用」を選択し、「OK」をクリックします。

関連項目

(cc) BY-NC-SA Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

行揃え

テキストの揃えまたは均等配置
段落をベースライングリッドに揃える
複数行をバランスよく折り返す
行取りの設定
段落行取りの設定
列をまたぐ段落や列に分割する段落の作成
テキストフレーム内のテキストのフレーム揃え

テキストの揃えまたは均等配置

トップへ戻る

段落のテキストは、テキストフレームや段の片側、両端または内側に揃えることができます。テキストを両方の端に揃えることを、両端揃えと呼びます。段落内のテキストを、最終行を除いて均等に配置（「均等配置（最終行左 / 上揃え）」または「均等配置（最終行右 / 下揃え）」）したり、最終行も含めて均等に配置（「両端揃え」）したりすることができます。最終行の文字数が少ない場合は、ストーリーの特別な最終文字を使用してフラッシュスペースを作成します。



左 / 上揃え（左）と、両端揃え（右）

注意： Adobe 段落コンポーザーを使用している場合、テキストを両端揃えにすると、段落内のテキストの密度が一定できれいに見えるように、テキストを行から行へ移動させます。ジャスティフィケーションされたテキストの間隔を微調整することができます。
フレームグリッドのテキストに中央揃えや両端揃えを設定すると、テキストはグリッドに正確に揃わなくなります。フレームグリッド内のすべての段落に対して行揃えを指定することもできます。

1. テキストを選択します。
2. 段落パネルまたはコントロールパネルで、「左揃え」、「中央揃え」、「右揃え」、「均等配置（最終行左 / 上揃え）」、「均等配置（最終行中央揃え）」、「均等配置（最終行右 / 下揃え）」または「両端揃え」をクリックします。
3. （オプション手順）「ノド元に向かって整列」または「ノド元から整列」をクリックします。

   段落に「ノド元に向かって整列」を適用すると、左側のページにあるテキストは右揃えになり、その同じテキストが右側のページに移動した場合（またはフレームが移動した場合）は左揃えになります。これと同様に、「ノド元から整列」を段落に適用すると、左側のページにあるテキストは左揃えになり、右側のページにあるテキストは右揃えになります。

   テキストの整列はノド元の方向に対して平行に行われるので、縦組みフレームでは、ノド元を基準にした整列は意味がありません。

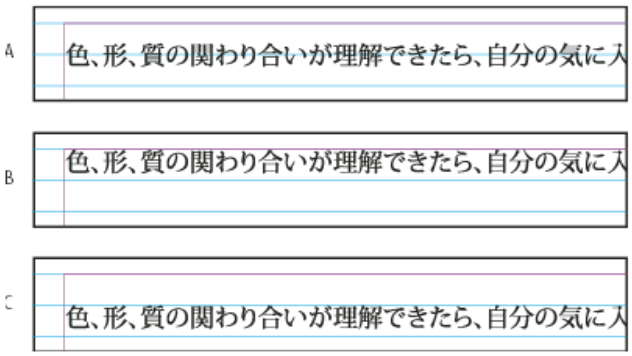
横組みテキストで行の左側を左揃え、右側を右揃えにするには、まず、「右 / 下揃え」をクリックして、テキストを右揃えに設定し、左揃えと右揃えにするテキストの間にテキスト挿入点を置いて、Tab キーを押してタブを挿入します。これでタブを入力したところから左側が行の左揃え、右側が右揃えになります。

段落をベースライングリッドに揃える

トップへ戻る

プレーンテキストフレーム内の段落に書式を設定する場合は、段落をベースライングリッドに揃えると便利です。デフォルトでは、フレームグリッド内のテキストは仮想ボディの中央に揃えられますが、個々の段落のグリッド揃えを欧文ベースライン、フレームグリッドの仮想ボディ、またはフレームグリッドの平均字面に合わせて変更することもできます。

ベースライングリッドは、ドキュメント内のテキストの行送りを表しています。ページ上のすべての要素に対して行送り値の倍数を適用すると、段やページが異なっても、テキストを同じ行送りで整列させることができます。例えば、ドキュメントの欧文の本文テキストの行送りが 12 pt の場合、見出しテキストの行送りを 18 pt にすると、見出しの後の段落前のアキ量が 6 pt になります。



グリッド揃え
A. 仮想ボディの中央に揃えられたテキスト **B.** 仮想ボディの上に揃えられたテキスト **C.** 平均字面に揃えられたテキスト

段落の先頭行だけをグリッドに揃えるかどうかを指定することもできます。また、同一行に異なるサイズの文字がある場合、最も大きい文字に小さい文字を揃える方法を指定できます。詳しくは、サイズの異なる文字の揃えを参照してください。

注意： フレームグリッドにおいて、テキストがフレームグリッドのデフォルト設定と同じサイズの場合は、グリッド揃えを変更してもテキストの位置は変化しません。フレームグリッド内のテキストがデフォルトのフレームグリッド設定と異なるフォントやサイズを使用している場合に、グリッド揃えを変更すると効果があります。
ベースライングリッドの設定を変更するには、環境設定ダイアログボックスの「グリッド」セクションを使用します。

ベースライングリッドを表示するには、表示／グリッドとガイド／ベースライングリッドを表示を選択します。ベースライングリッドが、ドキュメントの組み方向と同じ方向に表示されます。
注意： ドキュメントの表示倍率が、環境設定ダイアログボックスの「グリッド」セクションにある「ズーム度限界」で設定された値よりも大きい場合にだけ、ベースライングリッドがドキュメント上に表示されます。ベースライングリッドが表示されない場合は、ドキュメントの表示倍率を大きくしてください。

段落をベースライングリッドに揃える

1. テキストを選択します。
2. 段落パネルメニューのグリッド揃え／欧文ベースラインを選択します。

ベースライングリッドに対する段落の先頭行のみの揃え

1. 揃える段落を選択します。
2. 段落メニューまたはコントロールパネルメニューから「一行目のみグリッドに揃える」を選択します。
3. 段落パネルメニューまたはコントロールパネルメニューの「グリッド揃え」から「なし」以外のオプションを選択します。

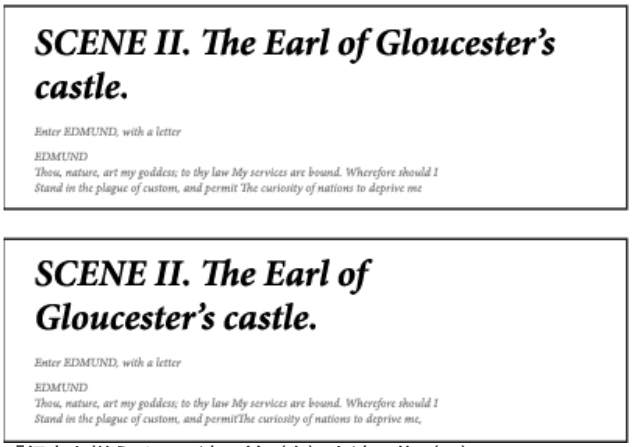
行送りがベースライングリッドよりも大きい値に設定されている場合は、行がベースライングリッドの次の行に吸着するように自動的に行が送られます。例えば、行送りが 16 pt でベースライングリッドが 14 pt の場合、テキストはベースライングリッドに 1 行おきに吸着します。

テキストをベースライングリッドに対して中央揃えにするか、仮想ボディの上または下、平均印字面の上または下に揃えるには、グリッド揃えメニューから「なし」以外のオプションを選択します。

トップへ戻る

複数行をバランスよく折り返す

複数行にわたる不揃いの行を行末で整列させることができます。この機能は、複数行の見出しや引用文、中央揃えされた段落などを作成する場合に使用すると有効です。



「行末を揃える」の適用前（上）と適用後（下）

1. 行末を揃える段落をクリックします。

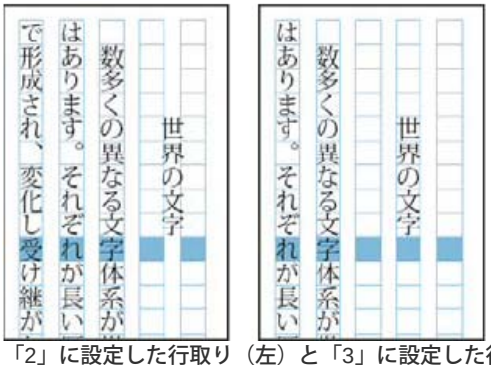
2. 段落パネルまたはコントロールパネルのメニューから、「行末を揃える」を選択します。

この機能は、行揃えに「左 / 上揃え」、「中央揃え」、「右 / 下揃え」を設定しており、Adobe 欧文段落コンポーザーまたは Adobe 日本語段落コンポーザーを使用している場合にだけ使用できます。

トップへ戻る

行取りの設定

行取りでは、指定した行数だけ段落の中央に揃えられます。見出しやタイトルなど、1 行の段落を強調するのに行取りを使用すると便利です。段落の行数が複数の場合は、「段落行取り」を選択して、段落全体が複数行にまたがるようにします。



「2」に設定した行取り（左）と「3」に設定した行取り（右）

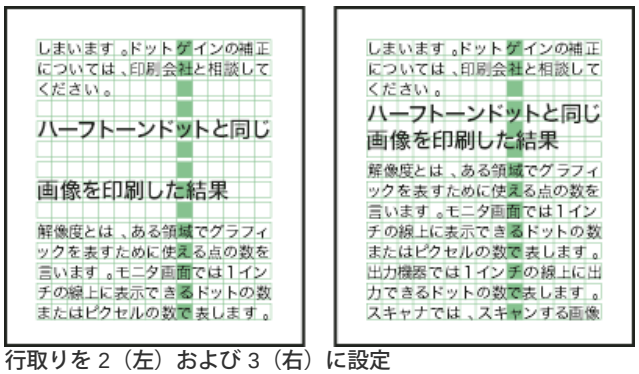
1. 段落パネルまたはコントロールパネルの「行取り」で、何行分の中央に行を揃えるかを指定します。
2. 指定した行数だけ段落全体を中央に揃えるには、段落パネルメニューまたはコントロールパネルメニューから「段落行取り」を選択します。

注意： テキストフレームでは、ベースライングリッドの値を基準として行取りが設定されます。

トップへ戻る

段落行取りの設定

「段落行取り」を設定すると、「行取り」で指定した行数に段落をおさめることができます。「段落行取り」を設定していない場合は、段落内の各行が「行取り」で指定した行数にまたがります。



行取りを 2（左）および 3（右）に設定

1. 段落行取りを適用する段落を選択します。
2. 段落パネルメニューまたはコントロールパネルメニューから「段落行取り」を選択します。
3. レイアウトに合うように、コントロールパネルまたは段落パネルの「行取り」の値を調整します。

「段落行取り」を使用して複数のグリッド行に段落を中央揃えすると、各行の行間は、グリッドのアキではなく、行送りの値によって決まります。フレームグリッドテキストの自動行送りがデフォルトの 100 %である場合は、各行の行送りで間隔の調整を必要とする場合があります。

トップへ戻る

列をまたぐ段落や列に分割する段落の作成

複数の列をまたぐ段落を作成できます。例えば、テキストフレーム内の複数の列をまたぐ見出しなどを作成することができます。すべての列または指定した数の列をまたぐ段落を指定できます。複数の列を含むテキストフレーム内で複数の列をまたぐ段落を設定すると、その段落に先行するテキストが揃えられます。

また、同じテキストフレーム内の 1 つの段落を複数の列に分割することもできます。

列をまたぐ段落または列に分割する段落の作成に関するビデオチュートリアルについては、www.adobe.com/go/lrvid5151_id_jp または http://tv.adobe.com/go/4952/ を参照してください。



複数の列をまたぐ段落と複数の列に分割した段落
A. 列をまたぐ見出し **B.** 分割した列

段落が列をまたぐようにするには

1. 段落内に挿入点を置きます。

   この機能を、段落スタイルの一部（見出しスタイルなど）にすることもできます。
2. コントロールパネルメニューまたは段落パネルメニューから「段抜きと段分割」を選択します。
3. 段落レイアウトメニューから「段抜き」を選択します。
4. 段抜きする段数メニューから段落がまたぐ列数を選択します。段落がすべての列をまたぐ場合は、「すべて」を選択します。
5. 列をまたぐ段落の前後にスペースを追加するには、「段落前のアキ」と「段落後のアキ」の値を指定し、「OK」をクリックします。

段落を列に分割

1. 段落内に挿入点を置きます。

   この機能を、段落スタイルの一部（見出しスタイルなど）にすることもできます。
2. コントロールパネルメニューまたは段落パネルメニューから「段抜きと段分割」を選択します。
3. 段落レイアウトメニューから「段分割」を選択します。
4. 次のオプションを指定して、「OK」をクリックします。

   分割する段数 段落を分割する列数を選択します。

   段落前のアキ / 段落後のアキ 分割した段落の前後にスペースを追加します。

   段落間の間隔 分割した段落の間のスペースを決定します。

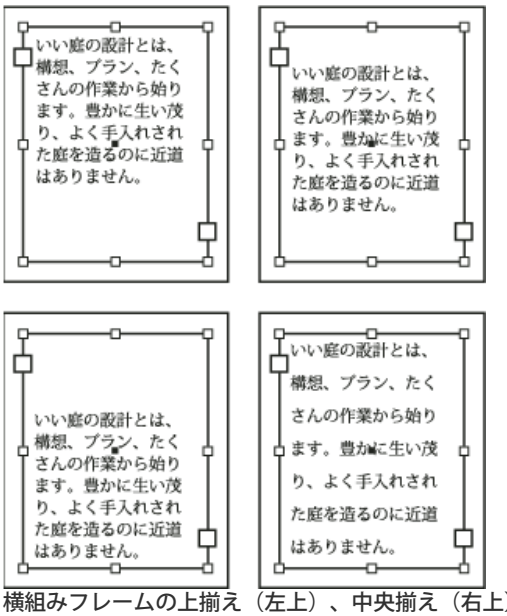
   フレームとの間隔 分割した段落の外側とマージンの間のスペースを決定します。

トップへ戻る

テキストフレーム内のテキストのフレーム揃え

フレーム揃えを使用すると、プレーンテキストフレーム内のテキストを、フレームを基準に垂直方向（縦組みの場合は水平方向）に揃えることができます。

フレーム揃えでは、各段落の行送り値と段落のアキ値に基づいて、横組みフレームの上、中央、下または縦組みフレームの右、中央、左にテキストが揃えられます。また、行送りや段落のアキに関係なく、行を等間隔に配置して、フレームの先頭から最後までの間にテキストを均等に配置することもできます。

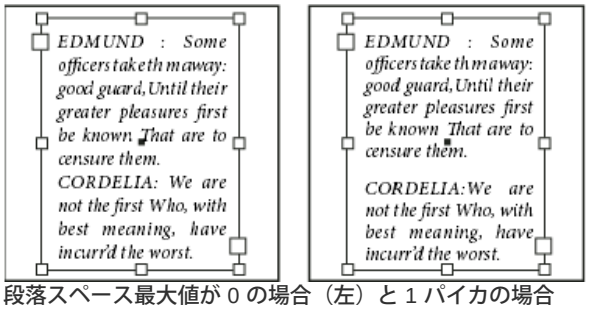


横組みフレームの上揃え（左上）、中央揃え（右上）、下揃え（左下）、均等配置（右下）

フレーム揃えは、テキストフレーム内のテキストのベースライン位置に基づいて適用されます。フレーム揃えでは、以下の点に注意してください。

- 「上 / 右揃え」は、テキストの先頭行を基準にベースラインを設定します。テキストフレーム設定ダイアログボックスの「先頭ベースライン位置」セクションの「オフセット」オプションが、この値に影響します。「下 / 左揃え」は、テキストの最終行を基準にベースラインを設定します。
- 「グリッド揃え」オプションが段落に適用されている場合に、「上 / 右揃え」、「中央揃え」、「下 / 左揃え」でテキストを揃えると、すべての行がベースライングリッドに揃います。「均等配置」で揃えた場合は、先頭と最後の行のみがベースライングリッドに揃います。
- テキストフレーム設定ダイアログボックスで、フレーム内マージンの「上」または「下」を調整すると、先頭または最後のベースライン位置が変化します。

1. 次のいずれかの操作を行います。
   - 選択ツールを使用してテキストフレームを選択します。
   - 文字ツール T を使用して、テキストフレームにテキスト挿入点を置きます。
2. オブジェクト／テキストフレーム設定を選択します。
3. テキストフレーム設定ダイアログボックスの「テキストの配置」セクションで、「上 / 右」、「中央揃え」、「下 / 左」または「均等配置」を選択します。
4. 「均等配置」を選択した場合に、行送りが、設定されている段落間隔よりも、広くならないようにするには、「段落スペース最大値」で値を指定します。段落の間隔は、指定した値まで拡大されます。フレームの終端までテキストが配置されていない場合は、フレームの上から下、または左から右までいっぱいにテキストが広がり行の間隔が調整されます。段落スペース最大値は、段落パネルの「段落前のアキ」または「段落後のアキ」で指定されている値に追加されます。



段落スペース最大値が 0 の場合（左）と 1 パイカの場合

注意： 複数の段があるテキストフレームでの垂直方向の均等配置は慎重に行ってください。最後の段の行数が少ない場合、行と行の間のホワイトスペースが広くなりすぎることがあります。

5. 「OK」をクリックします。

「段落スペース最大値」の調整を効率よく行うには、「プレビュー」を選択し、段落間隔が行送りとバランスよくなるまで「段落スペース最大値」の横にある上下矢印をクリックします。

関連項目

(cc) BY-NC-SA

段落の書式設定

段落間隔の調整
ドロップキャップの使用
段落の上下に境界線（線）を追加する
段落の分離禁止の方法
段落分離禁止オプションを使用した段落の分離禁止
ぶら下がり文字の作成

段落の書式設定に関するビデオチュートリアルについては、www.adobe.com/go/lrvid4276_id_jp を参照してください。

段落間隔の調整

トップへ戻る

段落間のアキを調整することができます。段落が段組みまたはフレームの先頭にある場合、InDesign では「前スペース」の値は無視されます。この場合、段落の 1 行目の行送りを増やすか、InDesign でフレームの上のマージンを増やして、段落の前にアキを作成します。

1. テキストを選択します。
2. 段落パネルまたはコントロールパネルで、「段落前のアキ」 および「段落後のアキ」 を適切な値に調整します。

   フォーマットの一貫性を維持するために、定義した段落スタイルの段落スペースを変更します。

ドロップキャップの使用

トップへ戻る

ドロップキャップは、同時に 1 つ以上の段落に適用できます。ドロップキャップのベースラインは、段落の先頭行のベーラインの 1 行下または複数行下にあります。

ドロップキャップの文字サイズは、先頭行のドロップキャップ文字が半角欧文か全角 CJK かによって異なります。先頭行のドロップキャップ文字が半角欧文である場合、ドロップキャップのキャップハイトは、段落の先頭行のキャップハイトと同じになり、ドロップキャップの欧文ベースラインは、段落の最終ドロップキャップ行のベースラインと同じになります。ドロップキャップの仮想ボディの上は、段落の先頭行の仮想ボディの上と同じになり、ドロップキャップの仮想ボディの下は、段落の最終ドロップギャップ行の仮想ボディの下と同じになります。

ドロップキャップ文字に適用できる文字スタイルを作成することもできます。例えば、レイズドキャップ（レイズドイニシャルとも呼ばれます）を作成するには、1 行 1 文字のドロップキャップを指定して、先頭文字のサイズを大きくする文字スタイルを適用します。



1 文字 3 行のドロップキャップ（左）と、5 文字 2 行のドロップキャップ（右）

ドロップキャップの作成

1. 文字ツール T を選択して、ドロップキャップを作成する段落をクリックします。
2. 段落パネルまたはコントロールパネルの「行のドロップキャップ数」で、ドロップキャップする行数を指定します。
3. 「1 またはそれ以上の文字のドロップキャップ」 で、ドロップキャップ文字の数を指定します。
4. 文字スタイルをドロップキャップ文字に適用するには、段落パネルメニューから「ドロップキャップと先頭文字スタイル」を選択し、文字スタイルを指定します。

   ドロップキャップと先頭文字スタイルダイアログボックスを使用して、ドロップキャップをテキストの端に揃える、ディセンダに合わせて拡大 / 縮小する、フレームグリッドを無視する、フレームグリッドにスペースを挿入する、グリッドに合わせて拡大 / 縮小するといった調整を行うことができます。ドロップキャップ文字に効果を加えるためにサイズ変更や変形などを行うには、ドロップキャップ文字を選択して編集を行います。

ドロップキャップの削除

1. 文字ツール T を選択して、ドロップキャップが表示される段落をクリックします。

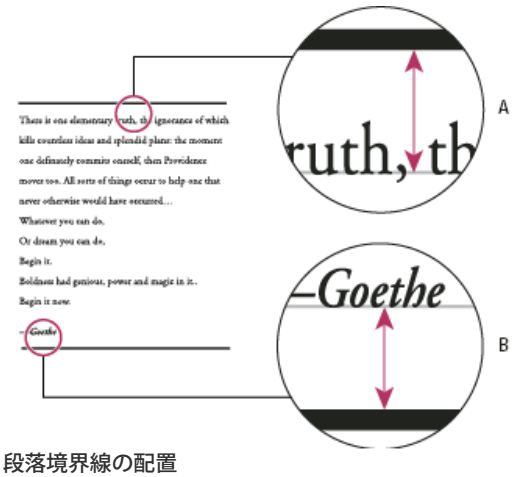
2. 段落パネルまたはコントロールパネルで、「行のドロップキャップ数」または「1 またはそれ以上の文字のドロップキャップ」に「0」を入力します。

トップへ戻る

段落の上下に境界線（線）を追加する

段落境界線は、段落の前後に付けられる線分で、段落属性として設定します。段落と一緒に移動し、サイズを変更することができます。段落境界線を見出しなどで何度も使用する場合は、段落スタイルで定義しておくと便利です。段落境界線の長さは、現在の段幅によって決定されます。

段落前境界線のオフセットは、先頭行のテキストのベースライン、または仮想ボディの下端から境界線の下端までの距離になります。段落後境界線のオフセットは、最終行のテキストのベースライン、または仮想ボディの下端から境界線の上端までの距離になります。



段落境界線の配置
A. 段落前境界線　**B.** 段落後境界線

段落境界線を使用した特殊効果の作成に関するビデオチュートリアルについては、Michael Murphy による Paragraph Rules Rule（英語）を参照してください。

段落境界線の高度な使用方法については、Creative Curio による Creative Uses for Paragraph Rules in InDesign, Pt 1（英語）の記事を参照してください。

段落の上または下への境界線の追加

1. テキストを選択します。
2. 段落パネルメニューまたはコントロールパネルメニューから「段落境界線」を選択します。
3. 段落境界線ダイアログボックスの最上部にあるポップアップメニューから、「前境界線」または「後境界線」を選択します。
4. 「境界線を挿入」を選択します。
   注意： 前境界線と後境界線が必要な場合は、「前境界線」と「後境界線」を選択して、それぞれで「境界線を挿入」を選択します。
5. 「プレビュー」を選択して、境界線を確認します。
6. 「線幅」で、境界線の太さを選択するか、値を入力します。「前境界線」の場合、線幅を増やすと境界線が上方向に広がります。「後境界線」の場合、線幅を増やすと境界線が下方向に広がります。
7. 印刷時に線がヌキにならないようにするには、「線オーバープリント」を選択します。
8. 以下のいずれかまたは両方の操作を行います。
   - 「カラー」で境界線のカラーを選択します。指定できるカラーは、スウォッチパネルにリスト表示されています。「（テキストカラー）」を選択すると、「前境界線」を選択している場合は境界線が段落の先頭文字と同じカラーになり、「後境界線」を選択している場合は最後の文字と同じカラーなります。
   - 必要に応じて、「濃淡」を選択するか、値を指定します。濃淡は指定したカラーに基づいています。「カラー」で「なし」、「紙色」、「レジストレーション」または「（テキストカラー）」を選択した場合は、カラーの濃淡を指定することはできません。
   - 「種類」で「ベタ」以外の種類を選択した場合、「間隔のカラー」または「間隔の濃淡」で、ダッシュ、点、線などの間にカラーや濃淡を指定することができます。
9. 「幅」で、境界線の長さを選択します。「テキスト」（行頭から行末まで）または「列」（段の左 / 下端から右 / 上端まで）のいずれかを選択できます。テキストフレームの内側にマージンが設定されている場合は、境界線はマージンの位置から始まります。
10. 境界線の、テキストとの相対的な位置を指定するには、「オフセット」に値を入力します。
11. テキスト前境界線がテキストフレーム内に表示されるようにするには、「フレームに収める」を選択します。このオプションが選択されていないと、境界線はテキストフレーム外に表示されます。
    ある列の一番上にある段落境界線を隣接する列の一番上にあるテキストと整列するには、「フレームに収める」をクリックします。
12. 境界線の左右のインデントを設定するには、「左インデント」と「右インデント」に値を入力します。
13. 段落境界線が別の色でオーバープリントされる場合に、版ズレで発生するエラーを回避するには、「線オーバープリント」を選択します。

「OK」をクリックします。

段落境界線の削除

1. 文字ツール T を使用して、段落境界線を含む段落にテキスト挿入点を置きます。
2. 段落パネルメニューまたはコントロールパネルメニューから「段落境界線」を選択します。
3. 「境界線を挿入」の選択を解除し、「OK」をクリックします。

トップへ戻る

段落の分離禁止の方法

段落内の 1、2 行が他の行から分離して孤立するオーファンやウィドーを防ぐことができます。オーファンは、段やページの末尾で発生し、ウィドーは、段やページの先頭で発生します。回避しなくてはならない他の組版上の問題としては、見出し行だけが 1 つのページに表示され、後続の段落が次ページに表示されるような場合です。ウィドー、オーファン、短い終了行、およびその他の改段に関する問題を修正するための、いくつかのオプションがあります。

任意ハイフン 任意ハイフン（書式／特殊文字を挿入／ハイフンおよびダッシュ／任意ハイフン）は、欧文単語が分割される場合のみ表示されます。このオプションは、「care-giver」など、ハイフンのある単語の一般的な印刷上の問題を防ぎ、テキストの折り返し後、行の途中に表示されます。同様に、任意改行文字を追加することもできます。
分割禁止 文字パネルメニューから「分割禁止」を選択し、選択したテキストが分割されないようにします。
分散禁止スペース 分散したくない単語間に分散禁止スペース（書式／空白文字を挿入／分散禁止スペースまたは分散禁止スペース（固定値））を挿入します。
段落分離禁止オプション 段落パネルメニューから「段落分離禁止オプション」を選択し、次の段落の行を何行を残すかを指定することができます。
段落の開始位置 段落分離禁止オプションダイアログボックスの「段落の開始位置」を使用して、段落（通常はタイトルや見出し）がページ、段、またはセクションの先頭に表示されるようにします。このオプションは、見出し用の段落スタイルに効果的です。
ハイフネーション設定 ハイフネーションを変更するには、段落パネルメニューから「ハイフネーション設定」を選択します。
テキストの編集 「テキストの編集」は、作業するドキュメントの種類によっては、オプションでない可能性があります。書き直しのライセンスを持っている場合、わずかな書き換え行うことにより、適切な改行を作成することができます。
異なるコンポーザーの使用 通常、Adobe 日本語段落コンポーザーまたは Adobe 欧文段落コンポーザーを使用して、段落を自動的に作成することができます。段落が意図したとおりに作成されない場合は、段落パネルメニューまたはコントロールパネルメニューから「Adobe 日本語単数行コンポーザー」または「Adobe 欧文単数行コンポーザー」を選択して、選択した行を個別に調整します。

トップへ戻る

段落分離禁止オプションを使用した段落の分離禁止

現在の段落がフレーム間で移動するときに、次の段落の行を何行残すかを指定できます。この方法は、見出しが本文から孤立しないようにする場合に便利です。InDesign では、段落分離禁止設定に違反する段落をハイライト表示できます。

ドキュメントで段が同じ最後のベースラインを共有する必要がない場合は、「段落分離禁止オプション」を使用したくない場合があります。

段落分離禁止オプションに違反する段落をハイライト表示するには、編集／環境設定／組版（Windows）または InDesign／環境設定／組版（Mac OS）を選択し、H&J 違反保持を選択して、「OK」をクリックします。

1. 適用する段落を選択します。
2. 段落パネルメニューから「段落分離禁止オプション」を選択します（段落分離禁止オプションは、段落スタイルを作成するときにも作成、変更できます）。
3. 以下のオプションを選択し、「OK」をクリックします。
   - 現在の段落の先頭行と前の段落の最終行を連動させるには、「前と連動」を選択します。
   - 「次の行数を保持」で、現在の段落の最終行と分離しないようにする次の段落の行数を指定します（最大 5 行まで）。このオプションは、見出しがそれに続く段落の行と分離しないようにする場合に便利です。
   - 段落内のすべての行が分離しないようにするには、「段落の分離禁止」を選択し、「段落中のすべての行を分離禁止」を選択します。
   - オーファンやウィドーを防ぐには、「段落の分離禁止」を選択し、「段落の先頭 / 段落末で分離禁止」を選択して、段落の先頭または末尾で分離されない行数を指定します。
   - 次の段、次のフレーム、次のページから段落を開始するには、「段落の開始位置」で指定します。「任意の位置」を選択すると、開始位置は「段落の分離禁止」の設定により決まります。その他のオプションを選択すると、段落の開始位置が具体的に決まります。

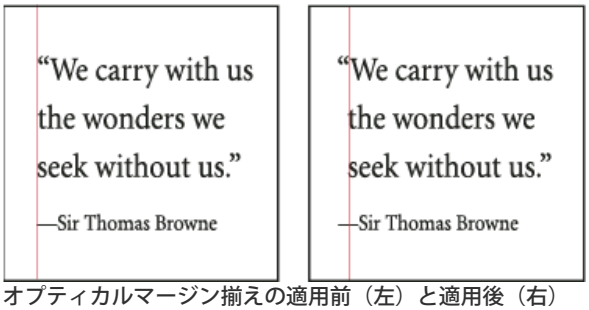
見出し用に段落スタイルを作成する場合、作成した見出しが段落と分離しないように設定するには、「段落分離禁止オプション」を使用します。

トップへ戻る

ぶら下がり文字の作成

「オプティカルマージン揃え」機能は欧文テキスト用です。CJK テキストのぶら下がり文字について詳しくは、禁則処理の適用を参照してください。

欧文で、句読点や「W」のような文字がテキストフレームの右端または左端にくると、テキストの端が揃っていないように見えます。オプティカルマージン揃えは、欧文テキストの句読点（ピリオド、コンマ、引用符、ダッシュなど）や文字（「W」と「A」など）のエッジを、マージンの外にぶら下げるかどうかを制御し、テキストの端が整って見えるようにします。



オプティカルマージン揃えの適用前（左）と適用後（右）

1. テキストフレームを選択するか、ストーリー内をクリックします。
2. 書式／ストーリーを選択します。
3. 「オプティカルマージン揃え」を選択します。
4. すぐ下にあるテキストボックスに、適切なぶら下がり量を指定します。最良の結果を得るには、ストーリーのテキストと同じフォントサイズを指定します。

個々の段落の「オプティカルマージン揃え」をオフにするには、段落パネルメニューまたはコントロールパネルメニューの「オプティカルマージンを無視」を選択します。

関連項目

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

文字の書式設定

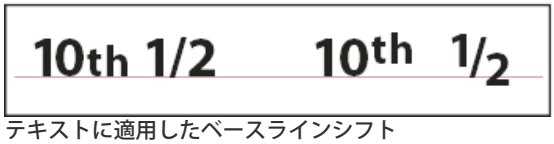
ベースラインシフトの適用
下付き文字または上付き文字の OpenType 以外のフォントへの変更
下線または打ち消し線の適用
文字の組み合わせに対する合字の適用
テキストのカラー、グラデーション、線の変更
テキストに対する透明効果の追加
テキストの言語の指定
大文字と小文字の変更
文字の拡大 / 縮小
文字を歪める

文字の書式設定に関するビデオチュートリアルについては、www.adobe.com/go/lrvid4275_id_jp を参照してください。

トップへ戻る

ベースラインシフトの適用

「ベースラインシフト」オプションを使用すると、横組みテキストのベースラインに相対して文字を上下に移動することができます（縦組みテキストの場合は、左右に移動）。このオプションは、分数を手動で設定したり、インライングラフィックの位置を調整したりする場合に使用します。



テキストに適用したベースラインシフト

1. テキストを選択します。
2. 文字パネルまたはコントロールパネルで、「ベースラインシフト」に数値を入力します。正の値を入力すると、選択した文字のベースラインが周囲の文字のベースラインよりも上に移動します。負の値を入力すると、下に移動します。

   「ベースラインシフト」テキストボックスにテキスト挿入点を置き、上または下向き矢印キーを押すと、値を増減することができます。値を大幅に変更するには、Shift キーを押しながら上または下向き矢印キーを押します。

ベースラインシフトのデフォルトの増減値を変更するには、環境設定ダイアログボックスの「単位と増減値」セクションで「ベースラインシフト」に値を指定します。

トップへ戻る

下付き文字または上付き文字の OpenType 以外のフォントへの変更

1. テキストを選択します。
2. 文字パネルメニューまたはコントロールパネルで、「上付き文字」または「下付き文字」を選択します。

「上付き文字」または「下付き文字」を選択すると、選択したテキストに、あらかじめ設定されているベースラインシフト値と文字サイズが適用されます。

適用される値は、現在のフォントサイズと行送りに対する縮小率および環境設定ダイアログボックスの「テキスト」パネルの設定に基づいています。これらの値は、テキストを選択したときに、文字パネルの「ベースラインシフト」や「サイズ」ボックスには表示されません。

注意： 上付き文字と下付き文字のデフォルトのサイズと位置は、環境設定の「高度なテキスト」を使用して変更できます。

トップへ戻る

下線または打ち消し線の適用

下線および打ち消し線のデフォルトの線幅は、フォントサイズによって変化します。

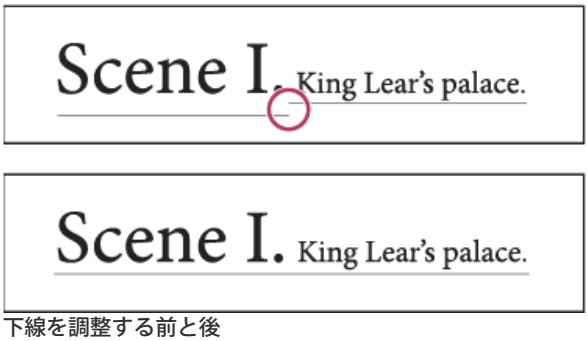
下線の設定に関するビデオチュートリアルについては、Jeff Witchel による Custom Underlines in InDesign（英語）を参照してください。

下線または打ち消し線の適用

1. テキストを選択します。
2. 文字パネルメニューまたはコントロールパネルで、「下線」または「打ち消し線」を選択します。

下線または打ち消し線のオプションの変更

カスタムの下線は、異なるサイズの文字の下に同じ下線を作成したり、背景を強調するような効果を作成したりする場合などに有効です。



下線を調整する前と後

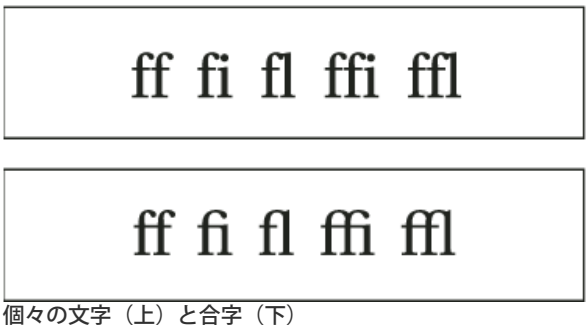
1. 文字パネルメニューまたはコントロールパネルメニューで、「下線設定」または「打ち消し線設定」を選択します。
2. 次のいずれかの操作を行って、「OK」をクリックします。
   - 「下線」または「打ち消し線」を選択して、現在のテキストに下線や打ち消し線を設定します。
   - 「線幅」に新しい数値を入力するか、ポップアップメニューから線幅を選択し、下線または打ち消し線の線幅を設定します。
   - 「種類」で、いずれかの下線または打ち消し線のオプションを選択します。
   - 「オフセット」で、下線または打ち消し線の縦方向の位置を設定します。オフセット値は、選択しているテキストのベースラインからの距離を表しています。マイナスの値を指定するとベースラインより上に移動し、プラスの値を指定するとベースラインより下に移動します。
   - 印刷時に線がヌキにならないようにするには、「線オーバープリント」を選択します。
   - 「カラー」と「濃淡」で、線のカラーと濃淡を指定します。「種類」で「ベタ」以外の種類を選択した場合、「間隔のカラー」または「間隔の濃淡」で、ダッシュ、点、線などの間にカラーや濃淡を指定することができます。
   - 下線または打ち消し線が別の色でオーバープリントされる場合に、版ズレで発生するエラーを回避するには、「線オーバープリント」または「間隔オーバープリント」を選択します。

段落または文字スタイルで下線や打ち消し線のオプションを変更するには、スタイル作成時か編集時に表示されるダイアログボックスの「下線設定」か「打ち消し線設定」パネルを使用してください。

トップへ戻る

文字の組み合わせに対する合字の適用

InDesign では、合字を自動的に挿入できます。合字とは、特定の欧文文字の組み合わせ（「fi」と「fl」など）の代わりに利用する特殊な文字で、フォントに合字がある場合に使用できます。「欧文合字」コマンドで適用される文字は、合字として表示および印刷され、自由に編集できますが、合字を含む単語はスペルチェックの対象にはなりません。



個々の文字（上）と合字（下）

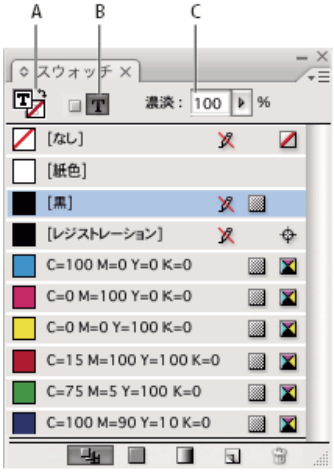
OpenType フォントで、文字パネルメニューまたはコントロールパネルメニューから「欧文合字」を選択すると、InDesign では、フォントデザイナーが指定するような、フォントで定義される標準の合字を生成します。フォントによっては、より多くの合字を含んでいるものもあり、字形パネルメニューの表示ポップアップメニューから「任意の合字」を選択し、合字を選択することができます。

1. テキストを選択します。
2. 文字パネルメニューまたはコントロールパネルメニューから「合字」を選択します。

トップへ戻る

テキストのカラー、グラデーション、線の変更

文字にはカラー、グラデーション、線を適用することができます。これらを適用しても、通常どおりにテキストを編集することができます。テキストにカラー、グラデーション、線を適用するときや、スタイルの作成時または編集時に文字カラー設定を変更するときには、スウォッチパネルと線パネルを使用します。



スウォッチ
A. スウォッチを塗りまたは線のどちらに適用するかの切り替え **B.** スウォッチをコンテナまたはテキストのどちらに適用するかの切り替え **C.** 濃淡比率

1. 次のいずれかの操作を行います。
   - フレーム内のテキストのカラーを変更するには、文字ツール を使用して、テキストを選択します。
   - フレーム内のすべてのテキストのカラーを変更するには、選択ツール を使用してフレームを選択します。コンテナではなく、テキストにカラーを適用するときは、ツールパネルまたはスウォッチパネルにあるテキストに適用アイコン が選択されていることを確認してください。
2. ツールパネルまたはスウォッチパネルで、塗りまたは線のどちらにカラーの変更を適用するかを選択します。線ボックスを選択すると、文字のアウトラインだけにカラーの変更が適用されます。
3. 必要に応じて次の操作を行います。
   - スウォッチパネルでカラースウォッチまたはグラデーションスウォッチをクリックします。
   - 線パネルで線幅や他の線オプションを指定します（詳しくは、線パネルのオプションを参照してください）。

グラデーションスウォッチツール 、またはグラデーションぼかしツール のいずれかを使用して、選択したテキストに沿ってドラッグし、テキストにグラデーションを適用することもできます。

白抜き文字を作成するには、テキストの塗りカラーを白または「紙色」に変更し、アウトラインの塗りカラーを濃い色に変更します。テキストの後ろで段落境界線を使用して白抜き文字を作成することもできます。その場合は境界線を黒に、テキストを白にします。

トップへ戻る

テキストに対する透明効果の追加

ドロップシャドウなどの透明効果をテキストに追加するには、効果パネルを使用します。

透明効果の例については、Mike Rankin による InDesign Eye Candy, Part I（英語）を参照してください。

1. 選択ツール を使用して、テキストフレームを選択します。
2. オブジェクト／効果／[効果] を選択します。
3. 設定の対象メニューから「テキスト」を選択します。

   選択した効果をテキストフレームの線に適用する場合には、オブジェクトを選択し、その内部にテキストと同様に塗りを適用することができます。
4. 効果の属性を指定し、「OK」をクリックします。

   テキストの描画モードまたは不透明度の設定を変更する場合は、効果パネル上でこれらの変更を行います。

トップへ戻る

テキストの言語の指定

テキストに言語を指定することによって、使用するスペルチェックおよびハイフネーション辞書が決まります。言語を指定しても、実際のテキストは変わりません。

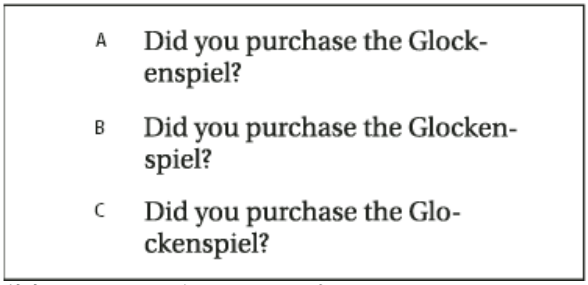
1. 必要に応じて次の操作を行います。
   - 選択したテキストにのみ言語を適用するには、テキストを選択します。
   - InDesign で使用されるデフォルトの辞書を変更するには、ドキュメントを何も開いていない状態で言語を選択します。
   - 特定のドキュメントのデフォルト辞書を変更するには、ドキュメントを開き、編集／選択を解除を選択してから、言語を選択します。

2. 文字パネルの言語ポップアップメニューから辞書として使用する言語を選択します。

InDesign では、スペルとハイフンの両方に Proximity（および、一部の言語では WinSoft）辞書を使用しています。この辞書を使用すると、テキスト中にある個別の単語に異なる言語を指定することができます。それぞれの辞書には、数十万語が標準的な音節規則で収められています。デフォルトの言語辞書を変更しても、既存のテキストフレームやドキュメントには影響ありません。

専門用語などが正確に識別および処理されるように、言語辞書をカスタマイズすることもできます。

InDesign には、CJK テキストに CJK 以外の言語が割り当てられないようにするための言語ロック機能があります。



辞書によるハイフネーションの違い
A. 「Glockenspiel」の英語でのハイフネーション **B.** 「Glockenspiel」の伝統的ドイツ語でのハイフネーション **C.** 「Glockenspiel」の新字体ドイツ語でのハイフネーション

トップへ戻る

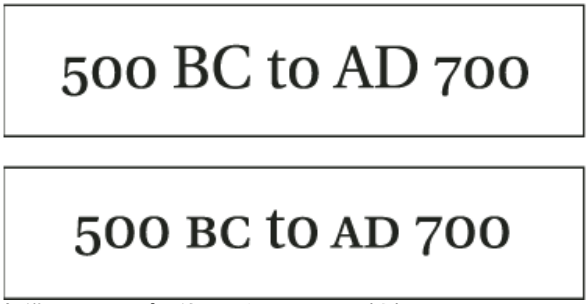
大文字と小文字の変更

「オールキャップス」コマンドと「スモールキャップス」コマンドは、テキストの外観を変更するだけであり、テキストそのものは変更しません。これとは逆に、「大文字と小文字の変更」コマンドは、選択されたテキストの大文字と小文字の設定を変更します。テキストの検索やスペルチェックを行うときは、この違いを区別することが重要です。例えば、ドキュメントに「spiders」と入力し、その単語に「オールキャップス」を適用したとします。「検索と置換」で（「大文字と小文字を区別」を選択して）「SPIDERS」を検索しても、オールキャップスが適用されている「spiders」は検索されません。検索とスペルチェックの結果を向上させるには、「オールキャップス」ではなく、「大文字と小文字の変更」コマンドを使用します。

スモールキャップスについては、Anne-Marie Concepcion による Small Caps vs OpenType All Small Caps（英語）の記事を参照してください。

オールキャップスまたはスモールキャップスへのテキストの変更

オールキャップスは、欧文テキストをすべて大文字で表記する方法です。スモールキャップスは、欧文テキストを小文字ぐらいの大きさの大文字で表記する方法です。



標準のキャップを使用したテキスト（上）とスモールキャップスを使用したテキスト（下）

OpenType フォントに「オールキャップス」または「スモールキャップス」を適用すると、より美しい文字が作成されます。OpenType フォントを使用している場合は、文字パネルメニューまたはコントロールパネルから「すべてスモールキャップス」を選択することもできます（OpenType フォント属性の適用を参照してください）。

1. テキストを選択します。
2. 文字パネルメニューまたはコントロールパネルから、「オールキャップス」または「スモールキャップス」を選択します。入力されている文字が大文字の場合は、「スモールキャップス」を選択してもテキストは変化しません。

スモールキャップスのサイズの指定

1. 編集／環境設定／高度なテキスト（Windows）または InDesign／環境設定／高度なテキスト（Mac OS）を選択します。
2. 「スモールキャップス」に、元のフォントサイズに対するスモールキャップスのサイズをパーセント値で入力します。「OK」をクリックします。

キャピタリゼーションの変更

1. テキストを選択します。
2. 書式／大文字と小文字の変更サブメニューから、次のいずれかを選択します。

- すべての文字を小文字にするには、「すべて小文字」を選択します。
- 各単語の先頭を大文字にするには、「単語の先頭のみ大文字」を選択します。
- すべての文字を大文字に変更するには、「すべて大文字」を選択します。
- 各文の先頭を大文字にするには、「段落の先頭のみ大文字」を選択します。

注意： 「段落の先頭のみ大文字」コマンドでは、ピリオド（.）、感嘆符（!）および疑問符（?） が文の終わりと判断されます。略語、ファイル名、インターネットの URL など、文の終わり以外でこれらの文字が使用されている場合、「段落の先頭のみ大文字」を適用すると、意図しない大文字 / 小文字の変更が行われることがあります。また、固有名詞の先頭文字を小文字に変えてしまう場合もあります。

トップへ戻る

文字の拡大 / 縮小

文字の高さと幅の縦横比は、フォントの元の高さと幅の割合に基づいて指定することができます。拡大 / 縮小されていない文字の値は 100 %です。フォントファミリによっては、標準の文字スタイルより横幅の広い幅広フォントが含まれているものもあります。拡大 / 縮小すると文字の形が歪むので、フォントファミリに幅の狭いフォントまたは幅の広いフォントがある場合は、そのフォントを使用することをお勧めします。

垂直比率または水平比率の調整

1. 拡大 / 縮小するテキストを選択します。
2. 文字パネルまたはコントロールパネルで、「垂直比率」 または「水平比率」 にパーセント値を入力します。

環境設定の「組版」セクションの「縦組み中の欧文に垂直・水平比率を適用する方向を切り替える」を選択している場合は、縦組みテキストの欧文字形の X スケールと Y スケールが維持され、行にあるすべてのテキストの方向が同じになります（詳しくは、CJK 組版の環境設定の変更を参照してください）。文字パネルメニューで「文字の比率を基準に行の高さを調整」を選択している場合は、字形の Y スケールが行の高さに作用します。フレームグリッドを拡大 / 縮小すると Y スケールに作用するので、拡大 / 縮小されたグリッドで自動的に行取りされないように、行の高さを調整することができます。

InDesign でのテキストフレームのサイズ変更によるテキストの拡大 / 縮小

✤ 必要に応じて次の操作を行います。

- 選択ツールを使用して、Ctrl キー（Windows）または Command キー（Mac OS）を押しながらテキストフレームの角をドラッグし、サイズを変更します。
- 拡大 / 縮小ツール を使用して、フレームのサイズを変更します

  （詳しくは、オブジェクトの拡大・縮小を参照してください）。

拡大 / 縮小されたテキスト値の外観の設定

フレームのサイズを変更すると、そのフレーム内のテキストも拡大 / 縮小されます。例えば、テキストフレームのサイズを 2 倍にする場合、テキストのサイズも 2 倍になり、20 ポイントのテキストは 40 ポイントのサイズになります。

拡大 / 縮小されたテキストフレームについては、David Blatner による Making a Magnifying Glass Text Frame in InDesign（英語）の記事を参照してください。

拡大 / 縮小されたテキストについて各パネルにどのように表示するかを、環境設定オプションで変更できます。

- デフォルトの「内容に適用」が選択されている場合には、コントロールパネルおよび文字パネルの「フォントサイズ」ボックスにテキストの新しいサイズ（例：「40 pt」）が表示されます。「拡大 / 縮小率を調整」オプションを選択する場合には、「フォントサイズ」ボックスに元のサイズのテキストと拡大 / 縮小されたサイズのテキストが「20 pt（40）」のように表示されます。
- 変形パネルの拡大 / 縮小値は、フレームを拡大 / 縮小した垂直比率と水平比率を示します。デフォルトで「内容に適用」が選択されている場合には、テキストを拡大 / 縮小した後に表示される値は「100 %」と表示されます。「拡大 / 縮小率を調整」オプションを選択した場合には、フレームに対する拡縮率の値を反映するため、フレームを 2 倍に拡大すると「200 %」と表示されます。

フレームのサイズ変更を追跡すると、フレームやフレーム内のテキストを元のサイズに戻す場合に役立ちます。フレームのサイズをどれだけ変更したか確認する場合にも役立ちます。フレームおよびフレーム内のテキストのサイズ変更を追跡するには、次の操作を行います。

1. 編集／環境設定／一般（Windows）または InDesign／環境設定／一般（Mac OS）を選択します。
2. 「拡大 / 縮小率を調整」を選択して、「OK」をクリックします。

次の点に注意してください。

- 「拡大 / 縮小率を調整」の環境設定は、既存のフレームにではなく、その環境設定がオンなった後に拡大 / 縮小するフレームに適用されます。
- 「拡大 / 縮小率を調整」環境設定はそのテキストと共に残ります。拡大 / 縮小されたポイントサイズは、「拡大 / 縮小率を調整」環境設定をオフにして、フレームをもう一度拡大 / 縮小する場合にも括弧で囲まれて表示されます。
- 変形パネルから拡大 / 縮小されたポイントサイズを削除するには、変形パネルメニューから「スケールを 100 %に再定義」を選択します。このオプションを選択しても、拡大 / 縮小されたフレームの外観は変更されません。

「拡大 / 縮小率を調整」環境設定を選択した場合、連結フレーム内でテキストを編集するか、フレームを拡大 / 縮小すると、テキストは別のフレームに移動しても拡大 / 縮小されます。ただし、「内容に適用」を選択すると、編集によって別のフレームに流し込まれたテキストは拡大 / 縮小されなくなります。

トップへ戻る

文字を歪める

1. テキストを選択します。
2. 文字パネルで、「歪み」 に数値を入力します。マイナスの値を指定すると文字が右に傾き、プラスの値を指定すると左に傾きます。

ただし、文字を傾けても、実物の斜体文字や日本語斜体文字と同じものにはなりません。

関連項目

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

テキスト組版

テキストの組版
テキストのハイフネーション
単語の分割禁止の設定
ジャスティフィケーション設定の変更

トップへ戻る

テキストの組版

ページ上のテキストの外観は、組版と呼ばれる処理の複雑な相互作用に左右されます。InDesign では、単語間隔、文字間隔、グリフ幅拡大 / 縮小およびハイフンのオプションの設定を使用して、そのパラメーターに最も適した方法で組版が処理されます。

InDesign には、Adobe 日本語単数行コンポーザー、Adobe 日本語段落コンポーザー、Adobe 欧文段落コンポーザー、Adobe 欧文単数行コンポーザーの 4 種類の組版方式があります。各コンポーザーは、日本語や欧文テキスト内の可能な改行分割点の候補を評価し、段落に指定されたハイフンや行揃えのオプションに最も適した分割点を選択します。デフォルトでは、Adobe 日本語段落コンポーザーが選択されています。各コンポーザーについて詳しくは、InDesign ヘルプを参照してください。

テキスト操作に関するビデオチュートリアルついては、www.adobe.com/go/vid0075_jp を参照してください。

組版の問題の修正については、InDesign Magazine の Mind the Gaps（英語）の記事を参照してください。

組版方法

InDesign には、Adobe 欧文段落コンポーザー（デフォルト）と Adobe 欧文単数行コンポーザーの 2 種類の組版方式があります。いずれの組版方式でも、段落に設定されたハイフネーションおよびジャスティフィケーションオプションの値に基づいて、可能な改行位置の中から最適な改行位置が割り出されます。

Adobe 欧文段落コンポーザー

1 つの段落単位で、行内の文字の分割点の配置を検討し、後で特に不要な分割を排除できるように、段落の前の方の行を最適化します。段落が、少ないハイフンで間隔がより均等になります。

段落コンポーザーでは、文字間隔、単語間隔、ハイフネーションの均一性に基づいて、文字の分割点を識別して検討し、ハイフネーションの領域を割り当てます。

ハイフネーション設定ダイアログボックスを使用して、「ハイフンを多く」と「ハイフンを少なく」を設定できます（詳しくは、テキストのハイフネーションを参照してください）。

Adobe 欧文単数行コンポーザー

従来の方法で、1行単位で行の文字組みの分割点を検討します。この方式は、編集の最終段階で改行方法を手動で制御する場合などに適しています。

段落の組版方式の選択

✤ 必要に応じて次の操作を行います。

- 段落パネルメニューで、「Adobe 欧文段落コンポーザー」（デフォルト）か「Adobe 欧文単数行コンポーザー」を選択します。
- 段落パネルメニューまたはコントロールパネルメニューから「ジャスティフィケーション」を選択し、使用するコンポーザーを「コンポーザー」から選択します。

注意： 組版エンジンのパラメーターをカスタマイズできるインターフェイスを使用して、他社の組版エンジンプラグインを利用することもできます。

組版環境の設定

1. 編集／環境設定／組版（Windows）または InDesign／環境設定／組版（Mac OS）を選択します。
2. 組版に関する問題をハイライト表示するには、「H&J 違反保持」と「H&J 違反」を選択します（ハイフネーションとジャスティフィケーション）。
3. テキストをオブジェクトに均等に回り込ませるには、「オブジェクトの次へテキストを均等配置」を選択します。
4. 「文字組み互換モード」で、必要に応じて、「縦組み中の欧文に垂直・水平比率を適用する方向を切り替える」または「CID ベースの文字組みを使用」を選択します。
5. 「OK」をクリックします。

トップへ戻る

テキストのハイフネーション

ハイフネーションとジャスティフィケーションを設定すると、行の水平方向の間隔を調整でき、ページ上に文字を美しく配置することができます。ハイフン処理のオプションでは、欧文単語がハイフンで分割できるかどうか、分割が可能な場合はどのように分割できるかを設定できます。

ジャスティフィケーションは、字幅を調整したかどうかにかかわらず、選択されている行揃えオプションと、単語や文字の指定されている間隔によって制御されます。全体的にジャスティフィケーションされているテキストで段の幅が狭い場合に特定の単語のみジャスティフィケーションすることもできます。

組版の問題を回避する方法については、Eda Warren による Mind the Gaps（英語）の記事を参照してください。

ハイフネーションの手動調整

欧文単語のハイフン処理は、手動、自動、またはその両方で行うことができます。ハイフン処理を手動で行う最適な方法は、任意ハイフンを挿入することです。任意ハイフンは、単語が行の最後で分割されない場合は表示されません。任意ハイフンは、行末でその単語を分割する必要がある場合にだけハイフンが追加され、それ以外の場合は表示されません。

1. 文字ツール T を使用して、ハイフンを挿入する位置にテキスト挿入点を置きます。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - 書式／特殊文字の挿入／ハイフンおよびダッシュ／任意ハイフンを選択します。
   - Ctrl+Shift+- キー（Windows）または Command+Shift+- キー（Mac OS）を押して、任意ハイフンを入力します。

注意： 単語に任意ハイフンを挿入しても、必ずしもハイフン処理が行われるわけではありません。任意ハイフンを挿入した位置で単語が分割されるかどうかは、他のハイフン処理および組版設定に左右されます。ただし、任意ハイフンの位置以外で単語が分割されることはありません。

ハイフネーションの自動調整

ハイフン処理は、コンピューターの個別のユーザー辞書ファイルまたはドキュメントに格納されている単語リストに基づいています。特に、ドキュメントを印刷・出力会社に持っていく場合やグループで作業している場合など、ハイフン処理の統一性を保つために、参照する単語リストを指定することがあります。

✤ 段落の自動ハイフン処理のオン / オフを切り替えるには、段落パネルメニューまたはコントロールパネルで「ハイフネーション」を選択するか選択を解除します（自動ハイフン処理は、段落スタイルで設定することもできます）。

自動ハイフン処理オプションでは、より少ないハイフンにすることと、均等な間隔にすることのバランスを取ることができます。大文字の単語や段落の最後の文字がハイフン処理されないようにすることもできます。

段落に対する自動ハイフン処理オプションの設定

1. 段落内をクリックしてテキスト挿入点を置くか、ハイフン処理する一連の段落を選択します。
2. 段落パネルメニューから「ハイフネーション設定」を選択します。
3. 「ハイフネーション」オプションを選択します。
4. 必要に応じて、以下の設定を変更し、「OK」をクリックします。
   単語の最小文字数 ハイフネーションされる単語の最小文字数を指定します。

   先頭の後、最後の前 ハイフンで区切ることが可能な単語の先頭または最後の最小文字数を指定します。例えば、値にそれぞれ 3 を指定すると、aromatic という英単語は aro- matic のようにハイフネーションが行われます。ar- omatic や aromat- ic にはなりません。

   最大のハイフン数 _ ハイフン 連続行上に表示可能なハイフンの最大数を指定します。「0」は無制限でハイフン処理されます。

   ハイフネーション領域 ジャスティフィケーションされていないテキストで、行末からどれぐらいの距離にある単語がハイフン処理されるかを指定します。このオプションは、ジャスティフィケーションされていないテキストで、単数行コンポーザーを使用している場合にだけ適用されます。

   「ハイフンを多く」/「ハイフンを少なく」 このスライダーで、ハイフン数の適切なバランスを調整します。

   大文字の単語をハイフンで区切る 大文字の単語がハイフン処理されないようにするには、このオプションの選択を解除します。

   段落末尾の単語をハイフンで区切る 段落の最後の単語がハイフン処理されないようにするには、このオプションの選択を解除します。

   段間、フレームにわたる単語をハイフンで区切る 段、フレーム、ページを通して単語がハイフン処理されないようにするには、このオプションの選択を解除します。

トップへ戻る

単語の分割禁止の設定

分散禁止ハイフンを使用すると、分割すると誤読されやすい固有名詞や単語（例えば「women」や「prayer」など）が、行末で分割しないようにすることができます。また、分散禁止スペースを使用すると、複数のイニシャルと姓名（例えば「P.T.Barnum」）など、複数の単語が分割しないようにすることもできます。

テキストの分割禁止

1. 同じ行にしておくテキストを選択します。
2. 文字パネルメニューまたはコントロールパネルメニューから「分割禁止」を選択します。

   単語の先頭に任意ハイフンを置いても、単語の分割を回避することができます。Ctrl+Shift+- キー（Windows）または Command+Shift+- キー（Mac OS）を押して、任意ハイフンを入力します。

分散禁止ハイフンの作成

1. 文字ツール T を使用して、ハイフンを挿入する位置にテキスト挿入点を置きます。
2. 書式／特殊文字の挿入／ハイフンおよびダッシュ／分散禁止ハイフンを選択します。

分散禁止スペースの作成

1. 文字ツール T を使用して、スペースを挿入する位置にテキスト挿入点を置きます。
2. 書式／スペースの挿入／分散禁止スペース（またはその他のスペース）を選択します。

分散禁止スペースの幅は、コンテキストに応じて異なりますが、分散禁止スペース（固定幅）文字の幅は、コンテキストに関係なく、同じ幅が維持されます。

トップへ戻る

ジャスティフィケーション設定の変更

単語間隔、文字間隔、グリフ幅の拡大 / 縮小を詳細に制御するには、ジャスティフィケーションパネルを使用します。間隔の調整は、両端揃えしたテキストに効果的です。両端揃えしていないテキストにも適用できます。

単語間隔、文字間隔、およびグリフ幅の拡大や縮小のジャスティフィケーション設定は、日本語テキストでは無視されます。日本語テキストでの文字間隔については、文字組みアキ量ダイアログボックスで設定します。

両端揃えしたテキストでの単語間と文字間の調整

1. 変更する段落内にカーソルを置くか、変更する段落のすべてのテキストオブジェクトまたはフレームを選択します。
2. 段落パネルメニューの「ジャスティフィケーション設定」を選択します。
3. 「単語間隔」、「文字間隔」および「グリフ幅拡大 / 縮小」に値を入力します。「最小」および「最大」の値は、両端揃えした段落で許容可能な間隔の範囲を指定します。「最適」の値は、両端揃えした段落と両端揃えしていない段落の両方に最適な間隔を指定します。
   単語間隔 スペースバーを押したときに挿入される単語間の間隔です。「単語間隔」値は、0 ～ 1000 %の間で指定します。100 %では、単語間に余分なアキは挿入されません。

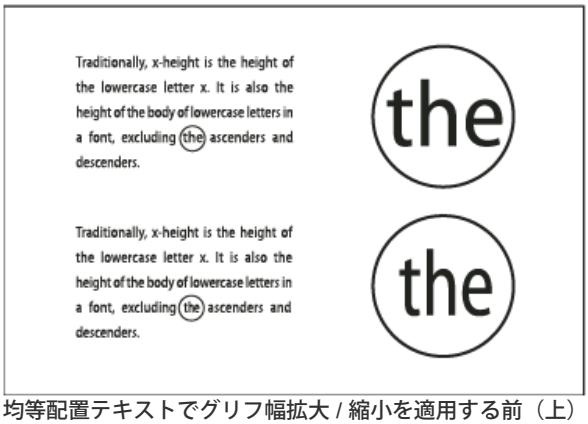
   文字間隔 カーニング値またはトラッキング（字送り）値も含めた文字間の距離です。「文字間隔」には、-100 ～ 500 %の範囲で値を設定できます。0 %に設定すると文字間にアキは挿入されず、100 %に設定すると文字間に文字と同じ幅のアキが挿入されます。

   グリフ幅拡大 / 縮小 文字幅です（グリフ（字形）とはフォントの任意の 1 文字のことです）。グリフ幅の値は 50% から 200% の範囲内で指定します。
   間隔オプションは、段落全体に適用されます。段落内の特定の文字間隔を調整するには、「トラッキング（字送り）」オプションを使用します。
4. 「1 文字揃え」オプションを設定して、1 行内に単語が 1 つだけになった場合の文字揃えの方法を指定します。

   段落の幅が狭い場合、1 行が 1 つの単語だけになってしまうことがあります。また、ジャスティフィケーションが最大に設定されている場合は、単語の文字間隔が空きすぎてしまいます。このような場合、単語を中央に配置したり、左右のマージンに揃えたりすることができます。

ジャスティフィケーションされたテキストでのグリフ幅の拡大 / 縮小

1. 対象とする段落にテキスト挿入点を置くか、段落を選択します。
2. 段落パネルメニューの「ジャスティフィケーション設定」を選択します。
3. 「グリフ幅拡大 / 縮小」の「最大」、「最小」、「最適」に値を入力して、「OK」をクリックします。

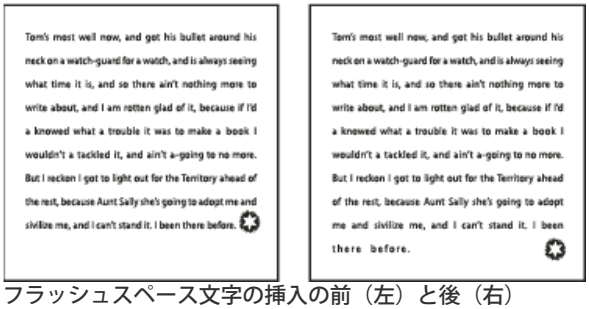


均等配置テキストでグリフ幅拡大 / 縮小を適用する前（上）と適用した後（下）

グリフ幅の調整は、テキストの均等配置の手助けになります。ただし、デフォルト値の 100 %から 3 %以上値を変更すると、字形が歪んでしまう場合があります。特別な効果を試そうとしていないのであれば、グリフ幅拡大 / 縮小値に 97-100-103 など、あまり目立たない値を設定します。

ジャスティフィケーションされたテキストでのフラッシュスペースの使用

フラッシュスペース文字を使用すると、両端揃えされた段落の最終行にある最後の単語と、ストーリーの最終文字（装飾フォントなど）との間に、不定量のスペースが追加されます。ジャスティフィケーションされていないテキストで使用した場合、フラッシュスペースは通常の単語スペースと同じです。しかし、テキストがジャスティフィケーションされると、フラッシュスペースはその行で使用できる全スペースを使用して広がります。フラッシュスペースを使用すると、段落コンポーザーが段落全体をフォーマットする方法が大きく変化します。



フラッシュスペース文字の挿入の前（左）と後（右）

1. 文字ツール T を使用して、ストーリーの最終文字の直前にテキスト挿入点を置きます。
2. 書式／スペースの挿入／フラッシュスペースを選択します。

注意： 段落に「両端揃え」を適用しないと、フラッシュスペースの効果は現れません。

間隔が多すぎるまたは少なすぎる行の特定

行の構成には、単語や文字の間隔の他にも多数の要素（ハイフンの設定など）が影響するので、設定した単語や文字の間隔が常に適用されるわけではありません。テキストの行に関する構成上の問題がある箇所を黄色で、最も問題のある箇所を、一番濃い黄色でハイライト表示することができます。

1. 編集／環境設定／組版（Windows）または InDesign／環境設定／組版（Mac OS）を選択します。
2. 「H&J 違反」を選択して、「OK」をクリックします。

関連項目

テキスト操作に関するビデオ

(cc) BY-NC-SR

法律上の注意 | プライバシーポリシー

テキストの書式設定

テキストの書式設定
テキストフォーマットの優先
フレームグリッドの書式設定
文字属性のコピー（スポイト）
クイック適用の使用

テキストの書式設定

トップへ戻る

テキストの書式を変更するには、コントロールパネルを使用します。テキストを選択するか、テキスト内に挿入点を置くと、モニターの解像度に応じて、コントロールパネルに文字形式コントロールと段落形式コントロールのいずれか、またはその両方が表示されます。これと同じ書式設定コントロールが、文字パネルと段落パネルにも表示されます。文字パネルと段落パネルを使用してテキストの書式を変更することもできます。

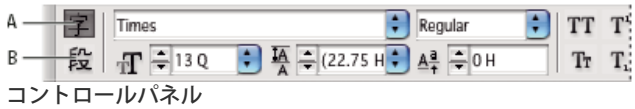
文字の書式設定に関するビデオチュートリアルについては、www.adobe.com/go/lrvid4275_id_jp を参照してください。段落の書式設定に関するビデオチュートリアルについては、www.adobe.com/go/lrvid4276_id_jp を参照してください。

テキストに書式を設定する方法は次のとおりです。

- 文字に書式を設定するには、文字ツール T を使用して文字を選択するか、テキスト挿入点を置き、書式設定のオプションを選択してから文字を入力します。
- 段落に書式を設定するには、段落全体を選択する必要はありません。段落内の任意の単語または文字を選択するか、段落内にテキスト挿入点を置けば、段落全体に書式を適用できます。段落内にあるテキストを選択することもできます。
- 現在のドキュメント内に新しく作成するテキストフレームすべてに適用する書式を設定する場合は、テキスト挿入点がなく、何も選択していない状態にしてから、書式設定のオプションを指定します。すべての新規ドキュメントに対するデフォルトのテキストの書式を設定するには、すべてのドキュメントを閉じた状態で設定します。詳しくは、デフォルトの設定を参照してください。
- 書式を適用するテキストが入力されているテキストフレームを選択します。ただし、テキストフレームが連結されていない場合に限ります。
- 段落スタイルと文字スタイルを使用すると、同一の書式をテキストに簡単に設定することができます。

テキスト操作に関するビデオチュートリアルついては、www.adobe.com/go/vid0075_jp を参照してください。

1. 横組み文字ツール T または縦組み文字ツール IT を選択します。
2. テキスト挿入点を置くか、書式を設定するテキストを選択します。
3. コントロールパネルで、文字形式コントロールアイコン 字 または段落形式コントロールアイコン 段 をクリックします。



コントロールパネル
A. 文字形式コントロール **B.** 段落形式コントロール

4. 書式設定のオプションを指定します。

テキストフォーマットの優先

トップへ戻る

テキストに、フォントスタイルやテキストの組み方向などの属性を書式設定するには、様々な方法を使用できます。例えば、コントロールパネル、フレームグリッド設定、またはグリッドフォーマット、あるいはテキストスタイルを使用できます。複数の方法を使用して、属性が相互に矛盾する場合は、InDesign により使用する属性が選択されます。優先順位は次のとおりです。

1. 文字属性のオーバーライド
2. 文字スタイル
3. 段落属性のオーバーライド
4. 段落スタイル
5. CJK グリッド属性（グリッドフォーマットまたはフレームグリッド設定ダイアログボックスから）
6. アプリケーションデフォルト（ルートの段落スタイル）

例えば、フレームグリッド設定ダイアログボックスで、あるフォントサイズを指定し、文字スタイルに別のフォントサイズを指定した場合は、文字スタイルに指定したフォントサイズが使用されます。同様に、オブジェクトスタイルに段落スタイルとグリッドフォーマットの両方を指定した

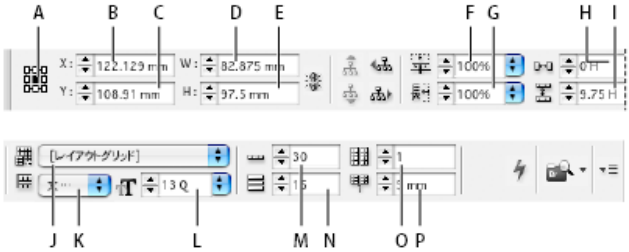
場合は、段落スタイルがグリッドフォーマットよりも優先されます。

トップへ戻る

フレームグリッドの書式設定

フレームグリッドを選択すると、フレームグリッドに書式を設定するためのオプションがコントロールパネル上に表示されます。

1. 選択ツールを使用して、フレームグリッドを選択します。
2. コントロールパネルからオプションを選択します。



コントロールパネル（フレームグリッド選択時）

A. 基準点 **B.** X 位置 **C.** Y 位置 **D.** 幅 **E.** 高さ **F.** 垂直方向の比率 **G.** 水平方向の比率 **H.** 字間 **I.** 行間 **J.** グリッドフォーマット名 **K.** グリッド表示 **L.** フォントサイズ **M.** 文字数 **N.** 行数 **O.** 段数 **P.** 段間

トップへ戻る

文字属性のコピー（スポイト）

スポイトツールを使用して、文字、段落、塗り、線の属性をコピーして、その属性を他の文字に適用することができます。デフォルトでは、スポイトツールを使用すると、すべての文字属性がコピーされます。スポイトツールを使用してコピー元の属性を指定するには、スポイトツールオプションダイアログボックスを使用します。

選択されていないテキストに対する文字属性のコピー

1. スポイトツール を使用して、コピー元の属性が設定されているテキストをクリックします（開いている他のドキュメントのテキストを選択することもできます）。スポイトツールの向きが反対になり、スポイトが充填されます 。これは、コピー元の属性が取り込まれたことを示します。スポイトツールをテキスト上に合わせると、スポイトツール の横に I 型カーソルのアイコンが表示されます。
2. 属性を変更するテキストをスポイトツールでドラッグして選択します。

   選択したテキストには、スポイトツールに取り込まれている属性が適用されます。スポイトツールを選択している間は、テキストを選択して書式を設定することができます。

3. スポイトツールの選択を解除するには、別のツールをクリックします。

スポイトツールに現在取り込んでいる書式属性を消去するには、Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押します。スポイトツールの向きが反対になり、空 になります。これは新しい属性をピックアップする準備ができていることを示します。Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押したまま、コピー元の属性を持つオブジェクトをクリックすると、新たに属性がコピーされ、別のオブジェクトに適用できるようになります。

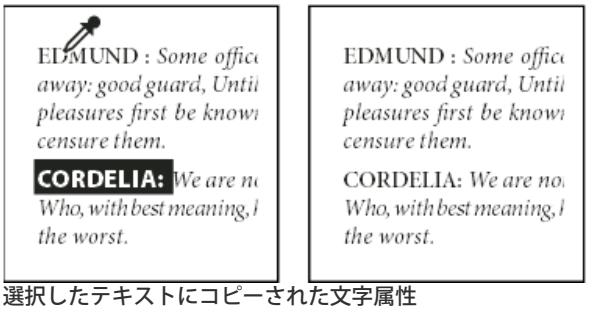


書式のコピー元になるテキストをスポイトツールでクリックし（左）、書式の設定されていないテキストをドラッグして選択し（中央）、書式を設定します（右）。

スポイトツールを使用して、あるドキュメントのテキストから別のドキュメントのテキストに段落スタイルをコピーするときに、段落スタイルがコピー先のスタイルと同名で異なる属性セットを持っている場合は、異なる属性のすべてがコピー先のスタイルへ上書きされます。

選択しているテキストに対する文字属性のコピー

1. 文字ツール またはパステキストツール を使用して、属性のコピー先となるテキストを選択します。
2. スポイトツール を使用して、属性のコピー元となるテキストをクリックします（属性のコピー元になるテキストは、コピー先のテキストと同じ InDesign ドキュメントにある必要があります）。スポイトツールの向きが反対になり、スポイトが充填されます 。これは、コピー元の属性が取り込まれたことを示します。取り込んだ属性は、手順 1 で選択したテキストに適用されます。



選択したテキストにコピーされた文字属性

スポイトツールのコピー対象の文字属性の変更

1. ツールパネルで、スポイトツールをダブルクリックします。
2. スポイトツールダイアログボックスで、文字設定または段落設定を選択します。
3. リストをスクロールして、コピーしたい属性を選択し、「OK」をクリックします。

スポイトツールオプションダイアログボックスの設定を変更せずに、段落属性だけをコピーまたは適用するには、Shift キーを押しながらスポイトツールでテキストをクリックします。

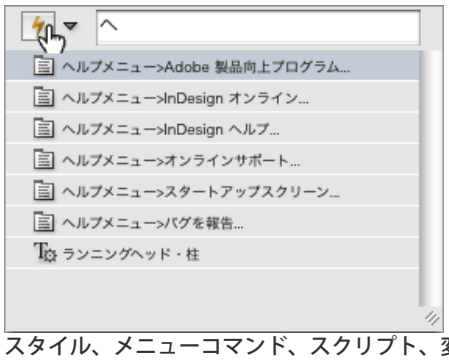
トップへ戻る

クイック適用の使用

クイック適用を使用して、スタイル、メニューコマンド、スクリプト、変数、およびキーボードショートカットダイアログボックスで検索できるその他のほとんどのコマンドを検索して適用することができます。

1. スタイル、メニューコマンド、スクリプト、または変数を適用するテキストまたはフレームを選択します。
2. 編集／クイック適用を選択するか、Ctrl+Enter キー（Windows）または Command+Return キー（Mac OS）を押します。
3. 適用するアイテムの名前の入力を開始します。

   必ずしも正確に入力する必要はありません。例えば、「へ」と入力した場合は、ヘッダー 1、ヘッダー 2、およびサブヘッドなどのスタイルと、ヘルプメニュー／InDesign ヘルプなどのヘルプメニューコマンドが検索されます。



スタイル、メニューコマンド、スクリプト、変数の検索にはクイック適用を使用します。

   検索の先頭に m:（メニューの場合）や p:（段落スタイルの場合）などの適切な接頭辞を入力すれば、検索範囲を絞り込むことができます。接尾辞のリストを表示するには、クイック適用テキストボックスの左にある下向き矢印をクリックします。このリストにある、表示したくないカテゴリーを選択解除することができます。

4. 適用したいアイテムを選択して次のようにします。
   - スタイル、メニューコマンド、または変数を適用するには、Enter キーまたは Return キーを押します。
   - 段落スタイルを適用してオーバーライドを削除するには、Alt+Enter キー（Windows）または Option+Return キー（Mac OS）を押します。
   - 段落スタイルを適用してオーバーライドと文字スタイルを削除するには、Alt+Shift+Enter キー（Windows）または Option+Shift+Return キー（Mac OS）を押します。
   - クイック適用リストを閉じずにアイテムを適用するには、Shift+Enter キー（Windows）または Shift+Return キー（Mac OS）を押します。
   - アイテムに適用せずにクイック適用リストを閉じるには、Esc キーを押すか、ドキュメントウィンドウの中で他のところをクリックします。
   - スタイルを編集するには、Ctrl+Enter キー（Windows）または Command+Return キー（Mac OS）を押します。

クイック適用リストが表示されたら、左向き矢印および右向き矢印キーを押して、編集フィールド内を移動します。また、上向き矢印および下向き矢印キーを押すと、アイテムリスト内をスクロールできます。

関連項目

テキスト操作に関するビデオ

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

箇条書きと自動番号の使用

箇条書きリストまたは自動番号リストの作成
箇条書きリストまたは自動番号リストの書式
箇条書き記号の変更
自動番号リストオプションの変更
リストの定義
ランニングリスト用の段落スタイルの作成
マルチレベルリストの作成
図表の連続キャプションの作成
リストの番号を振り直すか連番を振る
箇条書き記号または自動番号のテキストへの変換

トップへ戻る

箇条書きリストまたは自動番号リストの作成

箇条書きリストでは、各段落は中点で始まります。自動番号リストでは、各段落は番号や文字およびピリオドや括弧などの分離記号を含む表現で始まります。リストの段落を追加、削除すると、自動番号リストの番号は自動的に更新されます。箇条書きまたは自動番号のスタイル、分離記号、フォント属性、文字スタイル、インデントの位置と揃えは変更することができます。

箇条書きまたは自動番号を選択するのに、文字ツールは使用できません。その代わりに、箇条書きダイアログボックス、段落パネル、または段落スタイルダイアログボックスの「箇条書き」セクションを使用して、フォーマットやインデントの位置を編集します。



箇条書きリストと自動番号リスト

箇条書きリストまたは自動番号リストを簡単に作成するには、リストを選択して、コントロールパネルの「箇条書き記号」ボタンまたは「自動番号」ボタンをクリックします。これらのボタンを使用すると、リストのオン / オフを切り替えたり、箇条書きと自動番号を切り替えたりすることができます。箇条書き記号と自動番号を段落スタイルの要素にして、スタイルを段落に割り当てることによってリストを構築することもできます。

注意： 自動生成された箇条書き記号と自動番号は、実際にはテキストに挿入されません。したがって、テキストに変換しない限り、テキスト検索で検索することや、文字ツールを使用して選択することはできません。さらに、箇条書きと自動番号はストーリーエディターウィンドウには表示されません（段落スタイル列を除く）。
箇条書きリストおよび自動番号リストを作成する方法については、www.adobe.com/go/vid0077_jp にあるビデオチュートリアルを参照してください。

InDesign Docs には、箇条書きと自動番号を使用して、Outlines、Multi-Level Lists、Figure CaptionsおよびNumbered Steps（すべて英語）を作成する方法に関する一連の記事が用意されています。

1. 箇条書きまたは自動番号を作成する段落を選択するか、箇条書きまたは自動番号を開始する位置にテキスト挿入点を置きます。
2. 必要に応じて次の操作を行います。

   - コントロールパネル（段落モード）の箇条書き記号ボタン または自動番号ボタン をクリックします。Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押したままボタンをクリックすると、箇条書きダイアログボックスが表示されます。
   - 段落パネルまたはコマンドパネルから「箇条書き」を選択します。「リストタイプ」で「記号」または「自動番号」を選択します。必要に応じて設定して、「OK」をクリックします。
   - 箇条書きまたは自動番号が含まれる段落スタイルを適用します。

3. 次の段落にリストを続ける場合は、テキスト挿入点をリストの最後に移動し、Enter キーまたは Return キーを押します。
4. リストを終了するには（またはストーリー内の後の方でリストを続けるが、リストセグメントを終了する場合は）、コントロールパネルの箇条書き記号ボタンまたは自動番号ボタンをもう一度クリックするか、段落パネルメニューから「箇条書き」を選択します。

トップへ戻る

箇条書きリストまたは自動番号リストの書式

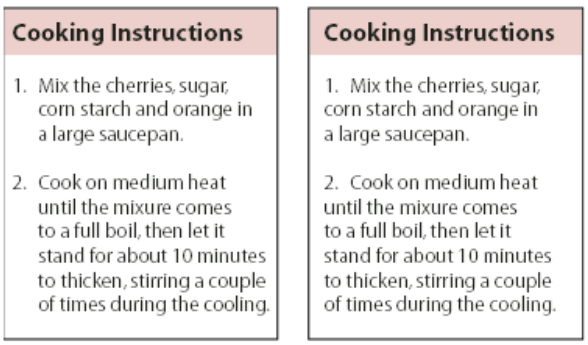
1. 文字ツール T を使用して、書式を変更する箇条書きまたは自動番号のある段落を選択します。
2. 次のいずれかの操作を行って、箇条書きダイアログボックスを開きます。
   - コントロールパネルメニュー（段落モード）または段落パネルメニューから「箇条書き」を選択します。
   - Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押しながら箇条書き記号ボタン または自動番号ボタン をクリックします。
3. 箇条書きダイアログボックスで、次のいずれかの操作を行います。
   - 箇条書き記号を変更します。
   - 自動番号リストオプションを変更します。
   - 「文字スタイル」リストから自動番号または箇条書きのスタイルを選択します。
4. 箇条書き記号または自動番号の位置を変更するには、次の項目を指定します。
   揃え 自動番号用の水平方向スペース内で箇条書き記号または自動番号を左、中央、または右に揃えます（このスペースが狭い場合は、3 つのオプションの違いはほとんどありません）。

   左インデント 先頭行の後の行がインデントされる距離を指定します。

   先頭行のインデント 箇条書きまたは自動番号の位置を制御します。

   長いリストの句読点の位置を揃えるには、「先頭行のインデント」の値を大きくします。例えば、「9.」と「10.」のピリオドの位置を揃えるには、「揃え」を「右」に変更し、数字が整列されるまで先頭行のインデントを徐々に大きくします（プレビューをオンにしておきます）。

   ぶら下がりインデントの効果を作成するには、「左 / 上インデント」に正の値（2p0 など）を入力し、「先頭行のインデント」に負の値（-2p0 など）を入力します。



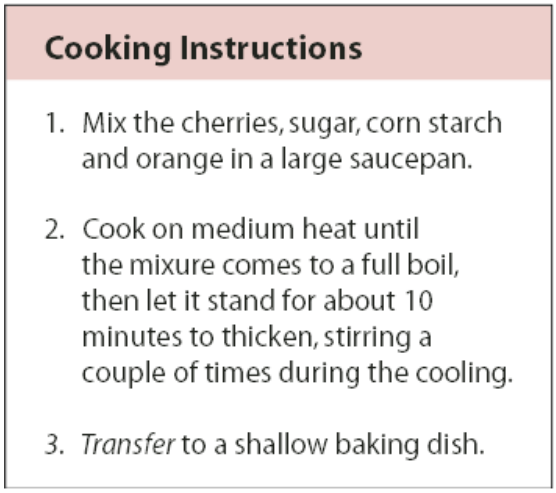
位置の設定

A. ぶら下がりインデント **B.** 左揃えリスト

注意： 「左インデント」、「先頭行のインデント」、および箇条書きダイアログボックスのタブの位置設定は段落属性です。そのため、段落パネルのこれらの設定を変更すると、箇条書きリストと自動番号リストの書式も変更されます。

タブの位置 タブの位置をアクティブにして、箇条書きまたは自動番号間のスペースおよびリストアイテムの始点を作成します。

デフォルトでは、箇条書きおよび自動番号は、関連付けられた段落の先頭文字のテキスト書式の一部を継承します。段落の先頭文字の書式が、別の段落の先頭文字の書式と異なる場合は、箇条書き記号または自動番号の表示が他のリストアイテムと異なる場合があります。このような場合には、自動番号または箇条書き記号用の文字スタイルを作成し、箇条書きダイアログボックスを使用してリストに適用します。



自動番号の文字スタイルを作成してリストに適用しない限り、手順 3 の先頭文字が斜体の場合は、自動番号も斜体なります。

トップへ戻る

箇条書き記号の変更

既存の箇条書き記号を使用しない場合は、別の箇条書き文字を「記号スタイル」グリッドに追加できます。あるフォントで使用できる箇条書き文字が、別のフォントで必ず使用できるとは限りません。追加した箇条書き用の文字と共にフォントを記憶するかどうかを指定することができます。

特殊なフォントの箇条書き記号（Dingbats のポインティングハンドなど）を使用する場合は、そのフォントを箇条書き記号に保存しておくことが必要です。基本の箇条書き記号を使用している場合は、ほとんどのフォントには箇条書き記号の独自のバージョンがあるので、フォントを保存しないようにします。「記号のフォントを保存」オプションの設定の有無によって、追加する箇条書き記号で Unicode 値と特定のフォントとスタイルを使用するか、Unicode 値だけを使用するかが決まります。

注意： （フォントを保存せず）Unicode 値のみを使用する箇条書き記号は、赤い「u」の印が付いて表示されます。



箇条書きダイアログボックス
A. フォントを保存していない箇条書き記号 **B.** フォントを保存している箇条書き記号

箇条書き文字の変更

1. コントロールパネルメニューまたは段落パネルメニューの「箇条書き」を選択します。
2. 箇条書きダイアログボックスの「リストタイプ」で「記号」を選択します。
3. 別の箇条書き記号を選択して、「OK」をクリックします。

箇条書き文字の追加

1. 箇条書きダイアログボックスの「リストタイプ」で「記号」を選択し、「追加」をクリックします。
2. 箇条書き記号として使用する字形を選択します（フォントファミリおよびフォントスタイルごとに異なる字形があります）。
3. 現在選択しているフォントとスタイルを新しい箇条書き記号に保存する場合は、「記号のフォントを保存」を選択します。
4. 「追加」ボタンをクリックします。

注意： 箇条書きリストは、段落スタイルや文字スタイルと同様に、ドキュメントに保存されます。別のドキュメントから段落スタイルをペーストするか読み込んだ場合、そのスタイルで使用されている箇条書き記号は、現在のドキュメントで定義されている他の箇条書き記号と共に、箇条書きダイアログボックスに表示されます。

箇条書き文字の削除

1. 箇条書きダイアログボックスの「リストタイプ」で「記号」を選択します。
2. 削除する箇条書き記号を選択して、「削除」をクリックします（初期値として登録されている箇条書き記号は削除できません）。

トップへ戻る

自動番号リストオプションの変更

自動番号リストでは、リストの段落を追加、削除すると、番号は自動的に更新されます。同じリストの段落は自動的に番号が割り当てられます。これらの段落は、段落のリストを定義していれば、相互に連続する必要はありません。

リストアイテムをアウトラインフォームで番号付けし、異なる分量でインデントするマルチレベルリストも作成できます。

1. 箇条書きダイアログボックスを開きます。
2. 「自動番号スタイル」の形式メニューから、使用する自動番号の種類を選択します。
3. 「自動番号」ボックスで、デフォルト表現のピリオド（.）や タブスペース（^t）を使用するか、独自の番号表現を作成します。番号表現を入力するには、番号のメタ文字（^#）の後のピリオドを削除して、次のいずれかの操作を行います。
   - ピリオドの代わりに、1 文字（閉じ括弧など）や複数の文字を入力します。

     半角のピリオドの代わりに全角文字を分離記号として入力することもでき、これは特に縦組みテキストの場合に役立ちます。
   - 特殊文字を挿入メニューからアイテム（EM ダッシュや楕円形など）を選択します。
   - 自動番号メタ文字の前に文字または単語を入力します。例えば、「問」という単語を入力して、質問リストの番号にすることができます。
4. 番号表現の文字スタイルを選択します（選択したスタイルは、番号のみではなく番号表現全体に適用されます）。
5. 「モード」で、次のいずれかを選択します。
   前の番号から継続 リストに自動的に番号が割り当てられます。

   開始番号 テキストボックスに入力する番号またはその他の値で番号付けを開始します。「形式」で番号付けに文字（カタカナ）またはローマ数字を使用している場合にも、このボックスには文字ではなく番号を入力します。
6. 他のオプションを指定して、「OK」をクリックします。

トップへ戻る

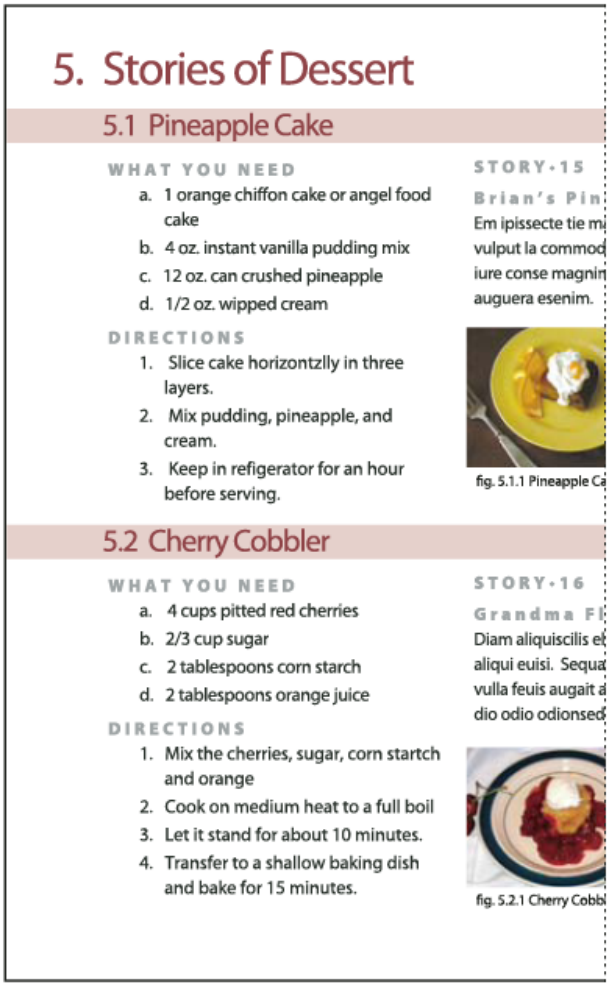
リストの定義

定義されたリストを使用すると、リストの途中に他の段落や他のリストを割り込ませたり、同じブック内の別のストーリーおよび別のドキュメントまでリストを続けたりすることができます。例えば、マルチレベルのアウトラインを作成する場合や、ドキュメント内で通し番号の付いた表名のランニングリストを作成する場合に、定義されたリストを使用します。また、自動番号または箇条書き記号が別個に付けられるリストを複数混在させる場合も、リストをそのように定義できます。例えば、質問と回答のリストでは、質問を番号付けするリストと、回答を番号付けする別のリストを定義します。

定義されたリストは、番号付けする段落を追跡する目的でよく使用されます。番号付けのための段落スタイルを作成する場合、定義済みのリストを段落スタイルに割り当てることができます。また、段落は定義されたリストに表示される場所に従って、そのスタイルで番号付けされます。例えば、表示される最初の段落は 1（「表 1」）と指定され、次の段落は 2（「表 2」）と指定されます。これは後で数ページ表示される場合にも同様です。両方の段落が同じ定義されたリストに属しているため、これらの段落がドキュメントやブック内でどんなに遠く離れていても、連続して番号付けされます。

番号付けするアイテムの種類（手順、表、図など）ごとに新しいリストを定義します。複数のリストを定義することによって、リストの中に別のリストを割り込ませてもリストごとに番号付けの順序を維持できます。

リスト内のアイテムが同じページ内の連結されていないフレームに含まれている場合、テキストフレームがページに追加された順に番号付けされます。アイテムの順序を変更するには、リストに表示したい順序でテキストフレームを 1 つずつカット＆ペーストします。



定義されたリストにより、あるリストを別のリストに割り込ませることができます。

箇条書きリストおよび自動番号リストを作成する方法については、www.adobe.com/go/vid0077_jp にあるビデオチュートリアルを参照してください。

リストの定義

1. 書式／箇条書きリスト／リストを定義を選択します。
2. リストを定義ダイアログボックスで、「新規」をクリックします。
3. リストの名前を入力し、複数のストーリーをまたいで番号を継続するか、ブック内の前のドキュメントから番号を継続するかを選択します。
4. 「OK」を 2 回クリックします。

リストを定義した後で、そのリストを表、図、番号付きリストのスタイルなど、段落スタイルで使用したり、コントロールパネルや段落パネルを使用して適用することができます。

注意： 一部のリストは自動的に定義されます。例えば、Microsoft Word ドキュメントから自動番号リストを読み取る場合、InDesign ではドキュメントに対して自動的にリストを定義します。

定義済みリストの編集

1. 書式／箇条書きリスト／リストを定義を選択します。
2. リストを選択し、「編集」をクリックします。
3. リストの新しい名前を入力するか、番号を継続オプションの選択肢を変更します。

リストに割り当てられている段落スタイルは、新しい名前のリストに再度割り当てられます。

定義済みリストの削除

1. 書式／箇条書きリスト／リストを定義を選択します。
2. リストを選択します。
3. 「削除」をクリックし、削除したリストの代わりに使用する別のリストまたは [デフォルト] リストを選択します。

ランニングリスト用の段落スタイルの作成

トップへ戻る

他の段落に割り込まれるリストや、複数のストーリーまたは複数のドキュメントにまたがるリストを、ランニングリストと言います。ランニングリストを作成するには、段落スタイルを作成し、リストの役割を持つ段落にそのスタイルを適用します。例えば、ドキュメント内の表のランニングリストを作成するには、Tables という段落スタイルを作成し、定義されたリストをそのスタイルに設定し、表リストにする各段落に Tables 段落スタイルを適用します。

InDesign Docs には、箇条書きと自動番号を使用して、図キャプションおよび番号付きの手順を作成する方法に関する一連の記事（英語）が用意されています。

1. 段落スタイルパネルメニューの「新規段落スタイル」を選択します。
2. スタイル名を入力します。
3. 新規段落スタイルダイアログボックスの左側の「箇条書き」をクリックします。
4. 「リストタイプ」で「記号」または「自動番号」を選択します。
5. 自動番号リストのスタイルを作成する場合、リストメニューから定義されたリストを選択するか、または「新規リスト」を選択してリストを定義します。
6. 箇条書き記号または自動番号の特性を指定します。
7. 新規段落スタイルダイアログボックスの「記号または自動番号の位置」セクションを使用して、インデント間隔を変更します。例えば、ぶら下がりインデントを作成する場合は、「左 / 上インデント」に「25 mm」と入力し、「先頭行のインデント」に「-25 mm」と入力します。
8. 他の段落スタイル属性を指定し、「OK」をクリックします。

トップへ戻る

マルチレベルリストの作成

マルチレベルリストは、リストの段落間の階層関係を表すリストです。これらのリストは、アウトラインに似ているため、アウトラインリストとも呼ばれます。インデントと同様にリストの番号付け方法は、アイテム間の従属関係と共にランクを示します。その前後の段落に関連させて、リストに適合する各段落の位置を示すことができます。1 つのマルチレベルリストに最大 9 レベルの階層を含めることができます。



階層レベルを表示した番号や文字を含むマルチレベルリスト

マルチレベルリストを作成するには、リストを定義してから、希望の各レベルの段落スタイルを作成します。例えば、4 レベルが含まれるリストには（同じ定義済みリストが割り当てられた）4 つの段落スタイルが必要です。各スタイルを作成したら、自動番号の書式と段落の書式を指定します。

アウトラインおよびマルチレベルリストの作成に関するビデオチュートリアルについては、Gabriel Powell による Creating an automatic numbered list（英語）を参照してください。

箇条書きと自動番号を使用して、アウトライン、マルチレベルリスト、図キャプションおよび番号付きの手順を作成する方法に関する一連の記事（英語）が Bob Bringhurst によって用意されています。

1. 段落スタイルパネルメニューの「新規段落スタイル」を選択します。
2. スタイル名を入力します。
3. 既にマルチレベルリストのスタイルを作成している場合は、基準セットメニューからこの上のレベルに割り当てるスタイルを選択します。または、「段落スタイルなし」か「基本段落」を選択します。
4. 新規段落スタイルダイアログボックスの左側の「箇条書き」をクリックします。
5. リストタイプメニューから「自動番号」を選択します。
6. リストメニューから定義しているリストを選択します。リストを定義していない場合は、リストメニューから「新規リスト」を選択して、ここで定義します。
7. レベルボックスで、スタイルを作成しているマルチレベルリストのレベルを表す番号を入力します。

8. 形式メニューから、使用する番号付けの種類を選択します。
9. 「自動番号」ボックスで、このレベルのリストアイテムに希望する番号書式を表すために、メタ文字を入力するか、メニューからメタ文字を選択します。
   - 上のレベルの番号を前に付けるには、テキストを入力するか、「自動番号」ボックスの先頭をクリックして「番号プレースホルダーを挿入」を選択してから「レベル」オプション（「レベル 1」など）を選択するか、または「^」を入力してからリストレベルを入力します（「^1」など）。最初のレベルが 1、2、3 と番号付けされ、2 番目のレベルが a、b、c と番号付けされているリストの場合、2 番目のレベルに最初のレベルの番号を含めると、2 番目のレベルの番号付けは 1a、1b、1c、2a、2b、2c、3a、3b、3c のようになります。
   - 数式などを作成するには、句読点を入力して、メタ文字を入力するか、「特殊文字を挿入」リストのオプションを選択します。
10. このレベルの段落がより高いレベルの段落の後に表示される場合に 1 から振り直すには、「指定レベル以降で番号をふり直し」を選択します。また、リスト階層に表示される段落の位置を無視してリスト全体に連続してこのレベルで番号付けする場合は、このオプションの選択を解除します。

    あるレベルまたはレベル範囲以降の番号を先頭から始める場合、「指定レベル以降で番号をふり直し」にレベル値（2-4 など）を入力します。
11. 「記号または自動番号の位置」セクションで、より高いレベルのリストアイテムよりさらに高いレベルでリストアイテムをインデントするには、「インデント」または「タブ位置」オプションを選択します。インデントにより、リスト内の従属アイテムを目立たせることができます。
12. 「OK」をクリックします。

番号付きの手順などでは、同一ストーリー内で番号を 1 から振り直したい場合があります。自動番号リストの番号を手動で 1 から振り直さなくても済むように、レベル 1 のスタイルと同じスタイルを別に作成します。ただし、1 つ例外があります。「モード」として「開始番号」を選択し、1 を指定します。このスタイルに「レベル 1 番号の振り直し」などの名前を付けます。

トップへ戻る

図表の連続キャプションの作成

連続キャプションは、図、表、その他のアイテムにドキュメント内で連続した番号を付けます。例えば、最初の図キャプションが「図 1」で始まる場合、2 番目は「図 2」というようになります。図や表などのアイテムに対し連続する番号を確実に付けるには、そのアイテム用のリストを定義し、そのリスト定義を含む段落スタイルを作成します。この段落スタイルの番号付け設定に「図」、「表」などの語を追加することもできます。

図キャプションの作成については、Bob Bringhurst による Numbered Lists Part III - Figure Captions（英語）の記事を参照してください。

リストアイテムはページに追加された順序で番号付けされます。アイテムの順序を変更するには、リストに表示する順序で 1 つずつカット＆ペーストします。

1. 新しい段落スタイルを作成して、段落スタイルオプションダイアログボックスの「段落」セクションで、リストタイプメニューから「自動番号」を選択します。
2. リストメニューから定義されたリストを選択します（または「新規リスト」を選択してリストを定義します）。
3. 「自動番号スタイル」の形式メニューから、使用する自動番号の種類を選択します。

   例えば、「A, B, C, D...」オプションを選択すると、「図 A」、「図 B」と続くリストが作成されます。
4. 「自動番号」ボックスに、自動番号メタ文字と共に、必要に応じて説明語や空白文字、記号を入力します。

   例えば、「図 A」のように表示させたい場合は、番号のメタ文字の前に「図」という単語とスペースを入力します（図 ^#.^t）。こうすると、単語「図」に続いて、連番（^#）、ピリオド、タブ（^t）が表示されます。

   注意： 連続キャプションに章番号を含めるには、自動番号リストから番号プレースホルダーを挿入／章番号を選択するか、番号付け方法として章番号を表示したい位置に「^H」を入力します。
5. スタイルの作成が終わったら「OK」をクリックします。

作成したスタイルを、テキストの図キャプションまたは表タイトルに適用します。

表や図のリストを生成するには、目次機能を使用することができます。

トップへ戻る

リストの番号を振り直すか連番を振る

InDesign では、リストの番号を振り直したり、連番を振るためのコマンドが用意されています。

自動番号リストを振り直す 段落の先頭文字の前に挿入点を置き、コンテキストメニューから「振り直し自動番号」を選択するか、書式／箇条書きリスト／振り直し自動番号を選択します。通常のリストでは、このコマンドは段落に番号 1（または文字 A）を割り当て、この段落をリストの最初の段落にします。マルチレベルリストでは、このコマンドはネストされた段落に最初の低レベルの番号を割り当てます。
リストに連番を振る コンテキストメニューから「続行自動番号」を選択するか、書式／箇条書きリスト／続行自動番号を選択します。このコマンドは、コメント、グラフィック、ネストされたリストアイテムによって中断されたリストの番号付けを再開します。InDesign では、あるストーリーやブックで開始し、次のストーリーやブックにまたがるリストに番号を振るためのコマンドも用意しています。

前のストーリーまたは現在のストーリーからリストに番号を振る

前のストーリーからリストの番号付けを再開するか、現在のストーリーで新規に番号付けを開始するかどうかは、リストの定義方法により異なり

ます。

1. 書式／箇条書きリスト／リストを定義を選択します。
2. リストを選択して、「編集」ボタンをクリックします。

   ストーリーを通して実行できない場合は、デフォルトのリストを選択しないでください。
3. 前のストーリーからリストの番号付けを再開するには、「ストーリーを通して番号を継続」を選択し、現在のストーリーのリストを 1（または A）で開始するには、このオプションの選択を解除します。
4. 「OK」を 2 回クリックします。

ブック内の前のドキュメントまたは現在のドキュメントからリストに番号を振る

ブック内の前のドキュメントからリストに番号付けを再開するか、現在のドキュメントで新規に番号付けを開始するかどうかは、リストの定義方法により異なります。

1. 書式／箇条書きリスト／リストを定義を選択します。
2. リストを選択して、「編集」ボタンをクリックします。
3. 前のドキュメントからリストの番号付けを再開するには、「ブック内の前のドキュメントから番号を継続」を選択し（このオプションを有効にするには「ストーリーを通して番号を継続」を選択している必要があります）、現在のドキュメントのリストを 1（または A）で開始するには、このオプションの選択を解除します。
4. 「OK」を 2 回クリックします。

ブック内で番号付けを正しく更新するには、ブックパネルメニューで自動番号を更新／すべての番号を更新を選択します。

トップへ戻る

箇条書き記号または自動番号のテキストへの変換

1. 箇条書きリストまたは自動番号リストを含む段落を選択します。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - 段落パネルメニューから「番号付けをテキストに変換」または「記号をテキストに変換」を選択します。
   - 選択範囲を右クリックするか（Windows）、Command キーを押しながらクリックして（Mac OS）、「番号付けをテキストに変換」または「記号をテキストに変換」を選択します。

注意： 自動番号または箇条書き記号を削除するには、自動番号ボタンまたは箇条書き記号ボタンをクリックして、選択したテキストからリスト書式の適用を解除します。

関連項目

箇条書きリストと自動番号リストに関するビデオ

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

行送り

行送りについて
アジア言語のテキストでの行送りについて
行送りの変更
文字の比率を基準にした行の高さの調整
行送りの基準位置の適用

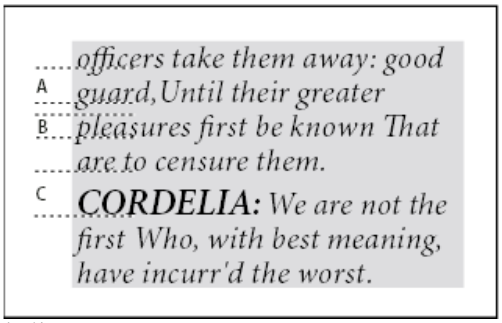
行送りについて

トップへ戻る

ここでは、欧文組版で行送りがどのように適用されるかを説明します。CJK テキストでの行送りについて詳しくは、アジア言語のテキストでの行送りについてを参照してください。

垂直方向の行の間隔を行送りといいます。行送りとは、1 つのテキスト行のベースラインから、その上の行のベースラインまでの距離を示します。ベースラインとは、ディセンダラインのない文字を揃えるための基準となる目には見えないラインのことです。

初期設定である「自動」行送りでは、行送りが文字サイズの 120 %に設定されます（例えば、12 ポイントの文字の行送りは 10 ポイントになります）。「自動」オプションが使用されている場合は、InDesign では、文字パネルの行送りメニューに行送り値が括弧付きで表示されます。

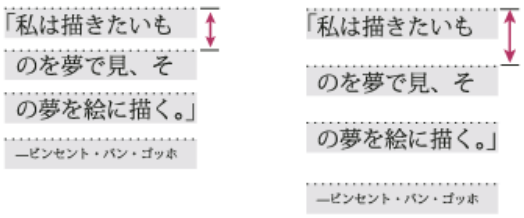


行送り
A. 行送り　**B.** テキストの高さ　**C.** 最も高い文字に合わせて行送り値が決まります。

アジア言語のテキストでの行送りについて

トップへ戻る

行送りの基準位置を設定するには、段落パネルメニューの「行送りの基準位置」を使用します。デフォルトの設定（仮想ボディの上 / 右）では、テキスト行の仮想ボディの上端から次行のテキストの仮想ボディの上端までがテキスト行の行送りになります。行を選択し、「仮想ボディの上 / 右」を設定した状態で行送りの値を増やすと、選択した行から次の行までの移動距離が大きくなります。「仮想ボディの上 / 右」以外の設定では、行送りは現在行と前の行との移動距離になるので、この設定で行送りの値を増やすと現在行の上の行間は大きくなります。



行送りにより、行の間隔が変化します。

文字パネルまたはコントロールパネルの行送りメニューから行送りを設定します。デフォルトでは「自動」が選択されています。「自動行送り」が設定されている場合、文字パネルの「行送り」では、括弧内に行送り値が表示されます。この「自動」の値は、テキストフレーム内のテキストとフレームグリッド内のテキストでは異なります。自動行送りの値は、段落パネルの「ジャスティフィケーション」で設定します。InDesign のテキストフレームにあるテキストで使用される自動行送りのデフォルト設定値は、設定されているフォントサイズの 175 %になります。フレームグリッドにあるテキストの場合は 100 %であり、グリッド揃えでグリッド内のテキスト行を拡張することができます。

テキストフレーム内のテキストの行送りは、グリッド揃えが「なし」に設定されている場合、文字パネルの「行送り」の値で設定します。グリッド揃えが「なし」以外に設定されている場合、行送りは、ベースライングリッドの設定を基準にして適用されます。

注意：　フレームグリッドにあるテキストをコピーしテキストフレームにペーストすると、テキストと共にフレームグリッドの属性もペーストされ

るので、「行送り」の「自動」は 100 %になります。行間が詰まったように表示される場合は、「行送り」の値を自動ではなく、数値で指定します。
フレームグリッド内のテキストの行送りは、「行送り」の値ではなく、フレームグリッド設定ダイアログボックスの「行間」で設定します。フレームグリッド内のテキストの行送り値は、「行間」の値とグリッドサイズ（フォントサイズ）の合計の値になります。つまり、グリッドサイズが 13 Q で行間が 10 H に設定されている場合、実際の行送りの値は「23 H」になります。

なお、フレームグリッド内に配置したテキストには、デフォルトでグリッド揃えが「仮想ボディの中央」に設定されています。この場合は、グリッドの中央から次のグリッドの中央までの値が行送り値になります。グリッド揃えを「なし」に設定すると、行送りは、グリッドで指定される位置から適用されます。グリッド揃えを「なし」に設定すると、文字パネルの「行送り」で設定されている値で行が送られるようになります。

フレームグリッドの行送りは複雑です。配置されているテキストの「フォントサイズ」、「行送り」の値と、段落パネルの「行取り」の設定によって、実際の行送り値が変化します。次のことに注意してください。

- フレームグリッドのフォントサイズを変更せずに、配置されているテキストのフォントサイズや行送りの値を、文字パネルでグリッドのサイズより小さくした場合、テキストは、設定されている「グリッド揃え」を基準にしてグリッドに揃えられます。
- フレームグリッドのフォントサイズ（グリッドサイズ）を変更せずに、配置されているテキストのフォントサイズを、文字パネルでグリッドサイズ+行間より大きくすると、「行取り」が「自動」に設定されている場合、自動的に行取りが変更され、1.5 行取り、2 行取り、2.5 行取り、3 行取りと、0.5 行刻みでグリッドに揃えられます。「行取り」が「自動」以外に設定されている場合は、指定した行取りでグリッドに揃えられるため、フォントサイズが大きくなると、文字が重なってしまいます。
- フレームグリッドのフォントサイズ（グリッドサイズ）を変更せずに、配置されているテキストの「行送り」を、文字パネルでグリッドサイズ+行間より大きくすると、「行送り」が「自動」に設定されている場合、次の行に行送りが適用されます。例えば、フレームグリッドのサイズが 13 Q で行間が 10 H に設定されている場合、行送り値を 24 H に設定すると、1 行おきにテキストが配置されます。また、47 H に設定した場合は、2 行おきにテキストが配置されます。「行取り」が「自動」以外に設定されている場合は、「行送り」で指定した値は無視されます。

トップへ戻る

行送りの変更

初期設定では、行送りは文字の属性として指定されるので、1 つの段落に複数の行送り値を適用することができます。最も大きい値が行送り値として使用されます。環境設定のオプションを使用すれば、行送り値が段落内のテキストではなく、段落全体に適用されるように設定することができます。この設定は既存のフレームの行送りには影響を与えません。

選択したテキストの行送りの変更

1. 変更するテキストを選択します。
2. 必要に応じて次の操作を行います。
   - 文字パネルまたはコントロールパネルで、行送りメニュー から目的の行送りを選択します。
   - 既存の行送り値を選択し、新しい値を入力します。
   - 段落スタイルの作成時に、「基本文字形式」パネルで行送り値を設定します。

   行間は、ベースライングリッドで調整することもできます。ベースライングリッドを設定すると、ベースライングリッドの設定が行送り値よりも優先されます。

初期設定の自動行送り値の変更

1. 変更する段落を選択します。
2. 段落パネルメニューの「ジャスティフィケーション」を選択します。
3. 「自動行送り」で、新しいデフォルトの値を指定します。最小値は 0 %、最大値は 500 %です。

注意： 文字パネルメニューの行送りポップアップメニューで「自動」を指定すると、ジャスティフィケーションダイアログボックスの「自動行送り」の値が文字サイズの比率で設定されます。テキストフレームのデフォルトは 175 %で、フレームグリッドのデフォルトは 100 %です。

段落全体に対する行送りの適用

1. 編集／環境設定／テキスト（Windows）または InDesign／環境設定／テキスト（Mac OS）を選択します。
2. 「段落全体に行送りを適用」を選択し、「OK」をクリックします。

注意： 文字スタイルを使用して行送りをテキストに適用するとき、「段落全体に行送りを適用」オプションが選択されているかどうかにかかわらず、行送りは段落全体ではなく、スタイルが適用されたテキストだけに作用します。

トップへ戻る

文字の比率を基準にした行の高さの調整

フレームグリッド内のテキストの組方向とは逆方向の文字の比率（横組みなら垂直比率、縦組みなら水平比率）を変更すると、デフォルトでは、グリッドの大きさに関係なく、行の高さが変更されます。例えば、13 Q の横書きフレームグリッド内に配置されている 13 Q の文字に対して、文字の垂直比率を 200 %に設定すると、グリッドサイズに関係なく、行の高さが 13 Q の倍の高さ、つまり 26 Q の行の高さに変更されます。この機能をオフにすると、行の高さは文字サイズのままで、文字の比率だけが変更されます。

1. 文字の比率を基準に行の高さを変更するテキストを選択します。
2. 文字パネルメニューまたはコントロールパネルから「文字の比率を基準に行の高さを調整」を選択します。

   行の高さが調整されます。この機能は文字属性であるので、文字単位で設定しますが、行の高さは、設定した文字が含まれる行全体に適用されます。

この機能をオフにするには、機能を有効にしたテキストを選択し、文字パネルメニューまたはコントロールパネルメニューから再度「文字の比率を基準に行の高さを調整」を選択してオフにします。

トップへ戻る

行送りの基準位置の適用

グリッド揃えを「なし」に設定している場合、デフォルトでは、現在の行の仮想ボディの上または右から次の行の仮想ボディの上または右までを基準に行を送ります。行送りの値を増加させると、選択されている行はすべてその値で送られるようになります。

1. テキストを選択し、段落パネルメニューまたはコントロールパネルメニューの「グリッド揃え」を「なし」に設定します。
2. 文字パネルで、「行送り」を指定します。「自動」は選択せずに、値を指定し、固定値で行を送るように設定します。
3. 段落パネルメニューまたはコントロールパネルメニューの「行送りの基準位置」から適切な行送りの基準を選択します。

フォントサイズに関係なく行を均等に送る場合は、「仮想ボディの中央」を選択すると、行がセンター合わせで送られるようになります。

フレームグリッドで、フォントサイズが異なる行の行間をグリッドに揃える場合は、グリッド揃えを「仮想ボディの中央」に設定し、段落パネルで「行取り」を「自動」以外に指定します。

行送りの基準位置オプション

行送りの基準は、段落パネルメニューまたはコントロールパネルメニューの「行送りの基準位置」から以下のオプションを選択します。

仮想ボディの上 / 右 横組みの場合は仮想ボディの上、縦組みの場合は右を基準にして行を送ります。現在の行の上 / 右端から次の行の上 / 右端を基準にして行を送ります。この設定がデフォルトです。
仮想ボディの中央 現在行の中心から前の行の中心を基準に行を送ります。同じ段落内に異なるフォントサイズがある場合は、各行の仮想ボディのエッジの間隔は均一になりません。「仮想ボディの中央」を選択すると、現在の仮想ボディの中心を基準に行が送られるようになるので、フォントサイズが異なるテキストを固定行送りにして、前後の行間を揃えることができるようになります。
欧文ベースライン 欧文ベースラインを基準に行を送ります。現在行のベースラインから前の行のベースラインを基準に行を送ります。この行送りの方法は、欧文コンポーザーで使用されている方法と同じです。欧文ベースラインはフォントによって異なります。同じ文字サイズでもフォントが異なる場合は、文字の位置が変わる場合もあります。
仮想ボディの下 / 左 横組みの場合は仮想ボディの左、縦組みの場合は下を基準にして行を送ります。現在行の下 / 左端から前の行の下 / 左端を基準に行を送ります。
注意： 段落パネルメニューとコントロールパネルメニューの「グリッド揃え」にも同じ項目があります。これらの項目は、グリッド揃えの基準となるものであり、行送りの基準ではありません。混同しないようにしてください。
関連項目

(cc) BY-NC-SR

法律上の注意 | プライバシーポリシー

タブおよびインデント

タブパネルの概要
タブの設定
タブの繰り返し
タブ設定の移動、削除および編集
小数点揃えタブの文字の指定
タブリーダーの追加
右インデントタブの挿入
インデントの設定

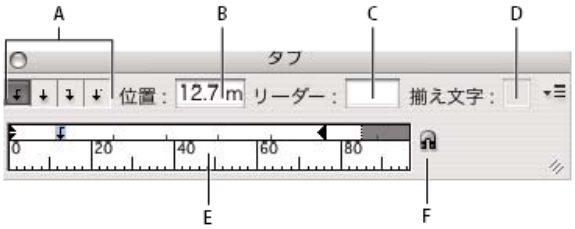
トップへ戻る

タブパネルの概要

タブを使用すると、テキストをテキストフレームの特定の位置に配置することができます。デフォルトのタブ設定は、環境設定ダイアログボックスの「単位と増減値」セクションで選択した単位に依存します。

タブは段落全体に適用されます。最初にタブを設定すると、そのタブより左側にある初期設定のタブはすべて削除されます。続けてタブを設定すると、設定したタブの間にある初期設定のタブはすべて削除されます。左 / 上揃え、中央揃え、右 / 下揃え、小数点（または指定文字）に揃えるタブを設定できます。

タブはタブパネルを使用して設定します。



タブパネル
A. タブ揃えボタン **B.** タブの位置 **C.** タブリーダーボックス **D.** 揃え文字 **E.** タブ定規 **F.** フレームにスナップ

縦組みテキストフレームで作業している場合は、タブパネルも縦になります。タブパネルの方向がテキストフレームの方向と一致しない場合は、マグネットアイコン をクリックして、タブ定規を現在のテキストフレームに吸着させます。



縦型タブ

タブパネルを開く

1. 文字ツールを使用して、テキストフレーム内をクリックします。

2. 書式／タブを選択します。

横組みフレームの最上部が表示されている場合、タブパネルは現在のテキストフレームの最上部に吸着され、現在の段幅に合わせた幅になります。縦組みフレームにテキスト挿入点がある場合、タブパネルはテキストフレームの右側に吸着し、現在の段の長さに合った長さで表示されます。

タブパネルの定規とテキストの揃え

1. ドキュメントをスクロールしてテキストフレームの最上部を表示します。
2. タブパネルにあるマグネットアイコン をクリックします。タブパネルは、横組みフレームでは選択範囲またはテキスト挿入点がある段の最上部に吸着し、縦組みフレームでは段の右側に吸着します。

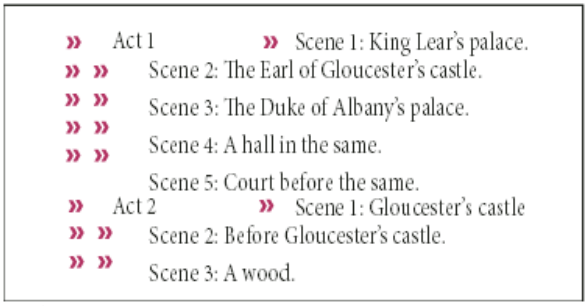
トップへ戻る

タブの設定

左 / 上揃え、中央揃え、右 / 下揃え、小数点（または指定文字）に揃えるタブを設定できます。小数点タブを使用すると、特定の文字（コロンやドル記号など）をタブに揃えることができます。

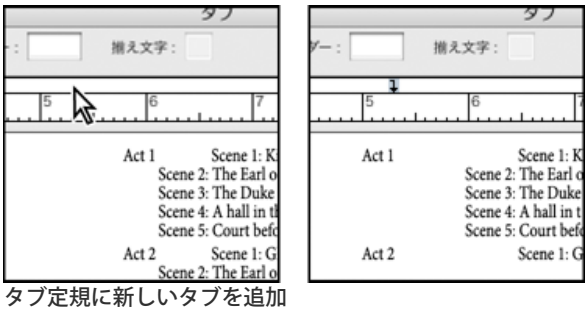
様々なタブおよびインデントの効果については、Bob Bringhurst による Tabs and Indents Gallery（英語）の記事を参照してください。

1. 文字ツール T を使用して、段落内にテキスト挿入点を置きます。
2. Tab キーを押します。段落で文字間のアキを追加する位置にタブ文字を挿入します（タブの設定後にタブを追加することもできます）。



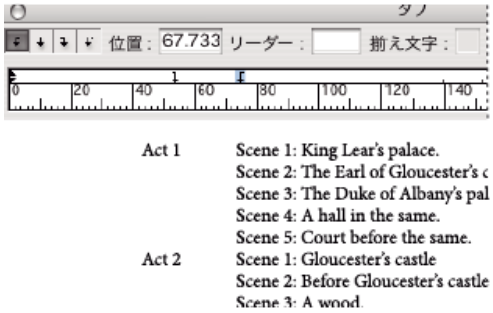
タブを使用して揃えたテキスト

3. 書式／タブを選択して、タブパネルを表示します。
4. タブ設定を適用する段落または段落グループを選択します。
5. タブパネルのタブ揃えボタン（左 / 上揃え、右 / 下揃え、中央揃え、小数点）のいずれかをクリックし、テキストをタブ位置に揃える方法を指定します。
6. 次のいずれかの操作を行います。
   - タブ定規上で新しくタブを設定する位置をクリックします。



タブ定規に新しいタブを追加

   - 「位置」ボックスに値を入力して、Enter キーまたは Return キーを押します。「位置」にテキスト挿入点が置かれているときは、上または下向き矢印キーを押すと、設定値を 1 ずつ増減することができます。
7. 別のタブ揃えを指定するタブを設定するには、手順 3 と 4 を繰り返します。



最初のタブは右揃えに設定、2 番目のタブは左揃えに設定

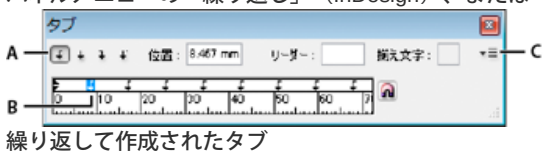
表にタブ文字を挿入するには、書式／特殊文字の挿入／その他／タブを選択します。

トップへ戻る

タブの繰り返し

「繰り返し」（InDesign）、または「タブの繰り返し」（Illustrator）コマンドを使用すると、左インデントまたは 1 つ前のタブから現在のタブまでの距離に基づいて、複数のタブが作成されます。

1. 段落にテキスト挿入点を置きます。
2. タブパネルで定規上のタブ位置を選択します。
3. パネルメニューの「繰り返し」（InDesign）、または「タブの繰り返し」（Illustrator）を選択します。



繰り返して作成されたタブ

A. タブ揃えボタン **B.** 定規上のタブ位置 **C.** パネルメニュー

トップへ戻る

タブ設定の移動、削除および編集

タブ設定を移動、削除および編集するには、タブパネルを使用します。

タブ設定の移動

1. 文字ツール T を使用して、段落内にテキスト挿入点を置きます。
2. タブパネルで、タブ定規上に設定されているタブを選択します。
3. 次のいずれかの操作を行います。
   - 「位置」に新しい数値を入力し、Enter キーまたは Return キーを押します。
   - タブを新しい位置までドラッグします。

タブ設定の削除

1. 段落にテキスト挿入点を置きます。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - タブをタブ定規の外にドラッグします。
   - タブを選択して、パネルメニューの「タブを削除」を選択します。
   - すべてのタブを消去するには、パネルメニューの「すべてのタブを消去」を選択します。

タブ揃えの変更

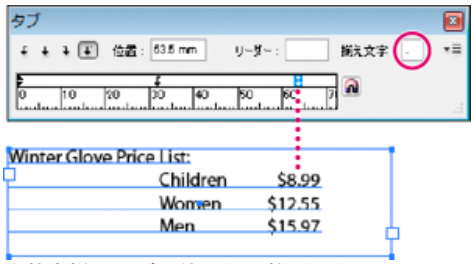
1. タブパネルで、タブ定規上に設定されているタブを選択します。
2. タブ揃えボタンをクリックして選択します。
   Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押しながらタブ設定をクリックすると、4 つの揃えオプションを順に切り替えることができます。

トップへ戻る

小数点揃えタブの文字の指定

小数点揃えタブは、小数点やドル記号などの指定した文字を基準にしてテキストを整列するときに使用します。

1. タブパネルのタブ定規上で、小数点揃えタブ を作成するか選択します。
2. 「揃え文字」ボックスで、整列の基準となる文字を入力します。任意の文字を入力またはペーストできます。整列する段落に指定した文字が含まれていることを確認してください。



小数点揃えタブを使用して整列したテキスト

トップへ戻る

タブリーダーの追加

タブリーダーとは、タブと次のテキストまでの間に表示させるドットやダッシュなどの文字の繰り返しのことです。

1. タブパネルで定規上のタブ位置を選択します。
2. ボックスに、最大 8 文字までの文字のパターンを入力して、Enter キーまたは Return キーを押します。入力した文字が、タブの幅内で繰り返されます。
3. タブリーダーのフォントまたはその他の書式を変更するには、テキストエリアでタブ文字を選択して、文字パネルまたは書式メニューを使用して書式を設定し、適用します。

トップへ戻る

右インデントタブの挿入

テキストを右揃えにする右インデントタブは、1 つの操作で設定でき、段組全体を使用した表組のテキストなどを簡単に設定することができます。右インデントタブは、標準のタブとは少し異なります。右インデントタブには以下のような特徴があります。

- 右インデントタブに続くすべてのテキストを、横組みテキストフレームの右端に揃えます。同じ段落で右インデントタブの後にタブがある場合、タブとテキストは次の行に置かれます。
- 右インデントタブは、タブパネル上ではなく、テキスト内に置かれた特殊文字です。右インデントタブを追加するには、タブパネルではなく、コンテキストメニューを使用します。右インデントタブは段落スタイルの一部にはなりません。
- 右インデントタブは、段落パネルの「右 / 下インデント」値とは異なります。「右 / 下インデント」値は、段落全体の右端とテキストフレームの右端との間隔です。
- タブリーダーと一緒に使用できます。右インデントタブは、右マージンを越えた最初のタブストップのタブリーダーを使用します。ない場合は、右マージンの前の最後のタブストップが使用されます。

1. 文字ツール T を使用して、右インデントタブを挿入する行内をクリックし、テキスト挿入点を置きます。
2. 書式／特殊文字の挿入／その他／右インデントタブを選択します。

トップへ戻る

インデントの設定

インデントは、テキストをフレームの端から内側へ向かって移動する段落設定です。一般的に先頭行を字下げする場合は、スペースやタブを使用するのではなく、インデントを使用します。

横組みフレームでは、先頭行のインデントは左インデント（縦組みフレームの場合は上インデント）にプラスして配置されます。例えば、横組みフレームで段落左端からのインデントが 25 ミリの場合、先頭行のインデントを 25 mm に設定すると、段落の先頭行はテキストフレームまたはテキストフレーム内マージンの左端から 50 mm 内側に配置されます。

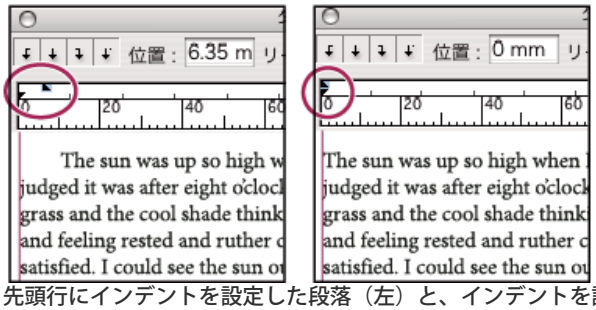
インデントは、タブパネル、段落パネル、またはコントロールパネルを使用して設定できます。箇条書きリストや自動番号リストを作成するときにもインデントを設定できます。

CJK 文字を設定する場合は、文字組み設定を使用して、先頭行のインデントを指定できます。ただし、段落尾パネルで先頭行のインデントを指定しているテキストに対して、文字組み設定でもインデントを指定すると、テキストは両方のインデントを合計した値でインデントされます。

様々なタブおよびインデントの効果については、Bob Bringhurst による Tabs and Indents Gallery（英語）の記事を参照してください。

タブパネルを使用したインデントの設定

1. 文字ツール T を使用して、インデントする段落内にテキスト挿入点を置きます。
2. 書式／タブを選択して、タブパネルを表示します。
3. タブパネルのインデントマーカー を使用して、次のいずれかの操作を行います。
   - 上のマーカーをドラッグして、1 行目のテキストにインデントを設定します。段落全体をインデントするには、下のマーカーをドラッグして両方のマーカーを移動します。



先頭行にインデントを設定した段落（左）と、インデントを設定していない段落（右）

- 上のマーカーを選択して「位置」ボックスに値を入力し、1 行目のテキストのインデントを設定します。下のマーカーを選択して「X」ボックスに値を入力すると、両方のマーカーが移動し、段落全体のインデントが設定されます。

タブパネルの使用について詳しくは、タブパネルの概要を参照してください。

段落パネルまたはコントロールパネルを使用したインデントの設定

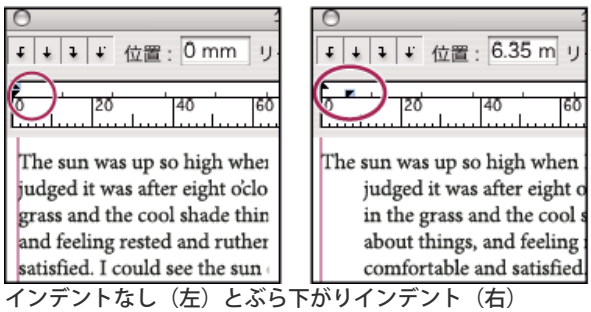
1. 文字ツール T を使用して、インデントする段落内にテキスト挿入点を置きます。
2. 段落パネルまたはコントロールパネルで、該当のインデント値を調整します。例えば、次のいずれかの操作を行います。
   - 段落全体を 25 ミリインデントするには、値（**25 mm** など）を「左 / 上インデント」に入力します。
   - 段落の先頭行だけを 25 ミリインデントするには、値（**25 mm** など）を「1 行目左 / 上インデント」に入力します。
   - 25 ミリのぶら下がりインデントを作成するには、「左 / 上インデント」に正の値（**25 mm** など）を入力し、「1 行目左 / 上インデント」に負の値（**-25 mm** など）を入力します。詳しくは、インデントの設定を参照してください。

インデントのリセット

1. インデントを原点にリセットする段落をクリックします。
2. タブパネルメニューから「インデントをリセット」を選択します。

ぶら下がりインデントの作成

ぶら下がりインデントは、段落内の先頭行以外にインデントを適用し、先頭行だけを突き出させたインデントです。ぶら下がりインデントは、段落の先頭にインライングラフィックを追加するときに特に便利です。



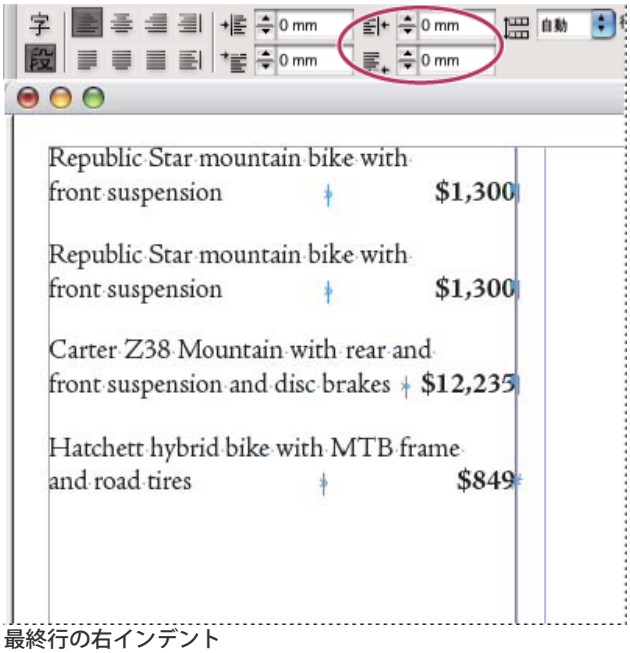
インデントなし（左）とぶら下がりインデント（右）

1. 文字ツール T を使用して、インデントする段落内にテキスト挿入点を置きます。
2. タブパネルまたはコントロールパネルで、「左 / 上インデント」の値（0 以上の数値）を入力します。
3. 先頭行をぶら下げるには、次のいずれかの操作を行います。
   - コントロールパネルで、「1 行目左 / 上インデント」にマイナスの値を入力します。
   - タブパネルで、上のマーカーを下のマーカーより左側（縦組みフレームの場合は上）へドラッグするか、上のマーカーを選択して、下のマーカーに対してインデントする値を「位置」にマイナス値で入力します。

通常は、手順 2 で入力した値の負の値を指定します。例えば、横組みフレームで左インデント 8 ミリを指定した場合は、先頭行のインデントを -8 ミリに設定します。

段落の最終行の右インデント

パラグラフの最終行の右側にぶら下がりインデントを追加するには、「最終行の右インデント」を使用します。このオプションは、販売カタログなどで価格を右揃えするときに便利です。



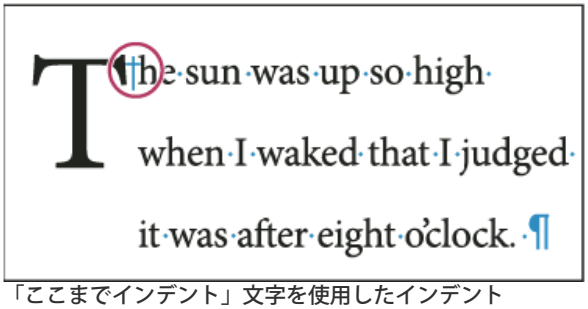
最終行の右インデント

1. 段落を入力します。各段落の最終行で、インデントするテキストの前にテキスト挿入点を置き、書式／特殊文字の挿入／その他／右インデントタブを選択します。
2. 段落を選択します。
3. 段落の右インデントを作成するには、段落パネルまたはコントロールパネルの「右 / 下インデントインデント」フィールドに値（**5 mm** など）を入力します。
4. タブに続くテキストの右インデントのオフセット値を指定するには、段落パネルまたはコントロールパネルの「最終行の右インデント」に負の値（**-5 mm** など）を入力します。

ここまでインデント文字の使用

特殊文字の「ここまでインデント」文字を使用すると、段落のインデント値とは別に、段落内の行をインデントすることができます。「ここまでインデント」文字は、段落のインデントとは以下の点で異なります。

- 「ここまでインデント」文字は、普通の文字のようにテキストの一部として扱われます。テキストが再フローすると、インデントはテキストと一緒に移動します。
- 「ここまでインデント」は、挿入された位置以降のすべての行に影響するので、段落の一部の行をインデントする場合に使用します。
- 書式／制御文字を表示を選択すると、「ここまでインデント」文字 ‡ が表示されます。



「ここまでインデント」文字を使用したインデント

1. 文字ツール T を使用して、それ以降の行を左または上にインデントする位置をクリックして、テキスト挿入点を置きます。
2. 書式／特殊文字の挿入／その他／「ここまでインデント」文字を選択します。

関連項目

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

カーニングと字送り

カーニングと字送りについて
テキストに対するカーニングの適用

トップへ戻る

カーニングと字送りについて

カーニングとは、特定の文字の組み合わせの文字間隔を調整する処理です。字送りとは、テキストブロック全体の文字間隔を調整する処理です。

注意： カーニング値および字送り値は日本語のテキストにも有効ですが、通常、これらのオプションは欧文文字間のアキを調整するために使用されます。

カーニングの種類

メトリクスカーニングまたはオプティカルカーニングを使用すると、自動的に文字をカーニングすることができます。メトリクスカーニングでは、多くの欧文フォントに含まれているペアカーニングを使用します。ペアカーニングには、特定の文字の組み合わせ（ペア）のアキに関する情報が含まれています。ペアの例としては、LA、P.、To、Tr、Ta、Tu、Te、Ty、Wa、WA、We、Wo、Ya および Yo などがあります。

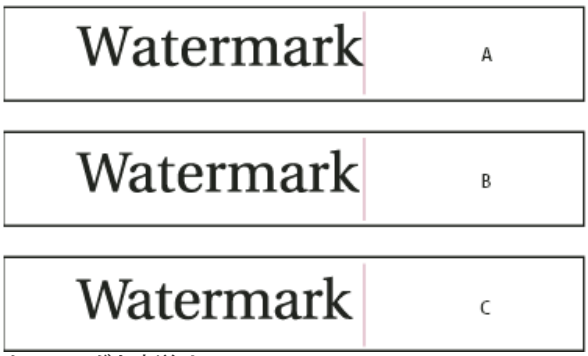
オプティカルカーニングでは、文字の形状に基づいて、隣接する文字の間隔が調整され、欧文字形用に最適化されています。欧文フォントの中には、固有のペアカーニング情報を持っているフォントもありますが、最小限のカーニングしか定義されていないか、まったくカーニングが定義されていないフォントを使用する場合や、1 行内に異なるフォントやサイズを使用している場合は、オプティカルカーニングオプションを使用して、ドキュメント内の欧文テキストのカーニングを調整します。



「W」と「a」のペアにオプティカルカーニングを適用する前（上）と適用した後（下）

手動カーニングを使用して、2 つの文字間の間隔を調整することもできます。字送りと手動カーニングで設定した値は、テキストに対してそれぞれ適用されるので、まず個々の文字間隔を調整してからテキストブロック全体の文字間隔を調整すると、文字間の相対的なカーニングを保持できます。

単語のカーニングは、ジャスティフィケーションダイアログボックスの「単語間隔」とは異なり、単語の先頭文字とその前のスペースのカーニング値だけを変更します。



カーニングと字送り
A. オリジナル **B.** 「W」と「a」との間に適用されたカーニング **C.** 字送りの適用後

カーニングと字送りの適用方法

テキスト（通常は欧文テキスト）を選択して、カーニング、字送りまたはその両方を適用して、文字間隔を調整することができます。字送りとカーニングの値は、現在の文字サイズを基準とした 1/1000 em 単位で指定します。1 em は、6 ポイントのフォントでは 6 ポイントになり、10 ポイントのフォントでは 10 ポイントになります。カーニングと字送りは、現在のフォントサイズに比例します。

字送りと手動カーニングで設定した値は、テキストに対してそれぞれ適用されるので、まず個々の文字間隔を調整してからテキストブロック全体

の文字間隔を調整すると、文字間の相対的なカーニングを保持できます。

2 つの文字の間をクリックしてテキスト挿入点を置くと、InDesign では、文字パネルとコントロールパネルにカーニング値が表示されます。メトリクスとオプティカルカーニングの値（ペアカーニング）は、括弧内に表示されます。同様に、単語またはテキストの範囲を選択すると、InDesign では、文字パネルとコントロールパネルに字送り値が表示されます。

トップへ戻る

テキストに対するカーニングの適用

文字間隔は、2 種類の自動カーニング（メトリクスカーニングまたはオプティカルカーニング）のいずれかを適用するか、手動で調整できます。

メトリクスカーニングの使用

1. ペアカーニングする文字間にテキスト挿入点を置くか、テキストを選択します。
2. 文字パネルまたはコントロールパネルで、カーニング メニューから「メトリクス」または「和文等幅」を選択します。

注意： ペアカーニング情報のないフォント（一部の日本語 OpenType フォントなど）に「メトリクス」を適用した場合、各文字間は「0」に設定されるため、文字は詰まりません。

選択しているテキストでフォントのペアカーニング情報を使用しない場合は、カーニング メニューで「0」を選択します。

注意： フレームのデフォルト設定は「和文等幅」です。欧文 OpenType フォントに「和文等幅」を適用した場合は、「メトリクス」を選択したときと同じカーニングになります。CJK の OpenType フォントに「和文等幅」を適用した場合は、「メトリクス」を設定したときと同様に、欧文文字だけにペアカーニングが適用されます。CJK 文字にはカーニングは適用されず、「0」が設定されたようになります。そのため、ペアカーニングしない場合は、「0」を選択してください。
注意： 日本語 OpenType フォントのメトリクスカーニングを使用する場合は、コントロールパネルメニューから、OpenType 機能／プロポーショナルメトリクスを選択することをお勧めします。これによって、手動カーニングによる不要な調整を避けることができます。

オプティカルカーニングの使用

1. ペアカーニングする文字間にテキスト挿入点を置くか、カーニングするテキストを選択します。
2. 文字パネルまたはコントロールパネルで、カーニング メニューから「オプティカル」を選択します。

注意： オプティカルカーニングは、欧文文字の形状を基にデザインされています。この機能を CJK フォントに適用することはできますが、適用結果を必ず確認するようにしてください。

カーニングの手動調整

1. 文字ツール を使用して、文字間にテキスト挿入点を置きます。
   注意： テキスト範囲を選択した場合は、カーニングを手動で調整することはできません（「メトリクス」、「和文等幅」、「オプティカル」または「0」だけを選択できます）。選択したテキストのアキを調整する場合は、字送りを使用します。
2. 必要に応じて次の操作を行います。
   - 文字パネルまたはコントロールパネルで、「カーニング」に値を入力するか、カーニングメニューからカーニング値を選択します。
   - Alt+ 右 / 左向き矢印キー（Windows）または Option+ 右 / 左向き矢印キー（Mac OS）を押して、2 つの文字間のカーニングを増減します。

単語のカーニング調整の量は、環境設定ダイアログボックスの「単位と増減値」セクションにある「カーニング」の値と同じです。Ctrl キーまたは Command キーを押しながらショートカットキーを押すと、カーニングの量が「カーニング」の設定値の 5 倍になります。

カーニングのデフォルトの増減値の変更

❖ 環境設定ダイアログボックスの「単位と増減値」セクションで、「カーニング」オプションの新しい値を入力し、「OK」をクリックします。

選択されているテキストのカーニングの解除

1. テキストを選択します。
2. 文字パネルまたはコントロールパネルの「カーニング」で「0」を入力するか選択します。

Alt+Ctrl+Q キー（Windows）または Option+Command+Q キー（Mac OS）を押すと、カーニングと字送りをリセットすることができます。リセットを行うと、カーニング値が適用されているかどうかにかかわらず、カーニングは「和文等幅」に設定されます。

字送りの調整

1. 文字の範囲を選択します。
2. 文字パネルまたはコントロールパネルで、「字送り」に数値を入力するか選択します。

カーニングと字送りがカスタマイズされたテキストのハイライト表示

カスタマイズされた字送りとカーニングが適用されているテキストを確認しなければならない場合もあります。環境設定の「カスタマイズされた字送り/カーニング」オプションを選択すると、カスタマイズされた字送りとカーニングが適用されているテキストが緑色でハイライト表示されます。

1. 編集／環境設定／組版（Windows）または InDesign／環境設定／組版（Mac OS）を選択します。
2. 「カスタマイズされた字送り/カーニング」を選択し、「OK」をクリックします。

関連項目

(cc) BY-NC-SR

法律上の注意 | プライバシーポリシー

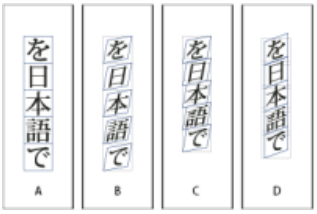
CJK 文字の書式設定

テキストに対する斜体の適用
文字の回転
文字の前後のアキ量の調整
縦中横の使用
テキストへのルビの追加
圏点の適用
サイズの異なる文字の揃え

ページの先頭へ

テキストに対する斜体の適用

文字を斜めに傾ける場合、従来の写植技術では、字形をフィルムにセットしたまま、レンズを使用して歪めていました。この傾斜スタイルを斜体と言います。斜体では、字形が拡大 / 縮小されるので、単純に字形を傾けたものとは異なります。InDesign の斜体機能を使用すると、字形の高さを変えずに、傾斜させるテキストの中心点からの縮小率や角度を調整することができます。



斜体

A. 拡大 / 縮小の適用なし ***B.*** 縮小率 *30*%、*45* 斜体 ***C.*** 「ツメの調整」オプションを選択 ***D.*** 「ライン揃え」オプションを選択

1. テキストを選択します。
2. 文字パネルメニューまたはコントロールパネルメニューから「斜体」を選択します。
3. 次のオプションを指定して、「OK」をクリックします。
   - 「縮小率」で、字形の歪みの割合を指定します（従来の写植技術と対比した場合、10 %の縮小は 1 番レンズと同等で、40 %の縮小は 4 番レンズと同等です）。
   - 「角度」で、30、45 または 60 度を指定して傾斜の角度を設定します。
   - 横組みテキストで横組みの行が水平に表示され、縦組みテキストで縦組みの行が垂直に表示されるように、「ライン揃え」を選択して字体を回転させます。
   - 字送りを詰めるには「ツメの調整」を選択します。

斜体をテキストに適用した後、文字を個々に回転させて傾斜効果を微調整することもできます。

ページの先頭へ

文字の回転

1. 文字を選択します。
2. 文字パネルで、「文字回転」 に値を入力します。マイナスの値を指定すると、文字が右回り（時計回り）に回転します。

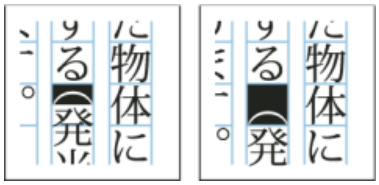
ページの先頭へ

文字の前後のアキ量の調整

1. 文字ツールを使用して、開く括弧類または閉じ括弧類を選択します。

2. 文字パネルの「文字前のアキ量」 または「文字後のアキ量」 で、追加するアキの量を選択します。

例えば、「二分」を指定すると 2 分の 1 の全角スペースに設定され、「四分」を指定すると 4 分の 1 の全角スペースに設定されます。行が両端揃えに設定されている場合、このアキは調整されません。アキの調整は、「文字組みアキ量」の設定を特定の文字について変更する場合に特に役立ちます。

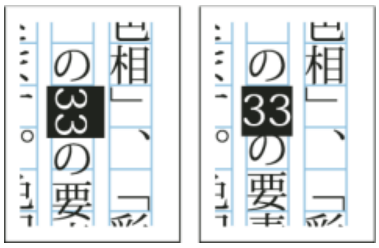


開く括弧の前にアキを追加

ページの先頭へ

縦中横の使用

「縦中横」（組文字または連文字とも呼びます）を使用すると、縦組みテキストの一部を横組みテキストにすることができます。縦組みテキストでは、数字、日付、短い外国語の単語などの半角文字を縦中横にすると読みやすくなります。



縦中横の適用前と適用後

「縦中横設定」コマンドを使用すると、テキストを左、右、上、下に移動することができます。また、特定の半角文字に対して「自動縦中横」を設定することもできます。「自動縦中横」は段落属性として設定するオプションです。

文字パネルの「文字ツメ」または字送りを使用して、縦中横の文字間隔を調整できます。

縦中横の適用

1. 縦中横を適用するテキストを選択します。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - 文字パネルメニューまたはコントロールパネルメニューの「縦中横」を選択します。
   - 文字パネルメニューまたはコントロールパネルメニューから「縦中横設定」を選択し、縦中横設定ダイアログボックスの「縦中横」を選択して、「OK」をクリックします。

複数の縦中横の文字が連続する場合、それぞれを分離させるには結合なしの文字を使用します。書式／特殊文字を挿入／その他／結合なしを選択します。

縦中横の削除

1. 縦中横を適用するテキストを選択します。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - 文字パネルメニューまたはコントロールパネルメニューの「縦中横」を選択してキャンセルします。
   - 文字パネルメニューから「縦中横設定」を選択して、縦中横設定ダイアログボックスの「縦中横」の選択を解除し、「OK」をクリック

します。

縦中横設定の変更

1. 文字パネルメニューの「縦中横設定」を選択します。
2. 「上下位置」で、テキストを上下方向に移動する値を指定します。プラスの値を指定するとテキストは上方向に移動し、マイナスの値を指定すると下方向に移動します。
3. 「左右位置」で、テキストを左右の方向に移動する値を指定します。プラスの値を指定するとテキストは右方向に移動し、マイナスの値を指定すると左方向に移動します。

特定の段落に対する自動縦中横の設定

1. 自動縦中横を設定するテキストを選択するか、段落にテキスト挿入点を置きます。
2. 段落パネルメニューから「自動縦中横設定」を選択します。
3. 「組数字」で、連続する半角文字を何文字まで縦方向に回転するかを桁数で指定します。例えば、2 と指定すると、「123」という文字列は回転しませんが、「12」は回転します。
4. 縦中横を欧文テキストに適用したい場合は、「欧文も含める」を選択し、「OK」をクリックします。

ページの先頭へ

テキストへのルビの追加

日本語では、ルビ（ふりがなとも言います）は、通常、漢字の読みをひらがなで表すために使用します。ルビは、簡体中国語ではピンインと呼ばれ、繁体中国語ではチューインと呼ばれます。InDesign では、日本語のルビについては完全サポートを提供し、中国語のピンインとチューインについては限定的にサポートしています。ルビの位置、サイズ、カラーを指定して、ルビ設定を調整することができます。また、ルビが親文字よりも長いときのルビの配置を指定することもできます。ルビに縦中横を適用することもできます。



横組みテキストにふられたルビ（左）と、縦組みテキストの右側にふられたルビ（右）

ルビをふる親文字が 2 行にわたっている場合、親文字は次の行に移動し、ルビが追加されます。

注意： 特定の状況（変数を含むスタイルを適用した場合など）では、ルビ文字が削除されることがあります。

1. ルビをふるテキストを選択します。選択したテキストに強制改行が含まれている場合は、ルビをふることはできません。
2. 文字パネルメニューまたはコントロールパネルメニューの「ルビ」から「ルビ」を選択します。
3. 「ルビ」にルビ文字を入力します。
4. ルビ設定を変更するには、ダイアログボックス左側のオプションを選択し、設定を指定します。
5. 「OK」をクリックします。

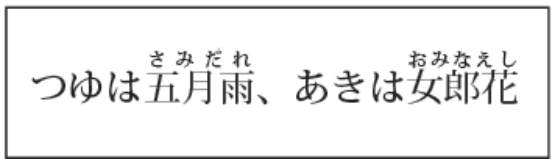
ルビ設定

ルビダイアログボックスの各パネルには次のオプションがあります。

ルビの位置と間隔

- 「種類」では、「モノルビ」または「グループルビ」を選択します。「モノルビ」を選択したときは、ルビ文字を入力する際に半角または全角の空白を入力して、各親文字に割り当てるルビ文字列を区切ります。例えば、「白熱灯」にルビをふる場合、「はくねつとう」と入力します。

A 

B 

ルビ

- 「揃え」で、ルビ文字の位置を指定します。サンプルフィールドに表示されるグラフィックで位置を確認できます。
- 横組みテキストの上または縦組みテキストの右にルビを付けるには、「位置」で「親文字の上 / 右」を選択し、横組みテキストの下または縦組みテキストの左にルビを付けるには、「親文字の下 / 左」を選択します。
- 「横組み左右 / 縦組み上下」と「横組み上下 / 縦組み左右」で、ルビと親文字の間隔を指定します。マイナスの値を入力すると、ルビが親文字に近づきます。

ルビのフォントとサイズ

- 「フォント」で、フォントファミリーとフォントスタイルを選択します。
- 「サイズ」で、ルビ文字のサイズを指定します。デフォルトのルビサイズは、親文字の半分です。
- 「水平比率」と「垂直比率」で、ルビ文字の高さと幅の比率を指定します。
- ルビの異体字（利用できる場合）を使用するには、「OpenType Pro のルビ字形を使用」を選択します。一部の OpenType Pro フォントには、ルビ専用のかな文字が用意されている場合があります。このオプションを選択すると、標準のかな文字の字形ではなく、ルビ専用の字形が使用されます。
- 「組数字」で、連続する半角文字を何文字まで縦方向に回転するかを桁数で指定します。例えば、2 と指定すると、「123」という文字列は回転しませんが、「12」は回転します。
- 縦中横を欧文文字に適用する場合は、「欧文も含める」を選択します。
- OpenType 機能を使用するか字形を拡大 / 縮小して、ルビ文字と同じサイズ（1 em 四方）を持つ縦中横に強制的に実行するには、「幅に合わせる」を選択します。

ルビが親文字より長ときの調整

- ルビ文字全体の幅が親文字全体の幅より長い場合、「文字かけ処理」で指定した幅のルビが親文字の両隣の文字にかかります。日本語では、文字かけ対象の文字種は JISx4051-1995 規格に準拠しています。
- ルビをふるのに必要な親文字の間隔を「親文字間の調整」で指定します。サンプルフィールドに表示されているグラフィックは、別のオプションを選択すると更新されます。
- ルビの文字幅を自動的に調整するには、「ルビの文字幅を自動的に詰める」を選択して、ルビの文字幅を詰める比率を指定します。
- 親文字を行の先頭と最後に合わせるには、「自動行頭 / 行末揃え」を選択します。

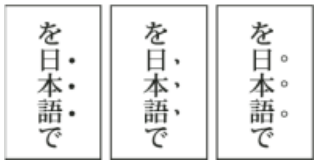
ルビカラー

- リストボックスでカラースウォッチを選択します。
- 必要に応じて、濃淡の割合と線幅を指定します。
- ルビ文字の塗りまたは線のオーバープリントを設定するには、「塗りオーバープリント」または「線オーバープリント」を選択します（オーバープリントを手動で使用するかどうかの判別（英語のみ）を参照してください）。

ページの先頭へ

圏点の適用

圏点（傍点とも言います）は、強調したい文字に付加する点のことです。既定の圏点の字体から点の種類を選択したり、カスタマイズした圏点文字を指定したりすることができます。また、圏点の設定を調整して、位置、サイズ、カラーを指定することもできます。



小さい黒丸圏点、ゴマ圏点、小さい白丸圏点をテキストに適用

圏点の適用

1. 強調する文字を選択します。
2. 文字パネルメニューまたはコントロールパネルメニューの「圏点」から「蛇の目」や「白丸」など、圏点文字を選択します。

圏点の設定と色の変更

1. 文字パネルメニューまたはコントロールパネルメニューの「圏点」から「圏点」を選択します。
2. 「圏点設定」で、次のオプションを指定します。

   圏点種類　「蛇の目」や「白丸」などの圏点文字を選択します。「カスタム」を選択して、カスタム文字を指定します。直接文字を入力することも、特定の文字セットの文字コード値を指定することもできます。

   位置　圏点と親文字との間の間隔を指定します。

   表示される場所　横組みテキストの上または縦組みテキストの右に圏点を付けるには「上 / 右」、横組みテキストの下または縦組みテキストの左に圏点を付けるには「下 / 左」を選択します。

   サイズ　圏点文字のサイズを指定します。

   揃え　圏点を文字の仮想ボディの中央に表示する（「中付き」）か、左端（縦組みテキストの場合は上端）に表示する（「肩付き」）かを指定します。

   水平比率と垂直比率　圏点文字の高さと幅の比率を指定します。
3. 圏点のカラーを変更するには、リストボックスから「圏点カラー」を選択し、次のオプションを指定します。
   - リストボックスからカラースウォッチを選択します。
   - 必要に応じて、濃淡の割合と線幅を指定します。
   - 圏点文字の塗りまたは線のオーバープリントを設定するには、「塗りオーバープリント」または「線オーバープリント」を選択します（オーバープリントを手動で使用するかどうかの判別（英語のみ）を参照してください）。
4. 「OK」をクリックします。

ページの先頭へ

サイズの異なる文字の揃え

異なるサイズの文字を 1 行に配置するとき、「文字揃え」設定を使用して、行内の最も大きい文字にテキストを揃える方法を指定することができます。文字を仮想ボディの上、中央または下に揃えたり（縦組みフレームの場合は右、中央、左）、欧文ベースラインに揃えたり、平均字面の上または下（縦組みフレームの場合は右または左）に揃えたりすることができます。平均字面（*ICF*）とは、フォントデザイナがフォントを構成する全角文字をデザインするときに使用する標準の高さと幅です。



サイズの異なる文字の揃え

A. サイズの異なる文字を全角文字の上端に揃える ***B.*** サイズの異なる文字を全角文字の中央に揃える ***C.*** サイズの異なる文字を全角文字の下端に揃える

注意： 行のすべての文字が同じサイズの場合は、「文字揃え」を適用しても効果はありません。

1. 文字を揃える行またはテキストの範囲を選択するか、選択ツールを使用してテキストフレームを選択します。
2. 文字パネルメニューまたはコントロールパネルメニューの「文字揃え」から、以下のいずれかのオプションを選択します。
   - 「欧文ベースライン」は、行にある小さい文字を、大きい文字のベースライングリッドに揃えます。
   - 「仮想ボディの上 / 右」、「仮想ボディの中央」または「仮想ボディの下 / 左」は、行にある小さい文字を、大きい文字の仮想ボディの指定位置に揃えます。縦組みテキストでは、「仮想ボディの上 / 右」はテキストを仮想ボディの右側に揃え、「仮想ボディの下 / 左」は段落を仮想ボディの左側に揃えます。
   - 「平均字面の上 / 右」または「平均字面の下 / 左」は、行にある小さい文字を、大きい文字の指定平均字面に揃えます。縦組みテキストでは、「平均字面の上 / 右」はテキストを平均字面の右側に揃え、「平均字面の下 / 左」はテキストを平均字面の左側に揃えます。

関連項目

(cc) BY-NC-SA Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

表

表およびセルのスタイル

About table and cell styles
Table/Cell Styles panels overview
Define table and cell styles
Load (import) table styles from other documents
Apply table and cell styles
Base one table or cell style on another
Edit table and cell styles
Delete table and cell styles
Redefine table or cell styles based on current formatting
Override table and cell styles
Break the link to table or cell styles

ページの先頭へ

About table and cell styles

Just as you use text styles to format text, you can use table and cell styles to format tables. A *table style* is a collection of table formatting attributes, such as table borders and row and column strokes, that can be applied in a single step. A *cell style* includes formatting such as cell insets, paragraph styles, and strokes and fills. When you edit a style, all tables or cells to which the style is applied are updated automatically.

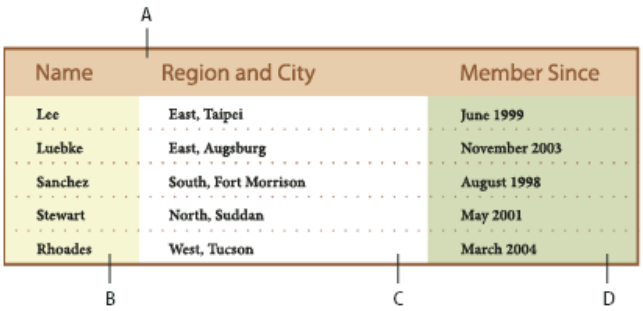
注意： *There is one important difference between text styles and table styles. While all character styles attributes can be part of a paragraph style, cell style attributes are not part of the table style. For example, you cannot use a table style to change the border color of interior cells. Instead, create a cell style and include it in the table style.*

[基本表] と [なし] スタイル

By default, each new document contains a [Basic Table] style that can be applied to tables you create and a [None] style that can be used to remove cell styles applied to cells. You can edit the [Basic Table] style, but you can't rename or delete either [Basic Table] or [None].

表スタイル内でのセルスタイルの使用

When you create a table style, you can specify which cell styles are applied to different regions of the table: header and footer rows, left and right columns, and body rows. For example, for the header row, you can assign a cell style that applies a paragraph style, and for the left and right columns, you can assign different cell styles that apply shaded backgrounds.



表スタイル内の領域に適用されるセルスタイル

A. 段落スタイルを含むセルスタイルで書式設定されたヘッダー行 ***B.*** 左の列 ***C.*** 本文行 ***D.*** 右の列

セルスタイル属性

Cell styles do not necessarily include all the formatting attributes of a selected cell. When you create a cell style, you can determine which attributes are included. That way, applying the cell style changes only the desired attributes, such as cell fill color, and ignores all other cell attributes.

各スタイルにおける書式設定上の優先度

If a conflict occurs in formatting applied to a table cell, the following order of precedence determines which formatting is used:

Cell style precedence 1. Header/Footer 2. Left column/Right column 3. Body rows. For example, if a cell appears in both the header and the left column, the formatting from the header cell style is used.

Table style precedence 1. Cell overrides 2. Cell style 3. Cell styles applied from a table style 4. Table overrides 5. Table styles. For example, if you apply one fill using the Cell Options dialog box and another fill using the cell style, the fill from the Cell Options dialog box is used.

ページの先頭へ

Table/Cell Styles panels overview

Use the Table Styles panel (Window > Styles >Table Styles) to create and name table styles, and to apply the styles to existing tables or tables you create or import. Use the Cell Styles panel (Window > Styles > Cell Styles) to create and name cell styles, and to apply the styles to table cells. Styles are saved with a document and appear in the panel each time you open that document. You can save table and cell styles in groups for easier management.

When you position the insertion point in a cell or table, any style that is applied is highlighted in either of the panels. The name of any cell style that is applied through a table style appears in the lower left corner of the Cell Styles area. If you select a range of cells that contains multiple styles, no style is highlighted and the Cell Styles panel displays “(Mixed).”

Open the Table Styles or Cell Styles panel

- ウィンドウ／スタイルを選択し、「表スタイル」または「セルスタイル」を選択します。

Change how styles are listed in the panel

- 縮小版のスタイルを表示するには、パネルメニューから「小さく表示」を選択します。
- スタイルを別の場所にドラッグします。作成したスタイルグループにスタイルをドラッグすることもできます。
- スタイルをアルファベット順に表示するには、パネルメニューから「名前順」を選択します。

ページの先頭へ

Define table and cell styles

1. 既存の表またはセルの書式設定に基づいて新しいスタイルを作成する場合は、挿入点をセル内に置きます。
2. 必要なら、セルスタイルに段落スタイルを定義します。
3. ウィンドウ／スタイル／表スタイルを選択して表スタイルパネルを開くか、ウィンドウ／スタイル／セルスタイルを選択してセルスタイルパネルを開きます。
4. 表スタイルパネルメニューの「新規表スタイル」を選択するか、セルスタイルパネルメニューの「新規セルスタイル」を選択します。
5. 「スタイル名」に名前を入力します。
6. 「基準」では、現在のスタイルの元となるスタイルを選択します。
7. スタイルのショートカットを定義するには、「ショートカット」テキストボックスにテキスト挿入点を置き、Num Lock キーがオンになっていることを確認します。次に、Shift、Alt、Ctrl（Windows）または Shift、Option、Command（Macintosh）のいずれかを組み合わせて押したまま、テンキーパッドの数字キーを押します。スタイルのショートカットとして、文字やテンキーパッド以外の数字を指定することはできません。

8. 書式設定属性を指定するには、左のカテゴリをクリックして、必要な属性を指定します。例えば、段落スタイルをセルスタイルに割り当てるには、「一般」カテゴリをクリックして、段落スタイルメニューから段落スタイルを選択します。

   For cell styles, options that don't have a setting specified are ignored in the style. If you don't want a setting to be part of the style, choose (Ignore) from the setting's menu, delete the contents of the field, or click a check box until a small box appears in Windows or a hyphen (-) appears in Mac OS.

9. 作成したスタイルグループに新しいスタイルを表示する場合は、スタイルグループフォルダーまでそのスタイルをドラッグします。

ページの先頭へ

Load (import) table styles from other documents

You can import table and cell styles from another InDesign document into the active document. During import, you can determine which styles are loaded and what should occur if a loaded style has the same name as a style in the current document. You can also import styles from an InCopy document.

1. セルスタイルパネルまたは表スタイルパネルのメニューから、「セルスタイルを読み込み」、「表スタイルを読み込み」、または「表およびセルスタイルを読み込み」を選択します。
2. 読み込むスタイルを含む InDesign ドキュメントをダブルクリックします。
3. スタイルを読み込みダイアログボックスで、読み込みたいスタイルの横にチェックマークが表示されていることを確認します。既存のスタイルと読み込まれたスタイルの名前が同じ場合、「既存スタイルとの競合」のいずれかのオプションを選択して「OK」をクリックします。

   Use Incoming Style Definition Overwrites the existing style with the loaded style and applies its new attributes to all cells in the current document that used the old style. The definitions of the incoming and existing styles appear at the bottom of the Load Styles dialog box so you can compare them.

   Auto-Rename Renames the loaded style. For example, if both documents have a style named "Table Style 1," the loaded style is renamed "Table Style 1 copy" in the current document.

ページの先頭へ

Apply table and cell styles

Unlike paragraph and character styles, table and cell styles do not share attributes, so applying a table style does not override cell formatting, and applying a cell style does not override table formatting. By default, applying a cell style removes formatting applied by any previous cell style, but does not remove local cell formatting. Similarly, applying a table style removes formatting applied by any previous table style, but does not remove overrides made using the Table Options dialog box.

In the Styles panel, a plus sign (+) appears next to the current cell or table style if the selected cell or table has additional formatting that isn't part of the applied style. Such additional formatting is called an *override*.

1. テキスト挿入点を表内に置くか、スタイルが適用されるセルを選択します。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - 表スタイルパネル（ウィンドウ／スタイル／表スタイル）またはセルスタイルパネル（ウィンドウ／スタイル／セルスタイル）で、表スタイルまたはセルスタイルをクリックします。スタイルがスタイルグループにある場合は、スタイルグループを拡張してスタイルを見つけます。
   - スタイルに定義したショートカットキーを押します（Num Lock キーがオンになっていることを確認してください）。

ページの先頭へ

Base one table or cell style on another

You can create links between similar table or cell styles by creating a base, or *parent*, style. When you edit the parent style, any changed attribute that appears in the *child* styles will change as well. By default, table styles are based on [No Table Style], and cell styles are based on [None].

1. 新しいスタイルを作成します。
2. 新規表スタイルまたは新規セルスタイルダイアログボックスで、基準ポップアップメニューから親スタイルを選択します。新しいスタイルが

子スタイルになります。

3. 新しいスタイルの書式設定を指定して、親スタイルと区別します。

ページの先頭へ

Edit table and cell styles

One of the advantages of using styles is that when you change the definition of a style, all of the tables or cells formatted with that style change to match the new style definition.

1. 次のいずれかの操作を行います。
   - 選択されている表またはセルにスタイルを適用しない場合は、スタイルパネルのスタイル名を右クリック（Windows）または Control キーを押しながらクリック（Macintosh）して「*[スタイル名]* を編集」を選択します。
   - スタイルパネルでスタイル名をダブルクリックするか、スタイルパネルでスタイルを選択し、パネルメニューから「スタイル編集」を選択します。この方法では、選択されたすべてのセルにセルスタイルが適用されるか、選択されたすべての表に表スタイルが適用されます。表が選択されていない場合、表スタイルをダブルクリックすると、作成するすべての表のデフォルトスタイルとして設定されます。
2. スタイルの編集ダイアログボックスを設定し、「OK」をクリックします。

ページの先頭へ

Delete table and cell styles

When you delete a style, you can select a different style to replace it, and you can choose whether to preserve the formatting.

1. スタイルパネルからスタイルを選択します。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - パネルメニューから「スタイルを削除」を選択します。
   - パネルの下部にある選択したスタイル/グループを削除アイコン をクリックするか、またはスタイルを削除アイコンにドラッグします。
   - スタイルを右クリック（Windows）または Control キーを押しながらクリック（Mac OS）して、「スタイルを削除」を選択します。この方法は、選択したセルまたは表にスタイルを適用することなく、スタイルを削除する場合に特に便利です。
3. スタイルを選択して、置き換えます。

   If you select [No Table Style] to replace a table style or [None] to replace a cell style, select Preserve Formatting to keep the formatting of the table or cell to which the style is applied. The table or cell preserves its formatting but is no longer associated with a style.
4. 「OK」をクリックします。

ページの先頭へ

Redefine table or cell styles based on current formatting

After you apply a style, you can override any of its settings. If you decide you like the changes, you can redefine the style to retain the new formatting.

1. 再定義するスタイルで書式設定された表またはセル内に挿入点を置きます。
2. 表またはセルを変更します。
3. スタイルパネルメニューから「スタイル再定義」を選択します。

注意： *For cell styles, changes to only those attributes that are part of the cell style will enable the Redefine Style command. For example, if the cell style includes a red fill and you override a cell to use a blue fill, you can redefine the style based on that cell. But if you change an attribute that is ignored in the cell style, you can't redefine the style with that attribute.*

ページの先頭へ

Override table and cell styles

After you apply a table or cell style, you can override any of its settings. To override a table style, you can change options in the Table Options dialog box. To override a cell, you can change options in the Cell Options dialog box or use other panels to change the stroke or fill. If you select a table or cell that has an override, a plus sign (+) appears next to the style in the Styles panel.

You can clear table and cell overrides when you apply a style. You can also clear overrides from a table or cell to which a style has already been applied.

If a style has a plus sign (+) next to it, hover over the style to view a description of the override attributes.

Preserve or remove overrides while applying a table style

- 表スタイルを適用してもセルスタイルを保持するが、表スタイルのオーバーライドを消去するには、表スタイルパネルで Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押したまま、スタイルをクリックします。
- 表スタイルを適用して、セルスタイルと表スタイルのオーバーライドを消去するには、表スタイルパネルで Alt + Shift キー（Windows）または Option + Shift キー（Mac OS）を押したまま、スタイルをクリックします。

Right-click (Windows) or Control-click (Mac OS) the style in the Table Styles panel, and then choose Apply [table style], Clear Cell Styles to apply a style and clear cell styles.

Remove overrides while applying a cell style

- セルスタイルを適用して、オーバーライドを消去するには、セルスタイルパネルで Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押したまま、スタイルをクリックします。

  注意： *Only those attributes that are part of the cell style are considered overrides. For example, if the cell style includes a red fill and all other attributes are ignored, changing a different cell option is not considered an override.*

Clear attributes not defined by a cell style

- セルスタイルパネルメニューの「スタイルで定義されていない属性を消去」を選択します。

Clear table or cell overrides

1. オーバーライドのある表またはセルを選択します。
2. スタイルパネルで、選択範囲のオーバーライドを消去アイコンをクリックするか、スタイルパネルメニューから「オーバーライドを消去」を選択します。

ページの先頭へ

Break the link to table or cell styles

When you break the link between tables or cells and the style applied to them, the tables or cells retain their current formatting. However, future changes to that style won't affect them.

1. スタイルが適用されているセルを選択します。
2. スタイルパネルメニューの「スタイルとのリンクを切断」を選択します。

関連項目

Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

表の書式設定

表の書式設定
列、行、表のサイズ変更
表の前後のスペースの変更
複数のテキストフレームにまたがる表の分割
表の前へのテキストの追加
表内のテキストの書式設定
セルの結合と分割
オーバーセットしたセルでの作業
セルの組み方向の変更

表の書式設定

トップへ戻る

表内のテキストは、コントロールパネルまたは文字パネルを使用して書式設定することができます。この操作は、テキストフレーム内の通常のテキストに書式を設定する場合と同じです。また、表の属性またはセルの属性ダイアログボックスで、表自体に書式を設定することができます。行および列の数の変更、表の罫線および塗りの変更、表と段落間のスペースの設定、ヘッダー行やフッター行の編集、および他の表の書式の追加などを行うことができます。

表パネル、コントロールパネルまたはコンテキストメニューを使用して、表の書式を設定することもできます。1 つまたは複数のセルを選択し、右ボタンをクリック（Windows）または Control キーを押しながらクリック（Macintosh）して、表に関連するコマンドを含むコンテキストメニューを表示します。

表の作成と書式設定に関するビデオチュートリアルについては、www.adobe.com/go/vid0081_jp を参照してください。

列、行、表のサイズ変更

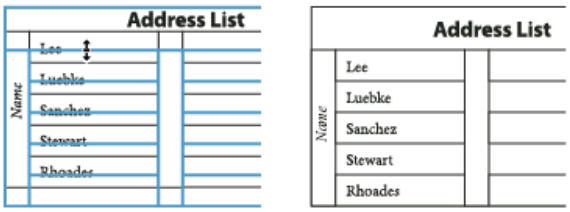
トップへ戻る

列、行および表のサイズを変更する方法はいくつかあります。

列および行のサイズ変更

1. サイズを変更する列または行内のセルを選択するか、テキスト挿入点を置きます。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - 表パネルの「列の幅」で列の幅を、「行の高さ」で行の高さを指定します。
   - 表／セルの属性／行と列の設定を選択し、「行の高さ」および「列の幅」を指定してから、「OK」をクリックします。

     注意： 「最小限度」を選択して行を最小限の高さに設定しておくと、テキストを追加したり、フォントサイズを大きくしたときに、自動的に行の高さが高くなります。「指定値を使用」を選択して行の高さを固定しておくと、セルでテキストの追加や削除を行っても、行の高さは変わりません。行の高さを固定すると、セルがオーバーセットすることがあります（詳しくは、オーバーセットしたセルでの作業を参照してください）。
   - 文字ツールを行または列の境界線に合わせると、上下または左右の矢印アイコン（↔ または ↕）が表示されます。列の幅を変更するには、横組みの場合は左右に、縦組みの場合は上下にドラッグします。行の高さを変更するには、横組みの場合は上下に、縦組みの場合は左右にドラッグします。



ドラッグして行のサイズを変更する前（左）と後（右）

デフォルトでは、行の高さは現在のフォントサイズを基にして決定されます。したがって、テキスト中のフォントサイズまたは行の高さの設定を変更すると、行のサイズが変わります。行の高さの最大値は、セルの属性ダイアログボックスの「行と列の設定」の「最大」の値によって決定されます。

表の幅を変えない行または列のサイズ変更

- Shift キーを押しながら、表の境界線ではなく、行または列の境界線をドラッグします。1 つの行または列が大きくなり、別の行または列が小

さくなります。

- 比率を維持したまま行または列のサイズを変更するには、Shift キーを押しながら、表の右辺または下辺をドラッグします。

Shift キーを押しながら表の右辺（縦組みの場合は下辺）をドラッグすると、すべての列の幅（縦組みの場合は高さ）が比率を維持したままで変更されます。Shift キーを押しながら表の下辺（縦組みの場合は左辺）をドラッグすると、すべての行の高さ（縦組みの場合は幅）が同じ比率で変更されます。

表全体のサイズ変更

❖ 横組みの場合、表の右下隅に文字ツール を合わせ、ポインターが斜め矢印アイコン に変わったら、ドラッグして表のサイズを変更します。表の幅と高さの比率を維持したまま表全体のサイズを変更するには、Shift キーを押しながらドラッグします。
縦組みの場合、表の左下隅に文字ツールを合わせ、ポインターが斜め矢印アイコン に変わったら、ドラッグして表のサイズを変更します。

注意： 表が複数のテキストフレームにまたがっている場合は、マウス操作で表全体のサイズを変更することはできません。

列および行の均等化

1. 同じ幅または高さにしたい列または行にあるセルを選択します。
2. 表／行高の均等化または列幅の均等化を選択します。

トップへ戻る

表の前後のスペースの変更

1. 表の中にテキスト挿入点を置き、表／表の属性／表の設定を選択します。
2. 「表の前のアキ」または「表の後のアキ」で、表の前後の間隔をそれぞれ指定し、「OK」をクリックします。

なお、フレームの最上部にある表の場合は、その表の上にアキを追加することはできません。

トップへ戻る

複数のテキストフレームにまたがる表の分割

表の段落分離禁止オプションを使用すると、分割されない行の数を指定したり、どこで行を分割するか（段組やフレームの先頭など）を指定することができます。

テキストフレームより高い、または長い表を作成した場合、テキストフレームはオーバーセットします。テキストフレームを連結すると、表は連結フレーム間で連続します。連結フレーム内で、表の行はテキストと同様に 1 行ずつ移動します。1 つの行を複数のテキストフレームにまたがって表示させることはできません。新しいフレームに繰り返し表示するヘッダー行またはフッター行を指定します。

1. 目的の行にテキスト挿入点を置くか、分割したくない行のセル範囲を選択します。
2. 表／セルの属性／行と列の設定を選択します。
3. 選択した行が次の行と分割されないようにするには、「次の行と連動」を選択します。
4. 特定の場所で行を分割するには、行の開始位置ポップアップメニューから「次のフレーム」などのオプションを選択してから「OK」をクリックします。

スプレッドの両方のページにまたがる 1 つの表を作成する場合、表の中央に空白の列を追加して、余白を作成できます。

トップへ戻る

表の前へのテキストの追加

表は前後の段落に固定されています。そのため、テキストフレームの先頭に表を挿入した場合は、表よりも前にテキストを挿入しようとしても、そこにテキスト挿入点を置くことができません。このような場合は、矢印キーを使用して表の前にテキスト挿入点を移動することができます。

❖ 次のいずれかの操作を行います。

- 横組みの表の場合、最初のセル内の段落の始めにテキスト挿入点を置き、左向き矢印キーを押して、表の外側にテキスト挿入点を移動してから、テキストを入力します。
- 縦組みの表の場合、最初のセル内の段落の始めにテキスト挿入点を置き、上向き矢印キーを押して、表の外側にテキスト挿入点を移動してから、テキストを入力します。

トップへ戻る

表内のテキストの書式設定

表内のテキストを書式設定する方法は、ドキュメント上のテキストの書式設定と同じです。

表のセルへのタブの挿入

テキスト挿入点が表内にあるとき、Tab キーを押すとテキスト挿入点が次のセルに移動しますが、セル内にタブを挿入することも可能です。表でのタブ設定を定義するには、タブパネルを使用します。タブ設定は、セル内でテキスト挿入点が置かれている段落に適用されます。

1. 文字ツール を使用して、タブを挿入する場所にテキスト挿入点を置きます。
2. 書式／特殊文字の挿入／その他／タブを選択します。

タブの設定を変更する列またはセルを選択し、書式／タブを選択してタブパネルを表示してからタブの設定を調整します。

注意： 通常、タブパネルを使用して 1 つまたは複数のセルに小数点揃えタブを適用する場合、各段落の先頭で Tab キーを押してセル内のテキストを小数点で揃える必要はありません。段落は、小数点揃えタブより優先される中央揃えなどの他の書式が設定されていないかぎり、自動的に小数点で揃えられます。

セル内でのテキストの整列

1. 文字ツール T を使用して、変更するセルを選択します。
2. 表／セルの属性／テキストを選択します。
3. 「テキストの配置」セクションで、「上」あるいは「右」、「中央」、「下」あるいは「左」、「均等配置」のいずれかの配置設定を選択します。

   「均等配置」を選択した場合は、「段落スペース最大値」を指定します。これにより、最大の量のスペースが段落間に加えられるように設定されます（詳しくは、テキストフレーム内のテキストのフレーム揃えを参照してください）。
4. 「先頭ベースライン位置」の「オフセット」からオプションを選択して、横組みの場合はテキストがセルの上端からオフセットされる基準を決定します。縦組みの場合はテキストがセルの右端からオフセットされる基準を決定します。

   この設定は、テキストフレームオプションダイアログボックスの対応する設定と同じです（テキストフレームのプロパティの変更を参照してください）。
5. 「OK」をクリックします。

注意： セル内のテキストの行揃えを変更するには、段落パネルの揃えオプションを使用します。セル内のテキストを小数点揃えタブで揃えるには、タブパネルを使用して小数点揃えタブの設定を追加します。

セル内のテキストの回転

1. テキストを回転させるセルにテキスト挿入点を置くか、そのセルを選択します。
2. 表／セルの属性／テキストを選択するか、表パネルを表示します。
3. 「角度」の値を選択して、「OK」をクリックします。

セル内の余白の変更

1. 文字ツール T を使用して、変更を適用するセルにテキスト挿入点を置くか、そのセルを選択します。
2. 表／セルの属性／テキストを選択するか、表パネルを表示します。
3. 「セルの余白」の「上」、「下」、「左」、「右」で、セル内の上下左右の余白値を指定し、「OK」をクリックします。

多くの場合、セル内の余白を増やすと、行の高さも高くなります。行の高さを固定値で設定している場合は、余白の値を大きくしすぎると、テキストがオーバーセットするので注意してください。

トップへ戻る

セルの結合と分割

表内のセルを結合または分割することができます。

セルの結合

同じ行または列にある複数のセルを 1 つのセルに結合できます。例えば、表タイトル用に使うセルを作成するために、表の最初の行内のセルを結合することができます。

1. 文字ツール T を使用して、結合したい複数のセルを選択します。
2. 表／セルの結合を選択します。

セルを結合しない

❖ 結合したセル内にテキスト挿入点を置き、表／セルを結合しないを選択します。

セルの分割

縦または横にセルを分割することができます。これは表のフォームを作るときに役立ちます。複数のセルを選択して、それらを分割することができます。

1. 分割したいセルにテキスト挿入点を置くか、行、列または複数のセルを選択します。
2. 表／セルを縦に分割またはセルを横に分割を選択します。

トップへ戻る

オーバーセットしたセルでの作業

表のセルは、ほとんどの場合、セルの高さよりも大きいグラフィックやテキストを追加すると、縦方向（横組み）または横方向に拡張されます。ただし、行の高さを固定している場合は、セルよりも大きいテキストやグラフィックを追加すると、セルがオーバーセットします。オーバーセットしているセルでは、小さい赤い点がセルの右下隅（横組み）または左下隅（縦組み）に表示されます。

オーバーセットしたテキストを他のセルに流し込むことはできません。そのため、セルの内容をすべて表示するためには、オーバーセットしたセルやテキストフレームのサイズを拡張したり、挿入する内容をあらかじめ編集しておいたりする必要があります。

インライングラフィック、セル内に配置したテキストフレーム内のテキストは、セルの境界線を越えて表示される場合があります。セルの属性ダイアログボックスの「内容をセル内に入る部分のみ表示」を選択すると、テキストやインライングラフィックがセルの境界線までの部分だけ表示されるようになります。ただし、インライングラフィックがセルの下端（横組みの場合）を越えてオーバーセットしている場合は無効です。

オーバーセットしたセルの内容の表示

❖ 次のいずれかの操作を行います。

- セルのサイズを大きくします。
- テキストの書式を変更します。セルの内容を選択するには、オーバーセットしたセルをクリックし、Esc キーを押します。それから、コントロールパネルを使用してテキストの書式を設定します。

セルからはみ出た画像の一部のクリッピング

画像がセルより大きいと、画像はセルの境界線からはみ出ます。セルの境界線からはみ出た画像の一部はクリッピングすることができます。

1. 内容をクリッピングさせたいセルにテキスト挿入点を置くか、セル全体を選択します。
2. 表／セルの属性／テキストを選択します。
3. 「内容をセル内に入る部分のみ表示」を選択し、「OK」をクリックします。

トップへ戻る

セルの組み方向の変更

1. 組み方向を変更するセルにテキスト挿入点を置くか、そのセルを選択します。
2. 表／セルの属性／テキストを選択します。
3. 組み方向ポップアップメニューからセルの文字組みの方向を選択し、「OK」をクリックします。

また、表パネルの組み方向ポップアップメニューから文字組みの方向を選択することも、セルスタイルを作成するときに「テキスト」セクションで「セル方向と組み方向を逆にする」を選択することもできます。

関連項目

表の作成と書式設定のビデオ

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

表の作成

- 表の作成
- 表へのテキストの追加
- 表へのグラフィックの追加
- 表のヘッダーおよびフッターの追加

表は、セルの行と列で構成されています。セルは、テキスト、アンカー付きフレームおよび表などを追加することができるテキストフレームのようなものです。表は Adobe InDesign CS5 で作成するか、他のアプリケーションから書き出します。

注意：

Adobe InCopy で表の作成、編集、書式設定を行う場合は、レイアウトビューを使用する必要があります。

表の作成

ページの先頭へ

表は、セルの行と列で構成されています。セルは、テキスト、インライングラフィックおよび表などを追加することができるテキストフレームのようなものです。 表は最初から作成することも、既存のテキストから変換して作成することもできます。表内に表を埋め込むこともできます。

新しい表を作成するとき、表はテキストフレーム内に、フレームの幅いっぱいになるように作成されます。テキスト挿入点が行の先頭にある場合は、表は同じ行に挿入されます。テキスト挿入点が行の途中にある場合、表は次の行に挿入されます。

表はインライングラフィックと同じように、ストーリーの中でテキストと共に移動します。例えば、表内のテキストのサイズが変わったり、テキストの追加や削除が行われたりすると、表は現在のフレーム内や連結されたフレーム内で移動します。ただし、表をパステキスト上に作成することはできません。

表の作成および書式設定については、Michael Murphy による Mind Your Table Manners（英語）の記事を参照してください。

表の基本的な設定に関するビデオデモについては、Infiniteskills.com の Jeff Witchel による The basics of setting up tables（英語）を参照してください。

新たな表の作成

InDesign で表を作成する際、既存のテキストフレーム内に表を作成することもできます（表を挿入オプションの使用）。また、表を作成し、InDesign で囲むテキストフレームを作成することもできます（表を作成オプションの使用）。

表の挿入オプションの使用

1. 既存のテキストフレーム内に表を作成するには、文字ツール T を使用して、表を表示する場所に挿入ポイントを配置します。
2. 表／表を挿入を選択します。

   注意：

   カーソルがテキストフレーム内にない場合、表を作成オプションを使用できます。

3. 行数と列数を指定します。
4. 表の内容が複数の段またはフレームまで続く場合には、情報を繰り返すヘッダー行またはフッター行の数を指定します。
5. （オプション手順）表スタイルを指定します。
6. 「OK」をクリックします。

   新しい表はテキストフレーム内に、フレームの幅いっぱいになるように作成されます。

表を作成オプションの使用

表を作成オプションを使用して表を作成するときは、最初にドキュメント内にテキストフレームを作成する必要はありません。ドキュメントで表を描画するとすぐに、描画した表のサイズでテキストフレームが作成されます。

1. テーブル／表を作成を選択します。

   注意：

   カーソルがテキストフレーム内にある場合、表を挿入オプションを使用できます。

2. 行数と列数を指定します。
3. 表の内容が複数の段またはフレームまで続く場合には、情報を繰り返すヘッダー行またはフッター行の数を指定します。
4. （オプション手順）表スタイルを指定します。
5. 「OK」をクリックします。
6. 表カーソルを使用して、必要な表を描画します。

   描画した領域のサイズでテキストフレームが作成され、そのテキストフレーム内に表が配置されます。

表の行の高さは指定した表スタイルを基にして決定されます。例えば、表スタイルにセルスタイルを使用して、表の各部に異なるフォーマットを指定することができます。セルスタイルに段落スタイルが含まれている場合、段落スタイルの行送り値を基にしてその領域の行の高さが決まります。段落スタイルが使用されていない場合、ドキュメントのデフォルトのスラッグ（文字のボディサイズ）によって行の高さが決まります（スラッグは行送り値を基にして決まります。この場合のスラッグとは、テキストを選択したときにハイライト表示される領域のことです）。

既存のテキストからの表の作成

テキストを表に変換する前に、テキストが正確に区切り文字で区切られているかどうかを確認してください。

1. 1 行内を表の列の項目に変換するためには、文字列をタブ、コンマ、改行または他の文字で区切ります。同

様に、行の項目を区切るために、文字列をタブ、コンマ、改行または他の文字で区切ります（多くの場合、テキストは、編集することなく表に変換することができます）。
2. 文字ツールを使用して、表に変換するテキストを選択します。
3. 表／テキストを表に変換を選択します。
4. 「列分解」および「行分解」で、行、列の区切り文字を指定します。「タブ」、「コンマ」または「段落」を選択するか、セミコロン（;）のような、テキストで使用した区切り文字を直接入力します。なお、入力した区切り文字は次回から「列分解」と「行分解」のリストに表示されるようになります。
5. 行と列に同じ区切り文字を使用した場合は、「列数」で作成する列数を指定します。
6. （オプション手順）表スタイルを指定して表に書式を設定します。
7. 「OK」をクリックします。

変換するテキストの行の項目数が列数より少ない場合は、空白のセルで補間されます。

表内への表の埋め込み

1. 次のいずれかの操作を行います。
    - 埋め込むセルまたは表を選択してから、編集／カットまたはコピーを選択します。埋め込み先のセルにテキスト挿入点を置き、編集／ペーストを選択します。
    - セルの内側をクリックしてから、表／表を挿入を選択し、行と列の数を指定してから「OK」をクリックします。
2. 必要に応じてセルの余白を調整してください（表内のテキストの書式設定 を参照してください）。

セル内に表を作成する場合、セルの境界線をオーバーセットしている表のいずれの部分も、ドラッグでは選択することができません。代わりに行または列を拡張するか、表の最初の部分にテキスト挿入点を置き、ショートカットキーを使用してテキスト挿入点を移動してテキストを選択します。

他のアプリケーションからの表の読み込み

「配置」コマンドを使用して、表や Microsoft Excel のスプレッドシートを含む Microsoft Word ドキュメントを読み込むと、読み込んだデータは編集可能な表になります。読み込みオプションダイアログボックスを使って書式設定を制御できます。

また、Excel や Word のデータを InDesign ドキュメントまたは InCopy ドキュメントにペーストすることもできます。環境設定の「クリップボードの処理」の設定によって他のアプリケーションからペーストするテキストの書式が決まります。「テキストのみ」が選択されていれる場合、データは書式設定されていないタブ付きテキストとして表示されます。このテキストは表に変換することができます。「すべての情報」が選択されていれる場合、ペーストしたテキストは書式設定された表として表示されます。

他のアプリケーションから既存の表にテキストをペーストする場合、対象テキストのペーストに必要な数の行と列を挿入し、「クリップボードの処理」環境設定の「テキストのみ」を選択して、少なくとも 1 つのセルが選択されていることを確認します（ペーストしたテキスト表をセルに埋め込む場合以外）。

読み込んだ表の書式をさらに詳細に制御したい場合、またはスプレッドシートの書式を維持したい場合は、「配置」コマンドを使用して表を読み込みます。スプレッドシートへのリンクを維持する場合は、環境設定の「ファイル管理」で、「テキストおよびスプレッドシートファイルを配置するときにリンクを作成」オプションを選択します。

タブ付きテキストをテーブルセルの選択した範囲にコピー＆ペーストすることもできます。書式を保持しながら内容を置き換える場合は、この方法が便利です。例えば、月刊雑誌の書式付きの表の内容を更新するとします。1 つ

の方法としては、Excel スプレッドシートにリンクすることができます。ただし、内容が別のソースに属する場合は、新しい内容を含むタブ付きテキストをコピーし、InDesign の書式設定された表でセルの範囲を選択してペーストします。

表へのテキストの追加

ページの先頭へ

セルにはテキスト、アンカー付きオブジェクト、XML タグおよび表を追加することができます。テキストを追加するには、キー入力、コピー＆ペーストまたは配置のいずれかで行います。追加する行の高さは、指定値に設定しないかぎり、追加したテキストが表示されるように自動的に拡張されます。表に脚注を追加することはできません。

- 文字ツールを使用して、次のいずれかの操作を行います。

    - テキストを追加するセル内にテキスト挿入点を置き、テキストを入力します。同じセル内に新規の段落を作成してテキストを追加する場合は、Enter キーまたは Return キーを押して段落を作成します。Tab キーを押すと、次のセルに移動します（最後のセルで Tab キーを押すと、新しい行が挿入されます）。Shift+Tab キーを押すと、逆向きに次のセルに移動します。
    - テキストをコピーし、セル内にテキスト挿入点を置いてから、編集／ペーストを選択します。
    - テキストを追加するセル内の位置にテキスト挿入点を置き、ファイル／配置を選択してから、ダイアログボックスでテキストファイル名をダブルクリックします。

表へのグラフィックの追加

ページの先頭へ

- 必要に応じて次の操作を行います。

    - グラフィックを追加する位置にテキスト挿入点を置き、ファイル／配置を選択してから、ダイアログボックスでグラフィックのファイル名をダブルクリックします。
    - グラフィックを追加する位置にテキスト挿入点を置き、オブジェクト／アンカー付きオブジェクト／挿入を選択してから、設定を行います。アンカー付きオブジェクトには後からグラフィックを追加することができます。
    - グラフィックまたはフレームをコピーし、テキスト挿入点を置いてから、編集／ペーストを選択します。

セルよりも大きいグラフィックを追加するとき、セルの高さはグラフィックが収まるサイズに拡張しますが、セルの幅は変わりません。このときグラフィックはセルの右側からはみ出た状態になります。高さが固定されている行に、その高さより高いグラフィックを挿入すると、セルはオーバーセットします。

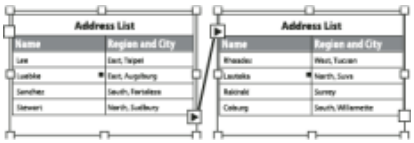
セルのオーバーセットを避けるには、表の外側に画像を置いてセルの大きさに合わせて、画像のサイズを変更してから、セル内に画像をペーストします。

表のヘッダーおよびフッターの追加

ページの先頭へ

大きな表の場合、複数の段組、フレームまたはページにまたがって作成されます。ヘッダー行またはフッター行を使用すると、表の先頭行および最終行を、複数に分割された表の各部分の上部または下部に繰り返して表示することができます。

ヘッダー行とフッター行は、表を作成するときに追加することができます。また、表の属性ダイアログボックスでも追加および表示方法の変更を行うことができます。さらに、本文行をヘッダー行またはフッター行に変換することも可能です。



フレームごとに繰り返し表示されるヘッダー行

表 1A、表 1B といった具合に、表に順番に番号付けするには、表のヘッダーまたはフッターに変数を追加します（図表の連続キャプションの作成を参照してください）。

既存の行のヘッダー行またはフッター行への変換

1. ヘッダー行に変換する先頭行、またはフッター行に変換する最終行を選択します。
2. 表／行の変換／ヘッダーにまたはフッターにを選択します。

ヘッダー行またはフッター行のオプションの設定

1. 表内にテキスト挿入点を置き、表／表の属性／ヘッダーとフッターを選択します。
2. ヘッダー行またはフッター行の数を指定します。「ヘッダー行」または「フッター行」に行数を入力すると、表の上部または下部に空白の行が追加されます。
3. 「ヘッダーを繰り返し」または「フッターを繰り返し」からヘッダー行またはフッター行の表示方法を選択します。
4. 「テキスト行ごとに反復」を選択すると段組の段ごとに（テキストフレームに段組がある場合）、「フレームごとに 1 度」を選択するとテキストフレームごとに、「ページごとに 1 度」を選択するとページごとに、ヘッダー行またはフッター行が表示されます。「最初のヘッダーをスキップ」または「最後のフッターをスキップ」を選択すると、表の最初のヘッダー行、または表の最後のフッター行が表示されなくなります。

   「最初のヘッダーをスキップ」オプションは、ヘッダーやフッターが継続されることを示す場合に便利です。例えば、複数のページにまたがる表で、ヘッダーのテキストを「表 2（続き）」のようにしたいとします。表の先頭では「（続き）」と表示する必要がないので、「最初のヘッダーをスキップ」を選択し、表の最初の行に「表 2」と入力します。

5. 「OK」をクリックします。

行と列の操作

同様の行と列を作成または複製するための様々な機能を実行できます。

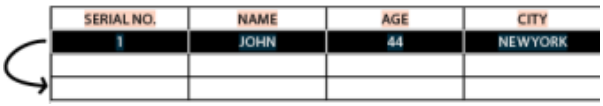
主に、表の行と列に対して次の機能を実行できます。

- 表の行と列を同じ表内のある位置から別の位置へドラッグ＆ドロップします。
- 行と列を複製します。
- 行と列を別の行 / 列の前後にペーストします
- 行の内容を列に、列の内容を行にコピーします。

行 / 列のドラッグ&ドロップおよび複製

表の行と列を同じ表内のある位置から別の位置へ移動できます。行 / 列をドラッグ&ドロップおよび複製するには、次の手順に従ってください。

1. 別の行または列にドラッグ＆ドロップする行または列を選択します。行または列全体を選択してください。行または列が部分的に選択されている場合、ドラッグ＆ドロップはできません。
2. 選択した行の上にカーソルを置くと、選択範囲を移動できることを示すアイコンが表示されます。
3. 項目行はドラッグ&ドロップできます。列と行を入れ替えることができます。ドラッグした行は行としてのみドロップ、ドラッグした列は列としてのみドロップされます。



行と列のドラッグ＆ドロップ

行をある位置から別の位置へ移動しても、行の合計数は同じ 3 行のままです。

注意：

ドラッグ＆ドロップは同じ表内でのみ操作できます。

4. 行または列を複製するには、行または列を選択して Alt（Windows）キーまたは Option（Mac）キーを押すか押したままにします。隣接する複数の行または列を選択してドラッグ＆ドロップできます。
5. 選択した行または列を目的の位置までドラッグ&ドロップします。行または列の合計数は、選択したエンティティが複製されるので増加します。

   また、ヘッダー行やフッター行の内容を本文行にコピーすることもできます（Alt／Opt キーを押します）。同様に、本文行を複製してヘッダー行とフッター行に変換することもできます。

Alt キーまたは Option キーを使用して行を複製する場合を除き、ヘッダー行はヘッダーセクション内でのみドラッグ＆ドロップできます（ヘッダー行が複数ある場合にのみ機能）。Alt キーまたは Option キーを使用して行を複製する場合を除き、本文行はヘッダーセクションにドラッグ＆ドロップできません。

行 / 列をコピーし、前後にペーストします。

選択した行の前後に行をコピー＆ペーストできます。前にペーストまたは後にペーストワークフローを使用して、表の行 / 列をコピーし、別の表にペーストすることもできます。

1. 行 / 列を選択します。
2. 列または行を選択します。
3. 表／前にペーストまたは後にペーストを選択します。

ヘッダー行またはフッター行の削除

- 必要に応じて次の操作を行います。

- ヘッダー行またはフッター行にテキスト挿入点を置き、表／行の変換／本文にを選択します。
- 表／表の属性／ヘッダーとフッターを選択し、「ヘッダー行」または「フッター行」で現在より少ない行数を指定します。

関連項目

- 表の書式設定
- テキストの配置（読み込み）
- 列、行、表のサイズ変更
- オーバーセットしたセルでの作業
- アイテムのタグ付け
- 複数のテキストフレームにまたがる表の分割
- ランニングヘッダーとランニングフッター用の変数の作成

Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

表の選択と編集

表のセル、行および列の選択
行および列の挿入
行、列または表の削除
テキストフレーム内での表の整列
テーブルの操作
表の内容のカット、コピーおよびペースト
表の移動またはコピー
表のテキストへの変換
表の結合
ストーリーエディターでの表の操作

トップへ戻る

表のセル、行および列の選択

セル内の一部またはすべてのテキストを選択したとき、選択範囲の外観は通常のテキストを選択した場合と同じです。しかし、複数のセルを選択したときには、セルとセル内容の両方が選択されます。

表が複数のテキストフレームにまたがっている場合、最初のヘッダー行またはフッター行以外のヘッダー行またはフッター行にマウスポインターを合わせると、その行のテキストまたはセルを選択できないことを示すロックアイコンが表示されます。ヘッダー行またはフッター行のセルを選択するには、表の先頭に移動します。

セルの選択

❖ 文字ツール T を使用して、次のいずれかの操作を行います。

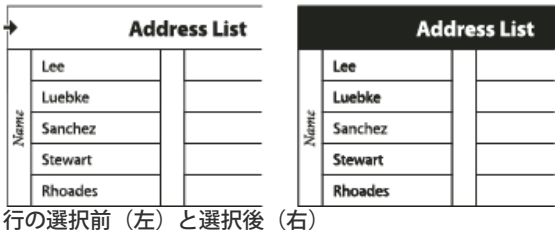
- 1 つのセルを選択するには、セルの内側をクリックするか、表内のテキストを選択してから、表／選択／セルを選択します。
- 複数のセルを選択するには、最初のセルをクリックしてから最後のセルまでドラッグします。列または行の境界線をドラッグしないよう注意してください。表のサイズが変わってしまいます。

  セル内のすべてのテキストを選択するか、セルを選択するかを切り替えるには、Esc キーを押します。

列全体または行全体の選択

❖ 文字ツール T を使用して、次のいずれかの操作を行います。

- セルの内側をクリックするか、テキストを選択してから、表／選択／列または行を選択します。
- 表の上辺か、左辺（横組みの場合）または右辺（縦組みの場合）の境界線上に文字ツールを置き、ポインターの形が矢印アイコンに（↓ または →）変わったら、クリックして 1 列または 1 行全体のセルを選択します。



行の選択前（左）と選択後（右）

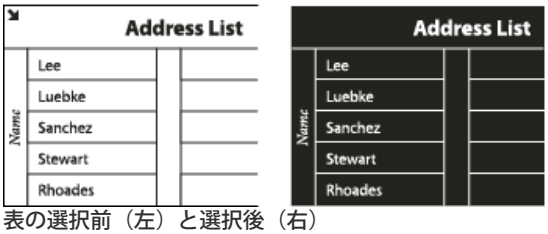
すべてのヘッダー行、本文行またはフッター行の選択

1. 表の内側をクリックするか、表内のテキストを選択します。
2. 表／選択／ヘッダー行、本文行またはフッター行を選択します。

表全体の選択

❖ 文字ツール T を使用して、次のいずれかの操作を行います。

- 表の内側をクリックするか、テキストを選択してから、表／選択／表を選択します。
- 表の左上隅（横組みの場合）または右上隅（縦組みの場合）の境界線上に文字ツールを置き、ポインターの形が矢印アイコン ↘ に変わったら、クリックして、表全体を選択します。



表の選択前（左）と選択後（右）

- 文字ツールでドラッグして表全体を選択します。

  アンカー付きグラフィックの選択と同じ方法で、表を選択することもできます。テキストフレーム内で表の直前または直後にテキスト挿入点を置き、横組みの場合は Shift+ 右向き矢印キーまたは Shift+ 左向き矢印キーを押して、縦組みの場合は Shift+ 下向き矢印キーまたは Shift+ 上向き矢印キーを押して、表全体を選択します。

トップへ戻る

行および列の挿入

行および列を挿入する方法はいくつかあります。

行の挿入

1. 行を挿入する位置の上（または右）か、下（または左）の行のセル内にテキスト挿入点を置きます。
2. 表／挿入／行を選択します。
3. 挿入する行数を指定します。
4. 新たに挿入される行が、現在の行の上または下（横組み）、あるいは右または左（縦組み）のどちらに挿入されるかを指定してから、「OK」をクリックします。

新しいセルは、テキスト挿入点が置かれた行のテキストと同じ書式設定になります。

テキスト挿入点が最後のセルにある場合は、Tab キーを押して新規の行を作成することができます。

列の挿入

1. 列を挿入する位置の右（または上）か、左（または下）の列のセル内にテキスト挿入点を置きます。
2. 表／挿入／列を選択します。
3. 挿入する列数を指定します。
4. 新たに挿入される列が、現在の列の右または左（横組み）、あるいは上または下（縦組み）のどちらに挿入されるかを指定してから、「OK」をクリックします。

新しいセルは、テキスト挿入点が置かれた列のテキストと同じ書式設定になります。

複数の行および列の挿入

1. セルの中にテキスト挿入点を置き、表／表の属性／表の設定を選択します。
2. 「本文行」、「列」で行と列のそれぞれの数を指定してから、「OK」をクリックします。

新しい行が表の最終行に、または列が表の最終列に追加されます。

表パネルを使用して行および列の数を変更することもできます。表パネルを表示するには、ウィンドウ／書式と表／表を選択します。

ドラッグによる行または列の挿入

ドラッグして複数の列を挿入するとき、列の幅の 1.5 倍以上をドラッグした場合は、ドラッグした列と同じ幅の新規の列が 2 列追加されます。ドラッグして 1 列のみを挿入する場合は、その列はドラッグした列より狭い幅、または広い幅にできます。これらの動作は、ドラッグされる行の「行の高さ」の設定が「最小限度」でない場合は、行についても同じです。この場合、ドラッグして 1 行だけを挿入するとき、InDesign は必要に応じて新規の行をテキストが含まれるのに十分な高さに調整します。

1. 文字ツール T を列または行の境界線に合わせると、上下または左右の矢印アイコン（↔ または ↕）が表示されます。
2. マウスボタンを押したまま、次に Alt キー（Windows）または Option キー（Macintosh）を押しながら、横組みの場合は下または右へ、縦組みの場合は下または左へドラッグして、行または列を作成します（マウスボタンを押す前に Alt キー（Windows）または Option キー（Macintosh）を押すと、手のひらツールに変わってしまうので、マウスボタンを押してから Alt キー（Windows）または Option キー（Macintosh）を押すようにしてください）。

注意： 横組みの表の上辺または左辺の境界線、または縦組みの表の上辺または右辺の境界線では、ドラッグして行または列を挿入することはできません。これらのフィールドは、行または列を選択するのに使用されます。

トップへ戻る

行、列または表の削除

- 行、列または表を削除するには、テキスト挿入点を表の内側に置くか、表内のテキストを選択してから、表／削除／行、列または表を選択し

ます。

- 表の属性ダイアログボックスを使用して行および列を削除するには、表／表の属性／表の設定を選択します。「本文行」、「列」で行と列のそれぞれの数を指定してから、「OK」をクリックします。行が表の最終行から、または列が表の最終列から削除されます。
  注意： 縦組みの表では、列は表の左端から、行は表の一番下から削除されます。
- マウスを使用して行または列を削除するには、文字ツールを表の下辺か右辺（横組みの場合）または左辺（縦組みの場合）に合わせ、左右または上下の矢印アイコン（↔ または ↕）が表示されたら、マウスボタンを押したまま、次に Alt キー（Windows）または Option キー（Macintosh）を押しながら、横組みの場合は上または左へ、縦組みの場合は上または右へドラッグして、行または列を削除します。ただし、表にフッターがある場合は、この操作による行の削除はできません。
  注意： マウスボタンを押す前に Alt キー（Windows）または Option キー（Macintosh）を押すと、手のひらツールに変わってしまうので、マウスボタンを押してから Alt キー（Windows）または Option キー（Macintosh）を押すようにしてください。
- セルを削除せずに、セルの内容だけを削除するには、削除するテキストが含まれているセルを選択するか、文字ツール T を使用してセル内のテキストを選択します。Backspace キー（Windows）または Delete キー（Macintosh）を押すか、編集／消去を選択します。

トップへ戻る

テキストフレーム内での表の整列

表が作成されるときの幅は、その表が挿入される段落またはセルの幅と同じです。しかし、テキストフレームまたは表のサイズを変更して表の幅をテキストフレームより大きくしたり小さくしたりすることができます。そうした場合に、表が段落内のどこに整列するかを、行揃えによって指定することができます。

1. 表の右または左にテキスト挿入点を置きます。テキスト挿入点が表内ではなく、テキストフレームの表がある段落に置かれていることを確認してください。その場合、テキスト挿入点の長さは表の高さと同じになります。
2. 段落パネルまたはコントロールパネルで行揃えボタン（「中央揃え」など）をクリックします。

トップへ戻る

テーブルの操作

表内を移動するには、Tab キーまたは矢印キーを使用します。特定の行にジャンプすることもできます。この機能は長い表の場合に特に便利です。

Tab キーを使用した表内の移動

- Tab キーを押すと、次のセルに移動します。表の最後のセルで Tab キーを押すと、新しい行が作成されます。表内でのタブおよびインデントの挿入について詳しくは、表内のテキストの書式設定を参照してください。
- Shift+Tab キーを押すと、1 つ前のセルに移動します。表の最初のセルで Shift+Tab キーを押すと、テキスト挿入点は表内の最後のセルに移動します。
  最初のセル、最後のセル、前のセル、次のセルは、テキストの組み方向によって異なります。横組みの表では、最初のセルは左上隅、最後のセルは右下隅、前のセルは左側のセル（左端のセルの前のセルは 1 つ上の行の右端のセル）、次のセルは右側のセル（右端のセルの次のセルは 1 つ下の行の左端のセル）になります。縦組みの表では、最初のセルは右上隅、最後のセルは左下隅、前のセルは上側のセル（上端のセルの前のセルは 1 つ右の行の一番下のセル）、次のセルは下側のセル（下端のセルの次のセルは 1 つ左の行の一番上のセル）になります。

矢印キーを使用した表内の移動

❖ 縦組みの表では、テキスト挿入点が行の最後のセルのテキストの末尾にあるとき、下向き矢印キーを押すと、テキスト挿入点は同じ行の最初のセルのテキストの始点に移動します。同じように、縦組みの表では、テキスト挿入点が列の最後のセルのテキストの末尾にあるとき、左向き矢印キーを押すと、テキスト挿入点は同じ列の最初のセルの始点に移動します。

表内の特定の行へのジャンプ

1. 表／指定行へ移動を選択します。
2. 必要に応じて次の操作を行います。
   - ジャンプ先の行番号を指定し、「OK」をクリックします。
   - 現在の表にヘッダー行またはフッター行が設定されている場合は、ポップアップメニューから「ヘッダー」または「フッター」を選択し、「OK」をクリックします。

トップへ戻る

表の内容のカット、コピーおよびペースト

セル内で選択されているテキストには、カット、コピーおよびペーストの操作を、テキストフレームでのテキストとまったく同じように行うことができます。また、セルとセルの内容を一括してカット、コピーおよびペーストすることもできます。ペーストするときにテキスト挿入点が表内にある場合は、ペーストされた複数のセルは表内に表として挿入されます。また、表全体をカットしたりコピーしたりすることもできます。

1. カットまたはコピーするセルを選択してから、編集／カットまたはコピーを選択します。
2. 必要に応じて次の操作を行います。
   - 表内に表を埋め込むには、表を配置するセル内にテキスト挿入点を置き、編集／ペーストを選択します。

- 既存のセルを置き換えるには、表内のセルを選択し、編集／ペーストを選択します。選択したセルの下側または右側（横組み）、あるいは下側または左側（縦組み）にペーストに十分なセルがあることを確認してからペーストを行ってください。

トップへ戻る

表の移動またはコピー

1. 表内にテキスト挿入点を置き、表／選択／表を選択して、表全体を選択します。
2. 編集／カットまたはコピーを選択して、選択した表をコピーしてから、表をコピーまたは移動する位置にテキスト挿入点を置き、編集／ペーストを選択します。

トップへ戻る

表のテキストへの変換

1. 文字ツール T を使用して、テキスト挿入点を表の内側に置くか、表内のテキストを選択します。
2. 表／表をテキストに変換を選択します。
3. 「列分解」および「行分解」で、テキスト変換後に挿入する区切り文字を選択するか入力します。

   最良の結果を得るには、「列分解」に「タブ」、「行分解」に「段落」のように、列と行に異なる区切り文字を使用してください。
4. 「OK」をクリックします。

表をテキストに変換するとき、表の罫線は削除され、各行と各列の末尾に指定した区切り文字が挿入されます。

トップへ戻る

表の結合

複数の表を結合して 1 つの表にするには、「ペースト」コマンドを使用します。

1. 結合後の表には、少なくとも結合前の各表からペーストする行数に相当する空白の行を挿入します（挿入した行がコピーされる行より少ないと、ペーストできなくなります）。
2. 結合前の表で、コピーするセルを選択し、編集／コピーを選択します（結合後のテーブルで使用可能な列のセルより多くコピーすると、ペーストできません）。
3. 行が挿入されるセルを少なくとも 1 つ選択して、編集／ペーストを選択します。

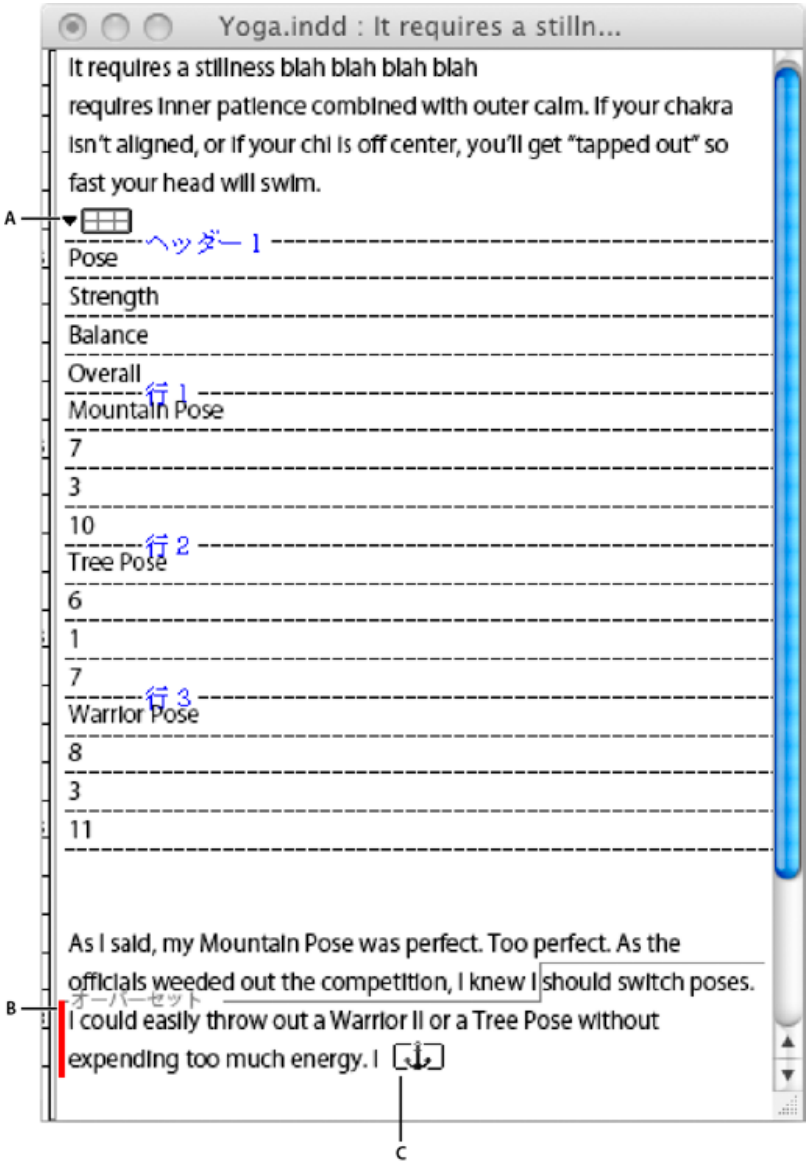
   ペーストされる行で表の残りと異なる書式設定が使用される場合は、1 つ以上のセルスタイルを定義し、ペーストされたセルに適用します。Alt キー（Windows）または Option キー（Macintosh）を押しながらセルスタイルをクリックすると、既存の書式設定がオーバーライドされます。

表の結合については、Anne-Marie Concepcion による Joining Tables（英語）の記事を参照してください。

トップへ戻る

ストーリーエディターでの表の操作

編集／ストーリーエディターで編集を選択すると、表とその内容がストーリーエディターに表示されます。ストーリーエディターで表を編集することができます。



ストーリーエディターでの表の編集
A. 表アイコン **C.** オーバーセットグラフィック

- ストーリーエディターで表を展開するまたは折りたたむには、表最上部の表アイコンの左側の三角形をクリックします。
- 表のソート順を行と列のいずれかで指定するには、表アイコンを右クリック（Windows）するか、Control キーを押しながらクリック（Macintosh）し、「行ごとに配置」または「列ごとに配置」を選択します。
- 表の変更や書式設定をするには、レイアウトビューを使用します。ストーリーエディターでは列や行を選択できません。

関連項目

(cc) BY-NC-SR

法律上の注意 | プライバシーポリシー

表の罫線および塗り

表の罫線および塗りについて
表の境界線の変更
セルへの罫線や塗りの設定
セルへの斜線の追加
表の罫線および塗りのオプション
表の罫線および塗りの反復パターン

表の罫線および塗りについて

トップへ戻る

様々な方法で表に罫線および塗りを追加することができます。表の属性ダイアログボックスを使用して、表の境界線の線種や色を設定したり、それとは別に行や列に罫線と塗りを設定したりすることができます。個々のセルまたはヘッダー / フッターセルの罫線および塗りを変更するには、セルの属性ダイアログボックスを使用するか、スウォッチパネル、線パネル、カラーパネルを使用します。

デフォルトでは、表の属性ダイアログボックスで設定したフォーマットは、セルに適用したすべてのフォーマットに優先されるようになっています。ただし、表の属性ダイアログボックスで「直接設定した部分を保持」を選択すると、個々のセルに適用した線や塗りは、表全体の属性の変更に影響されないようになります。

複数の表またはセルに同じ書式設定を繰り返す場合は、表スタイルまたはセルスタイルを作成して適用します。

表の境界線の変更

トップへ戻る

表の設定ダイアログボックスまたは線パネルを使用して、表の境界線を変更することができます。

1. セルの中にテキスト挿入点を置き、表／表の属性／表の設定を選択します。
2. 「表の境界線」で、境界線の幅、種類、色、濃淡および間隔の設定を指定します（詳しくは、表の罫線および塗りのオプションを参照してください）。
3. 「罫線のアレンジ」で、次のオプションのいずれかを選択します。
   行と列の結合を最適化 異なる色の罫線が交差する部分で、行の罫線が前面に表示されます。また、二重線などが交差する場合、罫線同士が結合し、交差する部分がつながります。

   行の罫線を前面へ 行の罫線が、前面に表示されます。

   列の罫線を前面へ 列の罫線が、前面に表示されます。

   InDesign 2.0 ベース 行の罫線が、前面に表示されます。また、二重線などが交差する場合、T 字に罫線が交差する部分だけ、罫線同士が結合し、交差する部分がつながります。
4. 個々のセルの境界線の書式を上書きしたくない場合は、「直接設定した部分を保持」を選択します。
5. 「OK」をクリックします。

表示／エクストラ／フレーム枠を表示を選択して、セルの境界線を表示しておくと、表の罫線や塗りを削除しても表がどこにあるかを見失うことがありません。

セルへの罫線や塗りの設定

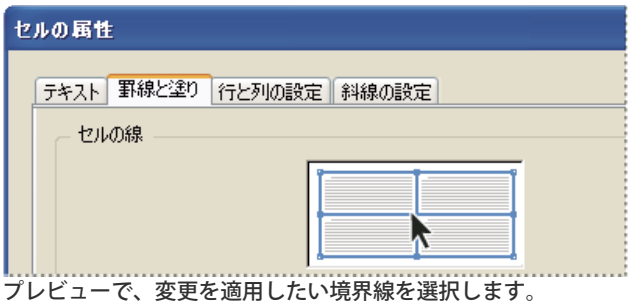
トップへ戻る

セルに罫線や塗りを設定するには、セルの属性ダイアログボックス、線パネル、またはスウォッチパネルを使用します。

セルの属性ダイアログボックスを使用した罫線や塗りの設定

セルの属性ダイアログボックスのプレビューでは、セルのどの境界線に罫線を設定するかを指定して、境界線ごとに異なる設定を行うことができます。表のすべての行または列の外観を変更する場合は、罫線または塗りの反復パターンを使用します（2 つ目のパターンは 0 に設定）。

1. 文字ツール T を使用して、罫線または塗りを設定したいセルにテキスト挿入点を置くか、そのセルを選択します。ヘッダー行またはフッター行に罫線または塗りを設定するには、表の先頭のヘッダーまたはフッターセルを選択します。
2. 表／セルの属性／罫線と塗りを選択します。
3. プレビューで、罫線を設定する境界線を選択します。例えば、選択したセル範囲の外側だけに太い罫線を設定する場合は、内側の境界線をクリックして選択解除します。選択されている境界線は青で、選択解除されている境界線はグレーで表示されます。



プレビューで、変更を適用したい境界線を選択します。

プレビューで、外側の境界線のいずれかをダブルクリックすると、選択したセル範囲の外枠が選択または選択解除されます。内側の境界線のいずれかをダブルクリックすると、内側の境界線がすべて選択または選択解除されます。また、いずれかの境界線を 3 回クリックすると、すべての境界線が選択または選択解除されます。

4. 「セルの線」で、境界線の幅、種類、色、濃淡および間隔を指定します（詳しくは、表の罫線および塗りのオプションを参照してください）。
5. 「セルの塗り」で、セル内の塗りのカラーおよび濃淡を指定します。
6. 設定した色をオーバープリントする場合は、「線オーバープリント」、「塗りオーバープリント」、「間隔オーバープリント」を選択し、「OK」をクリックします。

線パネルを使用したセルへの罫線の設定

1. 設定を適用するセルを選択します。ヘッダーセルまたはフッターセルに罫線を設定する場合は、罫線を設定するヘッダー行またはフッター行を選択します。
2. ウィンドウ／線を選択して、線パネルを表示します。
3. プレビューで、罫線を設定する境界線を選択します。
4. ツールパネルで、線と塗りボックスの下にあるオブジェクトボタン が選択されていることを確認してください（テキストボタン が選択されている場合は、線の変更はセルではなくテキストに適用されます）。
5. 線の幅および種類を指定します。

セルへの塗りの設定セルへの塗りの設定

1. 設定を適用するセルを選択します。ヘッダーセルまたはフッターセルに塗りを設定する場合は、塗りを設定するヘッダー行またはフッター行を選択します。
2. ウィンドウ／カラー／スウォッチを選択して、スウォッチパネルを表示します。
3. スウォッチパネルの線と塗りボックスの右にあるオブジェクトボタン が選択されていることを確認してください（テキストボタン が選択されている場合は、塗りの変更はセルではなくテキストに適用されます）。
4. スウォッチを選択します。

セルへのグラデーションの設定セルへのグラデーションの設定

1. 適用するセルを選択します。ヘッダーセルまたはフッターセルにグラデーションを設定する場合は、グラデーションを設定するヘッダー行またはフッター行を選択します。
2. ウィンドウ／カラー／グラデーションを選択してグラデーションパネルを表示します。
3. 「グラデーションの塗り」をクリックして、選択したセルにグラデーションを適用します。必要に応じてグラデーションの設定を調整してください。

トップへ戻る

セルへの斜線の追加

1. 文字ツール を使用して、斜線を追加するセルにテキスト挿入点を置くか、そのセルを選択します。
2. 表／セルの属性／斜線の設定を選択します。
3. 追加する斜線の種類のボタンをクリックします。
4. 「斜線」で、斜線の幅、カラー、種類および濃淡と、斜線の間のカラーおよび濃淡を指定します。斜線または斜線の間をオーバープリントする場合は、「線オーバープリント」または「間隔オーバープリント」を選択します。
5. 「アレンジ」から、セルの内容の前面に斜線を引く場合は「前面に斜線」を、セルの内容の背面に斜線を引く場合は「前面に内容」を選択して、「OK」をクリックします。

トップへ戻る

表の罫線および塗りのオプション

表またはセルの罫線および塗りを設定するには、次のオプションを使用します。

線幅 表またはセルの罫線の幅を指定します。

タイプ 二重線など、罫線の種類を指定します。
カラー 表またはセルの罫線の色を指定します。ポップアップメニューに表示される項目は、スウォッチパネルで表示されるスウォッチと同じです。
濃淡 罫線または塗りに指定した色の濃淡のパーセンテージを指定します。
間隔のカラー 点線、点または線の間の領域に色を適用します。このオプションは、線の種類として「ベタ」を選択した場合は使用できません。
間隔の濃淡 点線、点または線の間の領域に濃淡を適用します。このオプションは、線の種類として「ベタ」を選択した場合は使用できません。
オーバープリント このオプションを選択すると、罫線、線の間、塗りに指定した色がそれぞれオーバープリントされます。

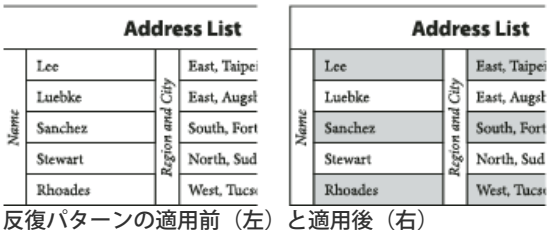
トップへ戻る

表の罫線および塗りの反復パターン

表の罫線および塗りに反復するパターンを設定すると、細かい表を見やすくしたり、表を複雑な外観にしたりすることができます。表の行の罫線と塗りの反復パターンは、ヘッダー行およびフッター行の外観には影響しませんが、表の列の罫線と塗りの反復パターンは、ヘッダー行およびフッター行の外観に影響します。

罫線および塗りの反復パターンの設定は、表の属性ダイアログボックスで「直接設定した部分を保持」が選択されていないかぎり、セルの罫線および塗りの書式を上書きします。

罫線および塗りの反復パターンの設定を使用して、表内のすべての本文行セルに罫線または塗りを適用することも可能です。このようなパターンを適用するには、「次」テキストボックスを 0 に設定します。



反復パターンの適用前（左）と適用後（右）

表に反復パターンの罫線を設定

1. セル内にテキスト挿入点を置き、表／表の属性／行の罫線または列の罫線を選択します。
2. 「パターンの繰り返し」から、適用する反復パターンの種類を選択します。例えば、太い黒い線 1 行（または列）に続いて細い黄色い線 3 行（または列）というようなパターンを設定する場合は、「行（または列）の反復をカスタム」を選択します。
3. 「塗りの繰り返し」で、最初のパターンと次のパターンの塗りに関するオプションを指定します。例えば、最初の行に太い線を、次の行に細い線を設定すると、太い線と細い線が交互に繰り返されるようになります。すべての行または列を同じ線にするには、「次」テキストボックスを 0 に設定します。
   注意： 複数のフレームにまたがる表の罫線および塗りの反復パターンは、2 フレーム以降では最初から開始されません（詳しくは、複数のテキストフレームにまたがる表の分割を参照してください）。
4. 個々のセルの罫線を上書きしたくない場合は、「直接設定した部分を保持」を選択します。
5. 「最初の行（または列）をスキップ」と「最後の行（または列）をスキップ」で、表内で罫線を設定しない最初と最後の行または列の数を指定してから、「OK」をクリックします。

表に反復パターンの塗りを設定

1. セルの中にテキスト挿入点を置き、表／表の属性／塗りのスタイルを選択します。
2. 「パターンの繰り返し」から、適用する反復パターンの種類を選択します。例えば、1 行目をグレーで塗りつぶした後に 3 行を黄色で塗りつぶすというようなパターンを設定する場合は、「行（または列）の反復をカスタム」を選択します。
3. 「塗りの繰り返し」で、最初のパターンと次のパターンの塗りに関するオプションを指定します。例えば、「パターンの繰り返し」で「2 行ごとに反復」を選択し、最初の 2 行にグレーの濃淡を、次の 2 行に「なし」を設定すると、グレー濃淡と色なしが 2 行ずつ繰り返されます。すべての行または列を同じ塗りにするには、「次」テキストボックスを 0 に設定します。
4. 個々のセルの塗りを上書きしたくない場合は、「直接設定した部分を保持」を選択します。
5. 「最初の行（または列）をスキップ」と「最後の行（または列）をスキップ」で、表内で塗りを設定しない最初と最後の行の数を指定してから、「OK」をクリックします。

表の罫線および塗りの反復パターンの無効化

1. 表内にテキスト挿入点を置きます。
2. 表／表の属性／行の罫線、列の罫線または塗りのスタイルを選択します。
3. 「パターンの繰り返し」から「なし」を選択し、「OK」をクリックします。

関連項目

(cc) BY-NC-SA

インタラクティビティ

モーションパスの作成（ビデオ 8:17）
Anne-Marie Concepcion (2011/01/01)
チュートリアル - ビデオ
InDesign で画像やテキストをアニメーション化できるように、モーションパスプリセットを編集してカスタマイズする方法を紹介します。

相互参照の作成（ビデオ 5:45）、CS4 ～ CS6（英語）
David Blatner (2011/01/01)
チュートリアル - ビデオ
相互参照の追加方法を順を追って説明します。ターゲットテキストやページ番号割り付けが変更されたときにすばやく更新できるように、相互参照を作成します。カスタム相互参照形式を作成します。

インタラクティブな機能を持つドキュメントの作成（ビデオ 13:42）
Anne-Marie Concepcion (2011/01/01)
チュートリアル - ビデオ
メディアパネル、プレビューパネルおよびタイミングパネルを使用して、いつ何が実行されるかを調べる方法を説明します。

簡単なインタラクティブドキュメントの作成（PDF、201 KB）（英語）
参照 (2011/01/01)
インタラクティビティをドキュメントに追加する方法に関する便利なチュートリアルです。

マルチステートオブジェクトの作成（PDF、203 KB）（英語）
参照 (2011/01/01)
この短いチュートリアルでは、マルチステートオブジェクトを作成してインタラクティビティを追加する方法をご覧ください。

リッチインタラクティブドキュメントの作成（PDF、6.7 MB）（英語）
参照 (2011/01/01)
InDesign を使用して、リッチでインタラクティブなドキュメントを作成する方法を説明します。

Exploring new FLA export options (video 6:26)
Anne-Marie Concepcion (2011/01/01)
チュートリアル - ビデオ
InDesign CS5 以降で機能強化された書き出しダイアログボックスを使用して、InDesign プロジェクトを Flash の様々な形式でパブリッシュする方法を紹介します。

フォーム | CC、CS6

目次

フォームワークフロー
フォームフィールドの追加
タブ順の指定

ページの先頭へ

フォームワークフロー

InDesign でフォームをデザインし、PDF に直接書き出すことができます。InDesign では、フォームフィールドと追加のフォームアクションがサポートされるようになりました。ボタンとフォームライブラリ（ウィンドウ／インタラクティブ／ボタンとフォーム）に、インタラクティブフォームのデザインに使用できるフォームアイテムが用意されています。

InDesign を使用すると InDesign 内で簡単なフォームを作成でき、公開後に PDF ドキュメントを Acrobat で修正する必要がありません。ドキュメントページ内にシンプルなフォーム要素を追加できます。テキストフィールド、ラジオボタン、チェックボックス、署名などの一般的なフィールドの種類がサポートされています。フォームを電子メールで送信またはプリントするアクションを追加することもできます。

基本デザインに加えて InDesign のクリエイティブな機能を使用することで、フォームをデザイナー仕様のように仕上げることができます。

- ベタ線やベタ塗りを PDF フォームフィールドに追加できます。
- ボタン、チェックボックス、ラジオボタンにカスタムのオン、オフ、マウスによるポイントの各ステータスを追加できます。
- テキスト入力フィールドのフォントサイズを指定できます。

例えば、クレジットカード情報を収集するには、クレジットカードアイコンをラジオボタンとして使用し、選択したステートには他の画像を使用することができます。

高度なフォームワークフローでは、基本フォームを書き出し、Adobe Acrobat で編集を続けることができます。

ページの先頭へ

フォームフィールドの追加

フォームフィールドをレイアウトに追加するには、ボタンとフォームパネルを使用します。インタラクティブなフォームフィールドを追加する手順は、ボタンを追加する場合と同じで、手順を新たに覚える必要はありません。Adobe Reader や Adobe Acrobat で使用できるフォームを作成できます。InDesign を使用することで、Acrobat を普通に使用していては作成できない、見栄えのよいフォームを作成できます。



ボタンとフォームパネル

1. フォームフィールドを配置したい位置にフレームを置きます。
2. ボタンとフォームパネルを開きます（ウィンドウ／インタラクティブ／ボタンとフォーム）。

3. フレームを選択し、タイプのリストからフォーム要素の種類を選択します。または、フレームを右クリックし、インタラクティブ／[...] に変換を選択します。
4. フォームフィールドに名前を入力します。ラジオボタングループを作成するには、個々のボタンすべてが同じ名前であることが必要です。
5. イベントを選択し、それに関連付けるアクションを追加します。「フォームをクリア」、「フォームをプリント」、「フォームを送信」などのアクションが追加されます。「フォームを送信」アクションでは、URL を「mailto:xyz@example.com」のように指定します。
6. ラジオボタン、チェックボックス、ボタンの場合は、ステートごとに外観属性を設定します。各ステートには InDesign によりデフォルトのグラフィックが追加されますが、独自のグラフィックを追加することもできます。
7. PDF オプションを指定します。
   - 説明 - 入力された値がツールヒントに表示され、アクセスしやすいフォームの作成に使用されます。
   - ボタンの値 - この値は Acrobat の書き出し値に対応しており、アクセスしやすいフォームのグループのラジオボタンの特定に使用されます。

ページの先頭へ

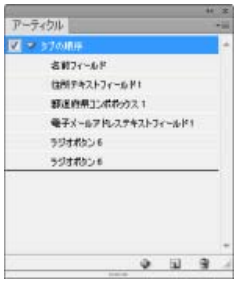
タブ順の指定

ユーザーにわかりやすくアクセスしやすいフォームを作成するには、使いやすいタブ順を指定する必要があります。ユーザーはポインティングデバイスを使用しなくてもフォームフィールド内を移動できます。Tab キーを押すと、フォーカスが次の論理フィールドに移動します。

タグ付き PDF でタブ順を設定する方法は 2 つあります。

- アーティクルパネル（ウィンドウ／アーティクル）を使用して、カスタムのタブ順を指定します。
- オブジェクト ／インタラクティブ ／タブ順を設定を選択します。

アーティクルを使用したタブ順の指定



アーティクルパネルを使用したタブ順の指定

1. アーティクルパネルを開きます（ウィンドウ／アーティクル）。
2. フォームフィールドをアーティクルパネルにドラッグします。
3. アーティクルパネルで、フィールドをドラッグして必要な順序に並べ替えます。

   指定された順序をスクリーンリーダーで使用できるようにするには、アーティクルパネルメニューで「タグ付き *PDF* の読み上げ順序に使用」を有効にします。*PDF* の書き出し時に「タグ付き *PDF* を作成」オプションを有効にしてください。

構造を使用したタブ順の指定

1. 「オブジェクト／インタラクティブ／タブ順を設定」を選択します。
2. 「上へ移動」または「下へ移動」を使用して、アイテムを必要なタブ順に配置します。

インタラクティブ PDF に書き出す場合は、PDF 書き出しダイアログボックスの「タブ順の設定に構造を使用」を有効にします。

関連項目

(cc) BY-NC-SR Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

ハイパーリンク

ハイパーリンクパネルの概要
ハイパーリンクの作成
ハイパーリンクの管理
Word から読み込んだハイパーリンクの編集

ページの先頭へ

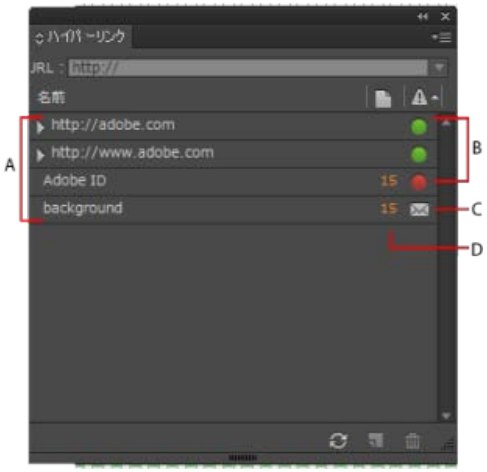
ハイパーリンクパネルの概要

ハイパーリンクを作成すると、InDesign で書き出された Adobe PDF または SWF ドキュメントでリンクをクリックしたときに、同じドキュメント内の別の場所、別のドキュメントまたは Web サイトにジャンプすることができます。InCopy で書き出された PDF または SWF のハイパーリンクは機能しません。

ハイパーリンク元のソースとして使用できるのはテキストフレームまたはグラフィックフレームです。ハイパーリンク先には、URL、ファイル、電子メールアドレス、ページ、テキストアンカーまたは共有の移動先を設定することができます。同じソースからは 1 つのハイパーリンク先にのみジャンプできますが、同じハイパーリンク先には複数のソースからジャンプすることができます。

ソースは、ハイパーリンク元のテキストまたはグラフィックです。ハイパーリンク先には、URL、ファイル、電子メールアドレス、ページ、テキストアンカーまたは共有の移動先を設定することができます。同じソースからは 1 つのハイパーリンク先にのみジャンプできますが、同じハイパーリンク先には複数のソースからジャンプすることができます。

注意： ソーステキストをリンク先のテキストから生成する場合は、ハイパーリンクではなく相互参照を挿入します。相互参照を参照してください。



ハイパーリンクパネル

A. 現在のドキュメント内のハイパーリンクのリスト ***B.*** *URL* が利用可能かどうか瞬時にフィードバックを返す信号インジケーター ***C.*** 電子メールリンク ***D.*** リンクがあるページに移動し、リンクが選択される、クリック可能なページ番号

ハイパーリンクパネルを開く

- ウィンドウ／インタラクティブ／ハイパーリンクを選択します。

ハイパーリンクパネルでのハイパーリンクのソート

- ハイパーリンクパネルメニューから「ソート」を選択し、次のいずれかのオプションを選択します。

  手動 ハイパーリンクをドキュメントへの追加順で表示します。

  名前順 ハイパーリンクをアルファベット順で表示します。

  形式順 ハイパーリンクを形式別のグループで表示します。

ハイパーリンクを小さく表示

- ハイパーリンクパネルメニューから「小さく表示」を選択します。

ページの先頭へ

ハイパーリンクの作成

ページ、URL、テキストアンカー、電子メールアドレスおよびファイルへのハイパーリンクを作成できます。別のドキュメント内のページやテキストアンカーへのハイパーリンクを作成する場合は、書き出されたファイルが同じフォルダー内にあることを確認します。

ハイパーリンクを表示または非表示にするには、表示／エクストラから「ハイパーリンクを表示」または「ハイパーリンクを隠す」を選択します。

注意： ハイパーリンクは、*InDesign* の *Adobe PDF* を書き出しダイアログボックスで「ハイパーリンク」を選択した場合に、書き出した *Adobe PDF* ファイルに含まれます。ハイパーリンクは、*SWF* を書き出しダイアログボックスで「ハイパーリンクを含む」を選択した場合に、書き出した *SWF* ファイルに含まれます。

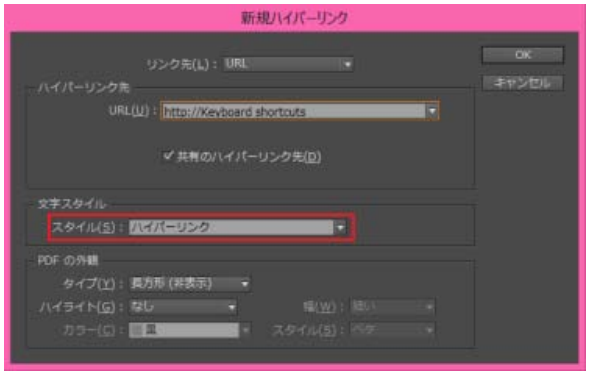
Web ページ（URL）へのハイパーリンクの作成

URL へのハイパーリンクは、いくつかの方法で作成できます。URL を指定する場合、http://、file://、ftp://、mailto:// といったインターネットプロトコルを使用できます。

ボタン機能を使用して、Web ページにリンクすることもできます（ボタンを参照してください。）

注意： *InDesign CC* では、ハイパーリンクは自動的にハイパーリンクスタイル（下線付きの青色のテキスト）に書式設定されます。

1. 選択したテキスト、フレーム、またはグラフィックを右クリックし、ハイパーリンク／新規ハイパーリンクを選択します。新規ハイパーリンクダイアログボックスが表示されます。



2. 適切なハイパーリンク先 URL を指定します。

   - 「URL」テキストボックスに、URL 名（http://www.adobe.com など）を入力またはペーストします。リンク先ドロップダウンで「URL」オプションが選択されていることを確認します。

-または-

- URL ドロップダウンから前に追加した URL を選択します。ハイパーリンクの外観は、前の URL で使用されていたものと同じになります。

3. 「OK」をクリックします。

注意： *URL* ハイパーリンクが書き出した *PDF* で機能しない場合は、「共有のハイパーリンク先」として設定されているハイパーリンクに問題がある可能性があります。「共有のハイパーリンク先」チェックボックスの選択を解除し、「*OK*」をクリックします。

ファイルへのハイパーリンクの作成

ファイルへのハイパーリンクを作成すると、書き出した PDF ファイルまたは SWF ファイルでそのハイパーリンクをクリックしたときにファイルがそのネイティブアプリケーションで開きます。例えば、.doc ファイルへのハイパーリンクを作成した場合は、そのファイルが Microsoft Word で開きます。

指定したファイルが、書き出した PDF ファイルまたは SWF ファイルからアクセス可能であることを確認してください。例えば、書き出した PDF を同僚に送る場合、自分のハードディスクではなく共有サーバー上のファイルを指定します。

1. ハイパーリンクのソースにするテキスト、フレームまたはグラフィックを選択します。
2. ハイパーリンクパネルメニューで「新規ハイパーリンク」を選択するか、ハイパーリンクパネルの下部の新規ハイパーリンクを作成ボタンをクリックします。
3. 新規ハイパーリンクダイアログボックスで、リンク先ポップアップメニューから「ファイル」を選択します。
4. 「パス」にパス名を入力するか、フォルダーボタンをクリックしてファイルを見つけ、そのファイル名をダブルクリックします。
5. ファイルをハイパーリンクパネルに保存して容易に再利用できるようにする場合は、「共有のハイパーリンク先」を選択します。
6. ハイパーリンクソースの外観を指定して、「OK」をクリックします。

電子メールメッセージへのハイパーリンクの作成

1. ハイパーリンクのソースにするテキスト、フレームまたはグラフィックを選択します。
2. ハイパーリンクパネルメニューで「新規ハイパーリンク」を選択するか、ハイパーリンクパネルの下部の新規ハイパーリンクを作成ボタンをクリックします。
3. 新規ハイパーリンクダイアログボックスで、リンク先ポップアップメニューから「電子メール」を選択します。
4. 「アドレス」に電子メールアドレス（**`username@company.com`**など）を入力します。
5. 「件名行」に、電子メールメッセージの件名行に表示するテキストを入力します。
6. 電子メールメッセージをハイパーリンクパネルに保存して容易に再利用できるようにする場合は、「共有のハイパーリンク先」を選択します。
7. ハイパーリンクソースの外観を指定して、「OK」をクリックします。

ページへのハイパーリンクの作成

ハイパーリンク先として設定していないページへもハイパーリンクを作成できます。ハイパーリンク先を事前に作成してある場合は、ページ番号および表示設定を指定できます。

1. ハイパーリンクのソースにするテキスト、フレームまたはグラフィックを選択します。
2. ハイパーリンクパネルメニューで「新規ハイパーリンク」を選択するか、ハイパーリンクパネルの下部の新規ハイパーリンクを作成ボタンをクリックします。
3. 新規ハイパーリンクダイアログボックスで、リンク先ポップアップメニューから「ページ」を選択します。
4. ドキュメントポップアップメニューから、ジャンプするハイパーリンク先が含まれているドキュメントを選択します。保存され、現在開いているドキュメントはすべて、このポップアップメニューに表示されます。探しているドキュメントが開いていない場合は、ドキュメントポップアップメニューから「参照」を選択し、ファイルの場所を指定して、「開く」ボタンをクリックします。

5. 「ページ」で、ジャンプ先のページ番号を指定します。
6. 「ズーム設定」で、次のいずれかのオプションを選択してジャンプ先のページの表示状態を設定します。
   - 「固定」を選択すると、ハイパーリンクを作成したときの倍率とページの位置で表示されます。
   - 「描画領域の幅に合わせる」を選択すると、ハイパーリンク先が現在のページと同じ表示範囲で表示されます。
   - 「全体表示」を選択すると、ハイパーリンク先のウィンドウ全体にページが表示されます。
   - 「幅に合わせる」または「高さに合わせる」を選択すると、現在のページの幅や高さと同じハイパーリンク先のウィンドウが表示されます。
   - 「可視全体」を選択すると、ページのウィンドウの幅に合わせたテキストとグラフィックスが表示されます。通常は余白が表示されません。
   - 「ズーム設定維持」を選択すると、ユーザーがハイパーリンクをクリックした時に使用した倍率でハイパーリンク先ウィンドウが表示されます。
7. 外観オプションを指定して「OK」をクリックします。

ハイパーリンク先の設定

テキストアンカーへのハイパーリンクまたは相互参照を作成する場合に限り、ハイパーリンク先を設定する必要があります。テキストアンカーでは、テキストの選択範囲または挿入点の位置をハイパーリンク先として設定できます。次に、そのハイパーリンク先をポイントするハイパーリンクまたは相互参照を作成します。ページや URL をハイパーリンク先として設定することもできますが、これらにはハイパーリンク先の設定が必須ではありません。

設定したハイパーリンク先はハイパーリンクパネルには表示されず、ハイパーリンクの作成時または編集時に表示されたダイアログボックスに表示されます。

1. テキストアンカーを作成する場合は、文字ツールを使用して挿入点を配置するか、アンカーとするテキスト範囲を選択します。

   マスターページ上のテキストは、ハイパーリンク先として設定できません。
2. ハイパーリンクパネルメニューから「新規ハイパーリンク先」を選択します。
3. 種類ポップアップメニューから「テキストアンカー」を選択します。テキストアンカーの名前を指定して、「OK」をクリックします。
4. 必要に応じて次の操作を行って、「OK」をクリックします。
   - 種類ポップアップメニューから「テキストアンカー」を選択します。テキストアンカーの名前を指定します。
   - 種類ポップアップメニューから「ページ」を選択します。ジャンプ先のページ番号と「ズーム設定」を指定して、ハイパーリンク先の名前を入力します。または、「ページ番号付きハイパーリンク名」を選択し、指定したページ番号とズーム設定に基づいて自動的にハイパーリンク先の名前を付けます。
   - 種類ポップアップメニューから「URL」を選択します。URL（*http://www.adobe.com*など）を入力またはペーストします。ここでは、「http://」、「file://」、「ftp://」、「mailto://」といったインターネットプロトコルを指定することができます。

テキストアンカーへのハイパーリンクの作成

1. ハイパーリンクのソースにするテキスト、フレームまたはグラフィックを選択します。
2. ハイパーリンクパネルメニューで「新規ハイパーリンク」を選択するか、ハイパーリンクパネルの下部の新規ハイパーリンクを作成ボタンをクリックします。
3. リンク先ポップアップメニューから「テキストアンカー」を選択します。
4. ドキュメントポップアップメニューから、ジャンプするハイパーリンク先が含まれているドキュメントを選択します。保存され、現在開いているドキュメントはすべて、このポップアップメニューに表示されます。探しているドキュメントが開いていない場合は、ドキュメントポップアップメニューから「参照」を選択し、ファイルの場所を指定して、「開く」ボタンをクリックします。
5. テキストアンカーポップアップメニューから、作成したテキストアンカーのハイパーリンク先を選択します。
6. ハイパーリンクの外観オプションを指定して「OK」をクリックします。

共有の移動先へのハイパーリンクの作成

ハイパーリンクの作成時に、リンク先ポップアップメニューから「共有の移動先」を選択すると、名前付きのハイパーリンク先を指定できます。「URL」テキストボックスを使用して URL を追加するか、「共有のハイパーリンク先」を選択して URL、ファイルまたは電子メールアドレスへのハイパーリンクを作成すると、ハイパーリンク先に名前が付けられ、共有の移動先として指定することができるようになります。

1. ハイパーリンクのソースにするテキスト、フレームまたはグラフィックを選択します。
2. ハイパーリンクパネルメニューで「新規ハイパーリンク」を選択するか、ハイパーリンクパネルの下部の新規ハイパーリンクを作成ボタンをクリックします。
3. 新規ハイパーリンクダイアログボックスで、リンク先ポップアップメニューから「共有の移動先」を選択します。
4. ドキュメントポップアップメニューから、ジャンプするハイパーリンク先が含まれているドキュメントを選択します。保存され、現在開いているドキュメントはすべて、このポップアップメニューに表示されます。探しているドキュメントが開いていない場合は、ドキュメントポップアップメニューから「参照」を選択し、ファイルの場所を指定して、「開く」ボタンをクリックします。
5. 名前ポップアップメニューからハイパーリンク先を選択します。
6. ハイパーリンクの外観オプションを指定して「OK」をクリックします。

ハイパーリンクの外観オプション

外観オプションは、書き出した PDF ファイルまたは SWF ファイルのハイパーリンクソースまたは相互参照ソースの外観を決定します。それらの外観オプションは、表示／エクストラ／ハイパーリンクを表示を選択している場合 InDesign ドキュメント上にも表示されます。

文字スタイル ハイパーリンクソースに適用する文字スタイルを選択します。初期設定では、ハイパーリンクスタイルが選択したテキストまたはオブジェクトに適用されます。テキストの場合、新規ハイパーリンクダイアログボックスのスタイルドロップダウンから別のスタイルを簡単に選択できます。テキスト以外のオブジェクトの場合、デザイン時の視覚的な識別子がリンクに適用されます（レイヤーの色を継承した色でオブジェクトを囲む点線など）。

テキストリンクに適用された文字スタイル



文字スタイルはドキュメントの文字スタイルリストに追加されます。スタイルを印刷および書き出しできます。

オブジェクトリンクに適用された視覚的な識別子



点線のアウトラインがリンクされたオブジェクトに適用されています。これは、視覚的識別だけを目的とし、印刷または書き出しはできません。

タイプ 「表示可能な長方形」または「表示不可能な長方形」を選択します。

ハイライト 「反転」、「アウトライン」、「角（内）」または「なし」を選択します。これらのオプションは、PDF ファイルまたは SWF ファイルでハイパーリンクをクリックしたときの外観を決定します。

カラー ハイパーリンクの表示可能な長方形のカラーを選択します。

幅 「細い」、「標準」、「太い」のいずれかを選択して、ハイパーリンクの長方形の線幅を設定します。

スタイル 「ベタ」または「点線」を選択して、ハイパーリンクの長方形の外観を設定します。

URL をハイパーリンクに変換

ドキュメント内の URL（例：「www.adobe.com」）を検出してハイパーリンクに変換できます。

1. ハイパーリンクパネルメニューから「URL をハイパーリンクに変換」を選択します。
2. 「スコープ」で、ドキュメント全体に含まれる URL を変換するか、現在のストーリー内、または現在の選択範囲内のみ変換するかを指定します。
3. ハイパーリンクに文字スタイルを適用するには、文字スタイルメニューからスタイルを選択します。
4. 必要に応じて次の操作を実行し、「完了」をクリックします。
   - 次の URL を見つけるには、「検索」をクリックします。
   - 現在の URL をハイパーリンクに変換するには、「変換」をクリックします。
   - すべての URL をハイパーリンクに変換するには、「すべて変換」をクリックします。

ページの先頭へ

ハイパーリンクの管理

ハイパーリンクパネルを使用して、ハイパーリンクを編集、削除、リセットまたは表示します。InCopy では、編集用にストーリーがチェックアウトされている場合にのみハイパーリンクを管理できます。

ハイパーリンクの編集

1. ハイパーリンク元のテキストまたはオブジェクトを右クリックし、ハイパーリンク／ハイパーリンクを編集を選択します。

   または

   ハイパーリンクパネルで、編集するハイパーリンクをダブルクリックします。
2. ハイパーリンクを編集ダイアログボックスで、必要に応じてハイパーリンクを変更し、「OK」をクリックします。

注意： *URL* へのハイパーリンクを編集するには、そのハイパーリンクを選択し、「*URL*」テキストボックスで *URL* を編集して *Tab* キーまたは *Enter* キーを押します。

ハイパーリンクの削除

ハイパーリンクを削除しても、ソーステキストやグラフィックは残ります。

- ハイパーリンクパネルで、削除するハイパーリンクを選択してから、パネルの下部にある「選択したハイパーリンクを削除」ボタンをクリックします。

ハイパーリンクソース名の変更

ハイパーリンクソース名を変更すると、その変更はハイパーリンクパネルに反映されます。

1. ハイパーリンクパネルで、ハイパーリンクを選択します。
2. ハイパーリンクパネルメニューから「ハイパーリンク名の変更」を選択し、新しい名前を指定します。

ハイパーリンク先の編集または削除

1. ハイパーリンク先が作成されているドキュメントを開きます。
2. ハイパーリンクパネルメニューから「ハイパーリンク先オプション」を選択します。
3. リンク先ポップアップメニューから編集するハイパーリンク先の名前を選択します。
4. 次のいずれかの操作を行います。
   - 「編集」ボタンをクリックして、ハイパーリンク先の設定を変更します。
   - 「削除」ボタンをクリックして、ハイパーリンク先を削除します。
5. ハイパーリンク先の編集または削除が完了したら、「OK」をクリックします。

ハイパーリンクのリセットまたは更新

1. 新たなハイパーリンクソースに指定するテキスト範囲、テキストフレームまたはグラフィックフレームを選択します。例えば、追加のテキストを選択してソースに含めることができます。
2. ハイパーリンクパネルでハイパーリンクを選択します。
3. 次のいずれかの操作を行います。
   - ハイパーリンクパネルメニューから「ハイパーリンクをリセット」を選択します。
   - 外部ドキュメントへのハイパーリンクを更新するには、ハイパーリンクパネルメニューから「ハイパーリンクを更新」を選択します。

ハイパーリンクソースまたはアンカーの表示

- ハイパーリンクまたは相互参照のソースを表示するには、ソースを表示するハイパーリンクをハイパーリンクパネルで選択します。ハイパーリンクパネルメニューから「ハイパーリンクソースへ」を選択します。ソースのテキストやフレームが選択されます。
- ハイパーリンクまたは相互参照のリンク先を表示するには、リンク先を表示するハイパーリンクをハイパーリンクパネルで選択します。ハイパーリンクパネルメニューから「ハイパーリンク先へ」を選択します。

選択したハイパーリンク先が URL の場合は、Web ブラウザーが起動するか、Web ブラウザーに切り替わり、ハイパーリンク先が表示されます。選択したハイパーリンク先がテキストアンカーやページの場合は、その場所にジャンプします。

ページの先頭へ

Word から読み込んだハイパーリンクの編集

ハイパーリンクが含まれた Microsoft Word ドキュメントを InDesign ドキュメントに読み込むと、ハイパーリンクの URL（www.adobe.com など）の周囲にボックスまたは境界線が表示されます。この InDesign ドキュメントは、Word_R0_G0_B255 と呼ばれる青のスウォッチを継承します。また、テキストに下線を付け、青色を適用する「ハイパーリンク」と呼ばれる文字スタイルも継承します。

このボックスを削除するには、ハイパーリンクパネルでハイパーリンクをダブルクリックします。「外観」の種類メニューから「表示不可能な長方形」を選択し、「OK」をクリックします。

読み込んだスウォッチを削除することもできます。読み込んだスウォッチを削除するときに、別のスウォッチに置き換えることができます。個々のスウォッチの削除を参照してください。

> *Word* ドキュメントを *InDesign* に配置する前に、*Word* ドキュメントの *URL* からハイパーリンクを削除し、これらの書式が継承されないようにすることができます。詳しくは、*Word* のマニュアルを参照してください。別の方法として、読み込む前に *InDesign* ドキュメントで「ハイパーリンク」という名前の文字スタイルを作成しておく方法もあります。*Word* ドキュメントを読み込むときには、同じ名前の *InDesign* のスタイルがデフォルトで使用されます。

関連項目

(cc) BY-NC-SR Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

相互参照

相互参照の挿入
相互参照形式の使用
相互参照の管理

ユーザーガイドまたはリファレンスマニュアルを作成する場合、相互参照を含めると、ドキュメントのある部分から別の部分を参照することができます。例えば、「詳しくは、**249** ページの「フィールド **mice**」を参照してください。」などです。相互参照が見出しスタイルのような段落スタイルから派生するのか、ユーザーが作成したテキストアンカーから派生するのかを指定できます。また、相互参照の形式を、ページ番号のみや段落番号とページ番号などにできます。

ページの先頭へ

相互参照の挿入

相互参照パネルを使用してドキュメント内に相互参照を挿入します。パネルを開くには、ウィンドウ／書式と表／相互参照を選択します。



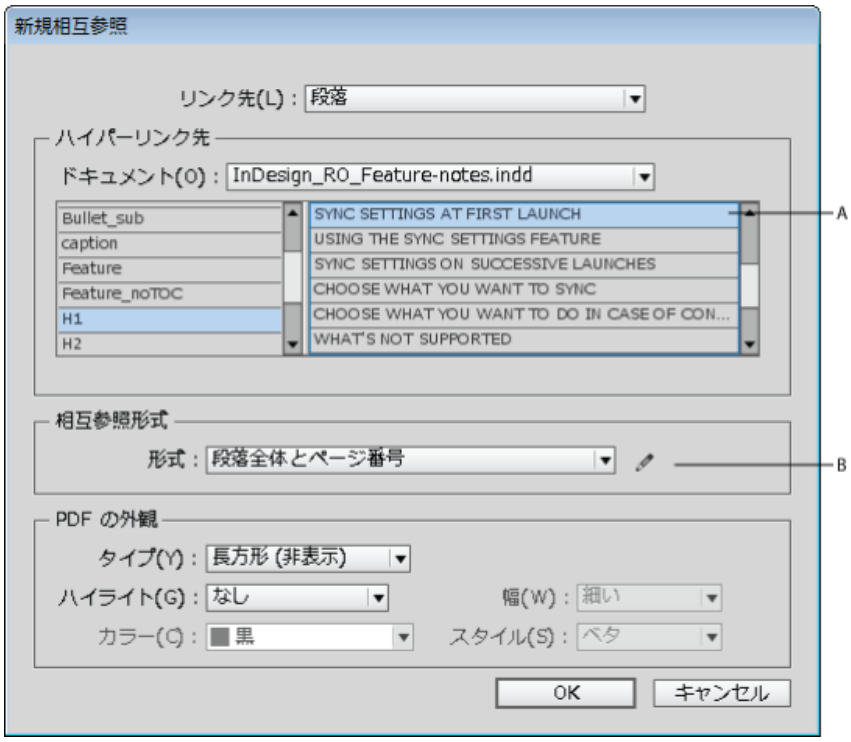
A. 緑色のインジケーターをクリックして、リンク先に移動します。 ***B.*** ページ番号をクリックしてソースを選択します。 ***C.*** アイコンをクリックして相互参照を作成します。

リンク先のテキストは、参照先テキストです。参照先テキストから生成されるテキストは、相互参照ソースです。

ドキュメントに相互参照を挿入する場合、あらかじめ定義されている相互参照形式から選択するか、新しい相互参照形式を作成することができます。相互参照ソース全体または相互参照内のテキストに文字スタイルを適用できます。相互参照形式はブック全体で統一できます。

相互参照ソーステキストは編集可能で改行することもできます。

注意： 相互参照は、*InDesign* の *Adobe PDF* を書き出しダイアログボックスで「ハイパーリンク」を選択した場合に、書き出した *Adobe PDF* ファイルに含まれます。相互参照は、*SWF* を書き出しダイアログボックスで「ハイパーリンクを含む」を選択した場合に、書き出した *SWF* ファイルに含まれます。



相互参照の挿入

A. 選択された相互参照先の段落 ***B.*** ここをクリックして相互参照形式を作成または編集します。

1. 相互参照を挿入する場所に挿入点を配置します。
2. 次のいずれかの操作を行って、新規相互参照ダイアログボックスを開きます。
   - 書式／ハイパーリンクと相互参照／相互参照を挿入を選択します。
   - ウィンドウ／書式と表／相互参照を選択し、パネルメニューから「相互参照を挿入」を選択します。
   - パネルの新規相互参照を作成ボタンをクリックします。
3. ダイアログボックスで、リンク先ポップアップメニューから「段落」または「テキストアンカー」を選択します。

   「段落」を選択した場合は、指定したドキュメントの任意の段落への相互参照を作成できます。

   「テキストアンカー」を選択した場合は、ハイパーリンク先を設定した任意のテキストへの相互参照を作成できます。（ハイパーリンク先の設定を参照してください。）実際の参照先の段落とは異なるテキストを使用する場合などは、テキストアンカーを作成すると便利です。
4. 「ドキュメント」で、参照先が含まれているドキュメントを選択します。保存され、現在開いているドキュメントはすべて、このポップアップメニューに表示されます。探しているドキュメントが開いていない場合は、「参照」を選択し、ファイルを見つけて「開く」をクリックします。
5. 左のボックスで段落スタイル（Head1 など）をクリックして選択肢を絞り込み、参照する段落を選択します。または、「テキストアンカー」を選択した場合は、テキストアンカーを選択します。
6. 使用する相互参照形式を形式ポップアップメニューから選択します。

   これらの相互参照形式を編集して使用するか、独自の形式を作成することができます。相互参照形式の使用を参照してください。
7. 相互参照の PDF の外観オプションを指定します。
8. 「OK」をクリックします。

相互参照を挿入すると、参照先の段落の先頭にテキストアンカーのマーカー :このマーカーは、書式／制御文字を表示を選択すると表示できます。このマーカーを移動または削除すると、相互参照は未解決になります。

ページの先頭へ

相互参照形式の使用

新規相互参照ダイアログボックスには、デフォルトで複数の相互参照形式が表示されます。デフォルトの形式は編集または削除することができます。独自の形式を作成することもできます。

注意： ドキュメント内の相互参照形式を編集または削除した後でデフォルト形式に戻す場合は、パネルメニューから「相互参照形式を読み込み」を選択し、形式が未編集のドキュメントを選択します。相互参照形式はブック内で統一することもできます。

相互参照形式の作成または編集

他のプリセットとは異なり、相互参照形式は編集または削除できます。相互参照形式を編集すると、その形式を使用するすべての相互参照が自動的に更新されます。

1. 必要に応じて次の操作を行います。
   - 相互参照パネルメニューから「相互参照形式を定義」を選択します。
   - 相互参照の作成時または編集時に、相互参照形式を作成または編集ボタン をクリックします。
2. 相互参照形式ダイアログボックスで、次のいずれかの操作を行います。
   - 形式を編集するには、左側で形式を選択します。
   - 形式を作成するには、新しい形式の基になる形式を選択し、ダイアログボックス下部の形式を作成ボタン これにより、選択した形式が複製されます。
3. 「名前」で、形式の名前を指定します。
4. 「定義」テキストボックスで、必要に応じてテキストを追加または削除します。構築ブロックアイコンをクリックして、メニューから構築ブロックを挿入します。特殊文字アイコンをクリックして、ダッシュ、スペース、引用符などの特殊文字を選択します。
5. 相互参照全体に文字スタイルを適用するには、「相互参照の文字スタイル」を選択し、ポップアップメニューから文字スタイルを選択または作成します。

   「文字スタイル」構築ブロックを使用して相互参照内のテキストに文字スタイルを適用することもできます。
6. 「保存」をクリックして変更を保存します。終了したら「OK」をクリックします。

相互参照の構築ブロック

構築ブロック	説明	例
ページ番号	ページ番号を挿入します。	<pageNum/> ページの 23 ページの
段落番号	番号付きリストへの相互参照に段落番号を挿入します。	<paraNum/> を参照 1 を参照 この例では、段落「1. 動物」の「1」のみが使用され
段落テキスト	番号付きリストへの相互参照に、段落番号なしの段落テキストを挿入します。	「<paraText/>」を参照 「動物」を参照 この例では、段落「1. 動物」の「動物」のみが使用さ
段落全体	段落番号と段落テキストを含む段落全体を挿入します。	「<fullPara/>」を参照 「1. 動物」を参照
段落の一部	段落の先頭から指定した区切り符号（コロンやピリオッとしなど）までの相互参照を作成できます	<fullPara delim/> in Code の相互参照を作成する場合 第 7 章を参照 この例では、タイトル「第 7 章：犬と猫」の「第 7 章 この例のように区切り符号を指定し、相互参照ソース

		段落の一部への相互参照の作成を参照してください。
テキストアンカー名	テキストアンカー名を挿入します。ハイパーリンクのソースを参照	<txtAnchorName/> を参照「新規ハイパーリンク先」を 図 1 を参照
章番号	章番号を挿入します。	<chapNum/> 章の 第 3 章の
ファイル名	参照先ドキュメントのファイル名を挿入します	<fileName/> の newsletter.indd の
文字スタイル	相互参照内のテキストに文字スタイルを適用します	<pageNum> ページの <cs name=”bold”><fullPara/></ 23 ページの動物を参照 文字スタイル名を指定し、文字スタイルを適用するテ 相互参照内の文字スタイルの適用を参照してくださ

段落の一部への相互参照の作成

相互参照に段落の最初の部分のみを含めるように相互参照形式を設定できます。例えば、ドキュメント内に「第 7 章 — グラナダからパルセロナへ」という見出しがある場合、「第 7 章」のみへの相互参照を作成できます。



段落の一部への相互参照

A. *EM* ダッシュ（^_）までの相互参照ソース ***B.*** *false* により、ソースから *EM* ダッシュを除外

「段落の一部」構築ブロックを挿入する場合、2 つのことを行う必要があります。まず、区切り符号を引用符で囲んで指定します。区切り符号は段落を終了する文字です。一般的な区切り符号としては、コロン（第 7 章：グラナダ）、ピリオド（第 7 章. グラナダ）、ダッシュ（第 7 章 — グラナダ）などがあります。EM ダッシュ（^_）、EM スペース（^m）、箇条書き記号（^8）などの特殊文字を挿入する場合は、特殊文字アイコンをクリックしたときに表示されるポップアップメニューでオプションを選択します。

次に、区切り符号を含めない（第 7 章）か、含める（第 7 章—）かを指示します。区切り符号を含めない場合は includeDelim="false" を使用し、区切り符号を含める場合は includeDelim="true" を使用します。false や true の代わりに、それぞれ 0 または 1 を使用することもできます。

相互参照内の文字スタイルの適用

相互参照内のテキスト部分を強調する場合は、「文字スタイル」構築ブロックを使用できます。この構築ブロックは 2 つのタグで構成されます。<cs name="スタイル名"> タグは適用するタグを指示し、</cs> タグは文字スタイルを終了します。この 2 つのタグで囲まれたテキストまたは構築ブロックは、指定したスタイルで書式設定されます。



相互参照の一部への文字スタイルの適用

A. このタグは文字スタイルとして「*Red*」を適用します。 ***B.*** このタグは文字スタイルの書式を終了します。 ***C.*** 相互参照の残りには文字スタイルとして「*Bold*」が適用されます。

1. 使用する文字スタイルを作成します。
2. 相互参照形式ダイアログボックスで、適用する形式を作成または編集します。
3. 「定義」で、文字スタイルを適用するテキストまたは構築ブロックを選択します。
4. 定義リストの右のポップアップメニューから「文字スタイル」を選択します。
5. 引用符に囲まれるように、文字スタイルパネルに表示されているとおりに作成した文字スタイル名を入力します。

   スタイル名の大文字と小文字は区別されます。文字スタイルがグループに属している場合は、グループ名の後にコロンを入力して文字スタイルを続けます。例えば、「**`Style Group 1: Red1`**」のように入力します。
6. 「保存」をクリックして形式を保存し、「OK」をクリックします。

相互参照形式の読み込み

別のドキュメントから相互参照形式を読み込むと、その形式と同じ名前の既存の形式は置き換えられます。

InCopy では、単独のドキュメントに限り、相互参照形式を読み込むことができます。InCopy ドキュメントから InDesign ドキュメント内に形式を読み込むことはできません。ストーリーをチェックインしたときに InCopy の新規形式または変更された形式と InDesign ドキュメントの形式が競合する場合は、InDesign の形式が優先されます。

1. 相互参照パネルメニューから「相互参照形式を読み込み」を選択します。
2. 読み込む相互参照形式が含まれているドキュメントをダブルクリックします。

ドキュメント間で相互参照形式を共有して、ブック内の形式を統一することもできます。

相互参照形式の削除

ドキュメント内の相互参照に適用された相互参照形式を削除することはできません。

1. 相互参照形式ダイアログボックスで、削除する形式を選択します。
2. 形式を削除ボタンをクリックします。 

ページの先頭へ

相互参照の管理

相互参照を挿入する場合、相互参照パネルに相互参照のステータスが表示されます。例えば、参照先テキストの表示領域として、ペーストボード PB、マスターページ MP、非表示レイヤー HL、オーバーセットテキスト OV または非表示テキスト HT のアイコンが表示される場合があります。これらの表示領域にリンクする相互参照は未解決になります。参照先の段落が編集 ⚠ されている（つまり期限切れになっている）か、不明 🚩 であるかも示されます。参照先テキストまたは参照先テキストを含むファイルが見つからない場合は、不明になります。アイコン上にマウスポインターを置くと、ツールヒントが表示されます。

InCopy では、編集用にストーリーをチェックアウトした場合にのみ相互参照を管理できます。

相互参照の更新

更新アイコンは、相互参照の参照先テキストが変更されているか、ソーステキストが編集されていることを示します。相互参照は容易に更新できます。参照先テキストが別のページに移動すると、相互参照は自動的に更新されます。

相互参照を更新すると、ソーステキストへの書式の変更は削除されます。

期限切れや未解決の相互参照が含まれる場合、印刷または出力時に、警告が表示されます。

相互参照の期限切れや未解決は、プリフライトパネルで確認することもできます。プロファイルを定義するときに、「テキスト」セクションで「相互参照」を選択します。プリフライトプロファイルの定義を参照してください。

1. 期限切れの相互参照を選択します。すべての相互参照を更新するには、相互参照がなにも選択されてない状態で作業します。
2. 必要に応じて次の操作を行います。
   - 相互参照パネルで、相互参照を更新ボタン ↻ をクリックします。
   - 相互参照パネルメニューから「相互参照を更新」を選択します
   - 書式／ハイパーリンクと相互参照／相互参照を更新を選択します。

ブック内のすべての相互参照を更新するには、ブックパネルメニューから「すべての相互参照を更新」を選択します。未解決の相互参照が残っている場合は結果を表示するダイアログボックスに表示されます。

相互参照の再リンク

不明の参照先テキストが別のドキュメントに移動したか、参照先テキストを含むドキュメントの名前が変更された場合は、その相互参照を再リンクできます。再リンクすると、相互参照ソースへの変更はすべて削除されます。

1. 相互参照パネルで、再リンクする相互参照を選択します。
2. パネルメニューから「相互参照を再リンク」を選択します。
3. 参照先テキストがあるドキュメントを見つけて、「開く」をクリックします。

参照先テキストがあるドキュメントに他の参照先テキストがある場合は、追加の相互参照を再リンクすることもできます。

相互参照の編集

相互参照ソースの外観を変更する場合や別の形式を指定する場合は、相互参照を編集できます。別のドキュメントにリンクしている相互参照を編集すると、そのドキュメントが自動的に開きます。

1. 必要に応じて次の操作を行います。
    - 書式／ハイパーリンクと相互参照／相互参照オプションを選択します。
    - 相互参照パネルで、編集する相互参照をダブルクリックします。
    - 相互参照を選択し、相互参照パネルメニューから「相互参照オプション」を選択します。
2. 相互参照を編集し、「OK」をクリックします。

相互参照の削除

相互参照を削除すると、相互参照ソースがテキストに変換されます。

1. 相互参照パネルで、削除する相互参照を選択します。
2. 削除アイコンをクリックするか、パネルメニューから「相互参照を削除」を選択します。
3. 「はい」をクリックして確定します。

相互参照を完全に削除する場合は、相互参照ソースを選択し、それを削除することができます。

相互参照ソーステキストの編集

相互参照ソーステキストを編集できます。相互参照ソーステキストを編集して、割り付け用に字送りや単語間隔を必要に応じて変更したり、他の変更を加えたりすることができます。ただし、その相互参照を更新または再リンクすると、すべてのローカルの書式変更が削除されます。

(cc) BY-NC-SA Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

ボタン

ボタンの作成
ボタンのインタラクティブ化
ロールオーバー時およびクリック時のボタン外観の変更
マルチステートオブジェクトの作成
ボタンのホットスポットの作成
ボタンのタブ順の設定

ページの先頭へ

ボタンの作成

ドキュメントを固定レイアウト EPUB、PDF または SWF 形式で書き出す際に、特定のアクションを実行するボタンを作成できます。例えば、別のページにジャンプしたり、Web サイトを開いたりするボタンを作成できます。



書き出された *PDF* でムービーを再生するように設定されたボタン

ボタンを作成すると、次の作業を行うことができます。

- ボタンパネルを使用して、ボタンをインタラクティブ化します。書き出された固定レイアウト EPUB、PDF または SWF ファイルでユーザーがボタンをクリックすると、アクションが実行されます。ボタンのインタラクティブ化を参照してください。
- ボタンとフォームパネルの「外観」セクションで、特定のマウス操作に応じて変わるボタンの外観を定義します。詳しくは、ロールオーバー時およびクリック時のボタン外観の変更を参照してください。
- オブジェクトステートパネルで、マルチステートオブジェクトを作成します。詳しくは、マルチステートオブジェクトの作成を参照してください。
- ボタン上にマウスポインターが置かれたときに表示を変化させる「ホットスポット効果」または「ホットリンク効果」を作成します。詳しくは、ボタンのホットスポットの作成を参照してください。

ボタンを操作してダイナミックドキュメントをデザインする場合は、インタラクティブワークスペースを選択すると効率的に作業できます。

ボタンの作成

1. ペンツールまたは描画ツール（長方形ツールや楕円形ツールなど）を使用して、ボタンのシェイプを描画します。必要に応じて、文字ツールを使用してボタンに「次へ」や「購入」などのテキストを追加します。

   ナビゲーションボタン（「次のページ」、「前のページ」など）を作成する場合、マスターページにこれらを追加すると、ドキュメント内のページすべてに対して同じボタンの作成操作を繰り返す必要がなくなります。これらのボタンは、マスターが適用されるすべてのドキュメントページに表示されます。

2. 選択ツールを使用して、変換する画像、形状またはテキストフレームを選択します。

   ムービー、サウンドまたはポスターをボタンに変換することはできません。

3. ボタンパネル（ウィンドウ／インタラクティブ／ボタンを選択）で、オブジェクトをボタンに変換アイコンをクリックします。または、オブジェクト／インタラクティブ／ボタンに変換を選択します。

4. ボタンパネルで、必要に応じて次の操作を行います。

- 「名前」テキストボックスでボタン名を指定し、他に作成するボタンと区別します。
- 書き出された固定レイアウト EPUB、PDF または SWF ファイルでボタンをクリックしたときに何が起こるかを決定する、ボタンの 1 つ以上のアクションを指定します。ボタンのインタラクティブ化を参照してください。
- 追加の外観ステートをアクティブにして、各ステートの外観を変化させることにより、書き出した固定レイアウト EPUB、PDF または SWF ファイルでボタン上にマウスポインターが置かれたときやボタンがクリックされたときにボタンがどのような外観になるかを指定します。ロールオーバー時およびクリック時のボタン外観の変更を参照してください。

5. ドキュメントをインタラクティブ固定レイアウト EPUB、PDF または SWF に書き出す前に、プレビューパネル（ウィンドウ／インタラクティブ／EPUB インタラクティビティプレビュー/SWF プレビュー）を使用して、ボタンをテストします。

サンプルボタンとフォームパネルからのボタンの追加

サンプルボタンとフォームパネルには既成のボタンが含まれており、ドキュメント内にドラッグして使用できます。これらのサンプルボタンには、グラデーションぼかしやドロップシャドウなどの効果が使用され、「ロールオーバー」ステートに若干異なる外観が設定されています。サンプルボタンには、アクションも割り当てられています。例えば、サンプルの矢印ボタンには「次ページへ移動」や「前ページへ移動」というアクションが割り当てられています。これらのボタンは、必要に応じて編集できます。

サンプルボタンとフォームパネルはオブジェクトライブラリです。オブジェクトライブラリとしてのパネルでは、ボタンを追加したり、不必要なボタンを削除したりできます（詳しくは、オブジェクトライブラリの使用を参照してください）。サンプルボタンは ButtonLibrary.indl ファイルに保存されます。このファイルは、InDesign アプリケーションフォルダーの Presets¥Button Library フォルダー内にあります。

1. ボタンとフォームパネルメニューから「サンプルボタンとフォーム」を選択し、サンプルボタンとフォームパネルを開きます。
2. サンプルボタンとフォームパネルからドキュメントにボタンをドラッグします。すべてのページにナビゲーションボタンを表示するには、マスターページにボタンを追加します。
3. 選択ツールでボタンを選択し、ボタンとフォームパネルで必要に応じてボタンを編集します。

サンプルボタンを編集する場合は、次の点に留意してください。

- ボタンにテキストを追加する場合は、「通常」ボタンステートから「ロールオーバー」ボタンステートにテキストをコピー＆ペーストします。そうしない場合、固定レイアウト EPUB、PDF または SWF ファイルで、ボタンをマウスでロールオーバーしたときに、追加したテキストが表示されません。
- ボタンのサイズを変更できます。次ページ／前ページのペアの矢印ボタンをドラッグする場合は、最初のボタンのサイズを変更してから、2 番目のボタンを選択して、オブジェクト／変形を再実行／変形を再実行を選択します。

SWF プレビューパネルでボタンをテストします。

ボタンをオブジェクトに変換

ボタンをオブジェクトに変換すると、ボタンのコンテンツはページに残りますが、ボタンのプロパティは削除されます。ボタンの他のステートに関連付けられたコンテンツも削除されます。

1. 選択ツールを使用して、ボタンを選択します。
2. オブジェクト／インタラクティブ／オブジェクトに変換を選択します。

ページの先頭へ

ボタンのインタラクティブ化

InDesign でインタラクティブな効果を作成、編集、管理することができます。ドキュメントを固定レイアウト EPUB、PDF または SWF に書き出すと、これらのインタラクティブなアクションが動作するようになります。

例えば、PDF ドキュメントでサウンドを再生するボタンを作成するとします。この場合は、サウンドファイルを InDesign ドキュメントに配置してから、PDF ドキュメントでクリックするとサウンドが再生されるボタンを作成できます。

この例で、マウスボタンをクリックすることをイベントと呼び、サウンドを再生することをアクションと呼びます。



このボタンは、マウスボタンを離したときにサウンドが再生されるように設定されています。

注意： *PDF* および *SWF/EPUB* ファイルの両方でサポートされるアクションと、*PDF* または *SWF/EPUB* のいずれかでのみサポートされるアクションがあります。アクションを選択するときに、書き出し先が *SWF* または固定レイアウト *EPUB* のみである場合は、*PDF* 専用のアクションを選択しないでください。また、書き出し先が *PDF* である場合は、*SWF/EPUB* 専用のアクションを選択しないでください。

ボタンへのアクションの追加

アクションは複数の異なるイベントに割り当てることができます。例えば、書き出された PDF ファイルでは、マウスポインターがボタン領域に入るとサウンドを再生したり、マウスボタンをクリックするか放すとムービーを再生したりするように指定できます。複数のアクションを同じイベントに割り当てることもできます。例えば、ムービーを再生すると同時にズーム表示を「100 %表示」に設定するようなアクションを作成できます。

1. 選択ツールを使用して、作成したボタンを選択します。
2. ボタンパネルで、アクションをアクティブにする方法を決定するイベント（「リリース時」など）を選択します。
3. 「アクション」の横のプラス記号のボタンをクリックし、イベントに割り当てるアクションを選択します。
4. アクションの設定を指定します。

   例えば、「先頭ページへ移動」を選択した場合は、ズームを指定します。「URL へ移動」を選択した場合は、Web ページのアドレスを指定します。一部のアクション（「次の表示へ移動」など）には、追加の設定がありません。
5. 必要に応じて、イベントに必要な数の追加のアクションを割り当てます。

ボタンをテストするには、ドキュメントを固定レイアウト *EPUB*、*PDF* または *SWF* に書き出し、書き出されたファイルを表示します。*PDF* に書き出す場合は、「*Adobe PDF*（インタラクティブ）」オプションが選択されていることを確認します。*SWF* に書き出す場合は、インタラクティビティおよびメディアの「すべて含める」が選択されていることを確認します。

イベントの種類

イベントは、ドキュメントが EPUB、PDF または SWF に書き出される際に、ボタンでどのようにアクションがアクティブにされるかを指定するものです。なお、Acrobat でイベントはトリガーと呼ばれます。

リリース時 マウスボタンをクリックした後に離したとき。これは最も一般的に使用されるイベントです。マウスボタンを押したままポインターをボタンから外せばアクションは実行されないので、ユーザーは操作をもう一度やり直すことができます。

クリック時 マウスボタンをクリックしたとき（クリックして離していない状態）。「クリック時」を使用する特定の理由がないかぎりは、ユーザーがアクションをキャンセルできるように「リリースまたはタップ時」を使用することをお勧めします。

ロールオーバー時 マウスポインターが、ボタンの境界線ボックスによって定義されるボタン領域に入ったとき。

ロールオフ時 マウスポインターがボタン領域を出るとき。

フォーカス PDF ファイルで、マウスの操作または Tab キーを押すことによってボタンがフォーカスされたとき。

ぼかし PDF ファイルで、フォーカスが別のボタンまたはフォームフィールドに移動したとき。

アクションの種類

アクションを作成する場合は、指定したイベントが起きたとき（通常はボタンをクリックしたとき）の反応を指定します。イベントに応じて次のようなアクションを割り当てることができます。

配置先へ移動 ブックマークパネルまたはハイパーリンクパネルで作成したテキストアンカーを指定し、その指示先へとジャンプするようにします。テキストアンカーへのジャンプの設定を参照してください。

先頭ページへ移動、最終ページへ移動、次ページへ移動、前ページへ移動 固定レイアウト EPUB、PDF または SWF ファイルの先頭ページ、最終ページ、前ページまたは次ページにジャンプします。ズームメニューからオプションを選択し、ページがどのように表示されるかを指定します。

URL へ移動 指定した URL の Web ページを開きます。

ボタンを表示 / 隠す 書き出された固定レイアウト EPUB、PDF または SWF ファイルで、指定したボタンの表示と非表示を切り替えます。例えば、あるボタンにマウスポインターが重なったとき別のボタンが表示されるようにするには、トリガーが動作するまでターゲットボタンを非表示にしておき、ロールオーバーによって非表示ボタンを表示させるアクションを作成します。詳しくは、ロールオーバー時の異なるボタンの表示を参照してください。

ビデオ 指定したムービーを再生します。再生されたムービーは一時停止、停止または再び再生できます。ドキュメントに追加されているムービーだけが、ビデオポップアップメニューに表示されます。

サウンド 指定したサウンドクリップを再生します。再生されたサウンドは一時停止、停止または再び再生できます。ドキュメントに追加されているサウンドクリップだけが、サウンドポップアップメニューに表示されます。

アニメーション（**SWF/EPUB**） 指定したアニメーションの再生を開始、一時停止、停止または再開します。ドキュメントに追加されているアニメーションだけが、アニメーションポップアップメニューに表示されます。

ページへ移動（**SWF/EPUB**） 同じ SWF ファイル内の指定したページにジャンプします。

ステートに移動（**SWF/EPUB**） マルチステートオブジェクトの指定したステートにジャンプします。例えば、あるマルチステートオブジェクトのステートとして何枚かの異なる画像が設定されている場合、このアクションを使用して特定の画像を表示できます。

前のステートに移動、次のステートに移動（**SWF/EPUB**） マルチステートオブジェクト内に設定されている、前または次のステートにジャンプします。これらのオプションは、クリック操作で進行するスライドショーを作成する場合に便利です。詳しくは、マルチステートオブジェクトの作成を参照してください。

次の表示へ移動（**PDF**） 「前の表示へ移動」によって前の表示にジャンプした後に、元のページに戻ります。Web ブラウザーでも同じような方法として、「戻る」ボタンをクリックした後にのみ「進む」ボタンを使用できます。「次の表示へ移動」は、前の表示にジャンプした後のみ動作します。

前の表示へ移動（**PDF**） PDF ドキュメントで最後に表示したページにジャンプするか、最後に使用した表示倍率に戻ります。

ファイルを開く （**PDF**） 指定したファイルを開きます。PDF ではないファイルを指定した場合、ユーザーはそれを開くためのアプリケーションが必要です。絶対パス名（C:¥docs¥sample.pdf など）を指定します。

ズーム表示 （**PDF**） ズームポップアップメニューで指定した倍率や方法でページを表示します。表示倍率（「100 %表示」など）、ページの表示方法（「連続 - 見開き」など）またはページ方向を変更することができます。

ボタンに設定したアクションの編集または削除

1. 選択ツールを使用して、ボタンを選択します。
2. ボタンパネルで、必要に応じて次の操作を行います。
   - アクションを無効にするには、横にあるチェックボックスの選択を解除します。テストする際には、イベントとアクションを無効にすると便利です。
   - アクションの順序を変更するには、アクションをドラッグ＆ドロップします。
   - アクションを削除するには、そのアクションをリストボックスで選択し、選択されたアクションを削除ボタン をクリックします。
   - アクションを編集するには、アクションが割り当てられているイベントを選択し、そのアクションをリストボックスで選択して設定を変更します。既存のイベントに割り当てられているアクションを置換するには、既存のアクションを削除してから、新しいアクションを割り当てます。

テキストアンカーへのジャンプの設定

InDesign ドキュメント内にテキストアンカーを作成しておくと、そのアンカーにジャンプするボタンを作成できます（別の InDesign ドキュメント内のアンカーにジャンプすることもできます）。テキストアンカーを追加するには、ブックマークパネルとハイパーリンクパネルを使用します。テキストアンカー以外のブックマークにジャンプするボタンは作成できません。

注意： ボタンにハイパーリンク先を設定しても、書き出した固定レイアウトの *EPUB*、*PDF* または *SWF* ドキュメントではハイパーリンクの効果はありません。

1. 選択ツールを使用して、ボタンを選択します。
2. ボタンパネルで、ジャンプをトリガーするイベント（「リリースまたはタップ時」など）を選択します。
3. 「アクション」の横のプラス記号をクリックし、「配置先へ移動」を選択します。
4. ドキュメントポップアップメニューから開いている InDesign ドキュメントのいずれかを選択するか、ポップアップメニューの右のフォルダーアイコンをクリックしてファイルを指定します。
5. 「配置先」で、ブックマークパネルまたはハイパーリンクパネルを使用して作成されたブックマークまたはハイパーリンク先（URL を除く）を指定します。
6. ズームポップアップメニューからオプションを選択し、移動先のページの表示倍率を指定します。

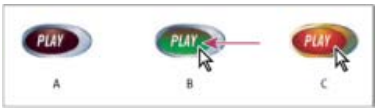
注意： 他のドキュメントにあるアンカーを指定した場合は、そのアンカーを含んでいるドキュメントも *PDF* に書き出し、同じファイル名にして、拡張子だけを *.indd* から *.pdf* に変えることを忘れないようにしてください。また、*PDF* ドキュメントを同じフォルダーに保存して、リンクが *Acrobat* および *Reader* で正常なままであることを確認してください。

ページの先頭へ

ロールオーバー時およびクリック時のボタン外観の変更

1 個のボタンは、様々なボタン外観（「ステート」とも呼ばれる）を表す一連の個別オブジェクトによって構成されています。ボタンごとに、「通常」、「ロールオーバー」、「クリック」の 3 つの外観を設定できます。書き出したファイルでは、マウスポインターがボタン領域内に置かれたとき（「ロールオーバー」）と、マウスボタンがボタン領域上でクリックされたとき（「クリック」）以外は「通常」外観が表示されます。各ステートに異なる外観を設定することで、視覚的なフィードバックを実現できます。

デフォルトでは、ボタンを作成すると、そのボタンのテキストや画像を含んだ「通常」外観が定義されます。新しい外観を有効にすると、「通常」外観がコピーされます。外観のカラーを変更したり、テキストや画像を追加したりすると、ステートごとに表示を変化させることができます。



ボタンのステート

A. ポインターがボタン領域外（通常） ***B.*** ポインターがボタン領域上に移動（ロールオーバー） ***C.*** クリック（クリック）

注意： ボタンのクリック可能領域（ホットスポット）は、ボタンの最大のステートを示す四角形の境界線ボックスです。例えば、丸いボタンには四角形のホットスポットがあります。

ボタン外観の変更

複数の外観（通常、ロールオーバー、クリック）を持つボタンを作成する場合は、まずボタンのデザインを完成させてから他の外観を有効にすることをお勧めします。「ロールオーバー」または「クリック」の外観を有効にするとき、「通常」外観がコピーされます。

変更操作によっては、選択した外観にのみ影響するものと、すべてのアクティブな外観に影響するものがあります。1 つの外観を選択してから、背景色の変更やテキストの編集を実行すると、その操作は選択した外観のみに影響します。選択ツールを使用してボタンを移動またはサイズ変更すると、その変更はすべての外観に影響します。

1. ウィンドウ／インタラクティブ／ボタンを選択して、ボタンパネルを表示します。
2. 選択ツールを使用して、編集するレイアウト上のボタンを選択します。
3. 「ロールオーバー」をクリックして、「ロールオーバー」外観を有効にします。

   「通常」の外観が「ロールオーバー」にコピーされます。
4. 「ロールオーバー」を選択した状態で、ボタンの外観を変更します。
   - 色を変更するには、コントロールパネルの線メニューまたは塗りメニューからスウォッチを選択します。
   - 外観に画像を配置するには、ダイレクト選択ツールを使用するか既存のボタン画像をダブルクリックして既存の画像を選択してから、ファイル／配置を選択し、ファイルをダブルクリックします。
   - 画像をテキストフレームにペーストするには、クリップボードにコピーし、ボタンパネルで外観を選択して、編集／選択範囲内へペーストを選択します。
   - テキストを入力するには、文字ツールを選択し、ボタンをクリックしてテキストを入力します。編集／選択範囲内へペーストを選択し、クリップボードにコピーしたテキストフレームをボタンにペーストすることもできます。
5. 「クリック」外観を追加するには、「クリック」をクリックして有効にし、同じ手順に従って外観を変更します。
6. SWF プレビューパネルで、各種のボタン外観をテストします。

ボタンとフォームパネルで「ステートの外観」サムネールのサイズを変更するには、ボタンとフォームパネルメニューから「パネルオプション」を選択し、オプションを選択して「*OK*」をクリックします。

外観の削除と無効化

1. ボタンパネルで外観を選択します。
2. 必要に応じて次の操作を行います。
   - 「ロールオーバー」または「クリック」の外観を削除するには、パネル下部の任意のステートと内容を削除アイコンをクリックします。「通常」外観に大幅な変更を加えた後で、その新しい外観に基づいて「ロールオーバー」と「クリック」の外観を作成し直す場合は、外観を削除すると便利です。
   - 外観を削除せず無効にするには、外観の横にある目アイコンをクリックして選択解除します。無効なステートは、固定レイアウト EPUB、PDF または SWF ファイルに書き出されません。

注意： 「通常」ステートを削除または無効化することはできません。

ページの先頭へ

マルチステートオブジェクトの作成

オブジェクトステートパネルで、複数バージョンのオブジェクトを作成できます。ステートは、ページアイテムのバージョンです。複数のステートを含むオブジェクトは、マルチステートオブジェクトと呼ばれます。

オブジェクトステートパネルで作成できるオブジェクトのステート数には制限がありません。ステートを作成するたびに、別のバージョンのページアイテムが作成されます。ページには一度に 1 つのステートのみが表示されます。プリントおよび PDF の出力では、アクティブなステートのみが最終出力に表示されます。

マルチステートオブジェクトのスライドショーの作成

マルチステートオブジェクトの最も一般的な使用例は、スライドショーです。SWF ファイルの閲覧者は、スライドショーとして一連の画像をクリックして表示できます。例えば、画像別に異なるページを使わずに、20 個の画像のスライドショーを作成できます。

1. スライドショーで表示する画像を配置します。

   各画像フレームのサイズを統一すると、よい結果が得られます。

   ステートは、単一のアイテムである必要はなく、アイテムのコレクションにすることができます。

2. 画像をスタックするには、画像を選択し、コントロールパネルの水平方向中央揃え と垂直方向中央揃え をクリックします。

3. 画像を選択した状態で、ステートパネル（ウィンドウ／インタラクティブ／オブジェクトステート）を開き、選択範囲をマルチステートオブジェクトに変換ボタン をクリックします。

   オブジェクトステートパネルに画像がステートとして表示され、選択した画像が点線のフレーム枠で囲まれます。

4. マウスボタンを放したときに「次のステートに移動」アクションと「前のステートに移動」アクションをトリガーするナビゲーションボタンを作成します。詳しくは、ボタンの作成を参照してください。

5. プレビューパネル（ウィンドウ／インタラクティブ／EPUB インタラクティビティプレビュー / SWF プレビュー）を使用して、ナビゲーションボタンをテストします。

6. ドキュメントを SWF 形式に書き出します。詳しくは、インタラクティブドキュメントを参照してください。

マルチステートオブジェクトの編集

1. マルチステートオブジェクトを選択します。
2. オブジェクトステートパネルで、次のいずれかの操作を行います。
   - ステートを編集するには、そのステートをオブジェクトステートパネルで選択し、オブジェクトを編集します。例えば、オブジェクトに線や塗りを追加したり、オブジェクトをサイズ変更することができます。
   - オブジェクトを既存のステートに追加するには、そのオブジェクトとマルチステートオブジェクトの両方を選択し、オブジェクトを表示可能なステートに追加ボタン をクリックします。
   - オブジェクトを既存のマルチステートオブジェクトに追加するには、そのオブジェクトとマルチステートオブジェクトの両方を選択し、選択範囲をマルチステートオブジェクトに変換ボタン をクリックします。
   - ステートを複製するには、複製元のステートを選択し、パネルメニューの「新規ステート」を選択します。ステートのコンテンツの追加、削除、編集を行います。
   - オブジェクトを既存のステートにペーストするには、まず、オブジェクトをカットまたはコピーします。次に、マルチステートオブジェクトを選択し、オブジェクトステートパネルでペースト先のステートを選択して、オブジェクトステートパネルメニューの「ステートにペースト」を選択します。
   - マルチステートオブジェクトを元の個別のオブジェクトに変換するには、そのステートをオブジェクトステートパネルで選択し、パネルメニューの「ステートをオブジェクトにリリース」を選択します。マルチステートオブジェクトのすべてのステートをオブジェクトに変換するには、「すべてのオブジェクトをステートにリリース」を選択します。
   - ステートとそのコンテンツを削除するには、そのステートを選択し、パネルメニューの「ステートを削除」を選択します。
   - 書き出しファイル内のマルチステートオブジェクトを、ボタンによってトリガーされるまで非表示にするには、パネルメニューの「トリガーされるまで非表示」を選択します。
   - ドキュメント内のすべてのマルチステートオブジェクトを最初のステートにリセットするには、パネルメニューの「すべてのマルチステートオブジェクトを最初のステートにリセット」を選択します。ステートを選択すると、ドキュメントを閉じて再び開いても、オブジェクトはそのステートのままとなります。このオプションを使用すると、すべてのマルチステートオブジェクトをすばやくリセットできます。

ページの先頭へ

ボタンのホットスポットの作成

場合によっては、ボタン領域（「ホットスポット」または「ホットリンク」）にマウスポインターが置かれるまでボタンを非表示にしておきたいことがあります。例えば、地図のボタンの上をポインターが移動すると、対応する地域を表す画像が表示され、ポインターがその地域の外に移動すると、その画像が表示されなくなるよう設定することができます。



書き出した *PDF* ファイルで、ホットスポットの上にポインターを置くと、画像が表示されます。

ロールオーバー時の非表示画像の表示

「ホットスポット」効果を実現する 1 つの方法として、ボタンパネルで「ロールオーバー」ステートに画像を適用する方法があります。ボタンを作成して、「ロールオーバー」ステートでは画像を表示し、「通常」ステートでは表示しないように設定します。

1. ホットスポットとして使用する画像を選択します。画像のフレームに境界線や背景色がないことを確認します。
2. ボタンパネル（ウィンドウ／インタラクティブ／ボタンを選択）で、「通常」外観をクリックして、選択した画像をボタンに変換します。
3. ボタンパネルで、「ロールオーバー」外観をクリックして有効にします。
4. もう一度「通常」外観をクリックします。次に、ダイレクト選択ツール を使用し、画像を選択して削除します。

   フレームと画像（フレーム内容）の両方ではなく、画像のみを削除するように注意してください。フレームを削除するとボタン全体が削除されます。
5. プレビューパネルで、ホットスポット効果のプレビューを行います。

ロールオーバー時の異なるボタンの表示

オブジェクトのクリックまたはマウスオーバーによって別のオブジェクトを表示するホットスポットを作成できます。この場合は、2 個のボタンを作成して一方を非表示に設定し、「ボタンとフォームを表示／隠す」アクションを使用してターゲットボタンの表示と非表示を切り替えます。

1. ソースボタンとして使用するオブジェクトを作成します。ボタンとフォームパネルで、オブジェクトを選択してボタンに変換アイコンをクリックします。
2. ターゲットボタンとして使用する画像を配置し、ボタンに変換します。
3. ターゲット画像を選択し、ボタンパネルの下部にある「トリガーされるまで非表示」を選択します。

   ソースボタンに対するマウスオーバーまたはクリックによって画像が表示されるようにするには、書き出すドキュメント内でその画像を非表示にしておく必要があります。
4. ソースボタンを選択し、2 つの異なるアクション（ターゲット画像を表示するアクションと、非表示にするアクション）を作成します。

   ソースボタンにマウスポインターが置かれたときに画像を表示する場合は、「ロールオーバー時」および「ロールオフ時」イベントを使用します。ソースボタンがクリックされたときに画像を表示し、放されたら非表示にする場合は、「クリック時」および「リリースまたはタップ時」イベントを使用します。どちらの場合も、「ボタンとフォームを表示／隠す」アクションを使用してターゲットボタンの表示と非表示を切り替えます。詳しくは、ボタンのインタラクティブ化を参照してください。
5. プレビューパネルでボタンをテストします。

ボタンの PDF オプションの変更

1. 選択ツールを使用して、ボタンを選択します。
2. ボタンとフォームパネルの「PDF オプション」を表示します。
3. 説明文を入力します。これは、視覚障害を持つユーザーのために読み上げられる代替テキストとして機能します。
4. このボタンを PDF ファイル内に表示するかどうかを指定し、「OK」をクリックします。

ページの先頭へ

ボタンのタブ順の設定

タブ順は、ユーザーが PDF または SWF ドキュメントで Tab キー（または Shift+Tab キー）を押したときにフォーカスされる次の（または前の）フィールドを決定します。各ページで設定するタブ順の対象には、非表示レイヤー上のボタンも含まれますが、マスターページ上のボタンは含まれません。

1. ボタンを含んでいるページをターゲットにします。
2. オブジェクト／インタラクティブ／タブ順を設定を選択します。
3. タブ順を移動するボタン名を選択し、新しい位置にドラッグするか、「上へ移動」または「下へ移動」ボタンをクリックしてタブ順を変更します。完了したら、「OK」をクリックします。

Acrobat で PDF を編集してページにボタンやフォームフィールドを追加する場合は、必要に応じて Acrobat で新しいタブ順を指定します。

- ハイパーリンクパネルの概要

(cc) BY-NC-SR Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

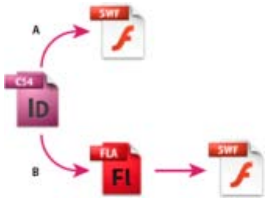
Flash 用のインタラクティブ Web ドキュメント

Web 用のインタラクティブ SWF（Flash）ファイルの作成
Web 用の FLA ファイルの作成
Flash の書き出しに関する問題

Flash Player で再生できるスライドショー型のコンテンツを作成するには、SWF または FLA に書き出します。SWF ファイルはそのまま表示できますが編集できない形式です。一方、FLA ファイルは、Adobe Flash Player で表示できる形式にするために Adobe Flash Professional で編集する必要があります。これが 2 つの形式の最も大きな違いです。

SWF SWF ファイルには、ページ効果、ハイパーリンク、ムービー、サウンドクリップ、アニメーション、ナビゲーションボタンなどのインタラクティブ要素を含めることができます。書き出した SWF ファイルはそのまま Adobe Flash Player で表示できます。

FLA FLA ファイルへの書き出しでは、含めることのできるインタラクティブ要素が限られています。この FLA ファイルを開くには Flash Pro が必要です。FLA ファイルの作成者や別の Flash 開発者が Flash Pro 上で高度な効果を追加し、それから SWF に書き出すことができます。



Flash への書き出し

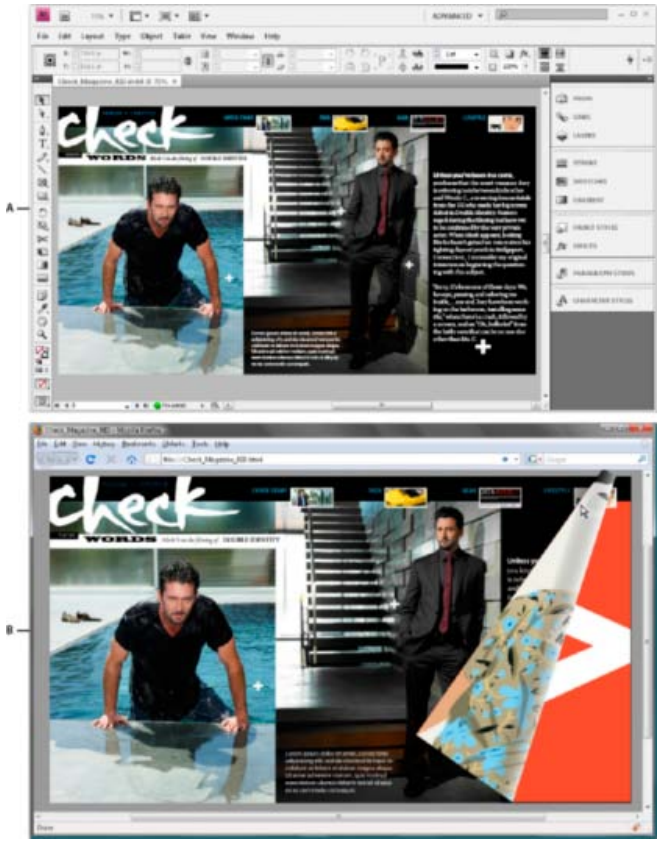
A. *SWF* への直接書き出し ***B.*** *FLA* を書き出して *Flash Professional* 上で編集

ページの先頭へ

Web 用のインタラクティブ SWF（Flash）ファイルの作成

SWF に書き出す場合は、Adobe Flash Player または Web ブラウザーでそのまま表示できるインタラクティブなファイルを作成します。SWF ファイルには、InDesign 上で追加したボタン、ページ効果、ムービーおよびオーディオファイル、アニメーション、ハイパーリンクを含めることができます。SWF の書き出しは、インタラクティブなスライドショーや紙芝居を InDesign ドキュメントから作成する場合に適しています。

SWF ファイルを作成する前にドキュメントを Flash Pro で編集する必要がある場合は、SWF でなく FLA 形式で書き出します。Web 用の FLA ファイルの作成を参照してください。



SWF への書き出し

A. *SWF* に書き出される前の *InDesign* ドキュメント ***B.*** *Web* ブラウザーで表示されたインタラクティブな *SWF* ファイル

1. Flash への書き出し用に InDesign ドキュメントを作成または編集します。ドキュメントを書き出し用に設定する方法について詳しくは、Flash の書き出しに関する問題を参照してください。
   - 書き出す SWF ファイル上でユーザーがページ間を移動できるように、ナビゲーションボタンを追加します。ボタンを作成するには、オブジェクトを描画し、ボタンパネル（ウィンドウ／インタラクティブ／ボタン）を使用してオブジェクトをボタンに変換します。または、サンプルボタンパネルにある定義済みのボタンをドキュメントにドラッグして使用することもできます。ボタンの作成を参照してください。
   - ページ効果パネル（ウィンドウ／インタラクティブ／ページ効果）を使用し、ワイプやディザ合成などのページ効果を追加します。また、SWF への書き出しの際に「インタラクティブなページめくり効果を含む」オプションを選択すると、再生時にユーザーがページの端をドラッグしてページをめくれるようになります。
   - アニメーションパネル（ウィンドウ／インタラクティブ／アニメーションを選択）で、モーションプリセットを追加します。アニメーションを参照してください。
2. ドキュメントを SWF 形式で書き出すには、ファイル／書き出しを選択します。「ファイルの種類」（Windows）または「フォーマット」（Mac OS）から「Flash Player（SWF）」を選択し、「保存」をクリックします。
3. SWF を書き出しダイアログボックスで、オプションを指定して「OK」をクリックします。SWF 書き出しオプションを参照してください。

SWF ファイルを書き出すときに、別の HTML および SWF ファイルが作成されます。SWF ファイルがムービーまたはサウンドクリップを含むときは、Resources フォルダーも作成されます。 ファイルを入稿するとき、または Web にアップロードするときは、必ずすべてのアセットを送ってください。

SWF 書き出しオプション

SWF を書き出しオプションダイアログボックスの「一般」タブと「詳細設定」タブには、次のオプションがあります。

書き出し 書き出し対象を現在の選択範囲にするか、ドキュメントのすべてのページにするか、またはページ範囲にするかを指定します。「選択範

囲」は、書き出された PDF ファイルの中で使用するために SWF ファイルを書き出して保存する場合に特に有用です。「範囲」を選択する場合は、ページの範囲を指定します。例えば、1 ～ 7 ページと 9 ページをプリントする場合は「**1-7, 9**」のように指定します。プリントするページの指定を参照してください。

HTML ファイルを生成 このオプションを選択すると、SWF ファイルを再生する HTML ページが生成されます。このオプションは、Web ブラウザーで SWF ファイルをすばやくプレビューする場合に特に便利です。

書き出した後 **SWF** を表示 このオプションを選択すると、SWF ファイルがデフォルトの Web ブラウザーで再生されます。このオプションは、HTML ファイルを生成する場合にのみ選択できます。

サイズ（ピクセル） SWF ファイルを倍率を指定して拡大 / 縮小するか、指定したモニターサイズに合わせるか、指定した幅と高さに応じてサイズ変更するかを指定します。

背景 SWF の背景を透明にするか、スウォッチパネルで選択した現在の紙色を使用するかを指定します。「透明」を選択すると、「ページ効果」および「インタラクティブなページめくり効果を含む」オプションは無効になります。

インタラクティビティおよびメディア 書き出す SWF ファイル内のムービー、サウンド、ボタンおよびアニメーションをインタラクティブにするには、「すべて含める」を選択します。ボタンやビデオポスターの通常ステートを静的な要素として含めるには、「外観のみ」を選択します。「外観のみ」の場合、アニメーションは、書き出し時点でレイアウトに表示されているとおりに書き出されます。詳細パネルで「透明を分割・統合」を選択すると、「外観のみ」が選択されます。

ページ効果 書き出し時にすべてのページに適用されるページ効果を 1 つ指定します。ページ効果パネルで効果を指定している場合は、「ドキュメントから」オプションを選択すると、その設定内容が使用されます。

インタラクティブなページめくり効果を含む このオプションを選択した場合、SWF ファイルを再生するユーザーは、ページの端をドラッグすることによって、実際の本でページをめくるように操作できます。

フレームレート フレームレートの値を大きくするとスムースなアニメーションを作成できますが、ファイルサイズが大きくなります。フレームレートの変更は再生時間の長さには影響しません。

テキスト InDesign テキストの出力方法を指定します。「Flash クラシックテキスト」を選択すると、検索可能なテキストが出力され、ファイルサイズは最も小さくなります。「アウトラインに変換」を選択すると、テキストをアウトラインに変換するのと同様に、テキストが一連の滑らかな線として出力されます。「ピクセルに変換」を選択すると、テキストがビットマップ画像で出力されます。ピクセルに変換したテキストは、ズームインしたときにエッジがギザギザに表示される場合があります。

ページをラスタライズ このオプションは、すべての InDesign ページアイテムをビットマップに変換します。このオプションを選択すると、SWF ファイルのサイズは大きくなり、ページアイテムはズームインしたときにギザギザに表示される場合があります。

透明部分を分割・統合 このオプションを選択すると、SWF からダイナミックな透明効果が除去されます。透明効果の外観は維持されますが、書き出す SWF ファイルからはすべてのインタラクティブ性が失われます。

圧縮 「自動」を選択すると、カラー画像やグレースケール画像に最適な品質が設定されます。ほとんどのファイルでは、このオプションを選択することで十分な結果が得られます。「JPEG（劣化あり）」は、グレースケール画像やカラー画像に適しています。JPEG 圧縮は非可逆圧縮方式なので、画像データの情報量に損失が生じて画質が低下する可能性がありますが、なるべく少ない損失でファイルサイズを小さくするような圧縮処理が行われます。JPEG 圧縮では損失を完全に防ぐことはできませんが、その代わりファイルサイズを非常に小さくできます。「PNG（劣化なし）」を選択すると、非可逆圧縮を行わずにファイルが書き出されます。

SWF への書き出しで透明画像の品質低下が目立つ場合は、「*PNG*（劣化なし）」を選択することで画質を向上できます。

JPEG 画質 書き出す画像の細部のレベルを指定します。 画質が高いほど、ファイルサイズが大きくなります 「圧縮」で「PNG（劣化なし）」を選択した場合、このオプションはグレー表示になります。

解像度 書き出す SWF 画像に含めるビットマップ画像の解像度を指定します。書き出す SWF に含まれるピクセルベースのコンテンツを拡大表示できるようにする場合は、高解像度を選択することが非常に重要です。ただし、高解像度を選択するとファイルサイズが大幅に増大することがあります。

Web 用の FLA ファイルの作成

InDesign ドキュメントを FLA ファイル形式に書き出すと、そのファイルを Adobe Flash® CS5 Professional で開いて、コンテンツを編集できます。InDesign CS5 の FLA 書き出しは、InDesign CS4 における XFL 書き出しに取って代わる機能です。これにより、Flash オーサリング環境を使用してファイルを編集したり、ビデオ、オーディオ、アニメーションおよび複雑なインタラクティビティを追加したりできます。

直接 Web ブラウザーで開ける形式で InDesign ドキュメントを書き出す必要がある場合は、FLA 形式でなく SWF 形式を使用します。Web 用のインタラクティブ SWF（Flash）ファイルの作成を参照してください。



FLA への書き出し

A. *FLA* に書き出される前の *InDesign* ドキュメント ***B.*** *Flash Pro* で開いた *FLA* ファイル

1. Flash への書き出し用に InDesign ドキュメントを作成または編集します。ドキュメントを書き出し用に設定する方法について詳しくは、Flash の書き出しに関する問題を参照してください。
2. ドキュメントを FLA 形式で書き出すには、ファイル／書き出しを選択します。「ファイルの種類」（Windows）または「フォーマット」（Mac OS）から「Flash CS5 Professional（FLA）」を選択し、「保存」をクリックします。
3. Flash CS5 Professional（FLA）を書き出しダイアログボックスで、オプションを指定して「OK」をクリックします。書き出しオプションについて詳しくは、FLA 書き出しオプションを参照してください。
4. 書き出した FLA ファイルを Flash Professional で開きます。

FLA 書き出しオプション

Flash CS5 Professional（FLA）を書き出しダイアログボックスには、次のオプションがあります。

書き出し 書き出し対象を現在の選択範囲にするか、ドキュメントのすべてのページにするか、またはページ範囲にするかを指定します。「範囲」を選択する場合は、ページの範囲を指定します。例えば、1 ～ 7 ページと 9 ページをプリントする場合は「**1-7, 9**」のように指定します。プリントするページの指定を参照してください。

ページをラスタライズ　このオプションは、すべての InDesign ページアイテムをビットマップに変換します。このオプションを選択すると、XFL ファイルのサイズは大きくなり、ページアイテムはズームインしたときにギザギザになります。

透明部分を分割・統合　このオプションを選択すると、透明部分を含むすべてのオブジェクトが分割・統合されます。透明部分が分割・統合されたオブジェクトは、Adobe Flash Pro でのアニメーション再生が難しくなる場合があります。

サイズ（ピクセル）　FLA ファイルを倍率を指定して拡大 / 縮小するか、指定したモニターサイズに合わせるか、指定した幅と高さに応じてサイズ変更するかを指定します。

インタラクティビティおよびメディア　書き出す FLA ファイルにムービー、サウンド、ボタンおよびアニメーションを含めるには、「すべて含める」を選択します。ドキュメントにマルチステートオブジェクトが含まれる場合、それらのオブジェクトは、各ステートに対応するフレームをタイムライン上に持ったムービークリップシンボルへと変換されます。

ボタンやビデオポスターの通常ステートを静的な要素として含めるには、「外観のみ」を選択します。「外観のみ」の場合、アニメーションは、書き出し時点でレイアウトに表示されているとおりに書き出されます。「透明を分割・統合」を選択すると、「外観のみ」が選択されます。

テキスト　InDesign テキストの出力方法を指定します。「Flash TLF テキスト」を選択すると、Flash Professional の強力なテキストレイアウトフレームワーク属性群を利用できます。このオプションを選択した場合、「任意ハイフンポイントを挿入」を選択するとハイフネーションが有効になります。「Flash クラシックテキスト」を選択すると、検索可能なテキストが出力され、ファイルサイズが小さくなります。「アウトラインに変換」を選択すると、テキストをアウトラインに変換するのと同様に、テキストが一連の滑らかな線として出力されます。「ピクセルに変換」を選択すると、テキストがビットマップ画像で出力されます。ピクセルに変換したテキストは、ズームインしたときにエッジがギザギザに表示される場合があります。

圧縮　「自動」を選択すると、カラー画像やグレースケール画像に最適な品質が設定されます。ほとんどのファイルでは、このオプションを選択することで十分な結果が得られます。「JPEG（劣化あり）」は、グレースケール画像やカラー画像に適しています。JPEG 圧縮は非可逆圧縮方式なので、画像データの情報量に損失が生じて画質が低下する可能性がありますが、なるべく少ない損失でファイルサイズを小さくするような圧縮処理が行われます。JPEG 圧縮では損失を完全に防ぐことはできませんが、その代わりファイルサイズを非常に小さくできます。「PNG（劣化なし）」を選択すると、非可逆圧縮を行わずにファイルが書き出されます。

JPEG 画質　書き出す画像の細部のレベルを指定します。 画質が高いほど、ファイルサイズが大きくなります 「圧縮」で「PNG（劣化なし）」を選択した場合、このオプションはグレー表示になります。

解像度　書き出す FLA ファイルに含めるビットマップ画像の解像度を指定します。ピクセルベースのコンテンツを拡大表示できるようにする場合は、高解像度を選択することが非常に重要です。ただし、高解像度を選択するとファイルサイズが大幅に増大することがあります。

ページの先頭へ

Flash の書き出しに関する問題

SWF または FLA で出力する InDesign ドキュメントをデザインする際は、次の点を考慮してください。

ドキュメントの設定に関する問題

InDesign ページを変換する方法　SWF または FLA に書き出すと、InDesign スプレッドは、（スライドショーのスライドのように）タイムライン上の別々のクリップに分かれます。各スプレッドは新しいキーフレームに割り当てられます。Flash Player では、矢印キーを押すかインタラクティブなボタンをクリックして、書き出されたドキュメントのスプレッド間を移動します。

Web での使用を意図したドキュメントを作成する場合は、新規ドキュメントダイアログボックスのドキュメントプロファイルメニューから「*Web*」を選択します。

ページサイズ　ドキュメントを作成する場合、新規ドキュメントダイアログボックスのページサイズポップアップメニューから特定の解像度（800 x 600 など）を選択できます。書き出し時に、書き出す SWF ファイルまたは FLA ファイルの拡大 / 縮小率や解像度を調整することもできます。

インタラクティブ機能

ボタン、ページ効果、ハイパーリンク、アニメーション、メディアファイルは、書き出す SWF および FLA ファイルに含めることができます。

ボタン　書き出した SWF または FLA ファイルを Flash Player で再生するとき、次ページや前ページに移動するボタンがあると便利です。ただし、インタラクティブ PDF ファイルで機能するアクションの中には、Flash Player では機能しないものもあります。ボタンパネルでアクションを選択する際、「PDF のみ」セクションにあるオプションは選択しないようにしてください。

「次ページへ移動」および「前ページへ移動」アクションの設定済みナビゲーションボタンを追加することもできます。これらを使用するには、ボタンパネルメニューから「サンプルボタン」を選択します。サンプルボタンとフォームパネルからのボタンの追加を参照してください。

ページ効果　すべてのページ効果は Flash Player で正常に機能します。ページをめくったときに表示されるページ効果のほかに、書き出し時にインタラクティブなページめくり効果を追加することができます。この効果では、ページの隅をドラッグしたときに、ページがめくられます。

ハイパーリンク　ドキュメント内の他のページまたは Web サイトへのリンクを作成します。ハイパーリンクは FLA ファイルでは無効になります。

ムービーおよびサウンドクリップ　ムービーとサウンドクリップは、サポートされている形式であれば、書き出す SWF ファイルに含められます。ムービーについては SWF、FLV、F4V、MP4 などの形式、サウンドクリップについては MP3 形式がサポートされています。

FLA に書き出す場合は、ポスター画像のみ FLA ファイルに含められます。サポートされているメディアファイルは、書き出す FLA ファイルと同じ場所にある resources フォルダーに保存されます。

変換に関する問題

カラー　SWF ファイルおよび FLA ファイルでは RGB カラーが使用されます。ドキュメントを SWF または FLA に書き出す場合、InDesign ではすべてのカラースペース（CMYK や LAB など）が sRGB に変換されます。特色は対応する RGB プロセスカラーに変換されます。

透明が適用されたテキストを含むアートワークでカラーが変更されるのを防ぐには、編集／透明ブレンド領域の設定／ドキュメントの RGB 領域を使用を選択します。透明部分を含んだ画像の色に意図しない変化が生じるのを防ぐには、書き出し時に劣化ありの圧縮形式を使用しないようにしてください。

テキスト　SWF または FLA に書き出す際、テキストの出力方法として、Flash テキストか、アウトラインまたはピクセルへの変換を選択できます。「Flash クラシックテキスト」を選択した場合、FLA ファイルを Adobe Flash CS5 Professional で開くとテキストの編集操作をすべて実行でき、SWF ファイルとして保存するとテキストを Web ブラウザーで検索可能になります。

画像　画像を SWF または FLA に書き出す場合は、画像の圧縮率、JPEG 画質、解像度の設定を書き出し時に変更できます。

1 つの画像が InDesign ドキュメント内の複数箇所に配置されている場合、画像を FLA に書き出すと、共有された 1 つの場所にある単一の画像アセットとして保存されます。InDesign ドキュメント内に多数のベクトル画像がある場合は、ファイルの書き出し時にパフォーマンスの問題が生じることがあります。

ファイルサイズを小さくするには、繰り返し使用する画像をマスターページに挿入し、画像をコピー＆ペーストしないようにします。同じ画像をドキュメント内に繰り返し挿入し、変形もトリミングもしていない場合は、ファイルのコピーが 1 つのみ FLA ファイルに書き出されます。コピー＆ペーストした画像はそれぞれが別個のオブジェクトとして扱われます。

デフォルトでは、Illustrator ファイルを挿入すると、FLA ファイルの単一の画像として扱われます。Illustrator ファイルをコピー＆ペーストすると、それぞれが個別のオブジェクトとして生成されます。Illustrator 画像は、Illustrator からコピー＆ペーストせずに PDF ファイルとして挿入することをお勧めします。コピー＆ペーストすると、複数の編集可能なパスが生成されます。

環境設定のオプションを変更し、*Illustrator* オブジェクトをベクトルパスではなく *1* つのオブジェクトとしてペーストすることができます。*Illustrator* のファイル管理･クリップボード環境設定で、「*PDF*」を選択し、「*AICB*（透明サポートなし）」の選択を解除します。*InDesign* のクリップボードの処理環境設定で、「ペースト中に *PDF* 形式を優先」と「*PDF* をクリップボードにコピー」の両方を選択します。

透明　SWF に書き出す前に、透明オブジェクトがボタンやハイパーリンクなどのインタラクティブなエレメントに重なっていないことを確認します。透明オブジェクトがインタラクティブなエレメントに重なっていると、書き出し時にインタラクティビティが失われる場合があります。FLA に書き出す前に透明を分割・統合することもできます。

場合によっては、劣化ありの圧縮形式を選択すると、透明部分を含んだ画像の品質が低下することがあります。そのような場合は書き出し時に「PNG（劣化なし）」を選択すると画質が向上します。

3D 属性　3D 属性は、SWF および FLA ファイルへの書き出しではサポートされていません。

(cc) BY-NC-SR Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

アニメーション

モーションプリセットによるドキュメントのアニメーション化
モーションプリセットの管理
モーションパスの編集
タイミングパネルを使用したアニメーションの順序の変更

アニメーション効果を使用すると、SWF ファイルに書き出したオブジェクトを動作させることができます。例えば、画像にモーションプリセットを適用し、画像が画面の左側から縮小および回転しながら飛んで来るように見せることができます。次のツールやパネルを使用してドキュメントをアニメーション化します。



「再生」ボタンをクリックして、アニメーションを表示します。

アニメーションパネル モーションプリセットを適用し、アニメーションの長さや速度などの設定を編集します。

ダイレクト選択ツールとペンツール アニメーションオブジェクトが移動するパスを編集します。

タイミングパネル ページ上のオブジェクトをアニメーション化する順序を指定します。

プレビューパネル InDesign パネルでアニメーションを表示します。

注意： 関連するアニメーションタイプとして、*InDesign* ではボタンのロールオーバー効果を追加できます。詳しくは、ボタンの作成を参照してください。

レイアウトのアニメーション化に関するビデオ概要については、Infiniteskills.com の Jeff Witchel による Animating layouts（英語）を参照してください。

ページの先頭へ

モーションプリセットによるドキュメントのアニメーション化

モーションプリセットは、オブジェクトにすばやく適用できる作成済みのアニメーションです。アニメーションパネルを使用して、モーションプリセットを適用し、アニメーションの長さや速度などの設定を変更します。アニメーションパネルでは、アニメーションオブジェクトを再生するタイミングを指定できます。

これらのモーションプリセットは、Adobe Flash CS5 Professional に搭載されているモーションプリセットと同じものです。 Flash Professional で作成した任意のカスタムモーションプリセットを読み込むことができます。作成したモーションプリセットを保存し、InDesign または Flash Professional で使用することもできます。

> アニメーション機能は、*Adobe Flash Player*（*.SWF*）に書き出した場合にだけサポートされます。インタラクティブ *PDF* に書き出した場合はサポートされません。*PDF* ファイルにアニメーション効果を追加するには、選択範囲を *SWF* ファイルとして *InDesign* から書き出し、その *SWF* ファイルを *InDesign* ドキュメントに挿入します。

1. アニメーション化するオブジェクトをドキュメント内に挿入します。
2. アニメーションパネル（ウィンドウ／インタラクティブ／アニメーション）で、プリセットメニューからモーションプリセットを選択しま

す。

3. モーションプリセットのオプションを指定します。
4. モーションパスを編集するには、ペンツールとダイレクト選択ツールを使用します。
5. タイミングパネルを使用して、アニメーション効果の順序を指定します。
6. プレビューパネルを使用して、InDesign でアニメーションをプレビューします。

オブジェクトからアニメーションを削除するには、そのオブジェクトを選択し、アニメーションパネルの削除アイコンをクリックします。

注意： フェードインなどのアニメーション効果とページ効果やページめくり効果を組み合わせている場合、プレビューパネルや書き出された *SWF* ファイルではアニメーションが期待通りに動作しないことがあります。例えば、「フェードイン」に設定されているオブジェクトは、非表示で始まるはずですが、ページをめくるときに表示されます。こうした競合を避けるために、アニメーションのあるページではページ効果を使用しないようにし、*SWF* 書き出しダイアログボックスの「インタラクティブなページめくり効果を含む」オプションをオフにしてください。ページ効果およびページめくり効果と組み合わせると期待通りに動作しない場合があるモーションプリセットには、表示、フェードイン、各種のフライインプリセット、ズームイン（*2D*）、スウォッシュ（噴出）などがあります。

選択したオブジェクトをモーションパスに変換

オブジェクトとパスを選択し、それをモーションパスに変換することで、アニメーションを作成できます。2 つの長方形など、2 つの閉じたパスを選択すると、手前のパスがモーションパスになります。

1. アニメーション化するオブジェクトと、モーションパスとして使用するパスを選択します。

   2 つまでのオブジェクトを選択し、変換できます。
2. アニメーションパネルで、モーションパスに変換ボタン をクリックします。
3. アニメーションパネルで設定を変更します。

モーションプリセットのオプション

モーションプリセットのオプションは、アニメーションパネルに表示されます。「プロパティ」オプションをクリックすると、詳細設定が表示されます。

名前 アニメーションの名前を指定します。アニメーションをトリガーするアクションを設定する場合は、わかりやすい名前を指定します。

プリセット 定義済みのモーション設定のリストからプリセットを選択します。

イベント デフォルトでは、「ページ読み込み時」が選択されます。ページを SWF ファイルで開くと、アニメーションオブジェクトが再生されます。「ページクリック時」を選択すると、ページをクリックしたときにアニメーションがトリガーされます。「クリック時（セルフ）」または「ロールオーバー時（セルフ）」を選択すると、それぞれオブジェクト自体をクリックするか、マウスでロールオーバーしたときにアニメーションがトリガーされます。アニメーションをトリガーするボタンアクションを作成する場合は、「ボタンイベント時」を選択します。（ボタンへのアクションの追加を参照してください。） アニメーションを開始するための複数のイベントを指定することができます。
「ロールオーバー時（セルフ）」を選択する場合は、「ロールオフ時に反転」も選択できます。このオプションでは、マウスがオブジェクトから離れると、アニメーションのアクションが反転されます。

ボタントリガーを作成 既存のオブジェクトまたはボタンからアニメーションをトリガーするには、このアイコンをクリックします。ボタントリガーを作成 をクリックし、その後でアニメーションをトリガーするオブジェクトをクリックします。オブジェクトはボタンに変換され、必要に応じて、ボタンパネルが開きます。

期間 アニメーションの所要時間を指定します。

再生 アニメーションの再生回数を指定します。または、アニメーションを停止するまで繰り返し再生する場合は、「ループ」を選択します。

速度 アニメーションの速度として、一定の速度（「なし」）、徐々に加速（「イーズイン」）、徐々に減速（「イーズアウト」）などのオプショ

ンを選択します。

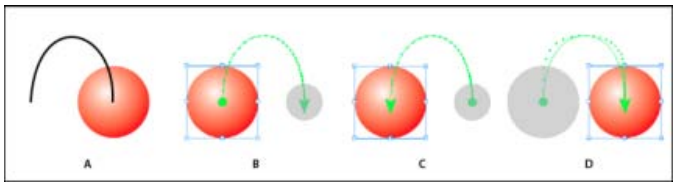
注意： 「プロパティ」を展開すると、次のオプションが使用できます。

実行 アニメーションの開始位置としてオブジェクトの現在のプロパティ（倍率、回転角度、位置）を使用するには、「現在の外観から開始」を選択します。

アニメーションの終了位置としてオブジェクトのプロパティを使用するには、「現在の外観で終了」を選択します。このオプションは、特にスライドショーで便利です。例えば、ページ外からページ内に飛来するオブジェクトは、ペーストボード上ではなくページ上に表示すると、プリントしたドキュメントの見栄えがよくなります。

現在のオブジェクトのプロパティをアニメーションの開始位置とし、オブジェクトの位置を終了位置として使用するには、「現在の外観から開始（現在位置で終了）」を選択します。このオプションは、オブジェクトが現在の位置で終わってモーションパスがオフセットされる点を除いて、「現在の外観から開始」と同じです。このオプションをぼかしやフェードなどのプリセットで使用すると、アニメーションの最後にオブジェクトが適切な状態で表示されます。

モーションパスの最後にプロキシを表示するには、アニメーションパネルの下部のアニメーションプロキシを表示をクリックします。



アニメーション設定

A. アニメーション前のオブジェクトとパス ***B.*** 現在の外観から開始 ***C.*** 現在の外観で終了 ***D.*** 現在の外観から開始（現在位置で終了）

回転 アニメーション中にオブジェクトが回転する角度を指定します。

作成元 基準点アイコンを使用して、アニメーションオブジェクトのモーションパスの開始位置を指定します。

拡大・縮小率 再生中にオブジェクトのサイズを増減するパーセント値を指定します。

不透明度 アニメーションを常に表示する（「なし」）、徐々に表示する（「フェードイン」）、または徐々に非表示にする（「フェードアウト」）をオプションとして選択します。

表示 / 非表示 再生前または再生後にオブジェクトを非表示にするには、それぞれ「実行前まで隠す」または「実行後に隠す」を選択します。

ページの先頭へ

モーションプリセットの管理

アニメーション設定をモーションプリセットとして保存し、InDesign で簡単に再利用できます。XML ファイルから既存のプリセットを読み込んで、Flash Professional で開いたり、他の InDesign ユーザーと共有することもできます。

モーションプリセットの保存と再利用

カスタムプリセットは、アニメーションパネルのプリセットメニューの上部に表示されます。

1. アニメーションパネルで、必要に応じて、その設定を変更します。
2. アニメーションパネルメニューから「保存」を選択します。
3. プリセットの名前を入力し、「OK」をクリックします。

カスタムモーションプリセットの削除

保存または複製したモーションプリセットや読み込んだモーションプリセットを削除するには、プリセットを管理ダイアログボックスを使用しま

す。InDesign に組み込まれている括弧つきのモーションプリセットを削除することはできません。モーションプリセットを削除すると、プリセットメニューとコンピューターの両方から削除されます。

1. アニメーションパネルメニューから「プリセットを管理」を選択します。
2. 削除するプリセットを選択して、「削除」をクリックします。

モーションプリセットの複製

1. アニメーションパネルメニューから「プリセットを管理」を選択します。
2. 複製するプリセットを選択して、「複製」をクリックします。

XML ファイルとしてのモーションプリセットの保存

モーションプリセットを XML ファイルとして保存すると、それを他の InDesign ユーザーと共有したり、Flash Professional で開くことができます。
モーションプリセットを XML ファイルとして保存するときに、モーションパスは期間、速度、拡大／縮小率、回転および不透明度の設定と共に保存されます。

1. アニメーションパネルメニューから「プリセットを管理」を選択します。
2. プリセットを選択して、「別名で保存」をクリックします。
3. モーションプリセットの名前と保存先を指定し、「保存」をクリックします。

モーションプリセットの読み込み

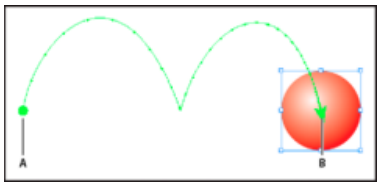
InDesign または Flash Professional から書き出したモーションプリセットを XML ファイルとして読み込むことができます。

1. アニメーションパネルメニューから「プリセットを管理」を選択します。
2. 「読み込み」ボタンをクリックします。
3. 読み込む .xml ファイルをダブルクリックします。

ページの先頭へ

モーションパスの編集

アニメーションを含むオブジェクトを選択すると、オブジェクトの横にモーションパスが表示されます。



モーションパス

A. 開始位置 ***B.*** 終了位置

- モーションパスを編集するには、次のいずれかの操作を行います。
  - パスの編集と同じ方法でモーションパスを編集するには、ペンツールとダイレクト選択ツールを使用します。パスの編集を参照してください。
  - 既存のパスからモーションパスを作成するには、パスとオブジェクトを選択し、アニメーションパネルの「モーションパスに変換」ボタン をクリックします。
  - パスの方向を変更するには、アニメーションパネルの「プロパティ」をクリックし、次に実行メニューからオプションを選択します。（モーションプリセットのオプションを参照してください。）モーションパスを選択して、オブジェクト／パス／パスの反転を選択することもできます。オブジェクトを移動せずにパスを反転するには、アニメーションを削除してからパスを反転し、その後でアニメーショ

ンをやり直します。

ページの先頭へ

タイミングパネルを使用したアニメーションの順序の変更

タイミングパネルを使用してアニメーションオブジェクトの再生順を変更します。タイミングパネルには、現在のスプレッド上にあるすべてのアニメーションが、アニメーションに割り当てたページイベント別に一覧表示されます。例えば、ページ読み込み時やページクリック時のイベントに応じたアニメーションのセットが表示され、これをセット別に変更することができます。

アニメーションオブジェクトは、作成した順に表示されます。デフォルトでは、ページ読み込み時イベントが割り当てられたアニメーションは順に続けて再生されます。ページクリック時イベントが割り当てられたアニメーションは、ページをクリックするたびに順に再生されます。

アニメーションの順序は変更できます。複数のオブジェクトを同時に再生したり、アニメーションを遅延することもできます。

1. ウィンドウ／インタラクティブ／タイミングを選択して、タイミングパネルを表示します。
2. ページ読み込み時やページクリック時のイベントのタイミングを編集するには、イベントメニューのオプションを使用します。

   ページ読み込み時やページクリック時のイベントは、1 つ以上のアイテムが割り当てられている場合にのみ表示されます。
3. タイミングを編集するには、次のいずれかの操作を行います。
   - アニメーションの順序を変更するには、リスト内でアイテムを上下にドラッグします。一番上のアニメーションから再生されます。
   - アニメーションを遅延させるには、そのアイテムを選択し、遅延させる秒数を指定します。
   - 複数のアニメーションオブジェクトを同時に再生するには、リストで各アイテムを選択し、同時に再生ボタン をクリックして複数のアイテムをリンクします。複数の連続したアイテムを選択するには、Shift キーを押しながら最初と最後のアイテムをクリックします。複数の連続していないアイテムを選択するには、Ctrl キー（Windows）または Command キー（Mac OS）を押しながら各アイテムをクリックします。
   - 同時に再生するアイテム群からいくつかを除外する場合は、除外する各アイテムを選択し、別々に再生ボタン をクリックします。
   - リンクした複数のアイテムを特定の回数または連続再生する場合は、リンクした各アイテムを選択し、アニメーションの再生回数を指定するか、「ループ」を選択します。
   - アニメーションをトリガーするイベントを変更するには、そのアイテムを選択し、タイミングパネルメニューの「ページの読み込み時に再割り当て」または「ページクリック時に再割り当て」を選択します。
   - 現在選択しているイベント（ページ読み込み時またはページクリック時）からアイテムを削除するには、タイミングパネルメニューの「項目の削除」を選択します。どのイベントにも割り当てられていないアイテムは、「割り当てなし」カテゴリーに表示され、イベントメニューから選択することができます。

(cc) BY-NC-SA Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

PDF の構造化

PDF への構造の追加
再利用とアクセシビリティに対するタグの影響
折り返し機能の概要と最適化
ページアイテムのタグ付け
スクリーンリーダーソフトウェアで使用するグラフィックのラベル付け
ページアイテムの Article 要素へのグループ化

PDF への構造の追加

トップへ戻る

Adobe PDF を書き出しダイアログボックスの「一般」セクションにある「タグ付き PDF を作成」オプションを選択して Adobe PDF に書き出す場合、書き出されたページは、ヘッドライン、記事、図などのページアイテムを識別するため、内容を記述する構造タグセットで自動的にタグ付けされます。書き出す前にその他のタグを追加する場合や既存のタグを微調整する場合は、InDesign のタグパネルを使用します。構造ウィンドウ（表示／構造／構造を表示）に変更が反映されます。

InDesign ドキュメントを書き出す前にタグを追加することで、Adobe PDF ドキュメントのアクセシビリティと再利用を改善できます。タグを含まない PDF ドキュメントの場合でも、Adobe Reader および Acrobat は、文書を読み上げたり、折り返し表示したりするときに自動的にタグを設定しますが、期待どおりの結果が得られるとは限りません。書き出した PDF ファイルで満足のいく結果が得られない場合は、Acrobat 6.0 Professional 以降に付属のツールを使用して、タグ付き PDF ドキュメントの構造を編集することができます。最新のツールを利用する場合は、Acrobat 9 Professional を使用します。

PDF 書き出しでドキュメントにタグを適用する場合、XML 書き出しの場合と同様に、PDF に書き出す内容はタグで制御できません。その代わりに、ドキュメントの構造内容に関する詳細な情報がタグによって Acrobat に提供されます。

タグを使用する利点
PDF に書き出す前にドキュメントにタグを適用すると、次のことが可能になります。

- ハンドヘルドデバイスまたは他のメディアで PDF ファイルの折り返し表示を行うために、InDesign の段落スタイル名を Acrobat のタグ付き Adobe PDF の段落スタイルにマップできます
- 印刷装飾、テキストおよび画像にタグを付けて、Acrobat で折り返し表示した場合に表示されないようにします。例えば、ページアイテムを装飾としてタグ付けする場合、タグ付き Adobe PDF ドキュメントの内容をハンドヘルドデバイス、小型ディスプレイ、標準モニターでの拡大表示などで折り返しするとき、このページアイテムは表示されません。
- 視覚障害者がスクリーンリーダーソフトウェアを使用してテキストを読み上げることができるように、図表の代替テキストを追加します。
- 凝ったドロップキャップなどのグラフィック文字を読み取り可能な文字に置き換えます。
- アーティクルセットのタイトルを適用するか、記事や図表をアーティクルにグループ化します。
- 読み取り順序を確立するために、記事と図表を順番に並べます。
- 表、箇条書き、目次項目が認識されます。どの内容ブロックが別の記事に属するかが認識されます。
- 文字の Unicode 値、文字間隔、ソフトハイフンやハードハイフンなどのテキスト書式情報が含まれます。

再利用とアクセシビリティに対するタグの影響

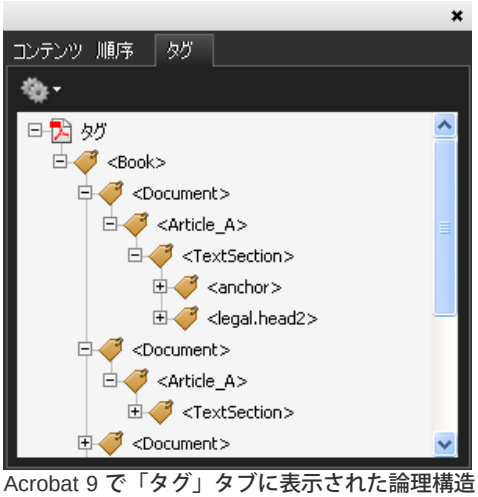
トップへ戻る

Adobe PDF ドキュメントの内容は、他の目的に再利用できます。例えば、テキスト、表および画像で構成されたレポートの Adobe PDF を作成し、様々な形式で配布すると、フルサイズモニターでの印刷や表示、ハンドヘルドデバイスでの表示、スクリーンリーダーでの読み上げが可能で、Web ブラウザーで HTML ページを開くように Web ブラウザー内に直接表示することができます。内容の再利用を簡単に信頼性の高いものにするには、基礎となるドキュメントの論理構造が重要になります。

PDF ドキュメントのアクセシビリティの精度を高めるには、タグを追加する必要があります。タグ付けによって、論理構造ツリーと呼ばれる内部構造がドキュメントに追加されます。論理構造ツリーは、文書のコンテンツ（タイトルページ、章、セクション、サブセクションなど）がどのように構成されているかを表す情報です。これによって PDF ドキュメントの外観は変化しませんが、読み上げ順序が正確になり、文書内の移動もしやすくなります。特に、長く複雑な構成の文書になるほど論理構造ツリーの必要性は高まります。

論理構造ツリーがあれば、障害で文書を視覚的に見ることができない、または視覚的に理解できないユーザーでも、支援テクノロジを使用して文書のコンテンツに高い精度でアクセスできます。ほとんどの支援テクノロジは、論理構造ツリーの情報を頼りにして、コンテンツや画像の意味を音声などの代替形式で伝えます。タグ付けされていない文書にはその構造がないので、環境設定で指定された読み上げ順序に基づいて Acrobat が文書の構造を推測せざるを得ません。この方法では高い精度を得ることができず、ページ内の項目が正しい順序で読み上げられない場合や、まったく読み上げられない場合が多くなります。

タグは Acrobat 6.0 以降の「タグ」タブに表示され、タグ付き要素の関連定義に従ってネストされます。Acrobat Standard では、タグを編集できません。タグを直接操作する場合は、Acrobat 9 Professional にアップグレードしてください。詳しくは、Acrobat ヘルプを参照してください。



Acrobat 9 で「タグ」タブに表示された論理構造ツリー

注意： Adobe PDF ファイルで使用されるタグは、HTML ファイルと XML ファイルのタグと比較できます。基本的なタグの概念について詳しくは、書店、図書館または Web で入手できる多数の参考文献および関連書籍を参照してください。

トップへ戻る

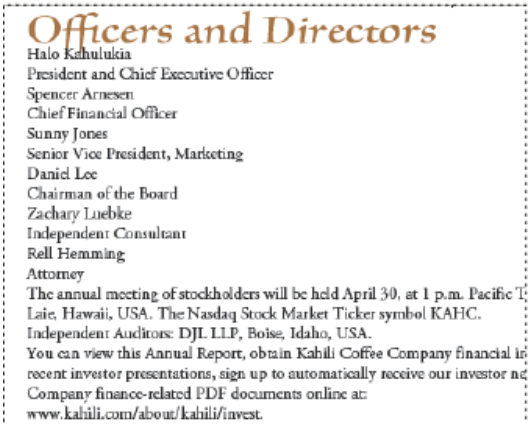
折り返し機能の概要と最適化

PDF ドキュメントをハンドヘルドデバイスや狭いディスプレイに表示する場合や、通常のモニターでも高い倍率で拡大表示する場合は、テキストを折り返し表示すると、1 行ずつ左右にスクロールせずに文書を読むことができます。

Adobe PDF ドキュメントを折り返した場合に、折り返したドキュメントに正しく反映される内容と反映されない内容があります。大半の場合は、読み取り可能なテキストだけが折り返しドキュメントに反映されます。読み取り可能なテキストとは、アーティクル、段落、表、画像、書式設定されたリストなどです。フォーム、注釈、電子署名フィールド、およびページ装飾（ページ番号、ヘッダー、フッターなど）は、折り返し表示されないテキストです。読み取り可能なテキストとフォームフィールドまたは電子署名フィールドが同じページに含まれる場合、そのページは折り返し表示されません。縦組みのテキストも折り返し表示では横書きになります。

作成者は、文書をタグ付けすることで折り返し表示用に最適化できます。タグ付けされていれば、複数のブロックに分かれたテキストが正しく折り返され、内容が適切な順序で表示されるので、複数のページや段にまたがるアーティクルに他の内容が割り込むことがなく、読者がスムーズに読み進むことができます。読み取り順序は構造ツリーにより定義され、構造ツリーは構造ウィンドウで変更できます。





見出しと段組（上）それらが論理的に正しく処理された折り返し表示（下）

トップへ戻る

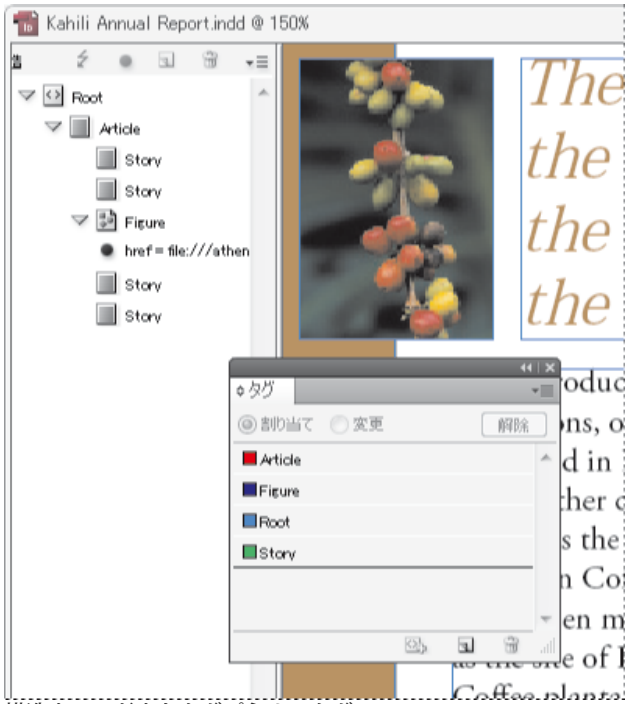
ページアイテムのタグ付け

テキストフレームおよびグラフィックのタグ付けは、自動または手動で行うことができます。ページアイテムにタグを付けた後、構造ウィンドウで、階層内の新しい位置に要素をドラッグすることで、ページの順序を並べ替えることができます。構造ウィンドウで要素の順番を並べ替えると、この並び替え順は Acrobat PDF ファイルに引き継がれます。要素の順序の並び替えは、Acrobat で PDF ファイルを HTML または XML ファイルとして保存するときに便利です。また、この順序は、InDesign ドキュメントを Dreamweaver（XHTML）形式または Digital Editions（EPUB）形式で書き出すときにも便利です。

自動でのページアイテムへのタグ付け

「タグ付けされていないアイテムを追加」コマンドを選択すると、InDesign では、タグパネルにタグが追加され、タグなしページアイテムに Story タグと Figure タグが適用されます。Story タグはタグなしテキストフレームに適用され、Figure タグはタグなしグラフィックに適用されます。その後、手動で他のタグをテキストのセクションに適用することができます。ただし、自動的にページアイテムにタグを付けても、書き出す PDF ファイルで、それらのタグに従ってアイテムが構造化されるとは限りません。

1. ウィンドウ／ユーティリティ／タグを選択し、タグパネルを表示します。
2. 表示／構造／構造を表示を選択して、ドキュメントウィンドウの左側に構造ウィンドウ枠を表示します。
3. 構造ウィンドウ枠メニューで「タグ付けされていないアイテムを追加」を選択します。



構造ウィンドウとタグパネルのタグ

手動でのページアイテムへのタグ付け

1. ウィンドウ／ユーティリティ／タグを選択し、タグパネルを表示します。
2. 表示／構造／構造を表示を選択して、ドキュメントウィンドウの左側に構造ウィンドウ枠を表示します。
3. 構造ウィンドウ枠メニューで「タグ付けされていないアイテムを追加」を選択します。
4. ドキュメントのページアイテムを選択します。
5. タグパネルでタグを選択します。読み込まれた各タグについて、推奨される使用方法を次に示します。
   ページ装飾 Artifact タグを使用すると、書き出した PDF ファイルをタグ付きアイテムだけを表示する折り返しビューで表示したときに、ページ番号や重要度の低いオブジェクトなどのページアイテムを隠すことができます。詳しくは、Adobe Acrobat のマニュアルを参照してください。このタグは、PDF ファイルをハンドヘルドデバイスやその他の PDF リーダーで表示する場合に特に便利です。

   Cell このタグは、表のセルに対して使用します。

   Figure このタグは、配置したグラフィックに対して使用します。Figure タグは、「タグ付けされていないアイテムを追加」を選択したときに、ドキュメントに配置したタグなし画像すべてに適用されます。

   段落タグ（**P**、**H**、**H1** ～ **H6**） これらのタグは、書き出した PDF テキストを折り返しビューで表示したときには効果はありません。ただし、PDF ファイルを HTML 形式で書き出す場合など、状況によっては便利です。

   ストーリー このタグは、ストーリーに対して使用します。Story タグは「タグ付けされていないアイテムを追加」を選択したときに、すべてのタグなしテキストフレームに適用されます。例えば、Head1、Head2 および Body という 3 つの段落スタイルでフォーマットされた

InDesign ドキュメントがあるとします。まず、3 つの段落スタイルをそれぞれ H1、H2 および P タグにマップします。次に PDF に書き出します。最後に、Acrobat で PDF ドキュメントを HTML または XML に書き出すとき、H1、H2 および P としてタグ付けされた段落が、Web ブラウザーで（H1 に対し太字の大文字など）正しく表示されます。PDF ドキュメントの HTML または XML への書き出しについて詳しくは、Adobe Acrobat のマニュアルを参照してください。

トップへ戻る

スクリーンリーダーソフトウェアで使用するグラフィックのラベル付け

重要な情報を持つグラフィック要素をスクリーンリーダーで読み上げるには、その内容を説明するテキストを追加する必要があります。図表やマルチメディアをスクリーンリーダーで認識し読み上げるためには、タグプロパティに代替テキストを追加する必要があります。

Alt テキスト属性を使用すると、図表を表示する代わりに、読み上げ可能な代替テキストを作成できます。ActualText 属性では、Alt テキストと同様に、画像の代わりにテキストが表示されます。ドロップキャップに飾り画像が使用されている場合などは、ActualText 属性によって、単語の一部である画像に置き換えることができます。この例では、ActualText 属性を使用して、ドロップキャップ文字を単語の一部として読み取れるようにしています。

Adobe PDF に書き出すとき、Alt テキストと Actual Text 属性の値が PDF ファイルに保存され、Acrobat 6.0 以降で表示できます。この代替テキスト情報は、Acrobat で PDF ファイルを HTML または XML ファイルとして保存するときに使用できます。詳しくは、Adobe Acrobat のマニュアルを参照してください。

1. 必要に応じて、表示／構造／構造を表示を選択して、構造ウィンドウを表示し、ウィンドウ／ユーティリティ／タグを選択して、タグパネルを表示します。
2. 構造ウィンドウ枠メニューで「タグ付けされていないアイテムを追加」を選択します。
3. 画像を Figure としてタグ付けするには、画像を選択し、タグパネルの「Figure」をクリックします。
4. 構造ウィンドウで Figure 要素を選択し、構造ウィンドウメニューで「新規属性」を選択します。
5. 「名前」に「**Alt**」または「**ActualText**」と入力します（大文字小文字を区別します）。
6. 「値」に、画像の代わりに表示するテキストを入力します。

トップへ戻る

ページアイテムの Article 要素へのグループ化

構造ウィンドウを使用して、ページアイテムを論理的に Article 要素にグループ化します。例えば、ストーリーのセットが複数のページにわたる場合、これらのストーリーを 1 つのグループに含めた包括要素を作成できます。この包括要素は構造要素と呼ばれます。グループ化したアーティクルに名前を付けることもできます。
注意： グループ化したページアイテムにタグを付けることはできません。

- ページアイテムをグループ化するには、構造ウィンドウメニューで「新規要素」を選択し、タグパネルで Article 要素を選択して、構造ウィンドウの Article の下にページ要素をドラッグします。
- グループ化されたアイテムに名前を付けるには、構造ウィンドウの Article 要素を右クリック（Windows）または Option キーを押しながらクリック（Mac OS）し、「新規属性」を選択します。「名前」に「**Title**」を入力します。「値」に、使用するアーティクルの名前を入力します。

関連項目

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

ページ効果

ページ効果の適用
効果の消去
PDF 内のページ効果の表示

ページ効果は、SWF または PDF 形式で書き出されたドキュメントでページをめくるときに、ディザ合成やワイプなどの装飾効果を表示します。ページごとに異なるページ効果を適用することも、全ページを対象に 1 種類のページ効果を適用することもできます。ページ効果は、PDF または SWF 形式のスライドショーを作成する場合に特に有用です。

ページ効果の適用

トップへ戻る

ページ効果は、ドキュメント内のスプレッド単位または全スプレッドを対象に適用できます。ページ効果は、InDesign ドキュメントを PDF または SWF 形式に書き出すと表示されるようになります。1 つのスプレッド内に複数のページ効果を適用することや、マスターページにページ効果を適用することはできません。

1. ページパネルで、ページ効果を適用するスプレッドを選択します。

   スプレッドが単にターゲットになっているだけでなく、選択されていることを確認します。選択されているスプレッドはパネルでアイコン下のページ番号がハイライト表示されます。

2. ページ効果パネルを表示するには、ウィンドウ／インタラクティブ／ページ効果を選択します。
3. 効果ポップアップメニューから効果を選択します。

   サムネールの上にマウスポインターを置くと、選択した効果のプレビューがアニメーションで表示されます。

   SWF ファイルについては、「ページめくり（SWF のみ）」を選択しなくてもページめくり効果を適用できることがあります。SWF ファイルのページを手動でめくる場合、この効果を適用する必要はありません。SWF を書き出しダイアログボックスで「インタラクティブなページめくり効果を含む」オプションを選択すると、ページの端をドラッグして手動でページをめくることも、ページに対して指定した任意のページ効果を矢印キーやナビゲーションボタンで表示することもできる SWF ファイルが書き出されます。

4. 方向ポップアップメニューと速度ポップアップメニューからオプションを選択し、必要に応じて効果をカスタマイズします。
5. （オプション）選択した効果をドキュメント内のすべてのスプレッドに適用するには、すべてのスプレッドに適用アイコン をクリックするか、ページ効果パネルメニューから「すべてのスプレッドに適用」を選択します。
6. （オプション）ページパネルの別のスプレッドを選択し、別のページ効果を適用します。

スプレッドにページ効果を適用すると、ページパネルのスプレッドの横にページ効果アイコン が表示されます。これらのアイコンをページパネルで非表示にするには、パネルオプションダイアログボックスで「ページ効果」オプションの選択を解除します。

ページ効果をプレビューするには、ドキュメントを PDF または SWF 形式に書き出します。

効果の消去

トップへ戻る

- ページパネルで、効果を消去するスプレッドを選択し、ページ効果パネルの効果ポップアップメニューから「なし」を選択します。
- すべてのスプレッドから効果を削除するには、ページ効果パネルメニューから「すべてを消去」を選択します。

PDF 内のページ効果の表示

トップへ戻る

PDF ドキュメントを書き出すときにページ効果を含めるには、インタラクティブ PDF に書き出しダイアログボックスでページ効果ポップアップメニューからページ効果を選択します。

書き出された PDF でページ効果を表示するには、Adobe Acrobat または Adobe Reader で Ctrl キー（Windows）または Command キー（Mac OS）を押しながら L キーを押して PDF をフルスクリーンモードで表示します。フルスクリーンモードを終了するには、Esc キーを押します。

関連項目

(cc) BY-NC-SR

法律上の注意 | プライバシーポリシー

ムービーとサウンド

ムービーおよびサウンドファイルのドキュメントへの追加
ムービーオブジェクト、ポスターまたはフレームのサイズ変更
レガシーメディアファイルの再リンク

トップへ戻る

ムービーおよびサウンドファイルのドキュメントへの追加

ドキュメントに追加したムービーやサウンドクリップは、ドキュメントを Adobe PDF または SWF に書き出すか、XML に書き出してタグを再利用することで再生できるようになります。

ビデオファイルは、Flash Video 形式（FLV および F4V）、H.264 エンコード形式（MP4 など）および SWF ファイル形式で読み込むことができます。オーディオファイルは、MP3 形式で読む込むことができます。QuickTime（.MOV）、AVI、MPEG などのメディアファイル形式は、インタラクティブ PDF ファイルとして書き出したファイルではサポートされますが、SWF や FLA として書き出したファイルではサポートされません。Acrobat 9、Adobe Reader 9、および Adobe Flash Player 10 以降のリッチメディア機能を十分に活用するために、FLV、F4V、SWF、MP4、MP3 などのファイル形式を使用することをお勧めします。

ドキュメント制作中は、InDesign ドキュメントに追加したメディアファイルを追跡してください。ドキュメントにメディアクリップのリンクを追加した後で、そのメディアファイルの保存場所を移動する場合は、リンクパネルを使用してそれらのファイルを再リンクします。InDesign ドキュメントを他のユーザーに送信する場合、追加したすべてのメディアファイルを添付してください。

ムービーまたはサウンドファイルの追加

1. ファイル／配置を選択して、ムービーまたはサウンドファイルをダブルクリックします。ドキュメント上でムービーを配置する場所をクリックします。ドラッグしてメディアフレームを作成すると、ムービーの境界線がトリミングされたり、歪められたりする場合があります。

   ムービーやサウンドファイルを配置すると、これらのメディアオブジェクトはフレームに表示されます。メディアオブジェクトはメディアファイルにリンクします。メディアオブジェクトのサイズを調整して、再生領域のサイズを決定することができます。

   ムービーの中心ポイントがページ外にある場合、そのムービーは書き出されません。

2. メディアパネル（ウィンドウ／インタラクティブ／メディアを選択）を使用して、メディアファイルのプレビューと設定変更を行います。
3. ドキュメントを Adobe PDF または SWF 形式に書き出します。

   Adobe PDF に書き出す場合は、「Adobe PDF（プリント）」でなく「Adobe PDF（インタラクティブ）」を選択します。詳しくは、PDF 用インタラクティブドキュメントの作成を参照してください。

ムービーの設定変更

ムービーの設定変更には、メディアパネルを使用します。

1. ドキュメント上のムービーオブジェクトを選択します。
2. メディアパネルで、必要に応じて次の操作を行います。

   ページの読み込み時に再生 ムービーが配置されているページが表示されたとき、ムービーを再生します。他のページアイテムもページの読み込み時に再生するよう設定する場合は、タイミングパネルを使用して再生順序を指定します。

   ループ ムービーを繰り返し再生します。ソースファイルが Flash Video 形式の場合、ループは PDF ファイル上では機能せず、書き出した SWF ファイルでのみ動作します。

   ポスター 再生領域に表示する画像のタイプを指定します。詳しくは、ポスターオプションを参照してください。

   制御パネル ムービーファイルが Flash Video（FLV または F4V）ファイルまたは H.264 エンコードされたファイルの場合、既成のコントローラースキンを指定できます。これにより、ユーザーが様々な方法でムービーを一時停止、再生、停止できます。「ロールオーバー時にコントローラーを表示」を選択した場合、メディアオブジェクトの上にマウスポインターを置くとコントローラーが表示されます。選択したコントローラースキンの動作はプレビューパネルで確認できます。

   ムービーファイルが従来形式（.AVI や .MPEG など）の場合、「なし」または「コントローラーを表示」を選択できます。「コントローラーを表示」では、ユーザーがムービーを一時停止、再生、停止するための基本的なコントローラーが表示されます。

   配置する SWF ファイルには、独自のコントローラースキンを含めることができます。コントローラーの各種オプションの動作はプレビューパネルでテストできます。

   ナビゲーションポイント ナビゲーションポイントを作成するには、ビデオを特定のフレームまで進めてからプラス記号のアイコンをクリックします。ナビゲーションポイントは、ビデオを異なる時点から再生開始する場合に便利です。ビデオの再生ボタンを作成する際に「ナビゲーションポイントから再生」オプションを使用すると、追加したナビゲーションポイントから再生を開始できます。

サウンドの設定変更

サウンドの設定変更には、メディアパネルを使用します。

1. ドキュメント上のサウンドオブジェクトを選択します。
2. メディアパネルで、必要に応じて次の操作を行います。

   ページの読み込み時に再生 サウンドオブジェクトが配置されているページが表示されたとき、サウンドファイルを再生します。他のページアイテムもページの読み込み時に再生するよう設定する場合は、タイミングパネルを使用して再生順序を指定します。

   ページめくり時に停止 表示が別のページに切り替えられたとき、MP3 サウンドファイルの再生を停止します。オーディオファイルが MP3 形式ではない場合、このオプションはグレー表示になります。

   ループ MP3 サウンドを繰り返し再生します。ソースファイルが MP3 形式ではない場合、このオプションはグレー表示になります。

   ポスター 再生領域に表示する画像のタイプを指定します。詳しくは、ポスターオプションを参照してください。

ポスターオプション

ポスターは、メディアクリップを表す画像のことです。各ムービーやサウンドは、ポスターの有無にかかわらず表示できます。InDesign ドキュメント上でポスターがムービーより大きい場合、書き出した PDF または SWF ファイル上のポスターはムービーのサイズに切り抜かれます。メディアパネルで、次のうち必要に応じたタイプのポスター画像を指定できます。

なし ムービーやサウンドクリップにポスターを表示しません。この設定は、ムービーやサウンドクリップをページ上で非表示にする場合に便利です。例えば、ページをめくったときにだけムービーを再生させる場合、またはポスターの代わりにムービーの背面により凝ったデザインを表示させる場合などです。

標準 ファイルの内容に基づいていない、汎用のムービーまたはサウンドポスターを表示します。

標準ポスターに別の画像を使用するには、StandardMoviePoster.jpg または StandardSoundPoster.jpg という名前で画像を保存して、同じ名前の既存のファイルと置換します。このファイルは、アプリケーションフォルダーの Presets¥Multimedia フォルダーにあります。

現在のフレームから このオプションを選択すると、メディアパネルのプレビュー領域に現在表示されているフレームが使用されます。異なるフレームを選択するには、プレビュースライダーを進めてから、ポスターメニューの右にあるアイコンをクリックします。従来形式のムービー（AVI、MPEG など）では、このオプションは使用できません。

画像を選択 指定した画像をポスターに使用します。ポインターの画像を選択ダイアログボックスでダブルクリックします。ポスターには、ベクトルグラフィックではなく、ビットマップ画像を選択できます。

[ビデオから] 変換された CS4 ドキュメントでメディアクリップが特定のフレームに設定されている場合、このオプションを選択します。

インタラクティブ PDF ファイル用のメディア設定変更

1. メディアパネルメニューから「PDF オプション」を選択します。
2. 次のオプションを指定して、「OK」をクリックします。

   説明 メディアファイルを Acrobat で再生できない場合に、メディアの代わりに表示する説明文を入力します。この説明文は、視覚障害を持つユーザーのために読み上げられる代替テキストにもなります。

   フローティングウィンドウでビデオを再生 ムービーが別のウィンドウで再生されます。このオプションを選択した場合は、ウィンドウのサイズ比率と画面上での位置を指定します。フローティングウィンドウのサイズを拡大すると、画像の品質は低下します。フローティングウィンドウのサイズは元のムービーに基づいており、ドキュメントのレイアウト上でのムービーサイズは関係ありません。SWF ファイルまたはオーディオファイルでは、このオプションは使用できません。

URL で指定したビデオファイルの配置

ビデオファイルを示す有効な URL を指定することで、書き出す PDF または SWF ファイル上にストリーミングビデオを配置できます。指定するビデオは有効な Flash Video ファイル（FLV または F4V）か、H.264 でエンコードされたファイル（MP4 など）である必要があります。

1. 空のフレームか、置き換え対象のビデオを含んだビデオオブジェクトを選択します。
2. メディアパネルメニューから「URL からビデオを指定」を選択します。
3. URL を指定して、「OK」をクリックします。

トップへ戻る

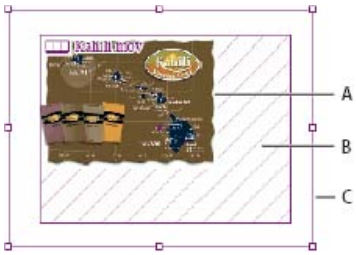
ムービーオブジェクト、ポスターまたはフレームのサイズ変更

InDesign ドキュメントにムービーを追加すると、ムービーオブジェクトとポスターはフレーム内に表示されます。PDF に書き出す場合、ムービーオブジェクトの境界線は、フレームサイズやポスターサイズではなく、PDF ドキュメントでのムービーサイズを決定します。

最良の方法は、ポスターサイズをムービーと同じサイズにすることです。クリッピングパスを適用したり、画像のサイズを変更したりすると、書き出された PDF ドキュメントではこれらの変更が反映されない場合があります。

ムービーは、PDF ドキュメントの一番上のレイヤーに表示されます。InDesign でムービーに別のオブジェクトを重ねると、そのオブジェクトは書き出された PDF 上で、ムービーの下に表示されます。

ポスターにぼかしやその他の効果を適用しても、PDF ドキュメントの再生領域にはうまく書き出されない場合があります。そのような場合は、配置した画像を再生領域に置いてから、画像の前面にムービーをポスターなしで配置するとよいでしょう。



ムービーオブジェクトのサイズ変更
A. ポスター **B.** ムービーオブジェクト **C.** フレーム

❖ 必要に応じて次の操作を行います。

- ムービーオブジェクト、ポスター、フレームのサイズをいっしょに変更するには、拡大 / 縮小ツール を使用してコーナーハンドルの 1 つをドラッグします。Shift キーを押しながらドラッグすると、縦横比を維持したまま変更できます。
- フレームのサイズだけを変更するには、選択ツール を使用してコーナーハンドルをドラッグします。
- ポスターまたはメディアオブジェクトのサイズを変更するには、ダイレクト選択ツール を使用して、サイズを変更するポスターを選択し、選択ツールに切り替えて、コーナーハンドルをドラッグします。

  「オブジェクトサイズの調整」コマンド（オブジェクト／オブジェクトサイズの調整）を使用して、フレーム内のポスターのサイズを変更することもできます。

トップへ戻る

レガシーメディアファイルの再リンク

InDesign でインタラクティブドキュメントを書き出す場合、ビデオには FLV および F4V 形式、オーディオには MP3 形式が最適です。MOV、AVI、MPG などのビデオ形式は PDF には書き出すことができますが、SWF などの Flash ベースの形式には書き出すことができません。

ビデオファイルを FLV、F4V または MP4 形式に変換するには、Adobe Media Encoder を使用します。Adobe Media Encoder では、オーディオファイル形式は MP3 に変換されませんが、Apple iTunes などのアプリケーションを使用して変換することができます。

1. Adobe Media Encoder を開き、変換するビデオファイルを追加して、FLV または F4V 形式に変換します。

   詳しくは、Adobe Media Encoder のヘルプを参照してください。

2. 次のいずれかの操作を行います。
   - メディアファイルを InDesign ドキュメント内に配置します。詳しくは、ムービーおよびサウンドファイルのドキュメントへの追加を参照してください。
   - ビデオファイルが InDesign ドキュメント内に配置済みの場合は、リンクパネルを使用してファイルとその新しいバージョンを再リンクします。詳しくは、リンクの更新、復元、置き換えを参照してください。

関連項目

(cc) BY-NC-SR

法律上の注意 | プライバシーポリシー

ダイナミック PDF ドキュメント

PDF 用インタラクティブドキュメントの作成
PDF フォームの作成（CS5.5 と CS5）
インタラクティブドキュメントのプレビュー
プレゼンテーションモードの使用

ダイナミック PDF ドキュメントは、インタラクティブなスライドショーを作成する場合に適した方法です。ボタン、ムービーおよびサウンドクリップ、ハイパーリンク、ブックマーク、ページ効果を使用したインタラクティブなドキュメントを作成できます。また、Acrobat を使用してフォームに変換できるドキュメントを InDesign で作成することもできます。

トップへ戻る

PDF 用インタラクティブドキュメントの作成

次のインタラクティブ機能を含んだ Adobe PDF ドキュメントを書き出すことができます。

ブックマーク InDesign ドキュメントで作成するブックマークは、Adobe Acrobat または Adobe Reader のウィンドウ左側の「しおり」タブに表示されます。各ブックマークは、書き出した PDF ファイルのページ、テキストまたはグラフィックにジャンプします。詳しくは、ブックマークを参照してください。
ムービーおよびサウンドクリップ ムービーおよびサウンドクリップをドキュメントに追加したり、インターネット上のストリーミングビデオファイルにリンクしたりすることができます。これらのムービーおよびサウンドクリップは、書き出した PDF ファイルで再生できます。詳しくは、ムービーとサウンドを参照してください。
ハイパーリンク 書き出された PDF ドキュメントでハイパーリンクをクリックすると、同じドキュメント内の別の場所、別のドキュメントまたは Web サイトにジャンプします。ハイパーリンクを参照してください。
相互参照 相互参照を使用すると、書き出された PDF ファイルのある部分から別の部分を参照できます。ユーザーガイドやリファレンスマニュアルでは、相互参照を使用すると便利です。書き出された PDF ドキュメント内の相互参照は、インタラクティブなハイパーリンクになります。詳しくは、相互参照を参照してください。
ページ効果 ページ効果を使用すると、書き出した PDF ファイルをフルスクリーンモードで表示してページをめくるとき、ディザ合成やワイプなどの装飾効果を表示できます。詳しくは、ページ効果を参照してください。

1. ファイル／書き出しを選択します。
2. ファイルの名前と場所を指定します。
3. 「ファイルの種類」（Windows）または「フォーマット」（Mac OS）から「Adobe PDF（インタラクティブ）」を選択し、「保存」をクリックします。
4. インタラクティブ PDF に書き出しダイアログボックスでオプションを指定し、「OK」をクリックします。

インタラクティブ PDF への書き出しオプション

インタラクティブ PDF に書き出しダイアログボックスには、次のオプションがあります。

ページ 書き出し対象をドキュメントのすべてのページにするか、またはページ範囲にするかを指定します。「範囲」を選択する場合は、ページの範囲を指定します。例えば、1 ～ 7 ページと 9 ページをプリントする場合は「1-7, 9」のように指定します。詳しくは、プリントするページの指定を参照してください。
書き出し後に表示 新しく作成した PDF ファイルを、デフォルトの PDF 表示アプリケーションで開きます。
ページサムネールを埋め込み PDF に各ページのサムネールプレビューを埋め込みます。ファイルサイズは増加します。Acrobat 5.0 以降のユーザーが PDF を表示および印刷する場合は、この設定の選択を解除します。これらのバージョンでは PDF のページパネルをクリックするたびに、サムネイルが動的に生成されます。
Acrobat レイヤーを作成 InDesign レイヤーは PDF 内で Acrobat レイヤーとして保存されます。書き出したレイヤーは自由に操作でき、Acrobat 6.0 以降のユーザーであれば、1 つの PDF から複数のファイルバージョンを作成することができます。
タグ付き **PDF** を作成 書き出し中に、InDesign でサポートしている Acrobat タグのサブセットに基づいて、ストーリーの要素に自動的にタグが付けられます。このサブセットには、段落、基本的なテキストの書式、箇条書き、表が含まれます（PDF に書き出す前に、ドキュメントでこれらのタグを挿入したり修正したりすることができます。詳しくは、PDF への構造の追加を参照してください）。
タブ順の設定に構造を使用 オブジェクト／インタラクティブ／タブ順を設定を使用すると、書き出しの際にタブ順にすることができます。このオプションはタグ付き PDF にのみ使用できます。
表示 PDF が開かれるときの初期状態の表示設定を指定します。
レイアウト PDF が開かれるときの初期状態のレイアウトを指定します。
プレゼンテーション 「フルスクリーンモードで開く」を選択すると、Adobe Acrobat または Adobe Reader 上で、メニューやパネルを隠した状態で PDF が表示されます。ページ送りが自動的に行われるようにするには、「次の間隔でページを反転」を選択し、切り替えの間隔を秒単位で指定します。
ページ効果 書き出し時にすべてのページに適用されるページ効果を 1 つ指定します。ページ効果パネルで効果を指定している場合は、「ドキュメ

ントから」オプションを選択すると、その設定内容が使用されます。
ボタンおよびメディア 書き出す PDF ファイル内のムービー、サウンド、ボタンをインタラクティブにするには、「すべて含める」を選択します。ボタンやビデオポスターの通常ステートを静的な要素として含めるには、「外観のみ」を選択します。
圧縮 「JPEG（劣化あり）」を選択すると画像のデータが失われ、場合によっては画質が低下しますが、情報量に最小限の損失が生じる代わりにファイルサイズが小さくなります。「JPEG 2000（劣化なし）」を選択すると、非可逆圧縮を行わずにファイルが書き出されます。「自動」を選択すると、カラー画像やグレースケール画像に最適な品質が設定されます。
JPEG 画質 書き出す画像の細部のレベルを指定します。 画質が高いほど、ファイルサイズが大きくなります 「圧縮」で「JPEG 2000（劣化なし）」を選択した場合、このオプションはグレー表示になります。
解像度 書き出す PDF 画像に含めるビットマップ画像の解像度を指定します。書き出す PDF に含まれるピクセルベースのコンテンツを拡大表示できるようにする場合は、高解像度を選択することが非常に重要です。ただし、高解像度を選択するとファイルサイズが大幅に増大することがあります。

トップへ戻る

PDF フォームの作成（CS5.5 と CS5）

フォームフィールドを追加するツールは InDesign にはありませんが、Adobe Acrobat には用意されています。フィールド（ラジオボタン、チェックボックス、テキストフィールドなど）を配置するプレースホルダーを含んだフォームを InDesign 上で作成し、PDF に書き出すと、Acrobat を使用してプレースホルダーをフォームフィールドに変換できます。

1. フォームとして使用するためのドキュメントを InDesign で作成します。フィールドのプレースホルダーは、表やテキストフレームを使用して作成します。

   InDesign でインタラクティブボタンを追加することもできます。

2. ドキュメントを Adobe PDF に書き出します。
3. フォームウィザードからプレースホルダーをフォームフィールドに変換します。フォーム用のツールを使用して、フォームの追加や編集を行います。詳しくは、Adobe Acrobat のマニュアルを参照してください。
   - Acrobat X では、ツール／フォーム／作成を選択して、フォームウィザードを開始できます。
   - Adobe Acrobat 9 では、フォーム／ウィザードから開始を選択します。

参考情報
InDesign で PDF フォームのデザインを作成し、Adobe Acrobat でフォームを完成させる方法について、Gabriel Powell によるビデオチュートリアルがあります。InDesign and Acrobat Forms Workflow（英語）を参照してください。

Acrobat チームによる記事があります。Designing forms for auto field detection in Adobe Acrobat （英語）を参照してください。

フォームの作成について、Michael Murphy によるビデオチュートリアルがあります。Acrobat Friendly Form Design（英語）を参照してください。

フォームのデザインについて、Bob Bringhurst によるブログ記事があります。Creating PDF Forms in InDesign（英語）を参照してください。

トップへ戻る

インタラクティブドキュメントのプレビュー

プレビューパネルを使用して、現在の選択範囲、現在のスプレッドまたはドキュメント全体のインタラクティブとアニメーションをプレビューできます。プレビューパネルは、サイズ変更、結合または分離が可能です。プレビューパネルを別のモニターに移動することもできます。

1. ウィンドウ／インタラクティブ／プレビューを選択します。
2. インタラクティブとアニメーションをプレビューするには、次のいずれかの操作を行います。
   - 選択範囲のプレビューモードの設定ボタン をクリックし、現在の選択範囲をプレビューします。
   - スプレッドのプレビューモードの設定ボタン をクリックし、現在のスプレッドをプレビューします。
   - ドキュメントのプレビューモードを設定ボタン をクリックし、現在のドキュメントをプレビューします。
3. プレビューを再生ボタン をクリックし、選択範囲、スプレッドまたはドキュメントをプレビューします。必要に応じて、プレビューパネルでボタンなどのインタラクティブアイテムをクリックし、各アイテムをテストします。

   ドキュメントをプレビューする場合は、パネルの下部の「前ページへ移動」と「次ページへ移動」の矢印をクリックし、ページ間を移動します。

ドキュメントを編集した場合は、プレビューパネルの「プレビューを再生」ボタンをクリックして、プレビューを更新できます。

Web ブラウザーでのドキュメントのプレビュー

1. プレビューパネルメニューから「ブラウザーでプレビュー」を選択します。
2. ドキュメントのインタラクティブアイテムをクリックし、各アイテムをテストします。

プレビュー設定の編集

1. プレビューパネルメニューから「プレビュー設定を編集」を選択します。

プレビュー設定ダイアログボックスに、SWF を書き出しダイアログボックスの現在の設定が表示されます。

2. 必要に応じて、その設定を編集します。詳しくは、SWF 書き出しオプションを参照してください。

トップへ戻る

プレゼンテーションモードの使用

プレゼンテーションモードでは、アクティブな InDesign ドキュメントがプレゼンテーションとして表示されます。プレゼンテーションモードでは、アプリケーションメニュー、パネル、ガイドおよびフレーム枠が隠されます。ドキュメントサイズと現在のモニターサイズの縦横比が異なる場合は、デフォルトで、背景領域の色が暗くなります。

プレゼンテーションモードは、Adobe Connect 機能と組み合わせて使うと便利です。ファイル／スクリーンを共有コマンドを使用して、Web 会議を開始できます。スクリーンの共有が開始されると、InDesign ドキュメントをプレゼンテーションモードに切り替えることができます。

1. 表示／スクリーンモード／プレゼンテーションを選択します。
2. 次のいずれかのキーストロークを使用します。

アクション	説明
マウスのクリック／右向き矢印／Page Down	次スプレッド
Shiftを押しながらクリック／右クリック／左向き矢印／Page Up	前スプレッド
Esc	プレゼンテーションモードの終了
Home	先頭スプレッド
End	最終スプレッド
B	背景色を黒に変更
W	背景色を白に変更
G	背景色をグレーに変更

プレゼンテーションモードではドキュメントを編集できません。ただし、デュアルモニターを使用して 2 つのウィンドウで同じドキュメントを開いている場合は、一方をプレゼンテーションモードにすることができます。この場合、標準モードに設定したウィンドウでドキュメントを編集し、その結果を即座にプレゼンテーションモードに設定したウィンドウに表示できます。

関連項目

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

ブックマーク

PDF ブックマークの作成
ブックマークの管理

PDF ブックマークの作成

トップへ戻る

ブックマークは、代替テキスト（alt 属性）を持つリンクの一種で、Adobe PDF として書き出されるドキュメントのナビゲートを容易にします。InDesign ドキュメントで作成するブックマークは、Acrobat または Adobe Reader のウィンドウ左側の「しおり」タブに表示されます。各ブックマークはテキストアンカーまたはページにジャンプします。

生成された目次のエントリは、自動的にブックマークパネルに追加されます。また、ユーザーの注意を引いたり、より簡単にナビゲートできるように、ブックマークでドキュメントをカスタマイズすることもできます。ブックマークの下に他のブックマークを入れ子にして含めることができます。

ブックマークは PDF ドキュメントの「しおり」タブに表示するが、目次は PDF に表示しないようにしたい場合があります。このような場合は、ドキュメントの最後のページに目次を生成します。PDF に書き出すときに、最後のページを含めないようにします。または、書き出した PDF に最後のページを含めている場合は、Acrobat で削除します。

1. ウィンドウ／インタラクティブ／ブックマークを選択して、ブックマークパネルを表示します。
2. 既存のブックマークを選択して新規ブックマークを作成すると、選択したブックマークの入れ子になります。ブックマークを選択しない場合、新規ブックマークは自動的にリストの最後に追加されます。
3. 次のいずれかの操作を行い、ブックマークのジャンプ先を指定します。
   - テキスト内にテキスト挿入点を置きます。
   - テキストを選択します。選択したテキストは、デフォルトではブックマークの名前になります。
   - ページパネルでページをダブルクリックして、そのページをドキュメントウィンドウに表示します。
4. ブックマークを作成するには、次のいずれかの操作を行います。
   - ブックマークパネルの下部にある、新規ブックマークを作成アイコンをクリックします。
   - ブックマークパネルメニューから「新規ブックマーク」を選択します。

ブックマークは、書き出した PDF ファイルを Adobe Reader または Acrobat で開いたときに「しおり」タブに表示されます。

注意： 目次を更新すると、ブックマークの順序が変わり、目次から生成されたブックマークはリストの最後に表示されます。

ブックマークの管理

トップへ戻る

ブックマークパネルを使用して、ブックマークの名称変更、削除およびアレンジを行います。

ブックマークの名称変更

❖ ブックマークパネルで名前を変更するブックマークをクリックし、パネルメニューから「ブックマークの名称変更」を選択します。

ブックマークの削除

❖ ブックマークパネルでブックマークをクリックし、パネルメニューから「ブックマークを削除」を選択します。

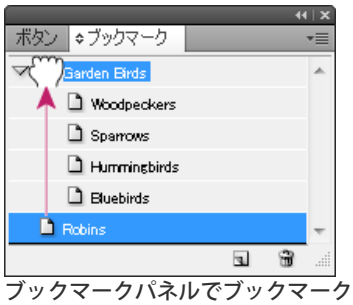
ブックマークのアレンジ、グループ化および整列

ブックマークのリストを階層構造（入れ子）にして、トピック間の関係を表すことができます。これにより、ブックマークに親子関係ができます。階層構造のリストは、表示を展開したり折りたたんだりすることができます。ブックマークの順序や階層を変更しても、ドキュメントの外観には影響しません。

❖ 次のいずれかの操作を行います。

- ブックマークの階層を展開して子ブックマークを表示したり、折りたたんで非表示にするには、ブックマークのアイコンの横にある三角形をクリックします。
- ブックマークの下に別のブックマークを入れ子として含めるには、入れ子にするブックマークを選択し、そのアイコンを親ブックマークの下までドラッグして 放します。

  ドラッグしたブックマークは、親ブックマークの下の階層に入れ子になります。実際のページはドキュメント内で元の場所を維持しています。



ブックマークパネルでブックマークを親ブックマークに入れ子にする

- 子ブックマークを親ブックマークと同じ階層に移動するには、移動する子ブックマークを選択し、そのアイコンを親ブックマークの左側にドラッグして ブックマークの移動先を示す黒いバーが表示されたら、放します。
- ブックマークの順序を変更するには、移動するブックマークを選択し、そのアイコンを適切な位置までドラッグして放します。移動中、ブックマークの移動先を示す黒いバーが表示されます。
- ブックマークを整列するには、ブックマークパネルメニューから「ブックマークを整理」を選択します。ブックマークがジャンプ先のページと同じ順序で表示されます。

関連項目

(cc) BY-NC-SR

法律上の注意 | プライバシーポリシー

描画とペイント

パスとシェイプ

パスとシェイプの種類
パスについて
方向線と方向点について

ページの先頭へ

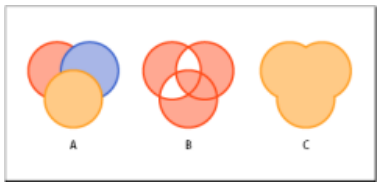
パスとシェイプの種類

InDesign では、様々な方法でパスを作成でき、それらのパスを組み合わせて使用することができます。InDesign では、次のようなパスとシェイプを作成できます。

単純パス 単純パスは、複合パスと複合シェイプの基本構成要素です。パスとシェイプには、オープンパスとクローズパスがあり、それが自己交差している場合もあります。

複合パス 複合パスは、複数の単純パスで構成され、それらのパスが相互に作用したり交差したりしています。複合パスは複合シェイプよりも基本的な形で、PostScript準拠のアプリケーションで認識されます。複合パスで結合しているパスは 1 つのオブジェクトとして機能し、色や線種などの属性を共有します。

複合シェイプ 複合シェイプは、複数のパス、複合パス、グループ、ブレンド、テキストアウトライン、テキストフレームまたは相互に作用したり交差しているシェイプ、編集可能なシェイプなどで構成されています。複合シェイプによっては、複合パスとして表示されますが、それらを構成しているパスはパスごとの基本的な編集ができ、属性を共有する必要がありません。



パスとシェイプの種類

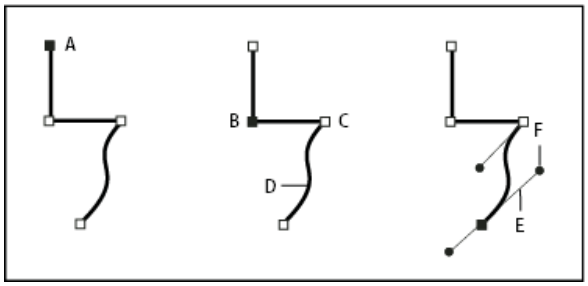
A. *3* つの単純パス ***B.*** 複合パス ***C.*** 複合シェイプ

ページの先頭へ

パスについて

描画すると、パスと呼ばれる線が作成されます。パスは、直線または曲線のセグメントで構成されます。各セグメントの始点と終点はアンカーポイントで示され、ワイヤーを固定するピンのような働きをします。パスには、クローズパス（例えば、円）と離れた端点をもつオープンパス（例えば、波形線）とがあります。

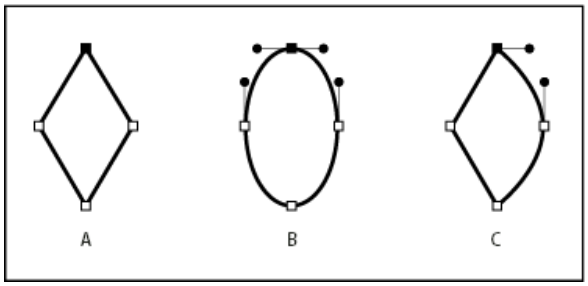
パスの形状を変更するには、パスのアンカーポイント、アンカーポイントに表示される方向線の先端にある方向点、またはパスセグメント自体をドラッグします。



パスの構成要素

A. 選択されている（黒い正方形）端点 ***B.*** 選択されているアンカーポイント ***C.*** 選択されていないアンカーポイント ***D.*** 曲線のパスセグメント ***E.*** 方向線 ***F.*** 方向点

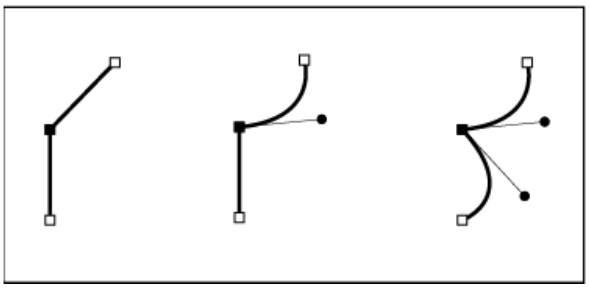
パスには、コーナーポイントとスムーズポイントという 2 種類のアンカーポイントが作成されます。コーナーポイントでは、パスの方向が大きく変わります。スムースポイントでは、パスセグメントは連続する曲線として連結されます。コーナーポイントとスムーズポイントを自由に組み合わせてパスを作成できます。不適切な種類のポイントを作成した場合は、いつでも変更できます。



パス上のポイント

A. *4* つのコーナーポイント ***B.*** *4* つのスムーズポイント ***C.*** コーナーポイントとスムーズポイントの組み合わせ

コーナーポイントでは、2 つの直線セグメントまたは曲線セグメントを連結できますが、スムーズポイントでは 2 つの曲線セグメントだけを連結できます。



コーナーポイントでは、直線セグメントと曲線セグメントの両方を連結可能

注意： コーナーポイント、スムーズポイントを直線セグメント、曲線セグメントと混同しないように注意してください。

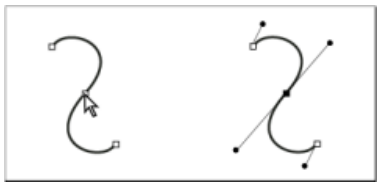
線は、パスのアウトラインを指します。塗りはオープンパスまたはクローズパスの内側の領域に適用されるカラーまたはグラデーションを指します。線には、太さ、色および破線パターン（Illustrator および InDesign）、または定型化された線のパターン（InDesign）を指定できます。線と塗りの属性は、パスやシェイプを作成した後でも変更できます。

InDesign では、各パスにセンターポイントも表示されます。これは、シェイプの中央を示しますが、パスの一部ではありません。センターポイントを使用してパスをドラッグしたり、パスを他の要素に整列させたり、パス上のすべてのアンカーポイントを選択したりすることができます。センターポイントは常に表示され、非表示にしたり削除したりすることはできません。

ページの先頭へ

方向線と方向点について

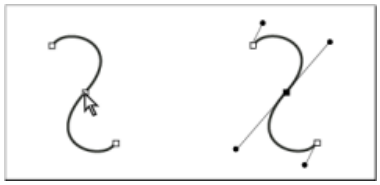
曲線セグメントを連結するアンカーポイントを選択すると（またはセグメント自体を選択すると）、セグメントを連結するアンカーポイントに方向ハンドルが表示されます。方向ハンドルは、方向線で構成され、その先端には方向ポイントがあります。方向線の角度と長さによって、曲線セグメントの形状とサイズが決まります。方向点を移動すると、曲線の形状が変化します。方向線は、最終出力には表示されません。



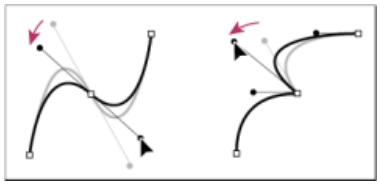
アンカーポイントを選択した状態（左）と、アンカーポイントで連結されている曲線セグメント上に方向線が表示された状態（右）

スムーズポイントには、常に同時に動く一直線上の 2 本の方向線があります。スムーズポイント上の方向線を移動すると、そのアンカーポイントで連結されたセグメントは連続する曲線を維持したまま、両側の曲線セグメントが同時に調整されます。

これに対して、コーナーポイントには、結合されている曲線セグメントの数（2 つ、1 つまたはなし）と同じ数の方向線（2 本、1 本またはなし）があります。コーナーポイントの方向線の角度はそれぞれ異なります。コーナーポイント上の方向線を移動すると、そのポイントに対して方向線と同じ側の曲線だけが調整されます。

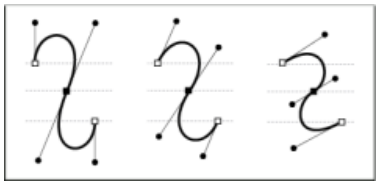


アンカーポイントを選択した状態（左）と、アンカーポイントで連結されている曲線セグメント上に方向線が表示された状態（右）



スムーズポイント上（左）とコーナーポイント上（右）の方向線の調整

方向線は、アンカーポイントの位置で、曲線の半径に対して常に垂直に接しています。各方向線の角度によって曲線の弧が決定され、長さによって曲線の高さと深さが決定されます。



方向線を移動したり、長さを変更したりすると、曲線の弧が変わる

注意： *Illustrator* では、表示／境界線を表示を選択するか、表示／境界線を隠すを選択することにより、アンカーポイント、方向線および方向点を表示するか、非表示にするかを指定できます。

(cc) BY-NC-SR Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

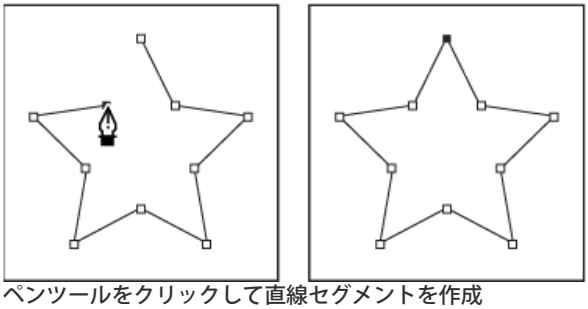
ペンツールを使用した描画

ペンツールによる直線セグメントの描画
ペンツールによる曲線の描画
描画中のアンカーポイントの移動
パスの描画の終了
直線に続く曲線の描画
曲線に続く直線の描画
コーナーで連結された 2 つの曲線セグメントの描画

ペンツールによる直線セグメントの描画

トップへ戻る

ペンツールを使用して作成できる最も単純なパスは直線です。ペンツールをクリックして 2 つのアンカーポイントを作成すると、それらのアンカーポイントを結ぶ直線が作成されます。クリックを続けると、コーナーポイントで連結された直線セグメントから成るパスが作成されます。



ペンツールをクリックして直線セグメントを作成

1. ペンツールを選択します。
2. ペンツールのポインターを直線セグメントの描画を開始する地点に移動し、クリックして最初のアンカーポイントを定義します（ドラッグはしません）。
   注意： 最初のセグメントは、2 番目のアンカーポイントをクリックするまで表示されません（Photoshop では、「ラバーバンド」オプションを選択するとパスセグメントをプレビューできます）。また、方向線が表示される場合は、ペンツールを誤ってドラッグしています。編集／取り消しを選択して、クリックし直してください。
3. 次に、書き始めのセグメントを終了させる地点でクリックします（セグメントの角度を 45°単位に固定するには、Shift キーを押しながらクリックします）。
4. ペンツールのクリックを続けて、残りの直線セグメントのアンカーポイントを設定します。

   直前に追加したアンカーポイントは常に塗りつぶしの四角いポイントで表示され、このポイントが選択されていることを表します。新しいアンカーポイントを追加すると、それまでに定義したアンカーポイントは白抜きの四角いポイントで表示され、選択が解除されます。
5. 次のいずれかの操作を行って、パスを完成します。
   - クローズパスにする場合は、最初に作成した（白抜きの）アンカーポイントの上にペンツールを置きます。ペンツールを正しい位置に置くと、ペンツールポインターの横に小さい円 が表示されます。クリックするか、ドラッグしてパスを閉じます。

     注意： InDesign では、オブジェクトを選択し、オブジェクト／パス／パスを閉じるを選択してクローズパスにすることもできます。
   - オープンパスにする場合は、Ctrl キー（Windows）または Command キー（Mac OS）を押しながら、すべてのオブジェクトから離れた任意の場所をクリックします。

     ツールパネルで別のツールを選択するか、選択／選択を解除（Illustrator）または編集／すべてを選択解除（InDesign）を選択しても、オープンパスにすることができます。また、InDesign または Illustrator では、単に Enter キー（Windows）または Return キー（Mac OS）を押すとパスがオープンパスのままになります。

ペンツールによる曲線の描画

トップへ戻る

曲線が方向を変える位置にアンカーポイントを追加し、曲線を形成する方向線をドラッグすることで、曲線を作成することができます。方向線の長さと弧により、曲線の形状が決定されます。

アンカーポイントの数を少なくすると、曲線を編集しやすくなり、曲線の表示やプリントがより快適になります。ポイント数が多すぎると、曲線がでこぼこになることがあります。アンカーポイントの間隔を広く取り、方向線の長さと角度を調整して曲線を描くようにします。

1. ペンツールを選択します。

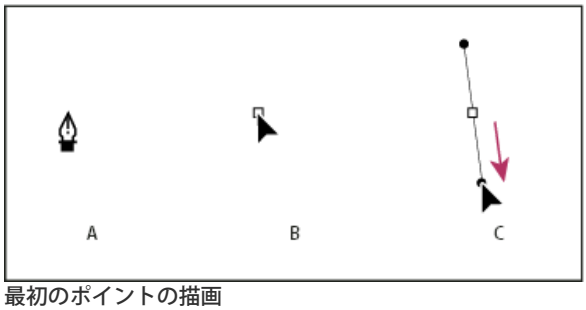
2. ペンツールを曲線の開始点に移動し、マウスボタンを押したままにしてドラッグします。

   始点のアンカーポイントが表示され、ペンツールのポインターが矢印に変わります （Photoshop では、ドラッグを開始するまでポインターの形は変わりません）。

3. 次にドラッグして、作成中の曲線セグメントの弧を設定し、マウスボタンを放します。

   一般に、次に作成するアンカーポイントに向けて約 1/3 の距離まで方向線を引きます （方向線の一辺または二辺を後で調整できます）。

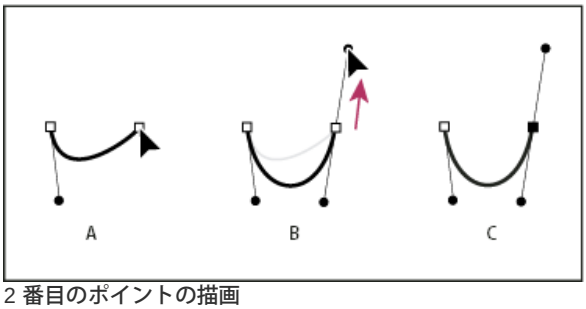
   Shift キーを押しながらドラッグすると、ペンツールの動きを 45°単位に固定できます。



最初のポイントの描画
A. ペンツールを置く **B.** ドラッグを開始（マウスボタンを押したまま） **C.** ドラッグして方向線を伸ばす

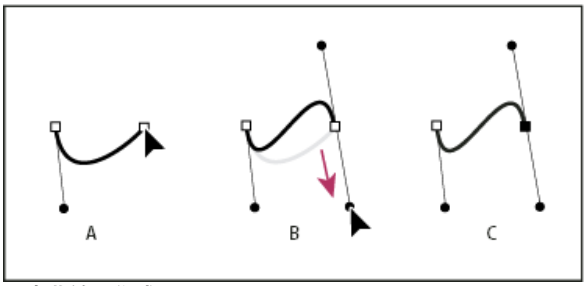
4. 曲線セグメントの終点にペンツールを置いてから、次のいずれかの操作を行います。

   - C 字曲線を作成する場合は、前の方向線とは逆の方向にドラッグします。その後マウスボタンを放します。



2 番目のポイントの描画
A. 2 番目のスムーズポイントのドラッグを開始 **B.** 前の方向線から放すようにドラッグして C 字曲線を作成 **C.** マウスボタンを放した後の状態

   - S 字曲線を作成する場合は、前の方向線と同じ方向にドラッグします。その後マウスボタンを放します。



S 字曲線の作成
A. 新しいスムーズポイントのドラッグを開始 **B.** 前の方向線と同じ方向にドラッグして S 字曲線を作成 **C.** マウスボタンを放した後の状態

   - （Photoshop のみ）次の曲線を描く方向を鋭角にするには、マウスボタンを放し、Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押しながら方向点を曲線の方向にドラッグします。Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）とマウスボタンを放し、セグメントの終了点にポインターを移動し、反対方向にドラッグして曲線セグメントを完成させます。

5. 引き続き、別の場所からペンツールをドラッグして、一連の滑らかな曲線を作成します。アンカーポイントは、各曲線の頂点ではなく開始点と終点に配置されます。
   アンカーポイントの方向線を分割するには、Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押しながら方向線をドラッグします。

6. 次のいずれかの操作を行って、パスを完成します。

   - クローズパスにする場合は、最初に作成した（白抜きの）アンカーポイントの上にペンツールを置きます。ペンツールを正しい位置に置くと、ペンツールポインターの横に小さい円 が表示されます。クリックするか、ドラッグしてパスを閉じます。

     注意： InDesign では、オブジェクトを選択し、オブジェクト／パス／パスを閉じるを選択してクローズパスにすることもできます。

- オープンパスにする場合は、Ctrl キー（Windows）または Command キー（Mac OS）を押しながら、すべてのオブジェクトから離れた任意の場所をクリックします。

  ツールパネルで別のツールを選択するか、選択／選択を解除（Illustrator）または編集／すべてを選択解除（InDesign）を選択しても、オープンパスにすることができます。

Illustrator でのペンツールの使用に関するビデオについては、www.adobe.com/go/vid0037_jp を参照してください。

トップへ戻る

描画中のアンカーポイントの移動

❖ クリックしてアンカーポイントを作成した後に、マウスボタンを押したままでスペースバーを押しながらドラッグすると、アンカーポイントを別の場所に移動させることができます。

トップへ戻る

パスの描画の終了

❖ 次のいずれかの方法でパスを完成します。

- クローズパスにする場合は、最初に作成した（白抜きの）アンカーポイントの上にペンツールを置きます。ペンツールを正しい位置に置くと、ペンツールポインターの横に小さい円 が表示されます。クリックするか、ドラッグしてパスを閉じます。

  注意： InDesign では、オブジェクトを選択し、オブジェクト／パス／パスを閉じるを選択してクローズパスにすることもできます。

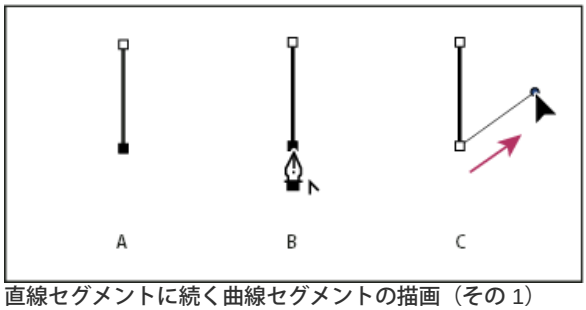
- オープンパスにする場合は、Ctrl キー（Windows）または Command キー（Mac OS）を押しながら、すべてのオブジェクトから離れた任意の場所をクリックします。

ツールパネルで別のツールを選択するか、選択／選択を解除（Illustrator）または編集／すべてを選択解除（InDesign）を選択しても、オープンパスにすることができます。また、InDesign では、単に Enter キー（Windows）または Return キー（Mac OS）を押すとパスがオープンパスのままになります。

トップへ戻る

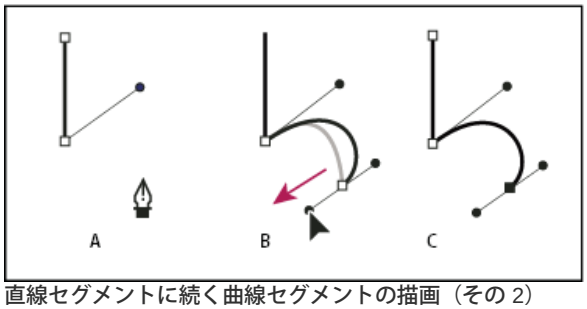
直線に続く曲線の描画

1. ペンツールで 2 つの場所をクリックしてコーナーポイントを設定し、直線セグメントを作成します。
2. 選択されている端点上にペンツールを置きます。ペンツールを正しい位置に置くと、Illustrator および InDesign ではペンツールの横にアンカーポイントの変換アイコンが表示され、Photoshop ではペンツールの横に小さい斜線（スラッシュ）が表示されます。次に作成する曲線セグメントの弧を設定するには、アンカーポイントをドラッグして方向線を作成し、その後マウスボタンを放します。



直線セグメントに続く曲線セグメントの描画（その 1）
A. 完成した直線セグメント **B.** 端点上にペンツールを置く（アンカーポイントの変換アイコンは Illustrator および InDesign でのみ表示） **C.** 方向点をドラッグ

3. 次のアンカーポイントを追加する位置にペンツールを置き、新しいアンカーポイントをクリック（必要に応じてドラッグ）して、曲線を完成させます。

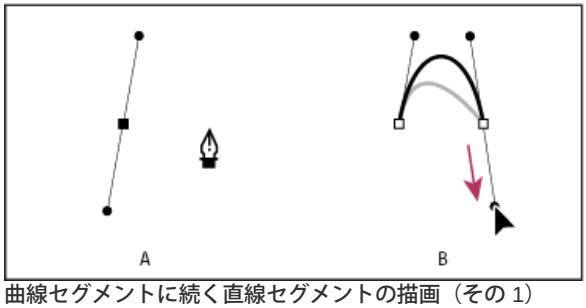


直線セグメントに続く曲線セグメントの描画（その 2）
A. ペンツールを置く **B.** 方向線をドラッグ **C.** 新しい曲線セグメントが完成

トップへ戻る

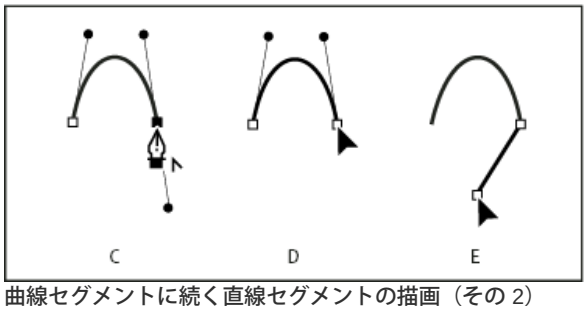
曲線に続く直線の描画

1. ペンツールをドラッグして曲線セグメントの最初のスムーズポイントを作成し、マウスボタンを放します。
2. 曲線セグメントの終点となる位置にペンツールを移動し、ドラッグして曲線を完成させ、マウスボタンを放します。



曲線セグメントに続く直線セグメントの描画（その 1）
A. 曲線セグメントの最初のスムーズポイントと、終点となる点にペンツールを置いた状態 **B.** ドラッグして曲線を作成

3. 選択されている端点上にペンツールを置きます。ペンツールを正しい位置に置くと、ペンツールの横にアンカーポイントの変換アイコンが表示されます。アンカーポイントをクリックして、スムーズポイントをコーナーポイントに変換します。
4. 直線セグメントの終点となる位置にペンツールを移動し、クリックして直線を完成させます.



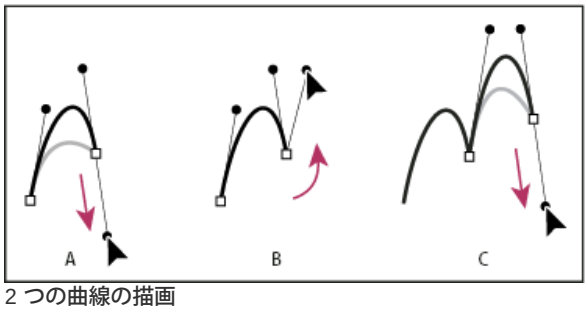
曲線セグメントに続く直線セグメントの描画（その 2）
C. 既存の端点上にペンツールを合わせる **D.** 端点をクリック **E.** 次のコーナーポイントをクリック

トップへ戻る

コーナーで連結された 2 つの曲線セグメントの描画

1. ペンツールを使用して、曲線セグメントの最初のスムーズポイントをドラッグして作成します。
2. ペンツールの位置を変えて、2 番目のスムーズポイントを追加して曲線を作成します。次に、Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押しながら、方向線を反対方向にドラッグして、次の曲線の弧を設定します。Alt キーまたは Option キーとマウスボタンを放します。

   この操作によって方向線が分割され、スムーズポイントがコーナーポイントに変換されます。
3. 2 番目の曲線セグメントを終了する位置にペンツールを置き、新しいスムーズポイントをドラッグして 2 番目の曲線セグメントが完成します。



2 つの曲線の描画
A. 新しいスムーズポイントのドラッグを開始 **B.** Alt キーまたは Option キーを押しながらドラッグして方向線を分割し、方向線を上方にドラッグ **C.** ペンツールの位置を変えながらドラッグを 3 回行った後の状態

関連項目
Illustrator でのペンツールのビデオ

(cc) BY-NC-SR

法律上の注意 | プライバシーポリシー

鉛筆ツールを使用した描画

鉛筆ツールを使用した描画
鉛筆ツールによるパスの編集
鉛筆ツールのオプション

トップへ戻る

鉛筆ツールを使用した描画

鉛筆ツールの機能は、Adobe Illustrator でも InDesign でも基本的には同じです。鉛筆ツールを使用すると、用紙の上に鉛筆で描くように、自由な形のオープンパスやクローズパスを作成できます。鉛筆ツールは、すばやくスケッチしたり、素描効果を出したりする場合に便利です。作成したパスは、必要に応じて変更することができます。

鉛筆ツールでパスを作成すると、アンカーポイントが自動的に設定されます。ただし、アンカーポイントの場所を指定することはできません。これらのアンカーポイントは、パスを作成した後で調整できます。設定されるアンカーポイントの数は、パスの長さや複雑さ、鉛筆ツールの環境設定ダイアログボックスで設定した許容値で決まります。鉛筆ツールの環境設定では、マウスの動きやグラフィックタブレットの筆圧に対する鉛筆ツールの感度を設定します。

Illustrator での鉛筆ツールを使用した描画に関するビデオについては、www.adobe.com/go/vid0039_jp を参照してください。

鉛筆ツールによる自由なパスの描画

1. 鉛筆ツール を選択します。
2. 鉛筆ツールをパスの始点となる位置に置き、ドラッグしてパスを作成します。自由なパスの作成中は、鉛筆ツール のポインターの横に小さい x 印が表示されます。

   ツールをドラッグすると、ツールの軌跡が点線で表示されます。マウスボタンを放すと、パスの両端とパス上にアンカーポイントが表示され、 現在の線および塗りの属性が適用されます。初期設定では、書き終えてもパスは選択されたままになります。

鉛筆ツールによるクローズパスの描画

1. 鉛筆ツールを選択します。
2. 鉛筆ツールをパスの始点となる位置に置き、ドラッグしてパスを作成します。
3. ドラッグを開始してから、Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押したままにします。鉛筆ツールに、クローズパスの作成を示す小さな丸が表示されます（InDesign では消しゴムも表示されます）。
4. パスを終了する位置で、Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押したままマウスボタンを放します。マウスを放した位置とパスの始点が接続されてクローズパスが作成されます。Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を放します。

   クローズパスを作成するときに、パスの始点にカーソルを置く必要はありません。別の場所でマウスボタンを放すと、鉛筆ツールはその場所からパスの始点までの最短の線を作成してパスを閉じます。

トップへ戻る

鉛筆ツールによるパスの編集

鉛筆ツールを使用すると、あらゆる種類のパスを編集したり、あらゆる種類の形状に自由な線や形状を追加したりできます。

鉛筆ツールによるパスの追加

1. 既存のパスを選択します。
2. 鉛筆ツールを選択します。
3. パスの端点に鉛筆ツールのポインターを置きます。

   端点に近づくと、鉛筆ツールのポインターの横の小さい x 印が消えます。

4. ドラッグして、パスを追加します。

鉛筆ツールによる 2 つのパスの連結

1. 両方のパスを選択します（選択ツールを使用して、Shift キーを押しながらパスをクリックするか、2 つのパスを囲むようにドラッグします）。
2. 鉛筆ツールを選択します。
3. 鉛筆ツールのポインターを一方のパスの始点となる位置に置き、もう一方のパスに向かってドラッグします。
4. ドラッグを開始してから、Ctrl キー（Windows）または Command キー（Mac OS）を押したままにします。鉛筆ツールに、既存のパスへの

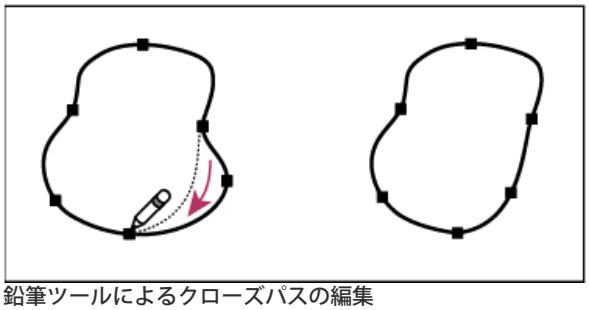
結合を示す小さいアイコンが表示されます。

5. もう一方のパスの端点までドラッグしたらマウスボタンを放し、次に Ctrl キー（Windows）または Command キー（Mac OS）を放します。
   注意： パスを、パスが作成された方向に延長するようにして、一方のパスからもう一方のパスまでドラッグすると、パスをうまく連結できます。

鉛筆ツールによるパスのリシェイプ

1. 変更するパスを選択します。
2. 変更するパスの上または近くに鉛筆ツールを置きます。

   パスに近づくと小さい x 印が消えます。
3. パスが目的の形状になるまで、ツールをドラッグします。



鉛筆ツールによるクローズパスの編集

注意： 鉛筆ツールでパスを編集する場合、クリックする位置とドラッグする方向によっては思いどおりのパスが作成できないことがあります。例えば、クローズパスがオープンパスに変更されたり、オープンパスがクローズパスに変更されたり、パスの一部が失われたりすることがあります。

トップへ戻る

鉛筆ツールのオプション

鉛筆ツールをダブルクリックして、次のオプションを設定します。

精度 マウスまたはペンを移動するときに、どれだけの距離を移動すると新しいアンカーポイントがパスに追加されるかを指定します。値が大きいほど、滑らかで単純なパスになります。値が小さいほど、ポインターの動きにより近くなり、でこぼこしたパスになります。精度は 0.5 ～ 20 ピクセルの範囲で入力します。

滑らかさ ツールの使用時に適用される滑らかさを指定します。滑らかさは 0 ～ 100 %の範囲で入力します。値が大きいほど、滑らかなパスになります。値が小さいほど、作成されるアンカーポイントの数が多くなり、でこぼこしたパスになります。

鉛筆の線に塗りを適用 （Illustrator のみ）このオプションの選択後に、鉛筆ツールを使って作成した線に対し塗りを適用します。ただし、オプション選択前に存在していた線には適用されません。鉛筆ツールで線を作成する前に、必ず塗りを選択してください。

選択を解除しない パスの作成後にパスを選択したままにするかどうかを指定します。このオプションはデフォルトで選択されています。

選択したパスを編集 選択したパスに一定の距離（次のオプションで指定）まで近づいたときにそのパスを変更したり結合したりできるかどうかを指定します。

範囲：_ **pixel** 既存のパスにマウスまたはペンをどの程度近づけると鉛筆ツールでパスを編集できるかを指定します。このオプションは、「選択したパスを編集」オプションを選択した場合のみ有効です。

関連項目

Illustrator での鉛筆ツールのビデオ

(cc) BY-NC-SR

法律上の注意 | プライバシーポリシー

パスの編集

パス、セグメントおよびアンカーポイントの選択
パスセグメントの調整
アンカーポイントの追加または削除
スムースポイントとコーナーポイントの切り換え
パスの分割
パスのスムーズ処理
クローズパスまたはオブジェクトの再形成
ポジションツールについて

パス、セグメントおよびアンカーポイントの選択

トップへ戻る

Illustrator および InDesign で、パスをリシェイプしたり編集したりするには、パスのアンカーポイント、セグメント、またはその両方をあらかじめ選択しておく必要があります。

アンカーポイントの選択

- アンカーポイントが表示されている場合は、アンカーポイントをダイレクト選択ツール でクリックして選択します。複数のアンカーポイントを選択するには、Shift キーを押しながらアンカーポイントをクリックします。
- ダイレクト選択ツールを選択し、アンカーポイントを囲むようにドラッグします。他のアンカーポイントを選択するには、Shift キーを押しながら囲むようにドラッグします。
- アンカーポイントを含んだパスが選択されていないことを確認します。ダイレクト選択ツールを、ポインターの横に白抜きの小さな四角いポイントが表示されるまでアンカーポイント上で移動してから、アンカーポイントをクリックします。他のアンカーポイントを選択するには、Shift キーを押しながらアンカーポイントをクリックします。
- （Illustrator のみ）なげなわツールを選択して、アンカーポイントを囲むようドラッグします。他のアンカーポイントを選択するには、Shift キーを押しながら囲むようにドラッグします。

パスセグメントの選択

次のいずれかの操作を行います。

- ダイレクト選択ツール を選択してから、セグメントの周囲 2 ピクセル以内をクリックするか、セグメントの一部を囲むようにドラッグします。他のパスセグメントを選択するには、Shift キーを押しながらパスセグメントをクリックするか、Shift キーを押しながらパスセグメントを囲むようにドラッグします。
- （Illustrator のみ）なげなわツール を選択して、パスセグメントの一部を囲むようにドラッグします。他のパスセグメントを選択するには、Shift キーを押しながら囲むようにドラッグします。

パス内のすべてのアンカーポイントおよびセグメントの選択

1. ダイレクト選択ツール またはなげなわツール（Illustator）を選択します。
2. パス全体を囲むようドラッグします。

   パスに塗りが適用されている場合は、ダイレクト選択ツールでパスの内側をクリックしてすべてのアンカーポイントを選択することもできます。

パスのコピー

✥ 選択ツールまたはダイレクト選択ツールを使用してパスまたはセグメントを選択し、次のいずれかの操作を行います。

- 通常のメニュー機能を使用して、アプリケーション内またはアプリケーション間でパスをコピー＆ペーストします。
- Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押しながらパスを目的の位置までドラッグし、Alt キーまたは Option キーとマウスボタンを放します。

パスセグメントの調整

トップへ戻る

パスセグメントはいつでも編集できますが、既存のセグメントを編集する操作は、新規のセグメントを描画する操作と多少異なります。セグメントを編集する際は、以下のヒントを考慮に入れてください。

- アンカーポイントによって 2 つのセグメントが連結されている場合、そのアンカーポイントを移動すると、両方のセグメントが変更されま

す。

- ペンツールでの描画中、ダイレクト選択ツール（InDesign）およびパス選択ツール（Photoshop）を一時的に有効にして、既に描画したセグメントを調整することができます。ダイレクト選択ツールまたはパス選択ツールを有効にするには、描画中に Ctrl キー（Windows）または Command キー（Mac OS）を押します。Illustrator では、描画中に Ctrl キーまたは Command キーを押すと、最後に使用した選択ツールが有効になります。
- 最初にペンツールを使用してスムーズポイントを作成する場合は、方向点をドラッグすると、ポイントの両側の方向線の長さが変化します。ダイレクト選択ツールを使用して既存のスムーズポイントを編集する場合は、ドラッグしている側の方向線の長さだけが変化します。

直線セグメントの移動

1. ダイレクト選択ツール（Illustrator および InDesign）またはパス選択ツール（Photoshop）を使用して、調整するセグメントを選択します。
2. セグメントを新しい位置にドラッグします。

直線セグメントの長さまたは角度の調整

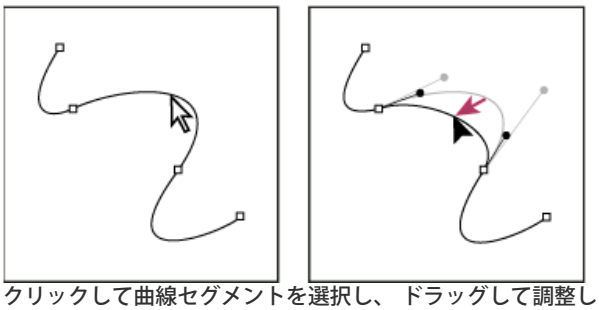
1. ダイレクト選択ツール（Illustrator および InDesign）またはパス選択ツール（Photoshop）を使用して、調整するセグメントのアンカーポイントを選択します。
2. アンカーポイントを目的の位置までドラッグします。Shift キーを押しながらドラッグすると、アンカーポイントの移動時の角度が 45°単位に固定されます。

   Illustrator または InDesign で長方形の幅を調整するだけの場合は、選択ツールで長方形を選択し、バウンディングボックスの側面にあるハンドルを使用すると、簡単にサイズを変更できます。

曲線セグメントの位置または形状の調整

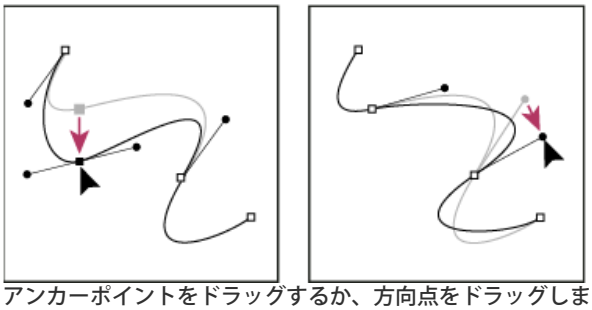
1. ダイレクト選択ツール（Illustrator および InDesign）またはパス選択ツール（Photoshop）を使用して、曲線セグメントを選択するか、曲線セグメントのいずれかの端のアンカーポイントを選択します。方向線があれば表示されます （方向線が 1 つしかない曲線セグメントもあります）。
2. 次のいずれかの操作を行います。

   - セグメントの位置を調整するには、セグメントをドラッグします。Shift キーを押しながらドラッグすると、アンカーポイントの移動時の角度が 45°単位に固定されます。

   クリックして曲線セグメントを選択し、 ドラッグして調整します。

   - 選択したアンカーポイントの片側のセグメントシェイプを調整するには、アンカーポイントまたは方向点をドラッグします。Shift キーを押しながらドラッグすると、移動時の角度が 45°単位に固定されます。

   アンカーポイントをドラッグするか、方向点をドラッグします。

   注意： 1 つのパスコンポーネントの中の一部のポイントやセグメントを選択して、その選択部分だけに変形を適用できます。

セグメントの削除

1. ダイレクト選択ツール を選択して、削除するセグメントを選択します。
2. Backspace キー（Windows）または Delete キー（Mac OS）を押して、選択したセグメントを削除します。Backspace キーまたは Delete キーをもう一度押すと、パスの残りの部分が消去されます。

アンカーポイントのハンドルの削除

- アンカーポイントの切り換えツール（Illustrator および InDesign）を使用して、アンカーポイントの方向点をクリックします。
- 方向点をドラッグし、方向点が引き出されているアンカーポイントに重ねます。

オープンパスの拡張

1. ペンツールを使用して、拡張するオープンパスの端点にポインターを置きます。ポインターを端点の上に正しく置くと、ポインターの形が変わります。
2. 端点をクリックします。
3. 次のいずれかの操作を行います。
   - コーナーポイントを作成するには、新しいセグメントを終了する位置にペンツールを置き、クリックします。スムーズポイントで終了するパスを拡張した場合は、新しいセグメントは既存の方向線によって曲線になります。

     注意： Illustrator では、スムーズポイントで終了するパスを拡張した場合、新しいセグメントは直線になります。
   - スムーズポイントを作成するには、新しい曲線セグメントを終了する位置にペンツールを置き、ドラッグします。

2 つのオープンパスの連結

1. ペンツールを使用して、別のパスに連結するオープンパスの端点上にポインターを置きます。ポインターを端点の上に正しく置くと、ポインターの形が変わります。
2. 端点をクリックします。
3. 次のいずれかの操作を行います。
   - パスを他のオープンパスに連結するには、他のパスの端点をクリックします。ペンツールを他のパスの端点の上に正しく置くと、パスを結合することを示す小さいアイコン がペンツールポインターの横に表示されます。
   - 既存のパスとそのパスの近くに描画した新しいパスとを連結するには、既存のパスの近くに新しいパスを描画し、既存のパスの（選択されていない）端点上にペンツールを移動します。パスを結合することを示す小さいアイコンがペンツールポインターの横に表示されたとき、その端点上でクリックします。

InDesign では、パスファインダーパネルを使ってパスを結合することもできます。 オープンパスのパスを閉じるには、選択ツールを使用してパスを選択してから、パスファインダーパネルの「パスを閉じる」をクリックします。2 つのパスの間の終点を閉じるには、パスを選択してから「パスの結合」をクリックします。「パスの結合」を 2 回クリックすると、2 つ目の終点を結合します。

キーボードを使用したアンカーポイントまたはセグメントの移動

1. アンカーポイントまたはパスセグメントを選択します。
   注意： Photoshop でキーボードを使用して移動できるのはアンカーポイントのみです。
2. キーボードのいずれかの矢印キーを 1 回ずつ押すか、押したままにすると、初期設定では、矢印の方向に 1 ピクセルずつ移動します。

Shift キーを押しながら矢印キーを押すと、10 ピクセルずつ移動できます。

注意： Illustrator および InDesign では、環境設定の「キー入力」（Illustrator）または「キーボード増分値」（InDesign）の設定を変更することによって、1 回に移動できる距離を変更できます。この初期設定を変更した場合に Shift キーを押しながら矢印キーを押すと、指定した値の 10 倍の距離を移動できます。

トップへ戻る

アンカーポイントの追加または削除

アンカーポイントを追加すると、パスを細かく調整したり、オープンパスを延長したりできます。ただし、必要以上にアンカーポイントを追加することはお勧めしません。パスのアンカーポイントが少なければ少ないほど、編集、表示および印刷が容易になります。不要なアンカーポイントを削除することで、パスを簡素化することができます。

ツールパネルには、ペンツール 、アンカーポイントの追加ツール およびアンカーポイントの削除ツール という、アンカーポイントを追加または削除するための 3 つのツールが用意されています。

初期設定で、ペンツールは、選択したパスの上に置くとアンカーポイントの追加ツールに変わり、アンカーポイントの上に置くとアンカーポイントの削除ツールに変わります （Photoshop では、ペンツールがアンカーポイントの追加ツールまたはアンカーポイントの削除ツールに自動的に変わるようにするためには、オプションバーで「自動追加・削除」を選択する必要があります）。

Photoshop および InDesign では複数のパスを同時に選択して編集できますが、Illustrator では 1 回に 1 つのパスに対してのみポイントを追加したり削除したりすることができます。Photoshop および InDesign では、アンカーポイントの追加中にクリックおよびドラッグすると、パスをリシェイプできます。

注意： アンカーポイントを削除するために、Delete キー、Backspace キーおよび Clear キーや、編集／カットまたは編集／消去の各コマンドを使用しないでください。これらのキーやコマンドを使用すると、アンカーポイントだけでなく、アンカーポイントに接続するセグメントも削除されます。

アンカーポイントの追加または削除

1. 変更するパスを選択します。

2. ペンツール、アンカーポイントの追加ツールまたはアンカーポイントの削除ツールを選択します。
3. アンカーポイントを追加するには、パスセグメント上にポインターを置いてクリックします。アンカーポイントを削除するには、アンカーポイント上にポインターを置いてクリックします。

   Illustrator では、オブジェクトを選択してオブジェクト／パス／アンカーポイントの追加を選択すると、パスにアンカーポイントを追加できます。

ペンツールの自動切り替え機能の無効化または一時的な無効

ペンツールからアンカーポイントの追加ツールまたはアンカーポイントの削除ツールへの自動切り替えは、無効にできます。この機能は、既存のパスの上から新しいパスを開始するときに便利です。

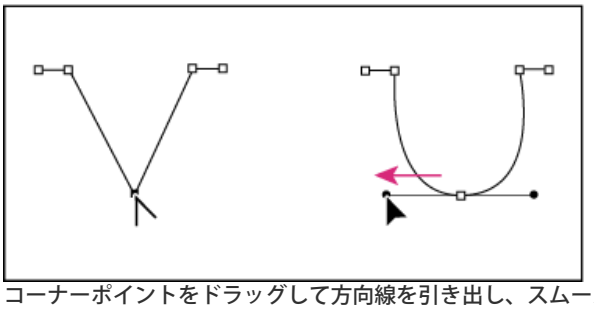
- Photoshop では、オプションバーで「自動追加・削除」の選択を解除します。
- Illustrator では、Shift キーを押しながら、選択されているパスまたはアンカーポイントにペンツールを置きます（Shift キーがペンツールを制限しないように、マウスボタンを放す前に Shift キーを放します）。
- Illustrator では、編集／環境設定／一般（Windows）または Illustrator／環境設定／一般（Macintosh）を選択し、「自動追加 / 削除しない」を選択します。

トップへ戻る

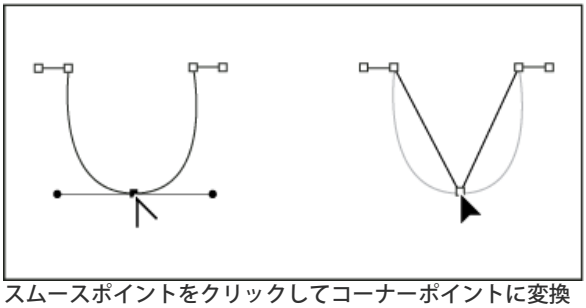
スムースポイントとコーナーポイントの切り換え

パスのアンカーポイントには、コーナーポイントとスムースポイントの 2 種類があります。コーナーポイントでは、パスの方向が大きく変わります。スムースポイントでは、パスセグメントは連続する曲線として連結されます。アンカーポイントの切り換えツールにより、コーナーポイントとスムースポイントを切り替えることができます。

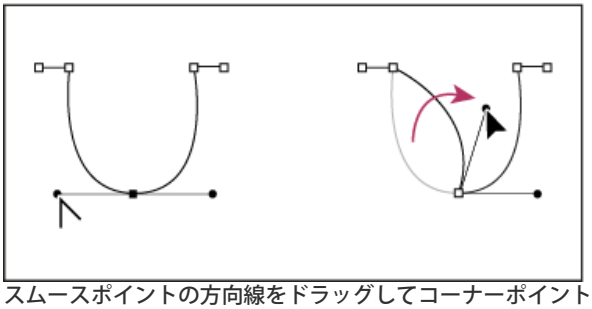
1. ダイレクト選択ツール を使用して、変換するパスを選択します。
2. アンカーポイントの切り換えツール に切り替えます（必要に応じて、ペンツールのアイコンをクリックしたままにして、アンカーポイントの切り替えツールを選択します）。
   アンカーポイントの切り換えツールをダイレクト選択ツールに一時的に切り替えるには、Ctrl キー（Windows）または Command キー（Mac OS）を押します。
3. 変換するアンカーポイントの上にアンカーポイントの切り換えツールを置き、次のいずれかの操作を行います。
   - コーナーポイントをスムースポイントに変換するには、コーナーポイントをドラッグし、方向線を引き出します。

     コーナーポイントをドラッグして方向線を引き出し、スムースポイントに変換
   - スムースポイントを方向線なしのコーナーポイントに変換するには、スムースポイントをクリックします。

     スムースポイントをクリックしてコーナーポイントに変換
   - 方向線のないコーナーポイントを、独立した方向線を持つコーナーポイントに変換する場合は、まずコーナーポイントをドラッグして方向線を引き出します（スムースポイントに変わります）。マウスボタンを放し、どちらかの方向線をドラッグします。
   - ポイントを変換するには、パスファインダーパネルを開き（ウィンドウ／オブジェクトとレイアウト／パスファインダーを選択）、「ポイントを変換」セクションで、「標準」、「角」、「スムーズ」または「左右対称」ボタンをクリックします。
   - スムースポイントを、独立した方向線を持つコーナーポイントに変換するには、どちらかの方向線をドラッグします。



スムースポイントの方向線をドラッグしてコーナーポイントに変換

アンカーポイントを変換するには、ダイレクト選択ツールを使用してアンカーポイントを選択し、次にオブジェクト／ポイントを変換のサブメニューからコマンドを選択することもできます。例えば、「U」形状の下部のスムースポイントを選択し、オブジェクト／ポイントを変換／標準を選択します。これにより、方向線が削除されて「V」形状になります。「角」を選択すると、相互に独立して動く方向線付きのコーナーポイントに変換されます。「スムーズ」を選択すると、長さを別々に指定できるハンドルの付いたポイントが作成され、「左右対称」を選択すると、同じ長さのハンドル付きのポイントが作成されます。

トップへ戻る

パスの分割

パス、グラフィックフレームまたは空のテキストフレームをアンカーポイント上でまたはセグメントの途中で分割することができます。パスを分割するときには、次の点に注意してください。

- クローズパスを 2 つのオープンパスに分割するには、パス上の 2 か所で切断する必要があります。クローズパスを 1 か所だけ切断すると、1 つのオープンパスになります。
- 分割した後にできたパスは、線幅や塗りのカラーなど、元のパスの設定をそのまま引き継ぎます。場合によっては、線の位置を内側から外側へ変更する必要があります。

はさみツールを使用したパスの分割

1. （オプション手順）パスを選択して、現在のアンカーポイントを表示します。
2. はさみツールを選択し、パスを分割する位置でパスをクリックします。セグメントの途中でパスを切断すると、2 つの新しい端点が同じ位置に作成され、その一方が選択されます。
3. ダイレクト選択ツールを使用して、作成されたアンカーポイントやパスのセグメントを調整します。

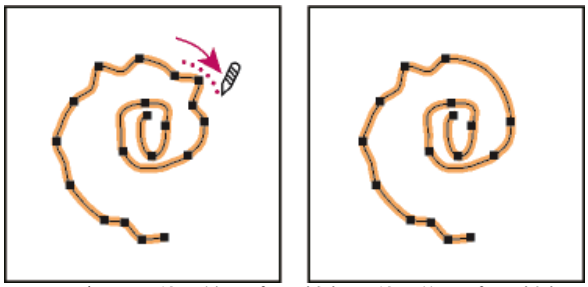
パスファインダーパネルでパスを開く

1. クローズパスを選択します。
2. パスファインダーパネルを開くには、ウィンドウ／オブジェクトとレイアウト／パスファインダーを選択します。
3. パスファインダーパネルの「パス」セクションで「パスを開く」をクリックします。

トップへ戻る

パスのスムーズ処理

既存のパスから不要な凸凹を取り除くには、スムーズツールを使用します。スムーズツールは、パスをできるかぎりオリジナルに近い形状のまま滑らかにします。滑らかにしたパスは、アンカーポイントの数が少なくなるので、編集、表示および印刷が容易になります。



スムーズツール使用前のパス（左）と使用後のパス（右）

1. パスを選択します。
2. スムーズツールを選択します。
   注意： 鉛筆ツールが選択されている場合は、Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押して、鉛筆ツールをスムーズツールに一時的に切り替えます。
3. 滑らかにするパスのセグメントに沿ってツールをドラッグします。
4. 線またはパスが希望の滑らかさになるまで、スムーズ処理を続けます。
5. 滑らかさを変更するには、スムーズツールをダブルクリックして、次のオプションを設定します。

精度 曲線がどれだけ離れるとパスが変更されるかを指定します。値が小さいほど、ポインターの動きにより近くなり、でこぼこしたパスになります。値が大きいほど、ポインターの細かい動きを無視してパスが作成され、滑らかな曲線になります。設定できる値の範囲は 0.5 ～ 20 ピクセルです。

滑らかさ ツールの使用時に適用される滑らかさを指定します。「滑らかさ」には 0 ～ 100 %までの値を指定できます。大きい値を指定するほど、滑らかなパスになります。

選択を解除しない 滑らかさを適用した後にパスを選択したままにするかどうかを指定します。

トップへ戻る

クローズパスまたはオブジェクトの再形成

1. ダイレクト選択ツール を使用して、次のいずれかの操作を行います。
   - 選択するすべてのアンカーポイントを囲むようにドラッグします。
   - Shift キーを押しながら、選択するアンカーポイントを 1 つずつクリックします。
2. アンカーポイントまたはフォーカルポイント（選択されているパスセグメントを引っぱるためのポイント）として機能させるパスセグメントにポインターを置き、アンカーポイントまたはパスセグメントをクリックします。
3. ハイライト表示されているアンカーポイントをドラッグし、パスを調整します。パスセグメントの移動量は、ハイライト表示されているアンカーポイントからの距離に相対します。
   - フォーカルポイントとして選択されているアンカーポイントは、選択ツールのドラッグに合わせて移動します。
   - 移動ポイント以外の選択されたポイントは、ドラッグする移動ポイントからの距離に比例して移動します。
   - 選択されていないアンカーポイントは、ドラッグの影響を受けません。

トップへ戻る

ポジションツールについて

InDesign CS5 には、ポジションツール はありません。その代わりに、選択ツールを使用して、フレームまたはフレーム内のコンテンツのいずれかを選択して操作できます。詳しくは、オブジェクトの選択を参照してください。

関連項目

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

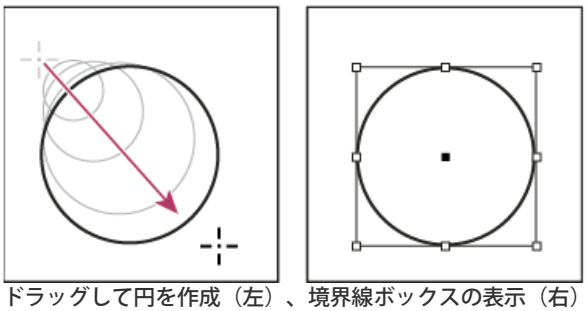
線ツールまたはシェイプツールを使用した描画

基本的な線とシェイプの描画
複数オブジェクトのグリッドとしての描画
プレースホルダーシェイプの描画
多角形の設定の指定
パスのシェイプを自動的に変更

基本的な線とシェイプの描画

トップへ戻る

1. ツールパネルで、次のいずれかの操作を行います。
   - 線またはシェイプを描画するには、線ツール、楕円形ツール、長方形ツール、または多角形ツール を選択します（長方形ツールをクリックしたままにすると、楕円形または多角形ツールを選択できます）。
   - プレースホルダー（空）のグラフィックフレームを描画するには、楕円形フレームツール、長方形フレームツール、または多角形フレームツール を選択します。
2. パスまたはフレームを作成するには、ドキュメントウィンドウ内でドラッグします。
   - 中心から描画するには、Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押したままにします。
   - 線を 45 度の倍数の角度に固定するか、パスまたはフレームの縦横比を保つには、Shift キーを押しながらドラッグします。
   - グリッドで複数のシェイプを作成するには、マウスボタンを押しながら矢印キーを押します。詳しくは、複数オブジェクトのグリッドとしての描画を参照してください。
   - 多角形の頂点の数を変更するには、ドラッグを開始し、スペースバーを押して、上向き矢印キーと下向き矢印キーを押します。左向き矢印キーと右向き矢印キーを押して星型の比率を変更します。もう一度スペースバーを押して、グリッドモードに戻ります。



ドラッグして円を作成（左）、境界線ボックスの表示（右）

注意： この図のように、パスの周囲には境界線ボックスがあります。選択ツール を選択すると、この境界線ボックスが表示されます。ダイレクト選択ツール でパスを選択した場合は、境界線ボックスではなく、パスのアンカーポイントが表示されます。

複数オブジェクトのグリッドとしての描画

トップへ戻る

長方形ツールや文字ツールなどのフレーム作成ツールを使用するときに、修飾キーを使用して等間隔のフレームのグリッドを作成できます。

グリッド内でのオブジェクトの描画に関するビデオついては、http://tv.adobe.com/go/4949/ を参照してください。

1. フレームを描画できるツールを選択します。
2. ドラッグを開始します。マウスボタンを押しながら、次のいずれかの操作を行います。
   - 左向き矢印キーと右向き矢印キーを押して列数を変更します。上向き矢印キーと下向き矢印キーを押して行数を変更します。
   - Ctrl キー（Windows）または Command キー（Mac OS）を押しながら矢印キーを押して、フレーム間の間隔を変更します。
3. マウスボタンを放します。

多角形ツールで、頂点の数または星型の比率を矢印キーを使って変更するには、マウスボタンを押したままスペースバーを押します。

プレースホルダーシェイプの描画

トップへ戻る

プレースホルダーシェイプは、ドキュメントウィンドウに表示される × 印が付けられた楕円形、長方形または多角形であり、後からテキストや画

像に置換されます。

1. ツールパネルで、楕円形フレームツール、長方形フレームツール、または多角形フレームツール を選択します。
2. パスまたはフレームを作成するには、ドキュメントウィンドウ内でドラッグします。フレームの縦横比を保つには、Shift キーを押しながらドラッグします。

   プレースホルダーフレームのトリミング量、基準点およびその他のサイズ調整オプションを変更するには、オブジェクト／オブジェクトサイズの調整／フレーム調整オプションを選択します。

トップへ戻る

多角形の設定の指定

1. 多角形の設定を既存のシェイプに適用するには、多角形を選択します。
2. 多角形ツール をダブルクリックし、次の設定を行ってから、「OK」をクリックします。
   - 「頂点の数」に、多角形の頂点の数を入力します。
   - 「星型の比率」に、星の尖頭の長さを指定するパーセント値を入力します。尖頭の先の部分は、多角形の境界線ボックスに触れ、指定した割合によって頂点と頂点の間のへこんだ部分の深さが決まります。割合の値を大きくすると、尖頭は長細くなります。

トップへ戻る

パスのシェイプを自動的に変更

パスは、定義済みのシェイプに変更することができます。例えば、長方形を三角形に変更することができます。元のパスの線の設定は、新しいパスでも引き継がれます。新しいパスが多角形の場合、そのシェイプは、多角形設定ダイアログボックスで設定したオプションに基づいて形成されます。新しいパスに角の効果がある場合、その半径のサイズは、角オプションダイアログボックスで設定したサイズに基づいて設定されます。

1. パスを選択します。
2. 必要に応じて次の操作を行います。
   - オブジェクト／シェイプを変換を選択し、[新しいシェイプ] を選択します。
   - パスファインダーパネル（ウィンドウ／オブジェクトとレイアウト／パスファインダーを選択）の「シェイプを変換」セクションで、新しいシェイプのボタンをクリックします。

関連項目

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

複合パスと複合シェイプ

複合パスについて
複合パスの編集の模範例
複合パスの作成
複合パスの穴を塗りに変更
複合パスの解除
複合パス内の穴の変更
複合シェイプの作成
テキストアウトラインを使用したパスの作成

複合パスについて

トップへ戻る

複数のパスを、複合パスという 1 つのオブジェクトにまとめることができます。次のような場合に複合パスを作成します。

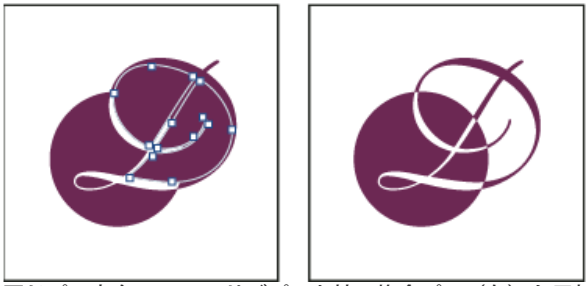
- パスに穴（抜き）を追加する場合。
- 「アウトラインを作成」コマンドを使用して、テキストを編集可能なパスに変換するときに、「o」や「e」などの文字に穴を作成できます。「アウトラインを作成」コマンドを使用すると、常に複合パスが生成されます。
- 複数のパスにまたがって、グラデーションを適用したり、内容を追加する場合。グラデーションツールを使用して複数のオブジェクトにわたって 1 つのグラデーションを適用することもできます。このとき、複数のパスを選択してからグラデーションを適用するより、複数のパスを複合パスにしてからグラデーションを適用する方が、全体を後で編集することもできるので、より有効な方法です。複合パスにしていない場合、グラデーションツールを使用して後で編集するには、最初に選択したパスをすべて選択しなければなりません。

複合パスの編集の模範例

トップへ戻る

複合パスを編集するときには、次の点に注意してください。

- パスの属性（線や塗りなど）を変更すると、使用している選択ツールや選択したサブパスの数に関係なく、常に複合パス内のすべてのサブパスが変更されます。組み合わせるパスの個々の線および塗りの属性を維持するには、パスをグループ化します。
- 複合パスでは、グラデーションや内部にペーストされた画像などのように、パスの境界線ボックスに相対して配置された効果は、複合パス全体の境界線ボックス（サブパスをすべて含む）に相対して配置されます。
- 複合パスを作成してからそのプロパティを変更し、解除コマンドを実行してそれを解除すると、解除されたパスは、複合パスのプロパティを引き継ぎます（元のプロパティには戻りません）。
- ドキュメントに多数のスムースポイントがあると、印刷時に出力装置側でエラーが発生する場合があります。問題が発生する場合は、複合パスを単純なものにするか、複合パスを除去する、または Adobe Photoshop などのプログラムを使用してビットマップ画像に変換します。
- 複合パスに塗りを適用すると、穴が適切な場所に表示されないことがあります。四角形のようなシンプルなパスの場合は、内側のエリア、つまり塗りを適用できるエリアは、パスで囲まれているので簡単に見分けることができます。複合パスの場合、複合パスのサブパスにより作成される重複部分が内側（塗り部分）なのか外側（穴の部分）なのかを特定する必要があります。サブパスが定義するエリアが内側なのか外側なのかは、各サブパスの方向（アンカーポイントが作成された順序）によって決定されます。適切な場所に穴が作成されない場合は、パスファインダーパネルの「パスの反転」をクリックし、サブパスの方向を反転してください。



同じパス方向の 2 つのサブパスを持つ複合パス（左）と反対のパス方向の 2 つのサブパスを持つ複合パス（右）

複合パスの作成

トップへ戻る

複合パスは、複数のオープンパスまたはクローズパスから作成できます。複合パスを作成するとき、選択されているパスはすべて複合パスのサブ

パスになり、最背面にあるパスの線と塗りの属性を引き継ぎます。

注意： 複合パスを作成するとき、選択されたオブジェクトの中にテキストや読み込まれた画像があると、複合パスの属性と内容は、最背面にあるオブジェクトの属性と内容に基づいて設定されます。それより背面にある内容を持たないオブジェクトは、複合パスに影響しません。

ダイレクト選択ツール を使用して、サブパスのアンカーポイントを選択することで、複合パスの一部のパスの形状を変更できます。

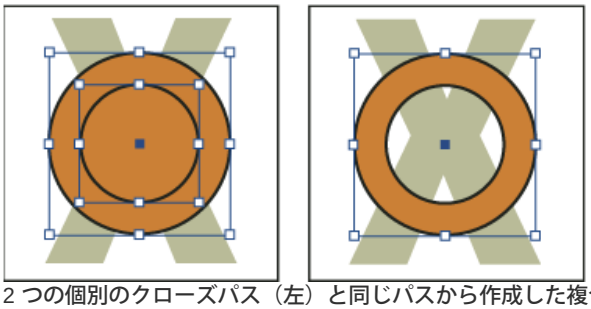
1. 選択ツール を使用して、複合パスに含めるパスをすべて選択します。
2. オブジェクト／パス／複合パスを作成を選択します。パスが重なる箇所に穴が表示されます。

   サブパスにより作成された穴に塗りを適用したり、サブパスを穴にすることができます。ダイレクト選択ツールを使用して、変更するサブパスのアンカーポイントを選択します。次に、オブジェクト／パス／パスの反転を選択するか、パスファインダーパネルの「パスの反転」をクリックします。

トップへ戻る

複合パスの穴を塗りに変更

サブパスが定義するエリアが内側（塗り部分）なのか外側（空）なのかは、各サブパスの方向（アンカーポイントが作成された順序）によって決定されます。複合パスで、穴が適切な場所に表示されない場合は、サブパスの方向を反転します。



2 つの個別のクローズパス（左）と同じパスから作成した複合パスの 2 つのサブパス（右）（複合パスは中央の円を穴として使用）

1. ダイレクト選択ツールを使用して、反転する複合パス部分（または反転する部分のアンカーポイント）を選択します。複合パス全体を選択しないように注意してください。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - オブジェクト／パス／パスの反転を選択します。
   - パスファインダーパネルの「パスの反転」をクリックします。

トップへ戻る

複合パスの解除

複合パスを解除すると、サブパスはそれぞれ独立したパスになります。

1. 選択ツール を使用して、複合パスを選択します。
2. オブジェクト／パス／複合パスを解除を選択します。

注意： 「複合パスを解除」コマンドは、選択した複合パスがフレーム内にある場合や、パスにテキストが含まれている場合は実行できません。

トップへ戻る

複合パス内の穴の変更

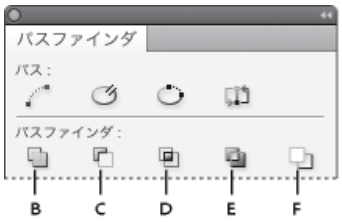
サブパスにより作成された穴を削除したり、穴を作成したサブパスの方向を反転することで塗りを適用することができます。

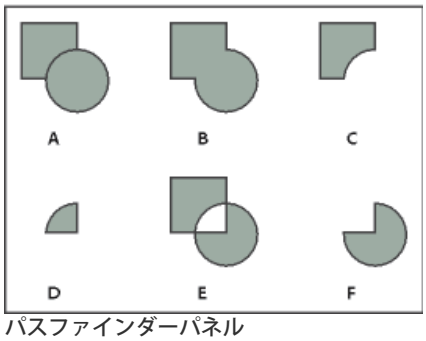
1. ダイレクト選択ツール を使用して、反転するサブパスのアンカーポイントを選択します。複合パス全体を選択しないように注意してください。
2. オブジェクト／パス／パスの反転を選択するか、パスファインダーパネルの「パスの反転」をクリックします。

トップへ戻る

複合シェイプの作成

複合シェイプは、パスファインダーパネルを使用して作成します（ウィンドウ／オブジェクトとレイアウト／パスファインダーを選択）。複合シェイプは、単純なパス、複合パス、テキストフレーム、テキストアウトラインまたはシェイプを使用して作成できます。作成される複合シェイプの種類は、パスファインダーで選択したボタンによって異なります。

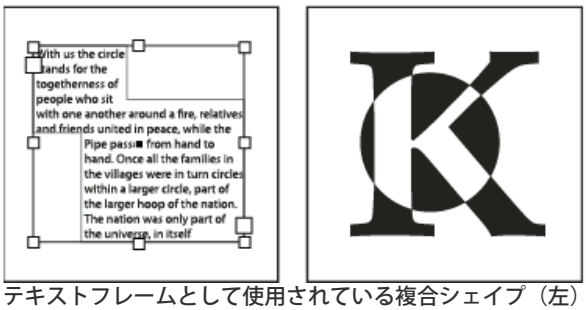




パスファインダーパネル
A. 元のオブジェクト **B.** 追加 **C.** 前面オブジェクトで型抜き **D.** 交差 **E.** 中マド **F.** 背面オブジェクトで型抜き

追加 選択されているオブジェクトのアウトラインをトレースして、1 つのシェイプに結合します。
前面オブジェクトで型抜き 前面のオブジェクトが背面のオブジェクトを切り抜きます。
交差 オブジェクトが交差している領域からシェイプが作成されます。
中マド 重なっていない領域からシェイプが作成されます。
背面オブジェクトで型抜き 背面のオブジェクトが前面のオブジェクトを切り抜きます。
多くの場合、結果としてできた複合シェイプは、最前面オブジェクトの属性（塗り、線、透明、レイヤーなど）を引き継ぎます。前面オブジェクトで型抜きしたシェイプの場合には、前面オブジェクトは削除されるので、代わりに最背面オブジェクトの属性が使用されます。

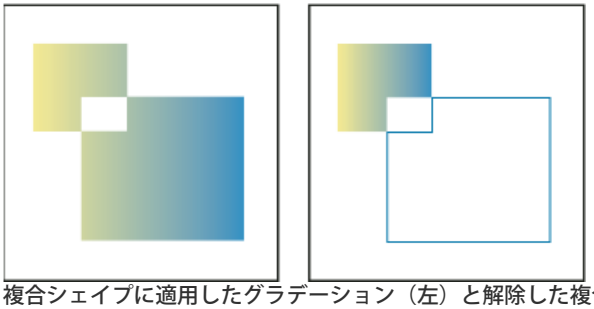
複合シェイプがテキストフレームを含んでいる場合、テキストフレームの形状は変わりますが、テキストには影響しません。テキストを変更するには、テキストアウトラインを使用して、複合パスを作成します。



テキストフレームとして使用されている複合シェイプ（左）とテキストアウトラインから作成された複合シェイプ（右）

複合シェイプの作成

複合シェイプは作成した形状によっては、単一の形状として扱うことも、シェイプを解除してコンポーネントパス（シェイプを構成している個々のパス）を別々に扱うこともできます。例えば、解除した複合シェイプの一部にグラデーションの塗りを適用し、残りの部分に塗りが適用されないようにすることができます。



複合シェイプに適用したグラデーション（左）と解除した複合シェイプの一部に適用したグラデーション（右）

1. ウィンドウ／オブジェクトとレイアウト／パスファインダーを選択して、パスファインダーパネルを開きます。
2. 結合して複合シェイプにするオブジェクトを選択します。
3. パフファインダパネルの「パスファインダー」セクションで「追加」などのボタンをクリックします。

オブジェクト／パスファインダーのサブメニューからコマンドを選択する方法もあります。

複合シェイプのパスの解除

❖ 複合シェイプを選択し、オブジェクト／パス／複合パスを解除を選択します。複合シェイプはコンポーネントパスに分割されます。

複合シェイプのコンポーネントパスを、個々のパスに適用した変更を失わずに再度グループ化するには、オブジェクト／パス／複合パスを作成ではなく、オブジェクト／グループを選択してください。

トップへ戻る

テキストアウトラインを使用したパスの作成

「アウトラインを作成」コマンドを使用すると、テキストの文字を他のパスと同じように編集および操作できる、一組の複合パスに変換することができます。「アウトラインを作成」コマンドは、サイズの大きい文字に効果を加える場合には有効ですが、本文テキストや小さいサイズの文字ではあまり効果的ではありません。

テキストにカラー付きの線またはグラデーションの塗りやグラデーションの線を適用するだけの場合は、テキストをアウトラインに変換する必要はありません。ツールパネル、スウォッチパネル、カラーパネルまたはグラデーションパネルを使用して、選択されている文字の線または塗りに、カラーおよびグラデーションを直接適用できます。

「アウトラインを作成」コマンドは、Type 1、TrueType または OpenType のフォントファイルから、フォントのアウトライン情報を取得します。文字からアウトラインを作成すると、文字は現在の位置でパスに変換されますが、線や塗りなど属性はすべてそのまま保持されます。

注意： 一部のフォントメーカーは、アウトラインを作成するのに必要な情報をプロテクトしています。このようなプロテクトされているフォントを選択し、書式／アウトラインを作成を選択すると、フォントは変換できないことを告げる警告メッセージが表示されます。

文字をアウトライン化すると、アウトラインフォントに組み込まれている小さいサイズの文字を表示したり印刷するため、フォントの形状を調整するデータ（ヒントと呼ばれます）がなくなります。そのため、アウトラインに変換された文字は、小さいサイズまたは低解像度では、アウトライン化する前と同じようには表示されない場合があります。

文字をテキストアウトラインに変換した後は、次のような作業を行うことができます。

- ダイレクト選択ツール を使用して、個々のアンカーポイントをドラッグし、テキストアウトラインの形状を変更します。
- アウトラインをコピーして、編集／選択範囲内へペーストを実行すると、アウトラインでマスキングされた画像を作成することができます。
- テキストアウトラインをテキストフレームとして使用し、その中にテキストを入力することができます。
- テキストアウトラインの線の属性を変更できます。
- テキストアウトラインを使用して、複合シェイプを作成することができます。



テキストアウトラインの使用

A. テキストアウトラインに変換する前の文字 **B.** 画像がペーストされたテキストアウトライン **C.** テキストフレームとして使用されるテキストアウトライン

変換されたテキストアウトラインは、複合パスのセットになるため、ダイレクト選択ツールを使用して、変換したアウトラインの個々のサブパスを編集できます。また、アウトラインを複合パスから解除することで、テキストアウトラインを個々の独立したパスに分割できます。

テキストのアウトラインからパスへの変換

デフォルトでは、テキストからアウトラインを作成すると、元のテキストは削除されますが、アウトラインを元のテキストのコピーの上に表示するように作成すれば、元のテキストは削除されません。

テキストフレーム内のテキストを選択し、コピーを作らずにアウトラインに変換すると、作成されたアウトラインは文字ではなくアンカー付き（インライン）オブジェクトになります。変換された文字は、既にテキストデータではなくなっているので、文字ツールを使用して文字として選択や編集を行うことはできません。また、文字詰めや行揃えなどの制御もできません。アウトラインを作成する前に、文字の設定や属性が適切であるどうかを確認してください。また、必ず元のテキストのコピーを作成してください。

1. 選択ツール を使用してテキストフレームを選択するか、文字ツールを使用してテキストを選択します。
2. 書式／アウトラインを作成を選択します。

テキストアウトラインのコピーをパスに変換

1. 選択ツール を使用してテキストフレームを選択するか、文字ツールを使用してテキストを選択します。

2. Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押しながら、書式／アウトラインを作成を選択します。コピーのアウトラインが元の文字上に正確に作成されます。必要に応じて、アウトラインを選択ツールでドラッグして移動します。

関連項目

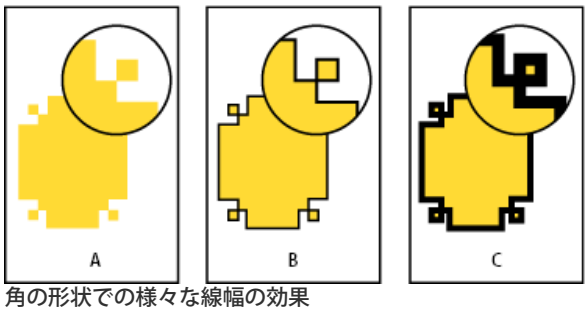
(cc) BY-NC-SR

法律上の注意 | プライバシーポリシー

角の形状の変更

角オプションダイアログボックスを使用した角の形状の適用
ライブコーナーの使用
角の形状を適用するためのガイドライン

「角オプション」コマンドを使用して、角の効果をパスに簡単に適用できます。角の効果には、簡単な丸みのある角から複雑な装飾まであります。



角の形状での様々な線幅の効果
A. 線のない飾りの効果 **B.** 線幅が 1 ポイントの線による効果 **C.** 線幅が 4 ポイントの線による効果

角の効果の使用に関するビデオについては、http://tv.adobe.com/go/4948/ を参照してください。

トップへ戻る

角オプションダイアログボックスを使用した角の形状の適用

1. 選択ツールを使用して、パスを選択します。
2. オブジェクト／角オプションを選択します。
3. 長方形の 4 つすべての角に角の効果を適用するには、すべての設定を同一にするアイコン を選択します。このオプションが選択解除されているときは、鎖が切れている形のアイコンが表示されます。
4. 角の効果をポップアップメニューから選択し、角のサイズを指定します。

   サイズの値により、各コーナーポイントから角の効果を広げる半径が決まります。
5. 実際に適用する前に、効果の結果を確認するには、「プレビュー」を選択します。「OK」をクリックします。

トップへ戻る

ライブコーナーの使用

ライブコーナーを使用すると、フレームに表示される黄色の四角形をクリックしてドラッグすることで、長方形のフレームに角の効果を適用できます。角ごとに異なる角の効果や角丸の半径も適用できるようになりました。

1. 長方形のフレームを選択し、黄色の四角形をクリックします。

   選択したフレームに 4 つの黄色の菱形が表示され、ライブコーナーモードになります。選択したフレームに黄色の四角形が表示されない場合は、表示／エクストラ／ライブコーナーを表示を選択します。
2. 角の効果を追加するには、次のいずれかの操作を行います。
   - 4 つすべての角の半径を調整するには、菱形の 1 つをフレームの中心に向けてドラッグします。
   - 1 つの角を調整するには、Shift キーを押しながら菱形をドラッグします。
   - 様々な効果を順に表示するには、Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押しながら黄色の菱形をクリックします。
3. 効果の編集を中止するには、選択したフレームの外側をクリックします。

角の効果を削除するには、オブジェクト／角オプションを選択し、ポップアップメニューから「なし」を選択します。

フレームを選択したときに黄色の四角形が表示されないようにする場合は、表示／エクストラ／ライブコーナーを隠すを選択します。

トップへ戻る

角の形状を適用するためのガイドライン

次の点に注意してください。

- さらに、角の効果を追加するプラグインソフトウェアを使用すれば、「角オプション」コマンドに、線パネルで指定できる形状を追加できます。
- 角の効果は、パスのコーナーポイントすべてに表示されますが、スムースポイントには適用されません。コーナーポイントを移動すると、自動的に角の効果の角度が変わります。
- 内方向または外方向に膨らむなど、角の効果によってパスが大幅に変更される場合は、フレームとその内容の相互作用またはレイアウトのその他の部分の相互作用に角の効果が影響している可能性があります。例えば、角の効果のサイズを大きくすると、テキストの回り込みやフレームの余白が、フレーム枠からさらに離れるように押される場合があります。
- 角の効果は編集することはできませんが、角の半径を変更したり、線を修正したりして、角の効果の外観を変更することはできます。
- 角の効果が現れない場合は、パスにコーナーポイントが使用され、線のカラーやグラデーションが適用されていることを確認します。そして、角オプションダイアログボックスの「サイズ」オプションを大きい値にするか、線パネルで線幅を太くします。

(cc) BY-NC-SR

法律上の注意 | プライバシーポリシー

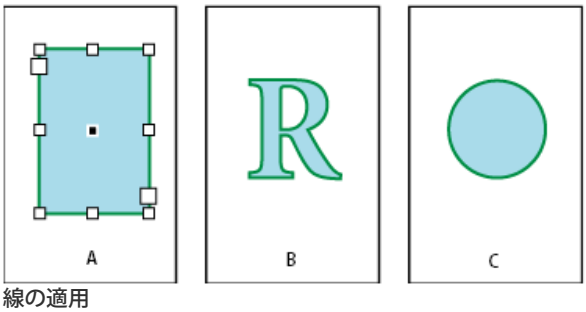
線の設定の適用

線の設定
線パネルのオプション
端点形状の設定
カスタム線種の定義
カスタム線種の保存

線の設定

トップへ戻る

線の設定をパス、シェイプ、テキストフレームおよびテキストアウトラインに適用することができます。線パネルでは、線の幅や外観だけではなく、セグメントの連結方法、端点の形状、角の形状なども設定することができます。パスまたはフレームが選択されているときには、コントロールパネルで線の設定を選択することもできます。



線の適用
A. 線をテキストフレームに適用 **B.** 線をテキストアウトラインに適用 **C.** 線を円に適用

同じ線の設定を頻繁に使用する場合、設定をオブジェクトスタイルに保存しておくと、その設定を他のオブジェクトにすばやく適用することができます。詳しくは、オブジェクトスタイルを参照してください。

1. 線の属性を変更するパスを選択します。
   注意： 選択ツール を使用してパスを選択すると、オブジェクト全体を囲む境界線ボックスが有効になります。パスを選択するには、ダイレクト選択ツール を使用します。
2. ウィンドウ／線を選択して、線パネルを表示します。
3. 「線幅」で、ポップアップメニューから線幅を選択するか、テキストボックスに値を入力して Enter キーまたは Return キーを押します。
   注意： 幅が 0.25 ポイントより狭い線は、イメージセッタなどの高解像度出力装置で出力した場合、細すぎて出力できないことがあります。線を削除するには、「線幅」を 0 に設定します。
4. 他のオプションが表示されていない場合は、パネルメニューから「オプションを表示」を選択して、線の他の属性を表示します。
5. 必要に応じて、線の他の属性を変更します。

注意： 線のカラーを変更する場合は、ツールパネルおよびスウォッチパネルを使用します。詳しくは、カラーの適用を参照してください。

線パネルのオプション

トップへ戻る

角の比率 マイター結合の尖った角の長さが、線幅にここで指定した倍数をかけた長さに達すると、マイター結合からベベル結合に切り替わります。例えば、「角の比率」を 9 に設定した場合、マイター結合の尖った角の長さが線幅の 9 倍の長さに達すると、マイター結合はベベル結合に切り替わります。1 ～ 500 の値を入力して、Enter キーまたは Return キーを押します。この設定は、角の形状に「ラウンド結合」が設定されている場合は適用されません。

角の比率と線の位置の設定を段落スタイルまたは文字スタイルに含めることができます。段落スタイルを作成または編集するダイアログボックスで「文字カラー」をクリックし、次に線アイコンをクリックしてそのオプションを使用可能にします。

線端 オープンパスの線端の形状を指定します。

先太 端点で終わる、直角の線端を作成します。
丸型線端 線幅の半分の幅を半径とする半円を端点に追加する線端を作成します。
突出線端 線幅の半分の幅を端点に追加する、直角の線端を作成します。このオプションでは、線端で線カラーの領域がパスよりも突き出ます。
注意： クローズパスにも線端の形状を指定することはできますが、パスをオープンにしなければ表示されません（例えば、はさみツールで切断する）。また、線端の形状は、線幅を太くすると確認しやすくなります。

結合形式 角（コーナーポイントで連結している部分）の形状を指定します。

マイター結合　先端が尖った角を作成します。角の長さが、線幅と角の比率をかけた長さを超えると、ベベル結合に切り替わります。
ラウンド結合 先端が丸い角を作成します。
ベベル結合 先端が面取りされた角を作成します。
注意： コーナーポイントを使用していないパスにも角の形状を指定できますが、コーナーポイントを追加するか、スムースポイントを変換してコーナーポイントを作成しないと、指定した形状は表示されません。また、角の形状は線幅を太くすると確認しやすくなります。

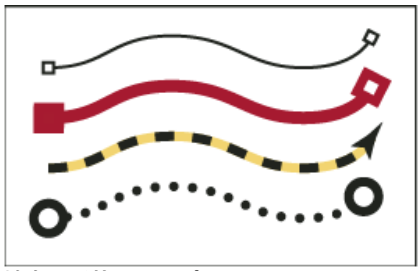
線の位置 ボタンをクリックして、パスに対する線の位置を指定します。
タイプ ポップアップメニューから線の種類を選択します。「点線」を選択すると、新たにオプションが表示されます。
始点 パスの始点での形状を選択します。
End パスの終点での形状を選択します。
間隔のカラー 線分、点、ストライプ（複数行の線）などの間に表示されるカラーを指定します。
間隔の濃淡 カラーの濃淡を指定します（間隔のカラーが設定されている場合）。
線パネルでも点線を定義できますが、カスタム線種を使用すると、点線をより簡単に作成できます。

トップへ戻る

端点形状の設定

パスの端点の形状には、次のような特性があります。

- 端点の形状を編集することはできませんが、プラグインソフトウェアを使うことで、線パネルの始点および終点ポップアップメニューに形状を追加することができます。
- 端点の形状は、線幅に比例した大きさになります。しかし、端点の形状を設定してもパスの長さは変わりません。
- 端点の形状は、端点の方向線の角度に合うように自動的に回転します。
- 端点の形状はオープンパスの端点のみに表示されます。点線の個々の点には表示されません。
- 端点の形状をオープンサブパスを含む複合パスに適用した場合、各オープンサブパスは同じ端点の形状を使用します。
- 端点の形状をクローズパスに使用することはできますが、パスをオープンにしないと端点の形状は表示されません。


端点の形状のサンプル

始点と終点の形状を使用した矢印の作成

線パネルで、始点および終点ポップアップメニューを使用して、オープンパスの端点に矢印や他の形状を設定できます。

1. 線ツールを使用して線を描画するか、オープンパスを作成します。
2. 線またはパスを選択して、線パネルを開き、始点および終点ポップアップメニューでスタイルを選択します。始点ポップアップメニューの形状はパスの始点（描画時に最初に作成したアンカーポイント）に適用され、終点ポップアップメニューの形状は終点に適用されます。

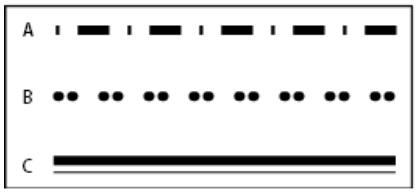
パスの端点の形状の切り替え

1. ダイレクト選択ツール を使用して、パスを選択します。
2. オブジェクト／パス／パスの反転を選択するか、パスファインダーパネルのパスの反転ボタンをクリックします。

トップへ戻る

カスタム線種の定義

線パネルを使用して、カスタム線種を作成できます。カスタム線種では、線分、点またはストライプを作成でき、線のパターン、線端の形状、角の属性を定義できます。カスタム線種をオブジェクトに適用した後で、線幅、間隔のカラー、端点の形状など他の属性を指定します。

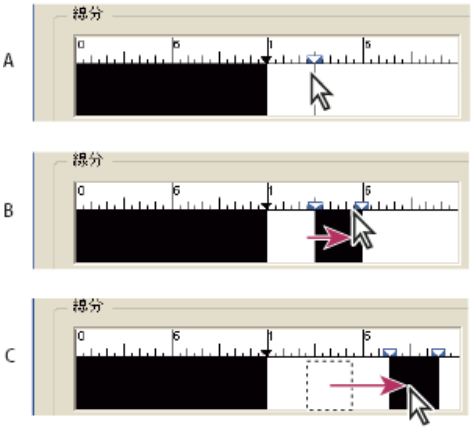


カスタム線種
A. 線分　**B.** 点　**C.** ストライプ

カスタム線種は、保存して、他の InDesign ドキュメントで読み込むことができます。

1. ウィンドウ／線を選択して、線パネルを表示します。
2. 線パネルメニューから「線種」を選択します。
3. 「新規」をクリックします。
4. 「名前」に、線種の名前を入力します。
5. 「種類」で、定義する線のタイプとして、次のいずれかを選択します。
   - 「線分」は、一定周期の間隔で繰り返す線分による点線を定義します。
   - 「ストライプ」は、2 本以上の平行する線を定義します。
   - 「点」は、一定周期の間隔で繰り返す点による点線を定義します。

   選択したタイプに合わせて、ダイアログボックスのオプションが変化します。
6. 「パターンの長さ」で、繰り返しパターンの長さを指定します。このオプションは「線分」または「点」のタイプの場合のみ指定できます。定規ボックスにある定規は、指定した長さに合うように変化します。
7. 線のパターンを定義するには、次のいずれかの操作を行います。
   - 定規をクリックして、新しい線分、点またはストライプを追加します。
   - 線分、点またはストライプをドラッグして移動します。
   - 線分の幅を調整するには、定規のマーカー を移動します。また、線分を選択してから、「始点」（定規上で線分が開始する場所）および「長さ」の値を入力して指定することもできます。
   - 点の位置を調整するには、定規のマーカー を移動します。また、点を選択してから、「中央」（点が置かれる位置の真ん中）の値を入力して指定することもできます。
   - ストライプの太さを調整するには、定規のマーカー を移動します。また、ストライプを選択してから、「始点」および「幅」（どちらも線幅に対するパーセント値で表されます）の値を入力して指定することもできます。
   - 線分、点またはストライプを削除するには、定規ボックスの外にドラッグします。ただし、カスタム線種の場合は、少なくとも 1 つの線分、点またはストライプが含まれている必要があります。



新規線種ダイアログボックスで線分を作成
A. クリックして線分をパターンに追加 **B.** マーカーをドラッグして線分を拡張 **C.** 線分をドラッグして線分間のスペースを調整

8. 異なる線幅でプレビューするには、「プレビュー」の「線幅」を使用して、線幅を指定します。
9. 線の種類が「線分」または「点」の場合に、線分や点が線の角でどのようなパターンで配置されるかを、「角」で指定します。
10. 線の種類が「線分」の場合に、「線端」で線分両端の形状を選択して、点線の形状を指定します。この設定は、線パネルの「線端の形状」の設定を上書きします。
11. 次のいずれかの操作を行います。
    - 「追加」ボタンをクリックして線種を保存してから、別の線種を定義します。「終了」をクリックしてダイアログボックスを閉じます。
    - 「OK」をクリックして線種を保存し、ダイアログボックスを閉じます。

トップへ戻る

カスタム線種の保存

カスタム線種を保存して、別の InDesign ドキュメントで使用できます。

カスタム線種の保存

1. 線パネルメニューから「線種」を選択します。

2. カスタム線種を選択して、「保存」ボタンをクリックします。
   注意： デフォルトの線種（名前が角括弧で囲まれている）を保存または編集することはできません。
3. 線種ファイル（拡張子 .inst）の名前と保存場所を指定し、「OK」をクリックします。

カスタム線種を読み込むには

1. 線パネルメニューから「線種」を選択します。
2. 「読み込み」ボタンをクリックします。
3. 読み込むカスタム線種を含む線種ファイルを選択して、「OK」をクリックします。

カスタム線種を適用するには

❖ パスまたはフレームを選択して、線パネルの種類ポップアップメニューからカスタム線種を選択します。

関連項目

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

カラー

カラーの適用

カラーの適用
カラーピッカーでのカラーの選択
最後に使用したカラーの適用
塗りまたは線のカラーの削除
ドラッグ＆ドロップを使用したカラーの適用
カラースウォッチまたはグラデーションスウォッチの適用
カラーパネルを使用したカラーの適用
カラーパネルのカラーからスウォッチを作成
カラーモードを順番に表示
Color テーマツールを使用したカラーテーマの生成
スポイトツールを使用したカラーの適用
グレースケール画像へのカラーの適用
カラーグループの追加および管理
選択したページアイテムのカラーグループの作成
ASE ファイルからのスウォッチの読み込みと保存
Color アプリケーションからのテーマの読み込み

ページの先頭へ

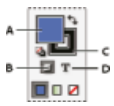
カラーの適用

Adobe InDesign には、ツールパネル、スウォッチパネル、カラーパネル、カラーピッカー、コントロールパネルなど、カラーを適用するためのツールが多数搭載されています。

カラーを適用する場合は、オブジェクトの塗りまたは線のどちらに適用するかを指定します。線はオブジェクトの境界線またはフレームであり、塗りはオブジェクトの背景です。テキストフレームにカラー適用する場合は、フォーマット設定を変更することでテキストフレームまたはテキストフレーム内のテキストのどちらにカラーを適用するかを指定します。

1. 次のいずれかの操作を行い、カラーを適用するオブジェクトを選択します。
   - パスまたはフレームにカラーを適用する場合は、必要に応じて、選択ツール またはダイレクト選択ツール を使用して選択します。
   - グレースケールまたはモノクロ（1 ビット）画像にカラーを適用する場合は、コンテンツグラバーをクリックするか、ダイレクト選択ツールを使用します。カラーを適用できる画像は、グレースケールまたはモノクロ画像の 2 つだけです。
   - テキストの文字にカラーを適用する場合は、文字ツール を使用し、フレーム内の単語またはテキスト全体を選択します。

     点線や二重線などの間隔のカラーを変更するには、線パネルを使用します。
2. ツールパネル、カラーパネル、スウォッチパネルで、「テキストのフォーマット設定に切り替え」または「オブジェクトのフォーマット設定に切り替え」アイコンを選択して、テキストにカラーを適用するか、テキストフレームにカラーを適用するかを指定します。
3. ツールパネル、カラーパネル、またはスウォッチパネルの塗りボックスまたは線ボックスで、オブジェクトの塗りまたは線を指定します。画像を選択した場合、線ボックスは使用できません。

   ツールパネルでのカラー適用方法の指定

   A. 塗りボックス ***B.*** オブジェクトのフォーマット設定に切り替え ***C.*** 線ボックス ***D.*** テキストのフォーマット設定に切り替え
4. 次のいずれかの操作を行います。
   - スウォッチパネルまたはグラデーションパネルを使用して、カラー、濃淡またはグラデーションを選択します。
   - コントロールパネルの塗りメニューまたは線メニューからカラー、濃淡またはグラデーションを選択します。

ツールパネルまたはカラーパネルの塗りボックスまたは線ボックスをダブルクリックして、カラーピッカーを表示します。カラーを選択し、「OK」をクリックします。

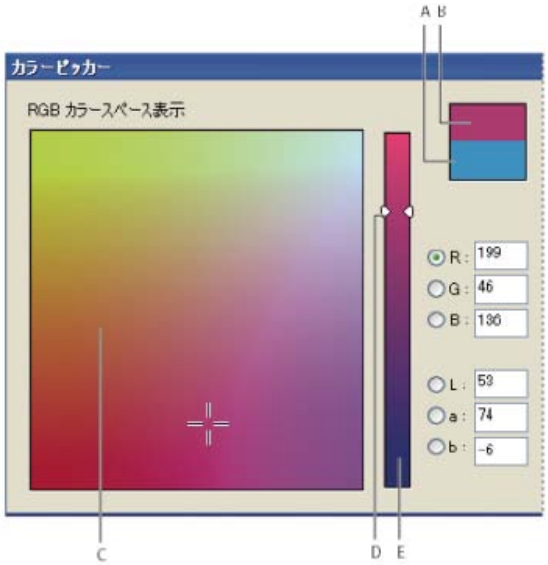
アルファチャンネルやスポットカラーチャンネルのあるグレースケール画像には、カラーを適用することはできません。また、クリッピングパスが保存されている画像にカラーを適用するには、ダイレクト選択ツールでクリップされた領域を選択してから、ツールパネルの塗りボックスをクリックし、カラーまたは濃淡を選択します。

ページの先頭へ

カラーピッカーでのカラーの選択

カラーピッカーにより、カラーフィールドからカラーを選択したり、数値でカラーを指定することができます。RGB、Lab または CMYK カラーモデルを使用してカラーを定義することができます。

1. ツールパネルまたはカラーパネルの塗りボックスまたは線ボックスをダブルクリックして、カラーピッカーを表示します。
2. カラーピッカーで表示されるカラースペクトルを変更するには、R（赤）、G（緑）、B（青）または L（輝度）、a（グリーンからレッドへの軸）、b（ブルーからイエローへの軸）をクリックします。



カラーピッカー

A. 元のカラー ***B.*** 新規カラー ***C.*** カラーフィールド ***D.*** カラースライダーの三角形 ***E.*** カラースペクトル

3. カラーを定義するには、次のいずれかの操作を行います。
   - カラーフィールドの内側をクリックまたはドラッグします。十字カーソルは、カラーフィールド内の現在の位置を示します。
   - カラースペクトルに沿ってカラースライダーの三角形をドラッグするか、カラースペクトル内をクリックします。
   - テキストボックスに値を入力します。
4. カラーをスウォッチとして保存するには、「CMYK スウォッチを追加」、「RGB スウォッチを追加」または「Lab スウォッチを追加」をクリックします。そのカラーはスウォッチパネルに追加され、そのカラー値が名前として使用されます。
5. 「OK」をクリックします。

ページの先頭へ

最後に使用したカラーの適用

ツールパネルには、最後に適用したカラーまたはグラデーションが表示されます。このカラーまたはグラデーションは、ツールパネルから直接適用することができます。

1. カラーを適用するオブジェクトまたはテキストを選択します。
2. ツールパネルで、テキストまたはオブジェクトのカラーを適用する部分に応じて、塗りボックスまたは線ボックスをクリックします。

3. ツールパネルで、次のいずれかの操作を行います。
   - スウォッチパネルまたはカラーパネルで最後に選択したカラーを適用するには、カラーを適用ボタン □ をクリックします。
   - スウォッチパネルまたはグラデーションパネルで最後に選択したグラデーションを適用するには、グラデーションを適用ボタン ■ をクリックします。
   - オブジェクトの塗りまたは線を削除するには、適用なしボタン をクリックします。

ページの先頭へ

塗りまたは線のカラーの削除

1. カラーを削除するテキストまたはオブジェクトを選択します。
2. ツールパネルで、テキストまたはオブジェクトの変更する部分に応じて、塗りボックスまたは線ボックスをクリックします。
3. 適用なしボタン をクリックして、オブジェクトの塗りまたは線を削除します。

ページの先頭へ

ドラッグ＆ドロップを使用したカラーの適用

カラーソースからオブジェクトまたはパネルへドラッグすることによって、カラーやグラデーションを簡単に適用することができます。ドラッグ＆ドロップにより、最初にオブジェクトを選択することなく、カラーまたはグラデーションをオブジェクトに適用することができます。ドラッグできるカラーソースは、次のとおりです。

- ツールパネルまたはパネルの塗りボックスまたは線ボックス
- グラデーションパネルのグラデーションボックス
- スウォッチパネルのスウォッチ
- パネル内の色域外警告アイコン ⚠ の横にある最後に使用した領域内カラースウォッチ

次のオブジェクトおよびパネルにカラーまたはグラデーションをドロップすることができます。

- パスの塗りまたは線 （塗りまたは線にカラーをドロップするには、カラーをドラッグするときに、ドラッグしたアイコンの中心を、パスの塗りまたは線の上に正確に合わせてから、マウスボタンを放します）
- スウォッチパネル

1 つ以上のスウォッチパネルのスウォッチ、または色域外警告アイコンの横にあるカラースウォッチをドラッグする場合、InDesign の別のドキュメントウィンドウにドロップして、スウォッチをそのドキュメントのスウォッチパネルに追加できます。

ページの先頭へ

カラースウォッチまたはグラデーションスウォッチの適用

1. 選択ツール を使用してテキストまたはオブジェクトのフレームを選択するか、文字ツール T を使用してテキスト範囲を選択します。
2. スウォッチパネルが表示されていない場合は、ウィンドウ／カラー／スウォッチを選択します。
3. スウォッチパネルで、塗りボックスまたは線ボックスを選択します。
4. 次のいずれかの操作を行います。
   - 選択したテキストにカラーを適用するには、テキストのフォーマット設定に切り替えボタン T をクリックします。
   - 選択したカラーをオブジェクトまたはテキストのコンテナ（フレームや表など）にカラーを適用するには、オブジェクトのフォーマット設定に切り替えボタン ■ をクリックします。
5. スウォッチパネルで、カラースウォッチまたはグラデーションスウォッチをクリックします。選択したカラーまたはグラデーションは、選択したテキストまたはオブジェクトに適用され、カラーパネルとツールパネルの塗りボックスまたは線ボックスに表示されます。

InDesign の他のデフォルト設定と同様に、デフォルトの塗りまたは線のカラーを設定することができます。編集／選択を解除を選択し、オブジェクトが選択されていないことを確認してから、カラーを選択します。

ページの先頭へ

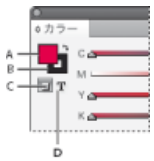
カラーパネルを使用したカラーの適用

カラー処理にはスウォッチパネルを使用することを推奨しますが、カラーパネルを使用してカラーを作成することもできます。カラーパネルで作成したカラーは、いつでもスウォッチパネルに登録することができます。カラーパネルは、名称未設定カラーの作成に非常に便利です。

注意： 指定のスウォッチが現在適用されているオブジェクトを選択し、そのカラーをカラーパネルで編集すると、そのオブジェクトのカラーだけが変更されます。ドキュメント全体に適用されているスウォッチカラーを編集するには、スウォッチパネル内でスウォッチをダブルクリックして編集するようにしてください。

塗りまたは線のカラーの編集

1. 変更するオブジェクトまたはテキストを選択します。
2. カラーパネルが表示されていない場合は、ウィンドウ／カラー／カラーを選択します。
3. カラーパネルで、塗りボックスまたは線ボックスを選択します。



カラーパネル

A. 塗りボックス ***B.*** 線ボックス ***C.*** オブジェクトのフォーマット設定に切り替え ***D.*** テキストのフォーマット設定に切り替え

4. テキストフレームを選択した場合は、オブジェクトのフォーマット設定に切り替えボタン　またはテキストのフォーマット設定に切り替えボタン　を選択して、フレーム内の塗りまたはテキストのカラーを変更します。T
5. 次のいずれかの操作を行います。
   - オブジェクトがスウォッチパネルのスウォッチを使用している場合は、デフォルトで表示される濃淡スライダーを調整します。
   - カラーパネルメニューから Lab、CMYK または RGB カラーモデルを選択し、スライダーを使用してカラー値を変更します。カラースライダーの横にあるテキストボックスに数値を入力することもできます。
   - カラーバー上にポインターを置き、クリックします。
   - 塗りボックスまたは線ボックスをダブルクリックし、カラーピッカーからカラーを選択します。「OK」をクリックします。
6. 色域外警告アイコン　が表示された場合、最初に指定したカラーに最も近い CMYK カラー値を使用するには、色域外警告アイコンの横にある小さなカラーボックスをクリックします。⚠

ページの先頭へ

カラーパネルのカラーからスウォッチを作成

1. カラーパネルで、アクティブになっている塗りボックスまたは線ボックスに、追加したいカラーが表示されていることを確認します。
2. カラーパネルメニューから「スウォッチに追加」を選択します。

ページの先頭へ

カラーモードを順番に表示

- 次のいずれかの操作を行います。
  - カラーパネルで、Shift キーを押しながらパネルの下部にあるカラーバーをクリックします。
  - 新規カラースウォッチダイアログボックスまたはスウォッチ設定ダイアログボックスで、Shift キーを押しながらカラーボックスをクリックします。

- 新規グラデーションスウォッチダイアログボックスまたはグラデーションオプションダイアログボックスで、「グラデーション配置」から「グラデーション停止」を選択し、ストップカラーポップアップメニューから「RGB」、「Lab」または「CMYK」を選択するか、Shift キーを押しながらカラーボックスをクリックします。

ページの先頭へ

Color テーマツールを使用したカラーテーマの生成

InDesign ドキュメントで選択した領域、画像またはオブジェクトからカラーテーマを抽出できます。また、画像、画像全体またはレイアウト全体からカラーを選択することもできます。基本的には、アートワーク内の任意のカラーからのカラーテーマを生成できます。Color テーマツールを使用して、単一のカラーまたはテーマを選択し、スウォッチパネルにカラーテーマを追加します。

これらのカラーをレイアウトに追加したり、スウォッチパネルに追加したりします。これらのカラーを Adobe Color アプリケーションに保存して、Adobe の他のデスクトップアプリケーションやモバイルアプリで利用できます。

1. ツールパネルで Color テーマツールをクリックします。ショートカット「I」を使用して、Color テーマツールと Eyedropper ツールを切り替えることができます。



Color テーマツール

2. レイアウトの任意の部分をクリックして、カラーを選択します。Adobe Photoshop、Illustrator、その他のファイルに配置されたアートワークのカラーを利用することもできます。

   カラーは、テーマツールを使用していったん選択すると保持されます。カラーを選択してから、ツールを切り替えてオブジェクトの描画などの他の操作を実行した後で Color テーマツールを再度選択した場合、前に選択したテーマが保持されます。Esc キーを押してパネルを閉じない限り、選択したテーマは保持され、再利用することができます。Esc キーを押すと、すべてが消去されます。

3. マウスを動かして、InDesign によって自動的にマークが付けられた領域を観察します。これらの領域から、カラーテーマを作成できます。セクションをクリックすると、InDesign によってカラーテーマが作成されます。

4. カラーテーマは、5 つの異なるカラーで構成されます。フライアウトメニューをクリックして、生成された他のカラーの選択肢を表示します。

5. 

Color テーマツール - オプション

A. クリックすると、すべてのテーマが表示されます。 ***B.*** スウォッチに現在のカラーテーマを追加します。 ***C.*** *Adobe Color* にアップロードします。

   カラーテーマは、5 つの異なるカラーで構成されます。フライアウトメニュー（画像の A）をクリックして、同じカラーテーマで生成されたその他のテーマ選択肢（カラフル、明るい、深い、落ち着いたなど）を表示します。

   生成されたカラーテーマが気に入らない場合は、Esc キーを押してもう一度やりなおすか、Alt キーを押して一時的に選択モードに切り替え、新たにテーマを収集します。

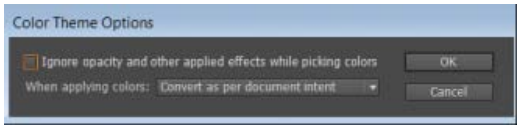
   単色（精密な）カラーをShift キーを押しながらクリックして、テーマの基本カラーとして選択します。カラーテーマは Adobe Color のルール（類似色、モノクロマティック、トライアド、補色、複合色、暗清色）に基づいて生成されます。

6. Color テーマツールで単色をクリックすると、カラーを適用できます。ページアイテムまでマウスを動かします。半分満たされたスポイトが表示されるので、クリックして塗りやストロークを変更できます。

   マウスをテキストの上に移動すると、スポイトがテキストに変わります。Color テーマツールから生成されたカラーをテキストに適用できます。

7. Color テーマツールをダブルクリックします。カラーを選択してスウォッチに追加すると、カラーはドキュメントのインテントに従って自動的に適切なカラースペースに変換されてから、スウォッチに追加または他のオブジェクトにドロップされます。選択肢として 3 つのオプションが提供されます。

   a. ドキュメントのインテントに従って変換
   b. CMYK に変換
   c. RGB に変換



カラーテーマオプション

8. 

Color テーマツール - オプション

A. クリックすると、すべてのテーマが表示されます。 ***B.*** スウォッチに現在のカラーテーマを追加します。 ***C.*** *Adobe Color* にアップロードします。

B をクリックして、これらのカラーをスウォッチパネルに追加します。カラーテーマは、フォルダーとしてスウォッチパネルに追加されます。

スウォッチパネルに特定のカラーを追加するには、Alt キーを押し、「現在のカラーテーマをスウォッチに追加」ボタンをクリックします。

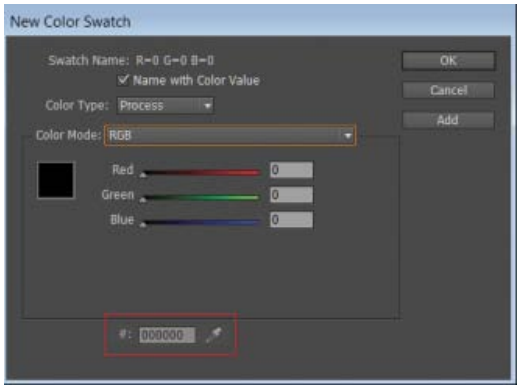
9. 

カラーテーマ

このボタンをクリックすると、パネル上で選択されたテーマが、Cloud／Adobe Color（xKuler）／マイテーマにアップロードされます。その後、Adobe Color にログインして、テーマをオンラインで編集またはパブリッシュしたり、後でドキュメントにダウンロードしたりすることができます。

10. カラーピッカーの新規スウォッチおよびスウォッチの編集ワークフローで、16 進数の RGB コードを使用してカラー値を適用できます。また、16 進数 RGB コードを使用してカラー値を適用することもできます。16 進数のカラー値は、次の 3 つの方法で適用できます。

- 新規スウォッチのカラーピッカーを使用：スウォッチパネルからフライアウトメニューをクリックして展開し、新規カラースウォッチを選択します。新規カラースウォッチダイアログ内で、カラーモードから「RGB」を選択します。
  スクリーングラバーをクリックして、マウスボタンを押したまま画面上の任意の場所をクリックし、任意のソースから 16 進数のカラー値を表示します。「追加」をクリックしてカラースウォッチを追加します。



新規スウォッチ - *16* 進値

- スウォッチを編集：スウォッチを編集して、その 16 進値を変更することもできます。スウォッチをダブルクリックして、「カラーモード」ドロップダウンから「RGB」を選択します。
- カラープロキシ：ツールパネルでカラープロキシをダブルクリックします。ここから 16 進値を選択できます。

ページの先頭へ

スポイトツールを使用したカラーの適用

InDesign ドキュメント内の任意のオブジェクト（配置したグラフィックも含む）から、スポイトツール を使用して、カラーなどの塗りや線の属性をコピーすることが可能です。デフォルトでは、スポイトツールにより、オブジェクトで使用できるすべての塗りおよび線の属性が読み込まれます。そして、新しく作成したオブジェクトにこれらの設定をコピーすることができます。また、スポイトツールオプションダイアログボックスを使用して、スポイトツールがコピーする属性を変更することもできます。その他にも、スポイトツールで文字属性や段落属性、文字組みや禁則処理、透明度設定など様々な属性をコピーすることが可能です。

注意： スポイトツールオプションダイアログボックスに表示されていない属性は、スポイトツールを使用してコピーすることはできません。

スポイトツールを使用したカラーの適用

1. 変更する塗りおよび線の属性を持つ、1 つ以上のオブジェクトを選択します。
2. スポイトツール を選択します。
3. コピーする塗りおよび線の属性を持つオブジェクトをクリックします。属性を読み込んだスポイトツール が表示され、選択したオブジェクトが、クリックしたオブジェクトの塗りおよび線の属性で自動的に更新されます。
4. 他のオブジェクトも同じ属性に変更するには、属性を読み込んだスポイトツールでオブジェクトをクリックします。コピー元のオブジェクトが塗りなしで線の属性しか持っていない場合、オブジェクトのアウトラインをクリックします。

属性を読み込んだスポイトツールでの新しい属性のピックアップ

1. スポイトツール に属性が読み込まれた状態で Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押します。スポイトツールの向きが反対になり、空 になります。これは新しい属性をピックアップする準備ができていることを示します。
2. 読み込む属性を持つオブジェクトを Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押しながらクリックし、キーを放すと、スポイトツールは新しい属性を読み込んだ状態になり、その属性を他のオブジェクトにコピーすることができるようになります。

スポイトツールの設定の変更

1. ツールパネルで、スポイトツール をダブルクリックします。
2. スポイトツールでコピーする「塗り設定」と「線設定」の属性を選択して、「OK」をクリックします。

   オブジェクトの塗りまたは線のカラーだけをピックアップするには、*Shift* キーを押しながらスポイトツールでオブジェクトをクリックします。他のオブジェクトにカラーを適用する場合は、ツールバーで塗りまたは線のどちらが選択されているかに応じて、塗りまたは線のカラーのどちらかが適用されます。

ページの先頭へ

グレースケール画像へのカラーの適用

InDesign で配置したグレースケール画像にカラーを追加できます。

PSD 形式の画像には複数のレイヤーを含めることができますが、一番下のレイヤーは不透明である必要があります。InDesign では、透明な背景の PSD 画像にカラーを適用することはできません。さらに、グレースケール画像にはアルファチャンネルや特色チャンネルを含めることはできません。

1. 画像がグレースケール画像またはビットマップ画像として保存されており、PSD、TIFF、BMP または JPG 形式で保存されていることを確認します。

   Photoshop で、イメージ／モード／ビットマップまたはイメージ／モード／グレースケールを選択します。
2. コンテンツグラバーをクリックするか、ダイレクト選択ツール を使用して画像を選択します。
3. スウォッチパネルまたはカラーパネルからカラーを選択します。

ページの先頭へ

カラーグループの追加および管理

カラーグループを使用すると、カラースキームを整理して、頻繁に使用されるカラースウォッチをアプリケーション間で交換することができます。カラーグループは次の用途で役立ちます。

- カラースウォッチを整理する。
- Illustrator のプロジェクトからカラーグループを読み込む。

カラーグループの追加

1. カラーグループを作成するには、スウォッチパネルでカラーグループアイコンをクリックします。代わりに、フライアウトメニューやコンテキストメニューからカラーグループを作成することもできます。



新規カラーグループ

2.
   - カラーグループの名前を入力します。
   - 次のオプションを選択してカラーグループのスキームを作成します。
     - 選択したスウォッチ：作成時にスウォッチをカラーグループに移動する場合は、このオプションを選択します。Ctrl キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押しながら複数のカラースウォッチを選択し、「新規カラーグループ」オプションを選択します。スウォッチを選択しない場合は、空のカラーグループが作成されます。
     - 選択したページアイテム：選択したページアイテムまたはアートワークのスウォッチが、作成したカラーグループに追加されます。このオプションは、アートワークを選択するとデフォルトで選択されています。

   注意： 作成時にカラーグループの名前を指定する場合は、いずれかのオプションを使用するか、*Alt* キー（*Windows*）または *Option* キー（*Mac OS*）を押しながら新規カラーグループボタンをクリックします。

3. 作成したカラーグループには、ルートや他のカラーグループから複数のスウォッチをドラッグ＆ドロップすることができます。

4. カラースウォッチを右クリックしてその他のオプションを確認します。カラーグループビューに切り替えると、効率的に作業できます。パネル下部のフィルターアイコンをクリックし、カラーグループを表示を選択します。これにより、カラーグループの作業効率が上がります。このビューにはルートのスウォッチやグラデーションは表示されません。



カラーグループを表示

カラーグループを管理する各種操作

次の操作を実行してカラーグループを管理します。

- カラーグループにスウォッチを追加する：カラーグループを選択します。 スウォッチを選択し、カラーグループ内にドラッグ＆ドロップします。

- カラーグループを複製する：コンテキストメニューやフライアウトから複製できます。カラーグループを右クリックし、カラーグループを複製を選択します。カラーグループ内のすべてのスウォッチがカラーグループとともに複製されます。混乱を避けるために、異なるカラーグループのスウォッチは同じ名前では作成されません。
- カラーグループを解除する：コンテキストメニューやフライアウトからグループを解除できます。カラーグループを右クリックし、カラーグループを解除を選択します。グループ解除時に、カラーグループ内のすべてのスウォッチはルート、すなわちカラーグループの外に移動します。
- カラーグループ名を変更する：カラーグループの名前は、コンテキストメニューかフライアウトメニューのカラーグループオプションで変更できます。カラーグループの名前を編集するグループをダブルクリックします。カラーグループはインラインで編集することもできます。
- カラーグループを削除する：カラーグループを選択し、右クリックしてカラーグループを削除を選択します。または、カラーグループを選択し、フライアウトメニューからカラーグループを削除を選択します。

注意： カラーグループを削除すると、カラーグループ内のすべてのスウォッチが削除されます。

ページの先頭へ

選択したページアイテムのカラーグループの作成

ドキュメントのページアイテムのアートワークを選択し、そのページアイテムのスウォッチからカラーグループを作成できます。ページアイテムからスウォッチをカラーグループに追加できます。

1. ドキュメントのページアイテムを選択します。
2. パネルメニューまたはコンテキストメニューから、新規カラーグループを選択します。
3. 新規カラーグループダイアログボックスで、選択したページアイテムを選択します。スウォッチパネルで複数のスウォッチが選択されている場合は、「選択したスウォッチ」がデフォルトで選択されています。
4. カラーグループは、リスト表示（名前で表示、小さく表示）やグリッド表示（スウォッチ (小)、スウォッチ (大)）などのあらゆる表示で機能します。作成、スウォッチのドラッグ、カラーグループなどのすべての操作は、スウォッチパネルのあらゆる表示について実行できます。

ページの先頭へ

ASE ファイルからのスウォッチの読み込みと保存

.ASE ファイルは、Adobe Illustrator などのアプリケーションでカラースウォッチの読み込みと書き出しを行う際に役立ちます。.ase ファイルを読み込んで、スウォッチパネルにカラーグループを取り込むことができます。カラーグループはスウォッチフライアウトから .ase ファイルとして保存することもできます。同様に、Illustrator で保存されたカラーグループを InDesign に読み込むこともできます。

スウォッチの読み込み

1. スウォッチパネルのメニューから、「スウォッチの読み込み」を選択します。
2. 保存された .ase ファイルを選択します。「開く」をクリックします。

スウォッチの保存

カラースウォッチやカラーグループを .ase ファイルとして保存できます。

1. カラーグループまたはスウォッチを選択します。
2. フライアウトメニューから、「スウォッチを保存」を選択します。
3. .ase ファイルの名前を入力します。「保存」をクリックします。

ページの先頭へ

Color アプリケーションからのテーマの読み込み

InDesign では、Color パネルのテーマをカラーグループとしてスウォッチパネルに追加できます。これらのテーマは、そのテーマの名前でカラー

グループとして作成されます。

1. ウィンドウ／カラーを選択します。
2. 参照ウィンドウで、テーマを選択します。

   InDesign にテーマを書き出すには、次のいずれかの操作を実行します。

   - テーマの横にある矢印をクリックし、「スウォッチパネルに追加」を選択します。
   - 「選択したテーマを追加」アイコンをクリックして、テーマをスウォッチパネルに読み込みます。



スウォッチの追加アイコン／オプション

3. または、Color の「作成」タブに移動し、ルールを選択でルールを選択して、このテーマをスウォッチに追加アイコンをクリックします。



テーマをスウォッチに追加メニュー

以前の動作のサポート

カラーグループ情報を含む .idml ファイルを前のバージョンで開いた場合、前のバージョンではカラーグループを使用できないので、スウォッチパネルにはカラーグループがないフラットなスウォッチリストが表示されます。

(cc) BY-NC-SR Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

スウォッチを使用した作業

スウォッチパネルの概要
カラースウォッチの作成
スウォッチの管理
スウォッチの読み込み

トップへ戻る

スウォッチパネルの概要

スウォッチパネル（ウィンドウ／カラー／スウォッチを選択）では、カラー、グラデーションまたは濃淡を作成し、ドキュメントにすばやく適用することができます。段落スタイルや文字スタイルと同様に、スウォッチを変更すると、そのカラーを使用するすべてのオブジェクトのカラーが更新されます。スウォッチにより、個々のオブジェクトを指定することなく簡単に配色を修正することができます。

選択したテキストまたはオブジェクトの塗りまたは線にスウォッチパネルから適用したカラーまたはグラデーションが含まれている場合は、スウォッチパネル上で、適用されているスウォッチがハイライト表示されます。スウォッチを作成すると、それは現在のドキュメントに関連付けられます。そのため、スウォッチパネルに保存されているスウォッチは、ドキュメントごとに異なります。

> 印刷・出力会社と共同で作業を進める場合、スウォッチにより特色を明確に指定することができます。また、プリフライトプロファイルにカラー設定を指定して、使用するプリンターに対してどのカラー設定を利用するかを決定することもできます。

デフォルトのスウォッチパネルには、CMYK カラー値で定義された 6 色（シアン、マゼンタ、イエロー、赤、緑、青）が表示されています。

注意： 矛盾するスウォッチがドキュメントに含まれているブックを印刷する場合、InDesign では、マスタードキュメントに合わせて設定を同期させるように指定することができます（詳しくは、ブックドキュメントの同期を参照してください）。

スウォッチの種類

スウォッチパネルには、次の種類のスウォッチが含まれています。

カラー スウォッチパネルのアイコンは、特色 とプロセスカラー の各カラータイプや、LAB 、RGB 、または CMYK 、混合インキ の各カラーモードを識別します。
濃淡 スウォッチパネル内のスウォッチ名の横に表示されるパーセント値は、特色またはプロセスカラーの濃淡を示しています。
グラデーション スウォッチパネル上にあるアイコンは、円 か直線 のグラデーションを示しています。
なし なしスウォッチを選択すると、オブジェクトから線や塗りが削除されます。このスウォッチを編集または削除することはできません。
紙色 紙色は、印刷に使用する用紙のカラーをシミュレートするためのスウォッチです。紙色を設定したオブジェクトの背面にあるオブジェクトの、紙色を設定したオブジェクトと重なる部分は印刷されません。そのため、印刷に使用した用紙の色がそのまま見えることになります。スウォッチパネルの紙色スウォッチをダブルクリックして、使用する用紙の色に合わせて紙色のカラーを編集することもできます。なお、紙色はプレビュー専用で、コンポジットプリンター（色校正やカンプ作成用の一般的なカラープリンター）や色分解出力では、実際に印刷されることはありません。このスウォッチは削除できません。オブジェクトからカラーを削除するのに紙色スウォッチを適用しないでください。代わりに「なし」スウォッチを使用してください。
注意： ポストスクリプトプリンター以外で印刷を行う際に紙色カラーが説明通りに機能しない場合は、プリンタードライバーをラスタグラフィックモードに切り替えて印刷してみてください。
黒 黒は、CMYK 値の黒（K）を 100 %としてあらかじめ定義されているプロセスカラーです。このスウォッチを編集または削除することはできません。デフォルトでは、黒を適用した、あらゆるサイズのテキストは、オーバープリント（下地インキの上へ重ねて印刷）に設定されます。この動作は無効にすることができます。
レジストレーション レジストレーション は、PostScript プリンター（イメージセッタなど）での色分解出力時に、各版すべてにオブジェクトを印刷するために使用するカラーとして定義されているスウォッチです。例えば、レジストレーションマークにレジストレーションカラーを使用すると、印刷版を印刷機に正確に配置することができます。このスウォッチを編集または削除することはできません。
カラーライブラリにある任意のカラーをスウォッチパネルに登録して、ドキュメントに保存することもできます。

スウォッチの表示のカスタマイズ

スウォッチのサイズとスウォッチ名の表示方法を設定することができます。

1. スウォッチパネルメニューから、次のいずれかの操作を行います。
   - 「名前で表示」を選択した場合、小さなスウォッチの右横にスウォッチ名が表示されます。名前の右側のアイコンは、カラーモデル（CMYK や RGB など）と、そのカラーが特色、プロセスカラー、レジストレーションカラー、なしのいずれであるかを示します。
   - 「小さく表示」を選択した場合、スウォッチパネルの行が全体的に小さく表示されます。
   - 「小さいスウォッチ」または「大きいスウォッチ」を選択した場合、スウォッチのみが表示されます。スウォッチの右下隅に表示されるドット付きの三角形は、そのカラーが特色であることを示します。ドットのない三角形は、プロセスカラーを示します。
2. スウォッチの表示方法を設定するには、スウォッチパネルの下部にある、次のボタンのいずれかをクリックします。

- すべてのスウォッチを表示ボタン は、カラー、濃淡、グラデーションといったすべてのスウォッチを表示します。
- カラースウォッチを表示ボタン は、プロセスカラー、特色、混合インキカラーおよび濃淡スウォッチのみを表示します。
- グラデーションスウォッチを表示ボタン は、グラデーションスウォッチのみを表示します。

注意： どのボタンをクリックしても、「なし」スウォッチは必ず表示されます。

トップへ戻る

カラースウォッチの作成

スウォッチには特色、プロセスカラー、混合インキ（1 つまたは複数の特色と混合したプロセスカラー）、RGB、Lab、グラデーション、濃淡などのカラーを定義することができます。

特色を含む画像を配置すると、そのカラーは自動的にスウォッチとしてスウォッチパネルに追加されます。これらのスウォッチをドキュメント上でオブジェクトに適用することもできますが、再定義したり削除することはできません。

スウォッチを作成する前に、印刷・出力会社に対してどの設定が適切なのかを理解します。プリフライトプロファイルのカラー設定を指定して、使用しているプリンターとは動作しないカラー設定をハイライト表示にすることもできます。

新規カラースウォッチの作成

1. スウォッチパネルメニューから「新規カラースウォッチ」を選択します。
2. 「カラータイプ」で、印刷に使用するドキュメントカラーの形式を選択します。
3. 「スウォッチ名」で、次のいずれかの操作を行います。
   - カラータイプとして「プロセス」を選択し、スウォッチ名としてカラー値を表示する場合は、「カラー値を持つ名前」を選択します。
   - カラータイプとして「プロセス」を選択し、そのスウォッチ名を自分で付ける場合は、「カラー値を持つ名前」の選択を解除し、スウォッチ名を入力します。
   - 「特色」を選択した場合は、スウォッチ名を入力します。
4. 「カラーモード」で、カラー値を設定するためのカラーモードを選択します。カラーを設定した後にカラーモードを変更することもできますが、カラーが変更されてしまう可能性がありますので、カラーモードの変更はしないようにした方がよいでしょう。
5. 次のいずれかの操作を行います。
   - スライダーをドラッグして、カラー値を変更します。カラースライダーの横にあるテキストボックスに数値を入力することもできます。
   - 特色を選択したい場合は、「カラーモード」からスウォッチライブラリを選択します。
6. 色域外警告アイコン が表示された場合、最初に指定したカラーに最も近い色域のカラー値を使用するには、色域外警告アイコンの下にある小さなカラーボックスをクリックします。
7. 次のいずれかの操作を行います。
   - 設定したスウォッチを追加し、他のスウォッチを定義するには、「追加」をクリックします。追加を終了するには、「終了」をクリックします。
   - スウォッチを追加し、ダイアログボックスを閉じるには、「OK」をクリックします。

スウォッチパネルの新規スウォッチボタンを使用して、選択されているオブジェクトのカラーを直接特色として定義するには、他のスウォッチが選択されていないことを確認し、Alt+Ctrl キー（Windows）または Option+Command キー（Macintosh）を押しながら、新規スウォッチボタン をクリックします。

オブジェクトのカラーに基づくスウォッチの作成

1. オブジェクトを選択します。
2. ツールパネルまたはスウォッチパネルで、塗りボックスまたは線ボックスを選択します。
3. スウォッチパネルで、次のいずれかの操作を行います。
   - 新規スウォッチボタンをクリックし、新たに作成されたスウォッチをダブルクリックします。
   - スウォッチパネルメニューから「新規カラースウォッチ」を選択します。

選択したカラーまたはグラデーションが、スウォッチパネル、ツールパネルの塗りボックスまたは線ボックスに表示され、選択したすべてのオブジェクトの塗りまたは線に適用されます。

スウォッチパネルへの名称未設定カラーの追加

カラーパネルまたはカラーピッカーを使用してカラーを作成することはできますが、名称未設定カラーは後で編集したり、一貫して使用することが困難です。「名称未設定カラーを追加」オプションを使用して、ドキュメント内のオブジェクトに適用する名称未設定カラーを検索し、スウォッチパネルに追加します。追加されたカラーは、自動的に CMYK、RGB または Lab カラーの構成値に基づいて名前が付けられます。

❖ スウォッチパネルから「名称未設定カラーを追加」を選択します。

トップへ戻る

スウォッチの管理

スウォッチパネルでスウォッチの編集、複製、削除を行うことができます。

スウォッチパネルでのデフォルトカラーの編集

新規ドキュメントでデフォルトで表示されるスウォッチを変更することができます。

1. 開いているすべてのドキュメントを閉じます。
2. スウォッチパネルでスウォッチを編集します。

スウォッチの複製

スウォッチの複製は、既存のカラーの暖色系や寒色系といった、系統の似たカラーを作成するときなどに便利です。ただし、特色を複製して系統の似たカラーを作成し、オブジェクトに適用すると、色は似ていても、別の版となるため、特色印刷版が 1 版増えることになりますので、注意してください。

❖ 次のいずれかの操作を行います。

- スウォッチを選択し、スウォッチパネルメニューから「スウォッチを複製」を選択します。
- スウォッチを選択し、パネルの下部にある新規スウォッチボタン をクリックします。
- スウォッチをパネルの下部にある新規スウォッチボタンまでドラッグします。

スウォッチの編集

スウォッチ設定ダイアログボックスを使用して、スウォッチの個々の属性を変更することができます。追加オプションは、混合インキスウォッチまたは混合インキグループを編集する際に表示されます。

1. スウォッチパネルで編集するスウォッチを選択し、次のいずれかの操作を行います。
   - スウォッチをダブルクリックします。
   - スウォッチパネルメニューから「スウォッチ設定」を選択します。
2. 必要に応じて設定を変更し、「OK」をクリックします。

スウォッチ名の設定

デフォルトでは、プロセスカラースウォッチの名前は、そのカラー値に基づいて付けられます。例えば、シアン 10 %、マゼンタ 100 %、イエロー 100 %、黒 0 %を使用して赤のプロセスカラーを作成した場合、スウォッチの名前はデフォルトで C=10 M=100 Y=100 K=0 となります。この名前は、プロセスカラーのカラー値を把握しやすいという利点があります。

デフォルトでは、プロセスカラーのスウォッチ名は CMYK 値を変更すると、自動的に更新されるようになっています。必要に応じて、スウォッチごとにこの設定を切り替えて、自分で名前を付けたスウォッチと同様に、名前を付けたり、名前を変更することも可能です。

1. スウォッチパネルで、プロセスカラーをダブルクリックします。
2. 次のいずれかの操作を行い、「OK」をクリックします。
   - CMYK の割合を調整するときにスウォッチ名を自動的に更新されるようにするには、「カラー値を持つ名前」オプションを選択します。
   - CMYK 値を調整するときにスウォッチの名前を変更するには、「カラー値を持つ名前」オプションの選択を解除します。

注意： 「カラー値を持つ名前」オプションの選択を解除し、名前を付けずに新しいスウォッチを作成すると、「新規カラースウォッチ」と言う名前が自動的に付けられます。既に「新規カラースウォッチ」という名前のスウォッチがある場合、その後に作成されるスウォッチ名には、名前の後に続きの番号が付けられます。この名前は、手動で変更できます。

個々のスウォッチの削除

ドキュメント上でオブジェクトに既に適用されているスウォッチを削除すると、スウォッチの置き換え方法を確認するメッセージが表示されます。既存のスウォッチに置き換えるか、名前のないスウォッチに置き換えるかを指定できます。濃淡または混合インキのベースとして使用されているスウォッチを削除すると、置き換えを確認するメッセージが表示されます。

1. 1 つまたは複数のスウォッチを選択します。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - スウォッチパネルメニューから「スウォッチを削除」を選択します。
   - スウォッチパネルの下部にある削除アイコンをクリックします。

     注意： ドキュメント内に配置したグラフィックに使用されている特色は削除することができません。この特色を削除するには、グラフィック自体を最初に削除する必要があります。ただし、グラフィックを削除しても、特色を削除できない場合がまれにあります。そのような場合は、ファイル／書き出しを使用して InDesign Markup（IDML）ファイルを作成します。次に、そのファイルを InDesign で再度開きます。
3. 削除するスウォッチが適用されているオブジェクトのカラーを置き換える方法を確認するメッセージが表示されます。次のいずれかの操作を行い、「OK」をクリックします。

- 削除するスウォッチが適用されているすべてのオブジェクトのカラーを別のスウォッチと置き換えるには、「定義されたスウォッチ」を選択し、メニューから置き換えるスウォッチを選択します。
- 削除するスウォッチが適用されているすべてのオブジェクトのカラーを同じカラー値の名称未設定カラーに置き換えるには、「名前なしスウォッチ」をクリックします。

未使用のスウォッチの削除

1. スウォッチパネルメニューから「未使用をすべて選択」を選択します。現在のファイルで使用していないスウォッチがすべて選択されます。
2. 削除アイコンをクリックします。

スウォッチの結合

他のドキュメントからスウォッチを読み込んだり、アイテムをコピーした場合、同名のスウォッチがあるとスウォッチが複製され、異なるスウォッチとしてオブジェクトに適用してしまう可能性があります。「スウォッチを結合」コマンドを使って、複製されたスウォッチを結合することにより、ミスを防ぐことができます。

1. スウォッチパネルで、2 つ以上の複製スウォッチを選択します。

   最初に選択したスウォッチが残り、結合先となります。

2. スウォッチパネルメニューから「スウォッチを結合」を選択します。

スウォッチを保存して他のドキュメントで使用

カラースウォッチを他のファイルで使用したり、他のデザイナーと共有するには、スウォッチを Adobe Swatch Exchange（.ase）ファイルに保存します。InDesign では、Illustrator および Adobe Photoshop と同様に、ColorBook ファイルからスウォッチを読み込むことができます。

1. スウォッチパネルで、保存するスウォッチを選択します。
2. スウォッチパネルメニューから「スウォッチを保存」を選択します。
3. ファイルの名前と保存場所を指定し、「保存」をクリックします。

アプリケーション間でのスウォッチの共有

Photoshop、Illustrator および InDesign で作成したソリッドのスウォッチは、交換用にスウォッチライブラリを保存すると共有できます。カラー設定が同期されていれば、アプリケーション間でまったく同じ色が再現されます。

1. スウォッチパネルでは、共有するプロセスカラーや特色を作成したり、共有する必要がないスウォッチを削除したりすることができます。
   注意： アプリケーション間で共有できないスウォッチのタイプとしては、Illustrator または InDesign のパターン、グラデーション、混合インキ、濃淡およびレジストレーションのほか、Photoshop のカラーブック、HSB、XYZ、ダブルトーン、モニター RGB、不透明度、インキの総使用量および webRGB があります。スウォッチを保存すると、これらのタイプのスウォッチは自動的に除外されます。
2. スウォッチパネルメニューから「スウォッチを保存」を選択し、容易にアクセスできる場所にスウォッチライブラリを保存します。
3. Photoshop、Illustrator または InDesign のスウォッチパネルにスウォッチライブラリを読み込みます。

トップへ戻る

スウォッチの読み込み

他のドキュメントからカラーおよびグラデーションを読み込んで、スウォッチのすべてまたは一部をスウォッチパネルに追加することができます。スウォッチは、InDesign ファイル（.indd）、InDesign テンプレート（.indt）、Illustrator ファイル（.ai または .eps）および InDesign、Illustrator、または Photoshop で作成された Adobe Swatch Exchange files（.ase）から読み込むことができます。Adobe Swatch Exchange ファイルには、Adobe Swatch Exchange 形式で保存されたスウォッチが含まれています。

InDesign には、PANTONE Process Color System® など、他のカラーシステムのカラーライブラリも含まれています。

注意： 読み込んだ EPS、PDF、TIFF、Adobe Photoshop（PSD）ファイルに使用されている特色もまたスウォッチパネルに追加されます。

ファイルからの特定のスウォッチの読み込み

1. スウォッチパネルメニューから「新規カラースウォッチ」を選択します。
2. カラーモードポップアップメニューから「その他のライブラリ」を選択して、スウォッチの読み込み元のファイルを選択します。
3. 「開く」をクリックします。
4. 読み込むスウォッチを選択します。
5. 「OK」をクリックします。

ファイルからのすべてのスウォッチの読み込み

1. スウォッチパネルメニューから「スウォッチの読み込み」を選択します。
2. InDesign ドキュメントを選択し、「OK」をクリックします。

InDesign ドキュメント間でのスウォッチのコピー

他のドキュメントにスウォッチ（またはスウォッチが適用されたオブジェクト）をコピーまたはドラッグすることができます。これを実行すると、スウォッチはコピー先のドキュメントのスウォッチパネルに追加されます。スウォッチの濃淡およびグラデーションもコピーする場合は、スウォッチだけではなく、スウォッチが適用されている元のオブジェクトをコピーする必要があります。

❖ 次のいずれかの操作を行います。

- ドラッグ＆ドロップまたはコピー＆ペーストを使用して、現在のドキュメントにオブジェクトをコピーします。
- コピーするスウォッチを選択し、スウォッチパネルから他の InDesign ドキュメントのドキュメントウィンドウまでドラッグします。

  注意： 既存のスウォッチと名前が同じで（大文字小文字の区別あり）カラー値が異なるスウォッチをドラッグすると、InDesign はそのスウォッチの名前を「[元のスウォッチ名] 2」に変更します。

定義済みのカスタムカラーライブラリからのスウォッチの読み込み

PANTONE Process カラーシステム、Toyo™ Ink Electronic Color Finder™ 1050、Focoltone® カラーシステム、Trumatch™ カラースウォッチシステム、DIC プロセスカラーノート、その他 Web 専用に作成されたライブラリなど、様々なカラーライブラリからカラーを選択することができます。カラーマッチングシステムからスウォッチを使用する前に、サポートされているライブラリについて印刷・出力会社にお問い合わせください。

1. スウォッチパネルメニューから「新規カラースウォッチ」を選択します。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - カラーモードポップアップメニューからライブラリファイルを選択します。
   - カラーモードポップアップメニューから「その他のライブラリ」を選択し、ライブラリファイルを選択して「開く」をクリックします。
3. ライブラリから 1 つまたは複数のスウォッチを選択し、「追加」をクリックします（スウォッチを追加しないでダイアログボックスを閉じるには、「OK」をクリックします）。
4. スウォッチの追加が終了したら、「終了」をクリックします。

InDesign によりインストールされるカラーライブラリ

ここで説明するカラーマッチングシステム用のカラーライブラリは、InDesign によりインストールされます。InDesign では、他のカラーライブラリをインストールし、インストールしたカラーライブラリからスウォッチを読み込むことができます。

ANPA カラー ANPA（American Newspaper Publishers Association）により選定された 300 色で構成されています。このライブラリのカラーは、主に新聞の特色に使用されます。

DIC Color Guide 『DIC プロセスカラーノート』から 1280 色の CMYK 特色を提供します。カラーは、大日本インキ化学工業株式会社発行の『DIC カラーガイド』に対応しています。このカラーガイドの色見本は、印刷業者や画材店で入手することができます。詳しくは、東京の大日本インキ化学工業株式会社にお問い合わせください。

FOCOLTONE 763 色の CMYK カラーで構成されています。FOCOLTONE カラーを使用すると、オーバープリントを示す FOCOLTONE チャートを使用することができるので、製版のトラッピングやレジストレーションの問題を回避することができます。

プロセスカラーと特色の仕様を記載したスウォッチブック、オーバープリントチャート、レイアウトを構成するチップブックが Focoltone 社から発行されています。詳しくは、イギリスのスタッフォードの Focoltone International, Ltd. にお問い合わせください。

HKS ヨーロッパで使用されているカラーシステムです。印刷時に指定された場合のみ、この HKS カラーシステムを使用することをお勧めします。

PANTONE® PANTONE® カラーは、特色再現における世界標準として広く使用されています。2000 年に、『PANTONE MATCHING SYSTEM® カラーガイド』が大幅に改訂されました。147 色の新しいソリッドカラーと 7 色のメタリックカラーがシステムに追加され、現在では、合計 1,114 色になっています。コート紙、非コート紙およびマットペーパーに印刷されている PANTONE Color ガイドとチップブックは、印刷結果の色見本として重宝されています。

PANTONE のソリッドカラーは、CMYK カラーに変換して印刷することができます。PANTONE のソリッドカラーを最もマッチしたプロセスカラーと対比するには、『PANTONE solid to process guide』を使用します。CMYK 画面の色味の割合が各カラーの下にプリントされています。ガイドは発色のよいコート紙上に印刷されており、新たに追加された 147 色のソリッドカラーの CMYK 対比も含まれています。

PANTONE process guides を使用すると、コート紙と上質紙に印刷された 3,000 以上のプロセスカラーの組み合わせからカラーを選択することができます。彩度順で扇形に表示されるため、簡単に色を選択し、CMYK スクリーン値を指定できます。

詳しくは、Pantone, Inc., in Carlstadt, New Jersey, U.S.A. にお問い合わせください。

システム（**Windows**） Windows デフォルトの 8 ビットの 256 色が含まれており、RGB カラーを均等にサンプリングしたスウォッチです。

システム（**Mac OS**） Macintosh デフォルトの 8 ビットの 256 色が含まれており、RGB カラーを均等にサンプリングしたスウォッチです。

Toyo Color Finder 日本で使用されている最も一般的な印刷用インキに基づく 1050 色が含まれています。Toyo 94 Color Finder または新しい Toyo Color Finder のいずれかを使用できます。詳しくは、東洋インキの印刷サンプルを示すカラーガイドを参照してください。このカラーガイドは、出版社やグラフィックアートサプライ用品店にあります。詳細は、東洋インキ製造株式会社にお問い合わせください。

TRUMATCH コンピューターで作成可能な 2,000 色以上のカラーに一致する、CMYK カラーモードで表現可能なカラーが含まれているスウォッチです。TRUMATCH カラーは、CMYK 色域の可視スペクトルを等間隔で選択したカラーです。Trumatch Color Finder は、各色相に対して最大 40 までの濃度と階調を表示します。濃度と階調は、4 色分解処理で作成されたもので、イメージセッタを使って 4 色分解しても、再現することが可能です。また、異なる色相を使用した 4 色グレーも含まれます。詳しくは、Trumatch Inc. にお問い合わせください。

Web Web ブラウザーで 8 ビット画像を表示する際に最もよく使用されます。216 色 RGB の Web セーフカラーが含まれています。このライブラリを使用すれば、Windows と Macintosh のどちらのシステムでも同じように表示することができるカラーを使用して、Web 用のアートワークを製

作することができます。
関連項目

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

配置したグラフィックのカラーの使用

配置したグラフィックのカラーの使用
スポイトツールを使用したカラーのサンプリング
Adobe Photoshop（PSD）ファイルのスポットカラーチャンネルを使用した作業
EPS または PDF ファイルのカラーを使用した作業
読み込んだ特色のプロセスカラーへの変更

配置したグラフィックのカラーの使用

トップへ戻る

InDesign では、ドキュメントに配置したグラフィックからのカラーの読み込み、サンプリング、再定義を行うための様々な方法が用意されています。配置した PDF または EPS ファイルの特色や Adobe Photoshop（PSD）と TIFF ファイルのスポットカラーチャンネルが、スウォッチパネルで特色として表示されます。これらのカラーは、ドキュメント内でオブジェクトに適用したり、プロセスカラーに変換することができますが、再定義したり、削除することはできません。配置したグラフィックを削除すると、カラーは残りますが、InDesign のネイティブカラーに変換され、編集や削除することができるようになります。

スポイトツールを使用したカラーのサンプリング

トップへ戻る

スポイトツール を使用して、配置したグラフィックからドキュメントにカラーを追加したり、ドキュメント内のオブジェクトにカラーを適用することができます。これは、レイアウトカラーと画像を調整するときに便利です。

最適な色分解出力結果を得るには、InDesign でサンプリングしたカラーのカラー名、カラータイプ（特色、プロセスカラーなど）、カラーモデル（RGB、CMYK など）を、配置したグラフィックのカラー定義と確実に一致させるようにします。設定について不明な点がある場合は、担当の印刷・出力会社にお問い合わせください。

Adobe Photoshop（PSD）ファイルのスポットカラーチャンネルを使用した作業

トップへ戻る

Photoshop のネイティブファイル（PSD）や TIFF ファイルを InDesign に読み込んだ場合、ファイルに保存されているスポットカラーチャンネルがスウォッチパネルに特色インキとして表示されます。ドキュメント内でそれらのスウォッチを選択し、他のオブジェクトに適用することができます。削除するには配置した画像を最初に削除する必要があります。

読み込んだファイルに、ドキュメント内の特色と名前が同じで、カラー値が異なるスポットカラーチャンネルがある場合、ドキュメント内の特色か、配置したファイルのカラー値のどちらを使用するかを確認するメッセージが表示されます。

EPS または PDF ファイルのカラーを使用した作業

トップへ戻る

PDF ファイル、EPS グラフィックまたは Adobe Illustrator 形式のファイル（.AI）を配置すると、グラフィック内で使用している特色名がドキュメントのスウォッチパネルに追加されます。これにより、不必要な特色版が印刷されて印刷の追加コストがかかるのを防いだり、追加された特色をドキュメント上で使うことができることを確認することができます。

配置したグラフィックが、ドキュメント内の特色と同名で異なるカラー値を持つ特色に変換される場合、ドキュメント内のカラー値が使用されます。

読み込んだ特色のプロセスカラーへの変更

トップへ戻る

特色（またはスポットカラーチャンネル）が使用されている EPS、PSD、TIFF または PDF グラフィックを配置すると、スウォッチパネルに特色名とその定義が追加されます。読み込まれた特色スウォッチは、プロセスカラースウォッチに変更することができます。これにより、配置したグラフィックの場合でも、カラーを現在の出力条件に適応させることができるようになります。

1. スウォッチパネルで、編集するスウォッチをダブルクリックします。
2. スウォッチ設定ダイアログボックスで、カラータイプメニューから「プロセス」を選択します。

注意： これによって変更されるのは、InDesign ドキュメントのカラータイプだけです。グラフィック内のカラーのカラータイプを恒久的に変更するには、グラフィックの作成に使用したアプリケーションでグラフィックファイルを開き、カラーを編集してください。
関連項目

(cc) BY-NC-SA

特色とプロセスカラー

特色とプロセスカラーについて
スポットカラーについて
プロセスカラーについて
特色とプロセスカラーの同時使用
InDesign のカラーと Illustrator のカラーの比較

ページの先頭へ

特色とプロセスカラーについて

カラーは、特色またはプロセスカラーとして指定することができます。これらは、商用印刷で使用される 2 つの主要なインキの種類に対応しています。スウォッチパネルでは、カラー名の横にあるアイコンによってカラー形式を識別することができます。

カラーをパスおよびフレームに適用する際は、作成するデータを最終的に使用するメディアを念頭に置き、最適なカラーモードを使用してカラーを適用してください。

> デバイス間でドキュメントを転送する必要がある場合、処理工程を通して色を維持および調整するのにカラーマネジメントシステム（*CMS*）を使用することをお勧めします。

ページの先頭へ

スポットカラーについて

特色（スポットカラー）とは、あらかじめ混合された特殊なインキのことで、プロセスインキの代わりとして、または CMYK プロセスインキに加えて使用します。特色を使用する場合、印刷機には専用のプリントプレート（刷版）が必要です。必要なカラー数が少なく、カラーの精度が重要な場合は、特色を使用します。特色インキでは、プロセスカラーの色域外にあるカラーを正確に再現できます。ただし、プリントされた特色が実際にどのように見えるかは、カラー値の指定やカラーマネジメントに関係なく、使用するインキと紙の色の組み合わせによります。特色の値を指定したときは、使用中の特定のモニターとコンポジットプリンターでのみ再現されるカラーをシミュレートして表現していることになります（最終的なカラーは各デバイスの色域による制約を受けます）。

特色を指定するときには、次の点に注意してください。

- 高品質なプリントを実現するには、商業印刷機がサポートしているカラーマッチングシステムから、必要な特色を指定します。このソフトウェアにはいくつかのカラーマッチングシステムライブラリが付属しています。
- 使用する特色の数は最小限にすることをお勧めします。特色を 1 つ使用するごとに、印刷機ではその特色のプリントプレート（刷版）が必要になるので、印刷コストがかさみます。ドキュメントのプリントに 5 色以上の特色が必要な場合は、プロセスカラーの使用を検討することをお勧めします。
- 特色を使用したオブジェクトを、透明を使用した他のオブジェクトに重ねると、EPS 形式での保存や書き出し、プリントダイアログボックスでの特色からプロセスカラーへの変換または、Illustrator や InDesign 以外のアプリケーションで色分解を行うときに問題が発生することがあります。そのため、印刷を実行する前に Illustrator では分割・統合プレビューを使用し、InDesign では、透明の分割・統合または分版を使用して、透明の分割・統合の効果のソフトプルーフを行うようにしてください。さらに、InDesign では、印刷または書き出しを行う前に、インキ管理を使用して、特色をプロセスカラーに変換することができます。
- 特色用のプリントプレート（刷版）1 版を、プロセスカラー領域の上刷りに使用することができます。この場合、印刷工程では、合計 5 色のインキを使用することになります。つまり、プロセスインキ 4 色と特色インキによる上刷り 1 色です。

ページの先頭へ

プロセスカラーについて

プロセスカラーは、シアン、マゼンタ、イエローおよびブラック（CMYK）の 4 色の標準プロセスインキを混合してプリントされます。カラー写真印刷など、多数のカラーが必要なドキュメントを印刷する場合は、個々の特色インキを使用すると高コストで非実用的になるため、一般的にはプロセスカラーを使用して印刷します。

プロセスカラーを指定するときには、次の点に注意してください。

- 高品質な印刷を実現するには、商業印刷機に付属のカラーチャートなどを参照して、プロセスカラーの CMYK 値を指定します。
- プロセスカラーの最終的なカラー値は、CMYK の値になります。このため、RGB（または InDesign の Lab モデル）を使用してプロセスカラーを指定しても、色分解の印刷時には CMYK モデルの値に変換されます。この変換結果は、カラーマネジメント設定とドキュメントのプロファイルに応じて変わります。
- カラーマネジメントシステムを正しく設定し、モニターのカラープレビューの限界を理解している場合を除き、モニターの表示に基づいてプロセスカラーを指定しないでください。
- CMYK カラーの色域は一般的なモニターよりも狭いため、Web などのオンライン表示専用のドキュメントの作成にはプロセスカラーは使用しないでください。
- Illustrator および InDesign では、グローバルまたは非グローバルのプロセスカラーを指定できます。Illustrator では、グローバルプロセスカラーはスウォッチパネルのスウォッチにリンクされるので、このスウォッチに変更を加えると、そのカラーを使用しているすべてのオブジェクトに変更が適用されます。非グローバルプロセスカラーの場合、そのカラーを編集しても、ドキュメント全体のオブジェクトが自動的に更新されることはありません。プロセスカラーは、初期設定では非グローバルカラーです。InDesign では、スウォッチをオブジェクトに適用する際に、そのスウォッチがグローバルプロセスカラーとして自動的に適用されます。非グローバルスウォッチは名称未設定カラーと呼ばれ、カラーパネルで編集することができます。

注意： グローバルプロセスカラーと非グローバルプロセスカラーは、特定のカラーをオブジェクトに適用する方法のみに影響し、アプリケーション間でカラーを移動した場合の色分解や動作には影響しません。

ページの先頭へ

特色とプロセスカラーの同時使用

同じドキュメントに対して、プロセスインキと特色インキを使い分けた方がよい場合があります。例えば、年次報告書のページの中で使用されている会社のロゴには、1 色の特色インキを使用することで正確な色で印刷し、写真にはプロセスカラーを使用して印刷する場合などがあります。また、特色印刷版を使用して、プロセスカラーで印刷した部分の上にワニス（樹脂コート）を刷ることもできます。どちらの場合も、印刷工程では、合計 5 色のインキを使用することになります（プロセスインキ 4 色と特色インキ 1 色またはワニス）。

InDesign では、プロセスカラーと特色を混ぜ合わせて混合インキカラーを作成することができます。

ページの先頭へ

InDesign のカラーと Illustrator のカラーの比較

Adobe InDesign と Adobe Illustrator では、定義済みのカラーを適用する方法が若干異なります。Illustrator ではグローバル、非グローバルのどちらでも定義済みカラーとして指定できるのに対し、InDesign はすべての非グローバルの名称未設定カラーをプロセスカラーとして扱います。

InDesign では、グローバルカラーに対応する機能はスウォッチになります。スウォッチにより、個々のオブジェクトを指定することなく簡単に配色を修正することができます。 この機能は、雑誌などのように、定型で大量に印刷されるドキュメントの作成に便利です。InDesign のカラーは、スウォッチパネル上のスウォッチにリンクされ、スウォッチを変更すると、そのカラーを使用するすべてのオブジェクトのカラーが更新されます。

InDesign では、非グローバルスウォッチのことを名称未設定カラーと呼びます。名称未設定カラーはスウォッチパネルに表示されず、カラーパネルでカラーを編集した場合、同じ色がドキュメント内で使われていても自動的に更新されません。しかし、後でスウォッチパネルに名称未設定カラーを追加することはできます。

スウォッチと名称未設定カラーは、特定の色がドキュメント内でどのように更新されるかに影響するだけで、アプリケーション間を移動するときに色が分版されなかったり、正しく機能しないということではありません。

関連項目

(cc) BY-NC-SR Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

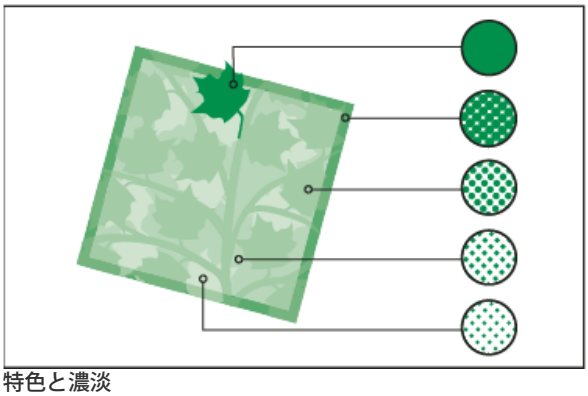
濃淡

濃淡について
濃淡の作成と編集

濃淡について

トップへ戻る

濃淡は、カラーの網かけに当たるものです。特色印刷版で濃淡を付けると、1 枚の版の中でカラーに変化を持たせることができ、特色インキを追加するコストを費やさずにすみます。また、プロセスカラーを明るくした色をすばやく作成することもできますが、プロセスカラーの印刷コストが低減されるわけではありません。濃淡を付けていないカラーと同様、濃淡に名前を付けてスウォッチパネルに保存しておけば、その濃淡スウォッチを使用したオブジェクトのカラーを簡単に編集できるようになります。



特色と濃淡

特色の濃淡は、特色と同じ印刷版に印刷されます。プロセスカラーの濃淡は、CMYK の各プロセスインキに濃淡パーセンテージを掛けた値になります。例えば、C10 M20 Y40 K10 の 80 %の濃淡は C8 M16 Y32 K8 になります。

カラーと濃淡はリンクしており、スウォッチ（ベースカラースウォッチ）を編集すると、そのスウォッチの濃淡を使用しているすべてのオブジェクトが更新されます。スウォッチパネルメニューの「スウォッチ設定」で、登録した濃淡スウォッチのベースカラースウォッチを編集することができます。これにより、ベースカラースウォッチとそのスウォッチに基づいて作成した他の濃淡も自動的に更新されます。

Adobe Creative Suite 3 では濃淡は 0 %から 100 %の範囲で指定できます。数値が小さいほどカラーが明るくなります。

濃淡の作成と編集

トップへ戻る

個々のオブジェクトの濃淡を調整することも可能ですが、スウォッチパネルまたはカラーパネルの濃淡スライダーを使用して濃淡を作成することもできます。濃度の値は 0 ～ 100 %の範囲で指定できます。数値が小さいほどカラーが明るくなります。

カラーと濃淡はリンクしており、スウォッチ（ベースカラースウォッチ）を編集すると、そのスウォッチの濃淡を使用しているすべてのオブジェクトが更新されます。スウォッチパネルメニューの「スウォッチ設定」で、登録した濃淡スウォッチのベースカラースウォッチを編集することができます。これにより、ベースカラースウォッチとそのスウォッチに基づいて作成した他の濃淡も自動的に更新されます。

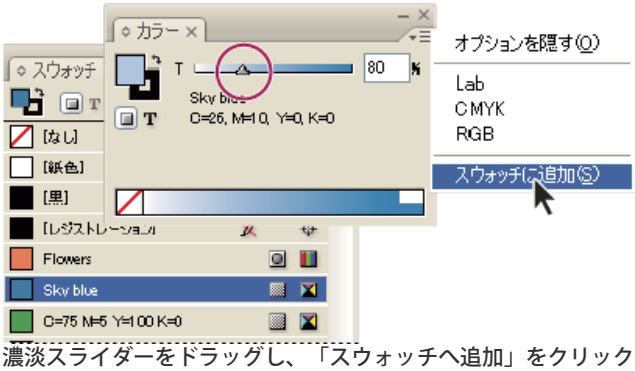
スウォッチパネルを使用した濃淡スウォッチの作成

1. スウォッチパネルでカラースウォッチを選択します。
2. 「濃淡」ボックスの右にある三角形を選択します。
3. 濃淡スライダーをドラッグし、スウォッチパネルの新規スウォッチボタン をクリックするか、スウォッチパネルメニューから「新規濃淡スウォッチ」を選択します。

スウォッチパネルに、ベースカラースウォッチ名および濃淡パーセンテージと共に濃淡が設定されたスウォッチが表示されます。

カラーパネルを使用した濃淡スウォッチの作成

1. スウォッチパネルでスウォッチを選択します。
2. カラーパネルで濃淡スライダーをドラッグするか、%ボックスに濃淡値を入力します。
3. カラーパネルメニューから「スウォッチに追加」を選択します。



濃淡スライダーをドラッグし、「スウォッチへ追加」をクリックします。

名称未設定の濃淡の作成

1. スウォッチパネルで、塗りボックスまたは線ボックスを選択します。
2. 濃淡スライダーをドラッグするか、「濃淡」ボックスに濃淡値を入力します。

濃淡スウォッチまたはベースカラースウォッチの編集

1. スウォッチパネルで濃淡スウォッチまたはベースカラースウォッチをダブルクリックします。
2. 次のいずれかの操作を行い、「OK」をクリックします。
   - 濃淡を編集するには、「濃淡」値を変更します。これにより、その濃淡スウォッチを使用しているすべてのオブジェクトが更新されます。
   - 濃淡のベースカラースウォッチを編集するには、「カラーモード」または「カラーモード」値を変更します。これにより、同じベースカラースウォッチに基づいている他のすべての濃淡も更新されます。

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

インキの混合

混合インキスウォッチの作成と編集
混合インキグループの管理

トップへ戻る

混合インキスウォッチの作成と編集

最小数のインキで最大数の印刷カラーを作成しなければならない場合、2 つの特色インキを混ぜ合わせるか、特色インキと 1 つまたは複数のプロセスカラーインキを混ぜ合わせて、新しいインキスウォッチを作成することができます。混合インキカラーを使用すると、ドキュメントの印刷時に使用する個々のインキ数を増やすことなく、利用可能なカラーを増やすことができます。

混合インキスウォッチまたは混合インキグループを作成すると、大量のスウォッチを簡単に作成することができます。一連のカラーを含んでいる混合インキグループは、異なるプロセスカラーおよび特色のインキの増減の割合によって作成されます。例えば、プロセスカラーシアンの 4 つの濃淡（20 %、40 %、60 %、80 %）と特色の 5 つの濃淡（10 %、20 %、30 %、40 %、50 %）を混ぜ合わせると、20 の異なるスウォッチを含む混合インキグループが作成されます。



スウォッチパネルの混合インキスウォッチ
A. 混合インキグループの親 **B.** 混合インキグループの子 **C.** 混合インキスウォッチ（スタンドアローン）

混合インキスウォッチまたは混合インキグループを作成するには、最低 1 つの特色がスウォッチパネルに追加されている必要があります。

混合インキスウォッチの作成

1. スウォッチパネルメニューから「新規混合インキスウォッチ」を選択します。このオプションは、スウォッチパネルに特色が追加されていないと選択することができません。
2. スウォッチ名を入力します。
3. 混合インキスウォッチに含めたい各インキ名の左にある空のボックスをクリックします。インキアイコンが表示されます。混合インキスウォッチには、最低でも 1 つの特色を含める必要があります。
4. スライドバーを使用するか、%ボックスに値を入力して、スウォッチに含まれる各インキの割合を調整します。
5. スウォッチパネルに混合インキを追加するには、「追加」または「OK」をクリックします。
   モニター上のカラーは、印刷結果と異なって見える場合があります。最良の結果を得るためには、印刷・出力会社に印刷したい混合インキのサンプルを出力してもらうようにしてください。

混合インキグループの作成

1. スウォッチパネルメニューから「新規混合インキグループ」を選択します。このオプションは、スウォッチパネルに特色が追加されていないと選択することができません。
2. 混合インキグループの名前を入力します。グループ内のカラーには、この名前の後ろに連番の付いた名前が付けられます（スウォッチ 1、スウォッチ 2 など）。
3. 混合インキグループに含めたい各インキ名の左にある空のボックスをクリックします。
4. 選択したインキで、次のオプションを設定します。
   - 「初期」で、最初に混ぜ合わせるインキの割合を設定します。
   - 「繰り返し」で、インキの割合を増加させる回数を設定します。
   - 「増分値」で、繰り返し時に増加させるインキの割合を設定します。

     例えば、プロセスカラーのシアンの 4 つの濃淡（20 %、40 %、60 %、80 %）と特色の 5 つの濃淡（10 %、20 %、30 %、40 %、50 %）を混ぜ合わせて 20 のスウォッチを作成した場合は、シアンの「初期」を 20 %、「繰り返し」を 3、「増分値」を 20 %に指定し、特色の「初期」を 10 %、「繰り返し」を 4、「増分値」を 10 %に設定します。
5. 「スウォッチをプレビュー」をクリックすると、ダイアログボックスを閉じずにスウォッチを生成することができます。現在選択されているインキおよび設定値により適切なスウォッチが生成されるかを確認し、そうでない場合は調整することができます。

注意： 1 つのインキ内で設定した「初期」、「繰り返し」、「増分値」の値の合計が 100 %を超えると、警告が表示されます。InDesign でのインキ割合の上限は 100 %です。

6. 「OK」をクリックすると、混合インキグループのすべてのインキがスウォッチパネルに追加されます。

混合インキスウォッチの編集

他のスウォッチの編集方法と同様に、混合インキスウォッチを修正します。混合インキスウォッチまたはグループを編集する際には、次のことに注意してください。

- スウォッチパネルで混合インキスウォッチに使用されているインキを削除する場合は、置き換えを確認するメッセージが表示されます。混合インキには最低 1 つの特色が含まれている必要があります。特色のインキを削除した場合、混合インキはプロセスカラーに変換されます。
- 混合インキグループの親に変更を加えると、グループ内のすべての混合インキに変更が適用されます。混合インキグループ内のスウォッチに変更を加えた場合は、そのスウォッチのみに変更が適用されます。
- 混合インキをプロセスカラーや特色に変換すると、混合インキグループとの関係が解除されます。
- 混合インキグループの親を削除すると、グループ内のすべてのスウォッチが削除されます。

1. スウォッチパネルで、変更する混合インキグループの親 をダブルクリックします。
2. 必要に応じて次の操作を行います。
   - 新しいインキを選択するか、既存の構成要素に設定されているインキを置き換えます。
   - インキ名の左にあるボックスをクリックして、混合インキグループの構成要素に含めるか、構成要素から除去するかを選択します。

     注意： 混合インキを作成するときに設定した「初期」、「繰り返し」、「増分値」を変更することはできません。
3. 「OK」をクリックします。

トップへ戻る

混合インキグループの管理

スウォッチパネルを使用して、混合インキグループの削除、スウォッチの追加、および混合インキスウォッチのプロセスカラーへの変換を行うことができます。

混合インキグループの削除

❖ スウォッチパネルで削除する混合インキグループの親を選択し、スウォッチを削除ボタンをクリックします。

混合インキグループへのスウォッチの追加

1. スウォッチパネルで、混合インキグループの親を選択します。
2. パネルメニューから「新規カラースウォッチ」を選択します。
3. 必要に応じて、スウォッチ名を設定します。
4. 各インキのリストで混合インキの割合を設定します。インキの追加または削除を行うことはできません。
5. 「OK」をクリックします。

1 つの混合インキスウォッチのプロセスカラーへの変換

印刷コスト削減のために混合インキをプロセスカラーに変換することができます。混合インキグループの親のスウォッチをプロセスカラーに変換すると、親のスウォッチは削除され、グループの他のスウォッチがプロセスカラーに変換されます。

1. スウォッチパネルで、変換する混合インキスウォッチをダブルクリックします。
2. 「カラータイプ」から「プロセス」を選択し、「OK」をクリックします。

混合インキグループ内のすべてのインキのプロセスカラーへの変換

❖ 混合インキグループの親 をダブルクリックし、表示されたダイアログボックスの「混合インキスウォッチをプロセスカラーに変換」を選択します。

関連項目

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

グラデーション

グラデーションについて
グラデーションスウォッチの作成
グラデーションパネルを使用した名称未設定グラデーションの適用
グラデーションの修正
グラデーションツールでのグラデーションの調整
複数のオブジェクトへのグラデーションの適用
テキストへのグラデーションの適用

グラデーションについて

トップへ戻る

グラデーションとは、複数のカラー、または同じカラーの異なる濃度をブレンドして徐々に変化させたものです。使用する出力デバイスによって、グラデーションの色分解出力は異なります。

任意のカラーモードで定義した紙色、プロセスカラー、特色、混合インキカラーなどを使用してでグラデーションを作成することができます。グラデーションは、グラデーションバーの「グラデーション停止」によって定義されます。停止とは、グラデーションがカラーから次のカラーへ変化する地点で、グラデーションバーの下にあるカラーの四角形が「グラデーション停止」を表しています。デフォルトでは、グラデーションは 2 色のカラーで作成され、中間点は 50 %に設定されています。

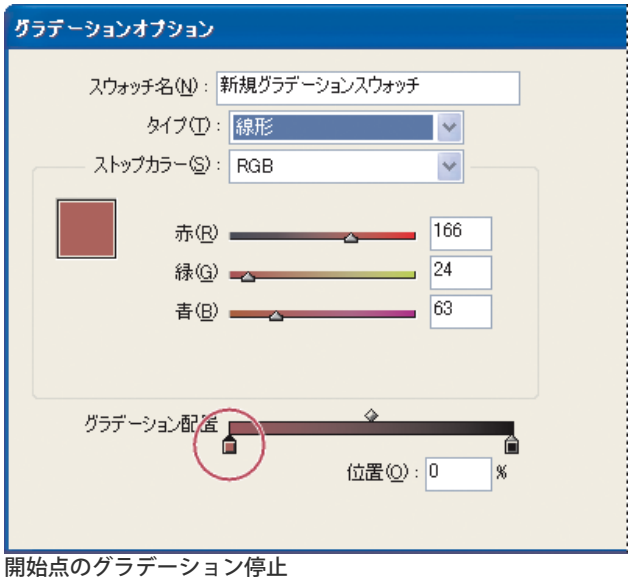
注意： 複数のカラーモードのカラーを使用して作成したグラデーションを印刷または色分解出力すると、すべてのカラーが CMYK プロセスカラーに変換されます。カラーモードを変更すると、カラーが変化する可能性があります。最適な出力結果を得るには、CMYK カラーを使用してグラデーションを作成してください。

グラデーションスウォッチの作成

トップへ戻る

スウォッチパネルを使用して、グラデーションスウォッチを作成、登録、編集することができます。また、グラデーションパネルを使用して名称未設定グラデーションを作成することもできます。

1. スウォッチパネルメニューから「新規グラデーションスウォッチ」を選択します。
2. 「スウォッチ名」に、グラデーションの名前を入力します。
3. 種類ポップアップメニューから「線形」または「円形」を選択します。
4. グラデーションバーの下にある開始点のグラデーション停止を選択します。



開始点のグラデーション停止

5. ストップカラーポップアップメニューで、次のいずれかの操作を行います。
   - スウォッチパネルにあるカラーを選択するには、「スウォッチ」をクリックし、リストからカラーを選択します。
   - 名称未設定カラーでグラデーションを作成するには、任意のカラーモードを選択してカラー値を入力するか、スライダーをドラッグします。

     デフォルトでは、開始点のグラデーション停止は「白」に設定されます。開始点のグラデーション停止を透明に設定するには、「紙

色」を適用してください。

6. グラデーションの終点になるカラーを変更するには、グラデーションバーの下にある終点のグラデーション停止を選択して、手順 5 を繰り返します。
7. グラデーションカラーの位置を調整するには、次のいずれかの操作を行います。
   - グラデーションバーの下にある各グラデーション停止をドラッグします。
   - グラデーションバーの下にあるグラデーション停止を選択し、そのカラーの位置を設定する値を「位置」に入力します。この位置は、前のカラーと次のカラーの間の距離の割合を表します。
8. 2 色のグラデーションカラーの中間点（カラーが 50 %になる地点）を調整するには、次のいずれかの操作を行います。
   - グラデーションバーの上にあるダイヤモンド形の中間点アイコンをドラッグします。
   - グラデーションバーの上にあるダイヤモンド形の中間点アイコンを選択し、「位置」にそのカラーの位置を設定する値を入力します。この位置は、前のカラーと次のカラーの間の距離の割合を表します。
9. 「OK」または「追加」をクリックします。グラデーションが名前付きでスウォッチパネルに保存されます。

トップへ戻る

グラデーションパネルを使用した名称未設定グラデーションの適用

グラデーションの作成や保存には、スウォッチパネルを使用することを推奨しますが、Adobe Illustrator を使用している場合は、使い慣れたグラデーションパネル（ウィンドウ／カラー／グラデーションを選択）でグラデーションの作成や変更を行うこともできます。また、現在選択されているグラデーションは、いつでもスウォッチパネルに追加することができます。グラデーションパネルは、あまり使用しない名称未設定のグラデーションを作成するときに便利です。



グラデーションパネル[ぐらでーしょんぱねる]
A. グラデーションの塗り **B.** グラデーションの種類メニュー **C.** 逆方向ボタン **D.** 開始点のグラデーション停止 **E.** 中間点 **F.** 終点のグラデーション停止

注意： 登録済みグラデーションが適用されているオブジェクトを選択し、グラデーションパネルを使用して、適用されているグラデーションを編集すると、そのオブジェクトのグラデーションだけが変更されます。ドキュメント全体に適用されているグラデーションスウォッチを編集するには、スウォッチパネル内でグラデーションスウォッチをダブルクリックして編集するようにしてください。

1. 変更するオブジェクトを選択します。
2. スウォッチパネルまたはツールパネルで、塗りボックスまたは線ボックスをクリックします。グラデーションの塗りボックスが表示されていなければ、グラデーションパネルメニューから「オプションを表示」を選択します。
3. グラデーションパネルを表示するには、ウィンドウ／カラー／グラデーションを選択するか、ツールパネルでグラデーションツール をダブルクリックします。
4. グラデーションの開始点のカラーを定義するには、グラデーションバーの下の一番左側にある開始点のグラデーション停止をクリックしてから、次のいずれかの操作を行います。
   - スウォッチパネルから適用するスウォッチをドラッグし、グラデーション停止上にドロップします。
   - スウォッチパネルで、Alt キー（Windows）または Option キー（Macintosh）を押しながらカラースウォッチをクリックします。
   - カラーパネルで、スライダーまたはカラーバーを使用してカラーを作成します。
5. グラデーションの終点のカラーを定義するには、グラデーションバーの下の一番右側にある終点のグラデーション停止をクリックします。手順 4 と同じ方法で、適用するカラーを選択します。
6. 種類メニューで「線形」または「円形」を選択し、カラーおよび中間点の位置を調整します。詳しくは、グラデーションスウォッチの作成を参照してください。
7. グラデーションの角度を調整するには、「角度」に値を入力します。

トップへ戻る

グラデーションの修正

カラーを追加してマルチカラーグラデーションを作成したり、グラデーション停止や中間点を調整することによって、グラデーションを修正することができます。グラデーションをオブジェクトに適用してから編集すると、変更内容をプレビューしながらグラデーションを調整できるので便利です。

Adobe Illustrator から AICB（Adobe Illustrator Clipboard）形式でペーストされたグラデーションも修正することができます（Illustrator グラフィックの InDesign へのペーストを参照してください）。グラデーションを選択するには、ダイレクト選択ツールを使用します。

注意： カラースウォッチを編集すると、そのスウォッチを使用するグラデーション停止もすべて更新され、グラデーションも変更されます。

グラデーションへの中間色の追加

1. スウォッチパネル内のグラデーションスウォッチをダブルクリックするか、グラデーションパネルを表示します。
2. グラデーションバーの下の任意の位置をクリックして新しいグラデーション停止を追加します。追加したグラデーション停止には、クリックした位置のカラー値によって、自動的にカラー値が定義されます。
3. 追加したグラデーション停止を調整します。
   スウォッチをスウォッチパネルからグラデーションパネルのグラデーションバーにドラッグして、新しいグラデーション停止を定義することもできます。

グラデーションカラーからの中間カラーの削除

✥ 中間のグラデーション停止を選択し、パネルの外側までドラッグします。

グラデーションのカラーの移行の反転

1. グラデーションが適用されているオブジェクト、グラデーションパネルの「グラデーションの塗り」またはグラデーションスウォッチをクリックして、グラデーションを有効にします。
2. グラデーションパネルで逆方向ボタン をクリックします。

トップへ戻る

グラデーションツールでのグラデーションの調整

オブジェクトをグラデーションで塗りつぶした後、グラデーションスウォッチツール またはグラデーションぼかしツール を使用して、オブジェクト上をドラッグして塗りを「再ペイント」することで、そのグラデーションを修正することができます。グラデーションツールを使用して、グラデーションの方向を変えたり、グラデーションの開始点と終点を変更したり、複数のオブジェクトにわたってグラデーションを適用することができます。グラデーションぼかしツールを使用して、ドラッグした方向にグラデーションを半透明にすることができます。

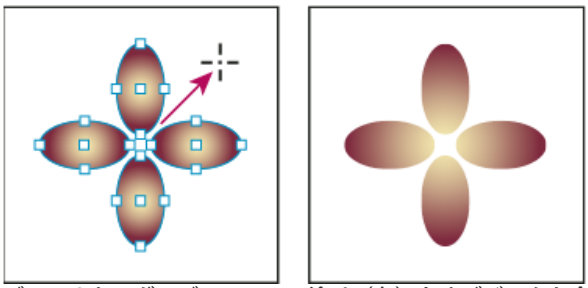
1. スウォッチパネルまたはツールパネルで、元のグラデーションが適用された場所に応じて、塗りボックスまたは線ボックスを選択します。
2. グラデーションスウォッチツールまたはグラデーションぼかしツールを選択し、グラデーションの開始点にする位置にマウスポインターを置きます。グラデーションを適用する方向にオブジェクト上をドラッグします。Shift キーを押しながらドラッグすると、角度が 45 度単位に固定されます。

   グラデーションを横切ってグラデーションぼかしツールをドラッグすると、ドラッグした領域内のグラデーションのカラーが徐々に半透明になります。
3. グラデーションの終点にする位置でマウスボタンを放します。

トップへ戻る

複数のオブジェクトへのグラデーションの適用

1. 選択したすべてのオブジェクトにグラデーションが適用されていることを確認します。
2. ツールパネルで、塗りボックスまたは線ボックスを選択します。
3. グラデーションツール を選択し、グラデーションの開始点にする位置にマウスポイントを置きます。グラデーションを適用する方向にオブジェクト上をドラッグします。Shift キーを押しながらドラッグすると、角度が 45 度単位に固定されます。
4. グラデーションの終点にする位置でマウスボタンを放します。



デフォルトのグラデーションの塗り（左）とオブジェクト全体に適用したグラデーション（右）

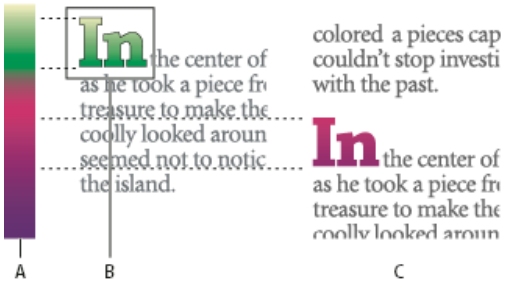
グラデーションが適用されている複合パスを選択すると、グラデーションパネルだけを使用してサブパス全部のグラデーションを編集できます。グラデーションツールは不要です。

トップへ戻る

テキストへのグラデーションの適用

単独のテキストフレーム内では、デフォルトの黒テキストおよびカラーテキストに、範囲を指定してグラデーションを適用することも可能です。

グラデーションの終点は、常にグラデーションのパスまたはテキストフレームの境界線ボックスに相対して固定されます。個々のテキストのカラーには、配置された位置のグラデーションのカラーが表示されます。テキストフレームのサイズを変更したり、テキストが改行されるような操作を行うと、テキストはグラデーション全体に再分配され、それに応じて個々の文字のカラーも変わります。

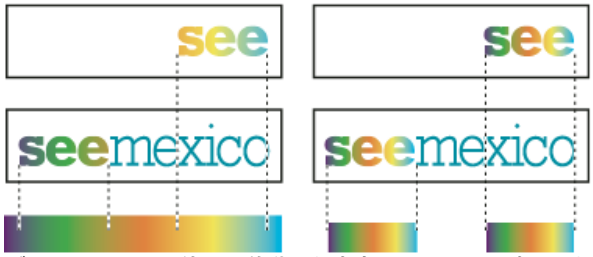


テキストにグラデーションの塗りを適用

A. グラデーションの塗り **B.** グラデーションが適用されたテキストの文字 **C.** テキストを追加したことによって、グラデーションの塗りの位置が移動し、色が変ったテキスト

グラデーションの開始点から終点までのカラー全体がテキストの特定範囲に適用されるように調整するには、2 つの方法があります。

- 選択した文字だけにグラデーションが適用されるように、グラデーションツールを使用してグラデーションの終点を再設定します。
- テキストを選択してアウトライン（編集可能パス）に変換してから、そのアウトラインにグラデーションを適用します。この方法は、テキストフレーム内の一部の短いテキストに適用する場合に最適です。グラデーションはテキストフレームではなくアウトライン化したテキストに固定されており、他のテキストと共に位置が移動しても、グラデーションもその文字と共に移動します。ただし、アウトライン化したテキストは、インライングラフィックとして扱われるため、テキストを編集することはできなくなります。また、組版のオプションも適用されなくなります。例えば、アウトラインに変換されたテキストはハイフンで区切ることができません。



デフォルトでは、位置を移動した文字のカラーは、適用したグラデーションに応じて変化し（左）、文字をアウトラインに変換すると、適用したグラデーションがその文字と共に移動する（右）

テキストアウトラインからパスへの変換について詳しくは、テキストアウトラインを使用したパスの作成を参照してください。

1 つのテキストフレーム内の複数のグラデーション

1 つのテキストフレームで複数のテキスト範囲を選択し、各範囲に対して個々にグラデーションを適用することができます。各グラデーションはテキストフレームに追加され、各グラデーションを適用したときに選択した文字ごとに別々に塗り分けられます。ただし、各グラデーションの終点は、個々のテキスト範囲ではなく、テキストフレームの境界線ボックスになります。

関連項目

(cc) BY-NC-SR

法律上の注意 | プライバシーポリシー

透明

透明効果の追加

透明について
効果パネルの概要
透明効果の適用
透明効果
包括光源を使用
オブジェクトの不透明度の設定
グループへの透明の適用
透明なアートワークのモニター上での外観の変更
透明の表示をオフにする
透明を使用したドキュメントでの白いボックス効果の除去

Adobe InDesign でオブジェクトを作成するとき、デフォルトでは塗りつぶしで表示されますが、その不透明度は 100 %です。オブジェクトには、不透明度とブレンドを使った効果を適用することができます。オブジェクトを重ね合わせるか、オブジェクトに透明を追加するか、オブジェクトの背面にあるシェイプを抜きます。

ページの先頭へ

透明について

オブジェクトまたは線を作成するとき、塗りを適用したり、テキストを入力したりすると、デフォルトでは塗りつぶしで表示されますが、その不透明度は 100 %です。InDesign では、様々な方法でアイテムを透明にすることができます。例えば、不透明度 100 %（完全な塗りつぶし）から不透明度 0 %（完全に透明）まで変更することができます。不透明度を下げると、オブジェクト、線、塗りまたはテキストの表面から背面のアートワークが透けて見えます。

効果パネルでオブジェクトとその線、塗り、またはテキストの不透明度を指定します。またオブジェクト自体、線、塗り、またはテキストとその下のオブジェクトとのブレンド方法を指定できます。オブジェクトの場合、特定のオブジェクトへの描画を分離して、グループ内の一部のオブジェクトのみをその下のオブジェクトとブレンドしたり、オブジェクトをグループ内のオブジェクトとブレンドする代わりに型抜きしたりできます。



前面の透明オブジェクトから背面にあるオブジェクトが透けて見える

ページの先頭へ

効果パネルの概要

効果パネル（ウィンドウ／効果）を使うと、オブジェクトおよびグループの不透明度と描画モードを指定したり、特定のグループの描画モードを分離したりできるほか、グループ内のオブジェクトへの抜きの設定や、透明効果の適用を行うこともできます。



効果パネルを使用した透明効果の追加および編集

A. 描画モード ***B.*** レベル ***C.*** *FX* アイコン ***D.*** すべての効果を消去 ***E.*** *FX* ボタン

描画モード

透明オブジェクトと背後のオブジェクトとの色の配合を指定します（カラーのブレンド方法の指定を参照してください）。

不透明度

オブジェクト、線、塗りまたはテキストの不透明度を指定します（オブジェクトの不透明度の設定を参照してください）。

レベル

オブジェクト、線、塗りおよびテキストの透明度の設定や、透明効果を適用するかどうかを示します。レベル設定の表示と非表示を切り替えるには、オブジェクト（またはグループまたはグラフィック）という文字の左側にある三角形をクリックします。透明効果を適用したレベルには FX アイコンが表示され、このアイコンをダブルクリックすると設定を編集できます。

描画モードを分離

選択したオブジェクトグループにだけ描画モードを適用します（描画モードの分離を参照してください）。

グループの抜き

不透明度と描画モードが設定されているオブジェクトで、そのオブジェクトが覆うグループ内のオブジェクトを抜く（表示しない）ようにします（グループ内のオブジェクトへの抜きの設定を参照してください）。

すべての効果を消去ボタン

効果（線、塗りまたはテキスト）をオブジェクトから消去して、描画モードを通常に設定し、オブジェクト全体で不透明度の設定を 100 %に変更します。

FX ボタン

透明効果のリストを表示します（透明効果の適用を参照してください）。

効果パネルのオプションの表示

- 必要な場合、ウィンドウ／効果を選択し、効果パネルメニューを開いて、「オプションを表示」を選択します。

  効果パネルのオプションは効果ダイアログボックス（オブジェクトを選択し、オブジェクト／効果／透明を選択）でも使用でき、またコントロールパネルでも簡単な形式で使用できます。

ページの先頭へ

透明効果の適用

1. オブジェクトを選択します。効果をグラフィックに適用するには、ダイレクト選択ツールでグラフィックを選択します。
2. 効果パネルを表示するには、ウィンドウ／効果を選択します。
3. オブジェクトの中の変更したい部分を示すレベルを選択します。

   オブジェクト オブジェクト全体（線、塗り、テキストを含む）に設定が適用されます。

   グラフィック ダイレクト選択ツールで選択したグラフィックのみに設定が適用されます。グラフィックに適用した効果は、別のフレームに

そのグラフィックをペーストする場合にも有効になっています。

グループ グループ内のすべてのオブジェクトとテキストに設定が適用されます（グループ内のオブジェクトに効果を適用するには、ダイレクト選択ツールを使用します）。）

線 オブジェクトの線（線の間隔カラーを含む）のみに設定が適用されます。

塗り オブジェクトの塗りのみに設定が適用されます。

テキスト 効果は、オブジェクト内部のテキストのみに適用され、テキストフレームには適用されません。テキストに適用した効果はオブジェクト内のすべてのテキストに適用されます。単語や文字に個別に効果を適用することはできません。

コントロールパネルでレベル設定を選択することもできます。その場合は効果をオブジェクトに適用ボタン をクリックし、「オブジェクト」、「線」、「塗り」または「テキスト」を選択します。

4. 次のいずれかの操作を行って、効果ダイアログボックスを開きます。
   - 効果パネルまたはコントロールパネルで FX ボタン をクリックし、メニューから効果を選択します。
   - 効果パネルメニューで「効果」を選択し、効果名を選択します。
   - コンテキストメニューで「効果」を選択し、効果名を選択します。
   - オブジェクト／効果を選択し、効果名を選択します。
   - 必要な場合、効果パネルで三角形をクリックしてレベル設定を表示し、レベル設定（オブジェクト、線、塗り、テキスト）をダブルクリックします。ダブルクリックすると、効果ダイアログボックスが開いてレベル設定が選択されます。
5. 効果のオプションおよび設定を選択します（透明の一般的な設定とオプションを参照してください）。
6. 「OK」をクリックします。

透明効果の編集

1. 効果が適用されているオブジェクトを選択します。
2. 次のいずれかの操作を行って、効果ダイアログボックスを開きます。
   - 効果パネルで、（パネルの下部ではなく）オブジェクトの右にある FX アイコンをダブルクリックします。必要に応じて、オブジェクトという文字の横の三角形をクリックして FX アイコンを表示します。
   - 効果パネルで効果を編集するレベルを選択し、FX ボタン をクリックして、効果の名前を選択します。
3. 効果を編集します。

透明効果のコピー

- 次のいずれかの操作を行って、透明効果をコピーします。
  - オブジェクト間で効果をコピーするには、効果パネルでコピー元のオブジェクトを選択し、そのオブジェクトの FX アイコン を選択して、コピー先のオブジェクトまでドラッグします。効果をドラッグ＆ドロップできるのは、同じレベルのオブジェクト間だけです。
  - オブジェクト間で効果を選択的にコピーするには、スポイトツール を使用します。スポイトツールを使用して、線、塗りおよびオブジェクトのどの透明度設定をコピーするかを制御するには、スポイトツールをダブルクリックしてスポイトツールオプションダイアログボックスを開き、「線設定」、「塗り設定」、「オブジェクト設定」のオプションを選択または選択解除します。
  - 同一オブジェクト内のレベル間で効果をコピーするには、効果パネルで Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押しながら FX アイコンをコピー先のレベル（線、塗りまたはテキスト）までドラッグします。

    FX アイコンをドラッグすると、同一オブジェクト内のレベル間で効果を移動できます。

オブジェクトの透明効果の消去

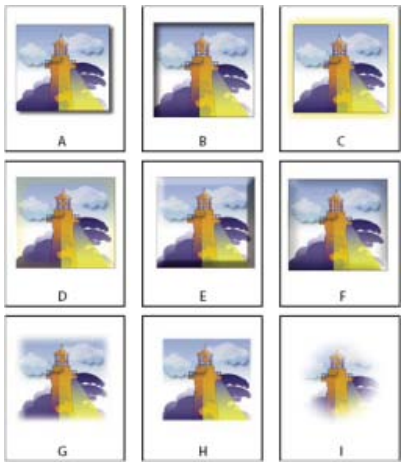
- 必要に応じて次の操作を行います。

- オブジェクトからすべての効果を消去して、同時に描画モードを通常に、不透明度を 100 %に変更するには、効果パネルですべての効果を消去ボタン をクリックするか、効果パネルメニューで「すべての透明を消去」を選択します。
- すべての効果を消去しつつ、描画モードおよび不透明度の設定を維持するには、レベルを選択して、効果パネルメニューから「効果を消去」を選択するか、効果パネルで FX アイコン を線、塗りまたはテキストのレベルからごみ箱ボタンまでドラッグします。
- 効果の複数のレベル（線、塗りまたはテキスト）を消去するには、そのレベルを選択してごみ箱アイコンをクリックします。
- オブジェクトから個別の効果を削除するには、効果ダイアログボックスを開き、透明効果を選択解除します。

ページの先頭へ

透明効果

InDesign には 9 種類の透明効果があります。各効果の作成に関する設定やオプションの多くは類似しています。



効果

A. ドロップシャドウ ***B.*** シャドウ（内側） ***C.*** 光彩（外側） ***D.*** 光彩（内側） ***E.*** ベベルとエンボス ***F.*** サテン ***G.*** 基本のぼかし ***H.*** 方向性のぼかし ***I.*** グラデーションぼかし

ドロップシャドウ オブジェクト、線、塗りまたはテキストの背後にシャドウを追加します。

シャドウ **(内側)** オブジェクト、線、塗りまたはテキストの境界の内側にシャドウを追加して窪みを表現します。

光彩（外側）、光彩（内側） オブジェクト、線、塗りまたはテキストの境界の外側または内側から発する光彩を追加します。

ベベルとエンボス ハイライトとシャドウを様々に組み合わせると、テキストと画像に 3 次元的な外観をもたらすことができます。

サテン 形状に応じた陰影（特につや出し仕上げのような効果）を追加します。

基本のぼかし、方向性のぼかし、グラデーションぼかし オブジェクトの境界を透明にフェード（徐々に薄く）し、境界を柔らかくぼかします。

注意： 詳しくは、透明の一般的な設定とオプションを参照してください。

透明の一般的な設定とオプション

各種透明効果には、共通する設定およびオプションが数多くあります。透明の一般的な設定とオプションを以下に示します。

角度、高度 照明効果を設定する際の光源の角度を指定します。0 に設定すると真横に相当し、90 はオブジェクトの真上です。角度の半径をクリックするか、角度を入力します。すべてのオブジェクトに同一の照明角度を指定する場合は、「包括光源を使用」を選択します。ドロップシャド

ウ、シャドウ（内側）、ベベルとエンボス、サテン、ぼかしの各効果で使用できます。

描画モード 透明オブジェクトと背後のオブジェクトとの色の配合を指定しますドロップシャドウ、シャドウ（内側）、光彩（外側）、光彩（内側）、サテンの各効果で使用できます（カラーのブレンド方法の指定を参照してください）。

チョーク 「サイズ」の設定と共に、ぼかすシャドウまたは光彩の不透明および透明の度合いを指定します。値を大きくすると不透明度が高くなり、値を小さくすると透明度が高くなります。シャドウ（内側）、光彩（内側）、ぼかしの各効果で使用できます。

距離 ドロップシャドウ、シャドウ（内側）またはサテン効果のオフセットの間隔を指定します。

ノイズ 値を入力するかスライダーをドラッグして、光彩またはシャドウの不透明度にランダムエレメントの量を指定します。ドロップシャドウ、シャドウ（内側）、光彩（外側）、光彩（内側）、ぼかしの各効果で使用できます

不透明度 スライダーをドラッグするか、パーセンテージの値を入力して、効果の不透明度を指定します（オブジェクトの不透明度の設定を参照してください）。ドロップシャドウ、シャドウ（内側）、光彩（外側）、光彩（内側）、グラデーションぼかし、ベベルとエンボス、サテンの各効果で使用できます。

サイズ シャドウまたは光彩の量を指定します。ドロップシャドウ、シャドウ（内側）、光彩（外側）、光彩（内側）、サテンの各効果で使用できます。

スプレッド 「サイズ」の設定と共に、シャドウまたは光彩のぼかしの透明度を指定します。パーセンテージが高いほどぼかしの不透明度が高くなります。ドロップシャドウ、光彩（外側）の各効果で使用できます。

テクニック 透明効果の境界と背景カラーとの配合を指定します。光彩（外側）と光彩（内側）では、「さらにソフトに」または「精細」を選択できます。

さらにソフトに 効果の境界をぼかします。サイズを大きくすると、詳細は保持されません。

精細 角などのシャープな部分を含んだ効果の境界を保持します。「精細」では、「さらにソフトに」よりも詳細が保持されます。

包括光源を使用 シャドウに包括光源の設定を適用します。ドロップシャドウ、ベベルとエンボス、およびシャドウ（内側）の各効果で使用できます。

X 軸オフセットと **Y** 軸オフセット 影を x 軸または y 軸の指定した距離までオフセットします。ドロップシャドウおよびシャドウ（内側）の各効果で使用できます。

ドロップシャドウ

「ドロップシャドウ」効果は、立体的に見えるような影を作成します。x 軸や y 軸で指定した任意の距離を作成できるほか、描画モード、カラー、不透明度、距離、角度、サイズを設定したドロップシャドウを作成することができます。これらのオプションでは、ドロップシャドウとオブジェクトや透明効果との配合を指定します。

シャドウをノックアウト オブジェクトに対してドロップシャドウをノックアウトに設定します。

その他の効果に従う ドロップシャドウは他の透明効果の影響を受けます。例えば、オブジェクトの片側にぼかしがある場合、ドロップシャドウでぼかしを無効にして影がフェードアウトしないようにしたり、オブジェクトにぼかしが加えられる場合と同様に影をぼかしにしたりできます。

オブジェクト、線、塗りまたはテキストにドロップシャドウをすばやく適用したり、オブジェクト、線、塗りまたはテキストからドロップシャドウを削除するには、コントロールパネルでドロップシャドウボタン をクリックします。

ドロップシャドウのカラーを設定するには、「シャドウのカラーを設定」ボタン（描画モードメニューの横）をクリックして、カラーを選択します。

シャドウ（内側）

「シャドウ（内側）」効果では、オブジェクトの内側に影を配置して窪みを表現します。内側のシャドウを x、y 軸に沿ってオフセットしたり、シャドウの描画モード、不透明度、距離、角度、サイズ、ノイズ、チョークを変更したりすることができます。

光彩（外側）

「光彩（外側）」効果はオブジェクトの下から発する光彩を作成します。描画モード、不透明度、テクニック、ノイズ、サイズ、スプレッドを設定できます。

光彩（内側）

「光彩（内側）」効果では、オブジェクトに内側から発する光彩を追加します。描画モード、不透明度、テクニック、サイズ、ノイズ、チョーク、ソースを設定できます。

ソース　光彩のソースを指定します。オブジェクトの中央から発する光彩を適用するには「中央」を選択し、オブジェクトの境界から発する光彩を適用するには「エッジ」を選択します。

ベベルとエンボス

オブジェクトをリアルで立体的な外観にするには、「ベベルとエンボス」効果を選択します。「構造」設定では、オブジェクトのサイズと形状を指定します。

スタイル　ベベルのスタイルを指定します。「ベベル（外側）」を選択すると、オブジェクトの境界の外側にベベルが作成されます。「ベベル（内側）」を選択すると、オブジェクトの境界の内側にベベルが作成されます。「エンボス」を選択すると、背面にあるオブジェクトから浮き出しているような効果がシミュレーションされます。「ピローエンボス」を選択すると、背面にあるオブジェクトにめり込んだような効果がシミュレーションされます。

サイズ　ベベル効果またはエンボス効果のサイズを指定します。

テクニック　ベベル効果またはエンボス効果の境界と背景カラーとの配合を指定します。「滑らかに」を選択すると、境界がわずかにぼかされます（サイズを大きくすると詳細な効果は保持されなくなります）。「シゼルソフト」を選択すると、境界がぼかされますが、ぼかしの程度は「滑らかに」に比べてわずかです。また、「滑らかに」の場合より詳細の保持に優れていますが、「シゼルハード」ほど保持されません。「シゼルハード」を選択すると、境界がよりくっきりと表示されます（「滑らかに」「シゼルソフト」より詳細は保持されます）。

ソフト　「テクニック」の設定に加えて効果をぼかし、効果を軽減したり、境界が粗くなるのを防ぎます。

組み方向　「上」または「下」を選択して効果を上下に移動します。

深さ　ベベル効果またはエンボス効果の深さを指定します。

「陰影」の設定は、光源とオブジェクトとの反応方法を指定します。

角度、高度　光源の高さを設定します。0 に設定すると真横に相当し、90 はオブジェクトの真上です。

包括光源を使用　すべての透明効果に対して指定されたものとして包括光源を適用します。このオプションを選択すると、「角度」と「高度」の設定はオーバーライドされます。

ハイライト、シャドウ　ベベルまたはエンボスのハイライトおよびシャドウに対する描画モードを指定します。

サテン

「サテン」効果は、滑らかなサテンのような加工を施します。描画モード、不透明度、角度、距離、サイズの設定と、カラーおよび透明度を反転するかどうかを選択します。

反転　このオプションを選択すると、オブジェクトのカラーおよび透明の領域が反転します。

基本のぼかし

「ぼかし」効果は、オブジェクトのエッジから指定した距離までをフェード（徐々に薄く）し、境界を柔らかくぼかします。

ぼかしの幅

不透明から透明までのフェードの距離を設定します。

チョーク

「ぼかしの幅」の設定と共に、ぼかす光彩の不透明および透明の度合いを指定します。値を大きくすると不透明度が高くなり、値を小さくすると透明度が高くなります。

角

「シャープ」、「丸み（外）」または「拡散」を選択します。

シャープ　鋭い角を含んだ形の外側の境界に沿って平行にぼかします。このオプションは星型や四角形に設定すると効果的です。

丸み（外）　ぼかしの幅を半径として角に丸みを設定します。基本的に、インセット、アウトセットの順に、2 つの形状で輪郭が形成されます。このオプションは長方形に適しています。

拡散　Adobe Illustrator の手法を使って、オブジェクトの境界を不透明から透明にフェードします。

ノイズ

光彩のソフトさにランダムエレメントの量を指定します。このオプションを選択すると、光彩がソフトになります。

方向性のぼかし

「方向性のぼかし」効果は、オブジェクトのエッジを指定した方向に透明にフェード（徐々に薄く）し、境界を柔らかくぼかします。例えば、オブジェクトを左から右ではなく、上から下にぼかすことができます。

ぼかしの幅

オブジェクトを透明にフェードする際の上、下、左、右の距離を設定します。オブジェクトの各辺を等距離にフェードするには、「ロック」オプションを選択します。

ノイズ

光彩のソフトさにランダムエレメントの量を指定します。このオプションを選択すると、光彩がソフトになります。

チョーク

「ぼかしの幅」の設定と共に、ぼかす光彩の不透明および透明の度合いを指定します。値を大きくすると不透明度が高くなり、値を小さくすると透明度が高くなります。

シェイプ

オプション（先頭エッジのみ、リーディングエッジ、またはすべてのエッジ）を選択して、オブジェクトの元の形状を浮き上がらせます。

角度

ぼかし効果の基準枠を回転させます。このオプションを指定すると、90 度の倍数を入力しない限り、境界のぼかしはオブジェクトに水平ではなく、歪んで表示されます。

グラデーションぼかし

「グラデーションぼかし」では、オブジェクトの領域を透明にフェード（徐々に薄く）し、境界を柔らかくぼかします。

グラデーション分岐点

オブジェクトの透明部分の各グラデーションに 1 つのグラデーション停止を作成します。

- グラデーション停止を作成するには、グラデーションスライダーの下をクリックします。停止を削除するには、スライダーからグラデーション停止をドラッグします。
- 停止の位置を調整するには、左または右にドラッグするか、停止を選択して位置スライダーをドラッグします。
- 2 つのグラデーション停止の間の中間点を調整するには、グラデーションスライダーの中間点をドラッグします。中間点の位置によって、停止間のグラデーションの変化量が決定されます。

反転グラデーション

クリックすると、グラデーションの方向が反転します。このボックスはグラデーションスライダーの右にあります。

不透明度

グラデーション停止の透明度を指定します。停止を選択して不透明度スライダーをドラッグします。

位置

グラデーション停止の位置を調整します。グラデーション停止を選択してからスライダーをドラッグするか、値を入力します。

種類

線形の場合はグラデーションの始点から終点までの線のシェード、円形の場合は始点から終点までの半径のシェードです。

角度

線形グラデーションの場合、グラデーションの線の角度を設定します。例えば、90 度に設定すると、線は水平になり、180 度に設定すると、線は垂直になります。

ページの先頭へ

包括光源を使用

陰影を使用した透明効果（ドロップシャドウ、シャドウ（内側）、ベベルとエンボス）に同一の照明角度を適用します。これらの効果で「包括光源を使用」を選択すると、照明効果は、包括光源ダイアログボックスの包括設定によって決定されます。

1. 次のいずれかの操作を行って、包括光源ダイアログボックスを開きます。
   - 効果パネルメニューで「包括光源」を選択します。
   - オブジェクト／効果／包括光源を選択します。
2. 値を入力するか、角度の半径をドラッグして角度と高度を設定し、「OK」をクリックします。

ページの先頭へ

オブジェクトの不透明度の設定

選択された 1 つまたは複数のオブジェクト（グラフィックとテキストフレームを含む）に透明を適用することができます。個々の文字やレイヤーには適用できません。配置したグラフィックに設定されているそれらの透明効果は、正確に表示および印刷されます。

1. オブジェクト（複数でもかまいません）を選択します。

   選択した複数のオブジェクトの不透明度の設定に競合が存在する場合、効果パネルに「混合」と表示されます。例えば、「塗り」の不透明度の設定が選択した他のオブジェクトと異なる場合、効果パネルに「塗り:標準（混合）」と表示されます。

2. 次のいずれかの方法でオブジェクト、線、塗りまたはテキストを選択します。
   - コントロールパネルで効果を適用ボタン をクリックし、オプションを選択します。
   - 必要な場合、効果パネルでオプションをクリックします（オブジェクトという文字の横の三角形をクリックして、オプションを表示します）。
3. コントロールパネルまたは効果パネルで、「不透明度」に値を入力するか、「不透明度」の右側にある矢印をクリックして、スライダーをドラッグします。不透明度の値を小さくすると、透明度は増加します。

注意： *InDesign* で、透明が設定されているグループからオブジェクトをダイレクト選択ツールで選択し、カットまたはコピーしてから、ドキュメントの他の場所にペーストすると、そのオブジェクトに個別に不透明度が設定されていなければ、その不透明度は *100* %になります。

ページの先頭へ

グループへの透明の適用

透明効果は 1 つのオブジェクトだけではなく、グループにも適用できます。

オブジェクトを選択し、個々の不透明度を変更するだけの場合には、オブジェクトの不透明度は、選択されていない他のオブジェクトの不透明度に対して相対的に変わります。重なっているどの領域も正確に不透明度を表示します。

逆に、グループ化されたオブジェクトを選択し、透明を変更すると、グループは効果パネル上で単一のオブジェクトとして扱われ（効果パネルにはグループという 1 つのレベルオプションしか表示されません）、グループ内のオブジェクトの不透明度は変化しません。つまり、グループ内の透明度 100 %のオブジェクトが重なり合っていたとしても、そのオブジェクト同士の相対的な透明度は 100 %のままです。



個々のオブジェクトの選択し、不透明度を *50* %に設定（左）、グループ化したオブジェクトを選択し、不透明度を *50* %に設定（右）

ページの先頭へ

透明なアートワークのモニター上での外観の変更

環境設定ダイアログボックスの表示画質パネルで、透明表示の環境設定を行います。表示画質の環境設定により、新規ドキュメントおよび異なる環境設定で保存されたドキュメントに含まれる透明オブジェクトのモニター上の画質が決定されます。また、ドキュメントで透明を表示する、または表示しないように環境設定を設定することもできます。表示の環境設定で透明をオフにしても、ファイルを印刷したり、書き出したりするときに透明はオフにはなりません。

注意： 透明効果を含んでいるファイルを印刷する前に、透明の設定（ファイル／プリント／詳細／透明の分割・統合）を確認してください。印刷時に自動的にアートワークが統合され、透明効果の外観に影響を与える可能性があります。

1. 編集／環境設定／表示画質（Windows）または InDesign／環境設定／表示画質（Macintosh）を選択します。
2. 「表示設定を調整」セクションで、オプション（高速、一般、高品質）を選択して、ドキュメントの効果の画面解像度を決定します。変更する設定は、ここで選択するオプションにのみ適用されます。
   - 「高速」は、透明をオフにし、解像度を 24dpi に設定します。
   - 「一般」は、効果を低解像度で表示し、解像度を 72 dpi に設定します。
   - 「高品質」は、特に PDF ファイルや EPS ファイルの効果の表示を向上させ、解像度を 144 dpi に設定します。
3. 透明スライダーをドラッグします。デフォルトの設定は、「中品質」です。この設定は、ドロップシャドウと境界のぼかしを表示します。
4. 「OK」をクリックします。
5. 描画モードでインキが部分的に重なる場合、表示／オーバープリントプレビューを選択します。このオプションでは、インキが透明度と相互に作用する様子をモニター上に表示することができます。

   「表示設定を調整」から「高速」、「一般」、「高品質」を選択して透明の表示を変更します。

ページの先頭へ

透明の表示をオフにする

透明の表示をオフにすると、表示速度が向上します。モニター上で透明をオフにしても、ファイルを印刷したり、書き出したりする際に透明はオフにはなりません。

- 表示／表示画質の設定／高速表示を選択します。

ページの先頭へ

透明を使用したドキュメントでの白いボックス効果の除去

一部の環境で、透明効果を適用した場所に白いボックスまたは実際にはない境界線が表示されます。この現象は、通常、ドロップシャドウやグラデーションを含むドキュメントで発生します。この問題は、透明効果が特色と配合される場合に発生することもあります。

この問題を解決するには、透明と共に特色を使用しないようにするか、オーバープリントを有効にします。

白いボックス効果が発生しないように PDF ドキュメントを表示およびプリントするには、Acrobat で、「オーバープリントをシミュレート」を有効にします。Acrobat 9 の場合、アドバンスト／印刷工程／出力プレビューを選択します。Acrobat X の場合、ツール／印刷工程／出力プレビューを選択します。

この白いボックス効果が発生しているプリンターでドキュメントを出力する場合は、RIP で PostScript オーバープリントを有効にするように印刷・出力会社に依頼します。この方法で問題が解決されない場合は、ファイルを送信する前に、透明の分割・統合を行い、「オーバープリント処理」オプションを選択します。InDesign では、このオプションは、「コンポジット CMYK」オプションを選択した場合にプリントダイアログボックスの色分解パネルに表示されます。

関連項目

(cc) BY-NC-SR Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

透明が使用されているアートワークの統合

分割・統合について
透明の分割・統合プリセットについて
出力に対する統合プリセットの適用
透明の分割・統合プリセットの作成または編集
カスタムの透明の分割・統合プリセットの書き出しおよび読み込み
カスタムの透明の分割・統合プリセットの名前変更または削除
個々のスプレッドへの分割・統合の適用
個々のスプレッドに設定されている透明の分割・統合プリセットを無視する方法
透明の分割・統合オプション
アートワークの分割・統合される領域のプレビュー
透明の分割・統合パネルのプレビューの更新
透明設定の成功事例

分割・統合について

トップへ戻る

文書やアートワークに透明部分が含まれていると、出力するには、通常は分割・統合と呼ばれる処理が必要です。 分割・統合によって、透明なアートワークはベクトル領域とラスタライズ領域に分割されます。 アートワークが複雑になるにつれて（画像の混合、ベクトル、文字、特色、オーバープリントなど）、統合による結果も複雑になります。

プリントする場合や、透明をサポートしない形式に保存または書き出しする場合、分割・統合が必要となることがあります。 PDF ファイルを作成するときに分割・統合をしないで透明部分を保持するには、ファイルを Adobe PDF 1.4（Acrobat 5.0）以降で保存します。

分割・統合設定を指定し、それを透明の分割・統合プリセットとして保存、適用できます。 透明なオブジェクトは、選択した分割・統合プリセットに従って分割・統合されます。

注意： ファイルの保存後に、透明効果の統合を取り消すことはできません。



重なっているアートは、統合するときに分割されます。

透明出力の問題について詳しくは、アドビ システムズ社の Web サイトの Adobe Solutions Network（ASN）のプリントサービスプロバイダーの項（英語のみ）を参照してください。

透明の分割・統合プリセットについて

トップへ戻る

透明部分を含むドキュメントをプリントしたり書き出したりすることが多い場合は、透明の分割・統合プリセットを保存することにより、分割・統合処理を自動化できます。 分割・統合プリセットを保存したら、その設定を印刷出力や PDF 1.3（Acrobat 4.0）、EPS および PostScript 形式への保存または書き出しに適用できます。 また、Illustrator では、ファイルを Illustrator の以前のバージョンに保存するときやクリップボードにコピーするときにも、その設定を適用できます。さらに、Acrobat では、PDF を最適化するとき同じようにその設定を適用できます。

また、透明をサポートしない形式に書き出す場合に、分割・統合の処理の方法を設定できます。

分割・統合プリセットは、印刷またはプリントダイアログボックスの「詳細設定」（Illustrator）または「詳細」（InDesign）パネル、または最初の書き出しまたは別名で保存ダイアログボックスの後に表示される各形式に固有のダイアログボックスで選択できます。独自の分割・統合プリセットを作成するか、またはアプリケーションに付属している初期設定オプションからプリセットを選択します。次に示す初期設定プリセットの設定は、ドキュメントの用途に応じて、透明部分のラスタライズに適した解像度と、それに見合った分割・統合処理の品質と速度が設定されるように設計されています。

高解像度 最終的な商業印刷での出力や、色分解校正のような高品質の校正刷りに使用します。
標準解像度 デスクトップ校正やオンデマンドドキュメントを PostScript カラープリンターで印刷する場合に使用します。
低解像度 モノクロのデスクトッププリンターで校正刷りをすばやく印刷したり、Web 出版や SVG に書き出すドキュメントに使用します。

出力に対する統合プリセットの適用

トップへ戻る

プリントダイアログボックス、および EPS の書き出しダイアログボックスまたは Adobe PDF を書き出しダイアログボックスの後に表示される形式固有のダイアログボックスで分割・統合プリセットを選択することができます。

透明部分を含むドキュメントを印刷したり書き出したりすることが多い場合は、透明の分割・統合プリセットに透明の分割・統合設定を保存することにより、分割・統合処理を自動化できます。PDF 1.3（Acrobat 4.0）または EPS 形式への書き出しや印刷を行う際にも、この設定は適用できます。

❖ プリントダイアログボックス、EPS の書き出しダイアログボックスまたは Adobe PDF を書き出しダイアログボックスの「詳細」パネルで、カスタムの透明の分割・統合プリセットか、または次のデフォルトのプリセットのいずれかを選択します。
[低解像度] モノクロのデスクトッププリンターで簡単な校正刷りを印刷する場合や、Web 出版向けのドキュメントに使用します。
[中解像度] デスクトップ校正やオンデマンドドキュメントを Adobe PostScript カラープリンターで印刷する場合に使用します。
[高解像度] 最終的な商業印刷での出力や色分解校正のような高品質の校正刷りに使用します。
注意： 透明の分割・統合設定は、アートワークが透明を含んでいるか、Adobe PDF を書き出しダイアログボックスの「色分解」セクションで「オーバープリント処理」が選択されている場合に限り使用されます。

透明の分割・統合プリセットの作成または編集

トップへ戻る

透明の分割・統合プリセットは個別のファイルに保存することができるので、簡単に設定をバックアップしたり、印刷会社やクライアントなどのワークグループのメンバーが設定を使用したりできます。 InDesign では、透明の分割・統合プリセットファイルの拡張子は .flst です。

1. 編集／透明の分割・統合プリセットを選択します。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - 新しいプリセットを作成するには、「新規」ボタンをクリックします。
   - 定義済みのプリセットを基にプリセットを作成するには、リストから定義済みのプリセットを 1 つ選択して、「新規」をクリックします。
   - 既存のプリセットを編集するには、プリセットを選択して「編集」をクリックします。

   注意： 初期設定の透明の分割・統合プリセットは編集できません。
3. 分割・統合オプションを設定します。
4. 「OK」をクリックして、透明の分割・統合設定ダイアログボックスに戻り、もう一度「OK」をクリックします。

カスタムの透明の分割・統合プリセットの書き出しおよび読み込み

トップへ戻る

透明の分割・統合プリセットを書き出して、印刷会社やクライアント、同僚がそのプリセットを読み込んで使用することができます。

1. 編集／透明の分割・統合プリセットを選択します。
2. リストからプリセットを選択します。
3. 次のいずれかの操作を行います。
   - プリセットを個別のファイルに書き出すには、「保存」（InDesign）または「書き出し」（Illustrator）をクリックし、ファイル名と場所を指定して「保存」をクリックします。

     アプリケーションの設定フォルダー以外の場所にプリセットを保存してもかまいません。 設定フォルダー以外の場所に保存すると、環境設定を削除してもプリセットは失われません。
   - プリセットをファイルから読み込むには、「読み込み」をクリックします。 読み込む設定が保存されているファイルを選択してから、「開く」をクリックします。

カスタムの透明の分割・統合プリセットの名前変更または削除

トップへ戻る

1. 編集／透明の分割・統合プリセットを選択します。
2. リストからプリセットを選択します。
3. 次のいずれかの操作を行います。
   - 既存のプリセットの名前を変更するには、「編集」をクリックし、新しい名前を入力して「OK」をクリックします。
   - プリセットを削除するには、「削除」をクリックし、「OK」をクリックして削除を確認します。
     注意： 初期設定のプリセットは削除できません。

個々のスプレッドへの分割・統合の適用

トップへ戻る

ドキュメントで個々のスプレッドに透明の分割・統合設定を適用して、ドキュメント全体やブックに設定されている透明の分割・統合プリセット

より優先させることができます。これは、多数の透明効果が設定されている高解像度画像と低解像度画像が混合したドキュメントの統合化の品質をコントロールするのに便利です。この場合、高品質で複雑なスプレッドを統合化し、他のスプレッドにはより速く低品質な透明の分割・統合プリセットを使用することができます。

印刷や書き出しを行う場合、ドキュメントやブックの透明の分割・統合プリセットの設定に戻すこともできます。

1. ドキュメントウィンドウでスプレッドを表示します。
2. ページパネルメニューから「スプレッドの単層化」を選択します。
3. 次のいずれかを選択して、「OK」をクリックします。
   デフォルト ドキュメントの透明の分割・統合プリセットをこのスプレッドに使用します。

   単層化なし（透明を無視） スプレッドの透明を無視します。これは、印刷・出力会社に問題を処理してもらうときに便利です。

   カスタム カスタムスプレッドの分割設定ダイアログボックスを表示します。このダイアログボックスで設定を行います。

トップへ戻る

個々のスプレッドに設定されている透明の分割・統合プリセットを無視する方法

❖ InDesign で次のいずれかから「スプレッドオーバーライドを無視」を選択します。

- 透明の分割・統合パネル（ウィンドウ／出力／透明の分割・統合）
- プリントダイアログボックスまたは書き出しダイアログボックスの「詳細」セクション

トップへ戻る

透明の分割・統合オプション

Illustrator、InDesign または Acrobat で透明の分割・統合プリセットを作成、編集またはプレビューする場合、透明の分割・統合オプションを設定できます。

ハイライト表示（プレビュー）オプション

なし（カラープレビュー） プレビューを無効にします。

ラスタライズされた複雑な領域 パフォーマンス上の理由によってラスタライズされる部分（ラスタライズ／ベクトルスライダーで指定）をハイライト表示します。 ハイライト表示される領域の境界線に、カラーステッチの発生する確率が高いことに注意してください（プリンタードライバーの設定とラスタライズ解像度によって異なります）。 カラーステッチの問題を最小限に抑えるには、「複雑な領域をクリップ」を選択します。

透明オブジェクト 部分的に不透明なオブジェクト（アルファチャンネルのある画像など）や、描画モードのオブジェクト、不透明マスクのあるオブジェクトなど、透明部分となるオブジェクトをハイライト表示します。 さらに、スタイルと効果に透明部分が含まれることがあるので注意してください。オーバープリントのあるオブジェクトが透明部分と重なり合う場合や、オーバープリントを分割・統合する必要がある場合は、オーバープリントのあるオブジェクトは透明部分の一部として処理されることがあります。

影響を受けるすべてのオブジェクト 透明なオブジェクトおよび透明なオブジェクトと重なり合うオブジェクトなど、透明部分の影響を受けるすべてのオブジェクトをハイライト表示します。 ハイライト表示されたオブジェクトは、線やパターンが拡張されたり、一部分がラスタライズされたりするなど、分割・統合処理の影響を受けます。

影響されるリンク **EPS** ファイル（**Illustrator** のみ） 透明部分の影響を受けるリンクされた EPS ファイルがすべてハイライト表示されます。

変更済みグラフィック（**InDesign** のみ） 透明または透明効果が適用されているすべての配置されたコンテンツをハイライト表示します。 このオプションは、印刷・出力会社が印刷を適切に行うためグラフィックを参照するときに便利です。

拡張されるパターン（**Illustrator** および **Acrobat**） 拡張されるパターンに透明部分がある場合、拡張されるパターンをすべてハイライト表示します。

アウトライン化される線 アウトライン化される線に透明部分がある場合、または「すべての線をアウトラインに変換」が選択されている場合、アウトライン化される線をすべてハイライト表示します。

アウトライン化されるテキスト（**Illustrator** および **InDesign**） アウトライン化されるテキストに透明部分がある場合、または「すべてのテキストをアウトラインに変換」が選択されている場合、アウトライン化されるすべてのテキストをハイライト表示します。

注意： 最終出力では、アウトライン化された線とテキスト、特に非常に細い線と非常に小さいテキストは、元の線やテキストと若干異なって出力される場合があります。 ただし、分割・統合のプレビューでは、このようなオブジェクトのアピアランスはハイライト表示されません。

ラスタライズされるテキストと線（**InDesign** のみ） 分割・統合の結果として塗りがラスタライズされたテキストと線をハイライト表示します。

ラスタライズされるすべての領域（**Illustrator** および **InDesign**） PostScript で表現する方法がほかにない場合、またはラスタライズ／ベクトルスライダーで指定されたしきい値よりも複雑である場合、ラスタライズされるオブジェクトやその重なり部分をハイライト表示します。 例えば、2 つの透明グラデーションが交差する部分は、ラスタライズとベクトルのバランスの値が 100 であっても、常にラスタライズされます。 「ラスタライズされるすべての領域」オプションで、透明部分のあるラスタライズグラフィック（Photoshop ファイルなど）と、ドロップシャドウ、ぼかしなどのラスタライズ効果を表示することもできます。 このオプションの処理には、他のオプションよりも長く時間がかかることに注意してください。

透明の分割・統合プリセットオプション

名前／プリセット プリセットの名前を指定します。 ダイアログボックスによっては、名前テキストボックスに入力するか、デフォルトの名前をそのまま使用できます。 既存の設定の名前を入力すると、その設定を編集できます。 ただし、デフォルトは編集できません。

ラスタライズとベクトルのバランス 保存するベクトル情報の量を指定します。 高い値に設定すると、より多くのベクトルオブジェクトが保存され、低い値に設定すると、より多くのベクトルオブジェクトがラスタライズされます。中間の値に設定すると、ベクトル形式の簡単な部分が保存され、複雑な部分がラスタライズされます。 すべてのアートワークをラスタライズするには、最低値を選択します。

注意： 実際にラスタライズされる割合は、ページの複雑さと重なったオブジェクトの種類によって変化します。

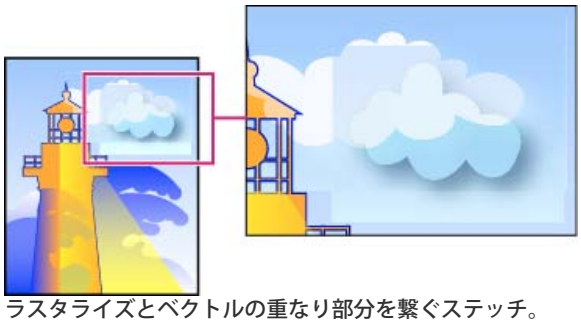
ラインアートとテキストの解像度 画像、ベクトルアートワーク、テキスト、グラデーションなどのすべてのオブジェクトを、指定した解像度にラスタライズします。 Acrobat と InDesign では、ラインアートに対して最大で 9600 ppi（ピクセル／インチ）、グラデーションメッシュに対して最大で 1200 ppi の解像度を設定できます。 Illustrator では、ラインアートとグラデーションメッシュの両方に対して最大で 9600 ppi の解像度を設定できます。 解像度は、分割・統合されるオブジェクトの精密さに影響します。「ラインアートとテキストの解像度」は、特に serif フォントやポイント数の小さいフォントを高品質にラスタライズするので、通常は 600 ～ 1200 に設定します。

グラデーションとメッシュの解像度 分割・統合処理によってラスタライズされるグラデーションオブジェクトと Illustrator のメッシュオブジェクトの解像度を 72 ～ 2400 ppi で指定します。 解像度は、分割・統合されるオブジェクトの精密さに影響します。 グラデーションとメッシュの解像度は、一般的に 150 ～ 300 ppi の間に設定します。解像度をより高く設定しても、印刷時間とファイルサイズが増えるばかりで、グラデーション、ドロップシャドウ、境界のぼかしの品質は必ずしも上がるわけではありません。

すべてのテキストをアウトラインに変換 すべてのテキストオブジェクト（文字、文字領域、テキストパス）をグラフィックス化し、透明を使用したページにあるすべての字形情報を破棄します。 このオプションを選択すると、分割・統合処理によるテキストへの影響が抑制されます。 このオプションを有効にすると、Acrobat で表示したり、低解像度のデスクトッププリンターで印刷した場合、小さなフォントが多少太く出力されるので注意してください。 高解像度のプリンターやイメージセッタで印刷された文字の品質は影響を受けません。

すべての線をアウトラインに変換 透明を使用したページにあるすべての線を単一に塗られたパスに変換します。 このオプションを選択すると、分割・統合処理による線幅への影響が抑制されます。 このオプションを有効にすると、細い線が多少太く表示され、分割・統合のパフォーマンスが低下する場合があることに注意してください。

複雑な領域をクリップ アートワーク内のベクトル部分とラスタライズ部分の境界線が、オブジェクトのパスに重なるように処理されます。 このオプションを選択すると、ベクトルオブジェクトの一部のみがラスタライズされる場合に、カラーステッチ（ベクトルオブジェクトとラスタライズオブジェクトの移行部分が目立ってぎざぎざに表示される現象）の発生が軽減されます。 ただし、これを設定するとパスが複雑になるので、プリンターに負担がかかる場合があります。



ラスタライズとベクトルの重なり部分を繋ぐステッチ。

注意： 一部のプリンタードライバーはラスタライズ画像とベクトルオブジェクトに異なる処理を行いますが、これがカラーステッチの原因となることがあります。プリンタードライバー独自のカラーマネジメント設定を無効にすることによって、カラーステッチの問題を最小限にできる場合があります。 これらの設定はプリンターによって異なりますので、お使いのプリンターに付属の説明書を参照してください。

（**Illustrator** のみ）「アルファ透明部分を保持」を選択（オブジェクトメニューにある透明部分を統合・分割ダイアログボックスのみ） 分割・統合されたオブジェクト全体の不透明度が保持されます。 「アルファ透明部分を保持」オプションを選択すると、透明な背景を使用してオブジェクトをラスタライズした場合と同様に、描画モードとオーバープリントは失われますが、これらのアピアランスはアルファ透明のレベルと共に処理後のアートワーク内に保持されます。 「アルファ透明部分を保持」オプションは、SWF または SVG を書き出す場合に便利です。これらの形式はいずれも、アルファ透明をサポートしています。

（**Illustrator** のみ）「オーバープリントと特色を保持」を選択（オブジェクトメニューにある透明部分を分割・統合ダイアログボックスのみ） 通常、特色が保持されます。 また、透明部分以外のオブジェクトのオーバープリントも保持されます。 このオプションは、特色とオーバープリントのあるオブジェクトを含むドキュメントを色分解する場合に選択します。 DTP アプリケーションで使用するためにファイルを保存する場合には、このオプションの選択を解除します。 このオプションが選択されていると、透明部分と相互作用するオーバープリントの領域が分割・統合処理され、その他の領域のオーバープリントは保持されます。 ファイルが DTP アプリケーションから出力された場合、その結果は予測できません。

オーバープリントを保持（**Acrobat** のみ） 透明なオブジェクトのカラーと背景色をブレンドして、オーバープリントの効果を作成します。

トップへ戻る

アートワークの分割・統合される領域のプレビュー

分割・統合プレビューのオプションを使用して、分割・統合した領域をハイライト表示します。 この色分けされた情報をプレビューで確認しながら、分割・統合オプションを調整します。

注意： 分割・統合プレビューは、特色、オーバープリントおよび描画モードの正確なプレビューを行うためのものではありません。 これらの目的には、「オーバープリントプレビュー」モードを使用します。

1. 透明の分割・統合プレビューパネル（またはダイアログボックス）を表示するには
   - Illustrator の場合は、ウィンドウ／分割・統合プレビューを選択します。
   - Acrobat の場合は、ツール／印刷工程／分割・統合プレビューを選択します。
   - InDesign では、ウィンドウ／出力／透明の分割・統合プレビューを選択します。
2. ハイライトメニューで、ハイライト表示するエリアの種類を選択します。 使用できるオプションは、アートワークの内容によって異なります。
3. 使用する分割・統合設定を選択します。プリセットを選択するか、可能であれば特定のオプションを設定します。
   注意： （Illustrator）分割・統合オプションが表示されていない場合は、パネルメニューの「オプションを表示」を選択して表示します。

4. 透明オブジェクトと相互に作用するオーバープリントオブジェクトがアートワークに含まれる場合は、Illustrator でオーバープリントメニューからオプションを選択します。 オーバープリントは保持、シミュレートまたは破棄することができます。 Acrobat の場合、「オーバープリントを保持」を選択して透明なアートワークのカラーと背景色をブレンドし、オーバープリントの効果を作成します。
5. 「更新」をクリックすると、設定に基づいて更新されたプレビューを表示できます。 アートワークが複雑な場合、プレビュー画像が表示されるまでにしばらく時間がかかることがあります。 InDesign の場合、「自動ハイライト更新」も選択できます。
   Illustrator および Acrobat の場合、プレビューを拡大するには、プレビュー領域をクリックします。 ズームアウトするには、プレビュー領域で Alt キー（Windows）を押しながらクリックするか、Option キー（Mac OS）を押しながらクリックします。 プレビューの位置を移動するには、スペースバーを押しながらプレビュー領域をドラッグします。

トップへ戻る

透明の分割・統合パネルのプレビューの更新

- 表示が長時間にわたって更新されない場合、自動的に更新させるには、「自動ハイライト更新」を選択します。
- 表示を手動で更新するには、「更新」ボタンをクリックします。

どちらの場合も、ドキュメントウィンドウの表示は、選択した透明の分割・統合設定に従って更新されます。

トップへ戻る

透明設定の成功事例

通常、適切な定義済みの透明の分割・統合プリセットを使用する、または最終出力に適切な設定でプリセットを作成すると、分割・統合により高品質な出力結果を得ることができます。透明が出力に与える影響とトラブルシューティングについては、アドビ システムズ社の Web サイトにある「Achieving Reliable Print Output with Transparency」（英語のみ）を参照してください。

また、ドキュメントが複雑で重なった領域を含み、高解像度出力を必要とする場合、いくつかの基本的なガイドラインに従っていれば、より確かな出力結果を得ることができます。

重要： 高解像度出力を行うドキュメントに透明を適用する場合は、印刷・出力会社に相談してください。印刷・出力会社と密に連絡をとることで、期待どおりの高品質な出力結果を得ることができます。

オーバープリントオブジェクト

統合されたオブジェクトが透明に見える場合がありますが、実際にはそれらのオブジェクトは不透明で、その下のオブジェクトが透けているわけではありません。もしオーバープリントをシミュレートしていなくても、透明の分割・統合により、印刷時または PDF への書き出し時に、オブジェクトのオーバープリントを維持できる場合があります。この場合、生成された PDF ファイルを Acrobat 5.0 以降で開き、「オーバープリントプレビュー」を選択することによって、正確にオーバープリントの結果を確認することができます。

逆に、オーバープリントを適用している場合、透明の分割・統合により、すべての不透明なオブジェクトで、オーバープリントをシミュレートできます。PDF 出力では、このシミュレーションにより、特色がプロセスカラーに変換されます。そのため、オーバープリントは、出力時に分版されるカラーに対しては選択しないようにしてください。

特色と描画モード

ある特定の描画モードで特色を使用すると、予期せぬ結果が生じる場合があります。これは InDesign が、特色に相当するプロセスカラーをモニター上に表示し、実際の印刷には特色を使用するためです。さらに、配置したグラフィック内の分離した描画モードが、アクティブなドキュメント上では抜きになっている場合もあります。

描画モードを使用する場合、表示メニューから「オーバープリントプレビュー」を選択し、定期的にデザインをチェックします。「オーバープリントプレビュー」は、透明オブジェクトによるオーバープリントや相互作用を、適切な特色インキで正確に近い状態で表示できるようにします。期待どおりでない場合は、必要に応じて次のいずれかの操作を行います。

- 別の描画モードを使用するか、描画モードを使用しないようにします。「差の絶対値」、「除外」、「色相」、「彩度」、「カラー」および「輝度」の各描画モードでは、特色をブレンドすることはできないので、避けてください。
- 可能であれば、プロセスカラーを使用します。

ブレンド領域

スプレッド上のオブジェクトに透明を適用する場合、スプレッド上のすべてのカラーは、選択されている「ドキュメントの RGB 領域を使用」または「ドキュメントの CMYK ドキュメント領域を使用」（編集／透明ブレンド領域の設定）に変換されます。なお、これは透明に含まれていなくても同様に変換されます。すべてのカラーを変換するのは、スプレッド上の透明な部分のカラーと不透明なカラーが設定されているオブジェクト同士のカラーの整合性を保つためです。これによって、透明がブレンドされる領域の端でカラーが急激に変化してしまうことを避けることができます。カラーは、オブジェクトを描くときに、「その場その場」で変換されます。配置されたグラフィックのカラーも透明に影響を受け、ブレンド領域に変換されます。これは、モニター上や印刷でのドキュメントのカラー表示方法に影響しますが、カラーがドキュメントで定義される方法には影響しません。

ワークフローでは、次のいずれかの操作を行います。

- 印刷用のドキュメントを作成する場合は、「ドキュメントの CMYK ドキュメント領域を使用」を選択します。
- Web 用のドキュメントを作成する場合は、「ドキュメントの RGB ドキュメント領域を使用」を選択します。
- 印刷と Web の両方で使用するドキュメントを作成する場合は、どちらがより重要であるかを判断し、最終出力に合うブレンド領域を選択します。

- 高解像度印刷用に作成したドキュメントの一部を Web サイト上の PDF ドキュメントとしても出版する場合、最終出力の前後でブレンド領域を変換する必要があるかもしれません。この場合、透明を含むスプレッドごとにカラーをチェックし、「差の絶対値」、「除外」の描画モードを使用しないようにします。これらのモードを使用すると、外観が劇的に変化します。

タイプ
文字が透明オブジェクトに近接している場合、予期しない方法で、透明オブジェクトと相互に作用する可能性があります。例えば、透明なオブジェクトの周りに配置されている文字は、実際にオブジェクトに重なっていなくても、字形が透明部分と相互に作用するのに十分に密接している場合があります。この場合、分割・統合によって、文字がグラフィックス化され、字形の線幅が太くなってしまいます。

このような問題が生じた場合、次のどちらかを行います。

- テキストを重なっているオブジェクトの最前面に移動します。選択ツールを使用してテキストフレームを選択し、オブジェクト／重ね順／最前面へを選択します。
- すべてのテキストをグラフィックス化することで、ドキュメント全体の文字の線幅を一定に保つことができます。すべてのテキストをアウトライン化するには、透明の分割・統合プリセットダイアログボックスの「すべてのテキストをアウトラインに変換」を選択します。このオプションを選択すると、処理速度に影響する可能性があります。

画像の置換
分割・統合により、高解像度データでは透明を含むドキュメントが正確に処理されます。ただし、OPI プロキシワークフローでは問題が生じる場合もあります。OPI ワークフローでは、プレースホルダ（画像の大きさと位置の目安となるボックス）またはプロキシ画像（プレビュー画像、アタリともいいます）が使用され、後に OPI サーバーで高解像度バージョンの画像に置換されます。分割・統合される際に高解像度データにアクセスできない場合は、OPI コメントは作成されずに低解像度の画像だけが出力され、最終出力で低解像度画像が使用されることになります。

OPI ワークフローで作業する場合、ドキュメントを PostScript ファイルとして保存する前に、InDesign で画像を置換することをお勧めします。EPS 画像を配置する場合や配置した EPS 画像を出力する場合は、設定を指定しなければなりません。EPS 画像を配置するときは、EPS 読み込みオプションダイアログボックスで、「埋め込まれた OPI 画像リンクの読み込み」を選択します。配置した EPS 画像を出力するときは、プリントダイアログボックスまたは EPS 書き出しダイアログボックスの「詳細」セクションで「OPI 画像を置換」を選択します。

カラー変換
透明オブジェクトが特色オブジェクトに重なっていると、ドキュメントを EPS 形式に書き出す場合や InDesign 以外のアプリケーションで特色をプロセスカラーに変換したり、色分解をする場合に、望ましくない結果が生じることがあります。

このような問題を防止するには、必要に応じて、InDesign から書き出す前にインキ管理を使用して特色をプロセスカラーに変換します。また別の方法としては、作成元のアプリケーション（例えば、Adobe Illustrator）と InDesign の特色インキが完全に一致していることを確認します。場合によっては、Illustrator ドキュメントを開き、特色をプロセスカラーに変換して、再び EPS ファイルに書き出してから、InDesign に配置し直す必要があるかもしれません。

Adobe PDF ファイル
Acrobat 4.0（Adobe PDF 1.3）への書き出しでは、透明を使用したドキュメントは常に統合されますが、透明オブジェクトの外観に影響することがあります。Adobe PDF を書き出しダイアログボックスの「色分解」セクションで「オーバープリント処理」が選択されていなければ、透明に関係しないオブジェクトは分割・統合されません。透明を含む InDesign ドキュメントを Adobe PDF に書き出すときは、PDF 書き出しプリセットダイアログボックスの「詳細」パネルで次のいずれかの操作を行います。

- 可能であれば、新規 PDF 書き出しプリセットダイアログボックスの上部の「互換性」で「Acrobat 5.0（Adobe PDF 1.4）」、「Acrobat 6.0（Adobe PDF 1.5）」または「Acrobat 7.0（Adobe PDF 1.6）」を選択すれば、透明は維持され、その属性が編集可能なままで保存されます。Acrobat 5.0、Acrobat 6.0 または Acrobat 7.0 ファイルを処理できるかどうか、印刷・出力会社に確認してください。
- Acrobat 4.0 互換の PDF を作成する必要がある場合、ドキュメント上で特色が使われている場合、またモニター表示用に PDF ファイルを作成したい場合（クライアントレビュー用など）には、Adobe PDF を書き出しダイアログボックスの「色分解」セクションで「オーバープリント処理」を選択することをお勧めします。「オーバープリント処理」は、特色と透明領域をモニター上に適切にシミュレーションします。そのため、ドキュメントが印刷でどのように表示されるかを見るために、Acrobat でオーバープリントプレビューを選択する必要がありません。しかしながら、「オーバープリント処理」は、すべての特色を近い色のプロセスカラーに変換しますので、最終目的として PDF ファイルを作成する場合には、このオプションを選択しないようにしてください。
- 定義済みの「プレス品質」PDF 書き出しプリセットの使用を検討してください。このプリセットには、複雑なドキュメントの高解像度出力が利用可能な透明の分割・統合設定（高解像度）が含まれています。

トラップ
分割・統合によって、ベクトルがラスタライズされる可能性があります。線を使用した Adobe Illustrator のアートワークに適用されたトラップは、InDesign に配置された場合は保持されます。ただし、InDesign で描かれたベクトルアートワークに適用されたトラップはラスタライズされ、保持されません。

できるだけ多くのベクトルオブジェクトを維持するには、プリントダイアログボックスまたは Adobe PDF を書き出しダイアログボックスの「詳細」セクションのプリセットポップアップメニューから「高解像度」を選択します。または、カスタマイズした透明の分割・統合プリセットを作成し、ラスタライズとベクトルのバランスのスライダーをできるだけ右側にします。

関連項目

(cc) BY-NC-SA

カラーブレンド

カラーのブレンド方法の指定
描画モードの分離
グループ内のオブジェクトへの抜きの設定
透明オブジェクトをブレンドするためのカラースペースの指定

ページの先頭へ

カラーのブレンド方法の指定

描画モードを使用して、重ね合わせた 2 つのオブジェクトのカラーをブレンドします。描画モードでは、重なり合うオブジェクトのカラーをブレンドする方法を選択できます。

1. 1 つ以上のオブジェクト、または 1 つのグループを選択します。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - 効果パネルで、メニューから「通常」、「オーバーレイ」などの描画モードを選択します。
   - 効果ダイアログボックスの「透明」のメニューから描画モードを選択します。

描画モードオプション

描画モードにより、ベースカラー（アートワークの下地カラー）とブレンドカラー（選択したオブジェクトまたはオブジェクトのグループのカラー）の相互作用を制御します。最終カラーは、ブレンドの結果生成されるカラーです。

標準 選択範囲をブレンドカラーでペイントします。ベースカラーと相互作用しません。デフォルトではこのモードに設定されています。

乗算 ベースカラーとブレンドカラーを掛け合わせます。最終カラーは、常に暗い色になります。カラーに黒を掛け合わせると常に黒になります。カラーに白を掛け合わせても、そのカラーは変化しません。複数のマジックマーカーを使って描画したような効果が得られます。

スクリーン ブレンドカラーとベースカラーの反転したカラーを掛け合わせます。最終カラーは、常に明るい色になります。黒にスクリーンを適用しても、カラーは変化しません。白にスクリーンを適用すると白になります。複数のスライド画像を重ねて投影したような効果が得られます。

オーバーレイ ベースカラーに応じて、カラーを乗算するかカラーにスクリーンを適用します。ベースカラーのハイライトとシャドウを保持しながら、パターンまたはカラーを既存のアートワークに重ね合わせます。ベースカラーは置き換えられず、ブレンドカラーと混ぜ合わされて、元のカラーの明るさを反映します。

ソフトライト ブレンドカラーに応じて、カラーの明るさを変化させます。アートワークに拡散スポットライトを当てたような効果が得られます。
ブレンドカラー（明るいソース）が 50 %グレーより明るい場合、アートワークは覆い焼きをしたように明るくなります。ブレンドカラーが 50 %グレーより暗い場合、アートワークは焼き込んだように暗くなります。純粋な黒または白でペイントすると、その部分の明暗ははっきりしますが、純粋な黒または白にはなりません。

ハードライト ブレンドカラーに応じて、カラーを乗算するかカラーにスクリーンを適用します。アートワークに強いスポットライトを当てたような効果が得られます。
ブレンドカラー（明るいソース）が 50 %グレーより明るい場合、アートワークはスクリーンを適用したように明るくなります。このモードは、アートワークにハイライトを追加するときに便利です。ブレンドカラーが 50 %グレーより暗い場合、アートワークは乗算を適用したように暗くなります。このモードは、アートワークに影を追加するときに便利です。純粋な黒または白でペイントすると、純粋な黒または白になります。

覆い焼きカラー ベースカラーを明るくしてブレンドカラーに反映します。黒でブレンドしても変化しません。

焼き込みカラー ベースカラーを暗くしてブレンドカラーに反映します。白でブレンドしても変化しません。

比較 (暗) ベースカラーとブレンドカラーのどちらか暗い方を最終カラーにします。ブレンドカラーより明るい部分は置き換えられ、ブレンドカラーより暗い部分は変化しません。

比較 (明) ベースカラーとブレンドカラーのどちらか明るい方を最終カラーにします。ブレンドカラーより暗い部分は置き換えられ、ブレンドカラーより明るい部分は変化しません。

差の絶対値 明度の高さに応じて、ベースカラーからブレンドカラーを引くか、ブレンドカラーからベースカラーを引きます。白とブレンドするとベースカラー値が反転します。黒とブレンドしても変化しません。

除外 「差の絶対値」モードと同様の効果が得られますが、コントラストは低くなります。白とブレンドするとベースカラーコンポーネントが反転します。黒でブレンドしても変化しません。

色相 ベースカラーの輝度と彩度、およびブレンドカラーの色相を持つ最終カラーが作成されます。

彩度 ベースカラーの輝度と色相、およびブレンドカラーの彩度を持つ最終カラーが作成されます。このモードを彩度のない（グレーの）部分に適用しても変化はありません。

カラー ベースカラーの輝度、およびブレンドカラーの色相と彩度を持つ最終カラーが作成されます。このモードでは、アートワークのグレーレベルが保持されるので、モノクロアートワークにカラーを適用したり、カラーアートワークの濃度を調整したりするときに便利です。

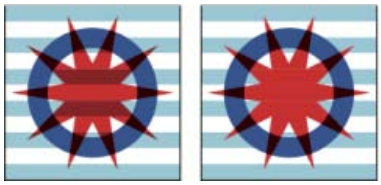
輝度 ベースカラーの色相と彩度、およびブレンドカラーの輝度を持つ最終カラーが作成されます。このモードでは、カラーモードの逆の効果を作成できます。

注意： 特色を使用しているオブジェクトに、「差の絶対値」、「除外」、「色相」、「彩度」、「カラー」および「輝度」の各描画モードは適用しないでください。ドキュメントに不要な色が追加されます。詳しくは、透明設定の成功事例を参照してください。

ページの先頭へ

描画モードの分離

オブジェクトに描画モードを適用すると、そのカラーはその下にあるすべてのオブジェクトとブレンドされます。ブレンドを特定のオブジェクトに限定するには、そのオブジェクトをグループ化してから、そのグループに「描画モードを分離」オプションを適用します。「描画モードを分離」オプションを適用すると、そのグループだけがブレンドされ、他のオブジェクトはブレンドされません。これは、「通常」以外の描画モードが適用されているオブジェクトに便利です。



「描画モードを分離」オプションを選択していないグループ（星と円）（左）と選択したグループ（右）の比較

描画モードは個々のオブジェクトに、「描画モードを分離」オプションはオブジェクトのグループに適用します。「描画モードを分離」オプションは、グループ内のブレンドが交差する部分を分離します。これは、グループに直接適用されている描画モードには影響しません。

1. ブレンドを分離するオブジェクトの描画モードと不透明度を個別に設定します。
2. 選択ツールを使用して、分離するオブジェクトを選択します。
3. オブジェクト／グループを選択します。
4. 効果パネルで、「描画モードを分離」を選択します（このオプションが表示されていなければ、効果パネルメニューから「オプションを表示」を選択します）。

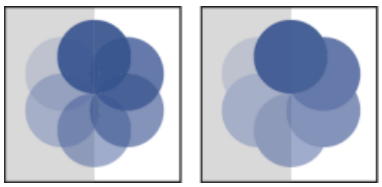
   描画モードが使用されている *PDF* ファイル内のオブジェクトのブレンドを分離することができます。まず、*PDF* を配置ダイアログボックスで「背景を透明に」オプションを選択して *PDF* ファイルを配置します。次に、「描画モードを分離」オプションを適用します。

ページの先頭へ

グループ内のオブジェクトへの抜きの設定

効果パネルの「グループの抜き」を使用すると、選択されているグループ内の不透明度と描画モードが設定されているオブジェクトにより、そのオブジェクトが覆うグループ内のオブジェクトを抜く、つまり表示しないようにすることができます。選択したグループ内のオブジェクトだけが抜かれて表示されます。選択したグループ内のオブジェクトに適用されている描画モードまたは不透明度は、そのグループの下にあるオブジェクトに影響を与えます。

描画モードと不透明度は個々のオブジェクトに、「グループの抜き」オプションはオブジェクトのグループに適用します。



「グループの抜き」を選択していないグループ（左）と選択したグループ（右）

1. 抜くオブジェクトの描画モードと不透明度を個別に設定します。
2. 選択ツールを使用して、抜くオブジェクトを選択します。
3. オブジェクト／グループを選択します。
4. 効果パネルで、「グループの抜き」を選択します（このオプションが表示されていなければ、効果パネルメニューから「オプションを表示」を選択します）。

ページの先頭へ

透明オブジェクトをブレンドするためのカラースペースの指定

スプレッド上の透明なオブジェクトのカラーをブレンドする場合、InDesign では、ドキュメントの CMYK または RGB カラープロファイルを使用して、すべてのオブジェクトのカラーを通常のカラースペースに変換します。この変換したブレンド領域では、透明が相互作用している複数のカラースペースのオブジェクトのブレンドを可能にします。オブジェクトが、モニター上と印刷での異なるカラースペースでミスマッチすることを避けるために、モニター上で透明ブレンド領域の設定を選択します。

透明ブレンド領域は、透明を含む複数のスプレッドに適用することができます。

- 編集／透明ブレンド領域の設定から、ドキュメントのカラースペースを選択します。

注意： 通常の印刷のワークフローには、「ドキュメントの *CMYK* 領域を使用」を選択してください。

関連項目

(cc) BY-NC-SR Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

書き出しとパブリッシュ

InDesign CS5.5 および Adobe Digital Publishing Suite を使用したデジタルマガジンの制作（ビデオ 9:06）（英語）
Terry White (2012/05/07)
チュートリアル - ビデオ
このビデオでは、InDesign でタブレットデバイス用の魅力的なデジタルマガジンを作成する方法を紹介します。

オーディオおよびビデオコンテンツの EPUB への追加（ビデオ 2:46）（英語）
Colin Fleming (2011/01/01)
チュートリアル - ビデオ
このビデオチュートリアルでは、EPUB への書き出し機能を紹介します。InDesign CS5.5 以降で、オーディオおよびビデオコンテンツをいかに簡単に埋め込めるかをご覧ください。

レイアウトを変更せずに、InDesign から EPUB へコンテンツを書き出す順番の制御（ビデオ 4:54）（英語）
Colin Fleming (2011/01/01)
チュートリアル - ビデオ
アーティクルパネルで、EPUB への書き出し用にアーティクルを作成および整理する方法を紹介します。この方法では、レイアウトの変更やコードの記述は不要です。

EPUB の表紙とタイトルページの作成（ビデオ 5:50）（英語）
Colin Fleming (2011/01/01)
チュートリアル - ビデオ
EPUB の表紙とタイトルページの作成方法を説明します

Exploring new FLA export options (video 6:26)
Anne-Marie Concepcion (2011/01/01)
チュートリアル - ビデオ
InDesign CS5 以降で機能強化された書き出しダイアログボックスを使用して、InDesign プロジェクトを Flash の様々な形式でパブリッシュする方法を紹介します。

EPUB へのドキュメントの書き出し（PDF、265 KB）（英語）
参照 (2011/01/01)
InDesign CS5 でレイアウトを EPUB に書き出す方法に関する短い簡単な概要です。

Apple iBookstore に対応した EPUB への書き出し（PDF、2.5 MB）（英語）
参照 (2011/01/01)
Apple iBookstore に対応した EPUB を作成する方法を説明します。

オブジェクトの書き出しオプションの設定（PDF、160 KB）、CS5.5 以降（英語）
参照 (2011/01/01)
オブジェクト書き出しオプションを使用して、書き出しワークフローを効率化する方法です。

EPUB への書き出しの機能強化により可能になった InDesign でのスタイルとタグのマッピング（ビデオ 5:13）（英語）
Colin Fleming (2011/01/01)
チュートリアル - ビデオ
InDesign CS5.5 以降では、InDesign で定義した段落スタイルや文字スタイルを EPUB、HTML および PDF のタグに直接マッピングして、それらのスタイルを適切に書き出すことができます。CSS のクラス名とタイプを独自のカスタムタグに追加することもできます。

オブジェクト書き出しオプションを使用して、EPUB へのオブジェクトおよび画像の書き出し方法をカスタマイズする（ビデオ 5:18）（英語）
Colin Fleming (2011/01/01)
チュートリアル - ビデオ
オブジェクト書き出しオプションを使用して、オブジェクトおよび画像を EPUB に書き出す方法をカスタマイズすることで、サイズに関係なく、あらゆる画面上で最適な表示結果を確実に得られるようにします。

EPUB へのコンテンツの書き出し

概要
テキストのサポート
ハイパーリンクのサポート
ナビゲーションのサポート
ブックの CSS の生成
EPUB への書き出し
固定レイアウト書き出しオプション
リフロー可能書き出しオプション
オブジェクト書き出しオプション
EPUB のリソース

ページの先頭へ

概要

InDesign ドキュメントを EPUB に書き出して、EPUB リーダーで出力を表示できます。

リフロー可能な EPUB 形式でドキュメントを書き出すことを選択できます。リフロー可能な EPUB ドキュメントの場合、EPUB リーダーは表示デバイスに応じてコンテンツを最適化できます。

ドキュメントが eInk デバイスのユーザーを対象としている場合には、リフロー可能な形式が適しています。また、リーダーのフォントやサイズを変更するオプションを提供する場合にも、リフロー可能な形式が推奨されます。

固定レイアウト形式でドキュメントを書き出すことを選択できます。固定レイアウト形式では、ドキュメントにオーディオ、ビデオ、および Edge コンテンツを含めることができます。

ナビゲーションボタン、ページ遷移、アニメーション、ハイパーリンクなどのコントロールを含んだインタラクティブドキュメントを、固定レイアウト形式で書き出すこともできます。

固定レイアウト形式は、多数のグラフィック、オーディオ、ビデオコンテンツを含んでいるドキュメントに適しています。この形式は子供の本、料理本、教科書、および漫画本に適しています。

ページの先頭へ

テキストのサポート

固定レイアウト形式で書き出されるドキュメントを作成するときにサポートされるテキストオプションは、以下のとおりです。

- テキストはラスタライズされません。つまり、ライブテキストは検索および選択の対象になります。
- ライブテキストは水平方向と垂直方向にスケーリングすることができます。
- タブリーダーを含めることができます
- 言語属性は、タグでマークアップされます
- タグは、CSS クラスによってマークアップされます
- URL、テキストアンカー、およびページに対するハイパーリンクおよび相互参照がテキスト上でサポートされています

EPUB に書き出すためにドキュメントにテキストを含める場合には、以下の制限事項にも注意してください。

- カーニングは個々の字形でサポートされておらず、単語のすべての文字に文字間隔として分配されます。
- OpenType 機能によって生成されるスモールキャップス、オールキャップス、分数などの代替字形は、デバイスのサポートが限定的であるため、サポートされていません。
- 中東の右から左へのテキストフレームは、依然として適切にサポートされていません

日本語テキストのサポート

固定レイアウト形式に書き出す際には、次の日本語機能オプションを使用できます。

- Ruby テキストはライブで、出力でラスタライズされません
- ライブテキストで割注がサポートされます
- ライブテキストで文字回転がサポートされます
- 合成フォントがサポートされます
- 縦組みテキストフレームは、回転したグリフも含めてサポートされます

EPUB に書き出すためにドキュメントに日本語テキストを含める場合には、以下の制限事項にも注意してください。

- 縦書きのテキストフレームでは、日本語の縦中横はサポートされません
- 日本語の表意文字のポジショニングは、True Type フォントを使用した場合に失われます
- 日本語の圏点フォントは、ライブテキストでラスタライズされます

ページの先頭へ

ハイパーリンクのサポート

固定レイアウト形式で書き出されるドキュメントを作成するときにサポートされるハイパーリンクオプションは、以下のとおりです。

- テキストベースのハイパーリンクと相互参照
- オブジェクトベースのハイパーリンク
- ページにテキストベースのハイパーリンクとオブジェクトベースのハイパーリンクの両方を作成します

ページの先頭へ

ナビゲーションのサポート

書き出しプロセスでは、EPUB 出力に次のナビゲーション機能が提供されます。

NAV ランドマーク　NAV ランドマークは、「オブジェクト書き出しオプション」ダイアログに指定された `epub:type` の値に基づいて、固定レイアウト形式とリフロー可能形式の両方で生成されます。
最初に見つかった値だけがランドマークに追加されます。

EPUB2　InDesign では、OPF ファイル内の EPUB 2 セクションがサポートされます。InDesign では、カバーおよび `print` 目次オプションが自動的に検出されます。テキストタイプを判別するため、InDesign は、「オブジェクト書き出しオプション」ダイアログに指定された `epub:type` の値を使用します。

NAV ページリスト　（固定レイアウト形式）。InDesign では、ページ番号の文字列をそのページから生成される XHTML ファイルにマッピングすることによって、ページリストを生成します。

ページの先頭へ

ブックの CSS の生成

ブックを Epub に書き出す際に、書き出しプロセスによってブック内の各ドキュメントに CSS が生成されます。各ドキュメント CSS は、そのドキュメントに固有のスタイルを定義します。このプロセスでは、ブック内のドキュメント全体で使用される一般的なスタイルを含んだマスター CSS も作成されます。

ページの先頭へ

EPUB への書き出し

ドキュメントやブックは、リフロー可能レイアウトまたは固定レイアウトの EPUB 形式で書き出すことができます。

1. 次のいずれかの操作を行います。
   - ドキュメントを開き、ファイル／書き出しを選択します。
   - ブックを開き、ブックパネルメニューで「ブックを EPUB に書き出し」を選択します。
2. ファイル名と場所を指定します。
3. 「「ファイルの種類」（Windows）または「形式」（Macintosh）」リストから「EPUB（固定レイアウト）」または「EPUB（リフロー可能）」を選択し、「保存」をクリックします。
4. EPUB 書き出しオプションダイアログボックスで、必要なオプションを指定し、「OK」をクリックします。

   詳しくは、固定レイアウト書き出しオプションまたはリフロー可能書き出しオプションを参照してください。

XHTML ベースのコンテンツを含む単一の .epub ファイルが作成されます。ファイルを表示するには、EPUB リーダーが必要です。Adobe Digital Editions リーダー（アドビ システムズ社の Web サイトから無償でダウンロード可能）も使用できます。

.epub ファイルは .zip ファイルです。.epub ファイルのコンテンツを表示および編集するには、拡張子を .epub から .zip に変更して、コンテンツを抽出します。これは、CSS ファイルを編集する場合に便利です。

書き出された .epub ファイルに、カバー画像が含まれる場合があります。カバーとして使用する画像を選択できます。または、InDesign で、書き出されたドキュメント、スタイルソースドキュメントまたは書き出されたブック内の最初のページをラスタライズすることができます。サムネール画像は、EPUB リーダーや Digital Editions リーダーのライブラリビューに表示されます。

ページの先頭へ

固定レイアウト書き出しオプション

「一般」セクション

バージョン　EPUB のバージョン。

EPUB 3.0　オーディオ、ビデオ、Javascript、日本語の縦書き文字がサポートされます。
EPUB 3.0 規格をサポートしていないデバイスではサポートされません。
EPUB 3.0 は、2011 年に IDPF によって承認された規格です。

カバー　eBook のカバー画像。次のいずれかを選択します。

なし　カバー画像は追加されません。

最初のページをラスタライズ　このオプションを選択すると、InDesign によって、eBook の最初のページをラスタライズして画像が作成され、カバーとして使用されます。

画像を選択　カバーとして使用するコンピューター上の画像ファイルを選択します。

ナビゲーション目次　EPUB ビューアの目次のナビゲーションオプションを指定します。
複数レベル（目次スタイル）を使用してサイドバーナビゲーションを作成するか、ファイル名を使用します。

ファイル名　ファイル名に基づいて目次を生成します。

複数レベル（目次スタイル） 選択した目次スタイルに基づいて目次を生成します。
目次スタイルメニューから、eBook 内で目次を構築するための目次スタイルを指定します。
レイアウト／目次スタイルを選択して、eBook 用の特別な目次スタイルを作成することもできます。

ブックマーク （EPUB 3）InDesign ドキュメントで作成したブックマークに基づいて目次を生成します。
InDesign では、ローカルまたは外部（ブックから）のテキストアンカーとページがサポートされます。外部のテキストアンカーやページは、InDesign で目次を作成して、**PDF** ブックマークの作成を指定することによって生成することができます。
詳しくは、ブックマークを参照してください。

オプション ページアイテムの書き出し順序を指定します。

ドキュメント設定を基準にする InDesign では、ドキュメント設定ダイアログボックス（ファイル／ドキュメント設定）で定義した設定に基づいてスプレッドコントロールが判別されます。

スプレッドを横置きページに変換 スプレッドを横置きページに変換します。

合成スプレッドを有効にする ドキュメントの合成スプレッドを書き出せるようにします。

スプレッドを無効にする スプレッドは EPUB の出力に書き出されません。

「変換設定」セクション

画像変換メニューから、EPUB への画像の書き出し方法を指定します。

形式 ドキュメントの最適化画像を GIF、JPEG または PNG のいずれに変換するかを選択します。

自動 各画像で使用する形式が、InDesign によって決定されるようにします。

PNG 画像圧縮設定を無効にします。データ損失のない画像や、透明を含む画像には、PNG を使用します。

解像度（**PPI**） 画像の解像度を ppi で選択します。オペレーティングシステムは 72 ppi または 96 ppi で標準化されていますが、モバイルデバイスは 132 ppi（iPad）～172 ppi（Sony リーダー）、300 ppi（iPhone 4）以上と範囲が異なります。
選択したオブジェクトごとに ppi 値を選択できます。値には、72、96、150（現在のすべての eBook デバイスの平均）、および 300 があります。

GIF オプション（パレット） 最適化 GIF ファイルを作成する場合の、InDesign でのカラーの処理を調整します。GIF 形式は、256 色以下のカラーパレットを使用しています。

使用中の色に合わせて割り付ける（ディザなし） ディザ処理（色の小さな点を混ぜて存在しない色を表現する）をせずに、グラフィックで中心的に使われているカラーを抽出してパレットを作成します。

Web Web セーフカラー（Windows および Mac OS のシステムカラーのサブセット）を使用してパレットを作成します。

「システム（**Windows**）」または「システム（**Mac OS**）」 組み込みのシステムカラーパレットを使用してパレットを作成します。このオプションを使用すると、予期しない結果が生じることがあります。

インターレース 表示されていない行を埋めるようにして、徐々に画像を読み込みます。このオプションを選択していない場合、ぼやけて表示されていた画像が、元の解像度に近くなるにつれて徐々に明確になります。

JPEG オプション／形式 ブラウザーで JPEG 画像が含まれるファイルを開いてから、その画像が表示されるまでの速さを指定します。

プログレッシブ Web ブラウザーにダウンロードされるにしたがって、徐々に JPEG 画像の詳細が表示されるようにします。

このオプションを指定して作成されたファイルは、サイズがやや大きくなります。また、表示のためにより多くのメモリが必要になります。
各 JPEG ファイルがダウンロードされた後にのみ表示するベースラインを選択します。画像がダウンロードされるまでは、プレースホルダーが表示されます。

ベースライン 各 JPEG ファイルを、ダウンロードの完了後にのみ表示します。
画像がダウンロードされるまでは、プレースホルダーが表示されます。

JPEG オプション／画質 出力内に作成される JPEG 画像ごとに、必要な画質を選択します。
「低画質」を選択すると、ファイルサイズは最小になり、画質も最も低くなります。

EPUBの書き出し（固定レイアウト）ダイアログボックスの「アプリケーションを表示」セクションには、次のようなオプションがあります。

書き出し後 **EPUB** を表示 EPUB の読み取り用に選択されているアプリケーションが使用可能であれば、そのデフォルトアプリケーションで EPUB を開きます。
リフロー可能と固定レイアウトの両方の書き出しオプションダイアログボックスに適用されます。

EPUB アプリケーション	バージョン	対応	非対応
Mac			
Apple iBooks	1.0.1		
Oxygen	14.1		
Kindle Previewer	2.92		
Sigil	0.7.4		
Kindle	1.10.6		
VitalSource Bookshelf	6.2		
Apple Book Proofer	1.0.1	EPUB にフォントを埋め込めない	
Windows			
Sigil	0.7.4		
Kindle Previewer	2.92		
Adobe Digital Editions	3.0.86137		
Calibre	1.26		
Oxygen	15		
Azardi	2.0		
Kobo	3.6.0		

「メタデータ」セクション

書き出すファイルに、ドキュメント（ブックを選択した場合はスタイルソースドキュメント）のメタデータを含めます。

識別子 （読み取り専用）EPUB ドキュメントにはそれぞれ固有の識別子が必要です。固有の識別子は自動的に作成され、表示されます。

タイトル EPUB のタイトルを入力します。

作成者 EPUB の作成者の名前を入力します。

日付 EPUB が作成された日付を指定します。

説明 EPUB の説明を入力します。

出版社 eBook メタデータに含める発行側の情報を指定します。例えば、発行者の URL を指定できます。

権利 著作権情報をここに入力します。

サブタイトル EPUB のサブタイトルを入力します。

「CSS」セクション

スタイルシートを追加 EPUB への書き出しで使用される、既存の CSS スタイルシートの URL を指定します。
InDesign では CSS の存在や有効性は検証されません。外部 CSS の設定は Dreamweaver を使用して確認できます。

削除 選択したスタイルシートを削除します。

「Javascript」セクション

Javascript 既存の JavaScript への URL を指定します。InDesign では、JavaScript の存在や有効性は検証されないため、JavaScript の設定を確認する必要があります。

ページの先頭へ

リフロー可能書き出しオプション

「一般」セクション

バージョン EPUB のバージョンを指定します。

EPUB2.0.1 EPUB 2.0.1 は 2007 年に IDPF によって承認された規格です。この形式は、幅広いモバイルデバイスでサポートされています。

EPUB3.0 EPUB 3.0 は 2011 年に IDPF によって承認された規格です。この形式では、オーディオ、ビデオ、Javascript、日本語の縦書き文字もサポートされています。これは、EPUB 3.0 規格をサポートしていないリーダーおよびデバイスでは動作しません。

カバー eBook のカバー画像を指定します。次のいずれかを選択します。

なし カバー画像は追加されません。

最初のページをラスタライズ このオプションを選択すると、InDesign によって、eBook の最初のページをラスタライズして画像が作成され、カバーとして使用されます。

画像を選択 カバーとして使用するコンピューター上の画像ファイルを選択します。

ナビゲーション目次 EPUB ビューアの目次のナビゲーションオプションを指定します。
複数レベル（目次スタイル）を使用してサイドバーナビゲーションを作成するか、ファイル名を使用します。

ファイル名 ファイル名に基づいて目次を生成します。

複数レベル（目次スタイル） 選択した目次スタイルに基づいて目次を生成します。目次スタイルメニューから、eBook 内で目次を構築する際に使用する目次スタイルを指定します。レイアウト／目次スタイルを選択して eBook 用の特別な目次スタイルを作成することもできます。

順序 ページアイテムの書き出し順序を指定します。

ページレイアウトを基準にする ページ上のアイテムの位置によって読み上げ順序が決まります。

「ページレイアウトを基準にする」を選択した場合、ページオブジェクトの読み上げ順序は左から右へおよび上から下へ、になります。場合によっては（特に、複雑な複数段組ドキュメントの場合は）、デザイン要素が目的の読み上げ順序に表示されないことがあります。コンテンツを再配置およびフォーマットするには、Dreamweaver を使用します。

（アジア言語版のみ）「ページレイアウトを基準にする」を選択した場合、ページオブジェクトの読み上げ順序は、ドキュメントの綴じ方（左から右または右から左）に従って決定されます。場合によっては（特に、複雑な複数段組ドキュメントの場合は）、書き出されたデザイン要素が目的の読み上げ順序に表示されないことがあります。コンテンツを再配置およびフォーマットするには、Dreamweaver を使用します。

XML 構造と同じ 構造ウィンドウでのタグの順序に従って読み取り順序が決定されます。ページアイテムのタグ付けを参照してください。

アーティクルパネルと同じ アーティクルパネルのエレメントの順序に従って読み取り順序が決定されます。チェック済みのアーティクルのみが書き出されます。詳しくは、書き出しにアーティクルを含めるを参照してください。

「テキスト」セクション

脚注 次のオプションから脚注の配置を選択します。

- 段落の後：脚注を段落の後に配置します。
- セクションの最後（文末脚注）：脚注を文末脚注に変換するには、このオプションを選択します。
- ポップアップ表示（EPUB3）：脚注をポップアップ内に配置するには、このオプションを選択します。

ドキュメントの脚注オプションを使用して脚注を追加し、罫線（例えば、10 ポイントの線幅）を指定する場合、この水平の罫線は、書き出し時にリフロー可能な EPUB でサポートされます。

オプション／強制改行を削除 書き出した eBook 内のソフトリターンをすべて削除します。

リスト／記号 箇条書きの段落をリストアイテムに変換するには「番号なしリストにマップ」を選択します。リストアイテムは、HTML で <ul> タグを使用してフォーマットされます。
<p> タグを使用して箇条書き記号をテキストとしてフォーマットするには「テキストに変換」を選択します。InDesign のネイティブの自動箇条書きを使用した場合は、小段落の箇条書きも対象となります。

リスト／番号 HTML ファイルでの番号の変換方法を指定します。InDesign の自動番号リストを使用した場合は、下位レベルの段落の箇条書きも対象となります。

番号付きリストにマップ 自動番号リストをリストアイテムに変換します。リストアイテムは HTML で <ol> タグを使用してフォーマットされます。

テキストに変換 自動番号リストを、番号を含め、テキストとして現在の番号で始まる段落に変換します。

「オブジェクト」セクション

画像変換メニューから、HTML への画像の書き出し方法を指定します。

レイアウトのアピアランスを保持 オンにすると、画像オブジェクト属性がレイアウトから継承されます。

変換設定／解像度（**ppi**） 画像の解像度を ppi で選択します。オペレーティングシステムは 72 ppi または 96 ppi で標準化されていますが、モバイルデバイスは 132 ppi（iPad） 〜 172 ppi（Sony リーダー）、300 ppi（iPhone 4）以上と解像度が異なります。選択したオブジェクトごとに ppi

値を選択できます。値には、72、96、150（現在のすべての eBook デバイスの平均）、および 300 があります。

CSS／レイアウト 画像の左端揃え、中央揃え、右端揃えを指定します。上下の間隔も指定できます。

CSS／改ページを挿入 画像に改ページを挿入します。改ページは、画像の前、画像の後、または画像の前後に挿入できます。

変換設定セクション

形式 ドキュメントの最適化画像を GIF、JPEG または PNG のいずれに変換するかを選択します。各画像でどの形式を使用するかを InDesign で決定されるようにするには、「自動」を選択します。「PNG」を選択すると、画像圧縮設定が無効になります。データ損失がない画像、または透明を含む画像には「PNG」を使用します。

GIF オプション（パレット） 最適化 GIF ファイルを作成する場合の、InDesign でのカラーの処理を調整します。GIF 形式は、256 色以下のカラーパレットを使用しています。

> **使用中の色に合わせて割り付ける（ディザなし）** ディザ処理（色の小さな点を混ぜて存在しない色を表現する）をせずに、グラフィックで中心的に使われているカラーを抽出してパレットを作成します。
>
> **Web** Web セーフカラー（Windows および Mac OS のシステムカラーのサブセット）を使用してパレットを作成します。
>
> **「システム（Windows）」または「システム（Mac OS）」** 組み込みのシステムカラーパレットを使用してパレットを作成します。このオプションを使用すると、予期しない結果が生じることがあります。
>
> **インターレース** 表示されていない行を埋めるようにして、徐々に画像を読み込みます。このオプションを選択していない場合、ぼやけて表示されていた画像が、元の解像度に近くなるにつれて徐々に明確になります。

JPEG オプション／形式 ブラウザーで JPEG 画像が含まれるファイルを開いてから、その画像が表示されるまでの速さを指定します。

> **プログレッシブ** Web ブラウザーにダウンロードされるにしたがって、徐々に JPEG 画像の詳細が表示されるようにします。
> このオプションを指定して作成されたファイルは、サイズがやや大きくなります。また、表示のためにより多くのメモリが必要になります。
> **各 JPEG ファイルがダウンロードされた後にのみ表示するベースライン**を選択します。画像がダウンロードされるまでは、プレースホルダーが表示されます。
>
> **ベースライン** 各 JPEG ファイルを、ダウンロードの完了後にのみ表示します。
> 画像がダウンロードされるまでは、プレースホルダーが表示されます。

JPEG オプション／画質 出力内に作成される JPEG 画像ごとに、必要な画質を選択します。
「低画質」を選択すると、ファイルサイズは最小になり、画質も最も低くなります。

オブジェクト書き出し設定を無視 個々の画像に適用されたオブジェクト書き出し設定を無視します。オブジェクト書き出しオプションの適用を参照してください。

「メタデータ」セクション

書き出すファイルには、ドキュメント（ブックを選択した場合はスタイルソースドキュメント）のメタデータが含まれます。EPUB - リフロー可能なレイアウト書き出しダイアログボックスのメタデータセクションには、次のオプションがあります。

> **識別子** （読み取り専用）EPUB ドキュメントにはそれぞれ固有の識別子が必要です。固有の識別子は自動的に作成され、表示されます。
>
> **タイトル** EPUB のタイトルを入力します。

作成者 固定レイアウト EPUB の作成者の名前を入力します。

日付 EPUB が作成された日付を指定します。

説明 EPUB の説明を入力します。

出版社 発行者の情報（発行者の URL など）を入力します。

権利 EPUB の著作権関連の情報を入力します。

サブタイトル EPUB のサブタイトルを入力します。

「CSS」セクション

カスケーディングスタイルシート （CSS） は、Web ページのコンテンツの外観を制御するフォーマットルールの集まりです。ページのフォーマットに CSS を使用すると、コンテンツと表示を切り分けることができます。EPUBの書き出し（リフロー）ダイアログボックスの「CSS」セクションには、次のオプションがあります。

CSS を生成 書き出されるファイルのために外部 CSS を InDesign で生成するかどうかを指定します。CSS を生成せずにドキュメントまたはブックを EPUB に書き出すと、スタイルに関連付けられているクラスのみが HTML タグでマークアップされます。オーバーライドクラスは作成されません。

ローカルオーバーライドを保持 斜体や太字などのローカル書式設定を含めます。

埋め込みフォントを含む 埋め込み可能なすべてのフォントを eBook に含めます。各フォントには、埋め込みが可能かどうかを示す埋め込みビットが含まれています。

スタイルシートを追加 既存の CSS スタイルシートの URL を指定します。InDesign では CSS の存在や有効性は検証されません。外部 CSS の設定は Dreamweaver を使用して確認できます。

Javascriptセクション

Javascript 既存の JavaScript への URL を指定します。InDesign では、JavaScript の存在や有効性は検証されないため、JavaScript の設定を確認する必要があります。

ページの先頭へ

オブジェクト書き出しオプション

オブジェクト書き出しオプションダイアログのオプションを使用して、EPUB 書き出しの際にドキュメント内のオブジェクトがどのように処理されるか指定します。

1. オブジェクト書き出しオプションダイアログを開いて（オブジェクト／書き出しオプション）、「EPUB および HTML」セクションに移動します。
2. 「レイアウトのアピアランスを保持」リスト内の、次のオプションから選択します。

デフォルト オブジェクトの処理は、書き出しダイアログの設定によって決まります。
これは、リフロー可能な形式の場合は「変換」タブの設定によって制御されます。

グラフィックオブジェクトに既存の画像を使用 オブジェクトに画像が含まれており、その画像が EPUB 書き出しと互換性がある（JPG、PNG、GIF）場合、CSS を使用してコンテナがスタイル設定され、画像は処理されません。

コンテナをラスタライズ これは、リフロー可能書き出し/変換セクションの「レイアウトのアピアランスを保持」と同じです。オブジェクト全体がラスタライズされるので、アピアランスが保持されます。
オブジェクトがテキストフレームの場合、テキストがライブテキストではなくなります。

コンテンツをラスタライズ オブジェクトのコンテンツはラスタライズされるので、オブジェクトやコンテナのスタイル設定は CSS によって制御されます。InDesign で表示されたときのような、完全な表示にならない場合があります。

3. （リフロー可能 EPUB）サイズリストの以下のオプションから選択して、内部固定コンテンツを持たない画像などのオブジェクトの縦横比を維持します。

なし オブジェクトからマップされたタグに対して、CSS の幅または高さは生成されません。オブジェクトのサイズは内部のコンテンツがあれば、それによって決まります。 CSS ルールに従い、縦横比は維持されません。

デフォルト CSS サイズは、書き出しダイアログ/オブジェクトタブの設定によって決まります。

固定 CSS のサイズは、オブジェクトの寸法をポイント単位で計算し、同じ寸法を CSS でピクセルとして定義することで決まります。オブジェクトの縦横比は維持されます。

テキストの方向を基準にする CSS の幅は、オブジェクトの幅を取り、それをテキストフローを含むテキストフレームの幅に対する比率として表現することによって決まります。オブジェクトの縦横比は維持されます。

テキストサイズを基準にする CSS の高さは、オブジェクトの高さをポイント単位で取り、EM あたり 12pts で EM に変換することによって決まります。オブジェクトの縦横比は維持されます。

幅/高さのカスタム設定 有効な CSS 単位は、`cm`、`mm`、`in`、`pt`、`%`、`px`、`vh`、`vw`、`vmin`、および `vmax` です。 オブジェクトの縦横比は維持されます。

注意： これらのオプションは、メインフローテキストフレームには適用されません。

注意： *Edge Animate* を含んでいるオブジェクトでは、相対測定はサポートされません。

ページの先頭へ

EPUB のリソース

EPUB 形式について詳しくは、次のリンクを参照してください。

- EPUB 仕様について詳しくは、www.idpf.org（英語）を参照してください。
- Digital Editions リーダーは、www.adobe.com/jp/products/digital-editions.html（英語）から無料でダウンロードできます。
- Digital Editions について詳しくは、Digital Editions（英語） のブログを参照してください。
- Kindle 形式での書き出しについては、ホワイトペーパー：InDesign から Kindle 形式への書き出し（英語）（PDF）を参照してください。
- InDesign ファイルを EPUB 形式に変換して Apple iPad で表示できる eBook の販売を開始する方法をご説明します。詳しくは、ホワイトペーパー：InDesign から iPad 形式への書き出し（英語）を参照してください。

(cc) BY-NC-SR Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

HTML へのコンテンツの書き出し

HTML への書き出しは、InDesign コンテンツを Web 対応形式にする簡単な方法です。コンテンツを HTML に書き出すときに、テキストと画像の書き出し方法を調整できます。InDesign では、同じ名前の CSS スタイルクラスで HTML コンテンツをマークアップすることで、書き出されるコンテンツに適用された段落スタイル、文字スタイル、オブジェクトスタイル、目次スタイル、およびセルスタイルの名前を保持します。Adobe Dreamweaver やその他の CSS 対応 HTML エディターを使用して、コンテンツに形式やレイアウトを簡単に適用できます。

書き出される内容 InDesign は、ストーリー、リンクと埋め込み画像、SWF ムービーファイル、脚注、テキスト変数（テキストで）、箇条書きリストと自動番号リスト、内部相互参照、テキストや Web ページにジャンプするハイパーリンクをすべて書き出します。

表を HTML に書き出すこともできます。その際、表およびセルの罫線など、表の書式設定も保持されます。表には固有の ID が割り当てられ、Dreamweaver で Spry データセットとして参照できます。配置されたオーディオファイルと h.264 ビデオファイルは HTML5 <audio> タグおよび <video> タグで囲まれます。InDesignでは、（長方形、楕円、多角形などの）描画オブジェクト、（ペーストされた Illustrator の画像を含む）ペーストされたオブジェクト、およびアウトラインに変換されたテキストも書き出します。

書き出されない内容 InDesign では、ハイパーリンク（Web ページへのリンクや同じドキュメント内のテキストアンカーにジャンプするテキストに適用されるリンクを除く）、XML タグ、ブック、ブックマーク、SING グリフレット、ページ効果、索引マーカー、ペーストボード上の選択されていないページに接していないオブジェクト、マスターページアイテム（書き出す前に既にオーバーライドした、または選択した場合を除く）は書き出されません。

1. ドキュメント全体を書き出さない場合は、書き出すテキストフレーム、テキストの範囲、表のセル、またはグラフィックを選択します。
2. ファイル／書き出しを選択し、「ファイルの種類」（Windows）または「形式」（Macintosh）から「HTML」を選択します。
3. HTML ドキュメントの名前と保存場所を指定して、「保存」をクリックします。
4. HTML 書き出しオプションダイアログボックスから、「一般」、「画像」および「詳細」セクションで目的のオプションを指定して、「OK」をクリックします。

指定した名前と .html 拡張子を持つドキュメント（「newsletter.html」など）が作成され、指定した場合は Web 画像サブフォルダー（「newsletter-web-images」など）が同じ場所に保存されます。

HTML 書き出しオプション

HTML 書き出しオプションダイアログボックスで、次のオプションを指定します。

共通オプション

「一般」セクションには次のオプションがあります。

書き出し 選択したアイテムのみを書き出すか、ドキュメント全体を書き出すかを指定します。テキストフレームを選択した場合は、オーバーセットテキストを含むすべてのストーリーを書き出します。

ドキュメントを選択した場合は、すべてのスプレッドのすべてのページアイテムが書き出されます。ただし、オーバーライドされていないマスターページアイテムと隠れたレイヤー上のページアイテムは書き出されません。XML タグおよび生成された索引と目次も無視されます。

コンテンツの順序 ページオブジェクトの読み上げ順序を指定できます。

ページレイアウトを基準にする

ページ上のアイテムの位置によって読み上げ順序が決まります。

「ページレイアウトを基準にする」を選択した場合、ページオブジェクトの読み上げ順序は左から右へおよび上から下へ、になります。場合によっては（特に、複雑な複数段組ドキュメントの場合は）、デザイン要素が目的の読み上げ順序に表示されないことがあります。コンテンツを再配置およびフォーマットするには、Dreamweaver を使用します。

（アジア言語版のみ）「ページレイアウトを基準にする」を選択した場合、ページオブジェクトの読み上げ順序は、ドキュメントの綴じ方（左から右または右から左）に従って決定されます。

XML 構造と同じ

「XML 構造と同じ」を選択した場合、XML 構造ウィンドウによって、書き出されるコンテンツの順序および書き出されるコンテンツが制御されます。コンテンツに既にタグが設定されている場合、XML 構造ウィンドウでタグをドラッグするだけで、XHTML の書き出しの順序を設定できます。コンテンツにタグが設定されていない場合、構造パネルメニューから「タグ付けされていないアイテムを追加」を選択して、順序の変更が可能なタグを生成できます。アイテムを書き出しから除外する場合は、XML 構造ウィンドウでタグを削除するだけで済みます（タグを削除しても、INDD ファイルからコンテンツが削除されるわけではありません）。ページアイテムのタグ付けを参照してください。

アーティクルパネルと同じ

アーティクルパネルのエレメントの順序に従って読み取り順序が決定されます。チェック済みのアーティクルのみが書き出されます。書き出しにアーティクルを含めるを参照してください。

フォーマットのオプション 箇条書きと自動番号処理のフォーマットオプションを選択します。

箇条書き 箇条書きの段落をリストアイテムに変換するには「番号なしリストにマップ」を選択します。リストアイテムは HTML で <> タグを使用してフォーマットされます。タグを使用して箇条書き記号をテキストとしてフォーマットするには「テキストに変換」を選択します。InDesign のネイティブの自動箇条書きを使用した場合は、小段落の箇条書きも対象となります。

番号 HTML ファイルでの番号の変換方法を指定します。InDesign の自動番号リストを使用した場合は、下位レベルの段落の箇条書きも対象となります。

- 番号付きリストにマップ：自動番号リストを HTML でタグを使用してフォーマットされたリストアイテムに変換します。
- テキストに変換：自動番号リストを、番号を含め、テキストとして現在の番号で始まる段落に変換します。

書き出し後 **HTML** を表示 ブラウザーを起動します（存在する場合）。

画像オプション

画像をコピー HTML への画像の書き出し方法を指定します。

オリジナル オリジナル画像を「<document_name>-web-images」サブフォルダーに書き出します。このオプションを選択すると、他のすべてのオプションが選択不可になります。

最適化 画像の書き出し方法の設定は変更できます。

サーバーパスへのリンク このオプションにより、サブフォルダーへ画像を書き出すのではなく、画像ファイルの前に表示されるローカル URL（「images¥」など）を入力できます。HTML コードでは、リンク属性により指定したパスと拡張子が表示されます。このオプションは、画像を自身で Web 互換の画像として変換している場合は特に便利です。

レイアウトのアピアランスを保持 オンにすると、画像オブジェクト属性がレイアウトから継承されます。

解像度（**ppi**） 画像の解像度を ppi で選択します。オペレーティングシステムは 72 ppi または 96 ppi で標準化されていますが、モバイルデバイスは 132 ppi（iPad） ～ 172 ppi（Sony リーダー）、300 ppi（iPhone 4）以上と解像度が異なります。選択したオブジェクトごとに ppi 値を選択できます。値には、72、96、150（現在のすべての eBook デバイスの平均）、および 300 があります。

CSS サイズ 画像サイズを固定するか、ページのテキストを基準にして変更するかを指定します。「テキストの方向を基準にする」を選択すると、InDesign ページ幅を基準としたテキストフローに基づいて相対的なパーセント値が設定されます。このオプションを使用すると、読み取り領域のテキストに基づいて縦横比率を維持したまま画像サイズが変更されます。

CSS サイズ 画像の左端揃え、中央揃え、右端揃えを指定します。上下の間隔も指定できます。

形式 ドキュメントの最適化画像を GIF、JPEG または PNG のいずれに変換するかを選択します。各画像でどの形式を使用するかを InDesign で決定されるようにするには、「自動」を選択します。「PNG」を選択すると、画像圧縮設定が無効になります。データ損失がない画像、または透明を含む画像には「PNG」を使用します。

GIF オプション（パレット） 最適化 GIF ファイルを作成する場合の、InDesign でのカラーの処理を調整します。GIF 形式は、256 色以下のカラーパレットを使用しています。

「使用中の色に合わせて割り付ける（ディザなし）」を選択すると、ディザ処理（色の小さな点を混ぜて存在しない色を表現する）をせずに、グラフィックで中心的に使われているカラーを抽出してパレットを作成します。「Web」を選択すると、Web セーフカラーのパレットを作成します（Windows と Mac OS のシステムカラーのサブセットです）。組み込みのカラーパレットを使用してパレットを作成するには、「システム（Windows）」または「システム（Mac OS）」を選択します。これにより、予想外の結果になることがあります。

「インターレース」を選択すると、画像は順次、表示されていない行を埋めるようにして徐々に表示されます。このオプションを選択していない場合、ぼやけて表示されていた画像が、元の解像度に近くなるにつれて徐々に明確になります。

JPEG オプション（画質） 作成する JPEG 画像ごとの圧縮率（ファイルサイズをより小さくするため）および画質を決定します。低解像度の場合はファイルサイズは最小になり、画質も最も低くなります。

JPEG オプション（形式） HTML ページを開いてから、どれぐらい速く JPEG 画像が表示されるかを指定します。「プログレッシブ」を選択すると、JPEG 画像は Web ブラウザーにダウンロードされるにしたがって徐々に詳細が表示されます。このオプションを指定して作成されたファイルは、サイズがやや大きくなります。また、表示のためによりメモリが要求されます。「ベースライン」を選択すると JPEG ファイルがダウンロードされてから表示されます。ダウンロードが終了するまでは、JPEG ファイルの代わりにプレースホルダーが表示されます。

オブジェクト書き出し設定を無視 個々の画像に適用されたオブジェクト書き出しオプションを無視します。オブジェクト書き出しオプションの適用を参照してください。

詳細オプション

CSS や Java スクリプトのオプションを設定するには、「詳細」セクションを使用します。

CSS オプション カスケーディングスタイルシート（CSS）は、Web ページの外観を制御するフォーマットルールの集まりです。ページのフォーマットに CSS を使用すると、コンテンツと表示を切り分けることができます。ページのコンテンツ（HTML コード）は、HTML ファイル自体に格納されますが、コードの表示を定義する CSS ルールは、他のファイル（外部スタイルシート）または HTML ドキュメント（通常 <HEAD> セクション）に格納されます。例えば、選択したテキストに異なるフォントサイズを指定でき、CSS を使用してフォーマットや Web ページ内のブロックレベルの要素の位置を制御できます。

> **CSS** を生成 InDesign で書き出すファイルの CSS を生成するかどうかを指定します。「CSS を生成」オプションを選択すると、「ローカルオーバーライドを保持」オプションも選択して、斜体や太字などのローカルの書式設定を含めることができます。
>
> スタイルシートを追加 既存の CSS スタイルシートの URL を指定します。通常は、「/styles/style.css」などの相対 URL です。InDesign では CSS の存在や有効性は検証されません。外部 CSS の設定は Dreamweaver を使用して確認できます。

JavaScript オプション HTML ページが開かれたときに JavaScript を実行させるには、「スクリプトを追加」を選択します。InDesign では JavaScript の存在や有効性は検証されません。

(cc) BY-NC-SR Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

Adobe PDF への書き出し

Adobe PDF について
PDF への書き出し（プリント用）
Adobe PDF プリセット
Adobe PDF プリセットのカスタマイズ
Adobe PDF プリセットの読み込み
バックグラウンドタスクパネル

ページの先頭へ

Adobe PDF について

Portable Document Format（PDF）は、文書の作成元のアプリケーションやプラットフォームに依存せずに文書のフォント、画像、レイアウトを保持する汎用的なファイル形式です。Adobe PDF は、電子文書とフォームを配布および交換するための安全で信頼できる世界標準です。Adobe PDF ファイルはコンパクトかつ完結したフォーマットであり、無料の Adobe Reader® ソフトウェアを使用してだれでも共有、表示、プリントできます。

Adobe PDF は印刷出版のワークフローにおいて非常に効率的です。アートワークのコンポジットを Adobe PDF で保存すると、ユーザーと出力センターの両方で表示、編集、管理、校正を行える、コンパクトで信頼性の高いファイルを作成できます。ワークフローの適切なタイミングで、出力センターは入稿された Adobe PDF ファイルをそのまま出力するか、各種ツールを使用してプリフライトチェック、トラップ、面付け、色分解など後工程の処理を行います。

Adobe PDF で保存するときは、PDF/X に準拠したファイルも作成できます。PDF/X（Portable Document Format Exchange）とは、Adobe PDF のサブセットで、印刷上の問題となるカラー、フォントおよびトラップ変数の多くが削除されています。PDF/X は、PDF/X をサポートしているアプリケーションや出力デバイスで、ワークフローの作成または印刷工程におけるデジタルマスターとして PDF をやり取りする場合に使用します。

Adobe PDF により、電子ドキュメントに関する以下の問題が解消されます。

一般的な問題	**Adobe PDF** ソリューション
ファイルを受け取っても作成元のアプリケーションを持っていないと開けない。	PDF は作成元のアプリケーションがなくても誰でも開くことができます。必
紙と電子文書を組み合わせたアーカイブは、検索に手間取り、スペースを占領し、文書を共有するにも手間がかかるが必要である。	PDF は、コンパクトで検索にも使用していつでも
文書がハンドヘルドデバイス上で正しく表示されない。	タグ付き PDF を使用すると、Palm OS®、Symbian™、Pocket PC® デバイ
文書のフォーマットが複雑になると視覚障害者は利用できない。	タグ付き PDF にコンテンツと構造に関する情報を含めることにより、スクリ

ページの先頭へ

PDF への書き出し（プリント用）

ドキュメントやブックを Adobe PDF に書き出す操作は、デフォルトの高品質印刷設定を使用して簡単に行うことができ、目的に応じて設定をカスタマイズすることもできます。指定した PDF への書き出し設定はアプリケーションで保存され、設定を変更するまで、PDF に書き出す際にすべての InDesign ドキュメントまたはブックに適用されます。カスタム設定を PDF ファイルに適用するには、プリセットを使用します。

ドキュメント、ブック、またはブック内で選択したドキュメントは、単一の PDF ファイルとして書き出すことができます。また、InDesign でレイアウトした内容をクリップボードにコピーし、自動的に Adobe PDF ファイルを作成することもできます。この操作は、Adobe Illustrator など他のアプリケーションに PDF ファイルをペーストする場合に便利です。

InDesign ファイルを PDF に書き出すとき、目次や索引項目などのナビゲーション要素、ハイパーリンク、ブックマーク、メディアクリップ、ボタンなどのインタラクティブ機能をそのまま維持できます。非表示レイヤー、印刷しないレイヤーおよび印刷しないオブジェクトを PDF に書き出すためのオプションもあります。ブックを書き出す場合、ブックパネルを使用すると、同じ名前のレイヤーを結合できます。

アクセシビリティに対応した PDF ドキュメントの作成については、Adobe InDesign のアクセシビリティ（英語）を参照してください。

開いているドキュメントの PDF への書き出し（プリント用）

1. ファイル／書き出しを選択します。
2. ファイルの名前と場所を指定します。
3. 「ファイルの種類」（Windows）または「形式」（Mac OS）から「Adobe PDF（プリント）」を選択し、「保存」をクリックします。

   「Adobe PDF（プリント）」オプションを選択した場合、PDF にインタラクティブ要素を含めることはできません。インタラクティブドキュメントを PDF に書き出すには、PDF 用インタラクティブドキュメントの作成を参照してください。
4. 次のいずれかの操作を行います。
   - 定義済みのジョブオプションセットを使用する場合は、「PDF 書き出しプリセット」からプリセットを選択します。
   - PDF/X ファイルを作成する場合は、「PDF 書き出しプリセット」から PDF/X のプリセットを選択し、「標準」で定義済みの PDF/X のフォーマットを選択します。
   - オプションをカスタマイズするには、左側のリストから項目を選択し、オプションを設定します。
5. 互換性ポップアップメニューから、作成するファイルを開くために必要な最下位の PDF バージョンを選択します。
6. 「書き出し」をクリックします。

オプションをデフォルト設定に戻すには、*Adobe PDF* を書き出しダイアログボックスで、*Alt* キー（*Windows*）または *Option* キー（*Mac OS*）を押しながら「リセット」をクリックします（「キャンセル」が「リセット」ボタンに変わります）。

ブックを PDF に書き出す前のレイヤーの準備

ブックを PDF に書き出す場合、PDF ドキュメント内の InDesign レイヤーを表示または非表示にすることができます。PDF のレイヤー名の重複を避けるために、書き出し時にレイヤーを結合することができます。

「書き出し時に同一名のレイヤーを結合する」オプションが選択されている場合、レイヤー名は Acrobat または Reader の同じブック名の下に表示されます。このオプションが選択されていない場合は、レイヤー名が各ドキュメント名の下に別々に表示されます。

1. 特定のレイヤーを結合したくない場合は、各ブックドキュメントごとに異なる名前を付けておきます。

   レイヤー名は大文字と小文字を区別するため、「Art」と「art」レイヤーは結合されません。
2. ブックパネルメニューから、「書き出し時に同一名のレイヤーを結合する」を選択します。

   注意： ブックを *PDF* に書き出す場合は、「*Acrobat* レイヤーを作成」が選択されていることを確認します。このオプションを選択するには、*Acrobat 6*（*PDF 1.5*）以降の互換性のある形式を使用する必要があります。

PDF へのブックの書き出し

1. 次のいずれかの操作を行います。
   - ブック全体の PDF を作成するには、ブックパネルの空白部分をクリックしてドキュメントの選択を解除し、ブックパネルメニューの「ブックを PDF に書き出し」を選択します。
   - ブック内のドキュメントの PDF を作成するには、ブックパネルでドキュメントを選択し、ブックパネルメニューから「選択したドキュメントを PDF に書き出し」を選択します。
2. PDF ファイルの名前と保存場所を指定して「保存」をクリックします。
3. 「PDF 書き出しプリセット」からプリセットを選択するか、Adobe PDF を書き出しダイアログボックスの左側にあるリストで項目を選択し、オプションをカスタマイズします。
4. 「書き出し」をクリックします。

PDF ファイルサイズの低減

表示のみを目的として配布される PDF ファイルの場合、InDesign から PDF ファイルを書き出すときにそのサイズを低減したい場合があります。以下に、Adobe PDF を書き出しダイアログボックスで使用できるサイズ低減方法をいくつか紹介します。

- PDF 書き出しプリセットメニューから「最小ファイルサイズ」を選択します。
- 「圧縮」セクションで、画像を 72 ピクセル/インチ（ppi）にダウンサンプリングし、自動圧縮を選択して、カラー画像およびグレースケール画像で「低」または「中」の画質を選択します。写真画像の場合は、自動（JPEG）圧縮を使用します。チャートやグラフなど、ほとんどがベタ領域である画像の場合は、ZIP 圧縮を使用します。
- 「色分解」セクションで、インキ管理を使用して特色をプロセスカラーに変換します。

PDF のサイズを小さくするには、*Acrobat 8.0* 以降で *PDF* を開き、文書／ファイルサイズを縮小（*Acrobat 8.0* および *9.0*）またはファイル／別名で保存／サイズが縮小された *PDF*（*Acrobat X*）を選択して、互換性のレベルを指定します。より精密に調整するには、アドバンスト／*PDF* の最適化（*Acrobat 8.0* および *9.0*）またはファイル／別名で保存／最適化された *PDF*（*Acrobat X*）を選択します。

PDF ファイルのサイズ低減について詳しくは、Acrobat のヘルプおよびアドビ システムズ社の Web サイトを参照してください。

ページの先頭へ

Adobe PDF プリセット

PDF プリセットとは、PDF 作成処理を制御する各種設定を 1 つにまとめたものです。これらの設定は、PDF の用途に合わせてファイルサイズと品質とのバランスをとるように設計されています。 定義済みのプリセットのほとんどは、InDesign、Illustrator、Photoshop、Acrobat などの Adobe Creative Suite コンポーネント間で共有されます。また、独自の出力条件に合わせてカスタムプリセットを作成し、それを共有することもできます。

次に示すプリセットのいくつかを使用するには、必要に応じて Extras フォルダー（プリセットがデフォルトでインストールされる場所）から Settings フォルダーに移動する必要があります。 通常、Extras フォルダーと Settings フォルダーは、Windows Vista と Windows 7 では ProgramData¥Adobe¥AdobePDF に、Windows XP では Documents and Settings¥All Users¥Application Data¥Adobe¥Adobe PDF に、Mac OS ではライブラリ/Application Support/Adobe/Adobe PDF にあります。 プリセットの中には、一部の Creative Suite コンポーネントで使用できないものがあります。

カスタム設定は、Windows XP では Documents and Settings¥*[ユーザー名]*¥Application Data¥Adobe¥Adobe PDF¥Settings に、Windows Vista と Windows 7 では ユーザー¥*[ユーザー名]*¥AppData¥Roaming¥Adobe¥Adobe PDF¥Settings に、Mac OS では ユーザー/*[ユーザー名]*/ライブラリ/Application Support/Adobe/Adobe PDF/Settings にあります。

PDF 設定は定期的に確認するようにしてください。設定が自動的にデフォルトの状態に戻ることはありません。アプリケーションやユーティリティで *PDF* を作成するときは、最後に定義または選択された *PDF* 設定のセットが使用されます。

高品質印刷 デスクトッププリンターや校正デバイスでの高画質印刷に適した PDF を作成します。このプリセットは PDF 1.4 を使用し、カラー画像とグレースケール画像を 300 ppi に、モノクロ画像を 1200 ppi にダウンサンプリングします。さらに、全フォントのサブセットを埋め込み、カラーを変更せず、（透明をサポートしているファイルタイプで）透明部分を統合しません。このプリセットを使用して作成した PDF は、Acrobat5.0 および Acrobat Reader 5.0 以降で開くことができます。 InDesign ではこれに加えて、タグ付き PDF が作成されます。

Illustrator 初期設定（Illustrator のみ） Illustrator データがすべて保持された PDF を作成します。 このプリセットを使用して作成した PDF は、Illustrator で再度開いたときにもデータの損失はありません。

オーバーサイズページ（**Acrobat のみ**） 200 x 200 インチより大きい図面や設計図の表示と印刷に適した PDF を作成します。 このプリセットを使用して作成した PDF は、Acrobat および Acrobat Reader 7.0 以降で開くことができます。

PDF/A-1b: 2005（CMYK および RGB）（Acrobat のみ） 電子文書の長期保存（アーカイブ用）に使用します。PDF/A-1b は PDF 1.4 を使用し、選択された規格に応じて、すべてのカラーを CMYK または RGB に変換します。このプリセットを使用して作成した PDF は、Acrobat 5.0 および Adobe Reader 5.0 以降で開くことができます。

PDF/X-1a（2001 および 2003） PDF/X-1a では、全フォントを埋め込むこと、適切なトンボと裁ち落としを指定すること、および、カラーを CMYK と特色のいずれか一方または両方で表示することが必要になります。この規格に準拠したファイルには、使用する印刷条件に関する情報を含める必要があります。PDF/X-1a に準拠して作成された PDF ファイルは、Acrobat 4.0 および Acrobat Reader 4.0 以降で開くことができます。

PDF/X-1a は PDF 1.3 を使用し、カラー画像とグレースケール画像を 300 ppi に、モノクロ画像を 1200 ppi にダウンサンプリングします。さらに、全フォントのサブセットを埋め込み、タグなし PDF を作成し、「高解像度」設定を使用して透明部分を統合します。

注意：*PDF/X-1a:2003* および *PDF/X-3:2003* プリセットはインストール時にコンピューターにインストールされますが、*Extras* フォルダーから *Settings* フォルダーに移動しないと使用できません。

PDF/X-3 ISO 標準規格の PDF/X-3:2002 に準拠したPDFを作成します。この設定で作成された PDF ファイルは、Acrobat 4.0 および Acrobat Reader 4.0 以降で開くことができます。

PDF/X-4（2008） ISO PDF/X-4:2008 ファイルを作成するこのプリセットは、透明効果（透明が分割、統合されない）と ICC カラーマネジメントをサポートします。このプリセットで書き出した PDF ファイルは、CS5 では PDF 1.4形式、CS5.5 では PDF 1.6形式となります。 画像はダウンサンプルおよび圧縮され、フォントは PDF/X-1a および PDF/X-3 設定と同じ方法で埋め込まれます。PDF/X-4:2008 準拠 PDF ファイルは、Creative Suite 4 および 5 のコンポーネント（Illustrator、InDesign、Photoshop）から直接作成できます。Acrobat 9 Pro 以降は PDF ファイルの PDF/X-4:2008 への準拠を検証およびプリフライトすると共に、可能であれば、非 PDF/X ファイルを PDF/X-4:2008 に変換します。
信頼性の高い PDF 印刷出版ワークフローには、最適な PDF ファイル形式として PDF/X-4:2008 を使用することをお勧めします。

プレス品質 高画質の印刷工程用の PDF ファイルを作成します（デジタル印刷やイメージセッターまたは CTP への色分解など）。ただし、PDF/X 準拠のファイルは作成されません。このプリセットでは、コンテンツの品質が最優先されます。このプリセットの目的は、印刷・出力会社でドキュメントを正しく印刷するために必要となるすべての情報を PDF ファイル内に保持することにあります。 このプリセットは PDF 1.4 を使用し、カラーを CMYK に変換し、カラー画像とグレースケール画像を 300 ppi に、モノクロ画像を 1200 ppi にダウンサンプリングします。さらに、可能な場合全フォントのサブセットを埋め込み、（透明をサポートしているファイルタイプにおいて）透明を維持します。
このプリセットを使用して作成した PDF ファイルは、Acrobat 5.0 および Acrobat Reader 5.0 以降で開くことができます。
注意：印刷・出力会社に送る Adobe PDF ファイルを作成する場合は、あらかじめ出力解像度などの設定をどのようにするかを確認するか、推奨設定を含む .joboptions ファイルを入手してください。印刷・出力会社によっては、Adobe PDF の設定をカスタマイズし、独自の .joboptions ファイルを提供する必要があります。

最小ファイルサイズ Web やインターネットでの表示、または電子メールでの配信に適した PDF ファイルを作成します。このプリセットは、圧縮、ダウンサンプリングおよび比較的低い画像解像度を使用します。すべてのカラーを sRGB に変換し、フォントを埋め込みます。また、Web サーバーから一度に 1 ページずつ送信（バイトサービング）するための最適化を行います。PDF ファイルを印刷する場合、最適な結果を得るには、このプリセットを使用しないでください。
このプリセットを使用して作成した PDF ファイルは、Acrobat 5.0 および Acrobat Reader 5.0 以降で開くことができます。

雑誌広告送稿用 雑誌広告デジタル送稿推進協議会によって策定されたデータ制作ルールに基づいて、雑誌広告送稿用の PDF ファイルを作成します。

標準（Acrobat のみ） デスクトッププリンターやデジタルコピー機での印刷、CD での配布、クライアントに送付する校正刷りの作成を目的とした PDF ファイルを作成します。このプリセットは圧縮とダウンサンプリングを使用してファイルサイズを縮小しますが、それと同時に、ファイル内で使用されていて埋め込みが許可されている全フォントのサブセットを埋め込み、すべてのカラーを sRGB に変換し、中解像度に出力します。Windows フォントのサブセットはデフォルトでは埋め込まれません。 この設定ファイルを使用して作成した PDF ファイルは、Acrobat 6.0 および Acrobat Reader 6.0 以降で開くことができます。

ページの先頭へ

Adobe PDF プリセットのカスタマイズ

デフォルトの PDF プリセットは最良実施例に基づいていますが、組み込みプリセットでは利用できない特殊な PDF 設定を必要とするワークフローまたはプリンターのワークフローも存在する可能性があります。この場合、印刷・出力会社はカスタムプリセットを作成することができます。Adobe PDF のプリセットは .joboptions ファイルとして保存されます。

1. ファイル／PDF 書き出しプリセット／定義を選択します。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - 新しいプリセットを作成する場合は、「新規」をクリックします。新規プリセットの基準を既存のプリセットにする場合は、プリセットを先に選択します。必要な PDF オプションを設定し、「OK」をクリックします（詳しくは、Adobe PDF プリセットを参照してください。）
   - 既存のカスタムプリセットを編集するには、プリセットを選択し、「編集」をクリックします（初期設定は編集できません）。必要な PDF オプションを設定し、「OK」をクリックします。
   - プリセットを削除する場合は、そのプリセットを選択して、「削除」をクリックします。
   - デフォルトの Adobe PDF フォルダーの Settings フォルダー以外の場所にプリセットを保存する場合は、そのプリセットを選択して「別名で保存」をクリックします。場所を指定して「保存」をクリックします。

または、Adobe PDF を書き出しダイアログボックスの下部にある「プリセットを保存」をクリックして、PDF ファイルを保存するときにカスタム

プリセットを作成することもできます。プリセットの名前を入力して、「OK」をクリックします。

ページの先頭へ

Adobe PDF プリセットの読み込み

作成した新規 PDF プリセット（.joboptions ファイル）は、次の場所の Settings フォルダーに保存されます。

Windows XP Documents and Settings*[ユーザー名]*\Application Data\Adobe\Adobe PDF

Windows Vista および Windows 7 Users*[ユーザー名]*\AppData\Roaming\Adobe\Adobe PDF

Mac OS ユーザー/*[ユーザー名]*/ライブラリ/Application Support/Adobe/Adobe PDF

これらのプリセットは、Adobe PDF 書き出しプリセットメニューに自動的に表示されます。

付属の InDesign PDF プリセットは、Adobe PDF¥Extras フォルダーにインストールされます。その他の .joboptions ファイルの保存場所は、システムの検索ユーティリティを使用して検索してください。カスタム PDF プリセットを印刷会社や同僚から受け取ることもありえます。これらのプリセットを PDF 書き出しプリセットメニューに一覧表示するには、手動で、または「読み込み」コマンドを使用して、Settings フォルダーに移動する必要があります。

PDF プリセットの読み込み

「読み込み」コマンドは、送信された PDF プリセットを読み込んだり、InDesign から PDF プリセットを読み込んだりする場合に役立ちます。

1. ファイル／PDF 書き出しプリセット／定義を選択します。
2. 「読み込み」をクリックし、読み込む .joboptions ファイルを選択します。

新規 PDF プリセットが保存される Settings フォルダーに .joboptions ファイルがコピーされます。

または、*Adobe PDF* プリセットが保存されている *Settings* フォルダーにファイルをドラッグして、*PDF* 書き出しプリセットメニューに *.joboptions* ファイルを表示することもできます。

InDesign CS からの PDF プリセットの変換

InDesign CS およびそれ以前のドキュメントでは、PDF プリセットに .pdfs の拡張子を付けて書き出し、InDesign CS2 およびそれ以降のドキュメントでは、PDF プリセットに .joboptions の拡張子を付けて書き出します。PDFS ファイルを読み込むと、.joboptions ファイルに変換され、必要に応じて、設定が上書きされます。例えば、InDesign CS の「色分解」セクションで出力先プロファイルとして Monitor RGB を選択している場合、InDesign CS4 の Document RGB に自動的に変更されます。

1. ファイル／PDF 書き出しプリセット／定義を選択します。
2. 「読み込み」ボタンをクリックします。
3. 「ファイルの種類」から「以前のバージョンの PDF 設定ファイル（.pdfs）」（Windows）を選択するか、「選択対象」から「すべてのファイル」を選択します（Mac OS）。
4. 変換するファイルをダブルクリックします。

ファイルが Adobe PDF のプリセットのリストで選択された状態になります。

ページの先頭へ

バックグラウンドタスクパネル

PDF ファイルの書き出しをバックグラウンドで行うと、書き出しが完了するまで待たなくてもドキュメントでの作業を継続できます。複数の PDF 書き出しをバックグラウンドで待機させることもできます。書き出しの進捗状況を表示するには、バックグラウンドタスクパネルを使用します。

1. ドキュメントを Adobe PDF に書き出します。
2. 書き出しの進捗状況を表示するには、ウィンドウ／ユーティリティ／バックグラウンドタスクを選択します。

- Adobe PDF オプション
- PDF の互換性レベル
- PDF 用インタラクティブドキュメントの作成

Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

JPEG 形式での書き出し

JPEG は、フルカラーまたはグレースケール画像をモニター表示用に圧縮するための標準的な規格です。ページ、スプレッド、または選択したオブジェクトを JPEG 形式に書き出すには、書き出しコマンドを使用します。

1. 必要に応じて、書き出すオブジェクトを選択します （ページまたはスプレッドを書き出す場合は、何も選択する必要はありません）。
2. ファイル／書き出しを選択します。
3. 保存場所とファイル名を指定します。
4. 「ファイルの種類」（Windows）または「形式」（Mac OS）で「JPEG」を選択して、「保存」をクリックします。

   JPEG の書き出しダイアログボックスが表示されます。
5. 「書き出し」セクションで、次のいずれかを選択します。

   選択部分 現在選択しているオブジェクトを書き出します。

   範囲 書き出したいページの番号を入力します。範囲はハイフンを使用して指定します。複数のページまたは複数の範囲を指定する場合は、それぞれをコンマで区切ります。

   すべて ドキュメントのすべてのページを書き出します。

   見開き印刷 見開きページを単一の JPEG ファイルに書き出します。「ページ」を選択している場合は、スプレッドの各ページはそれぞれ別の JPEG ファイルに書き出されます。
6. 「品質」から、ファイルの圧縮率（ファイルサイズをより小さくします）と画質の品質を設定するオプションを選択します。

   - 「最高画質（低圧縮率）」は、高解像度の画像データを可能な限り、ファイルに書き出し、最も多くのディスクスペースを必要とします。ファイルを高解像度出力デバイスで出力する場合は、このオプションを選択します。
   - 「低画質（高圧縮率）」は、配置されているビットマップ画像のモニター表示用の解像度（72 dpi）だけをファイルに書き出します。ファイルをモニター表示にのみ使用する場合、このオプションを選択します。
   - 「高画質」および「標準」は、「低画質（高圧縮率）」より多くの画像データを含みますが、圧縮率のレベル変更することによって、ファイルサイズが小さくなります。
7. 「形式」で、次のいずれかを選択します。

   - 「プログレッシブ」は、JPEG 画像を Web ブラウザーにダウンロードしながら、徐々に詳細を表示していきます。
   - 「ベースライン」は、JPEG 画像を完全にダウンロードしてから表示します。
8. 書き出す JPEG 画像の解像度を選択または入力します。
9. 書き出すファイルのカラースペースを指定します。RGB、CMYK またはグレーでの書き出しを選択できます。
10. 次のいずれかの項目を選択し、「書き出し」をクリックします。

    カラープロファイルを埋め込み このオプションを選択すると、書き出される JPEG ファイルにドキュメントのカラープロファイルが埋め込まれます。カラープロファイルの名前は、オプションの右側に小さな文字で表示されます。JPEG ファイルを書き出す前に、編集／プロファイルを割り当てを選択すると、当該ドキュメントに必要なカラープロファイルを選択できます。

    カラースペースメニューで「グレー」を選択した場合は、「カラープロファイルを埋め込み」オプションは無効になります。

    ドキュメントの裁ち落とし設定を使用 このオプションを選択している場合、「ドキュメント設定」で指定した裁ち落とし領域が、書き出された JPEG 画像に表示されます。「選択部分」オプションが選択されている場合、このオプションは無効になります。

    アンチエイリアス アンチエイリアス処理によって、テキストやビットマップ画像のギザギザした境界線が滑らかになります。

    オーバープリント処理 このオプションは、オーバープリントプレビュー機能に似ていますが、選択したどのカラースペースについても動作します。このオプションを選択した場合、InDesign で書き出される JPEG ファイルでは、特色を印刷用のプロセスカラーに変換することによって、ND 値の異なる特色インキのオーバープリントの効果がシミュレートされます。

- JPEG（.jpg）ファイル

Twitter™ および Facebook の投稿は Creative Commons の条項の対象ではありません。

法律上の注意事項 | プライバシーポリシー

EPUB へのコンテンツの書き出し | CS6

概要
EPUB への書き出し
EPUB 書き出しオプション
  EPUB の一般オプション
  EPUB の画像オプション
  EPUB の詳細オプション
EPUB のリソース

ページの先頭へ

概要

レイアウトを EPUB に書き出す前に、適切に書き出されるように調整できます。

- アンカー付きグラフィックの追加 - グラフィックをテキストフローにアンカー付けすることで、書き出されたテキストに対するグラフィックの相対的な位置を制御します。詳しくは、アンカー付きオブジェクトを参照してください。
- オブジェクト書き出しオプション - 配置したオブジェクトの書き出しオプションを指定します。詳しくは、オブジェクト書き出しオプション | CC、CS6、CS5.5 を参照してください。
- スタイルを書き出しタグにマップ - 文字スタイルと段落スタイルを HTML タグとクラスにマップします。詳しくは、スタイルを書き出しタグにマップ | CC、CS6、CS5.5 を参照してください。
- コンテンツと順序の選択 - アーティクルパネルを使用して、書き出すコンテンツと書き出し順序を選択します。詳しくは、アーティクル（CS5.5）を参照してください。また、ページレイアウトや XML 構造に基づいて、コンテンツの書き出し順序を選択することもできます。

ページの先頭へ

EPUB への書き出し

ドキュメントまたはブックを再フロー可能な EPUB 形式の eBook に書き出すことができます。これは eBook リーダーソフトウェアと互換性があります。

1. 次のいずれかの操作を行います。
   - ドキュメントを開き、ファイル／書き出しを選択します。
   - ブックを開き、ブックパネルメニューで「ブックを EPUB に書き出し」を選択します。
2. ファイル名と場所を指定します。
3. 「ファイルの種類」（Windows）または「形式」（Mac OS）から「EPUB」を選択し、「保存」をクリックします。
4. EPUB 書き出しオプションダイアログボックスから、「一般」、「画像」および「詳細」セクションで目的のオプションを指定して、「OK」をクリックします。

XHTML ベースのコンテンツを含む単一の .epub ファイルが作成されます。書き出されたファイルにカバー画像が含まれるように指定することもできます。カバー画像は、画像から作成されるか、指定したドキュメント（ブックを選択した場合は、スタイルソースドキュメント）の最初のページをラスタライズして作成されます。サムネール画像は、EPUB リーダーや Digital Editions リーダーのライブラリビューでブックを表すために使用されます。ファイルを表示するには、EPUB リーダーが必要です。代わりに Adobe Digital Editions ソフトウェアを使用することもできます。Digital Editions ソフトウェアはアドビ システムズ社の Web サイトから無償でダウンロードできます。

.epub ファイルは本質的には *.zip* ファイルです。*.epub* ファイルのコンテンツを表示および編集するには、拡張子を *.epub* から *.zip* に変更して、コンテンツを抽出します。これは *CSS* ファイルを編集する場合に特に便利です。

注意： テキストフレーム、画像が配置されているオブジェクトなどの *InDesign* オブジェクトの配列は、「ページレイアウトを基準にする」オプションを選択すると常に書き出されます。空のオブジェクトは、オブジェクト書き出しオプションを使用して設定を *InDesign* オブジェクトに適用して *JPEG*、*GIF*、または *PNG* として書き出すように指定しない限り、書き出されません。

EPUB 書き出しオプション

EPUB の一般オプション

EPUB 書き出しオプションダイアログボックスの「一般」セクションには、次のオプションがあります。

バージョン EPUB のバージョンを指定します。

EPUB2.0.1 EPUB 2.0.1 は 2007 年に IDPF によって承認された規格です。この形式は、幅広いモバイルデバイスでサポートされています。

EPUB3.0 EPUB 3.0 は 2011 年に IDPF によって承認された規格です。この形式では、オーディオ、ビデオ、Javascript、日本語の縦組みもサポートされています。ただし、これらの新しい機能は、EPUB 3.0 規格をサポートしていないリーダーおよびデバイスでは動作しません。

EPUB 3.0（レイアウト付き） レイアウト付きの EPUB3.0 は、アドビ システムズ社によって作成されて試験的に導入されている形式です。この形式では、複数の段組、テキストの回り込みなどの制御がサポートされているため、レイアウトを意図したとおりに再現できます。この機能は特定のビューアテクノロジーでのみ動作します。

カバー eBook のカバー画像を指定します。次のいずれかを選択します。

なし このオプションを選択すると、eBook にカバー画像が追加されません。

最初のページをラスタライズ このオプションを選択すると、InDesign ドキュメントの最初のページをラスタライズして作成された画像ファイルがカバーとして使用されます。

画像を選択 このオプションを選択すると、カバーに使用する画像を指定できます。

目次スタイル このオプションを選択すると、選択した目次スタイルに基づいて目次が生成されます。目次スタイルメニューでは、eBook 内で目次を構築する際に使用する目次スタイルを指定します。レイアウト／目次スタイルを選択して eBook 用の特別な目次スタイルを作成することもできます。

マージン 上、下、左、右マージンの値をピクセル単位で指定します。各マージンに同じ値を使用する場合は、固定のアイコンを使用します。

コンテンツの順序 ページアイテムの書き出し順序を指定します。

ページレイアウトを基準にする ページ上のアイテムの位置によって読み上げ順序が決まります。
「ページレイアウトを基準にする」を選択した場合、ページオブジェクトの読み上げ順序は左から右へおよび上から下へ、になります。場合によっては（特に、複雑な複数段組ドキュメントの場合は）、デザイン要素が目的の読み上げ順序に表示されないことがあります。コンテンツを再配置およびフォーマットするには、Dreamweaver を使用します。
（アジア言語版のみ）「ページレイアウトを基準にする」を選択した場合、ページオブジェクトの読み上げ順序は、ドキュメントの綴じ方（左から右または右から左）に従って決定されます。場合によっては（特に、複雑な複数段組ドキュメントの場合は）、書き出されたデザイン要素が目的の読み上げ順序に表示されないことがあります。コンテンツを再配置およびフォーマットするには、Dreamweaver を使用します。

XML 構造と同じ 構造ウィンドウでのタグの順序に従って読み取り順序が決定されます。詳しくは、ページアイテムのタグ付けを参照してください。

アーティクルパネルと同じ アーティクルパネルのエレメントの順序に従って読み取り順序が決定されます。チェック済みのアーティクルのみが書き出されます。詳しくは、書き出しにアーティクルを含めるを参照してください。

脚注を段落の後に配置 オンにすると、段落の後に脚注が配置されます。オフにすると、脚注は文末脚注に変換されます。

強制改行を削除 オンにすると、書き出した eBook 内のソフトリターンがすべて削除されます。

記号 箇条書きの段落をリストアイテムに変換するには「番号なしリストにマップ」を選択します。リストアイテムは HTML で <ul> タグを使用してフォーマットされます。<p> タグを使用して箇条書き記号をテキストとしてフォーマットするには「テキストに変換」を選択します。InDesign のネイティブの自動箇条書きを使用した場合は、小段落の箇条書きも対象となります。

番号 HTML ファイルでの番号の変換方法を指定します。InDesign の自動番号リストを使用した場合は、下位レベルの段落の箇条書きも対象となります

> 番号付きリストにマップ 自動番号リストをリストアイテムに変換します。リストアイテムは HTML で <ol> タグを使用してフォーマットされます。
>
> 静的番号付きリストにマップ 自動番号リストをリストアイテムに変換しますが、InDesign で段落に現在付けられている番号に基づいて <value> 属性を割り当てます。
>
> テキストに変換 自動番号リストを、番号を含め、テキストとして現在の番号で始まる段落に変換します。

書き出した後 **EPUB** を表示 EPUB の読み取り用にアプリケーションが選択されている場合に、そのデフォルトアプリケーションで EPUB を開きます。

EPUB の画像オプション

EPUB 書き出しオプションダイアログボックスの「画像」セクションには、次のオプションがあります。画像変換メニューから、HTML への画像の書き出し方法を指定します。

レイアウトのアピアランスを保持 オンにすると、画像オブジェクト属性がレイアウトから継承されます。

解像度（**ppi**） 画像の解像度を ppi で選択します。オペレーティングシステムは 72 ppi または 96 ppi で標準化されていますが、モバイルデバイスは 132 ppi（iPad） ～ 172 ppi（Sony リーダー）、300 ppi（iPhone 4）以上と解像度が異なります。選択したオブジェクトごとに ppi 値を選択できます。値には、72、96、150（現在のすべての eBook デバイスの平均）、および 300 があります。

画像サイズ 画像サイズを固定するか、ページを基準にして変更するかを指定します。「ページを基準とする相対指定」を選択すると、InDesign ページ幅を基準として画像サイズに基づいて相対的なパーセント値が設定されます。このオプションを使用すると、読み取り領域の幅に基づいて縦横比率を維持したまま画像サイズが変更されます。

画像の整列および間隔 画像の左揃え、中央揃え、右揃え、前後の間隔を指定します。

改ページを挿入 オンにすると、改ページが画像に挿入されます。改ページは、画像の前、画像の後、または画像の前後に挿入できます。

設定をアンカー付きオブジェクトに適用 オンにすると、これらの設定がアンカー付きオブジェクトに適用されます。

画像変換 ドキュメントの最適化画像を GIF、JPEG または PNG のいずれに変換するかを選択します。各画像でどれを使用するか、InDesign で決定されるようにするには、「自動」を選択します。「PNG」を選択すると、画像圧縮設定が無効になります。データ損失がない画像、または透明を含む画像には「PNG」を使用します。

GIF オプション（パレット） 最適化 GIF ファイルを作成する場合の、InDesign でのカラーの処理を調整します。GIF 形式は、256 色以下のカラーパレットを使用しています。

「使用中の色に合わせて割り付ける（ディザなし）」を選択すると、ディザ処理（色の小さな点を混ぜて存在しない色を表現する）をせずに、グラフィックで中心的に使われているカラーを抽出してパレットを作成します。「Web」を選択すると、Web セーフカラーのパレットを作成します（Windows と Mac OS のシステムカラーのサブセットです）。組み込みのカラーパレットを使用してパレットを作成するには、「システム（Windows）」または「システム（Mac OS）」を選択します。これにより、予想外の結果になることがあります。

「インターレース」を選択すると、画像は順次、表示されていない行を埋めるようにして徐々に表示されます。このオプションを選択していない場合、ぼやけて表示されていた画像が、元の解像度に近くなるにつれて徐々に明確になります。

JPEG オプション（画質） 作成する JPEG 画像ごとの圧縮率（ファイルサイズをより小さくするため）および画質を決定します。低解像度の場合はファイルサイズは最小になり、画質も最も低くなります。

JPEG オプション（形式） HTML ページを開いてから、どれぐらい速く JPEG 画像が表示されるかを指定します。「プログレッシブ」を選択すると、JPEG 画像は Web ブラウザーにダウンロードされるにしたがって徐々に詳細が表示されます。このオプションを指定して作成されたファイルは、サイズがやや大きくなります。また、表示のためによりメモリが要求されます。「ベースライン」を選択すると JPEG ファイルがダウンロードされてから表示されます。ダウンロードが終了するまでは、JPEG ファイルの代わりにプレースホルダーが表示されます。

オブジェクト書き出し設定を無視 個々の画像に適用されたオブジェクト書き出しオプションを無視します。詳しくは、オブジェクト書き出しオプションの適用を参照してください。

EPUB の詳細オプション

EPUB オプションダイアログボックスの「詳細」セクションには、次のオプションがあります。

ドキュメントの分割 指定した段落スタイルで eBook を分割することができます。分割すると EPUB パッケージの HTML ファイル数が増えますが、長いファイルを分割すると EPUB リーダーのパフォーマンスが向上します。

ドキュメントメタデータを含む 書き出すファイルに、ドキュメント（ブックを選択した場合はスタイルソースドキュメント）のメタデータを含めます。

> 出版社 eBook メタデータに含める発行側の情報を指定します。eBook を受け取ったユーザーが発行者の Web サイトにアクセスできるように、発行者の URL を指定できます。
>
> 固有 **ID** EPUB ドキュメントにはそれぞれ固有の識別子が必要です。固有の識別子は自動的に作成され、表示されます。この識別子を削除し、自分で固有の識別子を指定することもできます。

CSS オプション カスケーディングスタイルシート（CSS）は、Web ページの外観を制御するフォーマットルールの集まりです。ページのフォーマットに CSS を使用すると、コンテンツと表示を切り分けることができます。

> スタイル定義を含む EPUB 形式で書き出すときに、編集可能な CSS スタイルのリストを作成できます。
>
> ローカルオーバーライドを保持 このオプションを選択した場合、斜体や太字などのローカルの書式設定が含まれます。
>
> 埋め込みフォントを含む 埋め込み可能なすべてのフォントを eBook に含めます。各フォントには、埋め込みが可能かどうかを示す埋め込みビットが含まれています。
>
> スタイルシートを追加 既存の CSS スタイルシートの URL を指定します。通常は、「/styles/style.css」などの相対 URL です。InDesign では、CSS の存在や有効性は検証されないため、CSS の設定を確認する必要があります。

スクリプトを追加 既存の JavaScript への URL を指定します。InDesign では、JavaScript の存在や有効性は検証されないため、JavaScript の設定を確認する必要があります。

ページの先頭へ

EPUB のリソース

EPUB 形式について詳しくは、次のリンクを参照してください。

- EPUB 仕様について詳しくは、www.idpf.org（英語）を参照してください。

- Digital Editions リーダーは、www.adobe.com/jp/products/digitaleditions（英語）から無料でダウンロードできます。
- Digital Editions について詳しくは、Digital Editions（英語） のブログを参照してください。
- Kindle 形式での書き出しについては、ホワイトペーパー：InDesign から Kindle 形式への書き出し（英語）（PDF）を参照してください。
- InDesign ファイルを EPUB 形式に変換して Apple iPad で表示できる eBook の販売を開始する方法をご説明します。詳しくは、InDesign to iPad white paper（英語）を参照してください。

Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

HTML へのコンテンツの書き出し | CS6 および CS5.5

HTML への書き出しは、InDesign コンテンツを Web 対応形式にする簡単な方法です。コンテンツを HTML に書き出すときに、テキストと画像の書き出し方法を調整できます。InDesign では、同じ名前の CSS スタイルクラスで HTML コンテンツをマークアップすることで、書き出されるコンテンツに適用された段落スタイル、文字スタイル、オブジェクトスタイル、目次スタイル、およびセルスタイルの名前を保持します。Adobe Dreamweaver やその他の CSS 対応 HTML エディターを使用して、コンテンツに形式やレイアウトを簡単に適用できます。

書き出される内容 InDesign は、ストーリー、リンクと埋め込み画像、SWF ムービーファイル、脚注、テキスト変数（テキストで）、箇条書きリストと自動番号リスト、内部相互参照、テキストや Web ページにジャンプするハイパーリンクをすべて書き出します。テーブルも書き出されますが、テーブルとセルの罫線など、一部の書式は除外されます。表には固有の ID が割り当てられ、Dreamweaver で Spry データセットとして参照できます。配置されたオーディオファイルと h.264 ビデオファイルは HTML5 <audio> タグおよび <video> タグで囲まれます。

書き出されない内容 ユーザーが描画したオブジェクト（長方形、楕円形、多角形など）、ハイパーリンク（Web ページへのリンクや同じドキュメント内のテキストアンカーにジャンプするテキストに適用されたリンクを除く）、ペーストしたオブジェクト（ペーストした Illustrator 画像を含む）、アウトラインに変換したテキスト、XML タグ、ブック、ブックマーク、SING グリフレット、ページ効果、索引マーカー、ペーストボード上の選択されていないページに接していないオブジェクト、マスターページアイテム（書き出す前に既にオーバーライドした、または選択した場合を除く）は書き出されません。

1. ドキュメント全体を書き出さない場合は、書き出すテキストフレーム、テキストの範囲、表のセル、またはグラフィックを選択します。
2. ファイル／書き出しを選択し、「ファイルの種類」（Windows）または「形式」（Mac OS）から「HTML」を選択します。
3. HTML ドキュメントの名前と保存場所を指定して、「保存」をクリックします。
4. HTML 書き出しオプションダイアログボックスから、「一般」、「画像」および「詳細」セクションで目的のオプションを指定して、「OK」をクリックします。

指定した名前と .html 拡張子を持つドキュメント（「newsletter.html」など）が作成され、指定した場合は Web 画像サブフォルダー（「newsletter-web-images」など）が同じ場所に保存されます。

HTML 書き出しオプション

HTML 書き出しオプションダイアログボックスで、次のオプションを指定します。

共通オプション

「一般」セクションには次のオプションがあります。

書き出し 選択したアイテムのみを書き出すか、ドキュメント全体を書き出すかを指定します。テキストフレームを選択した場合は、オーバーセットテキストも含め、該当するストーリー全体が書き出されます。

ドキュメントを選択した場合は、すべてのスプレッドのすべてのページアイテムが書き出されます。ただし、オーバーライドされていないマスターページアイテムと隠れたレイヤー上のページアイテムは書き出されません。XML タグおよび生成された索引と目次も無視されます。

コンテンツの順序 ページオブジェクトの読み上げ順序を指定できます。

ページレイアウトを基準にする

ページ上のアイテムの位置によって読み上げ順序が決まります。

「ページレイアウトを基準にする」を選択した場合、ページオブジェクトの読み上げ順序は左から右へおよび上から下へ、になります。場合によっては（特に、複雑な複数段組ドキュメントの場合は）、デザイン要素が目的の読み上げ順序に表示されないことがあります。コンテンツを再配置およびフォーマットするには、Dreamweaver を使用します。

（アジア言語版のみ）「ページレイアウトを基準にする」を選択した場合、ページオブジェクトの読み上げ順序は、ドキュメントの綴じ方（左から右または右から左）に従って決定されます。場合によっては（特に、複雑な複数段組ドキュメントの場合は）、書き出されたデザイン要素が目的の読み上げ順序に表示されないことがあります。コンテンツを再配置およびフォーマットするには、Dreamweaver を使用しま

す。

XML 構造と同じ

「XML 構造と同じ」を選択した場合、XML 構造ウィンドウによって、書き出されるコンテンツの順序および書き出されるコンテンツが制御されます。コンテンツに既にタグが設定されている場合、XML 構造ウィンドウでタグをドラッグするだけで、XHTML の書き出しの順序を設定できます。コンテンツにタグが設定されていない場合、構造パネルメニューから「タグ付けされていないアイテムを追加」を選択して、順序の変更が可能なタグを生成できます。アイテムを書き出しに含めたくない場合は、XML 構造ウィンドウでタグを削除するだけで済みます（タグを削除しても、INDD ファイルからコンテンツが削除されるわけではありません）。詳しくは、ページアイテムのタグ付けを参照してください。

アーティクルパネルと同じ

アーティクルパネルのエレメントの順序に従って読み取り順序が決定されます。チェック済みのアーティクルのみが書き出されます。詳しくは、書き出しにアーティクルを含めるを参照してください。

マージン　単純なマージンを EM またはピクセルで指定します。EM スペースでマージンを指定する方がマルチスクリーンとの互換性に適しています。上下左右のすべてのマージンに同じ値が適用されます。

記号　箇条書きの段落をリストアイテムに変換するには「番号なしリストにマップ」を選択します。リストアイテムは HTML で <ul> タグを使用してフォーマットされます。<p> タグを使用して箇条書き記号をテキストとしてフォーマットするには「テキストに変換」を選択します。InDesign のネイティブの自動箇条書きを使用した場合は、小段落の箇条書きも対象となります。

番号　HTML ファイルでの番号の変換方法を指定します。InDesign の自動番号リストを使用した場合は、下位レベルの段落の箇条書きも対象となります。

番号付きリストにマップ　自動番号リストをリストアイテムに変換します。リストアイテムは HTML で <ol> タグを使用してフォーマットされます。

静的番号付きリストにマップ　自動番号リストをリストアイテムに変換しますが、InDesign で段落に現在付けられている番号に基づいて <value> 属性を割り当てます。

テキストに変換　自動番号リストを、番号を含め、テキストとして現在の番号で始まる段落に変換します。

書き出した後 **HTML** を表示　ブラウザーを起動します（存在する場合）。

画像オプション

画像をコピー　HTML への画像の書き出し方法を指定します。

オリジナル　オリジナル画像を「<document_name>-web-images」サブフォルダーに書き出します。このオプションを選択すると、他のすべてのオプションが選択不可になります。

最適化　画像の書き出し方法の設定は変更できます。

サーバーパスへのリンク　このオプションにより、サブフォルダーへ画像を書き出すのではなく、画像ファイルの前に表示されるローカル URL（「images¥」など）を入力できます。HTML コードでは、リンク属性により指定したパスと拡張子が表示されます。このオプションは、画像を自身で Web 互換の画像として変換している場合は特に便利です。

レイアウトのアピアランスを保持　オンにすると、画像オブジェクト属性がレイアウトから継承されます。

解像度（**ppi**）　画像の解像度を ppi で指定します。オペレーティングシステムは 72 ppi または 96 ppi で標準化されていますが、モバイルデバイスは 132 ppi（iPad）～172 ppi（Sony リーダー）、300 ppi（iPhone 4）以上と範囲が異なります。選択したオブジェクトごとに ppi 値を指定できます。値には、72、96、150（現在のすべての ebook デバイスの平均）、および 300 があります。

画像サイズ　画像サイズを固定するか、ページを基準にして変更するかを指定します。「ページを基準とする相対指定」を選択すると、InDesign ページ幅を基準として画像サイズに基づいて相対的なパーセント値が設定されます。このオプションを使用すると、読み取り領域の幅に基づいて縦横比率を維持したまま画像サイズが変更されます。

画像の整列および間隔 画像の左揃え、中央揃え、右揃え、前後の間隔を指定します。

設定をアンカー付きオブジェクトに適用 オンにすると、これらの設定がアンカー付きオブジェクトに適用されます。

画像変換 ドキュメントの最適化画像を GIF、JPEG または PNG のいずれに変換するかを選択します。各画像でどれを使用するか、InDesign で決定されるようにするには、「自動」を選択します。「PNG」を選択すると、画像圧縮設定が無効になります。データ損失がない画像、または透明を含む画像には「PNG」を使用します。

GIF オプション（パレット） 最適化 GIF ファイルを作成する場合の、InDesign でのカラーの処理を調整します。GIF 形式は、256 色以下のカラーパレットを使用しています。

「使用中の色に合わせて割り付ける（ディザなし）」を選択すると、ディザ処理（色の小さな点を混ぜて存在しない色を表現する）をせずに、グラフィックで中心的に使われているカラーを抽出してパレットを作成します。「Web」を選択すると、Web セーフカラーのパレットを作成します（Windows と Mac OS のシステムカラーのサブセットです）。組み込みのカラーパレットを使用してパレットを作成するには、「システム（Windows）」または「システム（Mac OS）」を選択します。これにより、予想外の結果になることがあります。

「インターレース」を選択すると、画像は順次、表示されていない行を埋めるようにして徐々に表示されます。このオプションを選択していない場合、ぼやけて表示されていた画像が、元の解像度に近くなるにつれて徐々に明確になります。

JPEG オプション（画質） 作成する JPEG 画像ごとの圧縮率（ファイルサイズをより小さくするため）および画質を決定します。低解像度の場合はファイルサイズは最小になり、画質も最も低くなります。

JPEG オプション（形式） HTML ページを開いてから、どれぐらい速く JPEG 画像が表示されるかを指定します。「プログレッシブ」を選択すると、JPEG 画像は Web ブラウザーにダウンロードされるにしたがって徐々に詳細が表示されます。このオプションを指定して作成されたファイルは、サイズがやや大きくなります。また、表示のためによりメモリが要求されます。「ベースライン」を選択すると JPEG ファイルが完全にダウンロードされてから表示されます。ダウンロードが終了するまでは、JPEG ファイルの代わりにプレースホルダーが表示されます。

オブジェクト書き出し設定を無視 個々の画像に適用されたオブジェクト書き出しオプションを無視します。詳しくは、オブジェクト書き出しオプションの適用を参照してください。

詳細オプション

CSS や Java スクリプトのオプションを設定するには、「詳細」セクションを使用します。

CSS オプション カスケーディングスタイルシート（CSS）は、Web ページの外観を制御するフォーマットルールの集まりです。ページのフォーマットに CSS を使用すると、コンテンツと表示を切り分けることができます。ページのコンテンツ（HTML コード）は、HTML ファイル自体に格納されますが、コードの表示を定義する CSS ルールは、他のファイル（外部スタイルシート）または HTML ドキュメント（通常 <HEAD> セクション）に格納されます。例えば、選択したテキストに異なるフォントサイズを指定でき、CSS を使用してフォーマットや Web ページ内のブロックレベルの要素の位置を制御できます。

> 埋め込み **CSS** XHTML に書き出すときは、宣言（属性）で HTML ファイルの <HEAD> セクションに表示される CSS スタイルのリストを作成できます。
>
> 「スタイル定義を含む」を選択した場合、InDesign テキスト書式と CSS の相当する属性の対応付けが試行されます。このオプションの選択を解除すると、HTML ファイルに空の宣言が含まれます。これらの宣言は、後で Dreamweaver で編集できます。
>
> 「ローカルオーバーライドを保持」を選択した場合、斜体や太字などのローカルの書式設定が含まれます。
>
> **CSS** なし このオプションを選択すると、HTML ファイルから CSS セクションが省略されます。
>
> 外部 **CSS**（**CS5.5**） 既存の CSS スタイルシートの URL を指定します。通常は、「/styles/style.css」などの相対 URL です。InDesign では、CSS の存在や有効性は検証されないため、Dreamweaver を使用して外部 CSS の設定を確認する必要があります。
>
> その他の **CSS**（**CS6**） CSS を指定するには、「スタイルシートを追加」ボタンを使用します。

JavaScript オプション HTML ページが開かれたときに JavaScript を実行させるには、外部 JavaScript へリンクさせます。JavaScript への URL を指定します。通常は相対 URL です。InDesign では JavaScript の存在や有効性は検証されません。

Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

EPUB へのコンテンツの書き出し | CS5.5

EPUB のリソース
EPUB の一般書き出しオプション
EPUB の画像オプション
EPUB の目次オプション

ドキュメントまたはブックを再フロー可能な EPUB 形式の eBook に書き出すことができます。これは Adobe Digital Editions リーダーソフトウェア、およびその他の eBook リーダーソフトウェアと互換性があります。

1. 次のいずれかの操作を行います。
   - ドキュメントを開き、ファイル／書き出しを選択します。
   - ブックを開き、ブックパネルメニューで「ブックを EPUB に書き出し」を選択します。
2. ファイル名と場所を指定します。
3. 「ファイルの種類」（Windows）または「形式」（Mac OS）から「EPUB」を選択し、「保存」をクリックします。
4. EPUB 書き出しオプションダイアログボックスから、「一般」、「画像」および「目次」セクションで目的のオプションを指定して、「OK」をクリックします。

XHTML ベースのコンテンツを含む単一の .epub ファイルが作成されます。書き出されたファイルにカバー画像が含まれるように指定することもできます。カバー画像は、画像から作成されるか、指定したドキュメント（ブックを選択した場合は、スタイルソースドキュメント）の最初のページをラスタライズして作成されます。サムネール画像は、EPUB リーダーや Digital Editions リーダーのライブラリビューでブックを表すために使用されます。ファイルを表示するには、EPUB リーダーが必要です。代わりに Adobe Digital Editions ソフトウェアを使用することもできます。Digital Editions ソフトウェアはアドビ システムズ社の Web サイトから無償でダウンロードできます。

.epub ファイルは本質的には *.zip* ファイルです。*.epub* ファイルのコンテンツを表示および編集するには、拡張子を *.epub* から *.zip* に変更して、コンテンツを抽出します。これは *CSS* ファイルを編集する場合に特に便利です。

注意： テキストフレーム、画像が配置されているオブジェクトなどの *InDesign* オブジェクトの配列は、「ページレイアウトを基準にする」オプションを選択すると常に書き出されます。空のオブジェクトは、オブジェクト書き出しオプションを使用して設定を *InDesign* オブジェクトに適用して *JPEG*、*GIF*、または *PNG* として書き出すように指定しない限り、書き出されません。

ページの先頭へ

EPUB のリソース

EPUB 形式について詳しくは、次のリンクを参照してください。

- EPUB 形式について詳しくは、www.idpf.org を参照してください。
- Digital Editions リーダーは、www.adobe.com/jp/products/digitaleditionsから無料でダウンロードできます。
- Digital Editions について詳しくは、Digital Editions（英語） のブログを参照してください。
- Kindle 形式での書き出しについては、ホワイトペーパー：InDesign から Kindle 形式への書き出し（英語）の PDF を参照してください。
- InDesign ファイルを EPUB 形式に変換して Apple iPad で表示できる eBook の販売を開始する方法をご説明します。詳しくは、InDesign to iPad white paper（英語）を参照してください。

ページの先頭へ

EPUB の一般書き出しオプション

EPUB 書き出しオプションダイアログボックスの「一般」セクションには、次のオプションがあります。

ドキュメントメタデータを含む 書き出すファイルに、ドキュメント（ブックを選択した場合はスタイルソースドキュメント）のメタデータを含めます。

出版社の項目を追加 eBook メタデータに含める発行側の情報を指定します。eBook を受け取ったユーザーが発行者の Web サイトにアクセスできるように、発行者の URL を指定できます。

固有の識別子 EPUB ドキュメントにはそれぞれ固有の識別子が必要です。固有の識別子の属性を指定できます。このフィールドを空白のままにすると、固有の識別子が自動的に作成されます。

EPUB カバー eBook のカバー画像を指定します。次のいずれかを選択します。

カバー画像なし このオプションを選択すると、eBook にカバー画像が追加されません。

最初のページをラスタライズ このオプションを選択すると、InDesign ドキュメントの最初のページをラスタライズして作成された画像ファイルがカバーとして使用されます。

既存の画像ファイルを使用 このオプションを選択すると、カバーに使用する画像を指定できます。

配列 ページアイテムの書き出し順を指定できます。

ページレイアウトを基準にする

ページ上のアイテムの位置によって読み上げ順序が決まります。

「ページレイアウトを基準にする」を選択した場合、ページオブジェクトの読み上げ順序は左から右へおよび上から下へ、になります。場合によっては（特に、複雑な複数段組ドキュメントの場合は）、デザイン要素が目的の読み上げ順序に表示されないことがあります。コンテンツを再配置およびフォーマットするには、Dreamweaver を使用します。

（アジア言語版のみ）「ページレイアウトを基準にする」を選択した場合、ページオブジェクトの読み上げ順序は、ドキュメントの綴じ方（左から右または右から左）に従って決定されます。場合によっては（特に、複雑な複数段組ドキュメントの場合は）、書き出されたデザイン要素が目的の読み上げ順序に表示されないことがあります。コンテンツを再配置およびフォーマットするには、Dreamweaver を使用します。

XML 構造と同じ

構造ウィンドウでのタグの順序に従って読み取り順序が決定されます。詳しくは、ページアイテムのタグ付けを参照してください。

アーティクルパネルと同じ

アーティクルパネルのエレメントの順序に従って読み取り順序が決定されます。チェック済みのアーティクルのみが書き出されます。詳しくは、書き出しにアーティクルを含める（英語）を参照してください。

ブックマージン 単純なマージンを EM またはピクセルで指定します。EM スペースでマージンを指定する方がマルチスクリーンとの互換性に適しています。上下左右のすべてのマージンに同じ値が適用されます。

記号 箇条書きの段落をリストアイテムに変換するには「番号なしリストにマップ」を選択します。リストアイテムは HTML で <ul> タグを使用してフォーマットされます。<p> タグを使用して箇条書き記号をテキストとしてフォーマットするには「テキストに変換」を選択します。InDesign のネイティブの自動箇条書きを使用した場合は、小段落の箇条書きも対象となります。

番号 HTML ファイルでの番号の変換方法を指定します。InDesign の自動番号リストを使用した場合は、下位レベルの段落の箇条書きも対象となります

番号付きリストにマップ 自動番号リストをリストアイテムに変換します。リストアイテムは HTML で <ol> タグを使用してフォーマットされます。

静的番号付きリストにマップ 自動番号リストをリストアイテムに変換しますが、InDesign で段落に現在付けられている番号に基づいて <value> 属性を割り当てます。

テキストに変換 自動番号リストを、番号を含め、テキストとして現在の番号で始まる段落に変換します。

書き出した後 **EPUB** を表示 Adobe Digital Editions リーダーを起動します（存在する場合）。

ページの先頭へ

EPUB の画像オプション

Digital Editions 書き出しオプションダイアログボックスの「画像」セクションには、次のオプションがあります。画像変換メニューから、HTML への画像の書き出し方法を指定します。

レイアウトのアピアランスを保持 オンにすると、画像オブジェクト属性がレイアウトから継承されます。

解像度（**ppi**） 画像の解像度を ppi で指定します。オペレーティングシステムは 72 ppi または 96 ppi で標準化されていますが、モバイルデバイスは 132 ppi（iPad） ～ 172 ppi（Sony リーダー）、300 ppi（iPhone 4）以上と解像度が異なります。選択したオブジェクトごとに ppi 値を指定できます。値には、72、96、150（現在のすべての eBook デバイスの平均）、および 300 があります。

画像サイズ 画像サイズを固定するか、ページを基準にして変更するかを指定します。「ページを基準とする相対指定」を選択すると、InDesign ページ幅を基準として画像サイズに基づいて相対的なパーセント値が設定されます。このオプションを使用すると、読み取り領域の幅に基づいて縦横比率を維持したまま画像サイズが変更されます。

画像の整列および間隔 画像の左揃え、中央揃え、右揃え、上および下の間隔を指定します。

改ページを挿入 オンにすると、改ページが画像に挿入されます。改ページは、画像の前、画像の後、または画像の前後に挿入できます。

設定をアンカー付きオブジェクトに適用 オンにすると、これらの設定がアンカー付きオブジェクトに適用されます。

画像変換 ドキュメントの最適化画像を GIF、JPEG または PNG のいずれに変換するかを選択します。各画像でどれを使用するか、InDesign で決定されるようにするには、「自動」を選択します。「PNG」を選択すると、画像圧縮設定が無効になります。データ損失がない画像、または透明を含む画像には「PNG」を使用します。

GIF オプション（パレット） 最適化 GIF ファイルを作成する場合の、InDesign でのカラーの処理を調整します。GIF 形式は、256 色以下のカ

ラーパレットを使用しています。

「使用中の色に合わせて割り付ける（ディザなし）」を選択すると、ディザ処理（色の小さな点を混ぜて存在しない色を表現する）をせずに、グラフィックで中心的に使われているカラーを抽出してパレットを作成します。「Web」を選択すると、Web セーフカラーのパレットを作成します（Windows と Mac OS のシステムカラーのサブセットです）。組み込みのカラーパレットを使用してパレットを作成するには、「システム（Windows）」または「システム（Mac OS）」を選択します。これにより、予想外の結果になることがあります。

「インターレース」を選択すると、画像は順次、表示されていない行を埋めるようにして徐々に表示されます。このオプションを選択していない場合、ぼやけて表示されていた画像が、元の解像度に近くなるにつれて徐々に明確になります。

JPEG オプション（画質） 作成する JPEG 画像ごとの圧縮率（ファイルサイズをより小さくするため）および画質を決定します。低解像度の場合はファイルサイズは最小になり、画質も最も低くなります。

JPEG オプション（形式） HTML ページを開いてから、どのくらい速く JPEG 画像が表示されるかを指定します。「プログレッシブ」を選択すると、JPEG 画像は Web ブラウザーにダウンロードされるにしたがって徐々に詳細が表示されます。このオプションを指定して作成されたファイルは、サイズがやや大きくなります。また、表示のためによりメモリが要求されます。「ベースライン」を選択すると JPEG ファイルがダウンロードされてから表示されます。ダウンロードが終了するまでは、JPEG ファイルの代わりにプレースホルダーが表示されます。

オブジェクト書き出し設定を無視 個々の画像に適用されたオブジェクト書き出しオプションを無視します。詳しくは、オブジェクト書き出しオプションの適用を参照してください。

ページの先頭へ

EPUB の目次オプション

EPUB オプションダイアログボックスの「詳細」セクションには、次のオプションがあります。

形式**EPUB** コンテンツの形式 XHTML 形式と DTBook 形式のどちらを使用するかを指定します。DTBook は視覚障害を持つエンドリーダーのための特殊な形式です。

InDesign の目次スタイルを使用 このオプションを選択すると、選択した目次スタイルに基づいて目次が生成されます。目次スタイルメニューでは、eBook 内で目次を構築する際に使用する目次スタイルを指定します。レイアウト／目次スタイルを選択して eBook 用の特別な目次スタイルを作成することもできます。

ドキュメントを段落スタイルで分割 指定した段落スタイルで eBook を分割することができます。分割すると EPUB パッケージの HTML ファイル数が増えますが、長いファイルを分割すると EPUB リーダーのパフォーマンスが向上します。

脚注を段落の後に配置 オンにすると、段落の後に脚注が配置されます。オフにすると、脚注は文末脚注に変換されます。

強制改行を削除 オンにすると、書き出した eBook 内のソフトリターンがすべて削除されます。

CSS を生成 カスケーディングスタイルシート（CSS）は、Web ページの外観を制御するフォーマットルールの集まりです。ページのフォーマットに CSS を使用すると、コンテンツと表示を切り分けることができます。

> スタイル定義を含む EPUB 形式で書き出すときに、編集可能な CSS スタイルのリストを作成できます。
>
> ローカルオーバーライドを保持 このオプションを選択した場合、斜体や太字などのローカルの書式設定が含まれます。
>
> 埋め込みフォントを含む 埋め込み可能なすべてのフォントを eBook に含めます。各フォントには、 埋め込みが可能かどうかを示す埋め込みビット が含まれています。

スタイル名のみ EPUB スタイルシートに未定義のスタイル名のみが含まれます。

既存の **CSS** ファイルを使用 既存の CSS スタイルシートの URL を指定します。通常は、「/styles/style.css」などの相対 URL です。InDesign では、CSS の存在や有効性は検証されないため、CSS の設定を確認する必要があります。

(cc) BY-NC-SR Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

書き出し中

テキストの書き出し
Web 用コンテンツの書き出し
Dreamweaver へのコンテンツの書き出し（**CS5**）
EPUB コンテンツの書き出し（**CS5**）
Buzzword へのコンテンツの書き出し
Web カラースウォッチライブラリの使用

テキストの書き出し

トップへ戻る

InDesign のストーリーのすべてまたは一部を、さまざまなアプリケーションで開くことができる形式で保存することができます。ドキュメントの個々のストーリーは、別のファイルとして書き出されます。

InDesign では、データ書き出しダイアログボックスで指定したファイル形式で、テキストを書き出すことができます。InDesign ドキュメント上で設定されている文字フォーマット、インデント、タブなどの多くは、指定した書き出し形式に応じて保持されます。

頻繁に使用されるテキストおよびページレイアウトアイテムの一部をスニペットとして保存することができます。

1. 文字ツール T を使って、書き出すストーリー内にテキスト挿入点を置きます。
2. ファイル／書き出しを選択します。
3. 書き出すストーリーの名前と場所を指定して、「ファイルの種類」（Windows）または「フォーマット」（Macintosh）からテキストファイルの形式を選択します。

   ワープロソフトのリストが表示されない場合は、RTF などのアプリケーションが読み込める形式でドキュメントを保存してみてください。ワープロソフトが InDesign の書き出し形式のどれにも対応していない場合は、「テキストのみ」を選択してください。ただし、「テキストのみ」で書き出すと、テキストのすべての文字属性が削除されるので注意してください。
4. 「保存」をクリックして、選択した形式でストーリーを書き出します。

InDesign ドキュメント上で設定した形式のすべてを維持するには、「Adobe InDesign タグ付きテキスト」を選択します。詳しくは、『タグ付きテキスト.pdf』（www.adobe.com/go/learn_id_taggedtext_cs5_jp）を参照してください。

Web 用コンテンツの書き出し

トップへ戻る

InDesign コンテンツを Web 用に再利用するには、いくつかのオプションがあります。

Dreamweaver（**XHTML**） 選択部分またはドキュメント全体を、フォーマットされていない基本的な HTML ドキュメントに書き出します。サーバー上の画像にリンクするか、または画像用の別個のフォルダーを作成することができます。このため、Adobe Dreamweaver® など任意の HTML エディターを使用して、コンテンツを Web 用にフォーマットできます。詳しくは、Dreamweaver へのコンテンツの書き出し（CS5）を参照してください。

コピー＆ペースト InDesign ドキュメント内のテキストや画像をコピーして、使用している HTML エディターにペーストします。

Adobe PDF ドキュメントを Adobe PDF に書き出し、Web 上に PDF をポストします。PDF には、ムービー、サウンドクリップ、ボタン、ページ効果などのインタラクティブ要素を含めることができます。詳しくは、ダイナミック PDF ドキュメントを参照してください。

Flash（**SWF**） Flash Player または Web ですぐに表示できる SWF ファイルに書き出します。SWF ファイルには、ボタン、ハイパーリンクおよびページ効果（ワイプ、ディザ合成、ページめくり効果など）を含めることができます。詳しくは、Web 用のインタラクティブ SWF（Flash）ファイルの作成を参照してください。

Flash（**FLA**） Adobe Flash Professional で編集できる FLA ファイルに書き出します。詳しくは、Web 用の FLA ファイルの作成を参照してください。

Digital Editions（**EPUB**） ドキュメントまたはブックを再フロー可能な XHTML ベースの eBook に書き出します。これは Adobe Digital Editions リーダーソフトウェアと互換性があります。詳しくは、EPUB コンテンツの書き出し（CS5）を参照してください。

XML ワークフローを高度に再利用するため、コンテンツを InDesign から XML 形式で書き出し、Dreamweaver などの HTML エディターに読み込むことができます。詳しくは、XML の操作を参照してください。

Dreamweaver へのコンテンツの書き出し（CS5）

トップへ戻る

XHTML への書き出しは、InDesign コンテンツを Web 対応形式にする簡単な方法です。コンテンツを XHTML に書き出すときに、テキストと画像の書き出し方法を調整できます。InDesign では、同じ名前の CSS スタイルクラスで XHTML コンテンツにマークを付けることで、書き出されるコンテンツに適用された段落スタイル、文字スタイル、オブジェクトスタイル、目次スタイル、およびセルスタイルの名前を保持します。Adobe Dreamweaver やその他の CSS 対応 HTML エディターを使用して、コンテンツに形式やレイアウトを簡単に適用できます。

書き出される内容 InDesign は、ストーリー、リンクと埋め込み画像、SWF ムービーファイル、脚注、テキスト変数（テキストで）、箇条書きリストと自動番号リスト、内部相互参照、テキストや Web ページにジャンプするハイパーリンクをすべて書き出します。テーブルも書き出されますが、テーブルとセルの罫線など、一部の書式は除外されます。表には固有の ID が割り当てられ、Dreamweaver で Spry データセットとして参照できます。
書き出されない内容 InDesign は、ユーザーが描画したオブジェクト（長方形、楕円形、多角形など）、ムービーファイル（SWF を除く）、ハイパーリンク（Web ページへのリンクや同じドキュメント内のテキストアンカーにジャンプするテキストに適用されたリンクを除く）、ペーストしたオブジェクト（ペーストした Illustrator 画像を含む）、アウトラインに変換したテキスト、XML タグ、ブック、ブックマーク、SING グリフレット、ページ効果、索引マーカー、ペーストボード上の選択されていないページに接していないオブジェクト、マスターページアイテム（書き出す前に既にオーバーライドした、または選択した場合を除く）は書き出しません。

1. ドキュメント全体を書き出さない場合は、書き出すテキストフレーム、テキストの範囲、表のセル、またはグラフィックを選択します。
2. ファイル／書き出し先／Dreamweaver を選択します。
3. HTML ドキュメントの名前と保存場所を指定して、「保存」をクリックします。
4. XHTML の書き出しオプションダイアログボックスから、「一般」、「画像」、および「詳細」セクションで目的のオプションを指定して、「書き出し」をクリックします。

指定した名前と .html 拡張子を持つドキュメント（「newsletter.html」など）が作成され、指定した場合は Web 画像サブフォルダー（「newsletter-web-images」など）が同じ場所に保存されます。

XHTML の書き出しオプション

XHTML 書き出しオプションダイアログボックス（ファイル／書き出し先／Dreamweaver）で、次のオプションを指定します。

共通オプション

「一般」セクションには次のオプションがあります。

書き出し 選択したアイテムのみを書き出すか、ドキュメント全体を書き出すかを指定します。テキストフレームを選択した場合は、オーバーセットテキストも含め、該当するストーリー全体が書き出されます。
ドキュメントを選択した場合は、すべてのスプレッドのすべてのページアイテムが書き出されます。ただし、オーバーライドされていないマスターページアイテムと隠れたレイヤー上のページアイテムは書き出されません。XML タグおよび生成された索引と目次も無視されます。

記号 箇条書きの段落をリストアイテムに変換するには「番号なしリストにマップ」を選択します。リストアイテムは HTML で <ul> タグを使用してフォーマットされます。<p> タグを使用して箇条書き記号をテキストとしてフォーマットするには「テキストに変換」を選択します。
配列 ページ順または XML 構造を使用して、ページオブジェクトの読み上げ順序を指定します。
「ページレイアウトを基準にする」を選択した場合、ページオブジェクトの読み上げ順序は、ドキュメントの綴じ方（左から右または右から左）に従って決定されます。場合によっては（特に、複雑な複数段組ドキュメントの場合は）、書き出されたデザイン要素が目的の読み上げ順序に表示されないことがあります。コンテンツを再配置およびフォーマットするには、Dreamweaver を使用します。

「XML 構造と同じ」を選択した場合、XML 構造ウィンドウによって、書き出されるコンテンツの順序および書き出されるコンテンツが制御されます。コンテンツに既にタグが設定されている場合、XML 構造ウィンドウでタグをドラッグするだけで、XHTML の書き出しの順序を設定できます。コンテンツにタグが設定されていない場合、構造パネルメニューから「タグ付けされていないアイテムを追加」を選択して、順序の変更が可能なタグを生成できます。アイテムを書き出しに含めたくない場合は、XML 構造ウィンドウでタグを削除するだけで済みます（タグを削除しても、INDD ファイルからコンテンツが削除されるわけではありません）。詳しくは、ページアイテムのタグ付けを参照してください。

番号 HTML ファイルでの番号の変換方法を指定します。

> 番号付きリストにマップ　自動番号リストをリストアイテムに変換します。リストアイテムは HTML で <ol> タグを使用してフォーマットされます。
> 静的番号付きリストにマップ　自動番号リストをリストアイテムに変換しますが、InDesign で段落に現在付けられている番号に基づいて <value> 属性を割り当てます。
> テキストに変換　自動番号リストを、番号を含め、テキストとして現在の番号で始まる段落に変換します。

画像オプション

画像コピーメニューから、HTML への画像の書き出し方法を指定します。

オリジナル オリジナル画像を -web-images サブフォルダーに書き出します。このオプションを選択すると、他のすべてのオプションが選択不可になります。
最適化 画像の書き出し方法の設定は変更できます。

> フォーマット　回転や拡大 / 縮小などの InDesign フォーマットは、Web 画像用に最大限維持されます。
> 画像変換　ドキュメントの最適化画像を GIF または JPEG のどちらに変換するかを選択します。各画像でどれを使用するか、InDesign で決定されるようにするには、「自動」を選択します。
> **GIF** オプション（パレット）　最適化 GIF ファイルを作成する場合の、InDesign でのカラーの処理を調整します。GIF 形式は、256 色以下のカラーパレットを使用しています。
> 「使用中の色に合わせて割り付ける（ディザなし）」を選択すると、ディザ処理（色の小さな点を混ぜて存在しない色を表現する）をせずに、グラフィックで中心的に使われているカラーを抽出してパレットを作成します。「Web」を選択すると、Web セーフカラーのパレットを作成します（Windows と Mac OS のシステムカラーのサブセットです）。組み込みのカラーパレットを使用してパレットを作成するには、「システム（Windows）」または「システム（Macintosh）」を選択します。これにより、予想外の結果になることがあります。
>
> **JPEG** オプション（画質）　作成する JPEG 画像ごとの圧縮率（ファイルサイズをより小さくするため）および画質を決定します。低解像

度の場合はファイルサイズは最小になり、画質も最も低くなります。

JPEG オプション（形式） HTML ページを開いてから、どれぐらい速く JPEG 画像が表示されるかを指定します。「プログレッシブ」を選択すると、JPEG 画像は Web ブラウザーにダウンロードされるにしたがって徐々に詳細が表示されます。このオプションを指定して作成されたファイルは、サイズがやや大きくなります。また、表示のためによりメモリが要求されます。「ベースライン」を選択すると JPEG ファイルが完全にダウンロードされてから表示されます。ダウンロードが終了するまでは、JPEG ファイルの代わりにプレースホルダーが表示されます。

サーバーパスへのリンク このオプションにより、サブフォルダーへ画像を書き出すのではなく、画像ファイルの前に表示されるローカル URL（「images¥」など）を入力できます。HTML コードでは、リンク属性により指定したパスと拡張子が表示されます。このオプションは、画像を自身で Web 互換の画像として変換している場合は特に便利です。
注意： InDesign では、Java™ スクリプト、外部 CSS スタイル、または画像フォルダーに指定したパスは検証されないため、Dreamweaver を使用してパスを確認する必要があります。

詳細オプション
CSS や Java スクリプトのオプションを設定するには、「詳細」セクションを使用します。

CSS オプション カスケーディングスタイルシート（CSS）は、Web ページの外観を制御するフォーマットルールの集まりです。ページのフォーマットに CSS を使用すると、コンテンツと表示を切り分けることができます。ページのコンテンツ（HTML コード）は、HTML ファイル自体に格納されますが、コードの表示を定義する CSS ルールは、他のファイル（外部スタイルシート）または HTML ドキュメント（通常 <HEAD> セクション）に格納されます。例えば、選択したテキストに異なるフォントサイズを指定でき、CSS を使用してフォーマットや Web ページ内のブロックレベルの要素の位置を制御できます。

埋め込み **CSS** XHTML に書き出すときは、宣言（属性）で HTML ファイルの <HEAD> セクションに表示される CSS スタイルのリストを作成できます。
「スタイル定義を含む」を選択した場合、InDesign テキスト書式と CSS の相当する属性の対応付けが試行されます。このオプションの選択を解除すると、HTML ファイルに空の宣言が含まれます。これらの宣言は、後で Dreamweaver で編集できます。

「ローカルオーバーライドを保持」を選択した場合、斜体や太字などのローカルの書式設定が含まれます。

CSS なし このオプションを選択すると、HTML ファイルから CSS セクションが省略されます。
外部 **CSS** 既存の CSS スタイルシートの URL を指定します。通常は、「/styles/style.css」などの相対 URL です。InDesign では、CSS の存在や有効性は検証されないため、Dreamweaver を使用して外部 CSS の設定を確認する必要があります。

JavaScript オプション HTML ページが開かれたときに JavaScript を実行させるには、外部 JavaScript へリンクさせます。JavaScript への URL を指定します。通常は相対 URL です。InDesign では JavaScript の存在や有効性は検証されません。

トップへ戻る

EPUB コンテンツの書き出し（CS5）

ドキュメントまたはブックを再フロー可能な EPUB 形式の eBook に書き出すことができます。これは Adobe Digital Editions リーダーソフトウェアと互換性があります。

1. ドキュメントを書き出すには、ドキュメントを開いて、ファイル／書き出し先／EPUB を選択します。
2. ファイル名と場所を指定してから、「保存」ボタンをクリックします。
3. Digital Editions 書き出しオプションダイアログボックスから、「一般」、「画像」および「目次」セクションで目的のオプションを指定して、「書き出し」をクリックします。

XHTML ベースのコンテンツを含む単一の .epub ファイルが作成されます。書き出されたファイルには、指定したドキュメント（ブックを選択した場合は、スタイルソースドキュメント）の最初のページにある JPEG サムネール画像が含まれます。このサムネール画像は、Digital Editions リーダーのライブラリビューでブックを表すために使用されます。ファイルを表示するには Digital Editions ソフトウェアが必要です。Digital Editions ソフトウェアはアドビ システムズ社の Web サイトから無償でダウンロードできます。

.epub ファイルは本質的には .zip ファイルです。.epub ファイルのコンテンツを表示および編集するには、拡張子を .epub から .zip に変更して、コンテンツを抽出します。これは CSS ファイルを編集する場合に特に便利です。

EPUB のリソース

EPUB の記事およびリソースの一覧については、www.adobe.com/go/learn_id_epub_jp を参照してください。

EPUB 形式について詳しくは、www.idpf.org（英語）を参照してください。

Digital Editions リーダー（無料）については、www.adobe.com/jp/products/digitaleditions からダウンロードできます。

Digital Editions について詳しくは、Digital Editions のブログ（英語）を参照してください。

Kindle 形式での書き出しについては、InDesign to Kindle white paper（英語）を参照してください。

Digital Editions の一般書き出しオプション

Digital Editions 書き出しオプションダイアログボックスの「一般」セクションには、次のオプションがあります。

ドキュメントメタデータを含む 書き出すファイルに、ドキュメント（ブックを選択した場合はスタイルソースドキュメント）のメタデータを含めます。
出版社の項目を追加 eBook メタデータに含める発行側の情報を指定します。eBook を受け取ったユーザーが、発行側の Web ページにアクセスして eBook を購入できるよう、必要に応じて URL を指定できます。

固有の識別子 EPUB ドキュメントにはそれぞれ固有の識別子が必要です。固有の識別子の属性を指定できます。このフィールドを空白のままにすると、固有の識別子が自動的に作成されます。

配列 「ページレイアウトを基準にする」を選択すると、EPUB のページアイテムの読み取り順序は、ページ上でのアイテムの位置によって決まります。InDesign では、左から右、上から下に読み取りが行われます。読み取り順序をさらに細かく制御するには、XML タグパネルを使用してページアイテムにタグを設定します。「XML 構造と同じ」を選択すると、構造ビューでのタグの順序に従って読み取り順序が決定されます。詳しくは、ページアイテムのタグ付けを参照してください。

記号 箇条書きの段落をリストアイテムに変換するには「番号なしリストにマップ」を選択します。リストアイテムは HTML で <ul> タグを使用してフォーマットされます。<p> タグを使用して箇条書き記号をテキストとしてフォーマットするには「テキストに変換」を選択します。

番号 HTML ファイルでの番号の変換方法を指定します。

番号付きリストにマップ　自動番号リストをリストアイテムに変換します。リストアイテムは HTML で <ol> タグを使用してフォーマットされます。

静的番号付きリストにマップ　自動番号リストをリストアイテムに変換しますが、InDesign で段落に現在付けられている番号に基づいて <value> 属性を割り当てます。

テキストに変換　自動番号リストを、番号を含め、テキストとして現在の番号で始まる段落に変換します。

書き出し後 **EPUB** を表示 Adobe Digital Editions リーダーを起動します（存在する場合）。.epub ドキュメントを表示するリーダーがシステムで設定されていない場合は、警告メッセージが表示されます。

Digital Editions の画像オプション

EPUB 書き出しオプションダイアログボックスの「画像」セクションには、次のオプションがあります。画像変換メニューから、HTML への画像の書き出し方法を指定します。

フォーマット 回転や拡大 / 縮小などの InDesign フォーマットは、Web 画像用に最大限維持されます。

画像変換 ドキュメントの最適化画像を GIF または JPEG のどちらに変換するかを選択します。各画像でどれを使用するか、InDesign で決定されるようにするには、「自動」を選択します。

GIF オプション（パレット） 最適化 GIF ファイルを作成する場合の、InDesign でのカラーの処理を調整します。GIF 形式は、256 色以下のカラーパレットを使用しています。

「使用中の色に合わせて割り付ける（ディザなし）」を選択すると、ディザ処理（色の小さな点を混ぜて存在しない色を表現する）をせずに、グラフィックで中心的に使われているカラーを抽出してパレットを作成します。「Web」を選択すると、Web セーフカラーのパレットを作成します（Windows と Mac OS のシステムカラーのサブセットです）。組み込みのカラーパレットを使用してパレットを作成するには、「システム（Windows）」または「システム（Mac OS）」を選択します。これにより、予想外の結果になることがあります。

「インターレース」を選択すると、読み込み速度が遅い画像は、表示されていない行を埋めるようにして徐々に表示されます。このオプションを選択していない場合、ぼやけて表示されていた画像が、元の解像度に近くなるにつれて徐々に明確になります。

JPEG オプション（画質） 作成する JPEG 画像ごとの圧縮率（ファイルサイズをより小さくするため）および画質を決定します。低解像度の場合はファイルサイズは最小になり、画質も最も低くなります。

JPEG オプション（形式） HTML ページを開いてから、どれぐらい速く JPEG 画像が表示されるかを指定します。「プログレッシブ」を選択すると、JPEG 画像は Web ブラウザーにダウンロードされるにしたがって徐々に詳細が表示されます。このオプションを指定して作成されたファイルは、サイズがやや大きくなります。また、表示のためによりメモリが要求されます。「ベースライン」を選択すると JPEG ファイルが完全にダウンロードされてから表示されます。ダウンロードが終了するまでは、JPEG ファイルの代わりにプレースホルダーが表示されます。

Digital Editions の目次オプション

Digital Editions 書き出しオプションダイアログボックスの「目次」セクションには、次のオプションがあります。

EPUB コンテンツの形式 XHTML 形式と DTBook 形式のどちらを使用するかを指定します。

InDesign の目次を含む このオプションを選択すると、eBook の左側に表示する目次が生成されます。目次スタイルメニューでは、eBook 内で使用する目次スタイルを指定します。レイアウト／目次スタイルを選択して eBook 用の特別な目次スタイルを作成することもできます。

ドキュメントの自動エントリを禁止 このオプションを選択すると、eBook の目次にドキュメント名が表示されるのを防ぐことができます。これは、ブックから eBook を作成する場合に特に役立ちます。

第 **1** レベルのエントリを改章として使用 このオプションを選択すると、eBook が複数のファイルに分割され、各ファイルが第 1 レベルの目次エントリで開始されます。コンテンツファイルが 260 KB を超える場合、第 1 レベルのエントリ間の段落の先頭で新しい章が開始され、300 KB の制限が回避されます。

CSS を生成 カスケーディングスタイルシート（CSS）は、Web ページの外観を制御するフォーマットルールの集まりです。ページのフォーマットに CSS を使用すると、コンテンツと表示を切り分けることができます。

スタイル定義を含む　EPUB 形式で書き出すときに、編集可能な CSS スタイルのリストを作成できます。

ローカルオーバーライドを保持　このオプションを選択した場合、斜体や太字などのローカルの書式設定が含まれます。

埋め込みフォントを含む　埋め込みを許可されているすべてのフォントを eBook に含めます。各フォントには、埋め込みが許可されているかどうかを示す埋め込みビットが含まれています。

スタイル名のみ このオプションを選択すると、EPUB スタイルシートに未定義のスタイル名のみが含まれます。

既存の **CSS** ファイルを使用 既存の CSS スタイルシートの URL を指定します。通常は、「/styles/style.css」などの相対 URL です。InDesign では、CSS の存在や有効性は検証されないため、CSS の設定を確認する必要があります。

Buzzword へのコンテンツの書き出し

トップへ戻る

Buzzword は、Web ベースのテキストエディターです。これにより、ユーザーはテキストファイルを作成して Web サーバーに保存できます。Buzzword にストーリーを書き出すときに、Buzzword サーバー上にテキストファイルを作成します。

1. 書き出すストーリーの一部であるテキストフレームで、テキストを選択するか、挿入点を置きます。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - InDesign で、ファイル／書き出し先／Buzzword に書き出しを選択します。
   - InCopy で、ファイル／Buzzword に書き出しを選択します。
3. CS Live にまだサインインしていない場合は、「サインイン」をクリックし、電子メールアドレスとパスワードを指定して、「サインイン」をクリックします。
4. Buzzword 用にストーリーを書き出しダイアログボックスで、作成する Buzzword ドキュメントの名前を指定して、「OK」をクリックします。

Buzzword ドキュメントが Acrobat.com で開きます。その後、ドキュメントを別のワークスペースに移動して、他のユーザーと共有できます。

トップへ戻る

Web カラースウォッチライブラリの使用

InDesign には、HTML ファイルのテキストとグラフィックを表示するために Web ブラウザーで最もよく使用されるカラーで構成されている、Web と呼ばれるスウォッチライブラリが用意されています。このライブラリに含まれている 216 色は、Web セーフカラーと呼ばれます。これらのカラーは、Windows と Macintosh のどちらのブラウザーでも使用されるカラーのサブセットなので、両方のプラットフォームで一致しています。InDesign の Web セーフカラーは、Adobe Photoshop の Web セーフカラーパレット、および Adobe Illustrator のブラウザーセーフカラーパレットと同じものです。

ライブラリの各色は、RGB 値に従って名前が付けられています。HTML でのカラー定義に使用するカラーの 16 進法は、カラースウォッチに保存されています。

1. スウォッチパネルメニューから「新規カラースウォッチ」を選択します。
2. カラーモードポップアップメニューから「Web」を選択します。
3. リストから Web セーフカラーを選択し、「OK」をクリックします。

関連項目

ページへのコンテンツの追加

CSS によるページの作成

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

XML 書き出し

XML へのドキュメントコンテンツの書き出し
最適化された画像の書き出しオプション
タグのみを XML として保存
書き出された XML ファイルの編集

トップへ戻る

XML へのドキュメントコンテンツの書き出し

InDesign ドキュメントから XML へコンテンツを書き出す前に、次の操作をしておく必要があります。

- 要素タグを作成または読み込んでおきます。
- ドキュメントのページ上のアイテムにタグを適用しておきます。
- 構造ウィンドウで、必要に応じてタグ付き要素の階層構造を調整しておきます。

ドキュメント内の XML コンテンツの全部または一部を書き出すことができます。書き出すことができるのはタグ付きのコンテンツのみです。

重要： 表を含むドキュメントを書き出す場合、書き出す表にはタグが付けられている必要があり、タグが付けられていない場合 InDesign では XML の一部として書き出すことができません。

InDesign では、文字スタイルや段落スタイルに設定されているルビも XML として書き出すことができます。ただし、XML ファイルのルビコードが W3C 標準ルビ定義に準拠している場合に限ります。また、XML 上で、行間が「0」に設定されている場合、ルビを追加することはできません。すべてのルビは、標準的なルビ属性のデフォルト値で読み込まれます。そして、段落スタイルや文字スタイルへ指定のルビがマップされ、それらのインスタンスは、段落スタイルや文字スタイルをマップすることによって動作します。ルビを XML に書き出すには、書き出し時にオプションで指定します。

1. ドキュメントの一部を書き出す場合には、書き出しを始める要素を構造ウィンドウで選択します。
2. ファイル／書き出しを選択します。
3. 「ファイルの種類」（Windows）または「フォーマット」（Mac OS）から「XML」を選択します。
4. XML ファイルとして保存する名称と場所を指定して「保存」をクリックします。
5. XML を書き出しダイアログボックスの「一般」タブで、次のいずれかを選択します。
   DTD 宣言を含める DTD への参照も XML ファイルと一緒に書き出します。このオプションは、構造ウィンドウに DOCTYPE 要素がある場合のみ使用できます。

   XML 表示用のアプリケーション 書き出されたファイルを、ブラウザー、XML 編集用アプリケーションまたはテキストエディターで開きます。リストからブラウザーまたはアプリケーションを選択します。

   選択した要素から書き出し 構造ウィンドウで選択した要素から書き出しを開始します。このオプションは、いずれかの要素を選択してからファイル／書き出しを選択する場合のみ使用できます。

   タグなしの表を **CALS XML** として書き出し タグなしの表を CALS XML 形式で書き出します。表を書き出すには、その表がタグ付きフレーム内にあり、表自体にはタグが付いていないことが必要です。

   改行、空白、特殊文字を再マップ 改行、空白および特殊文字を、その文字そのものではなく小数点エンティティとして書き出します。

   XSLT を適用 書き出される XML を、変更された XML ツリー、HTML などに変換するためのスタイルシートを適用します。「参照」ボタン（Windows）または「選択」ボタン（Mac OS）をクリックし、ファイルシステムから XSLT ファイルを選択します。デフォルトの「XML のスタイルシートを使用」オプションを使用すると、XML ファイルに XSLT 変換命令がある場合、その変換命令が書き出し時に適用されます。
6. エンコーディングメニューから、エンコーディングの種類を選択します。日本語が含まれる場合は「Shift JIS」を選択してください。
7. ルビテキストを XML ファイルに書き出すには、「オプション」タブをクリックして「ルビを XML として書き出し」を選択します。
8. 画像の書き出しのオプションを指定するには、「画像」タブをクリックし、次の中から 1 つまたは複数のオプションを選択します。
   オリジナル画像 オリジナルの画像ファイルのコピーを Images サブフォルダーに保存します。

   最適化オリジナル画像 オリジナルの画像ファイルの最適化および圧縮を行い、そのコピーを Images サブフォルダーに保存します。

   最適化フォーマット画像 （回転や拡大 / 縮小などの）変更が加えられたオリジナルの画像ファイルを最適化し、Images サブフォルダーに保存します。例えば、ドキュメントに 2 つの画像が含まれており、1 つはトリミングされていてもう 1 つはトリミングされていない場合、トリミングされた画像のみが最適化され、Images サブフォルダーにコピーされます。
9. 前の手順で「最適化オリジナル画像」または「最適化フォーマット画像」を選択した場合、画像の最適化についてのオプションを選択します。
10. 「書き出し」をクリックします。

注意： すべての特殊文字が XML でサポートされているわけではありません（自動ページ番号文字など）。書き出される XML ファイルに含めることができない文字があると、InDesign で警告が表示されます。この警告は、表にタグが付けられていない場合にも表示されます。

トップへ戻る

最適化された画像の書き出しオプション

XML を書き出しダイアログボックスの「画像」タブで「最適化オリジナル画像」または「最適化フォーマット画像」を選択すると、次のオプションが使用可能になります。

画像変換 変換後の画像のファイル形式を指定します。「自動」を選択すると、画像に基づいて最善のファイル形式が自動的に選択されます。この場合、「GIF オプション」と「JPEG オプション」の両方を指定できます。

GIF オプション XML に書き出したときに GIF 形式に変換される画像のフォーマットを指定します。設定できるオプションは次のとおりです。

パレット 画像の変換の際に使用されるカラーパレットを指定します。XML コンテンツの最終的な表示形式で使用されるパレットを選択してください。「使用中の色に合わせて割り付ける（ディザなし）」は、大半がベタ領域となっている画像に適しており、最終出力を複数の形式で行う場合に使用できます。

インターレース 1 つのパスで画像全体をダウンロードするのではなく、各パスで画像をラインごとにダウンロードします。インターレース方式は画像のプレビューをすばやくダウンロードできます。最終的な表示品質に達するまで、パスを表示するごとに解像度が上がっていきます。

JPEG オプション XML に書き出したときに JPEG 形式に変換される画像のフォーマットを指定します。設定できるオプションは次のとおりです。

画質 変換後の画像の品質を指定します。品質の設定が高くなればなるほどファイルサイズは大きくなり、ダウンロードにも時間がかかります。

フォーマット JPEG 画像をダウンロード用にどのようにフォーマットするかを指定します。「ベースライン」を指定した場合、最終的な品質の画像を 1 つのパスでダウンロードします。ファイルが開くと同時に最終品質で表示されます。この形式だと、「プログレッシブ」でフォーマットされた画像に比べてダウンロードに時間がかかる場合があります。「プログレッシブ」を指定した場合は、画像は一連のパスでダウンロードされます。最初のパスでは低解像度の画像が表示され、最終的な表示品質に達するまで、パスを表示するごとに画像の解像度が上がっていきます。

トップへ戻る

タグのみを XML として保存

タグのみを保存すると、保存したタグを InDesign ドキュメントに読み込んで使用できるようになります。

1. タグパネルメニューから「タグを保存」を選択します。
2. 名前と場所を指定して「保存」をクリックします。

   ドキュメント内のタグとその割り当てられたカラーが XML ファイルとして保存されます。

トップへ戻る

書き出された XML ファイルの編集

InDesign を使用して XML ファイルを作成して書き出した場合、次のいずれかの方法で XML を変更できます。

- XML ファイル内で直接変更するには、テキストエディターまたは XML エディターでファイルを開きます。
- ソースドキュメントに保存される変更を行うには、XML の書き出し元の InDesign ファイルを開きます。InDesign でコンテンツを変更したら、もう一度 XML に書き出します。その際ファイルを置き換えたい場合は、元の XML ファイル名を使用します。

関連項目

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

Adobe PDF オプション

Adobe PDF オプションの分類
PDF/X 規格について
PDF の互換性レベル
PDF の一般オプション
PDF 用の圧縮オプションとダウンサンプルオプション
PDF のトンボオプションと裁ち落としオプション
PDF のカラーマネジメントと PDF/X の色分解オプション
PDF のフォント、OPI、および分割・統合のオプション
PDF ファイルへのセキュリティの追加
PDF のセキュリティのオプション
フォントの埋め込みと置換
オンライン表示用ドキュメントの準備

トップへ戻る

Adobe PDF オプションの分類

PDF の書き出しや、PDF プリセットの作成または編集を行うとき、PDF オプションを設定できます。Adobe PDF のオプションは、いくつかの項目に分類されています。項目は、Adobe PDF を書き出しダイアログボックスの左側にあるリストに表示されますが、「標準」オプションと「互換性」オプションはダイアログボックスの上部に表示されます。PDF に書き出すとき、いずれかのオプションを変更すると、プリセット名の末尾に「変更」と表示されます。

標準　ファイルの PDF/X フォーマットを指定します。
互換性　ファイルの PDF バージョンを指定します。
一般　基本的なファイルオプションを指定します。
圧縮　画像の圧縮およびダウンサンプリングを行うかどうか、行う場合はその方法と設定を指定します。
トンボと裁ち落とし　トンボ、裁ち落とし、印刷可能領域を指定します。このオプションはプリントダイアログボックスで表示されるものと同様ですが、PDF が既知のページサイズで出力されないので、計算方法は多少異なります。
色分解　カラーおよび PDF/X 出力インテントプロファイルを PDF ファイルに保存する方法を指定します。
詳細　フォント、OPI 仕様、透明の分割・統合、JDF の指示を PDF ファイルに保存する方法を指定します。
セキュリティ　PDF ファイルのセキュリティを設定します。PDF プリセットを作成または編集するとき、セキュリティオプションは設定できません。
概要 現在の PDF 設定の概要を表示します。カテゴリーの横にある三角形をクリックすると、各設定が表示されます。概要を ASCII テキストファイルとして保存するには、「概要を保存」をクリックします。選択したプリセットの設定が適切ではなく、変更が必要な場合は、警告アイコン ⚠ が表示され、説明が表示されます。例えば、現在のカラー設定ファイルと一致しないソースプロファイルがプリセットで指定されている場合、カラー設定ファイルで指定されているプロファイルが使用されます。

トップへ戻る

PDF/X 規格について

PDF/X 規格は、International Organization for Standardization（ISO）で定義されています。PDF/X 規格はグラフィックコンテンツ交換に適用されます。PDF を変換する際、処理対象のファイルが指定された規格に適合しているかどうかがチェックされます。PDF が指定の ISO 規格に適合していない場合は、変換をキャンセルするか、非互換ファイルの作成を強行するかのどちらかを選択するよう求めるメッセージが表示されます。印刷出版ワークフローで一般的な規格は、PDF/X-1a などの PDF/X 形式です。

PDF/X-4 形式は、ダイナミックな透明効果とカラーマネジメントの点で高い信頼性があります。この形式は、RIP 処理、Adobe PDF Print Engine を使用するデジタルプリンターおよび Acrobat で印刷するあらゆる PDF ファイルに最適です。

注意：　PDF/X について詳しくは、ISO Web サイトおよびアドビ システムズ社の Web サイトを参照してください。

トップへ戻る

PDF の互換性レベル

PDF を作成するときは、使用する PDF バージョンを指定する必要があります。 PDF バージョンを変更するには、PDF として保存するときまたは PDF プリセットを編集するときに、別のプリセットに切り替えるか、互換性オプションを選択します。

原則として、下位互換性が特に必要でない限り最新バージョン（この場合はバージョン 1.7）を使用してください。 最新バージョンには、最新の機能がすべて含まれています。 ただし、広く配布するドキュメントを作成する場合は、Acrobat 5.0（PDF 1.4）または Acrobat 6.0（PDF 1.5）を選択して、すべてのユーザーがドキュメントを表示およびプリントできるようにすることをお勧めします。

次の表は、異なる互換性設定を使用して作成した PDF の機能の一部を比較したものです。

注意：　Acrobat 8.0 および 9.0 でも PDF 1.7 を使用します。

Acrobat 3.0（PDF 1.3）	Acrobat 5.0（PDF 1.4）	Acrobat 6.0（PDF 1.5）	Acrobat 7.0（PDF 1.6）および Acrobat X（PDF 1.7）
PDF は、Acrobat 3.0 および Acrobat Reader 3.0 以降で開くことができます。	PDF は、Acrobat 3.0 および Acrobat Reader 3.0 以降で開くことができます。ただし、新しいバージョンに固有の機能については使用できない場合や表示されない場合があります。	ほとんどの PDF は、Acrobat 4.0 および Acrobat Reader 4.0 以降で開くことができます。ただし、新しいバージョンに固有の機能については使用できない場合や表示されない場合があります。	ほとんどの PDF は、Acrobat 4.0 および Acrobat Reader 4.0 以降で開くことができます。ただし、新しいバージョンに固有の機能については使用できない場合や表示されない場合があります。
透明効果を使用したアートワークを含めることはできません。透明部分は PDF 1.3 に変換する前に統合する必要があります。	アートワーク内での透明効果部分の使用がサポートされています。透明部分の統合は Acrobat Distiller の機能によって行われます。	アートワーク内での透明効果部分の使用がサポートされています。透明部分の統合は Acrobat Distiller の機能によって行われます。	アートワーク内での透明効果部分の使用がサポートされています。透明部分の統合は Acrobat Distiller の機能によって行われます。
レイヤーはサポートされません。	レイヤーはサポートされません。	Illustrator CS や InDesign CS 以降の、レイヤー化された PDF ドキュメントの生成をサポートするアプリケーションで PDF を作成すると、レイヤーが維持されます。	Illustrator CS や InDesign CS 以降の、レイヤー化された PDF ドキュメントの生成をサポートするアプリケーションで PDF を作成すると、レイヤーが維持されます。
8 チャンネルの DeviceN カラースペースがサポートされます。	8 チャンネルの DeviceN カラースペースがサポートされます。	最高 31 チャンネルまでの DeviceN カラースペースがサポートされます。	最高 31 チャンネルまでの DeviceN カラースペースがサポートされます。
マルチバイトのフォントが埋め込めます。埋め込み時のフォントの変換は Distiller によって行われます。	マルチバイトのフォントが埋め込めます。	マルチバイトのフォントが埋め込めます。	マルチバイトのフォントが埋め込めます。
40-bit RC4 セキュリティがサポートされます。	128-bit RC4 セキュリティがサポートされます。	128-bit RC4 セキュリティがサポートされます。	128-bit RC4 および 128-bit AES（Advanced Encryption Standard）セキュリティがサポートされます。

トップへ戻る

PDF の一般オプション

次のオプションを設定するには、Adobe PDF を書き出しダイアログボックスの「一般」をクリックします。

説明 選択したプリセットの説明が表示され、説明を編集することもできます。クリップボードから説明をペーストすることができます。

すべて 現在のドキュメントまたはブックのすべてのページを書き出します。

範囲 現在のドキュメントから書き出すページ範囲を指定します。ページ範囲を指定するにはハイフンを、ページ範囲を複数指定する場合はコンマを使用します。このオプションは、ブックの書き出しやプリセットの作成を行う場合には使用できません。

スプレッド 複数のページが同じ用紙上に印刷されているように見開きで書き出します。

重要： 商用印刷用の場合は、「見開き印刷」を選択しないでください。印刷・出力会社がページを面付けできなくなります。

ページサムネールを埋め込み PDF に各ページのサムネールプレビューを埋め込みます。ファイルサイズは増加します。Acrobat 5.0 以降のユーザーが PDF を表示および印刷する場合は、この設定の選択を解除します。これらのバージョンでは PDF のページパネルをクリックするたびに、サムネイルが動的に生成されます。

Web 表示用に最適化 PDF ファイルサイズを減少し、ページ単位でダウンロード（バイトサービング）することでファイルを再構築し、Web ブラウザー上で表示速度が高速化するように PDF ファイルを最適化します。このオプションは、Adobe PDF を書き出しダイアログボックスの「圧縮」でどのような設定を選択したかにかかわらず、テキストとラインアートを圧縮します。

タグ付き **PDF** を作成 書き出し中に、InDesign でサポートしている Acrobat タグのサブセットに基づいて、ストーリーの要素に自動的にタグが付けられます。このサブセットには、段落、基本的なテキストの書式、箇条書き、表が含まれます（PDF に書き出す前に、ドキュメントでこれらのタグを挿入したり修正したりすることができます。詳しくは、PDF への構造の追加を参照してください）。

注意： 「互換性」で Acrobat 6（PDF 1.5）以降に設定した場合は、タグが圧縮されて、ファイルサイズが小さくなります。この PDF を Acrobat 4.0 または Acrobat 5.0 で開くと、このバージョンの Acrobat では圧縮されたタグを復元できないので、タグは表示されません。

書き出した後 **PDF** を表示 新しく作成した PDF ファイルを、デフォルトの PDF 表示アプリケーションで開きます。

Acrobat レイヤーを作成 InDesign レイヤーは PDF 内で Acrobat レイヤーとして保存されます。また、いずれかのトンボの種類を選択した場合は、別個のトンボと裁ち落としレイヤーに書き出されます。書き出したレイヤーは自由に操作でき、Acrobat 6.0 以降のユーザーであれば、1 つの PDF から複数のファイルバージョンを作成することができます。例えば、ドキュメントが複数の言語で出版される予定であれば、異なったレイヤーにそれぞれの言語のテキストを配置しておくことができます。印刷・出力会社ではこれらのレイヤーを表示または非表示にして、異なったバージョンのドキュメントを生成できます。

ブックを PDF に書き出すときに「Acrobat レイヤーを作成」オプションを選択した場合、デフォルトでは同名のレイヤーが結合されます。

注意： 「Acrobat レイヤーを作成」は、「互換性」で「Acrobat 6（PDF 1.5）」またはそれ以降を選択している場合にのみ使用できます。

レイヤーを書き出し 表示中のレイヤーおよび印刷しないレイヤーを PDF に含めるかどうかを指定します。レイヤーオプション設定を使用して、各レイヤーを非表示にするか、印刷しないレイヤーとして設定するかを指定します。PDF に書き出すときに、書き出しの対象となるレイヤーが、「すべてのレイヤー」（非表示および印刷しないレイヤーを含む）か、「表示中のレイヤー」（印刷しないレイヤーを含む）か、「表示中でプリント可能なレイヤー」かを指定します。

ブックマーク 目次（TOC）のレベルを維持したまま、目次項目からブックマークを作成します。ブックマークは、ブックマークパネルで指定した情報から作成されます。

ハイパーリンク InDesign のハイパーリンクや、目次項目、索引項目から PDF ハイパーリンクを作成します。

ガイドとベースライングリッド ドキュメントで現在表示されているマージンガイド、定規ガイド、段組ガイド、およびベースライングリッドを書き出します。グリッドとガイドはドキュメントで使用されている同じ色で書き出されます。

印刷しないオブジェクト プリント属性パネルで「印刷しない」を選択したオブジェクトを書き出します。

インタラクティブ ボタンやムービーポスターなどのアイテムを PDF に含める場合は、「外観を含める」を選択します。インタラクティブ要素を含んだ PDF を作成する場合は、「Adobe PDF（プリント）」ではなく「Adobe PDF（インタラクティブ）」オプションを選択してください。詳しくは、インタラクティブ PDF への書き出しオプションを参照してください。

トップへ戻る

PDF 用の圧縮オプションとダウンサンプルオプション

ドキュメントを Adobe PDF に書き出すときに、テキストとラインアートの圧縮およびビットマップ画像の圧縮とダウンサンプルを実行できます。圧縮とダウンサンプルを適切に設定すると、PDF ファイルの詳細や正確さをほとんど損なうことなく、ファイルサイズを大幅に縮小することができます。

Adobe PDF を書き出しダイアログボックスの「圧縮」パネルは、3 つのセクションに分かれています。各セクションには、アートワークのカラー画像、グレースケール画像またはモノクロ画像を圧縮および再サンプルするための次のようなオプションが用意されています。

ダウンサンプル PDF ファイルを Web で使用する予定がある場合は、ダウンサンプルを使用すると高い圧縮率が得られます。PDF ファイルを高解像度でプリントする場合は、圧縮オプションとダウンサンプルオプションを設定する前に、印刷・出力会社に相談してください。

変換後のファイルを使用するユーザーがページを拡大する必要があるかどうかも考慮する必要があります。例えば、地図の PDF ファイルを作成する場合は、画像解像度を高めに設定し、地図を拡大表示できるようにしておきます。

ダウンサンプルとは、画像内のピクセル数を減らすことです。カラー画像、グレースケール画像、モノクロ画像のダウンサンプルを行うには、標準ダウンサンプル（バイリニア法）、ダウンサンプル（バイキュービック法）またはサブサンプリングの中から補間方法を選択して、解像度を 1 インチあたりのピクセル数で入力します。次に「上部画像」テキストボックスに解像度を入力します。このしきい値よりも高い解像度の画像はすべてダウンサンプルが行われます。

選択した補間方法によって、ピクセルをどのように削除するかが決まります。

ダウンサンプル（バイリニア法） サンプル領域のピクセルが平均化され、領域全体が指定解像度の平均ピクセルカラーに置き換えられます。

サブサンプリング サンプル領域の中心にあるピクセルが選択され、その領域全体が、選択されたピクセルカラーに置き換えられます。サブサンプリングでは、ダウンサンプリングと比べて処理時間が大幅に短縮されますが、画像の滑らかさと連続性は劣ります。

ダウンサンプル（バイキュービック法） 加重平均を使用してピクセルカラーが決定されます。この方式では、通常、ダウンサンプリングの単純な平均法よりもよい結果が得られます。バイキュービック法は最も時間がかかりますが、最も正確な方法で最も滑らかなグラデーションが得られます。

圧縮 使用する圧縮の方法を設定します。

自動（**JPEG**） カラー画像とグレースケール画像に最適な品質を自動的に決定します。ほとんどのファイルでは、このオプションを選択することで充分な結果が得られます。

JPEG グレースケール画像やカラー画像に適しています。JPEG 圧縮は非可逆圧縮（劣化あり）方式で、画像データの削除によって画質が低下する場合があります。ただし、情報の損失を最低限に抑えて、ファイルサイズを小さくしています。JPEG 圧縮ではデータを取り除くので、ZIP 圧縮よりもずっと小さいファイルサイズにすることができます。

ZIP 単色の広い領域がある画像か、繰り返しのパターンが使われているモノクロ画像に効果が大きい圧縮方法です。ZIP 圧縮は、「画質」設定により、データの損失率が異なります。

JPEG 2000 画像データの圧縮とパッケージングのための国際標準です。JPEG 圧縮と同様に、JPEG 2000 圧縮は、グレースケール画像やカラー画像の圧縮に適しています。この方式には、さらにプログレッシブ表示などの利点があります。「JPEG 2000」オプションは、「互換性」で「Acrobat 6（PDF 1.5）」以降が選択されている場合にのみ利用することができます。

自動（**JPEG 2000**） カラー画像とグレースケール画像に最適な品質を自動的に決定します。「自動（JPEG 2000）」オプションは、「互換性」で「Acrobat 6（PDF 1.5）」以降が選択されている場合にのみ利用することができます。

CCITT および **RLE** 白黒のビットマップ画像にだけ利用できます。CCITT（Consultative Committee on International Telegraphy and Telephony）圧縮は、モノクロ画像や、1 ビットの色数でスキャンした画像に適しています。「CCITT グループ 4」は、ほとんどのタイプのモノクロ画像の圧縮に適した汎用オプションです。「CCITT グループ 3」は、多くのファックス機器で利用されている圧縮方法で、モノクロ画像を 1 度に 1 行ずつ圧縮します。RLE（Run Length）圧縮では、塗りつぶしの黒または白が広いエリアを占める画像に適しています。

注意： InDesign で着色しているグレースケール画像は、カラー画像として既に圧縮設定が適用されています。しかし、特色で着色しており、フレームに [なし] が設定されているグレースケール画像は、グレースケールの圧縮設定を使用します。

画質 適用する圧縮の程度を指定します。JPEG 圧縮または JPEG 2000 圧縮では、「最低」、「低」、「中」、「高」、「最高」または「劣化な

し（JPEG 2000 圧縮のみ）」が選択できます。ZIP 圧縮の場合に選択できるのは 8 ビットだけです。InDesign では無損失 ZIP 方式を使用しているので、ファイルサイズを減少させるためにデータが削除されることはなく、画質には影響しません。
タイルサイズ プログレッシブ表示のためにタイルのサイズを設定します。このオプションは、「互換性」で「Acrobat 6（PDF 1.5）」以降を選択し、「圧縮」で「JPEG 2000」を選択している場合にだけ使用できます。
テキストとラインアートの圧縮　ドキュメントのすべてのテキストとラインアートのディテールや精度をほとんど落とさずに、Flate 圧縮（ZIP 圧縮に似た画像圧縮方式）を適用します。
画像データをフレームに合わせて切り抜く フレーム内の見える範囲内の画像データだけを書き出すことで、ファイルサイズを小さくします。画像の再配置や裁ち落としなどの後処理で、残りの部分のデータが必要となるような場合には、このオプションを選択しないでください。

トップへ戻る

PDF のトンボオプションと裁ち落としオプション

裁ち落としとは、アートワークのプリント用バウンディングボックスの外側や、トンボやトリムマークの外側にプリントするアートワークの部分のことを指します。断裁後のページの端まで完全に印刷したい場合や、ドキュメントのキーラインに画像を収める場合は、アートワークに裁ち落としを設定しておくことで、プリント処理で生じる余白の誤差を調整することができます。

裁ち落としのサイズを指定したり、各種のトンボをファイルに追加したりすることができます。

トップへ戻る

PDF のカラーマネジメントと PDF/X の色分解オプション

Adobe PDF を書き出しダイアログボックスの「色分解」セクションでは、次のオプションを設定できます。「色分解」の各オプションの相互作用は、カラーマネジメントがオンかオフか、ドキュメントにカラープロファイルのタグが付いているかどうか、どの PDF 標準が選択されているかによって異なります。

注意：　「色分解」セクションのオプション定義を簡単に表示するには、オプションの上にマウスポインターを移動して、ダイアログボックス下部にある「詳細」テキストボックスを参照します。
カラー変換 Adobe PDF ファイルのカラー情報を表示する方法を指定します。すべての特色情報は、カラー変換を行っても保持されます。プロセスカラーだけが、指定されたカラースペースに変換されます。

> カラー変換なし　カラーデータが現状のまま維持されます。PDF/X- を選択している場合のデフォルトになります。
> 出力先の設定に変換　すべてのカラーが、出力先で選択されているプロファイルに変換されます。プロファイルを含めるかどうかは、「プロファイル埋め込みポリシー」で指定します。
> 出力先の設定に変換（カラー値を保持）　出力先プロファイルとは異なるプロファイルが埋め込まれている場合にだけ（または RGB カラーであるときに出力先プロファイルが CMYK である場合、またはこの反対の場合）、出力先のプロファイルスペースにカラーが変換されます。タグなしカラーオブジェクト（プロファイルが埋め込まれていないもの）とネイティブオブジェクト（ラインアートやタイプなど）は変換されません。カラーマネジメントがオフの場合は、このオプションは使用できません。プロファイルを含めるかどうかは、「プロファイル埋め込みポリシー」で指定します。

出力先 使用しているモニターや SWOP 標準などの最終的な RGB または CMYK の出力デバイス全般が記述されています。InDesign では、このプロファイルを使用して、ドキュメントのカラー情報（カラー設定ダイアログボックスの「作業用スペース」セクションで定義されたソースプロファイル）を、対象の出力デバイスのカラースペースに変換します。
プロファイル埋め込みポリシー カラープロファイルをファイルに含めるかどうかを指定します。「カラー変換」の設定、どの PDF/X 標準が選択されているか、カラーマネジメントがオンかオフかによって、このオプションで選択できる設定は異なります。

> プロファイルを含めない　カラー管理されたドキュメントを作成するときに、埋め込みカラープロファイルを使用しません。
> すべてのプロファイルを含める　カラー管理されたドキュメントを作成します。Adobe PDF ファイルを使用するアプリケーションまたは出力デバイスで、カラーを別のカラースペースに変換する必要がある場合、プロファイルに埋め込まれているカラースペースを使用します。このオプションを選択する前に、カラーマネジメントをオンにし、プロファイル情報を設定しておきます。
> タグ付きソースプロファイルを含める　デバイスに依存する色は変更せず、デバイスに依存しない色は最も近い色を保持します。このオプションは、デバイスをすべて補正して、ファイルに含まれる色を指定するためにその情報を使用して、それらのデバイスにしか出力しない印刷・出力会社などに適しています。
> すべての **RGB** およびタグ付きソース **CMYK** プロファイルを含める　埋め込みプロファイルを使用して配置されたオブジェクトなど、タグ付き RGB オブジェクトとタグ付き CMYK オブジェクトのプロファイルを含めます。タグなし RGB オブジェクトのドキュメントの RGB プロファイルも含まれます。
> 出力先のプロファイルを含める　出力先のプロファイルをすべてのオブジェクトに割り当てます。「出力先の設定に変換（カラー値を保持）」を選択している場合、同じカラースペースにあるタグなしオブジェクトに出力先プロファイルが割り当てられ、カラー値は変更されません。

オーバープリント処理 コンポジット出力のオーバープリントの外観を維持することで、色分解出力の外観をシミュレートします。「オーバープリント処理」を選択していない場合は、Acrobat で「オーバープリントプレビュー」を選択して、重なるカラー効果を確認する必要があります。「オーバープリント処理」を選択している場合は、Acrobat で「オーバープリントプレビュー」を選択しなくても、特色が各プロセスカラーに変更され、重なるカラーが正常に出力されます。「オーバープリント処理」を選択している場合で、ダイアログボックスの「一般」セクションにある「互換性」で「Acrobat 4（PDF 1.3）」を選択している場合、ドキュメントのカラーをモニターで直接、ソフト校正し、特定の出力デバイスで再現することができます。
インキ管理 特色をプロセスカラーに変換するかどうかを指定し、他のインキ設定を指定します。「インキ管理」を使用しているドキュメントを変更すると（例えば、すべての特色をプロセスカラーに変換すると）、書き出されたファイルと保存されたファイルに変更内容が反映されますが、設定は Adobe PDF プリセットには保存されません。
出力インテントのプロファイル ドキュメントのプリント条件の特性を指定します。出力インテントプロファイルは、PDF/X に準拠したファイルを

作成するときに必要です。このメニューは、Adobe PDF を書き出しダイアログボックスの「一般」セクションにある「標準」で、PDF/X（またはプリセット）を選択している場合にのみ利用可能です。カラーマネジメントがオンかオフかによって、このオプションで選択できる設定は異なります。例えば、カラーマネジメントがオフである場合、出力先のカラースペースに一致する出力プロファイルだけが表示されます。カラーマネジメントがオンである場合は、出力インテントプロファイルは、（CMYK 出力デバイスの）「出力先」で選択されているプロファイルと同じプロファイルになります。

出力条件名 対象の印刷条件を記述します。このエントリは、PDF 文書の受信者に便利です。

出力条件 **ID** インテントプリント条件の詳細情報へのポインターを示します。ICC レジストリに含まれるプリント条件の識別子が自動入力されます。PDF/X- プリセットまたは標準を使用している場合、Acrobat 7.0 Professional 以降のプリフライト機能または Enfocus PitStop アプリケーション（Acrobat 6.0 のプラグイン）にはファイルが準拠していないので、このオプションは使用できません。

レジストリ名 レジストリの詳細情報が掲載されている Web アドレスを示します。ICC レジストリ名の URL が自動入力されます。PDF/X- プリセットまたは標準を使用している場合、Acrobat 7.0 Professional 以降のプリフライト機能または Enfocus PitStop アプリケーション（Acrobat 6.0 のプラグイン）にはファイルが準拠していないので、このオプションは使用できません。

トップへ戻る

PDF のフォント、OPI、および分割・統合のオプション

Adobe PDF を書き出しダイアログボックスの「詳細」セクションでは、次のオプションを設定できます。

使用している文字の割合が次より少ない場合、サブセットフォントにする ドキュメント内で使用されているフォントの文字数に基づいて、完全なフォントを埋め込むしきい値を設定します。ドキュメント内で使用されている文字の割合がどのような条件のフォントに対しても上回っている場合、そのフォントは完全に埋め込まれます。そうでない場合、フォントはサブセットになります。フォントが完全に埋め込まれるとファイルサイズは大きくなります。完全にすべてのフォントを埋め込む場合は 0（ゼロ）を入力します。環境設定ダイアログボックスの「一般」パネルにある「フォントのダウンロードと埋め込み」で指定している文字数に基づいて、フォントのサブセットのしきい値を設定することもできます。

OPI プリンターやファイルに画像データを送る際、選択した形式と異なる画像を無視し、後で OPI サーバーで画像を制御するための OPI リンク（OPI コメント）だけが保持されます。

プリセット ダイアログボックスの「一般」セクションの「互換性」で「Acrobat 4（PDF 1.3）」を設定すると、透明の分割・統合のプリセット（またはオプションの設定）を指定することができます。これらのオプションは、アートワーク内の透明効果と一緒にスプレッドを書き出す場合にだけ使用します。

注意： 「Acrobat 5（PDF 1.4）」以降では、アートワーク内の透明部分が自動的に保持されます。そのため、これらの互換性レベルが指定されている場合は「プリセット」および「カスタム」オプションは使用できません。

スプレッドオーバーライドを無視 ドキュメントまたはブックにあるすべてのスプレッドに透明の分割・統合設定を適用し、個々のスプレッドにある透明の分割・統合プリセットを上書きします。

Acrobat を使用して **JDF** ファイルを作成 ジョブ定義形式（JDF）ファイルを作成し、Acrobat Professional を起動して JDF ファイルを処理します。Acrobat のジョブ定義には、プリントするファイルへの参照と、印刷・出力会社で製作するための指示や情報が含まれています。このオプションは、Acrobat 7.0 Professional 以降がインストールされている場合にのみ使用できます。詳しくは、Acrobat ヘルプを参照してください。

トップへ戻る

PDF ファイルへのセキュリティの追加

PDF で保存するときに、パスワード保護とセキュリティ制限を設け、特定のユーザーだけがファイルを開けるようにするだけでなく、内容のコピーと抽出、ドキュメントのプリントも特定のユーザーだけに制限することができます。

PDF ファイルには、ドキュメントを開くためのパスワード（文書を開くパスワード）や、セキュリティ設定を変更するためのパスワード（権限パスワード）を設定することができます。ファイルにセキュリティ制限を設定する場合は両方のパスワードを指定してください。そうしなければ、ファイルを開けるユーザーであれば誰でも制限を解除できてしまいます。権限パスワードでファイルを開くと、セキュリティ制限は一時的に解除されます。

PDF ファイルのパスワード保護には、RSA 社の RC4 セキュリティ方式が採用されています。一般カテゴリーの「互換性」の設定に応じて、暗号化レベルには「高」または「低」が設定されます。

注意： Adobe PDF プリセットでは、パスワードとセキュリティ設定がサポートされていません。Adobe PDF を書き出しダイアログボックスでパスワードとセキュリティ設定を選択し、「プリセットを保存」をクリックしても、パスワードとセキュリティ設定はプリセットには保存されません。

トップへ戻る

PDF のセキュリティのオプション

PDF を作成するとき、または PDF にパスワード保護を適用するときには、次のオプションを設定できます。設定できるオプションは。「互換性」の設定により異なります。「セキュリティ」のオプションは、PDF/X 標準またはプリセットでは設定できません。

互換性 パスワードで保護されるドキュメントを開くための暗号の種類を設定します。「Acrobat 4（PDF 1.3）」オプションでは最低レベル（40-ビット RC4）が使用され、その他のオプションでは最高レベル（128-ビット RC4 または AES）が使用されます。

下位バージョンの Acrobat では、互換性で上位バージョンが設定されている PDF ドキュメントは開けません。例えば、「Acrobat 7（PDF 1.6）」オプションを選択した場合、Acrobat 6.0 またはそれ以前のバージョンではこのドキュメントを開くことができません。

ドキュメントを開くときにパスワードが必要 このオプションを選択すると、ユーザーが文書を開くときに指定のパスワードを入力するよう求められます。

ドキュメントを開くパスワード ユーザーが PDF ファイルを開くときに入力する必要があるパスワードを指定します。

注意： パスワードを忘れた場合は、文書からパスワードを取得する方法はありません。パスワードを忘れたときのために、パスワードを別の安全な場所に保管しておくことをお勧めします。

文書の印刷および編集とセキュリティ設定にパスワードが必要 PDF ファイルのセキュリティ設定へのアクセスを制限します。ファイルを Adobe Acrobat で開く場合、ユーザーはファイルを閲覧できますが、ファイルのセキュリティと権限の設定を変更するには、特定の権限パスワードを入力する必要があります。ファイルを Illustrator、Adobe Photoshop または Adobe InDesign で開く場合は、ファイルを読み取り専用モードで開くことができないので、ユーザーは権限パスワードを入力する必要があります。

権限パスワード 権限設定を変更するときに必要なパスワードを指定します。このオプションは、前のオプションが選択されている場合にのみ使用できます。

印刷可能 PDF ドキュメント上で、ユーザーに許可する印刷レベルを指定します。

なし ドキュメントを印刷できないようにします。

低解像度（**150 dpi**） 150 dpi 以下の解像度で印刷を許可します。各ページはビットマップ画像としてプリントされるので、プリント速度は遅いことがあります。このオプションは、「互換性」オプションが Acrobat 5（PDF 1.4）またはそれ以降に設定されている場合にのみ使用できます。

高解像度 ユーザーはドキュメントを任意の解像度でプリントすることができます。高度な高品質プリント機能をサポートする Adobe PostScript プリンターおよびその他のプリンターに、高品質のベクトル出力を送ることができます。

変更を許可 PDF ドキュメント上で許可する編集操作を定義します。

なし フォームフィールドへの入力や注釈の追加など、「変更を許可」オプションに表示されている、文書に対する変更をユーザーが実行できなくなります。

ページの挿入、削除と回転 ページの挿入、削除、回転、ブックマークとサムネールの作成を許可します。このオプションは、高レベルの暗号化（128-bit RC4 または AES）が設定されている場合にのみ使用できます。

フォームフィールドの入力および署名 ユーザーはフォームへの入力とデジタル署名の追加ができます。このオプションでは、コメントの追加とフォームフィールドの作成はできません。このオプションは、高レベルの暗号化（128-bit RC4 または AES）が設定されている場合にのみ使用できます。

注釈、フォームフィールドへの記入と署名 ユーザーは注釈の追加、デジタル署名の追加、フォームへの入力ができます。このオプションでは、ページオブジェクトの移動とフォームフィールドの作成はできません。

ページレイアウト、フォームフィールドの入力と既存の署名フィールドに署名 ページの挿入、回転、削除、ブックマークとサムネールの作成、フォームの入力、電子署名の追加を許可します。このオプションでは、フォームフィールドの作成はできません。このオプションは、低レベルの暗号化（40-bit RC4）が設定されている場合にのみ使用できます。

ページの抽出を除くすべての操作 ユーザーはドキュメントの編集、フォームフィールドの作成と入力、注釈の追加、デジタル署名の追加ができます。

テキスト、画像、およびその他の内容のコピーを有効にする PDF の内容を選択してコピーできます。

内容のコピー、および視覚障害者用アクセスを有効にする 視覚に障害を持つユーザーが、スクリーンリーダーを使用してドキュメントを判読したりコピーできるようにします。このオプションは、低レベルの暗号化（40-bit RC4）が設定されている場合にのみ使用できます。

スクリーンリーダーデバイスのテキストアクセスを有効にする 視覚に障害を持つユーザーがスクリーンリーダーを使用して文書を判読できるようにしますが、文書の内容をコピーまたは抽出することはできません。このオプションは、高レベルの暗号化（128-bit RC4 または AES）が設定されている場合にのみ使用できます。

文書メタデータを暗号化しない PDF の内容のコピーと抽出を許可します。このオプションは、「互換性」で「Acrobat 6（PDF 1.5）」以降が選択されている場合にのみ使用できます。このオプションを選択すると、ストレージ / 検索システムおよび検索エンジンがドキュメントに格納されているメタデータにアクセスできるようになります。

トップへ戻る

フォントの埋め込みと置換

フォントの埋め込みができるのは、フォントメーカーが埋め込みを許可している場合のみです。フォントを埋め込むことで、ファイルを表示したり印刷したりする際にフォントが置換されることが防止され、元のフォントでテキストが表示されることが保証されます。アジア圏で一般に使用されている CID フォントフォーマットを使用していない限り、フォントを埋め込んでもファイルサイズは少し増加するだけです。フォントの埋め込みまたは置換は Acrobat で行います。また、InDesign ドキュメントを PDF に書き出すときにも行うことができます。

フォントは全体を埋め込むことも、ファイルで使用されている文字のサブセットのみを埋め込むこともできます。

フォントメーカーの設定のためにフォントを埋め込むことができず、PDF を開いたり印刷したりするときに元のフォントにアクセスできない場合、それらのフォントは一時的に別のフォントに置換されます。問題を避けるには、フォントを埋め込むことができる PDF ファイルのみを印刷してください。

マルチプルマスターフォントは、伸縮や調整を行い、必ず改行と改ページの位置が元のドキュメントと同じになるようにします。ただし、特に手書き書体のような通常と異なる文字の場合など、この置換を行っても元の文字の形状と常に一致するわけではありません。



文字が一般的でない場合（左）、欧文置換フォントの形状はいつも一致するわけではない（右）

オンライン表示用ドキュメントの準備

Adobe PDF はファイルサイズが小さい、プラットフォームに依存しない、オンラインナビゲーションが利用できるという点で、ドキュメントを電子的に配布し、画面上に表示するための理想的な形式です。Adobe PDF ドキュメントを他のユーザーに電子メールの添付ファイルで送信したり、インターネットやイントラネットで配布したりすることができます。

アクセシビリティに対応した PDF ドキュメントの作成については、Adobe InDesign CS4 accessibility（英語）を参照してください。

Adobe PDF ファイルを電子配信する際、次のガイドラインを参考にしてください。

- Adobe PDF ドキュメントを Web サイトに配置する前に、ドキュメントのテキスト、図版、およびレイアウトが完全に正確に表示されることを確認します。
- 目次項目、ハイパーリンク、およびブックマークが正確に生成されることを確認します。目次項目はブックマークパネルの情報から自動的に生成されます。
- パスワードやその他のセキュリティオプションを設定します。
- ファイル名は 8 文字以内にし、3 文字以内の拡張子を付けます。多くのネットワークプログラムや電子メールプログラムでは、長いファイル名は短縮されます。
- PDF ファイルを Windows コンピューターまたはインターネットで表示する場合は、ファイル名に必ず拡張子 .pdf を付けます。
- 画面表示用の定義済み Adobe PDF 書き出し設定を適用するには、「最小ファイルサイズ」を選択します。

  注意： オーバープリントや透明効果が使用されている InDesign ドキュメントから書き出した Adobe PDF ファイルは、Acrobat 5.0 以降または Adobe Reader 7.0 以降で「オーバープリントプレビュー」オプションを選択したときに最適な表示になります。

関連項目

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

プリント

詳しくは、以下のオンラインのリソースを参照してください。

デスクトッププリンターを使用したブックレットのプリント（英語）

Jeff Witchel（2012/10/15）

strContentType_Video_tutorial

デスクトッププリンターを使用してブックレットを作成してプリントする方法を説明します。

Adobe Creative Suite 5/5.5 プリントガイド（PDF、21 MB）（英語）

記事（2011/01/01）

プリント用にアドビドキュメントを設定する方法については、このガイドをダウンロードしてください。商用印刷に必要なすべての情報をこのガイドで得ることができます。

印刷・出力会社用の PDF の準備

PDF 印刷出版ツールについて
書き出し前のドキュメントのチェック
PDF のパススルー印刷
印刷に適した Adobe PDF ファイルの生成

ページの先頭へ

PDF 印刷出版ツールについて

一部の印刷出版ワークフローでは、ドキュメントは作成元アプリケーションの形式で配布されます（これは、ネイティブ形式と呼ばれます）。デザインが承認されると、PostScript 形式か、プリプレス作業や最終印刷用の適切な形式で保存されることになります。ただし、アプリケーションの多くは様々な方法で PostScript を生成するので、PostScript ファイルはサイズが大きく複雑になる可能性があります。さらに、出力時におけるフォントの欠落、ファイルの破損、画像の消失、およびサポートされていない機能といった信頼性の問題が生じることがあります。これに対応するため、アドビ システムズ社ではパートナーと共に、引き続き、PDF に基づいた信頼性の高い出版ワークフローソリューションを作成しています。

InDesign から、ドキュメントをデジタルマスターと呼ばれるコンポジット PDF ファイルに書き出すことができます。これらのデジタルマスターは、印刷・出力会社での表示、編集、編成、校正刷りが可能なサイズの小さい信頼性の高いファイルです。印刷・出力会社は、ワークフローの適切な段階で PDF ファイルを直接出力するか、プリフライトチェック、トラップ、面付け、および色分解出力のような後処理タスクに関する様々なツールを使用して、その PDF ファイルを処理します。

ワークフローでの PDF ファイル

大規模な出版社の多くが、PDF を使用して校閲と製作の工程を合理化しています。例えば、多くの雑誌や新聞は、衛星回線や ISDN 回線経由で地域の出版オフィスに広告を配信するための標準形式として PDF を採用しています。地域の出版社では、PDF によって、デザインされたとおりの広告を直ちに表示し、最終段階でテキストを編集し、どのようなコンピューターでも信頼性の高い印刷をすることができます。

PDF ワークフローのテクノロジーと要件

アドビ システムズ社では、印刷・出力会社のワークフローの需要に随時対応しており、最新の開発状況をアドビ システムズ社の Web サイト（www.adobe.com/jp）で公開しています。現在、アドビでは、次のテクノロジーを統合したシステムを提供することで、出版ワークフローの需要に対処しています。

- Adobe PDF 1.7 をサポートする Adobe Acrobat 9。
- デバイスに依存しない、Adobe In-RIP トラップ、In-RIP 色分解出力、および滑らかなグラデーションの出力に関する Adobe PostScript 3 テクノロジー。
- 高解像度ページレイアウト機能と PDF の直接処理機能を備える Adobe InDesign CS4。
- PDF/X。印刷上の問題を引き起こす原因となるカラー、フォントおよびトラップ値の多くを除外するためのグラフィックコンテンツ交換用の ISO 標準規格。

高解像度コンポジット PDF ワークフローには、通常、In-RIP 色分解出力をサポートする RIP を備えた PostScript 3 出力デバイスが組み込まれています。したがって、出力デバイスで PostScript レベル 2 を使用している場合や、In-RIP 色分解出力をサポートしていない場合は、あらかじめ色分解出力された PostScript 印刷ワークフローを使用します。

ページの先頭へ

書き出し前のドキュメントのチェック

印刷・出力会社用の PDF を作成する前に、InDesign ドキュメントが印刷・出力会社の仕様に一致しているかどうかを確認します。推奨事項は以下

のとおりです。

- 正しい画像の解像度とカラースペースが使用されること、フォントが使用でき埋め込むことができること、画像が最新のものであることを確実にするには、InDesign のプリフライト機能を使用します。
- 書き出しの前に Adobe PDF 書き出しの設定を確認し、必要に応じて変更します。「概要」セクションの「警告」には、プリセットの設定に矛盾があったときに警告が表示されます。
- アートワークにオーバープリント、ドロップシャドウや透明部分が含まれており、高解像度で出力する必要がある場合は、ファイルを保存する前に、分割プレビューパネルを使用して分割・統合の結果を確認することをお勧めします。
- アートワークに透明部分が含まれる場合は、印刷・出力会社と相談して、分割・統合されている PDF ファイルを使用するか、分割・統合されていない PDF ファイルを使用するかを決定します。統合は、できる限りワークフローの最終段階に印刷・出力会社で行います。ただし、印刷・出力会社に送る前に透明を統合する場合は、PDF/X-a に準拠したファイルを送ります。
- ドキュメントに色分解が含まれる場合は、分版パネルを使用して、色分解とインキ適用限界をプレビューできます。
- 高解像度の画像だけを使用します。
- 4 色分解作業で最適な結果を得るには、CMYK 画像だけを使用します。または、Adobe PDF を書き出しダイアログボックス（色分解カテゴリー）で、RGB 画像を CMYK に変換することもできます。
- 書き出す PDF ドキュメントから、非表示レイヤーや印刷しないレイヤーを除外できます（プリントまたは PDF への書き出しを行うレイヤーの選択を参照してください。）

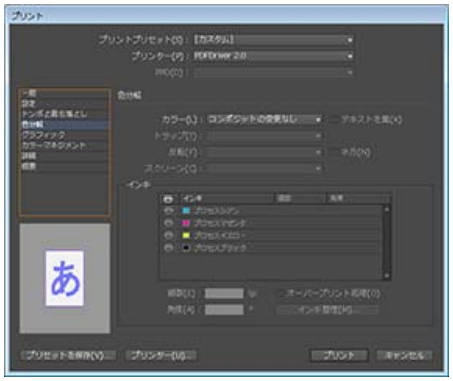
高解像度 PDF 出力用の InDesign ドキュメントの準備について詳しくは、印刷・出力会社向け *Adobe InDesign CS* 印刷ガイド（英語）を参照してください。

ページの先頭へ

PDF のパススルー印刷

PDF Print Engine 搭載のプリンターを製造するプリンターメーカーは、PDF をパススルーモードで処理できる、Adobe PDFDriver SDK に基づく新しいドライバーをリリースしています。このようなプリンターを InDesign で選択すると、その PPD でプリンターが PDF プリンターであることを指示できます（プリンターメーカーに依存します）。

InDesign では、高品質の PDF を PDF の書き出しによって生成できるので、PDF プリンターへの出力ではその機能を活用して高品質の PDF がプリンターに渡され、中間の PostScript は発生しません。
通常、アプリケーションの PDF ドライバー経由の印刷品質は、PostScript 印刷と同等です（またはそれよりも優れています）。Adobe PDF プリンターによる PDF 印刷では、ライブ透明度と ICC カラーマネジメントもサポートします。すべてのカラーマネジメントは印刷品質を向上させるためにデバイス上で実行されるので、InDesign のプリントダイアログでは、カラーマネジメント、色分解、グラフィックに関連するオプションは無効になっています。



プリントダイアログ

「コンポジットの変更なし」がデフォルトで選択され、変更できません。

ページの先頭へ

印刷に適した Adobe PDF ファイルの生成

印刷・出力会社は、Acrobat 7.0 Professional 以降を使用して、プリフライトチェックや色分解出力を実行することができます。新しい Acrobat Professional では、特定の修正が自動的に行われる機能などを含め、より高度なプリフライトツールを使用できます。プリプレス用のアプリケーションや In-RIP テクノロジーを使用して、デジタルマスターのページのプリフライトチェック、トラップ、面付け、色分解出力を実行することもできます。

Adobe PDF ファイルを作成する際に画像を省略するように選択した場合は、印刷・出力会社が正しい出力に必要な高解像度の元の画像を入手できるようにしてください。さらに、テキストとカラー画像を正確に表示するために、印刷・出力会社が Acrobat 7.0 以降を所有していることを確認してください。最も正確に表示するには、Acrobat 8 Professional 以降を使用します。

カラー管理されたワークフローで作業している場合は、カラープロファイルの精度で画面上にプレビュー（ソフト校正）することができます。特定の出力デバイスで、ドキュメントのカラーがどのように再現されるかを調べることができます。

注意： *ICC* プロファイルが正確にキャリブレーションされたカラーマネジメントシステム（*CMS*）を使用していない場合で、モニターが正しくキャリブレーションされていない場合は、画面上に表示されるカラーは信頼できません。

1. ドキュメントを Adobe PDF に書き出す準備をします。
2. 印刷・出力会社で提供される .joboptions ファイルを使用して書き出します。推奨 .joboptions ファイルがない場合は、PDF/X プリセットを使用します。
3. Acrobat 7.0 Professional 以降で PDF のプリフライトを行います。
4. PDF ファイルを校正し、修正します。
5. 印刷に適した PDF を印刷・出力会社に入稿します。

関連項目

Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

入稿前のファイルのプリフライト

プリフライトパネルの概要
プリフライトプロファイルの定義
プリフライトエラーの確認と解決
ブックのプリフライト
ファイルのパッケージ

詳しい情報と手順については、以下のリンクをクリックしてください。

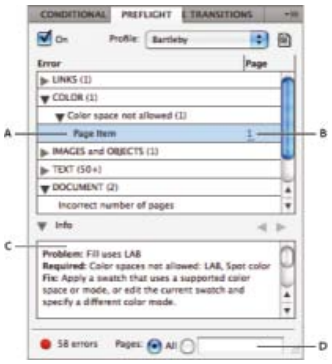
ページの先頭へ

プリフライトパネルの概要

ドキュメントをプリントする前、または印刷・出力会社に入稿する前に、ドキュメントの品質チェックを実行することができます。プリフライトは、品質チェックの業界用語です。ドキュメントの編集時に、ドキュメントやブックのプリントや出力を妨げる可能性がある問題が見つかると、プリフライトパネルに警告が表示されます。例えば、無効なファイルやフォント、低解像度の画像、オーバーセットテキストなどの問題です。

プリフライト設定により、検出する問題を定義できます。プリフライト設定の定義は、プリフライトプロファイルに保存して容易に再利用できます。プリフライトプロファイルは、独自に作成するか、プリンターや別のソースから読み込むことができます。

ライブプリフライトを利用するには、ドキュメント作成の初期段階でプリフライトプロファイルを作成または指定します。プリフライトをオンにすると、問題が見つかったときにステータスバーに赤丸のアイコンが表示されます。プリフライトパネルの「情報」セクションに問題の基本的な修復方法が表示されます。



プリフライトパネル

A. 選択されたエラー ***B.*** ページ番号をクリックしてページアイテムを表示 ***C.*** 選択したエラーの基本的な修復方法を示す「情報」セクション ***D.*** ページ範囲を指定してエラーチェック

プリフライトパネルを開く

- ウィンドウ／出力／プリフライトを選択します。
- ドキュメントウィンドウの下部のプリフライトアイコンをダブルクリックします。プリフライトアイコンの緑色はエラーなし、赤色はエラーありを示します。

ページの先頭へ

プリフライトプロファイルの定義

デフォルトでは、[基本] プロファイルが新しいドキュメントおよび変換されたドキュメントに適用されます。このプロファイルでは、不明および変更済みリンク、オーバーセットテキスト、環境にないフォントが検出されます。[基本] プロファイルは、編集や削除はできませんが、複数のプロファイルを作成して使用できます。例えば、作業対象のドキュメント別、使用する印刷･出力会社別、ドキュメントの製作段階別にプロファイルを作成し、切り替えて使用できます。

プロファイルの入手方法やプリフライトプロファイルの設定については、印刷・出力会社にお問い合わせください。

プリフライトプロファイルの定義

1. プリフライトパネルメニューまたはドキュメントウィンドウの下部のプリフライトメニューから「プロファイルを定義」を選択します。
2. 新規プリフライトプロファイルアイコン をクリックし、プロファイルの名前を指定します。
3. 各カテゴリーで、プリフライト設定を指定します。チェックマークを付けたボックスのすべての設定が追加されます。空のボックスは何も設定がないことを示します。

   リンク 不明なリンクや変更済みのリンクをエラーとして表示するかどうかを指定します。

   カラー 必要な透明ブレンドスペースを指定し、CMY 色版、カラースペース、オーバープリントなどのアイテムを許可するかどうかを指定します。

   画像とオブジェクト 画像の解像度、透明度、線の太さなどのアイテムの条件を指定します。

   テキスト 「テキスト」カテゴリーには、無効なフォントやオーバーセットテキストなどのアイテムのエラーが表示されます。

   ドキュメント ページのサイズと向き、ページ数、空白ページ、裁ち落としや印刷可能領域の設定の条件を指定します。
4. プロファイルごとに「保存」を選択して変更を保存してから、別のプロファイルの作業を行います。ダイアログボックスを閉じてすべての変更を保存するには、「OK」をクリックします。

プロファイルの埋め込みと埋め込み解除

プロファイルを埋め込むと、そのプロファイルはドキュメントの一部になります。プロファイルの埋め込みは、ファイルを第三者に送信する場合に特に便利です。埋め込まれたプロファイルが必ず使用されるわけではありません。例えば、印刷･出力会社はドキュメントに埋め込まれたプロファイルとは別のプロファイルを選択して使用できます。

プロファイルは 1 つだけを埋め込むことができます。[基本] プロファイルを埋め込むことはできません。

1. プロファイルを埋め込むには、プリフライトパネルのプロファイルポップアップメニューから該当プロファイルを選択し、プロファイルポップアップメニューの右の埋め込みアイコン をクリックします。

   プリフライトプロファイルダイアログボックスでも、プロファイルを埋め込むことができます。
2. プロファイルの埋め込みを解除するには、プリフライトパネルメニューから「プロファイルを定義」を選択し、該当のプロファイルを選択します。次に、ダイアログボックスの左下のプリフライトプロファイルメニューから「プロファイルを埋め込み解除」を選択します。

プロファイルの書き出しと読み込み

プロファイルを書き出して他のユーザーに提供することができます。書き出したプロファイルは、.idpp という拡張子で保存されます。

プロファイルの書き出しは、プロファイル設定のバックアップ方法としても有効です。環境設定を初期化すると、プロファイル情報もリセットされてしまいます。環境設定を復元するには、書き出したプロファイルを読み込むと元の状態に戻ります。

第三者が提供するプロファイルを読み込むこともできます。*.idpp ファイルを読み込むか、指定したドキュメントに埋め込まれたプロファイルを読み込むことができます。

- プロファイルを書き出すには、プリフライトパネルメニューから「プロファイルを定義」を選択します。次に、ダイアログボックスの左下のプリフライトプロファイルメニューから「プロファイルを書き出し」を選択し、名前と書き出し先を指定して「保存」をクリックします。
- プロファイルを読み込むには、プリフライトメニューから「プロファイルを定義」を選択します。次に、ダイアログボックスの左下のプリフライトプロファイルメニューから「プロファイルを読み込み」を選択し、*.idpp ファイルを選択するか、使用するプロファイルが埋め込まれたドキュメントを選択し、「開く」をクリックします。

プロファイルの削除

1. プリフライトパネルメニューから「プロファイルを定義」を選択します。
2. 削除するプロファイルを選択し、プリフライトプロファイルを削除アイコン をクリックします。
3. 「OK」をクリックしてプロファイルを削除します。

ページの先頭へ

プリフライトエラーの確認と解決

エラーリストには、エラーが検出されたカテゴリーのみが表示されます。各アイテムの横の矢印をクリックすると、そのアイテムが展開または折りたたまれます。

エラーリストでは、次の点に注意してください。

- スウォッチや段落スタイルなどのデザイン要素に問題の原因がある場合があります。デザイン要素自体はエラーとして報告されません。代わりに、デザイン要素が適用されたページアイテムがエラーリストに表示されます。このような場合は、デザイン要素の問題を解決する必要があります。
- オーバーセットテキスト、非表示状態、または注釈で発生したエラーはリストに表示されません。トラックされた変更に含まれる削除済みテキストも無視されます。
- マスターが適用されていない場合や、マスターが適用されたページが現在の範囲にない場合は、問題があるマスターページアイテムが表示されません。マスターページアイテムにエラーがあり、マスターが適用された各ページに同じエラーが検出される場合でも、プリフライトパネルには一度だけエラーとして表示されます。
- 印刷しないページアイテム、ペーストボード上のページアイテムまたは非表示レイヤーや印刷しないレイヤーで発生したエラーは、該当するオプションがプリフライトオプションダイアログボックスで指定されている場合にのみ、エラーリストに表示されます。
- 特定のページのみを出力するには、ページ範囲を限定してプリフライトチェックを実行できます。プリフライトパネルの下部でページ範囲を指定します。

ライブプリフライト機能のオン／オフの切り替え

デフォルトでは、すべてのドキュメントに対してプリフライト機能がオンになります。

1. アクティブなドキュメントに対してプリフライト機能のオン／オフを切り替えるには、プリフライトパネルの左上隅の「オン」オプションを選択するか、ドキュメントウィンドウの下部のプリフライトメニューから「ドキュメントのプリフライト」を選択します。
2. すべてのドキュメントに対してプリフライト機能のオン／オフを切り替えるには、プリフライトパネルメニューから「すべてのドキュメントのプリフライトを有効にする」を選択します。

エラーの解決

1. エラーリストで、項目名をダブルクリックするか、「ページ」列のページ番号をクリックしてページアイテムを表示します。
2. 「情報」の左の矢印をクリックし、選択した行に関する情報を表示します。

   「情報」セクションには、問題の説明とその修復案が表示されます。
3. エラーを修復します。

別のプロファイルの選択

多くのワークフローでは、複数のプロファイルを効果的に使用できます。例えば、ドキュメント別に異なるプロファイルを選択して同時に編集したり、別のプロファイルを選択して別の製作段階を開始したりすることができます。別のプロファイルを選択すると、ドキュメントが再チェックされます。

1. ドキュメントを開きます。
2. プリフライトパネルで、プロファイルポップアップメニューからプロファイルを選択します。

このプロファイルを毎回使用するドキュメントに対しては、プロファイルを埋め込みます。プロファイルを埋め込まない場合は、ドキュメントを開いたときにデフォルトの作業用プロファイルが使用されます。

プリフライトのページ範囲の指定

- プリフライトパネルの下部で、ページ範囲（「**1-8**」など）を指定します。

ページ範囲を指定する方法は、プリントダイアログボックスと同じです。このページ範囲に含まれないページで発生したエラーは、エラーリストに表示されません。

プリフライトオプションの設定

1. プリフライトパネルメニューから「プリフライトオプション」を選択します。
2. 次のオプションを指定して、「OK」をクリックします。

作業用プロファイル　新規ドキュメント用のデフォルトとして使用するプロファイルを選択します。作業用プロファイルを新規ドキュメントに埋め込む場合は、「作業用プロファイルを新規ドキュメントに埋め込み」を選択します。プリフライトプロファイルの定義を参照してください。

埋め込みプロファイルを使用／作業用プロファイルを使用　ドキュメントを開くときに、埋め込まれたプロファイルまたは指定した作業用プロファイルのどちらをプリフライトに使用するかを指定します。

レイヤー　すべてのレイヤー、表示中のレイヤー、表示中でプリント可能なレイヤーのアイテムをプリフライトに含めるかどうかを指定します。例えば、非表示レイヤーにアイテムがある場合、そのアイテムに関するエラーの表示を省略できます。

印刷しないオブジェクト　このオプションを選択すると、プリント属性パネルで「印刷しない」設定になっているオブジェクトのエラーや、「マスターアイテムを隠す」が適用されているページのマスターページオブジェクトのエラーが報告されます。

ペーストボード上のオブジェクト　このオプションを選択すると、ペーストボード上のオブジェクトのエラーが報告されます。

エラーごとの行数の制限

エラーごとの行数を制限すると、エラーリストを管理しやすくなります。例えば、TrueType フォントを使用しているドキュメントで、ドキュメント全体で使用されている 1 つの TrueType フォントによって何百ものエラーが発生する場合があります。エラーごとの行数を 25 に制限すると、リストには最初の 25 のエラーだけが報告され、エラーの横に（25+）と表示されます。

- プリフライトパネルのメニューから「行数をエラー単位で制限」を選択し、行数を指定します。

エラーレポートの保存

プリフライトパネルに表示するエラーをテキストファイルまたは PDF ファイルとして生成できます。エラーレポートには、時間、ドキュメント名、プロファイル名などの情報も表示されます。

ドキュメントで使用されているフォント、インキ、リンクなど、すべてのアイテムを含む検出一覧については、パッケージ機能を使用してレポートを作成します。

1. プリフライトパネルメニューから「レポートを保存」を選択します。
2. 「ファイルの種類」（Windows）または「形式」（Mac OS）で、ファイルをテキストファイルまたは PDF ファイルのどちらで保存するかを指定します。
3. レポートの名前と保存先を指定し、「保存」をクリックします。

ページの先頭へ

ブックのプリフライト

ブックパネルメニューから「ブックをプリフライト」を選択すると、すべてのドキュメント（またはすべての選択されたドキュメント）でエラーチェックが行われます。各ドキュメントに埋め込まれたプロファイルを使用するか、別のプロファイルを指定することができます。各ドキュメントのプリフライトステータスは、緑、赤または疑問符のアイコンで示されます。緑のアイコンは、ドキュメントにエラーがないことを示します。赤のアイコンはエラーを示します。疑問符のアイコンは、不明なステータスであることを示します。不明なステータスとしては、ドキュメントが閉じられている、プリフライトがオフになっている、プリフライトプロファイルが変更されているなどが考えられます。

ブック内のプリフライトオプションの設定

1. ブックパネルメニューから「ブックをプリフライト」を選択します。
2. プリフライトブックオプションダイアログボックスで、プリフライトオプションをブック全体に適用するか、選択されたドキュメントのみに適用するかを指定します。
3. 「プリフライトプロファイル」で、プロファイルを使用ポップアップメニューで指定したプロファイルを使用するか、各ドキュメントに埋め込まれたプロファイルを使用するかを指定します。

   指定したプロファイルは、各ドキュメントに一時的に使用されます。個別のドキュメントのいずれかを閉じて開くと、プリフライトオプションダイアログボックスに指定されたオプションに従って、作業用プロファイルまたは埋め込まれたプロファイルのいずれかが使用されます。
4. 「含める」で、エラーリストに含めるアイテムを指定します。

   レイヤー　すべてのレイヤー、表示中のレイヤー、表示中でプリント可能なレイヤーのアイテムをプリフライトに含めるかどうかを指定します。例えば、非表示レイヤーにアイテムがある場合、そのアイテムに関するエラーの表示を省略できます。

   ペーストボード上のオブジェクト　このオプションを選択すると、ペーストボード上のオブジェクトのエラーが報告されます。

   印刷しないオブジェクト　このオプションを選択すると、プリント属性パネルで「印刷しない」設定になっているオブジェクトに関するエラーが報告されます。
5. 「レポート作成」を選択して、エラーリストをテキストファイルまたは PDF ファイルとして作成します。作成されたレポートには、ブック内のすべてのエラーが表示されます。
6. 「プリフライト」をクリックします。

ブック内のプリフライトエラーの解決

ブックパネルでドキュメント名の右に赤い点が表示された場合は、ドキュメントにプリフライトエラーがあります。

1. ブックパネルで、エラーを含むドキュメントをダブルクリックします。
2. プリフライトパネルで各ドキュメントのエラーを確認し、必要な変更を行って問題を解決します。

スタイルやスウォッチなどのデザイン要素が問題の原因になっている場合があります。このような場合は、スタイルソースドキュメントのスタイルやスウォッチのエラーを解決し、ブックを同期させます。

ドキュメントに埋め込まれたプロファイルを使用せず、指定したプロファイルをブックのプリフライトで使用すると、そのドキュメントを再度開

いたときに別のプロファイルが選択される場合があります。プロファイルが異なると、異なるプリフライトエラーが発生することがあります。

ページの先頭へ

ファイルのパッケージ

フォントやリンクグラフィックなど、ドキュメント作成に使用したファイルを収集して、印刷・出力会社への入稿時に必要なファイルを簡単に揃えることができます。パッケージ機能を実行すると、InDesign ドキュメント（またはブックファイルのドキュメント）、必要なフォント、リンクグラフィック、テキストファイルおよびカスタマイズされたレポートを含むフォルダーが作成されます。このレポートはテキストファイルで保存されており、使用するすべてのフォントのリスト、リンク、ドキュメントをプリントするためのリンクなど、パッケージダイアログボックスの情報とプリント設定が含まれています。

プログラムによって最新のプリフライトチェックが自動的に実行されます。パッケージダイアログボックスに問題のある領域が検出されて表示されます。ドキュメントから作成されたコンポジット PDF ファイルや PostScript ファイルを印刷・出力会社に入稿することもできます。

1. 次のいずれかの操作を行います。
   - ファイル／パッケージを選択します（ファイルメニューに「パッケージ」が表示されない場合は、ウィンドウ／ワークスペース／拡張設定を選択するなどして、別のワークスペースを選択してみます）。
   - ブックパネルメニューから「ブックをプリント用にパッケージ」または「選択したドキュメントをプリント用にパッケージ」を選択します。コマンド名は、ブックパネルですべてのドキュメントが選択されているか、複数のドキュメントが選択されているか、何も選択されていないかで異なります。

   警告アイコン ⚠ は、問題のある領域を示します。
2. パッケージダイアログボックスで次のいずれかの操作を行います。
   - 問題が報告された場合は、「キャンセル」をクリックし、プリフライトパネルを使用して問題のある領域を解決します。
   - 問題のあるカテゴリー（フォントなど）をクリックし、問題を修正します。ドキュメントが条件を満たしたら、パッケージ処理を再度行います。
   - 「パッケージ」をクリックして、パッケージ処理を実行します。
3. 印刷の指示を入力します。「ファイル名」に入力されているファイル名は、収集したパッケージファイルに添付されるレポートファイルの名前です。
4. 「続行」をクリックし、収集したパッケージファイルを保存する場所を指定します。
5. 必要に応じて、以下のオプションを選択します。

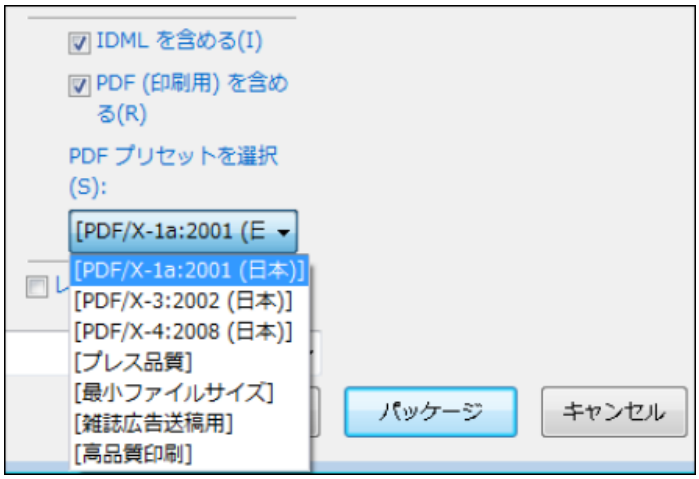
   フォントのコピー すべてのフォントではなく、必要なフォントファイルをすべてコピーします。

   リンクされたグラフィックのコピー リンクされたグラフィックのファイルをパッケージフォルダーの場所にコピーします。

   パッケージ内のグラフィックリンクの更新 パッケージフォルダー内のリンクフォルダーにグラフィックリンクを変更します。

   ドキュメントハイフネーション例外のみ使用 このオプションを選択すると、ハイフネーションと辞書の設定が異なるコンピューターでドキュメントを開くか編集した場合に、テキストがリフローされないように設定されます。ファイルを印刷･出力会社に送る場合に、このオプションを使用します。

   非表示および印刷しないコンテンツのフォントとリンクを含める 非表示レイヤー、非表示状態にあるオブジェクト、および「レイヤーをプリント」オプションがオフになっているレイヤーにあるオブジェクトをパッケージします。このオプションを選択していない場合は、パッケージを作成する際に、ドキュメント内にある、表示されプリント可能として設定されているもののみをパッケージします。



IDML オプションを選択

IDML を含める IDML ファイルを含めたパッケージを作成します。これにより、InDesign ドキュメントまたはブックを以前のバージョンの InDesign で開くことができます。

PDF（印刷用）を含める pdf（印刷用）をパッケージ化する場合に選択します。現在のすべての PDF プリセットをパッケージ化で使用できます。最後に使用した PDF プリセットが、PDF プリセットドロップダウンのデフォルトの PDF プリセットです。

注意：

- *PDF* の作成時に警告が表示された場合、*PDF* は正常に作成されます。ただし、警告メッセージが表示されます。
- *PDF/idml* の作成またはパッケージ化の際にエラーが表示された場合は、完全なロールバックが行われ、何も作成されません。
- 作成された *idml* と *pdf* ファイルの名前は *.indd* ドキュメントと同じです。

レポートを表示 パッケージ処理が終了した直後に、出力指示レポートをテキストエディターで開きます。パッケージ処理を終了する前に印刷の指示を編集するには、「説明」ボタンをクリックします。

6. 「パッケージ」をクリックして、パッケージ処理を実行します。

フォントエラーの修正

パッケージダイアログボックスの「フォント」セクションには、オーバーセットテキストやペーストボード上のテキストに適用したフォント、EPS ファイル、Adobe Illustrator ファイル、配置された PDF ページに埋め込まれたフォントなど、ドキュメントで使用されるすべてのフォントがリストされ、そのフォントがコンピューターにインストールされていて、使用可能かどうかを確認できます。「問題だけを表示」を選択すると、次に示すカテゴリーに適合するフォントを表示します。

無効 ドキュメントで使用されているフォントのうち、コンピューターに現在インストールされておらず、ドキュメントによってインストールされるフォントとしても利用できないフォントがリストアップされます。

不完全 現在のコンピューター内にはスクリーンフォントがあるが、対応するプリンターフォントがないフォントは、不完全フォントとしてリストアップされます。

保護 ライセンス上の制約によって PDF ファイルまたは EPS ファイルに埋め込めないフォント、ドキュメントによってインストールされるフォントとしての利用ができないフォントがリストアップされます。

- 次のいずれかの操作を行います。
  - パッケージダイアログボックスを閉じ、コンピューターにフォントをインストールします。
  - パッケージダイアログボックスの「フォント」セクションで、「フォント検索」をクリックします。フォント検索ダイアログボックスで、ドキュメントで使用しているフォントを検索し、置換します。

ドキュメントで使用されているフォントがライセンスを受けており、インストールされていて、コンピューター上または出力デバイス上でアクティブになっていることを確認してください。

リンクおよび画像の修復

パッケージダイアログボックスの「リンクと画像」セクションには、リンク EPS グラフィックの DCS リンクや OPI リンクなど、ドキュメントで使用されるすべてのリンク、埋め込み画像および配置される InDesign ファイルがリストされます。EPS グラフィックに埋め込まれている画像および配置される InDesign ファイルは、プリフライトレポートのリンクには含まれません。プリフライトユーティリティは、無効または未更新のリンクと、すべての RGB 画像を示します（RGB 画像は、カラーマネジメントが有効で適切に設定してある場合以外は、正しく色分解出力できない場合があります）。

注意： パッケージダイアログボックスでは、配置された *EPS*、*Adobe Illustrator*、*Adobe PDF*、*FreeHand* および *.INDD* ファイルに埋め込まれている *RGB* 画像は検出できません。配置したグラフィックのカラーデータを、プリフライトパネルまたは作成元のアプリケーションを使用して確認することをお勧めします。

1. 問題のある画像だけを表示するには、パッケージダイアログボックスの「リンクと画像」セクションで「問題だけを表示」を選択します。
2. リンクを修復するには、次のいずれかの操作を行います。
   - 問題のある画像を選択し、「更新」または「再リンク」をクリックします。
   - 「すべてを修復」をクリックします。
3. 正しい画像ファイルを見つけて、「開く」をクリックします。

関連項目

(cc) BY-NC-SA Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

色分解出力の準備

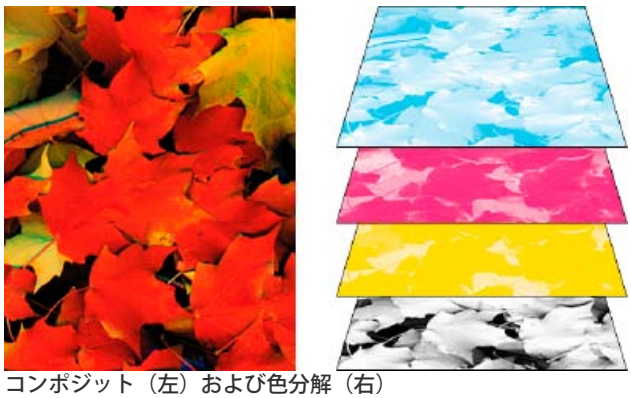
色版の作成
ドキュメントの色分解出力の準備
特色のプリント
特色に対応するプロセスカラーの表示
すべての色版でのオブジェクトの印刷
色分解とグラデーションのプリント
コンポジット印刷
色分解のプレビュー

詳しい情報と手順については、以下のリンクをクリックしてください。

トップへ戻る

色版の作成

連続階調のカラー画像を印刷する工程では、アートワークのシアン（C）、マゼンタ（M）、イエロー（Y）、ブラック（K）の各部分が 4 つの版に分解されます。 各カラーのインキを乗せて、正確に重ね合わせてプリントすると、元のアートワークのカラーが再現されます。 カラー画像を複数のカラーに分解する処理を色分解と呼び、刷版の作成元となるフィルムを色版と呼びます。



コンポジット（左）および色分解（右）

色分解ワークフロー

Adobe InDesign CS4 では、2 種類の PostScript ワークフローをサポートしています。主な相違点は、色分解をホストコンピューター（InDesign とプリンタードライバーを使用するシステム）で実行するか、出力機器の RIP（ラスタイメージプロセッサー）で実行するかです。また、この他にも PDF ワークフローがあります。

ホストベースの色分解 従来のホストベースの色分解ワークフローでは、ドキュメントで必要な色分解出力に関する PostScript 情報が InDesign で作成され、その情報が出力機器に送信されます。

In-RIP 色分解出力 最新の RIP ベースのワークフローでは、新世代の PostScript RIP が色分解、トラップ、およびカラーマネジメントまでの処理を提供しているため、ホストコンピューターでは他の作業を実行することができます。この方法では InDesign でファイルを作成する時間が短縮され、特定の印刷ジョブで転送されるデータ量が最小になります。例えば、ホストベースの色分解では 4 ページ以上の色分解された各版の PostScript 情報を送信しなければならないところを、In-RIP 色分解では色分解されていない（コンポジット）PostScript 情報を送信します。

出力するファイルの準備に関するビデオチュートリアルについては、www.adobe.com/go/vid0089_jp を参照してください。印刷・出力会社用の印刷マニュアル（PDF）については、www.adobe.com/go/learn_id_prepress_wp_jp を参照してください。

トップへ戻る

ドキュメントの色分解出力の準備

1. アートワーク内のカラーに関する問題を解決します。
2. オーバープリントの設定をします。
3. プリント時の版ズレを補正するトラップを指定します。
4. 使用しているモニターで色分解出力のプレビューをします。
   注意： 手順 1 から 4 は、実行することをお勧めしますが、色分解出力で必ずしも必要というわけではありません。
5. ファイル／プリントを選択して、プリントダイアログボックスを表示します。
6. 適切な色分解出力設定で作成したプリントプリセットがある場合は、プリントダイアログボックスの上部にあるプリントプリセットポップアップメニューからプリントプリセットを選択します。

7. プリンターポップアップメニューでプリンターまたは PostScript ファイルを選択します。
8. PostScript ファイルとして出力する場合、PPD ポップアップメニューから色分解出力に使用するデバイスの PPD を選択します。
9. プリントダイアログボックスの左側のセクション名をクリックして、現在の設定を表示または変更します。
10. ドキュメントを印刷・出力会社に入稿する前に、色分解出力を校正します。
11. 色分解出力を印刷、または保存します。

トップへ戻る

特色のプリント

特色と呼ばれるカスタムインキをプロセスカラーに追加、または置き換えて使用することができます。例えば、アートワークが黒のテキストと青みがかったグリーンの線画で構成される場合、4 色のプロセスカラーの代わりに、ブラックと青みがかったグリーンの 2 色の特色を使用できます。また、特色インキを使用すると、CMYK インキでは表現できないワニスおよび蛍光色やメタリックカラーなどを印刷することができます。さらに、2 つの特色を掛け合わせたり、特色をプロセスカラーと掛け合わせて、混合インキを作成することができます。

アートワークでは、プロセスカラーまたは特色、あるいはその両方を使用することができます。色分解出力では、特色を対応するプロセスカラーに変換し、CMYK の色版に印刷することもできます。

トップへ戻る

特色に対応するプロセスカラーの表示

1. スウォッチパネルで特色を選択します。
2. カラーパネルメニューから「CMYK」を選択します。

選択した特色の CMYK 値がカラーパネルに表示されます。

スウォッチパネルの特色の上にポインターを合わせます。そのカラーの数値がツールチップに表示されます。

トップへ戻る

すべての色版でのオブジェクトの印刷

印刷の工程において、特色の色版も含めたすべての版に同じオブジェクトを印刷したい場合は、レジストレーションカラーを使用します。レジストレーションカラーは、トンボやページ情報の印刷時に使用されます。コンポジット出力の場合、レジストレーションカラーが適用されたオブジェクトは C 100、M 100、Y 100、K 100 として印刷されます。色分解の場合、このようなオブジェクトは各版上で、100 %の濃度で印刷されます。

1. レジストレーションカラーを適用したいオブジェクトを選択します。
2. ウィンドウ／スウォッチを選択します。
3. スウォッチパネルで、レジストレーションカラースウォッチ をクリックします。

トップへ戻る

色分解とグラデーションのプリント

グラデーションを使用しているドキュメントの色分解の作成については、次の点を考慮してください。

- InDesign ドキュメントの特色とプロセスカラーを組み合わせて作成されたグラデーションは、プロセスおよび特色の両方の色版に分解されます。
- プロセスカラーを含むグラデーションは、プロセスカラーの色版に分解されます。
- 同じ特色の濃度を変えて作成したグラデーションは、1 枚の特色版に分解されます。
- 1 つの特色とホワイトで作成したグラデーションを 1 枚の色版に色分解出力する場合は、その特色とスウォッチパネルの紙色スウォッチを使用してグラデーションを作成します。
- 2 つの特色を使用してグラデーションを作成する場合、それぞれの特色について異なるスクリーン角度を設定する必要があります。同じスクリーン角度を設定すると、互いにオーバープリントされてしまいます。角度が不明な場合は、印刷・出力会社に相談してください。

トップへ戻る

コンポジット印刷

色分解を作成する場合は、印刷結果を確認するためにカラー、またはグレースケールのコンポジット校正を印刷することができます。コンポジット印刷を使用すると、高価な印刷の最終的な色分解出力を行う前にレイアウトのデザインおよび校正を行うことができます。

InDesign でコンポジット印刷する場合、どのカラーが選択されていても、ドキュメント内で使用されているすべてのカラーが 1 枚の用紙に印刷されます。

コンポジット印刷する際には、次の項目を考慮に入れてください。

- 校正を行っても正確な最終出力結果を把握することはできませんが、ドキュメント作成に使用するすべてのデバイス（スキャナー、モニター、プリンターなど）のキャリブレーションを行うと、最終出力結果の精度を大幅に上げることができます。すべてのデバイスのキャリブレーションを行っておくと、内蔵のカラーマネジメントシステムによって最終結果のカラーを補正できます。

ドキュメントでいずれかのオーバープリントのオプションを設定しておくと、オーバープリントをサポートしているプリンターで正確に印刷されます。多くのデスクトッププリンターではオーバープリントをサポートしていないため、プリントダイアログボックスの「色分解」セクションの「オーバープリント処理」を選択することで、オーバープリントの効果をシミュレーションすることができます。

重要： 「オーバープリント処理」を選択すると、印刷時に特色はプロセスカラーに変換されます。ドキュメントを RIP で色分解したり、最終出力する予定がある場合、このオプションは選択しないでください。

- モノクロプリンターでプリントすると、InDesign はグレースケールのコンポジット出力を生成します。ドキュメントにカラーが含まれている場合は、カラーをシミュレートするため、適切なグレー階調に置き換えて印刷されます。例えば、イエローはブラックよりも視覚的に明るいので、濃度 20 %のイエローを疑似的に表現するグレー階調は、濃度 20 %のブラックよりも明るくなります。
- 特色のインキまたはトラッププリセットの設定が矛盾するドキュメントを含んだブックを印刷する場合、設定をマスタードキュメントと同期させることができます。
- ブック機能を使用してカラーマネジメントを行っている場合は、カラー設定ダイアログボックスで、ブック内の各ドキュメントのカラーマネジメントの設定が同じであることを確認してください。

注意： モニターと同様に、カラープリンターによってカラーの再現品質が異なることに注意してください。印刷・出力会社による校正刷りは、最終出力がどのように印刷されるかを確認するために最も信頼のおける方法です。

トップへ戻る

色分解のプレビュー

分版パネルを使用して、色分解出力、インキ限定、オーバープリントをプレビューすることができます。使用しているモニターで色分解出力をプレビューすると、次の項目をチェックすることができます。

ワニスとその他のコーティング ワニスは透明なので、モニターでのプレビューができません。ワニスの色分解出力をプレビューする場合、ワニス領域は黒で表示されます。
リッチブラック 色分解をプレビューすると、リッチブラックで表示される領域や、不透明度を増加したり、より濃い色にするためにカラーインキが混合された黒のプロセスカラーの領域を把握できます。
インキ限定 紙に対してインキが多すぎると、乾燥しにくい原因になります。印刷で使用する出力デバイスの最大インキ限界量に関しては印刷・出力会社に問い合わせてください。ドキュメントをプレビューして、印刷会社のインキ限界値を超えている領域を識別することができます。
オーバープリント 透明のブレンドおよびオーバープリントが色分解出力でどのように表示されるかをプレビューすることができます。
注意： オーバープリントの効果は、コンポジット出力機器で出力する方法でも確認できます。これは、色分解の校正で役立ちます。
モニターで色分解出力をプレビューすると、印刷にコストをかけずにすみますが、トラップ、膜面オプション、トンボ、スクリーン線数および解像度をプレビューすることはできません。印刷・出力会社で印刷するときは、校正刷りを必ず何度も行って、設定を確認してください。

注意： 非表示のレイヤーのオブジェクトは、モニター上ではプレビューできません。

特色版のプレビュー

1. ウィンドウ／出力／分版を選択します。
2. 分版パネルの「表示」から「色分解」を選択します。
3. 必要に応じて次の操作を行います。
   - 1 つの色分解出力プレートを表示して他をすべて隠すには、表示したい色分解出力プレートの名前をクリックします。デフォルトでは、選択した色分解出力プレートの領域は黒で表示されます。これを変更するには、パネルメニューで「単数プレートを黒で表示」を選択解除します。
   - 1 つ以上の色分解出力プレートを表示するには、各プレート名の左にある空ボックスをクリックします。各色分解出力プレートが対応したカラーで表示されます。
   - 1 つ以上の色分解出力プレートを非表示にするには、各プレート名左にある目のアイコン をクリックします。
   - すべてのプロセスカラーの色版を表示するには、CMYK アイコン をクリックします。
   - すべての色分解出力プレートを同時に表示するには、プレート名の左横にあるすべての目のアイコン（または空ボックス）の上をクリックしたままドラッグします。

キーボードのショートカットを使用して分版パネルを制御することもできます。




単数プレートのプレビュー（左）と複数プレートのプレビュー（右）

インキ限定のプレビュー

1. ウィンドウ／出力／分版を選択します。
2. 「表示」から「インキ限定」を選択します。表示メニューの右横にあるボックスに最大インキの限界値を入力します（印刷・出力会社に正確な値を確認してください）。
3. ドキュメントのプレビューでインキ限定を確認します。インキ限定の限界値を超えている領域は、赤いシャドウで表示されます（超えている値が大きいほど濃い赤で表示されます）。それ以外の領域はグレースケールで表示されます。



指定したインキ限定の限界を超えている領域は、赤で表示される

4. 指定領域のインキ限定を確認するには、ドキュメントウィンドウ上の領域をポインターでドラッグします。インキ限定のパーセンテージは、パネルの各インキ名の右に表示されます。

一部の特色をプロセスカラーに変換すると、インキ限定を調整できます。配置したグラフィックのインキ限定を調整するには、グラフィックの作成元アプリケーションでグラフィックを編集します。

通常の表示への復元

1. ウィンドウ／出力／分版を選択します。
2. 分版パネルの「表示」から「オフ」を選択します。

関連項目

出力ファイルの準備に関するビデオ

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

ドキュメントのプリント

- プリントについて
- ドキュメントやブックの印刷
- ページパネル内のプリント
- ページ印刷オプション
- オブジェクトのプリントのオプション
- 複数のページサイズを含むドキュメントのプリント
- プリントするページの指定
  用紙サイズとページの方向の指定
  用紙サイズと方向の指定
  カスタム用紙サイズの指定
  プリントまたは PDF への書き出しを行うレイヤーの選択
  非 PostScript 言語プリンターへのプリント
  ビットマップでの印刷
  ドキュメントのプレビュー
  プリンターの設定
  プリンタードライバーについて
  プリンタードライバー機能へのアクセス
  PPD ファイルの選択
  プリントプリセットの使用
  プリントプリセットの作成
  プリントプリセットの適用
  プリントプリセットの編集
  プリントプリセットの削除

プリントについて

ページの先頭へ

マルチカラーのドキュメントを印刷・出力会社に依頼する場合でも、ドキュメントの校正刷りをインクジェットプリンターやレーザープリンターに出力する場合でも、プリントの基本を知っておくことは、プリント作業を円滑に進め、ドキュメントの意図を再現するための助けとなります。

プリントの種類

ファイルをプリントするとは、ドキュメントを Adobe InDesign からプリントデバイスに送ることです。実際のプリント処理は、紙に直接印刷する方法、デジタル印刷機で出力する方法、ポジまたはネガのフィルムに出力して製版する方法などで実行されます。また、商用印刷では、フィルム製版を行わずに、直接刷版を作成してプリントする CTP 印刷もあります。

画像の種類

テキストだけを含むページなどでは、特定のグレーレベルの 1 色だけが使用されます。複雑な画像では、いくつかのカラー階調があります。このような画像は連続階調の画像と呼びます。例えば、写真などがこれに当てはまります。

ハーフトーン

印刷物上で連続階調を擬似的に再現するために、画像は一連の点（ドット）に分解されます。この処理をハーフトーン処理と呼びます。ハーフトーンスクリーンでドットのサイズと密度を変更すると、プリントされた画像のグレーのシェードや連続階調が変化します。

色分解

商用目的で複数の色を含んでいるアートワークは、各色に 1 つずつ、複数のマスタープレート（分版）でプリントする必要があります。この処理を色分解と呼びます。

印刷品質の精度

解像度とスクリーン線数の組み合わせの結果が、プリントされた画像の精度として表れます。出力デバイスの解像度が高いほど、使用可能なスクリーン線数が増え、ディテールを再現できます。

部数印刷

プリントダイアログボックスの「プリンター」ボタンをクリックすると、部数印刷のようなプリンター固有の機能を使用できます。部数印刷は、プリンターがサポートしている場合にのみ使用できます。部数印刷については、プリンターのマニュアルを参照してください。

透明度を持つオブジェクト

効果パネル、ドロップシャドウ、境界をぼかすコマンドなどを使用してアートワーク内のオブジェクトに透明度を追加した場合、この透明なアートワークは透明の分割・統合プリセットの設定に従って統合（単層化）されます。ラスター画像の比率を、プリントされたアートワークのベクトル画像に反映できます。

プリントについて詳しくは、www.adobe.com/go/print_resource_jp にある Adobe Print Resource Center を参照してください。プリントの問題のトラブルシューティングについては、www.adobe.com/go/learn_id_printtrouble_jp を参照してください。

ドキュメントやブックの印刷

ページの先頭へ

1. 使用するプリンターに対応したドライバーと PPD をインストールしていることを確認します。
2. プリントダイアログボックスを開きます。
   - 複数の個別のドキュメントが開いている場合は、ファイル／プリントを選択します。現在のドキュメントのプリントダイアログボックスが開きます。
   - ブックパネルで、ドキュメントが何も選択されていない場合、またはすべてのドキュメントが選択されている場合は、ブックパネルメニューから「ブックをプリント」を選択します。ブックにあるすべてのドキュメントがプリントされます。
   - ブックパネルでいくつかのドキュメントが選択されている場合は、ブックパネルメニューから「選択したドキュメントをプリント」を選択します。
3. プリンターメニューで使用するプリンターを指定します。プリンターのプリセットに目的の設定がある場合は、プリントプリセットメニューからプリセットを選択します。
4. 「一般」セクションで、印刷する部数を入力し、ドキュメントを昇順に印刷するか降順に印刷するかを選択して、印刷するページを指定します。

   ブックをプリントする場合は、「ページ」オプションは使用できません。

   複数種類のページサイズを含んだドキュメントをプリントする場合は、「範囲」の上にあるコントロールを使用して、一定サイズのページのみをプリント対象とするように範囲を選択します。詳しくは、複数のページサイズを含むドキュメントのプリントを参照してください。

5. 印刷しないオブジェクト、空白ページ、または表示可能なガイドやベースライングリッドを印刷するかどうかを指定します。
6. プリントダイアログボックスの各領域で、必要な設定を行います。
7. 「プリント」ボタンをクリックします。

プリントダイアログボックスで指定した設定は、ドキュメント内に保存されます。

ページパネル内のプリント

ページパネルで使用可能な印刷オプションを使用することもできます。

1. ページパネルで、次のオプションから 1 つを選択します。
    - 1 ページを選択
    - 複数のページを選択
    - マスターページを選択
    - ページスプレッドを選択
2. 選択範囲を右クリックして、（選択内容に応じて）「ページをプリント」または「スプレッドをプリント」を選択します。

    または、ページパネルのフライアウトメニューから「ページをプリント」または「スプレッドをプリント」を選択します。

    プリントダイアログが表示されます。プリントダイアログには、選択したページまたは範囲が表示されています。
3. 「プリント」をクリックします。

ページ印刷オプション

ドキュメントのすべてのページ、偶数または奇数ページのみ、個々のページ、または連続するページ範囲を指定してプリントすることができます。

範囲

現在のドキュメントでプリントするページの範囲を指定します。範囲はハイフンを使用して指定します。複数のページまたは複数の範囲を指定する場合は、それぞれをコンマまたはスペースで示します（詳しくは、プリントするページの指定を参照してください）。

ドキュメントに複数種類のページサイズが含まれている場合は、「範囲」フィールドの上にある各種オプションを使用して、一定サイズのページのみをプリント対象とするように範囲を選択します（詳しくは、複数のページサイズを含むドキュメントのプリントを参照してください）。

現在のページ

現在のドキュメントの現在のページをプリントします。

注意：

現在のページのページ番号は次の形式で指定されます: 現在のページ: <レイアウト名>:<ページの名前>

順番

「すべてのページ」は、ドキュメントのページをすべてプリントします。「偶数ページのみ」または「奇数ページのみ」は、指定した範囲内の該当するページだけをプリントします。これらのオプションは、見開き印刷を設定した場合は使用できません。

スプレッド

綴じられた見開きページを一緒に 1 枚の用紙にプリントします。プリントできるのは、1 枚の用紙に 1 つの見開きのみです。新しく印刷するページが、現在選択されている用紙サイズよりも大きい場合は、印刷可能な範囲までが印刷され、プリント可能範囲に合うように自動的にページが縮小されることはありません。この場合、1 枚の用紙に見開きが収まるように縮小印刷するには、プリントダイアログボックスの「設定」セクションで「拡大・縮小」の「幅に合わせる」オプションを選択してください。また、用紙の方向を横方向に指定することによって、1 枚の用紙にプリントされるようにすることもできます。

注意：

見開きページに異なるトラップスタイルが適用されている場合、その相違が解決されます。

マスターページをプリント

ドキュメントページではなく、すべてのマスターページをプリントします。このオプションを選択すると、「範囲」オプションは使用できなくなります。

ページの範囲の例

ページ範囲	プリントされるページ
11-	ドキュメントの 11 ページから最後のページまで
-11	最初のページから 11 ページまで
+11	11 ページだけ
-+11	最初のページから 11 ページまで
+11-	ドキュメントの 11 番目のページから最後のページまで
1, 3-8,	1 ページと 3 ページから 8 ページまで
+1, +3-+8,	1 ページと 3 ページから 8 ページまで
Sec1	セクションラベルが「Sec1」のすべてのページ
Sec2:7	セクションラベルが「Sec2」のページ番号が 7 のページ（そのセクションの 7 番目のページである必要はありません）
PartB:7-	セクションラベルが「PartB」のページ番号が 7 のページからセクションの最後のページまで
Chap2:7-Chap3	セクションラベルが「Chap2」の 7 ページからセクションラベルが「Chap3」の最後のページまで
Sec4:3-Sec4:6, Sec3:7	「Sec4」の 3 ページから 6 ページと「Sec3」の 7 ページ

オブジェクトのプリントのオプション

プリントダイアログボックスの「一般」セクションには、グリッドやガイドなど、通常は画面上だけでしか見えない要素をプリントするためのオプションがあります。次のいずれかのオプションを選択します。

レイヤーをプリント

プリントするレイヤーを指定します（詳しくは、プリントまたは PDF への書き出しを行うレイヤーの選択を参照してください）。

印刷しないオブジェクトをプリント

個々のオブジェクトをプリントするように設定しているかどうかにかかわらず、すべてのオブジェクトをプリントします。

白紙をプリント

ページにテキストやオブジェクトがない場合でも、指定した範囲のすべてのページをプリントします。このオプションは、色分解出力する場合には使用できません。コンポジットプリントに対して「ブックレットをプリント」を使用する場合は、「空白のプリンタースプレッドを印刷」オプションを使用して、折り本サイズで割り切れない場合、空白のページを埋めるために追加する白ページを印刷します。

表示可能なガイドとベースライングリッドをプリント

表示可能なガイドとベースライングリッドを、ドキュメントに表示されているのと同じ色でプリントします。どのガイドとグリッドを表示するかは、表示メニューで指定できます。このオプションは、色分解出力する場合には使用できません。

複数のページサイズを含むドキュメントのプリント

ページの先頭へ

複数のページサイズを使用している場合は、異なるサイズ別にページをプリントできます。プリントダイアログボックスのオプションを使用すると、ドキュメント内のページをサイズ別に簡単に選択できます。

複数のページサイズを含むドキュメントをプリントする前に、印刷・出力会社に特殊な要件について確認します。複数のページサイズを含むドキュメントをプリントすることに問題がある場合は、複数のドキュメントに分割することを検討します。

1. ファイル／印刷を選択します。
2. 一般パネルで、「見開き印刷」を選択または選択解除し、ページごと、または見開きページのどちらでプリントするかを指定します。

   スプレッドに複数のページサイズが含まれている場合は、スプレッドで最大の幅と高さがスプレッドサイズになります。
3. 同じサイズのページのみをプリントするには、「範囲」フィールドの上のオプションを使用してページまたはスプレッドの 1 つを選択し、ページアイコン をクリックします。

   「範囲」フィールドに、選択したサイズに該当するすべてのページまたはスプレッドが表示されます。
4. 1 つのページサイズのページ範囲をプリントしたら、同じ手順を繰り返して別のページサイズをプリントします。

プリントするページの指定

ページの先頭へ

絶対番号（現在のドキュメントのページの位置）またはページ／セクション番号（ページに割り当てたセクションおよびページ番号）を使用して、ページ範囲を指定することができます。デフォルトでは、InDesign の各ダイアログボックスは、環境設定ダイアログボックスの「一般」の「ページ番号」に指定されている書式に従います。

- 「ページごと」を選択すると、ページまたはページ範囲に指定する数が、ドキュメントのページの絶対位置に対応します。例えば、ドキュメントの 3 ページ目をプリントするには、プリントダイアログボックスの「範囲」に「3」を入力します。
- 「セクションごと」を選択すると、レイアウトで表示されているページまたはページ範囲または絶対番号を使用して、正確なページまたはページ範囲を入力することができます。例えば、ページラベルが「SecA:5」の場合、ドキュメントでは 15 ページです。そのページをプリントするには、プリントダイアログボックスに「SecA:5」を入力するか、「+15」を入力します。「+」記号は、標準のセクションとページ番号を無効にして、絶対番号を使用することを示します。

プリントダイアログボックスでページ番号を入力するのに使用する書式がわからない場合は、ドキュメントウィンドウ下部にあるページボックスの書式と同じように入力します。

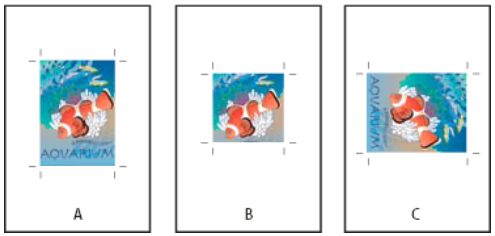
用紙サイズとページの方向の指定

ページの先頭へ

ドキュメントのドキュメント設定ダイアログボックスで定義するページサイズと、プリントする紙、フィルム、または刷版の用紙サイズを混同しないように注意してください。ページサイズが A4（210 × 297 mm）でも、トンボや裁ち落としの幅、印刷可能領域を調整するために、もっと大きい用紙やフィルムにプリントしなければならないこともあります。

InDesign でプリント可能な用紙サイズは、選択したプリンターの PPD（PostScript プリンター）またはプリンタードライバー（非 PostScript プリンター）によって異なります。選択したプリンターと PPD がカスタム用紙サイズをサポートしている場合、用紙サイズメニューに「カスタム」オプションが表示されます。

多くのイメージセッタは、A4 や A3 などの定型の用紙サイズに対応できると同時に、プリント時に定型用紙サイズを 90 度回転させる横方向にも対応しています。この機能は、イメージセッタでの出力で有用に活用できます。



イメージセッタのページサイズとページ方向

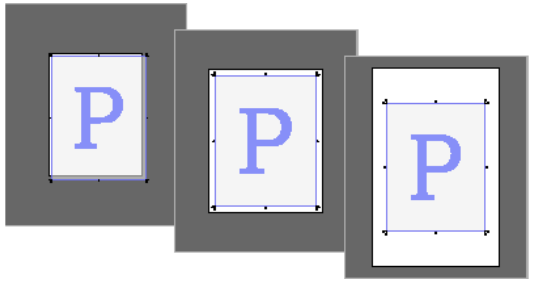
A. Letter（縦方向） B. カスタムページサイズ（縦方向） C. Letter（横方向）

用紙サイズは Letter などの名称でリスト表示されます。プリント可能領域は用紙サイズにより決まり、プリンターやイメージセッタで使用されるプリント不可能領域の境界線より小さいサイズになります。大半のレーザープリンターでは、ページの端までフチなし印刷のようにプリントできません。

異なる用紙サイズを選択すると（例えば A4 から A3 に変えるなど）、プレビューウィンドウのドキュメントは拡大または縮小されます。プレビューウィンドウでは、選択されているページのプリント可能領域全体が表示されます。プレビューのサイズが変わると、プレビューウィンドウはプリント可能領域を含むように自動的に拡大 / 縮小されます。

注意：

プリンターやイメージセッタごとに定義されているプリント可能領域のサイズが異なるので、同じ用紙サイズであっても、プリント可能領域は PPD ファイルによって異なります。



Letter サイズのページを Letter、Letter.extra、Tabloid 用紙にプリントした場合の比較

注意：

プリントダイアログボックスの左下にあるプレビューで、トンボ、裁ち落とし、印刷可能領域がすべて収まるかどうかが確認できます。

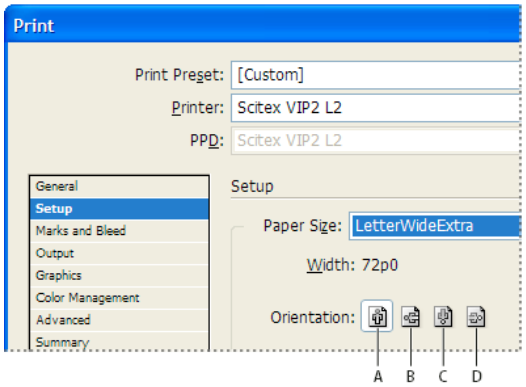
用紙サイズと方向の指定

1. ファイル／プリントを選択します。
2. プリントダイアログボックスの「設定」セクションで、用紙サイズポップアップメニューからオプションを選択します。

   用紙サイズが、ドキュメント、裁ち落とし、印刷可能領域、トンボが収まるのに十分な大きさであることを確認してください。イメージセッタフィルムまたは用紙を節約するために、ドキュメントと必要なページ情報が収まる最も小さい用紙サイズを選択してください。

3. 「方向」ボタンをクリックして、ドキュメントの方向を変更します。

   ほとんどの場合、「ドキュメント設定」コマンド（ファイル／ドキュメント設定）で指定したページ方向と、プリントダイアログボックスの「設定」セクションで指定した紙の方向は、通常プリントでも横方向プリントでも、（どちらも縦置き、またはどちらも横置きで）一致しています。見開きページをプリントする場合は、1 枚の紙に見開きの全ページが収まるように、別の用紙サイズと方向（横置きなど）を選択しなければならないこともあります。スプレッドビューを回転させた場合は、スプレッドを正しくプリントさせるために方向を変更することが必要な場合もあります。



「方向」の各ボタン

A. 縦置き B. 横置き C. 縦置き反転 D. 横置き反転

カスタム用紙サイズの指定

高解像度イメージセッタなど、各種の用紙サイズが指定できるプリンターを使用している場合は、プリントするときにカスタム用紙サイズを指定できます。InDesign では、選択している PPD でカスタム用紙サイズがサポートされている場合にだけ、カスタムオプションを使用できます。

指定できる最大のカスタム用紙サイズは、イメージセッタの最大プリント可能領域により異なります。詳しくは、使用する出力機器のマニュアルを参照してください。

注意：

非 PostScript プリンターのカスタム用紙サイズは、InDesign のプリントダイアログボックスでは使用できません。これらのプリンター固有の機能を設定するには、InDesign のプリントダイアログボックスで「セットアップ」（Windows）、「プリンター」（Mac OS）または「用紙設定」（Mac OS）をクリックします。詳しくは、使用する非 PostScript プリンターのマニュアルを参照してください。

1. ファイル／プリントを選択します。
2. PostScript ファイルに出力する場合は、プリントダイアログボックスの「一般」セクションでプリンターポップアップメニューから「PostScript ファイル」を選択します。次に、カスタム用紙サイズをサポートする PPD を選択します。
3. プリントダイアログボックスの「設定」セクションの「用紙サイズ」から「カスタム」を選択します。

   注意：

   「カスタム」を選択できない場合、プリンターを設定するときに選択した PPD でカスタム用紙サイズがサポートされていません。

4. 用紙の幅と高さを指定するには、次のいずれかの操作を行います。

   - ドキュメントの内容、裁ち落としや印刷可能領域、トンボなどに必要な最小限のサイズを InDesign で決定するには、「用紙の幅」、「用紙の高さ」でそれぞれ「自動」を選択します。デフォルトでは「自動」が選択されています。ブックのページに個別にサイズを指定する場合や、フィルムや感光紙など、連続する用

紙にプリントする場合に便利です。

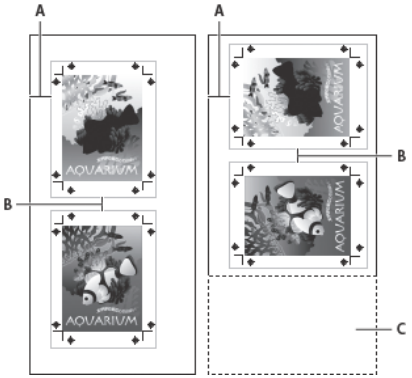
- デフォルトより大きな用紙サイズを指定するには、「用紙の幅」、「用紙の高さ」ボックスにそれぞれ新しい値を入力します。デフォルトより大きなサイズを指定してください。小さい値を指定すると、ドキュメントの一部がプリントされなくなる可能性があります。

5. フィルムのページ配置位置を変更するには、「オフセット」に値を入力します。

   「オフセット」の値は、プリント可能領域の左側の空白部分の大きさを指定します。例えば、「オフセット」オプションに「6 mm」と入力すると、ページは右方向に 6 mm ずれてプリントされます。

6. 用紙とページ内容の向きを一緒に変えるには、「幅と高さを入れ換え」を選択します。

   「オフセット」オプションと共に「幅と高さを入れ換え」オプションを使用すると、フィルムや用紙の使用量を節約することができます。次の図で、「幅と高さを入れ換え」オプションを選択した場合と選択していない場合を比較してください。



「幅と高さを入れ換え」を選択していない場合（左）と選択した場合（右）

A. オフセット値 B. 間隔 C. フィルムの節約分

7. 連続する用紙にプリントする際、ページとページとの間の距離を指定するには、「ページの間隔」に値を入力します。

プリントまたは PDF への書き出しを行うレイヤーの選択

ページの先頭へ

1. ドキュメントの「レイヤーを表示」および「レイヤーをプリント」設定を確認または変更するには、レイヤーパネルでレイヤーを選択し、パネルメニューから「レイヤーの設定」を選択します。レイヤーオプションを指定して「OK」をクリックします。
2. 次のいずれかの操作を行います。

   - ファイル／プリントを選択し、プリントダイアログボックスの左側のリストで「一般」をクリックします。
   - ファイル／書き出しを選択し、Adobe PDF を指定して、「保存」をクリックします。Adobe PDF を書き出しダイアログボックスの左側で、「一般」を選択します。

3. レイヤーをプリントまたはレイヤーを書き出しメニューから、プリントするか PDF に含めるレイヤーを選択します。

   すべてのレイヤー

   非表示にするか、印刷しないレイヤーとして設定されている場合でも、ドキュメントのすべてのレイヤーをプリントまたは出力します。

   表示中のレイヤー

   「レイヤーオプション」で印刷しないレイヤーとして設定されている場合でも、すべての表示中のレイヤーをプリントまたは出力します。

   表示中でプリント可能なレイヤー

   表示中でプリント可能として設定されているレイヤーのみをプリントまたは出力します。

非 PostScript 言語プリンターへのプリント

ページの先頭へ

非 PostScript 言語プリンターでドキュメントをプリントすることができます。ただし、PostScript は商用印刷で標準のページ記述言語であるので、スクリーン線数や色分解出力といったハイエンドのカラー特性およびグラフィック特性は、非 PostScript プリンターでは再現できません。しかし、読み込んだ画像ファイル形式のほとんどは十分な品質で印刷されます。通常、非 PostScript プリンターでプリントしたドキュメントは、プレビューモードで画面に表示したドキュメントと同じような仕上がりになります。

非 PostScript 言語プリンターに PostScript 言語機能を追加するソフトウェアを販売しているベンダーもあります。使用の可能性と互換性については、ソフトウェアの販売店に確認してください。

ビットマップでの印刷

ページの先頭へ

非 PostScript プリンターでプリントする場合、プリント中にすべてのアートワークをラスタライズすることができます。このオプションは、滑らかな陰影やグラデーションを持つオブジェクトのように複雑なオブジェクトを含むドキュメントをプリントするときに便利です。エラーが発生する可能性が減ります。

1. ファイル／プリントを選択します。
2. プリントダイアログボックスの左側にある「詳細」を選択します。
3. 「ビットマッププリント」を選択します。

   このオプションは、プリンタードライバーが非 PostScript としてプリンターを識別する場合にのみ使用できます。このオプションが Mac OS 10.3 以降の非 PostScript プリンターに選択されている場合、InDesign で PostScript をプリントしてから、Mac OS やドライバーによってページ画像をレンダリングするために使用されます。Windows では、このオプションが選択されていない場合、ハイエンドのカラー特性およびグラフィック特性を適切に変換できない場合があります。

4. ビットマッププリントの解像度を指定します。

   出力解像度はプリンタードライバーの解像度によって制限される場合があります。最高品質の出力を得るには、非 PostScript プリンタードライバー解像度を InDesign のプリントダイアログボックスで指定されている出力解像度以上に設定します。

ドキュメントのプレビュー

ページの先頭へ

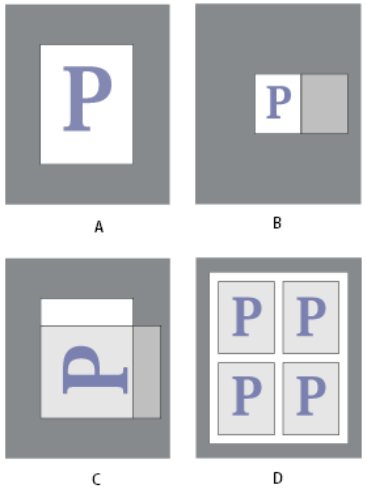
PostScript プリンターでプリントする前に、選択した用紙サイズでドキュメントがどのようにプリントされるかを確認することができます。プリントダイアログボックスの左下にあるプレビューには、用紙と方向の設定がページサイズに合っているかどうかが表示されます。プリントダイアログボックスで別のオプションを選択すると、設定の組み合わせに応じて、プレビューは自動的に更新されます。

1. ファイル／プリントを選択します。
2. プリントダイアログボックスの左下にあるプレビュー画像をクリックします。

プレビューには次の 3 種類の表示方法があります。

標準表示

ドキュメントページと用紙の様子が表示されます。プリント可能領域、裁ち落としおよび印刷可能領域、トンボなどに対する用紙サイズなどの各種オプションの効果や、タイルやサムネールの効果も示されます。



標準表示における 4 つのドキュメントのページ調整

A. デフォルト B. スプレッド C. 方向 D. 2 × 2 サムネール

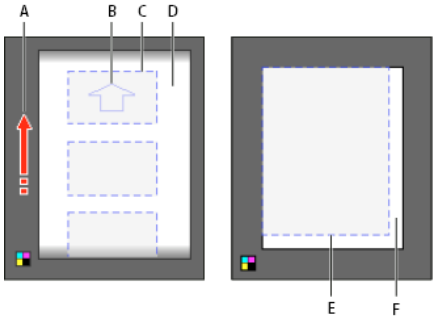
文字表示

プリント設定が数値で示されます。

カスタムページ / カットシート表示

ページサイズに依存するプリント設定の違いを表示します。カスタムページ表示では、カスタム出力機器における用紙の様子が表示され、サポートされている最大の用紙サイズ、「オフセット」、「ページの間隔」、「幅と高さを入れ換え」の設定が表示されます。カットシート表示では、A4、A3 などの用紙サイズで、プリント可能領域と用紙の関係が表示されます。

カスタムページ表示とカットシート表示の両方で、出力モードが次の色分解 、コンポジットグレースケール 、コンポジット CMYK 、コンポジット RGB のアイコンで表示されます。



カスタムページ表示（左）とカットシート表示（右）

A. 用紙の移動方向 B. 「幅と高さを入れ換え」を選択していない場合 C. 用紙サイズ D. メディア E. プリント可能範囲 F. メディア

プリンターの設定

ページの先頭へ

InDesign の最新のプリンタードライバーでは、PostScript®（レベル 2 および 3）プリンターと非 PostScript 言語プリンターへのプリントをサポートしています。PostScript

プリンターでプリントするとき、InDesign では、PostScript Printer Description（PPD）ファイルの情報を使用してプリントダイアログボックスに表示する設定を決定します。

プリンターを設定するには、以下の基本手順に従います。

- 出力デバイス用の最新のプリンタードライバーをインストールします。使用しているオペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。
- PostScript プリントの場合は、プリンターを設定するときに PPD ファイルを選択します。

プリンタードライバーについて

プリンタードライバーは、コンピューター上のアプリケーションから直接プリンター機能にアクセスするためのものです。適切なプリンタードライバーを指定することによって、プリンター固有の機能を使用することができます。

アドビ システムズ社では、ご使用のオペレーティングシステムに対応した最新のドライバーにバージョンアップすることを推奨します。

プリンタードライバー機能へのアクセス

プリンタードライバーでは、部数印刷のように、InDesign にはない機能もサポートしています。このような機能がサポートされているかどうかは、プリンタードライバーによって異なります。詳しくは、プリンターメーカーに問い合わせてください。

特定のプリンター用に特定の設定を行う場合、InDesign のプリントダイアログボックスにある次のような各ボタンを使用して、プリンタードライバーの設定を行うことができます（PostScript ファイルにプリントする場合は、これらのオプションは使用できません）。

セットアップ

（Windows）Windows プリントダイアログボックスを開きます。

用紙設定

（Mac OS）標準の用紙設定ダイアログボックスを表示します。

プリンター

（Mac OS）標準のプリントダイアログボックスを表示します。

注意：

InDesign のプリント機能には、InDesign のプリントダイアログボックスとプリンタードライバーのダイアログボックスの両方に表示されるものがあります。最良の結果を得るためには、InDesign のプリントダイアログボックスだけで設定を指定してください。設定が重複すると、InDesign で設定が同期されるか、またはドライバーの設定が無視されます。いくつかのプリンタードライバーが持っている機能（例えば、同じページに多数の同じアートワークをプリントする N-up 印刷など）は、InDesign の色分解機能などと同時には機能せず、正反対の結果が生じることもあります。

PPD ファイルの選択

PPD（PostScript プリンター記述）ファイルは、特定の PostScript プリンタードライバーの動作をカスタマイズするために使用します。PPD ファイルには、出力デバイスの搭載フォント、使用可能な用紙のサイズと方向、最適なスクリーン線数、スクリーン角度、解像度、カラー出力性能などの情報が保存されています。プリントする前に正しい PPD を設定することが重要です。使用する PostScript プリンターやイメージセッタに対応した PPD を選択すると、その出力デバイスのプリントダイアログボックスで使用できる設定が決まります。用途に応じて、別の PPD に切り替えることもできます。アプリケーションでは、PPD ファイルの情報を使用して、ドキュメントをプリントするときにプリンターに送る PostScript 情報が決定されます。

最適なプリント結果を得るには、出力デバイスの最新バージョンの PPD ファイルを出力デバイスの製造元から入手することをお勧めします。多くの印刷・出力会社は、自社で使用するイメージセッタの PPD を保有しています。PPD ファイルは、オペレーティングシステムによって指定された場所に保存してください。詳しくは、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

- Windows および Mac OS では、プリンターの追加と同じ方法で PPD ファイルを選択します。PPD ファイルを選択する手順はプラットフォームによって異なります。詳しくは、使用しているオペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

プリントプリセットの使用

ページの先頭へ

定期的に様々なプリンターまたはジョブタイプでプリントする場合は、すべての出力設定をプリントプリセットとして保存することにより、プリントジョブを自動化できます。プリントダイアログボックスで多くのオプションを常に同じように設定してジョブをプリントする必要がある場合にプリントプリセットを使用すると、プリントをすばやく正確に行うことができます。

プリントプリセットは、保存したり読み込んだりすることができるので、簡単に設定をバックアップしたり、印刷会社やクライアントなどのワークグループのメンバが設定を使用したりできます。

プリントプリセットを作成および確認するには、プリントプリセットダイアログボックスを使用します。

プリントプリセットの作成

- 次のいずれかの操作を行います。
    - ファイル／プリントを選択し、プリント設定を調整して、「プリセットを保存」をクリックします。名前を入力するか、初期設定の名前を使用して、「OK」をクリックします。この方法では、プリセットは環境設定ファイルに保存されます。
    - ファイル／プリントプリセット／定義を選択し、「新規」をクリックします。表示されたダイアログボックスに、新しい名前を入力するか初期設定の名前を使用して、プリント設定を調整します。調整が済んだら、「OK」をクリックしてプリントプリセットダイアログボックスに戻ります。もう一度「OK」をクリックします。

プリントプリセットの適用

1. ファイル／プリントを選択します。
2. プリントプリセットメニューからプリントプリセットを選択します。必要に応じて、プリントダイアログボックスでプリンター設定を確認します。
3. 「プリント」ボタンをクリックします。

注意：

InDesign では、ファイル／プリントプリセットメニューから選択したプリントプリセットを使用して印刷することもできます。

プリントプリセットの編集

- 次のいずれかの操作を行います。
    - ファイル／プリントを選択し、プリント設定を調整して、「プリセットを保存」をクリックします。プリセットを保存ダイアログボックスで、テキストボックスに名前を入力するか、現在の名前を使用します（現在の名前が既存のプリセットである場合、保存すると既存の設定に上書きされます）。「OK」をクリックします。
    - ファイル／プリントプリセット／定義を選択し、リストからプリセットを選択して「編集」をクリックします。プリント設定を調整します。調整が済んだら、「OK」をクリックしてプリントプリセットダイアログボックスに戻ります。もう一度「OK」をクリックします。

  デフォルトのプリセットも、他のプリセットと同じように上述の手順で編集できます。

プリントプリセットの削除

1. ファイル／プリントプリセット／定義を選択します。
2. リストから 1 つまたは複数のプリセットを選択して、「削除」をクリックします。隣接するプリセットを選択するには、Shift キーを押しながらクリックします。隣接していない複数のプリセットを選択するには、Ctrl キー（Windows）または Command キー（Mac OS）を押しながらクリックします。

関連項目

- スクリーン線数と解像度の指定
- Adobe Print Resource Center
- EPS 形式へのページの書き出し
- トンボの指定
- PDF への書き出し（プリント用）

Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

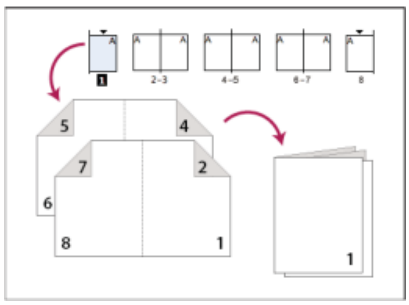
ブックレットのプリント

ブックレットの印刷に対するドキュメントの面付け
クリープについて
ブックレット印刷のプレビューまたは概要の表示
ブックレットのプリントのトラブルシューティング

ページの先頭へ

ブックレットの印刷に対するドキュメントの面付け

ブックレットをプリント機能により、商用印刷で使用される製本方法に合わせた面付け（プリンタースプレッド）で印刷することができます。例えば、8 ページの小冊子を編集している場合、レイアウトウィンドウにはページが順番に表示されます。しかし、プリンタースプレッドでは、2 ページは 7 ページの隣に配置され、この 2 つのページを同じ用紙にプリントし、真ん中で折り、ページ順に揃えます。



ページはレイアウトウィンドウに順番に表示されますが、プリント順は異なり、折って揃えたときに正規の順番になります。

レイアウトスプレッドからプリンタースプレッドを作成することを面付けと呼びます。ページを面付けするとき、ページ間のスペース、マージン、裁ち落とし、クリープを調整するために設定を変更することができます。面付けはプリント工程で処理されるので、InDesign ドキュメントのレイアウトは影響を受けません。ドキュメントでページの移動や回転は行いません。

デスクトッププリンターからのブックレットのプリントに関するビデオデモについては、Infiniteskills.com の Jeff Witchel による Priniting booklets from your desktop printer（英語）を参照してください。

注意： 面付けされているページを基にしてドキュメントを新たに作成することはできません。また、ドキュメントに複数種類のページサイズが含まれている場合は、ブックレットのプリント機能によってドキュメントを面付けすることはできません。

1. ファイル／ブックレットをプリントを選択します。
2. プリンターのプリセットに目的の設定がある場合は、プリントプリセットメニューからプリセットを選択します。

   現在のドキュメントの（プリントダイアログボックスに表示される）プリント設定を使用するには、プリントプリセットメニューから [現在のドキュメント設定] を選択します。
3. ドキュメントの一部だけを面付けする場合は「設定」セクションの「範囲」を選択し、面付けに含めるページを指定します。

   連続するページ範囲を指定する場合はハイフンを使用し、連続しないページを指定する場合はコンマを使用します。例えば、「**3-7, 16**」と入力すると、3 ～ 7 ページと 16 ページを面付けすることができます。

   注意： ドキュメントをセクションページ番号に分割している場合は、「範囲」にセクションページ番号（*Sec2:11* など）を入力する必要があります。
4. トンボやカラー出力を変更するには、「プリント設定」をクリックします。左側のオプションを使用して、必要に応じて設定を変更し、「OK」をクリックします。
5. ブックレットをプリントダイアログボックスで、必要に応じてその他のブックレット設定オプションを指定して、「プリント」をクリックします。

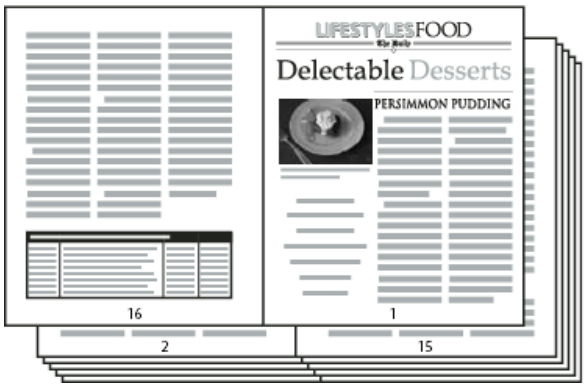
注意： ブックレットのページ数は常に *4* の倍数です。*PDF* プリンターでプリントする場合、ブックレットを作成するために *PDF* に空白ページが挿入されます。

ブックレットの種類

「見開き - 中綴じ」、「見開き - 無線綴じ」、「連続」の 3 種類を選択することができます。

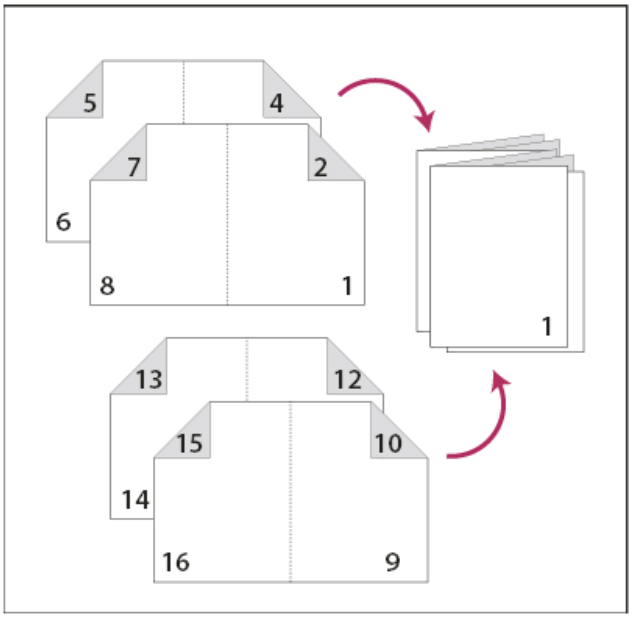
見開き - 中綴じ 2 ページで構成される隣り合ったプリンタースプレッドを作成します。用紙の両側にプリントした後、ページ順に揃えて真ん中で折り、綴じる場合に適しています。InDesign では、必要に応じて、完成したドキュメントの最後に空白ページが追加されます。「ページ間のスペース」、「ページ間の裁ち落とし」、および「折本サイズ」の各オプションは、「見開き - 中綴じ」が選択されるとグレー表示になります。

「ブックレットをプリント」は「綴じ方」設定に基づいてページを面付けします。ドキュメントの「綴じ方」を「右綴じ」に設定すると、それに応じて「ブックレットをプリント」はページを面付けします。ドキュメントの「綴じ方」設定を表示するには、ファイル／ドキュメント設定を選択します。



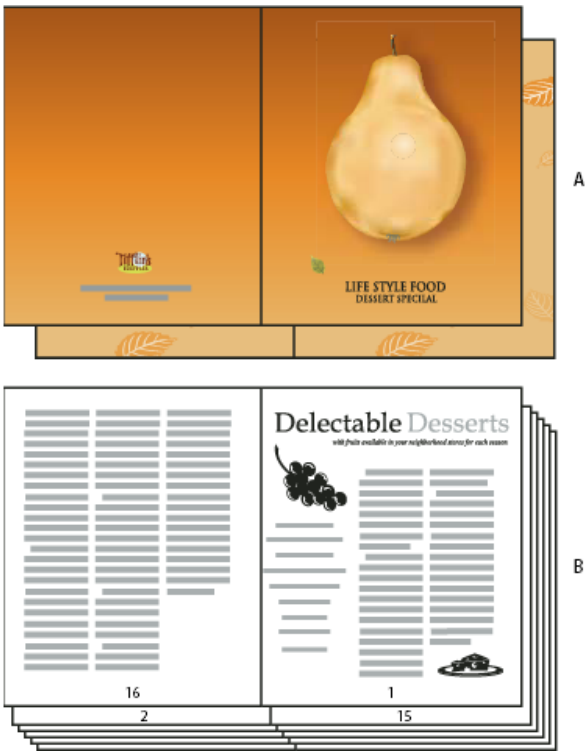
「見開き - 中綴じ」を使用して *24* ページのモノクロ会報のプリンタースプレッドを作成すると、スプレッドは *12* になります。

見開き - 無線綴じ 2 ページで構成される隣り合ったプリンタースプレッドを、指定した折本サイズ内で作成します。用紙の両側にプリントした後、カットし、カバーに接着する場合に適しています。面付けするページ数が折本サイズで割り切れない場合は、必要に応じて、完成したドキュメントの最後に空白ページが追加されます。



4 つの折本に分割された「見開き - 無線綴じ」

小冊子のカバーだけがカラーで、本文はモノクロである場合、同じドキュメントで 2 つの面付けを作成します。フロントカバー用、フロントカバーの内側用、バックカバーの内側用、およびバックカバー用に 1 つの組付けを作成し、小冊子本文の 24 ページ用に 1 つの組付けを作成します。カラー折本を作成するには、「設定」セクションの「ページ」で「範囲」をクリックし、「**1-2**, **27-28**」（またはセクションページ番号）と入力します。本文をモノクロにする場合は、「範囲」テキストボックスに「**3-26**」と入力します。



カラーカバー付きの *28* ページの小冊子

A. カバーのカラー折本 ***B.*** モノクロの本文

連続 織り込んだ小冊子やパンフレットに適した見開き、3 面付け、4 面付けを作成します。「ページ間の裁ち落とし」、「クリープ」、および「折本サイズ」は、「連続」オプションが選択されるとグレー表示になります。

例えば、6 面からなり 3 か所で折り込むタイプのパンフレットのプリンタースプレッドを作成するには、「3 面付け - 連続」を選択します。3 つ折りを、それぞれ異なる内容の 1 ページとして設定する場合があります。その場合でも、InDesign の面付けを使用すれば、各パネルのサイズのページを簡単に作成できます。



3 面付け - 連続

ブックレットの印刷に対する間隔、裁ち落とし、マージンのオプション

ブックレットをプリントダイアログボックスの「設定」セクションにある次のオプションを変更することができます。

ページ間のスペース ページとページとの間のスペース（左側のページの右側と右側のページの左側）を指定します。「ページ間のスペース」は、「中綴じ」以外のすべてのブックレットの種類で指定できます。

「無線綴じ」のドキュメントでは、負値でクリープする場合、「クリープ」の幅が「ページ間のスペース」の最小値になります。折本を手動で作成する場合（例えば、同じドキュメントに異なるストックがある場合）、「ページ間のスペース」を入力して、異なる折本に属する見開きの開始クリープを指定します。

ページ間の裁ち落とし 「無線綴じ」プリンタースプレッドスタイルの間隔にページ要素を食い込ますためのスペースを指定します。このオプションはクロスオーバーと呼ばれる場合もあります。0 から「ページ間のスペース」の 1/2 の間で値を指定します。「見開き - 無線綴じ」が選択される場合のみ、このオプションを指定することができます。

クリープ 各折本の用紙の厚みと折りに必要なスペースを指定します。通常は、追い込み効果を作成するために負の値を指定します。「クリープ」は、「見開き - 中綴じ」と「見開き - 無線綴じ」のブックレットの種類で指定できます（クリープについてを参照してください。）

折本サイズ 「見開き - 無線綴じ」ドキュメントの各折本のページ数を指定します。面付けするページ数が折本サイズで割り切れない場合は、必要に応じて、ドキュメントの最後に空白ページが追加されます。

トンボと裁ち落としに合わせて自動的に調整 現在設定されている裁ち落としやその他のプリントトンボオプションが収まるようにマージンを計算します。このオプションが選択されると「マージン」の下のフィールドはグレー表示になりますが、トンボと裁ち落としに合わせて使用される実際の値が反映されます。このオプションの選択を解除すると、「マージン」を手動で調整することができます。

マージン トリミング後の実際のプリンタースプレッド周囲のスペースを指定します。「天」、「下」、「左」、「右」の個々の値を指定する場合は、「トンボと裁ち落としに合わせて自動的に調整する」の選択を解除し、トンボと裁ち落としのデフォルト値を超えるスペースを挿入する場合は、値を増やします（値を減らすと、その結果、トンボと裁ち落としがクリップしてしまう場合があります）。「マージン」はすべてのブックレットプリントタイプで指定できます。

空白のプリンタースプレッドを印刷 面付けするページ数が折本サイズで割り切れない場合は、ドキュメントの最後に空白ページまたはスプレッドが追加されます。ドキュメントの最後に空白のスプレッドを印刷するかどうかを決める場合に、このオプションを使用します。ドキュメントのその他の空白ページの印刷は、プリントダイアログボックスの「白紙をプリント」オプションによって制御されることに注意してください。

ページの先頭へ

クリープについて

クリープでは、「中綴じ」と「無線綴じ」ドキュメントの用紙の厚みと折りを収容するためにノド元からページの移動する距離を指定します。InDesign では、プリンタースプレッドの最も外側を製本後の「カバー」と見なし、プリンタースプレッドの最も内側を「センターフォールド」と見なします。シートは、シートの前面と背面の 2 つのプリンタースプレッドを表します。クリープの間隔は、指定したクリープ値をシートの総数 - 1 で除算した値になります。

正のクリープ値を指定すると、センターフォールドは調整されませんが、外側のシートのページはノド元から離れるように移動します。負のクリープ値を指定すると、カバーは調整されませんが、内側のシートのページはノド元に向かって移動します。

例えば、16 ページの InDesign ドキュメントでは、プリンタースプレッドは 8 になり、シートは 4 になります。最初のシートの前面は最初のプリンタースプレッド（16 ページと 1 ページ）で構成され、最初のシートの背面は 2 番目のプリンタースプレッド（2 ページと 15 ページ）で構成されます。

この例のクリープ値が 24 ポイントである場合（明確にするため、高めに示しています）、クリープの間隔は 1 シート当たり 8 ポイントになります（24 ÷ 3）。最も内側のシートに適用されるクリープは 24 ポイントであり、3 番目のシートに適用されるクリープは 16 ポイント、2 番目のシートに適用されるクリープは 8 ポイントです。最も外側の最初のシートにはクリープは適用されません。

連続する各シートのクリープは、クリープ間隔分減少します。つまり、最も内側のシートの各ページはノド元から 12 ポイント（このシートのクリープ値 24 ポイントの 1/2）移動し、3 番目のシートの各ページはノド元から 8 ポイント（このシートのクリープ値 16 ポイントの 1/2）移動し、2 番目のシートの各ページはノド元から 4 ポイント（このシートのクリープ値 8 ポイントの 1/2）移動します。

ページの先頭へ

ブックレット印刷のプレビューまたは概要の表示

ブックレットをプリントダイアログボックスの「プレビュー」セクションでは、選択した面付けスタイルで作成されるプリンタースプレッドのカラーサムネールが確認できます。プリントダイアログボックスで指定したトンボも表示されます。

1. ファイル／ブックレットをプリントを選択します。
2. 必要に応じて次の操作を行います。
   - ダイアログボックスの左側の「プレビュー」をクリックします。プリンタースプレッドを反転するには、スクロール矢印をクリックします。スプレッドからスプレッドに戻るには、左のスクロール矢印をクリックします。スクロールボックスをドラッグして、プリンタースプレッドを変更することもできます。

ブックレットをプリントダイアログボックスの左側の「概要」をクリックして、現在のブックレットの設定の概要を表示します。設定が異なる場合は、「概要」セクションの下部を確認します。

「プリント設定」をクリックして、プリントダイアログボックスの設定を変更する場合は、「プレビュー」セクションの変更された設定の効果を参照することができます。

ページの先頭へ

ブックレットのプリントのトラブルシューティング

ブックレットをプリントするときに、次のような点に注意してください。

新規ドキュメントを作成できない 面付けされたページを含む新規 InDesign ドキュメントを作成することはできません。面付けされたドキュメントをプリントすることや、PDF を作成することはできます。

白紙のページが含まれない 各プリンタースプレッドに十分なページが含まれるようにするために、ドキュメントの途中に白紙のページを追加できます。ただし、追加した白紙のページにテキストやオブジェクトが含まれていない場合、これらのページは認識されない場合があり、ドキュメントの最後に白紙のページが追加されます。追加した白紙のページが面付けされたドキュメントに含まれるようにするには、ブックレットをプリントダイアログボックスで「プリント設定」をクリックし、「白紙をプリント」を選択して「OK」をクリックします。

両面印刷プリンターを使用しない両面ページのプリント Adobe Acrobat または InDesign の「奇数ページのみ」オプションおよび「偶数ページのみ」オプションを使用します。1 セットをプリントした後、用紙を裏返してプリンターにセットし、残りのページをプリントします。最適な結果を得るには、テストドキュメントをプリントし、プリンターにセットする用紙の適切な方向および順序を確認します。

(cc) BY-NC-SR Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

トンボと裁ち落とし

トンボの指定
裁ち落としまたは印刷可能領域のプリント
ページ位置の変更

トップへ戻る

トンボの指定

ドキュメントをプリントするとき、トンボの位置決めや校正刷りを作成する際のフィルム調整、適正なキャリブレーションとドット密度を得るためのフィルム調整などのために、いくつかのトンボを使用する必要があります。どのトンボのオプションを選択しても、トンボ、裁ち落とし（外トンボと内トンボの間の、アートワークをはみ出させて配置する印刷可能領域）、または印刷可能領域（ページや裁ち落としの外側に設定するプリンターの情報やカスタマイズしたカラーバーなどの情報を表示するような領域）が収まるように、印刷領域が拡張されます。

内トンボを設定するとき、アートワークに裁ち落としまたは印刷可能領域を含める場合は、内トンボを超えてアートワークを配置し、裁ち落としまたは印刷可能領域が含まれるようにします。また、用紙サイズが、ページやトンボ、裁ち落とし、印刷可能領域が収まるほど十分に大きいことを確認してください。ドキュメントが用紙サイズに合っていない場合、プリントダイアログボックスの「設定」セクションにある「ページの位置」オプションを使用して、アイテムをクリップする位置を指定することができます。

「内トンボ」オプションを選択した場合、スプレッドを印刷すると折り目が実線でプリントされます。



トンボ

A. 内トンボ **B.** センタートンボ **C.** ページ情報 **D.** カラーバー **E.** 外トンボ **F.** 印刷可能領域

1. ファイル／プリントを選択します。
2. プリントダイアログボックスの左側のリストで「トンボと裁ち落とし」をクリックします。
3. 「すべてのトンボとページ情報を印刷」を選択するか、必要なトンボを選択します。

トップへ戻る

裁ち落としまたは印刷可能領域のプリント

裁ち落としと印刷可能領域は、ドキュメント設定ダイアログボックスで指定します。裁ち落としと印刷可能領域は、ドキュメントが最終的なページサイズに断裁されるときに削除されます。裁ち落としと印刷可能領域の外側のオブジェクトはプリントされません。

プリントするとき、「トンボと裁ち落とし」セクションの「裁ち落としと印刷可能領域」で、外トンボのデフォルト位置を変更できます。

PostScript 形式でファイルを保存すると、ポスト処理プログラムで可変裁ち落としが可能になります。

1. ファイル／プリントを選択します。
2. プリントダイアログボックスの左側のリストで「トンボと裁ち落とし」をクリックします。
3. 種類ポップアップメニューから次のいずれかのオプションを選択します。
   - 丸付きセンタートンボ
   - 丸なしセンタートンボ
   - 西洋トンボ
4. 「すべてのトンボとページ情報を印刷」を選択するか、必要なトンボを選択します。
5. ドキュメント設定ダイアログボックスで裁ち落とし設定を変更するには、「ドキュメントの裁ち落とし設定を使用」をオフにし、単ページの

場合は「上」、「下」、「左」、「右」に、見開きの場合は「天」、「地」、「ノド」、「小口」に 0 ～ 152.4mm の値を入力します。ページの全方向に平均にオフセットを拡張するには、すべての設定を同一にするアイコン をクリックします。

6. ドキュメント設定ダイアログボックスで定義された印刷可能領域を使用してプリントする場合は、「印刷可能領域を含む」をクリックします。

プリントする前に裁ち落としと印刷可能領域をプレビューするには、ツールパネル下部にある裁ち落としモードアイコン または印刷可能領域モードアイコン をクリックします（これらのアイコンはプレビューモードアイコン で隠れている場合があります）。

トンボと裁ち落としのオプション

「トンボと裁ち落とし」セクションには次のオプションがあります。

内トンボ ページをトリミングする位置を定義するための水平と垂直の細い罫線（ヘアライン）を追加します。内トンボは、色分解出力した各色版の位置を正確に見当合わせするためにも使用します。外トンボを合わせて使用することによって 2 重トンボを指定できます。

外トンボ 定義されているページサイズの外側を表す余白を定義するための細い罫線（ヘアライン）を追加します。

センタートンボ カラードキュメント内の各色版を正しく重ねるために、ページ範囲の外側に小さな「ターゲット」を追加します。

カラーバー CMYK のインキとグレーの階調（10 %ずつ増加）を表す小さなカラーの四角形を追加します。このマークは、出力センターや印刷会社が印刷機のインキ濃度を調節するために使用します。

ページ情報 用紙またはフィルムの各シートに、ファイル名、ページ番号、現在の日時、色版名をプリントします。「ページ情報」オプションは、ページの横方向の端に沿って 0.5 インチ（13 mm）必要です。

なお、ページ情報は、GothicBBB-Medium-83pv-RKSJ-H（中ゴシック体）フォントで印刷されます。

タイプ 「丸付きセンタートンボ」、「丸なしセンタートンボ」、「西洋トンボ」を選択することができます。カスタムトンボを作成することや、他の会社が作成したトンボを使用することもできます。カスタムトンボの作成について詳しくは、アドビ システムズ社の Web サイトのサポートを参照してください。

線幅 デフォルト値は 0.10 mm です。0.05 mm、0.07 mm、0.10 mm、0.15 mm、0.20 mm、0.30 mm、0.125 pt、0.25 pt、0.50 pt から選択します。

オフセット ページの端（内トンボの位置）からどれくらいの位置にページ情報やトンボをプリントするかを指定します。このオプションは、「種類」で「西洋トンボ」が選択されているとき以外は使用できません。

トップへ戻る

ページ位置の変更

ドキュメントをドキュメントサイズより大きいカットシート用紙サイズにプリントする場合、プリントダイアログボックスの「設定」セクションにある「ページの位置」オプションを使用して、裁ち落としと印刷可能領域、トンボ、用紙内のページの位置を調節することができます。ドキュメントと用紙の大きさが合っておらず、用紙からはみ出している場合は、ドキュメントをトリミングする位置を指定することができます。設定の結果は、プリントダイアログボックスのプレビューに表示されます。

注意： 裁ち落としと印刷可能領域、およびトンボを確認するには、「ページの位置」ではなく「幅に合わせる」オプションを選択します。この場合、ページ位置は常に中央揃えになります。「幅に合わせる」、「サムネール」、または「タイル」を選択している場合は、「ページの位置」オプションは使用できません。

✤ プリントダイアログボックスの「設定」セクションにある「ページの位置」で位置を選択します。

関連項目

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

トラッププリセット

トラッププリセットパネルの概要
トラッププリセットの作成または編集
トラッププリセットの管理
トラッププリセットのページへの割り当て
トラップするページ範囲の設定
トラッププリセットのオプション
トラップ限界のスライドの設定
黒のトラップについて
ブラックに隣接するカラーのトラップ幅の設定
矛盾するトラッププリセットでのブックの印刷について

トラッププリセットパネルの概要

トップへ戻る

トラッププリセットは、ドキュメントのページまたはページ範囲に適用するトラップ設定の組み合わせです。トラッププリセットパネルには、トラップ設定を行い、トラッププリセットを保存するためのインターフェイスが用意されています。現在のドキュメントに対して任意のページまたはすべてのページにトラッププリセットを適用したり、別の InDesign ドキュメントからプリセットを読み込むことができます。トラッププリセットをトラップするページ範囲に適用しなければ、「デフォルト」トラッププリセットがそのページ範囲に使用されます。

トラッププリセットの設定の表示

1. トラッププリセットパネルが表示されていない場合は、ウィンドウ／出力／トラッププリセットを選択します。
2. トラッププリセットパネルで、次のいずれかの操作を行います。
   - プリセットをダブルクリックします。
   - プリセットを選択して、パネルメニューから「トラッププリセットを編集」を選択します。

トラッププリセットリストの縮小表示

❖ トラッププリセットパネルメニューから「小さく表示」を選択します。

未使用のトラッププリセットの確認

❖ トラッププリセットパネルメニューから「未使用プリセットをすべて選択」を選択します。現在のドキュメントに割り当てられていないすべてのプリセット（「デフォルト」と「トラッププリセットなし」を除く）がハイライト表示されます。不要なプリセットを削除する場合に便利です。

トラッププリセットの作成または編集

トップへ戻る

1. トラッププリセットパネルが表示されていない場合は、ウィンドウ／出力／トラッププリセットを選択します。
2. トラッププリセットパネルメニューから「新規トラッププリセット」を選択するか、編集するプリセットをダブルクリックします。
   注意： トラッププリセットパネルの下部にある「新規トラッププリセットを作成」ボタンをクリックすると、「デフォルト」トラッププリセットの設定に基づいてプリセットが作成されます。
3. 次のオプションを指定して、「OK」をクリックします。
   名前 プリセット名を入力します。「デフォルト」トラッププリセットの名前は変更できません。

   トラップの幅 インキの重なっている量を入力します。

   トラップの外観 トラップの形状を設定します。

   画像 読み込んだビットマップ画像をトラップする方法を指定します。

   トラップのしきい値 トラップ処理が実行される条件を指定します。多くの要因がここに入力する必要がある値に影響を与えます。詳しくは、印刷・出力会社に相談してください。

トラッププリセットの管理

トップへ戻る

トラッププリセットを複製、削除、読み込みおよびカスタマイズすることができます。

トラッププリセットの複製

❖ 次のいずれかの操作を行います。

- トラッププリセットパネルでプリセットを選択し、パネルメニューから「トラッププリセットを複製」を選択します。
- 複製するプリセットをパネルの下部にある「新規トラッププリセットを作成」ボタンまでドラッグします。

トラッププリセットの削除

1. トラッププリセットパネルでプリセットを選択し、次のいずれかの操作を行います。
   - 「削除」ボタンをクリックします。
   - パネルメニューから「トラッププリセットを削除」を選択します。
2. トラッププリセットを置き換えるかどうか確認するメッセージが表示されたら、トラッププリセットを削除ダイアログボックスで置き換えるトラッププリセットを選択します。このダイアログボックスは、選択したプリセットが少なくとも 1 ページに割り当てられている場合に表示されます。
3. 「はい」をクリックして削除を確認します。

注意： 2 つの組み込みプリセット（[デフォルト] と [トラッププリセットなし]）を削除することはできません。

他の InDesign ドキュメントからのプリセットの読み込み

1. トラッププリセットパネルメニューから「トラッププリセットを読み込み」を選択します。
2. InDesign ファイルを選択して、「開く」をクリックします。

トップへ戻る

トラッププリセットのページへの割り当て

トラッププリセットは、ドキュメントまたはページ範囲に割り当てることができます。隣接するカラーがないページは、それらのページへのトラップを無効にすれば、より速く印刷されます。トラップは、ドキュメントが印刷されるまで実行されません。



プリセットを適用したページがリストボックスに表示されるトラップの割り当ては「割り当て」ボタンをクリックするたびに更新される

1. トラッププリセットパネルメニューから「トラッププリセットを割り当て」を選択します。
2. トラッププリセットポップアップメニューから、適用するプリセットを選択します。
3. トラッププリセットを適用するページを選択します。
4. 「割り当て」ボタンをクリックして、「終了」ボタンをクリックします。

注意： 「割り当て」ボタンをクリックせずに「終了」をクリックすると、トラップの割り当てが変更されることなくダイアログボックスが閉じます。それまでに「割り当て」ボタンで設定したトラップの割り当ては保存されます。

トップへ戻る

トラップするページ範囲の設定

1. トラッププリセットパネルメニューから「トラッププリセットを割り当て」を選択します。
2. トラッププリセットポップアップメニューから、ページ範囲に適用するプリセットを選択します。
3. 「範囲」を選択して、右のテキストボックスに 1 つまたは複数のページ範囲を入力します。範囲を指定するにはハイフンを使い、ページや範囲を複数指定するにはそれぞれをコンマで区切ります。例えば、「2-4, 6, 9-10, 12-」というように指定します。
4. 「割り当て」ボタンをクリックして、「終了」ボタンをクリックします。

トラップするページ範囲を無効にするには、パネルメニューから「トラッププリセットを割り当て」を選択して、トラッププリセットポップアップメニューから「トラッププリセットなし」を選択します。「割り当て」ボタンをクリックして、「終了」ボタンをクリックします。

トップへ戻る

トラッププリセットのオプション

トラッププリセットを作成したり、編集したりするときはいつでも、トラッププリセットオプションを変更できます。トラッププリセットオプションは Acrobat と InDesign で同じ設定を使用できます。Acrobat でトラッププリセットを表示するには、ツール／印刷工程／トラッププリセッ

トを選択します。InDesign では、ウィンドウ／出力／トラッププリセットを選択します。

トラップの幅

トラップの幅は、各トラップが重なり合う部分の量です。用紙の特性、スクリーン線数、印刷機の状態によって、必要なトラップ幅は異なります。それぞれのジョブに適切なトラップ幅を決定するには、印刷・出力会社と相談してください。

デフォルト 黒ベタを除くすべてのカラーをトラップするトラップ幅を指定します。デフォルト値は 0.088 mm です。

黒 インキが黒ベタに広がっていく距離またはリッチブラックをトラップする黒のエッジとその下にあるインキの距離であるホールドバック量を示します。デフォルト値は 0.176 mm です。多くの場合、この値はデフォルトのトラップ幅の 1.5 ～ 2 倍の値に設定されます。

InDesign では、「ブラックカラーリミット」で設定した値によって、黒ベタまたはリッチブラック（プロセスカラーのブラック（K）にカラーインキを混合してインキの濃度を上げたもの）の値が決まります。

注意： （InDesign）組み込みトラップを選択した場合、デフォルトのトラップ幅または 4 ポイント以上の対ブラックを指定すると、トラップ幅は 4 ポイントに設定されます。ただし、指定した値は継続して表示されます。これは、Adobe In-RIP トラップに切り替えると、指定したとおり 4 ポイント以上のトラップが適用されるためです。

トラップの外観

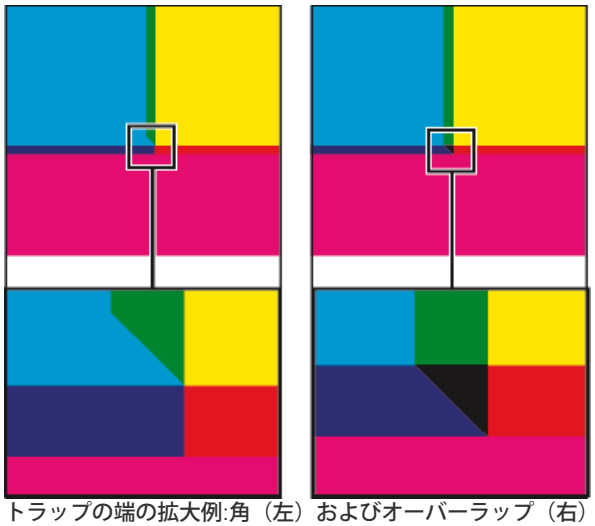
結合とは、2 つのトラップのエッジが共通の端点において交差する場所のことです。2 つのトラップ線分が結合する外側の形状と、3 つのトラップが交差する部分を制御することができます。

結合スタイル 2 つのトラップ線分の外側にある結合の形状を制御します。「角」、「丸み」、「斜角」から選択します。デフォルトは「角」で、Adobe In-RIP トラップエンジンの以前のバージョンとの互換性を維持しています。



トラップの結合例、左から右に:角結合、丸み結合、斜角結合

端のスタイル 3 つのトラップの交差を制御します。「角」（デフォルト）は、交差しているオブジェクトにトラップの端を近付けないように変形します。「オーバーラップ」は、複数の暗いオブジェクトと交差する、最も明るい ND 値のオブジェクトによって生成されたトラップの形状に作用します。最も明るいトラップの端は、3 つのオブジェクトが交差するポイントに回り込みます。



トラップの端の拡大例:角（左）およびオーバーラップ（右）

トラップのしきい値

色差 カラー変化のしきい値を指定します。この値を超えると、トラップエンジンがトラップを作成します。印刷物によって、最も極端なカラー変化だけをトラップしたい場合もあれば、微妙なカラー変化もトラップしたい場合もあります。「色差」値は、隣接するカラーの成分（CMYK 値など）の変化の度数を示し、この値を超えるとトラップが生じます。

隣接するカラーがトラップされる前にそのコンポーネントインキが変化する量を変更するには、新規トラッププリセットダイアログボックスまたは「トラッププリセット」オプションを変更ダイアログボックスで値を増減します。デフォルトは 10 %です。最適な結果を得るには、8 ～ 20 %の値を使用します。値が低ければ低いほど、色差への感度が高くなり、結果としてより多くのトラップが行われます。

ブラックカラーリミット 必要なブラックインキの最小量を示し、これを下回ると「対ブラック」テキストボックスの設定が適用されます。デフォルトは 100 %です。最適な結果を得るには、70 %以上の値を使用します。

ブラック濃度リミット インキがブラックであると認識する ND 値またはそれ以上の ND 値を示します。例えば、「対ブラック」の設定で暗い特色インキを使用する場合、ここに ND 値を入力します。この値は通常、デフォルトの 1.6 近くに設定します。

トラップ限界のスライド トラップエンジンがカラーの境界の中心線を越えてトラップを行う値を指定します。この値は、隣接する暗い方のカラーの ND 値に対する明るい方のカラーの ND 値の割合です。例えば、「トラップ限界のスライド」値を 70 %に設定した場合、明るい方のカラーが暗い方のカラーの ND 値の 70 %を超えると（つまり、明るい方のカラーの ND 値を暗い方のカラーの ND 値で割った結果が 0.70 より大きいと）、

トラップの位置は中心線を超えます。ND 値が同一のカラーであれば、「トラップ限界のスライド」を 100 %に設定していない限り、トラップは必ず中心線上の位置になります。
トラップ減色 トラップカラーを減らすために、隣接するカラーから成分が使用される度数を示します。この設定は、ある特定の隣接するカラー（例えばパステルカラー）にどちらのカラーよりも暗いトラップが作成されることを防ぐのに便利です。値を 100 %より小さく指定すると、トラップのカラーは明るくなります。値を 0 %にすると、トラップの ND 値は暗いカラーの ND 値と同じになります。

読み込まれたグラフィックのトラップ

トラッププリセットは、画像内のトラップを制御するだけでなく、ビットマップ画像（写真画像や写真画像が含まれているラスタ PDF ファイルなど）とベクトルオブジェクト（ドローアプリケーションで作成されたオブジェクトやベクトル PDF ファイルなど）間のトラップを制御することもできます。読み込まれたグラフィックの処理は、トラップエンジンによって異なります。トラップオプションを設定する場合は、これらの相違を理解しておくことが重要です。

トラップ配置 ベクトルオブジェクト（InDesign で作成したオブジェクトを含む）をビットマップ画像にトラップするときのトラップの位置を設定するオプションです。「ND 値」以外のすべてのオプションでは、オブジェクトに対して一定のエッジが作成されます。「中央」を選択すると、オブジェクトと画像間のエッジをまたぐトラップが作成されます。「チョーク」を選択すると、オブジェクトは隣接する画像に重なります。「ND 値」は、ドキュメントの別の箇所で使用されているトラップと同じトラップルールを適用します。「ND 値」が設定されている写真画像にオブジェクトをトラップすると、トラップが一方のエッジからもう一方のエッジに移動したときに、凹凸が非常に目立つエッジになることがあります。「スプレッド」を選択すると、ビットマップ画像が隣接するオブジェクトに重なります。
オブジェクトを画像にトラップ 「トラップ配置」の設定を使用して、ベクトルオブジェクト（主線として使用するフレームなど）を画像にトラップします。ベクトルオブジェクトが、トラップされるページ範囲内の画像に重ならない場合は、このオプションをオフにすることによって、そのページ範囲のトラップの速度が向上します。
画像間でトラップ ビットマップ画像が重なっているか、隣接している場合、ビットマップ画像の境界線に沿ったトラップを有効にします。この機能はデフォルトで設定されます。
内側の画像をトラップ 個々のビットマップ画像内で、カラー同士のトラップを有効にします（ベクトルオブジェクトやテキストに接触する部分に限りません）。このオプションは、スクリーンショットや漫画など、コントラストの強い画像を含むページ範囲にだけ使用します。不自然なトラップが作成されないよう、連続階調や複雑な画像ではこのオプションを選択しないでください。このオプションの選択が解除されていると、より速くトラップが実行されます。
1 ビット画像をトラップ 隣接するオブジェクトに 1 ビット画像をトラップします。1 ビット画像は 1 つのカラーしか使用しないので、このオプションは「トラップ配置」の設定を使用しません。通常、このオプションは選択しておきます。場合によっては、ピクセルの間隔が空いている 1 ビット画像などでは、このオプションを選択すると画像が暗くなり、トラップの速度が低下することがあります。

トップへ戻る

トラップ限界のスライドの設定

1. トラッププリセットパネルメニューから「新規トラッププリセット」を選択するか、編集するプリセットをダブルクリックします。
2. 「トラップ限界のスライド」で、0 ～ 100 のパーセント値を入力するか、デフォルトの 70 %を使用します。0 %では、すべてのトラップのデフォルトが中心線上の位置になります。100 %では、トラップ限界のスライドがオフになり、隣接するカラー同士の ND 値に関係なく、強制的に一方のカラーがもう一方の全体に広がります。

トップへ戻る

黒のトラップについて

プリセットを作成したり、編集したりするときは、「ブラックカラーリミット」に入力した値によって、黒ベタおよびリッチブラックと見なされる値が決まります。リッチブラックとは、サポートスクリーン（黒を強調するために 1 色以上のプロセスインキを数パーセント追加した黒）を使用する黒のカラーのことを指します。

「ブラックカラーリミット」の設定は、過度のドットゲイン（低品質な用紙を使用しているような場合）を補正するときに便利です。このような状況では、黒の値が 100 %未満でも、ベタとして印刷されます。黒またはリッチブラックをスクリーンバック（黒ベタの濃淡を使用）し、「ブラックカラーリミット」の設定をデフォルトの 100 %よりも小さくすることによって、ドットゲインを補正することができます。これにより、トラップエンジンは適切なトラップ幅と黒いオブジェクトへの配置を適用します。

カラーが「ブラックカラーリミット」の値に達すると、「対ブラック」の値が隣接するすべてのカラーに適用され、「対ブラック」の値を使用してキープアウェイトラップがリッチブラックの領域に適用されます。

サポートスクリーンが黒い部分のエッジに広がると、版ズレによってサポートスクリーンのエッジが見えるようになり、不必要なハローが発生したり、オブジェクトのエッジが歪んだりすることがあります。トラップエンジンは、リッチブラックに対してキープアウェイまたはホールドバックを使用し、サポートスクリーンを反転オブジェクトまたは前面の明るいオブジェクトのエッジから所定の距離に維持することで、明るいオブジェクトが鮮明度を保つようにします。サポートスクリーンと黒い部分のエッジとの間の距離は、「対ブラック」の値を設定することによって制御します。

注意： トラップするオブジェクトがグラフィックを囲む黒の主線などの細いオブジェクトの場合、トラップエンジンは「対ブラック」の設定を無効にし、トラップ量を細いオブジェクトの幅の半分に制限します。

トップへ戻る

ブラックに隣接するカラーのトラップ幅の設定

1. トラッププリセットパネルメニューから「新規トラッププリセット」を選択するか、編集するプリセットをダブルクリックします。
2. 「トラップの幅」セクションの「対ブラック」で、他のカラーをブラックの方向に広げる距離、またはサポートスクリーンをブラックの下にチョークバックする距離を入力します（単位はミリメートル）。通常、「対ブラック」は、トラップ幅のデフォルト値の 1.5 ～ 2 倍に設定し

ます。

3. 「ブラックカラーリミット」と「ブラック濃度リミット」の値を設定します。

注意： ブラックのトラップ機能を適用するには、カラー部分で「ブラック濃度リミット」以上の ND 値のインキを使用し、「ブラックカラーリミット」以上のパーセンテージでインキが発生する必要があります。

トップへ戻る

矛盾するトラッププリセットでのブックの印刷について

1 ページだけの出力のような 1 枚の出力に対して、1 つのトラッププリセットを適用することができます。通常はこのような使い方はしませんが、ブックで複数のドキュメントを印刷する場合や、個々のドキュメントまたはページが異なったトラッププリセットを持っている場合、InDesign がドキュメント間でプリセットを同期させることによって、トラッププリセットが矛盾することを解決することができます。

- ブック内の複数のドキュメントが同じ名前の異なるトラッププリセットを使用する場合、同期オプションダイアログボックスで「トラッププリセット」オプションを選択していれば、InDesign はマスタードキュメントで使用されているトラッププリセットを割り当てます。
- ドキュメントの同期では、マスタードキュメントのすべてのプリセットがブック内の他のドキュメントで使用可能になりますが、プリセットがドキュメントに割り当てられているわけではありません。それぞれのドキュメントにトラッププリセットを割り当てるか、「デフォルト」トラッププリセットを使用する必要があります。使用可能なプリセットは、ドキュメント上で表示したトラッププリセットを割り当てダイアログボックスのトラッププリセットポップアップメニューに表示されます。

注意： 異なるトラッププリセットが見開きページに適用されている場合、InDesign はそれぞれのトラッププリセットを優先します。

関連項目

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

ドキュメントおよびブックのトラップ

インキトラップについて
トラップの方法
自動トラップについて
自動トラップの要件
InDesign 組み込みトラップと Adobe In-RIP トラップの相違
読み込まれたビットマップ画像のトラップ
読み込まれたベクトルグラフィックのトラップ
テキストのトラップ
トラップ性能の最大化
InDesign 組み込みトラップのためのディスク容量の設定
ドキュメントやブックのトラップ

インキトラップについて

トップへ戻る

商用印刷されるドキュメントでは、同一ページ上で複数色のインキを使用する場合、隣接するすべてのインキについて見当を合わせ（刷り位置を正確に一致させる）、インキの境界部分に隙間ができないようにします。しかし、印刷機の中を通過するすべての用紙の上で、すべてのオブジェクトについて厳密な刷り位置を保証することは不可能であり、インキのずれが生じる可能性は排除できません。ずれが生じると、インキとインキの間に意図しない隙間ができてしまいます。

インキのずれを補うには、オブジェクトをわずかに拡張し、異なるカラーのオブジェクトと重なるようにします。この処理をトラップと呼びます。通常、デフォルトでは、あるインキの上に別のインキを重ねた場合、カラーの無用な混合を避けるため下のインキに抜きが設定されたり、削除されたりします。しかしトラップでは、インキをオーバープリント（他のインキの上に印刷）して、少なくとも部分的にインキが重なるようにする必要があります。



トラップしない場合の版ズレ（左）とトラップした場合の版ズレ（右）

多くの場合、トラップ処理には、明るいオブジェクトを暗いオブジェクトに向かって広げるスプレッディングという方法が採用されます。オブジェクトやテキストの視覚上のエッジは、隣接するカラーの暗い方によって決まるので、明るい方のカラーを暗い方に向かって少し広げても、視覚上はエッジを同じ位置に保つことができます。

トラップの方法

トップへ戻る

ドキュメントのトラップは、以下の方法を組み合わせて行うことができます。

- トラップを必要としないプロセスカラーを使用する
- 黒をオーバープリントする
- 線または塗りを手動でオーバープリントする
- Adobe InDesign CS4 組み込みトラップまたは Adobe In-RIP トラップを使用する
- 読み込んだグラフィックを、その作成に使用された描画プログラムのトラップ機能を使用してトラップする （これについては、各アプリケーションのマニュアルを参照してください）

  使用するトラップは、Adobe PostScript や PDF など、使用しているカラー出力ワークフローで正常に機能するものにしてください。

トラップを使用しないようにするには、版ズレのために異なるインキ間に隙間ができることのないカラーを使用します。隣接するプロセスカラーで共通のインキを使用すれば、版ズレを防ぎます。例えば、線を濃い紫、塗りを明るい赤に指定すると、どちらにもマゼンタがかなりの割合で含まれることになります。したがって、線と塗りで共通するマゼンタは、あたかも 1 つの領域であるかのように印刷されるので、他のプロセスインキで版ズレが発生しても、発生した隙間がマゼンタ版のために見えにくくなります。

自動トラップについて

トップへ戻る

InDesign では、組み込みトラップエンジンでカラードキュメントをトラップすることができます。また、Adobe In-RIP トラップをサポートする Adobe PostScript 出力デバイスにより、Adobe In-RIP トラップエンジンを使用することもできます。

どちらのトラップエンジンも、計算を行い、文字とグラフィックの両方のエッジに合わせて調整します。これらのトラップエンジンにより、テキストまたは InDesign のオブジェクトがいくつかの背景色に重なっている場合でも、トラップ技法がオブジェクトの各部分に適用されます。トラップ調整は自動的に行われます。指定したページ範囲に対して、それぞれの状況に応じたトラップ処理を行うトラッププリセットを定義することもできます。トラップの結果は、トラップエンジンによって生成される色分解出力でのみ確認することができます。つまり、InDesign の画面上で結果を見ることはできません。

トラップエンジンは、対比するカラーのエッジを検出して、隣接するカラーの ND 値（明るさまたは暗さ）に基づいてトラップを作成します。多くの場合、明るいカラーを隣接する暗いカラーに向けて広げることになります。トラップエンジンの結果は、トラッププリセットパネルで指定するトラップ設定によって変わります。

自動トラップの要件

トップへ戻る

InDesign 組み込みエンジンを使用してドキュメントをトラップするには、色分解をサポートする PPD が必要です。

Adobe In-RIP トラップエンジンを使用してドキュメントをトラップするには、以下のソフトウェアおよびハードウェアが必要です。

- Adobe In-RIP トラップ対応の RIP を使用する Adobe PostScript レベル 2 以降の出力デバイス。使用している PostScript 出力デバイスが Adobe In-RIP トラップをサポートしているかどうかについては、出力デバイスの製造元に問い合わせてください。または、そのデバイスを扱っている印刷・出力会社に相談してください。
- Adobe In-RIP トラップをサポートするプリンター用の PPD（PostScript プリンター記述）ファイル。プリンターをインストールするときに、この PPD を選択する必要があります。

InDesign 組み込みトラップと Adobe In-RIP トラップの相違

トップへ戻る

コンポジットカラーワークフロー InDesign 組み込みトラップでは、InDesign または In-RIP 色分解を使用してドキュメントの色分解を行うことができます。Adobe In-RIP トラップを使用するには、In-RIP 色分解を使用する必要があります。

トラップの幅 InDesign 組み込みトラップはトラップ幅を 4 ポイントに制限しているので、それ以上のトラップ幅値は入力できません。トラップの幅を広げるには、Adobe In-RIP トラップを使用します。

ベクトル **EPS** グラフィック InDesign 組み込みトラップでは、配置されたベクトル EPS グラフィックをトラップできません。Adobe In-RIP トラップでは、すべての読み込みグラフィックをトラップできます。

読み込まれたビットマップ画像のトラップ

トップへ戻る

InDesign 組み込みトラップは、写真のようなビットマップ画像をテキストやグラフィックにトラップすることができます。この場合、ビットマップ画像は商用印刷でのカラーの必要条件をサポートしている、純粋なピクセルベースのファイル形式を使用して保存されている必要があります。PSD（Photoshop）と TIFF は商用印刷処理に最適な形式です。他の形式を使用する場合は、印刷・出力会社に相談してください。

Open Prepress Interface（OPI）サーバーを使用する場合、それが TIFF または PSD 形式を使用するアタリ（FPO）画像を作成することを確認してください。画像が TIFF または PSD 形式である場合は、出力時に「OPI を無視」オプションを選択しない限り、InDesign 組み込みトラップを使用することが可能です（「OPI を無視」オプションは、PostScript プリンターが使用されるときに、プリントダイアログボックスの「詳細」セクションに表示されます）。

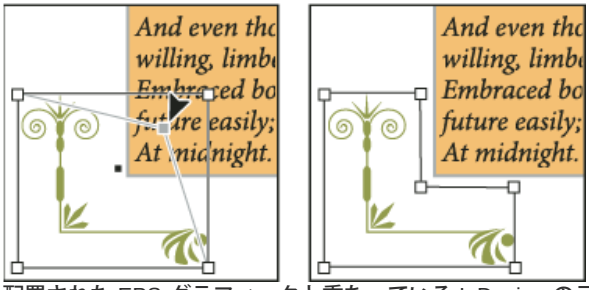
注意： OPI ワークフローでのトラップの挙動と精度は、OPI サーバーが FPO 画像を生成するために使用するダウンサンプリング方法などの様々な要因に依存します。最良の方法は、アドビ システムズ株式会社が提供するトラップソリューションの使用をベンダーの OPI サーバーと統合するように OPI ベンダーと相談することです。

読み込まれたベクトルグラフィックのトラップ

トップへ戻る

Adobe In-RIP トラップ、InDesign 組み込みトラップのどちらも、InDesign ツールで作成されたテキストとグラフィック、および配置されたベクトル PDF ファイルをトラップすることができます。ただし、InDesign 組み込みトラップは、配置されたベクトル EPS グラフィックをトラップできません。

InDesign で作成したテキスト、パスおよびフレームは、InDesign 組み込みトラップがトラップしない配置されたグラフィック（ベクトル EPS グラフィックなど）を含むフレームと重なっている場合は、正常にトラップされません。これらのオブジェクトは、Adobe In-RIP トラップでは正常にトラップされます。グラフィックフレームを調整すると、ベクトル EPS グラフィックを含んでいるドキュメントで InDesign 組み込みトラップを使用できる可能性があります。配置された EPS グラフィックが矩形でない場合は、そのフレームをグラフィックに近づけ、他のオブジェクトから離してください。例えば、オブジェクト／クリッピングパスを選択して、グラフィックフレームをグラフィックに近づけることができます。



配置された EPS グラフィックと重なっている InDesign のテキストとグラフィックは正確にトラップされない（左）、良好なトラップのためにはフレームを変形して他のオブジェクトに接触しないようにする（右）

テキストのトラップ

トップへ戻る

Adobe In-RIP トラップエンジンおよび InDesign 組み込みトラップエンジンのどちらでも、テキストの文字を他のテキストおよびグラフィックにトラップすることができます。InDesign 組み込みトラップを使用する場合は、テキストおよびグラフィックが InDesign で作成されていることと、読み込まれたグラフィックに含まれていないことを確認してください。異なる背景色が重なっている文字は、カラーのすべてに正確なトラップが行われます。

Adobe In-RIP トラップでは、すべての文字をトラップすることができます。InDesign 組み込みトラップの場合は、Type 1、OpenType およびマルチプルマスターフォントでのみ最良な結果が得られます。TrueType フォントを使用すると、不適切なトラップが行われる場合があります。TrueType フォントを使用する必要があり、InDesign 組み込みトラップを使用する場合は、テキストを選択し、書式／アウトラインを作成を選択して、すべての TrueType フォントをアウトライン化してください。テキストは InDesign オブジェクトになり、確実にトラップされるようになります。ただし、テキストをアウトライン化すると、テキストとしては編集できなくなります。

トラップ性能の最大化

トップへ戻る

Adobe In-RIP トラップ、InDesign 組み込みトラップのどちらを使用するかにかかわらず、黒のテキストだけを含んでいるページのような、トラップを必要としないページは処理しないことによって、時間を節約できます。トラッププリセットを使用して、トラップが必要なページ範囲に対してのみトラップが行われるよう設定することができます。

InDesign 組み込みトラップの処理速度は、コンピューターシステムに依存します。長いドキュメントのページすべてにトラップを行う場合は、最速のコンピューターシステムを使用してください。また、InDesign 組み込みトラップはコンピューターのハードディスクを最大限に使用するので、アクセス速度の速いハードディスクと高速なデータバスを使用すると、InDesign 組み込みトラップエンジンの速度が向上します。

コンピューターが他のタスクのために使用できる時間を最大にしたい場合には、RIP 側ですべてのトラップを処理する Adobe In-RIP トラップを使用することを検討してください。

InDesign 組み込みトラップのためのディスク容量の設定

トップへ戻る

トラップが必要なすべてのカラーのエッジをトラップするために、トラップエンジンは出力デバイスのみで使用される多くのパスを作成します（これらのパスはドキュメントには保存されません）。Adobe In-RIP トラップが、これらの追加のパスを RIP で処理および保存するのと異なり、InDesign 組み込みトラップはこれらのトラップ用パスの一時的な記憶領域としてハードディスクを使用します。InDesign 組み込みトラップを使用する前に、できるだけ大きなディスク容量を使用できるようにしてください。

必要なディスク容量は、様々な要因に依存するので、特定のトラップ処理が何を必要とするのか正確に予測することはできません。しかし、以下の 1 つまたは複数の要因によってドキュメント容量が増大した場合に、大きなディスク容量を必要とする可能性が最も高くなります。

- トラップされるページ範囲に含まれるページ数
- 重なるカラーオブジェクトの数
- トラップされる画像の数
- トラップされるテキストの量
- 最終出力の解像度

  InDesign 組み込みトラップを使用するジョブの処理が中断したり、ディスク容量の空きがなくなった場合、トラップデータがハードディスクに残ることがあります。必要であれば、アプリケーションを終了し、C:¥Temp フォルダー（Windows）内の一時データを検索して削除することができます。Mac OS の場合は、コンピューターを再起動してください。

ドキュメントやブックのトラップ

トップへ戻る

デフォルトのトラップ設定の変更は、印刷・出力会社と相談してから行ってください。また、特定のドキュメントおよび印刷状況においてトラップオプションがどのように機能するかを理解してください。

ブックで複数のドキュメントをトラップする場合は、ブックのそれぞれのドキュメント内のページ範囲にどのようなカスタムのトラッププリセッ

トが割り当てられているかを確認します。トラップ設定を一度にブック全体に割り当てることはできません。しかし、ドキュメント内の矛盾するトラッププリセットを解決することができます。

1. 必要に応じて、ドキュメントおよび印刷状況に適したカスタム設定でトラッププリセットを作成します。
2. トラッププリセットをページ範囲に割り当てます。
3. ファイル／プリントを選択して、プリントダイアログボックスを表示します。
4. 左側のリストから「色分解」を選択します。
5. カラーポップアップメニューから「色分解（InDesign）」または「色分解（In-RIP）」を状況に応じて選択します。
6. 「トラップ」セクションで、次のいずれかを選択します。
   - 「InDesign 側でのトラップ」。このオプションでは、InDesign 組み込みトラップエンジンが使用されます。
   - 「Adobe In-RIP」。このオプションは、Adobe In-RIP トラップをサポートしている出力デバイスのみを対象としています。
7. 印刷・出力会社からインキ設定の変更を推奨された場合は、「インキ管理」を選択します。インキを選択し、印刷・出力会社から指定されたオプションを設定して、「OK」をクリックします。
8. 他の印刷オプションを指定し、「プリント」をクリックしてドキュメントを印刷します。

関連項目

(cc) BY-NC-SR

法律上の注意 | プライバシーポリシー

サムネールと用紙サイズより大きいドキュメントのプリント

サムネールのプリント
用紙サイズより大きいドキュメントのプリント
ドキュメントのタイル
ドキュメントの拡大 / 縮小

ページの先頭へ

サムネールのプリント

1 枚の用紙に複数のページを配置するには、ドキュメントの縮小版であるサムネールを作成します。サムネールは、ページの構成と内容を確認するのに便利です。用紙にページが最も適切に収まるように、用紙方向が自動的に調整されます。「サムネール」オプションを選択しないときは、元の方向に調整し直す必要があります。

注意： サムネールをプリントすると、トンボと、裁ち落としと印刷可能領域にあるすべての情報は除外されます。

1. プリントダイアログボックスの「設定」セクションで、「サムネール」を選択します。
2. メニューから用紙 1 枚に含めるサムネール数を選択します。

ページの先頭へ

用紙サイズより大きいドキュメントのプリント

InDesign では、最大 548.64 × 548.64 センチまでのドキュメントを作成することができますが、ほとんどのデスクトッププリンターでは、このような大きなページをプリントすることはできません。

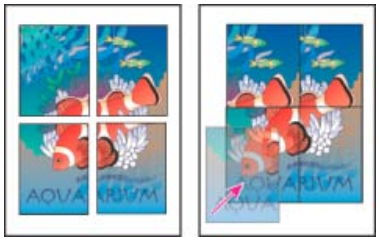
用紙サイズより大きいドキュメントをデスクトッププリンターでプリントするには、ドキュメントの各ページをタイルに分解してプリントし、このタイルをトリミングして組み合わせます。使用する用紙サイズに合わせて、ドキュメントを拡大 / 縮小することもできます。

ページの先頭へ

ドキュメントのタイル

ドキュメントのサイズは、必ずしもプリンターで使用する用紙サイズに合わせる必要はありません。ドキュメントを、プリンターで使用可能な用紙サイズに合わせて、タイルに分割してプリントすることができます。その後、重なる部分を組み合わせます。

InDesign では、自動的にタイル印刷することも、自分で指定することもできます。タイル印刷を手動で行うと、タイルの左上隅の起点を設定することができるので、ページが用紙のどの部分に相当するのかを決定できます。



プリント可能なタイルに分割された用紙サイズよりも大きいページ（左）と重なる部分を最終的に組み合わせたもの（右）

自動的なドキュメントのタイル

1. ファイル／プリントを選択します。

2. プリントダイアログボックスの「設定」セクションで、「タイル」を選択します。
3. 「タイル」から、次のいずれかのオプションを選択します。

   自動　重なりを含む必要なタイル数が自動的に計算されます。

   自動揃え　右端にあるタイルの右側がドキュメントページの右端に揃うように、また、一番下にあるタイルの下側がドキュメントページの下側に揃うように、（必要に応じて）重なりの領域が広くなります。
4. 「オーバーラップ」で、組み合わせしやすいように、タイルの重なりの最小値を入力します。「オーバーラップ」は、ドキュメントで指定されている単位を使用します。値は、プリンターのプリントしないマージンの最小値より大きくします。ドキュメントページの短辺の半分までの値をオーバーラップとして指定することができます。例えば、大きさが 279.4 × 0.8mm のドキュメントの場合、タイルの重なりとして 139.7 mm まで指定することができます。

手動でのドキュメントのタイル

ドキュメントを自動的にタイルするとすべてのタイルが一度にプリントされますが、ドキュメントを手動でタイルする場合は、各タイルを個別にプリントする必要があります。

1. ドキュメント上に定規が表示されていない場合は、表示／定規を表示を選択して、定規を表示します。
2. ドキュメントの左上にある水平定規と垂直定規の交差する点をドラッグして、プリントするタイルの左上隅にする位置に原点を移動します。このとき、重なりとトンボ用に余裕を持たせておきます。

   InDesign でタイル印刷される領域のサイズと形状は、現在の用紙のサイズと方向によって決まります。
3. ファイル／プリントを選択して、左側のセクションから「設定」をクリックします。
4. 「設定」セクションで「タイル」を選択し、タイルメニューから「手動」を選択します。

ページの先頭へ

ドキュメントの拡大 / 縮小

用紙サイズより大きいドキュメントを用紙サイズに合わせてプリントするには、ドキュメントの幅と高さを拡大 / 縮小します。例えば、フレキソ印刷用にフィルムをプリントする場合に、非対称的に拡大 / 縮小すると便利です。印刷ドラムに装着されるプレートの方向がわかっている場合は、プレートが 2 %〜 3 %拡大する現象を、拡大 / 縮小で補正できます。ここでの拡大 / 縮小の設定は、作成したドキュメント自体のページサイズには影響しません。

注意： 縦横の比率を変更してプリントする場合は、幅と高さが個別に拡大 / 縮小されます。

手動でのドキュメントの拡大 / 縮小

1. ファイル／プリントを選択します。
2. プリントダイアログボックスの「設定」セクションで、「拡大 / 縮小」にある「幅」オプションを選択し、「幅」と「高さ」テキストボックスを使用可能にします。
3. 現在のドキュメントの縦横の比率を維持する場合は、「縦横の比率を固定」を選択します。縦横の比率を維持しない場合は、このオプションが選択されていないことを確認します。
4. 「幅」と「高さ」テキストボックスに、1 〜 1000 %の範囲で値を入力します。「縦横の比率を固定」を選択している場合は、片方の値を入力すれば、もう一方の値も自動的に更新されます。

自動でのドキュメントの拡大 / 縮小

1. プリントダイアログボックスの「設定」セクションで、「サムネール」と「タイル」の選択を解除します。これらのオプションが選択されていると、「幅に合わせる」は使用できません。
2. 「幅に合わせる」を選択します。「幅に合わせる」オプションの横に、選択した PPD で定義されているプリント可能領域によって自動的に

計算される拡大 / 縮小率が表示されます。

関連項目

Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

グラフィックとフォントのプリント

グラフィックのプリントのオプション
フォントをプリンターにダウンロードするためのオプション
PostScript プリントのオプション
グラフィック省略オプション

グラフィックのプリントのオプション

トップへ戻る

プリントダイアログボックスの「グラフィック」セクションで以下のオプションを選択し、グラフィックのプリント方法を指定します。

解像度 プリンターまたはファイルに送るビットマップ画像データの品質を制御します。
すべて 最高解像度のデータをプリンターまたはファイルに送ります。高解像度のプリントや、特色を含む黒と白のテキストのようなコントラストの強いグレースケールまたはカラー画像のプリントに適しています。このオプションは、最も多くのディスク容量を必要とします。
サブサンプリングを最適化する 出力デバイスに最適の解像度でグラフィックをプリントするのに十分な画像データを送ります。高解像度プリンターでは、低解像度のデスクトップモデルよりも多くのデータを使用します。高解像度の画像をデスクトッププリンターで校正刷りする場合は、このオプションを選択します。
注意： 「サブサンプリングを最適化する」を選択している場合でも、EPS グラフィックまたは PDF グラフィックはサブサンプリングされません。
プロキシ 配置したビットマップ画像の画面表示での解像度（72 dpi）のデータが送信されるので、プリント時間が短縮されます。
なし プリント時に一時的にすべてのグラフィックを消去し、グラフィックを横棒の付いたグラフィックフレームに置き換えて、プリント時間を短縮します。このグラフィックフレームは読み込んだグラフィックと同じサイズであり、クリッピングパスはそのままであるので、サイズと位置を確認することができます。読み込んだグラフィックをプリントしないでおくと、編集者や校正者にテキストの校正刷りを配布する際に便利です。グラフィックなしでプリントすると、プリント上の問題の原因を究明する際にも役立ちます。

フォントをプリンターにダウンロードするためのオプション

トップへ戻る

プリンター内蔵フォントとは、プリンターのメモリまたはプリンターに接続されたハードディスクに保存されているフォントです。PostScript フォント（Type 1）と TrueType フォントは、プリンターまたはコンピューターのどちらにも保存することができます（ビットマップフォントはコンピューターにだけ保存できます）。フォントがコンピューターのハードディスクにインストールされている場合は、InDesign によって必要なフォントがダウンロードされます。

プリントダイアログボックスの「グラフィック」セクションには、プリンターにフォントをダウンロードする方法を制御するための次のオプションがあります。

なし PostScript ファイルに記述されているフォントへの参照だけが、RIP やポストプロセッサーに通知されます。このオプションは、プリンターにフォントが内蔵されている場合に適しています。ただし、フォントを正しくプリントするには、「サブセット」や「PPD フォントをダウンロード」など、フォントをダウンロードするための他のオプションを 1 つ選択してください。
完全 プリントジョブの最初に、ドキュメントで必要なすべてのフォントがダウンロードされます。ドキュメントで使用されていないものも含めて、フォントのすべての字形と文字が組み込まれます。環境設定ダイアログボックスで指定されている字形（文字）の最大数より多いフォントが InDesign で自動的にサブセットされます。
サブセット ドキュメントで使用されている文字（字形）だけがダウンロードされます。字形は各ページにダウンロードされます。このオプションを、1 ページのドキュメントまたはほとんどテキストのない短いドキュメントで使用すると、処理が速くなり、PostScript ファイルのサイズが小さくなります。
PPD フォントをダウンロード ドキュメントで使用されているフォントがプリンターに内蔵されている場合でも、すべてのフォントがダウンロードされます。このオプションを使用すると、コンピューター上にある Helvetica や Times など、常用フォントのアウトラインがプリントで確実に使用されます。このオプションによって、コンピューターとプリンター間の文字セットの不一致、またはトラップにおけるアウトラインの不一致など、フォントのバージョンの不整合による問題を解決することができます。拡張文字セットを常用している場合を除き、デスクトッププリンターで校正刷りする場合には、このオプションを使用する必要はありません。

PostScript プリントのオプション

トップへ戻る

プリントダイアログボックスの「グラフィック」セクションにある以下のオプションで、PostScript 情報をプリンターに送信する方法を選択します。

PostScript(R) PostScript 出力デバイスのインタープリターとの互換性レベルを指定します。
データ形式 コンピューターからプリンターに送信される画像データのエンコード方式を指定します。「ASCII」を選択すると、ASCII テキストとして送信されます。ASCII は、古いネットワークやパラレル接続のプリンターと互換性があり、複数のプラットフォームでグラフィックを使用するときに適しています。「バイナリ」を選択すると、バイナリコードとして書き出されます。ASCII よりコンパクトですが、すべてのシステムに

対して互換性があるわけではありません。
注意： InDesign では、EPS または DCS グラフィックファイルで使用されているデータ形式を常に変更できるわけではありません。データをバイナリで送信した場合に問題がある場合は、EPS または DCS グラフィックのデータ形式を作成元のアプリケーションで変更してみてください。

トップへ戻る

グラフィック省略オプション

「詳細」セクションにある「OPI」オプションを使用すると、画像データをプリンターやファイルに送信するときに、OPI サーバーでの後処理用に OPI リンク（コメント）だけを残して、読み込んだ画像を選択して除外することができます。

OPI 画像を置換 出力時に低解像度の EPS プロキシ画像を高解像度画像に置き換えます。OPI 画像を置き換えるためには、低解像度プロキシ画像を高解像度にリンクするための OPI コメントが EPS ファイルに含まれていることが必要です。OPI コメントでリンクされた画像に InDesign でアクセスできることが必要です。高解像度のバージョンが使用できない場合は、OPI リンクを保持して、書き出したファイルに低解像度プロキシを含めます。以降のワークフローにおいて、OPI サーバーで OPI リンク画像を置換するようにするには、このオプションの選択を解除します。

OPI を無視 画像データをプリンターやファイルに送るときに、OPI サーバーでの後処理用に OPI リンク（コメント）だけを残して、指定した形式と異なる読み込み画像（EPS、PDF、ビットマップ画像）をプリント時に除外します。コメントは、OPI サーバーで高解像度画像の保存場所を特定するのに必要な情報を含んでいます。InDesign はコメントを含んでいるだけなので、印刷・出力会社は置換時にサーバー上にある元の高解像度画像にアクセスする必要があります。このオプションは、埋め込まれた画像には適用されません。

関連項目

(cc) BY-NC-SR

法律上の注意 | プライバシーポリシー

オーバープリント

オーバープリントについて
オーバープリントを手動で使用するかどうかの判別
ページアイテムのオーバープリント
黒のオーバープリント設定の変更

ページの先頭へ

オーバープリントについて

透明パネルでアートワークの透明度を変更していない場合、アートワークの塗りと線は不透明色で表示されます。この場合、一番上にあるカラーによってその下の部分が抜き合わせ（ノックアウト）になり、下のオブジェクトのカラーは印刷されません。抜き合わせにせずに、上のカラーを重ねて印刷するには、プリント属性パネルのオーバープリントのオプションを使用します。オーバープリントのオプションを設定した後、カラーの重なりをデスクトップ上でプレビューすることができます。



オーバープリントを使用していない *3* つの重なり合った円（左）とオーバープリントを使用した円（右）

InDesign には、特色インキとプロセスインキのオーバープリントの効果をコンポジット出力機器でシミュレートできる便利な機能があります。

テキストや InDesign で作成したオブジェクトに適用されたブラックインキは、デフォルトでオーバープリントが設定され、カラー領域の上または黒線で縁取られたカラー領域の中に配置されている小さな黒い文字の版ズレを防ぎます。「黒の表示方法」を使用して、ブラックインキの設定を変更できます。

デザインワークフローによっては、特定のカラーをオーバープリントに設定することが必要になる場合があります。例えば、パブリケーションのすべてのテキストを特定のカラーで印刷するような場合です。以下のオプションを検討してください。

- 特色インキを使用するオブジェクトスタイルを、一致するオーバープリントの塗りまたは線のある塗りまたは線として作成します。
- 特色を含むオブジェクトに対する別のレイヤーを作成し、オブジェクトを黒に割り当てます。
- 合成 PDF を作成し、PDF 内でオーバープリントの設定を変更します。
- RIP 内でオーバープリントの設定を割り当てます。
- オーバープリントの設定を画像またはオブジェクトに適用してそれをライブラリに追加するか、または配置されるファイルを元のアプリケーションで編集します。

ページの先頭へ

オーバープリントを手動で使用するかどうかの判別

InDesign 組み込みトラップや Adobe In-RIP トラップなど、InDesign の自動トラッピングでは、手動でオーバープリントを設定する必要はほとんどありません。しかし、手動のオーバープリントは、まれに自動トラッピングが使用できない場合、効率よく問題を解決することができます。

オーバープリントを使用するかどうかを決めるには、次のガイドラインを参考にしてください。

- 出力に使用する機器が手動オーバープリントをサポートしているかどうかを印刷・出力会社に問い合わせます。
- 特色インキを使用し、トラップ効果やオーバーレイ効果を出したい場合は、オーバープリントにします。異なるプロセスカラーや特色インキを使用している特色カラーをオーバープリントすると、前面のカラーが背面のカラーに重ね合わされます。例えば、100 %のシアンの塗りつぶしに、マゼンタ 100 %の塗りつぶしをオーバープリントすると、重なり合った部分はマゼンタではなく紫色になります。
- 線を使用して 2 色のプロセスカラーをトラップする場合は、オーバープリントの必要はありません。オーバープリントする代わりに、元のカラーに対応するインキよりも大きい値を使用する CMYK 値で、線のカラーを指定します。
- 手動オーバープリントをどの段階で、どのような方法で行うかは、プリントダイアログボックスで指定したトラップオプションに大きな影響

を与えることになりますので、必ず印刷・出力会社と相談してください。一部を除き、PostScript レベル 2 および PostScript 3 対応のデバイスでは、オーバープリントをサポートしています。

ページの先頭へ

ページアイテムのオーバープリント

線または塗り、段落境界線、脚注の上の境界線をオーバープリントできます。また、特色のオーバープリント処理を行うこともできます。

線または塗りのオーバープリント

選択した任意のパスの線または塗りに対して、プリント属性パネルを使用してオーバープリントの設定をすることができます。オーバープリントを設定した線または塗りは、隣接するカラーの間に隙間ができたとしても、オーバープリントによってカバーされるので、トラップの必要がありません。また、線をオーバープリントしてトラップ代わりに使うこともできます（2 色の隣接するプロセスカラーの CMYK 値を手作業で計算したカラーを線に設定してオーバープリントします）。

手動でオーバープリントを適用する際には、次の点に注意してください。

- 黒 100 %が設定されている線や塗りに「塗りオーバープリント」オプションを設定しても、ブラックインキだけでは、下地の色を完全に隠すには、濃度が足りない可能性があります。これを防ぐには、黒 100 %の代わりに 4 色指定のブラック（リッチブラック）を使用します。黒へ追加する各カラーの濃度については、印刷・出力会社と相談してください。
- 文字以外のオブジェクトに対するトラップのために線を使用する場合、線幅がパスの内側や中央でなく、パスまたはオブジェクトの外側に整列するように調整します。
- 2 色の特色または特色とプロセスカラーを線を使用して 1 色ずつトラップするには、通常は明るい方のカラーを線に適用して、線をオーバープリントします。

  分版パネルを使用して、色がどのようにオーバープリントされるかをプレビューします。

1. 選択ツールまたはダイレクト選択ツールを使用してパスを 1 つ以上選択するか、または文字ツールを使用して文字を選択します。フレームの内部にあるパスの線をオーバープリントするには、最初にダイレクト選択ツールを使って内部のパスを選択します。

   塗りと線のオーバープリント

   A. シアン（最下層） ***B.*** マゼンタ（中間層） ***C.*** イエロー（最上層）

2. ウィンドウ／出力／プリント属性を選択します。
3. プリント属性パネルで、次のいずれか、または両方の操作を実行します。
   - 選択したオブジェクトの塗りをオーバープリントしたり、ストロークフォントではない文字をオーバープリントするには、「塗りオーバープリント」を選択します。
   - 選択したオブジェクトの線をオーバープリントするには、「線オーバープリント」を選択します。
   - 点線またはパターン線など線の間隔に適用した色をオーバープリントするには「間隔オーバープリント」を選択します。

段落境界線のオーバープリント

1. オーバープリントに使用するカラースウォッチを確認します。
2. 文字ツールを使用して、段落内でテキスト挿入点をクリックします。
3. 段落パネルの段落パネルメニューから「段落境界線」を選択します。
4. ダイアログボックスの一番上にあるポップアップメニューから、オーバープリントする段落境界線を選択し、「境界線を挿入」を選択します。
5. 次のいずれかを選択して、「OK」をクリックします。
   - 境界線をオーバープリントするには、「線オーバープリント」を選択します。

- 点線またはパターン線など線の間隔に適用した色をオーバープリントするには「間隔オーバープリント」を選択します。

注意： 段落境界線ダイアログボックスの「線オーバープリント」オプションおよび「間隔オーバープリント」オプションは、段落スタイルの一部として保存されます。

脚注上の境界線のオーバープリント

InDesign は、自動的に境界線を挿入して、ドキュメントの本文と脚注を分けることができます。境界線のオーバープリントを選択できます。

1. オーバープリントに使用するカラースウォッチを確認します。
2. 書式／脚注オプションを選択します。
3. 脚注オプションダイアログボックスで、「レイアウト」タブをクリックします。
4. 「線オーバープリント」を選択して、「OK」をクリックします。

特色のオーバープリントのシミュレート

オーバープリントのシミュレーションは、ND 値が異なる特色（例えば、赤と青）をオーバープリントする際の効果のシミュレーションに便利です。オーバープリントのシミュレーションを使って、コンポジット出力機器で印刷すると、オーバープリントやノックアウトがどのようにカラーに設定されているかを実際に目で確認することができます。

1. プリントダイアログボックスの色分解領域で、カラーポップアップメニューからコンポジットオプションを選択します。

   注意： 「コンポジットの変更なし」を選択している場合、「オーバープリント処理」は選択することができません。

2. 「オーバープリント処理」を選択します。

ページの先頭へ

黒のオーバープリント設定の変更

InDesign で黒いオブジェクトを型抜き（抜き合わせ）するには、黒いスウォッチがオーバープリントされないようにする必要があります。デフォルトで型抜きされるほとんどのカラースウォッチとは異なり、黒い線、塗り、テキスト文字などの黒いスウォッチは、デフォルトでオーバープリントされます。100 %のプロセスブラックは、スウォッチパネルでは「黒」と表示されます。環境設定でオーバープリントのデフォルトの選択を解除するか、またはデフォルトの黒いスウォッチを複製し、複製したスウォッチを型抜きするオブジェクトに適用することで、黒いオブジェクトを抜き合わせにします。環境設定ダイアログボックスのオーバープリント設定を使用不可にすると、すべての黒が抜き合わせになります（黒の下にある色は印刷されません）。

印刷会社での印刷時にプロセスカラーの黒をオーバープリントすることは、トラッピングをする場合よりも簡単です。

1. 編集／環境設定／黒の表示方法（Windows）、または InDesign／環境設定／黒の表示方法（Mac OS）を選択します。
2. 「[黒] スウォッチを 100 %でオーバープリント」を選択または選択解除します。

注意： 「*[黒] スウォッチを 100 %でオーバープリント*」は、*[黒]* の濃度、名称未設定の黒カラー、透明設定や透明スタイルにより黒く表示されているオブジェクトには影響しません。これは、*[黒]* スウォッチで色付けされたオブジェクトやテキストにのみ影響します。

関連項目

- CMYK ブラックのアピアランスの変更（Illustrator、InDesign）

(cc) BY-NC-SA Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

カラーマネジメント

プリント時のカラーマネジメントの使用
コンポジット用のカラー出力オプション
校正刷りの印刷
プリントのグラデーションとカラーブレンドの質の向上
ハーフトーンドットとプリンタードット

詳しい情報と手順については、以下のリンクをクリックしてください。

トップへ戻る

プリント時のカラーマネジメントの使用

カラーマネジメントされたドキュメントをプリントするとき、プリンター出力時におけるカラーの一貫性のために、追加のカラーマネジメントオプションを指定することができます。例えば、プリプレス出力機器用に調整されているプロファイルを含むドキュメントを使用して、デスクトッププリンターでカラー校正を行います。プリントダイアログボックスで、ドキュメントのカラーをデスクトッププリンターのカラースペースに変換することができます。この変換を行うと、現在のドキュメントプロファイルの代わりにプリンタープロファイルが使用されます。カラースペースとして「校正」オプションを選択し、RGB プリンターをターゲットにした場合、InDesign では、選択したカラープロファイルを使用してカラーデータを RGB 値に変換します。

PostScript プリンターにプリントする場合は、PostScript カラーマネジメントも使用できます。この場合、InDesign ではドキュメントのオリジナルのカラースペースをキャリブレーションしたカラーデータを、ドキュメントプロファイルと共に、直接 PostScript プリンターに送信し、プリンターでドキュメントのカラーをプリンターのカラースペースに変換できるようにします。プリンターのカラースペースはカラーレンダリング辞書（CRD）として出力デバイスに格納されます。これにより、出力デバイスに依存しない出力が可能になります。CRD は、CMS 色分解出力プロファイルに相当する PostScript です。ただし、同じカラー変換を行った場合でも、プリンターごとに結果が異なる場合があります。PostScript カラーマネジメントを行うには、PostScript レベル 2 以降のプリンターが必要です。ただし、システム上のプリンターに ICC プロファイルをインストールする必要はありません。

注意： カラーマネジメントされたドキュメントに対して作業を行うときは、カラーが指定したガイドラインに従っていることをプリフライトパネルを使用して確認できます。

1. 使用するプリンターに対応したドライバーと PPD をインストールしていることを確認します。
2. ファイル／プリントを選択します。
3. 使用する設定がプリントプリセットにある場合は、プリントダイアログボックスの上部にあるプリントプリセットメニューで選択します。
4. 必要に応じて、ドキュメントの設定を調整します。
5. プリントダイアログボックスの左側のリストで「カラーマネジメント」をクリックします。
6. 「プリント」で「ドキュメント」を選択します。
7. 「カラーの処理」で「InDesign でカラーを決定」を選択します。
8. 「プリンタープロファイル」で出力デバイスのプロファイルを選択します。

   出力デバイスの動作とプリント条件（用紙の種類など）をプロファイルで正確に指定すると、カラーマネジメントシステムでドキュメントの実際のカラー値が正確に変換されます。

9. 「RGB カラー値を保持」または「CMYK カラー値を保持」を選択します。

   このオプションにより、読み込んだ画像にプロファイルが埋め込まれていない場合などに、カラープロファイルが関連付けられていないカラーを処理する方法が決まります。このオプションを選択すると、カラー値が直接出力デバイスに送られます。このオプションを選択しない場合は、最初に、カラー値が出力デバイスのカラースペースに変換されます。

   CMYK ワークフローに従っている場合は、番号を保持することが推奨されます。RGB ドキュメントをプリントする場合は、番号を保持することは推奨されません。

10. 「セットアップ」（Windows）または「プリンター」（Mac OS）を押して、プリンタードライバーのダイアログボックスを表示します。
11. プリンターのカラーマネジメントをオフにし、「プリント」をクリックして、InDesign のプリントダイアログボックスに戻ります。

    各プリンタードライバーでカラーマネジメントのオプションは異なります。カラーマネジメントをオフにする方法がわからない場合は、プリンターのマニュアルを参照してください。

12. 「プリント」ボタンをクリックします。

トップへ戻る

コンポジット用のカラー出力オプション

プリントダイアログボックスの「色分解」セクションでは、ドキュメントのコンポジットカラーがどのようにプリンターに送信されるかを設定することができます。カラーマネジメントが使用可能であるとき（デフォルト）、「カラー設定」のデフォルトでは、キャリブレーションされたカ

ラーで出力されます。特色の情報は、カラー変換の間は保持されます。ただし、プロセスカラーに相当するカラーだけは、指定されたカラースペースに変換されます。どのカラーを使用するか不確かな場合は、出力・出版会社に相談してください。

コンポジットカラーモードは、ラスター画像、および InDesign で作成されたオブジェクトにのみ作用します。配置したグラフィック（EPS ファイルや Adobe PDF ファイルなど）には、透明オブジェクトと重ならない限り、作用しません。

コンポジットプリントについて詳しくは、www.adobe.com/go/print_resource_jp にある Adobe Print Resource Center を参照してください。

注意： 非 PostScript プリントで使用可能なオプションは、プリンターで使用するカラーモデル（通常は RGB）に依存します。

コンポジットとしてプリントする場合、自動トラップは使用できなくなります。ただし、「オーバープリント処理」オプションを選択して、文字、線、または塗りのオーバープリントを校正することができます。

プリントダイアログボックスの「色分解」セクションには、以下のカラーオプションがあります。プリンターによっては、その他のオプションを使用できる場合もあります。

コンポジットの変更なし 元のドキュメントのすべてのカラー値を維持して、指定したページのフルカラーのデータをプリンターに送信します。このオプションが選択されていると、「オーバープリント処理」は使用不可になります。

コンポジットグレー 指定したページのグレースケールのデータをプリンターに送信します。例えば、色分解せずにモノクロプリンターでプリントする場合などに使用します。

コンポジット **RGB** 指定したページのフルカラーのデータをプリンターに送信します。例えば、色分解せずに RGB カラープリンターでプリントする場合などに使用します。

コンポジット **CMYK** 指定したページのフルカラーのデータをプリンターに送信します。例えば、色分解せずに CMYK カラープリンターでプリントする場合に使用します。このオプションは PostScript プリンターでのみ使用できます。

色分解 ドキュメントに必要な色分解ごとに PostScript 情報を作成し、その情報を出力デバイスに送ります。このオプションは PostScript プリンターでのみ使用できます。

In-RIP 色分解 色分解情報を出力デバイスの RIP に送ります。このオプションは PostScript プリンターでのみ使用できます。

テキストを黒 このオプションを選択すると、InDesign で作成されたテキストのカラーが「なし」または「紙色」であるか、あるいはカラー値が白ではないテキストを、すべて黒で印刷します。このオプションは、プリントと PDF 配布の両方を行う場合に便利です。例えば、PDF でハイパーリンクのテキストが青の場合、グレースケールプリンターでは、それらのテキストを、読みづらいハーフトーンパターンではなく、黒で印刷することができます。

トップへ戻る

校正刷りの印刷

校正刷り（ゲラ刷りともいいます）は、印刷機で印刷した最終出力を擬似的に表します。校正刷りは、印刷機よりも安価な出力デバイスで生成されます。最近では、インクジェットプリンターにも、校正刷りとして使用できる安価なプリントを作成するために必要な解像度を備えたものがあります。

1. 表示／校正設定／カスタムを選択します。
2. 校正条件のカスタマイズダイアログボックスでシミュレートするデバイスを選択し、「OK」をクリックします。
3. 「RGB カラー値を保持」または「CMYK カラー値を保持」を選択し、「OK」をクリックします。

   このオプションにより、読み込んだ画像にプロファイルが埋め込まれていない場合などに、カラープロファイルが関連付けられていないカラーを処理する方法が決まります。このオプションを選択すると、カラー値が直接出力デバイスに送られます。このオプションを選択しない場合は、最初に、カラー値が出力デバイスのカラースペースに変換されます。

   CMYK ワークフローに従っている場合は、番号を保持することが推奨されます。RGB ドキュメントをプリントする場合は、番号を保持することは推奨されません。
4. ファイル／プリントを選択します。
5. 使用する設定がプリントプリセットにある場合は、プリントダイアログボックスの上部にあるプリントプリセットメニューで選択します。
6. 必要に応じて、ドキュメントの設定を調整します。
7. プリントダイアログボックスの左側のリストで「カラーマネジメント」をクリックします。
8. 「プリント」で「校正」を選択します。プロファイルが、指定した校正設定と一致します。
9. 「カラーの処理」で「InDesign でカラーを決定」を選択します。
10. 「紙色をシミュレート」を選択して、ドキュメントのプロファイルの定義に従って、プリント用紙で表されるホワイトの固有シェードをシミュレートします（「絶対的な色域を維持」レンダリングインテント）。一部のプロファイルでは、このオプションは使用できません。
11. 「セットアップ」（Windows）または「プリンター」（Mac OS）を押して、プリンタードライバーのダイアログボックスを表示します。
12. プリンターのカラーマネジメントをオフにし、「プリント」をクリックして、InDesign のプリントダイアログボックスに戻ります。

    各プリンタードライバーでカラーマネジメントのオプションは異なります。カラーマネジメントをオフにする方法がわからない場合は、プリンターのマニュアルを参照してください。
13. 「プリント」ボタンをクリックします。

トップへ戻る

プリントのグラデーションとカラーブレンドの質の向上

PostScript 2 と PostScript 3 対応の出力デバイスでは、256 までのグレー階調をプリントすることができます。大半の PostScript デスクトップレー

ザープリンターは、出力デバイスの解像度、指定されたスクリーン線数、およびハーフトーンの方法に応じて、約 32 ～ 64 階調まで対応できます。使用可能な各シェードが個々の各シェードを識別できるほど広範囲になっているときに、バンディングが生じます。また、差が 50 %未満の 2 種類のパーセント値を使用してグラデーションを指定する場合、バンディングを起こしやすい狭い範囲のシェードを指定していることになります。バンディングを起こさない滑らかなグラデーションをプリントすることが難しい場合は、次の方法を試してみてください。

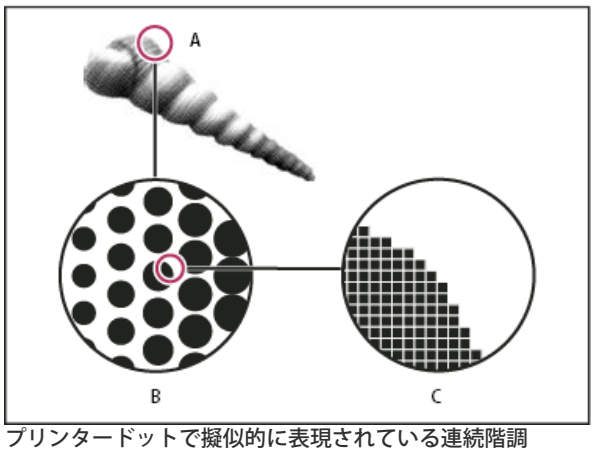
- 2 種類以上のプロセスカラー間で、最低 50 %変化するグラデーションを使用します。
- さらに明るいカラーを指定するか、暗いグラデーションの長さを短くします。バンディングは、非常に暗いカラーとホワイトとの間で起こりやすい現象です。
- グラデーションの変化率を大きくします。
- ドキュメントのスクリーン線数を少なくします（PostScript 出力デバイスのみ）。
- Adobe Illustrator® ファイルなど、読み込んだグラフィックでバンディングが発生する場合、元のグラフィックの調整が必要になる場合があります。
- PostScript® 3 対応の出力デバイスでプリントします。これらの出力デバイスでは、滑らかなグラデーションを再現することができます。
- 短いグラデーションを使用します。最適な長さはグラデーション内のカラーによって決まりますが、19.05 センチ（7.5 インチ）以下にします。

トップへ戻る

ハーフトーンドットとプリンタードット

大半のプリンターは、グリッドにプリントされたハーフトーンドットを使用してグレー諧調を表現します。グリッドのセルはハーフトーンドット、グリッドの行は行、グリッドの列はスクリーン線数と呼ばれます。それぞれのハーフトーンドットは、プリンタードットから構成されています。ハーフトーンセルはプリンタードットで埋められているので、ハーフトーンドットが大きくなるほど、グレーのシェードは濃くなります。

ハーフトーンドットを構成するのに使用可能なドットの個数は、プリンターの解像度によって決まります。ドットが小さいプリンターほど、様々なハーフトーンドットのサイズを実現でき、グレー階調の数が豊富になります。スクリーン線数には次の役割もあります。線数が増えると、ハーフトーンセルが小さくなり、その中に収まるプリンタードットも少なくなるので、グレー階調の数が少なくなります。結論として、グレー階調の数と画像の粗さは、相反しています。



プリンタードットで擬似的に表現されている連続階調
A. スクリーン線数により擬似的に表現されている連続階調 **B.** 列状のハーフトーンドットで構成されるスクリーン線数 **C.** プリンタードットで構成されるハーフトーンドット

関連項目

カラーマネジメント
カラープロファイルの操作
Adobe Print Resource Center
読み込んだ画像のカラーマネジメント

(cc) BY-NC-SR

法律上の注意 | プライバシーポリシー

インキ、色分解、スクリーン線数

インキ管理の概要
分版するカラーの指定
特色をプロセスカラーに分解
特色のインキエイリアスの作成
Lab 値を使用した特色の表示または出力
ハーフトーンスクリーン線数について
スクリーン線数と解像度の指定
膜面および画像のネガ・ポジについて
膜面の設定
ネガまたはポジの設定
色分解とドキュメント設定のチェック
色分解の校正
In-RIP 色分解出力の準備
色分解出力の印刷または保存

ページの先頭へ

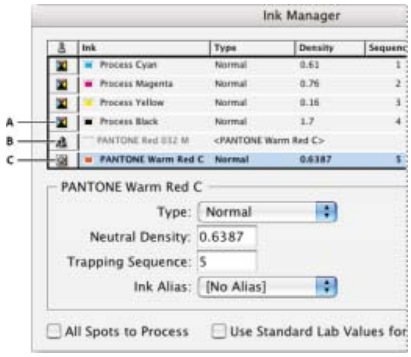
インキ管理の概要

インキ管理を使用して出力時のインキをコントロールすることができます。 インキ管理による変更は出力に影響するものであり、ドキュメント上でカラーを定義するものではありません。

インキ管理のオプションは、特に印刷・出力会社に便利な機能です。 例えば、印刷工程に特色が含まれている場合、印刷・出力会社はドキュメントを開いて、特色を CMYK プロセスカラーに変換することができます。 ドキュメントに類似する特色が 2 色あり、その一方のみが必要な場合や、同じ特色に 2 つの異なる名前が付いている場合は、これら 2 つの色を 1 つの特色インキに割り当てることもできます。

トラップの処理の作業では、インキ管理を使用して、トラップを配置するときのインキの ND 値と、インキの出力順を設定することができます。

注意： *InDesign* と *Acrobat* では同じインキ管理テクノロジーを使用します。 ただし、「特色に標準 *Lab* 値を使用」オプションがあるのは *InDesign* のみです。



インキ管理

A. プロセスインキ ***B.*** エイリアス特色インキ ***C.*** 特色インキ

インキ管理を開く

次のいずれかの操作を行います。

- 分版パネルメニュー（ウィンドウ／出力／分版）から「インキ管理」を選択します。
- ファイル／印刷を選択して、「出力」をクリックします。 「出力」セクションで「インキ管理」をクリックします。

ページの先頭へ

分版するカラーの指定

各色版には、InDesign で割り当てられたカラー名が表示されます。インキのカラー名称の横にプリンターのアイコンが表示されている場合は、そのカラーの色分解が行われます。特色（割り付けた PDF ファイルや EPS グラフィックで使われている特色も含む）もインキリストに表示されます。

1. プリントダイアログボックスの色分解領域のカラーポップアップメニューから「色分解（InDesign）」を選択するか、In-RIP での色分解をサポートしている RIPの PPD ファイル使用している場合は「色分解（In-RIP）」を選択します。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - インキリストのインキ名の左側に、プリンターのアイコンが表示されているかどうかを確認してください。
   - インキリスト名の左側にあるプリンターのアイコンをクリックして、色版を作成しないインキを選択してください。プリンターのアイコンが非表示になります。

ページの先頭へ

特色をプロセスカラーに分解

インキ管理を使用すると、特色をプロセスカラーに変換できます。 特色をプロセスカラーに変換すると、1 枚の色版ではなく、プロセスカラーに色分解されます。 特色の変換は、プロセスカラーのドキュメントに誤って特色を追加してしまった場合や、実際には印刷できない多数の特色がドキュメントに含まれている場合に役に立ちます。

1. インキ管理で、次のいずれかを実行します。
   - 個々の特色を分解するには、特色またはエイリアス特色の左側にある、インキの種類を示すアイコンをクリックします。 プロセスカラーアイコンが表示されます。 元の特色に戻すには、そのアイコンを再度クリックします。
   - すべての特色を分解するには、「すべての特色をプロセスカラーへ」を選択します。特色の左側にあるアイコンが、プロセスカラーアイコンに変化します。 特色を戻すには、「すべての特色をプロセスカラーへ」の選択を解除します。

   注意： 「すべての特色をプロセスカラーへ」を選択すると、インキ管理で設定したインキエイリアスもすべて削除され、プロセスカラーに変換されるので、ドキュメントで設定したオーバープリントとトラップにも影響する可能性があります。
2. （InDesign のみ）CMYK 定義でなく特色の Lab 値を使用するには、「特色に標準 Lab 値を使用」オプションを使用します。

ページの先頭へ

特色のインキエイリアスの作成

エイリアスを作成すると、ある特色を別の特色またはプロセスカラーに割り当てることができます。 エイリアスは、ドキュメントに類似する特色が 2 色あり、その一方のみが必要な場合、またはドキュメントに多くの特色が含まれている場合に役立ちます。 インキエイリアスの結果は印刷結果で確認できます。また、「オーバープリントプレビュー」モードを実行し、モニター上に表示して確認することもできます。

1. インキ管理ダイアログボックスで、エイリアスを作成する特色インキを選択します。
2. インキエイリアスメニューからエイリアスに使用するカラーを選択します。 インキの種類を示すアイコンとインキが変更されます。

ページの先頭へ

Lab 値を使用した特色の表示または出力

TOYO、PANTONE、DIC、HKS ライブラリのカラーなど、組み込みの特色には Lab 値を使用して定義されたものがあります。以前のバージョンの InDesign との下位互換性を保つため、これらのライブラリからのカラーは CMYK 定義にも含まれています。Lab 値は、正しいデバイスプロファイルと組み合わせて使用すると、すべてのデバイスで最も正確な出力を得ることができます。プロジェクトにおいてカラーマネジメントが不可欠な場合は、Lab 値を使用して特色を表示、書き出しおよび印刷することができます。インキ管理の「特色に標準 Lab 値を使用」オプションを選択すると、InDesign でこれらの定義済み特色に使用されるカラーモード（Lab または CMYK）を制御できます。出力結果を旧バージョンの InDesign に一致させる必要がある場合、CMYK の同等値を使用する必要があります。

注意： オーバープリントプレビューがオンの場合、*InDesign* ではモニターの精度を上げるため、デフォルトで *Lab* 値が使用されます。また、プリントダイアログボックスまたは *Adobe PDF* を書き出しダイアログボックスの色分解領域で「オーバープリント処理」を選択している場合に印刷

や書き出しでこの *Lab* 値を使用します。

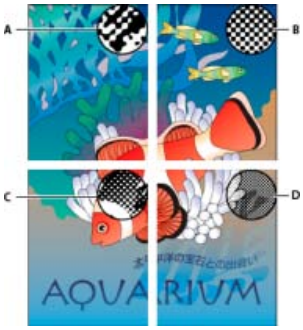
1. 分版パネルメニューのインキ管理を選択します。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - Lab 値を使用するには、「特色に標準 Lab 値を使用」オプションを選択します。
   - CMYK 値を使用するには、「特色に標準 Lab 値を使用」オプションを選択解除します。

ページの先頭へ

ハーフトーンスクリーン線数について

商用印刷では、連続階調は行（線または線数）に描かれた点（網点）で置き換えられます。 これらの点は、モアレと呼ばれる周期的なパターン（干渉縞）を目立たせなくするために、様々な角度で印刷されます。 印刷ダイアログボックスのカラーパネルのスクリーンポップアップメニューには、現在選択されている PPD に基づいて、lpi（インチあたりに含まれる線の数）で表したスクリーン線数と dpi で表した解像度の推奨される組み合わせが表示されます。 インキリストでインキを選択すると、「線数」と「角度」のテキストボックスに選択したインキのスクリーン線数と網点の角度が表示されます。

スクリーン線数を高く設定すると（例えば 150lpi）、画像の印刷に使用する網点の間隔が小さくなり、画像が細かくレンダリングされます。逆に、スクリーン線数を低く設定すると（60lpi から 85lpi 程度）、網点の間隔が大きくなり、画像が粗くなります。 また、スクリーン線数は網点のサイズにも関係します。 スクリーン線数の設定が高い場合は小さな網点が使用され、低い場合は大きな網点が使用されます。 最も重要なのは、使用する印刷機の種類に適したスクリーン線数を指定することです。 適切な線数については印刷・出力会社に問い合わせてください。



スクリーン線数

***A.** 65lpi*：ニュースレターや食料品店のチラシなどを印刷するための粗いスクリーン ***B.** 85lpi*：新聞を印刷するための平均的なスクリーン ***C.** 133lpi*：*4* 色使用の雑誌を印刷するための高品質スクリーン ***D.** 177lpi:*年次報告書やアート本の画像を印刷するための非常に細密なスクリーン

高解像度イメージセッタ用の PPD ファイルには、イメージセッタの様々な解像度設定に対応する幅広いスクリーン線数の設定が用意されています。 低解像度プリンター用の PPD ファイルでは、スクリーン線数の選択肢は少なく、その範囲は 53lpi から 85lpi と粗くなります。 ただし、低解像度プリンターでは、粗いスクリーンの方が良好な印刷結果が得ることができます。 例えば、最終出力で低解像度プリンターを使用する場合、100lpi の細かいスクリーン線数を指定すると、画像の品質が低下してしまいます。

ページの先頭へ

スクリーン線数と解像度の指定

- プリントダイアログボックスの「色分解」セクションで、次のいずれかの操作を実行します。
  - スクリーンポップアップメニューから適切なスクリーン線数とプリンター解像度の組み合わせを選択します。
  - カスタムのスクリーン線数を指定するには、インキからカスタマイズする色版を選択し、「線数」テキストボックスに lpi の値を、「角度」テキストボックスにスクリーンの角度を入力します。

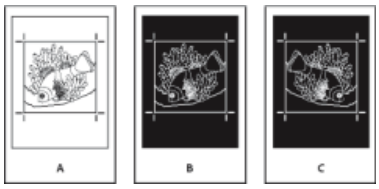
注意： 独自のハーフトーンスクリーンの指定を作成する前に、適切な線数と角度について印刷・出力会社に確認してください。また、線数と角度の設定を変更すると、一部の出力機器ではデフォルトの設定に上書きされてしまうこともありますので注意してください。

ページの先頭へ

膜面および画像のネガ・ポジについて

使用する印刷機の種類やフィルムを刷版へ焼き付ける方法によっては、膜面を表または裏にしたネガフィルムまたはポジフィルムを印刷・出力会社に納品する必要があります。 膜面とは、フィルムや用紙の感光面を指します。 一般的に、日本やヨーロッパの印刷・出力会社ではポジフィルムに出力し、アメリカではネガフィルムに出力します。 膜面は、印刷・出力会社に問い合わせて設定してください。

出力フィルムの表（膜面）と裏（ベース面）を識別するには、明るい照明の下でフィルムの光沢を比較します。 フィルムには光沢のない面とある面があり、 光沢のない面が膜面で、光沢のある面がベースです。



膜面オプション

A. ポジ画像 ***B.*** ネガ画像 ***C.*** 膜面を裏にしたネガ

注意： 印刷ダイアログボックスの膜面と画像のネガとポジの設定はプリンタードライバーの異なる設定を上書きします。 通常、印刷設定を行うには印刷ダイアログボックスを使用してください。

ページの先頭へ

膜面の設定

1. プリントダイアログボックスの「色分解」セクションで、カラーポップアップメニューから「コンポジットグレー」か、色分解のオプションを選択します。
2. 「反転」から次のいずれかのオプションを選択します。

   なし（デフォルト） プリント画像を反転しません。感光面が表向きのときにプリント画像が正しく見えます。

   横組み 垂直軸でプリント画像を鏡面反転させます。

   縦組み 水平軸でプリント画像を鏡面反転させます。画像は上下逆さまになります。

   横 & 縦 垂直軸と水平軸の両方で画像を鏡面反転させます。感光面が裏向きのときに、プリント画像が正しく見えます。フィルムにプリントする画像は「横＆縦」を選択します。

ページの先頭へ

ネガまたはポジの設定

1. プリントダイアログボックスの「色分解」セクションで、カラーポップアップメニューから「コンポジットグレー」か、色分解のオプションを選択します。
2. 「ネガ」を選択するとネガで、「ネガ」の選択を解除するとポジで印刷されます。

ページの先頭へ

色分解とドキュメント設定のチェック

プリントダイアログボックスの概要領域には、カラー管理情報、トンボの向き、ドキュメントの裁ち落としの概要が表示されています。この領域では、トラップが有効になっているかどうかも表示されています。

また、印刷したり、印刷・出力会社にドキュメントを入稿する前に簡単に設定をチェックすることができます。

ページの先頭へ

色分解の校正

ドキュメントが正しく色分解されていることを確認する色校正を行ったり、特定の出力機器上でドキュメントを出力する場合にドキュメントのカラーがどのように表示されるかをモニター上でプレビューするソフト校正を行います。

注意： 校正を行っても正確な最終出力結果を把握することはできませんが、ドキュメント作成に使用するすべてのデバイス（スキャナー、モニター、プリンターなど）のキャリブレーションを行うと、最終出力結果の精度を大幅に上げることができます。すべてのデバイスのキャリブレーションを行っておくと、内蔵のカラーマネジメントシステムによって最終結果のカラーを補正できます。

校正を行うと、最終的な色分解出力の状態を確認することができるため、印刷・出力会社は出力が適正かどうかを検証しやすくなります。校正は必ず PostScript プリンターで印刷してください。PostScript 未対応プリンターでは色分解出力を校正することはできません。

正確なファイル出力をするためには、*PostScript* ファイルとして色分解を保存し、*Acrobat Distiller* で *Acrobat 8 PDF* へ変換、そして *Acrobat* 上で *PDF* ドキュメントを表示して確認するという方法もあります。*PDF* ドキュメントを *Acrobat* で表示することによって、高品質の *PostScript* をモニター上で詳細に確認することができます。

ページの先頭へ

In-RIP 色分解出力の準備

In-RIP 色分解出力の準備をするには、次のソフトウェアとハードウェアが必要です。

- In-RIP 色分解出力をサポートしている PPD ファイル
- PostScript 3 出力機器、または In-RIP 色分解をサポートしている PostScript レベル 2 出力機器 ドキュメントに Photoshop 5.0 以降のダブルトーン画像が含まれている場合、PostScript 3 対応の出力機器を使用して、In-RIP 色分解を行う必要があります。

注意： 印刷・出力会社は、出力機器の *RIP* でトラップ、面付け、分解および *OPI* 置換などのプリプレス操作を実行します。そのため、印刷・出力会社には、*In-RIP* 色分解のために、事前に色分解された *PostScript* ファイルより、最適化されたドキュメントのコンポジット *PostScript* ファイルを入稿した方がよい場合もあります。

ページの先頭へ

色分解出力の印刷または保存

1. 適切な色分解設定のプリントプリセットがある場合、プリントダイアログボックスの上部にあるプリントプリセットポップアップメニューからプリントプリセットを選択します。
2. 次のいずれかの操作を行います。
   - 出力機器へ印刷するには、プリンターポップアップメニューからデバイスを選択します。
   - ファイルに出力するには、プリンターメニューの PostScript® ファイルを選択します。次に、出力機器に対応した PDD を選択します。
3. プリントダイアログボックスの左側のリストで「一般」をクリックし、出力するページを設定します。
4. プリントダイアログボックスの左側のリストで「色分解」をクリックし、次のいずれかの操作を行います。
   - 出力機器に印刷するには、カラーポップアップメニューから色分解設定を選択し、InDesign で色分解を行います。
   - ファイルに出力するには、カラーポップアップメニューから、「色分解（InDesign）」または「色分解（In-RIP）」を選択して、RIP で処理できるようなコンポジット PostScript ファイルに保存します。

   注意： *Adobe In-RIP* トラップを使用するには、ホストベースの色分解でなく、*In-RIP* を使用している必要があります。そうしないと、トラップ機能ですべてのカラーを一度に処理できないため、トラップが行われません。
5. プリントダイアログボックスの左側のリストで「グラフィック」をクリックし、次のいずれかの操作を行います。
   - 解像度ポップアップメニューから「すべて」を選択します。
   - RIP やポスト処理アプリケーションで、フォントを後からダウンロードしない場合は、ダウンロードポップアップメニューから「完全」または「サブセット」を選択します。
   - PostScript® レベルポップアップメニューから、出力デバイスの PostScript レベルを「レベル 2」または「レベル 3」から選択します。
6. プリントダイアログボックスの左側のリストで「詳細」をクリックし、次のいずれかの操作を行います。
   - InDesign ドキュメントに EPS ファイルを配置したときに「埋め込まれた OPI 画像リンクの読み込み」が選択されていた場合、配置されている低解像度グラフィックの EPS ファイルを出力時に高解像度バージョンと置き換えるには、プリントダイアログボックスの「詳細」領域で「OPI 画像を置換」を選択します。

- OPI サーバーでの後処理による置き換えを、埋め込まれているグラフィックの種類によって無視するには、「OPI を無視」オプションから無視するグラフィックの種類を選択します。
- 透明効果を使っているなら「透明の分割・統合」セクションのプリセットポップアップメニューから、「高解像度」を選択するか、高解像度用のカスタムプリセットを選択します。

7. その他のプリントオプションを選択します。
8. 次のいずれかの操作を行います。
   - 出力機器に印刷するには、「プリント」をクリックします。
   - ファイルに出力するには、「保存」をクリックします。ファイル名はデフォルトの名前を使用することも、他の名前を指定することもできます。次に、「保存」をクリックします。

注意： 以前、*InDesign* ドキュメントを色分解出力していれば、プリントダイアログボックスで選択した設定が別ファイルとして保存されています。ファイルには、プリントダイアログボックスで保存した色分解設定や *PPD* 情報、カラー変換などが保存されます。

関連項目

- 色の校正

(cc) BY-NC-SR Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

PostScript ファイルと EPS ファイルの作成

PostScript ファイルと EPS ファイルの作成
PostScript ファイルの最適な作成方法の選択
デバイスとドライバーに依存する PostScript ファイルについて
デバイスに依存しない PostScript ファイルの作成
InDesign を用いたデバイスに依存する PostScript ファイルの作成
PostScript プリンタードライバーを用いた PostScript ファイルの作成（Windows）
PostScript プリンタードライバーを用いた PostScript ファイルの作成（Mac OS）
EPS 形式へのページの書き出し

ページの先頭へ

PostScript ファイルと EPS ファイルの作成

ドキュメントをプリンターでプリントする代わりに、PostScript 言語で記述した PostScript ファイル（.ps）としてドキュメントを保存して、印刷・出力会社などのプリンターでプリントすることができます。印刷・出力会社では、.PS ファイルを直接イメージセッタに送ることができます。PostScript ファイルのサイズは、グラフィックやフォントが埋め込まれているので、通常、元の InDesign ドキュメントよりも大きくなります。

また、EPS（Encapsulated PostScript）ファイルにドキュメントページやスプレッドを書き出して、他のアプリケーションに配置することもできます。

ページの先頭へ

PostScript ファイルの最適な作成方法の選択

InDesign のドキュメントまたはブックは、デバイスに依存しないもの、デバイスに依存するもの、デバイスとドライバーに依存するものの 3 つのタイプの PostScript ファイルのいずれかで保存することができます。

次の表は、ポスト処理アプリケーションや InDesign で最良の結果を得るために推奨されるプリンタードライバーと出力方法をリストにしたものです。ドキュメントを RIP でプリントする前に、OPI サーバーによる処理や、面付け処理、トラップ処理、または他のプリプレスアプリケーションによる処理などが行われる場合は、InDesign のプリントダイアログボックスにあるプリンターメニューから「PostScript® ファイル」を選択します。InDesign で DSC 出力を完全に制御することができます。デスクトップでのプリントでは、サポートされている PostScript プリンタードライバーを使用します。

次の表にあるアスタリスクは、以下に説明する各プリプレス作業方法の相対的な関係を示しています。

******* PostScript ファイルは完全に DSC に準拠しており、ポスト処理アプリケーション、RIP およびワークフローなどでの使用に非常に適しています。この方法は、DSC に依存するアプリケーションにとって最良の選択です。

****** PostScript ファイルは主に DSC に準拠しており、ポスト処理アプリケーション、RIP、ワークフローなどの一般的な使用に適しています。DSC に依存する特定のアプリケーションでは、若干の互換性の問題が出る場合があります。

プリンターの選択：**PostScript®** ファイル		
オペレーティングシステム	**PPD**	プリプレス評価
すべてのプラットフォーム	デバイスに依存しない	***
	デバイスに依存	***

「プリンター」で「PostScript® ファイル」が選択されている場合は、プリンタードライバーは使用されません。

プリンターの選択：<インストールされているプリンター>		
オペレーティングシステム	プリンタードライバー	プリプレス評価
Mac OS X 10.2	Built-in PS Driver for Mac OS X	**
Windows 2000/XP	Pscript 5	**

プリントダイアログボックスの上部にある「PPD」テキストボックスに、選択されたプリンターで使用される PPD が表示されます。

ページの先頭へ

デバイスとドライバーに依存する PostScript ファイルについて

プリンターメニューで、プリンターおよびサポートされるドライバーを選択します。デバイスとドライバーに依存する PostScript ファイルには、次のような特徴があります。

- ドライバーに依存します。PostScript ファイルには、InDesign とドライバーによって生成されたコードが含まれます。InDesign のコードでは、主に、ページ内容（フォントのダウンロードなど）を処理したり、デバイスの基本情報（用紙サイズ、解像度、スクリーン線数など）を設定したりします。ドライバーでは、主に、ドライバーの特別な機能（ウォータマークなど）を設定したり、デバイスの特別な機能を有効にしたり制御したりします。InDesign では、PostScript ファイルを作成する際、完全に制御していないので、DSC 準拠のレベルは、ドライバーに依存しない PostScript ファイルと同じくらい低くなります。そのため、DSC 準拠のレベルと、プリプレス処理に対する PostScript ファイルの適合性は、使用するプリンタードライバーに依存します。
- 出力デバイスに依存します。デバイスの特定の機能を有効にして制御し、ターゲットデバイス以外のデバイスとの互換性は低くなるコードが含まれます。
- コンポジット、または色分解が可能です（InDesign でサポートしているカラー出力方法はすべて使用可能です）。
- トラップは InDesign で処理することができます（InDesign 側でのトラップ、または Adobe In-RIP トラップのどちらかを使用できます）。
- 出力デバイスやファイルに直接出力することができます。

デバイスとドライバーに依存する PostScript ファイルは、デスクトップ PostScript プリンターで（デザイナーが）校正する場合に適しています。InDesign または RIP システム外のプリプレス処理をする予定のない印刷・出力会社でも使用できます。つまり、トラップ処理は InDesign または RIP で行われます。

ページの先頭へ

デバイスに依存しない PostScript ファイルの作成

プリンターメニューで「PostScript ファイル」を選択し、PPD メニューで「デバイスに依存しない」を選択します。デバイスに依存しない PostScript ファイルには、次のような特徴があります。

- DSC に 100 %準拠しているので、トラップや面付けなどのポストプロセスが理想的な状態で行われます。
- 出力デバイスとドライバーに関する依存性がすべて除去されるので、ほとんどすべての出力デバイスでプリントすることができます。ただし、ネガ・ポジの設定、使用可能な用紙サイズ、スクリーン線数の最適化など、プリンターの特殊な機能は PPD ファイルにあるので、デバイスに依存する出力では使用できません。
- カラー出力は常にコンポジット CMYK ですが、特色も含まれます。そのため、ポストプロセスソフトウェアまたは色分解（In-RIP）を使用している RIP では色分解することができます。
- InDesign ではトラップ処理は行われません。トラップは、RIP またはポストプロセスソフトウェアで行う必要があります。
- 出力デバイスやアプリケーションに直接ではなく、InDesign からファイルに出力されます。

  デバイスに依存しない PostScript ファイルは、コンポジットのプリプレスワークフローに最適です。面付けやトラップの際に、または（出力デバイスで色分解（In-RIP）をサポートしている場合は）RIP で、製作工程の後半にトラップ処理され分版されます。

1. ファイル／プリントを選択します。
2. プリントダイアログボックスの「プリンター」で「PostScript(R) ファイル」を選択します。
3. 「PPD」で「デバイスに依存しない」を選択します。
4. 既存のプリント設定を表示するか変更します。PostScript ファイルを作成するときは、現在のページ範囲が使用されます。
5. 「保存」をクリックします。
6. ファイル名と保存場所を指定し、「保存」をクリックします。

ページの先頭へ

InDesign を用いたデバイスに依存する PostScript ファイルの作成

プリンターメニューで「PostScript ファイル」を選択し、PPD を選択します。デバイスに依存する PostScript ファイルには、次のような特徴があります。

- DSC に 100 %準拠しているので、トラップや面付けなどのポストプロセスが理想的な状態で行われます。
- リンクファイルの情報、スクリーン線数の最適化、解像度、現在選択されている出力デバイスに調整された使用可能な用紙サイズなど、ドキュメントのすべての記述が含まれます。
- ドライバーに関する情報はすべて除去されます。
- コンポジット、または色分解が可能です。InDesign でサポートしているカラー出力方法はすべて使用可能です（In-RIP 色分解は、PPD および出力デバイスがこれをサポートしている場合に使用できます）。
- トラップは InDesign で処理することができます（InDesign 側でのトラップ、または Adobe In-RIP トラップのどちらかを使用できます）。
- 出力デバイスやアプリケーションに直接ではなく、InDesign からファイルに出力されます。

デバイスに依存する PostScript ファイルは、事前色分解またはトラップのワークフローに適しています。ファイルは InDesign で自動で、または Adobe In-RIP トラップ機能を使用してトラップ処理を行います。

1. ファイル／プリントを選択します。
2. プリントダイアログボックスの「プリンター」で「PostScript(R) ファイル」を選択します。
3. 使用する最終出力デバイスの「PPD」を選択します。
4. 既存のプリント設定を表示するか変更します。PostScript ファイルを作成するときは、現在のページ範囲が使用されます。
5. 「保存」をクリックします。
6. ファイル名と保存場所を指定し、「保存」をクリックします。

ページの先頭へ

PostScript プリンタードライバーを用いた PostScript ファイルの作成（Windows）

1. ファイル／プリントを選択します。
2. プリントダイアログボックス下部にある「プリンター」ボタンをクリックします。
3. プリンタードライバーのダイアログボックスで、「ファイルへ出力」を選択し、詳細設定ボタンをクリックします。
4. 「レイアウト」タブの「詳細設定」ボタンをクリックします。
5. 「ドキュメントのオプション」をクリックし、「PostScript」オプションをクリックして、さらに「PostScript 出力オプション」のメニューから「印刷処理が速くなるよう最適化」を選択します。「OK」をクリックします。
6. 「OK」または「印刷」をクリックし、InDesign のプリントダイアログボックスに戻ります。
7. InDesign のプリントダイアログボックスで「プリント」をクリックします。
8. ファイル名と保存場所を指定し、「保存」をクリックします。

ページの先頭へ

PostScript プリンタードライバーを用いた PostScript ファイルの作成（Mac OS）

1. ファイル／プリントを選択します。
2. プリントダイアログボックスで、プリンターメニューから「PostScript ファイル」を選択し、「保存」をクリックします。
3. 保存ダイアログボックスで、PostScript ファイル（.ps）の名前と場所を指定して、「保存」をクリックします。

ページの先頭へ

EPS 形式へのページの書き出し

書き出しコマンドを使用して、InDesign のページを EPS 形式で書き出すことができます。EPS 形式は、他のプログラムで読み込むことができます。複数のページを書き出すには、番号をファイル名の末尾に付加して、各ページを別々のファイルとして書き出します。例えば、3、6、12 ページを書き出し、ファイル名に News.eps を指定すると、InDesign では、News_3.eps、News_6.eps、News_12.eps という 3 つのファイルが作成されます。

InDesign のページを Illustrator または Adobe Photoshop で開くには、ページを PDF ファイルまたは EPS ファイルとして書き出します。

1. ファイル／書き出しを選択します。
2. 保存場所とファイル名を指定します。ファイル名に、必ず拡張子 .eps を付けてください。
3. 「ファイルの種類」（Windows）または「フォーマット」（Mac OS）で「EPS」を選択して、「保存」をクリックします。
4. EPS の書き出しダイアログボックスの「ページ」で、次のいずれかの操作を行います。
   - ドキュメントのすべてのページを書き出す場合は、「すべてのページ」を選択します。
   - ページ範囲を指定する場合は、「範囲」に入力します。ページ範囲を指定するにはハイフンを使用し、ページ範囲を複数指定する場合はコンマを使用します。
   - 隣り合ったページ（1 スプレッド）を 1 つの EPS ファイルとして書き出す場合は、「見開き印刷」を選択します。
5. その他のオプションを設定します。
6. 「裁ち落とし」で、ページまたはトリミングの領域外に配置されているグラフィックを書き出すためのスペースを指定する値を 0p0 から 36p0 の間で入力します。
7. 「書き出し」をクリックします。

EPS 書き出しオプション

EPS に書き出す場合、次のオプションを指定することができます。

PostScript® PostScript 出力デバイスのインタープリターとの互換性レベルを指定します。ファイルを PostScript レベル 2 以降の出力デバイスでのみ出力する場合は、「レベル 2」を選択すると、グラフィックの印刷速度と出力品質が改善されることがあります。「レベル 3」を選択すると、最適のスピードと出力品質が提供されますが、PostScript 3 の出力デバイスが必要です。

カラー 書き出されたファイルでカラーを表示する方法を指定します。ここで使用するオプションは、プリントダイアログボックスのカラー設定に似ています。

変更しない 各画像が元のカラースペースのままになります。例えば、ドキュメントに 3 つの RGB 画像と 4 つの CMYK 画像がある場合、書き出される EPS ファイルには、同じ RGB 画像と CMYK 画像が含まれます。

CMYK すべてのカラーをシアン（C）、マゼンタ（M）、イエロー（Y）、墨（K）のプロセスカラーインキを使用して再現する色分解可能なファイルを作成します。

グレー すべてのカラー値を高品質なモノクロ画像に変換します。変換されたオブジェクトのグレー階調（シェード）は、元のオブジェクトの輝度を表します。

RGB すべてのカラーを赤（R）、緑（G）、青（B）のカラースペースで再現します。RGB カラー定義のある EPS ファイルは、画面表示に適しています。

PostScript® カラーマネジメント オリジナルのカラースペースのキャリブレーションしたバージョンで、ドキュメントのカラーデータを使用します。

プレビュー ファイルに保存されるプレビュー画像の種類を指定します。プレビュー画像は、EPS 画像を直接表示できないアプリケーションで使用されます。プレビュー画像を作成しない場合は、「なし」を選択します。

埋め込みフォント 書き出すページで使用するフォントを組み込む方法を指定します。

なし PostScript ファイルにフォントの参照情報を追加します。この PostScript ファイルによって、RIP またはポストプロセッサーにフォントの使用場所が示されます。

完全 プリントジョブの最初に、ドキュメントで必要なすべてのフォントがダウンロードされます。ドキュメントに出現しないものも含めて、フォントのすべての字形と文字がダウンロードされます。環境設定ダイアログボックスで指定されている字形（文字）の最大数より多いフォントが InDesign で自動的にサブセットされます。

サブセット ドキュメントで使用されている文字（字形）だけがダウンロードされます。

データ形式 コンピューターからプリンターに送信される画像データのエンコード方式を、「ASCII」または「バイナリ」で指定します。

画像 書き出されたファイルに組みこむ、配置されたビットマップ画像の画像データ量を指定します。

すべて 高解像度の画像データをすべてファイルに書き出します。最も多くのディスク容量を必要とします。ファイルを高解像度出力デバイスで出力する場合は、このオプションを選択します。

プロキシ 配置されたビットマップ画像の画面表示用の低解像度バージョン（72dpi）だけをファイルに書き出します。「OPI 画像を置換」オプションを選択した場合、または出力される PDF ファイルを画面上で見るには、このオプションを選択します。

OPI 画像を置換 出力時に低解像度の EPS プロキシ画像を高解像度画像に置き換えます。

OPI を無視 画像データをプリンターやファイルに送る際に、OPI サーバーで後処理用に OPI リンク（コメント）だけを残し、書き出した画像を無視することができます。

透明の分割・統合 「プリセット」から透明の分割・統合プリセットを選択して、書き出されたファイルで透明のオブジェクトをどのように表示するかを指定します。このオプションは、プリントダイアログボックスの「詳細」セクションに表示される「透明の分割・統合」オプションと同じです。

インキ管理 ドキュメントのデザインを変更しないで、インキ設定を修正することができます。

関連項目

(cc) BY-NC-SR Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

トラップのインキ設定

インキの ND 値の調整
特殊インキのトラップのカスタマイズ
インキ順番の調整

インキの ND 値の調整

トップへ戻る

選択したトラップエンジンが使用するインキの ND 値を調整することで、トラップの正確な配置を設定できます。プロセスインキのデフォルトの ND 値は、海外の工業規格に対応するプロセスインキスウォッチの ND 値に基づいています。準拠する規格は言語バージョンによって異なります。例えば、米国英語およびカナダ版の ND 値は、米国の GATF（Graphic Arts Technical Foundation of North America）発行の『Specifications for Web Offset Publications』（SWOP）のベタインキ濃度値に一致しています。プロセスインキの ND 値は他の海外の印刷工業規格に合うように調整できます。

トラップエンジンは、特色の ND 値を同等の CMYK カラーから取得します。ほとんどの特色では、同等の CMYK カラーの ND 値から正確なトラップを作成することができます。ただし、プロセスインキを使用しても容易に表現できない特色インキについては、トラップエンジンが正しくトラップできるように ND 値を調整する必要があります。新しい値を入力すると、著しく暗いインキまたは明るいインキがトラップエンジンでも同じように認識され、適切なトラップ配置が自動的に適用されます。

実際に印刷に使用する商用印刷機を調べれば、インキに適切な ND 値がわかります。インキの ND 値を求める最も正確な方法は、スウォッチのインキカラーを測定する商用濃度計を使用することです。「V」すなわちインキの視覚的濃度を読み取ります（プロセスフィルターは使用しないでください）。この値がデフォルト設定と異なる場合は、新しい値を「ND 値」テキストボックスに入力します。

注意： 特色の ND 値を変更しても、カラーのトラップの方法が変更されるだけで、ドキュメントでのそのカラーの外観は変更されません。

ND 値の調整では、次の点に注意してください。

メタリックインキとオペークインキ メタリックインキは CMYK インキよりも暗いのが普通ですが、オペークインキは下地のインキに重ねた場合でも下地のインキが影響しません。一般に、メタリックとオペークの両方の特色については、ND 値をデフォルト値よりもかなり高く設定して、これらの特色が広がらないようにします。
注意： インキダイアログボックスの「種類」で「オペーク」または「オペークを無視」に設定すると、別のオペークインキの ND 値をより高く設定していない限り、オペークインキが他のカラーへ広がっていくことはありません。
パステルインキ 通常、このインキはプロセスインキよりも明るめです。これらのインキの ND 値をデフォルト値よりも低く設定して、隣接する暗いカラーへ広がるようにすることもできます。
他の特色インキ ターコイズやネオンオレンジなどの一部の特色には、CMYK カラーよりもかなり暗かったり、明るかったりするカラーがあります。実際に印刷された特色インキのカラーチップや CMYK インキのカラーチップと比較して、これに当てはまるかどうかを判断するとよいでしょう。必要に応じて、特色インキの ND 値を高くまたは低く調整できます。

特殊インキのトラップのカスタマイズ

トップへ戻る

特定のインキでは、トラップに特別な考慮が必要です。例えば、ドキュメントにワニスを使用する場合、ワニスがトラップに影響するのは望ましくありません。ただし、完全なオペークインキを使用して特定の部分をオーバープリントする場合は、その下地についてトラップを作成する必要はありません。このような状況ではインキオプションを使用することができます。この場合は、担当の印刷・出力会社が変更を勧めない限り、通常はデフォルト設定のままにしておいてください。

注意： ドキュメントで使用される特殊インキとワニスは、2 つの特色を混合したり、1 つの特色と 1 つまたは複数のプロセスインキを混合したりして作成されている可能性があります。

1. インキダイアログボックスを表示し、特殊な処理を必要とするインキを選択します。
2. 「種類」で、次のオプションのいずれかを選択して、「OK」をクリックします。
   標準 従来のプロセスインキや標準的な特色インキの場合に使用します。

   透明 クリアインキで下地を確実にトラップするために使用します。このオプションは、ワニスやダイラインインキに使用します。

   オペーク 濃い不透明なインキで下地カラーをトラップせずにインキのエッジに沿ってトラップできるようにするために使用します。このオプションは、メタリックインキに使用します。

   オペークを無視 濃い不透明なインキで下地カラーをトラップせず、またインキのエッジに沿ってトラップしないようにするために使用します。このオプションは、メタリックおよびワニスのような、他のインキとの相性が悪いインキの場合に使用します。

インキ順番の調整

トップへ戻る

インキ順番（トラップ順序ともいいます）はインキが印刷所において印刷される順序と一致しますが、出力デバイスで色分解が作成される順序と

は一致しません。

メタリックインキなどのオペーク色を複数使用して印刷するときは、インキ順番に十分注意する必要があります。順番番号の小さなオペークインキは順番番号の大きなオペークインキの下に広がります。これにより、最後に適用されるインキが広がることなく、良好なトラップが可能になります。

注意： 担当の印刷・出力会社に問い合わせる前に、デフォルトのインキ順番を変更しないようにしてください。

1. インキを開きます。インキリストの「順番」の列に、現在のインキ順番が表示されます。
2. インキを選択し、「順番」テキストボックスに新しい値を入力してから、Tab キーを押します。選択したインキが、入力した値を使用していたインキと置き換わります。
3. 必要なインキの数だけ、上記の手順を繰り返してから、「OK」をクリックします。

関連項目

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

デジタルパブリケーション

リキッドレイアウトのガイドごとのルールの適用（英語）
Anne-Marie Concepcion (2012/05/15)
チュートリアル - ビデオ
リキッドレイアウトのガイドごとのルールのしくみや、リキッドガイドと定規ガイドの作成方法を紹介します。

リキッドレイアウトのオブジェクトごとのルールの適用（英語）
Anne-Marie Concepcion (2012/05/15)
チュートリアル - ビデオ
リキッドレイアウトのオブジェクトごとのルールが、どのようにオブジェクトごとに適用され、リキッドレイアウトパネルで表示されるかをご覧ください。

リキッドレイアウトのルールについて（英語）
Anne-Marie Concepcion (2012/05/15)
チュートリアル - ビデオ
このチュートリアルでは、リキッドレイアウトを定義し、実演します。また、リキッドレイアウトに関連するコマンドやダイアログボックスの場所を順番に紹介します。

リキッドレイアウトの基本ルールの使い方：拡大・縮小、中央揃え、基準マスター（英語）
Anne-Marie Concepcion (2012/05/15)
チュートリアル - ビデオ
レイアウトをサイズ変更する際に、なし、拡大・縮小、中央揃えの各ルールを適用する方法を紹介します。また、「基準マスター」の意味を説明します。

代替レイアウトの操作（英語）
Anne-Marie Concepcion (2012/05/15)
チュートリアル - ビデオ
代替レイアウトをプリントパブリッシングとデジタルパブリッシングの両方に使用する方法を紹介します。

Adobe ID に関連付けた電子メールアドレスの変更（英語）
WHB III (2012/04/24)
トラブルシューティング
Adobe ID 電子メールアドレスの変更：DPS

レイアウトを変更せずに、InDesign から EPUB へコンテンツを書き出す順番の制御（ビデオ 4:54）（英語）
Colin Fleming (2011/01/01)
チュートリアル - ビデオ
アーティクルパネルで、EPUB への書き出し用にアーティクルを作成および整理する方法を紹介します。この方法では、レイアウトの変更やコードの記述は不要です。

EPUB の表紙とタイトルページの作成（ビデオ 5:50）（英語）
Colin Fleming (2011/01/01)
チュートリアル - ビデオ
EPUB の表紙とタイトルページの作成方法を説明します

EPUB へのドキュメントの書き出し（PDF、265 KB）（英語）
参照 (2011/01/01)
InDesign CS5 でレイアウトを EPUB に書き出す方法に関する短い簡単な概要です。

Apple iBookstore に対応した EPUB への書き出し（PDF、2.5 MB）（英語）
参照 (2011/01/01)
Apple iBookstore に対応した EPUB を作成する方法を説明します。

Folio Producer ツール（ビデオ 1:04）（英語）
チュートリアル - ビデオ (2011/01/01)
デジタルパブリッシング用 Folio Producer ツールのごく簡単な概要です。

EPUB へのコンテンツの書き出し

概要
テキストのサポート
ハイパーリンクのサポート
ナビゲーションのサポート
ブックの CSS の生成
EPUB への書き出し
固定レイアウト書き出しオプション
リフロー可能書き出しオプション
オブジェクト書き出しオプション
EPUB のリソース

ページの先頭へ

概要

InDesign ドキュメントを EPUB に書き出して、EPUB リーダーで出力を表示できます。

リフロー可能な EPUB 形式でドキュメントを書き出すことを選択できます。リフロー可能な EPUB ドキュメントの場合、EPUB リーダーは表示デバイスに応じてコンテンツを最適化できます。

ドキュメントが eInk デバイスのユーザーを対象としている場合には、リフロー可能な形式が適しています。また、リーダーのフォントやサイズを変更するオプションを提供する場合にも、リフロー可能な形式が推奨されます。

固定レイアウト形式でドキュメントを書き出すことを選択できます。固定レイアウト形式では、ドキュメントにオーディオ、ビデオ、および Edge コンテンツを含めることができます。

ナビゲーションボタン、ページ遷移、アニメーション、ハイパーリンクなどのコントロールを含んだインタラクティブドキュメントを、固定レイアウト形式で書き出すこともできます。

固定レイアウト形式は、多数のグラフィック、オーディオ、ビデオコンテンツを含んでいるドキュメントに適しています。この形式は子供の本、料理本、教科書、および漫画本に適しています。

ページの先頭へ

テキストのサポート

固定レイアウト形式で書き出されるドキュメントを作成するときにサポートされるテキストオプションは、以下のとおりです。

- テキストはラスタライズされません。つまり、ライブテキストは検索および選択の対象になります。
- ライブテキストは水平方向と垂直方向にスケーリングすることができます。
- タブリーダーを含めることができます
- 言語属性は、タグでマークアップされます
- タグは、CSS クラスによってマークアップされます
- URL、テキストアンカー、およびページに対するハイパーリンクおよび相互参照がテキスト上でサポートされています

EPUB に書き出すためにドキュメントにテキストを含める場合には、以下の制限事項にも注意してください。

- カーニングは個々の字形でサポートされておらず、単語のすべての文字に文字間隔として分配されます。
- OpenType 機能によって生成されるスモールキャップス、オールキャップス、分数などの代替字形は、デバイスのサポートが限定的であるため、サポートされていません。
- 中東の右から左へのテキストフレームは、依然として適切にサポートされていません

日本語テキストのサポート

固定レイアウト形式に書き出す際には、次の日本語機能オプションを使用できます。

- Ruby テキストはライブで、出力でラスタライズされません
- ライブテキストで割注がサポートされます
- ライブテキストで文字回転がサポートされます
- 合成フォントがサポートされます
- 縦組みテキストフレームは、回転したグリフも含めてサポートされます

EPUB に書き出すためにドキュメントに日本語テキストを含める場合には、以下の制限事項にも注意してください。

- 縦書きのテキストフレームでは、日本語の縦中横はサポートされません
- 日本語の表意文字のポジショニングは、True Type フォントを使用した場合に失われます
- 日本語の圏点フォントは、ライブテキストでラスタライズされます

ページの先頭へ

ハイパーリンクのサポート

固定レイアウト形式で書き出されるドキュメントを作成するときにサポートされるハイパーリンクオプションは、以下のとおりです。

- テキストベースのハイパーリンクと相互参照
- オブジェクトベースのハイパーリンク
- ページにテキストベースのハイパーリンクとオブジェクトベースのハイパーリンクの両方を作成します

ページの先頭へ

ナビゲーションのサポート

書き出しプロセスでは、EPUB 出力に次のナビゲーション機能が提供されます。

NAV ランドマーク　NAV ランドマークは、「オブジェクト書き出しオプション」ダイアログに指定された `epub:type` の値に基づいて、固定レイアウト形式とリフロー可能形式の両方で生成されます。
最初に見つかった値だけがランドマークに追加されます。

EPUB2　InDesign では、OPF ファイル内の EPUB 2 セクションがサポートされます。InDesign では、カバーおよび `print` 目次オプションが自動的に検出されます。テキストタイプを判別するため、InDesign は、「オブジェクト書き出しオプション」ダイアログに指定された `epub:type` の値を使用します。

NAV ページリスト　（固定レイアウト形式）。InDesign では、ページ番号の文字列をそのページから生成される XHTML ファイルにマッピングすることによって、ページリストを生成します。

ページの先頭へ

ブックの CSS の生成

ブックを Epub に書き出す際に、書き出しプロセスによってブック内の各ドキュメントに CSS が生成されます。各ドキュメント CSS は、そのドキュメントに固有のスタイルを定義します。このプロセスでは、ブック内のドキュメント全体で使用される一般的なスタイルを含んだマスター CSS も作成されます。

ページの先頭へ

EPUB への書き出し

ドキュメントやブックは、リフロー可能レイアウトまたは固定レイアウトの EPUB 形式で書き出すことができます。

1. 次のいずれかの操作を行います。
   - ドキュメントを開き、ファイル／書き出しを選択します。
   - ブックを開き、ブックパネルメニューで「ブックを EPUB に書き出し」を選択します。
2. ファイル名と場所を指定します。
3. 「「ファイルの種類」（Windows）または「形式」（Macintosh）」リストから「EPUB（固定レイアウト）」または「EPUB（リフロー可能）」を選択し、「保存」をクリックします。
4. EPUB 書き出しオプションダイアログボックスで、必要なオプションを指定し、「OK」をクリックします。

   詳しくは、固定レイアウト書き出しオプションまたはリフロー可能書き出しオプションを参照してください。

XHTML ベースのコンテンツを含む単一の .epub ファイルが作成されます。ファイルを表示するには、EPUB リーダーが必要です。Adobe Digital Editions リーダー（アドビ システムズ社の Web サイトから無償でダウンロード可能）も使用できます。

.epub ファイルは .zip ファイルです。.epub ファイルのコンテンツを表示および編集するには、拡張子を .epub から .zip に変更して、コンテンツを抽出します。これは、CSS ファイルを編集する場合に便利です。

書き出された .epub ファイルに、カバー画像が含まれる場合があります。カバーとして使用する画像を選択できます。または、InDesign で、書き出されたドキュメント、スタイルソースドキュメントまたは書き出されたブック内の最初のページをラスタライズすることができます。サムネール画像は、EPUB リーダーや Digital Editions リーダーのライブラリビューに表示されます。

ページの先頭へ

固定レイアウト書き出しオプション

「一般」セクション

バージョン　EPUB のバージョン。

EPUB 3.0　オーディオ、ビデオ、Javascript、日本語の縦書き文字がサポートされます。
EPUB 3.0 規格をサポートしていないデバイスではサポートされません。
EPUB 3.0 は、2011 年に IDPF によって承認された規格です。

カバー　eBook のカバー画像。次のいずれかを選択します。

なし　カバー画像は追加されません。

最初のページをラスタライズ　このオプションを選択すると、InDesign によって、eBook の最初のページをラスタライズして画像が作成され、カバーとして使用されます。

画像を選択　カバーとして使用するコンピューター上の画像ファイルを選択します。

ナビゲーション目次　EPUB ビューアの目次のナビゲーションオプションを指定します。
複数レベル（目次スタイル）を使用してサイドバーナビゲーションを作成するか、ファイル名を使用します。

ファイル名　ファイル名に基づいて目次を生成します。

複数レベル（目次スタイル） 選択した目次スタイルに基づいて目次を生成します。
目次スタイルメニューから、eBook 内で目次を構築するための目次スタイルを指定します。
レイアウト／目次スタイルを選択して、eBook 用の特別な目次スタイルを作成することもできます。

ブックマーク （EPUB 3）InDesign ドキュメントで作成したブックマークに基づいて目次を生成します。
InDesign では、ローカルまたは外部（ブックから）のテキストアンカーとページがサポートされます。外部のテキストアンカーやページは、InDesign で目次を作成して、**PDF** ブックマークの作成を指定することによって生成することができます。
詳しくは、ブックマークを参照してください。

オプション ページアイテムの書き出し順序を指定します。

ドキュメント設定を基準にする InDesign では、ドキュメント設定ダイアログボックス（ファイル／ドキュメント設定）で定義した設定に基づいてスプレッドコントロールが判別されます。

スプレッドを横置きページに変換 スプレッドを横置きページに変換します。

合成スプレッドを有効にする ドキュメントの合成スプレッドを書き出せるようにします。

スプレッドを無効にする スプレッドは EPUB の出力に書き出されません。

「変換設定」セクション

画像変換メニューから、EPUB への画像の書き出し方法を指定します。

形式 ドキュメントの最適化画像を GIF、JPEG または PNG のいずれに変換するかを選択します。

自動 各画像で使用する形式が、InDesign によって決定されるようにします。

PNG 画像圧縮設定を無効にします。データ損失のない画像や、透明を含む画像には、PNG を使用します。

解像度（**PPI**） 画像の解像度を ppi で選択します。オペレーティングシステムは 72 ppi または 96 ppi で標準化されていますが、モバイルデバイスは 132 ppi（iPad）～172 ppi（Sony リーダー）、300 ppi（iPhone 4）以上と範囲が異なります。
選択したオブジェクトごとに ppi 値を選択できます。値には、72、96、150（現在のすべての eBook デバイスの平均）、および 300 があります。

GIF オプション（パレット） 最適化 GIF ファイルを作成する場合の、InDesign でのカラーの処理を調整します。GIF 形式は、256 色以下のカラーパレットを使用しています。

使用中の色に合わせて割り付ける（ディザなし） ディザ処理（色の小さな点を混ぜて存在しない色を表現する）をせずに、グラフィックで中心的に使われているカラーを抽出してパレットを作成します。

Web Web セーフカラー（Windows および Mac OS のシステムカラーのサブセット）を使用してパレットを作成します。

「システム（**Windows**）」または「システム（**Mac OS**）」 組み込みのシステムカラーパレットを使用してパレットを作成します。このオプションを使用すると、予期しない結果が生じることがあります。

インターレース 表示されていない行を埋めるようにして、徐々に画像を読み込みます。このオプションを選択していない場合、ぼやけて表示されていた画像が、元の解像度に近くなるにつれて徐々に明確になります。

JPEG オプション／形式 ブラウザーで JPEG 画像が含まれるファイルを開いてから、その画像が表示されるまでの速さを指定します。

プログレッシブ Web ブラウザーにダウンロードされるにしたがって、徐々に JPEG 画像の詳細が表示されるようにします。

このオプションを指定して作成されたファイルは、サイズがやや大きくなります。また、表示のためにより多くのメモリが必要になります。
各 JPEG ファイルがダウンロードされた後にのみ表示するベースラインを選択します。画像がダウンロードされるまでは、プレースホルダーが表示されます。

ベースライン 各 JPEG ファイルを、ダウンロードの完了後にのみ表示します。
画像がダウンロードされるまでは、プレースホルダーが表示されます。

JPEG オプション／画質 出力内に作成される JPEG 画像ごとに、必要な画質を選択します。
「低画質」を選択すると、ファイルサイズは最小になり、画質も最も低くなります。

EPUBの書き出し（固定レイアウト）ダイアログボックスの「アプリケーションを表示」セクションには、次のようなオプションがあります。

書き出し後 **EPUB** を表示 EPUB の読み取り用に選択されているアプリケーションが使用可能であれば、そのデフォルトアプリケーションで EPUB を開きます。
リフロー可能と固定レイアウトの両方の書き出しオプションダイアログボックスに適用されます。

EPUB アプリケーション	バージョン	対応	非対応
Mac			
Apple iBooks	1.0.1		
Oxygen	14.1		
Kindle Previewer	2.92		
Sigil	0.7.4		
Kindle	1.10.6		
VitalSource Bookshelf	6.2		
Apple Book Proofer	1.0.1	EPUB にフォントを埋め込めない	
Windows			
Sigil	0.7.4		
Kindle Previewer	2.92		
Adobe Digital Editions	3.0.86137		
Calibre	1.26		
Oxygen	15		
Azardi	2.0		
Kobo	3.6.0		

「メタデータ」セクション

書き出すファイルに、ドキュメント（ブックを選択した場合はスタイルソースドキュメント）のメタデータを含めます。

識別子 （読み取り専用）EPUB ドキュメントにはそれぞれ固有の識別子が必要です。固有の識別子は自動的に作成され、表示されます。

タイトル EPUB のタイトルを入力します。

作成者 EPUB の作成者の名前を入力します。

日付 EPUB が作成された日付を指定します。

説明 EPUB の説明を入力します。

出版社 eBook メタデータに含める発行側の情報を指定します。例えば、発行者の URL を指定できます。

権利 著作権情報をここに入力します。

サブタイトル EPUB のサブタイトルを入力します。

「CSS」セクション

スタイルシートを追加 EPUB への書き出しで使用される、既存の CSS スタイルシートの URL を指定します。
InDesign では CSS の存在や有効性は検証されません。外部 CSS の設定は Dreamweaver を使用して確認できます。

削除 選択したスタイルシートを削除します。

「Javascript」セクション

Javascript 既存の JavaScript への URL を指定します。InDesign では、JavaScript の存在や有効性は検証されないため、JavaScript の設定を確認する必要があります。

ページの先頭へ

リフロー可能書き出しオプション

「一般」セクション

バージョン EPUB のバージョンを指定します。

EPUB2.0.1 EPUB 2.0.1 は 2007 年に IDPF によって承認された規格です。この形式は、幅広いモバイルデバイスでサポートされています。

EPUB3.0 EPUB 3.0 は 2011 年に IDPF によって承認された規格です。この形式では、オーディオ、ビデオ、Javascript、日本語の縦書き文字もサポートされています。これは、EPUB 3.0 規格をサポートしていないリーダーおよびデバイスでは動作しません。

カバー eBook のカバー画像を指定します。次のいずれかを選択します。

なし カバー画像は追加されません。

最初のページをラスタライズ このオプションを選択すると、InDesign によって、eBook の最初のページをラスタライズして画像が作成され、カバーとして使用されます。

画像を選択 カバーとして使用するコンピューター上の画像ファイルを選択します。

ナビゲーション目次 EPUB ビューアの目次のナビゲーションオプションを指定します。
複数レベル（目次スタイル）を使用してサイドバーナビゲーションを作成するか、ファイル名を使用します。

ファイル名 ファイル名に基づいて目次を生成します。

複数レベル（目次スタイル） 選択した目次スタイルに基づいて目次を生成します。目次スタイルメニューから、eBook 内で目次を構築する際に使用する目次スタイルを指定します。レイアウト／目次スタイルを選択して eBook 用の特別な目次スタイルを作成することもできます。

順序 ページアイテムの書き出し順序を指定します。

ページレイアウトを基準にする ページ上のアイテムの位置によって読み上げ順序が決まります。

「ページレイアウトを基準にする」を選択した場合、ページオブジェクトの読み上げ順序は左から右へおよび上から下へ、になります。場合によっては（特に、複雑な複数段組ドキュメントの場合は）、デザイン要素が目的の読み上げ順序に表示されないことがあります。コンテンツを再配置およびフォーマットするには、Dreamweaver を使用します。

（アジア言語版のみ）「ページレイアウトを基準にする」を選択した場合、ページオブジェクトの読み上げ順序は、ドキュメントの綴じ方（左から右または右から左）に従って決定されます。場合によっては（特に、複雑な複数段組ドキュメントの場合は）、書き出されたデザイン要素が目的の読み上げ順序に表示されないことがあります。コンテンツを再配置およびフォーマットするには、Dreamweaver を使用します。

XML 構造と同じ 構造ウィンドウでのタグの順序に従って読み取り順序が決定されます。ページアイテムのタグ付けを参照してください。

アーティクルパネルと同じ アーティクルパネルのエレメントの順序に従って読み取り順序が決定されます。チェック済みのアーティクルのみが書き出されます。詳しくは、書き出しにアーティクルを含めるを参照してください。

「テキスト」セクション

脚注 次のオプションから脚注の配置を選択します。

- 段落の後：脚注を段落の後に配置します。
- セクションの最後（文末脚注）：脚注を文末脚注に変換するには、このオプションを選択します。
- ポップアップ表示（EPUB3）：脚注をポップアップ内に配置するには、このオプションを選択します。

ドキュメントの脚注オプションを使用して脚注を追加し、罫線（例えば、10 ポイントの線幅）を指定する場合、この水平の罫線は、書き出し時にリフロー可能な EPUB でサポートされます。

オプション／強制改行を削除 書き出した eBook 内のソフトリターンをすべて削除します。

リスト／記号 箇条書きの段落をリストアイテムに変換するには「番号なしリストにマップ」を選択します。リストアイテムは、HTML で <ul> タグを使用してフォーマットされます。
<p> タグを使用して箇条書き記号をテキストとしてフォーマットするには「テキストに変換」を選択します。InDesign のネイティブの自動箇条書きを使用した場合は、小段落の箇条書きも対象となります。

リスト／番号 HTML ファイルでの番号の変換方法を指定します。InDesign の自動番号リストを使用した場合は、下位レベルの段落の箇条書きも対象となります。

番号付きリストにマップ 自動番号リストをリストアイテムに変換します。リストアイテムは HTML で <ol> タグを使用してフォーマットされます。

テキストに変換 自動番号リストを、番号を含め、テキストとして現在の番号で始まる段落に変換します。

「オブジェクト」セクション

画像変換メニューから、HTML への画像の書き出し方法を指定します。

レイアウトのアピアランスを保持 オンにすると、画像オブジェクト属性がレイアウトから継承されます。

変換設定／解像度（**ppi**） 画像の解像度を ppi で選択します。オペレーティングシステムは 72 ppi または 96 ppi で標準化されていますが、モバイルデバイスは 132 ppi（iPad） ～ 172 ppi（Sony リーダー）、300 ppi（iPhone 4）以上と解像度が異なります。選択したオブジェクトごとに ppi

値を選択できます。値には、72、96、150（現在のすべての eBook デバイスの平均）、および 300 があります。

CSS／レイアウト 画像の左端揃え、中央揃え、右端揃えを指定します。上下の間隔も指定できます。

CSS／改ページを挿入 画像に改ページを挿入します。改ページは、画像の前、画像の後、または画像の前後に挿入できます。

変換設定セクション

形式 ドキュメントの最適化画像を GIF、JPEG または PNG のいずれに変換するかを選択します。各画像でどの形式を使用するかを InDesign で決定されるようにするには、「自動」を選択します。「PNG」を選択すると、画像圧縮設定が無効になります。データ損失がない画像、または透明を含む画像には「PNG」を使用します。

GIF オプション（パレット） 最適化 GIF ファイルを作成する場合の、InDesign でのカラーの処理を調整します。GIF 形式は、256 色以下のカラーパレットを使用しています。

> **使用中の色に合わせて割り付ける（ディザなし）** ディザ処理（色の小さな点を混ぜて存在しない色を表現する）をせずに、グラフィックで中心的に使われているカラーを抽出してパレットを作成します。
>
> **Web** Web セーフカラー（Windows および Mac OS のシステムカラーのサブセット）を使用してパレットを作成します。
>
> **「システム（Windows）」または「システム（Mac OS）」** 組み込みのシステムカラーパレットを使用してパレットを作成します。このオプションを使用すると、予期しない結果が生じることがあります。
>
> **インターレース** 表示されていない行を埋めるようにして、徐々に画像を読み込みます。このオプションを選択していない場合、ぼやけて表示されていた画像が、元の解像度に近くなるにつれて徐々に明確になります。

JPEG オプション／形式 ブラウザーで JPEG 画像が含まれるファイルを開いてから、その画像が表示されるまでの速さを指定します。

> **プログレッシブ** Web ブラウザーにダウンロードされるにしたがって、徐々に JPEG 画像の詳細が表示されるようにします。
> このオプションを指定して作成されたファイルは、サイズがやや大きくなります。また、表示のためにより多くのメモリが必要になります。
> **各 JPEG ファイルがダウンロードされた後にのみ表示するベースライン**を選択します。画像がダウンロードされるまでは、プレースホルダーが表示されます。
>
> **ベースライン** 各 JPEG ファイルを、ダウンロードの完了後にのみ表示します。
> 画像がダウンロードされるまでは、プレースホルダーが表示されます。

JPEG オプション／画質 出力内に作成される JPEG 画像ごとに、必要な画質を選択します。
「低画質」を選択すると、ファイルサイズは最小になり、画質も最も低くなります。

オブジェクト書き出し設定を無視 個々の画像に適用されたオブジェクト書き出し設定を無視します。オブジェクト書き出しオプションの適用を参照してください。

「メタデータ」セクション

書き出すファイルには、ドキュメント（ブックを選択した場合はスタイルソースドキュメント）のメタデータが含まれます。EPUB - リフロー可能なレイアウト書き出しダイアログボックスのメタデータセクションには、次のオプションがあります。

> **識別子** （読み取り専用）EPUB ドキュメントにはそれぞれ固有の識別子が必要です。固有の識別子は自動的に作成され、表示されます。
>
> **タイトル** EPUB のタイトルを入力します。

作成者 固定レイアウト EPUB の作成者の名前を入力します。

日付 EPUB が作成された日付を指定します。

説明 EPUB の説明を入力します。

出版社 発行者の情報（発行者の URL など）を入力します。

権利 EPUB の著作権関連の情報を入力します。

サブタイトル EPUB のサブタイトルを入力します。

「CSS」セクション

カスケーディングスタイルシート （CSS） は、Web ページのコンテンツの外観を制御するフォーマットルールの集まりです。ページのフォーマットに CSS を使用すると、コンテンツと表示を切り分けることができます。EPUBの書き出し（リフロー）ダイアログボックスの「CSS」セクションには、次のオプションがあります。

CSS を生成 書き出されるファイルのために外部 CSS を InDesign で生成するかどうかを指定します。CSS を生成せずにドキュメントまたはブックを EPUB に書き出すと、スタイルに関連付けられているクラスのみが HTML タグでマークアップされます。オーバーライドクラスは作成されません。

ローカルオーバーライドを保持 斜体や太字などのローカル書式設定を含めます。

埋め込みフォントを含む 埋め込み可能なすべてのフォントを eBook に含めます。各フォントには、埋め込みが可能かどうかを示す埋め込みビットが含まれています。

スタイルシートを追加 既存の CSS スタイルシートの URL を指定します。InDesign では CSS の存在や有効性は検証されません。外部 CSS の設定は Dreamweaver を使用して確認できます。

Javascriptセクション

Javascript 既存の JavaScript への URL を指定します。InDesign では、JavaScript の存在や有効性は検証されないため、JavaScript の設定を確認する必要があります。

ページの先頭へ

オブジェクト書き出しオプション

オブジェクト書き出しオプションダイアログのオプションを使用して、EPUB 書き出しの際にドキュメント内のオブジェクトがどのように処理されるか指定します。

1. オブジェクト書き出しオプションダイアログを開いて（オブジェクト／書き出しオプション）、「EPUB および HTML」セクションに移動します。
2. 「レイアウトのアピアランスを保持」リスト内の、次のオプションから選択します。

デフォルト オブジェクトの処理は、書き出しダイアログの設定によって決まります。
これは、リフロー可能な形式の場合は「変換」タブの設定によって制御されます。

グラフィックオブジェクトに既存の画像を使用 オブジェクトに画像が含まれており、その画像が EPUB 書き出しと互換性がある（JPG、PNG、GIF）場合、CSS を使用してコンテナがスタイル設定され、画像は処理されません。

コンテナをラスタライズ これは、リフロー可能書き出し/変換セクションの「レイアウトのアピアランスを保持」と同じです。オブジェクト全体がラスタライズされるので、アピアランスが保持されます。
オブジェクトがテキストフレームの場合、テキストがライブテキストではなくなります。

コンテンツをラスタライズ オブジェクトのコンテンツはラスタライズされるので、オブジェクトやコンテナのスタイル設定は CSS によって制御されます。InDesign で表示されたときのような、完全な表示にならない場合があります。

3. （リフロー可能 EPUB）サイズリストの以下のオプションから選択して、内部固定コンテンツを持たない画像などのオブジェクトの縦横比を維持します。

なし オブジェクトからマップされたタグに対して、CSS の幅または高さは生成されません。オブジェクトのサイズは内部のコンテンツがあれば、それによって決まります。 CSS ルールに従い、縦横比は維持されません。

デフォルト CSS サイズは、書き出しダイアログ/オブジェクトタブの設定によって決まります。

固定 CSS のサイズは、オブジェクトの寸法をポイント単位で計算し、同じ寸法を CSS でピクセルとして定義することで決まります。オブジェクトの縦横比は維持されます。

テキストの方向を基準にする CSS の幅は、オブジェクトの幅を取り、それをテキストフローを含むテキストフレームの幅に対する比率として表現することによって決まります。オブジェクトの縦横比は維持されます。

テキストサイズを基準にする CSS の高さは、オブジェクトの高さをポイント単位で取り、EM あたり 12pts で EM に変換することによって決まります。オブジェクトの縦横比は維持されます。

幅/高さのカスタム設定 有効な CSS 単位は、`cm`、`mm`、`in`、`pt`、`%`、`px`、`vh`、`vw`、`vmin`、および `vmax` です。 オブジェクトの縦横比は維持されます。

注意： これらのオプションは、メインフローテキストフレームには適用されません。

注意： *Edge Animate* を含んでいるオブジェクトでは、相対測定はサポートされません。

ページの先頭へ

EPUB のリソース

EPUB 形式について詳しくは、次のリンクを参照してください。

- EPUB 仕様について詳しくは、www.idpf.org（英語）を参照してください。
- Digital Editions リーダーは、www.adobe.com/jp/products/digital-editions.html（英語）から無料でダウンロードできます。
- Digital Editions について詳しくは、Digital Editions（英語） のブログを参照してください。
- Kindle 形式での書き出しについては、ホワイトペーパー：InDesign から Kindle 形式への書き出し（英語）（PDF）を参照してください。
- InDesign ファイルを EPUB 形式に変換して Apple iPad で表示できる eBook の販売を開始する方法をご説明します。詳しくは、ホワイトペーパー：InDesign から iPad 形式への書き出し（英語）を参照してください。

(cc) BY-NC-SR Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

リキッドレイアウトと代替レイアウト | CC、CS6

目次

推奨ワークフロー
リキッドレイアウト
　リキッドページルール
代替レイアウト
　代替レイアウトの作成

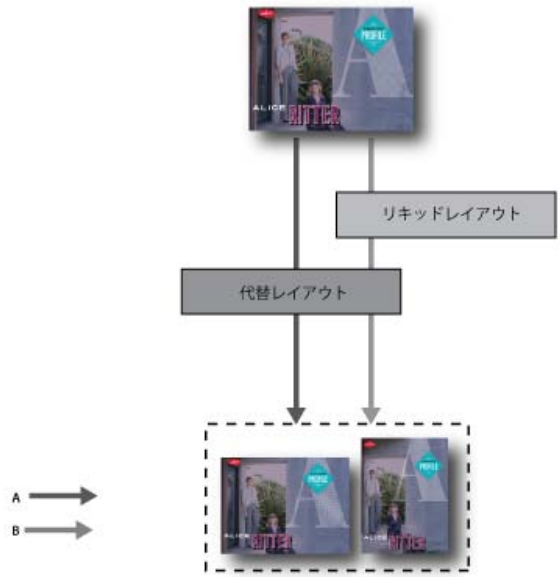
代替レイアウトとリキッドレイアウトページのルールを使用すると、複数のページサイズ、ページ方向、縦横比を柔軟に効率良くデザインできます。

複数の形式やサイズでパブリッシュするための、プロジェクトに最適なデザイン戦略として手作業、半自動、全自動を選択することができます。自動ワークフローへの依存度が高くなるほど、デザインに対するコントロールの範囲が狭まります。InDesign では、コストとコントロールのバランスをとれるよう、採用した戦略に対する機能拡張がいくつか用意されています。

注意： 自動リキッドレイアウトベースのパブリッシングは、準拠するビューアテクノロジーがないため、まだ行えません。

トップへ

推奨ワークフロー



A. 代替レイアウトワークフロー B. 代替レイアウトおよびリキッドページルール

手順 1：ターゲットデバイスと、それに対応するサイズおよび方向を選択します。次に、すべてのページのプライマリレイアウトを作成します。

手順 2：オプションで、アドビのリキッドレイアウトのページルールを追加して、コンテンツを異なる縦横比とサイズに適応させます。リキッドページルールは、複数のデバイスをターゲットにしている場合に便利です。リキッドページルールを使用しない場合、考えられるサイズと方向の組み合わせごとに一意のレイアウトを手動で作成する必要があります。詳しくは、リキッドレイアウトを参照してください。

手順 3：「代替レイアウトを作成」機能を使用して、同じドキュメントに新しいページを作成します。プライマリレイアウトおよびリキッドページルールに応じて、手動でレイアウトを調整することが必要になる場合があります。新しいサイズと方向ごとにこの手順を繰り返します。詳しくは、代替レイアウトを参照してください。

トップへ

リキッドレイアウト



リキッドレイアウト

リキッドレイアウトを使用すると、複数のページサイズ、方向およびデバイス用のコンテンツのデザインが簡単になります。リキッドページルールを適用すると、代替レイアウトを作成して、サイズ、方向、縦横比を変更したときにページのオブジェクトがどのように調整されるかを指定できます。

レイアウトや目標に応じて、異なるルールを異なるページに適用できます。一度にページに適用できるリキッドページルールは 1 つだけです。リキッドレイアウトは、特定のリキッドページルールのセット（拡大・縮小、中央揃え、ガイドごと、オブジェクトごとのページルール）の総称です。

リキッドページルールを使用して、出力サイズのコンテンツを調整します。

- 代替レイアウトを使用して、同じドキュメントに新しいページを作成する場合に、レイアウトを調整します。
- 既存のページサイズを変更するときに、レイアウトを調整します。これはこれまでのレイアウト調整機能よりも効率的です。

リキッドページルールを適用するには、ページツール を選択してページをクリックします。次に、コントロールバーでリキッドページルールを選択します。また、レイアウト／リキッドレイアウトを使用することもできます。

適用ルールの効果をプレビューするには、ページツールを使用し、ページハンドルをドラッグしてページのサイズを変更します。マウスを放すと、ページは元のサイズに戻ります。

ページのサイズを変更するには、Alt キー（Windows）または Option キー（Mac OS）を押しながらドラッグします。ただしマウスを使用してページのサイズを変更すると、目的のサイズからややずれたページになる場合があります。コントロールバーの高さおよび幅ウィジェットを使用した方が、正確にページのサイズを変更できます。



リキッドページルール
A.ページツールB. コントロールバーのリキッドページルール C. ページハンドル D. オブジェクトごとのルールのピン E. リキッドレイアウトパネル

リキッドページルール

異なるルールを異なるページに適用できます。一度にページに適用できるリキッドページルールは 1 つだけです。

このビデオでは、レイアウトをサイズ変更する際に、なし、拡大・縮小、中央揃えの各ルールを適用する方法を紹介します。また、「基準マスター」の意味を説明します。リキッドレイアウトの基本ルールの使い方：拡大・縮小、中央揃え、基準マスター（英語）を参照してください。

拡大・縮小 ページ上のすべてのコンテンツはグループのように処理され、ページのサイズを変更すると、すべての要素が比例して拡大・縮小されます。結果は、ハイビジョンテレビの画面のレターボックス処理やピラーボックス処理に似ています。



リキッドページルール：拡大・縮小

中央揃え ページ上のすべてのコンテンツは、幅や高さに関係なく自動的に中央に揃えられます。「拡大・縮小」とは異なり、コンテンツは元のサイズに留まります。計画とレイアウトを慎重に行って中央揃えルールを使用すれば、ビデオ制作のセーフゾーンでも同様の結果が得られます。



リキッドページルール：中央揃え

ガイドごと ガイドでは、ページ全体でコンテンツが調整される基準を示す直線が定義されます。

- スペースを追加できます。
- テキストフレームのサイズが変更されると、テキストが再フローされます（ただし拡大・縮小はされません）。
- 配置された画像でサイズが変更されると、画像を含むフレームのトリミング境界のサイズが変更されます。

リキッドガイドを追加するには、最初にページツールを選択し、次にガイドを定規から目的の位置までドラッグします。

ガイドごとのルールは、Illustrator、Fireworks および Flash の 3 および 9 スライスの拡大・縮小と似ています。リキッドレイアウトのガイドごとのルールの適用（英語）のビデオをご覧ください。

定規ガイドをリキッドガイドに変換するには、選択ツールを選択し、ガイドのリキッドガイドに切り替えアイコンをクリックします。リキッドガイドが破線として表示され、定規ガイドは実線として表示されます。



リキッドページルール：ガイドごと

オブジェクトごと 各オブジェクトのページ枠に対するリキッドのビヘイビアーのサイズと相対位置を、固定的または相対的に指定することができます。

- オブジェクトのバウンディングボックスまたはフレームの各辺は、対応するページ枠に対して固定するか、または可変に指定することができます。例えば、フレームの左側で左のページ枠との関係を保持することができます。
- 高さと幅は、「固定」するか、ページを基準にサイズ変更可能にすることができます。

リキッドレイアウトのオブジェクトごとのルールの適用（英語）のビデオをご覧ください。

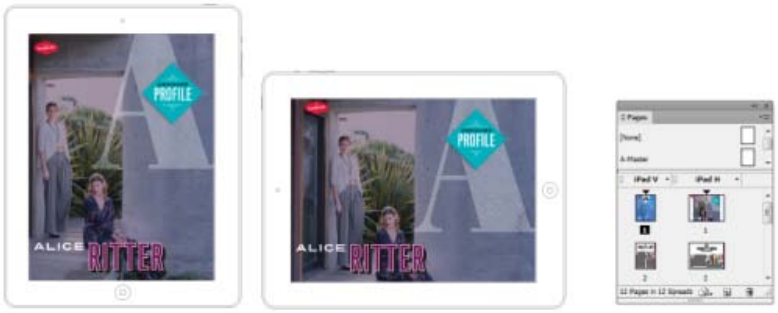


リキッドページルール：オブジェクトごと

トップへ

代替レイアウト

同じドキュメント内でプリントまたはデジタルパブリッシング用に異なるページサイズが必要な場合は、代替レイアウトを使用します。この機能を使用すると、各種サイズの印刷物を作成できます。また、Apple iPad や Android タブレットなどのデバイス向けに縦置きと横置きをデザインするためにも使用できます。



代替レイアウトとページパネル

リキッドレイアウトと組み合わせて使用すると、新しいページサイズや方向ごとにコンテンツを再レイアウトする手間が大幅に省けます。

簡単な概要は、ADOBE TV の代替レイアウトビデオを参照してください。

代替レイアウトの作成

代替レイアウトを作成するには、次のいずれかの操作を行います。

- レイアウト／代替レイアウトを作成を選択します。
- ページパネルメニューで「代替レイアウトを作成」を選択します。



代替レイアウトの作成

代替レイアウトを作成ダイアログボックスで、次のオプションを指定します。

名前 代替レイアウトの名前を入力します。

元のソースページ コンテンツが配置されているソースのレイアウトを選択します。

ページサイズ 代替レイアウトのページサイズを選択するか、カスタムサイズを入力します。

幅、高さ これらのフィールドには、代替レイアウトのサイズが表示されます。自分で値を入力することもできますが、そうするとページサイズがカスタムに変更されます。

方向 代替レイアウトの方向を選択します。縦置きと横置きを切り替えると、高さと幅が更新されます。

リキッドページルール 代替レイアウトに適用するリキッドページルールを選択します。ソースページのリキッドページ適用ルールを継承する場合は、既存の設定を選択します。新しいリキッドページルールを適用するには、別のルールを選択します。

ストーリーをリンク オブジェクトを配置し、ソースレイアウトの元のオブジェクトにリンクする場合は、このオプションを有効にします。元のオブジェクトを更新する場合は、リンクされているオブジェクトの更新を管理した方が簡単です。詳しくは、リンクコンテンツ | CC、CS6を参照してください。

テキストスタイルを新規スタイルグループにコピー すべてのテキストスタイルをコピーし、新しいグループに配置する場合にこのオプションを有効にします。このオプションは、様々なレイアウト間でテキストスタイルを変更しなければならない場合に便利です。

スマートテキストのリフロー処理 このオプションを有効にすると、テキストがプライマリテキストフローでオーバーセットになったときに、ページがドキュメントに自動的に追加されます。

(cc) BY-NC-SR Twitter™ および Facebook の投稿は Creative Commons の条項の対象ではありません。

法律上の注意事項 | プライバシーポリシー

Digital Publishing Suite の概要

Digital Publishing Suite の概要

ページの先頭へ

Digital Publishing Suite の概要

Adobe Digital Publishing Suite は、出版社が Apple iPad などのタブレットデバイス上で配布するパブリケーションを作成する際に使用する一連のツールおよびホスティングされたサービスです。このようなデジタルパブリケーションを *folios* と呼びます。

InDesign では、folio を作成してタブレットデバイスやデスクトッププレビューア上でプレビューできます。ただし、カスタムビューアを作成するには、Digital Publishig Suite のサブスクリプションが必要です。出版社は、デジタルパブリケーションを Apple Store や Android Market に送信して配布できます。Digital Publishig Suite のサブスクリプションを保持している出版社が使用できるように folio を作成できます。

Folio Builder パネルおよび Overlay Creator パネルで、タブレットデバイス用のデジタルパブリケーションを作成できます。

パネルにアクセスするには：

Overlay Creator ウィンドウ／エクステンション／Overlay Creator を選択します。

Folio Builder ウィンドウ／エクステンション／Folio Builder を選択します。

タブレットデバイス用デジタルパブリケーションの作成について詳しくは、www.adobe.com/go/learn_dps_help_jp を参照してください。

(cc) BY-NC-SR Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

アーティクル（CS5.5）

アーティクルの紹介
アーティクルの作成とコンテンツの追加
ドキュメント内のすべてのページアイテムをアーティクルに追加
アーティクルの管理
書き出しにアーティクルを含める

ページの先頭へ

アーティクルの紹介

アーティクルを使用すると、ページアイテム間の関係を簡単に作成できます。この関係を使用して、EPUB、HTML、アクセシビリティに対応した PDF を定義したり、コンテンツの順番を定義することができます。画像、グラフィック、テキストなど、レイアウト内の既存のページアイテムの組み合わせでアーティクルを作成できます。アーティクルを作成した後で、ページアイテムを追加、削除したり、順番を並べ替えたりできます。アーティクルを手動で作成するには、1 つ以上のページアイテムをアーティクルパネルのアーティクルにドラッグします。

コンテンツを一括してアーティクルに追加することもできます。選択したコンテンツを選択したアーティクルに追加する、ドキュメントのコンテンツ全体をアーティクルに追加することも可能です。

注意： *XML* 構造パネルで、*EPUB*、*HTML*、およびアクセシビリティに対応した *PDF* 書き出しワークフローにコンテンツを書き出す順番を決めることもできます。アーティクルパネルは、*XML* のスキルがなくても簡単で利用しやすいように設計されています。*XML* 構造パネルは、書き出し時にアーティクルパネルを使用する際のオプションとして提供されています。*XML* 用ドキュメントの構造化を参照してください。

ページの先頭へ

アーティクルの作成とコンテンツの追加

1. ウィンドウ／アーティクルを選択して、アーティクルパネルを表示します。
2. アーティクルに追加するページアイテムを選択します。

   空のアーティクルを作成する場合は、レイアウトでページアイテムを選択しないでください。
3. 次のいずれかの操作を行います。
   - アーティクルパネルメニューから「新規アーティクル」を選択します。
   - アーティクルパネルの下部にある新規アーティクルを作成 ✣ をクリックします。
   - ストーリーまたはページアイテムをアーティクルパネルにドラッグします。
4. 新規アーティクルダイアログボックスで、アーティクルの名前を入力します。
5. EPUB/HTML の書き出しにアーティクルを追加するため「書き出し時に含める」を選択します。

ページの先頭へ

ドキュメント内のすべてのページアイテムをアーティクルに追加

すべてのページアイテムをアーティクルに追加するには：

1. ウィンドウ／アーティクルを選択して、アーティクルパネルを表示します。
2. アイテムを追加するアーティクルを選択します。アーティクルを選択しないと、新しいアーティクルが作成されます。
3. Command キー（Mac OS）または Ctrl キー（Windows）を押しながらアーティクルパネルの ✣ をクリックします。
4. 新規アーティクルダイアログボックスが表示されたら、アーティクルの名前を入力します。
5. EPUB/HTML 書き出しにアーティクルを追加するため「書き出し時に含める」を選択します。

アーティクルを選択し、アーティクルパネルメニューから「選択したアーティクルにドキュメントコンテンツを追加」を選択します。

ページの先頭へ

アーティクルの管理

アーティクルパネルを使用して、アーティクルを管理できます。ページアイテムをアーティクルパネルにドラッグして、アーティクルに追加できます。アーティクルパネルのアイテムをドラッグして順番を変更したり、別のアーティクルに移動したりできます。

アーティクルパネルメニューにもコンテンツを管理するオプションがあります。

ページの先頭へ

書き出しにアーティクルを含める

アーティクルを作成し、EPUB または HTML に書き出すときに含めるアーティクルとして選択できます。デフォルトでは、すべてのアーティクルが書き出し対象として選択されます。

書き出し時にアーティクルを含めるには、アーティクルパネルでアーティクルを選択し、次のいずれかの操作を行います。

- アーティクルの横のチェックボックスを選択します。
- アーティクルパネルメニューから「アーティクルオプション」を選択し、「書き出し時に含める」を選択します。

(cc) BY-NC-SR Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

EPUB へのコンテンツの書き出し | CS5.5

EPUB のリソース
EPUB の一般書き出しオプション
EPUB の画像オプション
EPUB の目次オプション

ドキュメントまたはブックを再フロー可能な EPUB 形式の eBook に書き出すことができます。これは Adobe Digital Editions リーダーソフトウェア、およびその他の eBook リーダーソフトウェアと互換性があります。

1. 次のいずれかの操作を行います。
   - ドキュメントを開き、ファイル／書き出しを選択します。
   - ブックを開き、ブックパネルメニューで「ブックを EPUB に書き出し」を選択します。
2. ファイル名と場所を指定します。
3. 「ファイルの種類」（Windows）または「形式」（Mac OS）から「EPUB」を選択し、「保存」をクリックします。
4. EPUB 書き出しオプションダイアログボックスから、「一般」、「画像」および「目次」セクションで目的のオプションを指定して、「OK」をクリックします。

XHTML ベースのコンテンツを含む単一の .epub ファイルが作成されます。書き出されたファイルにカバー画像が含まれるように指定することもできます。カバー画像は、画像から作成されるか、指定したドキュメント（ブックを選択した場合は、スタイルソースドキュメント）の最初のページをラスタライズして作成されます。サムネール画像は、EPUB リーダーや Digital Editions リーダーのライブラリビューでブックを表すために使用されます。ファイルを表示するには、EPUB リーダーが必要です。代わりに Adobe Digital Editions ソフトウェアを使用することもできます。Digital Editions ソフトウェアはアドビ システムズ社の Web サイトから無償でダウンロードできます。

.epub ファイルは本質的には *.zip* ファイルです。*.epub* ファイルのコンテンツを表示および編集するには、拡張子を *.epub* から *.zip* に変更して、コンテンツを抽出します。これは *CSS* ファイルを編集する場合に特に便利です。

注意： テキストフレーム、画像が配置されているオブジェクトなどの *InDesign* オブジェクトの配列は、「ページレイアウトを基準にする」オプションを選択すると常に書き出されます。空のオブジェクトは、オブジェクト書き出しオプションを使用して設定を *InDesign* オブジェクトに適用して *JPEG*、*GIF*、または *PNG* として書き出すように指定しない限り、書き出されません。

ページの先頭へ

EPUB のリソース

EPUB 形式について詳しくは、次のリンクを参照してください。

- EPUB 形式について詳しくは、www.idpf.org を参照してください。
- Digital Editions リーダーは、www.adobe.com/jp/products/digitaleditionsから無料でダウンロードできます。
- Digital Editions について詳しくは、Digital Editions（英語） のブログを参照してください。
- Kindle 形式での書き出しについては、ホワイトペーパー：InDesign から Kindle 形式への書き出し（英語）の PDF を参照してください。
- InDesign ファイルを EPUB 形式に変換して Apple iPad で表示できる eBook の販売を開始する方法をご説明します。詳しくは、InDesign to iPad white paper（英語）を参照してください。

ページの先頭へ

EPUB の一般書き出しオプション

EPUB 書き出しオプションダイアログボックスの「一般」セクションには、次のオプションがあります。

ドキュメントメタデータを含む 書き出すファイルに、ドキュメント（ブックを選択した場合はスタイルソースドキュメント）のメタデータを含めます。

出版社の項目を追加 eBook メタデータに含める発行側の情報を指定します。eBook を受け取ったユーザーが発行者の Web サイトにアクセスできるように、発行者の URL を指定できます。

固有の識別子 EPUB ドキュメントにはそれぞれ固有の識別子が必要です。固有の識別子の属性を指定できます。このフィールドを空白のままにすると、固有の識別子が自動的に作成されます。

EPUB カバー eBook のカバー画像を指定します。次のいずれかを選択します。

カバー画像なし このオプションを選択すると、eBook にカバー画像が追加されません。

最初のページをラスタライズ このオプションを選択すると、InDesign ドキュメントの最初のページをラスタライズして作成された画像ファイルがカバーとして使用されます。

既存の画像ファイルを使用 このオプションを選択すると、カバーに使用する画像を指定できます。

配列 ページアイテムの書き出し順を指定できます。

ページレイアウトを基準にする

ページ上のアイテムの位置によって読み上げ順序が決まります。

「ページレイアウトを基準にする」を選択した場合、ページオブジェクトの読み上げ順序は左から右へおよび上から下へ、になります。場合によっては（特に、複雑な複数段組ドキュメントの場合は）、デザイン要素が目的の読み上げ順序に表示されないことがあります。コンテンツを再配置およびフォーマットするには、Dreamweaver を使用します。

（アジア言語版のみ）「ページレイアウトを基準にする」を選択した場合、ページオブジェクトの読み上げ順序は、ドキュメントの綴じ方（左から右または右から左）に従って決定されます。場合によっては（特に、複雑な複数段組ドキュメントの場合は）、書き出されたデザイン要素が目的の読み上げ順序に表示されないことがあります。コンテンツを再配置およびフォーマットするには、Dreamweaver を使用します。

XML 構造と同じ

構造ウィンドウでのタグの順序に従って読み取り順序が決定されます。詳しくは、ページアイテムのタグ付けを参照してください。

アーティクルパネルと同じ

アーティクルパネルのエレメントの順序に従って読み取り順序が決定されます。チェック済みのアーティクルのみが書き出されます。詳しくは、書き出しにアーティクルを含める（英語）を参照してください。

ブックマージン 単純なマージンを EM またはピクセルで指定します。EM スペースでマージンを指定する方がマルチスクリーンとの互換性に適しています。上下左右のすべてのマージンに同じ値が適用されます。

記号 箇条書きの段落をリストアイテムに変換するには「番号なしリストにマップ」を選択します。リストアイテムは HTML で <ul> タグを使用してフォーマットされます。<p> タグを使用して箇条書き記号をテキストとしてフォーマットするには「テキストに変換」を選択します。InDesign のネイティブの自動箇条書きを使用した場合は、小段落の箇条書きも対象となります。

番号 HTML ファイルでの番号の変換方法を指定します。InDesign の自動番号リストを使用した場合は、下位レベルの段落の箇条書きも対象となります

番号付きリストにマップ 自動番号リストをリストアイテムに変換します。リストアイテムは HTML で <ol> タグを使用してフォーマットされます。

静的番号付きリストにマップ 自動番号リストをリストアイテムに変換しますが、InDesign で段落に現在付けられている番号に基づいて <value> 属性を割り当てます。

テキストに変換 自動番号リストを、番号を含め、テキストとして現在の番号で始まる段落に変換します。

書き出した後 **EPUB** を表示 Adobe Digital Editions リーダーを起動します（存在する場合）。

ページの先頭へ

EPUB の画像オプション

Digital Editions 書き出しオプションダイアログボックスの「画像」セクションには、次のオプションがあります。画像変換メニューから、HTML への画像の書き出し方法を指定します。

レイアウトのアピアランスを保持 オンにすると、画像オブジェクト属性がレイアウトから継承されます。

解像度（**ppi**） 画像の解像度を ppi で指定します。オペレーティングシステムは 72 ppi または 96 ppi で標準化されていますが、モバイルデバイスは 132 ppi（iPad） ～ 172 ppi（Sony リーダー）、300 ppi（iPhone 4）以上と解像度が異なります。選択したオブジェクトごとに ppi 値を指定できます。値には、72、96、150（現在のすべての eBook デバイスの平均）、および 300 があります。

画像サイズ 画像サイズを固定するか、ページを基準にして変更するかを指定します。「ページを基準とする相対指定」を選択すると、InDesign ページ幅を基準として画像サイズに基づいて相対的なパーセント値が設定されます。このオプションを使用すると、読み取り領域の幅に基づいて縦横比率を維持したまま画像サイズが変更されます。

画像の整列および間隔 画像の左揃え、中央揃え、右揃え、上および下の間隔を指定します。

改ページを挿入 オンにすると、改ページが画像に挿入されます。改ページは、画像の前、画像の後、または画像の前後に挿入できます。

設定をアンカー付きオブジェクトに適用 オンにすると、これらの設定がアンカー付きオブジェクトに適用されます。

画像変換 ドキュメントの最適化画像を GIF、JPEG または PNG のいずれに変換するかを選択します。各画像でどれを使用するか、InDesign で決定されるようにするには、「自動」を選択します。「PNG」を選択すると、画像圧縮設定が無効になります。データ損失がない画像、または透明を含む画像には「PNG」を使用します。

GIF オプション（パレット） 最適化 GIF ファイルを作成する場合の、InDesign でのカラーの処理を調整します。GIF 形式は、256 色以下のカ

ラーパレットを使用しています。

「使用中の色に合わせて割り付ける（ディザなし）」を選択すると、ディザ処理（色の小さな点を混ぜて存在しない色を表現する）をせずに、グラフィックで中心的に使われているカラーを抽出してパレットを作成します。「Web」を選択すると、Web セーフカラーのパレットを作成します（Windows と Mac OS のシステムカラーのサブセットです）。組み込みのカラーパレットを使用してパレットを作成するには、「システム（Windows）」または「システム（Mac OS）」を選択します。これにより、予想外の結果になることがあります。

「インターレース」を選択すると、画像は順次、表示されていない行を埋めるようにして徐々に表示されます。このオプションを選択していない場合、ぼやけて表示されていた画像が、元の解像度に近くなるにつれて徐々に明確になります。

JPEG オプション（画質） 作成する JPEG 画像ごとの圧縮率（ファイルサイズをより小さくするため）および画質を決定します。低解像度の場合はファイルサイズは最小になり、画質も最も低くなります。

JPEG オプション（形式） HTML ページを開いてから、どのくらい速く JPEG 画像が表示されるかを指定します。「プログレッシブ」を選択すると、JPEG 画像は Web ブラウザーにダウンロードされるにしたがって徐々に詳細が表示されます。このオプションを指定して作成されたファイルは、サイズがやや大きくなります。また、表示のためによりメモリが要求されます。「ベースライン」を選択すると JPEG ファイルがダウンロードされてから表示されます。ダウンロードが終了するまでは、JPEG ファイルの代わりにプレースホルダーが表示されます。

オブジェクト書き出し設定を無視 個々の画像に適用されたオブジェクト書き出しオプションを無視します。詳しくは、オブジェクト書き出しオプションの適用を参照してください。

ページの先頭へ

EPUB の目次オプション

EPUB オプションダイアログボックスの「詳細」セクションには、次のオプションがあります。

形式**EPUB** コンテンツの形式 XHTML 形式と DTBook 形式のどちらを使用するかを指定します。DTBook は視覚障害を持つエンドリーダーのための特殊な形式です。

InDesign の目次スタイルを使用 このオプションを選択すると、選択した目次スタイルに基づいて目次が生成されます。目次スタイルメニューでは、eBook 内で目次を構築する際に使用する目次スタイルを指定します。レイアウト／目次スタイルを選択して eBook 用の特別な目次スタイルを作成することもできます。

ドキュメントを段落スタイルで分割 指定した段落スタイルで eBook を分割することができます。分割すると EPUB パッケージの HTML ファイル数が増えますが、長いファイルを分割すると EPUB リーダーのパフォーマンスが向上します。

脚注を段落の後に配置 オンにすると、段落の後に脚注が配置されます。オフにすると、脚注は文末脚注に変換されます。

強制改行を削除 オンにすると、書き出した eBook 内のソフトリターンがすべて削除されます。

CSS を生成 カスケーディングスタイルシート（CSS）は、Web ページの外観を制御するフォーマットルールの集まりです。ページのフォーマットに CSS を使用すると、コンテンツと表示を切り分けることができます。

> スタイル定義を含む EPUB 形式で書き出すときに、編集可能な CSS スタイルのリストを作成できます。
>
> ローカルオーバーライドを保持 このオプションを選択した場合、斜体や太字などのローカルの書式設定が含まれます。
>
> 埋め込みフォントを含む 埋め込み可能なすべてのフォントを eBook に含めます。各フォントには、 埋め込みが可能かどうかを示す埋め込みビット が含まれています。

スタイル名のみ EPUB スタイルシートに未定義のスタイル名のみが含まれます。

既存の **CSS** ファイルを使用 既存の CSS スタイルシートの URL を指定します。通常は、「/styles/style.css」などの相対 URL です。InDesign では、CSS の存在や有効性は検証されないため、CSS の設定を確認する必要があります。

(cc) BY-NC-SR Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

EPUB へのコンテンツの書き出し | CS6

概要
EPUB への書き出し
EPUB 書き出しオプション
  EPUB の一般オプション
  EPUB の画像オプション
  EPUB の詳細オプション
EPUB のリソース

ページの先頭へ

概要

レイアウトを EPUB に書き出す前に、適切に書き出されるように調整できます。

- アンカー付きグラフィックの追加 - グラフィックをテキストフローにアンカー付けすることで、書き出されたテキストに対するグラフィックの相対的な位置を制御します。詳しくは、アンカー付きオブジェクトを参照してください。
- オブジェクト書き出しオプション - 配置したオブジェクトの書き出しオプションを指定します。詳しくは、オブジェクト書き出しオプション | CC、CS6、CS5.5 を参照してください。
- スタイルを書き出しタグにマップ - 文字スタイルと段落スタイルを HTML タグとクラスにマップします。詳しくは、スタイルを書き出しタグにマップ | CC、CS6、CS5.5 を参照してください。
- コンテンツと順序の選択 - アーティクルパネルを使用して、書き出すコンテンツと書き出し順序を選択します。詳しくは、アーティクル（CS5.5）を参照してください。また、ページレイアウトや XML 構造に基づいて、コンテンツの書き出し順序を選択することもできます。

ページの先頭へ

EPUB への書き出し

ドキュメントまたはブックを再フロー可能な EPUB 形式の eBook に書き出すことができます。これは eBook リーダーソフトウェアと互換性があります。

1. 次のいずれかの操作を行います。
   - ドキュメントを開き、ファイル／書き出しを選択します。
   - ブックを開き、ブックパネルメニューで「ブックを EPUB に書き出し」を選択します。
2. ファイル名と場所を指定します。
3. 「ファイルの種類」（Windows）または「形式」（Mac OS）から「EPUB」を選択し、「保存」をクリックします。
4. EPUB 書き出しオプションダイアログボックスから、「一般」、「画像」および「詳細」セクションで目的のオプションを指定して、「OK」をクリックします。

XHTML ベースのコンテンツを含む単一の .epub ファイルが作成されます。書き出されたファイルにカバー画像が含まれるように指定することもできます。カバー画像は、画像から作成されるか、指定したドキュメント（ブックを選択した場合は、スタイルソースドキュメント）の最初のページをラスタライズして作成されます。サムネール画像は、EPUB リーダーや Digital Editions リーダーのライブラリビューでブックを表すために使用されます。ファイルを表示するには、EPUB リーダーが必要です。代わりに Adobe Digital Editions ソフトウェアを使用することもできます。Digital Editions ソフトウェアはアドビ システムズ社の Web サイトから無償でダウンロードできます。

.epub ファイルは本質的には *.zip* ファイルです。*.epub* ファイルのコンテンツを表示および編集するには、拡張子を *.epub* から *.zip* に変更して、コンテンツを抽出します。これは *CSS* ファイルを編集する場合に特に便利です。

注意： テキストフレーム、画像が配置されているオブジェクトなどの *InDesign* オブジェクトの配列は、「ページレイアウトを基準にする」オプションを選択すると常に書き出されます。空のオブジェクトは、オブジェクト書き出しオプションを使用して設定を *InDesign* オブジェクトに適用して *JPEG*、*GIF*、または *PNG* として書き出すように指定しない限り、書き出されません。

EPUB 書き出しオプション

EPUB の一般オプション

EPUB 書き出しオプションダイアログボックスの「一般」セクションには、次のオプションがあります。

バージョン EPUB のバージョンを指定します。

EPUB2.0.1 EPUB 2.0.1 は 2007 年に IDPF によって承認された規格です。この形式は、幅広いモバイルデバイスでサポートされています。

EPUB3.0 EPUB 3.0 は 2011 年に IDPF によって承認された規格です。この形式では、オーディオ、ビデオ、Javascript、日本語の縦組みもサポートされています。ただし、これらの新しい機能は、EPUB 3.0 規格をサポートしていないリーダーおよびデバイスでは動作しません。

EPUB 3.0（レイアウト付き） レイアウト付きの EPUB3.0 は、アドビ システムズ社によって作成されて試験的に導入されている形式です。この形式では、複数の段組、テキストの回り込みなどの制御がサポートされているため、レイアウトを意図したとおりに再現できます。この機能は特定のビューアテクノロジーでのみ動作します。

カバー eBook のカバー画像を指定します。次のいずれかを選択します。

なし このオプションを選択すると、eBook にカバー画像が追加されません。

最初のページをラスタライズ このオプションを選択すると、InDesign ドキュメントの最初のページをラスタライズして作成された画像ファイルがカバーとして使用されます。

画像を選択 このオプションを選択すると、カバーに使用する画像を指定できます。

目次スタイル このオプションを選択すると、選択した目次スタイルに基づいて目次が生成されます。目次スタイルメニューでは、eBook 内で目次を構築する際に使用する目次スタイルを指定します。レイアウト／目次スタイルを選択して eBook 用の特別な目次スタイルを作成することもできます。

マージン 上、下、左、右マージンの値をピクセル単位で指定します。各マージンに同じ値を使用する場合は、固定のアイコンを使用します。

コンテンツの順序 ページアイテムの書き出し順序を指定します。

ページレイアウトを基準にする ページ上のアイテムの位置によって読み上げ順序が決まります。
「ページレイアウトを基準にする」を選択した場合、ページオブジェクトの読み上げ順序は左から右へおよび上から下へ、になります。場合によっては（特に、複雑な複数段組ドキュメントの場合は）、デザイン要素が目的の読み上げ順序に表示されないことがあります。コンテンツを再配置およびフォーマットするには、Dreamweaver を使用します。
（アジア言語版のみ）「ページレイアウトを基準にする」を選択した場合、ページオブジェクトの読み上げ順序は、ドキュメントの綴じ方（左から右または右から左）に従って決定されます。場合によっては（特に、複雑な複数段組ドキュメントの場合は）、書き出されたデザイン要素が目的の読み上げ順序に表示されないことがあります。コンテンツを再配置およびフォーマットするには、Dreamweaver を使用します。

XML 構造と同じ 構造ウィンドウでのタグの順序に従って読み取り順序が決定されます。詳しくは、ページアイテムのタグ付けを参照してください。

アーティクルパネルと同じ アーティクルパネルのエレメントの順序に従って読み取り順序が決定されます。チェック済みのアーティクルのみが書き出されます。詳しくは、書き出しにアーティクルを含めるを参照してください。

脚注を段落の後に配置 オンにすると、段落の後に脚注が配置されます。オフにすると、脚注は文末脚注に変換されます。

強制改行を削除 オンにすると、書き出した eBook 内のソフトリターンがすべて削除されます。

記号 箇条書きの段落をリストアイテムに変換するには「番号なしリストにマップ」を選択します。リストアイテムは HTML で <ul> タグを使用してフォーマットされます。<p> タグを使用して箇条書き記号をテキストとしてフォーマットするには「テキストに変換」を選択します。InDesign のネイティブの自動箇条書きを使用した場合は、小段落の箇条書きも対象となります。

番号 HTML ファイルでの番号の変換方法を指定します。InDesign の自動番号リストを使用した場合は、下位レベルの段落の箇条書きも対象となります

> 番号付きリストにマップ 自動番号リストをリストアイテムに変換します。リストアイテムは HTML で <ol> タグを使用してフォーマットされます。
>
> 静的番号付きリストにマップ 自動番号リストをリストアイテムに変換しますが、InDesign で段落に現在付けられている番号に基づいて <value> 属性を割り当てます。
>
> テキストに変換 自動番号リストを、番号を含め、テキストとして現在の番号で始まる段落に変換します。

書き出した後 **EPUB** を表示 EPUB の読み取り用にアプリケーションが選択されている場合に、そのデフォルトアプリケーションで EPUB を開きます。

EPUB の画像オプション

EPUB 書き出しオプションダイアログボックスの「画像」セクションには、次のオプションがあります。画像変換メニューから、HTML への画像の書き出し方法を指定します。

レイアウトのアピアランスを保持 オンにすると、画像オブジェクト属性がレイアウトから継承されます。

解像度（**ppi**） 画像の解像度を ppi で選択します。オペレーティングシステムは 72 ppi または 96 ppi で標準化されていますが、モバイルデバイスは 132 ppi（iPad） ～ 172 ppi（Sony リーダー）、300 ppi（iPhone 4）以上と解像度が異なります。選択したオブジェクトごとに ppi 値を選択できます。値には、72、96、150（現在のすべての eBook デバイスの平均）、および 300 があります。

画像サイズ 画像サイズを固定するか、ページを基準にして変更するかを指定します。「ページを基準とする相対指定」を選択すると、InDesign ページ幅を基準として画像サイズに基づいて相対的なパーセント値が設定されます。このオプションを使用すると、読み取り領域の幅に基づいて縦横比率を維持したまま画像サイズが変更されます。

画像の整列および間隔 画像の左揃え、中央揃え、右揃え、前後の間隔を指定します。

改ページを挿入 オンにすると、改ページが画像に挿入されます。改ページは、画像の前、画像の後、または画像の前後に挿入できます。

設定をアンカー付きオブジェクトに適用 オンにすると、これらの設定がアンカー付きオブジェクトに適用されます。

画像変換 ドキュメントの最適化画像を GIF、JPEG または PNG のいずれに変換するかを選択します。各画像でどれを使用するか、InDesign で決定されるようにするには、「自動」を選択します。「PNG」を選択すると、画像圧縮設定が無効になります。データ損失がない画像、または透明を含む画像には「PNG」を使用します。

GIF オプション（パレット） 最適化 GIF ファイルを作成する場合の、InDesign でのカラーの処理を調整します。GIF 形式は、256 色以下のカラーパレットを使用しています。

「使用中の色に合わせて割り付ける（ディザなし）」を選択すると、ディザ処理（色の小さな点を混ぜて存在しない色を表現する）をせずに、グラフィックで中心的に使われているカラーを抽出してパレットを作成します。「Web」を選択すると、Web セーフカラーのパレットを作成します（Windows と Mac OS のシステムカラーのサブセットです）。組み込みのカラーパレットを使用してパレットを作成するには、「システム（Windows）」または「システム（Mac OS）」を選択します。これにより、予想外の結果になることがあります。

「インターレース」を選択すると、画像は順次、表示されていない行を埋めるようにして徐々に表示されます。このオプションを選択していない場合、ぼやけて表示されていた画像が、元の解像度に近くなるにつれて徐々に明確になります。

JPEG オプション（画質） 作成する JPEG 画像ごとの圧縮率（ファイルサイズをより小さくするため）および画質を決定します。低解像度の場合はファイルサイズは最小になり、画質も最も低くなります。

JPEG オプション（形式） HTML ページを開いてから、どれぐらい速く JPEG 画像が表示されるかを指定します。「プログレッシブ」を選択すると、JPEG 画像は Web ブラウザーにダウンロードされるにしたがって徐々に詳細が表示されます。このオプションを指定して作成されたファイルは、サイズがやや大きくなります。また、表示のためによりメモリが要求されます。「ベースライン」を選択すると JPEG ファイルがダウンロードされてから表示されます。ダウンロードが終了するまでは、JPEG ファイルの代わりにプレースホルダーが表示されます。

オブジェクト書き出し設定を無視 個々の画像に適用されたオブジェクト書き出しオプションを無視します。詳しくは、オブジェクト書き出しオプションの適用を参照してください。

EPUB の詳細オプション

EPUB オプションダイアログボックスの「詳細」セクションには、次のオプションがあります。

ドキュメントの分割 指定した段落スタイルで eBook を分割することができます。分割すると EPUB パッケージの HTML ファイル数が増えますが、長いファイルを分割すると EPUB リーダーのパフォーマンスが向上します。

ドキュメントメタデータを含む 書き出すファイルに、ドキュメント（ブックを選択した場合はスタイルソースドキュメント）のメタデータを含めます。

> 出版社 eBook メタデータに含める発行側の情報を指定します。eBook を受け取ったユーザーが発行者の Web サイトにアクセスできるように、発行者の URL を指定できます。
>
> 固有 **ID** EPUB ドキュメントにはそれぞれ固有の識別子が必要です。固有の識別子は自動的に作成され、表示されます。この識別子を削除し、自分で固有の識別子を指定することもできます。

CSS オプション カスケーディングスタイルシート（CSS）は、Web ページの外観を制御するフォーマットルールの集まりです。ページのフォーマットに CSS を使用すると、コンテンツと表示を切り分けることができます。

> スタイル定義を含む EPUB 形式で書き出すときに、編集可能な CSS スタイルのリストを作成できます。
>
> ローカルオーバーライドを保持 このオプションを選択した場合、斜体や太字などのローカルの書式設定が含まれます。
>
> 埋め込みフォントを含む 埋め込み可能なすべてのフォントを eBook に含めます。各フォントには、埋め込みが可能かどうかを示す埋め込みビットが含まれています。
>
> スタイルシートを追加 既存の CSS スタイルシートの URL を指定します。通常は、「/styles/style.css」などの相対 URL です。InDesign では、CSS の存在や有効性は検証されないため、CSS の設定を確認する必要があります。

スクリプトを追加 既存の JavaScript への URL を指定します。InDesign では、JavaScript の存在や有効性は検証されないため、JavaScript の設定を確認する必要があります。

ページの先頭へ

EPUB のリソース

EPUB 形式について詳しくは、次のリンクを参照してください。

- EPUB 仕様について詳しくは、www.idpf.org（英語）を参照してください。

- Digital Editions リーダーは、www.adobe.com/jp/products/digitaleditions（英語）から無料でダウンロードできます。
- Digital Editions について詳しくは、Digital Editions（英語） のブログを参照してください。
- Kindle 形式での書き出しについては、ホワイトペーパー：InDesign から Kindle 形式への書き出し（英語）（PDF）を参照してください。
- InDesign ファイルを EPUB 形式に変換して Apple iPad で表示できる eBook の販売を開始する方法をご説明します。詳しくは、InDesign to iPad white paper（英語）を参照してください。

Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

自動化

スクリプト

InDesign でのスクリプト
スクリプトパネルとスクリプトラベルパネルの概要
サンプルスクリプトの実行

ページの先頭へ

InDesign でのスクリプト

スクリプトは、様々な作業を実行するのに最適なツールです。一般的な作業を自動化する簡単なスクリプトもあれば、まったく新しい機能となる複雑なスクリプトもあります。独自のスクリプトを作成したり、他のユーザーが作成したスクリプトを実行したりできます。スクリプトについて詳しくは、http://www.adobe.com/devnet/indesign/documentation.html にある『スクリプティングガイド』、スクリプティングの要件、その他の開発者向けリソースをご覧ください。

『スクリプティングガイド』には、スクリプトの説明やチュートリアルが収録されています。また、選択されたオブジェクトの周囲にガイドを描くスクリプトなど、多数の便利なスクリプトが用意されています。これらのスクリプトの一部は、スクリプトパネルにデフォルトで表示されます。

ページの先頭へ

スクリプトパネルとスクリプトラベルパネルの概要

InDesign には、スクリプトパネルとスクリプトラベルパネルの 2 つのスクリプト用のパネルがあります。

スクリプトパネルを使用すると、InDesign 内からスクリプトを実行できます。スクリプトパネルには、InDesign アプリケーションフォルダー内の Scripts フォルダー、および Preferences フォルダー内の Scripts フォルダーにあるスクリプトが表示されます。スクリプトを作成または入手した場合、Scripts Panel フォルダーにスクリプトを配置することによって、スクリプトパネルにそのスクリプトが表示されます。

Mac OS ユーザー/*[*ユーザー名*]*/ライブラリ/Preferences/Adobe InDesign/*[*バージョン*]*/*[*言語*]*/Scripts/Scripts Panel

Windows XP Documents and Settings*[*ユーザー名*]*\Application Data\Adobe\InDesign*[*バージョン*]**[*言語*]*\Scripts\Scripts Panel

Windows Vista および Windows 7 Users*[*ユーザー名*]*\AppData\Roaming\Adobe\InDesign*[*バージョン*]**[*言語*]*\Scripts\Scripts Panel

Scripts Panel フォルダーをすばやく検索するには、スクリプトパネルでスクリプトを右クリック（*Windows*）または *Control* キーを押しながらクリック（*Mac OS*）し、「エクスプローラーで表示」（*Windows*）または「*Finder* で表示」（*Mac OS*）を選択します。

スクリプトパネルでスクリプトをダブルクリックすればスクリプトを実行できますが、クイック適用を使用してスクリプトを実行することもできます。

スクリプトラベルパネルでは、テキストフレームやシェイプなどのページアイテムのラベルを指定できます。ページアイテムのラベルの指定は、オブジェクトを識別する必要があるスクリプトを作成する場合に特に役立ちます。

スクリプトの追加、実行、編集について詳しくは、アドビ システムズ社の *Web* サイト（*http://www.adobe.com/devnet/indesign/documentation.html*）で『スクリプティングガイド』を参照してください。

スクリプトパネルを開く

- ウィンドウ／ユーティリティ／スクリプトを選択します。

スクリプトラベルパネルを開く

- ウィンドウ／ユーティリティ／スクリプトラベルを選択します。

ページの先頭へ

サンプルスクリプトの実行

InDesign では次のようなスクリプトを実行できます。

AddGuides 選択したオブジェクトの周囲にガイドを追加します。

AddPoints 選択したオブジェクトのパスにアンカーポイントを追加します。

AdjustLayout 右側／左側のページで指定した距離だけオブジェクトを移動します。

AlignToPage オブジェクトをページ上の指定した位置に揃えます。

AnimationEncyclopedia アニメーションの様々なプロパティを設定したボタンを自動作成します。

BreakFrame 選択したテキストフレームとその内容をストーリーから削除します。

CornerEffects 選択したアイテムのパスを様々な角の効果を使用して再描画します。角の効果は、パス上の選択したポイントに適用できます。

CreateCharacterStyles 選択したテキストに基づいて完成した文字スタイルを定義します。

CropMarks 選択したオブジェクトの周囲に内トンボやセントートンボを追加します。

ExportAllStories ドキュメントのすべてのストーリーを一連のテキストファイルとして書き出します。

FindChangeByList タブ区切りテキストファイルを読み込んで、一連の一般的なテキスト検索／置換操作を実行します。

ImageCatalog 指定したフォルダー内のすべてのグラフィックを「コンタクトシート」レイアウトで配置します。

MakeGrid 選択したオブジェクトを分割または複製することによってグリッドを作成します。

Neon 選択したオブジェクトに「ブレンド」の効果を適用します。

PathEffects 選択したオブジェクトのパスのアンカーポイントの位置を変更して高度な効果を追加します。

PlaceMultipagePDF PDF のすべてのページを配置します。

SelectObjects オブジェクトの種類ごとにアクティブなスプレッド上のオブジェクトを選択します。

SortParagraphs 選択範囲内の段落をアルファベット順にソートします。

SplitStory 選択したストーリー内のテキストフレームを、個別のリンクされていないテキストフレームに分割します。

TabUtilities 選択したテキストにタブおよびインデントを適用します。

これらのサンプルスクリプトのインストールおよび使用について詳しくは、www.adobe.com/go/learn_id_scripting_readme_cs5_jp（PDF）を参照してください。

関連項目

- InDesign でのスクリプト

Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

プラグイン

プラグインのインストール
Extension Manager によるプラグインの設定
「アドオンを参照」メニューを使用した **Creative Cloud** アドオンとの統合

ページの先頭へ

プラグインのインストール

InDesign プラグインモジュールとは、Adobe ソフトウェアに機能を追加するためにアドビ システムズ社が独自に開発、または、他のソフトウェア開発業者がアドビ システムズ社と共同開発したプログラムです。Adobe ソフトウェアには、読み込み、書き出し、自動化および特殊効果のためのプラグインが多数付属し、Plug-Ins フォルダーに自動的にインストールされます。InDesign のほとんどの機能は、プラグインによって提供されます。

プラグインモジュールをインストールすると、その機能がメニュー、ダイアログボックス、またはパネルのオプションとして表示されます。

1. インストーラーが提供される場合は、それを使ってプラグインモジュールをインストールします。インストーラーがない場合は、モジュールのコピーを InDesign アプリケーションフォルダー内の Plug-Ins フォルダーにドラッグします。
2. プラグインに付属しているインストール手順に従います。

注意： *InDesign* で使用できるように設計されている、あらゆるプラグインを利用できます。*Adobe* テクニカルサポートは、プラグインに関連のある問題を切り離すサポートをします。ただし、その問題がサードパーティ製のプラグインに起因していると判明した場合は、そのプラグインの製造元に問い合わせてサポートを受けてください。

ページの先頭へ

Extension Manager によるプラグインの設定

インストールされているプラグインの設定確認とカスタマイズは、Extension Manager アプリケーションを使用して実行します。例えば、インストールされているプラグインの詳細な情報の取得、異なる仕事やワークグループごとのプラグインセットのカスタマイズ、また障害の解決のためにプラグインをオフにすることができます。プラグインを無効にすることもできます。

- ヘルプ／エクステンションの管理（Windows）または InDesign／エクステンションの管理（Mac OS）を選択します。

Extension Manager の使用について詳しくは、Extension Manager アプリケーションのヘルプを参照してください。

ページの先頭へ

「アドオンを参照」メニューを使用した Creative Cloud アドオンとの統合

Adobe Add-ons Web サイトでプラグインや拡張機能などを検索して Adobe InDesign や他の製品にインストールできます。

- InDesign に追加プラグインをアドオンするには、ウィンドウ／アドオンを参照を選択します。アドオンは、無料のものも有料のものもあります。InDesign 用の Creative Cloud アプリケーションからインストールまたは取得したプラグインは、今回のワークフローから InDesign に同期されます。「アドオンを参照」Web ページに移動します。
- インストールまたは取得したアドオンは、ウィンドウ／拡張機能／ダウンロード、またはアドオンの説明を検索する場所に示された場所に表示されます。ダウンロードしたアドオンを表示するには、「アドオンを参照」Web ページに移動します。Web ページの左側のペインに、「My Add-on を見る」というオプションがあります。各アドオンがサポートされている製品とバージョンも表示されます。

ファイルの同期が有効な場合、「アドオンを参照」は Creative Cloud アカウントと同期します。

(cc) BY-NC-SR Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

データ結合

データ結合について
データ結合の基本手順
データソースファイルについて
データソースファイルへの画像フィールドの追加
ターゲットドキュメントについて
データソースの選択
データフィールドの挿入
マスターページへのデータフィールドプレースホルダーの追加
データソースファイルの更新、削除または置き換え
ターゲットドキュメントのレコードのプレビュー
プレビューのオン／オフの切り替え
データフィールドプレースホルダーの編集
コンテンツ配置オプションの設定
レコードの結合
データフィールドの更新
オーバーセットテキストレポート
コンテンツ配置オプション
強化されたデータ結合

ページの先頭へ

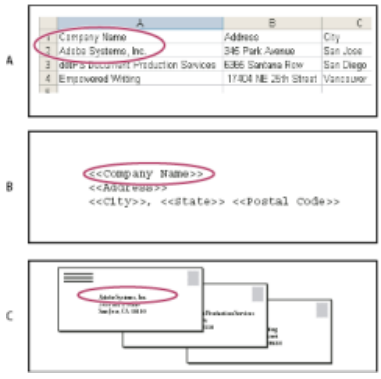
データ結合について

定型レター、封筒または宛名ラベルを作成するには、データソースファイルとターゲットドキュメントを結合します。データ結合は、メールマージとも呼ばれます。

データソースファイルには、定型レターの受取人の名前や住所など、ターゲットドキュメントのバージョンごとに異なる情報が含まれています。データソースファイルは、フィールドとレコードで構成されています。フィールドとは、会社名や郵便番号などの特定の情報のことで、レコードとは、会社名、郵便番号、都道府県、市区町村、番地などの情報のセットのことです。データソースファイルは、個々のデータがコンマで区切られているコンマ区切りファイル形式（.csv）、またはタブで区切られているタブ区切りファイル形式（.txt）で作成されます。

ターゲットドキュメントとは、データフィールドプレースホルダーと、結合ドキュメントのすべてのバージョンで同じであるアイテム（定型データ、テキストなど）が含まれる InDesign ドキュメントのことです。

結合ドキュメントとは、結合の結果作成される InDesign ドキュメントで、このドキュメントでは、ターゲットドキュメントからの定型情報が、データソースからのすべてのレコードに反復して使用されます。



データ結合

A. データソースファイル ***B.*** ターゲットドキュメント ***C.*** 結合ドキュメント

ページの先頭へ

データ結合の基本手順

1.ソースドキュメントとターゲットドキュメントで使用するデータフィールドを決定します。

最終ドキュメントの表示を決定して、結合に必要なフィールドを確認します。例えば、顧客に郵送するはがきを作成する場合、次のようなデータフィールドを使用できます。

<<会社名>><<住所>><<郵便番号>>、<<都道府県>><<市区町村>>

スプレッドシートまたはデータベースでは、データは次のように表示されます。



	A	B	C
1	Company Name	Address	City
2	Adobe Systems, Inc.	345 Park Avenue	San Jose
3	dotPS Document Production Services	6365 Santana Row	San Diego
4	Empowered Writing	17404 NE 25th Street	Vancouver

データファイルのサンプル

2.データソースファイル（通常はスプレッドシートまたはデータベースファイル）をコンマ区切りファイル（**.csv**）、またはタブ区切りテキストファイル（**.txt**）形式で保存します。

ターゲットドキュメントに適切なフィールドを含めることができるようにデータソースファイルが構成されていることを確認してください。例えば、スプレッドシートの一番上の行には、「Company」や「Address」などのターゲットドキュメントで使用するフィールド名が入力されていなければなりません。

詳しくは、データソースファイルについてを参照してください。

3.結合ドキュメントのすべてのバージョンで同じであるアイテム（定型テキストなど）を含むターゲットドキュメントを作成します。

詳しくは、ターゲットドキュメントについてを参照してください。

4.データ結合パネルを使用して、データソースを選択します。

詳しくは、データソースの選択を参照してください。

5.データ結合パネルからターゲットドキュメントにフィールドを挿入します。

データフィールドは、ドキュメントページまたはマスターページのどちらかに追加することができます。データフィールドをマスターページに追加する場合は、高度なオプションを使用することができます。

詳しくは、データフィールドの挿入およびマスターページへのデータフィールドプレースホルダーの追加を参照してください。

6.レコードをプレビューして、ターゲットドキュメントの表示が適切であることを確認します。

詳しくは、ターゲットドキュメントのレコードのプレビューを参照してください。

7.ターゲットドキュメントにデータソースファイルを結合するか、**PDF** に書き出します。

詳しくは、レコードの結合を参照してください。

ページの先頭へ

データソースファイルについて

通常、データソースファイルは、スプレッドシートまたはデータベースアプリケーションで作成されますが、InDesign またはテキストエディターで独自のデータソースファイルを作成することもできます。データソースファイルは、コンマ区切りファイル（.csv）、またはタブ区切りテキスト

ファイル（.txt）形式で保存する必要があります。コンマ区切りファイルまたはタブ区切りファイル形式への書き出しについて詳しくは、ソースアプリケーションのマニュアルを参照してください。

コンマ区切りファイルまたはタブ区切りテキストファイルでは、レコードは改段で区切られ、フィールドは列で区切られます。データソースファイルには、テキストやディスク上の画像へのパスを含めることもできます。

コンマ区切りデータソースファイルの例

名前,会社名,州 Bill Tucker,CoreVent Labs,Nevada Dat Nguyen,"Brady, Hunt, and Baxter, Inc",Delaware Maria Ruiz,"Brinquist Enterprises, Inc.",California

> コンマ区切りファイルでコンマまたは引用符を記号として使用するには、*“Brady, Hunt, and Baxter, Inc.”* のように、コンマまたは引用符を含むテキストを二重引用符で囲みます。二重引用符で囲まなければ、*Brady, Hunt, and Baxter, Inc.* は別々のフィールドとして処理されます。

データソースファイルのフィールドに改行を挿入することはできません。1 つのフィールドを複数行に分割する必要がある場合は、<<Address1>> と <<Address2>> のように、2 つの異なるフィールドを作成します。

ドキュメントを結合するときに空の行が挿入されないようにするには、「空のフィールドのブランク行を削除」を選択します。ただし、スペースを含む任意の文字が行にある場合、その行は削除されません。

ページの先頭へ

データソースファイルへの画像フィールドの追加

データソースファイルに画像フィールドを追加することで、それぞれの結合レコードに異なる画像を表示させることができます。例えば、様々な会社の情報が含まれているドキュメントを結合する場合、会社のロゴの画像をそれぞれの結合レコードに含めることができます。

1. データソースファイルを開きます。
2. データフィールド名の先頭に半角の「@」を入力すると、画像ファイルを参照するテキストまたはパス名が認識されるようになります。

   @ 記号は、最初の行にだけ必要です。それ以降の行には、画像のパス名を入力します。パス名の大文字小文字は区別されます。また、パス名は、使用しているオペレーティングシステムの命名規則に準拠していなければなりません。

   > フィールドの先頭に @ 記号を入力したときにエラーメッセージが表示されたら、@ 記号の前に半角の「'」を入力します（例えば、***'@Photos***）。*Microsoft Excel* など、一部のアプリケーションでは、@ 記号の本来の機能が維持されます。

（Windows）データソースファイル内の画像参照の例

名前	Age	@Photos
Bill Tucker	36	C:¥Photos¥BillTucker.jpg
Dat Nguyen	53	C:¥MyDocuments¥dat.gif
Maria Ruiz	26	C:¥Photos¥Ruiz.psd

（Mac OS）データソースファイル内の画像参照の例

名前	Age	@Photos
Bill Tucker	36	Mac HD:Photos:BillTucker.jpg
Dat Nguyen	53	Desktop:Family:dat.gif
Maria Ruiz	26	Mac HD:Photos:Ruiz.psd

> *InDesign* を使用してオペレーティングシステム上にある画像のパスを表示できます。*InDesign* ドキュメント内に画像を挿入し、リンクパネルを使用して画像の場所を確認できます。画像を選択した状態で、リンクパネルメニューから情報をコピー／フルパスをコピーを選択します。コピーしたパスをデータソースにペーストした後、パスの編集が必要になる場合があります。この方法は画像がサーバー上にある場合に特に便利です。

ページの先頭へ

ターゲットドキュメントについて

データソースファイルを作成したら、ターゲットドキュメントを設定して、データソースファイルからフィールドを挿入します。ターゲットドキュメントには、データフィールドプレースホルダーのテキストおよびグラフィックが含まれます（すべてのはがきに適用するデザインなど）。これらのフィールドは、データソースを選択した後、追加できるようになります。



ターゲットドキュメントには、データソースからのフィールドが含まれ、フィールドプレースホルダーのテキストが表示されます。

データを結合すると、新規ドキュメントが作成され、フィールドがデータソースファイルで指定したデータに置き換えられます。データフィールドは、ドキュメントページまたはマスターページのどちらかに配置することができます。

ページの先頭へ

データソースの選択

ターゲットドキュメントにフィールドを挿入する前に、データ結合パネルでデータソースを選択します。1 つのターゲットドキュメントにつき、選択できるデータソースファイルは 1 つのみです。

1. ターゲットドキュメントとして使用するドキュメントを新規に作成するか、既存のドキュメントを開きます。
2. ウィンドウ／ユーティリティ／データ結合を選択します。
3. データ結合パネルメニューから「データソースを選択」を選択します。
4. 区切り符号のオプションを変更するには、「読み込みオプションを表示」を選択します。

   InDesign では、データソースファイルで使用されている区切り符号とエンコーディングの方法が自動的に検出されるため、通常は読み込みオプションを表示する必要はありませんが、区切り符号およびエンコーディングの方法が正しく特定されていないと思われる場合は、別の区切り符号およびエンコーディング方式を指定することができます。
5. データソースファイルを選択して、「開く」をクリックします。
6. 「読み込みオプションを表示」を選択した場合は、必要に応じて区切り符号およびエンコーディングのオプションを変更し、「OK」をクリックします。データフィールドがデータ結合パネルに表示されます。

注意： ファイルを開くことができないことを告げる警告メッセージが表示された場合、またはデータ結合パネルのリストに表示されているフィールドが正しくない場合は、スプレッドシートまたはデータベースを編集して、コンマ区切りファイルまたはタブ区切りテキストファイルとして保存する必要があります。

データソースを選択し、データ結合パネルにフィールドが読み込まれると、データソースを更新するまで、データソースに変更を加えてもターゲットドキュメントに反映されません。

ページの先頭へ

データフィールドの挿入

データソースを選択すると、データ結合パネルにデータフィールド名のリストが表示されます。このリストには、データソースファイルの最初の行のデータフィールド名が表示されます。テキストアイコンはフィールドがテキストであることを示し、画像アイコンはフィールドが画像であることを示します。データフィールドがドキュメントに追加されると、これらのアイコンはフィールドプレースホルダー（例えば、<<Company>>）に変わります。これらのプレースホルダーは、他のテキストやグラフィックと同じように、選択したり、書式設定することができます。

画像フィールドを既存のフレームに割り当てて、フローティンググラフィックを作成することができます。テキスト挿入点がテキストフレーム内にある場合、また、画像フィールドを挿入するときにテキストが選択されている場合は、小さいプレースホルダーがインラインフレームとして挿入されます。画像プレースホルダーのサイズを変更して、結合画像のサイズを設定することができます。

データフィールドを挿入すると、InDesign によりそのデータソースが記憶されます。フィールドのリストに誤字、空のフィールド、不適切なフィールドの種類などのエラーがある場合は、データソースファイルをソースアプリケーションで訂正してから、データ結合パネルを使用してリ

ストを更新する必要があります。

ターゲットドキュメントへのテキストデータフィールドの挿入

1. ドキュメントページまたはマスターページ上にテキストフレームを作成します。

   マスターページ上にデータフィールドを追加する場合は、マスターページへのデータフィールドプレースホルダーの追加を参照してください。

2. テキストフレーム内のフィールドプレースホルダーを配置する場所にテキスト挿入点を置くか、置き換えるテキストを選択します。
3. フィールドプレースホルダーを挿入するには、次のいずれかの操作を行います。
   - データ結合パネルのリスト内のフィールドをクリックします。
   - フィールド名をデータ結合パネルのリストからドラッグしてテキストフレーム内にドロップし、プレースホルダーを追加します。テキストフィールドを空のフレームにドラッグすると、空のフレームはテキストフレームに変わります。

ターゲットドキュメントで、テキストフィールドプレースホルダーが二重山形括弧内に表示されます（例えば、*<<Name>>*）。これには、現在の書式設定の属性（フォントやサイズなど）が適用されます。

注意： フィールド名を直接入力したり、既存のフィールドを編集するだけでは、有効なフィールドを作成することはできません。フィールドは、データ結合パネルから挿入する必要があります。

ターゲットドキュメントへの画像データフィールドの挿入

- 新規のインライングラフィックプレースホルダーを挿入するには、データ結合パネルから画像フィールドをテキストフレームにドラッグするか、テキストフレーム内にテキスト挿入点を置いてからデータ結合パネルで画像フィールドをクリックします。
- 新規のフローティンググラフィックを挿入するには、データ結合パネルから画像フィールドを空のフレームまたは既存のグラフィックフレームにドラッグします。画像フィールドを空のフレームにドラッグすると、空のフレームはグラフィックフレームに変わります。
- グループ化されているアイテム、表のセルまたは入れ子になっているアイテムにフィールドを挿入するには、データ結合パネルから画像フィールドをターゲットにドラッグします。

  画像フィールドプレースホルダーは、フィールド名が含まれるフレームとして表示されます。

ページの先頭へ

マスターページへのデータフィールドプレースホルダーの追加

データフィールドプレースホルダーをマスターページに挿入すると、ドキュメントページに挿入した場合には適用されない機能を使用できるようになります。

- 作成された結合ドキュメントのマスターページのプレースホルダーは元のまま変更されず、ドキュメントページには結合結果がオーバーライドされたマスターページアイテムが表示されます。
- 結合ドキュメントでは、データソースとの関連付けが維持されるため、データソースのレコードが変更されても、データ結合パネルメニューの「データフィールドの内容を更新」を選択して、結合ドキュメントの内容を更新することができます。このコマンドは、結合ドキュメントのレイアウトを変更してからデータソースのデータを新たに追加する必要がある場合に便利です。
- 結合ドキュメントを作成ダイアログボックスの設定が、ターゲットドキュメントで使用される設定と同じであるため、現在のドキュメントを同じ外観ですばやく再作成することができます。また、この共有設定を使用して、データソースの異なる同一ドキュメントを作成したり、レイアウトが少し異なる新規ドキュメントを作成したりすることができます。

注意： マスターページ上にデータフィールドを追加する場合は、データフィールドを含むテキストフレームでマスターページアイテムのオーバーライドが許可されていることを確認してください。マスターページ上のテキストフレームを選択し、ページパネルメニューの「選択範囲のマスターページアイテムのオーバーライドを許可」を選択します。このオプションが選択されていない場合は、データは結合されません（詳しくは、マスターの作成を参照してください）。

データフィールドをドキュメントページとマスターページの両方に配置することはできません。結合を正しく実行するには、データフィールドのあるマスターをドキュメントの最初のページに適用する必要があります。

注意： プレースホルダーがないために *InDesign* がドキュメントを結合できないことを告げるエラーメッセージが表示された場合は、単一ページのドキュメントの左のマスターページにプレースホルダーが追加された可能性があります。右のマスターページが最初のページであるため、プレースホルダーは右のマスターページに追加する必要があります。

ページの先頭へ

データソースファイルの更新、削除または置き換え

- データソースファイルを更新するには、データソースファイルをコンマ区切りファイルまたはタブ区切りファイル形式で編集および保存し、データ結合パネルメニューから「データソースを更新」を選択します。

  変更内容はデータ結合パネルに反映されます。更新後に変更内容がドキュメントに反映されない場合は、データ結合パネルメニューの「プレビュー」を選択解除して無効にしてから、再度選択して有効にします。
- データソースファイルとの関連付けを削除するには、データ結合パネルメニューから「データソースを削除」を選択します。
- 新しいデータソースファイルに切り替えるには、データ結合パネルメニューから「データソースを選択」を選択し、新しいデータソースファイルを指定します。InDesign が一部のフィールドを認識しない場合は、プレースホルダーフィールドを削除してから再度フィールドを挿入してください。

  データフィールドがマスターページに表示されるターゲットドキュメントから結合ドキュメントを作成する場合は、結合ドキュメントでデータフィールドを更新することができます。

ページの先頭へ

ターゲットドキュメントのレコードのプレビュー

ターゲットドキュメントとデータソースファイルを結合する前に、レコードをプレビューして、情報を結合した後にフィールドデータが正しく表示されることを確認することをお勧めします。レコードをプレビューするとき、データ結合パネルにはフィールドプレースホルダーではなくデータソースファイルからの実データが表示されます。例えば、*<<Company>>* ではなく、*Adobe Systems, Inc* などの会社名が表示されます。データ結合パネルのナビゲーションボタンを使用して、レコードを切り替えることができます。

レコードに誤字などの問題があれば、ソースファイルをソースアプリケーションで編集します（詳しくは、データソースファイルについてを参照してください）。

1. データ結合パネル下部にある「プレビュー」を選択するか、データ結合パネルメニューから「プレビュー」を選択します。
2. データ結合パネル下部にある各ナビゲーションボタンをクリックして、他のレコードのデータを確認します。

   特定のレコードを表示するには、パネル下部にある各ナビゲーションボタンをクリックします。プレビューするレコードの番号をパネル下部にあるナビゲーションテキストボックスに入力してから *Enter* キーまたは *Return* キーを押します。

ページの先頭へ

プレビューのオン／オフの切り替え

プレビューモードを切り替えると、問題が発生したり、問題が自然に解消されたりすることがあります。以下のことに注意してください。

- データ結合パネルで「プレビュー」が選択されていなければ、プレビューの内容はプレースホルダーに置き換えられます。「プレビュー」が選択されていないときに画像と画像を含むフレームを削除したり、テキスト文字列全体を削除すると、プレースホルダーも削除されるため、プレースホルダーは表示されません。
- コンテンツ配置オプションダイアログボックスの設定の変更は、「OK」をクリックするまで反映されません。また、「プレビュー」が選択されていると、更新された配置設定は「プレビュー」を選択解除してから再度選択するまでデータに反映されません。
- プレビューモードでドキュメントを保存しようとすると、ドキュメントを保存する前にプレビューモードを無効にするよう指示するメッセージが表示されます。

ページの先頭へ

データフィールドプレースホルダーの編集

テキストデータフィールドをドキュメントに追加すると、フィールドのプレースホルダーテキストが入力されます。このとき、テキスト挿入点の位置で有効になっている書式設定の属性（フォントやサイズなど）が適用されます。その後で、プレースホルダーテキストの属性を編集して、実

データの表示を調整することができます。

- 次のいずれかの操作を行います。
  - プレースホルダーの属性を変更するには、プレースホルダーテキストを選択してから、他のテキストの場合と同様に書式設定の属性を変更します。
  - プレースホルダーを変更するには、プレースホルダーまたは実データを選択し、データ結合パネルで別のフィールド名を選択します。
  - プレースホルダーを削除するには、プレースホルダーを選択し、Backspace キー（Windows）または Delete キー（Mac OS）を押します。

注意： ストーリーエディターでは、テキストプレースホルダーはハイパーリンクと同じように表示されます。データ結合パネルの一部のコマンドは、ストーリーエディターでは使用できません。

ページの先頭へ

コンテンツ配置オプションの設定

コンテンツ配置オプションダイアログボックスを使用して、現在のドキュメントだけではなく、以降に作成するすべての結合ドキュメントのデフォルト設定を指定することができます。画像をどのように配置するか、画像をリンクするか埋め込むか、空のフィールドのブランク行を削除するかどうかを指定することができます。また、結合ドキュメントに含まれるレコードの最大数も指定することができます。

1. 次のいずれかの操作を行います。
   - 現在のドキュメントのみに適用するには、ターゲットドキュメントを開きます。
   - 以降に作成するすべてのドキュメントに適用するには、すべてのドキュメントを閉じます。
2. ウィンドウ／ユーティリティ／データ結合を選択します。
3. データ結合パネルメニューから「コンテンツ配置オプション」を選択します。
4. コンテンツ配置オプションを変更します（詳しくは、コンテンツ配置オプションを参照してください）。
5. 「OK」をクリックします。

ページの先頭へ

レコードの結合

ターゲットドキュメントの書式を設定し、データソースファイルからのフィールドを挿入すると、データソースからの情報とターゲットドキュメントを最終的に結合できるようになります。レコードを別の InDesign ドキュメントに結合することも、PDF に直接結合することもできます。結合すると、ターゲットドキュメントに基づいて新しいドキュメントまたは PDF が作成され、ターゲットドキュメントのフィールドはデータソースファイルの対応する情報に置き換えられます。

データフィールドプレースホルダーが含まれているドキュメントをマスターページに結合すると、そのマスターページのアイテムは、新しく生成されたドキュメントのマスターページにコピーされます。

単一レコードまたは複数レコードの結合

1. ターゲットドキュメントを開いた状態で、次のいずれかの操作を行います。
   - データ結合パネルメニューから「結合ドキュメントを作成」を選択するか、結合ドキュメントを作成ボタン をクリックします。
   - データ結合パネルメニューから「PDF に書き出し」を選択します。
2. 「レコード」タブの「結合するレコード」で、データソースファイルのすべてのレコードを結合する場合は「すべてのレコード」、1 つのレコードを結合する場合は「単一レコード」、一定範囲のレコードを結合する場合は「範囲」を選択します。
3. 「ドキュメントページあたりのレコード」ポップアップメニューで、次のいずれかの操作を行います。
   - 1 ページに 1 つのレコードを作成するには、「単一レコード」を選択します。
   - 1 ページに複数のレコードを作成するには、「複数レコード」を選択します（例えば、宛名ラベルをプリントする場合です）。

     ページが複数あるドキュメントのドキュメントページにデータフィールドがある場合、またはページが複数あるマスターページにデータフィールドがある場合は、複数のレコードを結合することができません。

4. 「ドキュメントの作成時にオーバーセットテキストレポートを生成」を選択すると、データを InDesign ドキュメントに結合するときに作成される、オーバーセットの状態を追跡するためのレポートが自動的に開きます（詳しくは、オーバーセットテキストレポートを参照してください）。
5. 「画像が見つからないときに警告」を選択すると、画像が見つからないときにリンクが無効であることを示す警告が表示されます。
6. 「レコード」タブの「ドキュメントページあたりのレコード」で「複数レコード」を選択した場合は、「複数レコードレイアウト」タブをクリックして、次のオプションを指定します。
   - 「マージン」で、ページの各端からマージンガイドまでの距離を指定します。
   - 「レコードのレイアウト」で、「左から右」または「上から下」のどちらかを選択し、「間隔」で列と行の間隔を指定します。
7. 「複数レコード」を選択した場合は、「複数レコードレイアウトをプレビュー」を選択して、結合ドキュメントを作成ダイアログボックスで変更した設定を確認します。「ページ」の各ボタンをクリックすると、レコード間のナビゲーションができます。
8. 「オプション」タブをクリックして、配置オプションを指定します（詳しくは、コンテンツ配置オプションを参照してください）。
9. すべての項目を設定したら、「OK」をクリックします。
10. 直接 PDF に書き出す場合は、PDF のオプションを指定し、「書き出し」をクリックします。次に、ファイル名と場所を指定し、「保存」ボタンをクリックします（詳しくは、Adobe PDF オプションを参照してください）。

データソースファイルが、サポートされていない形式のファイルや存在しない画像にリンクしている場合は、サポートされている形式のファイルにリンクしたり、画像へのパスを訂正するか、画像を正しいフォルダーに移動してください。

複数レコードの結合の制限事項

「複数レコード」を選択すると、1 ページに複数のレコードを作成できます。例えば、宛名ラベルを印刷する場合、1 ページに複数のラベルを印刷する必要があることがあります。結合されたドキュメントでレコードがどのように表示されるかは、主にレイアウトオプションによって決まります。「複数レコード」オプションを使用する場合の制限事項を以下に示します。

- ページが複数あるドキュメントのドキュメントページにデータフィールドがある場合、またはページが複数あるマスターページにデータフィールドがある場合は、複数のレコードを結合することができません。
- データ結合では、1 つのプレースホルダーの使用を前提としています。
- 結合されたドキュメントでレコードを削除しても、残りのレコードは空のプレースホルダーに再度流し込みされません。

PDF ファイルに結合

PDF ファイルに結合する場合、InDesign の結合ドキュメントを作成するときと同じオプションを設定します。作成された PDF ファイルはページの静的部分に PDF XObject を活用しているので、PDF のサイズが小さくなり、効率的になります。

ページの先頭へ

データフィールドの更新

ドキュメントとマスターページ上のデータプレースホルダーを結合した後、結合ドキュメントのレイアウトを変更できると同時に、データソースのデータフィールドの値を更新することもできます。ドキュメントのレイアウトを維持したままデータフィールドを更新するには、データ結合パレットメニューから「データフィールドの内容を更新」を選択します。このコマンドは、データプレースホルダーがマスターページに表示される結合ドキュメントでのみ使用できます。

1. データソースファイルを編集し、保存してからデータソースファイルを閉じます。
2. 結合ドキュメントで、データ結合パレットメニューから「データフィールドの内容を更新」を選択します。

データフィールドの更新により変更された内容は、ログファイルに表示されます。

このコマンドは、データソースファイルでレコードを単に編集または追加する場合に最適です。プレースホルダーフィールドを追加する場合、新しいフィールドをデータソースに追加する場合、または結合ドキュメントを作成ダイアログボックスで設定を変更する場合は、「結合ドキュ

メントを作成」コマンドを使用して新規結合ドキュメントを作成します。

ページの先頭へ

オーバーセットテキストレポート

結合ドキュメントを作成ダイアログボックスで「ドキュメントの作成時にオーバーセットテキストレポートを生成」が選択されている場合、またはデータを結合した後に 1 つ以上のフィールドにオーバーセットテキストが含まれている場合に、オーバーセットテキストレポートが表示されます。

レポートには、各オーバーセットが番号付きのリストに表示され、テキストが含まれているページ番号、オーバーセットしている文字／単語数、およびオーバーセットテキストの一部が表示されます。

結合ドキュメントを作成するときにレポートが表示された場合は、レポートを使用してオーバーセットの状態を修正します。例えば、テキストフレームサイズを拡大したり、フォントサイズを縮小したり、テキストを編集したりすることができます。

ページの先頭へ

コンテンツ配置オプション

コンテンツ配置オプションダイアログボックスには、次のオプションがあります。

画像の縦横比率を保持 画像の縦横比は維持され、画像がフレーム内に収まるよう画像サイズが調整されます（デフォルト）。

画像をフレームに合わせる 画像の縦横比がフレームの縦横比と同じになるように画像サイズが調整されます。

フレームを画像に合わせる 画像サイズは維持され、フレームサイズが画像サイズと同じになるよう調整されます。

フレームおよび画像のサイズを保持 画像が本来のサイズでフレーム内に配置され、画像の左上隅とフレームの左上隅が揃います。画像がフレームより大きいと、画像はトリミングされます。

フレームに均等に流し込む 画像の高さまたは幅のどちらか短い方をフレームの高さまたは幅と合わせ、フレームの外にはみ出る部分はトリミングされます。

フレーム中央 画像の中央がフレームの中央に揃います。

画像をリンク 元の画像ファイルへのリンクまたはファイルパスが作成されます。このオプションが選択されていない場合は、すべての画像データが InDesign ドキュメントに埋め込まれます。

空のフィールドのブランク行を削除 空のフィールドに挿入されている段落改行が削除されます。これは、予備の住所フィールドがある宛先を処理するときに便利です。このオプションでは、強制改行は無視されます。スペースを含む任意の文字が行にある場合、その行は削除されません。

ドキュメントあたりの最大レコード数 結合ドキュメントあたりの最大レコード数を指定します。このしきい値に達すると、新しいドキュメントが作成されます。このドキュメントのページ数は、結合される残りのレコードを保持するのに必要なページ数になります（最大レコード数以下）。このオプションは、「単一レコード」を選択した場合にのみ使用できます。

ドキュメントあたりの最大ページ数 ドキュメントあたりの最大ページ数を指定します。最大ページ数に達すると、残りのレコードを作成するのに必要なページ数（最大ページ数以下）の新規ドキュメントが作成されます。このオプションは、結合ドキュメントを作成ダイアログボックスの「ドキュメントページあたりのレコード」で「複数レコード」が選択されている場合にのみ使用できます。

ページの先頭へ

強化されたデータ結合

結合ドキュメントの中に、QR コードを統合できます。データ結合ワークフローを使用して追加できる QR コードフィールドの種類を以下に示します。

- 書式なし
- Web ハイパーリンク
- テキストメッセージ
- 電子メール
- 名刺

QR コードを生成する場合、データソースとして使用される .txt または .csv ファイル内のデータ項目の形式は次のようになります。

- プレーンテキスト：QR コード列に、テキストをそのまま入力します。
- Web ハイパーリンク：URL:<url>（例：「URL:http://www.google.com」）
- テキストメッセージ：SMSTO:<電話番号>:<メッセージ>（例：「SMSTO:9818143551:Hi」）
- 電子メール：MATMSG:\nTo:<電子メールアドレス>（例：「MATMSG:\nTO:johndoe@adobe.com\nSUB:Hi;\nBODY:;;」）
- 名刺：BEGIN:VCARD\nVERSION:2.1\nN:Smith;John\nFN:John Smith\nORG:Adobe Systems\nTITLE:Engineer\nTEL;CELL:+919876543210\nTEL;WORK;VOICE:123456789\nADR;WORK:;;Street ABC;Seattle;Washington;98101;US\nEMAIL;WORK;INTERNET:abc@adobe.com\nURL:www.adobe.com\nEND:VCARD

ただし、データ項目には電子メール、SMS、ハイパーリンク、プレーンテキストを混在させることができます。項目について前述の形式を使用し、カラム名に # 記号を付けて .csv または .txt フィールドに入力します。QR コードを生成するには、以下の手順に従います。

1. ウィンドウ／ユーティリティ／データ結合を選択します。
2. パネルメニューから「データソースを選択」を選択します。
3. QR フィールドの情報を含むデータファイルを選択します。 「開く」をクリックします。
4. ドキュメント内のプレースホルダーを選択します。
5. 結合ドキュメントを作成アイコンをクリックして、結合ドキュメントを作成します。

Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

アクセシビリティ

アクセシブルな PDF ドキュメントの作成（PDF、2.6 MB）（英語）
記事 (2011/01/01)

フォーム | CC、CS6

目次

フォームワークフロー
フォームフィールドの追加
タブ順の指定

ページの先頭へ

フォームワークフロー

InDesign でフォームをデザインし、PDF に直接書き出すことができます。InDesign では、フォームフィールドと追加のフォームアクションがサポートされるようになりました。ボタンとフォームライブラリ（ウィンドウ／インタラクティブ／ボタンとフォーム）に、インタラクティブフォームのデザインに使用できるフォームアイテムが用意されています。

InDesign を使用すると InDesign 内で簡単なフォームを作成でき、公開後に PDF ドキュメントを Acrobat で修正する必要がありません。ドキュメントページ内にシンプルなフォーム要素を追加できます。テキストフィールド、ラジオボタン、チェックボックス、署名などの一般的なフィールドの種類がサポートされています。フォームを電子メールで送信またはプリントするアクションを追加することもできます。

基本デザインに加えて InDesign のクリエイティブな機能を使用することで、フォームをデザイナー仕様のように仕上げることができます。

- ベタ線やベタ塗りを PDF フォームフィールドに追加できます。
- ボタン、チェックボックス、ラジオボタンにカスタムのオン、オフ、マウスによるポイントの各ステータスを追加できます。
- テキスト入力フィールドのフォントサイズを指定できます。

例えば、クレジットカード情報を収集するには、クレジットカードアイコンをラジオボタンとして使用し、選択したステートには他の画像を使用することができます。

高度なフォームワークフローでは、基本フォームを書き出し、Adobe Acrobat で編集を続けることができます。

ページの先頭へ

フォームフィールドの追加

フォームフィールドをレイアウトに追加するには、ボタンとフォームパネルを使用します。インタラクティブなフォームフィールドを追加する手順は、ボタンを追加する場合と同じで、手順を新たに覚える必要はありません。Adobe Reader や Adobe Acrobat で使用できるフォームを作成できます。InDesign を使用することで、Acrobat を普通に使用していては作成できない、見栄えのよいフォームを作成できます。



ボタンとフォームパネル

1. フォームフィールドを配置したい位置にフレームを置きます。
2. ボタンとフォームパネルを開きます（ウィンドウ／インタラクティブ／ボタンとフォーム）。

3. フレームを選択し、タイプのリストからフォーム要素の種類を選択します。または、フレームを右クリックし、インタラクティブ／[...] に変換を選択します。
4. フォームフィールドに名前を入力します。ラジオボタングループを作成するには、個々のボタンすべてが同じ名前であることが必要です。
5. イベントを選択し、それに関連付けるアクションを追加します。「フォームをクリア」、「フォームをプリント」、「フォームを送信」などのアクションが追加されます。「フォームを送信」アクションでは、URL を「mailto:xyz@example.com」のように指定します。
6. ラジオボタン、チェックボックス、ボタンの場合は、ステートごとに外観属性を設定します。各ステートには InDesign によりデフォルトのグラフィックが追加されますが、独自のグラフィックを追加することもできます。
7. PDF オプションを指定します。
   - 説明 - 入力された値がツールヒントに表示され、アクセスしやすいフォームの作成に使用されます。
   - ボタンの値 - この値は Acrobat の書き出し値に対応しており、アクセスしやすいフォームのグループのラジオボタンの特定に使用されます。

ページの先頭へ

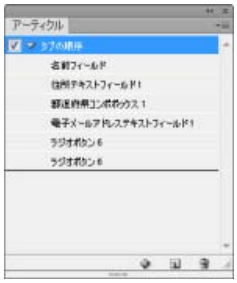
タブ順の指定

ユーザーにわかりやすくアクセスしやすいフォームを作成するには、使いやすいタブ順を指定する必要があります。ユーザーはポインティングデバイスを使用しなくてもフォームフィールド内を移動できます。Tab キーを押すと、フォーカスが次の論理フィールドに移動します。

タグ付き PDF でタブ順を設定する方法は 2 つあります。

- アーティクルパネル（ウィンドウ／アーティクル）を使用して、カスタムのタブ順を指定します。
- オブジェクト ／インタラクティブ ／タブ順を設定を選択します。

アーティクルを使用したタブ順の指定



アーティクルパネルを使用したタブ順の指定

1. アーティクルパネルを開きます（ウィンドウ／アーティクル）。
2. フォームフィールドをアーティクルパネルにドラッグします。
3. アーティクルパネルで、フィールドをドラッグして必要な順序に並べ替えます。

   指定された順序をスクリーンリーダーで使用できるようにするには、アーティクルパネルメニューで「タグ付き *PDF* の読み上げ順序に使用」を有効にします。*PDF* の書き出し時に「タグ付き *PDF* を作成」オプションを有効にしてください。

構造を使用したタブ順の指定

1. 「オブジェクト／インタラクティブ／タブ順を設定」を選択します。
2. 「上へ移動」または「下へ移動」を使用して、アイテムを必要なタブ順に配置します。

インタラクティブ PDF に書き出す場合は、PDF 書き出しダイアログボックスの「タブ順の設定に構造を使用」を有効にします。

関連項目

(cc) BY-NC-SR Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

アーティクル（CS5.5）

アーティクルの紹介
アーティクルの作成とコンテンツの追加
ドキュメント内のすべてのページアイテムをアーティクルに追加
アーティクルの管理
書き出しにアーティクルを含める

ページの先頭へ

アーティクルの紹介

アーティクルを使用すると、ページアイテム間の関係を簡単に作成できます。この関係を使用して、EPUB、HTML、アクセシビリティに対応した PDF を定義したり、コンテンツの順番を定義することができます。画像、グラフィック、テキストなど、レイアウト内の既存のページアイテムの組み合わせでアーティクルを作成できます。アーティクルを作成した後で、ページアイテムを追加、削除したり、順番を並べ替えたりできます。アーティクルを手動で作成するには、1 つ以上のページアイテムをアーティクルパネルのアーティクルにドラッグします。

コンテンツを一括してアーティクルに追加することもできます。選択したコンテンツを選択したアーティクルに追加する、ドキュメントのコンテンツ全体をアーティクルに追加することも可能です。

注意： *XML* 構造パネルで、*EPUB*、*HTML*、およびアクセシビリティに対応した *PDF* 書き出しワークフローにコンテンツを書き出す順番を決めることもできます。アーティクルパネルは、*XML* のスキルがなくても簡単で利用しやすいように設計されています。*XML* 構造パネルは、書き出し時にアーティクルパネルを使用する際のオプションとして提供されています。*XML* 用ドキュメントの構造化を参照してください。

ページの先頭へ

アーティクルの作成とコンテンツの追加

1. ウィンドウ／アーティクルを選択して、アーティクルパネルを表示します。
2. アーティクルに追加するページアイテムを選択します。

   空のアーティクルを作成する場合は、レイアウトでページアイテムを選択しないでください。
3. 次のいずれかの操作を行います。
   - アーティクルパネルメニューから「新規アーティクル」を選択します。
   - アーティクルパネルの下部にある新規アーティクルを作成 をクリックします。
   - ストーリーまたはページアイテムをアーティクルパネルにドラッグします。
4. 新規アーティクルダイアログボックスで、アーティクルの名前を入力します。
5. EPUB/HTML の書き出しにアーティクルを追加するため「書き出し時に含める」を選択します。

ページの先頭へ

ドキュメント内のすべてのページアイテムをアーティクルに追加

すべてのページアイテムをアーティクルに追加するには：

1. ウィンドウ／アーティクルを選択して、アーティクルパネルを表示します。
2. アイテムを追加するアーティクルを選択します。アーティクルを選択しないと、新しいアーティクルが作成されます。
3. Command キー（Mac OS）または Ctrl キー（Windows）を押しながらアーティクルパネルの をクリックします。
4. 新規アーティクルダイアログボックスが表示されたら、アーティクルの名前を入力します。
5. EPUB/HTML 書き出しにアーティクルを追加するため「書き出し時に含める」を選択します。

アーティクルを選択し、アーティクルパネルメニューから「選択したアーティクルにドキュメントコンテンツを追加」を選択します。

ページの先頭へ

アーティクルの管理

アーティクルパネルを使用して、アーティクルを管理できます。ページアイテムをアーティクルパネルにドラッグして、アーティクルに追加できます。アーティクルパネルのアイテムをドラッグして順番を変更したり、別のアーティクルに移動したりできます。

アーティクルパネルメニューにもコンテンツを管理するオプションがあります。

ページの先頭へ

書き出しにアーティクルを含める

アーティクルを作成し、EPUB または HTML に書き出すときに含めるアーティクルとして選択できます。デフォルトでは、すべてのアーティクルが書き出し対象として選択されます。

書き出し時にアーティクルを含めるには、アーティクルパネルでアーティクルを選択し、次のいずれかの操作を行います。

- アーティクルの横のチェックボックスを選択します。
- アーティクルパネルメニューから「アーティクルオプション」を選択し、「書き出し時に含める」を選択します。

(cc) BY-NC-SR Twitter™ および Facebook の投稿には、Creative Commons の規約内容は適用されません。

法律上の注意 | プライバシーポリシー

PDF の構造化

PDF への構造の追加
再利用とアクセシビリティに対するタグの影響
折り返し機能の概要と最適化
ページアイテムのタグ付け
スクリーンリーダーソフトウェアで使用するグラフィックのラベル付け
ページアイテムの Article 要素へのグループ化

PDF への構造の追加

トップへ戻る

Adobe PDF を書き出しダイアログボックスの「一般」セクションにある「タグ付き PDF を作成」オプションを選択して Adobe PDF に書き出す場合、書き出されたページは、ヘッドライン、記事、図などのページアイテムを識別するため、内容を記述する構造タグセットで自動的にタグ付けされます。書き出す前にその他のタグを追加する場合や既存のタグを微調整する場合は、InDesign のタグパネルを使用します。構造ウィンドウ（表示／構造／構造を表示）に変更が反映されます。

InDesign ドキュメントを書き出す前にタグを追加することで、Adobe PDF ドキュメントのアクセシビリティと再利用を改善できます。タグを含まない PDF ドキュメントの場合でも、Adobe Reader および Acrobat は、文書を読み上げたり、折り返し表示したりするときに自動的にタグを設定しますが、期待どおりの結果が得られるとは限りません。書き出した PDF ファイルで満足のいく結果が得られない場合は、Acrobat 6.0 Professional 以降に付属のツールを使用して、タグ付き PDF ドキュメントの構造を編集することができます。最新のツールを利用する場合は、Acrobat 9 Professional を使用します。

PDF 書き出しでドキュメントにタグを適用する場合、XML 書き出しの場合と同様に、PDF に書き出す内容はタグで制御できません。その代わりに、ドキュメントの構造内容に関する詳細な情報がタグによって Acrobat に提供されます。

タグを使用する利点
PDF に書き出す前にドキュメントにタグを適用すると、次のことが可能になります。

- ハンドヘルドデバイスまたは他のメディアで PDF ファイルの折り返し表示を行うために、InDesign の段落スタイル名を Acrobat のタグ付き Adobe PDF の段落スタイルにマップできます
- 印刷装飾、テキストおよび画像にタグを付けて、Acrobat で折り返し表示した場合に表示されないようにします。例えば、ページアイテムを装飾としてタグ付けする場合、タグ付き Adobe PDF ドキュメントの内容をハンドヘルドデバイス、小型ディスプレイ、標準モニターでの拡大表示などで折り返しするとき、このページアイテムは表示されません。
- 視覚障害者がスクリーンリーダーソフトウェアを使用してテキストを読み上げることができるように、図表の代替テキストを追加します。
- 凝ったドロップキャップなどのグラフィック文字を読み取り可能な文字に置き換えます。
- アーティクルセットのタイトルを適用するか、記事や図表をアーティクルにグループ化します。
- 読み取り順序を確立するために、記事と図表を順番に並べます。
- 表、箇条書き、目次項目が認識されます。どの内容ブロックが別の記事に属するかが認識されます。
- 文字の Unicode 値、文字間隔、ソフトハイフンやハードハイフンなどのテキスト書式情報が含まれます。

再利用とアクセシビリティに対するタグの影響

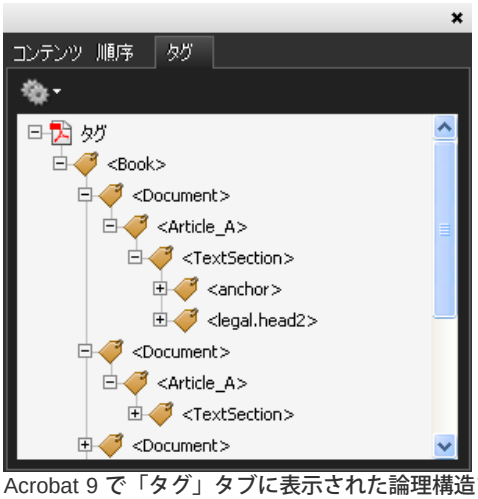
トップへ戻る

Adobe PDF ドキュメントの内容は、他の目的に再利用できます。例えば、テキスト、表および画像で構成されたレポートの Adobe PDF を作成し、様々な形式で配布すると、フルサイズモニターでの印刷や表示、ハンドヘルドデバイスでの表示、スクリーンリーダーでの読み上げが可能で、Web ブラウザーで HTML ページを開くように Web ブラウザー内に直接表示することができます。内容の再利用を簡単に信頼性の高いものにするには、基礎となるドキュメントの論理構造が重要になります。

PDF ドキュメントのアクセシビリティの精度を高めるには、タグを追加する必要があります。タグ付けによって、論理構造ツリーと呼ばれる内部構造がドキュメントに追加されます。論理構造ツリーは、文書のコンテンツ（タイトルページ、章、セクション、サブセクションなど）がどのように構成されているかを表す情報です。これによって PDF ドキュメントの外観は変化しませんが、読み上げ順序が正確になり、文書内の移動もしやすくなります。特に、長く複雑な構成の文書になるほど論理構造ツリーの必要性は高まります。

論理構造ツリーがあれば、障害で文書を視覚的に見ることができない、または視覚的に理解できないユーザーでも、支援テクノロジを使用して文書のコンテンツに高い精度でアクセスできます。ほとんどの支援テクノロジは、論理構造ツリーの情報を頼りにして、コンテンツや画像の意味を音声などの代替形式で伝えます。タグ付けされていない文書にはその構造がないので、環境設定で指定された読み上げ順序に基づいて Acrobat が文書の構造を推測せざるを得ません。この方法では高い精度を得ることができず、ページ内の項目が正しい順序で読み上げられない場合や、まったく読み上げられない場合が多くなります。

タグは Acrobat 6.0 以降の「タグ」タブに表示され、タグ付き要素の関連定義に従ってネストされます。Acrobat Standard では、タグを編集できません。タグを直接操作する場合は、Acrobat 9 Professional にアップグレードしてください。詳しくは、Acrobat ヘルプを参照してください。



Acrobat 9 で「タグ」タブに表示された論理構造ツリー

注意： Adobe PDF ファイルで使用されるタグは、HTML ファイルと XML ファイルのタグと比較できます。基本的なタグの概念について詳しくは、書店、図書館または Web で入手できる多数の参考文献および関連書籍を参照してください。

トップへ戻る

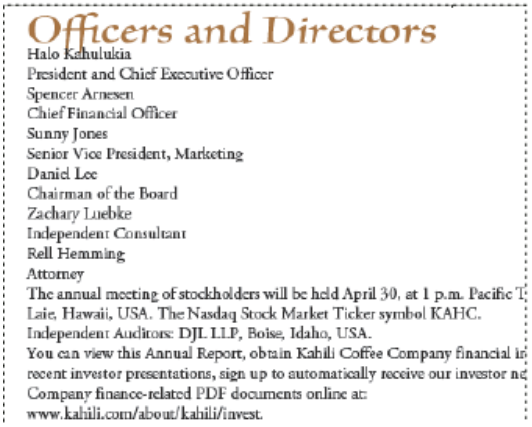
折り返し機能の概要と最適化

PDF ドキュメントをハンドヘルドデバイスや狭いディスプレイに表示する場合や、通常のモニターでも高い倍率で拡大表示する場合は、テキストを折り返し表示すると、1 行ずつ左右にスクロールせずに文書を読むことができます。

Adobe PDF ドキュメントを折り返した場合に、折り返したドキュメントに正しく反映される内容と反映されない内容があります。大半の場合は、読み取り可能なテキストだけが折り返しドキュメントに反映されます。読み取り可能なテキストとは、アーティクル、段落、表、画像、書式設定されたリストなどです。フォーム、注釈、電子署名フィールド、およびページ装飾（ページ番号、ヘッダー、フッターなど）は、折り返し表示されないテキストです。読み取り可能なテキストとフォームフィールドまたは電子署名フィールドが同じページに含まれる場合、そのページは折り返し表示されません。縦組みのテキストも折り返し表示では横書きになります。

作成者は、文書をタグ付けすることで折り返し表示用に最適化できます。タグ付けされていれば、複数のブロックに分かれたテキストが正しく折り返され、内容が適切な順序で表示されるので、複数のページや段にまたがるアーティクルに他の内容が割り込むことがなく、読者がスムーズに読み進むことができます。読み取り順序は構造ツリーにより定義され、構造ツリーは構造ウィンドウで変更できます。





見出しと段組（上）それらが論理的に正しく処理された折り返し表示（下）

トップへ戻る

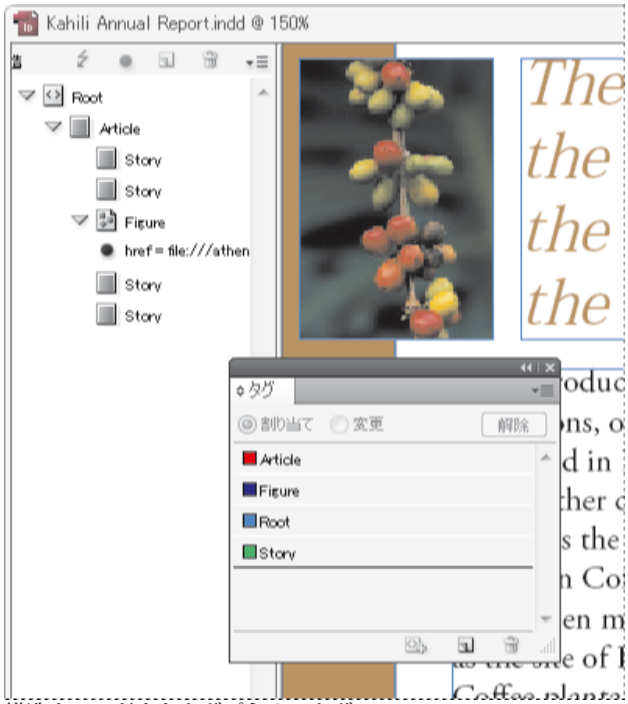
ページアイテムのタグ付け

テキストフレームおよびグラフィックのタグ付けは、自動または手動で行うことができます。ページアイテムにタグを付けた後、構造ウィンドウで、階層内の新しい位置に要素をドラッグすることで、ページの順序を並べ替えることができます。構造ウィンドウで要素の順番を並べ替えると、この並び替え順は Acrobat PDF ファイルに引き継がれます。要素の順序の並び替えは、Acrobat で PDF ファイルを HTML または XML ファイルとして保存するときに便利です。また、この順序は、InDesign ドキュメントを Dreamweaver（XHTML）形式または Digital Editions（EPUB）形式で書き出すときにも便利です。

自動でのページアイテムへのタグ付け

「タグ付けされていないアイテムを追加」コマンドを選択すると、InDesign では、タグパネルにタグが追加され、タグなしページアイテムに Story タグと Figure タグが適用されます。Story タグはタグなしテキストフレームに適用され、Figure タグはタグなしグラフィックに適用されます。その後、手動で他のタグをテキストのセクションに適用することができます。ただし、自動的にページアイテムにタグを付けても、書き出す PDF ファイルで、それらのタグに従ってアイテムが構造化されるとは限りません。

1. ウィンドウ／ユーティリティ／タグを選択し、タグパネルを表示します。
2. 表示／構造／構造を表示を選択して、ドキュメントウィンドウの左側に構造ウィンドウ枠を表示します。
3. 構造ウィンドウ枠メニューで「タグ付けされていないアイテムを追加」を選択します。



構造ウィンドウとタグパネルのタグ

手動でのページアイテムへのタグ付け

1. ウィンドウ／ユーティリティ／タグを選択し、タグパネルを表示します。
2. 表示／構造／構造を表示を選択して、ドキュメントウィンドウの左側に構造ウィンドウ枠を表示します。
3. 構造ウィンドウ枠メニューで「タグ付けされていないアイテムを追加」を選択します。
4. ドキュメントのページアイテムを選択します。
5. タグパネルでタグを選択します。読み込まれた各タグについて、推奨される使用方法を次に示します。
   ページ装飾 Artifact タグを使用すると、書き出した PDF ファイルをタグ付きアイテムだけを表示する折り返しビューで表示したときに、ページ番号や重要度の低いオブジェクトなどのページアイテムを隠すことができます。詳しくは、Adobe Acrobat のマニュアルを参照してください。このタグは、PDF ファイルをハンドヘルドデバイスやその他の PDF リーダーで表示する場合に特に便利です。

   Cell このタグは、表のセルに対して使用します。

   Figure このタグは、配置したグラフィックに対して使用します。Figure タグは、「タグ付けされていないアイテムを追加」を選択したときに、ドキュメントに配置したタグなし画像すべてに適用されます。

   段落タグ（**P**、**H**、**H1** ～ **H6**） これらのタグは、書き出した PDF テキストを折り返しビューで表示したときには効果はありません。ただし、PDF ファイルを HTML 形式で書き出す場合など、状況によっては便利です。

   ストーリー このタグは、ストーリーに対して使用します。Story タグは「タグ付けされていないアイテムを追加」を選択したときに、すべてのタグなしテキストフレームに適用されます。例えば、Head1、Head2 および Body という 3 つの段落スタイルでフォーマットされた

InDesign ドキュメントがあるとします。まず、3 つの段落スタイルをそれぞれ H1、H2 および P タグにマップします。次に PDF に書き出します。最後に、Acrobat で PDF ドキュメントを HTML または XML に書き出すとき、H1、H2 および P としてタグ付けされた段落が、Web ブラウザーで（H1 に対し太字の大文字など）正しく表示されます。PDF ドキュメントの HTML または XML への書き出しについて詳しくは、Adobe Acrobat のマニュアルを参照してください。

トップへ戻る

スクリーンリーダーソフトウェアで使用するグラフィックのラベル付け

重要な情報を持つグラフィック要素をスクリーンリーダーで読み上げるには、その内容を説明するテキストを追加する必要があります。図表やマルチメディアをスクリーンリーダーで認識し読み上げるためには、タグプロパティに代替テキストを追加する必要があります。

Alt テキスト属性を使用すると、図表を表示する代わりに、読み上げ可能な代替テキストを作成できます。ActualText 属性では、Alt テキストと同様に、画像の代わりにテキストが表示されます。ドロップキャップに飾り画像が使用されている場合などは、ActualText 属性によって、単語の一部である画像に置き換えることができます。この例では、ActualText 属性を使用して、ドロップキャップ文字を単語の一部として読み取れるようにしています。

Adobe PDF に書き出すとき、Alt テキストと Actual Text 属性の値が PDF ファイルに保存され、Acrobat 6.0 以降で表示できます。この代替テキスト情報は、Acrobat で PDF ファイルを HTML または XML ファイルとして保存するときに使用できます。詳しくは、Adobe Acrobat のマニュアルを参照してください。

1. 必要に応じて、表示／構造／構造を表示を選択して、構造ウィンドウを表示し、ウィンドウ／ユーティリティ／タグを選択して、タグパネルを表示します。
2. 構造ウィンドウ枠メニューで「タグ付けされていないアイテムを追加」を選択します。
3. 画像を Figure としてタグ付けするには、画像を選択し、タグパネルの「Figure」をクリックします。
4. 構造ウィンドウで Figure 要素を選択し、構造ウィンドウメニューで「新規属性」を選択します。
5. 「名前」に「**Alt**」または「**ActualText**」と入力します（大文字小文字を区別します）。
6. 「値」に、画像の代わりに表示するテキストを入力します。

トップへ戻る

ページアイテムの Article 要素へのグループ化

構造ウィンドウを使用して、ページアイテムを論理的に Article 要素にグループ化します。例えば、ストーリーのセットが複数のページにわたる場合、これらのストーリーを 1 つのグループに含めた包括要素を作成できます。この包括要素は構造要素と呼ばれます。グループ化したアーティクルに名前を付けることもできます。
注意： グループ化したページアイテムにタグを付けることはできません。

- ページアイテムをグループ化するには、構造ウィンドウメニューで「新規要素」を選択し、タグパネルで Article 要素を選択して、構造ウィンドウの Article の下にページ要素をドラッグします。
- グループ化されたアイテムに名前を付けるには、構造ウィンドウの Article 要素を右クリック（Windows）または Option キーを押しながらクリック（Mac OS）し、「新規属性」を選択します。「名前」に「**Title**」を入力します。「値」に、使用するアーティクルの名前を入力します。

関連項目

(cc) BY-NC-SA

法律上の注意 | プライバシーポリシー

必要システム構成